

平成23年度
(2011)

授 業 概 要
(授業シラバス)

徳島大学 総合科学部

目次

総合科学部	1
学部 共通科目	1
人間社会学科 共通科目	3
人間社会学科 アジア研究コース 共通科目	5
人間社会学科 アジア研究コース アジア研究サブコース	7
人間社会学科 アジア研究コース 日本文化研究サブコース	26
人間社会学科 欧米言語コース 共通科目	47
人間社会学科 欧米言語コース 言語表現サブコース	65
人間社会学科 欧米言語コース 言語コミュニケーションサブコース	80
人間社会学科 国際文化コース 共通科目	93
人間社会学科 国際文化コース 文化情報サブコース	114
人間社会学科 国際文化コース 哲学・思想サブコース	138
人間社会学科 国際文化コース 歴史・社会サブコース	157
人間社会学科 マルチメディアコース 共通科目	179
人間社会学科 マルチメディアコース マルチ情報サブコース	187
人間社会学科 マルチメディアコース アート情報サブコース	194
人間社会学科 地域システムコース 共通科目	200
人間社会学科 地域システムコース 地域情報サブコース	212
人間社会学科 地域システムコース 地域社会サブコース	224
人間社会学科 法律経済コース	237
人間社会学科 人間行動コース 共通科目	252
人間社会学科 人間行動コース 心理学サブコース	255
人間社会学科 人間行動コース ウェルネス行動科学サブコース	269
自然システム学科 共通科目	284
自然システム学科 数理・情報コース 共通科目	289
自然システム学科 数理・情報コース 数理科学サブコース	294
自然システム学科 数理・情報コース 情報科学サブコース	301
自然システム学科 物質・環境コース 共通科目	309
自然システム学科 物質・環境コース 物理系サブコース	315
自然システム学科 物質・環境コース 化学系サブコース	323
自然システム学科 物質・環境コース 地学系サブコース	330
自然システム学科 生命・環境コース 共通科目	338
自然システム学科 生命・環境コース 生命機能サブコース	343
自然システム学科 生命・環境コース 生命環境サブコース	351
教職に関する科目	360
学芸員に関する科目	368

学部 共通科目 授業概要

● 学部共通科目 (旧)

基礎ゼミナール ... 伊藤/1年(前期, 後期).....1
科学と人間 ... 小山・三好・桑原・山口・今井・内海・渡部/1年(前期)..1
大学と社会 ... 葭森・中嶋・石川・大淵・中川・田中・平井/1年(前期)..1
健康と福祉 ... 中村・小原・荒木・境・福森・原/1年(後期).....2
インターンシップ ... 石田/2年(前期).....2
インターンシップ実習 ... 石田/2年(前期, 集中).....2

基礎ゼミナール

2単位 1年(前期, 後期)
伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業概要】 基礎ゼミナールを受講しようとする学生は、基礎ゼミナール(基礎ゼミ I)もしくはキャリアプラン入門 II(基礎ゼミ II)を受講すること。また、国際文化コースの学生と人間行動コースの学生は基礎ゼミナールを受講することを勧める。受講に際しては、コース教務委員の指導を受けること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218495>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

科学と人間

2単位 1年(前期)

小山 晋之・教授/総合理数学科, 三好 徳和・教授/総合理数学科
桑原 恵・教授/人間文化学科, 山口 裕之・准教授/人間文化学科
今井 晋哉・准教授/人間文化学科, 内海 千種・講師/人間文化学科
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】 現代社会において科学技術と付き合っていくために必要な、多面的な思考方法を学ぶ。

【授業概要】 「科学は客観的で価値中立的である」という通俗的な見方がある。たしかに、ある観点から自然を理解しようとするとき、科学的方法は客観的な指針を示してくれる。しかし、科学の前提となる観点自身の是非については、通常の場合、科学はそれを評価することができない。この授業では、科学を導くそうした「前提」の部分の問い直しを促す。そうすることで、科学に過剰に期待することなく、また逆に科学を軽視するのではなく、妥当な評価を下すことができるであろう。その上ではじめて、科学的な思考法そのものを身に付けることもできる。講義では、優生思想、エセ科学、自然保護などのトピックを取り上げる。たとえば優生思想は、「優れたもの」を増やし「劣ったもの」を絶やすことで社会を改良しようとする観点から作り出された。これは一概に「悪の思想」と言い切れるだろうか。また、昨今「自然保護」が叫ばれるが、保護すべき「自然」とは、具体的に何なのか。「自然」概念の中に、抜きがたく人間の観点が入り込んでいるのではないか。科学について批判的・反省的な視点から学びなおすことで、「エセ科学」にだまされない思考力、さらには科学とエセ科学の境界についても考えてもらいたい。講義は「優生思想: 自分の中の差別意識」、「エセ科学: あなたもだまされています」、「環境問題: 「自然」とは何か?」の三セッションに分かれ、それぞれのセッション終了時に総括を行う。毎回、講義を受けての学生のコメントを収集し、主だったものについて翌週に回答することで、受講する学生の全員が授業に参加できるようにする。また、毎回、マークシートを利用した小テストを行い、成績評価に利用する。授業で使ったファイルや資料はウェブページに掲載するので復習などに利用すること。ウェブページには自宅学習を支援するための「クイズコーナー」なども設置する予定。また、ウェブに掲載板を設け、連絡事項などを掲示するので、毎週確認すること。また、質問などがあれば利用すること。授業ウェブサイト URL <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html>

【キーワード】 優生学, 生命倫理, エセ科学, 環境

【履修上の注意】 レポートや授業への質問などは原則的にメールを使って提出してもらいます。メールやパソコンの使い方などが分からない学生はオフィスアワーなどを活用して早めに習得すること。

【到達目標】

1. この授業では、「情報リテラシー」を身につけることを目標とします。
2. また、「日本語で論理的文章を書く能力」の基礎を身につけることを目標とします。

【授業計画】 1. 担当教員紹介・授業の進め方の説明・導入講義(山口) 2. 優生学とナチスの犯罪(今井) 3. 「優生学=ナチス」か?(今井) 4. 遺伝子操作と生殖補助技術(渡部) 5. 「新優生学」の流行(山口) 6. 第一セッションのパネルディスカッション 7. 誤解と誤信の心理学(内海) 8. 科学とエセ科学のあいだ(小山) 9. 江戸のエセ科学(桑原) 10. 第二セッション総括・レポートの課題発表・レポートの書き方講座(山口) 11. ゴミとリサイクルの虚実(三好) 12. 江戸時代の「自然」概念(桑原) 13. 「自然」とは何か(山口) 14. 第三セッションのパネルディスカッション 15. レポートの解説, 総括アンケート, 授業評価アンケート, 学部共通科目アンケート

【成績評価】 授業へのコメント, レポート, 小テスト, 授業への取り組みやディスカッションでの発言などによって総合的に評価する。配分は、メールでのコメント 10%, レポート 20%, 小テスト 70%。ボーナス加点として、ディスカッションでの発言は一回 2 点, よいメールコメント 1 回 1 点(最高 7 点まで)。「授業への取り組み」の評価として、無断欠席や遅刻, 授業中の内職・居眠りなどは減点対象。基準として、授業中の悪質な態度(内職・ゲーム・携帯メールなど)は減点 5, 遅刻は-2, 居眠りは-1. 3 分の 1 以上の欠席は不可(再履修)

【再試験】 行わない

【教科書】 特になし。

【参考書】 ウェブページを通じて紹介・配布します。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218478>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日・木曜日の昼休み)
⇒ 内海 (uchiiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:30~18:00)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama-guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 10:30-11:30)
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

大学と社会

2単位 1年(前期)

葭森 健介・教授/人間文化学科, 中嶋 信・教授/社会創生学科
石川 榮作・教授/人間文化学科, 大淵 明・教授/総合理数学科
中川 秀幸・教授/社会創生学科, 田中 徳一・特任講師
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 大学ならびに総合科学部を取巻く今日の社会環境, および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し, 初年次学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに, 将来の就職について考える上で必要な素養と能力を養う。また web 版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する。

【授業概要】 今年度は以下の 3 点を主題とする。①総合科学部とはどんな学部か? 総合科学部教員により授業ガイダンスおよび大学・学部・学習方法について講義する。それによって, 総合科学部の置かれている位置を理解し, 総合科学部でどのように学んだらよいのかも考えてもらう。②キャリアデザイン GP 特任教授により社会人基礎力, キャリアデザインや Web 版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法に関する説明がある。③大学生から社会人になるということ。学部教員および非常勤講師等がそれぞれの立場から, 適宜, 企業・社会等において求められる人間像について講義を行いエンプロイアビリティを高めるということについて学習してもらう。また受講者はそれを踏まえて自らのキャリアデザイン・ライフプランを作成する。最終回までに授業で習った基本的な事に関するレポートが二回ないし三回ほど課せられる予定である。なお各自の学習内容の要点および課題レポート等を Web 版キャリア学習ポートフォリオに記入する練習も適宜課せられることになる。

【キーワード】 大学, 総合科学, 地域社会, キャリアデザイン, 社会人, ポートフォリオ, 職業

【履修上の注意】 各講師の授業には全て参加し, レポートを提出すること。討論・発表への自発的参加が重要である。詳細な授業計画等はホームページに掲載する予定。

【到達目標】 大学の現実と課題を各自が理解し, 大学における真摯な学び(広い教養と専門力の養成)の重要性を自覚し, 今後 4 年間の学習計画を立てる。

【授業計画】 1. 授業の進め方について <大淵>(4月13日) 2. 総合科学部で何を学ぶ総合科学部の長所・短所 <葭森>(4月20日) 3. 大学と地域社会のコラボレーション <中嶋>(4月27日) 4. 高校と大学での学びの違い-高校の勉強と総合科学部での学び <卒業生:中川>(5月11日) 5. 読書と人生 <石川>(5月18日) 6. レポートの書き

方、評価のされ方およびネットの使い方について < 霞森・大淵 > (5月25日) 7. 総合科学部から社会へ大学生から社会人になるということ < 中川秀幸 > (6月1日) 8. 大学におけるキャリア教育と「菓立ちプログラム」 < 平井 > (6月8日) 9. Webポータルサイトの利用方法 < 田中 > (6月15日) 10. 求められる社会人基礎力 < 田中 > (6月22日) 11. ビジネスコミュニケーション < 山野明美 > (6月29日) 12. ネットワークと大学 < 卒業生: 森本哲史 > (7月6日) 13. 地域産業と職業 < 田村耕一 > (7月13日) 14. 大学と企業 次代の若者へ (植田貴世子) (7月20日) 15. 全体のまとめ (総括授業に当たる)

【成績評価】評価は討論の参加度合い、レポートにより行う。出席状況については、授業時の点呼や Web 版ポータルサイトのショートレポート (200 字程度) で確認する。

【教科書】各講師よりその都度提示された書籍等は自発的に読んでレポートにまとめることが望ましい。

【参考書】授業中に配布

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218769>

【連絡先】

⇒ 霞森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:30-13:30)

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:00-16:00)

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15:00-16:00)

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 11:50-12:50)

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 15:00-16:00 (随時受け付ける))

⇒ 田中 (t.tanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~13:00)

【備考】◇ 講義では適宜討論をはさみます。また、講師の講演順が替わることがあります。◇ 汎用的技能修得科目の項目について ①. 日本語の論理的文章を理解できる能力 ②. 日本語で論理的文章を書くことができる能力 ③. コミュニケーション能力 ④. プレゼンテーション能力 ⑤. 情報リテラシー

健康と福祉

2 単位 1 年 (後期)

中村 久子・教授 / 人間文化学科, 小原 繁・教授 / 人間文化学科
荒木 秀夫・教授 / 人間文化学科, 境 泉洋・准教授 / 人間文化学科
福森 崇貴・准教授 / 人間文化学科, 原 幸一・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】心と身体の健康と福祉について、基本的な知識・情報を得ると共に、現代社会と関連するそれらの諸問題を知り、考え、それらのメカニズムと解決策を見出すことを目的とする。

【授業概要】現代社会における「健康と福祉」に関連する諸問題を知り、その解決策を考える。

【キーワード】健康、福祉、環境、心身健康

【履修上の注意】さまざまな問題に関心を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むことを期待する。

【到達目標】

1. 人間科学に関わる幅広い知識の理解; 現代社会における「健康と福祉」に関連する諸問題を知る。
2. 地域社会で活躍する能力の育成; それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る。
3. 地域社会の生活環境の創造への貢献; 自らの問題と捉え、対応法を模索する。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 脳と行動 (荒木) 3. 身心相関 (荒木) 4. 個人における健康づくり (小原) 5. 健康づくりと行政の役割 (小原) 6. 心-身-社会のつながり (福森) 7. ストレスへの対処 (福森) 8. 不登校 (境) 9. ひきこもり (境) 10. コミュニケーションについて I (原) 11. コミュニケーションについて II (原) 12. ジェンダーについて (中村) 13. 体力とジェンダー (中村) 14. DV について - デート DV (瀬部) 15. DV について - 女性支援について (瀬部)

【成績評価】出席点、レポートおよび講義への参加姿勢によって総合的に評価する。

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】参考文献、資料等、各教員から適宜提示、配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218563>

【連絡先】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】講義の順序は都合により変更されることがあります。それは第 1 回目の講義の時にお知らせします。

インターンシップ Internship

2 単位 2 年 (前期)
石田 和之・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】キャリア形成に対する意識を高め、卒業後の進路や人生設計のビジョンを明確化し、在学中に自らが獲得すべき知識や技術を理解する。

【授業概要】①さまざまな分野で活躍する社会人を講師とした講義では、それぞれの分野の実情や特性、その分野で求められる人材、その分野に適した性格などを紹介する。②ビジネス・マナーの専門家による講義では、就職活動に直接役立つ知識や技術を提供する。

【関連科目】『インターンシップ実習』(0.5, ⇒2 頁)

【履修上の注意】下記の講義計画は昨年度のものである。参考までに示している。講義の詳細は講師の都合等に依存するため、現時点では未定である。

【到達目標】キャリア形成に対する意識を高める。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 出版・編集 3. 労働法規 4. 観光 5. 企業広報 6. 銀行 7. 中間レポート提出 8. 教職 9. ビジネス・マナー① 10. ビジネス・マナー② 11. ビジネス・マナー③ 12. ビジネス・マナー④ 13. ビジネス・マナー⑤ 14. 公務員 15. 総括 16. 期末レポート提出

【成績評価】授業への取り組み (30%)、レポート (70%)

【再試験】無

【教科書】無

【参考書】講義中に配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218360>

【連絡先】

⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

インターンシップ実習 Internship

1 単位 2 年 (前期, 集中)
石田 和之・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】企業における職業体験を通じて、働くことに対する具体的なイメージをつかむ。

【授業概要】あらかじめ決められたリストの中から希望する企業を選択して、夏季休暇中に 2 週間程度の職業体験を実施する。体験する内容や日程等の具体的な内容は、企業によって異なる。

【先行科目】『インターンシップ』(1.0, ⇒2 頁)

【履修上の注意】①この実習に登録するためには、インターンシップ (講義) の単位をすでに取得しているか、あるいは現在履修中であることが必要である。②受入れ先企業のリストが判明するのは、6 月頃の予定である。昨年度までのリストは、学務係にて閲覧可能。

【到達目標】キャリア形成に対する意識を高める。

【成績評価】実習終了後に提出する報告書 (50%) および受入れ先企業からの評価 (50%) による。報告書の提出がない場合には、たとえ実習を完了していたとしても、単位を与えない。

【再試験】無

【教科書】無

【参考書】無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218363>

【連絡先】

⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間社会学科 共通科目 授業概要

● 学科共通科目

現代社会の諸問題 (アート創生プロジェクト) ... 石井・平木・河原崎/1年 (後期).....	3
現代社会の諸問題 (社会学の基礎 I) ... 矢部/1年 (後期).....	3
現代社会の諸問題 (社会学の基礎 II) ... 樋口/1年 (後期).....	3
人間と文化 (日本語表現の基礎) ... 仙波/1年 (前期).....	3
人間と文化 (文化研究の基礎) ... 石川・田島/1年 (後期).....	4
社会学 ... 樫田/2年 (後期, 集中).....	4

現代社会の諸問題 (アート創生プロジェクト) 2 単位 1 年 (後期)

Issues in Contemporary Society 石井 健二・教授/社会創生学科
平木 美鶴・教授/社会創生学科, 河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】 芸術をキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献する。
【授業概要】 アートを使った地域活性化事業について理解し、対象地域の調査結果を基に地域に相応しいアートを発想し、地域住民参加型などの作品制作をする。
【キーワード】 芸術, 地域活性化
【到達目標】 地域の活性化に貢献できる。
【授業計画】 1. 地域活性化事業について 2. アートを使った地域活性化事業について 3. 地域の視察, 調査等 4. 地域の視察, 調査等 5. 美術を使った地域活性化を発想し意見交換 6. 美術を使った地域活性化を発想し意見交換及び役割分担 7. 住民との意見交換 8. 地域住民との共同作業による作品制作 (説明) 9. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) 10. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) 11. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) 12. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) 13. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) 14. 完成作品の記録及び聞き取り調査 15. 外部に向けた成果発表会 16. まとめ
【成績評価】 地域活性化事業を理解した積極的な参加と発表を評価する。
【再試験】 なし。
【教科書】 教科書は使用しない
【参考書】
 ◇ 菜の花里美発見記録集 監修 北川フラム 発行 現代企画社
 ◇ 地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2000 監修 北川フラム 発行 現代企画社
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218586>
【連絡先】
 ⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜昼休み)
 ⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

現代社会の諸問題 (社会学の基礎 I) 2 単位 1 年 (後期)

矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 私たちを取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか? <社会的なもの>と<個人的なもの>とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会的想像力」を獲得することを目指す
【授業概要】 日本の社会学者たちが編集した『社会学』(長谷川ら編集, 有斐閣, 2007) をテキストとする。毎回一つのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方をを用いて問題点を論じる。また、徳島での事例を取り入れながら授業を進めてゆく。毎回の授業では、テキストで論じられている視点を元に、自分たちの経験をふまえたコメントをリアクションペーパーに記入して提出してもらう。
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 親密性と公共性 3. 相互行為と自己 4. 社会秩序と権力 5. 組織とネットワーク 6. メディアとコミュニケーション 7. 空間と場所 8. 環境と技術 9. 医療・福祉と自己決定 10. 国家とグローバリゼーション 11. 家族とライフコース 12. ジェンダーとセクシュアリティ 13. エスニシティと境界 14. 格差と階層化 15. 文化と再生産 16. レポート相談
【成績評価】 期末レポートの評価および、毎回の授業で提出してもらうリアクションペーパーにより判断する

【教科書】 長谷川公一, 浜日出夫, 藤村正之, 町村敬志編『社会学』有斐閣, 2007 年
【参考書】 アンソニー・ギデンズ『社会学 (改訂第 3 版)』而立社 1998 年
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218587>
【連絡先】
 ⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))
【備考】 次年度開講せず (隔年開講)

現代社会の諸問題 (社会学の基礎 II) 2 単位 1 年 (後期)

樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】 高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人々に対して、社会的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が、どのようなしくみでなりたっているのか、それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけてもらうことを目標とする。
【授業概要】 秩序と逸脱, 環境, 集団, 階層と教育, 権力と支配といったテーマに即して、自分の振る舞いやこれまでの歩みを振り返ってもらう。自分がいかに社会のなかで作られているか、自分と社会がいかにつながっているのかを、それぞれのトピックに即して解説していく。
【履修上の注意】 授業の「秩序」維持のため、15 分経過したら入室を認めない。また、携帯メールをみることも、授業を無効化するため見つけ次第退室してもらう。また、初回に詳細を説明するので、必ず出席されたい。欠席により不利益を蒙っても関知しない。
【到達目標】 社会的な思考にもとづきレポートを書けるようになる
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 秩序と統制 (1):規範・監視・契約 3. 秩序と統制 (2):互酬の連鎖としての社会 4. 環境と社会 (1):合理性の悲劇 5. 環境と社会 (2):社会的費用と社会的負担 6. 主観と客観 (1):逸脱と犯罪 7. 主観と客観 (2):主観と客観 8. 真実とは何か:映画『羅生門』鑑賞 9. 支配と正統性 (1):社会と政治 10. 支配と正統性 (2):ジェンダーと社会 11. 教育と階層 (1):教育と選別 12. 教育と階層 (2):進学と階層 13. 集団と排除 (1):ネットワークと社会 14. 集団と排除 (2):社会的包摂と社会的排除 15. まとめ
【成績評価】 詳しくはオリエンテーションの際に資料を配るが、授業中の課題が 30%, 小レポート 20%, 大レポート 50%を基本とする。到達度が評価されたい場合には、そうした選択肢も用意する。
【再試験】 行わない
【教科書】 特になし
【参考書】 関連する書籍リストを初回に配布する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218588>
【連絡先】
 ⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)
【備考】 平成 24 年度開講 (隔年開講)

人間と文化 (日本語表現の基礎) 2 単位 1 年 (前期)

仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】 現代日本語について、規範的な表現、つまり「正しい日本語」とはどのようなものかを知り、適切に運用できるようになることを目標とする。同時に、規範的でない表現がなぜ生まれるかについても理解できるようにする。
【授業概要】 「日本語検定」で出題される問題等を利用して、規範に則った表現を確認すると同時に、現代日本語における、非規範的な表現の実態について、データを示して考えさせる。
【キーワード】 正しい日本語, 敬語, 文法, 語彙力
【履修上の注意】 教科書の構成との関係、また授業の進行の様子によって、授業内容の配列や構成に少し変更が生じるかもしれない。また、教科書とは別に宿題を課す予定である。
【到達目標】 現代日本語について、規範的な表現、つまり「正しい日本語」とはどのようなものかを知り、適切に運用できるようになることを目標とする。同時に、規範的でない表現がなぜ生まれるかについても理解できるようにする。
【授業計画】 1. 規範的な日本語表現について知っておくことが、なぜ必要か。言語行動成立の条件。 2. 尊敬語と謙譲語 (教科書:第 6 日 ~ 第 12 日) 3. 第三者が関わる場合の敬語など (教科書第 13 日 ~ 第 18 日) 4. 敬語についての整理 (教科書第 6 日 ~ 第 21 日) 5. 文法その 1(正しくないと言われる表現は、なぜ生まれたのか、教科書第 22 日 ~ 第 26 日から) 6. 文法その 2(悪文はなぜできてしまうのか、教科書第 27 日 ~ 第 31 日から) 7. 語彙力 (使える言葉の数を増やすには、教科書第 32 日 ~ 第 41 日) 8. 語彙力 (同義語・対義語・類

義語を探すには、教科書第 42 日～第 48 日) 9. 日本語の表記(仮名遣い・送り仮名、教科書第 49 日～第 54 日) 10. 日本語の運用(意味を調べる、慣用句を覚えよう、教科書第 55 日～第 62 日) 11. 日本語の運用(ことわざ・故事成語など、教科書第 63 日～第 68 日) 12. 漢字の大切さ(教育漢字は完璧ですか? 教科書第 69 日～第 75 日) 13. 漢字(より高いレベルに達するには、教科書第 76 日～第 83 日) 14. まとめと補足(教科書第 84 日～第 90 日) 15. 試験 16. 補足・補充的なことから(内容未定)

【成績評価】 日常的な小テスト・宿題(60%)と、最終試験(40%)による。

【再試験】 再試験(または、レポート)

【教科書】 川本信幹『みがこう、あなたの日本語力』東京書籍

【参考書】 随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218945>

【連絡先】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 旧カリキュラムの学生は「人間と文化」の単位として認められる。

人間と文化(文化研究の基礎)

2 単位 1 年(後期)

石川 榮作・教授/人間文化学科, 田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】 文化とはある人間の集団、民族や、部族のような人々の集まりの構成員に共有される約束ごとをいう。大はいわゆる民族や部族のような地域的、政治的グループであっても、学生、会社員、医者、などの職業や年齢などによる比較的小さなグループ、さらに遊び仲間のようなごく小さなグループであっても、そのグループに独特の約束ごととはもっている。そういった約束ごとの総体を文化と呼ぼう。文化を共有するかどうかで、共同体に受け入れられ、あるいは排除されることがある。文化は時に部外者には不合理で不可解なものに見える。さらに集団のなかで共有された規約であるはずなのに集団の構成員自身にも不可視であることもある。不可視な文化的約束ごとは、内部の人間にとっても不合理で不可解であることもある。そういった文化を約束ごととして認識していくことが、文学や言語学、哲学、美学、文化人類学などが文化研究の方法である。

【授業概要】 前半に田島が文化を観察し分析する方法論について述べ、後半には石川がドイツ文学やオペラ、映画を題材に具体的に分析する。田島は言語学、文化人類学、レトリック論、文学など、文化を読み解く手法について概観する。石川は、5,6 世紀のゲルマン民族移動時代にその伝説が生まれたとされる英雄ジークフリートを取り上げ、この人物を主人公とした英雄叙事詩『ニーベルングの歌』やワーグナーのオペラ、ウーリー・エデル監督の映画の特質を探っていく。

【キーワード】 文化、文学、オペラ、言語学

【履修上の注意】 この講義全体に関する質問は、石川に問い合わせること。

【到達目標】 私たちの生活において芸術が重要な役割を果たしていることを理解する。

【授業計画】 1. 文化とは何か、文化を研究するとは 2. ことばと文化 3. ことばで世界を切りわけろ 4. (レトリック、隠喩と換喩) 5. 文化人類学、野生の思考 6. 言語学の方法 7. 文学は世界の見方を提示する 8. ドイツ英雄叙事詩『ニーベルングの歌』(1) 9. ドイツ英雄叙事詩『ニーベルングの歌』(2) 10. ドイツ英雄叙事詩『ニーベルングの歌』(3) 11. ドイツ英雄叙事詩『ニーベルングの歌』(4) 12. ワーグナーのオペラ『ジークフリート』 13. ワーグナーのオペラ『神々の黄昏』 14. ウーリー・エデル監督の映画『ニーベルングの指環』(1) 15. ウーリー・エデル監督の映画『ニーベルングの指環』(2) 16. レポート

【成績評価】 レポートおよび授業への参加貢献の程度による

【再試験】 なし

【教科書】 資料を提示、配布する。石川の授業ではプリントを配布するほか、石川栄作訳(新訳『ニーベルングの歌』前編、ジークフリートの暗殺、ちくま文庫)を使用する。

【参考書】 授業中に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218946>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日15時から16時)

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 田島俊郎:木曜日12時から13時まで)

社会学

2 年(後期, 集中)

樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222175>

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 はとときどき, 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14:00 から 15:00)

人間社会学科 アジア研究コース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

- アジア地域交流史 ... 東・葭森・衣川・佐久間/2年(前期).....5
 アジア地域交流史 ... 荒武・今井・長井・桑原/2年(後期).....5
 アジアの近代 ... 有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2年(前期).....5
 アジア文化研究入門 ... 原水・仙波・岸江・堤・田中/2年(通年).....6

アジア地域交流史

2単位 2年(前期)

東 潮・教授/人間文化学科, 葭森 健介・教授/人間文化学科
 衣川 仁・准教授/人間文化学科, 佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本・アジア・ヨーロッパ各地域の交流を通じ、各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を講義する。併せて学生がテーマを理解し、日本及び世界の未来について考え、国際人としての基礎知識と自覚を涵養する。

【授業概要】 日本が東アジアの交流から国家を形成し、東アジア史の一翼を担うところから出発し、大航海時代を経て、東洋と西洋が出会い、世界史が形成される過程を講義する。

【キーワード】 地域交流, 世界史, 国際関係

【履修上の注意】 アジア研究コースの学生は必ず受講する事。

【到達目標】 学生が将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し、日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする。

【授業計画】 1. 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る 2. 冊封体制と日本-日本国家の成立と東アジア史(葭森) 3. 邪馬台国と倭国(東) 4. 四-六世紀における東アジアの国際環境(東) 5. 飛鳥時代の国際環境(東) 6. 六朝隋唐国家と古代日本国家-律令制とは(葭森) 7. 大陸・半島から日本へ(衣川) 8. 東夷の小帝国-「日本」の自覚(衣川) 9. 中世日本と東アジアの交流(衣川) 10. モンゴル・ウルの衝撃-世界史の序曲(葭森) 11. 大航海時代・黒死病・奴隷(佐久間) 12. プラントハンター・植物園・帝国の手先(佐久間) 13. イギリスのインド支配-熱帯をいかに飼い馴らすか-(佐久間) 14. お茶・陶磁器・絹・銀そしてアヘン-貿易から戦争の時代へ(葭森) 15. 前期試験 16. 地域交流と歴史-授業の総括(葭森・東・衣川・佐久間)

【成績評価】 授業への参加姿勢と期末試験で総合的に評価

【再試験】 再試験はしない

【教科書】 特にないが高校で使った日本史・世界史の教科書を持ってきて欲しい

【参考書】 授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218349>

【連絡先】

- ⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官のそれに準じる。)
 ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官のそれに準じる。)
 ⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官のそれに準じる。)
 ⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

アジア地域交流史

2単位 2年(後期)

荒武 達朗・准教授/人間文化学科, 今井 晋哉・准教授/人間文化学科
 長井 伸仁・准教授/人間文化学科, 桑原 恵・教授/人間文化学科

【授業目的】 19世紀～20世紀初頭の日本・中国・ヨーロッパの歴史を学ぶことによって現代の世界がどのようにして成立してきたのかを考察する。

【授業概要】 19世紀～20世紀初頭のフランス・ドイツ・日本・中国・の政治・経済・社会などについて概観する。各国の近代化過程における、文明化、国民形成とナショナリズムに焦点を絞り、対外関係を重視しつつ講義する。

【キーワード】 国民国家, ナショナリズム, 文明化, 近代化, 国際関係

【先行科目】 『地域交流史』(1.0)

【到達目標】 特に、講義でとりあげる各国の近代化過程を比較しつつ理解することを目標及びテーマとする。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. フランス革命-描かれた近代世界 3. 近代社会を生きたということ:フランスの事例 4. フランス国民の内と外 5. 小テスト 6. 「国民国家」の基本的特徴, 統一国家の成立-19世紀のドイツ 7. ドイツ帝国における国民統合-内政上のいくつかの論点に即して 8. ドイツ帝国における国民統合とナショナリズムの機能-外交政策との関わりで 9. 江戸時代から明治国家へ～国

家の変容と「国家観」～ 10. 近代日本の「国民」像～理想と現実～ 11. 文明化と近代化・平和主義と民族主義～単一民族神話の誕生～ 12. 伝統的中華世界の国際関係 13. 西力東漸:ウエスタンイムパクト 西方からの衝撃 14. 十九世紀末中華帝国の崩壊:東アジアにおける近代的国家関係の形成 15. テスト 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況・レポート・テストなどの結果をもとに総合的に評価する。

【再試験】 再試験は実施しない。

【教科書】 プリントを配布する

【参考書】 講義中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218350>

【連絡先】

- ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝一コマ目の前がよい。事前メールでアポイントをとるともつとよい。)
 ⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 14:30-16:00)
 ⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜日の昼休み)
 ⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日11:50～13:00, メールで連絡を下されば、返信します。 megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

アジアの近代

2単位 2年(前期)

有馬 卓也・教授/人間文化学科, 田島 俊郎・教授/人間文化学科
 桂 修治・教授/人間文化学科, 依岡 隆児・教授/人間文化学科
 ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 世界の様々な文化に対して好奇心を抱き、学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること。

【授業概要】 従来の専門分野にとらわれず、比較という手法を用いながら、学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする。日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について、担当の教員が今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の3セクションに分けて、それぞれのセクションに各人1回程度講義を提供する。その際、それぞれにテーマを提示したうえで、担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して、具体的な事例をもとに論じていく。概要の趣旨に沿って、「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け、その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる。「自文化と異文化」「文学(レトリック, 物語・民間伝承など)」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばれることになるが、その際にも、具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる。

【キーワード】 比較文化, 異文化理解, 学際性, 文化交流, 文化変容

【到達目標】 国際的感覚を涵養し、総合的な文化研究を身につけること。

【授業計画】 1. 導入「比較文化」とはなにか? 2. セクション1「未知の世界に触れる」(1回目から5回目まで):「文化」とは何かを考えながら、様々な世界の見方を提示する。好奇心の大切さ、比較という方法について述べる。個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「犯罪」「自文化/他文化」「日本の中の異文化」など 3. セクション2「違いを楽しむ」(6回目から10回目まで)多面的にもものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する。個別のテーマとしては、「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「レトリック」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禪」など 4. セクション3「つながりを見つける」(11回目から15回目まで)文化の中の違いを認めながらも、そこに思いがけないつながりを見つけ、総合的に世界を見ること提示する。個別のテーマとしては、「交流」「異文化教育」「文化の影響」「シナジー」「情調における文化の交感」など

【成績評価】 期末レポートと平常点。期末レポートは5人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び、それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの。平常点は出席、あるいは授業メモの提出によって行う。

【再試験】 有

【教科書】 必要に応じてプリントなどを配付する。

【参考書】 各教員から授業の中で課題図書が示される

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219038>

【連絡先】

- ⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時可)
 ⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時から13時)
 ⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3-4時間, 金曜 5-6)
 ⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時から13時)
 ⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

アジア文化研究入門

4 単位 2 年 (通年)

原水 民樹・教授/人間文化学科, 仙波 光明・教授/社会創生学科
岸江 信介・教授/社会創生学科, 堤 和博・准教授/人間文化学科
田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】日本・中国各固有の文化並びにその相互関係について、主として文学・語学を中心に歴史にも言及しつつ通観・概説し、受講生が今後の研究テーマを決定するための一助とする。

【授業概要】日本・中国の文学・語学、及び歴史

【到達目標】アジア研究コース所属の学生が今後の研究の進路を考えるための指針の提供

【授業計画】1. ○日本古代国家成り立ち頃までの歴史の展開を、中国・朝鮮との関係にも言及しつつ講じる。(堤) 2. ○主として文献学的立場から日本文学研究の方法について概論する。(原水) 3. ○主として文字資料を利用した日本語研究について講義する。古代語との比較から思いついた『げな』と『さうな』-伝聞から推定への過程- 小さな疑問と発見から追跡した「芝生(しばふ)」という語の誕生。インターネットが役に立った「ライフライン」追跡(仙波) 4. ○日本語アクセントの系統(岸江) 5. 中国明代の文学について、白話小説を中心として概論する。(田中)

【成績評価】テスト・レポート・出席率・受講態度を総合的に勘案して決定する。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は指定しない。プリント配布。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219045>

【連絡先】

- ⇒ 原水 (1号中棟1階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 安東・原水・岸江・仙波 木曜日13時~14時)
- ⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 安東・原水・岸江・仙波 木曜日13時~14時)
- ⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 安東・原水・岸江・仙波 木曜日13時~14時)
- ⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 堤 月曜日 10時10分から11時55分・総合科学部1号館南棟3階)
- ⇒ 田中 (総合科学部1号館2320号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問に応じる。)

人間社会学科 アジア研究コース アジア研究サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

アジア史研究 I ... 葭森/2年(後期).....	7
アジア史研究 II ... 葭森/2年(後期).....	8
アジア史研究 III ... 葭森/2年(後期).....	8
アジア思想研究 I ... 有馬/2年(前期).....	8
日本考古学研究 ... 中村・遠部/2年(前期).....	8
アジア思想研究 II ... 有馬・郡・田中/2年(前期).....	9
アジア社会研究 I ... 荒武/2年(後期).....	9
アジア社会研究 II ... 荒武/2年(後期).....	9
アジア考古学研究 ... 東/2年(前期).....	9
博物館概論 ... 一山・東/2年(前期).....	9
博物館資料論 ... 千田・東/2年(前期, 集中).....	10
博物館特論 ... 未定・東/2年(後期, 集中).....	10
アジア文学基礎研究 ... 田中/2年(後期), 3年(後期).....	10
アジア文学演習 I (前期) ... 田中/3年(前期), 4年(前期).....	10
アジア文学演習 I (後期) ... 田中/3年(後期), 4年(後期).....	10
アジア文学演習 II (前期) ... 郡/3年(前期), 4年(前期).....	11
アジア文学演習 II (後期) ... 郡/3年(後期), 4年(後期).....	11
アジア思想基礎研究 (前期) ... 有馬/2年(前期), 3年(前期).....	11
アジア思想基礎研究 (後期) ... 有馬/2年(後期), 3年(後期).....	11
アジア思想演習 (前期) ... 有馬/3年(前期), 4年(前期).....	11
アジア思想演習 (後期) ... 有馬/3年(後期), 4年(後期).....	12
アジア史基礎研究 (前期) ... 葭森/2年(前期), 3年(前期).....	12
アジア史基礎研究 (後期) ... 葭森/2年(後期), 3年(後期).....	12
アジア史演習 ... 葭森/3年(前期), 4年(前期).....	12
アジア史演習 ... 葭森/3年(後期), 4年(後期).....	13
アジア社会基礎研究 (前期) ... 荒武/2年(前期), 3年(前期).....	13
アジア社会基礎研究 (後期) ... 荒武/2年(後期), 3年(後期).....	13
アジア社会演習 (前期) ... 荒武/3年(前期), 4年(前期).....	14
アジア社会演習 (後期) ... 荒武/3年(後期), 4年(後期).....	14
考古学演習 ... 東/3年(通年), 4年(通年).....	14
考古学基礎研究 ... 中村・東/2年(通年), 3年(通年).....	14
朝鮮語 ... 野間・東/2年(前期, 集中).....	14
朝鮮語 ... 野間・東/2年(後期, 集中).....	15
中国語 II ... 郡/2年(前期).....	15
中国語 I ... 葭森/2年(後期).....	15
中国語 I ... 葭森/2年(前期).....	15
中国語 II ... 郡/2年(後期).....	16
中国語中級 I ... 李・郡/3年(前期, 後期).....	16
中国語中級 II ... 李・郡/3年(前期, 後期).....	16
日本語基礎研究 I (前期) ... 岸江/2年(前期).....	16
日本語基礎研究 I (後期) ... 岸江/2年(後期).....	17
日本語基礎研究 II (前期) ... 仙波/2年(前期).....	17
日本語基礎研究 II (後期) ... 仙波/2年(後期).....	17
日本文学基礎研究 I ... 原水/2年(通年), 3年(通年).....	17
日本文学基礎研究 II ... 堤/2年(通年), 3年(通年).....	18
日本文学基礎研究 III (前期) ... 鳥羽・衣川/2年(前期, 集中), 3年(前期, 集中).....	18
日本文学基礎研究 III (後期) ... 鳥羽・衣川/2年(後期, 集中), 3年(後期, 集中).....	18
日本史研究 I ... 桑原/2年(後期), 3年(後期).....	19
日本史研究 II ... 衣川/2年(前期), 3年(前期).....	19

地誌学 ... 平井/2年(前期).....	19
日本語演習 I ... 岸江/3年(前期), 4年(前期).....	19
日本語演習 I ... 岸江/3年(後期), 4年(後期).....	20
日本文学演習 I ... 原水/3年(通年), 4年(通年).....	20
日本文学演習 II ... 堤/3年(通年), 4年(通年).....	20
日本文学演習 III ... 野口・衣川/3年(通年), 4年(通年).....	21
日本史基礎研究 I ... 桑原/2年(前期), 3年(前期).....	21
日本史基礎研究 I ... 桑原/2年(後期), 3年(後期).....	21
日本史基礎研究 II ... 衣川/2年(前期), 3年(前期).....	22
日本史基礎研究 II ... 桑原/2年(後期), 3年(後期).....	22
日本史演習 I ... 桑原/3年(前期), 4年(前期).....	22
日本史演習 I ... 桑原/3年(後期), 4年(後期).....	22
日本史演習 II ... 衣川/3年(前期), 4年(前期).....	23
日本史演習 II ... 衣川/3年(後期), 4年(後期).....	23
文化人類学研究 I ... 高橋/2年(前期).....	23
民俗学研究 I ... 高橋/2年(後期).....	23
世界の諸民族の音楽 ... 片岡/2年(前期).....	24
国際関係論 I ... 饗場/3年(前期).....	24
国際関係論 II ... 饗場/3年(後期).....	24
世界経済論 I ... 水島/3年(前期).....	25
世界経済論 II ... 水島/3年(後期).....	25

アジア史研究 I

2単位 2年(後期)
葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 先秦から唐末に至る中国の前半期の歴史についての要点を理解し、中国の歴史や社会・文化の特徴について考える力を身につける。

【授業概要】 中国の歴史は唐と宋の間で一つの区切りがあると考えられてきた。唐以前は中国の社会や文化の基礎となる部分が形成された時代であり、その歴史を正しく理解することが現代の中国を理解する鍵ともなる。そこで、中国史における血縁集団、皇帝制、地域社会という観点から中国史の前半期の歴史についてそのトピックスと研究上の問題点について分析する。

【キーワード】 中国史, 唐宋変革, 皇帝制, 地域社会, 家族

【先行科目】 『人間と生命/東洋の知識人』(0.2), 『アジア地域交流史』(0.2, ⇒5頁)

【関連科目】 『アジア史基礎研究(後期)』(0.2, ⇒12頁), 『アジア史演習』(0.1, ⇒12頁)

【履修上の注意】 日本史, 中国史についての基礎知識を身につけておいて下さい。それよりも、先ず今の日本・アジアに関心を持つこと、そして皆さん自身の将来について考えるという態度で授業に臨むことを希望します。3年1回開講につき23年度・25年度は開講しません。

【到達目標】 中国の唐代に至る歴史を正しく理解し、そこから現代中国、また現在の日本を見る視点を養い、自らの視点を論述できる能力を身につける。

【授業計画】 1. 中学・高校の歴史教科書の執筆方針とは 2. 研究者は中国史をどう見ていたのか 3. 中国社会の原点-家族を巡る攻防 4. 皇帝支配はいかにして可能となったのか-始皇帝登場の背景 5. 皇帝を巡る人間関係-劉邦は暴君か親分か 6. 中央集権と地方勢力-漢の豪族とは何者か? 7. 『三国志』の歴史的意義-司馬仲達にしてやられた英雄たち 8. 竹林の七賢の正体-えげつなかつた「清」なる人物 9. 貴族に忍び寄る誘惑-銭神の魅力と脅威 10. 中国における宗教の成立-お化けと仙人・仏様 11. 漢民族王朝のしぶとぎ-金印の謎 12. 民間を取り込んだ土地制度均田制-「均」と「分」の論理 13. 煬帝も玄宗のご先祖様は?-漢唐間の民族問題 14. 隋唐帝国の構造-律令制とはどんな制度か 15. 期末試験 16. 授業総括

【成績評価】 ほぼ毎回実施する小テストと期末テスト(筆記・論述)を総合して判断します。

【再試験】 特別の理由のない限り実施しません

【教科書】

- ◇ 教材はプリント配布
- ◇ 参考文献は授業中にふれるが取りあえず以下の本を参考に上げておきます。
- ◇ 『東洋の知識人』(涓陽会編, 朋友書店刊, 1995)
- ◇ 『中国思想事典』(溝口雄三他編, 葭森他執筆, 東京大学出版会刊, 2001)

【参考書】 授業中に配布する。大事に保管すること
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219040>

【連絡先】
 ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜日 16時30分から17時30分)

【備考】 3年1回開講に付き, 22年度・23年度は開講しない

アジア史研究 II 2 単位 2 年 (後期) 葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 アジアの中世の具体像, 世界史におけるアジア史の位置付け, 歴史の法則性を理解し, 現代社会の課題と人類の未来について歴史をふまえて考えるという態度を養う。

【授業概要】 中国史上転換点となる三国志の時代の具体像, その東アジアに与えた影響, 中国の古代から中世への転換は歴史の流れを考える上でどの様に位置付けられるのか, 歴史の法則性をどの様に理解すべきか等について講義し, アジアや日本の歴史そしてその未来について考察する

【キーワード】 中世, 三国志, 貴族制, 歴史の法則性

【先行科目】 『アジア史研究 I』(1.0, ⇒7 頁), 『アジア史研究 III』(1.0, ⇒8 頁)

【関連科目】 『アジア史基礎研究 (後期)』(0.5, ⇒12 頁), 『アジア史演習』(0.5, ⇒12 頁)

【履修上の注意】 日本史及び世界史について高校の授業で習った基本的知識について各自復習しておいて欲しい。この授業は3年に一度開講, 23年度に開講し, 24年度25年度は開講しない。

【到達目標】 アジアの近世の具体像と日本史・世界史との関わりを理解し, 現代社会の諸問題と人類の未来について考える態度を養う

【授業計画】 1. 歴史を学ぶと言うこと—高校までの歴史の授業で何を習ったのか 2. 歴史の流れとは—高校の歴史教科書の執筆方針と歴史法則 3. 世界史における中世—中世は暗黒時代か? 4. アジアにおける古代・中世・近世—時代区分論とは? 5. 中国史における古代—秦漢帝国の構造 6. 中国史における中世の幕開け—『三国志』の始まり 7. 中国中世の主従関係—『三国志』と任侠 8. 『三国志』の社会背景—豪族と世論 9. 武人の時代から貴族の時代へ—六朝貴族制の構造 10. 中国中世の精神性—恥と過 11. 律令制度とは—中国中世の国家制度 12. 中国中世と東アジア 13. 中世から近世へ—唐宋変革とは何か 14. 中国における近世とは—宋代以降の社会風潮 15. 学期末試験 16. 総括

【成績評価】 小テストと期末テストに出席を加味して評価する。授業内容特に全体の流れと意義を理解した上で, 自分の頭で考えた答案を評価する。

【再試験】 基本的に再試はない。本人に責任を帰しえない, 特別事情がある場合のみ再評価を行う。

【教科書】 高校で使った日本史・世界史の教科書を持参すること

【参考書】 授業時に随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219041>

【連絡先】
 ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期・月曜16:30~17:30)

【備考】 3年1回開講につき, 22年度は開講しない。23年度開講予定

アジア史研究 III 2 単位 2 年 (後期) 葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 東アジアの古代から近世に至る歴史 (の流れ, 東アジアの文化の特質とその歴史的背景を理解し, 東アジア史 (日本を含む) を学ぶ意味について考える力を養う。

【授業概要】 東アジア文化の核となる中国文化の形成と発展, 周辺への影響, 及びその背景にある社会の変化について, 中国史の流れをおいつつ, アジアの歴史の特性について講義する。

【キーワード】 アジア史, 地域社会, 時代区分論

【履修上の注意】 高校までの世界史, 日本史の知識を復習しておいてほしい。なおこの授業は3年に一回開講, 25年度は開講予定, 23年度, 24年度は開講しない。

【到達目標】 日本を含むアジア史の流れを理解し, 自分たちが立つ位置を自覚し, 将来歴史の教師となった際にも生徒に世界史的な観点から日本史を授業しうる能力を涵養する。

【授業計画】 1. 西洋史と東洋史—高校の教科書の構成を振り返る 2. 歴史理論と中国史研究, -日本における東洋史研究の始まり 3. アジア

における古代・中世・近代-戦後の時代区分論争 4. 中華文明の発生と展開 5. 中国における専制国家の成立と展開 6. 三国志の時代とは—アジアの古代から中世への展開 7. 貴族制と官僚制—東アジアの中世とは 8. 律令制の成立と受容—中国の中世・日本の古代 9. 唐宋変革の意味—東アジアにおける近世 10. 中国における土地制度の変遷—均田農民から佃戸へ 11. 中国における都市と商業の発展—東洋のルネッサンス 12. 近世の科挙制度と西洋の絶対王政 13. 中国革命への道筋—近世儒教の革新 14. 歴史の伝統と現代中国の課題—和諧社会は達成できるか? 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】 小テスト, 期末試験を総合的に評価

【再試験】 再試験はしない

【教科書】 プリント配布, ただし, 高校の日本史, 世界史の教科書を持参のこと

【参考書】 授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219042>

【連絡先】
 ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~15:00)

【備考】 三年一回開講する。23, 24年度は開講しない。

アジア思想研究 I 2 単位 2 年 (前期) 有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】 アジア思想研究では, 文学作品や思想書, 或いは画像などを手がかりに, 中国の思想・文化を様々なテーマから解明し理解していくことを主眼に於て講義を行っていく。そして, 中国文化の基層に流れている様々なものを考えていきたい。今年度は中国思想・文学の巨大なテーマの一つである隠者論を考える。このテーマは人間が生きていく中で必ずと言っていいほど体験する疎外感と密接に関わる問題であり, それ故, 数多くの議論がなされてきた。それらの争点を明らかにした上で, 日本の幕末維新期の志士たちをモデルに考えていく。

【授業概要】 孤立した人間—中国的隠者論の展開

【キーワード】 隠者論, 志士, 幕末維新

【履修上の注意】 本講義を受講するためにあらかじめ準備しておくことはない。講義中の私語等は即刻退場を命じることがある。

【到達目標】 日本における漢学の流れを理解し, あわせて文化理解への基礎的能力を養う。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 隠者論が生まれた背景と隠者論の諸相 3. 長州藩高杉晋作の場合 4. 米沢藩雲井龍雄の場合 5. 薩摩藩西郷隆盛の場合 6. まとめ

【成績評価】 出席点と最終回に行う試験を総合的 (おおむね 5.5 の予定) に判断して評価する。欠席をする場合, あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とはでは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。試験は持ち込み可とするが, 知識を問うような問題は出さない。

【再試験】 行わない

【教科書】 毎回プリント (漢文) を配布するので特に教科書・参考書として指定するものはない。参考となる文献等については随時提示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219043>

【連絡先】
 ⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

【備考】 隔年開講

日本考古学研究 2 単位 2 年 (前期) 中村 豊・准教授/埋蔵文化財調査室, 遠部 慎・助教/埋蔵文化財調査室

【授業目的】 日本の考古学について, そのアウトラインを概観する。現状と課題をふまえ, 今後の研究活動の参考とする。

【授業概要】 日本考古学, 原始時代から中世・近世まで, 研究の現状を把握する。ついで, いくつかのテーマを選択して, 関連する徳島県内の遺跡を訪問し, フィールドワークをおこなう。

【キーワード】 日本考古学, フィールドワーク

【関連科目】 『考古学基礎研究』(0.5, ⇒14 頁)

【到達目標】 受動的に講義を受けるだけではなく, 自ら問題点を見出し, 行動する姿勢を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 旧石器・縄文時代の考古学 3. 縄文時代の考古学 4. 縄文から弥生へ 5. 弥生時代の考古学 6. 邪馬台国の時代 7. 古墳時代の考古学 8. 歴史時代の考古学 9. 徳島の遺跡について 10. フィールドワーク I 博物館見学 11. フィールドワーク 2 徳島県内の遺跡めぐり 1 12. フィールドワーク 2 徳島県内の遺跡めぐり 2 13. フィールドワーク 2 徳島県内の遺跡めぐり 3 14. フィールドワーク 2 徳島県内の遺跡めぐり 4 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】 授業への取り組み状況と, 学期末のレポートによる。

【再試験】なし
 【教科書】なし
 【参考書】授業中に随時紹介
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218919>
 【連絡先】
 ⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 蔵本地区埋蔵文化財調査室にて随時)
 ⇒ 遠部 (088-633-7236,)
 【備考】土日に振替でフィールドワークをおこなうことがある。その際は、動きやすい服装が必要である。日程調整はおこなうが、土日いずれかの予定は空いていることが望ましい。

アジア思想研究 II 2単位 2年(前期)
 有馬 卓也・教授/人間文化学科, 邵 迎建・教授/人間文化学科
 田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】アジア思想研究では、文学作品や思想書、或いは画像などを手がかりに、古代から近現代に至る中国の思想・文化を様々なテーマから解明し理解していくことを主眼に於て講義を行っていく。そして、中国文化の基層に流れている様々なものを考えていきたい。
 【授業概要】本講義は、中国の春秋戦国から唐代までを有馬が、唐・宋・明を田中が、清から近現代までを邵が担当する。そして、各時代の文化的特質を様々な事件や社会現象を通して、幅広く考えていく。
 【キーワード】中国思想, 中国文学, 中国文化
 【履修上の注意】本講義を受講するためにあらかじめ準備しておくことはない。講義中の私語等は即刻退場を命じることがある。
 【到達目標】中国文化の理解を通して、人間の普遍的な理解を試み得る目をもつ。
 【授業計画】1. ガイダンス・春秋戦国期の思想 2. 秦から前漢へ 3. 前漢武帝期 4. 前漢の終焉と後漢 5. 初期道教 6. 道教の隆盛 7. 魏晉南北朝期の志怪小説 8. 唐代の伝奇小説 9. 唐宋の詩文 10. 宋詞と元曲 11. 明清の文学と出版文化 12. 国民国家と小説 13. 戦争期の映画と演劇 14. 中華人民共和国の人民文学 15. 試験 16. 総括
 【成績評価】出席と期末テストによる。
 【再試験】行わない
 【教科書】授業中に適宜紹介していく
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219044>
 【連絡先】
 ⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)
 【備考】隔年開講, 平成 24 年度開講

アジア社会研究 I 2単位 2年(後期)
 荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】今年度の授業は台湾が舞台。
 【授業概要】有史以前から現代まで、台湾史通覧
 【キーワード】台湾社会
 【関連科目】『アジア地域交流史』(0.5, ⇒5頁)
 【到達目標】台湾社会に対する認識を深める。
 【授業計画】1. 今年の授業は台湾史, 2. 有史以前から大航海時代, 漢民族移民の増加, ヨーロッパ型近代との衝突, 日本植民地時代, 戦後台湾というトピックを扱う
 【成績評価】授業態度は評価を受ける前提。レポート或いは期末試験にて評価。
 【再試験】無
 【教科書】教科書はない。教材は配布する。
 【参考書】おって指示。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219046>
 【連絡先】
 ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp)

アジア社会研究 II 2単位 2年(後期)
 荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】中国史の近世・近代にかけての基礎知識を学ぶ。
 【授業概要】中国は我が国とは異なる社会である。この社会の有様をその基層から考察する。
 【キーワード】中国社会, 近世・近代・現代
 【履修上の注意】中国史について全く勉強したことがない学生も、分かるよう、理解しようという熱意がある限り、受講できる。授業中の睡眠や携帯電話の使用は一切認めない。
 【到達目標】中国社会についての理解を深める

【授業計画】1. ガイダンス 2. 伝統中国の地域 3. 家族のあり方 4. 村落の構造 5. 鎮(町)と村落 6. 州県 人口数十万人の世界 7. 州県と国家 8. 大明帝国 9. 大清帝国 10. 中華世界の素描 11. テスト
 【成績評価】授業態度は評価の前提である。授業態度が良好と認められた学生に対しては、期末試験で評価を行う。
 【再試験】なし。
 【教科書】おって指示
 【参考書】おって指示
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219047>
 【連絡先】
 ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝一コマ目が望ましい。)
 【備考】平成 24 年度開講

アジア考古学研究 2単位 2年(前期)
 東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】近代のアジアにおける鳥居龍蔵の考古学的・人類学的調査研究の軌跡をたどる。
 【授業概要】鳥居龍蔵の、中国東北地方、シベリヤ、樺太、朝鮮、台湾、西南中国などアジア各地における考古学的・人類学的調査研究の意義をあきらかにする。
 【キーワード】鳥居龍蔵
 【履修上の注意】なし。
 【到達目標】アジアの歴史と文化へ認識を高める。アジア太平洋戦争を考える。
 【授業計画】1. 鳥居龍蔵の考古学的・民族学 2. 鳥居龍蔵と東北アジア考古学 3. 鳥居龍蔵の大興安嶺諸民族調査 4. 鳥居龍蔵の黒龍江(アムール)調査 5. 鳥居龍蔵とサハリン(樺太)・千島・アイヌ 6. 鳥居龍蔵と西南中国(貴州・雲南省)の諸民族 7. 鳥居龍蔵の台湾調査 8. 鳥居龍蔵の朝鮮調査 9. 鳥居龍蔵の東北アジア考古学一支石墓 10. 鳥居龍蔵の東北アジア考古学一高句麗 11. 鳥居龍蔵の東北アジア考古学一渤海・遼・金 12. 鳥居龍蔵と遼の歴史と文化一遼の皇帝陵と壁画 13. 鳥居龍蔵の東北アジア研究一遼の都城と寺院 14. 鳥居龍蔵の朝鮮調査一粟浪・帶方郡・三韓 15. 鳥居龍蔵の朝鮮調査一濟州島の民族 16. 鳥居龍蔵のアジア踏査行と現在
 【成績評価】レポートによる。
 【再試験】おこなわない。
 【教科書】
 ◇ 東潮 2009 「鳥居龍蔵のアジア踏査行」(『人間社会文化研究』17)
 ◇ 資料配付
 【参考書】『鳥居龍蔵全集』朝日新聞社, 中園英助『鳥居龍蔵伝』岩波書店, 徳島県立博物館『鳥居龍蔵の見たアジア』
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218333>
 【連絡先】
 ⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時, 考古学研究室でおこなう。)

博物館概論 2単位 2年(前期)
 一山 典・非常勤講師, 東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】博物館の役割と学芸員の活動について概観する。博物館の学芸業務の収集保存, 調査研究, 展示公開, 普及教育などについて学ぶ。博物館資料の取り扱いやその方法について理解する。また博物館をめぐる諸問題について個々に取り上げ、その解決の方向性を探る。
 【授業概要】博物館の活動とその課題
 【履修上の注意】授業は主に講義形式でおこなうが、博物館を見学してのレポートを課す。
 【到達目標】博物館とは何か、学芸員の役割について理解する。
 【授業計画】1. 1. 博物館の成り立ちとその種類 2. 2. 博物館法と関連法案令 3. 3. 博物館における学芸業務 4. 4. 展示公開 5. 5. 収集保存 6. 6. 調査研究 7. 7. 教育普及 8. 8. 展示公開 9. 9. 資料の取り扱いとその方法(展示更新) 10. 10. 資料の取り扱いとその方法(展示評価) 11. 11. 地域博物館とその役割 12. 12. 博物館と学校教育 13. 13. 開かれた博物館 14. 14. 博物館学芸員の課題 15. 15. テスト
 【成績評価】出席および博物館を見学してのレポートと期末のテストで評価をおこなう。
 【再試験】おこなわない。
 【教科書】とくに使わない。
 【参考書】徳島博物館研究会編『地域に生きる博物館』, 歴史学と博物館のあり方を考える会編『現場から』等を参考としてほしい。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219137>
 【連絡先】
 ⇒ 一山 . (オフィスアワー: 授業終了後におこなう。)
 ⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

博物館資料論

2 単位 2 年 (前期, 集中)
 千田 稔・非常勤講師, 東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】博物館は、無思想的に展示するのではなく、展示する側のコンセプトを示すには、どのような方法があるのか。

【授業概要】事例として、日本古代の自然観と展示について考える。

【キーワード】『古事記』、『日本書紀』、『万葉集』、『風土記』、『自然観』、『宗教』

【履修上の注意】単に学芸員の資格を取るだけを目指すのではなく、自らが博物館を通して、何を発信できるかということ問い続ける態度で講義に臨むこと。

【到達目標】オリジナルでユニークな博物館づくりについて自らの考えをもつこと。

【授業計画】1. 日本古代の「自然」とは? 2. 神話の中から自然観を探る一海一 3. 神話の中から自然観を探る一山一 4. 神話の中から自然観を探る一植物一 5. 神話の中の自然観を展示するには? 6. 記紀の歴史叙述において語られる自然観 (1) 7. 記紀の歴史叙述において語られる自然観 (2) 8. 『万葉集』によまれた自然観 (1) 9. 『万葉集』によまれた自然観 (2) 10. 『播磨国風土記』にみる自然の叙述 11. 『出雲国風土記』にみる自然の叙述 12. 『常陸国風土記』にみる自然の叙述 13. 『豊後国風土記』にみる自然の叙述 14. 『肥前国風土記』にみる自然の叙述 15. 日本古代における自然観の成立 16. 自然観を展示する方法

【成績評価】レポート

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義中に資料を配布

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219139>

【連絡先】

⇒ 千田 .
 ⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

博物館特論

2 単位 2 年 (後期, 集中)
 未定, 東 潮・教授/人間文化学科

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219138>

【連絡先】

⇒ 未定
 ⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】23 年度に博物館特論は開講しない。博物館資料論は開講。

アジア文学基礎研究

2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)
 田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】李漁『閑情偶寄』を読む

【授業概要】明末清初の人・李漁の『閑情偶寄』から読みやすい文章を選び、漢文訓読の形式で精読する。演劇・建築・家具・飲食・植物など多彩なテーマにわたる随筆集であり、受講者の興味に応じて読む文章を決めたい。担当者はとくに決めず、毎回の予習を求め、その場で指名する。

【キーワード】文学, 漢文, 中国語, 文学

【関連科目】『アジア思想基礎研究 (前期)』(0.5, ⇒11 頁), 『アジア史基礎研究 (前期)』(0.5, ⇒12 頁)

【履修上の注意】外国語の古典文語文であるから、辞書を引かなければ読めない。なんとなく訓読してわかったつもりにならず、丁寧に漢和辞典を引くのみならず、論理的に文章を解釈する習慣を養ってほしい。担当者を割り振り演習形式をとるが、担当者以外も最低限の予習をしてくること。

【到達目標】漢文法の基礎を学び、漢和辞書を引きながら文章を正確に理解する力を身につける。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 漢文訓読の基礎 1 3. 漢文訓読の基礎 2 4. 明代文学史概説 1 5. 明代文学史概説 2 6. 講読 閑情偶寄 1 7. 講読 閑情偶寄 2 8. 講読 閑情偶寄 3 9. 講読 閑情偶寄 4 10. 講読 閑情偶寄 5 11. 講読 閑情偶寄 6 12. 講読 閑情偶寄 7 13. 講読 閑情偶寄 8 14. 講読 閑情偶寄 9 15. 講読 閑情偶寄 10 16. 補足と総括

【成績評価】平常点とレポートにより総合的に評価する。

【再試験】行わない

【参考書】

◇ 『全訳漢辞海』(三省堂)
 ◇ 加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫
 ◇ 中村春作・市来津由彦・田尻祐一郎・前田勉 共編『訓読』論 勉誠出版
 ◇ 古田島洋介『これならわかる返り点』新典社新書

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218355>

【連絡先】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問に応じる。)

アジア文学演習 I (前期)

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】明代白話小説の講読

【授業概要】中国近世の白話 (口語体) 小説を講読する。明代の白話長編小説の傑作である、いわゆる「四大奇書」(『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』)などを題材にして、読みやすい場面を選び講読する。後期は『西遊記』や白話短編小説を読む予定 (作品は受講者に応じて変更する場合あり)。古典作品ではあるが、口語文であるため、漢文訓読の知識のみで読むことはむずかしい。中国語未修者は受講に際し相談すること。

【キーワード】小説, 明代, 文学, 白話

【先行科目】『アジア文学基礎研究』(1.0, ⇒10 頁)

【関連科目】『アジア文学演習 II (前期)』(0.5, ⇒11 頁), 『アジア思想演習 (前期)』(0.5, ⇒11 頁)

【履修上の注意】中国語既修者が望ましい。演習においては、原文は中国語で音読してもらう。ただし未修者の履修を妨げるものではない。

【到達目標】古典口語文の読解力を身に着け、また白話小説に関する基礎的知識を得る。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 白話文読解の基礎 1 3. 白話文読解の基礎 2 4. 『三国志演義』導入 5. 『三国志演義』講読 1 6. 『三国志演義』講読 2 7. 『三国志演義』講読 3 8. 『三国志演義』講読 4 9. 『三国志演義』講読 5 10. 『水滸伝』導入 11. 『水滸伝』講読 1 12. 『水滸伝』講読 2 13. 『水滸伝』講読 3 14. 『水滸伝』講読 4 15. 『水滸伝』講読 5 16. 総括授業

【成績評価】平常点とレポートにより総合的に評価する

【再試験】行わない。

【参考書】

◇ 太田辰夫『新訂 中国歴代口語文』朋友書店
 ◇ 金文京『中国小説選』角川書店

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218353>

【連絡先】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問に応じる。)

アジア文学演習 I (後期)

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】明代白話小説の講読

【授業概要】中国近世の白話 (口語体) 小説を講読する。明代の白話長編小説の傑作である、いわゆる「四大奇書」(『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』)などを題材にして、読みやすい場面を選び講読する。後期は『西遊記』や白話短編小説を読む予定 (作品は受講者に応じて変更する場合あり)。古典作品ではあるが、口語文であるため、漢文訓読の知識のみで読むことはむずかしい。中国語未修者は受講に際し相談すること。

【キーワード】小説, 明代, 文学

【先行科目】『アジア文学基礎研究 (2006 後期)』(1.0)

【関連科目】『アジア文学演習 II (後期)』(0.5, ⇒11 頁), 『アジア思想演習 (後期)』(0.5, ⇒12 頁)

【履修上の注意】中国語既修者が望ましい。演習においては、原文は中国語で音読してもらう。ただし未修者の履修を妨げるものではない。

【到達目標】古典口語文の読解力を身に着け、また白話小説に関する基礎的知識を得る。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 『西遊記』導入 3. 『西遊記』講読 1 4. 『西遊記』講読 2 5. 『西遊記』講読 3 6. 『西遊記』講読 4 7. 『西遊記』講読 5 8. 『金瓶梅』概説 1 9. 『金瓶梅』概説 2 10. 白話短編小説導入 11. 白話短編小説講読 1 12. 白話短編小説講読 2 13. 白話短編小説講読 3 14. 白話短編小説講読 4 15. 白話短編小説講読 5 16. 総括授業

【成績評価】平常点とレポートにより総合的に評価する

【再試験】行わない。

【参考書】

◇ 太田辰夫『新訂 中国歴代口語文』朋友書店
 ◇ 金文京『中国小説選』角川書店

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218354>

【連絡先】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問に応じる。)

アジア文学演習 II (前期) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 邵 迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代中国の女性作家張愛玲のエッセイや小説を読解する。言葉の理解、分析が中心であるが、テキストの精読に当たってはその後にあった歴史、文化、社会状況を調べ、明らかにさせ、理解を深めていく。

【授業概要】 男女の日常しか書かないと宣言した張愛玲 (1920-1995) の文章は中国で「美文」と定評されている。日常を文学的にきれいに表現しているのは特徴である。だが、その文章はきれいだけではなく奥深い、当然、難解なところもかなり多い。エッセイを読むことから始め、だんだんと難しい恋愛小説へとチャレンジしていく。

【履修上の注意】 中国語・中国文化に興味を持つ他コースの学生の履修も歓迎するが、履修は原則として全学共通教育の中国語 (2) を履修済みである者に限る。

【到達目標】

1. 中国語の文章を正確に読解する。
2. 中国近現代文学、文化について調べる基礎知識を習得する。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 童言無忌 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 私語 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 傾城之恋 13. 同上 14. 同上 15. 総括授業

【成績評価】 出席状況、態度、発表による総合評価。

【再試験】 行わない。

【教科書】 プリントを配布する。参考書は適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218351>

アジア文学演習 II (後期) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 邵 迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代中国の女性作家張愛玲のエッセイや小説を読解する。言葉の理解、分析が中心であるが、テキストの精読に当たってはその後にあった歴史、文化、社会状況を調べ、明らかにさせ、理解を深めていく。

【授業概要】 張愛玲の恋愛小説を読む。

【履修上の注意】 中国語・中国文化に興味を持つ他コースの学生の履修も歓迎するが、履修は原則として全学共通教育の中国語 (2) を履修済みである者に限る。

【到達目標】

1. 中国語の文章を正確に読解する。
2. 中国近現代文学、文化について調べる基礎知識を習得する。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 前期の続き、張愛玲の恋愛小説『傾城之恋』を読む 3. 『傾城之恋』 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 映画『傾城之恋』を観る 11. 『傾城之恋』を読む 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 総括授業

【成績評価】 出席状況、態度、発表による総合評価。

【再試験】 行わない。

【教科書】 プリントを配布する。参考書は適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218352>

アジア思想基礎研究 (前期) 2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
 有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】 アジア思想基礎研究は、主に思想・文学関係の基礎文献を講読しながら、中国の文化を考えていこうとするものである。漢文を読むための基礎知識を伝えることももちろんだが、メインは文化理解の方に置いている。本年度は中国の不思議小説を集める『太平広記』の中から、巻 131 報応三十・巻 133 報応三十二を読む予定。

【授業概要】 小説からさぐる思想・文化

【キーワード】 志怪小説、伝奇小説、中国文化

【履修上の注意】 演習の形態をとるので、全員が担当することを前提とする。したがって、最高 25 名を限度としたい。最初に出席者の担当を決め、発表当日までに予習のチェックを行うことを義務づける (授業の際、誤読の訂正の為に時間を浪費することをさけるため)。

【到達目標】 漢文 (白文) に対する基礎理解 (慣れ) と、中国文化の理解を通して、人間の普遍的な理解を試み得る目を持つこと。

【授業計画】 1. 巻 131 報応三十と巻 133 報応三十二は因果応報にまつわる怪奇現象譚を 26 話と 22 話掲載する。本年度は報応三十のすべてと、報応三十二の一部を読む予定である。 2. 毎回 3 話程度を読んでいく。

【成績評価】 演習形式で行うので、出席点と担当の出来具合を総合して評価する。出席は一回につき 3 点。担当の点数は 100 点から出席点 (授

業回数×3) を引いた数字が満点となる。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 特に教科書・参考書として指定するものはないが、以下の文献は講義理解の手助けとなる。
- ◇ 竹田 晃『捜神記』(平凡社・東洋文庫)
- ◇ 今村与志雄『唐宋伝奇集 (上下)』(岩波文庫・赤)
- ◇ 陳 舜 臣『ものがたり唐代伝奇』(朝日文庫)
- ◇ 今村与志雄『西陽雜俎 (1~5)』(平凡社・東洋文庫)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218343>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

アジア思想基礎研究 (後期) 2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)
 有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】 アジア思想基礎研究は、主に思想・文学関係の基礎文献を講読しながら、中国の文化を考えていこうとするものである。漢文を読むための基礎知識を伝えることももちろんだが、メインは文化理解の方に置いている。本年度は中国の不思議小説を集める『太平広記』の中から、巻 318 鬼三を読む予定。

【授業概要】 小説からさぐる思想・文化

【キーワード】 志怪小説、伝奇小説、中国文化

【履修上の注意】 演習の形態をとるので、全員が担当することを前提とする。したがって、最高 25 名を限度としたい。最初に出席者の担当を決め、発表当日までに予習のチェックを行うことを義務づける (授業の際、誤読の訂正の為に時間を浪費することをさけるため)。

【到達目標】 漢文 (白文) に対する基礎理解 (慣れ) と、中国文化の理解を通して、人間の普遍的な理解を試み得る目を持つこと。

【授業計画】 1. 巻 318 鬼三は幽霊にまつわる怪奇現象譚を 22 話掲載する。このすべてを読破したい。 2. 毎回 3 話程度を読んでいく。

【成績評価】 演習形式で行うので、出席点と担当の出来具合を総合して評価する。出席は一回につき 3 点。担当の点数は 100 点から出席点 (授業回数×3) を引いた数字が満点となる。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 特に教科書・参考書として指定するものはないが、以下の文献は講義理解の手助けとなる。
- ◇ 竹田 晃『捜神記』(平凡社・東洋文庫)
- ◇ 今村与志雄『唐宋伝奇集 (上下)』(岩波文庫・赤)
- ◇ 陳 舜 臣『ものがたり唐代伝奇』(朝日文庫)
- ◇ 今村与志雄『西陽雜俎 (1~5)』(平凡社・東洋文庫)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218344>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

アジア思想演習 (前期) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】 より高度な思想・文学関係の文献を講読しながら、中国の思想・文化を考えていこうとするものである。アジア思想研究の次のステップである。一つの文献を歴史・思想・文学・文化という枠組みにとらわれずに理解・把握することの訓練である。

【授業概要】 今年度は、中国文化の一つである仙人文化の中でも尸解仙について分析していく。先行研究を踏まえつつ、尸解仙を論じる文献を系統的にあたっていく。

【キーワード】 道教、尸解仙、中国文化

【先行科目】 『アジア思想基礎研究 (前期)』(1.0, ⇒11 頁), 『アジア思想基礎研究 (後期)』(1.0, ⇒11 頁)

【到達目標】 道教を中心とした中国文化を理解することを通して、人間の普遍的な理解を試み得る目をもつこと。

【授業計画】 1. 1) ガイダンス 2. 2)~4) 『抱朴子』の検討 3. 5)~6) 『列仙伝』の検討 4. 7)~8) 『神仙伝』の検討 5. 9)~10) 武帝関連資料の検討 6. 11)~15) 『雲笈七籤』の検討 7. 16) 総括

【成績評価】 演習形式で行う。出席点と担当分の成果を総合して評価する。出席は一回につき 3 点。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。

【再試験】 行わない。

【教科書】教科書として以下を使用する。購入しておくこと。『抱朴子』(岩波文庫)、『列仙伝・神仙伝』(平凡社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218341>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

アジア思想演習 (後期)

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】より高度な思想・文学関係の文献を講読しながら、中国の思想・文化を考えていこうというものである。アジア思想研究の次のステップである。一つの文献を歴史・思想・文学・文化という枠組みにとらわれずに理解・把握することの訓練である。

【授業概要】今年度は、中国文化の一つである龍、及びその居城である竜宮について、いくつかの切り口から分析していく。そして、中国文化の一面面を明らかにしていきたい。

【キーワード】龍、伝説の研究、中国文化

【先行科目】『アジア思想研究 II』(1.0, ⇒9 頁)

【到達目標】竜宮伝説を通して、中国文化を理解するとともに、人間の普遍的な理解を試み得る目をもつこと。

【授業計画】1. 1) ガイダンス 2. 2) 竜宮伝説解析のための方法論 3. 3) 4) 龍の属性 4. 5) 6) 「柳子華」の検討 5. 7) 9) 「劉毅伝」の検討 6. 10) 12) 「龍女伝」の検討 7. 12) 15) 「李衛公別伝」の検討 8. 総括

【成績評価】演習形式で行う。出席点と担当分の成果を総合して評価する。出席は一回につき3点。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。

【再試験】行わない。

【教科書】方法論に関連して小松和彦氏の以下の文献を挙げておく。すべて読んでおくこと。『神隠し』(弘文堂)、『憑霊信仰論』(講談社学術文庫)、『異人論』(ちくま学芸文庫)、『悪霊論』(ちくま学芸文庫)、『日本妖怪異聞録』(講談社学術文庫)。

【参考書】適宜提示する

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218342>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

アジア史基礎研究 (前期)

2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
葎森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】東アジアの歴史・社会に関する文献資料(主として漢文資料)の読解を通して、アジアの歴史や社会への理解を高めると共に、日本・東洋地域研究コースで卒業研究を行うための学生諸君に必要な情報処理能力・語学力を養成することを目的とする。

【授業概要】『三国志』の講読を通じ、漢文による歴史資料の読解力を身につけると共に、当時の政治、軍事、社会の諸問題を考察する。昨年度は『三国志』の中から呂布伝と諸葛亮(孔明)伝の前半と赤壁の戦いの記事を取り上げた。今年度も受講者の希望も考慮し、『三国志』の中から題材を選ぶ。一応、諸葛孔明の後半生(五丈原の戦い)あるいは周瑜等の呉の将軍を中心に取り上げ、三国時代の政治と軍事についての考察について準備をしている。

【キーワード】『三国志』、中国中世史、漢文講読、歴史資料論

【先行科目】『人間と生命/東洋の知識人』(0.2)、『歴史と文化/アジアの近代と日本』(0.1)

【関連科目】『アジア史基礎研究 (後期)』(1.0, ⇒12 頁)、『アジア史研究 I』(0.8, ⇒7 頁)、『アジア地域交流史』(0.7, ⇒5 頁)

【履修上の注意】受講に際しては基礎的な漢文の知識、それに加えて十分な予習復習が欠かせないのでその点注意しておくこと。現代中国語は必須ではないが、文法知識として役立つ。授業計画は授業内容をテーマ別に記したものであって、始めと終わりを除いて、順序を記したのではない。

【到達目標】辞書や工具書を使い訓点のない簡単な『正史』の漢文が読め、『三国志』の時代背景が理解できることを目標とする。

【授業計画】1. 受講生と共に『三国志』の中から講読する部分を選定する。2. 辞書の使い方。特に付録の利用法。3. 漢文のリズムのつかみ方。漢文の語順の法則。4. 送りがな、返り点付け方。漢文の禁則事項。5. 工具書(索引や種々の事典)の有効活用法。6. 官職、人名、地図の調べ方と読み込み方。7. 既存の研究の利用法。8. 『三国志』という資料の性格について(1)。9. 『三国志』に出てくる歴史的用語について(1)。10. 『三国志』の時代背景(1)。11. 『三国志』の登場人物について(1)。12. 『三国志』と日本(1)。13. 中国の歴史から見た三国時代(1)。14. 中国の自然環境と『三国志』(1)。15. 『三国志』を読んで(1)-発表 16. 『三国志』を読んで(2)-総括

【成績評価】平常点とレポートを組み合わせて評価する。特に、平常点が重視されるので欠席の多い場合は単位を出せない。

【再試験】平常点に再試はない。

【教科書】テキストはプリントを配布する。参考書はないが漢文と雖ども外国語である(それも古文)。従って辞書は必携。高校の時に使ったものでもよいから必ず持参すること。なお、『三国志』について何か読んでおく方が取っつきやすい(但しコンピューターゲームは除く)。

【参考書】授業の中で紹介する。とりあえず川勝義雄『中国の歴史』3(講談社学術文庫)、『東洋の知識人』(朋友書店)を挙げておく。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218335>

【連絡先】

⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 午後4時半から5時半)

アジア史基礎研究 (後期)

2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)
葎森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】前期に引き続き、東アジアの歴史・社会に関する文献資料(主として漢文資料)の読解を通して、アジアの歴史や社会への理解を高めると共に、日本・東洋地域研究コースで卒業研究を行うための学生諸君に必要な情報処理能力・語学力を養成することを目的とする。

【授業概要】前期に続き『三国志』を講読する。それを通じ、漢文による歴史資料の読解力を身につけると共に、当時の政治、軍事、社会の諸問題を考察する。前期に引き続き、受講者の希望も考慮し、『三国志』の中から題材を選ぶ。とりあえずは『三国志』の中でも赤壁の戦いで活躍した将軍たちの列伝を準備している

【キーワード】『三国志』、漢文講読、中国中世史、歴史資料論

【先行科目】『アジア史基礎研究 (前期)』(1.0, ⇒12 頁)、『アジア地域交流史』(0.7, ⇒5 頁)、『歴史と文化/アジアの近代と日本』(0.1)

【関連科目】『アジア史演習』(0.8, ⇒12 頁)、『アジア史研究 I』(0.8, ⇒7 頁)

【履修上の注意】受講に際しては漢文の読解力、それに加えて十分な予習復習が欠かせないのでその点注意しておくこと。現代中国語は必須でないが文法を理解する上で役に立つ。授業計画は授業内容をテーマ別に記したものであって、始めと終わりを除いて、順序を記したのではない。

【到達目標】辞書や工具書を駆使し、『正史』の漢文を読みこなし、自らの『三国志』の時代像をおぼろげながらも作り上げることを目標とする。

【授業計画】1. 受講生と共に『三国志』の中から講読する部分を選定する。2. 辞書の使い方。特に付録の利用法応用編。3. 漢文の文法、中級編、現代中国語と漢文。4. 送りがな、返り点付け方の応用練習。5. 工具書(索引や種々の事典)の有効活用法応用編。6. 官職、人名、地図についての専門知識の習得。7. 既存の研究の読み方。8. 『三国志』という資料の性格について(2)。9. 『三国志』に出てくる歴史的用語について(2)。10. 『三国志』の時代背景(2)。11. 『三国志』の登場人物について(2)。12. 『三国志』と日本(2)。13. 中国の歴史から見た三国時代(2)。14. 中国の自然環境と『三国志』(2)。15. 『三国志』を読んで(3)-後期授業の討論。16. 『三国志』を読んで(4)-授業の総括

【成績評価】平常点とレポートを組み合わせて評価する。特に、平常点が重視されるので欠席の多い場合は単位を出せない。

【再試験】平常点に再試はない。

【教科書】テキストはプリントを配布する。参考書はないが漢文と雖ども外国語である(それも古文)。従って辞書は必携。高校の時に使ったものでもよいから必ず持参すること。なお、『三国志』について何か読んでおく方が取っつきやすい(但しコンピューターゲームは除く)。

【参考書】授業の中で紹介する。とりあえず川勝義雄『中国の歴史』3(講談社学術文庫)を挙げておく。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218336>

【連絡先】

⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期)月曜日 午後4時半から5時半)

アジア史演習

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
葎森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】東アジアの歴史・社会に関する様々な情報をいかに入手し、これを利用して行くか、大学でアジア学を学ぶ上での基礎的手法とこれを応用して行く研究手法と技能を身につける事を目的とする。

【授業概要】歴史を中心としてアジアについて学ぶ上で必要な情報の収集の仕方、整理に役立つ技術、問題を整理する上で重要な観点、資料や論文の読み方、報告したり、レポート・論文を書く上で留意すべき事柄などを実際の資料や論文を扱うことで身につけてもらう。扱う内容は受講生の関心と能力を踏まえ、受講生と相談の上決める。前期はアジア史・アジア研究についての基本文献の探し方、辞書・目録の使い方、研究文献目録の概要について説明し、実地訓練を行う。

【キーワード】アジア史、情報収集、資料分析、論文作成

【先行科目】 『アジア地域交流史』(0.5), 『アジアの近代』(0.4)
【関連科目】 『アジア史研究 I』(0.7, ⇒7頁), 『アジア社会研究 I』(0.5, ⇒9頁), 『アジア社会演習 (後期)』(0.4, ⇒14頁)
【履修上の注意】 授業は報告と討論が中心となるのでレジュメの準備が必要。この授業は、学生が主体的に行動することによって成り立つ授業なので、強い自覚を持って出席されたい。なお講義計画は授業内容を項目にまとめたものであって、必ずしも順序を示すものではない。
【到達目標】 自分の興味に従って様々な情報や資料を探し出し、レジュメなどを作成して他者に対し情報の内容、自分の意見を説得的に発表しうる能力を身につけることを目標とする。
【授業計画】 1. アジア研究に必要な情報とは 2. 情報はどこにあるのか? 3. 徳島大学で使える情報の活用法 4. 情報検索はどのように行うのか 1-図書館と文献目録 5. 情報検索はどのように行うのか 2-コンピューターを使った情報検索 6. 資料の種類と使い方 1-文献資料の種類 7. 資料の種類と使い方 2-文献資料の分類法 < 目録学の基礎知識 > 8. 資料の種類と使い方 3-出土資料の活用法 9. 辞書の使い方 1-漢和辞典の歴史と読み方 10. 辞書の使い方 2-漢和辞典のひき方 11. 辞書の使い方 3-大漢和辞典を活用してみる 12. 漢字文化圏のコンピューター活用法-コード変換と外字処理 13. 資料リストの作成と実習 14. 文献リストの作成方と実習 15. 口頭発表-期末試験に代えて 16. 総括
【成績評価】 平常点を中心とする。特に、発表の準備、内容、準備してきた資料を重視する。
【再試験】 平常点に再評価はありえない
【教科書】 テキストはなく、授業の進度に合わせて、プリントを配布する。
【参考書】 参考書についても、発表のテーマに応じ、その都度指摘する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219039>
【連絡先】
 ⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 月曜日 16時30分~17時30分)

アジア史演習 2単位 3年(後期), 4年(後期)
 葎森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 東アジアの歴史・社会に関する様々な情報をいかに入手し、これを利用して行くか、大学でアジア学を学ぶ上での基礎的手法とこれを応用して行く研究手法と技能を身につける事を目的とする。
【授業概要】 歴史を中心としてアジアについて学ぶ上で必要な情報の収集の仕方、整理に役立つ技術、問題を整理する上で重要な観点、資料や論文の読み方、報告したり、レポート・論文を書く上で留意すべき事柄などを実際の資料や論文を扱うことで身につけてもらう。後期は自らの関心に基づきテーマを建て、資料を使って報告してもらう。自ら選んだテーマについて代表的な資料や論文にふれることを通じ、文献の調べ方、論文の読み方を身につけてもらう。
【キーワード】 アジア史, 情報収集, 資料分析, レポート・論文作成
【先行科目】 『アジア史基礎研究 (前期)』(1.0, ⇒12頁), 『アジア史研究 I』(1.0), 『アジア史研究 III』(1.0, ⇒8頁)
【履修上の注意】 授業は報告と討論が中心となるのでレジュメの準備が必要。学生が主体的に行動することによって成り立つ授業なので、強い自覚を持って出席されたい。なお講義計画は授業内容を項目にまとめたものであって、必ずしも順序を示すものではない。
【到達目標】 自分の興味に従って様々な情報や資料を探し出し、レジュメなどを作成して他者に対し情報の内容、自分の意見を説得的に発表しうる能力を身につけることを目標とする。
【授業計画】 1. 研究テーマの決め方-興味から研究へ 2. 研究論文の読み方 1-消える研究と残る研究 3. 研究論文の読み方 2-優れた論文の要件 4. 研究論文の読み方 3-論理構成 < 資料と論理 > 5. レポート・研究論文の書き方 1-悪文と名文の違い 6. レジュメの作り方 1-論文のどこを読むか 7. レジュメの作り方 2-筆者の意見と自分の意見 8. 論文を読んで発表する① 9. 論文を読んで発表する② 10. 論文を読んで発表する③ 11. 資料整理の方法-史料の整理とリストの作り方 12. 資料整理の方法-表や図を作るとのこと 13. 資料をまとめて報告する① 14. 資料をまとめて報告する② 15. 資料をまとめて報告する③ 16. 総括-卒業研究への取り組み方
【成績評価】 平常点を中心とする。特に、発表の準備、内容、準備してきた資料を重視する。
【再試験】 平常点に再評価はありえない
【教科書】 テキストはなく、授業の進度に合わせて、プリントを配布する。
【参考書】 参考書についても、発表のテーマに応じ、その都度指摘する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218334>
【連絡先】
 ⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:30~17:30)
 ⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~15:00)

アジア社会基礎研究 (前期) 2単位 2年(前期), 3年(前期)
 荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】 中国社会について、現代中国文で書かれた文章を読む。中国社会への理解を深めるとともに、現代中国文の読解能力を向上させる。全学共通中国語 I を修得したレベルから開始する。開始当初はあまりの難しさに面食らうかもしれない。だが目標レベルを高く設定する事は能力の向上の為には必要なことである。叱責を受けながら頑張っていたらいい。3カ月を過ぎる頃には、新聞程度なら辞書を片手にすらすら読めるレベルに達している。
【授業概要】 中国社会の研究 現代中国文の訓練
【キーワード】 中国語講読, 中国社会
【先行科目】 『中国語/中国語初級』(1.0)
【履修上の注意】 毎回担当を決めず、随意に指名するので予習は欠かせない。予習をしていない、あるいは出来ない者には苦痛の授業となる。残念ではあるが、理解できる範囲以上の事は理解しようとも思わない者がいる。このような学生には縁のない授業である。遠慮して頂きたい。ここで求められるのは、開始レベルの高低を問わず、向上心を持った野心的な学生である。文法の重要事項は何度でも繰り返し解説するので後期からの受講も認める。全学共通1年生の中国語を既修のこと。また中国語を母語とする学生にとっては、既知の内容であるので、受講を許可しない。
【到達目標】 現代中国語の文章読解能力の向上
【授業計画】 最初の方は一回の授業でテキスト 10 行程度を目処に読んでいくが、次第にスピードアップをはかる。音読と日本語訳を義務として課す。難解な文章も順を追いつつ、文法事項を確認していくと必ず読めるのである。
【成績評価】 評価の善し悪しは授業態度により決まる。
【再試験】 ない。
【教科書】
 ◇ 前期には戦前の上海についての小話を集めた『老上海奇聞』という本から幾つかの話を読む。
 ◇ 後期は『武漢文史資料文庫』か『上海文史資料存稿匯編』、或いは現代中国史に関わる基礎文献から資料・論文を抜粋する。
 ◇ これらは一般販売されていないので、適宜配布する。
【参考書】 辞書は必要である。ただし電子辞書は学習効果があがらないので初学者にとって不都合である。これは禁止する。紙媒体の比較的よい辞書を購入しなければならない。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218347>
【連絡先】
 ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝において。)

アジア社会基礎研究 (後期) 2単位 2年(後期), 3年(後期)
 荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】 中国社会について、現代中国文で書かれた文章を読む。中国社会への理解を深めるとともに、現代中国文の読解能力を向上させる。全学共通中国語 I を修得したレベルから開始する。開始当初はあまりの難しさに面食らうかもしれない。だが目標レベルを高く設定する事は能力の向上の為には必要なことである。叱責を受けながら頑張っていたらいい。3カ月を過ぎる頃には、新聞程度なら辞書を片手にすらすら読めるレベルに達している。
【授業概要】 中国社会の研究 現代中国文の訓練
【キーワード】 中国語講読, 中国社会
【先行科目】 『中国語/中国語初級』(1.0)
【履修上の注意】 毎回担当を決めず、随意に指名するので予習は欠かせない。予習をしていない、あるいは出来ない者には苦痛の授業となる。残念ではあるが、理解できる範囲以上の事は理解しようとも思わない者がいる。このような学生には縁のない授業である。遠慮して頂きたい。ここで求められるのは、開始レベルの高低を問わず、向上心を持った野心的な学生である。文法の重要事項は何度でも繰り返し解説するので後期からの受講も認める。全学共通1年生の中国語を既修のこと。また中国語を母語とする学生にとっては、既知の内容であるので、受講を許可しない。
【到達目標】 現代中国語の文章読解能力の向上
【授業計画】 最初の方は一回の授業でテキスト 10 行程度を目処に読んでいくが、次第にスピードアップをはかる。音読と日本語訳を義務として課す。難解な文章も順を追いつつ、文法事項を確認していくと必ず読めるのである。
【成績評価】 評価の善し悪しは授業態度により決まる。
【再試験】 ない。
【教科書】
 ◇ 前期には戦前の上海についての小話を集めた『老上海奇聞』という本から幾つかの話を読む。
 ◇ 後期は『武漢文史資料文庫』か『上海文史資料存稿匯編』、或いは現代中国史に関わる基礎文献から資料・論文を抜粋する。
 ◇ これらは一般販売されていないので、適宜配布する。

【参考書】辞書は必要。ただし電子辞書は学習効果があがらないので初学者に向かない。紙媒体の辞書を買いなさい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218348>

【連絡先】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 一こま目の前がベストである。)

アジア社会演習 (前期)

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
荒武 達朗・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】中国は我々とは異なる社会である。彼我の差異と共通点は何か。他の文化圏と接触をする時にこのような視点は必須であると言えよう。この授業では、近現代中国に関する論文や調査資料を基にして中国社会への理解を深める。

【授業概要】文献の輪読。

【キーワード】中国社会

【履修上の注意】本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。受講希望者の要望も考慮するので必ず登録前に来室、相談されたい。

【到達目標】中国社会に対して何らかの知見を広げる。

【授業計画】1. 一回目はガイダンス。2. 二回目以降は、テキストの翻訳と討論を行う。3. 各回は、基本的に前回の到達点から翻訳を再開する。4. 難解なテキストの翻訳という性格上、各回の範囲を予めシラバスに記載することはできない。5. 強いて範囲を明記するならば、本授業に関しては、逆に受講生諸君に対して誠意を欠くこととなる。

【成績評価】本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。評価の善し悪しは授業態度と期末レポートにより決まる。

【再試験】ない。

【教科書】

- ◇ 第一回目の授業において指定する。
- ◇ 教材はこちらで用意する。

【参考書】授業中に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218345>

【連絡先】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 午前中に来ること。午後は誠実に対応できないことがある。)

アジア社会演習 (後期)

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
荒武 達朗・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】中国は我々とは異なる社会である。彼我の差異と共通点は何か。他の文化圏と接触をする時にこのような視点は必須であると言えよう。この授業では、近現代中国に関する論文や調査資料を基にして中国社会への理解を深める。

【授業概要】文献の輪読。

【キーワード】中国社会

【関連科目】『アジア地域交流史』(0.5, ⇒5 頁)

【履修上の注意】本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。受講希望者の要望も考慮するので必ず登録前に来室、相談されたい。

【到達目標】中国社会に対して何らかの知見を広げる。

【授業計画】1. 一回目はガイダンス。2. 二回目以降は、テキストの翻訳と討論を行う。3. 各回は、基本的に前回の到達点から翻訳を再開する。4. 難解なテキストの翻訳という性格上、各回の範囲を予めシラバスに記載することはできない。5. 強いて範囲を明記しようとする場合は、本授業に関しては、逆に受講生諸君に対して誠意を欠くのではない。

【成績評価】本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。評価の善し悪しは授業態度と期末レポートにより決まる。

【再試験】ない。

【教科書】第一回目の授業で指定する。

【参考書】追って指定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218346>

【連絡先】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 午前中に来なさい。)

考古学演習

4 単位 3 年 (通年), 4 年 (通年)
東潮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】考古学の諸問題について、研究・発表する。共通のテーマとして、「東北アジアの都城と墓制」ととりくむ。

【授業概要】「壁画と東アジア世界」という共通のテーマで、東アジアの壁画墓について研究する。1972年に発見された高松塚古墳壁画に興味をもっていろいろ、壁画研究を続け、2011年春に『高句麗壁画と東アジア』を刊行した。演習をつうじての壁画研究のおもしろさをつたえる。壁画の考古学的・図像学的研究をおこなう。後期では東アジア古代・中世の墓制を比較し、歴史・文化の発展段階、王権の特質などをさぐる。

【キーワード】壁画、墓制、都城

【先行科目】『考古学基礎研究』(1.0, ⇒14 頁)

【到達目標】キトラ・高松塚古墳壁画を東アジア世界のなかで位置づける。

【授業計画】1. 東アジア考古学の諸問題 2. 高句麗壁画 3. 漢魏晋南北朝の壁画 4. 隋唐代の壁画 5. キトラ・高松塚古墳壁画の系統関係 6. 遼宋金の壁画 7. 東アジアの壁画の展開 8. 東アジアの墓制と都城—漢魏晋 9. 東アジアの墓制と都城—五胡十六国 10. 東アジアの墓制と都城—南北朝 11. 東アジアの墓制と都城—隋・唐・新羅・倭 12. 東アジアの墓制—唐・統一新羅・日本 13. 東アジアの墓制と都城—遼・宋・金・高麗 14. 東アジアの墓制と都城からみた国際環境

【成績評価】レポートによる。

【再試験】実施しない。

【教科書】

- ◇ なし
- ◇ その他プリントを配布する。

【参考書】東潮 2006『倭と加耶の国際環境』吉川弘文館、『鳥居龍藏全集』朝日新聞社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219443>

【連絡先】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時、考古学研究室において。)

考古学基礎研究

4 単位 2 年 (通年), 3 年 (通年)
中村 豊・准教授 / 埋蔵文化財調査室, 東潮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】考古学の調査・研究をおこなうさいの基礎的な技術を取得する。

【授業概要】考古学を研究する際の発掘調査から出土品の整理・分析までの基礎的な方法を習得する。

【キーワード】考古学方法論、フィールドワーク

【履修上の注意】とくになし。

【到達目標】考古学の調査に取り組む際の基本的技術習得

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 遺跡を歩き観察する 1 3. 遺跡を歩き観察する 2 4. 地形を読む 1 5. 地形を読む 2 6. 地形を読む 3 7. 出土品の実測・土器 1 8. 出土品の実測・土器 2 9. 出土品の実測・土器 3 10. 出土品の実測・石器 1 11. 出土品の実測・石器 2 12. 出土品の実測・石器 3 13. 拓本 1 14. 拓本 2 15. 発掘調査現場訪問 16. 総括授業

【成績評価】授業への取り組み状況

【再試験】実施しない。

【教科書】なし

【参考書】チャイルド『考古学の方法』河出書房新社、1964年『岩波講座日本考古学』全9巻、岩波書店、1985年『シンポジウム日本の考古学』1~5、学生社、1998~1999年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219442>

【連絡先】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8時30分~17時30分)
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時、考古学研究室においておこなう。)

朝鮮語

2 単位 2 年 (前期, 集中)
野間 秀樹・非常勤講師, 東潮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語を知るものこそが味わえる。日本語との対照言語学的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書くの4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力を養成する。真摯にして明るく楽しい授業を目指す。

【授業概要】文字と発音の基礎に続き、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用を基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。

【キーワード】韓国語、コリア語、朝鮮語

【履修上の注意】 初回の授業は極めて重要である。第一回目の授業には必ず出席すること。毎回の授業が楽しみになるように、ことばを楽しく学びたい、そしてことばを身につける喜びを味わいたい。

【到達目標】 文字と発音の基礎を獲得し、簡単なあいさつや自己紹介の表現を習得する

【授業計画】 1. 序章:韓国語とはどんなことば? 2. 1課:単母音 3. 1課:半母音と二重母音、歌で発音を学ぶ 4. 2課:初声の子音 1 5. 2課:初声の子音 2 歌で発音を学ぶ 6. 3課:終声の子音 1 7. 3課:終声の子音 2 歌で発音を学ぶ 8. 4課:〈こんにちは〉さようなら、あいさつことば 9. 5課:〈韓国の方でいらっしゃいますか〉尋ねる、はい、いいえ、応答する 10. ドラマで学ぶ 11. 6課:〈私はキム・ソグと申します〉自己紹介をする。名前をハングルで書く 12. 7課:〈あ、大学はどちらでいらっしゃいますか〉あいづちを打つ、聞き返す 13. 9課:〈今日は私の誕生日ではありませんよ〉否定する 14. 10課:用言の活用 15. テスト 16. 映画で学ぶ

【成績評価】 授業への参加度、日常の学習態度、小テスト、試験成績により総合的に評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 野間秀樹・村田寛・金珍娥 共著『Campus Corean はばたけ! 韓国語』(朝日出版社)

【参考書】 野間秀樹・村田寛・金珍娥 共著『ぶち韓国語』(朝日出版社)、野間秀樹 著『暮らしの単語集 韓国語』(ナツメ社)、菅野裕臣他著『コスモス朝和辞典』(白水社)、油谷幸利他編『朝鮮語辞典』(小学館)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219304>

【連絡先】

⇒ 野間

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 通年授業

朝鮮語

2 単位 2 年 (後期, 集中)

野間 秀樹・非常勤講師, 東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】 韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語を知るものこそが味わえる。日本語との対照言語学的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書くの 4 技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力を養成する。真摯にして明るく楽しい授業を目指す。

【授業概要】 文字と発音の基礎に続き、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文法を学ぶ。

【到達目標】 文字と発音の基礎を獲得し、簡単なあいさつや自己紹介の表現を習得する

【授業計画】 1. 文字と発音の復習。歌で学ぶ 2. あいさつ表現、尋ねる表現、自己紹介の表現、否定の表現の復習 3. 用言の活用の復習。歌で学ぶ 4. 11 課:〈明日の午後、時間ありますか〉約束する 5. 11 課:〈明日の午後、時間ありますか〉確認する。同意を求める 6. 歌で学ぶ 7. 12 課:〈授業に出られず、申し訳ございません〉E-mail の書き方 8. 12 課:〈授業に出られず、申し訳ございません〉お詫言をする 9. 13 課:〈留学生のパーティーに先生もいらっしゃいますか〉尊敬表現を用いる 10. 13 課:〈留学生のパーティーに先生もいらっしゃいますか〉尊敬表現を用いる 11. 映画で学ぶ 12. 14 課:〈海辺のカフェで夕食でも食べましょうか〉勧誘する 13. 14 課:〈海辺のカフェで夕食でも食べましょうか〉接続形を用いる 14. 15 課:〈週末の韓国語の勉強、いかがでしたか〉過去を述べる 15. テスト 16. ドラマで学ぶ

【成績評価】 授業への参加度、日常の学習態度、小テスト、試験成績により総合的に評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 野間秀樹・村田寛・金珍娥 共著『Campus Corean はばたけ! 韓国語』(朝日出版社)

【参考書】 野間秀樹・村田寛・金珍娥 共著『ぶち韓国語』(朝日出版社)、野間秀樹 著『暮らしの単語集 韓国語』(ナツメ社)、菅野裕臣他著『コスモス朝和辞典』(白水社)、油谷幸利他編『朝鮮語辞典』(小学館)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218869>

【連絡先】

⇒ 野間

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

中国語 II

2 単位 2 年 (前期)

邵 迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 中国語 (I) で学んだ文法の基礎の上に立って、名文に触れ、ことばの感性を育てながら、語彙を増やし、表現を豊かにします。中国語力を高めることを目指します。

【授業概要】 名作を読解します。朗読、翻訳をした後、言い回しや文型を用いて作文の練習をします。後期はピンインなしのエッセイや小説にチャレンジします。

【履修上の注意】 授業時間の二倍を使って、予習、復習をしましょう。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。

【到達目標】 確実に中国語の実力を身につけ、実用レベルに到達します。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 1 第一課「打電話」を朗読、翻訳 3. 作文練習 4. 第二課「弯弯的月亮」を朗読、翻訳 5. 作文練習 6. 6~ 14 以上のステップで次の文章を読む 7. 15 期末試験 (『人民日报』のコラムを翻訳する、辞書持込可)、8. 16 総括講評 9. 総括講評。なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【成績評価】 平常点及び期末試験により総合的に評価する。

【教科書】 渡辺晴夫・大川完三郎編『心あたたまる短い小説 10 選』(同学社, 2006)2,300 円、辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218867>

【連絡先】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

中国語 I

2 単位 2 年 (後期)

葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 中国語 I(前期) で身につけた中国語の能力に更に磨きをかけ、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業概要】 前期に引き続き、教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。後期はインターネット等で探した、最新の中国についての記事を扱う。そのために必要な中国語サイトの閲覧方法、中国語ワープロの使い方などの知識も身につけてもらう。

【キーワード】 中国語

【履修上の注意】 共通教育で中国語入門・初級 4 単位を履修済み、あるいはそれに相当する語学力 (HSK3 級、中国語検定 4 級以上相当) を有していることが絶対条件である。中国語未履修者に対しては受講資格試験を行い、不合格の場合は受講を許可しない。

【到達目標】 中国語の新聞やインターネットの記事が速読できること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業計画】 1. 前期の復習-中国語の文法と表現 2. 日常生活で聞く中国語 3. 中国語のテレビ番組を見てみよう (リスニング練習) 4. 中国語のホームページの閲覧方法 5. インターネットの記事を読む (1-a) 6. インターネットの記事を読む (1-b) 7. 中国語の文法と表現 (2) 8. 中国語ワープロを打ってみよう (1) 9. 中国語ワープロを打ってみよう (1) 10. 中国語ワープロを打ってみよう (2) 11. インターネットの記事を読む (2) 12. インターネットの記事を読む (3) 13. インターネットの記事を読む (4) 14. 中国語 II の総復習 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う

【再試験】 基本的に再試験はしない

【教科書】 教材はプリントで配付する

【参考書】 1 年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218864>

【連絡先】

⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:30~ 17:30)

中国語 I

2 単位 2 年 (前期)

葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 全学共通教育中国語初級で身につけた中国語の能力を高め、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業概要】 この授業では教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。前期は市販の教科書を使って、最新の中国についての記事を扱う。また、記事に関係して、中国の放送番組によるビデオ教材も用い、聞き取りの力も養成する。

【キーワード】 中国語, 時事問題, 現代中国

【先行科目】 『中国語/中国語入門』(1.0), 『中国語/中国語初級』(1.0)

【履修上の注意】 共通教育で中国語入門・初級または中国語 4 単位を履修済み、あるいはそれに相当する中国語能力を有していることが絶対条件である。中国語未履修者に対しては受講資格確認のため試験を行い、不合格の場合は受講資格を与えない。

【到達目標】中国語の新聞やインターネットの記事が辞書を引いて読めること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業計画】1. 中国語入門・初級の復習-表現・単語- 2. 中国語入門・初級の復習-文法 3. 時事中国語を読むための基礎 4. 上海万博 5. 中国でのショッピング 6. 中国における端午の節句 7. 中国の出稼ぎ労働者 8. 中国語表現の復習 9. 辛亥革命から1世紀 10. 中国のウエディングドレス 11. 中国のサッカー事情 12. 中国では今 13. 中国のネットをのぞいてみる 14. 文法の復習 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う。

【再試験】原則無し。ただし受講状況に応じて再試験を行うこともある。

【教科書】『セレクト8 時事中国語2011』(朝日出版社 1600円+税)

【参考書】1年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218866>

【連絡先】
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:30~17:30)

記・手紙・スピーチ原稿などの複雑な文章への作文練習を行う。 3. 作文練習に出てきた間違いなどを誤用例にして説明する。

【成績評価】作文・期末試験・授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【教科書】
◇ 講義開始時までに通知するので注意すること。その他に適宜プリントを配布する。
◇ 日中辞典は講談社か小学館, 中日辞典は講談社, 小学館, 白水社, 東方書店などがある。中国語担当教員に聞くこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219091>

【連絡先】
⇒ 李
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

中国語中級 II 4 単位 3 年 (前期, 後期) 李国勝・客員教授, 邵迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】中国語 I(前期) で身につけた中国語の能力に更に磨きをかけ、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業概要】前期に引き続き、教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。後期はインターネット等で探した、最新の中国についての記事を扱う。そのために必要な中国語サイトの閲覧方法、中国語ワープロの使い方などの知識も身につけてもらう。

【キーワード】中国語, 現代中国, 情報処理

【先行科目】『中国語/中国語初級』(1.0), 『中国語 I』(1.0, ⇒15 頁), 『中国語 II』(1.0, ⇒16 頁)

【履修上の注意】共通教育で中国語入門・初級 4 単位を履修済み、あるいはそれに相当する語学力 (HSK3 級, 中国語検定 4 級以上相当) を有していることが絶対条件である。中国語未履修者に対しては受講資格試験を行い、不合格の場合は受講を許可しない。

【到達目標】中国語の新聞やインターネットの記事が速読できること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業計画】1. 前期の復習-中国語の文法と表現 2. 日常生活で聞く中国語 3. 中国語のテレビ番組を見てみよう (リスニング練習) 4. 中国語のホームページの閲覧方法 5. インターネットの記事を読む (1-a) 6. インターネットの記事を読む (1-b) 7. 中国語の文法と表現 (2) 8. 中国語ワープロを打ってみよう (1) 9. 中国語ワープロを打ってみよう (2) 10. 中国語ワープロを打ってみよう (3) 11. インターネットの記事を読む (2) 12. インターネットの記事を読む (3) 13. インターネットの記事を読む (4) 14. 中国語 II の総復習 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う

【再試験】基本的に再試験はしない

【教科書】教材はプリントで配付する

【参考書】1年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218865>

【連絡先】
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

【授業目的】これまでに養った中国語能力、特に会話能力をさらに高いレベルへと引き上げます。中国語の講読については他にも授業がありますので、この授業では会話を中心とします。ネイティブの講師により、より生の中国語を勉強しましょう。

【授業概要】中国語会話。各課はテーマを設定し、その会話の場面に応じた語彙・文法表現などを導入した上で、ペアを組ませて会話練習を行う。「聞く」「話す」というコミュニケーションの能力をバランスよく習得し、受講者の学習パートナーシップと授業参加に対する積極性を十分に生かせるようにする。

【履修上の注意】全学共通中国語を履修済みであること。中国語を母語とする者の履修は認めません。失敗を恐れず、間違いを繰り返しながら中国語の能力を高めてくれることを期待します。

【到達目標】中国人と中国語で話すことに対する恐怖心を拭い去る。場面にふさわしい会話表現を習得する。

【授業計画】1. 毎回テーマを決めて、まず討論を行い、ポイント表現を習得させる。 2. 指定のテーマをめぐって、指定組に中国語で会話発表をしてもらう。その場合には予め原稿を先生に提出する必要がある。 3. 発表組の会話表現をめぐって再び討論を行い、うまく言えなかった言語表現を導入する。

【成績評価】平常点・小テスト・期末テストの合計によります。

【教科書】
◇ 必要に応じてプリントを配布する。
◇ 日中辞典は講談社か小学館, 中日辞典は講談社, 小学館, 白水社, 東方書店などがある。中国語担当教員に聞くこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219092>

【連絡先】
⇒ 李
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本語基礎研究 I (前期) 2 単位 2 年 (前期) 岸江信介・教授/社会創生学科

【授業目的】これまでに学習した語彙、文法知識を定着させると共に、さらに様々な場面に応じた表現を学習する。それらを活用して書くことを通じて、適切な表現で正確に記述する能力を身につける。

【授業概要】中国語作文実践。模範をめぐって文の綴り方や文章の構成を説明したり、間違いやすい所を指摘したりして、受講者の参考になるよう簡単な実用な書き方を紹介する。それを踏まえて受講者は日常生活に使えるオリジナルな文章を書く。

【履修上の注意】全学共通中国語を履修済みであること。中国語を母語とする者の履修は認めない。遅刻早退は極力避けること。毎回辞書を持参すること。

【到達目標】日常生活で身近な事柄を中国語で正しく記述できるようになる。

【授業計画】1. 模範文の読解を通じて、基本的かつ重要な文法事項を復習し、中国語の文章構成法を習得する。 2. 各テーマについて中国語の模範文を参考にして、作文を書く。メモ・伝言という短い文から日

【授業目的】この授業では、日本語の敬語や配慮表現を中心に講義する。敬語一般の基礎的な知識を身につけること、敬語や配慮表現について取り上げ、実際に敬語研究に触れ、日本語の敬語について理解することを目標とする。これまで敬語、配慮表現に関連する日本語学各方面で得られた研究成果を概観的に学習する。科学的視点での、ものの見方、とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。

【授業概要】日本語学・社会言語学・日本語教育等で基礎となる学習を行う。この授業では主に敬語をはじめ、ポライトネス、配慮表現などを中心的に取り上げ、社会言語学的視点から対人コミュニケーションとは何かについて学ぶ。配慮表現に関するデータを統計的に処理する方法を身につけ、言語分析の方法について学ぶ。

【履修上の注意】授業は、講義形式を原則とするが、一部、調査の関係でゼミ形式をとる場合もある。受講生各人が授業で扱ういろいろなテーマの中から一つ興味を持ち、レポートを完成させる。毎時、簡単な小テストを行うこともある。

【到達目標】日本語を科学的な視野からとらえ、日本語学の基礎を理解する。

【授業計画】1. (1) 日本語の敬語の特色 2. (2) 日本の社会言語学とは 3. (3) 属性にもとづく言語バリエーション-地域差・世代差・性差- 4. (4) 敬語行動とは何か 5. (5) ポライトネスと配慮表現 (1) 6. (6) ポライトネスと配慮表現 (2) 7. (7) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(1) 8. (8) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(2) 9. (9) 自由回答をどう分析するか 10. (10) テキストマイニングによる分析手法を学ぶ 11. (11) ソフトを利用した分析 12. (12) アンケート調査の実施 13. (13) アンケート調査のデータ集計-受講生が分担して行う- 14. (14) アンケートデータの分析と解説 15. (15) レポートの準備のため文献資料の解説 16. (16) 総括授業

【成績評価】評価は、レポート、小テスト、フィールド調査への参加を目安とする。

【再試験】無

【教科書】

- ◇教材:授業でプリントを配布する。
- ◇参考書:各分野に必要な論文・図書を紹介する。

【参考書】国立国語研究所編 (2006) 『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218915>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館3階(2307) 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】◇ICレコーダー等の音声機器の使い方、データ分析の方法の説明を行う。◇データ分析を行う際にノートパソコンやICレコーダーの貸し出しを行うこともある。

日本語基礎研究 I (後期)

2 単位 2 年 (後期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業では、日本語学概論の音声・音韻・アクセントについての講義をする。音声学に関する基礎的な知識を身につけること、日本語学各分野への興味づけを行うことを目的にする。音声を科学的に追究するという姿勢を学び、音声学の研究成果を概説的に学習する。科学的視点での、もの見方、とらえ方などを音声科学の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。なお、全国諸方言の音声・アクセント調査をフィールドワークとして実施し、各自が資料収集にあたり、分析を行う。

【授業概要】国語学・日本語学・日本語教育等で基礎となる学習を行うが、ここでは主に日本語の音声・アクセントなどを幅広く取り上げ、概説的な授業のあと、音声・アクセントの資料を集め、分析を行う。

【履修上の注意】授業は、講義形式を原則とするが、受講生各人が興味を持つ分野について、レポートを提出する。学期末毎にテストを行うこともある。

【到達目標】日本語を科学的な視野からとらえ、日本語学の基礎を理解する。

【授業計画】1. (1) 音声研究入門 2. (2) 音声とは? 3. (3) 聴音音声学と音響音声学 4. (4) 音声器官と発声の仕組み 5. (5) 母音と子音 6. (6) 拍と音節 7. (7) 日本語のポーズとイントネーション 8. (8) 日本語のアクセント 9. (9) 音声の対照研究 10. (10) 日本語の方言音声 1 11. (11) 日本語の方言音声 2 12. (12) 日本語音声の音響分析 -母音編- 13. (13) 日本語音声の音響分析-子音編- 14. (14) 全国諸方言音声・アクセント世代調査票の説明 15. (15) 全国諸方言音声・アクセント世代調査の実施 16. 総括授業

【成績評価】評価は、レポート、小テスト、音声調査の参加を目安とする。

【再試験】無

【教科書】

- ◇教科書:特に指定しない
- ◇教材:授業でプリントを配布することがある。
- ◇参考書:各分野に必要な論文・図書を紹介する。

【参考書】今石元久編『音声研究入門』和泉書院

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218916>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館3階(2307) 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】◇音声データの分析方法についての学習も行う。◇ノートパソコン、ICレコーダーを貸し出すこともある。

日本語基礎研究 II (前期)

2 単位 2 年 (前期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】日本語はどのような歴史をたどってきたか。前期は、日本語の音韻(発音の変化など)を中心に、言語変化の原理を理解できるようにする。

【授業概要】日本語の歴史通覧(23年度前期は開講しません。後期月曜5・6校時で受講してください)

【キーワード】音韻史、上代特殊仮名遣、ヤ行のイエ、撥音、促音、オ段長音、連声、四つ仮名

【到達目標】日本語の歴史を音韻の面から学び、発音の変化はなぜ起こるのか、また、それが他の要素にどのように影響するかを考える。

【授業計画】1. 音韻とは何か、および、国語史の時代区分について。 2. 奈良時代1(なぜ、8母音だったと考えられるのか。) 3. 奈良時代2(母音体系と文法体系の関係) 4. 平安時代1(ア行のエのヤ行のイエへの統合) 5. 平安時代2(母音の減少がもたらしたもの) 6. 平安時代3(ハ行子音の発音の変遷が意味するもの) 7. 平安時代4(音韻とし

ての撥音「ン」と促音「ッ」の成立) 8. 鎌倉室町時代1(ワ行「キ」「エ」の消滅と合拗音) 9. 鎌倉室町時代2(オ段長音の変遷、開音合音の発生から開合の区別消滅まで) 10. 鎌倉室町時代3(キリシタン資料から分かる室町時代の音韻体系) 11. 鎌倉室町時代4(音便、連濁、連声) 12. 江戸時代以降1(四つ仮名〔ジヂズヅ〕の混同) 13. 江戸時代以降3(江戸語・東京語の音韻) 14. アクセントの歴史 15. 試験 16. 補足とまとめ

【成績評価】各時代を特徴づける語彙について基本的なことから理解できているかどうかについて、小テストなどで、40%、期末試験を60%の割合で評価する予定。

【再試験】あり

【教科書】

- ◇沖森卓也編『日本語史』(おうふう)1900円を予定。
- ◇参考書 平凡社ライブラリー『日本語の歴史』1~7ほか

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218917>

【連絡先】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~17時30分 その他随時、)

日本語基礎研究 II (後期)

2 単位 2 年 (後期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】「方言」について正しい認識を持つ。また、言葉を体系の中で考えることの必要を理解する。

【授業概要】徳島県の方言(俚言)を手がかりとして、言葉の歴史や体系を考える。

【到達目標】

1. 方言について、正確な知識を獲得する。
2. 言葉の由来、あるいは語源について正しい考え方を理解する。
3. 言葉を単独で考えず、つねに体系の中で考える習慣を身につける。
4. 言葉や言語資料の背景となるものを意識して、言葉を考える習慣を身につける。
5. 「方言」が特定の地域に孤立して存在するものでないことを理解する。

【授業計画】1. 授業の進め方についての説明。この授業で使う「方言」の意味は何か。徳島の方言概説(その1) 2. 徳島の方言概説(その2) 3. 「せこい」という言葉。(語源の考え方 その1なぜ徳島だけ意味が異なるのか) 4. ウンカゴブジ(溫和御無事)(語源の考え方その2方言の中の漢語語彙) 5. 気象と言葉(雨や風の名前 ベックノジャラセ・ナガセ・サダチ・サオカタギ等) 6. 身体部位をあらわす言葉(ヤネとはどこを指す? 意味のずれの発生など) 7. オビユからオプケル(驚く)の変化をどう説明するか。 8. 子どもの世界と言葉(カマキリ・メダカ・じゃんけん等、多彩な語形が失われたわけ) 9. 木屋平の方言(個人のメモから分かること。新居熊太氏のメモから) 10. 相生の方言(個人のメモから分かること。方言資料の残し方。) 11. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 12. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 13. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 14. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 15. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 16. 補足とまとめ(内容未定)

【成績評価】出席、授業に対する積極性(質問、意見など)とレポートを総合して評価する。レポートに大きい比重を置く。

【再試験】再レポート

【教科書】『徳島県のことば』(明治書院)を予定。

【参考書】授業の中で随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218918>

【連絡先】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~17時30分 その他随時、)

日本文学基礎研究 I

4 単位 2 年 (通年)、3 年 (通年)
原水 民樹・教授/人間文化学科

【授業目的】日本文学のジャンルのひとつである軍記文学の中から、前期軍記の主要作品の内容や特質を知るとともに、その変遷のさまを文学史の立場から理解する。

【授業概要】平安時代から室町時代に至る間の主要な軍記文学作品について、作品の一部を講読するとともに、作者・成立の問題・文学性などの面から講義を行い、各作品の特質を明らかにしつつ、文学史の立場からその変遷の様を解説する。

【キーワード】文学史、軍記文学、日本の中世、古人の思考

【関連科目】『日本史基礎研究 II』(0.5、⇒22頁)、『日本文学基礎研究 II』(0.5)

【到達目標】

1. 中世軍記文学史を知る
2. 軍記文学の特質を知る

【授業計画】1. 講義予定の説明と軍記文学解説 2. 『将門記』の解説と本文の部分講読 3. 『陸奥話記』『奥州後三年記』の解説と本文の部分講読 4. 『保元物語』の解説と本文の部分講読 5. 『平治物語』の解説と本文の部分講読 6. 『平家物語』(1) 成立について 7. 『平家物語』(2) その文学世界について 8. 『平家物語』(3) 本文の部分講読 9. 『承久記』の解説と本文の部分講読 10. 『太平記』(1) 成立について 11. 『太平記』(2) その文学世界について 12. 『太平記』(3) 本文の部分講読 13. 『義経記』の解説と本文の部分講読 14. 『曾我物語』の解説と本文の部分講読 15. まとめ 16. レポート提出

【成績評価】 期末のレポートと各時間における受講姿勢を総合して判定する。

【再試験】 行わない

【教科書】 毎回、資料を配付する

【参考書】

- ◇ 軍記文学研究叢書 (全 12 巻) 汲古書院 1997~1999
- ◇ ()

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219290>

【連絡先】

⇒ 原水 (1号中棟1階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14時30分~15時30分)

【備考】 教員免許取得に文学史が必須であるため、この授業内容は2010年度と同内容とする。

日本文学基礎研究 II

4 単位 2 年 (通年), 3 年 (通年)
堤 和博・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日本文学のうち、平安時代の文学作品を読解する際、また、資料として扱う際の方法及び留意点を、『紫式部日記』を主たる具体例として取り上げて講義する。他の作品にもなるべく多く言及する予定である。平安時代に限らず、古典の文学作品は、近現代の作品とはかなり違った性格を備えているので、留意する点も多種多様に亘る。それらをいくつかのテーマに分けて講じていく。また、平安時代の日本文化に触れるとすれば、当然文字で書かれたものを媒体とすることになる。そしてそれは、印刷技術が発達する近世までは、もっぱら写本ということになるのである。学生諸君が今まで接してきた古代の文学作品は、教科書にせよ注釈書にせよ、活字に直されたものであったはずである。それらのものは、その注釈書等を執筆した学者が各自の見識に基づき、写本(または、版本)をもとにして活字化したものなのである。本授業では、活字化されたものではなく、写本(または、版本)を資料として古代の文学作品を読解する力を養成することも目指す。よって、変体仮名を読む練習も含まれる。

【授業概要】 日本古典(特に平安時代)文学研究の基礎

【キーワード】 日本古典文学, 古代, 解釈, 紫式部, 紫式部日記

【関連科目】 『日本文学演習 II』(0.5, ⇒20 頁)

【履修上の注意】 この授業においては、多く変体仮名を読むことになる。変体仮名を読む練習は夏休み中に各自で行うこと。(練習するにあたっての留意事項等は、夏休み前に指示する)

【到達目標】 日本古典(特に平安時代)文学を研究する上での基礎的な知識・能力を得る。3, 4 年次に日本古典文学を専攻する予定のない学生については、日本古典文学を学ぶことによって、知的な能力の向上を目指す。

【授業計画】 1. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (1)-『枕草子』を中心に 2. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (2)-『土左日記』を中心に 3. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (3)-その他平安時代の主要な作品を中心に 4. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (4)-『紫式部日記』邦高親王本を中心に 5. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (5)-『紫式部日記』黒川本を中心に 6. 注釈書を参考にする場合の注意 (1)-『蜻蛉日記』下巻の一部読解 7. 注釈書を参考にする場合の注意 (2)-『蜻蛉日記』下巻諸注釈書の比較検討 8. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (1)-『竹取物語』を中心に 9. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (2)-『竹取物語』と『斑竹姑娘』の比較検討 10. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (3)-『紫式部日記』の構成 11. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (4)-『紫式部日記』の構成と成立 12. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (5)-『源氏物語』第一部の構成 13. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (6)-『源氏物語』第一部の構成と成立 14. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (7)-成立論の意義 15. レポートの書き方の注意事項 16. 変体仮名読解の注意事項 17. レポートの講評 18. レポートの書き換え 19. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (1)-全般的説明 20. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (2)-藤原清輔を例として 21. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (3)-紫式部の前半生 22. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (4)-紫式部の後半生 23. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (5)-『紫式部日記』を作家論観点から読む 日記体部分 24. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (6)-『紫式部日記』を作家論観点から読む 25. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (7)-『紫式部日記』を作家論観点から読む 書簡体部分 26. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (8)-『紫式部日記』を作家論観点から読む まとめ 27. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (9)-平安時代の和歌史 28. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (10)-和泉式部の和歌を例として 29. 解釈法-古典作品を解釈する基本的な方法へ向けて-黒川本『紫式部日記』の読解 30. 解釈法-古典作品を解釈する基本的な方法 (1)-言葉の帰納的解釈 31. 解釈法-古典作品を解釈する基本的な方法 (2)-用例の集め方 32. 解釈法-古典作品を解釈する基本的な方法 (3)-主として辞書を用いる際の注意事項

【成績評価】 毎度亘って課すレポート(期末に試験を行うこともある)

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 中野幸一編『紫式部日記・付紫式部集』(武蔵野書院)
- ◇ 秋山虔編『黒川本紫日記(上)』(笠間書院)
- ◇ 秋山虔編『黒川本紫日記(下)』(笠間書院)

【参考書】

- ◇ 『原典をめざして-古典文学のための書誌』(笠間書院)
- ◇ 『日本古典籍書誌学辞典』(岩波書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219291>

【連絡先】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 10時10分から11時55分)

日本文学基礎研究 III (前期)

2 単位
2 年 (前期, 集中), 3 年 (前期, 集中)
鳥羽 耕史・准教授/人間文化学科, 衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 1950 年代は、商業紙誌、サークル誌、映画、テレビ、演劇、絵画、紙芝居、幻灯など、様々なメディアで「記録」が展開された時代であった。ここでは、必ずしも「マス(大量の)」受け手に向けられたものではないが、「マス(大衆)」としての受け手を志向したメディアにおける「記録」を紹介しながら、その今日的意義を考えてみたい。

【授業概要】 プリントや映像を教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

【キーワード】 文学, 映画

【関連科目】 『日本文学演習 III』(1.0, ⇒21 頁)

【履修上の注意】 授業時に発言を求めるので、指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと。

【到達目標】 豊かな「記録」の遺産に触れ、客観的で中立なものという既成概念を超えた「記録」の可能性を理解できるようになる。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 1950 年代概論 3. サークル詩の「記録」 4. 生活記録運動と幻灯 5. 国民的歴史学運動と紙芝居 6. ルポルタージュの実験 7. ルポルタージュ絵画の展開 8. 岩波映画のドキュメンタリー 9. テレビドラマと「記録」(1) 10. テレビドラマと「記録」(2) 11. ダムをめぐる「記録」(1) 12. ダムをめぐる「記録」(2) 13. ダムをめぐる「記録」(3) 14. 基地をめぐる「記録」 15. まとめ 16. レポート

【成績評価】 出席確認を兼ねた毎回の小レポート、授業内での質疑応答(予習の確認)、授業内での議論への参加、期末レポートにより総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 特に指定しない。教材として映像やプリントを使用する。

【参考書】 鳥羽耕史『1950 年代「記録」の時代』(河出書房新社, 2010 年) など。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218935>

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。), toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間の直後)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学基礎研究 III (後期)

2 単位
2 年 (後期, 集中), 3 年 (後期, 集中)
鳥羽 耕史・准教授/人間文化学科, 衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 「近代文学の終り」(柄谷行人)が語られる中、「現代文学」が何であるのかは、文学観が問われる問題である。ここでは、「近代文学」の延長線上にある「現代文学」として考えられるのが、とりあえず「昭和」の文学であると仮定して、「昭和文学史」を再検討してみたい。授業の中では、それぞれの時代の文学をプリントで紹介しつつ、「文学史」の展開を考えていきたい。

【授業概要】 プリントを教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

【キーワード】文学

【先行科目】『日本文学基礎研究 III (前期)』(0.2, ⇒18頁)

【関連科目】『日本文学演習 III』(0.2, ⇒21頁), 『アジアの近代』(0.2, ⇒5頁)

【履修上の注意】授業時に発言を求めるので、指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと。

【到達目標】『昭和文学史』の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる。

【授業計画】1. ガイダンス:「昭和文学」と「現代文学」 2. 関東大震災と「昭和」のはじまり 3. モダニズム文学 4. プロレタリア文学 5. 転向文学と「文芸復興」 6. 戦時下の文学 (1) 7. 戦時下の文学 (2) 8. 戦後の文学 (1) 9. 戦後の文学 (2) 10. 戦後の文学 (3) 11. 高度成長期の文学 (1) 12. 高度成長期の文学 (2) 13. 高度成長期の文学 (3) 14. 1980年代の文学 15. 『昭和文学史』再考 16. レポート

【成績評価】出席確認を兼ねた毎回の小レポートと授業時の発言、期末レポートにより総合的に評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】特に指定しない。教材としてプリントを配布する。

【参考書】年表の会編『近代文学年表』(双文社出版, 2002年増補4版), 『新潮日本文学アルバム別巻 昭和文学アルバム1・2』(新潮社, 1986-87年)など。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218936>

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転中のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。), toba@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 授業時間の直後)

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史研究 I

2単位 2年(後期), 3年(後期)

桑原 恵・教授/人間文化学科

【授業目的】日本の古代から近代に至る歴史を概説的に講義する。日本史の通史的な流れを理解する。

【授業概要】古代から近代までの日本史について、トピック的に史料を提示して、社会の変化を理解し、史料にもとづいて歴史的事実を確認することについて考察する。四国や徳島の事例を取り入れることで、地域への理解を深めるように努める。

【キーワード】日本史, 通史

【関連科目】『日本史研究 II』(0.5, ⇒19頁)

【履修上の注意】史料を配布して、講義を進めるが、受講生の意見や質問も受けながら、講義を進めたい。積極的に講義に参加されることを期待する。

【到達目標】

1. 日本の通史を理解する。
2. 社会の変化がどのような要因でなされたかを理解する。

【授業計画】1. クニから国家へ(大王の国家) 2. 律令国家の成立 3. 平安朝の政治と宗教勢力 4. 荘園制の成立と展開 5. 武家政治の展開 6. 鎌倉新仏教の登場 7. 南北朝の内乱と室町幕府 8. 室町幕府の政治と外交 9. 一揆の展開 10. 自力の時代 11. 豊臣政権の成立 12. 江戸時幕府の確立と支配 13. 近世の都市と農村 14. 近世社会の変動と明治維新 15. 総括授業

【成績評価】出席状況に加えて、平常点としての小テストを2回程度行い、期末テストの成績を合わせて、総合的な評価を行う。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書や参考書は、特に指定しない。講義に使用するプリントは適宜配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219288>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールでの連絡があれば、時間調整します。 [megumi@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:megu mi@ias.tokushima-u.ac.jp))

日本史研究 II

2単位 2年(前期), 3年(前期)

衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】日本中世史における重要な問題点を取り上げ、歴史的な背景や意義を考察する。平安時代を中心に、政治・経済上の特質や、世俗社会が被った影響などについて理解した上で、平安時代の歴史的特質を把握することを目標とする。

【授業概要】平安時代の権力を構成した公家・武家・寺家、その支配をうけた民衆など、平安時代を生きた人々の具体的な動きや考え方について知り得る史料を読み、そこから平安時代史を具体的に復元する。

【キーワード】中世史, 平安京, 皇統, 祈り

【関連科目】『日本史基礎研究 II』(0.5, ⇒22頁)

【履修上の注意】史料にもとづいて講義する。わかりやすく解説するつもりであるが、各自でも予習・復習や質問等によって、その内容理解に努めてほしい。

【到達目標】中世における人々の考え方やその背景となる社会的土壌について、歴史的に考察できるようになること。

【授業計画】1. 夜の平安京―盗賊と武士 2. 肉と米―ケガレと禁忌 3. 様々な呪い―効果と対処法 4. 誓いを破ったら―神仏の罰 5. 人間を越える力―見えない恐怖 6. ぜいたくは敵か―過差の背景 7. 珍しい輸入品―対外貿易 8. 病氣とたたかう―病因と治療 9. 死んだらどうなるか―死体・墓・後生 10. 災害発生―被害と対応 11. うわさの話―情報の伝達 12. 宮中スキャンダル―人間関係と政治 13. 二人の秀才―信西と頼長 14. 合戦の実像―源平争乱と社会 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】古代・中世日本史上の諸問題を素材として、その特質を歴史的に考察し把握すると同時に、歴史学が考える学問であることを理解しているかどうかについて、期末テストおよび平常点(授業中に行うミニレポート等も含む)によって評価する。

【再試験】なし

【教科書】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219289>

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分~12時)

地誌学

2単位 2年(前期)

平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】伝統的生活空間である村落の成立は、土地開発の歴史と深く関連している。この授業では、日本および欧米等における土地開発の進展と村落の立地・特徴について代表的な事例を取り上げ、歴史地理学的・集落地理学的な視点から総観するものである。また、こうした事例を通じて、人間と自然との関わりや、東西文化の共通点や相違点についても論じていくことになる。

【授業概要】日本および欧米の村落

【キーワード】地理学, 地誌学, 村落

【履修上の注意】この授業科目は、教員免許取得(中学校・社会/高校・地歴)のための科目でもある。旧カリキュラムの「日本地誌」もしくは「欧米地誌 I」の、いずれか1科目への読み替えが可能である。本授業では随時、OHP やパワーポイントなどを使用するが、ノートの取り方は各自が工夫すること。

【到達目標】日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について、時間的・空間的な展開の中で理解するとともに、地域的な差異の特徴について把握できるようになること。

【授業計画】1. 村落の定義 2. 村落の立地環境 3. 村落の形態 4. 古代日本の土地開発と条里制 5. 古代日本の集落形態 6. 中世起源の環濠集落と豪族屋敷村 7. 散村地域の形成と展開 8. 近世日本の新田開発 9. 北海道の開発と殖民地区画 10. 古代中国 ローマにおける方格地割 11. ヨーロッパにおける集落形態 12. 耕区制と三圃式農業 13. 中世大開墾時代の開拓村 14. 囲い込み運動と散居農場 15. 北米フロンティアのタウンシップと散居農場 16. 授業のまとめ

【成績評価】本授業は講義形式で行うが、授業中に数回行う小テストや課題、授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と、期末試験(持ち込み不可)結果による評価を併用して行う。

【再試験】再試験はない。

【教科書】とくに教科書は使用せず、必要な資料は随時配布する。中学校もしくは高校で使用した地図帳を準備しておくことよい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219200>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館中棟1階 火・金曜日12:00~13:00)

【備考】平成 23 年度開講。隔年開講のため、平成 24 年度は開講しない。

日本語演習 I

2単位 3年(前期), 4年(前期)

岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】地域方言のフィールドワークを行い、得られたデータの分析を行う。

【授業概要】地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする。日本語方言の音韻・アクセント・文法・語彙などの特色を把握する。前期後半では、フィールド調査に関する調査票の作成、フィールド調査の方法等について学ぶ。夏期休業中期間等を利用して、フィールドワークを実施する予定である。現段階で調査地域は未定である。ちなみに、10年度は三重県志摩地方に3泊4日の調査に出かけた。調査地域は、受講生の意見を尊重して決める予定である。後期では、エクセル、音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ、受講生全体での共同作業として、調査票の整理、データ入力を行ったあと、各調査項目の分担

を決め、各自発表を行うことにする。また、年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である。

【履修上の注意】 夏休み(昨年度は9月下旬に実施)を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】 表計算及び統計ソフトを利用した言語変異の分析と方法の習得

【授業計画】 1. 方言調査とは? 2. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 1. 3. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 2. 4. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 3. 5. 各グループによる調査票の準備と検討 1. 6. 各グループによる調査票の準備と検討 2. 7. 各グループによる調査票の準備と検討 3. 8. グループ毎で調査項目の作成 1. 9. グループ毎で調査項目の作成 2. 10. グループ毎で調査項目の作成 3. 11. 各自(各グループ)による録音機器類の操作方法の習得。 12. 各グループ毎で話者を幹旋してもらったため、調査地へ連絡をとる。 13. 調査票全体の作成 1. 14. 調査票全体の作成 2. 15. 調査票全体の印刷。 16. 調査のしおりの作成と調査の実施。

【成績評価】 成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること、調査への参加は出席点に加える。

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 教科書:特に指定しない。
- ◇ 教材:授業でプリントを配布する。
- ◇ 参考書:西日本諸方言に関する必要な論文、データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219295>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館1階南棟656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。

日本語演習 I

2単位 3年(後期), 4年(後期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】 日本の一地域においてフィールドワークを行い、調査によって得られたデータの処理の方法として、「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ。

【授業概要】 後期では、エクセル、音声ソフトなどのソフトの操作法を学習しつつ、受講生全体での共同作業として、調査票の整理、データ入力を行ったあと、各調査項目の分担を決め、データの分析を通じて、各自発表を行うことにする。また、年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である。

【履修上の注意】 夏休み(昨年度は9月下旬に実施)を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】 野外での方言調査を通じて、生きた方言に触れる

【授業計画】 1. 臨地方言調査の総括と反省 2. データ整理 1. 3. データ整理 2. 4. データ整理 3. 5. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 1. 6. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 2. 7. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 3. 8. 発表の分担の打ち合わせ 1. 9. 発表の分担の打ち合わせ 2. 10. 各自(各グループ)による研究発表 1 11. 各自(各グループ)による研究発表 2 12. 各自(各グループ)による研究発表 3 13. 各自(各グループ)による研究発表 4 14. 各自(各グループ)による研究発表 5 15. 全体的にデータを見渡し、特徴的な結果について整理する。 16. レポート等、報告書の作成。

【成績評価】 成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること、調査への参加は出席点に加える。

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 教科書:特に指定しない。
- ◇ 教材:授業でプリントを配布する。
- ◇ 参考書:日本の諸方言に関する必要な論文、エクセル操作マニュアル等を授業で紹介したい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218910>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館1階南棟 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。

日本文学演習 I

4単位 3年(通年), 4年(通年)
原水 民樹・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本一地域においてフィールドワークを行い、調査によって得られたデータの処理の方法として、「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ。

【授業概要】 後期では、エクセル、音声ソフトなどのソフトの操作法を学習しつつ、受講生全体での共同作業として、調査票の整理、データ入力を行ったあと、各調査項目の分担を決め、データの分析を通じて、各自発表を行うことにする。また、年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である。

【履修上の注意】 夏休み(昨年度は9月下旬に実施)を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】 野外での方言調査を通じて、生きた方言に触れる

【授業計画】 1. 臨地方言調査の総括と反省 2. データ整理 1. 3. データ整理 2. 4. データ整理 3. 5. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 1. 6. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 2. 7. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 3. 8. 発表の分担の打ち合わせ 1. 9. 発表の分担の打ち合わせ 2. 10. 各自(各グループ)による研究発表 1 11. 各自(各グループ)による研究発表 2 12. 各自(各グループ)による研究発表 3 13. 各自(各グループ)による研究発表 4 14. 各自(各グループ)による研究発表 5 15. 全体的にデータを見渡し、特徴的な結果について整理する。 16. レポート等、報告書の作成。

【成績評価】 成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること、調査への参加は出席点に加える。

【再試験】 無

【教科書】

◇ 教科書:特に指定しない。

◇ 教材:授業でプリントを配布する。

◇ 参考書:日本の諸方言に関する必要な論文、エクセル操作マニュアル等を授業で紹介したい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218910>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館1階南棟 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。

【授業目的】 中世期、多くの年代記が作られた。年代記とは、現在でいえば、歴史年表のようなものである。これらは、一見事柄の無味乾燥な羅列のようだが、文学作品と密接にかかわっている。当該授業では、年代記の一つである神皇正統録を対象とし、典拠の問題・固有性など多方面から検討を加える。

【授業概要】 該授業においては、注釈作業を基盤とし、各話の分析を行う。授業は演習形式で、時間ごとに担当となった受講生が事前に資料を作成し、それに基づいて発表し、全員で討議する形で進める。

【キーワード】 年代記、神皇正統録、歴史と文学、伝承

【先行科目】 『日本語基礎研究 II』(1.0), 『日本文学基礎研究 II』(1.0, ⇒18頁), 『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒22頁)

【関連科目】 『日本史演習 II』(0.5), 『日本語演習 II』(0.5), 『日本文学演習 II』(0.5)

【履修上の注意】 注釈書はないので、辞書類その他多くの史資料を幅広く調査することが要求される。演習を担当する学生は資料を作成して授業に臨まなければならない。具体的な方法については、最初の教時間を用いて説明する。

【到達目標】

1. 古代人の歴史認識に対する理解を得る。
2. 歴史と文学の境界あるいは関わりの問題を考える契機とする。

【授業計画】 1. 年代記および神皇正統録についての解説 2. 平城・嵯峨天皇時代の記事についての検討 3. 淳和・仁明天皇時代の記事についての検討 4. 文徳・清和天皇時代の記事についての検討 5. 陽成・光孝天皇時代の記事についての検討 6. 宇多・醍醐天皇時代の記事についての検討 7. 朱雀・村上天皇時代の記事についての検討 8. 冷泉・円融天皇時代の記事についての検討 9. 花山・一条天皇時代の記事についての検討 10. 三条・後一条天皇時代の記事についての検討 11. 後朱雀・後冷泉天皇時代の記事についての検討 12. 後三条・白河天皇時代の記事についての検討 13. 堀河・鳥羽天皇時代の記事についての検討 14. 崇徳・近衛天皇時代の記事についての検討 15. まとめ 16. レポート

【成績評価】 演習形式の授業を根幹とし、それらについての評価(50%)及び期末のレポートに受講姿勢(50%)を勘案して行う。

【再試験】 行わない

【教科書】 当方でプリントを用意する。

【参考書】 当方で用意する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219294>

【連絡先】

⇒ 原水 (1号中棟1階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14時30分~15時30分)

日本文学演習 II

4単位 3年(通年), 4年(通年)
堤 和博・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日本古典文学作品の解釈力の養成

【授業概要】 日本文学の表現論のうちから、古代の引歌表現を取り上げて解釈力を養うことを目的とする。引歌表現とは、古歌の一部を引用し、引用しなかった部分をきかせる、というような表現技巧を普通指す。しかし、その有様は一様ではなく、今述べた定義ではとうてい取まりきれないものも多い。様々な引歌表現を取り上げ、その特徴を浮き彫りにしながら解釈していく。なお、前期においては、引歌表現に入る前に、古典を解釈するための基本的な知識・方法について演習する。具体的には、当時の資料及び現在の辞書・注釈書・索引類等を参考にしながら解釈していく方法を身につけるようになる。ところで、演習は、担当者が充実した内容の調査・考察を行うことを目指すのは勿論のこと、それを他の受講者に分かり易く説明するところまでが目標となる。したがって、レジュメの作り方・発表の仕方などについても、担当者個々の創意工夫と努力を求める。

【キーワード】 日本古代文学、引歌表現、解釈

【先行科目】 『日本文学基礎研究 II』(1.0, ⇒18頁)

【履修上の注意】 単に注釈書を読み、辞書を引くだけの解釈をするのではない。また、第1回目を除く各回担当者は、前回担当者よりもレベルの高い発表を目指すこと。受講者の人数・希望(卒業研究の予定テーマ)等を勘案し、上記内容等に変更を生じる場合もある。ただその場合も、古典文学の解釈力を養うという目的に変更はない。

【到達目標】 引歌表現の解釈力を付ける

【授業計画】 1. 古典解釈法の基本 1—辞書の使い方— 2. 古典解釈法の基本 2—用例の集め方— 3. 古典解釈法の基本 3—帰納的解釈法— 4. 担当者発表 1—『土左日記』— 5. 担当者発表 2—『伊勢物語』— 6. 担当者発表 3—『大和物語』— 7. 担当者発表 4—『平中物語』— 8. 担当者発表 5—『蜻蛉日記』上巻— 9. 担当者発表 6—『蜻蛉日記』中巻— 10. 担当者発表 7—『蜻蛉日記』下巻— 11. 担当者発表 8—『源氏物語』第一部— 12. 担当者発表 9—『源氏物語』第二部— 13. 担当者発表 10—『源氏物語』第三部— 14. 担当者発表 11—『狭衣物語』前半— 15. 担当者発表 12—『狭衣物語』後半— 16. レポートに関する注意 17. 引歌表現解釈法の基本 1—『土左日記』— 18. 引歌表現解釈法の基本 2—『蜻蛉日記』— 19. 引歌表現解釈法の基本 3—『源氏物語』— 20. 担当者発表 13—担当者 13 が自ら探

し出してきた引歌表現—以下は、取り上げるべき箇所を受講者が中古文学の主要な作品中から見つけ出すところから課題とする。従って、以下何を取り上げるかは受講者の判断によるので、ここでそれを具体的に示すことは出来ない。 21. 担当者発表 14—担当者 14 が自ら探し出してきた引歌表現— 22. 担当者発表 15—担当者 15 が自ら探し出してきた引歌表現— 23. 担当者発表 16—担当者 16 が自ら探し出してきた引歌表現— 24. 担当者発表 17—担当者 17 が自ら探し出してきた引歌表現— 25. 担当者発表 18—担当者 18 が自ら探し出してきた引歌表現— 26. 担当者発表 19—担当者 19 が自ら探し出してきた引歌表現— 27. 担当者発表 20—担当者 20 が自ら探し出してきた引歌表現— 28. 担当者発表 21—担当者 21 が自ら探し出してきた引歌表現— 29. 担当者発表 22—担当者 22 が自ら探し出してきた引歌表現— 30. 担当者発表 23—担当者 23 が自ら探し出してきた引歌表現— 31. 担当者発表 24—担当者 24 が自ら探し出してきた引歌表現— 32. 担当者発表 25—担当者 25 が自ら探し出してきた引歌表現—

【成績評価】 発表の出来映え、及び、レポート

【再試験】 無

【教科書】 なし

【参考書】

- ◇ 『角川古語大辞典』(角川書店)
- ◇ 『日本国語大辞典』、『同』第二版(小学館)
- ◇ 小学館『古語大辞典』
- ◇ 角川書店『新編国歌大観』

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219292>

【連絡先】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 10時10分から11時55分)

日本文学演習 III

4 単位 3 年(通年), 4 年(通年)

野口 哲也・/鳴門教育大学, 衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 映画や小説を読み解く作業を通じ、応用可能な文化研究および近代文学研究の基礎を身につけてもらうことを目的とする。

【授業概要】 夢や異界・非日常に関わる近現代の文学作品をとりあげ、それらを原作とした映画とも比較しながら分析・考察を加える。毎回担当者を決めて研究発表を行い、それに基づいて全員で討議を行う。

【キーワード】 文学

【先行科目】 『日本文学基礎研究 III (前期)』(0.1, ⇒18 頁)

【関連科目】 『日本文学基礎研究 III (後期)』(0.0, ⇒18 頁)

【履修上の注意】 発表者以外もあらかじめ各作品を熟読して臨み、活発な議論の場を作るよう心がけること。取り上げる作品や発表担当の回数については、受講者の人数や関心の所在を確かめたうえで調整することがある。

【到達目標】

1. 文化研究、近代文学研究の基礎を身につける。
2. 映画や文学についての知識を深める。

【授業計画】 1. 映画と文学についてのガイダンスと担当者決定。以下の作品について担当者を決めて発表してもらう。テキストは変更もあり得る。 2. テーマ設定、調査方法、発表方法概論 3. 図書館の使い方 4. 文献資料探索実習 4. 森鷗外「舞姫」 5. 森鷗外「山椒大夫」 6. 夏目漱石「夢十夜」 7. 夏目漱石「こころ」 8. 泉鏡花「外科室」 9. 泉鏡花「草迷宮」 10. 谷崎潤一郎「刺青」 11. 谷崎潤一郎「春琴抄」 12. 室生犀星「あにいもうと」 13. 室生犀星「蜜のあはれ」 14. 内田百閒「東京日記」 15. 内田百閒「サラサテの盤」 16. 芥川龍之介「南京の基督」 17. 芥川龍之介「藪の中」 18. 江戸川乱歩「押絵と旅する男」 19. 宮沢賢治「風の又三郎」 20. 川端康成「狂った一頁」 21. 川端康成「眠れる美女」 22. 坂口安吾「白痴」 23. 坂口安吾「桜の森の満開の下」 24. 福永武彦「廃市」 25. 安部公房「砂の女」 26. 安部公房「他人の顔」 27. 三島由紀夫「金閣寺」 28. 三島由紀夫「憂国」 29. 大江健三郎「飼育」 30. 村上春樹「風の歌を聴け」 31. 村上春樹「ノルウェイの森」 32. レポート

【成績評価】 発表内容、討議への参加度、レポート、出席状況等により総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使わない。文庫本などで入手しにくく図書館にもない小説については教材プリントを配布するが、手軽に買えるものは購入すること(最初に指示する)。参考書は適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219293>

【連絡先】

⇒ 野口 (noguchi@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業直後の時間帯)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史基礎研究 I

2 単位 2 年(前期), 3 年(前期)

桑原 恵・教授/人間文化学科

【授業目的】 本講義では、近世から近代の歴史史料の解説を行い、歴史史料を分析する力を養うことを目的とする。史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようにしたい。また、文献資料と地方史料の両方を史料として使用し、古文書を解説する力(すなわちくずし字の読解)も身につけるようにしたい。

【授業概要】 日本近世史料の解説、分析による実証方法の修得。特に、吉野川に関する史料を解説し、江戸時代の吉野川をめぐる歴史や文化を理解するようにする。

【キーワード】 古文書、日本近世史、歴史史料、くずし字

【先行科目】 『日本史研究 I』(0.5, ⇒19 頁)

【関連科目】 『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒22 頁)

【履修上の注意】 受講生が十分に予習復習することによってしか、古文書読解の能力を身につけることは出来ない。また、くずし字の読解という始めての経験に対して、真摯に努力する態度で受講して欲しい。

【到達目標】 日本近世の古文書史料を、解説し、分析する能力を習得すること。

【授業計画】 1. 古文書を扱う際の注意事項、古文書に関する基礎知識について 2. 近世～近代の各時期の翻刻された史料について文献史料を取り上げ、その解釈を行う。 3. {例} 4. 村の文書 1:金銀借書など 5. 村の文書 2:村掟など 6. 領主の文書 1:幕府の法令・お触れなど 7. 領主の文書 2:江戸市中の取締書など 8. 藩の史料 1:お触れなど 9. 記録の史料を読む:地震の記録など 10. 領主へ提出した文書を読む 1:お願い書など 11. 領主へ提出した文書を読む 2:五人組帳など 12. 史料を解釈する 1:裁判史料について 13. 史料を解釈する 2:記録から理解できることなど 14. 史料を解釈する 3:願い書などから理解できること 15. 総括授業

【成績評価】 出席状況、平常点としての小テストを数回程度行い、期末テストの成績との総合的な評価を行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ くずし字の辞書として、『増訂近世古文書解読辞典』柏書房、と『図録・古文書入門事典』柏書房、を薦める。但し、すでにくずし字の辞書を持っている学生は購入の必要はない。
- ◇ 講義で使用するプリント類は、適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219282>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールで連絡して下さい、時間は調整します。megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史基礎研究 II

2 単位 2 年(後期), 3 年(後期)

桑原 恵・教授/人間文化学科

【授業目的】 本講義では、近世から近代の歴史史料の解説を行い、歴史史料を分析する力を養うことを目的とする。史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようにしたい。また、文献資料と地方史料の両方を史料として使用し、古文書を解説する力(すなわちくずし字の読解)も身につけるようにしたい。

【授業概要】 日本近世史料の解説、分析による実証方法の修得。

【キーワード】 古文書、日本近世史、歴史史料、くずし字

【先行科目】 『日本史研究 I』(0.5, ⇒19 頁)

【関連科目】 『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒22 頁)

【履修上の注意】 受講生が十分に予習復習することによってしか、古文書読解の能力を身につけることは出来ない。また、くずし字の読解という始めての経験に対して、真摯に努力する態度で受講して欲しい。

【到達目標】 日本近世の古文書史料を、解説し、分析する能力を習得すること。

【授業計画】 1. 古文書を扱う際の注意事項、古文書に関する基礎知識について 2. 近世～近代の各時期の史料で翻刻された文献史料を取り上げ、その解釈を行う。 3. くずし字を読む 1:村の記録など 4. くずし字を読む 2:農民同士の争い 5. くずし字を読む 3:領主へのお願い 6. くずし字を読む 4:町の記録 7. くずし字を読む 5:町人の生活に関する記録 8. くずし字を読む 6:藩のお触れを読む 9. くずし字を読む 7:藩の記録を読む 10. くずし字を読む 8:藩の裁判記録を読む 11. くずし字を読む 9:商人の記録を読む 12. くずし字を読む 10:流通の史料を読む 13. くずし字を読む 11:明治初期の徳島の史料を読む 14. くずし字を読む 12:明治初期の政治運動の史料を読む 15. 総括授業

【成績評価】 出席状況、平常点としての小テストを数回程度行い、期末テストの成績との総合的な評価を行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ くずし字の辞書として、『増訂近世古文書解読辞典』柏書房、と『図録・古文書入門事典』柏書房、を薦める。但し、すでにくずし字の辞書を持っている学生は購入の必要はない。
- ◇ 講義で使用するプリント類は、適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219283>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィス
アワー: 事前にメールで連絡をいただければ時間調整します, me
gumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史基礎研究 II

2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
衣川 仁・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 史料の正確な読解は、歴史を学ぶ上で欠かせない作業であり、特に日本史の分野においてもっとも重視されるのは、古文書の読解である。古文書に書かれた内容について、様式等を踏まえて正確に理解することを目標とし、加えて原史料から得られる古代・中世社会の歴史的特質についても考察する。

【授業概要】 配布する古代・中世古文書のコピーを読解する。くずし字の読みと、意味や様式の把握を行う。

【キーワード】 古文書, 史料, くずし字

【関連科目】 『日本史演習 II』(0.5, ⇒23 頁), 『日本史研究 II』(0.5, ⇒19 頁)

【履修上の注意】 古文書を読むためには、少なくとも高校レベルの漢文読解力・知識が要求される。各自で復習しておくことが望ましい。

【到達目標】 古文書の読解; 「読み」(字の解説・訓点)と「理解」(意味・様式の把握)

【授業計画】 1. 古文書を読むために 2. 信濃国雑掌申状を読む 3. 足利尊氏の花押 4. 寄進状・売券と土地 5. 御判御教書を読む 6. 武士と貴族の下文 7. 史雑断所牒と裁判 8. 軍忠状と着到状 9. 祈りの文書 10. 官符を読む(1)-引用の中の引用- 11. 官符を読む(2)-朝廷の命令系統- 12. 請文と起請文 13. 関連する文書を読む 14. 中世社会と古文書 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】 定用意する古文書の正確な読解(「文字の読み」と「内容の理解」)ができているかどうか、学期末に行うペーパーテストを中心に評価するが、平素の授業での取り組みも勘案する。

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ なし。こちらでプリントを用意する。
- ◇ 参考書としては、佐藤進一著『新版』古文書学入門』(法政大学出版局, 1997 年)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219284>

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィス
アワー: 月曜日10時30分~12時)

日本史基礎研究 II

2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)
桑原 恵・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 本講義では、近世から近代の歴史史料の読解を行い、歴史史料を分析する力を養うことを目的とする。史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようにしたい。また、文献資料と地方史料の両方を史料として使用し、古文書を読解する力(すなわちくずし字の読解)も身につけるようにしたい。

【授業概要】 日本近世史料の読解、分析による実証方法の修得。

【キーワード】 古文書, 日本近世史, 歴史史料, くずし字

【先行科目】 『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒22 頁)

【履修上の注意】 受講生が十分に予習復習することによってしか、古文書読解の能力を身につけることは出来ない。また、くずし字の読解という初めての経験に対して、真摯に努力する態度で受講して欲しい。

【到達目標】 日本近世の古文書史料を、読解し、分析する能力を習得すること。

【授業計画】 1. 古文書を扱う際の注意事項, 古文書に関する基礎知識について 2. 古文書を扱う際の注意事項, 古文書に関する基礎知識について 3. 近世~近代の各時期の史料で翻刻された文献史料を取り上げ、その解釈を行う。 4. くずし字を読む 1:村の記録など 5. くずし字を読む 2:農民同士の争い 6. くずし字を読む 3:領主へへのお願い 7. くずし字を読む 4:町の記録 8. くずし字を読む 5:町人の生活に関する記録 9. くずし字を読む 6:藩のお触れを読む 10. くずし字を読む 7:藩の記録を読む 11. くずし字を読む 8:藩の裁判記録を読む 12. くずし字を読む 9:商人の記録を読む 13. くずし字を読む 10:流通の史料を読む 14. くずし字を読む 12:明治初期の政治運動の史料を読む 15. くずし字を読む 12:明治初期の政治運動の史料を読む 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況、平常点としての小テストを数回程度行い、期末テストの成績との総合的な評価を行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ くずし字の辞書として、『増訂近世古文書読解辞典』柏書房、と『図録・古文書入門事典』柏書房、を薦める。但し、すでにくずし字の辞書を持っている学生は購入の必要はない。
- ◇ 講義で使用されるプリント類は、適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218930>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィス
アワー: 事前にメールで連絡をいただければ時間調整します, me
gumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史演習 I

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
桑原 恵・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 日本の戦国期から明治維新期にかけての主要な論文を取り上げて、それらの主張点問題点等を検討し、学生が個々の関心にそった研究を進めてゆくための方法や視角などを身につけられるようにする。論文の読解を進めることで、研究史の理解を深め、史料に基づいて議論する能力を養う。また、近世史料の読解能力を高めるために、史料講読も取り入れる。

【授業概要】 日本近世史の史料を読解する能力を身につけ、近世史に関する主要な論文の読解と論評を行う能力を養成する。

【キーワード】 日本近世史, 論文演習, 史料講読

【先行科目】 『日本史研究 I』(0.5, ⇒19 頁), 『日本史基礎研究 I』(0.5, ⇒21 頁)

【関連科目】 『日本史演習 II』(1.0, ⇒23 頁)

【履修上の注意】 学生の発表を中心に授業を進める。発表者以外の者も、必ず質問・発言をして議論を展開することによって、論文読解の能力を養うようにする。この授業は、「日本史演習 I」(衣川教官担当, 火曜日 3・4 講時)と密接に関連させて行い、随時共同授業を行う。日本文化サブコースで、日本史を専攻しようとする学生は両授業を受講することが望ましい。

【到達目標】 日本近世史の史料や論文の内容を理解し、論評できる能力を身につけること。

【授業計画】 1. 演習で取り上げる史料や論文は、開講時にリストを配布して、学生の希望に基づいて担当を決定する。取り上げる分野の例としては、以下の通りである。 2. I. 近世初期政治史関係の論文 3. II. 村落史研究 4. III. 村と支配-非領国地域と領国地域との比較 5. IV. 身分制論の諸研究 6. V. 都市史研究の成果から 7. VI. 思想史研究からの視点 8. VII. 幕末維新期研究の成果から 9. VIII. 女性史研究の成果から 10. IX. 地方史に関する諸研究 11. X. 藩政・領主制に関する諸研究 12. 徳島城博物館への見学 13. 徳島城博物館への見学 14. 県立文書館への見学と歴史史料の利用について学習 15. 総括授業

【成績評価】 担当した論文についてまとめるレジュメ、史料等や発表、さらには、演習時の発表や意見の提示などの平常点に基づいて、レポートによって評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義のはじめに詳しく論文のリストを配布し、論文も配布する。参考文献は演習を進めながら 適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219285>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィス
アワー: メールで事前に予定を確認し、日時を合わせて質問に答
える形を取る。メールアドレスは、megumi@ias.tokuhsima-u.ac.jp)

日本史演習 I

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
桑原 恵・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 日本の戦国期から明治維新期にかけての主要な論文を取り上げて、それらの主張点問題点等を検討し、学生が個々の関心にそった研究を進めてゆくための方法や視角などを身につけられるようにする。論文の読解を進めることで、研究史の理解を深め、史料に基づいて議論する能力を養う。

【授業概要】 日本近世史に関する史料や主要な論文の読解と論評を行う能力の養成。

【キーワード】 日本近世史, 論文演習

【先行科目】 『日本史研究 I』(0.5, ⇒19 頁), 『日本史基礎研究 I』(0.5, ⇒21 頁)

【関連科目】 『日本史演習 II』(1.0, ⇒23 頁)

【履修上の注意】 学生の発表を中心に授業を進める。発表者以外の者も、必ず質問・発言をして議論を展開することによって、論文読解の能力を養うようにする。この授業は、「日本史演習 II」(衣川教官担当, 火曜日 3・4 講時)と密接に関連させて行い、随時共同授業を行う。日本文化サブコースで、日本史を専攻しようとする学生は両授業を受講することが望ましい。

【到達目標】 日本近世史の史料や論文の内容を理解し、論評できる能力を身につけること。

【授業計画】 1. 演習で取り上げる史料や論文は、開講時にリストを配布して、学生の希望に基づいて担当を決定する。取り上げる分野の例と

しては、以下の通りである。 2. I. 近世初期政治史関係の論文 3. II. 村落史研究 4. III. 村と支配-非領国地域と領国地域との比較 5. IV. 身分制論の諸研究 6. V. 都市史研究の成果から 7. VI. 思想史研究からの視点 8. VII. 幕末維新期研究の成果から 9. VIII. 女性史研究の成果から 10. IX. 地方史に関する諸研究 11. 徳島博物館への見学:展示から学ぶ 12. 徳島博物館への見学 2:史料を調査する 13. 県立文書館への見学:徳島県に関する資料調査 14. 県立文書館への見学 2:史料の利用について 15. 総括授業

【成績評価】 担当した論文についてまとめるレジュメ、史料等や発表、さらには、演習時の発表や意見の提示などの平常点に加えて、レポートによって評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義のはじめに詳しく論文のリストを配布し、論文も配布する。参考文献は演習を進めながら 適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219286>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールで問い合わせいただければ、随時対応します。 megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史演習 II

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日本古代・中世史を考える上で重要な論文あるいは史料を精読・検討し、そこにあらわれた諸問題に対する理解力と思考力を深める。

【授業概要】 日本古代・中世史上の諸問題を考えるために、重要な論文・史料を取り上げて検討する。各回の担当者を決めて報告をしてもらい、それをもとに出発者全員で議論していく。

【キーワード】 日本史, 古代史, 中世史

【関連科目】 『日本史演習 I』 (0.5, ⇒22 頁)

【履修上の注意】 あらかじめ担当を決めて報告を受ける演習形式で進める。報告にはレジュメの作成などの準備をする必要があるが、報告の担当者以外にも十分な予習と発言を求める。この授業は、「日本史演習 I」(桑原教官, 火曜 5-6 講時)と密接に関連させて行い、随時共同授業を行う。日本文化研究サブコースで日本史を専攻しようと思う学生は、両授業を必ず受講すること。

【到達目標】 論文・史料を読解し、それに対する自分の意見 (評価・批判) をもつこと。

【授業計画】 1. 取り上げる論文テーマの例としては、以下のようなものを予定している。 2. 中世の社会と国家 3. 武士の成立と展開 4. 中世法と裁判の世界 5. 古代・中世の仏教と民衆 6. 荘園制と村落 7. 東アジア世界の秩序と日本 8. 具体的な論文名は授業の中で示す。また以上のテーマに限らず、学生の関心に基づいて素材を決めたい。

【成績評価】 発表内容、議論への参加度などの平常点、レポートの評価。

【再試験】 なし

【教科書】 論文等は、適宜配布する。指定の論文・史料以外にも、参考となるものを広く読む必要がある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219287>

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分~12時)

日本史演習 II

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)

衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日本古代・中世史を考える上で重要な論文あるいは史料を精読・検討し、そこにあらわれた諸問題に対する理解力と思考力を深める。

【授業概要】 日本古代・中世史上の諸問題を考えるために、重要な論文・史料を取り上げて検討する。各回の担当者を決めて報告をしてもらい、それをもとに出発者全員で議論していく。

【キーワード】 日本史, 古代・中世

【関連科目】 『日本史演習 I』 (0.5, ⇒22 頁)

【履修上の注意】 あらかじめ担当を決めて報告を受ける演習形式で進める。報告にはレジュメの作成などの準備をする必要があるが、報告の担当者以外にも十分な予習と発言を求める。この授業は、「日本史演習 I」(桑原教官, 火曜 5-6 講時)と密接に関連させて行い、随時共同授業を行う。日本文化研究サブコースで日本史を専攻しようと思う学生は、両授業を必ず受講すること。

【到達目標】 論文・史料を読解し、それに対する自分の意見 (評価・批判) をもつこと。

【授業計画】 1. 取り上げる論文テーマの例としては、以下のようなものを予定している。 2. 中世の社会と国家 3. 武士の成立と展開 4. 中世法と裁判の世界 5. 古代・中世の仏教と民衆 6. 荘園制と村落

7. 東アジア世界の秩序と日本 8. 具体的な論文名は授業の中で示す。また以上のテーマに限らず、学生の関心に基づいて素材を決めたい。

【成績評価】 発表内容、議論への参加度などの平常点、レポートの評価など。

【再試験】 なし

【教科書】 論文等は、適宜配布する。指定の論文・史料以外にも、参考となるものを広く読む必要がある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218929>

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時50分~14時20分)

文化人類学研究 I

2 単位 2 年 (前期)

高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】 文化人類学の中心的なテーマについて講義する。世界の諸民族の事例を通して、人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し、異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である。グローバル化の中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい。

【授業概要】 文化人類学の基本問題

【キーワード】 文化, 現代社会, グローバリゼーション

【関連科目】 『民俗学研究 I』 (0.5, ⇒23 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【到達目標】 人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化 (自文化) の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。

【授業計画】 1. 文化人類学のパスベクティブ 2. 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ 3. 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 4. 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 5. 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ 6. 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム 7. ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ 8. 現代医療と文化-新生殖技術をめぐる 9. メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 10. グローバル化と文化変容-地球時代時代の文化のダイナミズム 11. 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 12. ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より 13. 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ 14. 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか 15. 「転換期」の時代の文化人類学 16. まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる。個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂, 2005 年
- ◇ 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店, 2003 年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書, 1982 年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣, 2008 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219280>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~13時)

【備考】 本年度開講 (隔年開講)

民俗学研究 I

2 単位 2 年 (後期)

高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】 日本民俗学の主な研究目的は、各地に見られる民俗 (一般の人々が日常生活の中で育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式) の持つ意味を明らかにし、さらにそれらの比較検討を通して、日本の基層文化を究明することにある。このような過去過渡的=歴史学的側面を持つ一方で、日本民俗学は、民俗の変化とその要因の解明、あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代的側面も有している。本授業では、こうした日本民俗学の基本概念について概説する。

【授業概要】 日本民俗学の基本問題

【キーワード】 民俗, 日本文化

【関連科目】『文化人類学研究 I』(0.5, ⇒23 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する。

【到達目標】日本民俗学の基本的な概念を理解し、過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる。

【授業計画】1. 民俗学の考え方(民俗学の研究対象・目的・方法) 2. 社会の民俗(イエとムラの民俗) 3. 環境の民俗(景観・地形と民俗) 4. 生業の民俗(海・山・里の生業と民俗) 5. 時間の民俗(年中行事と民俗) 6. 生と死の民俗(出産・葬儀の民俗) 7. 神と霊魂の民俗(祖先祭祀, 他界観と民俗) 8. 境界と怪異の民俗(異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) 9. 性と民俗(女性の民俗, 男性の民俗) 10. 語りの民俗(昔話・伝説・世間話の民俗) 11. 都市の民俗(生成・変容する都市民俗) 12. 都市の民俗(生成・変容する都市民俗)(2) 13. 観光と民俗(民俗の「発見」と「活用」) 14. 比較民俗学への道(関東シナ海文化圏の民俗) 15. 民俗研究の課題と展望(現代社会と民俗, 民俗学の現代的意義) 16. まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館, 1996 年
- ◇ 松崎憲三他編『民俗学の冒険』1~4, ちくま新書, 1999 年
- ◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~10 巻, 雄山閣, 1998-2000 年

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219310>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】本年度開講せず(隔年開講。次回は平成 24 年度開講予定)

世界の諸民族の音楽

2 単位 2 年(前期)

片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で、しかも変化に富んだものである。多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し、世界中にはさまざまな音楽が存在している。この授業では、民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し、そのことを通じて、音楽文化・民族性・音楽の本質等について、一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている。

【授業概要】民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義

【キーワード】民族音楽, 音楽学, 音楽鑑賞, 民族性, 異文化理解

【関連科目】『音楽学』(0.5, ⇒182 頁)

【履修上の注意】当授業は講義形式なので、受講者は受け身的になりがちであるが、できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい。なお、平成 16 年度以降、共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが、その内容は同授業と相当程度重複しているので、「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること。又、先行科目は特定したくないので記入しないし、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。それと、同授業は、昨年度より新体制の「芸術文化論」と同時に開講しており、受講者の人数は 100 名程度となって、部屋(マルチメディア A 棟 1 階「音響スタジオ」)の広さの関係(普通の状態での収容可能人数は 50 名程度)から、学生の身体的な負担が大きかった。だからといって、別のもっと広い部屋で同授業を実施することは授業内容の性格からして無理なことなので、同授業を受講しなくても卒業要件を満たせる場合は、できれば可能な範囲内で別の授業を選択する方法をとっていただければ大変ありがたいと考えている。

【到達目標】世界には様々な音楽文化が存在すること、それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し、音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く。

【授業計画】1. 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために、講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる。 2. 1 週目 授業の趣旨説明を行い、現代の音楽の特徴について言及する。 3. 2 週目 日本の音楽。 4. 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽。 5. 9-13 週目 インド・西アジアの音楽。 6. 14 週目 アラブの音楽。 7. 15 週目 総括授業。授業内容全体についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが、若干のずれが生じることもあるので、その点あらかじめご了承願いたい。

【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験】行わない。

【教科書】この授業では教科書等は使用しない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218766>

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日の昼休み)

【備考】同授業は、平成 23 年度は前期・金曜 5-6 講時に新カリキュラムの「芸術文化論」と同時に開講する。なお、注意のところで書いたことであるが、同授業を受講しない選択肢について、可能な範囲内でご配慮いただければ幸いである。

国際関係論 I

2 単位 3 年(前期)

饗場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】米ソがにらみ合った冷戦中は、明日にも第三次世界大戦が起き、核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった。89 年、米ソ首脳が握手をかわし、幸運にも人類は冷戦を脱した。ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが、まもなく幻滅が広がった。噴出する内戦・民族紛争と、拡大する貧富の格差。新たな試練に苦悶するうちに世紀が変わると、9/11 テロの衝撃が世界を揺るがした。そして今、アフガン戦争、イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され、国際社会はいったい、どこに行こうとしているのか。この授業では、こうした変動する現代国際社会の現実を知り、そこで生起する諸問題について、特に平和と戦争に関する観点を中心に、考察する。

【授業概要】国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ。授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも、筆者のフィールドワーク(紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など)や、新聞記者の経験などに基づく「教科書に載っていない」解説も試みたい。また、適宜、時事的な国際ニュースも取り上げ、ビデオやスライドも使う。国際関係論 I では、主に総論的、理論的、概念的な問題を扱う。

【履修上の注意】国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており、一方だけ受講することもできるが、I で総論的、基礎的な解説を行い、II ではそれを元に各論的、発展的な内容になる面もあるので、連続して受講する方が望ましい。

【到達目標】

1. 国際社会の性質、特徴を理解すること。
2. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係、実態を知ること。
3. 国際政治と国際法の基本について、とらえ方、原理、原則を把握すること。
4. 「冷静な現実主義」と、「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと。

【授業計画】1. (日) 国際社会の成り立ちと特徴 (1) 2. (日) 国際社会の成り立ちと特徴 (2) 3. 国際法の基本 (1) 4. 国際法の基本 (2) 5. 国際社会を見る理論的枠組 (1) 6. 国際社会を見る理論的枠組 (2) 7. 国際安全保障の諸理論 (1) 8. 国際安全保障の諸理論 (2) 9. 民族とアイデンティティ (1) 10. 民族とアイデンティティ (2) 11. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど)(1) 12. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど)(2) 13. 戦争の違法化 (1) 14. 戦争の違法化 (2) 15. 補足と総括 16. 試験

【成績評価】授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらおうが、それらで出欠の確認も行う。試験は論述式(短答式と長文論述併用)の期末試験を行う。持ち込み不可。成績は試験の結果に、出席状況、授業中の質疑応答などを加味して判断する。

【再試験】行わない。ただし、僅差で合格点に達しない受講者には、一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える。

【教科書】教科書は特に指定せず、授業中に配布するレジュメ、資料に沿って解説する。参考書などは適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219152>

【連絡先】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~14:30, 金曜日14:30~16:00, この時間以外でも在室時は随時可。)

国際関係論 II

2 単位 3 年(後期)

饗場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】国際関係論 I を参照。

【授業概要】国際関係論 I を参照。

【履修上の注意】国際関係論 I を参照。

【到達目標】国際関係論 I を参照。

【授業計画】1. 正戦論 (1) 2. 正戦論 (2) 3. 9/11 テロとアメリカ (1) 4. 9/11 テロとアメリカ (2) 5. 国連の成り立ち, 機能, 国連による安全保障 (1) 6. 国連の成り立ち, 機能, 国連による安全保障 (2) 7. 人道的介入 (1) 8. 人道的介入 (2) 9. 平和の意味, 構造的暴力, 非暴力主義 (1) 10. 平和の意味, 構造的暴力, 非暴力主義 (2) 11. 核

兵器とゲーム理論 (1) 12. 核兵器とゲーム理論 (2) 13. 日本の安全と憲法, 自衛隊, 平和構築 (1) 14. 日本の安全と憲法, 自衛隊, 平和構築 (2) 15. 補足と総括 16. 試験

【成績評価】 国際関係論 I を参照.

【再試験】 国際関係論 I を参照.

【教科書】 国際関係論 I を参照.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219153>

【連絡先】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 国際関係論 I を参照.)

世界経済論 I World Economy I

2 単位 3 年 (前期)
水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】 国際的な経済関係は、その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し、その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた。講義では、この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う。

【授業概要】 世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【履修上の注意】 「世界経済論 I」(前期)として 2 単位を認定するが、「世界経済論 II」(後期)と併せて通年で受講するのが望ましい。前期で終了できなかった項目については、後期「世界経済論 II」で扱う。17 年度は「国際貿易論」「多国籍企業論」が開講されるので、授業計画の (4)(5) は、簡単に触れるにとどめる。

【到達目標】 学説史、学説、現状に係わる論点の理解。

【授業計画】 1. 以下のテーマについて番号順に取り扱う。1 テーマ 1 講義を予定するが、進捗状況によっては次回の講義に繰り越すこともある。時間があれば〔補論〕に進む。 2. 1. 産業資本主義以前の世界経済 (遠隔地貿易と重商主義) 3. 2. 自由貿易論の系譜 (1)(Adam Smith の時代と貿易論) 4. 3. 自由貿易論の系譜 (2)(D.Ricardo の時代と貿易論) 5. 4. 自由貿易論の系譜 (3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論) 6. 5. 世界経済構造の批判的理解 (1)(K.Marx の「プラン」後半体系) 7. 5. 世界経済構造の批判的理解 (2)(K.Marx の時代と植民地・世界市場論) 8. 7. 保護貿易論の系譜 (1)(途上国の TCC 批判: ドイツ歴史学派) 9. 8. 保護貿易論の系譜 (2)(複数の帝国主義国と植民地経済圏) 10. 9. 世界経済構造の批判的理解 (3) 11. (レニン『帝国主義論』: 世界大戦の原因) 12. 10. 保護貿易論の系譜 (3) 13. (「相対的安定期」・1929 年世界恐慌と「ブロック経済」) 14. [補論] 帝国主義論の系譜 (1) 15. (Hobson,Kautsky,Rosa Luxemburg の帝国主義論) 16. [補論] 帝国主義論の系譜 (2) 17. (自由貿易帝国主義論: レニン『帝国主義論』批判) 18. [補論] 国民経済・世界市場の規定 (大塚・木下・村岡の議論)

【成績評価】 筆記試験

【再試験】 なし

【教科書】 講義中に配付する資料を用いる。

【参考書】 参照すべき図書は、適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219089>

【連絡先】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義終了後(研究室ドアに掲示), E-mail:mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp, 電話:088-656-7188(研究室))

【備考】 2009 年度から、構成を変更する。このため 2008 年度から授業構成を変更する部分が出てくるので、上記は目安としてのみ理解してください。

世界経済論 II World Economy 2

2 単位 3 年 (後期)
水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】 国際的な経済関係は、その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し、その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた。講義では、この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う。

【授業概要】 世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【履修上の注意】 前期「世界経済論 I」で終了できなかった項目から、後期「世界経済論 II」を開始する。「世界経済論 II」(後期)として 2 単位を認定するが、「世界経済論 I」(前期)と併せて通年で受講するのが望ましい。

【到達目標】 学説史、学説、現状に係わる論点の理解。

【授業計画】 1. 以下のテーマについて、番号順に出来るだけ進めたい。 2. W.W.2 後の基本構造 3. 基本概念 (1)(交易条件) 4. 基本概念 (2)(国際収支と国際収支表の見方) 5. 基本概念 (3)(外国為替の決済と為替レート) 6. 18. 自由貿易論の系譜 (5)(新古典派による「比較生産費」説 [TCC] 理解) 7. 19. Pax Americana の世界経済 (1)(対外投資と多国籍企業の発展) 8. 20. 開発論の系譜 (1)(Marx 批判としての『経済発展の諸段階』と単線史観の破綻) 9. 21. 開発論の系譜 (2)(「輸入代替政策」と「輸出志向政策」, 「緑の革命」) 10. (途上国

からの「比較生産費」説批判: 「従属学派」と世界システム論) 11. 23. Pax Americana の世界経済 (2)(ドル危機・地域統合への対応) 12. 24. Pax Americana の世界経済 (3)(エネルギー問題への対応) 13. 26. Globalization の功罪 (世界は Pax Consortis に向かうのか?)

【成績評価】 筆記試験

【再試験】 なし

【教科書】 講義中に指示する。

【参考書】 参照すべき図書は、適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219090>

【連絡先】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義終了後(研究室ドアに表示), E-mail:mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp, 電話:088-656-7188(研究室))

【備考】 2009 年度から、構成を変更する。上記は目安としてのみ理解してください。

人間社会学科 アジア研究コース 日本文化研究サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

日本語基礎研究 I (前期) ... 岸江/2年 (前期)	26
日本語基礎研究 I (後期) ... 岸江/2年 (後期)	27
日本語基礎研究 II (前期) ... 仙波/2年 (前期)	27
日本語基礎研究 II (後期) ... 仙波/2年 (後期)	27
日本文学基礎研究 I ... 原水/2年 (通年), 3年 (通年)	27
日本文学基礎研究 II ... 堤/2年 (通年), 3年 (通年)	28
日本文学基礎研究 III (前期) ... 鳥羽・衣川/2年 (前期, 集中), 3年 (前期, 集中)	28
日本文学基礎研究 III (後期) ... 鳥羽・衣川/2年 (後期, 集中), 3年 (後期, 集中)	28
日本史研究 I ... 桑原/2年 (後期), 3年 (後期)	29
日本史研究 II ... 衣川/2年 (前期), 3年 (前期)	29
日本考古学研究 ... 中村・遠部/2年 (前期)	29
アジア考古学研究 ... 東/2年 (前期)	29
地誌学 ... 平井/2年 (前期)	30
博物館概論 ... 一山・東/2年 (前期)	30
博物館資料論 ... 千田・東/2年 (前期, 集中)	30
博物館特論 ... 未定・東/2年 (後期, 集中)	30
日本語演習 I ... 岸江/3年 (前期), 4年 (前期)	30
日本語演習 I ... 岸江/3年 (後期), 4年 (後期)	31
日本語演習 II (前期) ... 仙波/3年 (前期), 4年 (前期)	31
日本語演習 II (後期) ... 仙波/3年 (後期), 4年 (後期)	31
日本文学演習 I ... 原水/3年 (通年), 4年 (通年)	31
日本文学演習 II ... 堤/3年 (通年), 4年 (通年)	32
日本文学演習 III ... 野口・衣川/3年 (通年), 4年 (通年)	32
日本史基礎研究 I ... 桑原/2年 (前期), 3年 (前期)	32
日本史基礎研究 I ... 桑原/2年 (後期), 3年 (後期)	33
日本史基礎研究 II ... 衣川/2年 (前期), 3年 (前期)	33
日本史基礎研究 II ... 桑原/2年 (後期), 3年 (後期)	33
日本史演習 I ... 桑原/3年 (前期), 4年 (前期)	33
日本史演習 I ... 桑原/3年 (後期), 4年 (後期)	34
日本史演習 II ... 衣川/3年 (前期), 4年 (前期)	34
日本史演習 II ... 衣川/3年 (後期), 4年 (後期)	34
考古学基礎研究 ... 中村・東/2年 (通年), 3年 (通年)	35
考古学演習 ... 東/3年 (通年), 4年 (通年)	35
朝鮮語 ... 野間・東/2年 (前期, 集中)	35
朝鮮語 ... 野間・東/2年 (後期, 集中)	35
中国語 I ... 葭森/2年 (前期)	35
中国語 I ... 葭森/2年 (後期)	36
中国語 II ... 郡/2年 (前期)	36
中国語 II ... 郡/2年 (後期)	36
中国語中級 I ... 李・郡/3年 (前期, 後期)	36
中国語中級 II ... 李・郡/3年 (前期, 後期)	37
アジア史研究 I ... 葭森/2年 (後期)	37
アジア史研究 II ... 葭森/2年 (後期)	37
アジア史研究 III ... 葭森/2年 (後期)	37
アジア思想研究 I ... 有馬/2年 (前期)	38
アジア思想研究 II ... 有馬・郡・田中/2年 (前期)	38
アジア社会研究 II ... 荒武/2年 (後期)	38
アジア文学基礎研究 ... 田中/2年 (後期), 3年 (後期)	38
アジア文学演習 I (前期) ... 田中/3年 (前期), 4年 (前期)	39

アジア文学演習 I (後期) ... 田中/3年 (後期), 4年 (後期)	39
アジア文学演習 II (前期) ... 郡/3年 (前期), 4年 (前期)	39
アジア文学演習 II (後期) ... 郡/3年 (後期), 4年 (後期)	39
アジア思想基礎研究 (前期) ... 有馬/2年 (前期), 3年 (前期)	39
アジア思想基礎研究 (後期) ... 有馬/2年 (後期), 3年 (後期)	40
アジア思想演習 (前期) ... 有馬/3年 (前期), 4年 (前期)	40
アジア思想演習 (後期) ... 有馬/3年 (後期), 4年 (後期)	40
アジア史基礎研究 (前期) ... 葭森/2年 (前期), 3年 (前期)	40
アジア史基礎研究 (後期) ... 葭森/2年 (後期), 3年 (後期)	41
アジア史演習 ... 葭森/3年 (前期), 4年 (前期)	41
アジア史演習 ... 葭森/3年 (後期), 4年 (後期)	41
アジア社会基礎研究 (前期) ... 荒武/2年 (前期), 3年 (前期)	42
アジア社会基礎研究 (後期) ... 荒武/2年 (後期), 3年 (後期)	42
アジア社会演習 (前期) ... 荒武/3年 (前期), 4年 (前期)	42
アジア社会演習 (後期) ... 荒武/3年 (後期), 4年 (後期)	42
文化人類学研究 I ... 高橋/2年 (前期)	42
民俗学研究 I ... 高橋/2年 (後期)	43
日本語教育方法論 I ... 大石/2年 (前期)	43
日本語教育方法論 II ... 橋本/2年 (後期)	43
日本語教授法 I ... 大石/2年 (前期)	44
日本語教授法 II ... 橋本/2年 (後期)	44
日本語教育演習 (その1) ... 大石/3年 (後期)	44
日本語教育演習 (その2) ... 大石/4年 (後期)	44
比較文化研究 (その1) ... 依岡/2年 (前期)	44
比較文化研究 (その2) ... 依岡/2年 (後期)	45
ヨーロッパ歴史・社会論 I ... 佐久間/2年 (前期)	45
ヨーロッパ歴史・社会論 II ... 長井/2年 (前期)	45
ヨーロッパ歴史・社会論 III ... 今井/2年 (前期)	46
アメリカ歴史・社会論 ... 吉岡・今井/2年 (前期)	46

日本語基礎研究 I (前期)

2単位 2年 (前期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では、日本語の敬語や配慮表現を中心に講義する。敬語一般の基礎的な知識を身につけること、敬語や配慮表現について取り上げ、実際に敬語研究に触れ、日本語の敬語について理解することを目標とする。これまで敬語、配慮表現に関連する日本語学各方面で得られた研究成果を概説的に学習する。科学的視点での、ものの見方、とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。

【授業概要】 日本語学・社会言語学・日本語教育等で基礎となる学習を行う。この授業では主に敬語をはじめ、ポライトネス、配慮表現などを中心的に取り上げ、社会言語学的視点から対人コミュニケーションとは何かについて学ぶ。配慮表現に関するデータを統計的に処理する方法を身につけ、言語分析の方法について学ぶ。

【履修上の注意】 授業は、講義形式を原則とするが、一部、調査の関係でゼミ形式をとる場合もある。受講生各人が授業で扱ういろいろなテーマの中から一つ興味を持ち、レポートを完成させる。毎時、簡単な小テストを行うこともある。

【到達目標】 日本語を科学的な視野からとらえ、日本語学の基礎を理解する。

【授業計画】 1. (1) 日本語の敬語の特色 2. (2) 日本の社会言語学とは 3. (3) 属性にもとづく言語バリエーション-地域差・世代差・性差- 4. (4) 敬語行動とは何か 5. (5) ポライトネスと配慮表現 (1) 6. (6) ポライトネスと配慮表現 (2) 7. (7) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(1) 8. (8) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(2) 9. (9) 自由回答をどう分析するか 10. (10) テキストマイニングによる分析手法を学ぶ 11. (11) ソフトを利用した分析 12. (12) アンケート調査の実施 13. (13) アンケート調査のデータ集計-受講生が

分担して行う- 14. (14) アンケートデータの分析と解説 15. (15) レポートの準備のため文献資料の解説 16. (16) 総括授業

【成績評価】 評価は、レポート、小テスト、フィールド調査への参加を目安とする。

【再試験】 無

【教科書】

- 教材: 授業でプリントを配布する。
- 参考書: 各分野に必要な論文・図書を紹介する。

【参考書】 国立国語研究所編 (2006) 『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218915>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館3階(2307) 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 ◦ IC レコーダー等の音声機器の使い方、データ分析の方法の説明を行う。 ◦ データ分析を行う際にノートパソコンや IC レコーダーの貸し出しを行うこともある。

日本語基礎研究 I (後期)

2 単位 2 年 (後期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では、日本語学概論の音声・音韻・アクセントについての講義をする。音声学に関する基礎的な知識を身につけること、日本語学各分野への興味づけを行うことを目的とする。音声を科学的に追究するという姿勢を学び、音声学の研究成果を概説的に学習する。科学的視点での、ものの見方、とらえ方などを音声科学の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。なお、全国諸方言の音声・アクセント調査をフィールドワークとして実施し、各自が資料収集にあたり、分析を行う。

【授業概要】 国語学・日本語学・日本語教育等で基礎となる学習を行うが、ここでは主に日本語の音声・アクセントなどを幅広く取り上げ、概説的な授業のあと、音声・アクセントの資料を集め、分析を行う。

【履修上の注意】 授業は、講義形式を原則とするが、受講生各人が興味を持つ分野について、レポートを提出する、学期末毎にテストを行うこともある。

【到達目標】 日本語を科学的な視野からとらえ、日本語学の基礎を理解する。

【授業計画】 1. (1) 音声研究入門 2. (2) 音声とは? 3. (3) 聴音音声学と音響音声学 4. (4) 音声器官と発声の仕組み 5. (5) 母音と子音 6. (6) 拍と音節 7. (7) 日本語のポーズとイントネーション 8. (8) 日本語のアクセント 9. (9) 音声の対照研究 10. (10) 日本語の方言音声 1 11. (11) 日本語の方言音声 2 12. (12) 日本語音声の音響分析 -母音編- 13. (13) 日本語音声の音響分析-子音編- 14. (14) 全国諸方言音声・アクセント世代調査票の説明 15. (15) 全国諸方言音声・アクセント世代調査の実施 16. 総括授業

【成績評価】 評価は、レポート、小テスト、音声調査の参加を目安とする。

【再試験】 無

【教科書】

- 教科書: 特に指定しない
- 教材: 授業でプリントを配布することがある。
- 参考書: 各分野に必要な論文・図書を紹介する。

【参考書】 今石元久編『音声研究入門』和泉書院

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218916>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館3階(2307) 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 ◦ 音声データの分析方法についての学習も行う。 ◦ ノートパソコン、IC レコーダーを貸し出すこともある。

日本語基礎研究 II (前期)

2 単位 2 年 (前期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】 日本語はどのような歴史をたどってきたか。前期は、日本語の音韻(発音の変化など)を中心に、言語変化の原理を理解できるようにする。

【授業概要】 日本語の歴史通覧(23年度前期は開講しません。後期月曜5・6校時で受講してください)

【キーワード】 音韻史、上代特殊仮名遣、ヤ行のイエ、撥音、促音、オ段長音、連声、四つ仮名

【到達目標】 日本語の歴史を音韻の面から学び、発音の変化はなぜ起こるのか、また、それが他の要素にどのように影響するかを考える。

【授業計画】 1. 音韻とは何か、および、国語史の時代区分について。 2. 奈良時代1(なぜ、8母音だったと考えられるのか。) 3. 奈良時代2(母音体系と文法体系の関係) 4. 平安時代1(ア行のエのヤ行のイエ

への統合) 5. 平安時代2(母音の減少がもたらしたもの) 6. 平安時代3(ハ行子音の発音の変遷が意味するもの) 7. 平安時代4(音韻としての撥音「ン」と促音「ッ」の成立) 8. 鎌倉室町時代1(ワ行「キ」「エ」の消滅と合拗音) 9. 鎌倉室町時代2(オ段長音の変遷、開音合音の発生から開合の区別消滅まで) 10. 鎌倉室町時代3(キリシタン資料から分かる室町時代の音韻体系) 11. 鎌倉室町時代4(音便、連濁、連声) 12. 江戸時代以降1(四つ仮名〔ジヂズヅ〕の混同) 13. 江戸時代以降3(江戸語・東京語の音韻) 14. アクセントの歴史 15. 試験 16. 補足とまとめ

【成績評価】 各時代を特徴づける語彙について基本的なことから理解できているかどうかについて、小テストなどで、40%、期末試験を60%の割合で評価する予定。

【再試験】 あり

【教科書】

- 沖森卓也編『日本語史』(おうふう)1900円を予定。
- 参考書 平凡社ライブラリー『日本語の歴史』1~7ほか

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218917>

【連絡先】

- ⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~17時30分 その他随時、)

日本語基礎研究 II (後期)

2 単位 2 年 (後期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】 「方言」について正しい認識を持つ。また、言葉を体系の中で考えることの必要を理解する。

【授業概要】 徳島県の方言(俚言)を手がかりとして、言葉の歴史や体系を考える。

【到達目標】

1. 方言について、正確な知識を獲得する。
2. 言葉の由来、あるいは語源について正しい考え方を理解する。
3. 言葉を単独で考えず、つねに体系の中で考える習慣を身につける。
4. 言葉や言語資料の背景となるものを意識して、言葉を考える習慣を身につける。
5. 「方言」が特定の地域に孤立して存在するものでないことを理解する。

【授業計画】 1. 授業の進め方についての説明。この授業で使う「方言」の意味は何か。徳島の方言概説(その1) 2. 徳島の方言概説(その2) 3. 「せこい」という言葉。(語源の考え方 その1 なぜ徳島だけ意味が異なるのか) 4. ウンカゴブジ(溫和御無事)(語源の考え方その2 方言の中の漢語語彙) 5. 気象と言葉(雨や風の名前 ベックノジャラセ・ナガセ・サガチ・サオカタギ等) 6. 身体部位をあらわす言葉(ヤネとはどこを指す? 意味のずれの発生など) 7. オビユからオケル(驚く)の変化をどう説明するか。 8. 子どもの世界と言葉(カマキリ・メダカ・じゃんけん等、多彩な語形が失われたわけ) 9. 木屋平の方言(個人のメモから分かること。新居熊太氏のメモから) 10. 相生の方言(個人のメモから分かること。方言資料の残し方。) 11. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 12. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 13. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 14. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 15. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 16. 補足とまとめ(内容未定)

【成績評価】 出席、授業に対する積極性(質問、意見など)とレポートを総合して評価する。レポートに大きい比重を置く。

【再試験】 再レポート

【教科書】 『徳島県のことば』(明治書院)を予定。

【参考書】 授業の中で随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218918>

【連絡先】

- ⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~17時30分 その他随時、)

日本文学基礎研究 I

4 単位 2 年 (通年), 3 年 (通年)
原水 民樹・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本文学のジャンルのひとつである軍記文学の中から、前期軍記の主要作品の内容や特質を知るとともに、その変遷のさまを文学史の立場から理解する。

【授業概要】 平安時代から室町時代に至る間の主要な軍記文学作品について、作品の一部を講読するとともに、作者・成立の問題・文学性などの面から講義を行い、各作品の特質を明らかにしつつ、文学史の立場からその変遷の様を解説する。

【キーワード】 文学史、軍記文学、日本の中世、古人の思考

【関連科目】 『日本史基礎研究 II』(0.5, ⇒33頁), 『日本文学基礎研究 II』(0.5)

【到達目標】

1. 中世軍記文学史を知る
2. 軍記文学の特質を知る

【授業計画】1. 講義予定の説明と軍記文学解説 2. 『将門記』の解説と本文の部分講読 3. 『陸奥話記』『奥州後三年記』の解説と本文の部分講読 4. 『保元物語』の解説と本文の部分講読 5. 『平治物語』の解説と本文の部分講読 6. 『平家物語』(1) 成立について 7. 『平家物語』(2) その文学世界について 8. 『平家物語』(3) 本文の部分講読 9. 『承久記』の解説と本文の部分講読 10. 『太平記』(1) 成立について 11. 『太平記』(2) その文学世界について 12. 『太平記』(3) 本文の部分講読 13. 『義経記』の解説と本文の部分講読 14. 『曾我物語』の解説と本文の部分講読 15. まとめ 16. レポート提出

【成績評価】 期末のレポートと各時間における受講姿勢を総合して判定する。

【再試験】 行わない

【教科書】 毎回、資料を配付する

【参考書】

- ◇ 軍記文学研究叢書 (全 12 巻) 汲古書院 1997~1999
- ◇ ()

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219290>

【連絡先】

⇒ 原水 (1号中棟1階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14時30分~15時30分)

【備考】 教員免許取得に文学史が必須であるため、この授業内容は2010年度と同内容とする。

日本文学基礎研究 II

4 単位 2 年 (通年), 3 年 (通年)
堤 和博・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日本文学のうち、平安時代の文学作品を読解する際、また、資料として扱う際の方法及び留意点を、『紫式部日記』を主たる具体例として取り上げて講義する。他の作品にもなるべく多く言及する予定である。平安時代に限らず、古典の文学作品は、近現代の作品とはかなり違った性格を備えているので、留意する点も多種多様に亘る。それらをいくつかのテーマに分けて講じていく。また、平安時代の日本文化に触れるとすれば、当然文字で書かれたものを媒体とすることになる。そしてそれは、印刷技術が発達する近世までは、もっぱら写本ということになるのである。学生諸君が今まで接してきた古代の文学作品は、教科書にせよ注釈書にせよ、活字に直されたものであったはずである。それらのものは、その注釈書等を執筆した学者が各自の見識に基づき、写本(または、版本)をもとにして活字化したものなのである。本授業では、活字化されたものではなく、写本(または、版本)を資料として古代の文学作品を読解する力を養成することも目指す。よって、変体仮名を読む練習も含まれる。

【授業概要】 日本古典(特に平安時代)文学研究の基礎

【キーワード】 日本古典文学, 古代, 解釈, 紫式部, 紫式部日記

【関連科目】 『日本文学演習 II』(0.5, ⇒32 頁)

【履修上の注意】 この授業においては、多く変体仮名を読むことになる。変体仮名を読む練習は夏休み中に各自で行うこと。(練習するにあたっての留意事項等は、夏休み前に指示する)

【到達目標】 日本古典(特に平安時代)文学を研究する上での基礎的な知識・能力を得る。3, 4 年次に日本古典文学を専攻する予定のない学生については、日本古典文学を学ぶことによって、知的な能力の向上を目指す。

【授業計画】 1. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (1)-『枕草子』を中心に 2. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (2)-『土左日記』を中心に 3. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (3)-その他平安時代の主要な作品を中心に 4. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (4)-『紫式部日記』邦高親王本を中心に 5. 本の由来について-基礎的な書誌学・伝本発生の由来等 (5)-『紫式部日記』黒川本を中心に 6. 注釈書を参考にする場合の注意 (1)-『蜻蛉日記』下巻の一部読解 7. 注釈書を参考にする場合の注意 (2)-『蜻蛉日記』下巻諸注釈書の比較検討 8. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (1)-『竹取物語』を中心に 9. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (2)-『竹取物語』と『斑竹姑娘』の比較検討 10. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (3)-『紫式部日記』の構成 11. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (4)-『紫式部日記』の構成と成立 12. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (5)-『源氏物語』第一部の構成 13. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (6)-『源氏物語』第一部の構成と成立 14. 作品の成立について-近現代の作品とは違った成立過程 (7)-成立論の意義 15. レポートの書き方の注意事項 16. 変体仮名読解の注意事項 17. レポートの講評 18. レポートの書き換え 19. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (1)-全般的説明 20. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (2)-藤原清輔を例として 21. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (3)-紫式部の前半生 22. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (4)-紫式部の後半生 23. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (5)-『紫式部日記』を作家論観点から読む 日記体部分 24. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (6)-『紫式部日記』を作家論観点から読む 25. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (7)-『紫式部日記』を作家論観点から読む 書簡体部分 26. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (8)-『紫式部日記』を作家論観点から読む まとめ 27. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (9)-平安時代の和歌史 28. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等 (10)-和泉式部の和歌を例として 29. 解釈法-古典作品を解釈する基本的な方法へ向けて-黒川本『紫式部日記』の読解 30. 解釈法-古典作品を解釈する基本的な方法 (1)-言葉の帰納的解釈 31. 解釈法-古典作品を解釈する基本的な方法 (2)-用例の集め方 32. 解釈法-古典作品を解釈する基本的な方法 (3)-主として辞書を用いる際の注意事項

【成績評価】 毎度亘って課すレポート(期末に試験を行うこともある)

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 中野幸一編『紫式部日記・付紫式部集』(武蔵野書院)
- ◇ 秋山虔編『黒川本紫日記(上)』(笠間書院)
- ◇ 秋山虔編『黒川本紫日記(下)』(笠間書院)

【参考書】

- ◇ 『原典をめざして-古典文学のための書誌』(笠間書院)
- ◇ 『日本古典籍書誌学辞典』(岩波書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219291>

【連絡先】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 10時10分から11時55分)

日本文学基礎研究 III (前期)

2 単位
2 年 (前期, 集中), 3 年 (前期, 集中)
鳥羽 耕史・准教授/人間文化学科, 衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 1950 年代は、商業紙誌、サークル誌、映画、テレビ、演劇、絵画、紙芝居、幻灯など、様々なメディアで「記録」が展開された時代であった。ここでは、必ずしも「マス(大量の)」受け手に向けられたものではないが、「マス(大衆)」としての受け手を志向したメディアにおける「記録」を紹介しながら、その今日的意義を考えてみたい。

【授業概要】 プリントや映像を教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

【キーワード】 文学, 映画

【関連科目】 『日本文学演習 III』(1.0, ⇒32 頁)

【履修上の注意】 授業時に発言を求めているので、指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと。

【到達目標】 豊かな「記録」の遺産に触れ、客観的で中立なものという既成概念を超えた「記録」の可能性を理解できるようになる。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 1950 年代概論 3. サークル詩の「記録」 4. 生活記録運動と幻灯 5. 国民的歴史学運動と紙芝居 6. ルポルタージュの実験 7. ルポルタージュ絵画の展開 8. 岩波映画のドキュメンタリー 9. テレビドラマと「記録」(1) 10. テレビドラマと「記録」(2) 11. ダムをめぐる「記録」(1) 12. ダムをめぐる「記録」(2) 13. ダムをめぐる「記録」(3) 14. 基地をめぐる「記録」 15. まとめ 16. レポート

【成績評価】 出席確認を兼ねた毎回の小レポート、授業内での質疑応答(予習の確認)、授業内での議論への参加、期末レポートにより総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 特に指定しない。教材として映像やプリントを使用する。

【参考書】 鳥羽耕史『1950 年代「記録」の時代』(河出書房新社, 2010 年) など。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218935>

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。), toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間の直後)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学基礎研究 III (後期)

2 単位
2 年 (後期, 集中), 3 年 (後期, 集中)
鳥羽 耕史・准教授/人間文化学科, 衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 「近代文学の終り」(柄谷行人)が語られる中、「現代文学」が何であるのかは、文学観が問われる問題である。ここでは、「近代文学」の延長線上にある「現代文学」として考えられるのが、とりあえず「昭和」の文学であると仮定して、「昭和文学史」を再検討してみたい。授業の中では、それぞれの時代の文学をプリントで紹介しつつ、「文学史」の展開を考えていきたい。

【授業概要】 プリントを教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

【キーワード】文学

【先行科目】『日本文学基礎研究 III (前期)』(0.2, ⇒28頁)

【関連科目】『日本文学演習 III』(0.2, ⇒32頁), 『アジアの近代』(0.2, ⇒5頁)

【履修上の注意】授業時に発言を求めないので、指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと。

【到達目標】『昭和文学史』の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる。

【授業計画】1. ガイダンス:「昭和文学」と「現代文学」 2. 関東大震災と「昭和」のはじまり 3. モダニズム文学 4. プロレタリア文学 5. 転向文学と「文芸復興」 6. 戦時下の文学 (1) 7. 戦時下の文学 (2) 8. 戦後の文学 (1) 9. 戦後の文学 (2) 10. 戦後の文学 (3) 11. 高度成長期の文学 (1) 12. 高度成長期の文学 (2) 13. 高度成長期の文学 (3) 14. 1980年代の文学 15. 「昭和文学史」再考 16. レポート

【成績評価】出席確認を兼ねた毎回の小レポートと授業時の発言、期末レポートにより総合的に評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】特に指定しない。教材としてプリントを配布する。

【参考書】年表の会編『近代文学年表』(双文社出版, 2002年増補4版), 『新潮日本文学アルバム別巻 昭和文学アルバム 1・2』(新潮社, 1986-87年) など。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218936>

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。), toba@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 授業時間の直後)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史研究 I

2単位 2年(後期), 3年(後期)
桑原 恵・教授/人間文化学科

【授業目的】日本の古代から近代に至る歴史を概説的に講義する。日本史の通史的な流れを理解する。

【授業概要】古代から近代までの日本史について、トピック的に史料を提示して、社会の変化を理解し、史料にもとづいて歴史的事実を確認することについて考察する。四国や徳島の事例を取り入れることで、地域への理解を深めるように努める。

【キーワード】日本史, 通史

【関連科目】『日本史研究 II』(0.5, ⇒29頁)

【履修上の注意】史料を配布して、講義を進めるが、受講生の意見や質問も受けながら、講義を進めたい。積極的に講義に参加されることを期待する。

【到達目標】

1. 日本の通史を理解する。
2. 社会の変化がどのような要因でなされたかを理解する。

【授業計画】1. クニから国家へ(大王の国家) 2. 律令国家の成立 3. 平安朝の政治と宗教勢力 4. 荘園制の成立と展開 5. 武家政治の展開 6. 鎌倉新仏教の登場 7. 南北朝の内乱と室町幕府 8. 室町幕府の政治と外交 9. 一揆の展開 10. 自力の時代 11. 豊臣政権の成立 12. 江戸時幕府の確立と支配 13. 近世の都市と農村 14. 近世社会の変動と明治維新 15. 総括授業

【成績評価】出席状況に加えて、平常点としての小テストを2回程度行い、期末テストの成績を合わせて、総合的な評価を行う。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書や参考書は、特に指定しない。講義に使用するプリントは適宜配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219288>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールでの連絡があれば、時間調整します。 [megumi@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:megu mi@ias.tokushima-u.ac.jp))

日本史研究 II

2単位 2年(前期), 3年(前期)
衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】日本中世史における重要な問題点を取り上げ、歴史的な背景や意義を考察する。平安時代を中心に、政治・経済上の特質や、世俗社会が被った影響などについて理解した上で、平安時代の歴史的特質を把握することを目標とする。

【授業概要】平安時代の権力を構成した公家・武家・寺家、その支配をうけた民衆など、平安時代を生きた人々の具体的な動きや考え方について知り得る史料を読み、そこから平安時代史を具体的に復元する。

【キーワード】中世史, 平安京, 皇統, 祈り

【関連科目】『日本史基礎研究 II』(0.5, ⇒33頁)

【履修上の注意】史料にもとづいて講義する。わかりやすく解説するつもりであるが、各自でも予習・復習や質問等によって、その内容理解に努めてほしい。

【到達目標】中世における人々の考え方やその背景となる社会的土壌について、歴史的に考察できるようになること。

【授業計画】1. 夜の平安京—盗賊と武士 2. 肉と米—ケガレと禁忌 3. 様々な呪い—効果と対処法 4. 誓いを破ったら—神仏の罰 5. 人間を越える力—見えない恐怖 6. ぜいたくは敵か—過差の背景 7. 珍しい輸入品—対外貿易 8. 病氣とたたかう—病因と治療 9. 死んだらどうなるか—死体・墓・後生 10. 災害発生—被害と対応 11. うわさの話—情報の伝達 12. 宮中スキャンダル—人間関係と政治 13. 二人の秀才—信西と頼長 14. 合戦の実像—源平争乱と社会 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】古代・中世日本史上の諸問題を素材として、その特質を歴史的に考察し把握すると同時に、歴史学が考える学問であることを理解しているかどうかについて、期末テストおよび平常点(授業中に行うミニレポート等も含む)によって評価する。

【再試験】なし

【教科書】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219289>

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分~12時)

日本考古学研究

2単位 2年(前期)
中村 豊・准教授/埋蔵文化財調査室, 遠部 慎・助教/埋蔵文化財調査室

【授業目的】日本の考古学について、そのアウトラインを概観する。現状と課題をふまえ、今後の研究活動の参考とする。

【授業概要】日本考古学、原始時代から中世・近世まで、研究の現状を把握する。 ついで、いくつかのテーマを選択して、関連する徳島県内の遺跡を訪問し、フィールドワークをおこなう。

【キーワード】日本考古学, フィールドワーク

【関連科目】『考古学基礎研究』(0.5, ⇒35頁)

【到達目標】受動的に講義を受けるだけではなく、自ら問題点を見出し、行動する姿勢を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 旧石器・縄文時代の考古学 3. 縄文時代の考古学 4. 縄文から弥生へ 5. 弥生時代の考古学 6. 邪馬台国の時代 7. 古墳時代の考古学 8. 歴史時代の考古学 9. 徳島の遺跡について 10. フィールドワーク1 博物館見学 11. フィールドワーク2 徳島県内の遺跡めぐり1 12. フィールドワーク2 徳島県内の遺跡めぐり2 13. フィールドワーク2 徳島県内の遺跡めぐり3 14. フィールドワーク2 徳島県内の遺跡めぐり4 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】授業への取り組み状況と、学期末のレポートによる。

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業中に随時紹介

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218919>

【連絡先】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 蔵本地区埋蔵文化財調査室にて随時)
⇒ 遠部 (088-633-7236,)

【備考】土日に振替でフィールドワークをおこなうことがある。その際は、動きやすい服装が必要である。日程調整はおこなうが、土日いずれかの予定は空いていることが望ましい。

アジア考古学研究

2単位 2年(前期)
東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】近代のアジアにおける鳥居龍蔵の考古学的・人類学的調査研究の軌跡をたどる。

【授業概要】鳥居龍蔵の、中国東北地方、シベリヤ、樺太、朝鮮、台湾、西南中国などアジア各地における考古学的・人類学的調査研究の意義をあきらかにする。

【キーワード】鳥居龍蔵

【履修上の注意】なし。

【到達目標】アジアの歴史と文化へ認識を高める。アジア太平洋戦争を考える。

【授業計画】1. 鳥居龍蔵の考古学的・民族学 2. 鳥居龍蔵と東北アジア考古学 3. 鳥居龍蔵の大興安嶺諸民族調査 4. 鳥居龍蔵の黒龍江(アムール)調査 5. 鳥居龍蔵とサハリン(樺太)・千島・アイヌ 6. 鳥居龍蔵と西南中国(貴州・雲南省)の諸民族 7. 鳥居龍蔵の台湾調査 8. 鳥居龍蔵の朝鮮調査 9. 鳥居龍蔵の東北アジア考古学—支石墓 10. 鳥居龍蔵の東北アジア考古学—高句麗 11. 鳥居龍蔵の東

北アジア考古学—渤海・遼・金 12. 鳥居龍蔵と遼の歴史と文化—遼の皇帝陵と壁画 13. 鳥居龍蔵の東北アジア研究—遼の都城と寺院 14. 鳥居龍蔵の朝鮮調査—楽浪・帯方郡・三韓 15. 鳥居龍蔵の朝鮮調査—済州島の民族 16. 鳥居龍蔵のアジア踏査行と現在

【成績評価】 レポートによる。

【再試験】 おこなわない。

【教科書】

- ◇ 東潮 2009 「鳥居龍蔵のアジア踏査行」(『人間社会文化研究』17)
- ◇ 資料配付

【参考書】 『鳥居龍蔵全集』朝日新聞社, 中園英助『鳥居龍蔵伝』岩波書店, 徳島県立博物館『鳥居龍蔵の見たアジア』

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218333>

【連絡先】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時, 考古学研究室でおこなう。)

地誌学

2 単位 2 年 (前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 伝統的生活空間である村落の成立は, 土地開発の歴史と深く関連している。この授業では, 日本および欧米等における土地開発の進展と村落の立地・特徴について代表的な事例を取り上げ, 歴史地理学的・集落地理学的な視点から総観するものである。また, こうした事例を通じて, 人間と自然との関わりや, 東西文化の共通点や相違点についても論じていくことにしたい。

【授業概要】 日本および欧米の村落

【キーワード】 地理学, 地誌学, 村落

【履修上の注意】 この授業科目は, 教員免許取得 (中学校・社会/高校・地歴) のための科目でもある。旧カリキュラムの「日本地誌」もしくは「欧米地誌」の, いずれか 1 科目への読み替えが可能である。本授業では随時, OHP やパワーポイントなどを使用するが, ノートの取り方は各自が工夫すること。

【到達目標】 日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について, 時間的・空間的な展開の中で理解するとともに, 地域的な差異の特徴について把握できるようにすること。

【授業計画】 1. 村落の定義 2. 村落の立地環境 3. 村落の形態 4. 古代日本の土地開発と条里制 5. 古代日本の集落形態 6. 中世起源の環濠集落と豪族屋敷村 7. 散村地域の形成と展開 8. 近世日本の新田開発 9. 北海道の開発と植民地区画 10. 古代中国 ローマにおける方格地割 11. ヨーロッパにおける集落形態 12. 耕区制と三圃式農業 13. 中世大開墾時代の開拓村 14. 囲い込み運動と散居農場 15. 北米フロンティアのタウンシップと散居農場 16. 授業のまとめ

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが, 授業中に数回行う小テストや課題, 授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と, 期末試験 (持ち込み不可) 結果による評価を併用して行う。

【再試験】 再試験はない。

【教科書】 とくに教科書は使用せず, 必要な資料は随時配布する。中学校もしくは高校で使用した地図帳を準備しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219200>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館中棟1階 火・金曜日12:00~13:00)

【備考】 平成 23 年度開講。隔年開講のため, 平成 24 年度は開講しない。

博物館概論

2 単位 2 年 (前期)
一山 典・非常勤講師, 東潮・教授/人間文化学科

【授業目的】 博物館の役割と学芸員の活動について概観する。博物館の学芸業務の収集保存, 調査研究, 展示公開, 普及教育などについて学ぶ。博物館資料の取り扱いやその方法について理解する。また博物館をめぐる諸問題について個々に取り上げ, その解決の方向性を探る。

【授業概要】 博物館の活動とその課題

【履修上の注意】 授業は主に講義形式でおこなうが, 博物館を見学してのレポートを課す。

【到達目標】 博物館とは何か, 学芸員の役割について理解する。

【授業計画】 1. 1. 博物館の成り立ちとその種類 2. 2. 博物館法と関連法案 3. 3. 博物館における学芸業務 4. 4. 展示公開 5. 5. 収集保存 6. 6. 調査研究 7. 7. 教育普及 8. 8. 展示公開 9. 9. 資料の取り扱いとその方法 (展示更新) 10. 10. 資料の取り扱いとその方法 (展示評価) 11. 11. 地域博物館とその役割 12. 12. 博物館と学校教育 13. 13. 開かれた博物館 14. 14. 博物館学芸員の課題 15. 15. テスト

【成績評価】 出席および博物館を見学してのレポートと期末のテストで評価をおこなう。

【再試験】 おこなわない。

【教科書】 とくに使わない。

【参考書】 徳島博物館研究会編『地域に生きる博物館』, 歴史学と博物館のあり方を考える会編『現場から』等を参考としてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219137>

【連絡先】

⇒ 一山 . . . (オフィスアワー: 授業終了後におこなう。)
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

博物館資料論

2 単位 2 年 (前期, 集中)
千田 稔・非常勤講師, 東潮・教授/人間文化学科

【授業目的】 博物館は, 無思想的に展示するのではなく, 展示する側のコンセプトを示すには, どのような方法があるのか。

【授業概要】 事例として, 日本古代の自然観と展示について考える。

【キーワード】 『古事記』, 『日本書紀』, 『万葉集』, 『風土記』, 『自然観』『宗教』

【履修上の注意】 単に学芸員の資格を取るだけを目指すのではなく, 自らが博物館を通して, 何を発信できるかということに関心を持てる態度で講義に臨むこと。

【到達目標】 オリジナルでユニークな博物館づくりについて自らの考えをもつこと。

【授業計画】 1. 日本古代の「自然」とは? 2. 神話の中から自然観を探る—海— 3. 神話の中から自然観を探る—山— 4. 神話の中から自然観を探る—植物— 5. 神話の中の自然観を展示するには? 6. 記紀の歴史叙述において語られる自然観 (1) 7. 記紀の歴史叙述において語られる自然観 (2) 8. 『万葉集』によまれた自然観 (1) 9. 『万葉集』によまれた自然観 (2) 10. 『播磨国風土記』にみる自然の叙述 11. 『出雲国風土記』にみる自然の叙述 12. 『常陸国風土記』にみる自然の叙述 13. 『豊後国風土記』にみる自然の叙述 14. 『肥前国風土記』にみる自然の叙述 15. 日本古代における自然観の成立 16. 自然観を展示する方法

【成績評価】 レポート

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【参考書】 講義中に資料を配布

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219139>

【連絡先】

⇒ 千田 . . .
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

博物館特論

2 単位 2 年 (後期, 集中)
未定, 東潮・教授/人間文化学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219138>

【連絡先】

⇒ 未定
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 23 年度に博物館特論は開講しない。博物館資料論は開講。

日本語演習 I

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】 地域方言のフィールドワークを行い, 得られたデータの分析を行う。

【授業概要】 地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする。日本語諸方言の音韻・アクセント・文法・語彙などの特色を把握する。前期後半では, フィールド調査に関する調査票の作成, フィールド調査の方法等について学ぶ。夏期休業中期間等を利用し, フィールドワークを実施する予定である。現段階で調査地域は未定である。ちなみに, 10 年度は三重県志摩地方に 3 泊 4 日の調査に出かけた。調査地域は, 受講生の意見を尊重して決める予定である。後期では, エクセル, 音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ, 受講生全体での共同作業として, 調査票の整理, データ入力を行ったあと, 各調査項目の分担を決め, 各自発表を行うことにする。また, 年度末には調査報告書を各自が担当して刊行する予定である。

【履修上の注意】 夏休み (昨年度は 9 月下旬に実施) を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】 表計算及び統計ソフトを利用した言語変異の分析と方法の習得

【授業計画】 1. 方言調査とは? 2. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 1. 3. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 2. 4. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 3. 5. 各グループによる調査票の準備と検討 1. 6. 各グループによる調査票の準備と検討 2. 7. 各グループによる調査票の準備と検討 3. 8. グループ毎で調査項目の作成 1. 9. グループ毎で調査項目の作成 2. 10. グループ毎で調査項目の作成 3. 11. 各自 (各グループ)

による録音機器類の操作方法の習得。12. 各グループ毎で話者を幹旋してもらうため、調査地へ連絡をとる。13. 調査票全体の作成。14. 調査票全体の作成。15. 調査票全体の印刷。16. 調査のしよりの作成と調査の実施。

【成績評価】成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること。調査への参加は出席点に加える。

【再試験】無

【教科書】

- ◇教科書:特に指定しない。
- ◇教材:授業でプリントを配布する。
- ◇参考書:西日本諸方言に関する必要な論文、データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219295>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館1階南棟656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。

日本語演習 I

2単位 3年(後期), 4年(後期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】日本の一地域においてフィールドワークを行い、調査によって得られたデータの処理の方法として、「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ。

【授業概要】後期では、エクセル、音声ソフトなどのソフトの操作法を学習しつつ、受講生全体での共同作業として、調査票の整理、データ入力を行ったあと、各調査項目の分担を決め、データの分析を通じて、各自発表を行うことにする。また、年度末には調査報告書を各自が担当して刊行する予定である。

【履修上の注意】夏休み(昨年度は9月下旬に実施)を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】野外での方言調査を通じて、生きた方言に触れる

【授業計画】1. 臨地方言調査の総括と反省 2. データ整理 1. 3. データ整理 2. 4. データ整理 3. 5. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 1. 6. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 2. 7. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 3. 8. 発表の分担の打ち合わせ 1. 9. 発表の分担の打ち合わせ 2. 10. 各自(各グループ)による研究発表 1 11. 各自(各グループ)による研究発表 2 12. 各自(各グループ)による研究発表 3 13. 各自(各グループ)による研究発表 4 14. 各自(各グループ)による研究発表 5 15. 全体的にデータを見渡し、特徴的な結果について整理する。 16. レポート等、報告書の作成。

【成績評価】成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること。調査への参加は出席点に加える。

【再試験】無

【教科書】

- ◇教科書:特に指定しない。
- ◇教材:授業でプリントを配布する。
- ◇参考書:日本の諸方言に関する必要な論文、エクセル操作マニュアル等を授業で紹介したい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218910>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館1階南棟 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。

日本語演習 II (前期)

2単位 3年(前期), 4年(前期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】中世前期日本語の文献資料解説を通して、日本語研究の方法を身につける。自ら調査する過程に於いて、辞書、先行研究、その他参考文献等の適切な利用方法、探索方法を学ぶ。

【授業概要】『宇治拾遺物語』を対象とし、各説話の解説(現代語訳)を、正確に行いながら、同時に、特定の語について深く掘り下げる。受講者は、それぞれ分担の説話と、自らが設定したテーマについての調査結果を発表する。

【キーワード】宇治拾遺物語集、説話、中世日本語

【履修上の注意】特になし。

【到達目標】

1. 大型辞書の適切な利用と評価ができるようになる。
2. 古典文法の基礎的知識を活かしながら、日本語の変化に気付く。
3. 先行研究を効率的に探索し、有効に利用できる。

【授業計画】1. 授業の進め方について説明し、各人の分担を決める。2. 『宇治拾遺物語』から巻第6を順次検討してゆく。3. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。4. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。5. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。6. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。7. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。8. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。9. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。10. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。11. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。12. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。13. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。14. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。15. 『宇治拾遺物語』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。16. まとめ

【成績評価】出席、発表、授業参加の意欲などを総合して評価する(50%)。また、発表内容にもとづくレポートを合わせて評価する(50%)。

【再試験】なし

【参考書】各自、『宇治拾遺物語』を用意すること。文庫本でもよい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218911>

【連絡先】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~18時ほか随時。)

日本語演習 II (後期)

2単位 3年(後期), 4年(後期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】近世初期の言葉の教育の書である『かたこと』の語彙、記述を検討することを通して、情報に乏しい方言集を利用して語彙を研究する方法を知り、その力を養う。

【授業概要】『かたこと』の解説を通して、近世初期京都方言と現代の方言との関係を検討する。

【履修上の注意】特になし。

【到達目標】国語辞典、方言集、またその他のさまざまな言語資料を利用しながら、言葉についての記述に適切な評価をし、正しい結論を導き出せる。

【授業計画】1. 『片言』について概説。授業の進め方を説明し、分担を決める。2. 『片言』の始めの部分の解説。3. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。4. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。5. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。6. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。7. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。8. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。9. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。10. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。11. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。12. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。13. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。14. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。15. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。16. レポート作成

【成績評価】出席、発表、授業参加の意欲などを総合して評価する(60%)。また、発表内容にもとづくレポートを合わせて評価する(40%)。

【再試験】なし

【教科書】テキストは、コピーを配布。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218912>

【連絡先】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~18時ほか随時。)

日本文学演習 I

4単位 3年(通年), 4年(通年)
原水 民樹・教授/人間文化学科

【授業目的】中世期、多くの年代記が作られた。年代記とは、現在でいえば、歴史年表のようなものである。これらは、一見事柄の無味乾燥な羅列のようだが、文学作品と密接にかかわっている。当該授業では、年代記の一つである神皇正統録を対象とし、典拠の問題・固有性など多方面から検討を加える。

【授業概要】該授業においては、注釈作業を基盤とし、各話の分析を行う。授業は演習形式で、時間ごとに担当となった受講生が事前に資料を作成し、それに基づいて発表し、全員で討議する形で進める。

【キーワード】年代記、神皇正統録、歴史と文学、伝承

【先行科目】『日本語基礎研究 II』(1.0)、『日本文学基礎研究 II』(1.0, ⇒28頁)、『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒33頁)

【関連科目】『日本史演習 II』(0.5), 『日本語演習 II』(0.5), 『日本文学演習 II』(0.5)

【履修上の注意】注釈書はないので、辞書類その他多くの史資料を幅広く調査することが要求される。演習を担当する学生は資料を作成して授業に臨まなければならない。具体的な方法については、最初の数時間を用いて説明する。

【到達目標】

1. 古代人の歴史認識に対する理解を得る。
2. 歴史と文学の境界あるいは関わりの問題を考える契機とする。

【授業計画】1. 年代記および神皇正統録についての解説 2. 平城・嵯峨天皇時代の記事についての検討 3. 淳和・仁明天皇時代の記事についての検討 4. 文徳・清和天皇時代の記事についての検討 5. 陽成・光孝天皇時代の記事についての検討 6. 宇多・醍醐天皇時代の記事についての検討 7. 朱雀・村上天皇時代の記事についての検討 8. 冷泉・円融天皇時代の記事についての検討 9. 花山・一条天皇時代の記事についての検討 10. 三条・後一条天皇時代の記事についての検討 11. 後朱雀・後冷泉天皇時代の記事についての検討 12. 後三条・白河天皇時代の記事についての検討 13. 堀河・鳥羽天皇時代の記事についての検討 14. 崇徳・近衛天皇時代の記事についての検討 15. まとめ 16. レポート

【成績評価】演習形式の授業を根幹とし、それらについての評価(50%)及び期末のレポートに受講姿勢(50%)を勘案して行う。

【再試験】行わない

【教科書】当方でプリントを用意する。

【参考書】当方で用意する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219294>

【連絡先】

⇒ 原水 (1号中棟1階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14時30分~15時30分)

日本文学演習 II

4単位 3年(通年), 4年(通年)
堤和博・准教授/人間文化学科

【授業目的】日本古典文学作品の解釈力の養成

【授業概要】日本文学の表現論のうちから、古代の引歌表現を取り上げて解釈力を養うことを目的とする。引歌表現とは、古歌の一部を引用し、引用しなかった部分をきかせる、というような表現技巧を普通指す。しかし、その有様は様々ではなく、今述べた定義ではとうてい収まりきれないものも多い。様々な引歌表現を取り上げ、その特徴を浮き彫りにしながら解釈していく。なお、前期においては、引歌表現に入る前に、古典を解釈するための基本的な知識・方法について演習する。具体的には、当時の資料及び現在の辞書・注釈書・索引類等を参考にしながら解釈していく方法を身につけるようにする。ところで、演習は、担当者が充実した内容の調査・考察を行うことを目指すのは勿論のこと、それを他の受講者に分かり易く説明するところまでが目標となる。したがって、レジュメの作り方・発表の仕方などについても、担当者個々の創意工夫と努力を求める。

【キーワード】日本古代文学, 引歌表現, 解釈

【先行科目】『日本文学基礎研究 II』(1.0, ⇒28頁)

【履修上の注意】単に注釈書を読み、辞書を引くだけの解釈をするのではない。また、第1回目を除く各回担当者は、前回担当者よりもレベルの高い発表を目指すこと。受講者の人数・希望(卒業研究の予定テーマ)等を勘案し、上記内容等に変更を生じる場合もある。ただその場合も、古典文学の解釈力を養うという目的に変更はない。

【到達目標】引歌表現の解釈力を付ける

【授業計画】1. 古典解釈法の基本 1-辞書の使い方 2. 古典解釈法の基本 2-用例の集め方 3. 古典解釈法の基本 3-帰納的解釈法 4. 担当者発表 1-『土左日記』 5. 担当者発表 2-『伊勢物語』 6. 担当者発表 3-『大和物語』 7. 担当者発表 4-『平中物語』 8. 担当者発表 5-『蜻蛉日記』上巻 9. 担当者発表 6-『蜻蛉日記』中巻 10. 担当者発表 7-『蜻蛉日記』下巻 11. 担当者発表 8-『源氏物語』第一部 12. 担当者発表 9-『源氏物語』第二部 13. 担当者発表 10-『源氏物語』第三部 14. 担当者発表 11-『狭衣物語』前半 15. 担当者発表 12-『狭衣物語』後半 16. レポートに関する注意 17. 引歌表現解釈法の基本 1-『土左日記』 18. 引歌表現解釈法の基本 2-『蜻蛉日記』 19. 引歌表現解釈法の基本 3-『源氏物語』 20. 担当者発表 13-担当者 13が自ら探し出した引歌表現以下は、取り上げるべき箇所を受講者が古文学の主要な作品中から見つけ出すところから課題とする。従って、以下何を取り上げるかは受講者の判断によるので、ここでそれを具体的に示すことは出来ない。 21. 担当者発表 14-担当者 14が自ら探し出した引歌表現 22. 担当者発表 15-担当者 15が自ら探し出した引歌表現 23. 担当者発表 16-担当者 16が自ら探し出した引歌表現 24. 担当者発表 17-担当者 17が自ら探し出した引歌表現 25. 担当者発表 18-担当者 18が自ら探し出した引歌表現 26. 担当者発表 19-担当者 19が自ら探し出した引歌表現 27. 担当者発表 20-担当者 20が自ら探し出した引歌表現 28. 担当者発表 21-担当者 21が自ら探し出した引歌表現 29. 担当者発表 22-担当者 22が自ら探し出した引歌表現

表現一 30. 担当者発表 23-担当者 23が自ら探し出した引歌表現一 31. 担当者発表 24-担当者 24が自ら探し出した引歌表現一 32. 担当者発表 25-担当者 25が自ら探し出した引歌表現一

【成績評価】発表の出来映え、及び、レポート

【再試験】無

【教科書】なし

【参考書】

- ◇ 『角川古語大辞典』(角川書店)
- ◇ 『日本国語大辞典』、『同』第二版(小学館)
- ◇ 小学館『古語大辞典』
- ◇ 角川書店『新編国歌大観』

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219292>

【連絡先】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 10時10分から11時55分)

日本文学演習 III

4単位 3年(通年), 4年(通年)

野口哲也・/鳴門教育大学, 衣川仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】映画や小説を読み解く作業を通じ、応用可能な文化研究および近代文学研究の基礎を身につけてもらうことを目的とする。

【授業概要】夢や異界・非日常に関わる近現代の文学作品をとりあげ、それらを原作とした映画とも比較しながら分析・考察を加える。毎回担当者を決めて研究発表を行い、それに基づいて全員で討議を行う。

【キーワード】文学

【先行科目】『日本文学基礎研究 III (前期)』(0.1, ⇒28頁)

【関連科目】『日本文学基礎研究 III (後期)』(0.0, ⇒28頁)

【履修上の注意】発表者以外もあらかじめ各作品を熟読して臨み、活発な議論の場を作るよう心がけること。取り上げる作品や発表担当の回数については、受講者の人数や関心の所在を確かめたうえで調整することがある。

【到達目標】

1. 文化研究、近代文学研究の基礎を身につける。
2. 映画や文学についての知識を深める。

【授業計画】1. 映画と文学についてのガイダンスと担当者決定。以下の作品について担当者を決めて発表してもらおう。テキストは変更もあり得る。 2. テーマ設定、調査方法、発表方法概論 3. 図書館の使い方、文献資料探索実習 4. 森鷗外「舞姫」 5. 森鷗外「山椒大夫」 6. 夏目漱石「夢十夜」 7. 夏目漱石「こころ」 8. 泉鏡花「外科室」 9. 泉鏡花「草迷宮」 10. 谷崎潤一郎「刺青」 11. 谷崎潤一郎「春琴抄」 12. 室生犀星「あにいもうと」 13. 室生犀星「蜜のあはれ」 14. 内田百閒「東京日記」 15. 内田百閒「サラサーテの盤」 16. 芥川龍之介「南京の基督」 17. 芥川龍之介「藪の中」 18. 江戸川乱歩「押絵と旅する男」 19. 宮沢賢治「風の又三郎」 20. 川端康成「狂った一頁」 21. 川端康成「眠れる美女」 22. 坂口安吾「白痴」 23. 坂口安吾「桜の森の満開の下」 24. 福永武彦「廃市」 25. 安部公房「砂の女」 26. 安部公房「他人の顔」 27. 三島由紀夫「金閣寺」 28. 三島由紀夫「憂国」 29. 大江健三郎「飼育」 30. 村上春樹「風の歌を聴け」 31. 村上春樹「ノルウェイの森」 32. レポート

【成績評価】発表内容、討議への参加度、レポート、出席状況等により総合的に評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使わない。文庫本などで入手しにくく図書館にもない小説については教材プリントを配布するが、手軽に買えるものは購入すること(最初に指示する)。参考書は適宜指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219293>

【連絡先】

⇒ 野口 (noguchi@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業直後の時間帯)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史基礎研究 I

2単位 2年(前期), 3年(前期)

桑原恵・教授/人間文化学科

【授業目的】本講義では、近世から近代の歴史史料の解説を行い、歴史史料を分析する力を養うことを目的とする。史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようにしたい。また、文献資料と地方史料の両方を史料として使用し、古文書を解読する力(すなわちくずし字の解読)も身につけるようにしたい。

【授業概要】日本近世史料の解説、分析による実証方法の修得。特に、吉野川に関する史料を解説し、江戸時代の吉野川をめぐる歴史や文化を理解できるようにする。

【キーワード】古文書, 日本近世史, 歴史史料, くずし字

【先行科目】『日本史研究 I』(0.5, ⇒29頁)

【関連科目】『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒33頁)

【履修上の注意】受講生が十分に予習復習することによってしか、古文書読解の能力を身につけることは出来ない。また、くずし字の読解という初めての経験に対して、真摯に努力する態度で受講して欲しい。

【到達目標】日本近世の古文書史料を、解説し、分析する能力を習得すること。

【授業計画】1. 古文書を扱う際の注意事項、古文書に関する基礎知識について 2. 近世～近代の各時期の翻刻された史料について文献史料を取り上げ、その解釈を行う。 3. 【例】 4. 村の文書 1:金銀借書など 5. 村の文書 2:村掟など 6. 領主の文書 1:幕府の法令・お触れなど 7. 領主の文書 2:江戸市中の取締書など 8. 藩の史料 1:お触れなど 9. 記録の史料を読む:地震の記録など 10. 領主へ提出した文書を読む 1:お願い書など 11. 領主へ提出した文書を読む 2:五人組帳など 12. 史料を解釈する 1:裁判史料について 13. 史料を解釈する 2:記録から理解できることなど 14. 史料を解釈する 3:お願い書などから理解できること 15. 総括授業

【成績評価】出席状況、平常点としての小テストを数回程度行い、期末テストの成績との総合的な評価を行う。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ くずし字の辞書として、『増訂近世古文書解読辞典』柏書房、と『図録・古文書入門事典』柏書房、を薦める。但し、すでにくずし字の辞書を持っている学生は購入の必要はない。
- ◇ 講義で使用するプリント類は、適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219282>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールで連絡して下されば、時間は調整します。megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史基礎研究 I

2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)
桑原 恵 教授/人間文化学科

【授業目的】本講義では、近世から近代の歴史史料の読解を行い、歴史史料を分析する力を養うことを目的とする。史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようにしたい。また、文献資料と地方史料の両方を史料として使用し、古文書を解読する力(すなわちくずし字の読解)も身につけるようにしたい。

【授業概要】日本近世史料の読解、分析による実証方法の修得。

【キーワード】古文書、日本近世史、歴史史料、くずし字

【先行科目】『日本史研究 I』(0.5, ⇒29 頁)

【関連科目】『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒33 頁)

【履修上の注意】受講生が十分に予習復習することによってしか、古文書読解の能力を身につけることは出来ない。また、くずし字の読解という初めての経験に対して、真摯に努力する態度で受講して欲しい。

【到達目標】日本近世の古文書史料を、解説し、分析する能力を習得すること。

【授業計画】1. 古文書を扱う際の注意事項、古文書に関する基礎知識について 2. 近世～近代の各時期の史料で翻刻された文献史料を取り上げ、その解釈を行う。 3. くずし字を読む 1:村の記録など 4. くずし字を読む 2:農民同士の争い 5. くずし字を読む 3:領主へのお願い 6. くずし字を読む 4:町の記録 7. くずし字を読む 5:町人の生活に関する記録 8. くずし字を読む 6:藩のお触れを読む 9. くずし字を読む 7:藩の記録を読む 10. くずし字を読む 8:藩の裁判記録を読む 11. くずし字を読む 9:商人の記録を読む 12. くずし字を読む 10:流通の史料を読む 13. くずし字を読む 11:明治初期の徳島の史料を読む 14. くずし字を読む 12:明治初期の政治運動の史料を読む 15. 総括授業

【成績評価】出席状況、平常点としての小テストを数回程度行い、期末テストの成績との総合的な評価を行う。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ くずし字の辞書として、『増訂近世古文書解読辞典』柏書房、と『図録・古文書入門事典』柏書房、を薦める。但し、すでにくずし字の辞書を持っている学生は購入の必要はない。
- ◇ 講義で使用するプリント類は、適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219283>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールで連絡をいただければ時間調整します。megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史基礎研究 II

2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
衣川 仁 准教授/人間文化学科

【授業目的】史料の正確な読解は、歴史を学ぶ上で欠かせない作業であり、特に日本史の分野においてももっとも重視されるのは、古文書の読解である。古文書に書かれた内容について、様式等を踏まえて正確に理解することを目標とし、加えて原史料から得られる古代・中世社会の歴史的特質についても考察する。

【授業概要】配布する古代・中世古文書のコピーを読解する。くずし字の読みと、意味や様式の把握を行う。

【キーワード】古文書、史料、くずし字

【関連科目】『日本史演習 II』(0.5, ⇒34 頁), 『日本史研究 II』(0.5, ⇒29 頁)

【履修上の注意】古文書を読むためには、少なくとも高校レベルの漢文読解力・知識が要求される。各自で復習しておくことが望ましい。

【到達目標】古文書の読解;「読み」(字の読解・訓点)と「理解」(意味・様式の把握)

【授業計画】1. 古文書を読むために 2. 信濃国難掌申状を読む 3. 足利尊氏の花押 4. 寄進状・売券と土地 5. 御判御教書を読む 6. 武士と貴族の下文 7. 史雑決断所際と裁判 8. 軍忠状と着到状 9. 祈りの文書 10. 官符を読む(1)―引用の中の引用― 11. 官符を読む(2)―朝廷の命令系統― 12. 請文と起請文 13. 関連する文書を読む 14. 中世社会と古文書 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】定用意する古文書の正確な読解(「文字の読み」と「内容の理解」)ができてきているかどうか、学期末に行うペーパーテストを中心に評価するが、平素の授業での取り組みも勘案する。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ なし。こちらでプリントを用意する。
- ◇ 参考書としては、佐藤進一著『新版』古文書学入門』(法政大学出版局、1997年)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219284>

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分～12時)

日本史基礎研究 II

2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)
桑原 恵 教授/人間文化学科

【授業目的】本講義では、近世から近代の歴史史料の読解を行い、歴史史料を分析する力を養うことを目的とする。史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようにしたい。また、文献資料と地方史料の両方を史料として使用し、古文書を解読する力(すなわちくずし字の読解)も身につけるようにしたい。

【授業概要】日本近世史料の読解、分析による実証方法の修得。

【キーワード】古文書、日本近世史、歴史史料、くずし字

【先行科目】『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒33 頁)

【履修上の注意】受講生が十分に予習復習することによってしか、古文書読解の能力を身につけることは出来ない。また、くずし字の読解という初めての経験に対して、真摯に努力する態度で受講して欲しい。

【到達目標】日本近世の古文書史料を、解説し、分析する能力を習得すること。

【授業計画】1. 古文書を扱う際の注意事項、古文書に関する基礎知識について 2. 古文書を扱う際の注意事項、古文書に関する基礎知識について 3. 近世～近代の各時期の史料で翻刻された文献史料を取り上げ、その解釈を行う。 4. くずし字を読む 1:村の記録など 5. くずし字を読む 2:農民同士の争い 6. くずし字を読む 3:領主へのお願い 7. くずし字を読む 4:町の記録 8. くずし字を読む 5:町人の生活に関する記録 9. くずし字を読む 6:藩のお触れを読む 10. くずし字を読む 7:藩の記録を読む 11. くずし字を読む 8:藩の裁判記録を読む 12. くずし字を読む 9:商人の記録を読む 13. くずし字を読む 10:流通の史料を読む 14. くずし字を読む 12:明治初期の政治運動の史料を読む 15. くずし字を読む 12:明治初期の政治運動の史料を読む 16. 総括授業

【成績評価】出席状況、平常点としての小テストを数回程度行い、期末テストの成績との総合的な評価を行う。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ くずし字の辞書として、『増訂近世古文書解読辞典』柏書房、と『図録・古文書入門事典』柏書房、を薦める。但し、すでにくずし字の辞書を持っている学生は購入の必要はない。
- ◇ 講義で使用するプリント類は、適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218930>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールで連絡をいただければ時間調整します。megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史演習 I

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
桑原 恵 教授/人間文化学科

【授業目的】 日本の戦国期から明治維新期にかけての主要な論文を取り上げて、それらの主張点問題点等を検討し、学生が個々の関心にそった研究を進めてゆくための方法や視角などを身につけられるようにする。論文の読解を進めることで、研究史の理解を深め、史料に基づいて議論する能力を養う。また、近世史料の読解能力を高めるために、史料講読も取り入れる。

【授業概要】 日本近世史の史料を解説する能力を身につけ、近世史に関する主要な論文の読解と論評を行う能力を養成する。

【キーワード】 日本近世史、論文演習、史料講読

【先行科目】 『日本史研究 I』(0.5, ⇒29 頁), 『日本史基礎研究 I』(0.5, ⇒32 頁)

【関連科目】 『日本史演習 II』(1.0, ⇒34 頁)

【履修上の注意】 学生の発表を中心に授業を進める。発表者以外の者も、必ず質問・発言をして議論を展開することによって、論文読解の能力を養うようにする。この授業は、「日本史演習 I」(衣川教官担当、火曜日 3-4 講時)と密接に関連させて行い、随時共同授業を行う。日本文化サブコースで、日本史を専攻しようとする学生は両授業を受講することが望ましい。

【到達目標】 日本近世史の史料や論文の内容を理解し、論評できる能力を身につけること。

【授業計画】 1. 演習で取り上げる史料や論文は、開講時にリストを配布して、学生の希望に基づいて担当を決定する。取り上げる分野の例としては、以下の通りである。 2. I. 近世初期政治史関係の論文 3. II. 村落史研究 4. III. 村と支配-非領国地域と領国地域との比較 5. IV. 身分制論の諸研究 6. V. 都市史研究の成果から 7. VI. 思想史研究からの視点 8. VII. 幕末維新研究の成果から 9. VIII. 女性史研究の成果から 10. IX. 地方史に関する諸研究 11. X. 藩政・領主制に関する諸研究 12. 徳島城博物館への見学 13. 徳島城博物館への見学 14. 県立文書館への見学と歴史史料の利用について学習 15. 総括授業

【成績評価】 担当した論文についてまとめるレジュメ、史料等や発表、さらには、演習時の発表や意見の提示などの平常点に基づいて、レポートによって評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義のはじめに詳しく論文のリストを配布し、論文も配布する。参考文献は演習を進めながら 適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219285>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで事前に予定を確認し、日時を合わせて質問に答える形を取る。メールアドレスは、megumi@ias.tokuhsima-u.ac.jp)

日本史演習 I

2 単位 3 年 (後期)、4 年 (後期)

桑原 恵・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本の戦国期から明治維新期にかけての主要な論文を取り上げて、それらの主張点問題点等を検討し、学生が個々の関心にそった研究を進めてゆくための方法や視角などを身につけられるようにする。論文の読解を進めることで、研究史の理解を深め、史料に基づいて議論する能力を養う。

【授業概要】 日本近世史に関する史料や主要な論文の読解と論評を行う能力の養成。

【キーワード】 日本近世史、論文演習

【先行科目】 『日本史研究 I』(0.5, ⇒29 頁), 『日本史基礎研究 I』(0.5, ⇒32 頁)

【関連科目】 『日本史演習 II』(1.0, ⇒34 頁)

【履修上の注意】 学生の発表を中心に授業を進める。発表者以外の者も、必ず質問・発言をして議論を展開することによって、論文読解の能力を養うようにする。この授業は、「日本史演習 II」(衣川教官担当、火曜日 3-4 講時)と密接に関連させて行い、随時共同授業を行う。日本文化サブコースで、日本史を専攻しようとする学生は両授業を受講することが望ましい。

【到達目標】 日本近世史の史料や論文の内容を理解し、論評できる能力を身につけること。

【授業計画】 1. 演習で取り上げる史料や論文は、開講時にリストを配布して、学生の希望に基づいて担当を決定する。取り上げる分野の例としては、以下の通りである。 2. I. 近世初期政治史関係の論文 3. II. 村落史研究 4. III. 村と支配-非領国地域と領国地域との比較 5. IV. 身分制論の諸研究 6. V. 都市史研究の成果から 7. VI. 思想史研究からの視点 8. VII. 幕末維新研究の成果から 9. VIII. 女性史研究の成果から 10. IX. 地方史に関する諸研究 11. 徳島城博物館への見学:展示から学ぶ 12. 徳島城博物館への見学 2:史料を調査する 13. 県立文書館への見学:徳島県に関する資料調査 14. 県立文書館への見学 2:史料の利用について 15. 総括授業

【成績評価】 担当した論文についてまとめるレジュメ、史料等や発表、さらには、演習時の発表や意見の提示などの平常点に加えて、レポートによって評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義のはじめに詳しく論文のリストを配布し、論文も配布する。参考文献は演習を進めながら 適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219286>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールで問い合わせただけであれば、随時対応します。megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史演習 II

2 単位 3 年 (前期)、4 年 (前期)

衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日本古代・中世史を考える上で重要な論文あるいは史料を精読・検討し、そこにあらわれた諸問題に対する理解力と思考力を深める。

【授業概要】 日本古代・中世史上の諸問題を考えるために、重要な論文・史料を取り上げて検討する。各回の担当を決めて報告をしてもらい、それをもとに出席者全員で議論していく。

【キーワード】 日本史、古代史、中世史

【関連科目】 『日本史演習 I』(0.5, ⇒33 頁)

【履修上の注意】 あらかじめ担当を決めて報告を受ける演習形式で進める。報告にはレジュメの作成などの準備をする必要があるが、報告の担当者以外にも十分な予習と発言を求める。この授業は、「日本史演習 I」(桑原教官、火曜 5-6 講時)と密接に関連させて行い、随時共同授業を行う。日本文化研究サブコースで日本史を専攻しようと思う学生は、両授業を必ず受講すること。

【到達目標】 論文・史料を読解し、それに対する自分の意見(評価・批判)をもつこと。

【授業計画】 1. 取り上げる論文テーマの例としては、以下のようなものを予定している。 2. 中世の社会と国家 3. 武士の成立と展開 4. 中世法と裁判の世界 5. 古代・中世の仏教と民衆 6. 荘園制と村落 7. 東アジア世界の秩序と日本 8. 具体的な論文名は授業の中で示す。また以上のテーマに限らず、学生の関心に基づいて素材を決めたい。

【成績評価】 発表内容、議論への参加度などの平常点、レポートの評価。

【再試験】 なし

【教科書】 論文等は、適宜配布する。指定の論文・史料以外にも、参考となるものを広く読む必要がある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219287>

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分~12時)

日本史演習 II

2 単位 3 年 (後期)、4 年 (後期)

衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日本古代・中世史を考える上で重要な論文あるいは史料を精読・検討し、そこにあらわれた諸問題に対する理解力と思考力を深める。

【授業概要】 日本古代・中世史上の諸問題を考えるために、重要な論文・史料を取り上げて検討する。各回の担当を決めて報告をしてもらい、それをもとに出席者全員で議論していく。

【キーワード】 日本史、古代・中世

【関連科目】 『日本史演習 I』(0.5, ⇒33 頁)

【履修上の注意】 あらかじめ担当を決めて報告を受ける演習形式で進める。報告にはレジュメの作成などの準備をする必要があるが、報告の担当者以外にも十分な予習と発言を求める。この授業は、「日本史演習 I」(桑原教官、火曜 5-6 講時)と密接に関連させて行い、随時共同授業を行う。日本文化研究サブコースで日本史を専攻しようと思う学生は、両授業を必ず受講すること。

【到達目標】 論文・史料を読解し、それに対する自分の意見(評価・批判)をもつこと。

【授業計画】 1. 取り上げる論文テーマの例としては、以下のようなものを予定している。 2. 中世の社会と国家 3. 武士の成立と展開 4. 中世法と裁判の世界 5. 古代・中世の仏教と民衆 6. 荘園制と村落 7. 東アジア世界の秩序と日本 8. 具体的な論文名は授業の中で示す。また以上のテーマに限らず、学生の関心に基づいて素材を決めたい。

【成績評価】 発表内容、議論への参加度などの平常点、レポートの評価など。

【再試験】 なし

【教科書】 論文等は、適宜配布する。指定の論文・史料以外にも、参考となるものを広く読む必要がある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218929>

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時50分~14時20分)

考古学基礎研究

4 単位 2 年 (通年), 3 年 (通年)
中村 豊・准教授/埋蔵文化財調査室, 東潮・教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 考古学の調査・研究をおこなうさいの基礎的な技術を取得する。
- 【授業概要】** 考古学を研究する際の発掘調査から出土品の整理・分析までの基礎的な方法を習得する。
- 【キーワード】** 考古学方法論, フィールドワーク
- 【履修上の注意】** とくになし。
- 【到達目標】** 考古学の調査に取り組む際の基本的技術習得
- 【授業計画】** 1. オリエンテーション 2. 遺跡を歩き観察する 1 3. 遺跡を歩き観察する 2 4. 地形を読む 1 5. 地形を読む 2 6. 地形を読む 3 7. 出土品の実測・土器 1 8. 出土品の実測・土器 2 9. 出土品の実測・土器 3 10. 出土品の実測・石器 1 11. 出土品の実測・石器 2 12. 出土品の実測・石器 3 13. 拓本 1 14. 拓本 2 15. 発掘調査現場訪問 16. 総括授業
- 【成績評価】** 授業への取り組み状況
- 【再試験】** 実施しない。
- 【教科書】** なし
- 【参考書】** チャイルド『考古学の方法』河出書房新社, 1964 年『岩波講座日本考古学』全 9 巻, 岩波書店, 1985 年『シンポジウム日本の考古学』1~5, 学生社, 1998~1999 年
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219442>
- 【連絡先】**
⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時, 考古学研究室においておこなう。)

考古学演習

4 単位 3 年 (通年), 4 年 (通年)
東潮・教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 考古学の諸問題について, 研究・発表する。共通のテーマとして, 「東北アジアの都城と墓制」にとりくむ。
- 【授業概要】** 「壁画と東アジア世界」という共通のテーマで, 東アジアの壁画墓について研究する。1972 年に発見された高松塚古墳壁画に興味をもっている。壁画研究を続け, 2011 年春に『高句麗壁画と東アジア』を刊行した。演習をつうじての壁画研究のおもしろさをつたえる。壁画の考古学的・図像学的研究をおこなう。後期では東アジア古代・中世の墓制を比較し, 歴史・文化の発展段階, 王権の特質などをさぐる。
- 【キーワード】** 壁画, 墓制, 都城
- 【先行科目】** 『考古学基礎研究』(1.0, ⇒35 頁)
- 【到達目標】** キトラ・高松塚古墳壁画を東アジア世界のなかで位置づける。
- 【授業計画】** 1. 東アジア考古学の諸問題 2. 高句麗壁画 3. 漢魏晋南北朝の壁画 4. 隋唐代の壁画 5. キトラ・高松塚古墳壁画の系統関係 6. 遼宋金の壁画 7. 東アジアの壁画の展開 8. 東アジアの墓制と都城—漢魏晋 9. 東アジアの墓制と都城—五胡十六国 10. 東アジアの墓制と都城—南北朝 11. 東アジアの墓制と都城—隋・唐・新羅・倭 12. 東アジアの墓制—唐・統一新羅・日本 13. 東アジアの墓制と都城—遼・宋・金・高麗 14. 東アジアの墓制と都城からみた国際環境
- 【成績評価】** レポートによる。
- 【再試験】** 実施しない。
- 【教科書】**
◇ なし
◇ その他プリントを配布する。
- 【参考書】** 東潮 2006『倭と加耶の国際環境』吉川弘文館, 『鳥居龍蔵全集』朝日新聞社
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219443>
- 【連絡先】**
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時, 考古学研究室において。)

朝鮮語

2 単位 2 年 (前期, 集中)
野間 秀樹・非常勤講師, 東潮・教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音, 語彙, 文法の基礎を習得する。発音の練習も重視し, 簡単な表現であっても, 初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語を知るものこそが味あえる。日本語との対照言語学的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く, 話す, 読む, 書くの 4 技能の総合的学習を通じ, コミュニケーション能力を養成する。真摯にして明るく楽しい授業を目指す。

- 【授業概要】** 文字と発音の基礎に続き, 基本的なあいさつ表現, 基礎語彙, 基本的な助詞, 用言の活用の基礎を学び, 自己紹介の表現をはじめ, 実践的な表現を獲得する。待遇法のうち,丁寧な文体を学ぶ。
- 【キーワード】** 韓国語, コリア語, 朝鮮語
- 【履修上の注意】** 初回の授業は極めて重要である。第一回目の授業には必ず出席すること。毎回の授業が楽しみになるように, ことばを楽しく学びたい。そしてことばを身につける喜びを味わいたい。
- 【到達目標】** 文字と発音の基礎を獲得し, 簡単なあいさつや自己紹介の表現を習得する
- 【授業計画】** 1. 序章:韓国語とはどんなことば? 2. 1 課:単母音 3. 1 課:半母音と二重母音, 歌で発音を学ぶ 4. 2 課:初声の子音 1 5. 2 課:初声の子音 2 歌で発音を学ぶ 6. 3 課:終声の子音 1 7. 3 課:終声の子音 2 歌で発音を学ぶ 8. 4 課:〈こんにちは〉さようなら。あいさつことば 9. 5 課:〈韓国の方でいらっしゃいますか〉尋ねる。はい, いいえ。応答する 10. ドラマで学ぶ 11. 6 課:〈私はキム・ソグと申します〉自己紹介をする。名前をハングルで書く 12. 7 課:〈あの, 大学はどちらでいらっしゃいますか〉あいづちを打つ。聞き返す 13. 9 課:〈今日は私の誕生日ではありませんよ〉否定する 14. 10 課:用言の活用 15. テスト 16. 映画で学ぶ
- 【成績評価】** 授業への参加度, 日常の学習態度, 小テスト, 試験成績により総合的に評価する。
- 【再試験】** なし。
- 【教科書】** 野間秀樹・村田寛・金珍娥 共著『Campus Corean はばたけ! 韓国語』(朝日出版社)
- 【参考書】** 野間秀樹・村田寛・金珍娥 共著『ぶち韓国語』(朝日出版社), 野間秀樹 著『暮らしの単語集 韓国語』(ナツメ社), 菅野裕臣他著『コスモス朝和辞典』(白水社), 油谷幸利他編『朝鮮語辞典』(小学館)
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219304>
- 【連絡先】**
⇒ 野間
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
- 【備考】** 通年授業

朝鮮語

2 単位 2 年 (後期, 集中)
野間 秀樹・非常勤講師, 東潮・教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音, 語彙, 文法の基礎を獲得する。発音の練習も重視し, 簡単な表現であっても, 初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語を知るものこそが味あえる。日本語との対照言語学的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く, 話す, 読む, 書くの 4 技能の総合的学習を通じ, コミュニケーション能力を養成する。真摯にして明るく楽しい授業を目指す。
- 【授業概要】** 文字と発音の基礎に続き, 基本的なあいさつ表現, 基礎語彙, 基本的な助詞, 用言の活用の基礎を学び, 自己紹介の表現をはじめ, 実践的な表現を獲得する。待遇法のうち,丁寧な文体を学ぶ。
- 【到達目標】** 文字と発音の基礎を獲得し, 簡単なあいさつや自己紹介の表現を習得する
- 【授業計画】** 1. 文字と発音の復習, 歌で学ぶ 2. あいさつ表現, 尋ねる表現, 自己紹介の表現, 否定の表現の復習 3. 用言の活用の復習, 歌で学ぶ 4. 11 課:〈明日の午後, 時間ありますか〉約束する 5. 11 課:〈明日の午後, 時間ありますか〉確認する, 同意を求める 6. 歌で学ぶ 7. 12 課:〈授業に出られず, 申し訳ございません〉E-mail の書き方 8. 12 課:〈授業に出られず, 申し訳ございません〉お詫びをする 9. 13 課:〈留学生のパーティーに先生もいらっしゃいますか〉尊敬表現を用いる 10. 13 課:〈留学生のパーティーに先生もいらっしゃいますか〉尊敬表現を用いる 11. 映画で学ぶ 12. 14 課:〈海辺のカフェで夕食でも食べましょうか〉勧誘する 13. 14 課:〈海辺のカフェで夕食でも食べましょうか〉接続形を用いる 14. 15 課:〈週末の韓国語の勉強, いかがでしたか〉過去を述べる 15. テスト 16. ドラマで学ぶ
- 【成績評価】** 授業への参加度, 日常の学習態度, 小テスト, 試験成績により総合的に評価する。
- 【再試験】** なし。
- 【教科書】** 野間秀樹・村田寛・金珍娥 共著『Campus Corean はばたけ! 韓国語』(朝日出版社)
- 【参考書】** 野間秀樹・村田寛・金珍娥 共著『ぶち韓国語』(朝日出版社), 野間秀樹 著『暮らしの単語集 韓国語』(ナツメ社), 菅野裕臣他著『コスモス朝和辞典』(白水社), 油谷幸利他編『朝鮮語辞典』(小学館)
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218869>
- 【連絡先】**
⇒ 野間
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

中国語 I

2 単位 2 年 (前期)
葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 全学共通教育中国語初級で身につけた中国語の能力を高め、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業概要】 この授業では教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。前期は市販の教科書を使って、最新の中国についての記事を使う。また、記事に関して、中国の放送番組によるビデオ教材を用い、聞き取りの力も養成する。

【キーワード】 中国語、時事問題、現代中国

【先行科目】 『中国語/中国語入門』(1.0), 『中国語/中国語初級』(1.0)

【履修上の注意】 共通教育で中国語入門・初級または中国語4単位を履修済み、あるいはそれに相当する中国語能力を有していることが絶対条件である。中国語未履修者に対しては受講資格確認のための試験を行い、不合格の場合は受講資格を与えない。

【到達目標】 中国語の新聞やインターネットの記事が辞書を引いて読めること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業計画】 1. 中国語入門・初級の復習-表現・単語- 2. 中国語入門・初級の復習-文法 3. 時事中国語を読むための基礎 4. 上海万博 5. 中国でのショッピング 6. 中国における端午の節句 7. 中国の出稼ぎ労働者 8. 中国語表現の復習 9. 辛亥革命から1世紀 10. 中国のウエディングドレス 11. 中国のサッカー事情 12. 中国では今 13. 中国のネットをのぞいてみる 14. 文法の復習 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】 授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う。

【再試験】 原則無し。ただし受講状況に応じて再試験を行うこともある。

【教科書】 『セレクト 8 時事中国語 2011』(朝日出版社 1600円+税)

【参考書】 1年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218866>

【連絡先】
⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:30~17:30)

中国語 I

2 単位 2 年 (後期)
葎森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 中国語 I(前期) で身につけた中国語の能力に更に磨きをかけ、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業概要】 前期に引き続き、教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。後期はインターネット等で探した、最新の中国についての記事を使う。そのために必要な中国語サイトの閲覧方法、中国語ワープロの使い方などの知識も身につけてもらう。

【キーワード】 中国語

【履修上の注意】 共通教育で中国語入門・初級4単位を履修済み、あるいはそれに相当する語学力 (HSK3 級、中国語検定4級以上相当) を有していることが絶対条件である。中国語未履修者に対しては受講資格試験を行い、不合格の場合は受講を許可しない。

【到達目標】 中国語の新聞やインターネットの記事が速読できること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業計画】 1. 前期の復習-中国語の文法と表現 2. 日常生活で聞く中国語 3. 中国語のテレビ番組を見てみよう (リスニング練習) 4. 中国語のホームページの閲覧方法 5. インターネットの記事を読む (1-a) 6. インターネットの記事を読む (1-b) 7. 中国語の文法と表現 (2) 8. 中国語ワープロを打ってみよう (1) 9. 中国語ワープロを打ってみよう (1) 10. 中国語ワープロを打ってみよう (2) 11. インターネットの記事を読む (2) 12. インターネットの記事を読む (3) 13. インターネットの記事を読む (4) 14. 中国語 II の総復習 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う。

【再試験】 基本的に再試験はしない

【教科書】 教材はプリントで配付する

【参考書】 1年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218864>

【連絡先】
⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:30~17:30)

中国語 II

2 単位 2 年 (前期)
邵 迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 中国語 (1) で学んだ文法の基礎の上に立って、名文に触れ、ことばの感性を育てながら、語彙を増やし、表現を豊かにします。中国語力を高めることを目指します。

【授業概要】 名作を読解します。朗読、翻訳をした後、言い回しや文型を用いて作文の練習をします。後期はピンインなしのエッセイや小説にチャレンジします。

【履修上の注意】 授業時間の二倍を使って、予習、復習をしましょう。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。

【到達目標】 確実に中国語の実力を身につけ、実用レベルに到達します。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 1 第一課「打電話」を朗読、翻訳 3. 作文練習 4. 第二課「弯弯的月亮」を朗読、翻訳 5. 作文練習 6. 6~14 以上のステップで次の文章を読む 7. 15 期末試験 (『人民日報』のコラムを翻訳する、辞書持込可) 8. 16 総括講評 9. 総括講評。なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【成績評価】 平常点及び期末試験により総合的に評価する。

【教科書】 渡辺晴夫・大川完三郎編『心あたままる短い小説 10 選』(同学校社, 2006)2,300円, 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218867>

【連絡先】
⇒ 邵 (yinjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

中国語 II

2 単位 2 年 (後期)
邵 迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 中国語 I(前期) で身につけた中国語の能力に更に磨きをかけ、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業概要】 前期に引き続き、教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。後期はインターネット等で探した、最新の中国についての記事を使う。そのために必要な中国語サイトの閲覧方法、中国語ワープロの知識も身につけてもらう。

【キーワード】 中国語、現代中国、情報処理

【先行科目】 『中国語/中国語初級』(1.0), 『中国語 I』(1.0, ⇒36 頁), 『中国語 II』(1.0, ⇒36 頁)

【履修上の注意】 共通教育で中国語入門・初級4単位を履修済み、あるいはそれに相当する語学力 (HSK3 級、中国語検定4級以上相当) を有していることが絶対条件である。中国語未履修者に対しては受講資格試験を行い、不合格の場合は受講を許可しない。

【到達目標】 中国語の新聞やインターネットの記事が速読できること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業計画】 1. 前期の復習-中国語の文法と表現 2. 日常生活で聞く中国語 3. 中国語のテレビ番組を見てみよう (リスニング練習) 4. 中国語のホームページの閲覧方法 5. インターネットの記事を読む (1-a) 6. インターネットの記事を読む (1-b) 7. 中国語の文法と表現 (2) 8. 中国語ワープロを打ってみよう (1) 9. 中国語ワープロを打ってみよう (2) 10. 中国語ワープロを打ってみよう (3) 11. インターネットの記事を読む (2) 12. インターネットの記事を読む (3) 13. インターネットの記事を読む (4) 14. 中国語 II の総復習 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】 授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う。

【再試験】 基本的に再試験はしない

【教科書】 教材はプリントで配付する

【参考書】 1年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218865>

【連絡先】
⇒ 邵 (yinjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

中国語中級 I

4 単位 3 年 (前期, 後期)
李国勝・客員教授, 邵 迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 これまでに学習した語彙、文法知識を定着させると共に、さらに様々な場面に応じた表現を学習する。それらを活用して書くことを通して、適切な表現で正確に記述する能力を身につける。

【授業概要】 中国語作文実践。模範をめぐって文の綴り方や文章の構成を説明したり、間違いやすい所を指摘したりして、受講者の参考になるよう簡単かつ実用な書き方を紹介する。それを踏まえて受講者は日常生活に使えるオリジナルな文章を書く。

【履修上の注意】 全学共通中国語を履修済みであること。中国語を母語とする者の履修は認めない。遅刻早退は極力避けること。毎回辞書を持参すること。

【到達目標】 日常生活で身近な事柄を中国語で正しく記述できるようになる。

【授業計画】 1. 模範文の読解を通じて、基本的かつ重要な文法事項を復習し、中国語の文章構成法を習得する。 2. 各テーマについて中国語の模範文を参考にして、作文を書く。メモ・伝言という短い文から日記・手紙・スピーチ原稿などの複雑な文章への作文練習を行う。 3. 作文練習に出てきた間違いなどを誤用例にして説明する。

【成績評価】 作文・期末試験・授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【教科書】

- ◇ 講義開始時までに通知するので注意すること。その他に適宜プリントを配布する。
- ◇ 日中辞典は講談社か小学館、中日辞典は講談社、小学館、白水社、東方書店などがある。中国語担当教員に聞くこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219091>

【連絡先】

- ⇒ 李
- ⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

中国語中級 II

4 単位 3 年 (前期, 後期)
李国勝・客員教授, 邵迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 これまでに養った中国語能力、特に会話能力をさらに高いレベルへと引き上げます。中国語の講義については他にも授業がありますので、この授業では会話を中心とします。ネイティブの講師により、より生の中国語を勉強しましょう。

【授業概要】 中国語会話。各課はテーマを設定し、その会話の場面に応じた語彙・文法表現などを導入した上で、ペアを組ませて会話練習を行う。「聞く」・「話す」というコミュニケーションの能力をバランスよく習得し、受講者の学習パートナーシップと授業参加に対する積極性を十分に生かせるようにする。

【履修上の注意】 全学共通中国語を履修済みであること。中国語を母語とする者の履修は認めません。失敗を恐れず、間違いを繰り返しながら中国語の能力があつてくれることを期待します。

【到達目標】 中国人と中国語で話すことに対する恐怖心を拭い去る。場面にふさわしい会話表現を習得する。

【授業計画】 1. 毎回テーマを決めて、まず討論を行い、ポイント表現を習得させる。 2. 指定のテーマをめぐって、指定組に中国語で会話発表をしてもらう。その場合には予め原稿を先生に提出する必要がある。 3. 発表組の会話表現をめぐって再び討論を行い、うまく言えなかった言語表現を導入する。

【成績評価】 平常点・小テスト・期末テストの合計によります。

【教科書】

- ◇ 必要に応じてプリントを配布する。
- ◇ 日中辞典は講談社か小学館、中日辞典は講談社、小学館、白水社、東方書店などがある。中国語担当教員に聞くこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219092>

【連絡先】

- ⇒ 李
- ⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

アジア史研究 I

2 単位 2 年 (後期)
葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 先秦から唐末に至る中国の前半期の歴史についての要点を理解し、中国の歴史や社会・文化の特徴について考える力を身につける。

【授業概要】 中国の歴史は唐と宋の間で一つの区切りがあると考えられてきた。唐以前は中国の社会や文化の基礎となる部分が形成された時代であり、その歴史を正しく理解することが現代の中国を理解する鍵ともなる。そこで、中国史における血縁集団、皇帝制、地域社会という観点から中国史の前半期の歴史についてそのトピックスと研究上の問題点について分析する。

【キーワード】 中国史, 唐宋変革, 皇帝制, 地域社会, 家族

【先行科目】 『人間と生命/東洋の知識人』(0.2), 『アジア地域交流史』(0.2, ⇒5 頁)

【関連科目】 『アジア史基礎研究 (後期)』(0.2, ⇒41 頁), 『アジア史演習』(0.1, ⇒41 頁)

【履修上の注意】 日本史、中国史についての基礎知識を身につけておきたい。それよりも、先ず今の日本・アジアに関心を持つこと、そして皆さん自身の将来について考えるという態度で授業に臨むことを希望します。3 年 1 回開講につき 23 年度・25 年度は開講しません。

【到達目標】 中国の唐代に至る歴史を正しく理解し、そこから現代中国、また現在の日本を見る視点を養い、自らの視点を論述できる能力を身につける。

【授業計画】 1. 中学・高校の歴史教科書の執筆方針とは 2. 研究者は中国史をどう見ていたのか 3. 中国社会の原点-家族を巡る攻防 4. 皇

帝支配はいかにして可能となったのか-始皇帝登場の背景 5. 皇帝を巡る人間関係-劉邦は暴君か親分か 6. 中央集権と地方勢力-漢の豪族とは何者か? 7. 『三国志』の歴史的意義-司馬仲達にしてやられた英雄たち 8. 竹林の七賢の正体-えげつなかつた「清」なる人物 9. 貴族に忍び寄る誘惑-銭神の魅力と脅威 10. 中国における宗教の成立-お化けと仙人・仏様 11. 漢民族王朝のしぶとぎ-金印の謎 12. 民間を取り込んだ土地制度均田制-「均」と「分」の論理 13. 煬帝も玄宗のご先祖様は?-漢唐間の民族問題 14. 隋唐帝国の構造-律令制とはどんな制度か 15. 期末試験 16. 授業総括

【成績評価】 ほぼ毎回実施する小テストと期末テスト (筆記・論述) を総合して判断します。

【再試験】 特別の理由のない限り実施しません

【教科書】

- ◇ 教材はプリント配布
- ◇ 参考文献は授業中にふれるが取りあえず以下の本を参考に上げておきます。
- ◇ 『東洋の知識人』(涓陽会編, 朋友書店刊, 1995)
- ◇ 『中国思想事典』(溝口雄三他編, 葭森他執筆, 東京大学出版会刊, 2001)

【参考書】 授業中に配布する。大事に保管すること

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219040>

【連絡先】

- ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜日 16時30分から17時30分)

【備考】 3 年 1 回開講につき、22 年度・23 年度は開講しない

アジア史研究 II

2 単位 2 年 (後期)
葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 アジアの中世の具体像、世界史におけるアジア史の位置付け、歴史の法則性を理解し、現代社会の課題と人類の未来について歴史をふまえて考えるという態度を養う。

【授業概要】 中国史上転換点となる三国志の時代の具体像、その東アジアに与えた影響、中国の古代から中世への転換は歴史の流れを考える上でどの様に位置付けられるのか、歴史の法則性をどの様に理解すべきか等について講義し、アジアや日本の歴史そしてその未来について考察する

【キーワード】 中世, 三国志, 貴族制, 歴史の法則性

【先行科目】 『アジア史研究 I』(1.0, ⇒37 頁), 『アジア史研究 III』(1.0, ⇒37 頁)

【関連科目】 『アジア史基礎研究 (後期)』(0.5, ⇒41 頁), 『アジア史演習』(0.5, ⇒41 頁)

【履修上の注意】 日本史及び世界史について高校の授業で習った基本的知識について各自復習しておいて欲しい。この授業は 3 年に一度開講、23 年度に開講し、24 年度 25 年度は開講しない。

【到達目標】 アジアの近世の具体像と日本史・世界史との関わりを理解し、現代社会の諸問題と人類の未来について考える態度を養う

【授業計画】 1. 歴史を学ぶと言うこと-高校までの歴史の授業で何を習ったのか 2. 歴史の流れとは-高校の歴史教科書の執筆方針と歴史法則 3. 世界史における中世-中世は暗黒時代か? 4. アジアにおける古代・中世・近世-時代区分論争とは? 5. 中国史における古代-秦漢帝国の構造 6. 中国史における中世の幕開け-『三国志』の始まり 7. 中国中世の主従関係-『三国志』と任侠 8. 『三国志』の社会背景-豪族と世論 9. 武人の時代から貴族の時代へ-六朝貴族制の構造 10. 中国中世の精神性-恥と過 11. 律令制度とは-中国中世の国家制度 12. 中国中世と東アジア 13. 中世から近世へ-唐宋変革とは何か 14. 中国における近世とは-宋代以降の社会風潮 15. 学

【成績評価】 小テストと期末テストに出席を加味して評価する。授業内容特に全体の流れと意義を理解した上で、自分の頭で考えた答案を評価する。

【再試験】 基本的に再試はない。本人に責任を帰しえない、特別事情がある場合のみ再評価を行う。

【教科書】 高校で使った日本史・世界史の教科書を持参すること

【参考書】 授業時に随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219041>

【連絡先】

- ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期・月曜 16:30~17:30)

【備考】 3 年 1 回開講につき、22 年度は開講しない。23 年度開講予定

アジア史研究 III

2 単位 2 年 (後期)
葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】東アジアの古代から近世に至る歴史(の流れ、東アジアの文化の特質とその歴史的背景を理解し、東アジア史(日本を含む)を学ぶ意味について考える力を養う。

【授業概要】東アジア文化の核となる中国文化の形成と発展、周辺への影響、及びその背景にある社会の変化について、中国史の流れをおいつつ、アジアの歴史の特性について講義する。

【キーワード】アジア史、地域社会、時代区分論

【履修上の注意】高校までの世界史、日本史の知識を復習しておいてほしい。なおこの授業は3年に一回開講。25度は開講予定、23年度、24年度は開講しない。

【到達目標】日本を含むアジア史の流れを理解し、自分たちが立つ位置を自覚し、将来歴史の教師となった際にも生徒に世界史的な観点から日本史を授業しうる能力を涵養する。

【授業計画】1. 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る 2. 歴史理論と中国史研究、-日本における東洋史研究の始まり 3. アジアにおける古代・中世・近代-戦後の時代区分論争 4. 中華文明の発生と展開 5. 中国における専制国家の成立と展開 6. 三国志の時代とは-アジアの古代から中世への展開 7. 貴族制と官僚制-東アジアの中世とは 8. 律令制の成立と受容-中国の中世・日本の古代 9. 唐宋変革の意味-東アジアにおける近世 10. 中国における土地制度の変遷-均田農民から佃戸へ 11. 中国における都市と商業の発展-東洋のルネッサンス 12. 近世の科挙制度と西洋の絶対王政 13. 中国革命への道筋-近世儒教の革新 14. 歴史の伝統と現代中国の課題-和諧社会は達成できるか? 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】小テスト、期末試験を総合的に評価

【再試験】再試験はしない

【教科書】プリント配布、ただし、高校の日本史、世界史の教科書を持参のこと

【参考書】授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219042>

【連絡先】

⇒ 霞森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 15:00)

【備考】三年一回開講する。23, 24年度は開講しない。

アジア思想研究 I

2 単位 2 年 (前期)
有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】アジア思想研究では、文学作品や思想書、或いは画像などを手がかりに、中国の思想・文化を様々なテーマから解明し理解していくことを主眼に於て講義を行っていく。そして、中国文化の基層に流れている様々なものを考えていきたい。今年度は中国思想・文学の巨大なテーマの一つである隠者論を考える。このテーマは人間が生きていく中で必ずと言っていいほど体験する疎外感と密接に関わる問題であり、それ故、数多くの議論がなされてきた。それらの争点を明らかにした上で、日本の幕末維新期の志士たちをモデルに考えていく。

【授業概要】孤立した人間-中国的隠者論の展開

【キーワード】隠者論、志士、幕末維新

【履修上の注意】本講義を受講するためにあらかじめ準備しておくことはない。講義中の私語等は即刻退場を命じることがある。

【到達目標】日本における漢学の流れを理解し、あわせて文化理解への基礎的能力を養う。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 隠者論が生まれた背景と隠者論の諸相 3. 長州藩高杉晋作の場合 4. 米沢藩雲井龍雄の場合 5. 薩摩藩西郷隆盛の場合 6. まとめ

【成績評価】出席点と最終回に行う試験を総合的(おおむね5.5の予定)に判断して評価する。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること、連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。試験は持ち込み可とするが、知識を問うような問題は出さない。

【再試験】行わない

【教科書】毎回プリント(漢文)を配布するので特に教科書・参考書として指定するものはない。参考となる文献等については随時提示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219043>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

【備考】隔年開講

アジア思想研究 II

2 単位 2 年 (前期)
有馬 卓也・教授/人間文化学科、
邵 迎建・教授/人間文化学科、
田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】アジア思想研究では、文学作品や思想書、或いは画像などを手がかりに、古代から近現代に至る中国の思想・文化を様々なテーマ

マから解明し理解していくことを主眼に於て講義を行っていく。そして、中国文化の基層に流れている様々なものを考えていきたい。

【授業概要】本講義は、中国の春秋戦国から唐代までを有馬が、唐・宋・明を田中が、清から近現代までを邵が担当する。そして、各時代の文化的特質を様々な事件や社会現象を通して、幅広く考えていく。

【キーワード】中国思想、中国文学、中国文化

【履修上の注意】本講義を受講するためにあらかじめ準備しておくことはない。講義中の私語等は即刻退場を命じることがある。

【到達目標】中国文化の理解を通して、人間の普遍的な理解を試み得る目をもつ。

【授業計画】1. ガイダンス・春秋戦国期の思想 2. 秦から前漢へ 3. 前漢武帝期 4. 前漢の終焉と後漢 5. 初期道教 6. 道教の隆盛 7. 魏晋南北朝の志怪小説 8. 唐代の伝奇小説 9. 唐宋の詩文 10. 宋詞と元曲 11. 明清の文学と出版文化 12. 国民国家と小説 13. 戦争期の映画と演劇 14. 中華人民共和国の人民文学 15. 試験 16. 総括

【成績評価】出席と期末テストによる。

【再試験】行わない

【教科書】授業中に適宜紹介していく

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219044>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

【備考】隔年開講、平成 24 年度開講

アジア社会研究 II

2 単位 2 年 (後期)
荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】中国史の近世・近代にかけての基礎知識を学ぶ。

【授業概要】中国は我が国とは異なる社会である。この社会の有様をその基層から考察する。

【キーワード】中国社会、近世・近代・現代

【履修上の注意】中国史について全く勉強したことがない学生も、分かって、理解しようという熱意がある限り、受講できる。授業中の睡眠や携帯電話の使用は一切認めない。

【到達目標】中国社会についての理解を深める

【授業計画】1. ガイダンス 2. 伝統中国の地域 3. 家族のあり方 4. 村落の構造 5. 鎮(町)と村落 6. 州県 人口数十万人の世界 7. 州県と国家 8. 大明帝国 9. 大清帝国 10. 中華世界の素描 11. テスト

【成績評価】授業態度は評価の前提である。授業態度が良好と認められた学生に対しては、期末試験で評価を行う。

【再試験】なし。

【教科書】おって指示

【参考書】おって指示

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219047>

【連絡先】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝一コマ目が望ましい。)

【備考】平成 24 年度開講

アジア文学基礎研究

2 単位 2 年 (後期)、3 年 (後期)
田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】李漁『閑情偶寄』を読む

【授業概要】明末清初の人・李漁の『閑情偶寄』から読みやすい文章を選び、漢文訓読の形式で精読する。演劇・建築・家具・飲食・植物など多彩なテーマにわたる随筆集であり、受講者の興味に応じて読む文章を決めたい。担当者はとくに決めず、毎回の予習を求め、その場で指名する。

【キーワード】文学、漢文、中国語、文学

【関連科目】『アジア思想基礎研究(前期)』(0.5, ⇒39頁), 『アジア史基礎研究(前期)』(0.5, ⇒40頁)

【履修上の注意】外国語の古典文語文であるから、辞書を引かなければ読めない。なんとなく訓読してわかったつもりにならず、丁寧に漢和辞典を引くのみならず、論理的に文章を解釈する習慣を養ってほしい。担当者を割り振り演習形式をとるが、担当者以外も最低限の予習をしてくること。

【到達目標】漢文法の基礎を学び、漢和辞書を引きながら文章を正確に理解する力を身につける。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 漢文訓読の基礎 1 3. 漢文訓読の基礎 2 4. 明代文学史概説 1 5. 明代文学史概説 2 6. 講読 閑情偶寄 1 7. 講読 閑情偶寄 2 8. 講読 閑情偶寄 3 9. 講読 閑情偶寄 4 10. 講読 閑情偶寄 5 11. 講読 閑情偶寄 6 12. 講読 閑情偶寄 7 13. 講読 閑情偶寄 8 14. 講読 閑情偶寄 9 15. 講読 閑情偶寄 10 16. 補足と総括

【成績評価】平常点とレポートにより総合的に評価する。

【再試験】行わない

【参考書】

- ◇ 『全訳漢辞海』(三省堂)
- ◇ 加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫
- ◇ 中村春作・市来津由彦・田尻祐一郎・前田勉 共編『訓読論』勉誠出版
- ◇ 古田島洋介『これならわかる返り点』新典社新書

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218355>

【連絡先】

⇒ 田中 (総合科学部 1号館 2320号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問に応じる。)

アジア文学演習 I (前期)

2単位 3年(前期), 4年(前期)

田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】 明代白話小説の講読

【授業概要】 中国近世の白話(口語体)小説を講読する。明代の白話長編小説の傑作である、いわゆる「四大奇書」(『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』)などを題材にして、読みやすい場面を選び講読する。後期は『西遊記』や白話短編小説を読む予定(作品は受講者に応じて変更する場合あり)。古典作品ではあるが、口語文であるため、漢文訓読の知識のみで読むことはむずかしい。中国語未修者は受講に際し相談すること。

【キーワード】 小説, 明代, 文学, 白話

【先行科目】 『アジア文学基礎研究』(1.0, ⇒38頁)

【関連科目】 『アジア文学演習 II (前期)』(0.5, ⇒39頁), 『アジア思想演習 (前期)』(0.5, ⇒40頁)

【履修上の注意】 中国語既修者が望ましい。演習においては、原文は中国語で音読してもらう。ただし未修者の履修を妨げるものではない。

【到達目標】 古典口語文の読解力を身に着け、また白話小説に関する基礎的知識を得る。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 白話文読解の基礎 1 3. 白話文読解の基礎 2 4. 『三国志演義』導入 5. 『三国志演義』講読 1 6. 『三国志演義』講読 2 7. 『三国志演義』講読 3 8. 『三国志演義』講読 4 9. 『三国志演義』講読 5 10. 『水滸伝』導入 11. 『水滸伝』講読 1 12. 『水滸伝』講読 2 13. 『水滸伝』講読 3 14. 『水滸伝』講読 4 15. 『水滸伝』講読 5 16. 総括授業

【成績評価】 平常点とレポートにより総合的に評価する

【再試験】 行わない。

【参考書】

- ◇ 太田辰夫『新訂 中国歴代口語文』朋友書店
- ◇ 金文京『中国小説選』角川書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218353>

【連絡先】

⇒ 田中 (総合科学部 1号館 2320号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問に応じる。)

アジア文学演習 I (後期)

2単位 3年(後期), 4年(後期)

田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】 明代白話小説の講読

【授業概要】 中国近世の白話(口語体)小説を講読する。明代の白話長編小説の傑作である、いわゆる「四大奇書」(『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』)などを題材にして、読みやすい場面を選び講読する。後期は『西遊記』や白話短編小説を読む予定(作品は受講者に応じて変更する場合あり)。古典作品ではあるが、口語文であるため、漢文訓読の知識のみで読むことはむずかしい。中国語未修者は受講に際し相談すること。

【キーワード】 小説, 明代, 文学

【先行科目】 『アジア文学基礎研究 (2006 後期)』(1.0)

【関連科目】 『アジア文学演習 II (後期)』(0.5, ⇒39頁), 『アジア思想演習 (後期)』(0.5, ⇒40頁)

【履修上の注意】 中国語既修者が望ましい。演習においては、原文は中国語で音読してもらう。ただし未修者の履修を妨げるものではない。

【到達目標】 古典口語文の読解力を身に着け、また白話小説に関する基礎的知識を得る。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 『西遊記』導入 3. 『西遊記』講読 1 4. 『西遊記』講読 2 5. 『西遊記』講読 3 6. 『西遊記』講読 4 7. 『西遊記』講読 5 8. 『金瓶梅』概説 1 9. 『金瓶梅』概説 2 10. 白話短編小説導入 11. 白話短編小説講読 1 12. 白話短編小説講読 2 13. 白話短編小説講読 3 14. 白話短編小説講読 4 15. 白話短編小説講読 5 16. 総括授業

【成績評価】 平常点とレポートにより総合的に評価する

【再試験】 行わない。

【参考書】

- ◇ 太田辰夫『新訂 中国歴代口語文』朋友書店
- ◇ 金文京『中国小説選』角川書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218354>

【連絡先】

⇒ 田中 (総合科学部 1号館 2320号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~14時とするが、随時質問に応じる。)

アジア文学演習 II (前期)

2単位 3年(前期), 4年(前期)

邵 迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代中国の女性作家張愛玲のエッセイや小説を読解する。言葉の理解、分析が中心であるが、テキストの精読に当たってはその後にあった歴史、文化、社会状況を調べ、明らかにさせ、理解を深めていく。

【授業概要】 男女の日常しか書かないと宣言した張愛玲(1920-1995)の文章は中国で「美文」と定評されている。日常を文学的にきれいに表現しているのは特徴である。だが、その文章はきれいだけではなく奥深い。当然、難解なところもかなり多い。エッセイを読むことから始め、だんだんと難しい恋愛小説へとチャレンジしていく。

【履修上の注意】 中国語・中国文化に興味を持つ他コースの学生の履修も歓迎するが、履修は原則として全学共通教育の中国語(2)を履修済みである者に限る。

【到達目標】

1. 中国語の文章を正確に読解する。
2. 中国近現代文学、文化について調べる基礎知識を習得する。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 童言無忌 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 私語 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 傾城之恋 13. 同上 14. 同上 15. 総括授業

【成績評価】 出席状況、態度、発表による総合評価。

【再試験】 行わない。

【教科書】 プリントを配布する。参考書は適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218351>

アジア文学演習 II (後期)

2単位 3年(後期), 4年(後期)

邵 迎建・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代中国の女性作家張愛玲のエッセイや小説を読解する。言葉の理解、分析が中心であるが、テキストの精読に当たってはその後にあった歴史、文化、社会状況を調べ、明らかにさせ、理解を深めていく。

【授業概要】 張愛玲の恋愛小説を読む。

【履修上の注意】 中国語・中国文化に興味を持つ他コースの学生の履修も歓迎するが、履修は原則として全学共通教育の中国語(2)を履修済みである者に限る。

【到達目標】

1. 中国語の文章を正確に読解する。
2. 中国近現代文学、文化について調べる基礎知識を習得する。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 前期の続き、張愛玲の恋愛小説『傾城之恋』を読む。 3. 『傾城之恋』 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 映画『傾城之恋』を観る 11. 『傾城之恋』を読む 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 総括授業

【成績評価】 出席状況、態度、発表による総合評価。

【再試験】 行わない。

【教科書】 プリントを配布する。参考書は適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218352>

アジア思想基礎研究 (前期)

2単位 2年(前期), 3年(前期)

有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】 アジア思想基礎研究は、主に思想・文学関係の基礎文献を講読しながら、中国の文化を考えていこうとするものである。漢文を読むための基礎知識を伝えることももちろんだが、メインは文化理解の方に置いている。本年度は中国の不思議小説を集める『太平広記』の中から、巻 131 報応三十・巻 133 報応三十二を読む予定。

【授業概要】 小説からさぐる思想・文化

【キーワード】 志怪小説, 伝奇小説, 中国文化

【履修上の注意】 演習の形態をとるので、全員が担当することを前提とする。したがって、最高 25 名を限度としたい。最初に出席者の担当を決め、発表当日までに予習のチェックを行うことを義務づける(授業の際、誤読の訂正の為に時間を浪費することをさけるため)。

【到達目標】 漢文(白文)に対する基礎理解(慣れ)と、中国文化の理解を通して、人間の普遍的な理解を試み得る目を持つこと。

【授業計画】 1. 巻 131 報応三十と巻 133 報応三十二は因果応報にまつわる怪奇現象譚を 26 話と 22 話掲載する。本年度は報応三十のすべて

と、報紙三十二の一部を読む予定である。 2. 毎回 3 話程度を読んでいく。

【成績評価】 演習形式で行うので、出席点と担当の出来具合を総合して評価する。出席は一回につき 3 点、担当の点数は 100 点から出席点(授業回数×3)を引いた数字が満点となる。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 特に教科書・参考書として指定するものはないが、以下の文献は講義理解の手助けとなろう。
- ◇ 竹田 晃『捜神記』(平凡社・東洋文庫)
- ◇ 今村与志雄『唐宋伝奇集(上下)』(岩波文庫・赤)
- ◇ 陳舜臣『ものがたり唐代伝奇』(朝日文庫)
- ◇ 今村与志雄『西陽雑俎(1~5)』(平凡社・東洋文庫)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218343>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

アジア思想基礎研究 (後期) 2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期) 有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】 アジア思想基礎研究は、主に思想・文学関係の基礎文献を講読しながら、中国の文化を考えていこうとするものである。漢文を読むための基礎知識を伝えることももちろんだが、メインは文化理解の方に置いている。本年度は中国の不思議小説を集める『太平広記』の中から、巻 318 鬼三を読む予定。

【授業概要】 小説からさぐる思想・文化

【キーワード】 志怪小説, 伝奇小説, 中国文化

【履修上の注意】 演習の形態をとるので、全員が担当することを前提とする。したがって、最高 25 名を限度としたい。最初に出席者の担当を決め、発表当日までに予習のチェックを行うことを義務づける(授業の際、誤読の訂正の為に時間を浪費することをさけるため)。

【到達目標】 漢文(白文)に対する基礎理解(慣れ)と、中国文化の理解を通して、人間の普遍的な理解を試み得る目を持つこと。

【授業計画】 1. 巻 318 鬼三は幽霊にまつわる怪奇現象譚を 22 話掲載する。このすべてを読破したい。 2. 毎回 3 話程度を読んでいく。

【成績評価】 演習形式で行うので、出席点と担当の出来具合を総合して評価する。出席は一回につき 3 点、担当の点数は 100 点から出席点(授業回数×3)を引いた数字が満点となる。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 特に教科書・参考書として指定するものはないが、以下の文献は講義理解の手助けとなろう。
- ◇ 竹田 晃『捜神記』(平凡社・東洋文庫)
- ◇ 今村与志雄『唐宋伝奇集(上下)』(岩波文庫・赤)
- ◇ 陳舜臣『ものがたり唐代伝奇』(朝日文庫)
- ◇ 今村与志雄『西陽雑俎(1~5)』(平凡社・東洋文庫)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218344>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

アジア思想演習 (前期) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期) 有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】 より高度な思想・文学関係の文献を講読しながら、中国の思想・文化を考えていこうとするものである。アジア思想研究の次のステップである。一つの文献を歴史・思想・文学・文化という枠組みにとらわれずに理解・把握することの訓練である。

【授業概要】 今年度は、中国文化の一つである仙人文化の中でも尸解仙について分析していく。先行研究を踏まえつつ、尸解仙を論じる文献を系統的にあたっていく。

【キーワード】 道教, 尸解仙, 中国文化

【先行科目】 『アジア思想基礎研究 (前期)』(1.0, ⇒39 頁), 『アジア思想基礎研究 (後期)』(1.0, ⇒40 頁)

【到達目標】 道教を中心とした中国文化を理解することを通して、人間の普遍的な理解を試み得る目をもつこと。

【授業計画】 1. 1) ガイダンス 2. 2)~4) 『抱朴子』の検討 3. 5)~6) 『列仙伝』の検討 4. 7)~8) 『神仙伝』の検討 5. 9)~10) 武帝関連資料の検討 6. 11)~15) 『雲笈七籤』の検討 7. 16) 総括

【成績評価】 演習形式で行う。出席点と担当分の成果を総合して評価する。出席は一回につき 3 点。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れ

ること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書として以下を使用する。購入しておくこと。『抱朴子』(岩波文庫), 『列仙伝・神仙伝』(平凡社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218341>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

アジア思想演習 (後期) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期) 有馬 卓也・教授/人間文化学科

【授業目的】 より高度な思想・文学関係の文献を講読しながら、中国の思想・文化を考えていこうとするものである。アジア思想研究の次のステップである。一つの文献を歴史・思想・文学・文化という枠組みにとらわれずに理解・把握することの訓練である。

【授業概要】 今年度は、中国文化の一つである龍、及びその居城である竜宮について、いくつかの切り口から分析していく。そして、中国文化の一面面を明らかにしていきたい。

【キーワード】 龍, 伝説の研究, 中国文化

【先行科目】 『アジア思想研究 II』(1.0, ⇒38 頁)

【到達目標】 竜宮伝説を通して、中国文化を理解するとともに、人間の普遍的な理解を試み得る目をもつこと。

【授業計画】 1. 1) ガイダンス 2. 2) 竜宮伝説解析のための方法論 3. 3)~4) 龍の属性 4. 5)~6) 「柳子華」の検討 5. 7)~9) 「劉毅伝」の検討 6. 10)~12) 「龍女伝」の検討 7. 12)~15) 「李衛公別伝」の検討 8. 総括

【成績評価】 演習形式で行う。出席点と担当分の成果を総合して評価する。出席は一回につき 3 点。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 方法論に関連して小松和彦氏の以下の文献を挙げておく。すべて読んでおくこと。『神隠し』(弘文堂), 『憑霊信仰論』(講談社学術文庫), 『異人論』(ちくま学芸文庫), 『悪霊論』(ちくま学芸文庫), 『日本妖怪異聞録』(講談社学術文庫)。

【参考書】 適宜提示する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218342>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

アジア史基礎研究 (前期) 2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期) 葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 東アジアの歴史・社会に関する文献資料(主として漢文資料)の読解を通して、アジアの歴史や社会への理解を高めると共に、日本・東洋地域研究コースで卒業研究を行ってゆこうとする学生諸君に必要な情報処理能力・語学力を養成することを目的とする。

【授業概要】 『三国志』の講読を通じ、漢文による歴史資料の読解力を身に付けると共に、当時の政治、軍事、社会の諸問題を考察する。昨年度は『三国志』の中から呂布伝と諸葛亮(孔明)伝の前半と赤壁の戦いの記事を取り上げた。今年度も受講者の希望も考慮し、『三国志』の中から題材を選ぶ。一応、諸葛孔明の後半生(五丈原の戦い)あるいは周瑜等の呉の將軍を中心に取り上げ、三国時代の政治と軍事についての考察について準備をしている。

【キーワード】 『三国志』, 中国中世史, 漢文講読, 歴史資料論

【先行科目】 『人間と生命/東洋の知識人』(0.2), 『歴史と文化/アジアの近代と日本』(0.1)

【関連科目】 『アジア史基礎研究 (後期)』(1.0, ⇒41 頁), 『アジア史研究 I』(0.8, ⇒37 頁), 『アジア地域交流史』(0.7, ⇒5 頁)

【履修上の注意】 受講に際しては基礎的な漢文の知識、それに加えて十分な予習復習が欠かせないのでその点注意しておくこと。現代中国語は必須ではないが、文法知識として役立つ。授業計画は授業内容をテーマ別に記したものであって、始めと終わりを除いて、順序を記したものではない。

【到達目標】 辞書や工具書を使い訓点のない簡単な『正史』の漢文が読め、『三国志』の時代背景が理解できることを目標とする。

【授業計画】 1. 受講生と共に『三国志』の中から講読する部分を選定する。 2. 辞書の使い方。特に付録の利用法。 3. 漢文のリズムのつかみ方。漢文の語順の法則。 4. 送りがな、返り点付け方。漢文の禁則事項。 5. 工具書(索引や種々の事典)の有効活用法。 6. 官職、人名、地図の調べ方と読み込み方。 7. 既存の研究の利用法。 8. 『三国志』という資料の性格について(1)。 9. 『三国志』に出てくる歴史的用語について(1)。 10. 『三国志』の時代背景(1)。 11. 『三国志』の登場人物について(1)。 12. 『三国志』と日本(1)。 13. 中

国の歴史から見た三国時代(1)、14. 中国の自然環境と『三国志』(1) 15. 『三国志』を読んで(1)・発表 16. 『三国志』を読んで(2)・総括
【成績評価】 平常点とレポートを組み合わせて評価する。特に、平常点が重視されるので欠席の多い場合は単位を出せない。
【再試験】 平常点に再試はない。
【教科書】 テキストはプリントを配布する。参考書はないが漢文と雖ども外国語である(それも古文)。従って辞書は必携。高校の時に使ったものでもよいから必ず持参すること。なお、『三国志』について何か読んでおく方が取つきやすい(但しコンピューターゲームは除く)。
【参考書】 授業の中で紹介する。とりあえず川勝義雄『中国の歴史』3(講談社学術文庫)、『東洋の知識人』(朋友書店)を挙げておく。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218335>
【連絡先】
 ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 午後4時半から5時半)

アジア史基礎研究 (後期) 2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)
 葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 前期に引き続き、東アジアの歴史・社会に関する文献資料(主として漢文資料)の読解を通して、アジアの歴史や社会への理解を高めると共に、日本・東洋地域研究コースで卒業研究を行ってゆこうとする学生諸君に必要な情報処理能力・語学力を養成することを目的とする。
【授業概要】 前期に引き『三国志』を講読する。それを通じ、漢文による歴史資料の読解力を身につけると共に、当時の政治、軍事、社会の諸問題を考察する。前期に引き続き、受講者の希望も考慮し、『三国志』の中から題材を選ぶ。とりあえずは『三国志』の中でも赤壁の戦いで活躍した将軍たちの列伝を準備している
【キーワード】 『三国志』、漢文講読、中国中世史、歴史資料論
【先行科目】 『アジア史基礎研究 (前期)』(1.0, ⇒40 頁), 『アジア地域交流史』(0.7, ⇒5 頁), 『歴史と文化/アジアの近代と日本』(0.1)
【関連科目】 『アジア史演習』(0.8, ⇒41 頁), 『アジア史研究 I』(0.8, ⇒37 頁)
【履修上の注意】 受講に際しては漢文の読解力、それに加えて十分な予習復習が欠かせないのでその点注意しておくこと。現代中国語は必須でないが文法を理解する上で役に立つ。授業計画は授業内容をテーマ別に記したものであって、始めと終わりを除いて、順序を記したものでない。

【到達目標】 辞書や工具書を駆使し、『正史』の漢文を読みこなし、自らの『三国志』の時代像をおぼろげながらも作り上げることを目標とする。
【授業計画】 1. 受講生と共に『三国志』の中から講読する部分を選定する。 2. 辞書の使い方。特に付録の利用法応用編。 3. 漢文の文法、中級編、現代中国語と漢文。 4. 送りかな、返り点付けの応用練習 5. 工具書(索引や種々の事典)の有効活用法応用編。 6. 官職、人名、地図についての専門知識の習得 7. 既存の研究の読み方 8. 『三国志』という資料の性格について(2) 9. 『三国志』に出てくる歴史的用語について(2) 10. 『三国志』の時代背景(2) 11. 『三国志』の登場人物について(2) 12. 『三国志』と日本(2) 13. 中国の歴史から見た三国時代(2) 14. 中国の自然環境と『三国志』(2) 15. 『三国志』を読んで(3)・後期授業の討論 16. 『三国志』を読んで(4)・授業の総括

【成績評価】 平常点とレポートを組み合わせて評価する。特に、平常点が重視されるので欠席の多い場合は単位を出せない。
【再試験】 平常点に再試はない。
【教科書】 テキストはプリントを配布する。参考書はないが漢文と雖ども外国語である(それも古文)。従って辞書は必携。高校の時に使ったものでもよいから必ず持参すること。なお、『三国志』について何か読んでおく方が取つきやすい(但しコンピューターゲームは除く)。
【参考書】 授業の中で紹介する。とりあえず川勝義雄『中国の歴史』3(講談社学術文庫)を挙げておく。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218336>
【連絡先】
 ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期)月曜日 午後4時半から5時半)

アジア史演習 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 東アジアの歴史・社会に関する様々な情報をいかに入手し、これを利用して行くか、大学でアジア学を学ぶ上での基礎的手法とこれを応用して行く研究手法と技能を身につける事を目的とする。
【授業概要】 歴史を中心としてアジアについて学ぶ上で必要な情報の収集の仕方、整理に役立つ技術、問題を整理する上で重要な観点、資料や論文の読み方、報告したり、レポート・論文を書く上で留意すべき事柄などを実際の資料や論文を扱うことで身につけてもらう。扱う内

容は受講生の関心と能力を踏まえ、受講生と相談の上決める。前期はアジア史・アジア研究についての基本文献の探し方、辞書・目録の使い方、研究文献目録の概要について説明し、実地訓練を行う。

【キーワード】 アジア史、情報収集、資料分析、論文作成
【先行科目】 『アジア地域交流史』(0.5), 『アジアの近代』(0.4)
【関連科目】 『アジア史研究 I』(0.7, ⇒37 頁), 『アジア社会研究 I』(0.5, ⇒9 頁), 『アジア社会演習 (後期)』(0.4, ⇒42 頁)
【履修上の注意】 授業は報告と討論が中心となるのでレジュメの準備が必要。この授業は、学生が主体的に行動することによって成り立つ授業なので、強い自覚を持って出席されたい。なお講義計画は授業内容を項目にまとめたものであって、必ずしも順序を示すものでない。
【到達目標】 自分の興味に従って様々な情報や資料を探し出し、レジュメなどを作成して他者に対し情報の内容、自分の意見を説得的に発表しうる能力を身につけることを目標とする。
【授業計画】 1. アジア研究に必要な情報とは 2. 情報はどこにあるのか? 3. 徳島大学で使える情報の活用法 4. 情報検索はどのように行うのか 1-図書館と文献目録 5. 情報検索はどのように行うのか 2-コンピューターを使った情報検索 6. 資料の種類と使い方 1-文献資料の種類 7. 資料の種類と使い方 2-文献資料の分類法 < 目録学の基礎知識 > 8. 資料の種類と使い方 3-出土資料の活用法 9. 辞書の使い方 1-漢和辞典の歴史と読み方 10. 辞書の使い方 2-漢和辞典のひき方 11. 辞書の使い方 3-大漢和辞典を活用してみる 12. 漢字文化圏のコンピューター活用法-コード変換と外字処理 13. 資料リストの作成と実習 14. 文献リストの作成方と実習 15. 口頭発表-期末試験に代えて 16. 総括
【成績評価】 平常点を中心とする。特に、発表の準備、内容、準備してきた資料を重視する。
【再試験】 平常点に再評価はありえない
【教科書】 テキストはなく、授業の進度に合わせて、プリントを配布する。
【参考書】 参考書についても、発表のテーマに応じ、その都度指摘する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219039>
【連絡先】
 ⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期)月曜日 16時30分~17時30分)

アジア史演習 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 葭森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】 東アジアの歴史・社会に関する様々な情報をいかに入手し、これを利用して行くか、大学でアジア学を学ぶ上での基礎的手法とこれを応用して行く研究手法と技能を身につける事を目的とする。
【授業概要】 歴史を中心としてアジアについて学ぶ上で必要な情報の収集の仕方、整理に役立つ技術、問題を整理する上で重要な観点、資料や論文の読み方、報告したり、レポート・論文を書く上で留意すべき事柄などを実際の資料や論文を扱うことで身につけてもらう。後期は自らの関心に基づきテーマを建て、資料を使って報告してもらう。自ら選んだテーマについて代表的な資料や論文にふれることを通じ、文献の調べ方、論文の読み方を身につけてもらう。

【キーワード】 アジア史、情報収集、資料分析、レポート・論文作成
【先行科目】 『アジア史基礎研究 (前期)』(1.0, ⇒40 頁), 『アジア史研究 I』(1.0), 『アジア史研究 III』(1.0, ⇒37 頁)
【履修上の注意】 授業は報告と討論が中心となるのでレジュメの準備が必要。学生が主体的に行動することによって成り立つ授業なので、強い自覚を持って出席されたい。なお講義計画は授業内容を項目にまとめたものであって、必ずしも順序を示すものでない
【到達目標】 自分の興味に従って様々な情報や資料を探し出し、レジュメなどを作成して他者に対し情報の内容、自分の意見を説得的に発表しうる能力を身につけることを目標とする。
【授業計画】 1. 研究テーマの決め方・興味から研究へ 2. 研究論文の読み方 1-消える研究と残る研究 3. 研究論文の読み方 2-優れた論文の要件 4. 研究論文の読み方 3-論理構成 < 資料と論理 > 5. レポート・研究論文の書き方 1-悪文と名文の違い 6. レジュメの作り方 1-論文のどこを読むか 7. レジュメの作り方 2-筆者の意見と自分の意見 8. 論文を読んで発表する① 9. 論文を読んで発表する② 10. 論文を読んで発表する③ 11. 資料整理の方法-史料の整理とリストの作り方 12. 資料整理の方法-表や図を作るといこと 13. 資料をまとめて報告する① 14. 資料をまとめて報告する② 15. 資料をまとめて報告する③ 16. 総括-卒業研究への取り組み方
【成績評価】 平常点を中心とする。特に、発表の準備、内容、準備してきた資料を重視する。
【再試験】 平常点に再評価はありえない
【教科書】 テキストはなく、授業の進度に合わせて、プリントを配布する。
【参考書】 参考書についても、発表のテーマに応じ、その都度指摘する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218334>
【連絡先】

- ⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:30~17:30)
- ⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~15:00)

アジア社会基礎研究 (前期) 2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】 中国社会について、現代中国文で書かれた文章を読む、中国社会への理解を深めるとともに、現代中国文の読解能力を向上させる。全学共通中国語 I を修得したレベルから開始する。開始当初はあまりの難しさに面食らうかもしれない。だが目標レベルを高く設定する事は能力の向上の為には必要なことである。叱責を受けながら頑張っていたら、3 カ月を過ぎる頃には、新聞程度なら辞書を片手にすらすら読めるレベルに達している。

【授業概要】 中国社会の研究 現代中国文の訓練

【キーワード】 中国語講読、中国社会

【先行科目】 『中国語/中国語初級』(1.0)

【履修上の注意】 毎回担当者を決めず、随意に指名するので予習は欠かせない。予習をしていない、あるいは出来ない者は苦痛の授業となる。残念ではあるが、理解できる範囲以上の事は理解しようと思わない者がいる。このような学生には縁のない授業である。遠慮して頂きたい。ここで求められるのは、開始レベルの高低を問わず、向上心を持った野心的な学生である。文法的重要事項は何度でも繰り返し解説するので後期からの受講も認める。全学共通 1 年生の中国語を既修のこと、また中国語を母語とする学生にとっては、既知の内容であるので、受講を許可しない。

【到達目標】 現代中国語の文章読解能力の向上

【授業計画】 最初の方は一回の授業でテキスト 10 行程度を目処に読んでいくが、次第にスピードアップをはかる。音読と日本語訳を義務として課す。難解な文章も順を追いつつ、文法事項を確認していくと必ず読めるのである。

【成績評価】 評価の善し悪しは授業態度により決まる。

【再試験】 ない。

【教科書】

- ◇ 前期には戦前の上海についての小話を集めた『老上海奇聞』という本から幾つかの話を読む。
- ◇ 後期は『武漢文史資料文庫』か『上海文史資料存稿匯編』、或いは現代中国史に関わる基礎文献から資料・論文を抜粋する。
- ◇ これらは一般販売されていないので、適宜配布する。

【参考書】 辞書は必要である。ただし電子辞書は学習効果があがらないので初学者にとって不適当である。これは禁止する。紙媒体の比較的小さい辞書を購入しなければならない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218347>

【連絡先】

- ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝において。)

アジア社会基礎研究 (後期) 2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)
荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】 中国社会について、現代中国文で書かれた文章を読む、中国社会への理解を深めるとともに、現代中国文の読解能力を向上させる。全学共通中国語 I を修得したレベルから開始する。開始当初はあまりの難しさに面食らうかもしれない。だが目標レベルを高く設定する事は能力の向上の為には必要なことである。叱責を受けながら頑張っていたら、3 カ月を過ぎる頃には、新聞程度なら辞書を片手にすらすら読めるレベルに達している。

【授業概要】 中国社会の研究 現代中国文の訓練

【キーワード】 中国語講読、中国社会

【先行科目】 『中国語/中国語初級』(1.0)

【履修上の注意】 毎回担当者を決めず、随意に指名するので予習は欠かせない。予習をしていない、あるいは出来ない者は苦痛の授業となる。残念ではあるが、理解できる範囲以上の事は理解しようと思わない者がいる。このような学生には縁のない授業である。遠慮して頂きたい。ここで求められるのは、開始レベルの高低を問わず、向上心を持った野心的な学生である。文法的重要事項は何度でも繰り返し解説するので後期からの受講も認める。全学共通 1 年生の中国語を既修のこと、また中国語を母語とする学生にとっては、既知の内容であるので、受講を許可しない。

【到達目標】 現代中国語の文章読解能力の向上

【授業計画】 最初の方は一回の授業でテキスト 10 行程度を目処に読んでいくが、次第にスピードアップをはかる。音読と日本語訳を義務として課す。難解な文章も順を追いつつ、文法事項を確認していくと必ず読めるのである。

【成績評価】 評価の善し悪しは授業態度により決まる。

【再試験】 ない。

【教科書】

- ◇ 前期には戦前の上海についての小話を集めた『老上海奇聞』という本から幾つかの話を読む。
- ◇ 後期は『武漢文史資料文庫』か『上海文史資料存稿匯編』、或いは現代中国史に関わる基礎文献から資料・論文を抜粋する。
- ◇ これらは一般販売されていないので、適宜配布する。

【参考書】 辞書は必要である。ただし電子辞書は学習効果があがらないので初学者にとって不適当である。これは禁止する。紙媒体の比較的小さい辞書を購入しなければならない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218347>

【連絡先】

- ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 午前中に来ない。)

- ◇ 前期には戦前の上海についての小話を集めた『老上海奇聞』という本から幾つかの話を読む。
- ◇ 後期は『武漢文史資料文庫』か『上海文史資料存稿匯編』、或いは現代中国史に関わる基礎文献から資料・論文を抜粋する。
- ◇ これらは一般販売されていないので、適宜配布する。

【参考書】 辞書は必要。ただし電子辞書は学習効果があがらないので初学者に向かない。紙媒体の辞書を買わない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218348>

【連絡先】

- ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 一こま目の前がベストである。)

アジア社会演習 (前期) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】 中国は我々とは異なる社会である。彼らの差異と共通点は何か。他の文化圏と接触をする時にこのような視点は必須であると言えよう。この授業では、近現代中国に関する論文や調査資料を基にして中国社会への理解を深める。

【授業概要】 文献の輪読。

【キーワード】 中国社会

【履修上の注意】 本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。受講希望者の要望も考慮するので必ず登録前に来室、相談されたい。

【到達目標】 中国社会に対して何らかの知見を拓ける。

【授業計画】 1. 一回目はガイダンス。 2. 二回目以降は、テキストの翻訳と討論を行う。 3. 各回は、基本的に前回の到達点から翻訳を再開する。 4. 難解なテキストの翻訳という性格上、各回の範囲を予めシラバスに記載することはできない。 5. 強いて範囲を明記するならば、本授業に関しては、逆に受講生諸君に対して誠意を欠くこととなろう。

【成績評価】 本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。評価の善し悪しは授業態度と期末レポートにより決まる。

【再試験】 ない。

【教科書】

- ◇ 第一回目の授業において指定する。
- ◇ 教材はこちらで用意する。

【参考書】 授業中に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218345>

【連絡先】

- ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 午前中に来ること。午後は誠実に対応できないことがある。)

アジア社会演習 (後期) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】 中国は我々とは異なる社会である。彼らの差異と共通点は何か。他の文化圏と接触をする時にこのような視点は必須であると言えよう。この授業では、近現代中国に関する論文や調査資料を基にして中国社会への理解を深める。

【授業概要】 文献の輪読。

【キーワード】 中国社会

【関連科目】 『アジア地域交流史』(0.5, ⇒5 頁)

【履修上の注意】 本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。受講希望者の要望も考慮するので必ず登録前に来室、相談されたい。

【到達目標】 中国社会に対して何らかの知見を拓ける。

【授業計画】 1. 一回目はガイダンス。 2. 二回目以降は、テキストの翻訳と討論を行う。 3. 各回は、基本的に前回の到達点から翻訳を再開する。 4. 難解なテキストの翻訳という性格上、各回の範囲を予めシラバスに記載することはできない。 5. 強いて範囲を明記しようとするのは、本授業に関しては、逆に受講生諸君に対して誠意を欠くのではない。

【成績評価】 本授業では受講生による疑問の提示、討論を重視する。評価の善し悪しは授業態度と期末レポートにより決まる。

【再試験】 ない。

【教科書】 第一回目の授業で指定する。

【参考書】 追って指定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218346>

【連絡先】

- ⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 午前中に来ない。)

文化人類学研究 I 2 単位 2 年 (前期)
高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】 文化人類学の中心的なテーマについて講義する。世界の諸民族の事例を通して、人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し、異文化(および自文化)の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である。グローバリゼーションの中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい。

【授業概要】 文化人類学の基本問題

【キーワード】 文化、現代社会、グローバリゼーション

【関連科目】 『民俗学研究 I』(0.5, ⇒43 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【到達目標】 人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化(自文化)の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。

【授業計画】 1. 文化人類学のパースペクティブ 2. 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ 3. 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 4. 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 5. 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ 6. 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム 7. ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ 8. 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって 9. メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 10. グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム 11. 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 12. ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より 13. 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ 14. 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか 15. 「転換期」の時代の文化人類学 16. まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる。個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂、2005 年
- ◇ 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店、2003 年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書、1982 年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣、2008 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219280>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~13時)

【備考】 本年度開講 (隔年開講)

民俗学研究 I

2 単位 2 年 (後期)
高橋 晋一・教授 (兼任)/社会創生学科

【授業目的】 日本民俗学の主な研究目的は、各地に見られる民俗(一般の人々が日常生活の中で育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式)の持つ意味を明らかにし、さらにそれらの比較検討を通して、日本の基層文化を究明することにある。このような過去適応的=歴史学的側面を持つ一方で、日本民俗学は、民俗の変化とその要因の解明、あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している。本授業では、こうした日本民俗学の基本概念について概説する。

【授業概要】 日本民俗学の基本問題

【キーワード】 民俗、日本文化

【関連科目】 『文化人類学研究 I』(0.5, ⇒42 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。

【到達目標】 日本民俗学の基本的な概念を理解し、過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる。

【授業計画】 1. 民俗学の考え方(民俗学の研究対象・目的・方法) 2. 社会の民俗(イエとムラの民俗) 3. 環境の民俗(景観・地形と民俗) 4. 生業の民俗(海・山・里の生業と民俗) 5. 時間の民俗(年中行事と民俗) 6. 生と死の民俗(出産・葬儀の民俗) 7. 神と靈魂の民俗(祖先祭祀、他界観と民俗) 8. 境界と怪異の民俗(異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) 9. 性と民俗(女性の民俗、男性の民俗) 10. 語りの民俗(昔話・伝説・世間話の民俗) 11. 都市の民俗(生成・変容する都市民俗)(1) 12. 都市の民俗(生成・変容する都市民俗)(2) 13. 観光と民俗(民俗の「発見」と「活用」) 14. 比較民俗学への道(環東シナ海

文化圏の民俗) 15. 民俗研究の課題と展望(現代社会と民俗、民俗学の現代的意義) 16. まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館、1996 年
- ◇ 松崎憲三他編『民俗学の冒険』1~4、ちくま新書、1999 年
- ◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~10 巻、雄山閣、1998-2000 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219310>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】 本年度開講せず(隔年開講。次回は平成 24 年度開講予定)

日本語教育方法論 I

2 単位 2 年 (前期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 日本語教育に限らず、広く教育の方法について理解し、これからの教育活動の基礎を習得する。

【授業概要】 日本語教育の前提となる、教育及び学習に焦点をあて、私たちが受けてきた教育活動を振り返り、これからの教育-学習活動を再構築し実践していく方法を体得する。[継]

【キーワード】 生涯学習、自律学習、心とからだのコミュニケーション、意識と無意識、教えると学ぶ

【関連科目】 『日本語教育演習(その 2)』(0.5, ⇒44 頁)

【履修上の注意】 講義以外に集中講義形式で外部講師による「こころをからだの研修」を実施するこれも必ず受講すること。

【到達目標】

1. 日本語教育や日本語学習者の概観を知るとともに、言語はいかに習得されるか、学習者がどのようなものを求めているのかを理解できるようにする。
2. 自分を見つめ、また他者との関わりから教える・学ぶを考える。

【授業計画】 1. 自己紹介とガイダンス 2. 自分を知る 1 こころとからだ 3. 自分を知る 2 こころとからだ 4. 相手を知る 1 コミュニケーション 5. 相手を知る 2 コミュニケーション 6. 教える 1 ことば 7. 教える 2 知識 8. 学ぶ 1 ことば 9. 学ぶ 2 知識 10. 教えることと学ぶこと 体験学習とは 11. こころとからだのレッスン 1(集中講義) 12. こころとからだのレッスン 2(集中講義) 13. こころとからだのレッスン 3(集中講義) 14. こころとからだのレッスン 4(集中講義) 15. 自己成長と教育 16. まとめにかえて

【成績評価】 出席を重視します。毎回振り返りを記入または発言を記録し、評価とします。テストは行わない。

【再試験】 無

【教科書】 授業内で提示する。

【参考書】 竹内敏晴「からだことばのレッスン」野口三千三体操 ニューカウンセリング

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219298>

【連絡先】

⇒ 大石 (088-656-9875, oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 9:30~12:00 但し事前の連絡があれば他の日時でも対応します。)

【備考】 平成 24 年度開講

日本語教育方法論 II

2 単位 2 年 (後期)
橋本 智・准教授/国際センター

【授業目的】 「外国語としての日本語」を認識・理解し、その教育方法について考察し、言語学習活動の基礎とする。

【授業概要】 日本語教育とは、日本語を教えるということ、何をどう教えるか、日本語教育に係る領域・環境について考察し、自分なりの日本語教育方法を模索する

【キーワード】 外国語としての日本語、何を教えるか、どう教えるか

【履修上の注意】 隔年開講のため 2011 年には開講されない。

【到達目標】 外国語としての日本語を認識・理解する。またその教育方法論を学ぶ。

【授業計画】 1. 本授業の概要・計画の説明 2. 「外国語としての日本語」に必要なもの① 3. 「外国語としての日本語」に必要なもの② 4. 「外国語としての日本語」のコンテンツ①シラバス 5. 「外国語としての日本語」のコンテンツ②シラバス以外のもの 6. 留学生に聞く 7. 何を教えるか① 8. 何を教えるか② 9. どう教えるか① 10. ど

う教えるか② 11. 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営① 12. 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営② 13. 「外国語としての日本語」教育における教材・教具とは 14. 留学生・地域と「面白い日本語授業」を考える 15. 「面白い日本語授業」のグループ発表 16. 総括

【成績評価】 グループ発表時の積極性、クラスに臨む姿勢、参加度を重視。またレポートを課す。

【再試験】 無

【教科書】 適宜コピー教材を配付

【参考書】

- ◇ 「日本語教育の方法」 田中望 大修館書店
- ◇ 「新しい日本語教育のために」 J.V. ニュースブニー サイマル出版
- ◇ 「新・はじめての日本語教育 1・2」 アスク出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218924>

【連絡先】

⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 隔年開講, 2011 年には開講されない。

⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)

日本語教育演習 (その1)

2 単位 3 年 (後期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授方法やクラス運営を学ぶ。

【授業概要】 日本語教育の演習

【キーワード】 演習, 実習

【先行科目】 『日本語教授法 I』(1.0, ⇒44 頁), 『日本語教授法 II』(1.0, ⇒44 頁), 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒43 頁), 『日本語教育方法論 II』(1.0, ⇒43 頁)

【履修上の注意】 学生のレベルや人数などの状況により, 授業内容や計画が変更される場合があります。

【到達目標】 今まで勉強してきた理論や教授法などを復習しながら, どのように日本語の授業を組み立ててまた運営していくかを検討する。実際に教室で日本語を教える経験を通して, 日本語教師に必要な知識や経験を得る。授業の前に練習を行い, 授業後にクラスを振り返り, 効果的な授業やクラス運営について考える。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 教案の作成 (1) 3. 教案の作成 (2) 4. 実習計画 5. 日本語教育実習 (1) 6. 日本語教育実習 (2) 7. 日本語教育実習 (3) 8. 日本語教育実習 (4) 9. 日本語教育実習 (5) 10. 日本語教育実習 (6) 11. 日本語教育実習 (7) 12. 日本語教育実習 (8) 13. 日本語教育実習 (9) 14. 日本語教育実習 (10) 15. 日本語教育実習 (11) 16. 振り返り

【成績評価】 本授業の成績評価は, 出席・授業への取り組み, 教案の作成, 実習の内容などを総合して行う。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に適宜提示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218920>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00 但し事前に連絡があれば, 他の曜日・時間でも対応します)

【備考】 授業時間外の活動も多いため, 適宜受講生と内容方法等を相談しながら進めます。

日本語教育演習 (その2)

2 単位 4 年 (後期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授方法やクラス運営を学ぶ。様々な教材=リソースについても確認する。

【授業概要】 日本語教育の演習

【キーワード】 演習, 実習

【先行科目】 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒43 頁), 『日本語教育方法論 II』(1.0, ⇒43 頁), 『日本語教授法 I』(1.0, ⇒44 頁), 『日本語教授法 II』(1.0, ⇒44 頁)

【履修上の注意】 受講者は, 日本語教育方法論及び日本語教授法, あるいは日本語教育関連の授業を既に受講し, 単位を取得していることが望まれる。内容上多くの人数受け入れが不可能なこともある。受講前に必ず担当者との面談をすること。また授業時以外にも活動することを念頭に置いておくこと。

【到達目標】

1. ガイダンス
2. 教案の作成 (1)

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 教案の作成 (1) 3. 教案の作成 (2) 4. 実習計画 5. 日本語教育実習 (1) 6. 日本語教育実習 (2) 7. 日本語教育実習 (3) 8. 日本語教育実習 (4) 9. 日本語教育実習 (5) 10. 日本語教育実習 (6) 11. 日本語教育実習 (7) 12. 日本語教育実習 (8) 13. 日本語教育実習 (9) 14. 日本語教育実習 (10) 15. 日本語教育実習 (11) 16. 振り返り

【成績評価】 本授業の成績評価は, 出席・授業への取り組み, 教案の作成, 実習の内容などを総合して行う。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に指示する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218922>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00 但し事前に連絡があれば, 他の曜日・時間でも対応します)

【備考】 授業時間外にも活動を行うため, 受講生と適宜方法内容について相談します。

比較文化研究 (その1)

2 単位 2 年 (前期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

日本語教授法 I

2 単位 2 年 (前期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 外国語教育としての日本語教育とは何かを追究する。その中で, 日本語を教えるための知識, 方法及び技術を修得することを目的とする。

【授業概要】 日本語を教えるための方法を関わる者全ての視点から理解する。

【キーワード】 言語教育, 学習ストラテジー, コースデザイン

【履修上の注意】 課題解決型の講義のため, 出席と授業態度を重視する。

【到達目標】 日本語教師を目指す者として, 様々な教授法や教育的な関わりを理解する。さらに教育を実施する側の学習者への働きかけについても, 実際に日本語を学ぶ人々を交えて検討する。

【授業計画】 1. 日本語教育の歴史 2. 日本語教育の担うもの 3. 日本語を学ぶ環境 異文化コミュニケーション 4. 様々な教授法① 5. 様々な教授法② 6. 様々な教授法③ 7. 様々な教授法④ 8. 様々な教授法⑤ 9. 様々な教授法⑥ 10. 様々な教授法⑦ 11. 評価の目的 12. 評価の方法 13. 授業見学① 14. 授業見学② 15. 日本語教育とは 16. 総括授業 まとめ

【成績評価】 出席及び毎回の講義内でのタスクさらに最終課題を評価する。

【再試験】 無

【教科書】 授業初日に指示

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219296>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00 但し事前に連絡があれば, 他の曜日・時間でも対応します)

日本語教授法 II

2 単位 2 年 (後期)
橋本 智・准教授/国際センター

【授業目的】 留学生をはじめ外国人と接する時, 日本語はコミュニケーション手段の基本となり, その日本語を支えているものは文法である。この文法は国文法とは異なる視点で形成された外国人のための日本語教育の文法である。テキストだけにとどまらず時には留学生もまじえ生きた日本語の仕組みを体感する。

【授業概要】 「外国人のための日本語」について文法を軸に仕組みを学ぶ。

【キーワード】 外国人のための日本語, コミュニケーションの道具, 運用

【到達目標】 外国人のための日本語の仕組みを学び, 日本語指導やコミュニケーション時の基本とする。

【授業計画】 1. ①本授業の進め方②各自の外国語習得について③日本語教育とは 2. ①日本語教育のこれまで②外国人のための日本語(以下「日本語」とする)の特徴 (1)SOV 型・主語の省略・従属節 3. 「日本語」の特徴 (2) 複数・助数詞など 4. 音声・リズム 5. 文法①国文法との違い②品詞③名詞文「～は～です」 6. ①動詞とは②その活用③文型とは 7. その文型の機能とそれ支える各フォーム (1) て形, ない形, た形 8. その文型の機能とそれ支える各フォーム (2) 辞書形, 可能形, 意向形, 命令・禁止形 9. その文型の機能とそれ支える各フォーム (3) 受身形, 使役形, 敬語 10. ①アスペクト②まとめ-留学生と共に 11. ①形容詞とは②その活用③形容詞の機能 (1) 印象・感想, 描写 12. ①形容詞の機能 (2) たい・ほしい 13. ①助詞②接続詞③副詞の役割と機能 14. 表記①ひらがな・かたかな・漢字について 15. 表記②導入-留学生と共に 16. 総括授業

【成績評価】 課題への取り組み方, クラスでの姿勢, レポートなどによって評価する。

【再試験】 無

【教科書】 授業初日に伝える

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219297>

【連絡先】

【授業目的】異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間の思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、マイノリティの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】比較文化、異文化理解、マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究 (その2)』(1.0, ⇒45 頁)

【関連科目】『比較文化研究 (その2)』(0.5, ⇒45 頁), 『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒76 頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】前期は、課題発想的な比較文化研究の概念を検討し、授業の導入とする。「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題点を概観する。映画やドキュメンタリー・ビデオ、新聞記事なども適宜利用して、従来の学問区分に必ずしもとらわれない学際的・総合的な研究方法を示していく。具体的には、外国人・移民問題、文化的に見た民族問題、メルヘンと国民文化の問題、映像メディアによるホロコーストの表現の比較、「近代」に対する文化的批判、多文化社会の可能性といったテーマを考えている。文化研究の仕方として最近の「カルチュラル・スタディーズ」の成果なども紹介する。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫編『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店、E. W. サイド『オリエンタリズム』平凡社。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219308>

【連絡先】
⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

比較文化研究 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
依岡 隆児 教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間の思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、マイノリティの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】比較文化、異文化理解、マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒44 頁)

【関連科目】『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒76 頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】後期は、日本国内外の代表的な日本文化論を概観し、それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する。文化間の影響関係として、具体的には、日本の西洋モダニズム受容や、海外におけるジャポニズムから最近のマンガ・アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる。また、日本文化論に内在するナショナリズムやイデオロギー性を批判的に考察する。日本文化の雑種性への感受性を大切にし、既存の日本文化のイメージにとらわれない、新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく。地域文化 (徳島) と国際性といったテーマも取り上げる予定。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】

◇教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店。

◇依岡隆児『読書のススメ～四国から、グローバルに～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218953>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

ヨーロッパ歴史・社会論 I

2 単位 2 年 (前期)
佐久間 亮 教授/人間文化学科

【授業目的】イギリスの近代史を、いわゆるグローバル・ヒストリの中に位置づけて論じる。イギリスの歴史は、一時期を除いて第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで、帝国の歴史である。この過程は、現代のグローバル化社会の出発点ともいえ、現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている。イギリス国内のことがらを理解する上で、このような観点は欠かせない。たとえば、イングランド人、スコットランド人、ウェールズ人がそれぞれの文化的差異を含みながらも、イギリス人というアイデンティティ (ブリティッシュネス) へと統合されてきたのは、帝国の存在があったためである。

【授業概要】グローバル・ヒストリとイギリス近代史

【キーワード】ナショナルアイデンティティ、文化統合、大英帝国

【関連科目】『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒129 頁), 『ヨーロッパ史理論 I』(1.0, ⇒130 頁), 『アジア史研究 III』(0.9, ⇒37 頁)

【履修上の注意】視覚的印象は、テーマを理解する上で欠かせない要素である。授業中にもしばしばビデオを利用するが、以下に参考となる映画 (ビデオ化され入手しやすいもの) をあげておく。予め観ておくことが望ましい。授業中にも言及されるだろう。『エリザベス』Elizabeth(1998), 『恋に落ちたシェイクスピア』Shakespeare in Love (1998), 『マイ・フェア・レディ』My Fair Lady(1964), 『オスカール・ワイルド』Wilde (1997), 『インドへの道』A Passage To India(1984), 『遠い夜明け』Cry Freedom(1987), 『日の名残り』The Remains of the Day(1993)。

【到達目標】

1. イギリス社会の歴史的形成のプロセスと理解すること
2. 歴史的パースペクティブから現代の事象を理解する重要性を体感すること

【授業計画】1. 現在のイギリスを理解するために 2. イギリス宗教改革のインパクト 3. 帝国化への転換点としての16世紀 4. 「ピューリタン革命」論の再検討 5. 共和制という名の恐怖政治 6. 名誉革命とアイルランドの運命 7. 戦争と財政軍事国家イギリスの誕生 8. アメリカ独立の衝撃 9. ジェントルマン社会と「国民」統合 10. 帝国とスコットランド人 11. 「男らしさ」と戦争 12. フットボールの世界化 13. アイドル・ウーマンと帝国へ渡る女性たち 14. ジェントルマン資本主義とインドへの道 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は使用せず、授業中に配布するプリントを中心に講義をすすめる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219084>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時~13時)

ヨーロッパ歴史・社会論 II

2 単位 2 年 (前期)
長井 伸仁 准教授/人間文化学科

【授業概要】フランス近現代史の諸問題

【キーワード】史学

【先行科目】『ヨーロッパ社会研究 II』(1.0, ⇒129 頁)

【履修上の注意】フランス語の知識は不要です。

【到達目標】フランス近現代史の基本的な問題をいくつか取り上げ、史料に基づきつつ検討する。

【授業計画】1. 民主政 2. ネイション 3. 宗教とライシテ 4. 歴史と記憶

【成績評価】平常点 (授業への取り組みなど) と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する。

【再試験】なし

【教科書】教材は、プリントのかたちで配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219085>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】この授業は隔年開講であり、平成 24 年度開講

化主義の実験— 14. 終結政策—インディアン保護責任の放棄— 15. レッドパワー—闘うインディアンの復活—

【成績評価】毎回の小レポートの成績と講義への受講姿勢を評価する。

【再試験】行わない

【教科書】ありません。

【参考書】富田虎男『アメリカ・インディアンの歴史』(雄山閣)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219051>

【連絡先】

⇒ 吉岡

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

ヨーロッパ歴史・社会論 III

2 単位 2 年 (前期)
今井 晋哉 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】本科目は、西洋近現代史あるいはドイツ史の総花式の叙述を目的とするものではない。歴史の流れを時代順にマクロ的に辿りながらではあるが、主眼はあくまでも下記「概要」に挙げた諸問題の考察に置かれる。特に 20 世紀前半のドイツ史は今日、異文化間の接触や交流のあり方を考える際、一つの巨大な反面教師の役割を果たすであろう。また、「国民国家」や人種主義の問題性は、今日なお決して無視できない重みをもつと思われる。

【授業概要】「国民国家」とナショナリズム、帝国主義、人種主義などの問題性の考察—19 世紀後半～第二次世界大戦期のドイツ史を中心に

【キーワード】国民国家、ナショナリズム、帝国主義、人種主義

【関連科目】『ヨーロッパ社会研究 III』(0.5, ⇒129 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(0.5, ⇒45 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(0.5, ⇒45 頁)

【履修上の注意】ドイツ史を含む西洋近現代史に関心のある人ならば、誰でも歓迎される。ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】西洋近現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的なパースペクティヴをもって多面的に捉えられること。そして、自分が学習したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。

【授業計画】1. 最初の数回は、特に 19 世紀-20 世紀前半の西洋史を理解する上で重要だと思われる分析視角の中から「国民国家」の創出あるいは「国民」形成の問題をとりあげ、話題をドイツ史に限定せずにヨーロッパ近代史の特徴の一つを浮き彫りにすることを試みる。2. 続いて、国家と社会との関係、「国民国家」ないし「民族共同体」と「異分子」との関係を中心に、「マイノリティ」=疎外、差別、迫害される人々の状況に目配りしつつ、ドイツ史を中心に 19 世紀末葉から第一次世界大戦期 (1914-18 年)、ワイマル共和制期 (1919-33 年) を経て、ナチス支配の時代 (1933-45 年) までを視野に入れ、特に総力戦体制の構築とナショナリズムの急進化、ワイマル共和国の崩壊=ナチス台頭の背景、優生思想・人種主義とナチズム、ナチ体制にとって「有害無益」な存在 (浮浪者、売春婦、同性愛者、「障害者」、シンティ・ロマ、ユダヤ人等々) の排除・抹殺、といった問題をとりあげて論じたい。また、以上のような問題の分析・叙述を通して、「国民国家」とナショナリズム、優生思想と人種主義などの問題をとりあげることの今日的意味についても考えてみたい。3. 時おり映像資料も使用する。4. より詳しいことは、開講時に説明する。

【成績評価】主として期末のレポートによるが、授業への参加状況も参考にする。

【再試験】場合によっては行う (レポート再提出)。

【教科書】特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219027>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】隔年開講 (2011 年度前期開講)

アメリカ歴史・社会論

2 単位 2 年 (前期)
吉岡 宏祐 講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
今井 晋哉 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】アメリカ・インディアンの歴史と現実を、先住民の権利という視点から分析する。

【授業概要】現在アメリカのインディアン問題の実情を具体的に分析し、その歴史にさかのぼって由来を考える。

【キーワード】アメリカ、先住民、インディアン

【履修上の注意】聞きっぱなしにならないように、毎回小レポートを書いてもらいます。その際、自分の考えをはっきりと書いて下さい。

【到達目標】

1. アメリカに先住民がいて、独自の歴史を持っていたことを知り、
2. 今日のアメリカと先住民の関係についての認識を深めること。

【授業計画】1. インディアン問題について 2. 保留地の苦悩—絶望と貧困— 3. 権利の回復—先住民条約権の履行— 4. インディアン・カジノ—伝統とギャンブルの相克— 5. インディアンの原文化—自然と文化の融合— 6. 白人との遭遇—ポカホンタス伝説の解剖— 7. 清掃政策への転換—先住民排斥の論理— 8. 独立革命とインディアン—「外国」としてのインディアン— 9. フロンティア理論とインディアン—アメリカ自由原理の暴走— 10. チェロキー共和国と強制移住—文明化したインディアンの悲劇— 11. 西部開拓とインディアン戦争—侵略の西部史— 12. 同化政策とインディアン学校—部族の解体と文化の破壊— 13. ニューディール政策とインディアン—多文

人間社会学科 欧米言語コース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

実用英語演習・総論 ... 欧米言語コース教員・国際文化コース教員・吉田/2年 (前期, 後期), 3年 (前期, 後期).....	47	欧米言語ゼミナール (その2) ... 森岡/3年 (後期), 4年 (後期).....	58
実用英語演習 I(その1) ... 森岡/2年 (前期).....	48	欧米言語ゼミナール (その2) ... 山内/3年 (後期), 4年 (後期).....	58
実用英語演習 I(その1) ... 吉田/2年 (前期).....	48	欧米言語ゼミナール (その2) ... 樋口/3年 (後期), 4年 (後期).....	59
実用英語演習 I(その1) ... 山田/2年 (前期).....	48	欧米言語ゼミナール (その2) ... スティーヴンズ/3年 (後期), 4年 (後期).....	59
実用英語演習 I(その2) ... スティーヴンズ・ポンド・早内・プリングル/2年 (後期).....	48		
実用英語演習 II(その1) ... 宮崎/3年 (前期).....	49	欧米言語ゼミナール (その2) ... 石田/3年 (後期), 4年 (後期).....	59
実用英語演習 II(その1) ... 吉田/3年 (前期).....	49	欧米言語ゼミナール (その3) ... 井戸/3年 (前期), 4年 (前期).....	59
実用英語演習 II(その2) ... 桂/3年 (後期).....	49	欧米言語ゼミナール (その3) ... 山田/3年 (前期), 4年 (前期).....	59
実用英語演習 II(その2) ... 山内/3年 (後期).....	49	欧米言語ゼミナール (その3) ... 石川/3年 (前期), 4年 (前期).....	59
実用英語演習 III (その1) ... 福田/3年 (前期).....	50	欧米言語ゼミナール (その3) ... 宮崎/3年 (前期), 4年 (前期).....	60
実用英語演習 III(その1) ... ポンド・佐久間/3年 (前期).....	50	欧米言語ゼミナール (その3) ... 中島/3年 (前期), 4年 (前期).....	60
実用英語演習 III(その1) ... 福田/3年 (前期).....	50	欧米言語ゼミナール (その3) ... スタージ/3年 (前期), 4年 (前期).....	60
実用英語演習 III(その1) ... スティーヴンズ/3年 (前期).....	51	欧米言語ゼミナール (その3) ... 森岡/3年 (前期), 4年 (前期).....	60
実用英語演習 III(その1) ... スタージ/3年 (前期).....	51	欧米言語ゼミナール (その3) ... 山内/3年 (前期), 4年 (前期).....	61
実用英語演習 III (その2) ... 福田/3年 (後期).....	51	欧米言語ゼミナール (その3) ... 樋口/3年 (前期), 4年 (前期).....	61
実用英語演習 III(その2) ... ポンド・佐久間/3年 (後期).....	51	欧米言語ゼミナール (その3) ... スティーヴンズ/3年 (前期), 4年 (前期).....	61
実用英語演習 III(その2) ... 福田/3年 (後期).....	51		
実用英語演習 III(その2) ... スティーヴンズ/3年 (後期).....	52	欧米言語ゼミナール (その3) ... 石田/3年 (前期), 4年 (前期).....	61
実用英語演習 III(その2) ... スタージ/3年 (後期).....	52	欧米言語ゼミナール (その4) ... 井戸/3年 (後期), 4年 (後期).....	61
実用ドイツ語演習 I(その1) ... 井戸/2年 (前期).....	52	欧米言語ゼミナール (その4) ... 山田/3年 (後期), 4年 (後期).....	62
実用ドイツ語演習 I(その2) ... 依岡/2年 (後期).....	52	欧米言語ゼミナール (その4) ... 石川/3年 (後期), 4年 (後期).....	62
実用ドイツ語演習 II(その1) ... 石川/3年 (前期).....	52	欧米言語ゼミナール (その4) ... 宮崎/3年 (後期), 4年 (後期).....	62
実用ドイツ語演習 II(その2) ... 石田/3年 (後期).....	53	欧米言語ゼミナール (その4) ... 中島/3年 (後期), 4年 (後期).....	62
実用ドイツ語演習 III(その1) ... 今井/3年 (前期).....	53	欧米言語ゼミナール (その4) ... スタージ/3年 (後期), 4年 (後期).....	62
実用ドイツ語演習 III (その2) ... ヘルベルト/3年 (後期).....	53	欧米言語ゼミナール (その4) ... 森岡/3年 (後期), 4年 (後期).....	63
実用フランス語演習 I (その1) ... 長井/2年 (前期).....	53	欧米言語ゼミナール (その4) ... 山内/3年 (後期), 4年 (後期).....	63
実用フランス語演習 I (その2) ... 田島/2年 (後期).....	53	欧米言語ゼミナール (その4) ... 樋口/3年 (後期), 4年 (後期).....	63
実用フランス語演習 II (その1) ... 山口/3年 (前期).....	54	欧米言語ゼミナール (その4) ... スティーヴンズ/3年 (後期), 4年 (後期).....	63
実用フランス語演習 II (その2) ... 山口/3年 (後期).....	54		
実用フランス語演習 III (その1) ... 長井/3年 (前期).....	54	欧米言語ゼミナール (その4) ... 石田/3年 (後期), 4年 (後期).....	63
実用フランス語演習 III (その2) ... 長井/3年 (前期).....	54	欧米言語ゼミナール (総論) ... 欧米言語コース全教員/3年 (前期, 後期), 4年 (前期, 後期).....	64
欧米言語ゼミナール (その1) ... 井戸/3年 (前期), 4年 (前期).....	55	英米の言語と文化 ... スティーヴンズ/3年 (前期).....	64
欧米言語ゼミナール (その1) ... 山田/3年 (前期), 4年 (前期).....	55	ドイツの文学 ... 石川・井戸/2年 (前期).....	64
欧米言語ゼミナール (その1) ... 石川/3年 (前期), 4年 (前期).....	55		
欧米言語ゼミナール (その1) ... 宮崎/3年 (前期), 4年 (前期).....	55		
欧米言語ゼミナール (その1) ... 中島/3年 (前期), 4年 (前期).....	56		
欧米言語ゼミナール (その1) ... スタージ/3年 (前期), 4年 (前期).....	56		
欧米言語ゼミナール (その1) ... 森岡/3年 (前期), 4年 (前期).....	56		
欧米言語ゼミナール (その1) ... 山内/3年 (前期), 4年 (前期).....	56		
欧米言語ゼミナール (その1) ... 樋口/3年 (前期), 4年 (前期).....	56		
欧米言語ゼミナール (その1) ... スティーヴンズ/3年 (前期), 4年 (前期).....	57		
欧米言語ゼミナール (その1) ... 石田/3年 (前期), 4年 (前期).....	57		
欧米言語ゼミナール (その2) ... 井戸/3年 (後期), 4年 (後期).....	57		
欧米言語ゼミナール (その2) ... 山田/3年 (後期), 4年 (後期).....	57		
欧米言語ゼミナール (その2) ... 石川/3年 (後期), 4年 (後期).....	57		
欧米言語ゼミナール (その2) ... 宮崎/3年 (後期), 4年 (後期).....	58		
欧米言語ゼミナール (その2) ... 中島/3年 (後期), 4年 (後期).....	58		
欧米言語ゼミナール (その2) ... スタージ/3年 (後期), 4年 (後期).....	58		

実用英語演習・総論 2単位 2年 (前期, 後期), 3年 (前期, 後期) 欧米言語コース教員, 国際文化コース教員 吉田昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】この演習は、欧米言語コースと国際文化コースが共同で開講する両コースのコース共通科目である。中学、高校、更には全学共通教育で培ってきた英語の能力を、より実用的なコミュニケーションの道具として使えるレベルに高めることを目標とする。したがって、演習での力点は文法事項などを教えることよりも、基本的な語彙を習得し、日本語を介さずに英語を英語のまま理解するためのトレーニングを与えることに置かれる。そのため、テキスト教材のみならず、小説の朗読、ニュース、ドキュメンタリー、映画やドラマなどの音声視覚教材を駆使し、現代の生きた英語によるコミュニケーション能力の向上をはかる。それはまた、TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験に対応するトレーニングにもなる。受講者は与えられた課題をこなすだけでなく、演習で提示されるトレーニングを自ら実践することが要請される。言うまでもなく、実用英語のレベル向上は、日々の自発的トレーニング抜きには期待できない。この演習を刺激として、英語によるコミュニケーション能力という一生の財産となりうる確かな技能を身につけて欲しい。

【授業概要】演習 I, II, III すべて、新カリキュラムの同種の授業と合併して開講されるので、そちらのシラバスを参照のこと。

【キーワード】read, write, listen, speak

【履修上の注意】個々の担当者のシラバスを参照すること。

【到達目標】

1. 演習 I: 実用的なコミュニケーション能力の基礎として、1) 英語を英語のまま理解する能力を養成する。2) 多様な英語を聞き取る能力を養成する。3) 徹底的なドリルを通じて英語を滑らかに口から出せるように訓練する。
2. 演習 II: 演習 I を踏まえ、より実用的な英語の運用能力を獲得する。
3. 演習 III: ネイティブ教員による指導を通して、総合的な英語のコミュニケーション能力を養成する。

【授業計画】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【成績評価】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【再試験】 行わない。

【教科書】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219212>

【連絡先】

- ⇒ 欧米言語コース教員
- ⇒ 国際文化コース教員
- ⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

実用英語演習 I(その 1)

2 単位 2 年 (前期)
森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るためには、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。この授業では、英語ニュースのディクテーションおよびスピーキングの基礎トレーニングを行う。ニュース英語におけるアナウンサーやレポーターの発音は、おおむねスラングやアクセントを含まないので、導入教材としては最適であると考え、受講者が英語を聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること、英語を積極的に口にするトレーニングにより、スピーキングの基礎を養成することを目的としている。

【授業概要】 VOA (Voice of America) の Special English Program から 12 のニュースを取り上げたテキストを用いて、ディクテーションを行う。また、大学レベルでの英語読解や聴解に最低限必要な基本語彙の習得、および発音練習の一環として、recitation(暗唱)課題を与える。

【キーワード】 英語ディクテーション, *listening and pronunciation training, vocabulary building*

【関連科目】 『実用英語演習 II(その 1)』(1.0, ⇒49 頁), 『実用英語演習 III(その 1)』(1.0, ⇒50 頁)

【履修上の注意】 クラス分けの方法: 1) 授業希望者は、初回の授業の前日正午までに受講登録をすること。2) 登録を締め切った時点で登録者が 75 人を超えた場合は、抽選により人数調整を行う。3) 初回授業では、受講を許可された学生のクラス選択希望調査 (A/C) を行う。4) 各クラスの希望受講者数に大幅な差が出たときには、初回授業で行うリスニングテスト結果によって、各クラスの数調整をする。

【到達目標】 受講者が英語ニュースを聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること

【授業計画】 1. Class Division & Pre-Test 2. Unit 1: A Cool Way to Keep Food from Spoiling 3. Unit 2: The Amish People 4. Unit 3: Project Seeks Free E-Books for Colleges in Developing Nations 5. Unit 4: Looking for Weight-Loss Answers 6. Unit 5: Rocked Scientist-You Do not Have to Be Extremely Intelligent to Understand This- 7. Unit 6: Disappearance of Honeybees a Mystery 8. Unit 7: Engineering Low-Tech Solutions for Places in Need 9. Unit 8: George Gershwin-One of America's Great Songwriters- 10. Unit 9: Weighing the Idea of a Year off before College 11. Unit 10: The Worldwide Spread of Oil 12. Unit 11: Baseball Terms-This Is a Whole New Ballgame- 13. Unit 12: Taking the Pulse of Public Opinion about Health Problems 14. Class Test (Unit 1-12) 15. Final Test 16. Review

【成績評価】 Weekly assignments 30%, Class Test 40%, Final Test 30%

【再試験】 行わない。

【教科書】 Haruo Kizuka. Listening Dictation with VOA, Vol.2. Macmillan Languagehouse (2008). 1,800 yen

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219208>

【連絡先】

- ⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用英語演習 I その 1)

2 単位 2 年 (前期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るためには、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。この授業では、英語ニュースのディクテーションおよびスピーキングの基礎トレーニングを行う。ニュース英語におけるアナウンサーやレポーターの発音は、おおむねスラン

グやアクセントを含まないので、導入教材としては最適であると考え、受講者が英語を聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること、英語を積極的に口にするによりスピーキングの基礎を養成することを目的とする。

【授業概要】 VOA (Voice of America) の Special English Program から 12 のニュースを取り上げたテキストを用いて、ディクテーションを行う。さらに、大学レベルでの英語読解や聴解に最低限必要な基本語彙の習得のため、また発音やスピーキングの練習として、recitation(暗唱)の課題を与える。

【キーワード】 ディクテーション, *listening and pronunciation training, vocabulary building*

【関連科目】 『実用英語演習 II(その 1)』(1.0, ⇒49 頁), 『実用英語演習 II(その 2)』(1.0, ⇒49 頁), 『実用英語演習 III(その 1)』(1.0, ⇒50 頁), 『実用英語演習 III(その 2)』(1.0, ⇒51 頁)

【到達目標】 英語ニュースを聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること

【授業計画】 新カリ学部共通科目「実用外国語基礎演習 I(英語)」のシラバスをみてください。

【成績評価】 毎週のクラスにおけるトレーニングへの取り組みと全クラス共通の最終試験により、総合的に評価する。 Weekly assignments 40%, Class Test 40%, Final Test 20%

【再試験】 なし。

【教科書】 Haruo Kizuka. Listening Dictation with VOA, Vol.1. Macmillan Languagehouse. 1,890 yen

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219209>

【連絡先】

- ⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

実用英語演習 I(その 1)

2 単位 2 年 (前期)
山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 『実用英語演習・総論』を参照のこと。

【授業概要】 英語を聴き、話し、そして英文を英語の論理で読むための基礎トレーニングをおこないます。素材としてアメリカ ABC 放送のニュースを用います。トレーニングメニューは以下の通りです。1. DVD のみでニュースを視聴しておおまかな内容を捉え、2~3 行程度の文章にまとめる。この際の使用言語は英語でも日本語でも両方でも構わない。(予習) 2. DVD の音声のみによりその英語をできる限り書き取る。テキストは見ない。(予習) 3. テキストの Warm-up exercises A, B を確実にする。(予習) 4. 予習した成果を授業で確認する。(授業) 5. スクリプトに意味のまとまりごとにスラッシュを書き入れる。(授業) 6. 重要な表現や分かりにくいところがあれば確認する。(授業) 7. スクリプトを見ながら音声に合わせて自分も声に出して読む。(シャドウイング)(授業) 8. スクリプトを見ないで音声に合わせて、自分も声に出して語るつもりで読む。(シャドウイング)(授業)

【キーワード】 *dictation, listening, shadowing, speaking*

【関連科目】 『実用英語演習 III(その 1)』(1.0, ⇒50 頁), 『実用英語演習 III(その 2)』(1.0, ⇒51 頁)

【履修上の注意】 予習を前提とした授業なので、必ず予習をすること。

【到達目標】 実用英語演習「総論」参照

【授業計画】 1. Introduction 2. Unit 1 A Crusader's Life 3. Unit 2 American Heart 4. Unit 3 American Roads: Safer than Ever 5. Unit 4 Culture Clash: Veil Bans 6. Unit 6 Missing Link: Major Discovery 7. 前半テスト: 英語の音声聞いて英語の質問に英語で答える。(筆記) 8. Unit 10 Portrait of America: Identity Issues and the Census 9. Unit 12 Saving America's Middle Class 10. Unit 13 Law of the Land: Obama Signs Healthcare Bill 11. Unit 14 Persons of the Week: Bird Songs 12. 在宅自習: 各自興味があるニュースについて dictation して提出する。 13. Unit 15 Nuclear Deal 14. 後半テスト: 英語の音声聞いて英語の質問に英語で答える。(筆記) 15. 3 クラス共通のテスト 16. 総括授業

【成績評価】 本クラス個別の試験とレポート (50%) と期末試験の結果 (50%) を併用する。なお、授業への取り組みが不足する場合はこれより減点する。

【再試験】 実用英語演習「総論」参照

【教科書】 DVD で学ぶ ABC ニュースの英語 13(金星堂)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218673>

【連絡先】

- ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

実用英語演習 I(その 2)

2 単位 2 年 (後期)
スティーヴンズ、メリディス・アン・講師/人間文化学科
ポンドクリストファー・非常勤講師/全学共通教育センター
早内・プリングル・ジュディス・非常勤講師

【授業目的】 To be able to analyze current events in English.
【授業概要】 Students will research a news event each week and provide a diary entry summarizing the news event and providing a personal response to it. Each week three students will give a 5 minute oral presentation on the news event. The current event may be obtained from any news website in English. Students will be encouraged to include websites from diverse sources such as New Zealand, Canada, South Africa, Singapore and Hong Kong.
【キーワード】 時事英語
【履修上の注意】 Attendance will be strictly monitored. A maximum of three absences will be accepted.
【到達目標】 To be able to critically analyze media coverage of current events.
【授業計画】 1. Course Guidance: Introduction to the Structure of a Newspaper 2. Questions and Advice 3. Matching Comment and Newspaper 4. Separating News and Comment 5. Fleshing Stories Out 6. Captions 7. Awards: Comprehensive Coverage 8. Awards: Readability 9. Awards: Best Political Story 10. Awards: Awareness of Minority Readerships 11. Awards: Best Human Interest Story 12. Awards: Best Photograph 13. Awards: Best Sports Reporting 14. Categories of Story 15. Final Exam 16. Feedback
【成績評価】 Summaries of Current Events, Oral Presentations and a Final Essay
【再試験】 A retest is possible but late homework submission will attract penalties.
【教科書】 No textbook is necessary. Students will be required to source stories on the internet. Some newspaper or internet stories will be provided.
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218674>
【連絡先】
 ⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ ポンド
 ⇒ 早内-プリングル (juditph@yahoo.com) (オフィスアワー: By appointment)

実用英語演習 II(その1)

2 単位 3 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 「実用英語演習・総論」のシラバスを参照
【授業概要】 毎時の授業は、大きく 2 つのパートから構成される。(1) テキストの使用により、ダイアログの暗唱とドリル。(2) 語彙ゲームや、映画の視聴によりネイティブ英語に慣れつつ、スクリプトにより口語的なフレーズや表現を習得する。さらに、自宅での学習として、毎回短いディクテーションを宿題とする。
【キーワード】 Drill, Listening Comprehension, Essay Writing
【先行科目】 『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒48 頁), 『実用英語演習 I その1』(1.0, ⇒48 頁)
【関連科目】 『実用英語演習 III (その1)』(0.5, ⇒50 頁), 『実用英語演習 III (その2)』(0.5, ⇒51 頁)
【履修上の注意】 毎日短時間でも繰り返しを多くすることが大切です。
【到達目標】 「実用英語演習・総論」のシラバスを参照
【授業計画】 1. 授業は第 1 回イントロダクション、第 2 回から第 15 回まで、期末試験を含め以下の流れで行います。2. 宿題を提出し、シャドウイングと答え合わせを行う。3. テキストの使用により、ペアでのダイアログの暗唱とドリル。4. スクリプトを見ながら映画を視聴する。5. 口語的な表現やフレーズの確認。6. 宿題用の音声ファイル (mp3 ファイル) を自分用の媒体にコピーする。
【成績評価】 授業への取り組み状況と課題の提出などを総合して評価する。
【再試験】 有り
【教科書】 『アメリカ口語教本 (中級用)』, 研究社 2600 円。
【参考書】 授業時に適宜紹介する。
【WEB 頁】 http://homepage3.nifty.com/roundshape/practical.english_2.html
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219210>
【連絡先】
 ⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)

実用英語演習 II(その1)

2 単位 3 年 (前期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 実用英語演習・総論を参照のこと。
【授業概要】 この授業では、主にリスニング・ディクテーションを行う。アメリカ合衆国などの英語圏で放映された TV ドラマを素材として取

り上げ、自然なスピードで発話されている口語英語を正確に聞き取り、大まかな内容を理解する力を養成する。授業の最初では、前回の内容に関する語彙の小テストも行われる。授業は学生用コンピューター端末を備えた教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 listening comprehension, 英語ディクテーション, English TV drama

【先行科目】 『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒48 頁), 『実用英語演習 I(その2)』(1.0, ⇒48 頁)

【関連科目】 『実用英語演習 III (その1)』(0.5, ⇒50 頁), 『実用英語演習 III(その2)』(0.5, ⇒51 頁)

【履修上の注意】 授業計画に示したものは、進度のおおよその目安である。テストの回数等に変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。

【到達目標】 自然なスピードで発話されている口語英語の正確な聞き取りと、おおまかな内容理解ができること

【授業計画】 1. Class Guidance/ Proficiency Test 1 2. Drama Episode 1 (1) 3. Drama Episode 1 (2) 4. Drama Episode 1 (3) 5. Drama Episode 1 (4) 6. Test for Drama Episode 1 7. Drama Episode 2 (1) 8. Drama Episode 2 (2) 9. Drama Episode 2 (3) 10. Drama Episode 2 (4) 11. Test for Drama Episode 2 12. Drama Episode 3 (1) 13. Drama Episode 3 (2) 14. Drama Episode 3 (3) 15. Drama Episode 3 (4) 16. Test for Drama Episode 3/ Proficiency Test 2

【成績評価】 Tests for Drama Episodes (70%) ; Weekly tests for vocabulary (30%)

【再試験】 規定の出席日数を満たしており、毎週の小テストの成績が 60% を超える受講者のみを対象とする。

【教科書】 使用しない。

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219907>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 前期木曜 3-4

実用英語演習 II(その2)

2 単位 3 年 (後期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】 英語力を底上げし、TOEIC 試験にも対応する英語力の育成
【授業概要】 TOEIC の受験対策のための授業ではなく、それぞれの参加者が各自の英語力の底上げをすることをサポートする授業である。一般性の高いテーマについて、種々のテキストやクリップを紹介し、それらとできる限り多量に取り組み、また CALL 教室を活用し、さらに聞く、話すという活動につなげてゆくことを目指す。

【キーワード】 英語リーディング, リスニング

【履修上の注意】 実用英語能力を身につけるには積極的に参加する意識が不可欠。授業以外の場でもテレビやラジオの英語学習番組等を利用して、積極的に語学学習に取り組む姿勢が大切である。授業の予習は必須。必ず英和辞書を持参すること。

【到達目標】 「実用英語演習・総論」参照。「日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる」英語コミュニケーションレベルを身につける。

【授業計画】 1. 目的に応じてテキストから情報を引き出す、実用的リーディングの練習 2. テーマについて英語でフリートークをおこなう 3. 実践的な語彙力をつける

【成績評価】 授業への参加度、授業中に複数回行うミニテストおよび定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 用いない。その都度、コピーを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219211>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

【備考】 CALL 教室を使用。

実用英語演習 II(その2)

2 単位 3 年 (後期)
山内 暁彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】 実用英語演習・総論を参照。

【授業概要】 ビデオ教材を使って英語の基本的運用力の向上を図る。アメリカの連続ドラマの視聴によりネイティブ英語に慣れ、口語的な語彙やフレーズを習得する。授業ではスクリプトを利用する。自宅での学習として短いディクテーションを随時宿題として課す。コメディ仕立てのドラマであるので、台詞の可笑しさを理解し、アメリカの日常生活や文化にも触れる。

【キーワード】リスニング、ディクテーション
 【履修上の注意】実用英語演習 I を履修済みであることが望ましい。
 【到達目標】日常的な英語表現を習得すること。
 【授業計画】1. イントロダクション 2. エピソード 1(その 1) 3. エピソード 1(その 2) 4. エピソード 1(その 3) 5. エピソード 1(その 4) 6. 中間テスト 1 7. エピソード 2(その 1) 8. エピソード 2(その 2) 9. エピソード 2(その 3) 10. エピソード 2(その 4) 11. 中間テスト 2 12. エピソード 3(その 1) 13. エピソード 3(その 2) 14. エピソード 3(その 3) 15. 後期試験 16. 総括授業
 【成績評価】後期試験 30%, 2 度の中間テスト各 25%, 授業に取り組む姿勢や課題の提出状況などの平常点 20%により総合的に評価する。
 【再試験】行なう。
 【教科書】教科書は使用せず、プリントを配付する。各自プリントの管理を確実にすること。
 【参考書】参考資料については授業中に指示する。各種ハンドアウトを随時配布する。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219908>
 【連絡先】
 ⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)
 【備考】後期, 木曜日 3~4 講時。新カリ「実用外国語演習 (英語)」と同内容。

実用英語演習 III (その 1) 2 単位 3 年 (前期)

福田, スティーブ・利久・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 This class formed to give students exposure to and practice with the English writing or speech-making process from collecting ideas to the final version. Students will learn how to build paragraphs and outlines, and proof-reading for English essays or speech presentations.
 【授業概要】 English composition and speech presentation
 【キーワード】 *essay writing, speech presentation, writing in English, speaking in English*
 【先行科目】 『実用英語演習 II(その 1)』(1.0, ⇒48 頁), 『実用英語演習 I(その 1)』(1.0, ⇒48 頁)
 【関連科目】 『実用英語演習 II(その 1)』(1.0, ⇒49 頁), 『実用英語演習 II(その 2)』(1.0, ⇒49 頁), 『実用英語演習・総論』(1.0, ⇒47 頁)
 【履修上の注意】 4 つのクラス (水曜 7-8/スティーブズ担当, 水曜 3-4 フェネリー担当, 金曜 5-6/早内ジュディス担当, 金曜 7-8/マーシエソ担当) のうち, 1 クラスを履修します。履修登録前に希望を聞いた上でクラス指定をします。掲示に注意しておいてください。なお, この授業は学生個人では履修登録できません。
 【到達目標】 By the end of this course, students should be able to write and present competently on almost any topic.
 【授業計画】 1. General Class Guidance 2. Guidance for Each Class 3. Introduction: Process Writing 4. Unit 1: Pre-Writing: Getting Ready to Write (1) 5. Unit 1: Pre-Writing: Getting Ready to Write (2) 6. Unit 2: The Structure of a Paragraph (1) 7. Unit 2: The Structure of a Paragraph (2) 8. Unit 3: The Development of a Paragraph (1) 9. Unit 3: The Development of a Paragraph (2) 10. Unit 4: Descriptive and Process Paragraphs (1) 11. Unit 4: Descriptive and Process Paragraphs (2) 12. Unit 5: Opinion Paragraphs (1) 13. Unit 5: Opinion Paragraphs (2) 14. Unit 6: Comparison/ Contrast Paragraph (1) 15. Unit 6: Comparison/ Contrast Paragraph (2) 16. Final Writing or Short Presentation
 【成績評価】 Final essay or speech presentation is an important component of this course, but weekly attendance, participation to class work, and homework are even more important. Tentative evaluation scheme: Weekly class participation, assignment, and homework (70%), Final essay or presentation (30%).
 【再試験】 Yes, if you have attended more than 2/3 of the class weeks and if your score is 50% and over.
 【教科書】 Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek. Success with College Writing: From Paragraph to Essay. Macmillan Languagehouse, 2003.
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218671>
 【連絡先】
 ⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)
 【備考】 All the four classes are taught by native speakers of English.

実用英語演習 III(その 1) 2 単位 3 年 (前期)

ポンドクリストファー・非常勤講師/全学共通教育センター
 佐久間亮・教授/人間文化学科

【授業目的】 In today's global society the ability to communicate in English is becoming ever more important. The goal of this course is to help develop the students speaking and writing skills through the use of authentic activities
 【授業概要】 The classes are organized around themes and functions relevant to a global world. Students will participate in activities such as role-plays, discussions and presentations. There will be a written homework activity each week that is required as preparation for the following weeks class; this will include authentic writing activities such as producing emails, letters, narratives and descriptions
 【到達目標】 The goal of this course is to help develop the students speaking and writing skills through the use of authentic activities
 【授業計画】 1. Introduction to the course and course expectations 2. Getting to know you. Introductory presentations 3. Applying for a job. Exchanging Information 4. Applying for a job. Exchanging information 5. Informal letters. Natural conversation 6. Informal letters. Natural conversation. 7. Narrative writing. Retelling a news story 8. Narrative writing. Retelling a news story 9. Linking ideas. Being polite 10. Linking ideas. Being polite 11. Writing emails. Telephone conversations 12. Writing emails. Telephone conversations 13. Report Writing. Conducting a survey 14. Report Writing. Conducting a survey 15. Final presentation 16. Review and feedback
 【成績評価】 The students will be evaluated on weekly attendance, participation in discussions, oral presentations, written homework and a final presentation
 【再試験】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher
 【教科書】 A course book is required. New Headway, 3rd Edition, Upper Intermediate Student Book, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13:9780194392990
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219909>
 【連絡先】
 ⇒ ポンド .

実用英語演習 III(その 1) 2 単位 3 年 (前期)

福田, スティーブ・利久・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 Become accustomed to using English through English
 【授業概要】 Students will decide on a social problem or current event to work with during the semester. With his or her social problem the student will keep up with the news through newspapers, magazine and Internet articles, Internet blogs, or TV and movie documentary and films outside of class. In the class, the students will be required to participate in discussions concerning their topic.
 【キーワード】 *academic reading, academic writing, academic discussions*
 【到達目標】 ①【知識・理解】 Students will learn how to use different forms of media for pursuing their studies. ②【汎用的技能】 Students will have a better command of academic reading and discussion skills. ③【態度・志向性】 Students will gain confidence in using academic readings and discussions and not shy away from opportunities to gather information in English. ④【統合的な学習経験と創造的思考力】 Students will become an expert in a social issue and gain the motivation to follow up on the issue from a disciplinary boundary as well.
 【授業計画】 第 1 回:needs analysis deciding a topic 第 2 回:finding information on your topic 第 3 回:learning how to read articles 第 4 回:learning to write and take notes 第 5 回:learning to present and discuss 第 6~9 回:discussing readings and writings 第 10 回:reflection of topic 第 11~14 回:discussing readings and writings 第 15 回:final presentations and report submission 第 16 回:final presentations and reflection
 【成績評価】 Assessment will be based on reading and writing homework, class discussions, final presentations and reports. Teacher-student and student-student communication in class will be conducted in English. Students are recommended to think about or even choose a social problem before attending the first class.
 【再試験】 none
 【教科書】 none
 【参考書】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーとともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219910>
 【連絡先】
 ⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

実用英語演習 III(その1) 2単位 3年(前期)
 スティーヴンズ、メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】 To familiarise students with a) prosodic features of English b) English vocabulary and c) contemporary culture in English speaking cultures through listening to popular music.
【授業概要】 We will study the lyrics of popular music from the 1960s to the present day.
【キーワード】 popular music, intonation, vocabulary, culture
【履修上の注意】 A maximum of three absences will be permitted.
【到達目標】 An understanding of English prosodic features, and vocabulary
【授業計画】 1. Popular music in the 1960's 2. as above 3. as above 4. as above 5. as above 6. Popular music in the 1970s 7. as above 8. as above 9. as above 10. as above 11. Popular music in the 1980s 12. as above 13. as above 14. as above 15. Final Test 16. Feedback to Students
【成績評価】 Dictation of lyrics, Presentations
【再試験】 Possible
【教科書】 n/a
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219911>
【連絡先】
 ⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用英語演習 III(その1) 2単位 3年(前期)
 スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219912>
【連絡先】
 ⇒ スタージ (総合科学部 1号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

実用英語演習 III (その2) 2単位 3年(後期)
 福田, スティーブ・利久・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 This class formed to give students exposure to and practice with the English writing or speech-making process from collecting ideas to the final version. Students will learn how to build paragraphs and outlines, and proof-reading for English essays or speech presentations.
【授業概要】 English composition and speech presentation
【キーワード】 essay writing, speech presentation, writing in English, speaking in English
【先行科目】 『実用英語演習 III (その1)』(1.0, ⇒50頁), 『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒48頁), 『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒48頁)
【関連科目】 『実用英語演習 II(その1)』(0.5, ⇒49頁), 『実用英語演習 II(その2)』(0.5, ⇒49頁), 『実用英語演習・総論』(0.5, ⇒47頁)
【履修上の注意】 4つのクラス(水曜 7-8/スティーブンス担当, 水曜 3-4 フェネリー担当, 金曜 5-6/早内ジュディス担当, 金曜 7-8/マーシェソ担当)のうち, 1クラスを履修します。履修登録前に希望を聞いた上でクラス指定をします。掲示に注意してください。なお, この授業は学生個人では履修登録できません。
【到達目標】 By the end of this course, students should be able to write and present competently on almost any topic.
【授業計画】 1. Guidance for Each Class 2. Unit 7: Problem/ Solution Paragraph (1) 3. Unit 7: Problem/ Solution Paragraph (2) 4. Unit 8: The Structure of an Essay (1) 5. Unit 8: The Structure of an Essay (2) 6. Unit 9: Outlining an Essay (1) 7. Unit 9: Outlining an Essay (2) 8. Unit 10: Introduction and Conclusions (1) 9. Unit 10: Introduction and Conclusions (2) 10. Unit 11: Unity and Coherence (1) 11. Unit 11: Unity and Coherence (2) 12. Unit 12: Essay for Examination (1) 13. Unit 12: Essay for Examination (2) 14. Editing Your Essay or Preparation for Speech Presentation 15. Editing Your Essay or Preparation for Speech Presentation 16. Final Essay or Speech Presentation
【成績評価】 Final essay or speech presentation is an important component of this course, but weekly attendance, participation to class work, and homework are even more important. Tentative evaluation scheme: Weekly class participation, assignment, and homework (70%), Final essay or presentation (30%).
【再試験】 Yes, if you have attended more than 2/3 of the class weeks and if your score is 50% and over.

【教科書】 Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek. Success with College Writing: From Paragraph to Essay. Macmillan Languagehouse, 2003.
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218672>

【連絡先】
 ⇒ 福田 (1号館 2階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)
【備考】 All the four classes are taught by native speakers of English.

実用英語演習 III(その2) 2単位 3年(後期)
 ボンドクリストファー・非常勤講師/全学共通教育センター 佐久間亮・教授/人間文化学科

【授業目的】 In today's global society the ability to communicate effectively in English is becoming ever more important. The goal of this course is to help students develop speaking and writing skills through the use of authentic activities.
【授業概要】 The classes are organised around themes and functions relevant to communicating in a global world. Students will participate in activities such as role-plays, discussions and presentations during class time. There will be a weekly written homework activity that is required preparation for the following weeks class. This will include authentic writing activities such as producing letters, emails, narratives and descriptions.
【到達目標】 The goal of this course is to help develop the students speaking and writing skills through the use of authentic activities
【授業計画】 1. Introduction to the course 2. Arguing your case. For and against 3. Arguing your case. For and against 4. Describing places. Making descriptions longer 5. Describing places. Making descriptions longer 6. Writing for talking. Discussion 7. Writing for talking. Discussion 8. Writing for talking. Discussion 9. Formal and informal letters. Talking about books 10. Formal and informal letters. Talking about books 11. Narrative writing. Practicing conversation. Making your point 12. Narrative writing. Practicing conversation. Making your point 13. Adding emphasis. Linking and commenting 14. Adding emphasis. Linking and commenting 15. Final presentation 16. Review and feedback
【成績評価】 Students will be evaluated on weekly attendance, participation in discussions, oral presentations, written homework and a final presentation
【再試験】 Allowable of the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher
【教科書】 A textbook is required for this class. New Headway, 3rd Edition, Upper Intermediate Student Book. Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780194392990,
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219913>
【連絡先】
 ⇒ ボンド .

実用英語演習 III(その2) 2単位 3年(後期)

福田, スティーブ・利久・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 Grasping a better command of academic reading, writing, and discussions.
【授業概要】 Students will decide on a new topic of choice concerning a social problem or current event to work with during the semester. With his or her social problem, the student will keep up with the news through newspapers, magazine and internet articles, internet blogs, or TV and movie documentary and films.
【キーワード】 academic reading, academic writing, academic discussions
【到達目標】 ①【知識・理解】 Students will learn how to use different forms of media for pursuing their studies. ②【汎用的技能】 Students will have a better command of academic reading and discussion skills. ③【態度・志向性】 Students will gain confidence in using academic readings and discussions and not shy away from opportunities to gather information in English. ④【統合的な学習経験と創造的思考力】 Students will become an expert in a social issue and gain the motivation to follow up on the issue from a disciplinary boundary as well.
【授業計画】 第1回:needs analysis and deciding a topic 第2回:finding information on your topic 第3回:learning how to read articles 第4回:learning to write and take notes 第5回:learning to present and discuss 第6~9回:discussing readings and writings 第10回:reflection of topic 第11~14回:discussing readings and writings 第15回:final presentations and report submission 第16回: final presentations and reflection
【成績評価】 Assessment will be based on reading and writing homework, class discussions, final presentations and reports. Teacher-student and

student-student communication in class will be conducted in English. Students are recommended to think about or even choose a social problem before attending the first class.

【再試験】 none

【教科書】 none

【参考書】 マルカム S, ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219914>

【連絡先】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

実用英語演習 III(その 2)

2 単位 3 年 (後期)

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】 To familiarize students with a)prosodic features of the English language b) English vocabulary c)contemporary culture of English speaking countries through listening to popular music in English.

【授業概要】 We will study the lyrics of popular music in English from the 1990s to the present. This will help students understand English pronunciation, vocabulary and the culture of English speaking countries.

【キーワード】 *intonation, prosody, culture*

【履修上の注意】 A maximum of three absences will be permitted.

【到達目標】 To improve pronunciation, vocabulary, and understanding of culture in English speaking countries.

【授業計画】 1. Pop music in the 1990s 2. as above 3. as above 4. as above 5. as above 6. as above 7. as above 8. Pop music from 2000 to the present 9. as above 10. as above 11. as above 12. as above 13. as above 14. as above 15. Final Presentations 16. Feedback to Students

【成績評価】 Dictation of lyrics, Presentations

【再試験】 Possible

【教科書】 n/a

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219915>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用英語演習 III(その 2)

2 単位 3 年 (後期)

スタージ・ドナルド・講師/人間文化学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219916>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

実用ドイツ語演習 I(その 1)

2 単位 2 年 (前期)

井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】 全学共通教育のドイツ語で習得した知識を基礎として、初級文法の不足している部分を補いながら、より実用的なレベルをめざす。今後の授業やゼミでドイツ語と関わるかもしれない人や、ドイツ語またはドイツ一般に関心を持つ人の、さらなる自主的学習のための基礎固め・橋渡しとなれば幸いである。また、折に触れてドイツ語圏の文化や事情を、視聴覚教材なども用いて紹介するが、このことは英語圏の知識に偏らない健全な国際感覚を持つために有益であろう。

【授業概要】 この授業は、1) 専門の授業においてドイツ語を必要とするので、ドイツ語をメインにして「実用外国語演習」を履修したい人、または 2) ドイツ語、またはドイツに関心があり、せつかく 1 年間履修したドイツ語の知識をもう少し確実なものにしておきたい人、のための授業である。全学共通教育のドイツ語初級を履修済みで、ドイツ語圏の言語や文化、社会に関心を持つ人であれば、所属コースにかかわらず受講を歓迎する。

【先行科目】 『ドイツ語/ドイツ語初級』(1.0)

【関連科目】 『実用ドイツ語演習 I(その 2)』(0.5, ⇒52 頁)

【到達目標】

1. ドイツ語初級文法の簡単な復習と補完を並行しておこない、基礎的知識を確実にする。
2. ドイツ語の読み書き話し聴く能力の基礎を習得する。
3. ドイツ語圏の事情や文化に触れる。

【授業計画】 1. 初級文法の復習と補完、初歩的な口語表現、初歩的なテキストの読解、簡単な独作文などが中心となるだろう。受講生が少人数であることが予想されるため、具体的な内容については、受講生のレベルや希望、関心に応じて決定する。その参考とするために、最初の授業では、これまでに習った内容などについての簡単なアンケートをおこなう。 2. ドイツ語圏の文化・社会に関する種々の情報の提供も試みるが、そのさい受講生の希望や関心にも応じたい。

【成績評価】 平常点(授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価)が中心になるが、他に、筆記の課題を課すこともある。また、前回の授業で習った(あるいは復習した)基本的な暗記事項などについて、小テストをおこなう。

【再試験】 なし。

【教科書】 何か一冊に決めて購入するか、必要に応じてプリントを配布する。4 月初めごろの授業で決定する。

【参考書】 必要に応じて視聴覚教材や参考文献、あるいはそれからのコピーを提示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218686>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16-17 時 3 号館 1 階学習支援室)

実用ドイツ語演習 I(その 2)

2 単位 2 年 (後期)

依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】 初級から中級程度のドイツ語を読み、簡単なドイツ語が運用できるようにする

【授業概要】 実用ドイツ語をブラッシュアップし、読む・書くの技能を中心に、中級程度のレベルを目指す。書くためにも、読むトレーニングは不可欠である。中級程度の教科書を適宜使用しながら、多様なドイツ語に触れられるようにする。

【キーワード】 ドイツ語、ドイツ文学、ドイツ語圏の文化、比較文化

【先行科目】 『実用ドイツ語演習 I(その 2)』(1.0, ⇒52 頁)

【到達目標】

1. 初級から中級程度のドイツ語が読み、簡単なドイツ語を実際に運用できる技能を身につけること。
2. 外国語の基本的運用能力と国際感覚の醸成。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 初級から中級程度のテキストの読解 3. ビデオ鑑賞などにより背景の文化・社会についての理解を深める

【成績評価】 授業への取り組みにもとづいて総合的に評価します。

【再試験】 なし。

【教科書】 小林和貴子ほか『Reise nach Fantasia ようこそファンタジーの世界へ』(同学社)、あるいは『Prismen』(東大教養部ドイツ語部会編)のテキストを適宜使用。

【参考書】 授業中に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218685>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

実用ドイツ語演習 II(その 1)

2 単位 3 年 (前期)

石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、実用ドイツ語 I での学習を基礎として、特に読む、聴くという言語運用能力の養成に重点を置く。

【授業概要】 できる限り実際に使われているドイツ語のテキストや音声に触れる。基本的な実用テキストを独力で読める程度の読解力と、ゆつくり話される簡単なドイツ語を聞き取り、概略を理解する能力の獲得ができるようにする。

【キーワード】 ドイツ語、読解力、会話、ヒアリング

【先行科目】 『実用ドイツ語演習 I(その 1)』(1.0, ⇒52 頁)

【関連科目】 『実用ドイツ語演習 III (その 2)』(1.0, ⇒53 頁)

【履修上の注意】 国際文化と欧米言語の両コースで実用ドイツ語演習をメインに履修する学生は、II と並行して III を受講しなければならない。しかしそれ以外の学生は、実用ドイツ語 I を 4 単位受講済みであることが条件に、2 単位ごとに実用ドイツ語演習 II を単独で受講することもできる。またこの授業は、ドイツ語検定を受検したい学生にも適している。

【到達目標】 ドイツ語を読み聴く実用的能力を身につけ、あわせてドイツの社会と文化を直接に知ることができるようになる。

【授業計画】 1. グリム童話『ヘンゼルとグレーテル』講読とヒアリング (1) 2. グリム童話『ヘンゼルとグレーテル』講読とヒアリング (2) 3. グリム童話『ヘンゼルとグレーテル』講読とヒアリング (3) 4. グリム童話『ヘンゼルとグレーテル』講読とヒアリング (総まとめと小テスト) 5. 実用ドイツ語テキスト講読 (1) 6. 実用ドイツ語テキスト講読 (2) 7. 実用ドイツ語テキスト講読 (3) 8. 実用ドイツ語テキ

スト講読 (総まとめと小テキスト) 9. グリム童話『灰かぶり』講読とヒアリング (1) 10. グリム童話『灰かぶり』講読とヒアリング (2) 11. グリム童話『灰かぶり』講読とヒアリング (3) 12. グリム童話『灰かぶり』講読とヒアリング (総まとめと小テスト) 13. 実用ドイツ語テキスト講読 (4) 14. 実用ドイツ語テキスト講読 (5) 15. 実用ドイツ語テキスト講読 (6) 16. 実用ドイツ語テキスト講読 (総まとめと小テスト)

【成績評価】授業への取り組み (50%) と授業の中でときどき行うミニテスト (50%) で評価する。

【再試験】有

【教科書】

- ◇ 特定の教科書は使用せず、プリントを配布する。
- ◇ 必ず辞書を持参すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219204>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時から16時)

実用ドイツ語演習 II(その2)

2 単位 3 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】高度なドイツ語テキストを読めるようになる。なお自然科学分野の読み物を扱う予定である。

【授業概要】実用ドイツ語 (「読む」編)

【キーワード】中級ドイツ語

【先行科目】『実用ドイツ語演習 I(その2)』(1.0, ⇒52 頁)

【履修上の注意】初級文法をマスターしていること

【到達目標】基本的なテキストを、辞書を使って独力で読める程度の読解力、中級文法を身につけること。

【授業計画】1. 少人数授業が予想されるため、具体的な内容については、受講生のレベルや希望に合わせて考えていきたいと思います。

【成績評価】通常の授業における努力の積み重ねで評価します。

【再試験】行う場合もあります。

【教科書】未定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219205>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用ドイツ語演習 III(その1)

2 単位 3 年 (前期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】この授業では、「実用ドイツ語演習 I」の後を受けて、特に「書く」「話す」という発信能力の養成に重点を置きます。一通りの文法知識に基づいて基本的なドイツ語を理解し、簡単なドイツ語の文を書き、簡単なドイツ語を話す能力を身につけることを目指します。しかし、話すことができるためには聞き取る力が必要で、作文の力を身につけるにはドイツ語文をたくさん読むことも必要です。

【授業概要】毎週一つのテーマ (買い物, 天気, 仕事, 健康, マスメディア, 旅行等々) を選び、それに関する語彙を身につけた後、ドイツ語による会話と作文の練習を行います。

【キーワード】実用ドイツ語, 作文, 会話

【履修上の注意】欧米言語, 国際文化のいずれかのコースに所属し、「実用ドイツ語演習」をメインに履修する学生は, III と並行して II を受講しなければなりません。しかしそれ以外の学生は, 「実用ドイツ語演習 I」を 4 単位履修済みであることを条件に, 2 単位毎に個別に受講することもできます。また, この授業は, 「ドイツ語検定試験」を受験したい学生にも適しています。

【到達目標】一通りの文法知識に基づいて簡単なドイツ語文を書き, また簡単なドイツ語を使って意思表示をする能力を習得すること。

【授業計画】1. オリエンテーション ~ 外国語の学び方について 2. 挨拶, 自己紹介 3. 趣味, 余暇の過ごし方 4. 住宅状況, 学生の生活 5. 曜日, 月, 季節, 祭り and 祝日 6. 天候と関係ある表現, 天気予報 7. 食事, 飲み物 8. レストランにて, ビール, ワインの品種と選び方 9. 買い物を 10. 過去の話 11. 旅行 12. ホテルで, 道案内 13. 駅, 空港, 時刻表の読み方 14. 手紙, 葉書の書き方 15. まとめと質疑応答 16. ドイツ, オーストリア, スイスの観光名所

【成績評価】授業中の口頭発表や提出物 (作文課題) などによって総合的に評価します。

【再試験】行う場合もあります。

【教科書】特定の教科書は使いません。教材や資料は授業時に配付します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219207>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

実用ドイツ語演習 III (その2)

2 単位 3 年 (後期)

ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】この授業では、「実用ドイツ語演習 I」の後を受けて、特に「書く」「話す」という発信能力の養成に重点を置きます。一通りの文法知識に基づいて基本的なドイツ語を理解し、簡単なドイツ語の文を書き、簡単なドイツ語を話す能力を身につけることを目指します。しかし、話すことができるためには聞き取る力が必要で、作文の力を身につけるにはドイツ語文をたくさん読むことも必要です。

【授業概要】実用ドイツ語演習 III 前期分の後を受けて、毎週一つのテーマ (買い物, 天気, 仕事, 健康, マスメディア, 旅行等々) を選び、それに関する語彙を身につけた後、ドイツ語による会話と作文 (手紙や日記を含む) の練習を行います。作文については、家庭学習用の課題を出し、授業時に提出してもらい場合もあります。毎週のテーマと関係している専門用語を学び会話練習し、ドイツ語の能力アップを目指す。

【キーワード】上級ドイツ語, 実用外国語

【履修上の注意】欧米言語, 国際文化のいずれかのコースに所属し、「実用ドイツ語演習」をメインに履修する学生は, III と並行して II を受講しなければなりません。しかしそれ以外の学生は, 「実用ドイツ語演習 I」を 4 単位履修済みであることを条件に, 2 単位毎に個別に受講することもできます。また, この授業は, 「ドイツ語検定試験」を受験したい学生にも適しています。

【到達目標】一通りの文法知識に基づいて簡単なドイツ語文を書き, また簡単なドイツ語を使って意思表示や意見交換をする能力を習得すること。

【授業計画】1. オリエンテーション, 外国語の学び方について, 辞書などの使い方 2. 挨拶, 自己紹介, 記憶ゲーム 3. 趣味, 余暇の過ごし方, 道楽, 遊び 4. 住宅状況, 学生の生活 5. 曜日, 月, 季節, 祭り and 祝日 6. 天候と関係ある表現, 天気予報 7. 食事, 飲み物, ドイツ料理 8. レストランにて, ビール, ワインの品種と選び方 9. 買い物, 服, 流行 10. 過去の話, 現在完了系 11. 休み, 旅行, 未来系 12. ホテルで, 道案内 13. 駅, 空港, 時刻表の読み方 14. 手紙, 葉書の書き方 15. 纏めと質疑応答 16. ドイツ, オーストリア, スイスの観光名所

【成績評価】授業中の口頭発表や提出物 (作文課題) などについて総合的に評価します。

【再試験】無

【教科書】適宜プリントを配付する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219206>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:15h-17:30h (総合科学部1号館1階N06))

実用フランス語演習 I (その1)

2 単位 2 年 (前期)

長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】全学共通教育での授業は、文法的にはかなり高度な内容に達している。それをもとに、フランス語を実際に使えるように訓練する。

【授業概要】総合的・実用的なフランス語。

【キーワード】フランス語

【先行科目】『フランス語/フランス語初級』(1.0)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語入門および初級の単位を修得していること。

【到達目標】外国の事情をフランス語で情報収集できる能力と、日本の事情をフランス語で発信する能力の獲得。

【授業計画】1. 子ども向け新聞を読む。 2. かんたんなニュースを聴く。 3. 特定のテーマについて、フランス語で書く。 4. 簡単な議論をする。

【成績評価】授業への取り組みにもとづき、判断する。

【再試験】なし。

【教科書】コピーの形で配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218687>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

実用フランス語演習 I (その2)

2 単位 2 年 (後期)

田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】大人になって始めた外国語について、仕方がないことなのだけれど悔しいのは、実際の知的レベルよりずっと低いこともわからなかったり言えなかったりすることです。母国語だったら小学生にも言えるようなことも、語彙が足りないためにわからない、うまく言えない、そんなフラストレーションを感じてしまいます。そろそろフランス語の雰囲気はつかめたという君、語彙を増やすためには、そろそろ自分の知的レベルにあったものを読み始めよう、聞き話せるように

なるためにも、読んでことばの奥にあるものとのらえ方考え方に慣れるようにしよう。

【授業概要】フランス語で読み、フランス語で発信する世界。

【キーワード】フランス語

【関連科目】『実用フランス語演習Ⅱ(その1)』(0.5, ⇒54頁)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。

【到達目標】外国の事情をフランス語で情報収集できる能力と、日本の事情をフランス語で発信する能力の獲得。

【授業計画】1. 音声や動画を使って聞き取り、発音する能力を訓練します。音声教材としてはフランスのニュースや映画などの現在進行中の題材も使うようにします。2. 「知的な」会話は、「読む」「書く(文を構成する)」能力なしには成り立ちません。挨拶や天候、体調を尋ねるだけの会話(から始めなきゃならないにしても)からもっと中身のあな会話に進むには話したい、聞きたいトピックスの語彙を持っていないければなりません。そこで、フランスの中学や高校の、公民や哲学、歴史の教科書などから抜粋したさまざまなトピックを読んで語彙を身につけます。3. そんな教科書の中に出てくる、例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などなどの語彙は、多かれ少なかれわれわれも中学校や高校で学び、そして今、大学で考えつつあることばです。日本語に直訳すれば自明の概念であったりします。だから訳語さえわかれば大丈夫、のほずだったんですが、4. いや、確かに横書きを縦書きに変えたり、縦書きを横書きに変えるだけで変換できるものもあります。でも思考方法って結構言語に規定されちゃう部分もあるんですね。日本語で話すためにいかにわれわれが日本の文化に寄りかかっているのか、外国語で読み、外国語で話す際、議論する時に思いがけず気づかされることもあります。外国語の議論を理解するためにこちらの想像力を動員する必要もあります。そういつたことも含めて考えましょう。

【成績評価】出席および授業中の発言を重視します。

【再試験】行いません。

【教科書】コピーを配布します。また音声や映像教材も使用します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218688>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 田島俊郎:木曜日12時から13時まで)

実用フランス語演習Ⅱ(その1)

2 単位 3 年 (前期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】たとえば就職活動で面接を受けたときに、「私は大学で少々フランス語をやっていました」などと言ったら、「じゃ、なんかしゃべってみて」と言われるのは必定です。そのときに、ちょっと怒りを帯びた感じで、"Sous le pont Mirabeau coule la Seine, Et nos amours..."などと言ってみましょう。感心されること請け合いです。また、我々が小中学校で古典の名文を暗唱するのと同じように、フランス人もフランスの名文を暗唱するようです。それで、フランス人と会う機会があったら、こちらが一つ二つ暗唱してやると喜ぶます。そこから話が弾んだりするかもしれません。というわけで、フランス語の名文をいくつか覚えておくことは大変に実用的だと思います。なるべくいろいろな構文の典型になるような文章を選んで覚えるようにします。そうすると、自分がしゃべるときに雛形になりますから、次の言葉が出てきやすくなると思います。もちろん、発音の練習としても最適、というわけで、フランス語の名文と言われるものをいくつか暗唱します。(当然、理解したうえで)。

【授業概要】実用フランス語(読解、発音、暗唱)

【キーワード】フランス語

【先行科目】『実用フランス語演習Ⅰ(その1)』(0.8, ⇒53頁), 『実用フランス語演習Ⅰ(その2)』(0.8, ⇒53頁)

【関連科目】『実用フランス語演習Ⅲ(その1)』(0.8, ⇒54頁), 『実用フランス語演習Ⅲ(その2)』(0.8, ⇒54頁)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語(2)を履修したか、それと同程度の知識を持っていることが必要です。(少なくとも辞書があればそれほど難解ではないフランス語が訳せるという程度)。ただし、実用フランス語Ⅰは履修済みでなくてもよい。

【到達目標】フランス語の文章や詩の一節をいくつかすらすらと暗唱することができる。フランス語の歌をいくつか歌うことができる。フランス語の文章を聞いて書き取ることができる。フランス語の文章を読んで意味を理解することができる。

【授業計画】小説、哲学、詩など、名文と言われるようなフランス語の一節を読み、理解し、発音の練習を兼ねて暗唱します。フランス語の歌を歌う、フランス語を聞いて書き取るなどの練習もします。

【成績評価】授業中にそのときの課題をきちんとこなしているか、宿題の提出状況、暗唱のテスト、学期末テスト。以上を総合的に判断します。

【再試験】なし。

【教科書】コピーを配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218689>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama_guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

実用フランス語演習Ⅱ(その2)

2 単位 3 年 (後期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】たとえば就職活動で面接を受けたときに、「私は大学で少々フランス語をやっていました」などと言ったら、「じゃ、なんかしゃべってみて」と言われるのは必定です。そのときに、ちょっと怒りを帯びた感じで、"Il pleure dans mon coeur, comme il pleut sur la ville..."などと言ってみましょう。感心されること請け合いです。また、我々が小中学校で古典の名文を暗唱するのと同じように、フランス人もフランスの名文を暗唱するようです。それで、フランス人と会う機会があったら、こちらが一つ二つ暗唱してやると喜ぶます。そこから話が弾んだりするかもしれません。というわけで、フランス語の名文をいくつか覚えておくことは大変に実用的だと思います。なるべくいろいろな構文の典型になるような文章を選んで覚えるようにします。そうすると、自分がしゃべるときに雛形になりますから、次の言葉が出てきやすくなると思います。もちろん、発音の練習としても最適、というわけで、フランス語の名文と言われるものをいくつか暗唱します。(当然、理解したうえで)。

【授業概要】実用フランス語(読解、発音、暗唱)

【キーワード】フランス語

【先行科目】『実用フランス語演習Ⅰ(その1)』(0.8, ⇒53頁), 『実用フランス語演習Ⅰ(その2)』(0.8, ⇒53頁)

【関連科目】『実用フランス語演習Ⅲ(その1)』(0.8, ⇒54頁), 『実用フランス語演習Ⅲ(その2)』(0.8, ⇒54頁)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語(2)を履修したか、それと同程度の知識を持っていることが必要です。(少なくとも辞書があればそれほど難解ではないフランス語が訳せるという程度)。ただし、実用フランス語Ⅰは履修済みでなくてもよい。

【到達目標】フランス語の文章や詩の一節をいくつかすらすらと暗唱することができる。フランス語の歌をいくつか歌うことができる。フランス語の文章を聞いて書き取ることができる。フランス語の文章を読んで意味を理解することができる。

【授業計画】小説、哲学、詩など、名文と言われるようなフランス語の一節を読み、理解し、発音の練習を兼ねて暗唱します。フランス語の歌を歌う、フランス語を聞いて書き取るなどの練習もします。

【成績評価】授業中にそのときの課題をきちんとこなしているか、宿題の提出状況、暗唱のテスト、学期末テスト。以上を総合的に判断します。

【再試験】なし。

【教科書】コピーを配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218690>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama_guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

実用フランス語演習Ⅲ(その1)

2 単位 3 年 (前期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】フランス語圏の社会や文化を理解したり、当地の人びととの交流をはかるには、実用的なフランス語能力を身につけることが不可欠である。この授業では、比較的長い文章をできるだけ日本語を介在させず理解し、さらにはフランス語で発信する訓練をする。

【授業概要】実用フランス語(読解、作文、会話)

【キーワード】フランス語、言語

【先行科目】『実用フランス語演習Ⅰ(その1)』(1.0, ⇒53頁), 『実用フランス語演習Ⅱ(その1)』(1.0, ⇒54頁)

【関連科目】『実用英語演習Ⅱ(その1)』(0.5, ⇒48頁)

【履修上の注意】実用フランス語Ⅰ、Ⅱは履修済みでなくとも良いが、その場合、積極的な自宅学習が望まれる。

【到達目標】中等教育後期程度のフランス語を駆使できること。

【授業計画】比較的平易な雑誌記事などを素材にして、それらを(読んで、もしくは聞いて)理解し、フランス語でまとめ、論じる。また、特定のテーマについて自身の意見をフランス語で述べる。

【成績評価】授業への取り組み(予習・復習も含める)をもとに評価する。

【再試験】なし

【教科書】教材は授業開始時に指示する。仏和辞典・和仏辞典はかならず購入すること。できれば、仏仏辞典も利用するよう心がけてほしい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218691>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

実用フランス語演習Ⅲ(その2)

2 単位 3 年 (前期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 フランス語圏の社会や文化を理解したり、当地の人びととの交流をはかるには、実用的なフランス語能力を身につけることが不可欠である。この授業では、比較的長い文章をできるだけ日本語を介在させず理解し、さらにはフランス語で発信する訓練をする。

【授業概要】 実用フランス語 (読解, 作文, 会話)

【キーワード】 フランス語, 言語

【先行科目】 『実用フランス語演習 I (その 1)』(1.0, ⇒53 頁), 『実用フランス語演習 II (その 1)』(1.0, ⇒54 頁)

【関連科目】 『実用英語演習 I (その 1)』(0.5, ⇒48 頁)

【履修上の注意】 フランス語の文法を一通り学び終わっていることが、受講の条件となる。文法の復習をする授業ではないので、この点に不安がある場合、積極的な自学学習が望まれる。

【到達目標】 中等教育後期程度のフランス語を駆使できること。

【授業計画】 比較的平易な雑誌記事などを素材にして、それらを(読んで、もしくは聞いて)理解し、フランス語でまとめ、論じる。また、特定のテーマについて自身の意見をフランス語で述べる。

【成績評価】 授業への取り組み(予習・復習も含める)をもとに評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 教材は授業開始時に指示する。仏和辞典・和仏辞典はかならず購入すること。できれば、仏辞典も利用するよう心がけてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218692>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

井戸 慶治・助教授/人間文化学科

【授業目的】 担当教員は 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけてのドイツ文学を専門としているが、この授業のテーマに関しては、ドイツ文化関連の可能な範囲で受講生の希望に応じたい。そのテーマに関して学び、またみずから調査・考察をおこなうことによって、ドイツの文学ないし文化について理解を深めてもらえればと考える。

【授業概要】 対応可能なテーマとしては、以下のようなものが考えられる。文学に描かれた芸術と芸術家・音楽と音楽家、ゲーテの自然観、ロマン主義とナショナリズム・反ユダヤ主義、メルヒェン・伝説における魔的な存在、第一次大戦時の日本におけるドイツ人・オーストリア人捕虜収容所など。

【キーワード】 ドイツ, 文学

【先行科目】 『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁)

【関連科目】 『ドイツ言語文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒71 頁)

【到達目標】

1. ドイツの文学ないし文化について知見を広げ、理解を深める。
2. 文献の検索方法やまとめ方、プレゼンテーションの方法などを知る。
3. 学習・調査・考察をおこなう中で自己の関心を絞り込み、卒業論文のための問題設定に結びつける。

【授業計画】 3 年次においては、テーマに関する一般的な知識を獲得し、また課題の形で限定的な対象や文献について調査をおこない、レポートしてもらう。4 年次においては、卒業論文のテーマを決定し、それに沿っての個別的な調査・考察が中心となるだろう。

【成績評価】 授業への取り組みやレポートなどで総合的に評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 適宜コピーを配布し、参考文献を指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218412>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17 時 3号館1階学習支援室 連絡先:ido@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができる。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 認知言語学の概要を理解して、その視点から言語を観察する力を養う。

【授業概要】 認知言語学研究 認知言語学の入門となるテキストを講読、議論し、いくつかの問題についてレポートをまとめていく。

【キーワード】 英語学, 認知言語学

【関連科目】 『英米言語研究 III (その 1)』(0.5, ⇒73 頁), 『英米言語研究 III (その 2)』(0.5, ⇒73 頁)

【履修上の注意】 積極的な問題への取り組みが望まれる。

【到達目標】 認知言語学の概要を理解する、言語を観察する力を身につける。

【授業計画】 1. 第 1 週 イントロダクション 2. 第 2 週 ~ 第 15 週 テキストを講読し、議論する。適宜、課題レポートを提出してもらう。3. 第 16 週 総括授業

【成績評価】 レポートに、授業参加における態度も勘案して評価する。

【再試験】 ゼミへの積極的かつ十分な参加をした場合のみ、再評価を行うこともある。

【教科書】 未定 初回の授業において決定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218413>

【連絡先】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】 ヨーロッパには数多くの古伝説があり、そこから数多くの文学作品が生まれている。本ゼミではヨーロッパ、特にドイツと北欧の諸伝説を研究対象とする。ヨーロッパ文学の神髄に触れる機会となれば幸いです。

【授業概要】 ヨーロッパの古伝説と文学作品

【キーワード】 伝説, ニーベルンゲン伝説, ニーベルンゲンの歌, グリム童話, ワーグナー

【先行科目】 『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その 1)』(1.0), 『ドイツ言語文化研究 I (その 2)』(1.0, ⇒69 頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その 3)』(1.0, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その 4)』(1.0, ⇒70 頁)

【履修上の注意】 少なくとも共通教育のドイツ語 (1) を履修済みであることを原則とする。

【到達目標】 ヨーロッパの古伝説に関心を持ち、それらを実際に読んでいくことによって、知識を広めることを到達目標とする。

【授業計画】 研究対象となる諸伝説は、1) ニーベルンゲン伝説, 2) アーサー王伝説, 3) トリスタン伝説, 4) 北欧神話とワーグナーのオペラ作品, 5) ドイツ神話・童話とグリム兄弟, 6) ファウスト伝説, 7) その他、である。受講生の興味に合わせて、その資料を集め、一つ一つ着実に読んでいく。その資料を読むことにより知識を広めていく。

【成績評価】 授業への取り組みやゼミでの報告などにより評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業を進めていく中でその都度指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218414>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15時~16時)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 小説は、個人の内面生活から、個人をとりまく社会やさらには国家に至るまで、あらゆるものを取り込んで描き出している。その世界は、言葉による虚構の空間一嘘の世界でありながらも、その延長上で、社会、文化、言語、思想、歴史、政治、経済等、あらゆるレベルにおいて現実の世界と通じ合っており、現実の世界の理解を助けてくれるものであるといえる。当ゼミナールでは、小説という言葉による芸術を通して、主に 19 世紀の、さらには時代を超えての、イギリスの世界を理解しつつ、普遍的な自分自身の存在の問題として、文学を味わい理解してゆきたい。

【授業概要】 19 世紀イギリス小説の世界

【キーワード】 イギリス小説, 作品分析, 作品理解

【先行科目】 『英米文化研究 I (その 1)』(1.0, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(1.0, ⇒65 頁)

【関連科目】 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5, ⇒69 頁)

【履修上の注意】 受講生のみなさんの関心を重視しながら、方向を定めてゆくので積極的な授業参加を望む。通年受講が望ましい。

【到達目標】 文学作品とその社会的文化的意味についての基礎的な知識及び理解を深める。

【授業計画】 1. 具体的には 19 世紀の代表的な小説家であるハーディ、ディケンズ、エリオットなどの作品を中心としたいが、他にも児童文学、妖精文学、娯楽文学など、広く様々なジャンルの作品を材料として、読むことの楽しさと小説という言語芸術の幅広さ、深さを理解することを目標としたい。また、映像化された文学作品という観点から、映画芸術にも目を向けてみたい。2. 第 1 回 イントロダクション 3. 第 2 回 ~ 第 7 回 基本的知識の確認 4. 第 8 回 ~ 第 15 回 具体的な作品講読と分析の仕方習得 5. 第 16 回 まとめ

【成績評価】 ゼミナールであるので、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求の評価、報告等の結果に基づいて成績評価を行いたい。

【再試験】 行う

【教科書】 適宜プリントや言語材料を用意する。参考書等についても適宜紹介する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218416>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12時~13時)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期) 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語教育および言語情報処理に関わるソフトウェア開発力を養成することを主目的としたゼミナールである。プログラミング言語としては、Perl, HTML, JavaScript を主として扱う。語学教育のためのソフトウェアを卒業作品として開発する。

【授業概要】 卒業作品の開発に向けて、e-learning システム (コンピュータを使った学習システム) を構築するための基本的技能 (プログラミング能力) を身に付けるとともに、言語分析の方法論や分析技法について考えていく。

【キーワード】 HTML, JavaScript, Perl, e-learning システム開発

【履修上の注意】 Unix, Windows などの OS およびコンピュータ言語 (主として Perl, HTML, JavaScript 等) に対する基礎知識が前提となるので、必ず「言語情報処理研究 II」を平行して受講すること。

【到達目標】 言語情報処理ソフトウェアあるいは言語教育支援ソフトウェアを卒業作品として開発する。

【授業計画】 1. e-learning システムを開発する技能を身につけるべくプログラミング実習を行い卒業作品を作成しうる技能を身に付ける。 2. 前期は主として HTML 言語の習得に重点を置く。

【成績評価】 ゼミへの積極的参加度合いと各自の研究テーマに沿った発表および作品 (ソフトウェア) による。

【再試験】 なし

【教科書】 授業中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218418>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 1S11, nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期) スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 The aim of this seminar is to help students develop English ability through comparing selected social conditions in other countries with conditions in Japan. Emphasis is placed on understanding how social programs operating in foreign environments can be adapted for use in Japan.

【授業概要】 The seminar is for students interested in comparative culture, particularly related to western societies. Classes focus on general social movements or specific topics of interest that are selected with input from students.

【キーワード】 文化, *speaking in English*, 近代日本

【到達目標】 There may be individual or group work, depending on student taste and ability.

【授業計画】 1. Introduction 2. Research on Selected Topic (To Be Advised) 3. Research on Selected Topic (To Be Advised) 4. Research on Selected Topic (To Be Advised) 5. Research on Selected Topic (To Be Advised) 6. Research on Selected Topic (To Be Advised) 7. Research on Selected Topic (To Be Advised) 8. Research on Selected Topic (To Be Advised) 9. Research on Selected Topic (To Be Advised) 10. Research on Selected Topic (To Be Advised) 11. Research on Selected Topic (To Be Advised) 12. Research on Selected Topic (To Be Advised) 13. Research on Selected Topic (To Be Advised) 14. Research on Selected Topic (To Be Advised) 15. Research on Selected Topic (To Be Advised) 16. Research on Selected Topic (To Be Advised) 17. Research on Selected Topic (To Be Advised)

【成績評価】 Evaluation will be based on class participation and written reports.

【再試験】 There is no makeup exam.

【教科書】

- ◇ MLA Handbook for Writers of Research Papers
- ◇ Handouts prepared by the instructor

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218410>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 16:30-17:30 Wednesday or by appointment.)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期) 森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 「欧米言語ゼミナール」そのものについては、「総論」を参照。本個別ゼミでは、人間が言語で無数の新しい文を作り出しかつ無数の新しい文を理解することを可能にしてくれる有限の仕組みについて、英語を主材料、日本語やその他の言語を副材料に、考え分析する演習を行う。受講者の年次、背景知識、興味や研究主題に応じて、扱う事項の種類と範囲、議論の焦点や角度を変えることがある。

【授業概要】 卒業研究の題材を見つけ、調べる。

【キーワード】 音声学, 音韻論, 統語論, 意味論, 語用論

【履修上の注意】 演習を通して、興味の対象を絞り込み、卒業研究の実行につなげて、ほしい。

【到達目標】 卒業研究の対象を絞り込むこと。

【授業計画】 1. 予定している教科書の目次によれば、概略的内容は、次の通りである。なお、これは主として第 3 年次を想定しており、第 4 年次は、各個人の卒業研究の展開が基本になる。 2. 1. 導入 2~4. 総論 { 一般の特徴, 研究の分野, 言語の変種, 言語の分類 }, 5~7. 音論 { 音声記号, 音声の分析法, 分節音素, 超分節音素 }, 8~10. 形態論 { 語, 形態素, 語構成 }, 11~15. 統語論 { 文の要素, 文の構造, 生成文法 }, 16. まとめ

【成績評価】 演習参加によるレポート。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 教科書 田中春美, 他 (著) 『言語学演習』 (1982 初) 大修館書店
- ◇ 参考書 スティーブン・ビンカー (著), 椋田直子 (訳) 『言語を生みだす本能 (上)』, 同 『言語を生みだす本能 (下)』 (1995 初) 日本放送出版協会

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218419>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期) 山内 曉彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】 欧米における古今の諷刺文学の中からいくつか代表的なものを取り上げ研究する。

【授業概要】 欧米の諷刺文学

【キーワード】 諷刺

【先行科目】 『英米文化研究 II (その 1)』 (1.0, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』 (1.0, ⇒66 頁)

【履修上の注意】 受講生には、ゼミに参加する過程で、各自、関心のある作品を見出し、それを対象として更に研究を進めて行くことを望む。

【到達目標】 諷刺文学の持つ意味を自分なりに理解すること。

【授業計画】 様々な作品を講読の形で取り扱う。また、それらを題材に、諷刺の起源や原理、主題や技法に関しても検討する。

【成績評価】 出席状況、発表などの、ゼミに取り組む態度、レポート試験の得点などにより、総合的に成績評価を行う。

【再試験】 行なう。

【教科書】 Arthur Pollard, Satire

【参考書】 参考書については、授業中に指示する。各種ハンドアウトを授業中に配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218420>

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。(その 1) は 3 年次前期の履修です。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期) 樋口 友乃・准教授/人間文化学科

【授業目的】 現代アメリカの作家と作品の研究を主な目的とする。担当教員の専門分野は亡命作家ヴラジミール・ナボコフを中心とする 20 世紀アメリカ文学研究であるが、受講生の希望に応じて可能な限り柔軟に対応していきたい。

【授業概要】 現代アメリカ文学研究

【キーワード】文学, アメリカ, 現代
 【到達目標】現代アメリカ文学の作家と作品, およびその時代背景の研究を深める。
 【授業計画】1. イントロダクション 2. 作家の生涯と作品 3. 作品の精読と分析 4. 時代背景の考察 5. 作品の精読と分析 6. 時代背景の考察 7. 作品の精読と分析 8. 時代背景の考察 9. 作品の精読と分析 10. 時代背景の考察 11. 作品の精読と分析 12. 時代背景の考察 13. 論文講読 14. 論文講読 15. まとめ, レポート提出 16. 総括授業
 【成績評価】レポート, 授業への取り組み, 出席などを総合的に判断して評価する。
 【再試験】無し
 【教科書】授業時に適宜指示する。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218421>
 【連絡先】
 ⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)
 【備考】この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】The aim of the class is to learn about the processes involved in learning a second language.
 【授業概要】We will cover a wide range of themes related to second language acquisition. Students will consider a range of factors which can influence successful second language learning.
 【履修上の注意】Regular attendance and punctuality are essential.
 【到達目標】Students will learn about different ways to learn a language and to identify the strategies which maximize their own learning.
 【授業計画】1. Introduction to Second Language Acquisition 2. Learning Strategies 3. Learning Strategies 4. Sensory Channels 5. Sensory Channels 6. Communicative Language Teaching 7. Communicative Language Teaching 8. Active Listening 9. Active Listening 10. Pronunciation 11. Pronunciation 12. Differences between L1 and L2 acquisition 13. Differences between L1 and L2 acquisition 14. Age of Acquisition 15. Final Presentations 16. Feedback to Students
 【成績評価】Evaluation will be based on oral presentations and written reports.
 【教科書】Some texts will be provided, but students will also be required to source materials in the library.
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218411>
 【連絡先】
 ⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米言語ゼミナール (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】プログラミングと情報処理に関連する技能の習得
 【授業概要】プログラミングと情報処理に関連する技能の習得
 【キーワード】テキストマイニング, データマイニング
 【履修上の注意】パソコンをある程度使いこなせる
 【到達目標】特定のプログラミング言語に習熟し, コードが自由に書ける
 【授業計画】未定だが, Playstation3 を使った PPE/SPE プログラミングにも挑戦したい
 【成績評価】授業課題
 【教科書】未定
 【参考書】未定
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218422>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米言語ゼミナール (その 2) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】担当教員は 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけてのドイツ文学を専門としているが, この授業のテーマに関しては, ドイツ文化関連の可能な範囲で受講生の希望に応じたい。そのテーマに関して学び, またみずからも調査・考察をおこなうことによってドイツの文学ないし文化について理解を深めてもらえればと考える。
 【授業概要】対応可能なテーマ例としては, 以下のようなものが考えられる。文学に描かれた芸術と芸術家・音楽と音楽家, ゲーテの自然観, ロマン主義とナショナリズム・反ユダヤ主義, メルヒェン・伝説における魔的な存在, 第一次大戦時の日本におけるドイツ人・オーストリア人捕虜収容所など。
 【到達目標】

1. ドイツの文学ないし文化について知見を広げ, 理解を深める。
 2. 文献の検索方法やまとめ方, プレゼンテーションの方法などを知る。
 3. 学習・調査・考察をおこなう中で自己の関心を絞り込み, 卒業論文のための問題設定に結びつける。
 【授業計画】1. 3 年次においては, テーマに関する一般的・概論的な知識を獲得し, また課題の形で限定的な対象や文献について調査をおこない, レポートしてもらおう。必要・希望に応じてドイツ語のテキストを読むこともありうる。2. 4 年次においては, 卒業論文のテーマを決定し, それに沿っての個別的な調査・考察が中心となるだろう。
 【成績評価】授業への取り組みやレポートなどで総合的に評価する。
 【再試験】なし。
 【教科書】適宜コピーを配布し, 参考文献を指示する。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218424>
 【連絡先】
 ⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16-17 時 3号館1階学習支援室 連絡先:ido@ias.tokushima-u.ac.jp)
 【備考】この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 2) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】認知言語学の概要を理解して, その視点から言語を観察, 分析する力を養う。
 【授業概要】認知言語学研究 認知言語学の入門となるテキストを講読, 議論し, 各自の興味に応じた問題についてレポートをまとめていく。
 【キーワード】英語学, 認知言語学
 【履修上の注意】積極的な問題への取り組みが望まれる。
 【到達目標】認知言語学の概要を理解する。言語を観察し分析する力を身につける。
 【授業計画】1. 第 1 週 イントロダクション 2. 第 2 週 ~ 第 15 週 テキストを講読し, 議論する。適宜課題レポートを作成する。3. 第 16 週 最終レポート提出 (テーマは受講生が自由に設定する)
 【成績評価】レポートに加え, 授業参加における態度も勘案して評価する。
 【再試験】ゼミへの積極的かつ充分な参加をした場合のみ, 再評価を行うこともある。
 【教科書】未定 初回の授業において決定する。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218425>
 【連絡先】
 ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)
 【備考】この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 2) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】ヨーロッパには数多くの古伝説があり, そこから数多くの文学作品が生まれている。本ゼミではヨーロッパ, 特にドイツと北欧の諸伝説を研究対象とする。ヨーロッパ文学の神髄に触れる機会となれば幸いである。
 【授業概要】ヨーロッパの古伝説と文学作品
 【キーワード】伝説, ニーベルンゲン伝説, ニーベルンゲンの歌, グリム童話, ワーグナー
 【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その 1)』(1.0, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その 2)』(1.0, ⇒69 頁), 『ドイツ言語文化研究 I(その 3)』(1.0, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 I(その 4)』(1.0, ⇒70 頁)
 【履修上の注意】少なくとも共通教育のドイツ語 (1) を履修済みであることを原則とする。
 【到達目標】ヨーロッパの古伝説に関心を持ち, それらを実際に読んでいくことによって, さらに知識を広めるとともに一つのテーマを探し出すことを到達目標とする。
 【授業計画】研究対象となる諸伝説は, 1) ニーベルンゲン伝説, 2) アーサー王伝説, 3) トリスタン伝説, 4) 北欧神話とワーグナーのオペラ作品, 5) ドイツ神話・童話とグリム兄弟, 6) ファウスト伝説, 7) その他, である。受講生の興味に合わせて, その資料を集め, 一つ一つ着実に読んでいく。その資料を読むことによってさらに知識を広めるとともに, 一つのテーマを見つけて出す。
 【成績評価】授業への取り組みやゼミでの報告などにより評価する。
 【再試験】行わない。
 【教科書】授業を進めていく中でその都度指示する。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218426>
 【連絡先】
 ⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15時~16時)
 【備考】この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その2) 2単位 3年(後期), 4年(後期)

宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 小説は、個人の内面生活から、個人をとりまく社会やさらには国家に至るまで、あらゆるものを取り込んで描き出している。その世界は、言葉による虚構の空間一嘘の世界でありながらも、その延長上で、社会、文化、言語、思想、歴史、政治、経済等、あらゆるレベルにおいて現実の世界と通じ合っており、現実の世界の理解を助けてくれるものでもあるといえる。当ゼミナールでは、小説という言葉による芸術を通して、主に19世紀の、さらには時代を超越しての、イギリスの世界を理解しつつ、普遍的な自分自身の存在の問題として、文学を味わい理解してゆきたい。

【授業概要】 19世紀イギリス小説の世界

【キーワード】 イギリス小説, 作品分析, 作品理解

【先行科目】 『英米文化研究Ⅰ(その1)』(1.0, ⇒65頁), 『英米文化研究Ⅱ(その2)』(1.0, ⇒65頁)

【関連科目】 『英米の社会と文化Ⅱ(その1)』(0.5, ⇒69頁), 『英米の社会と文化Ⅱ(その2)』(0.5, ⇒69頁)

【履修上の注意】 受講生のみさんの関心を重視しながら、方向を定めてゆくと積極的な授業参加を望む。通年受講が望ましい。

【到達目標】 文学作品の創作上の技法についての理解、さらに言語芸術とその社会的文化的な機能についての理解を深める。

【授業計画】 1. 具体的には19世紀の代表的な小説家であるハーディ、ディケンズ、エリオットなどの作品を中心としたが、他にも児童文学、妖精文学、娯楽文学など、広く様々なジャンルの作品を材料として、読むことの楽しさと小説という言語芸術の幅広さ、深さを理解することを目標とした。また、映像化された文学作品という観点から、映画芸術にも目を向けてみたい。 2. 第1回 イントロダクションと研究計画 3. 第2回～第7回 テーマ設定と具体的な講読と基本作業 4. 第8回～第15回 展開と方向付け 5. 第16回 まとめ

【成績評価】 ゼミナールであるので、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求の評価、報告等の結果に基づいて成績評価を行いたい。

【再試験】 行う

【教科書】 適宜プリントや言語材料を用意する。参考書等についても適宜紹介する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218428>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部1号館3階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火 木曜日 12時~13時)

【備考】 この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その2) 2単位 3年(後期), 4年(後期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語教育および言語情報処理に関わるソフトウェア開発力を養成することを主目的としたゼミナールである。プログラミング言語としては、Perl, HTML, JavaScriptを主として扱う。語学教育のためのソフトウェアを卒業作品として開発する。

【授業概要】 卒業作品の開発に向けて、e-learningシステム(コンピュータを使った学習システム)を構築するための基本的技能(プログラミング能力)を身に付けるとともに、言語分析の方法論や分析技法について考えていく。

【キーワード】 Perl, Webプログラミング, e-learningシステム

【履修上の注意】 Unix, WindowsなどのOSおよびコンピュータ言語(主としてPerl, HTML, JavaScript等)に対する基礎知識が前提となるので、必ず「言語情報処理研究Ⅱ」を受講しておくこと。

【到達目標】 言語情報処理ソフトウェアあるいは言語教育支援ソフトウェアを卒業作品として開発する。

【授業計画】 1. e-learningシステムを開発する技能を身につけるべくプログラミング実習を行い卒業作品を作成しうる技能を身に付ける。 2. 後期は主としてCGIプログラミングの習得に重点を置く。

【成績評価】 ゼミへの積極的参加度合いと各自の研究テーマに沿った発表および作品(ソフトウェア)による。

【再試験】 なし

【教科書】 授業中に適宜指示する。

【参考書】 「独習Perl第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218430>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部1号館1S11, nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】 この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その2) 2単位 3年(後期), 4年(後期)

スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 The aim of the class is to help students develop English speaking and writing ability while exploring developments in England during the Anglo-Saxon period.

【授業概要】 This seminar is for students interested in early European society and will help them to prepare graduate thesis reports. Seminars will consist of reviewing historical and literary material related to general social movements or to specific topics of interest.

【キーワード】 イギリス, 文化, 5-11世紀

【到達目標】 Students will have experience in organizing class activities and choosing topics and materials.

【授業計画】 1. The Celts 2. Roman Britain 3. Anglo-Saxon Invasions 4. The Coming of Christianity 5. Bede 6. Beowulf 7. Anglo-Saxon Chronicle 8. Alfred the Great 9. Viking Invasion 10. Norman Conquest 11. Student Selected Topic (To Be Advised) 12. Student Selected Topic (To Be Advised) 13. Student Selected Topic (To Be Advised) 14. Student Selected Topic (To Be Advised) 15. Student Selected Topic (To Be Advised) 16. Student Selected Topic (To Be Advised) 17. Final Examination

【成績評価】 Evaluation will be based on oral presentations and/or written reports.

【再試験】 There is no makeup exam.

【教科書】

- ◇ MLA Handbook for Writers of Research Papers
- ◇ Handouts prepared by the instructor
- ◇ Audio/Video recordings

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218423>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部1号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 16:30-17:30 Wednesday or by appointment.)

【備考】 この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その2) 2単位 3年(後期), 4年(後期)

森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 「欧米言語ゼミナール」そのものについては、「総論」を参照。本個別ゼミでは、人間が言語で無数の新しい文を作り出しかつ無数の新しい文を理解することを可能にしてくれる有限の仕組みについて、英語を主材料、日本語やその他の言語を副材料に、考え分析する演習を行う。受講者の年次、背景知識、興味や研究主題に応じて、扱う事項の種類と範囲、議論の焦点や角度を変えることがある。

【授業概要】 卒業研究の題材を見つけ、調べること。

【履修上の注意】 演習を通して、興味の対象を絞り込み、卒業研究の実行につなげて、ほしい。

【到達目標】 卒業研究の対象を絞り込むこと。

【授業計画】 1. 予定している教科書の目次によれば、概略の内容は、次の通りである。なお、これは主として第3年次を想定しており、第4年次は、各個人の卒業研究の展開が基本になる。 2. 1. 導入 2~4. 意味論{いろいろな意味論, 意味変化, 意味の構造}, 5~7. 文字論{文字言語, 文字文化圏}, 8~15. 歴史・比較言語学{言語の系統, 言語地理学, 歴史言語学, 音変化, 語彙変化, 文法変化, 祖語, 祖語の再建}, 16. まとめ

【成績評価】 演習参加によるレポート。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 教科書 田中春美, 他(著)『言語学演習』(1982初)大修館書店
- ◇ 参考書 スティーブン・ピンカー(著), 椋田直子(訳)『言語を生み出す本能(上)』, 同『言語を生み出す本能(下)』(1995初)日本放送出版協会

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218431>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

【備考】 この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その2) 2単位 3年(後期), 4年(後期)

山内 曉彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】 欧米における古今の諷刺文学の中からいくつか代表的なものを取り上げ研究する。

【授業概要】 欧米の諷刺文学

【キーワード】 諷刺

【先行科目】 『英米文化研究Ⅱ(その1)』(1.0, ⇒65頁), 『英米文化研究Ⅱ(その2)』(1.0, ⇒66頁)

【履修上の注意】 受講生には、ゼミに参加する過程で、各自、関心のある作品を見出し、それを対象として更に研究を進めて行くことを望む。

【到達目標】 諷刺文学の持つ意味を自分なりに理解すること。
【授業計画】 様々な作品を講読の形で取り扱う。また、それらを題材に、諷刺の起源や原理、主題や技法についても検討する。
【成績評価】 出席状況、発表などの、ゼミに取り組む態度、レポート試験の得点などにより、総合的に成績評価を行なう。
【再試験】 行なう。
【教科書】 Arthur Pollard, Satire
【参考書】 参考書については、授業中に指示する。各種ハンドアウトを授業中に配布する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218432>
【連絡先】
 ⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp)
 (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)
【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。(その 2) は 3 年次後期の履修です。

欧米言語ゼミナール (その 2) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 樋口 友乃・准教授/人間文化学科

【授業目的】 現代アメリカの作家と作品の研究を主な目的とする。担当教員の専門分野は亡命作家ヴラジミール・ナボコフを中心とする 20 世紀アメリカ文学研究であるが、受講生の希望に応じて可能な限り柔軟に対応していきたい。
【授業概要】 現代アメリカ文学研究
【キーワード】 文学, アメリカ, 現代
【到達目標】 現代アメリカ文学の作家と作品, およびその時代背景の研究を深める。
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 作家の生涯と作品 3. 作品の精読と分析 4. 時代背景の考察 5. 作品の精読と分析 6. 時代背景の考察 7. 作品の精読と分析 8. 時代背景の考察 9. 作品の精読と分析 10. 時代背景の考察 11. 作品の精読と分析 12. 時代背景の考察 13. 論文講読 14. 論文講読 15. まとめ, レポート提出 16. 総括授業
【成績評価】 レポート, 授業への取り組み, 出席などを総合的に判断して評価する。
【再試験】 無し
【教科書】 授業時に適宜指示する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218433>
【連絡先】
 ⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 2) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
Second Language Acquisition
 スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】 The aim of the class is to learn about the processes involved in learning a second language.
【授業概要】 We will cover a wide range of themes related to second language acquisition. Students will consider a range of factors which can influence successful language learning.
【キーワード】 文化
【先行科目】 『欧米言語ゼミナール (その 1)』(1.0, ⇒57 頁)
【履修上の注意】 Regular attendance and punctuality are essential.
【到達目標】 Students will learn about different ways to learn a language and identify strategies which maximize their own learning.
【授業計画】 1. Language Transfer 2. Language Transfer 3. Extensive Reading 4. Extensive Reading 5. Input and Output 6. Input and Output 7. The Role of Feedback 8. The Role of Feedback 9. The Role of Dictation 10. The Role of Dictation 11. Autonomous Learning 12. Pragmatics 13. Pragmatics 14. Acquiring vocabulary and idioms 15. Final Presentations 16. Feedback to Students
【成績評価】 Evaluation will be based on oral presentations and written reports.
【教科書】 Some texts will be provided, but students will also be required to source materials in the library.
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218435>
【連絡先】
 ⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米言語ゼミナール (その 2) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 プログラミングと情報処理に関連する技能の習得
【授業概要】 プログラミングと情報処理に関連する技能の習得
【キーワード】 テキストマイニング
【到達目標】 特定のプログラミング言語に習熟し、コードが自由に書ける
【授業計画】 未定だが、Playstation3 を使った PPE/SPE プログラミングにも挑戦したい
【成績評価】 授業課題
【教科書】 未定
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218434>
【連絡先】
 ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米言語ゼミナール (その 3) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】 担当教員は 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけてのドイツ文学を専門としているが、この授業のテーマに関しては、ドイツ文化関連の可能な範囲で受講生の希望に応じたい。そのテーマに関して学び、またみずからも調査・考察をおこなうことによってドイツの文学ないし文化について理解を深めてもらえればと考える。
【授業概要】 対応可能なテーマ例としては、以下のようなものが考えられる。文学に描かれた芸術と芸術家・音楽と音楽家、ゲーテの自然観、ロマン主義とナショナリズム・反ユダヤ主義、メルヒェン・伝説における魔的な存在、第一次大戦時の日本におけるドイツ人・オーストリア人捕虜収容所など。
【到達目標】
 1. ドイツの文学ないし文化について知見を広げ、理解を深める。
 2. 文献の検索方法やまとめ方、プレゼンテーションの方法などを知る。
 3. 学習・調査・考察をおこなう中で自己の関心を絞り込み、卒業論文のための問題設定に結びつける。
【授業計画】 1. 3 年次においては、テーマに関する一般的・概論的な知識を獲得し、また課題の形で限定的な対象や文献について調査をおこない、レポートしてもらう。必要・希望に応じてドイツ語のテキストを読むこともありうる。2. 4 年次においては、卒業論文のテーマを決定し、それに沿っての個別的な調査・考察が中心となるだろう。
【成績評価】 授業への取り組みやレポートなどで総合的に評価する。
【再試験】 なし。
【教科書】 適宜コピーを配布し、参考文献を指示する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218438>
【連絡先】
 ⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16-17 時 3号館1階学習支援室 連絡先:ido@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 3) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 認知言語学の概要を理解して、その視点から言語を観察する力を養う。
【授業概要】 認知言語学研究 認知言語学の入門となるテキストを講読し、議論し、いくつかの問題についてレポートをまとめていく。
【キーワード】 英語学, 認知言語学
【履修上の注意】 積極的な問題への取り組みが望まれる。
【到達目標】 認知言語学の概要を理解する。言語を観察する力を身につける。
【授業計画】 1. 第 1 週 イントロダクション 2. 第 2 週 ~ 第 15 週 テキストを講読し、議論する。適宜、レポートを提出してもらう。3. 第 16 週 総括授業
【成績評価】 レポートに加え、授業参加における態度も勘案して評価する。
【再試験】 ゼミへの積極的かつ十分な参加をした場合のみ、再評価を行うこともある。
【教科書】 未定 初回の授業において決定する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218439>
【連絡先】
 ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)
【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 3) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】ヨーロッパには数多くの古伝説があり、そこから数多くの文学作品が生まれている。本ゼミではヨーロッパ、特にドイツと北欧の諸伝説を研究対象とする。ヨーロッパ文学の神髄に触れる機会となれば幸いである。

【授業概要】ヨーロッパの古伝説と文学作品

【キーワード】伝説、ニーベルンゲン伝説、ニーベルンゲンの歌、グリム童話、ワーグナー

【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その1)』(1.0, ⇒70頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その2)』(1.0, ⇒69頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その3)』(1.0, ⇒70頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その4)』(1.0, ⇒70頁)

【履修上の注意】少なくとも共通教育のドイツ語(1)を履修済みであることを原則とする。

【到達目標】研究テーマに沿ったヨーロッパ古伝説の作品と資料を読んでいくことによって、卒業論文の基礎を築き上げることを到達目標とする。

【授業計画】研究対象となる諸伝説は、1) ニーベルンゲン伝説、2) アーサー王伝説、3) トリスタン伝説、4) 北欧神話とワーグナーのオペラ作品、5) ドイツ神話・童話とグリム兄弟、6) ファウスト伝説、7) その他、である。受講生の興味に合わせて、その資料を集め、一つ一つ着実に読んでいく。その資料を読んでいくことによって、卒業論文の土台を築き上げる。

【成績評価】授業への取り組みやゼミでの報告などにより評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】授業を進めていく中でその都度指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218440>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15時~16時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その3) 2単位 3年(前期), 4年(前期) 宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】小説は、個人の内面生活から、個人をとりまく社会やさらには国家に至るまで、あらゆるものを取り込んで描き出している。その世界は、言葉による虚構の空間—嘘の世界でありながらも、その延長上で、社会、文化、言語、思想、歴史、政治、経済等、あらゆるレベルにおいて現実の世界と通じ合っており、現実の世界の理解を助けてくれるものであるといえる。当ゼミナールでは、小説という言葉による芸術を通して、主に19世紀の、さらには時代を超越しての、イギリスの世界を理解しつつ、普遍的な自分自身の存在の問題として、文学を味わい理解してゆきたい。4年次では、卒業論文に取りかかることを前提として、テーマ設定の方法や取り上げ方など基礎的な準備を中心に行う。

【授業概要】19世紀イギリス小説の世界

【キーワード】イギリス小説、作品分析、作品理解

【先行科目】『英米文化研究 I (その1)』(1.0, ⇒65頁), 『英米文化研究 I (その2)』(1.0, ⇒65頁)

【関連科目】『英米の社会と文化 II (その1)』(0.5, ⇒69頁), 『英米の社会と文化 II (その2)』(0.5, ⇒69頁)

【履修上の注意】受講生のみなさんの関心を重視しながら、方向を定めてゆくの積極的な授業参加を望む。通年受講が望ましい。

【到達目標】文学作品とその社会的文化的意味についての理解をさらに深めながら、卒業論文として、文学作品や関連作品の取り上げ方の基礎を身に付ける。

【授業計画】1. 具体的には19世紀の代表的な小説家であるハーディ、ディケンズ、エリオットなどの作品を中心としたいが、他にも児童文学、妖精文学、娯楽文学など、広く様々なジャンルの作品を材料として、読むことの楽しさと小説という言語芸術の幅広さ、深さを理解することを目標としたい。また、映像化された文学作品という観点から、映画芸術にも目を向けてみたい。2. 第1回 イントロダクション これまでの総括 3. 第2回~第7回 テーマに関係する知識の習得と整理 4. 第8回~第15回 テーマとの関連づけの仕方 5. 第16回 まとめ

【成績評価】ゼミナールであるので、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求の評価、報告等の結果に基づいて成績評価を行いたい。

【再試験】行う

【教科書】適宜プリントや言語材料を用意する。参考書等についても適宜紹介する。

【参考書】参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218442>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部1号館3階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12時~13時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その3) 2単位 3年(前期), 4年(前期) 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語教育および言語情報処理に関わるソフトウェア開発力を養成することを主目的としたゼミナールである。プログラミング言語としては、Perl, HTML, JavaScript を主として扱う。語学教育のためのソフトウェアを卒業作品として開発する。

【授業概要】卒業作品の開発に向けて、e-learning システム(コンピュータを使った学習システム)を構築するための基本的技能(プログラミング能力)を身に付けるとともに、言語分析の方法論や分析技法について考えていく。

【キーワード】HTML, JavaScript, Web プログラミング, e-learning システム開発

【履修上の注意】Unix, Windows などの OS およびコンピュータ言語(主として Perl, HTML, JavaScript 等)に対する基礎知識が前提となるので、必ず「言語情報処理研究 II」を受講しておくこと。

【到達目標】言語情報処理ソフトウェアあるいは言語教育支援ソフトウェアを卒業作品として開発する。

【授業計画】1. e-learning システムを開発する技能を身につけるべくプログラミング実習を行い卒業作品を作成しうる技能を身に付ける。2. 前期は主として HTML 言語の習得に重点を置く。

【成績評価】ゼミへの積極的参加度合いと各自の研究テーマに沿った発表および作品(ソフトウェア)による。

【再試験】なし

【教科書】授業中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218444>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部1号館(1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その3) 2単位 3年(前期), 4年(前期) スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】The aim of the seminar is to help students develop English speaking and writing ability while exploring the relationship between Japanese culture and European culture in the 16th and 17th centuries.

【授業概要】This seminar is for students interested in Japanese and European history and cross-cultural study. Seminars will consist primarily of reviewing and discussing historical documents translated into English and modern commentaries on the period written in English.

【キーワード】アメリカ、文化、16世紀・17世紀、ヨーロッパ/日本

【到達目標】Students will have experience in organizing class activities and choosing topics and materials.

【授業計画】1. First European Contacts 2. Christian Missions 3. Japan's Unifiers 4. VOC (East India Company) 5. Korean Wars 6. Sekigahara 7. Shimabara Rebellion 8. Student Selected Topic (To Be Advised) 9. Student Selected Topic (To Be Advised) 10. Student Selected Topic (To Be Advised) 11. Student Selected Topic (To Be Advised) 12. Student Selected Topic (To Be Advised) 13. Student Selected Topic (To Be Advised) 14. Student Selected Topic (To Be Advised) 15. Student Selected Topic (To Be Advised) 16. Final Examination

【成績評価】Evaluation will be based on oral presentations and/or written reports.

【再試験】There is no makeup exam.

【教科書】

- ◇ MLA Handbook for Writers of Research Papers
- ◇ Handouts prepared by the instructor
- ◇ Audio/Video recordings

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218436>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部1号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 16:30-17:30 Wednesday or by appointment.)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その3) 2単位 3年(前期), 4年(前期) 森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】「欧米言語ゼミナール」そのものについては、「総論」を参照。本個別ゼミでは、人間が言語で無数の新しい文を作り出しかつ無数の新しい文を理解することを可能にしてくれる有限の仕組みについて、英語を主材料、日本語やその他の言語を副材料に、考え分析する

演習を行う。受講者の年次、背景知識、興味や研究主題に応じて、扱う事項の種類と範囲、議論の焦点や角度を変えることがある。

【授業概要】卒業研究の題材を見つけ、調べること。

【履修上の注意】演習を通して、興味の対象を絞り込み、卒業研究の実行につなげて、ほしい。

【到達目標】卒業研究の対象を絞り込むこと。

【授業計画】1. 予定している教科書の目次によれば、概略的内容は、次の通りである。なお、これは主として第3年次を想定しており、第4年次は、各個人の卒業研究の展開が基本になる。2. 1. 導入 2~4. 総論 { 一般的特徴, 研究の分野, 言語の変種, 言語の分類 }, 5~7. 音論 { 音声記号, 音声の分析法, 分節音素, 超分節音素 }, 8~10. 形態論 { 語, 形態素, 音構成 }, 11~15. 統語論 { 文の要素, 文の構造, 生成文法 }, 16. まとめ

【成績評価】演習参加によるレポート。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ 教科書 田中春美, 他 (著) 『言語学演習』 (1982 初) 大修館書店
- ◇ 参考書 スティーブン・ピンカー (著), 棕田直子 (訳) 『言語を生みだす本能 (上)』, 同 『言語を生みだす本能 (下)』 (1995 初) 日本放送出版協会

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218445>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その3) 2単位 3年(前期), 4年(前期)
山内 暁彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】欧米における古今の諷刺文学の中からいくつか代表的なものを取り上げ研究する。

【授業概要】欧米の諷刺文学

【キーワード】諷刺

【先行科目】『英米文化研究 II (その1)』(1.0, ⇒65頁), 『英米文化研究 II (その2)』(1.0, ⇒66頁)

【履修上の注意】受講生には、ゼミに参加する過程で、各自、関心のある作品を見出し、それを対象として更に研究を進めて行くことを望む。

【到達目標】諷刺文学の持つ意味を自分なりに理解すること。

【授業計画】様々な作品を講読の形で取り扱う。また、それらを題材に、諷刺の起源や原理、主題や技法に関しても検討する。

【成績評価】出席状況、発表などの、ゼミに取り組む態度、レポート試験の得点などにより、総合的に成績評価を行なう。

【再試験】行なう。

【教科書】Arthur Pollard, Satire

【参考書】参考書については、授業中に指示する。各種ハンドアウトを授業中に配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218446>

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(その3)は4年次前期の履修です。

欧米言語ゼミナール (その3) 2単位 3年(前期), 4年(前期)
樋口 友乃・准教授/人間文化学科

【授業目的】現代アメリカの作家と作品の研究を主な目的とする。担当教員の専門分野は亡命作家ヴラジミール・ナボコフを中心とする20世紀アメリカ文学研究であるが、受講生の希望に応じて可能な限り柔軟に対応していきたい。

【授業概要】現代アメリカ文学研究

【キーワード】文学, アメリカ, 現代

【到達目標】現代アメリカ文学の作家と作品、およびその時代背景の研究を深める。

【授業計画】1. イントロダクション 2. 作家の生涯と作品 3. 作品の精読と分析 4. 時代背景の考察 5. 作品の精読と分析 6. 時代背景の考察 7. 作品の精読と分析 8. 時代背景の考察 9. 作品の精読と分析 10. 時代背景の考察 11. 作品の精読と分析 12. 時代背景の考察 13. 論文講読 14. 論文講読 15. まとめ, レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】レポート、授業への取り組み、出席などを総合的に判断して評価する。

【再試験】無し

【教科書】授業時に適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218447>

【連絡先】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その3) 2単位 3年(前期), 4年(前期)
スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】The aim of the class is to learn about the processes involved in learning a second language.

【授業概要】We will cover a wide range of themes related to second language acquisition. Students will consider a range of factors which can influence successful language learning.

【履修上の注意】Regular attendance and punctuality are essential.

【到達目標】Students will learn about different ways to learn a language and identify strategies which maximize their own learning.

【授業計画】1. Introduction to Second Language Acquisition 2. Learning Strategies 3. Learning Strategies 4. Sensory Channels 5. Sensory Channels 6. Communicative Language Teaching 7. Communicative Language Teaching 8. Active Listening 9. Active Listening 10. Pronunciation 11. Pronunciation 12. Differences between L1 and L2 acquisition 13. Differences between L1 and L2 acquisition 14. Age of acquisition 15. Final Presentations 16. Feedback to Students

【成績評価】Evaluation will be based on oral presentations and written reports.

【教科書】Some texts will be provided, but students will also be required to source materials in the library.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218437>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米言語ゼミナール (その3) 2単位 3年(前期), 4年(前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】プログラミングと情報処理に関連する技能の習得

【授業概要】プログラミングと情報処理に関連する技能の習得

【キーワード】テキストマイニング

【到達目標】特定のプログラミング言語に習熟し、コードが自由に書ける

【授業計画】未定だが、Playstation3 を使った PPE/SPE プログラミングにも挑戦したい

【成績評価】授業課題

【教科書】未定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218448>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米言語ゼミナール (その4) 2単位 3年(後期), 4年(後期)
井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】担当教員は18世紀後半から19世紀前半にかけてのドイツ文学を専門としているが、この授業のテーマに関しては、ドイツ文化関連の可能な範囲で受講生の希望に応じたい。そのテーマに関して学び、またみずからも調査・考察をおこなうことによってドイツの文学ないし文化について理解を深めてもらえればと考える。

【授業概要】対応可能なテーマ例としては、以下のようなものが考えられる。文学に描かれた芸術と芸術家・音楽と音楽家、ゲーテの自然観、ロマン主義とナショナリズム・反ユダヤ主義、メルヘン・伝説における魔的な存在、第一次大戦時の日本におけるドイツ人・オーストリア人捕虜収容所など。

【到達目標】

1. ドイツの文学ないし文化について知見を広げ、理解を深める。
2. 文献の検索方法やまとめ方、プレゼンテーションの方法などを知る。
3. 学習・調査・考察をおこなう中で自己の関心を絞り込み、卒業論文のための問題設定に結びつける。

【授業計画】1. 3年次においては、テーマに関する一般的・概論的な知識を獲得し、また課題の形で限定的な対象や文献について調査をおこない、レポートしてもらう。必要・希望に応じてドイツ語のテキストを読むこともありうる。2. 4年次においては、卒業論文のテーマを決定し、それに沿っての個別的な調査・考察が中心となるだろう。

【成績評価】授業への取り組みやレポートなどで総合的に評価する。

【再試験】なし。

【教科書】適宜コピーを配布し、参考文献を指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218450>

【連絡先】

総合科学部 (2011) 人間社会学科 欧米言語コース 共通科目

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時 3号館1階学習支援室 連絡先:ido@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その4) 2単位 3年(後期), 4年(後期) 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】認知言語学の概要を理解して、その視点から言語を観察、分析し、論理的にまとめる力を養う。

【授業概要】認知言語学研究 認知言語学の本や論文を講読、議論し、各自の興味に応じた問題についてレポートをまとめていく。

【キーワード】英語学, 認知言語学

【履修上の注意】積極的な問題への取り組みが望まれる。

【到達目標】認知言語学の概要を理解して、その視点から言語を観察、分析し、論理的にまとめる力を養う。

【授業計画】1. 第1週 イントロダクション 2. 第2週~15週 テキストを講読し、議論する。各自自ら問題を設定しレポートを作成する。3. 第16週 総括授業

【成績評価】レポートに加え、授業参加における態度も勘案して評価する。

【再試験】ゼミへの積極的かつ十分な参加をした場合にのみ、再評価を行うこともある。

【教科書】未定 初回の授業において決定する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218451>

【連絡先】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その4) 2単位 3年(後期), 4年(後期) 石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】ヨーロッパには数多くの古伝説があり、そこから数多くの文学作品が生まれている。本ゼミではヨーロッパ、特にドイツと北欧の諸伝説を研究対象とする。ヨーロッパ文学の神髄に触れる機会となれば幸いである。

【授業概要】ヨーロッパの古伝説と文学作品

【キーワード】伝説, ニーベルンゲン伝説, ニーベルンゲンの歌, グリム童話, ワーグナー

【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その1)』(1.0), 『ドイツ言語文化研究 I (その2)』(1.0, ⇒69頁), 『ドイツ言語文化研究 I(その3)』(1.0, ⇒70頁), 『ドイツ言語文化研究 I(その4)』(1.0, ⇒70頁)

【履修上の注意】少なくとも共通教育のドイツ語(1)を履修済みであることを原則とする。

【到達目標】研究テーマに沿ったヨーロッパの古伝説の作品と資料を読むとともに、自らの意見をまとめて、一つの卒業論文を完成させることを到達目標とする。

【授業計画】研究対象となる諸伝説は、1) ニーベルンゲン伝説、2) アーサー王伝説、3) トリスタン伝説、4) 北欧神話とワーグナーのオペラ作品、5) ドイツ神話・童話とグリム兄弟、6) ファウスト伝説、7) その他、である。受講生の興味に合わせて、その資料を集め、一つ一つ着実に読んでいく、その資料を読んでいくとともに、自らの意見をまとめて、卒業論文を完成させる。

【成績評価】授業への取り組みやゼミでの報告などにより評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】授業を進めていく中でその都度指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218452>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15時~16時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その4) 2単位 3年(後期), 4年(後期) 宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】小説は、個人の内面生活から、個人をとりまく社会やさらには国家に至るまで、あらゆるものを取り込んで描き出している。その世界は、言葉による虚構の空間—嘘の世界でありながらも、その延長上で、社会、文化、言語、思想、歴史、政治、経済等、あらゆるレベルにおいて現実の世界と通じ合っており、現実の世界の理解を助けてくれるものでもあるといえる。当ゼミナールでは、小説という言葉による芸術を通して、主に19世紀の、さらには時代を超越しての、イギリスの世界を理解しつつ、普遍的な自分自身の存在の問題として、文学を味わい理解してゆきたい。4年次では、卒業論文の作成を念頭に置きながら、設定したテーマをいかに論考してまとめてゆくかを具体的に挙げる。

【授業概要】19世紀イギリス小説の世界

【キーワード】イギリス小説, 作品理解

【先行科目】『英米文化研究 I (その1)』(1.0, ⇒65頁), 『英米文化研究 I (その2)』(1.0, ⇒65頁)

【関連科目】『英米の社会と文化 II (その1)』(0.5, ⇒69頁), 『英米の社会と文化 II (その2)』(0.5, ⇒69頁)

【履修上の注意】受講生のみさんの関心を重視しながら、方向を定めてゆくの積極的な授業参加を望む。通年受講が望ましい。

【到達目標】文学作品とその社会的文化的意味についての理解を深めた上で、設定したテーマを論文としてまとめる。

【授業計画】1. 具体的には19世紀の代表的な小説家であるハーディ、ディケンズ、エリオットなどの作品を中心としたいが、他にも児童文学、妖精文学、娯楽文学など、広く様々なジャンルの作品を材料として、読むことの楽しさと小説という言語芸術の幅広さ、深さを理解することを目標とした。また、映像化された文学作品という観点から、映画芸術にも目を向けてみたい。2. 第1回 これまでの総括 3. 第2回~第7回 研究のまとめ方 4. 第8回~第15回 研究のまとめ方と文献資料のまとめ方 5. 第16回 総括

【成績評価】ゼミナールであるので、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求の評価、報告等の結果に基づいて成績評価を行いたい。

【再試験】行う

【教科書】適宜プリントや言語材料を用意する。参考書等についても適宜紹介する。

【参考書】参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218454>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1号館 3階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12時~13時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その4) 2単位 3年(後期), 4年(後期) 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語教育および言語情報処理に関わるソフトウェア開発力を養成することを主目的としたゼミナールである。プログラミング言語としては、Perl, HTML, JavaScriptを主として扱う。語学教育のためのソフトウェアを卒業作品として開発する。

【授業概要】卒業作品の開発に向けて、e-learningシステム(コンピュータを使った学習システム)を構築するための基本的技能(プログラミング能力)を身に付けるとともに、言語分析の方法論や分析技法について考えていく。

【キーワード】Perl, Webプログラミング, e-learningシステム開発

【履修上の注意】Unix, WindowsなどのOSおよびコンピュータ言語(主としてPerl, HTML, JavaScript等)に対する基礎知識が前提となるので、必ず「言語情報処理研究II」を受講しておくこと。

【到達目標】言語情報処理ソフトウェアあるいは言語教育支援ソフトウェアを卒業作品として開発する。

【授業計画】1. e-learningシステムを開発する技能を身につけるべくプログラミング実習を行い卒業作品を作成しうる技能を身に付ける。2. 後期は主としてCGIプログラミングの習得に重点を置く。

【成績評価】ゼミへの積極的参加度合いと各自の研究テーマに沿った発表および作品(ソフトウェア)による。

【再試験】なし

【教科書】授業中に適宜指示する。

【参考書】「独習Perl第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218456>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1号館 1S11, nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その4) 2単位 3年(後期), 4年(後期) スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】The aim of the seminar is to help students develop English speaking and writing ability while exploring global education trends generally and cross-cultural educational exchange programs between Japanese students and foreign students particularly.

【授業概要】This seminar is for students interested in promoting English language skills, cultural exchange and lifelong learning. Seminars will consist of reviewing and discussing material related to international educational programs and continuing education.

【キーワード】Learning Programs, English Language Education, International Education, Cultural Exchange, Inter-generational Education

【到達目標】 Students will have input in organizing class activities and choosing topics and materials.

【授業計画】 1. Education in Japan 2. Internationalization of Education 3. Education and Developing Societies 4. Access to Higher Education 5. Cultural Exchange and Education 6. Education and Graying Societies 7. Elderhostel 8. Student Selected Topic (To Be Advised) 9. Student Selected Topic (To Be Advised) 10. Student Selected Topic (To Be Advised) 11. Student Selected Topic (To Be Advised) 12. Student Selected Topic (To Be Advised) 13. Student Selected Topic (To Be Advised) 14. Student Selected Topic (To Be Advised) 15. Student Selected Topic (To Be Advised) 16. Student Selected Topic (To Be Advised) 17. Final Examination

【成績評価】 Evaluation will be based on oral presentations and/or written reports.

【再試験】 There is no makeup exam.

【教科書】

- ◇ MLA Handbook for Writers of Research Papers
- ◇ Handouts prepared by the instructor
- ◇ Audio/Video recordings

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218449>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 16:30-17:30 Wednesday or by appointment.)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 4) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 「欧米言語ゼミナール」そのものについては、「総論」を参照。本個別ゼミでは、人間が言語で無数の新しい文を作り出しかつ無数の新しい文を理解することを可能にしてくれる有限の仕組みについて、英語を主材料、日本語やその他の言語を副材料に、考え分析する演習を行う。受講者の年次、背景の知識、興味や研究主題に応じて、扱う事項の種類と範囲、議論の焦点や角度を変えることがある。

【授業概要】 卒業研究の題材を見つけ、調べること。

【履修上の注意】 演習を通して、興味の対象を絞り込み、卒業研究の実行につなげて、ほしい。

【到達目標】 卒業研究の対象を絞り込むこと。

【授業計画】 1. 予定している教科書の目次によれば、概略の内容は、次の通りである。なお、これは主として第 3 年次を想定しており、第 4 年次は、各個人の卒業研究の展開が基本になる。2. 1. 導入, 2~4. 意味論 { いろいろな意味論, 意味変化, 意味の構造 }, 5~7. 文字論 { 文字言語, 文字文化圏 }, 8~15. 歴史・比較言語学 { 言語の系統, 言語地理学, 歴史言語学, 音変化, 語彙変化, 文法変化, 祖語, 祖語の再建 }, 16. まとめ

【成績評価】 演習参加によるレポート。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 教科書 田中春美, 他 (著) 『言語学演習』 (1982 初) 大修館書店
- ◇ 参考書 スティーブン・ピンカー (著), 椋田直子 (訳) 『言語を生みだす本能 (上)』, 同 『言語を生みだす本能 (下)』 (1995 初) 日本放送出版協会

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218457>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 4) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
山内 暁彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】 欧米における古今の諷刺文学の中からいくつか代表的なものを取り上げ研究する。

【授業概要】 欧米の諷刺文学

【キーワード】 諷刺

【先行科目】 『英米文化研究 II (その 1)』 (1.0, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』 (1.0, ⇒66 頁)

【履修上の注意】 受講生には、ゼミに参加する過程で、各自、関心のある作品を見出し、それを対象として更に研究を進めて行くことを望む。

【到達目標】 諷刺文学の持つ意味を自分なりに理解すること。

【授業計画】 様々な作品を講読の形で取り扱う。また、それらを題材に、諷刺の起源や原理、主題や技法に関しても検討する。

【成績評価】 出席状況、発表などの、ゼミに取り組む態度、レポート試験の得点などにより、総合的に成績評価を行なう。

【再試験】 行なう。

【教科書】 Arthur Pollard, Satire

【参考書】 参考書については、授業中に指示する。各種ハンドアウトを授業中に配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218458>

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。(その 4) は 4 年次後期の履修です。

欧米言語ゼミナール (その 4) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
樋口 友乃・准教授/人間文化学科

【授業目的】 現代アメリカの作家と作品の研究を主な目的とする。担当教員の専門分野は亡命作家ヴラジミール・ナボコフを中心とする 20 世紀アメリカ文学研究であるが、受講生の希望に応じて可能な限り柔軟に対応していきたい。

【授業概要】 現代アメリカ文学研究

【キーワード】 文学, アメリカ, 現代

【到達目標】 現代アメリカ文学の作家と作品, およびその時代背景の研究を深める。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. 作家の生涯と作品 3. 作品の精読と分析 4. 時代背景の考察 5. 作品の精読と分析 6. 時代背景の考察 7. 作品の精読と分析 8. 時代背景の考察 9. 作品の精読と分析 10. 時代背景の考察 11. 作品の精読と分析 12. 時代背景の考察 13. 論文講読 14. 論文講読 15. まとめ, レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】 レポート, 授業への取り組み, 出席などを総合的に判断して評価する。

【再試験】 無し

【教科書】 授業時に適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218459>

【連絡先】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

欧米言語ゼミナール (その 4) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
Second Language Acquisition
ステイーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】 The aim of the class is to learn about the processes involved in learning a second language.

【授業概要】 We will cover a wide range of themes related to second language acquisition. Students will consider a range of factors which can influence successful language learning.

【履修上の注意】 Regular attendance and punctuality are essential.

【到達目標】 Students will learn about different ways to learn a language and identify strategies which maximize their own learning.

【授業計画】 1. Language Transfer 2. Language Transfer 3. Extensive Reading 4. Extensive Reading 5. Input and Output 6. Input and Output 7. The Role of Feedback 8. The Role of Feedback 9. The Role of Dictation 10. The Role of Dictation 11. Autonomous Learning 12. Pragmatics 13. Pragmatics 14. Acquiring Vocabulary and Idioms 15. Final Presentations 16. Feedback to Students

【成績評価】 Evaluation will consist of presentations and written work.

【教科書】 Some texts will be provided, but students will also be required to source materials in the library.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218461>

【連絡先】

⇒ ステイーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米言語ゼミナール (その 4) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 プログラミングと情報処理に関連する技能の習得

【授業概要】 プログラミングと情報処理に関連する技能の習得

【キーワード】 テキストマイニング

【到達目標】 特定のプログラミング言語に習熟し、コードが自由に書ける

【授業計画】 未定だが, Playstation3 を使った PPE/SPE プログラミングにも挑戦したい

【成績評価】 授業課題

【教科書】未定
 【参考書】未定
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218460>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

【履修上の注意】共通教育のドイツ語入門を履修していることが望ましいが、作品紹介などには主に翻訳を使うので、未履修者も受講不可能ではない。

【到達目標】ドイツ文学の傾向を知るとともに、少なくとも一つの作品を実際に読み、それについて考えたことを文章化する。

【授業計画】1. 石川—ニーベルンゲン文学の系譜 1) ドイツ文学史概観 2. 2) 中世英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』前編 3. 3) 中世英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』後編 4. 4) ワーグナーの楽劇『指環』—『ラインの黄金』 5. 5) ワーグナーの楽劇『指環』—『ワルキューレ』 6. 6) ワーグナーの楽劇『指環』—『ジークフリート』 7. 7) ワーグナーの楽劇『指環』—『神々の黄昏』 8. 井戸 18世紀後半以降の作家たちとその作品 1) レッシング 9. 2) ゲーテ 10. 3) シラー 11. 4) ヴァッケンローダーとティーク 12. 5) フリードリヒ・シュレーゲルとノヴァーリス 13. 6) E.T.A. ホフマン 14. 7) グリム兄弟 15. 予備 16. 総括授業

【成績評価】授業への取り組みと二人の教員のレポートによる。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ テキストとしては適宜プリントを配付する。
- ◇ 参考文献 石川榮作著『ジークフリート伝説—ワーグナー「指環」の源流』(講談社学術文庫)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219070>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15時-16時)

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時 3号館1階学習支援室)

【備考】この授業は今年度で終了します。来年度以降になると、「ヨーロッパ文学研究」の授業で読み替えることになります。

欧米言語ゼミナール (総論)

2 単位

3 年 (前期, 後期), 4 年 (前期, 後期)

欧米言語コース全教員

【授業目的】このゼミナールは、英語圏およびドイツ語圏における言語、言語活動、言語文化などの研究に関する様々なテーマを専門的に研究することを目的としています。ここで取り扱われる内容は卒業研究につながるものです。欧米言語コース所属の全教員が担当し、研究領域に応じて複数のクラスが開講されます。

【履修上の注意】時間割上では、月 9-10 と金 9-10 の 2ヶ所に開講されていますが、担当教官の指示によりいずれか一方を受講して下さい。

【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技能を獲得することを到達目標とします。

【授業計画】1. 欧米言語コースの学生は、3-4 年次に計 8 単位履修しなければなりません。各ゼミのシラバスを参照して、参加するクラスを選択して下さい。2. 3-4 年次にわたって同じクラスで履修することが望ましいのですが、4 年次での変更も認めています。

【成績評価】各開講クラスのシラバスを参照すること。

【再試験】各開講クラスのシラバスを参照すること。

【教科書】各開講クラスのシラバスを参照すること。

【参考書】各開講クラスのシラバスを参照すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219306>

【連絡先】

⇒ 欧米言語コース全教員 (オフィスアワー: 各開講クラスのシラバスを参照すること。)

【備考】この授業科目は 8 単位必修であるので 8 単位まで履修することができます。

英米の言語と文化

2 単位 3 年 (前期)

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】To use narrative as a basis for improving communicative skills and broadening students knowledge of cross-cultural issues.

【授業概要】We will listen to and read a range of stories, and use these as a basis to relate these stories to other people and create our own stories.

【履修上の注意】A maximum of three absences will be permitted.

【到達目標】By focusing on the narrative students will acquire English skills; English will be a means to an end.

【授業計画】1. Sorting and sequencing 2. Complications and Resolutions 3. Starting at the End 4. Point of View 5. Travel Tales 6. Limericks 7. Again and Again 8. Arguing a Case 9. Complaints in the Context of a Recount 10. Finish my Sentences 11. Story-telling as a Social Act 12. Every Name Tells a Story 13. The Landmarks of Your Life 14. That's incredible 15. Final Presentation 16. Feedback to Students

【成績評価】Weekly journal entries, Presentations

【再試験】A retest is possible, but late homework will attract a penalty.

【教科書】nil

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218384>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

ドイツの文学

2 単位 2 年 (前期)

石川 榮作・教授/人間文化学科, 井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツ文学を専門とする二人の教員が、それぞれ下記のテーマで作者の生涯や作品などを論じていく。いろいろな作品に出会い、それらを実際に読むことで、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。

【授業概要】ドイツ文学入門

【キーワード】ニーベルンゲンの歌, ワーグナー, 啓蒙主義, シュトゥルム・ウント・ドラング, ロマン主義

【関連科目】『ドイツ言語文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その 2)』(0.5), 『ドイツ言語文化研究 I(その 3)』(0.5, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 I(その 4)』(0.5, ⇒70 頁)

人間社会学科 欧米言語コース 言語表現サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

英米文化研究 I (その 1) ...宮崎/2 年 (前期).....	65
英米文化研究 I (その 2) ...宮崎/2 年 (後期).....	65
英米文化研究 II (その 1) ...山内/2 年 (前期).....	65
英米文化研究 II (その 2) ...山内/2 年 (後期).....	66
英米文化研究 III (その 1) ...樋口/3 年 (前期).....	66
英米文化研究 III (その 2) ...樋口/3 年 (後期).....	66
英米文化研究 IV (その 1) ...前田・山田/2 年 (前期), 3 年 (前期)....	66
英米文化研究 IV (その 2) ...前田・山田/2 年 (後期), 3 年 (後期)....	67
英米文化研究 IV (その 3) ...前田・山田/2 年 (前期), 3 年 (前期)....	67
英米文化研究 IV (その 4) ...前田・山田/2 年 (後期), 3 年 (後期)....	67
英米文化研究 VI (その 1) ...スタージ/4 年 (前期).....	68
英米文化研究 VI (その 2) ...スタージ/4 年 (後期).....	68
英米の社会と文化 I (その 1) ...吉田/2 年 (前期).....	68
英米の社会と文化 I (その 2) ...吉田/2 年 (後期).....	69
英米の社会と文化 II (その 1) ...宮崎/3 年 (前期).....	69
英米の社会と文化 II (その 2) ...宮崎/3 年 (後期).....	69
ドイツ言語文化研究 I (その 2) ...石川/2 年 (後期).....	69
ドイツ言語文化研究 I (その 1) ...石川/2 年 (前期).....	70
ドイツ言語文化研究 I(その 3) ...石川/3 年 (前期).....	70
ドイツ言語文化研究 I(その 4) ...石川/3 年 (後期).....	70
ドイツ言語文化研究 II (その 1) ...井戸/3 年 (前期), 4 年 (前期)....	70
ドイツ言語文化研究 II (その 2) ...井戸/3 年 (後期), 4 年 (後期)....	71
ドイツ言語文化研究 III (その 1) ...井戸/2 年 (前期).....	71
ドイツ言語文化研究 III (その 2) ...井戸/2 年 (後期).....	71
英米言語研究 I (その 1) ...井上・山田/2 年 (前期, 集中).....	72
英米言語研究 I (その 2) ...井上・山田/2 年 (後期, 集中).....	72
英米言語研究 II (その 1) ...元木・山田/3 年 (前期).....	72
英米言語研究 II (その 2) ...元木・山田/3 年 (後期).....	72
英米言語研究 III (その 1) ...山田/2 年 (前期).....	73
英米言語研究 III (その 2) ...山田/2 年 (後期).....	73
異文化間コミュニケーション (その 1) ...坂田/2 年 (前期, 集中)....	73
異文化間コミュニケーション (その 2) ...坂田/2 年 (後期, 集中)....	73
現代英語演習 I (その 1) ...森岡/2 年 (前期).....	74
現代英語演習 I (その 2) ...森岡/2 年 (後期).....	74
現代英語演習 II (その 1) ...スタージ/2 年 (前期).....	74
現代英語演習 II (その 2) ...スタージ/2 年 (後期).....	74
言語理論研究 I (その 1) ...中島/2 年 (前期).....	75
言語理論研究 I (その 2) ...中島/2 年 (後期).....	75
言語理論研究 II (その 1) ...森岡/3 年 (前期).....	75
言語理論研究 II (その 2) ...森岡/3 年 (後期).....	75
言語情報処理研究 (その 1) ...中島/3 年 (前期), 4 年 (前期)....	75
言語情報処理研究 (その 2) ...中島/3 年 (後期), 4 年 (後期)....	76
言語情報処理研究 (その 3) ...中島/3 年 (前期), 4 年 (前期)....	76
言語情報処理研究 (その 4) ...中島/3 年 (後期), 4 年 (後期)....	76
ドイツの社会と文化 (その 1) ...ヘルベルト/2 年 (前期).....	76
ドイツの社会と文化 (その 2) ...ヘルベルト/2 年 (後期).....	76
ドイツ語圏文化論 (その 1) ...桂/3 年 (前期).....	77
ドイツ語圏文化論 (その 2) ...桂/3 年 (後期).....	77
比較文化研究 (その 1) ...依岡/2 年 (前期).....	77
比較文化研究 (その 2) ...依岡/2 年 (後期).....	78
文化情報研究 (その 1) ...石田/3 年 (前期).....	78
文化情報研究 (その 2) ...石田/3 年 (後期).....	78
比較文化演習 (その 1) ...スタージ/3 年 (前期).....	78
比較文化演習 (その 2) ...スタージ/3 年 (後期).....	78

英米文化研究 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 英文学の歴史的発展の過程を論述し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。

【授業概要】 英文学史

【キーワード】 文学史, 時代背景, 文学事情

【関連科目】 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁)

【履修上の注意】 英文学の通史であるので通年受講が望ましい。年間の授業計画は、以下に示してあるが、前期は、おおむね小説誕生と勃興あたりまでを、試験を含め 16 回の授業で扱う。

【到達目標】 英文学史上の詩人・劇作家・小説家等及びその代表的作品について、並びに文芸思潮についての知識習得と理解を目標とする。英文学の流れを概ね以下に沿って追い、それぞれの時代の背景や思潮を概観しながら、代表的な詩人、劇作家、小説家等の作品を味わいたい。

【授業計画】 1. ※履修上の注意を参照。 2. アングロ・サクソン時代 3. 中世時代 4. 文芸復興期 (ルネッサンス) 5. 清教主義 (ピューリタニズム) の時代 6. 古典主義の時代 7. 古典主義の衰退と小説の勃興 8. ロマン主義の復興 9. ヴィクトリア朝 10. 20 世紀の文学

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業への出席状況、授業時の取り組み姿勢などに基づく平常点での評価と、期末試験またはレポート等の結果による評価をあわせて、成績の評価をしたい。

【再試験】 行う。

【教科書】 授業時に適宜指示する。また必要に応じて、教材、参考資料等を用意する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218391>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

英米文化研究 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 英文学の歴史的発展の過程を論述し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。

【授業概要】 英文学史

【キーワード】 文学史, 時代背景, 文学事情

【関連科目】 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁)

【履修上の注意】 英文学の通史であるので通年受講が望ましい。年間の授業計画は、以下に示してあるが、後期は、おおむねロマン主義の復興から現代までを、試験を含め 16 回の授業で扱う。

【到達目標】 英文学史上の詩人・劇作家・小説家等及びその代表的作品について、並びに文芸思潮についての知識習得と理解を目標とする。英文学の流れを概ね以下に沿って追い、それぞれの時代の背景や思潮を概観しながら、代表的な詩人、劇作家、小説家等の作品を味わいたい。

【授業計画】 1. ※履修上の注意を参照。 2. アングロ・サクソン時代 3. 中世時代 4. 文芸復興期 (ルネッサンス) 5. 清教主義 (ピューリタニズム) の時代 6. 古典主義の時代 7. 古典主義の衰退と小説の勃興 8. ロマン主義の復興 9. ヴィクトリア朝 10. 20 世紀の文学

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業への出席状況、授業時の取り組み姿勢などに基づく平常点での評価と、期末試験またはレポート等の結果による評価をあわせて、成績の評価をしたい。

【再試験】 行う。

【教科書】 授業時に適宜指示する。また必要に応じて、教材、参考資料等を用意する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218392>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

英米文化研究 II (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
山内 暁彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】本授業では、イギリスの作家、ジェームズ・マシュー・バリー (James Matthew Barrie) の『ピーター・パン』(Peter Pan) を取り上げる。作品を精読することにより、子供の夢に満ちたファンタスティックな作品の特質について考察する。また、作者バリーの人物像や彼の人間観を研究するとともに、作者と作品の歴史的、社会的、宗教的、文化的背景を学ぶ。

【授業概要】バリーは戯曲『ピーター・パン』を自ら物語化した『ピーター・パンとウェンディ』を書いた。本授業ではこの小説を扱う。永遠の子供ピーターと彼を取り巻く魅力的な人物たちの醸し出す不思議な冒険の世界を味読したい。必要に応じて映像化された『ピーター・パン』や作者の伝記に基づく映像作品を視聴する。

【キーワード】ファンタジー、小説

【関連科目】『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒65 頁)

【履修上の注意】受講生には随時発言を求めます。積極的に授業に参加する態度を望みます。

【到達目標】『ピーター・パン』のようなファンタジーの作品を読む際に、夢と冒険に満ちた内容と多彩な小説技法を理解し、歴史的、社会的、文化的な背景に思いを致しながら、作品の面白さを味わい、その意義を理解することが自分なりにできるようになることを目標とする。

【授業計画】1. イントロダクション 2. 第 1 章 ~ 第 2 章 3. 第 3 章 4. 第 4 章 ~ 第 5 章 5. ジェームズ・マシュー・バリーの人生と作品 6. 第 6 章 ~ 第 7 章 7. 第 8 章 8. 第 9 章 ~ 第 10 章 9. 第 11 章 ~ 第 12 章 10. イギリスのファンタジーの諸相について 11. 第 13 章 ~ 第 14 章 12. 第 15 章 13. 第 16 章 14. 第 17 章 15. 前期のまとめ 16. 総括授業

【成績評価】出席状況、授業参加の態度、課題の提出状況、レポート試験の得点などを総合的に勘案し評価する。

【再試験】行なう。

【教科書】J.M.Barrie, Peter Pan (Puffin Classics, 2008)

【参考書】参考書: J.M. バリー作, 秋田博訳『ピーター・パン』(角川文庫, 2004 年)。この他の参考書については授業中に指示する。必要に応じてプリントを用意する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218393>

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】前期 水 3-4 (平成 20 年度以前入学生のみ受講可能です)

英米文化研究 II (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
山内 暁彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】本授業では、イギリスの作家、ジェームズ・マシュー・バリー (James Matthew Barrie) の『ケンジントン公園のピーター・パン』(Peter Pan in Kensington Gardens) を取り上げる。作品を精読することにより、子供の夢に満ちたファンタスティックな作品の特質について考察する。また、作者バリーの人物像や彼の人間観を研究するとともに、作者と作品の歴史的、社会的、宗教的、文化的背景を学ぶ。

【授業概要】ファンタジーの文学としての『ケンジントン公園のピーター・パン』を研究する。この作品は、フック船長やウェンディが出て来る『ピーター・パン』ではない。『小さな白い鳥』という初期の作品の一部を独立させたものであり、この作品でのピーターは幼児であるのだ。授業では原書を講読し、ファンタジーの持つ面白さを味わいながら、作品の持つ価値について考察する。必要に応じて映像化された『ピーター・パン』や、作者の伝記に基づく映像作品を視聴する。

【キーワード】ファンタジー、小説

【関連科目】『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒65 頁)

【履修上の注意】受講生には随時発言を求めます。積極的に授業に参加する態度を望みます。

【到達目標】『ケンジントン公園のピーター・パン』などのファンタジー文学を読む際に、ファンタスティックな作品の特質、歴史的、社会的、文化的な背景を理解し、作品の面白さを味わい、その意義を多面的に理解することが自分なりにできるようになることを目標とする。

【授業計画】1. イントロダクション 2. 第 1 章 The Grand Tour of the Gardens (その 1) 3. 第 1 章 The Grand Tour of the Gardens (その 2) 4. 第 2 章 Peter Pan (その 1) 5. 第 2 章 Peter Pan (その 2) 6. ジェームズ・マシュー・バリーの人生と作品 7. 第 3 章 The Thrush's Nest(その 1) 8. 第 3 章 The Thrush's Nest (その 2) 9. 第 4 章 Lock-out Time (その 1) 10. 第 4 章 Lock-out Time (その 2) 11. 第 5 章 The Little House (その 1) 12. 第 5 章 The Little House (その 2) 13. イギリスのファンタジーの諸相について 14. 第 6 章 Peter's Goat (その 1) 15. 第 6 章 Peter's Goat (その 2) とまとめ 16. 総括授業

【成績評価】与えられた課題への取り組み、授業参加の態度、期末レポートなどにより総合的に評価し単位を認定する。

【再試験】行なう。

【教科書】J.M.Barrie, Peter Pan: Peter and Wendy and Peer Pan in Kensington Gardens (Penguin Books, 2004 年)

【参考書】参考書としてバリー作、本田顕彰訳『ピーター・パン』(新潮文庫, 1988 年)を使用する。必要に応じてプリントを用意する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218394>

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】新カリ「英米文化研究 II」と同内容

英米文化研究 III (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
樋口 友乃・准教授/人間文化学科

【授業目的】作品の精読と、作者と作品の歴史的、社会的、文化的背景の考察を通して、現代アメリカ文学への理解を深めることを目的とする。

【授業概要】20 世紀アメリカ作家の短篇作品を精読しながら、作者と作品の歴史的、社会的、文化的背景を学ぶ。

【キーワード】文学、アメリカ、現代

【履修上の注意】演習形式で行うので必ず予習をしてくること。

【到達目標】

1. 作品の精読とその歴史的、社会的、文化的背景の考察を通して、現代アメリカ文学への理解を深める。
2. 文学作品を原書で読む力を身に付ける。

【授業計画】1. イントロダクション 2. Miriam (1) 3. Miriam (2) 4. Miriam (3) 5. Miriam (4) 6. Revenge of the Lawn 7. 1692 Cotton Mather Newsreel 8. Coffee 9. Cathedral (1) 10. Cathedral (2) 11. Cathedral (3) 12. The Thanksgiving Visitor (1) 13. The Thanksgiving Visitor (2) 14. The Thanksgiving Visitor (3) 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】期末試験、レポート、授業中の発表、授業参加の態度、出席などを総合的に判断して評価する。

【再試験】行わない

【教科書】Truman Capote, The Complete Stories. (Penguin) 他。授業時に配布予定。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218395>

【連絡先】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米文化研究 III (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
樋口 友乃・准教授/人間文化学科

【授業目的】作品の精読と、作者と作品の歴史的、社会的、文化的背景の考察を通して、現代アメリカ文学への理解を深めることを主な目的とする。

【授業概要】Vladimir Nabokov の短篇作品を精読しながら、作者と作品の歴史的、社会的、文化的背景を学ぶ。

【キーワード】文学、アメリカ、現代、ナボコフ

【履修上の注意】演習形式で行うので必ず予習をしてくること。

【到達目標】

1. 作品の精読とその歴史的、社会的、文化的背景の考察を通して、現代アメリカ文学への理解を深める。
2. 文学作品を原書で読む力を身に付ける。

【授業計画】1. イントロダクション 2. Terra Incognita (1) 3. Terra Incognita (2) 4. Terra Incognita (3) 5. A Letter That Never Reached Russia (1) 6. A Letter That Never Reached Russia (2) 7. Christmas (1) 8. Christmas (2) 9. Christmas (3) 10. Cloud, Castle, Lake (1) 11. Cloud, Castle, Lake (2) 12. Cloud, Castle, Lake (3) 13. A Russian Beauty (1) 14. A Russian Beauty (2) 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】期末試験、レポート、授業中の発表、授業参加の態度、出席などを総合的に判断して評価する。

【再試験】行わない

【教科書】Vladimir Nabokov, The Stories of Vladimir Nabokov. (Vintage)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218396>

【連絡先】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米文化研究 IV (その 1)

2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
前田 一平・非常勤講師/鳴門教育大学, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】白人対黒人という対立が強調されるアメリカの人種構成の中に、総称してアジア系アメリカ人と呼ばれる人たちがいる。その中でも、我々と関係の深い日系アメリカ人については、意外と日本国では知られていないのが現状である。本授業では、まず日系アメリカ

人の歴史を概観し、人種上の差別の問題、日本人とアメリカ人の間で揺れるアイデンティティの問題、世代によって内部に生じるギャップの問題などについて、歴史と文学を通じて検証する。また、速読ではなくスロー・リーディングを実践します。

【授業概要】 日系アメリカ人の歴史と文学を研究する。まず、あまり知られていない日系アメリカ人の歴史を概観し、その後、日系二世作家 Wakako Yamauchi の小説を読む。日系アメリカ人を描いたビデオ/DVD 教材や映画を使用し、視覚的メディアで描かれた日系アメリカ人についても学ぶ。

【キーワード】 文学、アメリカ、スロー・リーディング、日系アメリカ人、差別と人種問題、アイデンティティ形成

【関連科目】 『英米文化研究 IV (その 2)』(0.5、⇒67 頁)、『英米文化研究 IV (その 4)』(0.5、⇒67 頁)

【履修上の注意】 みずから原書を地道に読む習慣づけを心がけてください。英語を読む力はそこから始まります。原書で小説を読む喜びと苦しみ、そして読破したときの達成感を味わって欲しい。よって、英文読解と異文化理解に積極的に取り組む姿勢をもって授業に臨んでいただきたい。

【到達目標】 まずは、英語の原書を読む力と自信をつけることを目標とする。それに加えて、日系アメリカ人について認識を深め、彼ら/彼女らの文学を理解し、研究することを最終目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション (1) 2. イントロダクション (2) 3. (3) 4. "And the Soul Shall Dance" 5. "And the Soul Shall Dance" 6. "And the Soul Shall Dance" 7. "And the Soul Shall Dance" DVD 8. "In Heaven and Earth" 9. "In Heaven and Earth" 10. "In Heaven and Earth" 11. "Songs My Mother Taught Me" 講読 12. "Songs My Mother Taught Me" 講読 13. "Songs My Mother Taught Me" 講読 14. "Songs My Mother Taught Me" 講読 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 ディスカッションへの参加および講読担当時の理解を中心とした授業への貢献度 (20%) と学期末試験 (80%) の評価による。

【再試験】 実施しません。

【教科書】 Wakako Yamauchi, Songs My Mother Taught Me (The Feminist Press) (担当教員が手配します。)

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218397>

【連絡先】

⇒ 前田 (kmaeda@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、相談には応じるし、E-メールでの相談・指導は時間を問わず可能である。)

⇒ 研究室: 鳴門教育大学人文棟 A309, 電話: 088-687-6347, E-メール: kmaeda@naruto-u.ac.jp

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

英米文化研究 IV (その 2) 2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)

前田 一平・非常勤講師/鳴門教育大学, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 アメリカ文学入門。まずは、英語で書かれた文学作品を原書で読む喜びを感受し、同時に物語を解釈しながら辞書を頼りに地道に読み進める辛さも経験してもらう授業とする。基本的な批評方法を紹介することによって、文学解釈も導入する。英語をじっくり読むことによって、英語読解力をつけることは本授業の目的の主要な要素なので、速読ではなくあえて「スロー・リーディング」を実践します。

【授業概要】 Ernest Hemingway 著 In Our Time を読む。この本は短編集なので、基本的には 1 篇の作品を 2 回の授業で読みきる予定で進める。物語の内容と文脈を理解した和訳を実施し、受講生と議論を交わしながらの「スロー・リーディング」を実施する。批評上のキーワードはイニシエーション、ジェンダー、セクシュアリティである。

【キーワード】 アメリカ、文学、ジェンダー、セクシュアリティ、スロー・リーディング、アーネスト・ヘミングウェイ

【先行科目】 『英米文化研究 IV (その 1)』(1.0)

【関連科目】 『英米文化研究 IV (その 1)』(1.0、⇒66 頁)

【履修上の注意】 みずから原書を地道に読む習慣づけを心がけてください。英語を読む力はそこから始まります。原書で小説を読む喜びと苦しみ、そして読破したときの達成感を味わって欲しい。よって、「私自身の」物語理解にひそかに、しかも、じっくりと向き合う姿勢をもって授業に臨んでいただきたい。

【到達目標】 まずは、英語の原書を読む力と自信をつけること。それに加えて、思考力と想像力と感性を駆使して物語を理解する姿勢を身につけることを目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. "Indian Camp" 前半 3. "Indian Camp" 後半 4. "The Doctor and the Doctor's Wife" 前半 5. "The Doctor and the Doctor's Wife" 後半 6. "The End of Something" 前半 7. "The End of Something" 後半 8. "A Very Short Story" 9. "Soldier's Home" 前半 10. "Soldier's Home" 後半 11. "Mr.

and Mrs. Elliot" 前半 12. "Mr. and Mrs. Elliot" 後半 13. "Cat in the Rain" 前半 14. "Cat in the Rain" 後半 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 ディスカッションへの参加および講読担当時の理解を中心とした授業への貢献度 (20%) と学期末試験あるいはペーパー (80%) の評価による。

【再試験】 実施しません。

【教科書】 Ernest Hemingway, In Our Time (Scribners)(教員が教室で販売する)

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218398>

【連絡先】

⇒ 研究室: 鳴門教育大学人文棟 A309, 電話: 088-687-6347, E-メール: kmaeda@naruto-u.ac.jp (オフィスアワー: 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、相談には応じるし、E-メールでの相談・指導は時間を問わず可能である。)

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

英米文化研究 IV (その 3) 2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)

前田 一平・非常勤講師/鳴門教育大学, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 白人対黒人という対立が強調されるアメリカの人種構成の中に、総称してアジア系アメリカ人と呼ばれる人たちがいる。その中でも、我々と関係の深い日系アメリカ人については、意外と日本本国では知られていないのが現状である。本授業では、まず日系アメリカ人の歴史を概観し、人種上の差別の問題、日本人とアメリカ人の間で揺れるアイデンティティの問題、世代によって内部に生じるギャップの問題などについて、歴史と文学を通じて検証する。また、速読ではなくスロー・リーディングを実践します。

【授業概要】 日系アメリカ人の歴史と文学を研究する。まず、あまり知られていない日系アメリカ人の歴史を概観し、その後、日系二世作家 Wakako Yamauchi の小説を読む。日系アメリカ人を描いたビデオ/DVD 教材や映画を使用し、視覚的メディアで描かれた日系アメリカ人についても学ぶ。

【キーワード】 アメリカ、文学、日系アメリカ人、差別と人種問題、アイデンティティ形成、スロー・リーディング

【関連科目】 『英米文化研究 IV (その 4)』(0.5、⇒67 頁)

【履修上の注意】 みずから原書を地道に読む習慣づけを心がけてください。英語を読む力はそこから始まります。原書で小説を読む喜びと苦しみ、そして読破したときの達成感を味わって欲しい。よって、英文読解と異文化理解に積極的に取り組む姿勢をもって授業に臨んでいただきたい。

【到達目標】 まずは、英語の原書を読む力と自信をつけることを目標とする。それに加えて、日系アメリカ人について認識を深め、彼ら/彼女らの文学を理解し、研究することを最終目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション (1) 2. イントロダクション (2) 3. "And the Soul Shall Dance" 4. "And the Soul Shall Dance" 5. "And the Soul Shall Dance" 6. "And the Soul Shall Dance" 7. "And the Soul Shall Dance" DVD 8. "In Heaven and Earth" 9. "In Heaven and Earth" 10. "In Heaven and Earth" 11. "Songs My Mother Taught Me" 12. "Songs My Mother Taught Me" 13. "Songs My Mother Taught Me" 14. "Songs My Mother Taught Me" 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 ディスカッションへの参加および講読担当時の理解を中心とした授業への貢献度 (20%) と学期末試験 (80%) の評価による。

【再試験】 実施しません。

【教科書】 Wakako Yamauchi, Songs My Mother Taught Me (The Feminist Press) (H) Wakako Yamauchi, Songs My Mother Taught Me (The Feminist Press) (担当教員が手配します。)

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218399>

【連絡先】

⇒ 研究室: 鳴門教育大学人文棟 A309, 電話: 088-687-6347, E-メール: kmaeda@naruto-u.ac.jp (オフィスアワー: 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、相談には応じるし、E-メールでの相談・指導は時間を問わず可能である。)

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

英米文化研究 IV (その 4) 2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)

前田 一平・非常勤講師/鳴門教育大学, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 アメリカ文学入門。まずは、英語で書かれた文学作品を原書で読む喜びを感受し、同時に物語を解釈しながら辞書を頼りに地道に読み進める辛さも経験してもらう授業とする。基本的な批評方法を紹

介することによって、文学解釈も導入する。英語をじっくり読むことによって、英語読解力をつけることは本授業の目的の主要な要素なので、速読ではなくあえて「スロー・リーディング」を実践します。

【授業概要】 Ernest Hemingway 著 *In Our Time* を読む。この本は短編集なので、基本的には1篇の作品を2回の授業で読みきる予定で進める。物語の内容と文脈を理解した和訳を実施し、受講生と議論を交わしながらの「スロー・リーディング」を実施する。批評上のキーワードはイニシエーション、ジェンダー、セクシュアリティである。

【キーワード】 アメリカ、文学、ジェンダー、セクシュアリティ、スロー・リーディング、アーネスト・ヘミングウェイ

【先行科目】 『英米文化研究 IV (その1)』 (1.0)

【関連科目】 『英米文化研究 IV (その3)』 (0.5, ⇒67頁)

【履修上の注意】 みずから原書を地道に読む習慣づけを心がけてください。英語を読む力はそこから始まります。原書を読む喜びと苦しみ、そして読破したときの達成感を味わって欲しい。よって、「私自身の」物語理解にひそかに、しかも、じっくりと向き合う姿勢をもって授業に臨んでいただきたい。

【到達目標】 まずは、英語の原書を読む力と自信をつけること。それに加えて、思考力と想像力と感性を駆使して物語を理解する姿勢を身につけることを目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. "Indian Camp" 前半 3. "Indian Camp" 後半 4. "The Doctor and the Doctor's Wife" 前半 5. "The Doctor and the Doctor's Wife" 後半 6. "The End of Something" 前半 7. "The End of Something" 後半 8. "A Very Short Story" 9. "Soldier's Home" 前半 10. "Soldier's Home" 後半 11. "Mr. and Mrs. Elliot" 前半 12. "Mr. and Mrs. Elliot" 後半 13. "Cat in the Rain" 前半 14. "Cat in the Rain" 後半 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 ディスカッションへの参加および講読担当時の理解を中心とした授業への貢献度 (20%) と学期末試験あるいはペーパー (80%) の評価による。

【再試験】 実施しません。

【教科書】 Ernest Hemingway, *In Our Time* (Scribners)(教員が教室で販売する)

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218400>

【連絡先】

⇒ 研究室: 鳴門教育大学人文棟A309, 電話: 088-687-6347, E-メール: km.aeda@naruto-u.ac.jp (オフィスアワー: 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、相談には応じるし、E-メールでの相談・指導は時間を問わず可能である。)

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は8単位まで履修することができます。

英米文化研究 VI (その1)

2 単位 4 年 (前期)

スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】 Class themes include: education, morality, human rights, gender equity, politics, contemporary issues, personal experiences, social relationships.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have had practice reading authentic English texts, using English in general conversation, and discussing a wide variety of topics. They will also have organized class activities and have practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218403>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英米文化研究 VI (その2)

2 単位 4 年 (後期)

スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】 Class themes include: education, morality, human rights, gender equity, politics, contemporary issues, personal experiences, social relationships.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have had practice reading authentic English texts, using English in general conversation, and discussing a wide variety of topics. They will also have organized class activities and have practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218404>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英米の社会と文化 I (その1)

2 単位 2 年 (前期)

吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテクストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。前期 (その1) では、比較的平易な作品を取り上げる。

【キーワード】 *poetry in English, reading poems, introduction to English poetry*

【関連科目】 『英米文化研究 I (その1)』 (0.5, ⇒65頁), 『英米文化研究 I (その2)』 (0.5, ⇒65頁), 『英米文化研究 II (その1)』 (0.5, ⇒65頁), 『英米文化研究 II (その2)』 (0.5, ⇒66頁), 『英米の社会と文化 II (その1)』 (0.5, ⇒69頁), 『英米の社会と文化 II (その2)』 (0.5, ⇒69頁), 『英米文化研究 III (その1)』 (0.5, ⇒66頁), 『英米文化研究 III (その2)』 (0.5, ⇒66頁), 『文化批評論 (その1)』 (0.5, ⇒118頁), 『文化批評論 (その2)』 (0.5, ⇒118頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年度は開講する。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮して、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び、毎回 3~5 編ずつ講読する予定です。学期中に 2 回のテストを行います。詳しい日程は最初の授業で指示します。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928) 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指定します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218385>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】隔年開講(前期), 2011 年度は開講.

英米の社会と文化 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテクストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。後期(その 2)では、前期(その 1)で取り上げたものより、難解な作品が中心となる。

【キーワード】 *introduction to English poetry, reading poems, poetry in English*

【先行科目】『英米の社会と文化 I (その 1)』(1.0, ⇒68 頁)

【関連科目】『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『文化批評論 (その 1)』(0.5, ⇒118 頁), 『文化批評論 (その 2)』(0.5, ⇒118 頁)

【履修上の注意】隔年開講。2011 年は開講。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮し、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】1. 以下にあげる詩人の作品を読む予定です。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928), 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】行わない。

【教科書】授業中に指示します。

【参考書】『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218386>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】隔年開講(後期), 2011 年度開講.

英米の社会と文化 II (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】主として 19 世紀のイギリス小説を取り上げて精読する。小説という、言語による虚構の芸術構造物、物語の世界、すなわち嘘の世界を、いかに豊かに味わうことができるものか、また知的にも分析することができて、人間の本質に関わる想像力がいかに広い分野に影響力を及ぼし得るものかを、具体的に作品に触れることによって理解してゆきたい。作品自体が持つ様々な問題に対して多角的なアプローチを試みるばかりでなく、その作品の時代背景にも目を向け、当時の風俗や生活習慣、時代思潮など、広い視野からの理解を目指したい。

【授業概要】19 世紀のイギリス小説を読む。より広い視野のもとに、イギリス文学を生み出したイギリスという国の理解も含めて様々な多角的アプローチを試みるが、特に、19 世紀の小説家トマス・ハーディやその他の作家の短編を読みながら、当時の結婚をめぐる制度や、因襲的な考え方、宗教、時代思潮、風俗、女性の置かれていた立場などを考えてみたい。作品の理解を通して、虚構の世界から、現実の世界を逆照射しつつ、普遍的な問題である男女の恋愛と結婚の問題を時代のコンテクストの中に置いて理解してみたい。

【キーワード】イギリス, 19 世紀, 小説, 時代背景

【先行科目】『英米文化研究 I (その 1)』(1.0, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(1.0, ⇒65 頁)

【関連科目】『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 IV (その 1)』(0.5, ⇒66 頁)

【履修上の注意】半年受講も可であるが、通年受講が望ましい。

【到達目標】精読による作品解釈の方法を身に付け、同時に作品の時代背景の事情を理解する。

【授業計画】1. 第 1 回 イントロダクション 2. 第 2 回 ~ 第 15 回 作品の講読と鑑賞並びに分析の仕方 3. 第 16 回 まとめ

【成績評価】本授業はゼミナール形式で行うが、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求についての評価などといった平常点での評価と、期末試験またはレポート報告等の結果による評価に基づいて成績評価を行いたい。

【再試験】行う

【教科書】教科書、参考書等については、初回の授業時に適宜紹介する。また他にプリントや資料等も用意する。

【参考書】参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218387>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12時~13時)

英米の社会と文化 II (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】主として 19 世紀のイギリス小説を取り上げて精読する。小説という、言語による虚構の芸術構造物、物語の世界、すなわち嘘の世界を、いかに豊かに味わうことができるものか、また知的にも分析することができて、人間の本質に関わる想像力がいかに広い分野に影響力を及ぼし得るものかを、具体的に作品に触れることによって理解してゆきたい。作品自体が持つ様々な問題に対して多角的なアプローチを試みるばかりでなく、その作品の時代背景にも目を向け、当時の風俗や生活習慣、時代思潮など、広い視野からの理解を目指したい。

【授業概要】19 世紀のイギリス小説を読む。より広い視野のもとに、イギリス文学を生み出したイギリスという国の理解も含めて様々な多角的アプローチを試みるが、特に、19 世紀の小説家トマス・ハーディやその他の作家の短編を読みながら、当時の結婚をめぐる制度や、因襲的な考え方、宗教、時代思潮、風俗、女性の置かれていた立場などを考えてみたい。作品の理解を通して、虚構の世界から、現実の世界を逆照射しつつ、普遍的な問題である男女の恋愛と結婚の問題を時代のコンテクストの中に置いて理解してみたい。

【キーワード】イギリス, 19 世紀, 小説, 時代背景

【先行科目】『英米文化研究 I (その 1)』(1.0, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(1.0, ⇒65 頁)

【関連科目】『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 IV (その 1)』(0.5, ⇒66 頁)

【履修上の注意】半年受講も認めるので、後期からの受講も可能。

【到達目標】精読による作品解釈の方法を身に付け、同時に作品の時代背景の事情を理解する。

【授業計画】1. 第 1 回 イントロダクション 2. 第 2 回 ~ 第 15 回 作品の講読と鑑賞並びに分析の仕方 3. 第 16 回 まとめ

【成績評価】本授業はゼミナール形式で行うが、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求についての評価などといった平常点での評価と、期末試験またはレポート報告等の結果による評価に基づいて成績評価を行いたい。

【再試験】行う

【教科書】教科書、参考書等については、初回の授業時に適宜紹介する。また他にプリントや資料等も用意する。

【参考書】参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218388>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12時~13時)

ドイツ言語文化研究 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ヴァルキューレ』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。

【授業概要】ドイツ・オペラの講読と鑑賞

【キーワード】ドイツ文学, ワグナー, 楽劇, ニーベルンゲン伝説, 北欧神話

【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁)

【履修上の注意】ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。

【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。

【授業計画】1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。2011年度後期はその二作目の作品『ヴァルキューレ』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。後期の授業計画は次の通りである。2. 1)『ヴァルキューレ』第一幕講読(5回) 3. 2)『ヴァルキューレ』第二幕鑑賞(1回) 4. 3)『ヴァルキューレ』第三幕講読(5回) 5. 4)『ヴァルキューレ』全三幕を通して鑑賞(3回) 6. 5)『ヴァルキューレ』の特質(総まとめ)

【成績評価】授業への取り組み(50%)と期末試験(またはレポート)(50%)による。

【再試験】行わない。

【教科書】対訳プリント(石川訳)を配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218897>

【連絡先】

⇒石川(088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日15時~16時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(その1)と(その2)は今年度それぞれ前期と後期に開講、(その3)と(その4)は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー(1813-83)は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ラインの黄金』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。

【授業概要】ドイツ・オペラの講読と鑑賞

【キーワード】ドイツ文学、ワーグナー、楽劇、ニーベルンゲン伝説、北欧神話

【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64頁)

【履修上の注意】ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。

【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。

【授業計画】1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。2011年度前期はその一作目の作品『ラインの黄金』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。前期の授業計画は次の通りである。2. 1)ワーグナーの生涯と作品(2回) 3. 2)『ラインの黄金』講読(12回) 4. 3)『ラインの黄金』全四場を鑑賞(2回)

【成績評価】授業への取り組み(50%)と期末試験(またはレポート)(50%)による。

【再試験】行わない。

【教科書】対訳プリント(石川訳)を配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218896>

【連絡先】

⇒石川(088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日15時~16時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(その1)と(その2)はそれぞれ今年度前期と後期に開講、(その3)と(その4)は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 I(その 3)

2 単位 3 年 (前期)
石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー(1813-83)は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ジークフリート』をドイツ語の原典で講読するとともに、ヒテオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。

【授業概要】ドイツ・オペラの講読と鑑賞

【キーワード】ドイツ文学、ワーグナー、楽劇、ニーベルンゲン伝説、北欧神話

【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64頁)

【履修上の注意】ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。

【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。

【授業計画】1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。来年度前期はその三作目の作品『ジークフリート』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。前期の授業計画は下記の通りである。2. 1)『ラインの黄金』と『ヴァルキューレ』の解説(1回) 3. 2)『ジークフリート』第一幕鑑賞(1回) 4. 3)『ジークフリート』第二幕鑑賞(1回) 5. 4)『ジークフリート』第三幕講読(12回) 6. 5)『神々の黄昏』ハイライト形式で鑑賞(1回)

【成績評価】授業への取り組み(50%)と期末試験(またはレポート)(50%)による。

【再試験】行わない。

【教科書】対訳プリント(石川訳)を配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218898>

【連絡先】

⇒石川(088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(1)と(2)は今年度それぞれ前期と後期に開講、(3)と(4)は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 I(その 4)

2 単位 3 年 (後期)
石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー(1813-83)は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『神々の黄昏』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。

【授業概要】ドイツ・オペラの講読と鑑賞

【キーワード】ドイツ文学、ワーグナー、楽劇、ニーベルンゲン伝説、北欧神話

【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64頁)

【履修上の注意】ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。

【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを目標とする。

【授業計画】1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。来年度後期はその四作目の作品『神々の黄昏』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。後期の授業計画は下記の通りである。2. 1)『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』及び『ジークフリート』の解説(1回) 3. 2)『神々の黄昏』序幕講読(2回) 4. 3)『神々の黄昏』第一幕鑑賞(1回) 5. 4)『神々の黄昏』第二幕鑑賞(1回) 6. 5)『神々の黄昏』第三幕講読(10回) 7. 6)『神々の黄昏』第三幕鑑賞(1回)

【成績評価】授業への取り組み(50%)と期末試験(またはレポート)(50%)による。

【再試験】行わない。

【教科書】対訳プリント(石川訳)を配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218899>

【連絡先】

⇒石川(088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(1)と(2)は今年度それぞれ前期と後期に開講、(3)と(4)は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 II (その 1)

2 単位 3 年 (前期)、4 年 (前期)
井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】造形芸術(絵画・彫刻・建築)やそれに従事する芸術家が文学作品の中でどのように扱われているかということ、主として19世紀はじめから20世紀前半頃までのドイツ文学において考察する

【授業概要】ここで対象となる芸術には、ドイツのみならずヨーロッパ全体のものが含まれる。造形芸術を扱う文学のあり方はさまざまである。あるときは他種の芸術との差異が強調され、またあるときはそれらとの融合が論じられる。実在にせよ架空にせよ、芸術家は小説などの格好の素材・テーマとなる。作家たちはそのような取り組みから、彼ら自身の芸術(ポエジー)のための有益なヒントを見出す。特定の芸術作品や芸術家を対象とした美学的批評もある。また、程度の差はあれ画才に恵まれた詩人・作家もいる。関連の芸術作品を視聴覚機器などで参照しながら、種々の文学作品を見てゆきたい。

【キーワード】ドイツ文学

【関連科目】『ドイツ言語文化研究Ⅰ(その1)』(0.5, ⇒70頁), 『ドイツ言語文化研究Ⅲ(その1)』(0.5, ⇒71頁), 『ドイツ言語文化研究Ⅱ(その2)』(0.5, ⇒71頁)

【履修上の注意】ドイツ言語文化研究Ⅱは、8単位重ね読み可能な授業であるから、原則として、連続する2年間4期の授業のうち、複数の授業を受講しても内容は重複しない。この4期の授業はそれぞれ内容的に異なるが、テーマは「ドイツ文学で扱われる芸術と芸術家」で一貫している。

【到達目標】

1. 絵画や彫刻、芸術家に関するさまざまな考え方や感じ方が、文学においていかに表現されているかを知る。
2. 副産物として:作家たちの独自の見方を通して、特定の芸術家や芸術作品に対する新しい目が開かれることがある。

【授業計画】1. 以下のような作家・作品・テーマを扱うが、詳細については若干の変更もありうる。また、各項目の番号は扱う内容の順序を示しているが、必ずしも1回の授業の範囲を厳密に規定するものではない。1回目では、今後の授業方針の説明などをおこなう。2. ゲーテ:「ドイツの建築について」 3. フリードリヒ・シュレーゲルのゴシック建築論 4. ゲレスのゴシック建築論 5. ヴァッケンローダーの描くイタリア・ルネサンスの画家たち 6. ヴァッケンローダーの描くデューラー 7. ティーク:「フランツ・シュテルンバルトの遍歴」 8. アウグスト・ヴィルヘルム・シュレーゲルの芸術論 9. ロマン派の画家たちの芸術論(フリードリヒ, ルンゲ) 10. ロマン派の画家たちの芸術論(カールス, ナザレ派) 11. メーリケ「画家ノルテン」 12. ケラー「緑のハイネヒヒ」 13. リルケとセザンヌ, ロダン 14. リルケとヴォルプスヴェーデの画家たち 15. ヘッセ「ナルチスとゴルトムント」など 16. 総括授業

【成績評価】レポートと授業への取り組みで総合的に評価する。

【再試験】なし。

【教科書】適宜プリントを配布する。

【参考書】授業中にプリントを配布し、視聴覚資料などを示し、参考文献の指示もおこなう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218900>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時, 3号館1階学習支援室)
⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

ドイツ言語文化研究Ⅱ(その2) 2単位 3年(後期), 4年(後期)

井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】18世紀以降のドイツにおける文学と音楽の関係を、主として文学の側に重点を置いて考察する。

【授業概要】上記の「関係」にはさまざまなものがある。最も直接的で、また事例の多いのは、文学作品(詩・戯曲など)に曲がつけられて、歌曲・オペラとなる場合である。より間接的には、いわゆる「標題音楽」などとして音楽の中に文学的要素が取り入れられる。しかしこれらの作品はどちらかといえば音楽のジャンルに属すると思われるので、参考として副次的に取り上げるにとどめる。ここで主に扱うのは、音楽と音楽家を素材とした小説などの文学作品であり、また音楽芸術一般や特定の音楽家・楽曲を論じた美学的・批評的作品である。必要に応じて関連する音楽作品を聴きながら、種々の文学作品を見てゆきたい。

【キーワード】ドイツ文学, 音楽

【関連科目】『ドイツ言語文化研究Ⅰ(その2)』(0.5, ⇒69頁), 『ドイツ言語文化研究Ⅲ(その2)』(0.5, ⇒71頁), 『ドイツ言語文化研究Ⅱ(その1)』(0.5, ⇒70頁)

【履修上の注意】ドイツ言語文化研究Ⅱは、8単位重ね読み可能な授業であるから、原則として、連続する2年間4期の授業のうち、複数の授業を受講しても内容は重複しない。この4期の授業はそれぞれ内容的に異なるが、テーマは「ドイツ文学で扱われる芸術と芸術家」で一貫している。

【到達目標】

1. 近代のドイツにおいて、音楽や音楽家に関するさまざまな考え方や感じ方が、文学においていかに表現されているか、また文学と音楽の相互の影響はいかなるものだったかを知る。
2. 副産物として:作家たちの独自の感じ方・考え方を通して、特定の作曲家、楽曲に対するこれまでとは違った聴き方ができることもある。

【授業計画】1. 以下のような作家・作品・テーマを扱うが、詳細については若干の変更もありうる。また、各項目の番号は扱う内容の順序を示しているが、必ずしも1回の授業の範囲を厳密に規定するものではない。1回目では、今後の授業方針の説明などをおこなう。2. 古代ギリシアと旧約聖書における音楽 3. ヘルダーの音楽論 4. ハイネ:「ヒルデガルト・フォン・ホーエンタール」 5. ゲーテと音楽 6. ヴァッケンローダーの音楽観 7. ヴァッケンローダーと架空の音楽家バルクリンガー 8. ティークと交響曲 9. ロマン派の音楽観 10. クライスト:「聖チェチーリア」 11. E. T. A. ホフマン:「牡猫ムルの人生観」 12. 同:「クライスレリアーナ」、ベートーヴェン論など

13. ベートーヴェンの第九交響曲とシラーの「喜びに寄す」 14. 同上その2 15. シューマンの音楽批評と文学の影響 16. 総括授業

【成績評価】レポートと普段の授業への取り組みで総合的に評価する。

【再試験】なし。

【教科書】教材はプリントを配布する。

【参考書】授業中にプリントを配布し、視聴覚資料などを示し、参考文献の指示もおこなう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218901>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時, 3号館1階学習支援室)
⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

ドイツ言語文化研究Ⅲ(その1) 2単位 2年(前期)

井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】第一次大戦時の在日ドイツ・オーストリア人捕虜の活動や日本人との交流について知り、異文化間の交流や戦争、「国民性」(他国によって感じられた「国民性」と、自国民について感じている「国民性」の相違など)について考える手掛かりとする。

【授業概要】第一次大戦における日本の青島攻略(1914年)により、ドイツ人とオーストリア人の捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化的・社会的な諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この授業では、当時の日本各地の収容所(前期は特に九州・四国の収容所)における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介し、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史という、より広いコンテクストも視野に入れながら、多面的な考察の材料を提供する。

【キーワード】異文化間交流, 第一次世界大戦, 捕虜

【関連科目】『ドイツ言語文化研究Ⅰ(その1)』(0.5, ⇒70頁), 『ドイツ言語文化研究Ⅰ(その2)』(0.5, ⇒69頁), 『ドイツ言語文化研究Ⅱ(その1)』(0.5, ⇒70頁), 『ドイツ言語文化研究Ⅱ(その2)』(0.5, ⇒71頁)

【履修上の注意】特になし。

【到達目標】

1. 人口に膾炙し、時には美化された「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ・オーストリア人捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。
2. 共時的、通時的なより広いコンテクスト(第一次大戦中の各国の捕虜待遇や、捕虜待遇史、日独交流史など)の中で、当時の日本による捕虜待遇や捕虜たちの活動、彼らをめぐる文化交流の位置づけを知る。

【授業計画】1. 授業方針などの説明 2. 日独交流史概略 1 江戸時代から明治中期まで 3. 日独交流史概略 2 明治後期以降 4. ドイツの膠州湾租借と第一次大戦までの青島 5. 青島戦の概略 6. ドイツ人捕虜収容の概略 7. 九州の収容所 1 久留米 8. 九州の収容所 2 久留米・熊本 9. 九州の収容所 3 福岡 10. 九州の収容所 4 大分 11. 四国の収容所 1 松山 12. 四国の収容所 2 丸亀 13. 四国の収容所 3 徳島 14. 四国の収容所 4 板東 15. 予備 16. 総括授業

【成績評価】レポートと普段の授業への取り組みで総合的に評価する。

【再試験】おこなわない。

【教科書】教科書は使わず、適宜プリントを配布する。

【参考書】授業中にプリントを配布し、視聴覚資料などを示し、参考文献の指示もおこなう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218902>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日14時30分から16時まで)
⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

ドイツ言語文化研究Ⅲ(その2) 2単位 2年(後期)

井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】第一次大戦時の在日ドイツ・オーストリア人捕虜の活動や日本人との交流について知り、異文化間の交流や戦争、「国民性」(他国によって感じられた「国民性」と、自国民について感じている「国民性」の相違など)について考える手掛かりとする。

【授業概要】第一次大戦における日本の青島攻略(1914年)により、ドイツ人とオーストリア人の捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化的・社会的な諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この授業では、当時の日本各地の収容所(後期は特に中国・近畿・東海・関東の収容所)における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介し、これについ

て、日独交流史や捕虜待遇の歴史という、より広いコンテキストも視野に入れながら、多面的な考察の材料を提供する。

【キーワード】異文化間交流, 第一次世界大戦, 捕虜

【先行科目】『ドイツ言語文化研究 III (その 1)』(1.0, ⇒71 頁)

【関連科目】『ドイツ言語文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒69 頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒70 頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その 2)』(0.5, ⇒71 頁)

【履修上の注意】特になし。

【到達目標】

1. 人口に膾炙し、時には美化された「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ・オーストリア人捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。
2. 共時的、通時的なより広いコンテキスト (第一次大戦中の各国の捕虜待遇や、捕虜待遇史、日独交流史など) の中で、当時の日本による捕虜待遇や捕虜たちの活動、彼らをめぐる文化交流の位置づけを知る。

【授業計画】1. 授業方針などの説明 2. 前期内容のまとめ 青島戦と捕虜収容の概略 九州・四国の収容所 3. 板東収容所 4. 中国・近畿の収容所 1 姫路 5. 中国・近畿の収容所 2 青野ヶ原 6. 中国・近畿の収容所 3 大阪 7. 中国・近畿の収容所 4 似島 8. 関東・東海の収容所 1 名古屋 9. 関東・東海の収容所 2 静岡 10. 関東・東海の収容所 3 東京・習志野 11. 関東・東海の収容所 4 習志野 12. 捕虜待遇史概略 1 世界の歴史に見る捕虜 13. 捕虜待遇史概略 2 日本の歴史に見る捕虜 14. まとめ 15. 予備 16. 総括授業

【成績評価】レポートと普段の授業への取り組みで総合的に評価する。

【再試験】なし。

【教科書】適宜プリントを配布する。

【参考書】授業中にプリントを配布し、視聴覚資料などを示し、参考文献の指示もおこなう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218903>

【連絡先】

- ⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

英米言語研究 I (その 1) 2 単位 2 年 (前期, 集中)

井上永幸・, 山田仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】この講義では、日常生活の身近な例を使って、英語の意味と形について考えてゆく。「明かりをつける」という意味の turn on the light と turn the light on はどう違うのか、the light を代名詞にして it にするとなぜ turn it on のように turn と on にはさまれるのか、John has many books, はなぜ不自然か、happen, occur, take place はどこが違うか、常に「なぜ」考える姿勢で、複数の表現形式と意味の関係を考察してゆく。その際、適宜コンピュータを使ったコーパス言語学の手法を援用する。

【授業概要】現代英語の文法・語法研究

【キーワード】英語学, 英語語法研究, コーパス言語学, 辞書学

【履修上の注意】(1) 常に自分から問題点を探求する態度で望んでもらいたい。学生諸君の新鮮でユニークな発想を期待している。(2) 後期の授業は前期の授業の内容を前提としているので、まず前期を受講し、その後で後期を受講することが望ましい。

【到達目標】現代英語の文法・語法研究に必要な基礎知識を身につけること。

【授業計画】1. 講義概要説明 2. 文体と使用域 3. 慣用句とコロケーション 4. 語順と話し手・書き手の意図 (1) 5. 語順と話し手・書き手の意図 (2) 6. 有標性 7. 反意語と否定 (1) 8. 反意語と否定 (2) 9. 直示 10. 指向性 (1) 11. 指向性 (2) 12. 時制と相 13. 動詞の相 (1) 14. 動詞の相 (2) 15. 総括授業

【成績評価】授業参加及び試験による。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版, 三省堂。
- ◇ 適宜, プリントも配布。

【参考書】

- ◇ 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎 編 (2005) 『英語コーパス言語学 — 基礎と実践 — 【改訂新版】』研究社。
- ◇ ※最初の授業で、参考文献一覧表を配布。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218374>

【連絡先】

- ⇒ 井上 (office: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
- ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 I (その 2) 2 単位 2 年 (後期, 集中)

井上永幸・, 山田仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】この講義では、日常生活の身近な例を使って、英語の意味と形について考えてゆく。「明かりをつける」という意味の turn on the light と turn the light on はどう違うのか、the light を代名詞にして it にするとなぜ turn it on のように turn と on にはさまれるのか、John has many books, はなぜ不自然か、happen, occur, take place はどこが違うか、常に「なぜ」考える姿勢で、複数の表現形式と意味の関係を考察してゆく。その際、適宜コンピュータを使ったコーパス言語学の手法を援用する。

【授業概要】現代英語の文法・語法研究

【キーワード】英語学, 英語語法研究, コーパス言語学, 辞書学

【履修上の注意】(1) 常に自分から問題点を探求する態度で望んでもらいたい。学生諸君の新鮮でユニークな発想を期待している。(2) 後期の授業は前期の授業の内容を前提としているので、まず前期を受講し、その後で後期を受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ・コーパス (英語資料の集積) を活用して自ら研究が行えるようになること。

【授業計画】1. 講義概要説明 2. コーパスとコーパス言語学 3. コーパスで何がわかるか 4. コーパスと統計値 (1) 5. コーパスと統計値 (2) 6. コーパスと統計値 (3) 7. コーパスと辞書編集 8. コーパスと語法研究 9. コーパスとシノニム研究 (1) 10. コーパスとシノニム研究 (2) 11. コーパスとシノニム研究 (3) 12. コーパスとシノニム研究 (4) 13. 発表 (1) 14. 発表 (2) 15. 発表 (3)

【成績評価】授業参加、発表及びペーパーによる。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版, 三省堂。
- ◇ ※適宜, プリントも配布。

【参考書】

- ◇ 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎 編 (2005) 『英語コーパス言語学 — 基礎と実践 — 【改訂新版】』研究社。
- ◇ ※最初の授業で、参考文献一覧表を配布。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218375>

【連絡先】

- ⇒ 井上 (office: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
- ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 II (その 1) 2 単位 3 年 (前期)

元木美男・, 山田仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】イギリス史と関連させながら古期・中期英語を中心に現代までの英語の歴史を通観する。

【授業概要】英語史研究

【キーワード】ノルマン・コンケスト, ラテン語, 語源

【関連科目】『英米言語研究 I (その 1)』(0.5, ⇒72 頁), 『英米言語研究 I (その 2)』(0.5, ⇒72 頁)

【到達目標】

1. 英語は古いところでは現代のドイツ語と同じような語尾変化をし、時代が下ると共に次第に語尾が消失し、今日のような語順を大切にする言語となった。また語彙においては、全体として、比較的純粋なゲルマン語彙から、ノルマン・コンケストを契機にロマンス語彙を増大してゆき、今日に見るような語彙の豊富さを獲得していった。
2. 以上のような英語の歴史について理解を深める。

【授業計画】前期は専ら英語史の概説に重点を置き、後期は具体的にラテン語、古期・中期英語の文法を教科書を使用しながら詳述する。

【成績評価】レポート及び期末試験。

【再試験】行なう。

【教科書】

- ◇ 教科書: Sweet's Anglo-Saxon Primer 千城
- ◇ 松平千秋・国原吉之助共著 新ラテン文法 東洋出版
- ◇ 参考書: Albert C. Baugh: A History of the English Language

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218376>

【連絡先】

- ⇒ 元木 (office: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
- ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 II (その 2) 2 単位 3 年 (後期)

元木美男・, 山田仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】イギリス史と関連させながら古期・中期英語を中心に現代までの英語の歴史を通観する。

【授業概要】英語史研究

【キーワード】ノルマン・コンケスト, ラテン語, 語源

【関連科目】『英米言語研究 I (その 1)』(0.5, ⇒72 頁), 『英米言語研究 I (その 2)』(0.5, ⇒72 頁)

【到達目標】

- 英語は古いところでは現代のドイツ語と同じような語尾変化をし、時代が下ると共に次第に語尾が消失し、今日のような語順を大抵にする言語となった。また語彙においては、全体として、比較的純粋なゲルマン語彙から、ノルマン・コンケストを契機にロマンス語彙を増大してゆき、今日に見るような語彙の豊富さを獲得していった。
 - 以上のような英語の歴史について理解を深める。
- 【授業計画】** 前期は専ら英語史の概説に重点を置き、後期は具体的にラテン語、古期・中期英語の文法を教科書を使用しながら詳述する。
- 【成績評価】** レポート及び期末試験。
- 【再試験】** 行なう。
- 【教科書】**
- 教科書: Sweet's Anglo-Saxon Primer 千城
 - 松平千秋・国原吉之助共著 新ラテン文法 東洋出版
 - 参考書: Albert C. Baugh: A History of the English Language
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218377>
- 【連絡先】**
- ⇒ 元木 (オフィスアワー: 金曜日 14:30~15:30)
- ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 III (その1)

2 単位 2 年 (前期)
山田 仁子・准教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 認知言語学の概要を理解させる。言語には、人間の世界の捉え方が反映している事に気づかせる。
- 【授業概要】** 認知言語学入門
- 【キーワード】** 英語学, 認知言語学
- 【関連科目】** 『英米言語研究 III (その2)』(1.0, ⇒73 頁)
- 【履修上の注意】** 受動的に学ぶというより、自ら新しい真実を発見しようという態度を期待します。
- 【到達目標】** 日頃、無意識に使っている「ことば」を「認知言語学」という新たな視点から見直し、無意識の内に働いている「認知システム」を知る手がかりとなる言語資料を、受講生自ら収集、分析できるようになることを目標とする。
- 【授業計画】** 1. イントロダクション: 認知言語学とは何か 2. 第1章 基本概念 3. 第1章 練習問題 4. 第2章 空間 in, on, at 等 5. 第2章 練習問題 6. 第3章 空間の意味からの拡張 第一回 7. 第3章 空間の意味からの拡張 第二回 8. 第3章 空間の意味からの拡張 第三回 9. 第3章 練習問題 10. 第4章 放射状カテゴリー 第一回 11. 第4章 放射状カテゴリー 第二回 12. 第4章 練習問題 13. 第5章 構文 第一回 14. 第5章 構文 第二回 練習問題 15. 総括授業 16. テスト
- 【成績評価】** 授業参加の態度や授業中の発表、学期末のテストにより、評価する。
- 【再試験】** 学期を通しての積極的な授業参加や課題の提出等の条件を満たしている場合のみ、再評価も可能とする。再評価にあたっては、各自の問題点を話し合ったうえで課題を課す事になる。
- 【教科書】** デイヴィッド・リー著 『実例で学ぶ認知言語学』(大修館書店)
- 【参考書】**
- 大堀壽夫 『認知言語学』(東京大学出版会, 2002 年)
 - 山梨正明 『認知文法論』(ひつじ書房, 1995 年)
 - 山梨正明 『認知言語学原理』(くろしお出版, 2000 年)
 - 松本曜 『認知意味論』(大修館書店, 2003 年)
 - 山梨正明 『認知構文論』(大修館書店, 2009 年)
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218378>
- 【連絡先】**
- ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 III (その2)

2 単位 2 年 (後期)
山田 仁子・准教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 言語には、人間の世界の捉え方が反映している事を理解させる。
- 【授業概要】** 認知言語学入門
- 【キーワード】** 英語学, 認知言語学
- 【先行科目】** 『英米言語研究 III (その1)』(0.3, ⇒73 頁)
- 【関連科目】** 『英米言語研究 III (その1)』(1.0, ⇒73 頁)
- 【履修上の注意】** 受動的に学ぶというより、自ら新しい真実を発見しようという態度を期待します。
- 【到達目標】** 日頃、無意識に使っている「ことば」を認知言語学という新たな視点から見直し、これまた無意識に働いている「認知システム」を知る手がかりとなる言語資料を、自ら収集、分析できるようになることを目標とする。
- 【授業計画】** 1. イントロダクション/認知言語学とは何か 2. 第8章 可算名詞と質量名詞 3. 第8章 練習問題 4. 第6章 メンタル・ス

- ペース 第一回 5. 第6章 メンタル・スペース 第二回 6. 第6章 練習問題 7. 第7章 言語変化 第一回 8. 第7章 言語変化 第二回 9. 第7章 言語変化 第三回 10. 第7章 練習問題 11. 第9章 動詞の完了用法と未完了用法 12. 第9章 練習問題 13. 受講生の発表 14. 受講生の発表 15. 発表からレポートへまとめるにあたって 16. レポート提出

- 【成績評価】** 授業参加の態度や発言、学期末の発表とレポートにより、評価する。
- 【再試験】** 学期を通しての積極的な授業参加や課題の提出等の条件を満たしている場合のみ、再評価も可能とする。再評価にあたっては、各自の問題点を話し合ったうえで課題を課す事になる。
- 【教科書】** デイヴィッド・リー著 『実例で学ぶ認知言語学』(大修館書店)
- 【参考書】**
- 大堀壽夫 『認知言語学』(東京大学出版会, 2002 年)
 - 山梨正明 『認知文法論』(ひつじ書房, 1995 年)
 - 山梨正明 『認知言語学原理』(くろしお出版, 2000 年)
 - 松本曜 『認知意味論』(大修館書店, 2003 年)
 - ジル・フォコニエ 『メンタル・スペース』(白水社)
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218379>
- 【連絡先】**
- ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

異文化間コミュニケーション (その1)

2 単位

2 年 (前期, 集中)

Cross-cultural Communications

坂田 浩・助教授/国際センター

- 【授業目的】** 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生していくことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1) 受講者自身が自らの文化に気づき、(2) 多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行くための具体的な方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。
- 【授業概要】** 異文化トレーニング
- 【履修上の注意】** 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する
- 【授業計画】** 1. 具体的な内容・計画は以下の通り。 2. (1) 「自文化を気づくトレーニング」 3. (2) 「Perception/Programming のエクササイズ」 4. (3) 「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 5. (4) 「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 6. (5) 「価値観の多様性に関するエクササイズ」 7. (6) 「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 8. (7) 「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 9. (8) 「Organizational/Individual Challenges」 10. (9) 「多文化で共生できる人とは? DMIS」 11. (10) 「多文化で共生する為のヒント: DIE」 12. (11) 「多文化で共生する為のヒント: Action Planning」 13. (12) 「Action Planning: 大学内の留学生との活動を計画しよう♪」 14. など
- 【成績評価】** 評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。
- 【再試験】** 行わない。
- 【教科書】** なし
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218359>
- 【連絡先】**
- ⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:各集中講義時間終了後)

異文化間コミュニケーション (その2)

2 単位

2 年 (後期, 集中)

坂田 浩・准教授/国際センター

- 【授業目的】** 本授業では、前期の集中講義を基に授業を展開するが、概要としては、(1) 異文化間コミュニケーションに必要なとされる技術(スキル)と態度を養う、(2) 自己のあり方を振り返り、今後の自分について考える、(3) 外国語に対する認識と態度を再考する、という内容を中心に授業を展開していく予定である。
- 【授業概要】** 目的を参照
- 【先行科目】** 『異文化間コミュニケーション (その1)』(1.0, ⇒73 頁)
- 【履修上の注意】** 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する
- 【到達目標】**

1. 文化的な「違い」に対する認識と態度について再考出来るようになる
2. 自己を振り返り、望ましい自分について具体的なイメージを形成できる
3. 具体的な理想のイメージに向かっていく為に必要なコミュニケーション能力を獲得する
4. 自分とは異なる人達と有効な人間関係を構築することが出来る

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. マインドマップを使って自分の価値観を探りましょう! 3. 価値観を達成する為のヒントとリソースを考えましょう! 4. コミュニケーションエクササイズ (1): 承認とフィードバック 5. コミュニケーションエクササイズ (2): 質問・質問 (1) 6. コミュニケーションエクササイズ (3): 質問・質問 (2) 7. コミュニケーションエクササイズ (4): 自己開示 (1) 8. コミュニケーションエクササイズ (5): 自己開示 (2) 9. コミュニケーションエクササイズ (6): 傾聴 (1) 10. コミュニケーションエクササイズ (7): 傾聴 (2) 11. コミュニケーションエクササイズ (8): リーダーシップとチームワーク (1) 12. コミュニケーションエクササイズ (9): リーダーシップとチームワーク (2) 13. 今年の誓いとミッション・ステートメント 14. 人間関係・異文化とコミュニケーション 15. 予備日

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポート・発表内容を基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219389>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜 12:00-12:50)

【備考】 定員: 30 名まで *30 名以上の場合には、総合科学部生 (欧米言語コース 2,3 年生, 国際文化コース 2,3 年生) を優先し、残りに関しては抽選を行います。

音組織は常に日本語のそれと対比・比較されて特徴が一層明らかにされると同時に、一般音声学・音韻理論の中に位置づけられることになる。

【授業概要】 英語音声の理解と演習

【キーワード】 超分節要素, 強勢, 抑揚, スペクトログラム, フォルマント

【先行科目】 『言語理論研究 I (その 1)』 (1.0, ⇒75 頁), 『言語理論研究 I (その 2)』 (1.0, ⇒75 頁), 『英米言語研究 II (その 1)』 (1.0, ⇒72 頁)

【関連科目】 『言語理論研究 I (その 1)』 (0.5, ⇒75 頁), 『言語理論研究 I (その 2)』 (0.5, ⇒75 頁), 『英米言語研究 II (その 1)』 (0.5, ⇒72 頁)

【履修上の注意】 実技的演習が部分的に含まれるが, 英語の発音を劇的に改善することを意図してはいない。むしろ, 言語の音についての理解深化をめざしている。もちろん, 理解に基づく発音練習が効率的になることは期待している。

【到達目標】 英語の文節音と超文節音に関わる特性を理解し, 基本的聞き取りと調音ができること。

【授業計画】 1. 後期 (超分節音素中心) 2. 1. 導入 3. 2-3. 音節 4. 4-5. 語強勢 5. 6-7. イントネーション 6. 8-9. 音響音声学 7. 10-11. 聴覚音声学 8. 12-13. リズム 9. 14-15. 音韻理論等 10. 16. まとめ

【成績評価】 レポート提出等を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 教科書 佐藤寧・佐藤努共著・『現代の英語音声学』・金星堂 1997
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著・『英語リスニング科学的上達法』・講談社 1998
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著・『英語スピーキング科学の上達法』・講談社 1999

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218578>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

現代英語演習 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
森岡 芳洋・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 英語音声学の基礎 [前期] から始め, 英語音韻論の初歩 [後期] までを扱うことによって, 英語の音体系についての理解を深めるとともに, 英語の実際の音声訓練を効果的にするための裏付けを提供することを目的としている。授業を通して, 英語という個別言語の音組織は常に日本語のそれと対比・比較されて特徴が一層明らかにされると同時に, 一般音声学・音韻理論の中に位置づけられることになる。

【授業概要】 英語音声の理解と演習

【キーワード】 音声学, 音韻論, 分節音, 母音, 子音

【先行科目】 『言語理論研究 I (その 1)』 (1.0, ⇒75 頁), 『言語理論研究 I (その 2)』 (1.0, ⇒75 頁), 『英米言語研究 II (その 1)』 (1.0, ⇒72 頁)

【関連科目】 『言語理論研究 I (その 1)』 (0.5, ⇒75 頁), 『言語理論研究 II (その 1)』 (0.5, ⇒75 頁), 『英米言語研究 II (その 1)』 (0.5, ⇒72 頁)

【履修上の注意】 実技的演習が部分的に含まれるが, 英語の発音を劇的に改善することを意図してはいない。むしろ, 言語の音についての理解深化をめざしている。もちろん, 理解に基づく発音練習が効率的になることは期待している。

【到達目標】 英語の文節音と超文節音に関わる特性を理解し, 基本的聞き取りと調音ができること。

【授業計画】 1. 前期 (分節音素中心) 2. 1. 導入 3. 2-3. 音声学とは 4. 4-5. 発声のメカニズム 5. 6-7. 音声表記 6. 8-9. 母音の調音 7. 10-11. 子音の調音 8. 12-13. 音縮小 9. 14-15. 同時調音 10. 16. まとめ

【成績評価】 レポート提出等を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 教科書 佐藤寧・佐藤努共著・『現代の英語音声学』・金星堂 1997
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著・『英語リスニング科学の上達法』・講談社 1998
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著・『英語スピーキング科学の上達法』・講談社 1999

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218577>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

現代英語演習 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
森岡 芳洋・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 英語音声学の基礎 [前期] から始め, 英語音韻論の初歩 [後期] までを扱うことによって, 英語の音体系についての理解を深めるとともに, 英語の実際の音声訓練を効果的にするための裏付けを提供することを目的としている。授業を通して, 英語という個別言語の

現代英語演習 II (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
スタージ ドナルド・講師 / 人間文化学科

【授業目的】 This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】 Class themes include: contemporary issues, media reports, personal experiences.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have practiced reading authentic English texts and using English to discuss a wide variety of topics in formal and informal situations. They will also have researched and delivered oral presentations and led classmates in a seminar setting.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】

- ◇ Class materials come primarily from students. There are some handouts from the
- ◇ instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218579>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

現代英語演習 II (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
スタージ ドナルド・講師 / 人間文化学科

【授業目的】 This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】 Class themes include: contemporary issues, media reports, personal experiences.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have practiced reading authentic English texts and using English to discuss a wide variety of topics in formal and informal situations. They will also have researched and delivered oral presentations and led classmates in a seminar setting.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】

- Class materials come primarily from students. There are some handouts from the
- instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218580>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

言語理論研究 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
中島 浩二・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 言語学理論一般 (音声学・音韻論・形態論・比較言語学など) を多面的な角度から学び、言語分析を実際に行ってみる。

【授業概要】 言語理論と言語分析

【キーワード】 一般言語学, 音声学, 音韻論

【到達目標】 言語を客観的に観察し、自分で基礎的な分析ができるようになる。特に音声学・音韻論を中心に据える。

【授業計画】 1. 音声学 2. 音韻論 3. 形態論 4. 比較言語学

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「言語学演習」 田中春美 (大修館書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218573>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語理論研究 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
中島 浩二・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 言語学理論一般 (音声学・音韻論・形態論・比較言語学など) を多面的な角度から学び、言語分析を実際に行ってみる。

【授業概要】 言語理論と言語分析

【キーワード】 一般言語学, 音声学, 音韻論

【到達目標】 言語を客観的に観察し、自分で基礎的な分析ができるようになる。特に音声学・音韻論を中心に据える。

【授業計画】 1. 一般言語学 2. 音声学

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「言語学演習」 田中春美 (大修館書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218574>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語理論研究 II (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
森岡 芳洋・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 生成変形文法の初期理論から標準理論における基本概念と関連事項の一部を振り返り [前期], さらに比較的最近までの理論展開・変遷を部分的に辿る [後期] ことにより, 形式的・演算的側面からその普遍的特質に迫ろうとする言語理論が提示する自然言語の姿について考えることを目的としている。分析対象が日本語であれ英語であれ, あるいはその他任意の個別言語であれ, 人間が操る言語の本質的仕組みを探索する試みの一端に触れることになる。

【授業概要】 英語を主材料としての統語構造理解

【キーワード】 生成文法, 句構造, 初期理論, 変形, 生得性

【先行科目】 『言語理論研究 I (その 1)』 (1.0, ⇒75 頁), 『言語理論研究 I (その 2)』 (1.0, ⇒75 頁), 『現代英語演習 I (その 1)』 (1.0, ⇒74 頁)

【関連科目】 『英米言語研究 I (その 1)』 (0.5, ⇒72 頁), 『英米言語研究 I (その 2)』 (0.5, ⇒72 頁), 『英米言語研究 II (その 1)』 (0.5, ⇒72 頁)

【履修上の注意】 術語とその定義が多くて煩雑な印象を受けるけれども, そのような道具立てで分析される言語現象の意義をよく理解するように努めてほしい。

【到達目標】 英語の統語分析の基本を理解すること。

【授業計画】 1. 前期 (「初期理論」中心) 2. 1. 導入 2-4. 言語理論の目標 { 言語知識, 言語習得, 言語運用 } 5-7. 言語理論と文法 { 記述性, 妥当性, 説明力 }, 8-11. 形式文法 { 表示, 集合, 論理演算子, チョムスキーの階層 } 12-15. 統語構造と意味 { 句構造, 変形, 厳密下位範疇化, 素性, 共起制限 }, 16. まとめ

【成績評価】 レポート提出を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】 アンドリュウ・ラドフォード (著) 外池滋, 他 (訳) 『ミニマリスト統語論』 (2006) 研究社 定価 3,800 円 (税別)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218575>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

言語理論研究 II (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
森岡 芳洋・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 生成変形文法の初期理論から標準理論における基本概念と関連事項の一部を振り返り [前期], さらに比較的最近までの理論展開・変遷を部分的に辿る [後期] ことにより, 形式的・演算的側面からその普遍的特質に迫ろうとする言語理論が提示する自然言語の姿について考えることを目的としている。分析対象が日本語であれ英語であれ, あるいはその他任意の個別言語であれ, 人間が操る言語の本質的仕組みを探索する試みの一端に触れることになる。

【授業概要】 英語を主材料としての統語構造理解

【キーワード】 主要部, 文法範疇, 素性, 構成素統御, 統率

【先行科目】 『言語理論研究 I (その 1)』 (1.0, ⇒75 頁), 『言語理論研究 I (その 2)』 (1.0, ⇒75 頁), 『言語理論研究 II (その 1)』 (1.0, ⇒75 頁)

【関連科目】 『英米言語研究 I (その 1)』 (0.5, ⇒72 頁), 『英米言語研究 I (その 2)』 (0.5, ⇒72 頁), 『英米言語研究 II (その 1)』 (0.5, ⇒72 頁)

【履修上の注意】 術語とその定義が多くて煩雑な印象を受けるけれども, そのような道具立てで分析される言語現象の意義をよく理解するように努めてほしい。

【到達目標】 英語の統語分析の基本を理解すること。

【授業計画】 1. 後期 (現在に近い理論中心) 2. 1. 導入 2-3. 文法 4-5. 語 6-7. 構造 8-10. 空構成素 11-13. { 主要部移動 } 3. 14-15. { Wh 移動, 他 } 16. まとめ

【成績評価】 レポート提出を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】 アンドリュウ・ラドフォード (著) 外池滋, 他 (訳) 『ミニマリスト統語論』 (2006) 研究社 定価 3,800 円 (税別)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218576>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

言語情報処理研究 (その 1)

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
中島 浩二・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 言語コーパスとは何か理解する。また, コンピュータのツール (KWIC コンコーダ等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】 コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】 Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】 基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため, 前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って, 言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し, 自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また, 文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより, 言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的技能を身につける。

【授業計画】 1. Perl 言語概要 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし
 【教科書】「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)
 【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218564>
 【連絡先】
 ⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
 【備考】この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

言語情報処理研究 (その 2) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何かを理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダ等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。
 【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析
 【キーワード】Perl, コーパス言語学
 【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。
 【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。
 【授業計画】1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)
 【成績評価】授業への参加度および定期試験による。
 【再試験】なし
 【教科書】「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)
 【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218565>
 【連絡先】
 ⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その 3) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)
 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何かを理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダ等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。
 【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析
 【キーワード】Perl, コーパス言語学
 【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。
 【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。
 【授業計画】1. Perl 言語概説 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ
 【成績評価】授業への参加度および定期試験による。
 【再試験】なし
 【教科書】「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)
 【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218566>
 【連絡先】
 ⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その 4) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何かを理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダ等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。
 【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析
 【キーワード】Perl, コーパス言語学
 【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)
 【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし
 【教科書】「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)
 【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218567>
 【連絡先】
 ⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

ドイツの社会と文化 (その 1) 2 単位 2 年 (前期)
 ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】授業の目的は社会的な想像力を身につける事。ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、外国人排斥思想、移民受け入れ理論、グローバル化、高齢化問題、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】ドイツ、オーストリーの社会の時事問題
 【履修上の注意】受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁
 【到達目標】様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】1. 社会学入門:社会学とは何か。 2. ライフスタイル、文化社会学: Pierre Bourdieu 3. Bourdieu 理論のキーワード:資本、ハビトゥス、階級、ディステンクシオン等 4. エリートを生む学歴社会:ドイツとフランスの教育制度 5. Gerhard Schulze: 現代ドイツ社会の分析、その理論と研究デザイン 6. 日常生活の社会学:ドイツの主な五つの生活様式 7. ドイツ社会のライフスタイルグループの具体的な描写 8. ドイツの主流社会から排除されているグループ 9. 移民社会としてのドイツ:外国人受け入れの歴史と現状 10. 排斥主義と国家主義とネオナチ問題 11. 外国人受け入れ理論 1. 同化論, 統合論, 多様文化論, 若者文化, 移民社会, 高齢化問題, (生と死の) 哲学, オーストリー, ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。
 【成績評価】出席, レポート, 発表, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】あり。
 【教科書】教科書, 教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218906>

【連絡先】
 ⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))
 【備考】授業は日本語で行われます。

ドイツの社会と文化 (その 2) 2 単位 2 年 (後期)
 ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】授業の目的は社会的な想像力を身につける事。ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、移民社会、高齢化問題、(生と死の) 哲学、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】ドイツ、オーストリーの社会の時事問題
 【履修上の注意】受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁
 【到達目標】様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】1. ドイツとオーストリーの相違と特徴 2. オーストリーの歴史、ケルト人、ローマ時代から十九世紀まで 3. 20, 21 世紀のオーストリー:政治, 経済, 社会, 文化 4. オーストリーと EU における移民政策 5. EU の統合と組織犯罪の在り方 6. 世俗化したドイツ, オーストリーにおける宗教 7. 若い世代と宗教:精神世界, ニューエイジ思想, 折衷主義 8. ドイツ社会と東洋思想:インド哲学, 仏教, 禅との出会い 9. bodycult と bodyart/body modification: 身体変更/改造, リストカット症候群, 体の社会学 10. 高齢社会, その問題と課題 11. 西洋哲学での生と死の見方 12. 安楽死をめぐる 13. ホスピス, その歴史と理念 14. 緩和ケア, 特にスピリチュアルケアについて 15. 纏めと質疑応答 16. 「ソフィの世界」ドイツ語圏での哲学ブーム

【成績評価】出席、レポート、発表、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】あり

【教科書】教科書、教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218907>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】授業は日本語で行われます。

ドイツ語圏文化論 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの人々の生活や社会に関するいくつかのテーマをとりあげ、これらを媒介として、幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと。

【授業概要】ドイツについて学ぶ手がかりとなるような、いくつかのトピックを取り上げ、日本の状況とも比較しながら、その歴史的・文化的背景を考えます。希望によっては、ドイツの人々との交流(電子メールなど)やドイツの状況の視察なども組み入れることも可能です。

【キーワード】ドイツ語圏の文化を知る

【履修上の注意】この授業では、ドイツ語の知識は前提としません(もちろん、片言でも出来れば申し分ありません)。異なる文化に触れるとき、自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが、大きな問題になってきたりすることがあります。受講者には、このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います。参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です(授業で詳しく紹介します)。

【到達目標】現代ドイツの社会についての概要とその多様性を知り、さらに関心を展開して行く足がかりを得る。同時に、自国の文化についての新たな観点を獲得する。

【授業計画】1. 導入・文献や資料の紹介 2. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (1) 3. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (2) 4. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (3) 5. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (4) 6. ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) 7. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (1) 8. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (2) 9. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (3) 10. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (4) 11. ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) 12. ドイツの学校と教育制度を知る (1) 13. ドイツの学校と教育制度を知る (2) 14. ドイツの学校と教育制度を知る (3) 15. ディスカッション及び参加者による研究発表 (3) 16. 前期授業のまとめ(レポート提出)

【成績評価】出席、授業での発表、レポートを総合して行ないます。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ プリントを配布します。教科書や参考書の指定はありませんが、手に入りやすい参考書として次のものを推薦します。その他、授業で紹介いたします。
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの政治 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの経済 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの社会 (早稲田大学出版部)
- ◇ 天野正治他:ドイツの教育 (東信堂)
- ◇ 在間進・河合節子:現代ドイツ情報ハンドブック (三修社)

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218904>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4, 金曜5-6)

ドイツ語圏文化論 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの人々の生活や社会に関するいくつかのテーマをとりあげ、これらを媒介として、幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと。

【授業概要】後期の授業では、主として、ヨーロッパの言語教育およびドイツの学校教育の実情と問題点をとりあげます。日本でもドイツでも教育にはさまざまな重い問題がありますが、同時に学校教育には、現代の文化現象を読み解く上での重要なヒントがあります。そこでは、制度的側面の理解とともに、教育内容、学校文化などの研究が重要です。そこで使用されている具体的な教科書を紹介します。授業の様子ビデオ等も活用します。

【キーワード】ドイツ語圏の文化を知る、ドイツの学校教育、ヨーロッパの言語教育

【履修上の注意】この授業では、ドイツ語の知識は前提としません(もちろん片言でも出来れば申し分ありません)。異なる文化に触れるとき、自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが、大きな問題になってきたりすることがあります。受講者には、このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います。参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です(授業で詳しく紹介します)。

【到達目標】現代ドイツの教育事情の概要とその多様性を知ることをして、自国の文化についての新たな観点を獲得する。

【授業計画】1. 導入・文献や資料の紹介 2. ヨーロッパにおける外国語教育 - 多言語性と言語政策 3. ヨーロッパにおける外国語教育 - ヨーロッパ共通参照枠 (Common Framework) とポートフォリオ 4. ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) 5. ドイツの学校教育の現状と問題点 6. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (1) - 授業のビデオを見る 7. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (2) - 国語教科書を見る 8. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (3) - 教育目標とカリキュラム 9. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (4) - 授業のビデオを見る 10. ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) 11. ドイツの政治授業を見る (1) ヴィデオを見る 12. ドイツの政治授業を見る (2) 教科書を見る 13. ドイツの政治授業を見る (3) ドイツの政治教育の歴史 14. ドイツの大学 15. ディスカッション及び参加者による研究発表 (3) 16. 後期授業のまとめ(レポート提出)

【成績評価】出席、授業での発表、レポートを総合して行ないます。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ プリントを配布します。教科書や参考書の指定はありませんが、手に入りやすい参考書として次のものを推薦します。その他、授業で紹介いたします。
- ◇ 天野正治他:ドイツの教育 (東信堂)
- ◇ マックス・プランク研究所 (天野他訳):ドイツの教育のすべて
- ◇ クリストフ・フュール (天野他訳):ドイツの学校と大学
- ◇ 近藤孝弘:ドイツの政治教育
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの社会 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの政治 (早稲田大学出版部)

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218905>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4, 金曜5-6)

比較文化研究 (その1)

2 単位 2 年 (前期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティーの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間に思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってほしい。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、マイノリティーの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】比較文化、異文化理解、マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究 (その2)』(1.0, ⇒78 頁)

【関連科目】『比較文化研究 (その2)』(0.5, ⇒78 頁), 『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒76 頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】前期は、課題発想的な比較文化研究の概念を検討し、授業の導入とする。「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題点を概観する。映画やドキュメンタリー・ビデオ、新聞記事なども適宜利用して、従来の学問区分に必ずしもとらわれない学際的・総合的な研究方法を示していく。具体的には、外国人・移民問題、文化的に見た民族問題、メルヘンと国民文化の問題、映像メディアによるホロコーストの表現の比較、「近代」に対する文化的批判、多文化社会の可能性といったテーマを考えている。文化研究の仕方として最近の「カルチュラル・スタディーズ」の成果なども紹介する。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫編『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊』

り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店、E. W. サイド『オリエンタリズム』平凡社。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219308>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

比較文化研究 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間の思いがけない結びつきや差異を発見していく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、マイノリティの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】比較文化、異文化理解、マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒77 頁)

【関連科目】『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒76 頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化について関心を養ってほしい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得、多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】後期は、日本国内外の代表的な日本文化論を概観し、それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する。文化間の影響関係として、具体的には、日本の西洋モダニズム受容や、海外におけるジャポニズムから最近のマンガ・アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる。また、日本文化論に内在するナショナリズムやイデオロギー性を批判的に考察する。日本文化の雑種性への感受性を大切に、既存の日本文化のイメージにとらわれない、新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく。地域文化 (徳島) と国際性といったテーマも取り上げる予定。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】

◇教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店。

◇依岡隆児『読書のススメ～ 四国から、グローバルに～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218953>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

文化情報研究 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】WEB アプリケーション入門

【授業概要】WEB アプリケーション入門

【キーワード】Web プログラミング、プログラミング

【関連科目】『言語情報プログラミング演習 (その2)』(0.5, ⇒85 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その4)』(0.5, ⇒85 頁)

【履修上の注意】コンピュータについて十分な知識と技術があること

【到達目標】WEB を理解する

【授業計画】1. Web サーバーについて 2. html 言語について 3. 実習 1 Web ページの作成 4. Script とは何か 5. Script 言語の基礎 6. データベースの基礎とネットを介したアクセス方法 7. 実習 2 インタラクティブな Web サイトの構築 8. Flash とは何か 9. Flash 作成方法 10. Web デザインを総合的に考える 11. Web サイトのインターフェイスデザイン 12. Web サイトのナビゲーション方法 13. 実習 3 個人 Web サイトの構築 14. 総評 1 各自の Web サイトの講評 15. 総評 2 各自の Web サイトの講評 16. まとめ 1 17. まとめ 2

【成績評価】成績そのものは試験によって判定する。ただし出欠も重視する。欠席が続けば、そもそもその後の内容が全く分らなくなります。

【再試験】未定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218989>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日、水曜日、木曜日の12時00分から13時00分のあいだ)

文化情報研究 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】情報科学の技術を活用したデザインとプロジェクトを企画実行する

【授業概要】情報科学技術を主体的に応用した企画立案を共同でおこなう。学期最初に計画をデザインし、そのデザインの実現のための工程を作成する。以降は、その工程にしたがって作業する。

【キーワード】Web プログラミング、プログラミング

【先行科目】『文化情報研究 (その1)』(1.0, ⇒78 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(1.0, ⇒85 頁)

【関連科目】『言語情報プログラミング演習 (その2)』(0.5, ⇒85 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その4)』(0.5, ⇒85 頁)

【履修上の注意】授業時間はもちろんのこと、時間外でも相応の時間を割けること

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 自身の情報技術と知識を披露するプレゼン (一人 20 分) 3. 前回プレゼンの反省 4. 情報デザインの提案とプレゼン (一人 20 分) 5. 企画書の作成とプレゼン 6. プロジェクト進行具合報告 1 (一人 10 分) 7. プロジェクト進行具合報告 2 (一人 10 分) 8. プロジェクト進行具合報告 3 (一人 10 分) 9. プロジェクト進行具合報告 4 (一人 10 分) 10. プロジェクト進行具合報告 5 (一人 10 分) 11. プロジェクトの完成前プレゼン (10 分) 12. プロジェクトのプレゼン (30 分) 13. プロジェクトの総括 (15 分) 14. プロジェクトの発展可能性についてプレゼン (10 分) 15. 個人の総括 (30 分) 16. 全体総括

【成績評価】課題の評価 (25 点 ×3), 出席点 25 点の 100 点満点で評価する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218990>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較文化演習 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】No

【教科書】Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218950>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

比較文化演習 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express

their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218951>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

人間社会学科 欧米言語コース 言語コミュニケーションサブコース 授業概要

● サブコース指定科目

英米言語研究 I (その1) ...井上・山田/2年(前期, 集中).....	80
英米言語研究 I (その2) ...井上・山田/2年(後期, 集中).....	80
英米言語研究 II (その1) ...元木・山田/3年(前期).....	81
英米言語研究 II (その2) ...元木・山田/3年(後期).....	81
英米言語研究 III (その1) ...山田/2年(前期).....	81
英米言語研究 III (その2) ...山田/2年(後期).....	81
異文化間コミュニケーション(その1) ...坂田/2年(前期, 集中)....	81
異文化間コミュニケーション(その2) ...坂田/2年(後期, 集中)....	82
現代英語演習 I (その1) ...森岡/2年(前期).....	82
現代英語演習 I (その2) ...森岡/2年(後期).....	82
現代英語演習 II (その1) ...スタージ/2年(前期).....	83
現代英語演習 II (その2) ...スタージ/2年(後期).....	83
言語理論研究 I (その1) ...中島/2年(前期).....	83
言語理論研究 I (その2) ...中島/2年(後期).....	83
言語理論研究 II (その1) ...森岡/3年(前期).....	83
言語理論研究 II (その2) ...森岡/3年(後期).....	83
言語情報処理研究(その1) ...中島/3年(前期), 4年(前期).....	84
言語情報処理研究(その2) ...中島/3年(後期), 4年(後期).....	84
言語情報処理研究(その3) ...中島/3年(前期), 4年(前期).....	84
言語情報処理研究(その4) ...中島/3年(後期), 4年(後期).....	84
言語情報プログラミング演習(その1) ...石田/2年(前期).....	84
言語情報プログラミング演習(その2) ...石田/2年(後期).....	85
言語情報プログラミング演習(その3) ...石田/3年(前期).....	85
言語情報プログラミング演習(その4) ...石田/3年(後期).....	85
英米文化研究 I (その1) ...宮崎/2年(前期).....	85
英米文化研究 I (その2) ...宮崎/2年(後期).....	85
英米文化研究 II (その1) ...山内/2年(前期).....	86
英米文化研究 II (その2) ...山内/2年(後期).....	86
英米文化研究 III (その1) ...樋口/3年(前期).....	86
英米文化研究 III (その2) ...樋口/3年(後期).....	86
英米文化研究 IV (その1) ...前田・山田/2年(前期), 3年(前期)....	87
英米文化研究 IV (その2) ...前田・山田/2年(後期), 3年(後期)....	87
英米文化研究 IV (その3) ...前田・山田/2年(後期), 3年(後期)....	87
英米文化研究 IV (その4) ...前田・山田/2年(後期), 3年(後期)....	88
英米文化研究 VI (その1) ...スタージ/4年(前期).....	88
英米文化研究 VI (その2) ...スタージ/4年(後期).....	88
英米の社会と文化 I (その1) ...吉田/2年(前期).....	88
英米の社会と文化 I (その2) ...吉田/2年(後期).....	89
英米の社会と文化 II (その1) ...宮崎/3年(前期).....	89
英米の社会と文化 II (その2) ...宮崎/3年(後期).....	89
ドイツ言語文化研究 I (その2) ...石川/2年(後期).....	90
ドイツ言語文化研究 I (その1) ...石川/2年(前期).....	90
ドイツ言語文化研究 I(その3) ...石川/3年(前期).....	90
ドイツ言語文化研究 I(その4) ...石川/3年(後期).....	90
ドイツ言語文化研究 II (その1) ...井戸/3年(前期), 4年(前期)....	91
ドイツ言語文化研究 II (その2) ...井戸/3年(後期), 4年(後期)....	91
ドイツ言語文化研究 III (その1) ...井戸/2年(前期).....	91
ドイツ言語文化研究 III (その2) ...井戸/2年(後期).....	92
比較文化演習(その1) ...スタージ/3年(前期).....	92
比較文化演習(その2) ...スタージ/3年(後期).....	92

英米言語研究 I (その1) 2単位 2年(前期, 集中) 井上 永幸, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この講義では、日常生活の身近な例を使って、英語の意味と形について考えてゆく。「明かりをつける」という意味の turn on the light と turn the light on はどう違うのか、the light を代名詞にして it にするとなぜ turn it on のように turn と on にばさまれるのか、John has many books, はなぜ不自然か、happen, occur, take place はどこが違うか、常に「なぜ」考える姿勢で、複数の表現形式と意味の関係を考察してゆく。その際、適宜コンピュータを使ったコーパス言語学の手法を援用する。

【授業概要】 現代英語の文法・語法研究

【キーワード】 英語学, 英語語法研究, コーパス言語学, 辞書学

【履修上の注意】 (1) 常に自分から問題点を探求する態度で望んでもらいたい。学生諸君の新鮮でユニークな発想を期待している。(2) 後期の授業は前期の授業の内容を前提としているので、まず前期を受講し、その後で後期を受講することが望ましい。

【到達目標】 現代英語の文法・語法研究に必要な基礎知識を身につけること。

【授業計画】 1. 講義概要説明 2. 文体と使用域 3. 慣用句とコロケーション 4. 語順と話し手・書き手の意図(1) 5. 語順と話し手・書き手の意図(2) 6. 有標性 7. 反意語と否定(1) 8. 反意語と否定(2) 9. 直示 10. 指向性(1) 11. 指向性(2) 12. 時制と相 13. 動詞の相(1) 14. 動詞の相(2) 15. 総括授業

【成績評価】 授業参加及び試験による。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第2版, 三省堂。
- ◇ ※適宜, プリントも配布。

【参考書】

- ◇ 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎 編 (2005) 『英語コーパス言語学 — 基礎と実践 — 【改訂新版】』研究社。
- ◇ ※最初の授業で、参考文献一覧表を配布。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218374>

【連絡先】

- ⇒ 井上 (オフィスアワー: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
- ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 I (その2) 2単位 2年(後期, 集中) 井上 永幸, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この講義では、日常生活の身近な例を使って、英語の意味と形について考えてゆく。「明かりをつける」という意味の turn on the light と turn the light on はどう違うのか、the light を代名詞にして it にするとなぜ turn it on のように turn と on にばさまれるのか、John has many books, はなぜ不自然か、happen, occur, take place はどこが違うか、常に「なぜ」考える姿勢で、複数の表現形式と意味の関係を考察してゆく。その際、適宜コンピュータを使ったコーパス言語学の手法を援用する。

【授業概要】 現代英語の文法・語法研究

【キーワード】 英語学, 英語語法研究, コーパス言語学, 辞書学

【履修上の注意】 (1) 常に自分から問題点を探求する態度で望んでもらいたい。学生諸君の新鮮でユニークな発想を期待している。(2) 後期の授業は前期の授業の内容を前提としているので、まず前期を受講し、その後で後期を受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ・コーパス(英語資料の集積)を活用して自ら研究が行えるようになること。

【授業計画】 1. 講義概要説明 2. コーパスとコーパス言語学 3. コーパスで何がわかるか 4. コーパスと統計値(1) 5. コーパスと統計値(2) 6. コーパスと統計値(3) 7. コーパスと辞書編集 8. コーパスと語法研究 9. コーパスとシノニム研究(1) 10. コーパスとシノニム研究(2) 11. コーパスとシノニム研究(3) 12. コーパスとシノニム研究(4) 13. 発表(1) 14. 発表(2) 15. 発表(3)

【成績評価】 授業参加, 発表及びペーパーによる。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第2版, 三省堂。
- ◇ ※適宜, プリントも配布。

【参考書】

- ◇ 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎 編 (2005) 『英語コーパス言語学 ― 基礎と実践 ― 【改訂新版】』研究社。
- ◇ ※最初の授業で、参考文献一覧表を配布。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218375>

【連絡先】

⇒ 井上 (オフィスアワー: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 II (その1)

2 単位 3 年 (前期)

元木 美男・, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 イギリス史と関連させながら古期・中期英語を中心に現代までの英語の歴史を通観する。

【授業概要】 英語史研究

【キーワード】 ノルマン・コンケスト, ラテン語, 語源

【関連科目】 『英米言語研究 I (その1)』(0.5, ⇒80 頁), 『英米言語研究 I (その2)』(0.5, ⇒80 頁)

【到達目標】

1. 英語は古いところでは現代のドイツ語と同じような語尾変化をし、時代が下ると共に次第に語尾が消失し、今日のような語順を大切にしている言語となった。また語彙においては、全体として、比較的純粋なゲルマン語彙から、ノルマン・コンケストを契機にロマンス語彙を増大してゆき、今日に見るような語彙の豊富さを獲得していった。
2. 以上のような英語の歴史について理解を深める。

【授業計画】 前期は専ら英語史の概説に重点を置き、後期は具体的にラテン語、古期・中期英語の文法を教科書を使用しながら詳述する。

【成績評価】 レポート及び期末試験。

【再試験】 行なう。

【教科書】

- ◇ 教科書: Sweet's Anglo-Saxon Primer 千城
- ◇ 松平千秋・国原吉之助共著 新ラテン文法 東洋出版
- ◇ 参考書: Albert C. Baugh: A History of the English Language

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218376>

【連絡先】

⇒ 元木 (オフィスアワー: 金曜日 14:30~15:30)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 II (その2)

2 単位 3 年 (後期)

元木 美男・, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 イギリス史と関連させながら古期・中期英語を中心に現代までの英語の歴史を通観する。

【授業概要】 英語史研究

【キーワード】 ノルマン・コンケスト, ラテン語, 語源

【関連科目】 『英米言語研究 I (その1)』(0.5, ⇒80 頁), 『英米言語研究 I (その2)』(0.5, ⇒80 頁)

【到達目標】

1. 英語は古いところでは現代のドイツ語と同じような語尾変化をし、時代が下ると共に次第に語尾が消失し、今日のような語順を大切にしている言語となった。また語彙においては、全体として、比較的純粋なゲルマン語彙から、ノルマン・コンケストを契機にロマンス語彙を増大してゆき、今日に見るような語彙の豊富さを獲得していった。
2. 以上のような英語の歴史について理解を深める。

【授業計画】 前期は専ら英語史の概説に重点を置き、後期は具体的にラテン語、古期・中期英語の文法を教科書を使用しながら詳述する。

【成績評価】 レポート及び期末試験。

【再試験】 行なう。

【教科書】

- ◇ 教科書: Sweet's Anglo-Saxon Primer 千城
- ◇ 松平千秋・国原吉之助共著 新ラテン文法 東洋出版
- ◇ 参考書: Albert C. Baugh: A History of the English Language

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218377>

【連絡先】

⇒ 元木 (オフィスアワー: 金曜日 14:30~15:30)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 III (その1)

2 単位 2 年 (前期)

山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 認知言語学の概要を理解させる。言語には、人間の世界の捉え方が反映している事に気づかせる。

【授業概要】 認知言語学入門

【キーワード】 英語学, 認知言語学

【関連科目】 『英米言語研究 III (その2)』(1.0, ⇒81 頁)

【履修上の注意】 受動的に学ぶというより、自ら新しい真実を発見しようという態度を期待します。

【到達目標】 日頃、無意識に使っている「ことば」を「認知言語学」という新たな視点から見直し、無意識の内に働いている「認知システム」を知る手がかりとなる言語資料を、受講生自ら収集、分析できるようにすることを目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション: 認知言語学とは何か 2. 第1章 基本概念 3. 第1章 練習問題 4. 第2章 空間 in, on, at 等 5. 第2章 練習問題 6. 第3章 空間の意味からの拡張 第一回 7. 第3章 空間の意味からの拡張 第二回 8. 第3章 空間の意味からの拡張 第三回 9. 第3章 練習問題 10. 第4章 放射状カテゴリー 第一回 11. 第4章 放射状カテゴリー 第二回 12. 第4章 練習問題 13. 第5章 構文 第一回 14. 第5章 構文 第二回 練習問題 15. 総括授業 16. テスト

【成績評価】 授業参加の態度や授業中の発表、学期末のテストにより、評価する。

【再試験】 学期を通しての積極的な授業参加や課題の提出等の条件を満たしている場合にのみ、再評価も可能とする。再評価にあたっては、各自の問題点を話し合ったうえで課題を課す事になる。

【教科書】 デヴィッド・リー著 『事例で学ぶ認知言語学』(大修館書店)

【参考書】

- ◇ 大堀壽夫 『認知言語学』(東京大学出版会, 2002 年)
- ◇ 山梨正明 『認知文法論』(ひつじ書房, 1995 年)
- ◇ 山梨正明 『認知言語学原理』(くろしお出版, 2000 年)
- ◇ 松本暉 『認知意味論』(大修館書店, 2003 年)
- ◇ 山梨正明 『認知構文論』(大修館書店, 2009 年)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218378>

【連絡先】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 III (その2)

2 単位 2 年 (後期)

山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 言語には、人間の世界の捉え方が反映している事を理解させる。

【授業概要】 認知言語学入門

【キーワード】 英語学, 認知言語学

【先行科目】 『英米言語研究 III (その1)』(0.3, ⇒81 頁)

【関連科目】 『英米言語研究 III (その1)』(1.0, ⇒81 頁)

【履修上の注意】 受動的に学ぶというより、自ら新しい真実を発見しようという態度を期待します。

【到達目標】 日頃、無意識に使っている「ことば」を認知言語学という新たな視点から見直し、これまた無意識に働いている「認知システム」を知る手がかりとなる言語資料を、自ら収集、分析できるようにすることを目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション/認知言語学とは何か 2. 第8章 可算名詞と質量名詞 3. 第8章 練習問題 4. 第6章 メンタル・スペース 第一回 5. 第6章 メンタル・スペース 第二回 6. 第6章 練習問題 7. 第7章 言語変化 第一回 8. 第7章 言語変化 第二回 9. 第7章 言語変化 第三回 10. 第7章 練習問題 11. 第9章 動詞の完了用法と未完了用法 12. 第9章 練習問題 13. 受講生の発表 14. 受講生の発表 15. 発表からレポートへまとめるにあたって 16. レポート提出

【成績評価】 授業参加の態度や発言、学期末の発表とレポートにより、評価する。

【再試験】 学期を通しての積極的な授業参加や課題の提出等の条件を満たしている場合にのみ、再評価も可能とする。再評価にあたっては、各自の問題点を話し合ったうえで課題を課す事になる。

【教科書】 デヴィッド・リー著 『事例で学ぶ認知言語学』(大修館書店)

【参考書】

- ◇ 大堀壽夫 『認知言語学』(東京大学出版会, 2002 年)
- ◇ 山梨正明 『認知文法論』(ひつじ書房, 1995 年)
- ◇ 山梨正明 『認知言語学原理』(くろしお出版, 2000 年)
- ◇ 松本暉 『認知意味論』(大修館書店, 2003 年)
- ◇ ジル・フォコニエ 『メンタル・スペース』(白水社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218379>

【連絡先】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

異文化間コミュニケーション(その1)

2 単位

2 年 (前期, 集中)

Cross-cultural Communications

坂田 浩・助教授/国際センター

【授業目的】 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生していくことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1) 受講者自身が自らの文化に気づき、(2) 多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行くための具体的な方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。

【授業概要】 異文化トレーニング

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【授業計画】 1. 具体的な内容・計画は以下の通り。 2. (1) 「自文化を気づくトレーニング」 3. (2) 「Perception/Programming」のエクササイズ 4. (3) 「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 5. (4) 「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 6. (5) 「価値観の多様性に関するエクササイズ」 7. (6) 「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 8. (7) 「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 9. (8) 「Organizational/Individual Challenges」 10. (9) 「多文化で共生できる人とは? DMIS」 11. (10) 「多文化で共生する為のヒント:DIE」 12. (11) 「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」 13. (12) 「Action Planning: 大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」 14. など

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218359>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:各集中講義時間終了後)

異文化間コミュニケーション (その2)

2 単位

2 年 (後期, 集中)

坂田 浩・准教授/国際センター

【授業目的】 本授業では、前期の集中講義を基に授業を展開するが、概要としては、(1) 異文化間コミュニケーションに必要なとされる技術(スキル)と態度を養う、(2) 自己のあり方を振り返り、今後の自分について考える、(3) 外国語に対する認識と態度を再考する、という内容を中心に授業を展開していく予定である。

【授業概要】 目的を参照

【先行科目】 『異文化間コミュニケーション (その1)』(1.0, ⇒81 頁)

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【到達目標】

1. 文化的な「違い」に対する認識と態度について再考出来るようになる
2. 自己を振り返り、望ましい自分について具体的なイメージを形成できる
3. 具体的な理想のイメージに向かっていく為に必要なコミュニケーション能力を獲得する
4. 自分とは異なる人達と有効な人間関係を構築することが出来る

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. マインドマップを使って自分の価値観を探りましょう! 3. 価値観を達成する為のヒントとリソースを考えましょう! 4. コミュニケーションエクササイズ (1): 承認とフィードバック 5. コミュニケーションエクササイズ (2): 質問・質問 (1) 6. コミュニケーションエクササイズ (3): 質問・質問 (2) 7. コミュニケーションエクササイズ (4): 自己開示 (1) 8. コミュニケーションエクササイズ (5): 自己開示 (2) 9. コミュニケーションエクササイズ (6): 傾聴 (1) 10. コミュニケーションエクササイズ (7): 傾聴 (2) 11. コミュニケーションエクササイズ (8): リーダーシップとチームワーク (1) 12. コミュニケーションエクササイズ (9): リーダーシップとチームワーク (2) 13. 今年の誓いとミッション・ステートメント 14. 人間関係・異文化とコミュニケーション 15. 予備日

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポート・発表内容を基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219389>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜 12:00-12:50)

【備考】 定員: 30 名まで *30 名以上の場合には、総合科学部生 (欧米言語コース 2,3 年生, 国際文化コース 2,3 年生) を優先し、残りに関しては抽選を行います。

現代英語演習 I (その1)

2 単位 2 年 (前期)

森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 英語音声学の基礎 [前期] から始め、英語音韻論の初歩 [後期] までを扱うことによって、英語の音体系についての理解を深めるとともに、英語の実際の音声訓練を効果的にするための裏付けを提供することを目的としている。授業を通して、英語という個別言語の音組織は常に日本語のそれと対比・比較されて特徴が一層明らかにされるのと同時に、一般音声学・音韻理論の中に位置づけられることになる。

【授業概要】 英語音声の理解と演習

【キーワード】 音声学, 音韻論, 分節音, 母音, 子音

【先行科目】 『言語理論研究 I (その1)』(1.0, ⇒83 頁), 『言語理論研究 I (その2)』(1.0, ⇒83 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(1.0, ⇒81 頁)

【関連科目】 『言語理論研究 I (その1)』(0.5, ⇒83 頁), 『言語理論研究 II (その1)』(0.5, ⇒83 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(0.5, ⇒81 頁)

【履修上の注意】 実技的演習が部分的に含まれるが、英語の発音を劇的に改善することを意図してはいない。むしろ、言語の音についての理解深化をめざしている。もちろん、理解に基づく発音練習が効率的になることは期待している。

【到達目標】 英語の文節音と超文節音に関わる特性を理解し、基本的聞き取りと調音ができること。

【授業計画】 1. 前期 (分節音素中心) 2. 1. 導入 3. 2-3. 音声学とは 4. 4-5. 発声のメカニズム 5. 6-7. 音声表記 6. 8-9. 母音の調音 7. 10-11. 子音の調音 8. 12-13. 音縮小 9. 14-15. 同時調音 10. 16. まとめ

【成績評価】 レポート提出等を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 教科書 佐藤寧・佐藤努共著・『現代の英語音声学』・金星堂 1997
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著・『英語リスニング科学的上達法』・講談社 1998
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著・『英語スピーキング科学の上達法』・講談社 1999

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218577>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

現代英語演習 I (その2)

2 単位 2 年 (後期)

森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 英語音声学の基礎 [前期] から始め、英語音韻論の初歩 [後期] までを扱うことによって、英語の音体系についての理解を深めるとともに、英語の実際の音声訓練を効果的にするための裏付けを提供することを目的としている。授業を通して、英語という個別言語の音組織は常に日本語のそれと対比・比較されて特徴が一層明らかにされるのと同時に、一般音声学・音韻理論の中に位置づけられることになる。

【授業概要】 英語音声の理解と演習

【キーワード】 超分節要素, 強勢, 抑揚, スペクトログラム, フォルマント

【先行科目】 『言語理論研究 I (その1)』(1.0, ⇒83 頁), 『言語理論研究 I (その2)』(1.0, ⇒83 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(1.0, ⇒81 頁)

【関連科目】 『言語理論研究 I (その1)』(0.5, ⇒83 頁), 『言語理論研究 II (その2)』(0.5, ⇒83 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(0.5, ⇒81 頁)

【履修上の注意】 実技的演習が部分的に含まれるが、英語の発音を劇的に改善することを意図してはいない。むしろ、言語の音についての理解深化をめざしている。もちろん、理解に基づく発音練習が効率的になることは期待している。

【到達目標】 英語の文節音と超文節音に関わる特性を理解し、基本的聞き取りと調音ができること。

【授業計画】 1. 後期 (超分節音素中心) 2. 1. 導入 3. 2-3. 音節 4. 4-5. 語強勢 5. 6-7. イントネーション 6. 8-9. 音響音声学 7. 10-11. 聴覚音声学 8. 12-13. リズム 9. 14-15. 音韻理論等 10. 16. まとめ

【成績評価】 レポート提出等を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 教科書 佐藤寧・佐藤努共著・『現代の英語音声学』・金星堂 1997
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著・『英語リスニング科学の上達法』・講談社 1998
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著・『英語スピーキング科学の上達法』・講談社 1999

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218578>
 【連絡先】
 ⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

現代英語演習 II (その1)

2 単位 2 年 (前期)
 スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】 Class themes include: contemporary issues, media reports, personal experiences.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have practiced reading authentic English texts and using English to discuss a wide variety of topics in formal and informal situations. They will also have researched and delivered oral presentations and led classmates in a seminar setting.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】

- ◇ Class materials come primarily from students. There are some handouts from the
- ◇ instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218579>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

現代英語演習 II (その2)

2 単位 2 年 (後期)
 スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】 Class themes include: contemporary issues, media reports, personal experiences.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have practiced reading authentic English texts and using English to discuss a wide variety of topics in formal and informal situations. They will also have researched and delivered oral presentations and led classmates in a seminar setting.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】

- ◇ Class materials come primarily from students. There are some handouts from the
- ◇ instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218580>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

言語理論研究 I (その1)

2 単位 2 年 (前期)
 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語学理論一般 (音声学・音韻論・形態論・比較言語学など) を多面的な角度から学び、言語分析を実際に行ってみる。

【授業概要】 言語理論と言語分析

【キーワード】 一般言語学, 音声学, 音韻論

【到達目標】 言語を客観的に観察し、自分で基礎的な分析ができるようになる。特に音声学・音韻論を中心に据える。

【授業計画】 1. 音声学 2. 音韻論 3. 形態論 4. 比較言語学

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「言語学演習」田中春美 (大修館書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218573>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語理論研究 I (その2)

2 単位 2 年 (後期)
 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語学理論一般 (音声学・音韻論・形態論・比較言語学など) を多面的な角度から学び、言語分析を実際に行ってみる。

【授業概要】 言語理論と言語分析

【キーワード】 一般言語学, 音声学, 音韻論

【到達目標】 言語を客観的に観察し、自分で基礎的な分析ができるようになる。特に音声学・音韻論を中心に据える。

【授業計画】 1. 一般言語学 2. 音声学

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「言語学演習」田中春美 (大修館書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218574>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語理論研究 II (その1)

2 単位 3 年 (前期)
 森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 生成変形文法の初期理論から標準理論における基本概念と関連事項の一部を振り返り [前期]、さらに比較的最近までの理論展開・変遷を部分的に辿る [後期] ことにより、形式的・演算的側面からその普遍的特質に迫ろうとする言語理論が提示する自然言語の姿について考えることを目的としている。分析対象が日本語であれ英語であれ、あるいはその他任意の個別言語であれ、人間が操る言語の本質的仕組みを探索する試みの一端に触れることになる。

【授業概要】 英語を主材料としての統語構造理解

【キーワード】 生成文法, 句構造, 初期理論, 変形, 生得性

【先行科目】 『言語理論研究 I (その1)』(1.0, ⇒83 頁), 『言語理論研究 I (その2)』(1.0, ⇒83 頁), 『現代英語演習 I (その1)』(1.0, ⇒82 頁)

【関連科目】 『英米言語研究 I (その1)』(0.5, ⇒80 頁), 『英米言語研究 I (その2)』(0.5, ⇒80 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(0.5, ⇒81 頁)

【履修上の注意】 術語とその定義が多くて煩雑な印象を受けるけれども、そのような道具立てで分析される言語現象の意義をよく理解するように努めてほしい。

【到達目標】 英語の統語分析の基本を理解すること。

【授業計画】 1. 前期 (「初期理論」中心) 2. 1. 導入 2-4. 言語理論の目標 { 言語知識, 言語習得, 言語運用 } 5-7. 言語理論と文法 { 記述性, 妥当性, 説明力 }, 8-11. 形式文法 { 表示, 集合, 論理演算子, チョムスキーの階層 } 12-15. 統語構造と意味 { 句構造, 変形, 厳密下位範疇化, 素性, 共起制限 }, 16. まとめ

【成績評価】 レポート提出を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】 アンドリュウ・ラドフォード (著) 外池滋, 他 (訳) 『ミニマリスト統語論』(2006) 研究社 定価 3,800 円 (税別)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218575>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

言語理論研究 II (その2)

2 単位 3 年 (後期)
 森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】生成変形文法の初期理論から標準理論における基本概念と関連事項の一部を振り返り [前期]、さらに比較的最近までの理論展開・変遷を部分的に辿る [後期] ことにより、形式的・演算的側面からその普遍的特質に迫ろうとする言語理論が提示する自然言語の姿について考えることを目的としている。分析対象が日本語であれ英語であれ、あるいはその他任意の個別言語であれ、人間が操る言語の本質的仕組みを探索する試みの一端に触れることになる。

【授業概要】英語を主材料としての統語構造理解

【キーワード】主要部, 文法範疇, 素性, 構成素統御, 統率

【先行科目】『言語理論研究 I (その 1)』(1.0, ⇒83 頁), 『言語理論研究 I (その 2)』(1.0, ⇒83 頁), 『言語理論研究 II (その 1)』(1.0, ⇒83 頁)

【関連科目】『英米言語研究 I (その 1)』(0.5, ⇒80 頁), 『英米言語研究 I (その 2)』(0.5, ⇒80 頁), 『英米言語研究 II (その 1)』(0.5, ⇒81 頁)

【履修上の注意】術語とその定義が多くて煩雑な印象を受けるけれども、そのような道具立てで分析される言語現象の意義をよく理解するように努めてほしい。

【到達目標】英語の統語分析の基本を理解すること。

【授業計画】1. 後期 (現在に近い理論中心) 2. 1. 導入 2-3. 文法 4-5. 語 6-7. 構造 8-10. 空構成素 11-13. { 主要部移動 } 3. 14-15. {Wh 移動, 他} 16. まとめ

【成績評価】レポート提出を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】行う

【教科書】アンドリュー・ラドフォード (著) 外池滋, 他 (訳) 『ミニマリスト統語論』(2006) 研究社 定価 3,800 円 (税別)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218576>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

言語情報処理研究 (その 1) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期) 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. Perl 言語概要 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】『独習 Perl 第 2 版』(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218564>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

言語情報処理研究 (その 2) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期) 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】『独習 Perl 第 2 版』(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218565>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その 3) 2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期) 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. Perl 言語概説 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】『独習 Perl 第 2 版』(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218566>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その 4) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期) 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】『独習 Perl 第 2 版』(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218567>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報プログラミング演習 (その 1) 2 単位 2 年 (前期) 石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】コンピュータの働きとプログラミングについて学ぶ

【授業概要】プログラミング入門。

【キーワード】テキスト処理, プログラミング

【先行科目】『文化情報研究 (その 1)』(1.0, ⇒78 頁), 『文化情報研究 (その 2)』(1.0, ⇒78 頁)

【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なお、受講者が少数の場合、Mac OS X を使う可能性があります。

【到達目標】 プログラミング言語に関する知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション、コンピュータでできること 2. プログラミングとは何をするのか 3. プログラミング言語のいろいろ 4. 最初のトライアル 5. プログラミングすることとはデザインなり 6. それには基礎的な知識の習得は不可欠、基礎練習その1 7. 基礎練習その2 8. 基礎練習その3 9. 基礎練習その4 10. コンピュータで人間の言語を扱う 11. 基礎練習その5 12. 基礎練習その6 13. 応用編その1、しごとの流れを考える 14. 応用編その2、まねをするのも悪くない 15. 応用編その3、やや高度なプログラムに挑戦 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 未定

【教科書】 配布資料による。

【参考書】 プログラミングに関連するものを適宜指示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218569>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その2) 2単位 2年(後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 プログラミング言語とその応用を学ぶ

【授業概要】 初級プログラミング入門。

【キーワード】 コーパス言語学

【関連科目】 『文化情報研究 (その1)』(0.5, ⇒78頁), 『文化情報研究 (その2)』(0.5, ⇒78頁)

【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なおホームページ上で予習復習用のページを開設予定です。 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/index.html>

【到達目標】 プログラミング言語に関する基礎的知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. まずは簡単なプログラムを書いてみる 3. プログラミング言語にも文法がある 4. プログラミング言語の語彙 5. プログラミング言語の「辞書」 6. 関数について 7. 関数を応用する 8. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 9. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 2 10. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 3 11. 応用プログラミングに挑戦する 1 12. 応用プログラミングに挑戦する 2 13. 応用プログラミングに挑戦する 3 14. 応用プログラミングに挑戦する 4 15. 応用プログラミングに挑戦する 5 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 しない

【教科書】 未定ですが、プログラム言語の教科書(日本語)を指定する予定。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218570>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜、水曜、木曜日16時から17時のあいだ)

言語情報プログラミング演習 (その3) 2単位 3年(前期)

石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 高度なプログラミング技法について学ぶ。

【授業概要】 応用プログラミング入門。

【キーワード】 テキスト処理、プログラミング

【先行科目】 『言語情報プログラミング演習 (その1)』(1.0, ⇒84頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒78頁)

【履修上の注意】 た欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なお、受講者が少数の場合、Mac OS X を使う可能性があります。

【到達目標】 プログラミング言語に関する知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション、コンピュータでできること 2. プログラミングとは何をするのか 3. プログラミング言語のいろいろ 4. 最初のトライアル 5. プログラミングすることとはデザインなり 6. それには基礎的な知識の習得は不可欠、基礎練習その1 7. 基礎練習その2 8. 基礎練習その3 9. 基礎練習その4 10. コンピュータで人間の言語を扱うために知るべきこと 11. 基礎練習その5 12. 基礎練習その6 13. 応用編その1、しごとの流れを考える 14. 応用編その2、まねをするのも悪くない 15. 応用編その3、高度なプログラムに挑戦 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 未定

【教科書】 資料を配布する。

【参考書】 プログラミングに関連するものを適宜指示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218571>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その4) 2単位 3年(後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 プログラミング言語とその応用を学ぶ

【授業概要】 初級プログラミング入門。

【キーワード】 コーパス言語学

【先行科目】 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(1.0, ⇒85頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒78頁)

【関連科目】 『文化情報研究 (その1)』(0.5, ⇒78頁), 『文化情報研究 (その2)』(0.5, ⇒78頁)

【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なおホームページ上で予習復習用のページを開設予定です。 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/index.html>

【到達目標】 プログラミング言語に関する基礎的知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. まずは簡単なプログラムを書いてみる 3. プログラミング言語にも文法がある 4. プログラミング言語の語彙 5. プログラミング言語の「辞書」 6. 関数について 7. 関数を応用する 8. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 9. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 2 10. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 3 11. 応用プログラミングに挑戦する 1 12. 応用プログラミングに挑戦する 2 13. 応用プログラミングに挑戦する 3 14. 応用プログラミングに挑戦する 4 15. 応用プログラミングに挑戦する 5 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 しない

【教科書】 未定ですが、プログラム言語の教科書(日本語)を指定する予定。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218572>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜、水曜、木曜日16時から17時のあいだ)

英米文化研究 I (その1) 2単位 2年(前期)

宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 英文学の歴史的発展の過程を論述し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。

【授業概要】 英文学史

【キーワード】 文学史、時代背景、文学事情

【関連科目】 『英米文化研究 II (その1)』(0.5, ⇒86頁), 『英米文化研究 III (その1)』(0.5, ⇒86頁), 『英米の社会と文化 II (その1)』(0.5, ⇒89頁)

【履修上の注意】 英文学の通史であるので通年受講が望ましい。年間の授業計画は、以下に示してあるが、前期は、おおむね小説誕生と勃興あたりまでを、試験を含め16回の授業で扱う。

【到達目標】 英文学史上の詩人・劇作家・小説家等及びその代表的作品について、並びに文芸思潮についての知識習得と理解を目標とする。英文学の流れを概ね以下に沿って追い、それぞれの時代の背景や思潮を概観しながら、代表的な詩人、劇作家、小説家等の作品を味わいたい。

【授業計画】 1. ※履修上の注意を参照。 2. アングロ・サクソン時代 3. 中世時代 4. 文芸復興期(ルネッサンス) 5. 清教主義(ピューリタニズム)の時代 6. 古典主義の時代 7. 古典主義の衰退と小説の勃興 8. ロマン主義の復興 9. ヴィクトリア朝 10. 20世紀の文学

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業への出席状況、授業時の取り組み姿勢などに基づく平常点での評価と、期末試験またはレポート等の結果による評価をあわせて、成績の評価をしたい。

【再試験】 行う。

【教科書】 授業時に適宜指示する。また必要に応じて、教材、参考資料等を用意する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218391>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1号館 3階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

英米文化研究 I (その2) 2単位 2年(後期)

宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 英文学の歴史的発展の過程を論述し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。

【授業概要】 英文学史

【キーワード】 文学史、時代背景、文学事情

【関連科目】 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒89 頁)

【履修上の注意】 英文学の通史であるので通年受講が望ましい。年間の授業計画は、以下に示してあるが、後期は、おおむねロマン主義の復興から現代までを、試験を含め 16 回の授業で扱う。

【到達目標】 英文学史上の詩人・劇作家・小説家等及びその代表的作品について、並びに文芸思潮についての知識習得と理解を目標とする。英文学の流れを概ね以下に沿って追い、それぞれの時代の背景や思潮を概観しながら、代表的な詩人、劇作家、小説家等の作品を味わいたい。

【授業計画】 1. ※履修上の注意を参照。 2. アングロ・サクソン時代 3. 中世時代 4. 文芸復興期(ルネッサンス) 5. 清教主義(ピューリタニズム)の時代 6. 古典主義の時代 7. 古典主義の衰退と小説の勃興 8. ロマン主義の復興 9. ヴィクトリア朝 10. 20 世紀の文学

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業への出席状況、授業時の取り組み姿勢などに基づく平常点での評価と、期末試験またはレポート等の結果による評価をあわせて、成績の評価としたい。

【再試験】 行なう。

【教科書】 授業時に適宜指示する。また必要に応じて、教材、参考資料等を用意する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218392>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

英米文化研究 II (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
山内 曉彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】 本授業では、イギリスの作家、ジェームズ・マシュー・バリー (James Matthew Barrie) の『ピーター・パン』(Peter Pan) を取り上げる。作品を精読することにより、子供の夢に満ちたファンタスティックな作品の特質について考察する。また、作者バリーの人物像や彼の人間観を研究するとともに、作者と作品の歴史的、社会的、宗教的、文化的背景を学ぶ。

【授業概要】 バリーは戯曲『ピーター・パン』を自ら物語化し『ピーター・パンとウェンディ』を書いた。本授業ではこの小説を扱う。永遠の子供ピーターと彼を取り巻く魅力的な人物たちの醸し出す不思議な冒険の世界を味読したい。必要に応じて映像化された『ピーター・パン』や作者の伝記に基づく映像作品を視聴する。

【キーワード】 ファンタジー、小説

【関連科目】 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒85 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒85 頁)

【履修上の注意】 受講生には随時発言を求めます。積極的に授業に参加する態度を望みます。

【到達目標】 『ピーター・パン』のようなファンタジーの作品を読む際に、夢と冒険に満ちた内容と多彩な小説技法を理解し、歴史的、社会的、文化的な背景に思いを致しながら、作品の面白さを味わい、その意義を理解することが自分なりにできるようにすることを目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. 第 1 章 ~ 第 2 章 3. 第 3 章 4. 第 4 章 ~ 第 5 章 5. ジェームズ・マシュー・バリーの人生と作品 6. 第 6 章 ~ 第 7 章 7. 第 8 章 8. 第 9 章 ~ 第 10 章 9. 第 11 章 ~ 第 12 章 10. イギリスのファンタジーの諸相について 11. 第 13 章 ~ 第 14 章 12. 第 15 章 13. 第 16 章 14. 第 17 章 15. 前期のまとめ 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況、授業参加の態度、課題の提出状況、レポート試験の得点などを総合的に勘案し評価する。

【再試験】 行なう。

【教科書】 J.M.Barrie, Peter Pan (Puffin Classics, 2008)

【参考書】 参考書: J.M. バリー作, 秋田博訳『ピーター・パン』(角川文庫, 2004 年)。この他の参考書については授業中に指示する。必要に応じてプリントを用意する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218393>

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】 前期 水 3-4 (平成 20 年度以前入学生のみ受講可能です)

英米文化研究 II (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
山内 曉彦・准教授/人間文化学科

【授業目的】 本授業では、イギリスの作家、ジェームズ・マシュー・バリー (James Matthew Barrie) の『ケンジントン公園のピーター・パン』(Peter Pan in Kensington Gardens) を取り上げる。作品を精読することにより、子供の夢に満ちたファンタスティックな作品の特質について考察する。また、作者バリーの人物像や彼の人間観を研究するとともに、作者と作品の歴史的、社会的、宗教的、文化的背景を学ぶ。

【授業概要】 ファンタジーの文学としての『ケンジントン公園のピーター・パン』を研究する。この作品は、フック船長やウェンディが出て来る『ピーター・パン』ではない。『小さな白い鳥』という初期の作品の一部を独立させたものであり、この作品でのピーターは幼児であるのだ。授業では原書を講読し、ファンタジーの持つ面白さを味わいながら、作品の持つ価値について考察する。必要に応じて映像化された『ピーター・パン』や、作者の伝記に基づく映像作品を視聴する。

【キーワード】 ファンタジー、小説

【関連科目】 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒85 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒85 頁)

【履修上の注意】 受講生には随時発言を求めます。積極的に授業に参加する態度を望みます。

【到達目標】 『ケンジントン公園のピーター・パン』などのファンタジー文学を読む際に、ファンタスティックな作品の特質、歴史的、社会的、文化的な背景を理解し、作品の面白さを味わい、その意義を多面的に理解することが自分なりにできるようにすることを目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. 第 1 章 The Grand Tour of the Gardens (その 1) 3. 第 1 章 The Grand Tour of the Gardens (その 2) 4. 第 2 章 Peter Pan (その 1) 5. 第 2 章 Peter Pan (その 2) 6. ジェームズ・マシュー・バリーの人生と作品 7. 第 3 章 The Thrush's Nest(その 1) 8. 第 3 章 The Thrush's Nest (その 2) 9. 第 4 章 Lock-out Time (その 1) 10. 第 4 章 Lock-out Time (その 2) 11. 第 5 章 The Little House (その 1) 12. 第 5 章 The Little House (その 2) 13. イギリスのファンタジーの諸相について 14. 第 6 章 Peter's Goat (その 1) 15. 第 6 章 Peter's Goat (その 2) とまとめ 16. 総括授業

【成績評価】 与えられた課題への取り組み、授業参加の態度、期末レポートなどにより総合的に評価し単位を認定する。

【再試験】 行なう。

【教科書】 J.M.Barrie, Peter Pan: Peter and Wendy and Peer Pan in Kensington Gardens (Penguin Books, 2004 年)

【参考書】 参考書としてバリー作、本田顕彰訳『ピーター・パン』(新潮文庫, 1988 年)を使用する。必要に応じてプリントを用意する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218394>

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】 新カリ「英米文化研究 II」と同内容

英米文化研究 III (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
樋口 友乃・准教授/人間文化学科

【授業目的】 作品の精読と、作者と作品の歴史的、社会的、文化的背景の考察を通して、現代アメリカ文学への理解を深めることを目的とする。

【授業概要】 20 世紀アメリカ作家の短篇作品を精読しながら、作者と作品の歴史的、社会的、文化的背景を学ぶ。

【キーワード】 文学、アメリカ、現代

【履修上の注意】 演習形式で行うので必ず予習をしてください。

【到達目標】

1. 作品の精読とその歴史的、社会的、文化的背景の考察を通して、現代アメリカ文学への理解を深める。
2. 文学作品を原書で読む力を身に付ける。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. Miriam (1) 3. Miriam (2) 4. Miriam (3) 5. Miriam (4) 6. Revenge of the Lawn 7. 1692 Cotton Mather Newsreel 8. Coffee 9. Cathedral (1) 10. Cathedral (2) 11. Cathedral (3) 12. The Thanksgiving Visitor (1) 13. The Thanksgiving Visitor (2) 14. The Thanksgiving Visitor (3) 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】 期末試験、レポート、授業中の発表、授業参加の態度、出席などを総合的に判断して評価する。

【再試験】 行わない

【教科書】 Truman Capote, The Complete Stories. (Penguin) 他、授業時に配布予定。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218395>

【連絡先】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米文化研究 III (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
樋口 友乃・准教授/人間文化学科

【授業目的】 作品の精読と、作者と作品の歴史的、社会的、文化的背景の考察を通して、現代アメリカ文学への理解を深めることを主な目的とする。

【授業概要】 Vladimir Nabokov の短篇作品を精読しながら、作者と作品の歴史的、社会的、文化的背景を学ぶ。

【キーワード】 文学、アメリカ、現代、ナボコフ

【履修上の注意】 演習形式で行うので必ず予習をしてくること。

【到達目標】

1. 作品の精読とその歴史的、社会的、文化的背景の考察を通して、現代アメリカ文学への理解を深める。
2. 文学作品を原書で読む力を身に付ける。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. Terra Incognita (1) 3. Terra Incognita (2) 4. Terra Incognita (3) 5. A Letter That Never Reached Russia (1) 6. A Letter That Never Reached Russia (2) 7. Christmas (1) 8. Christmas (2) 9. Christmas (3) 10. Cloud, Castle, Lake (1) 11. Cloud, Castle, Lake (2) 12. Cloud, Castle, Lake (3) 13. A Russian Beauty (1) 14. A Russian Beauty (2) 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】 期末試験、レポート、授業中の発表、授業参加の態度、出席などを総合的に判断して評価する。

【再試験】 行わない

【教科書】 Vladimir Nabokov, The Stories of Vladimir Nabokov. (Vintage)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218396>

【連絡先】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米文化研究 IV (その1)

2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)

前田 一平・非常勤講師/鳴門教育大学, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 白人対黒人という対立が強調されるアメリカの人種構成の中に、総称してアジア系アメリカ人と呼ばれる人たちがいる。その中でも、我々と関係の深い日系アメリカ人については、意外と日本本国では知られていないのが現状である。本授業では、まず日系アメリカ人の歴史を概観し、人種上の差別の問題、日本人とアメリカ人の中で揺れるアイデンティティの問題、世代によって内部に生じるギャップの問題などについて、歴史と文学を通じて検証する。また、速読ではなくスロー・リーディングを実践します。

【授業概要】 日系アメリカ人の歴史と文学を研究する。まず、あまり知られていない日系アメリカ人の歴史を概観し、その後、日系二世作家 Wakako Yamauchi の小説を読む。日系アメリカ人を描いたビデオ/DVD 教材や映画を使用し、視覚的メディアで描かれた日系アメリカ人についても学ぶ。

【キーワード】 文学、アメリカ、スロー・リーディング、日系アメリカ人、差別と人種問題、アイデンティティ形成

【関連科目】 『英米文化研究 IV (その2)』(0.5, ⇒87 頁), 『英米文化研究 IV (その4)』(0.5, ⇒88 頁)

【履修上の注意】 みずから原書を地道に読む習慣づけを心がけてください。英語を読む力はそこから始まります。原書で小説を読む喜びと苦しみ、そして読破したときの達成感を味わって欲しい。よって、英文読解と異文化理解に積極的に取り組む姿勢をもって授業に臨んでいただきたい。

【到達目標】 まずは、英語の原書を読む力と自信をつけることを目標とする。それに加えて、日系アメリカ人について認識を深め、彼ら/彼女らの文学を理解し、研究することを最終目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション (1) 2. イントロダクション (2) 3. (3) 4. "And the Soul Shall Dance" 5. "And the Soul Shall Dance" 6. "And the Soul Shall Dance" 7. "And the Soul Shall Dance" DVD 8. "In Heaven and Earth" 9. "In Heaven and Earth" 10. "In Heaven and Earth" 11. "Songs My Mother Taught Me" 講読 12. "Songs My Mother Taught Me" 講読 13. "Songs My Mother Taught Me" 講読 14. "Songs My Mother Taught Me" 講読 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 ディスカッションへの参加および講読担当時の理解を中心とした授業への貢献度 (20%) と学期末試験 (80%) の評価による。

【再試験】 実施しません。

【教科書】 Wakako Yamauchi, Songs My Mother Taught Me (The Feminist Press) (担当教員が手配します。)

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218397>

【連絡先】

⇒ 前田 (kmaeda@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、相談には応じるし、Eメールでの相談・指導は時間を問わず可能である。)

⇒ 研究室: 鳴門教育大学人文棟A309, 電話: 088-687-6347, Eメール: kmaeda@naruto-u.ac.jp

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

英米文化研究 IV (その2)

2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)

前田 一平・非常勤講師/鳴門教育大学, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 アメリカ文学入門。まずは、英語で書かれた文学作品を原書で読む喜びを感受し、同時に物語を解釈しながら辞書を頼りに地道に読み進める辛さも経験してもらい授業とする。基本的な批評方法を紹介することによって、文学解釈も導入する。英語をじっくり読むことによって、英語読解力をつけることは本授業の目的の主要な要素なので、速読ではなくあえて「スロー・リーディング」を実践します。

【授業概要】 Ernest Hemingway 著 In Our Time を読む。この本は短編集なので、基本的には 1 篇の作品を 2 回の授業で読みきる予定で進める。物語の内容と文脈を理解した和訳を実施し、受講生と議論を交わしながらの「スロー・リーディング」を実施する。批評上のキーワードはイニエーション、ジェンダー、セクシュアリティである。

【キーワード】 アメリカ、文学、ジェンダー、セクシュアリティ、スロー・リーディング、アーネスト・ヘミングウェイ

【先行科目】 『英米文化研究 IV (その1)』(1.0)

【関連科目】 『英米文化研究 IV (その1)』(1.0, ⇒87 頁)

【履修上の注意】 みずから原書を地道に読む習慣づけを心がけてください。英語を読む力はそこから始まります。原書を読む喜びと苦しみ、そして読破したときの達成感を味わって欲しい。よって、「私自身の」物語理解にひそかに、しかも、じっくりと向き合う姿勢をもって授業に臨んでいただきたい。

【到達目標】 まずは、英語の原書を読む力と自信をつけること。それに加えて、思考力と想像力と感性を駆使して物語を理解する姿勢を身につけることを目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. "Indian Camp" 前半 3. "Indian Camp" 後半 4. "The Doctor and the Doctor's Wife" 前半 5. "The Doctor and the Doctor's Wife" 後半 6. "The End of Something" 前半 7. "The End of Something" 後半 8. "A Very Short Story" 9. "Soldier's Home" 前半 10. "Soldier's Home" 後半 11. "Mr. and Mrs. Elliot" 前半 12. "Mr. and Mrs. Elliot" 後半 13. "Cat in the Rain" 前半 14. "Cat in the Rain" 後半 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 ディスカッションへの参加および講読担当時の理解を中心とした授業への貢献度 (20%) と学期末試験あるいはペーパー (80%) の評価による。

【再試験】 実施しません。

【教科書】 Ernest Hemingway, In Our Time (Scribners)(教員が教室で販売する)

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218398>

【連絡先】

⇒ 研究室: 鳴門教育大学人文棟A309, 電話: 088-687-6347, Eメール: kmaeda@naruto-u.ac.jp (オフィスアワー: 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、相談には応じるし、Eメールでの相談・指導は時間を問わず可能である。)

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

英米文化研究 IV (その3)

2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)

前田 一平・非常勤講師/鳴門教育大学, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 白人対黒人という対立が強調されるアメリカの人種構成の中に、総称してアジア系アメリカ人と呼ばれる人たちがいる。その中でも、我々と関係の深い日系アメリカ人については、意外と日本本国では知られていないのが現状である。本授業では、まず日系アメリカ人の歴史を概観し、人種上の差別の問題、日本人とアメリカ人の中で揺れるアイデンティティの問題、世代によって内部に生じるギャップの問題などについて、歴史と文学を通じて検証する。また、速読ではなくスロー・リーディングを実践します。

【授業概要】 日系アメリカ人の歴史と文学を研究する。まず、あまり知られていない日系アメリカ人の歴史を概観し、その後、日系二世作家 Wakako Yamauchi の小説を読む。日系アメリカ人を描いたビデオ/DVD 教材や映画を使用し、視覚的メディアで描かれた日系アメリカ人についても学ぶ。

【キーワード】 アメリカ、文学、日系アメリカ人、差別と人種問題、アイデンティティ形成、スロー・リーディング

【関連科目】 『英米文化研究 IV (その4)』(0.5, ⇒88 頁)

【履修上の注意】 みずから原書を地道に読む習慣づけを心がけてください。英語を読む力はそこから始まります。原書で小説を読む喜びと苦しみ、そして読破したときの達成感を味わって欲しい。よって、英文読解と異文化理解に積極的に取り組む姿勢をもって授業に臨んでいただきたい。

【到達目標】 まずは、英語の原書を読む力と自信をつけることを目標とする。それに加えて、日系アメリカ人について認識を深め、彼ら/彼女らの文学を理解し、研究することを最終目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション (1) 2. イントロダクション (2) 3. "And the Soul Shall Dance" 4. "And the Soul Shall Dance" 5. "And the Soul Shall Dance" 6. "And the Soul Shall Dance" 7. "And the Soul Shall Dance" DVD 8. "In Heaven and Earth" 9. "In Heaven and Earth" 10. "In Heaven and Earth" 11. "Songs My Mother Taught Me" 12. "Songs My Mother Taught Me" 13. "Songs My Mother Taught Me" 14. "Songs My Mother Taught Me" 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 ディスカッションへの参加および講読担当時の理解を中心とした授業への貢献度 (20%) と学期末試験 (80%) の評価による。

【再試験】 実施しません。

【教科書】 Wakako Yamauchi, Songs My Mother Taught Me (The Feminist Press) (日) Wakako Yamauchi, Songs My Mother Taught Me (The Feminist Press) (担当教員が手配します。)

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218399>

【連絡先】

⇒ 研究室: 鳴門教育大学人文学棟A309, 電話: 088-687-6347, E-メール: km.aeda@naruto-u.ac.jp (オフィスアワー: 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、相談には応じるし、E-メールでの相談・指導は時間を問わず可能である。)

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

英米文化研究 IV (その 4) 2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期)

前田 一平・非常勤講師/鳴門教育大学, 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 アメリカ文学入門。まずは、英語で書かれた文学作品を原書で読む喜びを感じ、同時に物語を解釈しながら辞書を頼りに地道に読み進める辛さも経験してもらい授業とする。基本的な批評方法を紹介することによって、文学解釈も導入する。英語をじっくり読むことによって、英語読解力をつけることは本授業の目的の主要な要素なので、速読ではなくあえて「スロー・リーディング」を実践します。

【授業概要】 Ernest Hemingway 著 In Our Time を読む。この本は短編集なので、基本的には 1 篇の作品を 2 回の授業で読みきる予定で進める。物語の内容と文脈を理解した和訳を実施し、受講生と議論を交わしながらの「スロー・リーディング」を実施する。批評上のキーワードはイニシエーション、ジェンダー、セクシュアリティである。

【キーワード】 アメリカ、文学、ジェンダー、セクシュアリティ、スロー・リーディング、アーネスト・ヘミングウェイ

【先行科目】 『英米文化研究 IV (その 1)』(1.0)

【関連科目】 『英米文化研究 IV (その 3)』(0.5, ⇒87 頁)

【履修上の注意】 みずから原書を地道に読む習慣づけを心がけてください。英語を読む力はそこから始まります。原書を読む喜びと苦しみ、そして読破したときの達成感を味わって欲しい。よって、「私自身の」物語理解にひそかに、しかも、じっくりと向き合う姿勢をもって授業に臨んでいただきたい。

【到達目標】 まずは、英語の原書を読む力と自信をつけること。それに加えて、思考力と想像力と感性を駆使して物語を理解する姿勢を身につけることを目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. "Indian Camp" 前半 3. "Indian Camp" 後半 4. "The Doctor and the Doctor's Wife" 前半 5. "The Doctor and the Doctor's Wife" 後半 6. "The End of Something" 前半 7. "The End of Something" 後半 8. "A Very Short Story" 9. "Soldier's Home" 前半 10. "Soldier's Home" 後半 11. "Mr. and Mrs. Elliot" 前半 12. "Mr. and Mrs. Elliot" 後半 13. "Cat in the Rain" 前半 14. "Cat in the Rain" 後半 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 ディスカッションへの参加および講読担当時の理解を中心とした授業への貢献度 (20%) と学期末試験あるいはペーパー (80%) の評価による。

【再試験】 実施しません。

【教科書】 Ernest Hemingway, In Our Time (Scribners)(教員が教室で販売する)

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218400>

【連絡先】

⇒ 研究室: 鳴門教育大学人文学棟A309, 電話: 088-687-6347, E-メール: km.aeda@naruto-u.ac.jp (オフィスアワー: 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、相談には応じるし、E-メールでの相談・指導は時間を問わず可能である。)

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

英米文化研究 VI (その 1)

2 単位 4 年 (前期)
スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】 Class themes include: education, morality, human rights, gender equity, politics, contemporary issues, personal experiences, social relationships.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have had practice reading authentic English texts, using English in general conversation, and discussing a wide variety of topics. They will also have organized class activities and have practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218403>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英米文化研究 VI (その 2)

2 単位 4 年 (後期)
スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】 Class themes include: education, morality, human rights, gender equity, politics, contemporary issues, personal experiences, social relationships.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have had practice reading authentic English texts, using English in general conversation, and discussing a wide variety of topics. They will also have organized class activities and have practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218404>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英米の社会と文化 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。前期 (その 1) では、比較的平易な作品を取り上げる。

【キーワード】 *poetry in English, reading poems, introduction to English poetry*

【関連科目】 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒85 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒85 頁), 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒89 頁), 『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5, ⇒89 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米文化研究 III (その 2)』(0.5, ⇒86 頁), 『文化批評論 (その 1)』(0.5, ⇒118 頁), 『文化批評論 (その 2)』(0.5, ⇒118 頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年度は開講する。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮して、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び、毎回 3~5 編ずつ講読する予定です。学期中に 2 回のテストを行います。詳しい日程は最初の授業で指示します。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928) 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指定します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218385>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講 (前期)。2011 年度は開講。

英米の社会と文化 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテクストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。後期 (その 2) では、前期 (その 1) で取り上げたものより、難解な作品が中心となる。

【キーワード】 *introduction to English poetry, reading poems, poetry in English*

【先行科目】 『英米の社会と文化 I (その 1)』(1.0, ⇒88 頁)

【関連科目】 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒89 頁), 『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5, ⇒89 頁), 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒85 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒85 頁), 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米文化研究 III (その 2)』(0.5, ⇒86 頁), 『文化批評論 (その 1)』(0.5, ⇒118 頁), 『文化批評論 (その 2)』(0.5, ⇒118 頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年は開講。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮し、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品を読む予定です。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928), 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指示します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218386>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講 (後期)。2011 年度開講。

英米の社会と文化 II (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 主として 19 世紀のイギリス小説を取り上げて精読する。小説という、言語による虚構の芸術構造物、物語の世界、すなわち嘘の世界を、いかに豊かに味わうことができるものか、また知的にも分析することができて、人間の本質に関わる想像力がいかに広い分野に影響力を及ぼし得るものかを、具体的に作品に触れることによって理解してゆきたい。作品自体が持つ様々な問題に対して多角的なアプローチを試みるばかりでなく、その作品の時代背景にも目を向け、当時の風俗や生活習慣、時代思潮など、広い視野からの理解を目指したい。

【授業概要】 19 世紀のイギリス小説を読む。より広い視野のもとに、イギリス文学を生み出したイギリスという国の理解も含めて様々な多角的アプローチを試みるが、特に、19 世紀の小説家トマス・ハーディやその他の作家の短編を読みながら、当時の結婚をめぐる制度や、因襲的な考え方、宗教、時代思潮、風俗、女性の置かれていた立場などを考えてみたい。作品の理解を通して、虚構の世界から、現実の世界を逆照射しつつ、普遍的な問題である男女の恋愛と結婚の問題を時代のコンテクストの中に置いて理解してみたい。

【キーワード】 イギリス, 19 世紀, 小説, 時代背景

【先行科目】 『英米文化研究 I (その 1)』(1.0, ⇒85 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(1.0, ⇒85 頁)

【関連科目】 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米文化研究 IV (その 1)』(0.5, ⇒87 頁)

【履修上の注意】 半年受講も可であるが、通年受講が望ましい。

【到達目標】 精読による作品解釈の方法を身に付け、同時に作品の時代背景の事情を理解する。

【授業計画】 1. 第 1 回 イントロダクション 2. 第 2 回 ~ 第 15 回 作品の講読と鑑賞並びに分析の仕方 3. 第 16 回 まとめ

【成績評価】 本授業はゼミナール形式で行うが、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求についての評価などといった平常点での評価と、期末試験またはレポート報告等の結果による評価に基づいて成績評価を行いたい。

【再試験】 行う

【教科書】 教科書、参考書等については、初回の授業時に適宜紹介する。また他にプリントや資料等も用意する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218387>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)

英米の社会と文化 II (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 主として 19 世紀のイギリス小説を取り上げて精読する。小説という、言語による虚構の芸術構造物、物語の世界、すなわち嘘の世界を、いかに豊かに味わうことができるものか、また知的にも分析することができて、人間の本質に関わる想像力がいかに広い分野に影響力を及ぼし得るものかを、具体的に作品に触れることによって理解してゆきたい。作品自体が持つ様々な問題に対して多角的なアプローチを試みるばかりでなく、その作品の時代背景にも目を向け、当時の風俗や生活習慣、時代思潮など、広い視野からの理解を目指したい。

【授業概要】 19 世紀のイギリス小説を読む。より広い視野のもとに、イギリス文学を生み出したイギリスという国の理解も含めて様々な多角的アプローチを試みるが、特に、19 世紀の小説家トマス・ハーディやその他の作家の短編を読みながら、当時の結婚をめぐる制度や、因襲的な考え方、宗教、時代思潮、風俗、女性の置かれていた立場などを考えてみたい。作品の理解を通して、虚構の世界から、現実の世界を逆照射しつつ、普遍的な問題である男女の恋愛と結婚の問題を時代のコンテクストの中に置いて理解してみたい。

【キーワード】 イギリス, 19 世紀, 小説, 時代背景

【先行科目】 『英米文化研究 I (その 1)』(1.0, ⇒85 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(1.0, ⇒85 頁)

【関連科目】 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒86 頁), 『英米文化研究 IV (その 1)』(0.5, ⇒87 頁)

【履修上の注意】 半年受講も認めるので、後期からの受講も可能。
 【到達目標】 精読による作品解釈の方法を身に付け、同時に作品の時代背景の事情を理解する。
 【授業計画】 1. 第1回 イントロダクション 2. 第2回～第15回 作品の講読と鑑賞並び分析の仕方 3. 第16回 まとめ
 【成績評価】 本授業はゼミナール形式で行うが、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求についての評価などといった平常点での評価と、期末試験またはレポート報告等の結果による評価に基づいて成績評価を行いたい。
 【再試験】 行う
 【教科書】 教科書、参考書等については、初回の授業時に適宜紹介する。また他にプリントや資料等も用意する。
 【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218388>
 【連絡先】
 ⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12時～13時)

ドイツ言語文化研究 I (その 2) 2 単位 2 年 (後期)
 石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】 ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ヴァルキューレ』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
 【授業概要】 ドイツ・オペラの講読と鑑賞
 【キーワード】 ドイツ文学、ワーグナー、楽劇、ニーベルンゲン伝説、北欧神話
 【先行科目】 『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁)
 【履修上の注意】 ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。
 【到達目標】 ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。
 【授業計画】 1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。2011 年度後期はその二作目の作品『ヴァルキューレ』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。後期の授業計画は次の通りである。 2. 1) 『ヴァルキューレ』第一幕講読 (5 回) 3. 2) 『ヴァルキューレ』第二幕鑑賞 (1 回) 4. 3) 『ヴァルキューレ』第三幕講読 (5 回) 5. 4) 『ヴァルキューレ』全三幕を通して鑑賞 (3 回) 6. 5) 『ヴァルキューレ』の特質 (総まとめ)
 【成績評価】 授業への取り組み (50%) と期末試験 (またはレポート) (50%) による。
 【再試験】 行わない。
 【教科書】 対訳プリント (石川訳) を配付する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218897>
 【連絡先】
 ⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時～16時)
 【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。(その 1) と (その 2) は今年度それぞれ前期と後期に開講、(その 3) と (その 4) は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 I (その 1) 2 単位 2 年 (前期)
 石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】 ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ラインの黄金』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
 【授業概要】 ドイツ・オペラの講読と鑑賞
 【キーワード】 ドイツ文学、ワーグナー、楽劇、ニーベルンゲン伝説、北欧神話
 【先行科目】 『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁)
 【履修上の注意】 ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。
 【到達目標】 ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。
 【授業計画】 1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワー

グナーのライフワークとも言うべき作品である。2011 年度前期はその一作目の作品『ラインの黄金』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。前期の授業計画は次の通りである。 2. 1) ワグナーの生涯と作品 (2 回) 3. 2) 『ラインの黄金』講読 (12 回) 4. 3) 『ラインの黄金』全四場を鑑賞 (2 回)
 【成績評価】 授業への取り組み (50%) と期末試験 (またはレポート) (50%) による。
 【再試験】 行わない
 【教科書】 対訳プリント (石川訳) を配付する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218896>
 【連絡先】
 ⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時～16時)
 【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。(その 1) と (その 2) はそれぞれ今年度前期と後期に開講、(その 3) と (その 4) は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 I (その 3) 2 単位 3 年 (前期)
 石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】 ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ジークフリート』をドイツ語の原典で講読するとともに、ヒ テ オを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
 【授業概要】 ドイツ・オペラの講読と鑑賞
 【キーワード】 ドイツ文学、ワーグナー、楽劇、ニーベルンゲン伝説、北欧神話
 【先行科目】 『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁)
 【履修上の注意】 ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。
 【到達目標】 ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。
 【授業計画】 1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。来年度前期はその三作目の作品『ジークフリート』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。前期の授業計画は下記のとおりである。 2. 1) 『ラインの黄金』と『ヴァルキューレ』の解説 (1 回) 3. 2) 『ジークフリート』第一幕鑑賞 (1 回) 4. 3) 『ジークフリート』第二幕鑑賞 (1 回) 5. 4) 『ジークフリート』第三幕講読 (12 回) 6. 5) 『神々の黄昏』ハイライト形式で鑑賞 (1 回)
 【成績評価】 授業への取り組み (50%) と期末試験 (またはレポート) (50%) による。
 【再試験】 行わない。
 【教科書】 対訳プリント (石川訳) を配付する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218898>
 【連絡先】
 ⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時～16時)
 【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。(1) と (2) は今年度それぞれ前期と後期に開講、(3) と (4) は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 I (その 4) 2 単位 3 年 (後期)
 石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】 ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ヴァーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『神々の黄昏』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
 【授業概要】 ドイツ・オペラの講読と鑑賞
 【キーワード】 ドイツ文学、ワーグナー、楽劇、ニーベルンゲン伝説、北欧神話
 【先行科目】 『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁)
 【履修上の注意】 ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。
 【到達目標】 ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを目標とする。
 【授業計画】 1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。来年度後期はその四作目の作品『神々の黄昏』の台本を毎回少しずつじっくりと

読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。後期の授業計画は下記のとおりである。2. 1)『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』及び『ジークフリート』の解説(1回) 3. 2)『神々の黄昏』序幕講読(2回) 4. 3)『神々の黄昏』第一幕鑑賞(1回) 5. 4)『神々の黄昏』第二幕鑑賞(1回) 6. 5)『神々の黄昏』第三幕講読(10回) 7. 6)『神々の黄昏』第三幕鑑賞(1回)

【成績評価】授業への取り組み(50%)と期末試験(またはレポート)(50%)による。

【再試験】行わない。

【教科書】対訳プリント(石川訳)を配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218899>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(1)と(2)は今年度それぞれ前期と後期に開講、(3)と(4)は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 II (その1) 2単位 3年(前期), 4年(前期) 井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】造形芸術(絵画・彫刻・建築)やそれに従事する芸術家が文学作品の中でどのように扱われているかということ、主として19世紀はじめから20世紀前半頃までのドイツ文学において考察する

【授業概要】ここで対象となる芸術には、ドイツのみならずヨーロッパ全体のが含まれる。造形芸術を扱う文学のあり方はさまざまである。あるときは他種の芸術との差異が強調され、またあるときはそれらとの融合が論じられる。実在にせよ架空にせよ、芸術家は小説などの格好の素材・テーマとなる。作家たちはそのような取り組みから、彼ら自身の芸術(ポエジー)のための有益なヒントを見出す。特定の芸術作品や芸術家を対象とした美学的批評もある。また、程度の差はあれ画才に恵まれた詩人・作家もいる。関連の芸術作品を視聴覚機器などで参照しながら、種々の文学作品を見てゆきたい。

【キーワード】ドイツ文学

【関連科目】『ドイツ言語文化研究 I (その1)』(0.5, ⇒90頁), 『ドイツ言語文化研究 III (その1)』(0.5, ⇒91頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その2)』(0.5, ⇒91頁)

【履修上の注意】ドイツ言語文化研究 II は、8単位重ね読み可能な授業であるから、原則として、連続する2年間4期の授業のうち、複数の授業を受講しても内容は重複しない。この4期の授業はそれぞれ内容的に異なるが、テーマは「ドイツ文学で扱われる芸術と芸術家」で一貫している。

【到達目標】

1. 絵画や彫刻、芸術家に関するさまざまな考え方や感じ方が、文学においていかに表現されているかを知る。
2. 副産物として:作家たちの独自の見方を通して、特定の芸術家や芸術作品に対する新しい目が開かれることがある。

【授業計画】1. 以下のような作家・作品・テーマを扱うが、詳細については若干の変更もありうる。また、各項目の番号は扱う内容の順序を示しているが、必ずしも1回の授業の範囲を厳密に規定するものではない。1回目では、今後の授業方針の説明などをおこなう。2. ゲーテ:「ドイツの建築について」 3. フリードリヒ・シュレーゲルのゴシック建築論 4. ゲレスのゴシック建築論 5. ヴァッケンローダーの描くイタリア・ルネサンスの画家たち 6. ヴァッケンローダーの描くデューラー 7. ティーク:「フランツ・シュテルンバルトの遍歴」 8. アウグスト・ヴィルヘルム・シュレーゲルの芸術論 9. ロマン派の画家たちの芸術論(フリードリヒ, ルンゲ) 10. ロマン派の画家たちの芸術論(カールス, ナザレ派) 11. メーリケ「画家ノルテン」 12. ケラー「緑のハインリヒ」 13. リルケとセザンヌ, ロダン 14. リルケとヴォルフスヴェーデの画家たち 15. ヘッセ「ナルチスとゴルトムント」など 16. 総括授業

【成績評価】レポートと授業への取り組みで総合的に評価する。

【再試験】なし。

【教科書】適宜プリントを配布する。

【参考書】授業中にプリントを配布し、視聴覚資料などを示し、参考文献の指示もおこなう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218900>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時, 3号館1階学習支援室)
⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

ドイツ言語文化研究 II (その2) 2単位 3年(後期), 4年(後期) 井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】18世紀以降のドイツにおける文学と音楽の関係を、主として文学の側に重点を置いて考察する。

【授業概要】上記の「関係」にはさまざまなものがある。最も直接的で、また事例の多いのは、文学作品(詩・戯曲など)に曲がつけられて、歌曲・オペラとなる場合である。より間接的には、いわゆる「標題音楽」などとして音楽の中に文学的要素が取り入れられる。しかしこれらの作品はどちらかといえば音楽のジャンルに属すると思われるので、参考として副次的に取り上げるにとどめる。ここで主に扱うのは、音楽と音楽家を素材とした小説などの文学作品であり、また音楽芸術一般や特定の音楽家・楽曲を論じた美学的・批評的作品である。必要に応じて関連する音楽作品を聴きながら、種々の文学作品を見てゆきたい。

【キーワード】ドイツ文学, 音楽

【関連科目】『ドイツ言語文化研究 I (その2)』(0.5, ⇒90頁), 『ドイツ言語文化研究 III (その2)』(0.5, ⇒92頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その1)』(0.5, ⇒91頁)

【履修上の注意】ドイツ言語文化研究 II は、8単位重ね読み可能な授業であるから、原則として、連続する2年間4期の授業のうち、複数の授業を受講しても内容は重複しない。この4期の授業はそれぞれ内容的に異なるが、テーマは「ドイツ文学で扱われる芸術と芸術家」で一貫している。

【到達目標】

1. 近代のドイツにおいて、音楽や音楽家に関するさまざまな考え方や感じ方が、文学にいかん表現されているか、また文学と音楽の相互の影響はいかなるものだったかを知る。
2. 副産物として:作家たちの独自の感じ方・考え方を通して、特定の作曲家、楽曲に対するこれまでとは違った聴き方ができることもある。

【授業計画】1. 以下のような作家・作品・テーマを扱うが、詳細については若干の変更もありうる。また、各項目の番号は扱う内容の順序を示しているが、必ずしも1回の授業の範囲を厳密に規定するものではない。1回目では、今後の授業方針の説明などをおこなう。2. 古代ギリシアと旧約聖書における音楽 3. ヘルダーの音楽論 4. ハインゼ:「ヒルデガルト・フォン・ホーエンタール」 5. ゲーテと音楽 6. ヴァッケンローダーの音楽観 7. ヴァッケンローダーと架空の音楽家バルクリンガー 8. ティークと交響曲 9. ロマン派の音楽観 10. クライスト:「聖チェチーリア」 11. E. T. A. ホフマン:「牡猫ムルの人生観」 12. 同:「クライスレリアーナ」、ベートーヴェン論など 13. ベートーヴェンの第九交響曲とシラーの「喜びに寄す」 14. 同上の2 15. シューマンの音楽批評と文学の影響 16. 総括授業

【成績評価】レポートと普段の授業への取り組みで総合的に評価する。

【再試験】なし。

【教科書】教材はプリントを配布する。

【参考書】授業中にプリントを配布し、視聴覚資料などを示し、参考文献の指示もおこなう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218901>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時, 3号館1階学習支援室)
⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

ドイツ言語文化研究 III (その1) 2単位 2年(前期) 井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】第一次大戦時の在日ドイツ・オーストリア人捕虜の活動や日本人との交流について知り、異文化間の交流や戦争、「国民性」(他国人によって感じられた「国民性」と、自国民について感じている「国民性」の相違など)について考える手掛かりとする。

【授業概要】第一次大戦における日本の青島攻略(1914年)により、ドイツ人とオーストリア人の捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化的・社会的な諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この授業では、当時の日本各地の収容所(前期は特に九州・四国の収容所)における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介し、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史という、より広いコンテクストも視野に入れながら、多面的な考察の材料を提供する。

【キーワード】異文化間交流, 第一次世界大戦, 捕虜

【関連科目】『ドイツ言語文化研究 I (その1)』(0.5, ⇒90頁), 『ドイツ言語文化研究 I (その2)』(0.5, ⇒90頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その1)』(0.5, ⇒91頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その2)』(0.5, ⇒91頁)

【履修上の注意】特になし。

【到達目標】

1. 人口の増大し、時には美化された「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ・オーストリア人捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。
2. 共時的、通時的なより広いコンテクスト(第一次大戦中の各国の捕虜待遇や、捕虜待遇史、日独交流史など)の中で、当時の日本による捕虜待遇や捕虜たちの活動、彼らをめぐる文化交流の位置づけを知る。

【授業計画】1. 授業方針などの説明 2. 日独交流史概略 1 江戸時代から明治中期まで 3. 日独交流史概略 2 明治後期以降 4. ドイツの膠州湾租借と第一次大戦までの青島 5. 青島戦の概略 6. ドイツ人捕虜収容の概略 7. 九州の収容所 1 久留米 8. 九州の収容所 2 久留米、熊本 9. 九州の収容所 3 福岡 10. 九州の収容所 4 大分 11. 四国の収容所 1 松山 12. 四国の収容所 2 丸亀 13. 四国の収容所 3 徳島 14. 四国の収容所 4 板東 15. 予備 16. 総括授業

【成績評価】レポートと普段の授業への取り組みで総合的に評価する。

【再試験】おこなわない。

【教科書】教科書は使わず、適宜プリントを配布する。

【参考書】授業中にプリントを配布し、視聴覚資料などを示し、参考文献の指示もおこなう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218902>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日14時30分から16時まで)

⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

ドイツ言語文化研究 III (その2)

2 単位 2 年 (後期)

井戸 慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】第一次大戦時の在日ドイツ・オーストリア人捕虜の活動や日本人との交流について知り、異文化間の交流や戦争、「国民性」(他国人によって感じられた「国民性」と、自国民について感じている「国民性」の相違など)について考える手掛かりとする。

【授業概要】第一次大戦における日本の青島攻略(1914年)により、ドイツ人とオーストリア人の捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化的・社会的な活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この授業では、当時の日本各地の収容所(後期は特に中国・近畿・東海・関東の収容所)における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介し、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史という、より広いコンテキストも視野に入れながら、多面的な考察の材料を提供する。

【キーワード】異文化間交流、第一次世界大戦、捕虜

【先行科目】『ドイツ言語文化研究 III (その1)』(1.0, ⇒91頁)

【関連科目】『ドイツ言語文化研究 I (その1)』(0.5, ⇒90頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その1)』(0.5, ⇒91頁), 『ドイツ言語文化研究 II (その2)』(0.5, ⇒91頁)

【履修上の注意】特になし。

【到達目標】

1. 人口に膾炙し、時には美化された「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ・オーストリア人捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。
2. 共時的、通時的なより広いコンテキスト(第一次大戦中の各国の捕虜待遇や、捕虜待遇史、日独交流史など)の中で、当時の日本による捕虜待遇や捕虜たちの活動、彼らをめぐる文化交流の位置づけを知る。

【授業計画】1. 授業方針などの説明 2. 前期内容のまとめ 青島戦と捕虜収容の概略 九州・四国の収容所 3. 板東収容所 4. 中国・近畿の収容所 1 姫路 5. 中国・近畿の収容所 2 青野ヶ原 6. 中国・近畿の収容所 3 大阪 7. 中国・近畿の収容所 4 似島 8. 関東・東海の収容所 1 名古屋 9. 関東・東海の収容所 2 静岡 10. 関東・東海の収容所 3 東京・習志野 11. 関東・東海の収容所 4 習志野 12. 捕虜待遇史概略 1 世界の歴史に見る捕虜 13. 捕虜待遇史概略 2 日本の歴史に見る捕虜 14. まとめ 15. 予備 16. 総括授業

【成績評価】レポートと普段の授業への取り組みで総合的に評価する。

【再試験】なし。

【教科書】適宜プリントを配布する。

【参考書】授業中にプリントを配布し、視聴覚資料などを示し、参考文献の指示もおこなう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218903>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

比較文化演習 (その1)

2 単位 3 年 (前期)

スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218950>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

比較文化演習 (その2)

2 単位 3 年 (後期)

スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218951>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

人間社会学科 国際文化コース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

実用英語演習・総論 ... 欧米言語コース教員・国際文化コース教員・吉田/2年 (前期, 後期), 3年 (前期, 後期).....	93
実用英語演習 I(その1) ... 森岡/2年 (前期).....	94
実用英語演習 I(その1) ... 吉田/2年 (前期).....	94
実用英語演習 I(その1) ... 山田/2年 (前期).....	94
実用英語演習 I(その2) ... スティーヴンズ・ポンド・早内・プリングル/2年 (後期).....	95
実用英語演習 II(その1) ... 宮崎/3年 (前期).....	95
実用英語演習 II(その1) ... 吉田/3年 (前期).....	95
実用英語演習 II(その2) ... 桂/3年 (後期).....	95
実用英語演習 II(その2) ... 山内/3年 (後期).....	96
実用英語演習 III(その1) ... 福田/3年 (前期).....	96
実用英語演習 III(その1) ... ポンド・佐久間/3年 (前期).....	96
実用英語演習 III(その1) ... 福田/3年 (前期).....	96
実用英語演習 III(その1) ... スティーヴンズ/3年 (前期).....	97
実用英語演習 III(その1) ... スタージ/3年 (前期).....	97
実用英語演習 III(その2) ... 福田/3年 (後期).....	97
実用英語演習 III(その2) ... ポンド・佐久間/3年 (後期).....	97
実用英語演習 III(その2) ... 福田/3年 (後期).....	97
実用英語演習 III(その2) ... スティーヴンズ/3年 (後期).....	98
実用英語演習 III(その2) ... スタージ/3年 (後期).....	98
実用ドイツ語演習 I(その1) ... 井戸/2年 (前期).....	98
実用ドイツ語演習 I(その2) ... 依岡/2年 (後期).....	98
実用ドイツ語演習 II(その1) ... 石川/3年 (前期).....	98
実用ドイツ語演習 II(その2) ... 石田/3年 (後期).....	99
実用ドイツ語演習 III(その1) ... 今井/3年 (前期).....	99
実用ドイツ語演習 III(その2) ... ヘルベルト/3年 (後期).....	99
実用フランス語演習 I(その1) ... 長井/2年 (前期).....	99
実用フランス語演習 I(その2) ... 田島/2年 (後期).....	100
実用フランス語演習 II(その1) ... 山口/3年 (前期).....	100
実用フランス語演習 II(その2) ... 山口/3年 (後期).....	100
実用フランス語演習 III(その1) ... 長井/3年 (前期).....	100
実用フランス語演習 III(その2) ... 長井/3年 (前期).....	101
国際文化基礎演習(その1) ... 今井/2年 (前期).....	101
国際文化基礎演習(その2) ... /2年 (後期).....	101
国際文化基礎演習(その3) ... 今井/3年 (前期).....	101
情報処理演習 ... 豊田・矢部・真岸・小野・佐藤・村上・西山・佐藤・行實/2年 (後期).....	101
国際文化ゼミナール(総論) ... 国際文化コース全教員/3年 (前期, 後期), 4年 (前期, 後期).....	102
国際文化ゼミナール(その1) ... 吉田/3年 (前期).....	102
国際文化ゼミナール(その1) ... 佐久間/3年 (前期).....	102
国際文化ゼミナール(その1) ... 依岡/3年 (前期).....	102
国際文化ゼミナール(その1) ... 田島/3年 (前期).....	103
国際文化ゼミナール(その1) ... 今井/3年 (前期).....	103
国際文化ゼミナール(その1) ... 上野/3年 (前期).....	103
国際文化ゼミナール(その1) ... 石田/3年 (前期).....	103
国際文化ゼミナール(その1) ... 石田/3年 (前期).....	104
国際文化ゼミナール(その1) ... 桂/3年 (前期).....	104
国際文化ゼミナール(その1) ... 長井/3年 (前期).....	104
国際文化ゼミナール(その1) ... 吉田/3年 (前期).....	104

国際文化ゼミナール(その1) ... 山口/3年 (前期).....	105
国際文化ゼミナール(その1) ... スティーヴンズ/3年 (前期).....	105
国際文化ゼミナール(その1) ... スタージ/3年 (前期).....	105
国際文化ゼミナール(その2) ... 吉田/3年 (後期).....	105
国際文化ゼミナール(その2) ... 佐久間/3年 (後期).....	105
国際文化ゼミナール(その2) ... 依岡/3年 (後期).....	105
国際文化ゼミナール(その2) ... 田島/3年 (後期).....	106
国際文化ゼミナール(その2) ... 長井/3年 (後期).....	106
国際文化ゼミナール(その2) ... 吉田/3年 (後期).....	106
国際文化ゼミナール(その2) ... 山口/3年 (後期).....	106
国際文化ゼミナール(その2) ... 今井/3年 (後期).....	106
国際文化ゼミナール(その2) ... 上野/3年 (後期).....	107
国際文化ゼミナール(その2) ... 石田/3年 (後期).....	107
国際文化ゼミナール(その2) ... 石田/3年 (後期).....	107
国際文化ゼミナール(その2) ... 桂/3年 (後期).....	107
国際文化ゼミナール(その2) ... スティーヴンズ/3年 (後期).....	107
国際文化ゼミナール(その2) ... スタージ/3年 (後期).....	108
国際文化ゼミナール(その3) ... 吉田/4年 (前期).....	108
国際文化ゼミナール(その3) ... 佐久間/4年 (前期).....	108
国際文化ゼミナール(その3) ... 依岡/4年 (前期).....	108
国際文化ゼミナール(その3) ... 田島/4年 (前期).....	108
国際文化ゼミナール(その3) ... 長井/4年 (前期).....	109
国際文化ゼミナール(その3) ... 吉田/4年 (前期).....	109
国際文化ゼミナール(その3) ... 山口/4年 (前期).....	109
国際文化ゼミナール(その3) ... 今井/4年 (前期).....	109
国際文化ゼミナール(その3) ... 上野/4年 (前期).....	109
国際文化ゼミナール(その3) ... 石田/4年 (前期).....	110
国際文化ゼミナール(その3) ... 石田/4年 (前期).....	110
国際文化ゼミナール(その3) ... 桂/4年 (前期).....	110
国際文化ゼミナール(その3) ... スティーヴンズ/4年 (前期).....	110
国際文化ゼミナール(その3) ... スタージ/4年 (前期).....	111
国際文化ゼミナール(その4) ... 吉田/4年 (後期).....	111
国際文化ゼミナール(その4) ... 佐久間/4年 (後期).....	111
国際文化ゼミナール(その4) ... 依岡/4年 (後期).....	111
国際文化ゼミナール(その4) ... 田島/4年 (後期).....	111
国際文化ゼミナール(その4) ... 長井/4年 (後期).....	112
国際文化ゼミナール(その4) ... 吉田/4年 (後期).....	112
国際文化ゼミナール(その4) ... 山口/4年 (後期).....	112
国際文化ゼミナール(その4) ... 今井/4年 (後期).....	112
国際文化ゼミナール(その4) ... 上野/4年 (後期).....	112
国際文化ゼミナール(その4) ... 石田/4年 (後期).....	112
国際文化ゼミナール(その4) ... 石田/4年 (後期).....	113
国際文化ゼミナール(その4) ... 桂/4年 (後期).....	113
国際文化ゼミナール(その4) ... スティーヴンズ/4年 (後期).....	113
国際文化ゼミナール(その4) ... スタージ/4年 (後期).....	113

実用英語演習・総論 2単位 2年(前期, 後期), 3年(前期, 後期)
 欧米言語コース教員, 国際文化コース教員
 吉田昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 この演習は、欧米言語コースと国際文化コースが共同で開講する両コースの共通科目である。中学、高校、更には全学共通教育で培ってきた英語の能力を、より実用的なコミュニケーションの道具として使えるレベルに高めることを目標とする。したがって、演習での力点は文法事項などを教えることよりも、基本的な語彙を習得し、日本語を介さずに英語を英語のまま理解するためのトレーニングを与えることに置かれる。そのため、テキスト教材のみならず、小説の朗読、ニュース、ドキュメンタリー、映画やドラマなどの音声視覚教材を駆使し、現代の生きた英語によるコミュニケーション能力の向上をはかる。それはまた、TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験に対応するトレーニングにもなる。受講者は与えられた課題をこなすだけでなく、演習で提示されるトレーニングを自ら実践することが要請される。言うまでもなく、実用英語のレベル向上は、日々の自発的トレーニング抜きには期待できない。この演習を刺激として、英語によるコミュニケーション能力という一生の財産となりうる確かな技能を身につけて欲しい。

【授業概要】 演習 I, II, III すべて、新カリキュラムの同種の授業と合併して開講されるので、そちらのシラバスを参照のこと。

【キーワード】 *read, write, listen, speak*

【履修上の注意】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【到達目標】

1. 演習 I: 実用的なコミュニケーション能力の基礎として、1) 英語を英語のまま理解する能力を養成する。2) 多様な英語を聞き取る能力を養成する。3) 徹底的なドリルを通じて英語を滑らかに口から出せるように訓練する。
2. 演習 II: 演習 I を踏まえ、より実用的な英語の運用能力を獲得する。
3. 演習 III: ネイティブ教員による指導を通して、総合的な英語のコミュニケーション能力を養成する。

【授業計画】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【成績評価】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【再試験】 行わない。

【教科書】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=21912>

【連絡先】

- ⇒ 欧米言語コース教員
- ⇒ 国際文化コース教員
- ⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

実用英語演習 I(その 1)

2 単位 2 年 (前期)
森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るためには、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。この授業では、英語ニュースのディクテーションおよびスピーキングの基礎トレーニングを行う。ニュース英語におけるアナウンサーやレポーターの発音は、おおむねスラングやアクセントを含まないので、導入教材としては最適であると考えられる。受講者が英語を聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること、英語を積極的に口にするトレーニングにより、スピーキングの基礎を養成することを目的としている。

【授業概要】 VOA (Voice of America) の Special English Program から 12 のニュースを取り上げたテキストを用いて、ディクテーションを行う。また、大学レベルでの英語読解や聴解に最低限必要な基本語彙の習得、および発音練習の一環として、recitation(暗唱) 課題を与える。

【キーワード】 英語ディクテーション, *listening and pronunciation training, vocabulary building*

【関連科目】 『実用英語演習 II(その 1)』(1.0, ⇒95 頁), 『実用英語演習 III(その 1)』(1.0, ⇒96 頁)

【履修上の注意】 クラス分けの方法: 1) 授業希望者は、初回の授業の前日正午までに受講登録をすること。2) 登録を締め切った時点で登録者が 75 人を超えた場合は、抽選により人数調整を行う。3) 初回授業では、受講を許可された学生のクラス選択希望調査(A/C)を行う。4) 各クラスの希望受講者数に大幅な差が出たときには、初回授業で行うリスニングテスト結果によって、各クラスの数調整をする。

【到達目標】 受講者が英語ニュースを聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること

【授業計画】 1. Class Division & Pre-Test 2. Unit 1: A Cool Way to Keep Food from Spoiling 3. Unit 2: The Amish People 4. Unit 3: Project Seeks Free E-Books for Colleges in Developing Nations 5. Unit 4: Looking for Weight-Loss Answers 6. Unit 5: Rocked Scientist-You Do not Have to Be Extremely Intelligent to Understand This- 7. Unit 6: Disappearance of Honeybees a Mystery 8. Unit 7: Engineering Low-Tech Solutions for Places in Need 9. Unit 8: George Gershwin-One of America's Great Songwriters- 10. Unit 9: Weighing the Idea of a Year off before College 11. Unit 10: The Worldwide Spread of Oil 12. Unit 11: Baseball Terms-This Is a

Whole New Ballgame- 13. Unit 12: Taking the Pulse of Public Opinion about Health Problems 14. Class Test (Unit 1-12) 15. Final Test 16. Review

【成績評価】 Weekly assignments 30%, Class Test 40%, Final Test 30%

【再試験】 行わない。

【教科書】 Haruo Kizuka. Listening Dictation with VOA, Vol.2. Macmillan Languagehouse (2008). 1,800 yen

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219208>

【連絡先】

- ⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用英語演習 I その 1)

2 単位 2 年 (前期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るためには、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。この授業では、英語ニュースのディクテーションおよびスピーキングの基礎トレーニングを行う。ニュース英語におけるアナウンサーやレポーターの発音は、おおむねスラングやアクセントを含まないので、導入教材としては最適であると考えられる。受講者が英語を聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること、英語を積極的に口にするによりスピーキングの基礎を養成することを目的とする。

【授業概要】 VOA (Voice of America) の Special English Program から 12 のニュースを取り上げたテキストを用いて、ディクテーションを行う。さらに、大学レベルでの英語読解や聴解に最低限必要な基本語彙の習得のため、また発音やスピーキングの練習として、recitation(暗唱) の課題を与える。

【キーワード】 ディクテーション, *listening and pronunciation training, vocabulary building*

【関連科目】 『実用英語演習 II(その 1)』(1.0, ⇒95 頁), 『実用英語演習 II(その 2)』(1.0, ⇒95 頁), 『実用英語演習 III(その 1)』(1.0, ⇒96 頁), 『実用英語演習 III(その 2)』(1.0, ⇒97 頁)

【到達目標】 英語ニュースを聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること

【授業計画】 新カリ学部共通科目「実用外国語基礎演習 I(英語)」のシラバスを見てください。

【成績評価】 毎週のクラスにおけるトレーニングへの取り組みと全クラス共通の最終試験により、総合的に評価する。 Weekly assignments 40%, Class Test 40%, Final Test 20%

【再試験】 なし。

【教科書】 Haruo Kizuka. Listening Dictation with VOA, Vol.1. Macmillan Languagehouse. 1,890 yen

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219209>

【連絡先】

- ⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

実用英語演習 I(その 1)

2 単位 2 年 (前期)
山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 『実用英語演習・総論』を参照のこと。

【授業概要】 英語を聴き、話し、そして英文を英語の論理で読むための基礎トレーニングをおこないます。素材としてアメリカ ABC 放送のニュースを用います。トレーニング・メニューは以下の通りです。1. DVD のみでニュースを視聴しておおまかな内容を捉え、2~3 行程度の文章にまとめる。この際の使用言語は英語でも日本語でも両方でも構わない。(予習) 2. DVD の音声のみによりその英語をできる限り書き取る。テキストは見ない。(予習) 3. テキストの Warm-up exercises A,B を確実にする。(予習) 4. 予習した成果を授業で確認する。(授業) 5. スクリプトに意味のまとまりごとにスラッシュを書き入れる。(授業) 6. 重要な表現や分かりにくいところがあれば確認する。(授業) 7. スクリプトを見ながら音声に合わせて自分も声に出して読む。(シャドウイング)(授業) 8. スクリプトを見ないで音声に合わせて、自分も声に出して語るつもりで読む。(シャドウイング)(授業)

【キーワード】 *dictation, listening, shadowing, speaking*

【関連科目】 『実用英語演習 III(その 1)』(1.0, ⇒96 頁), 『実用英語演習 III(その 2)』(1.0, ⇒97 頁)

【履修上の注意】 予習を前提とした授業なので、必ず予習をすること。

【到達目標】 実用英語演習「総論」参照

【授業計画】 1. Introduction 2. Unit 1 A Crusader's Life 3. Unit 2 American Heart 4. Unit 3 American Roads: Safer than Ever 5. Unit 4 Culture Clash: Veil Bans 6. Unit 6 Missing Link: Major Discovery 7. 前半テスト: 英語の音声聞いて英語の質問に英語で答

える。(筆記) 8. Unit 10 Portrait of America: Identity Issues and the Census 9. Unit 12 Saving America's Middle Class 10. Unit 13 Law of the Land: Obama Signs Healthcare Bill 11. Unit 14 Persons of the Week: Bird Songs 12. 在宅自習:各自興味があるニュースについて dictation して提出する。 13. Unit 15 Nuclear Deal 14. 後半テスト:英語の音声聞いて英語の質問に英語で答える。(筆記) 15. 3 クラス共通のテスト 16. 総括授業

【成績評価】本クラス個別の試験とレポート(50%)と期末試験の結果(50%)を併用する。なお、授業への取り組みが不足する場合はこれより減点する。

【再試験】実用英語演習「総論」参照

【教科書】DVD で学ぶ ABC ニュースの英語 13(金星堂)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218673>

【連絡先】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

実用英語演習 I(その2)

2 単位 2 年(後期)

スティーヴンズ、メリディス・アン・講師/人間文化学科
ポンドクリストファー・非常勤講師/全学共通教育センター
早内・プリングル・ジュディス・非常勤講師

【授業目的】To be able to analyze current events in English.

【授業概要】Students will research a news event each week and provide a diary entry summarizing the news event and providing a personal response to it. Each week three students will give a 5 minute oral presentation on the news event. The current event may be obtained from any news website in English. Students will be encouraged to include websites from diverse sources such as New Zealand, Canada, South Africa, Singapore and Hong Kong.

【キーワード】時事英語

【履修上の注意】Attendance will be strictly monitored. A maximum of three absences will be accepted.

【到達目標】To be able to critically analyze media coverage of current events.

【授業計画】1. Course Guidance: Introduction to the Structure of a Newspaper 2. Questions and Advice 3. Matching Comment and Newspaper 4. Separating News and Comment 5. Fleshing Stories Out 6. Captions 7. Awards: Comprehensive Coverage 8. Awards: Readability 9. Awards: Best Political Story 10. Awards: Awareness of Minority Readerships 11. Awards: Best Human Interest Story 12. Awards: Best Photograph 13. Awards: Best Sports Reporting 14. Categories of Story 15. Final Exam 16. Feedback

【成績評価】Summaries of Current Events, Oral Presentations and a Final Essay

【再試験】A retest is possible but late homework submission will attract penalties.

【教科書】No textbook is necessary. Students will be required to source stories on the internet. Some newspaper or internet stories will be provided.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218674>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ ポンド
⇒ 早内・プリングル (juditheph@yahoo.com) (オフィスアワー: By appointment)

実用英語演習 II(その1)

2 単位 3 年(前期)

宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】「実用英語演習・総論」のシラバスを参照

【授業概要】毎時の授業は、大きく 2 つのパートから構成される。(1) テキストの使用により、ダイアログの暗唱とドリル。(2) 語彙ゲームや、映画の視聴によりネイティブ英語に慣れつつ、スクリプトにより口語的なフレーズや表現を習得する。さらに、自宅での学習として、毎回短いディクテーションを宿題とする。

【キーワード】Drill, Listening Comprehension, Essay Writing

【先行科目】『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒94 頁), 『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒94 頁)

【関連科目】『実用英語演習 III(その1)』(0.5, ⇒96 頁), 『実用英語演習 III(その2)』(0.5, ⇒97 頁)

【履修上の注意】毎日短時間でも繰り返しを多くすることが大切です。

【到達目標】「実用英語演習・総論」のシラバスを参照

【授業計画】1. 授業は第 1 回イントロダクション、第 2 回から第 15 回まで、期末試験を含め以下の流れで行います。2. 宿題を提出し、シャドウイングと答え合わせを行う。3. テキストの使用により、ペ

アでのダイアログの暗唱とドリル。4. スクリプトを見ながら映画を視聴する。5. 口語的な表現やフレーズの確認。6. 宿題用の音声ファイル(mp3 ファイル)を自分用の媒体にコピーする。

【成績評価】授業への取り組み状況と課題の提出などを総合して評価する。

【再試験】有り

【教科書】『アメリカ口語教本(中級用)』, 研究社 2600 円。

【参考書】授業時に適宜紹介する。

【WEB 頁】http://homepage3.nifty.com/roundshape/practical_english.2.html

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219210>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時~13 時)

実用英語演習 II(その1)

2 単位 3 年(前期)

吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】実用英語演習・総論を参照のこと。

【授業概要】この授業では、主にリスニング・ディクテーションを行う。アメリカ合衆国などの英語圏で放映された TV ドラマを素材として取り上げ、自然なスピードで発話されている口語英語を正確に聞き取り、大まかな内容を理解する力を養成する。授業の最初では、前回の内容に関する語彙の小テストも行われる。授業は学生用コンピューター端末を備えた教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】listening comprehension, 英語ディクテーション, English TV drama

【先行科目】『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒94 頁), 『実用英語演習 I(その2)』(1.0, ⇒95 頁)

【関連科目】『実用英語演習 III(その1)』(0.5, ⇒96 頁), 『実用英語演習 III(その2)』(0.5, ⇒97 頁)

【履修上の注意】授業計画に示したものは、進度のおおよその目安である。テストの回数等に変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。

【到達目標】自然なスピードで発話されている口語英語の正確な聞き取りと、おおまかな内容理解ができること

【授業計画】1. Class Guidance/ Proficiency Test 1 2. Drama Episode 1 (1) 3. Drama Episode 1 (2) 4. Drama Episode 1 (3) 5. Drama Episode 1 (4) 6. Test for Drama Episode 1 7. Drama Episode 2 (1) 8. Drama Episode 2 (2) 9. Drama Episode 2 (3) 10. Drama Episode 2 (4) 11. Test for Drama Episode 2 12. Drama Episode 3 (1) 13. Drama Episode 3 (2) 14. Drama Episode 3 (3) 15. Drama Episode 3 (4) 16. Test for Drama Episode 3/ Proficiency Test 2

【成績評価】Tests for Drama Episodes (70%) ; Weekly tests for vocabulary (30%)

【再試験】規定の出席日数を満たしており、毎週の小テストの成績が 60% を超える受講者のみを対象とする。

【教科書】使用しない。

【参考書】授業中に指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219907>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】前期木曜 3-4

実用英語演習 II(その2)

2 単位 3 年(後期)

桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】英語力を底上げし、TOEIC 試験にも対応する英語力の育成

【授業概要】TOEIC の受験対策のための授業ではなく、それぞれの参加者が各自の英語力の底上げをすることをサポートする授業である。一般性の高いテーマについて、種々のテキストやクリップを紹介し、それらとできる限り多量に取り組み、また CALL 教室を活用し、さらに聞く、話すという活動につなげてゆくことを目指す。

【キーワード】英語リーディング, リスニング

【履修上の注意】実用英語能力を身につけるのには積極的に参加する意識が不可欠。授業以外の場でもテレビやラジオの英語学習番組等を利用して、積極的に語学学習に取り組む姿勢が大切である。授業の予習は必須。必ず英和辞書を持参すること。

【到達目標】「実用英語演習・総論」参照。「日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる」英語コミュニケーションレベルを身につける。

【授業計画】1. 目的に応じてテキストから情報を引き出す、実用的リーディングの練習 2. テーマについて英語でフリートークをおこなう 3. 実践的な語彙力をつける

【成績評価】 授業への参加度、授業中に複数回行うミニテストおよび定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 用いない。その都度、コピーを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219211>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

【備考】 CALL 教室を使用。

実用英語演習 II(その 2)

2 単位 3 年 (後期)
山内 暁彦・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 実用英語演習・総論を参照。

【授業概要】 ビデオ教材を使って英語の基本的運用力の向上を図る。アメリカの連続ドラマの視聴によりネイティブ英語に慣れ、口語的な語彙やフレーズを習得する。授業ではスクリプトを利用する。自宅での学習として短いディクテーションを随時宿題として課す。コメディイ仕立てのドラマであるので、台詞の可笑しさを理解し、アメリカの日常生活や文化にも触れる。

【キーワード】 リスニング、ディクテーション

【履修上の注意】 実用英語演習 I を履修済みであることが望ましい。

【到達目標】 日常的な英語表現を習得すること。

【授業計画】 1. イントロダクション 2. エピソード 1(その 1) 3. エピソード 1(その 2) 4. エピソード 1(その 3) 5. エピソード 1(その 4) 6. 中間テスト 1 7. エピソード 2(その 1) 8. エピソード 2(その 2) 9. エピソード 2(その 3) 10. エピソード 2(その 4) 11. 中間テスト 2 12. エピソード 3(その 1) 13. エピソード 3(その 2) 14. エピソード 3(その 3) 15. 後期試験 16. 総括授業

【成績評価】 後期試験 30%、2 度の中間テスト各 25%、授業に取り組む姿勢や課題の提出状況などの平常点 20%により総合的に評価する。

【再試験】 行なう。

【教科書】 教科書は使用せず、プリントを配付する。各自プリントの管理を確実にすること。

【参考書】 参考資料については授業中に指示する。各種ハンドアウトを随時配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219908>

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】 後期、木曜日 3~4 講時。新カリ「実用外国語演習 (英語)」と同内容。

実用英語演習 III (その 1)

2 単位 3 年 (前期)

福田, スティーブ・利久・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 This class formed to give students exposure to and practice with the English writing or speech-making process from collecting ideas to the final version. Students will learn how to build paragraphs and outlines, and proof-reading for English essays or speech presentations.

【授業概要】 English composition and speech presentation

【キーワード】 *essay writing, speech presentation, writing in English, speaking in English*

【先行科目】 『実用英語演習 I(その 1)』 (1.0, ⇒94 頁), 『実用英語演習 I(その 1)』 (1.0, ⇒94 頁)

【関連科目】 『実用英語演習 II(その 1)』 (1.0, ⇒95 頁), 『実用英語演習 II(その 2)』 (1.0, ⇒95 頁), 『実用英語演習・総論』 (1.0, ⇒93 頁)

【履修上の注意】 4 つのクラス (水曜 7-8/スティーブンス担当, 水曜 3-4 フェネリー担当, 金曜 5-6/早内ジュディス担当, 金曜 7-8/マーシェソ担当)のうち、1 クラスを履修します。履修登録前に希望を聞いた上でクラス指定をします。掲示に注意しておいてください。なお、この授業は学生個人では履修登録できません。

【到達目標】 By the end of this course, students should be able to write and present competently on almost any topic.

【授業計画】 1. General Class Guidance 2. Guidance for Each Class 3. Introduction: Process Writing 4. Unit 1: Pre-Writing: Getting Ready to Write (1) 5. Unit 1: Pre-Writing: Getting Ready to Write (2) 6. Unit 2: The Structure of a Paragraph (1) 7. Unit 2: The Structure of a Paragraph (2) 8. Unit 3: The Development of a Paragraph (1) 9. Unit 3: The Development of a Paragraph (2) 10. Unit 4: Descriptive and Process Paragraphs (1) 11. Unit 4: Descriptive and Process Paragraphs (2) 12. Unit 5: Opinion Paragraphs (1) 13. Unit 5: Opinion Paragraphs (2) 14. Unit 6: Comparison/ Contrast

Paragraph (1) 15. Unit 6: Comparison/ Contrast Paragraph (2) 16. Final Writing or Short Presentation

【成績評価】 Final essay or speech presentation is an important component of this course, but weekly attendance, participation to class work, and homework are even more important. Tentative evaluation scheme: Weekly class participation, assignment, and homework (70%), Final essay or presentation (30%).

【再試験】 Yes, if you have attended more than 2/3 of the class weeks and if your score is 50% and over.

【教科書】 Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek. Success with College Writing: From Paragraph to Essay. Macmillan Languagehouse, 2003.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218671>

【連絡先】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

【備考】 All the four classes are taught by native speakers of English.

実用英語演習 III(その 1)

2 単位 3 年 (前期)

ボンドクリストファー・非常勤講師 / 全学共通教育センター
佐久間 亮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 In today's global society the ability to communicate in English is becoming ever more important. The goal of this course is to help develop the students speaking and writing skills through the use of authentic activities

【授業概要】 The classes are organized around themes and functions relevant to a global world. Students will participate in activities such as role-plays, discussions and presentations. There will be a written homework activity each week that is required as preparation for the following weeks class; this will include authentic writing activities such as producing emails, letters, narratives and descriptions

【到達目標】 The goal of this course is to help develop the students speaking and writing skills through the use of authentic activities

【授業計画】 1. Introduction to the course and course expectations 2. Getting to know you. Introductory presentations 3. Applying for a job. Exchanging Information 4. Applying for a job. Exchanging information 5. Informal letters. Natural conversation 6. Informal letters. Natural conversation 7. Narrative writing. Retelling a news story 8. Narrative writing. Retelling a news story 9. Linking ideas. Being polite 10. Linking ideas. Being polite 11. Writing emails. Telephone conversations 12. Writing emails. Telephone conversations 13. Report Writing. Conducting a survey 14. Report Writing. Conducting a survey 15. Final presentation 16. Review and feedback

【成績評価】 The students will be evaluated on weekly attendance, participation in discussions, oral presentations, written homework and a final presentation

【再試験】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher

【教科書】 A course book is required. New Headway, 3rd Edition, Upper Intermediate Student Book, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13:9780194392990

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219909>

【連絡先】

⇒ ボンド。

実用英語演習 III(その 1)

2 単位 3 年 (前期)

福田, スティーブ・利久・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 Become accustomed to using English through English

【授業概要】 Students will decide on a social problem or current event to work with during the semester. With his or her social problem the student will keep up with the news through newspapers, magazine and Internet articles, Internet blogs, or TV and movie documentary and films outside of class. In the class, the students will be required to participate in discussions concerning their topic.

【キーワード】 *academic reading, academic writing, academic discussions*

【到達目標】 ①【知識・理解】 Students will learn how to use different forms of media for pursuing their studies. ②【汎用的技能】 Students will have a better command of academic reading and discussion skills. ③【態度・志向性】 Students will gain confidence in using academic readings and discussions and not shy away from opportunities to gather information in English. ④【統合的な学習経験と創造的思考力】 Students will become an expert in a social issue and gain the motivation to follow up on the issue from a disciplinary boundary as well.

【授業計画】 第1回:needs analysis deciding a topic 第2回:finding information on your topic 第3回:learning how to read articles 第4回:learning to write and take notes 第5回:learning to present and discuss 第6~9回:discussing readings and writings 第10回:reflection of topic 第11~14回:discussing readings and writings 第15回:final presentations and report submission 第16回:final presentations and reflection

【成績評価】 Assessment will be based on reading and writing homework, class discussions, final presentations and reports. Teacher-student and student-student communication in class will be conducted in English. Students are recommended to think about or even choose a social problem before attending the first class.

【再試験】 none

【教科書】 none

【参考書】 マルカム S, ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219910>

【連絡先】

⇒ 福田 (1号館2階2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

実用英語演習 III(その1)

2単位 3年(前期)

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】 To familiarise students with a) prosodic features of English b) English vocabulary and c) contemporary culture in English speaking cultures through listening to popular music.

【授業概要】 We will study the lyrics of popular music from the 1960s to the present day.

【キーワード】 *popular music, intonation, vocabulary, culture*

【履修上の注意】 A maximum of three absences will be permitted.

【到達目標】 An understanding of English prosodic features, and vocabulary

【授業計画】 1. Popular music in the 1960's 2. as above 3. as above 4. as above 5. as above 6. Popular music in the 1970s 7. as above 8. as above 9. as above 10. as above 11. Popular music in the 1980s 12. as above 13. as above 14. as above 15. Final Test 16. Feedback to Students

【成績評価】 Dictation of lyrics, Presentations

【再試験】 Possible

【教科書】 n/a

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219911>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用英語演習 III(その2)

2単位 3年(前期)

スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219912>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

実用英語演習 III (その2)

2単位 3年(後期)

福田, スティーブ・利久・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 This class formed to give students exposure to and practice with the English writing or speech-making process from collecting ideas to the final version. Students will learn how to build paragraphs and outlines, and proof-reading for English essays or speech presentations.

【授業概要】 English composition and speech presentation

【キーワード】 *essay writing, speech presentation, writing in English, speaking in English*

【先行科目】 『実用英語演習 III (その1)』(1.0, ⇒96頁), 『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒94頁), 『実用英語演習 I(その1)』(1.0, ⇒94頁)

【関連科目】 『実用英語演習 II(その1)』(0.5, ⇒95頁), 『実用英語演習 II(その2)』(0.5, ⇒95頁), 『実用英語演習・総論』(0.5, ⇒93頁)

【履修上の注意】 4つのクラス(水曜7-8/スティーブンス担当, 水曜3-4/フェネリー担当, 金曜5-6/早内ジュディス担当, 金曜7-8/マーシェソ担当)のうち, 1クラスを履修します。履修登録前に希望を聞いた上でクラ

ス指定をします。掲示に注意しておいてください。なお, この授業は学生個人では履修登録できません。

【到達目標】 By the end of this course, students should be able to write and present competently on almost any topic.

【授業計画】 1. Guidance for Each Class 2. Unit 7: Problem/ Solution Paragraph (1) 3. Unit 7: Problem/ Solution Paragraph (2) 4. Unit 8: The Structure of an Essay (1) 5. Unit 8: The Structure of an Essay (2) 6. Unit 9: Outlining an Essay (1) 7. Unit 9: Outlining an Essay (2) 8. Unit 10: Introduction and Conclusions (1) 9. Unit 10: Introduction and Conclusions (2) 10. Unit 11: Unity and Coherence (1) 11. Unit 11: Unity and Coherence (2) 12. Unit 12: Essay for Examination (1) 13. Unit 12: Essay for Examination (2) 14. Editing Your Essay or Preparation for Speech Presentation 15. Editing Your Essay or Preparation for Speech Presentation 16. Final Essay or Speech Presentation

【成績評価】 Final essay or speech presentation is an important component of this course, but weekly attendance, participation to class work, and homework are even more important. Tentative evaluation scheme: Weekly class participation, assignment, and homework (70%), Final essay or presentation (30%).

【再試験】 Yes, if you have attended more than 2/3 of the class weeks and if your score is 50% and over.

【教科書】 Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek. Success with College Writing: From Paragraph to Essay. Macmillan Languagehouse, 2003.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218672>

【連絡先】

⇒ 福田 (1号館2階2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

【備考】 All the four classes are taught by native speakers of English.

実用英語演習 III(その2)

2単位 3年(後期)

ポンドクリストファー・非常勤講師/全学共通教育センター
佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】 In today's global society the ability to communicate effectively in English is becoming ever more important. The goal of this course is to help students develop speaking and writing skills through the use of authentic activities.

【授業概要】 The classes are organised around themes and functions relevant to communicating in a global world. Students will participate in activities such as role-plays, discussions and presentations during class time. There will be a weekly written homework activity that is required preparation for the following weeks class. This will include authentic writing activities such as producing letters, emails, narratives and descriptions.

【到達目標】 The goal of this course is to help develop the students speaking and writing skills through the use of authentic activities

【授業計画】 1. Introduction to the course 2. Arguing your case. For and against 3. Arguing your case. For and against 4. Describing places. Making descriptions longer 5. Describing places. Making descriptions longer 6. Writing for talking. Discussion 7. Writing for talking. Discussion 8. Writing for talking. Discussion 9. Formal and informal letters. Talking about books 10. Formal and informal letters. Talking about books 11. Narrative writing. Practicing conversation. Making your point 12. Narrative writing. Practicing conversation. Making your point 13. Adding emphasis. Linking and commenting 14. Adding emphasis. Linking and commenting 15. Final presentation 16. Review and feedback

【成績評価】 Students will be evaluated on weekly attendance, participation in discussions, oral presentations, written homework and a final presentation

【再試験】 Allowable of the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher

【教科書】 A textbook is required for this class. New Headway, 3rd Edition, Upper Intermediate Student Book. Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780194392990,

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219913>

【連絡先】

⇒ ポンド .

実用英語演習 III(その2)

2単位 3年(後期)

福田, スティーブ・利久・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 Grasping a better command of academic reading, writing, and discussions.

【授業概要】 Students will decide on a new topic of choice concerning a social problem or current event to work with during the semester. With his or her social problem, the student will keep up with the news through newspapers, magazine and internet articles, internet blogs, or TV and movie documentary and films.

【キーワード】 *academic reading, academic writing, academic discussions*

【到達目標】 ①【知識・理解】 Students will learn how to use different forms of media for pursuing their studies. ②【汎用的技能】 Students will have a better command of academic reading and discussion skills. ③【態度・志向性】 Students will gain confidence in using academic readings and discussions and not shy away from opportunities to gather information in English. ④【統合的な学習経験と創造的思考力】 Students will become an expert in a social issue and gain the motivation to follow up on the issue from a disciplinary boundary as well.

【授業計画】 第1回:needs analysis and deciding a topic 第2回:finding information on your topic 第3回:learning how to read articles 第4回:learning to write and take notes 第5回:learning to present and discuss 第6-9回:discussing readings and writings 第10回:reflection of topic 第11-14回:discussing readings and writings 第15回:final presentations and report submission 第16回: final presentations and reflection

【成績評価】 Assessment will be based on reading and writing homework, class discussions, final presentations and reports. Teacher-student and student-student communication in class will be conducted in English. Students are recommended to think about or even choose a social problem before attending the first class.

【再試験】 none

【教科書】 none

【参考書】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219914>

【連絡先】

⇒ 福田 (1号館2階2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

実用英語演習 III(その2)

2単位 3年(後期)

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】 To familiarize students with a)prosodic features of the English language b) English vocabulary c)contemporary culture of English speaking countries through listening to popular music in English.

【授業概要】 We will study the lyrics of popular music in English from the 1990s to the present. This will help students understand English pronunciation, vocabulary and the culture of English speaking countries.

【キーワード】 *intonation, prosody, culture*

【履修上の注意】 A maximum of three absences will be permitted.

【到達目標】 To improve pronunciation, vocabulary, and understanding of culture in English speaking countries.

【授業計画】 1. Pop music in the 1990s 2. as above 3. as above 4. as above 5. as above 6. as above 7. as above 8. Pop music from 2000 to the present 9. as above 10. as above 11. as above 12. as above 13. as above 14. as above 15. Final Presentations 16. Feedback to Students

【成績評価】 Dictation of lyrics, Presentations

【再試験】 Possible

【教科書】 n/a

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219915>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用英語演習 III(その2)

2単位 3年(後期)

スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219916>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部1号館2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16:30-17:30 または 応相談)

実用ドイツ語演習 I(その1)

2単位 2年(前期)

井戸慶治・准教授/人間文化学科

【授業目的】 全学共通教育のドイツ語で習得した知識を基礎として、初級文法の不足している部分を補いながら、より実用的なレベルをめざす。今後の授業やゼミでドイツ語と関わるかもしれない人や、ドイツ語またはドイツ語一般に関心を持つ人の、さらなる自主的学習のための基礎固め・橋渡しとなれば幸いである。また、折に触れてドイツ語圏の文化や事情を、視聴覚教材なども用いて紹介するが、このことは英語圏の知識に偏らない健全な国際感覚を持つために有益であろう。

【授業概要】 この授業は、1) 専門の授業においてドイツ語を必要とするので、ドイツ語をメインにして「実用外国語演習」を履修したい人、または2) ドイツ語、またはドイツに関心があり、せつかく1年間履修したドイツ語の知識をもう少し確実なものにしておきたい人、のための授業である。全学共通教育のドイツ語初級を履修済みで、ドイツ語圏の言語や文化、社会に関心を持つ人であれば、所属コースにかかわらず受講を歓迎する。

【先行科目】 『ドイツ語/ドイツ語初級』(1.0)

【関連科目】 『実用ドイツ語演習 I(その2)』(0.5, ⇒98頁)

【到達目標】

1. ドイツ語初級文法の簡単な復習と補完を並行しておこない、基礎的知識を確実にする。
2. ドイツ語の読み書き話し聴く能力の基礎を習得する。
3. ドイツ語圏の事情や文化に触れる。

【授業計画】 1. 初級文法の復習と補完、初歩的な口語表現、初歩的なテキストの読解、簡単な独作文などが中心となるだろう。受講生が少数であることが予想されるため、具体的な内容については、受講生のレベルや希望、関心に応じて決定する。その参考とするために、最初の授業では、これまでに習った内容などについての簡単なアンケートをおこなう。2. ドイツ語圏の文化・社会に関する種々の情報の提供も試みるが、そのさい受講生の希望や関心にも応じたい。

【成績評価】 平常点(授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価)が中心になるが、他に、筆記の課題を課すこともある。また、前回の授業で習った(あるいは復習した)基本的な暗記事項などについて、小テストをおこなう。

【再試験】 なし。

【教科書】 何か一冊に決めて購入するか、必要に応じてプリントを配布する。4月初めごろの授業で決定する。

【参考書】 必要に応じて視聴覚教材や参考文献、あるいはそれからのコピーを提示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218686>

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時 3号館1階学習支援室)

実用ドイツ語演習 I(その2)

2単位 2年(後期)

依岡隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】 初級から中級程度のドイツ語を読み、簡単なドイツ語が運用できるようにする

【授業概要】 実用ドイツ語をブラッシュアップし、読む・書くの技能を中心に、中級程度のレベルを目指す。書くためにも、読むトレーニングは不可欠である。中級程度の教科書を適宜使用しながら、多様なドイツ語に触れられるようにする。

【キーワード】 ドイツ語、ドイツ文学、ドイツ語圏の文化、比較文化

【先行科目】 『実用ドイツ語演習 I(その2)』(1.0, ⇒98頁)

【到達目標】

1. 初級から中級程度のドイツ語が読み、簡単なドイツ語を実際に運用できる技能を身につけること。
2. 外国語の基本的運用能力と国際感覚の醸成。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 初級から中級程度のテキストの読解 3. ビデオ鑑賞などにより背景の文化・社会についての理解を深める

【成績評価】 授業への取り組みにもとづいて総合的に評価します。

【再試験】 なし。

【教科書】 小林和貴子ほか『Reise nach Fantasia ようこそファンタジーの世界へ』(同学社)、あるいは『Prismen』(東大教養部ドイツ語部会編)のテキストを適宜使用。

【参考書】 授業中に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218685>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時)

実用ドイツ語演習 II(その1)

2単位 3年(前期)

石川榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、実用ドイツ語 I での学習を基礎として、特に読む、聴くという言語運用能力の養成に重点を置く。

【授業概要】できる限り実際に使われているドイツ語のテキストや音声に触れる。基本的な実用テキストを独力で読める程度の読解力と、ゆっくり話される簡単なドイツ語を聞き取り、概略を理解する能力の獲得ができるようにする。

【キーワード】ドイツ語、読解力、会話、ヒアリング

【先行科目】『実用ドイツ語演習Ⅰ(その1)』(1.0, ⇒98頁)

【関連科目】『実用ドイツ語演習Ⅲ(その2)』(1.0, ⇒99頁)

【履修上の注意】国際文化と欧米言語の両コースで実用ドイツ語演習をメインに履修する学生は、Ⅱと並行してⅢを受講しなければならない。しかしそれ以外の学生は、実用ドイツ語Ⅰを4単位受講済みであることを条件に、2単位ごとに実用ドイツ語演習Ⅱを単独で受講することができる。またこの授業は、ドイツ語検定を受検したい学生にも適している。

【到達目標】ドイツ語を読み聴く実用的能力を身につけ、あわせてドイツの社会と文化を直接に知ることができるようになる。

【授業計画】1. グリム童話『ヘンゼルとグレーテル』講読とヒアリング(1) 2. グリム童話『ヘンゼルとグレーテル』講読とヒアリング(2) 3. グリム童話『ヘンゼルとグレーテル』講読とヒアリング(3) 4. グリム童話『ヘンゼルとグレーテル』講読とヒアリング(総まとめと小テスト) 5. 実用ドイツ語テキスト講読(1) 6. 実用ドイツ語テキスト講読(2) 7. 実用ドイツ語テキスト講読(3) 8. 実用ドイツ語テキスト講読(総まとめと小テスト) 9. グリム童話『灰かぶり』講読とヒアリング(1) 10. グリム童話『灰かぶり』講読とヒアリング(2) 11. グリム童話『灰かぶり』講読とヒアリング(3) 12. グリム童話『灰かぶり』講読とヒアリング(総まとめと小テスト) 13. 実用ドイツ語テキスト講読(4) 14. 実用ドイツ語テキスト講読(5) 15. 実用ドイツ語テキスト講読(6) 16. 実用ドイツ語テキスト講読(総まとめと小テスト)

【成績評価】授業への取り組み(50%)と授業の中でときどき行うミニテスト(50%)で評価する。

【再試験】有

【教科書】

- 特定の教科書は使用せず、プリントを配布する。
- 必ず辞書を持参すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219204>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時から16時)

実用ドイツ語演習Ⅱ(その2)

2単位 3年(後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】高度なドイツ語テキストを読めるようになる。なお自然科学分野の読み物を扱う予定である。

【授業概要】実用ドイツ語(「読む」編)

【キーワード】中級ドイツ語

【先行科目】『実用ドイツ語演習Ⅰ(その2)』(1.0, ⇒98頁)

【履修上の注意】初級文法をマスターしていること

【到達目標】基本的なテキストを、辞書を使って独力で読める程度の読解力、中級文法を身につけること。

【授業計画】1. 少人数授業が予想されるため、具体的な内容については、受講生のレベルや希望に合わせて考えていきたいと思えます。

【成績評価】通常の授業における努力の積み重ねで評価します。

【再試験】行う場合もあります。

【教科書】未定

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219205>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用ドイツ語演習Ⅲ(その1)

2単位 3年(前期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】この授業では、「実用ドイツ語演習Ⅰ」の後を受けて、特に「書く」「話す」という発信能力の養成に重点を置きます。一通りの文法知識に基づいて基本的なドイツ語を理解し、簡単なドイツ語の文を書き、簡単なドイツ語を話す能力を身につけることを目指します。しかし、話すことができるためには聞き取る力が必要ですし、作文の力を身につけるにはドイツ語文をたくさん読むことも必要です。

【授業概要】毎週一つのテーマ(買い物、天気、仕事、健康、マスメディア、旅行等々)を選び、それに関する語彙を身につけた後、ドイツ語による会話と作文の練習を行います。

【キーワード】実用ドイツ語、作文、会話

【履修上の注意】欧米言語、国際文化のいずれかのコースに所属し、「実用ドイツ語演習Ⅰ」をメインに履修する学生は、Ⅲと並行してⅡを受講しなければなりません。しかしそれ以外の学生は、「実用ドイツ語演習Ⅰ」を4単位履修済みであることを条件に、2単位毎に個別に受講することもできます。また、この授業は、「ドイツ語検定試験」を受検したい学生にも適しています。

習Ⅰ」を4単位履修済みであることを条件に、2単位毎に個別に受講することもできます。また、この授業は、「ドイツ語検定試験」を受検したい学生にも適しています。

【到達目標】一通りの文法知識に基づいて簡単なドイツ語文を書き、また簡単なドイツ語を使って意思表示をする能力を習得すること。

【授業計画】1. オリエンテーション～外国語の学び方について 2. 挨拶、自己紹介 3. 趣味、余暇の過ごし方 4. 住宅状況、学生の生活 5. 曜日、月、季節、祭りと祝日 6. 天候と関係ある表現、天気予報 7. 食事、飲み物 8. レストランにて、ビール、ワインの品種と選び方 9. 買い物をする 10. 過去の話 11. 旅行 12. ホテルで、道案内 13. 駅、空港、時刻表の読み方 14. 手紙、葉書の書き方 15. まとめと質疑応答 16. ドイツ、オーストリア、スイスの観光名所

【成績評価】授業中の口頭発表や提出物(作文課題)などによって総合的に評価します。

【再試験】行う場合もあります。

【教科書】特定の教科書は用いません。教材や資料は授業時に配付します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219207>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

実用ドイツ語演習Ⅲ(その2)

2単位 3年(後期)
ヘルバルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】この授業では、「実用ドイツ語演習Ⅰ」の後を受けて、特に「書く」「話す」という発信能力の養成に重点を置きます。一通りの文法知識に基づいて基本的なドイツ語を理解し、簡単なドイツ語の文を書き、簡単なドイツ語を話す能力を身につけることを目指します。しかし、話すことができるためには聞き取る力が必要ですし、作文の力を身につけるにはドイツ語文をたくさん読むことも必要です。

【授業概要】実用ドイツ語演習ⅢⅠ前期分の後を受けて、毎週一つのテーマ(買い物、天気、仕事、健康、マスメディア、旅行等々)を選び、それに関する語彙を身につけた後、ドイツ語による会話と作文(手紙や日記を含む)の練習を行います。作文については、家庭学習用の課題を出し、授業時に提出してもら場合もあります。毎週のテーマと関係している専門用語を学び会話練習し、ドイツ語の能力アップを目指す。

【キーワード】上級ドイツ語、実用外国語

【履修上の注意】欧米言語、国際文化のいずれかのコースに所属し、「実用ドイツ語演習Ⅰ」をメインに履修する学生は、Ⅲと並行してⅡを受講しなければなりません。しかしそれ以外の学生は、「実用ドイツ語演習Ⅰ」を4単位履修済みであることを条件に、2単位毎に個別に受講することもできます。また、この授業は、「ドイツ語検定試験」を受検したい学生にも適しています。

【到達目標】一通りの文法知識に基づいて簡単なドイツ語文を書き、また簡単なドイツ語を使って意思表示や意見交換をする能力を習得すること。

【授業計画】1. オリエンテーション、外国語の学び方について、辞書などの使い方 2. 挨拶、自己紹介、記憶ゲーム 3. 趣味、余暇の過ごし方、道楽、遊び 4. 住宅状況、学生の生活 5. 曜日、月、季節、祭り 6. 天候と関係ある表現、天気予報 7. 食事、飲み物、ドイツ料理 8. レストランにて、ビール、ワインの品種と選び方 9. 買い物する、服、流行 10. 過去の話、現在完了系 11. 休み、旅行、未来系 12. ホテルで、道案内 13. 駅、空港、時刻表の読み方 14. 手紙、葉書の書き方 15. 纏めと質疑応答 16. ドイツ、オーストリア、スイスの観光名所

【成績評価】授業中の口頭発表や提出物(作文課題)などについて総合的に評価します。

【再試験】無

【教科書】適宜プリントを配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219206>

【連絡先】

⇒ ヘルバルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:15h-17:30h (総合科学部1号館1階N06))

実用フランス語演習Ⅰ(その1)

2単位 2年(前期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】全学共通教育での授業は、文法的にはかなり高度な内容に達している。それをもとに、フランス語を実際に使えるように訓練する。

【授業概要】総合的・実用的なフランス語。

【キーワード】フランス語

【先行科目】『フランス語/フランス語初級』(1.0)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語入門および初級の単位を修得していること。

【到達目標】外国の事情をフランス語で情報収集できる能力と、日本の事情をフランス語で発信する能力の獲得。

【授業計画】1. 子ども向け新聞を読む。 2. かんたんなニュースを聴く。 3. 特定のテーマについて、フランス語で書く。 4. 簡単な議論をする。

【成績評価】授業への取り組みにもとづき、判断する。

【再試験】なし。

【教科書】コピーの形で配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218687>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

実用フランス語演習 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)

田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】大人になって始めた外国語について、仕方がないことなのだけれど悔しいのは、実際の知的レベルよりずっと低いこともわからなかったり言えなかったりすることです。母国語だったら小学生にも言えるようなことも、語彙が足りないためにわからない、うまく言えない、そんなフラストレーションを感じてしまいます。そろそろフランス語の雰囲気はつかめたという君。語彙を増やすためには、そろそろ自分の知的レベルにあったものを読み始めよう。聞き話せるようになるためにも、読んでことばの奥にあるもののとらえ方考え方に慣れるようにしましょう。

【授業概要】フランス語で読み、フランス語で発信する世界。

【キーワード】フランス語

【関連科目】『実用フランス語演習 II (その 1)』(0.5, ⇒100 頁)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。

【到達目標】外国の事情をフランス語で情報収集できる能力と、日本の事情をフランス語で発信する能力の獲得。

【授業計画】1. 音声や動画をを使って聞き取り、発音する能力を訓練します。音声教材としてはフランスのニュースや映画などの現在進行中の題材も使うようにします。2. 「知的な」会話は、「読む」「書く(文を構成する)」能力なしには成り立ちません。挨拶や天候、体調を尋ねるだけの会話(から始めなきゃならないにしても)からもっと中身のある会話に進むには話したい、聞きたいトピックスの語彙を持っていないければなりません。そこで、フランスの中学や高校の、公民や哲学、歴史の教科書などから抜粋したさまざまなトピックを読んで語彙を身につけます。3. そんな教科書の中に出てくる、例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などなどの語彙は、多かれ少なかれわれわれも中学校や高校で学び、そして今、大学で考えつつあることばです。日本語に直訳すれば自明の概念であったりします。だから訳語さえわかれば大丈夫、,、のはずだったんですが、4. いや、確かに横書きを縦書きに変えたり、縦書きを横書きに変えるだけで変換できるものもあります。でも思考方法として結構言語に規定されちゃう部分もあるんですね。日本語で話すためにいかにわれわれが日本の文化に寄りかかっているのか、外国語で読み、外国語で話す際、議論する時に思いがけず気づかされることもあります。外国語の議論を理解するためにこちらの想像力を動員する必要もあります。そういつたことも含めて考えましょう。

【成績評価】出席および授業中の発言を重視します。

【再試験】行いません。

【教科書】コピーを配布します。また音声や映像教材も使用します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218688>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 田島俊郎:木曜日12時から13時まで)

実用フランス語演習 II (その 1)

2 単位 3 年 (前期)

山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】たとえば就職活動で面接を受けたときに、「私は大学で少々フランス語をやっていました」などと言ったら、「じゃ、なんかしゃべって見て」と言われるのは必定です。そのときに、ちょっと怒いを帯びた感じで、「Sous le pont Mirabeau coule la Seine. Et nos amours . . .」などと言ってみましょう。感心されること請け合いです。また、我々が小中学校で古典の名文を暗唱するのと同じように、フランス人もフランスの名文を暗唱するようです。それで、フランス人と会う機会があったら、こちらが一つ二つ暗唱してやると喜ぶます。そこから話が弾んだりするかもしれません。というわけで、フランス語の名文をいくつか覚えておくことは大変に実用的だと思います。なるべくいろいろな構文の典型になるような文章を選んで覚えるようにします。そうすると、自分がしゃべるときに雛形になりますから、次の言葉が出てきやすくなると思います。もちろん、発音の練習としても最適。というわけで、フランス語の名文と言われるものをいくつか暗唱します。(当然、理解したうえで)。

【授業概要】実用フランス語(読解、発音、暗唱)

【キーワード】フランス語

【先行科目】『実用フランス語演習 I (その 1)』(0.8, ⇒99 頁), 『実用フランス語演習 I (その 2)』(0.8, ⇒100 頁)

【関連科目】『実用フランス語演習 III (その 1)』(0.8, ⇒100 頁), 『実用フランス語演習 III (その 2)』(0.8, ⇒101 頁)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語(2)を履修したか、それと同程度の知識を持っていることが必要です。(少なくとも辞書があればそれほど難解ではないフランス語が訳せるという程度)。ただし、実用フランス語 I は履修済みでなくてもよい。

【到達目標】フランス語の文章や詩の一節をいくつかすらすらと暗唱することができる。フランス語の歌をいくつか歌うことができる。フランス語の文章を聞いて書き取ることができる。フランス語の文章を読んで意味を理解することができる。

【授業計画】小説、哲学、詩など、名文と言われるようなフランス語の一節を読み、理解し、発音の練習を兼ねて暗唱します。フランス語の歌を歌う、フランス語を聞いて書き取るなどの練習もします。

【成績評価】授業中にそのときの課題をきちんとこなしているか、宿題の提出状況、暗唱のテスト、学期末テスト。以上を総合的に判断します。

【再試験】なし。

【教科書】コピーを配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218689>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

実用フランス語演習 II (その 2)

2 単位 3 年 (後期)

山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】たとえば就職活動で面接を受けたときに、「私は大学で少々フランス語をやっていました」などと言ったら、「じゃ、なんかしゃべって見て」と言われるのは必定です。そのときに、ちょっと怒いを帯びた感じで、「Il pleure dans mon coeur, comme il pleut sur la ville . . .」などと言ってみましょう。感心されること請け合いです。また、我々が小中学校で古典の名文を暗唱するのと同じように、フランス人もフランスの名文を暗唱するようです。それで、フランス人と会う機会があったら、こちらが一つ二つ暗唱してやると喜ぶます。そこから話が弾んだりするかもしれません。というわけで、フランス語の名文をいくつか覚えておくことは大変に実用的だと思います。なるべくいろいろな構文の典型になるような文章を選んで覚えるようにします。そうすると、自分がしゃべるときに雛形になりますから、次の言葉が出てきやすくなると思います。もちろん、発音の練習としても最適。というわけで、フランス語の名文と言われるものをいくつか暗唱します。(当然、理解したうえで)。

【授業概要】実用フランス語(読解、発音、暗唱)

【キーワード】フランス語

【先行科目】『実用フランス語演習 I (その 1)』(0.8, ⇒99 頁), 『実用フランス語演習 I (その 2)』(0.8, ⇒100 頁)

【関連科目】『実用フランス語演習 III (その 1)』(0.8, ⇒100 頁), 『実用フランス語演習 III (その 2)』(0.8, ⇒101 頁)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語(2)を履修したか、それと同程度の知識を持っていることが必要です。(少なくとも辞書があればそれほど難解ではないフランス語が訳せるという程度)。ただし、実用フランス語 I は履修済みでなくてもよい。

【到達目標】フランス語の文章や詩の一節をいくつかすらすらと暗唱することができる。フランス語の歌をいくつか歌うことができる。フランス語の文章を聞いて書き取ることができる。フランス語の文章を読んで意味を理解することができる。

【授業計画】小説、哲学、詩など、名文と言われるようなフランス語の一節を読み、理解し、発音の練習を兼ねて暗唱します。フランス語の歌を歌う、フランス語を聞いて書き取るなどの練習もします。

【成績評価】授業中にそのときの課題をきちんとこなしているか、宿題の提出状況、暗唱のテスト、学期末テスト。以上を総合的に判断します。

【再試験】なし。

【教科書】コピーを配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218690>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

実用フランス語演習 III (その 1)

2 単位 3 年 (前期)

長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】フランス語圏の社会や文化を理解したり、当地の人びととの交流をはかるには、実用的なフランス語能力を身につけることが不可欠である。この授業では、比較的長い文章をできるだけ日本語を介さず理解し、さらにはフランス語で発信する訓練をする。

【授業概要】実用フランス語(読解、作文、会話)

【キーワード】 フランス語, 言語
 【先行科目】 『実用フランス語演習Ⅰ(その1)』(1.0, ⇒99頁), 『実用フランス語演習Ⅱ(その1)』(1.0, ⇒100頁)
 【関連科目】 『実用英語演習Ⅰ(その1)』(0.5, ⇒94頁)
 【履修上の注意】 実用フランス語Ⅰ, 同Ⅱは履修済みでなくとも良いが, その場合, 積極的な自宅学習が望まれる。
 【到達目標】 中等教育後期程度のフランス語を駆使できること。
 【授業計画】 比較的平易な雑誌記事などを素材にして, それらを(読んで, もしくは聞いて)理解し, フランス語でまとめ, 論じる。また, 特定のテーマについて自身の意見をフランス語で述べる。
 【成績評価】 授業への取り組み(予習・復習も含める)をもとに評価する。
 【再試験】 なし
 【教科書】 教材は授業開始時に指示する。仏和辞典・和仏辞典はかならず購入すること。できれば, 仏辞典も利用しよう心がけてほしい。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218691>
 【連絡先】 ⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

実用フランス語演習Ⅲ(その2) 2単位 3年(前期)
 長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 フランス語圏の社会や文化を理解したり, 当地の人びととの交流をはかるには, 実用的なフランス語能力を身につけることが不可欠である。この授業では, 比較的長い文章をできるだけ日本語を介在させず理解し, さらにフランス語で発信する訓練をする。
 【授業概要】 実用フランス語(読解, 作文, 会話)
 【キーワード】 フランス語, 言語
 【先行科目】 『実用フランス語演習Ⅰ(その1)』(1.0, ⇒99頁), 『実用フランス語演習Ⅱ(その1)』(1.0, ⇒100頁)
 【関連科目】 『実用英語演習Ⅰ(その1)』(0.5, ⇒94頁)
 【履修上の注意】 フランス語の文法を一通り学び終えていることが, 受講の条件となる。文法の復習をする授業ではないので, この点に不安がある場合, 積極的な自宅学習が望まれる。
 【到達目標】 中等教育後期程度のフランス語を駆使できること。
 【授業計画】 比較的平易な雑誌記事などを素材にして, それらを(読んで, もしくは聞いて)理解し, フランス語でまとめ, 論じる。また, 特定のテーマについて自身の意見をフランス語で述べる。
 【成績評価】 授業への取り組み(予習・復習も含める)をもとに評価する。
 【再試験】 なし
 【教科書】 教材は授業開始時に指示する。仏和辞典・和仏辞典はかならず購入すること。できれば, 仏辞典も利用しよう心がけてほしい。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218692>
 【連絡先】 ⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

国際文化基礎演習(その1) 2単位 2年(前期)
 今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 現代世界の抱える諸問題から一つのテーマを選び出し, それをめぐって共同で調査し, それにもとづいて報告, 討論を行う。「能動的に参加し, 互いに学び合う」少人数型授業です。自分たちで資料を見つけ出し, 得られた情報を整理して報告にまとめ, 活発に討論を行うという, 現代の社会人に必須の技法も学びます。また, 「情報処理演習」で学んだ技法をプレゼンテーションにおいて生かす場でもあります。
 【授業概要】 この科目は「国際文化コース」の2年次に新たに分属する学生に対してのみ開講されます。該当する学生さんは4月初旬に一度相談に来てください。科目の概要については, その時に詳しく説明します。
 【キーワード】 テーマ設定, 情報収集, 共同調査, 口頭報告, 討論, 相互評価
 【履修上の注意】 受講生が主体となる演習ですから, 毎回出席し, 報告(準備)や討論に積極的に参加すること。
 【到達目標】 テーマ設定, 資料の収集・調査, 情報の整理と口頭報告, 討論などを不足なく行えること。
 【授業計画】 1. 第1回: 導入講義(1) 2. 第2回: 導入講義(2) 3. 第3回: 導入講義(3) 4. 第4回: 質疑応答 5. 第5回-第6回: テーマ設定 6. 第7回-第9回: 資料の収集・調査 7. 第10回-第14回: 口頭報告と討論, 発表会の準備 8. 第15回-第16回: 発表会と総括
 【成績評価】 口頭報告の準備とプレゼンテーションの充実度, 討論への参加の程度などの観点から総合的に評価します。
 【再試験】 行いません。
 【教科書】 特定の教科書は用いません。
 【参考書】 授業の中で随時, 紹介します。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218612>
 【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:30-18:00)

国際文化基礎演習(その2) 2単位 2年(後期)

【授業概要】 本科目は, 後期金曜1・2講時の「基礎ゼミナール」(1年次以上)によって読替えられます。受講が必要な諸君は, 同科目の「授業概要」を見てください。また, コース教務委員に相談してください。
 【キーワード】 共同調査, 口頭報告, 討論
 【先行科目】 『国際文化基礎演習(その1)』(1.0, ⇒101頁)
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218613>
 【連絡先】 ⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

国際文化基礎演習(その3) 2単位 3年(前期)
 今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 現代世界の抱える諸問題からあるテーマを選び出し, それをめぐって共同で調査・分析, 報告, 討論を行う。「能動的に参加し, 互いに学び合う」形式の少人数型授業です。自分たちでどのよう資料を見つけ出し, 得られた情報を整理して報告にまとめるか, ディスカッションをいかに生産的なものにするかといった, 現代の社会人に必須の技法も併せて学びます。また, 「情報処理演習」で学んだ技法をプレゼンテーションにおいて生かす場でもあります。
 【授業概要】 未定
 【履修上の注意】 この科目は2年生と3年生以上が受講します。平成16年度以前の入学生は計8単位, 平成17年度の入学生は計6単位を取得しなければなりません。発表も討論も学生が主体になりますから, 必ず出席し, 発表や討論に積極的に参加しなければなりません。
 【到達目標】 資料の調査・分析, 情報の整理と口頭発表, 討論, 発表や討論の記録作成などを不足なく行えること。
 【授業計画】 1. 第1回: 導入講義(1) 2. 第2回: 導入講義(2) 3. 第3回: 導入講義(3) 4. 第4回: 質疑応答, 各クラスでの打合せ 5. 第5回-第6回: テーマ設定 6. 第7回-第9回: 資料の収集・調査 7. 第10回-第14回: 口頭報告と討論, 発表会の準備 8. 第15回-第16回: 合同発表会
 【成績評価】 口頭発表の準備とプレゼンテーションの充実度, 討論への参加の程度, 発表や討論の記録作成への貢献などの観点から総合的に評価します。
 【再試験】 行いません。
 【教科書】 特定のものはありません。
 【参考書】 授業の中で紹介します。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218614>
 【連絡先】 ⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)
 【備考】 今年度は開講しない(2012年度開講)。

情報処理演習 2単位 2年(後期)

豊田 哲也・准教授/社会創生学科, 矢部 拓也・准教授/社会創生学科
 真岸 孝一・准教授/総合理数学科, 小野 公輔・准教授/総合理数学科
 佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 村上 公一・准教授/総合理数学科
 西山 賢一・准教授/総合理数学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科
 行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】 客観的なデータに基づく検証は科学における認識の基礎である。本授業では, 統計データを扱うための基本的な知識と技術を身につける。①表計算ソフト Excel の基本操作を習得する。②データの尺度や性質とそれにふさわしい基本統計量を理解する。③標準化や相関関係などデータ分析の基本を学ぶ。
 【授業概要】 Excelを使った統計分析入門
 【キーワード】 情報処理, 統計学, Microsoft Excel
 【履修上の注意】 受講生は前提として Windows 操作の基礎知識をすでに獲得していることが求められる。授業は講義と実習を組み合わせる。なお, 各回の内容に応じた課題を課す。また, 利用可能な端末の台数によって受講者を制限する可能性がある。
 【到達目標】 データの整理・分析に必要な知識, 技術を学ぶ。またデータ分析のためのソフトウェアを使いこなせるようになる。
 【授業計画】 1. ガイダンス: データの見方, 考え方 2. データの尺度と比率 (1): 質的データと量的データ, 静的比率と動的比率 3. データの尺度と比率 (2): 比率の計算, 表の作成 4. グラフの種類と表現 (1): グラフの特性と読み方 5. グラフの種類と表現 (2): データ加工とグラフの作成 6. 集計表の作成 (1): データベースの形式, 単純集計とクロス集計 7. 集計表の作成 (2): 質的データと因果関係, 媒介関係とコントロール変数 8. ヒストグラムと代表値 (1): データ分布表の作成,

累積相対度数 9. ヒストグラムと代表値 (2): 平均値, 中央値, 最頻値 10. データの散らばり (1): 分散, 標準偏差, 四分位値, 尖度, 歪度 11. データの散らばり (2): 正規分布, データの標準化 12. 2変数間の関係 (1): 散布図と相関係数, 因果関係と疑似相関 13. 2変数間の関係 (2): 回帰分析と最小二乗法, 決定係数, 残差 14. 推測統計学への道 (1): 母集団と標本 15. 推測統計学への道 (2): 統計的推定と検定 16. 授業のまとめ

【成績評価】課題の評価に授業に対する取組を加味して評価する。

【再試験】おこなわない

【教科書】なし, 各回の授業時にプリントを配布する, 参考資料は授業時に指示する。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/iprocessing/index.html>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219230>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~13:00)

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時~13 時)

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)

【教科書】特に指定しない。

【参考書】必要に応じて, 授業中に提示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218615>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】3 年前期

国際文化ゼミナール (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
佐久間亮・教授/人間文化学科

【授業目的】このゼミナールは歴史学を中心として, イギリスあるいは, かつて英帝国に組み込まれた地域 (アメリカ大陸を除く) について, 研究しようとする諸君向けに開設されるものである。ここでは, 旧来, 歴史学の研究テーマとされてきた政治, 経済, 思想のみならず, さまざまな社会現象, 音楽, 映画演劇, スポーツなど広い意味での文化活動, あるいは民俗なども対象とする。また, 現代のイギリス社会の諸問題について歴史的視点から考察することも可能である。これまでの学問の枠にとらわれない, 独自に温めているテーマをゼミに持ち寄って欲しい。前期は, 研究に必要な文献収集の方法, 発表の方法など技術的側面を中心とする。

【授業概要】イギリスの歴史と社会

【キーワード】史料収集, ディスカッション, 批判能力, 史料操作, プレゼンテーション

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒45 頁), 『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒129 頁), 『ヨーロッパ史特論 I』(1.0, ⇒130 頁)

【関連科目】『ヨーロッパ史特論 II』(1.0, ⇒130 頁), 『ヨーロッパ地域研究特論』(1.0, ⇒130 頁), 『アメリカ史特論』(1.0, ⇒130 頁)

【履修上の注意】総論を参照してください。2010 年度前期に開講します。

【到達目標】総論を参照してください。

【授業計画】基本的には 3, 4 年生とともに卒業論文作成に向けての研究をおこなう場であるが, 3 年生はそのための基礎訓練 (情報収集の方法, 研究報告のし方についての訓練, 基本文献の輪読), 4 年生は基本文献の輪読に参加するとともに, 卒論のテーマに絞った個別報告, ディスカッションをおこなう。

【成績評価】ディスカッションへの参加・貢献度, レポートなど。

【再試験】なし

【教科書】開講時に指示します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218616>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 12 時~13 時)

国際文化ゼミナール (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
依岡隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】この授業は主として比較文化研究で卒業研究を進めていくことを考えている学生を対象とする。従来の専門分野にとらわれず, 学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化の研究方法を紹介し, 学生各人が個々の問題意識から主体的にテーマを見つけ, 追求していく態度を養うことが, 授業の目的である。各人のテーマに関しては徹底的に研究し, かつそれを比較という観点から相対化して検証していくということで, より普遍的な文化現象に迫っていく方法を身につけてもらいたい。また, 卒業論文の指導もあわせて行う。

【授業概要】比較文化研究, 異文化理解, 卒業研究指導

【キーワード】比較文化, 異文化理解

【先行科目】『比較文化研究 (その 1)』(1.0, ⇒44 頁)

【関連科目】『国際文化基礎演習 (その 1)』(0.5, ⇒101 頁)

【履修上の注意】「比較文化研究」(依岡担当)を受講していることが望ましい。受講者は日々, 新聞や雑誌, 映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。二年間受講することを原則とするが, 必ずしも卒業研究のためではない学生の受講も認めることはある。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会への理解を深めること。卒業研究の完成。

【授業計画】1. 1. 比較文化という専門について, その意義, 内容, 領域, 方法などについて, 文献講読などを通して, 明らかにしていく。2. 2. 各人が文化に関する自分のテーマを見つけ, 深めていくため, 最近の出来事の中から文化トピックについて適宜報告してもらう。3. 3. 比較文化関係の文献を講読し, 発表させる。レジュメ・資料作成と口頭発表の訓練をし, 発表後はそれをレポートとして提出してもらう。テーマは近代化と文化受容の問題や文化の雑種性の問題, 越境する文化の問題など。4. 4. 論文作成のための基本的な訓練をする。(図書館での実習, インターネットによる検索や文書作成, 研究計画の立案や論文の構成, まとめ方を学ぶ。) 5. 5. 野外実習などは適宜行う。(ドイツ館, モラエス館, 徳島文学・書道館など)

国際文化ゼミナール (総論)

2 単位

3 年 (前期, 後期), 4 年 (前期, 後期)

国際文化コース全教員

【授業目的】卒業論文作成へ向けての専門研究のためのゼミナールです。3 年次以降に, このゼミナールを通じてみなさんは個別テーマの研究に着手することになります。国際文化コース所属の全教員が担当し, 研究領域に応じて複数のクラスを開講します。具体的な目的と趣旨, 内容については各開設クラスのシラバスをご覧ください。

【履修上の注意】国際文化コースの学生は 3-4 年次に計 8 単位履修しなければなりません。時間割上は火曜 9-10 講時と水曜 9-10 講時に開講しますが, クラスによってそのいずれかのみで実施します。みなさんは選択したクラスによって, いずれかの曜日に受講することになります。

【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。

【授業計画】各開講クラスのシラバスを参照。

【成績評価】各開講クラスのシラバスを参照。

【再試験】各開講クラスのシラバスを参照。

【教科書】各開講クラスのシラバスを参照。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219151>

【連絡先】

⇒ 国際文化コース全教員

国際文化ゼミナール (その 1)

2 単位 3 年 (前期)

吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】この授業は, 近・現代の英語圏または日本の文化や社会を中心に卒業研究を進めたいと計画している学生を主な対象とする。担当教官の専門分野は, 現代アイルランド英語文学であるが, 近代または現代の日本や英語圏の映画, 小説, 歌, 演劇, 詩, 児童文学などの作品やメディアなどを研究の素材とすることを希望する学生には柔軟に対応していきたい。特に, 作品やそれを伝えるメディアが社会・時代の現状をどのように反映しているのか, あるいは社会や個人にどのような影響を与えうるかについて考察していくことが主な目的となるであろう。

【授業概要】英語圏または日本の文化現象を対象とした研究指導

【到達目標】「国際文化ゼミナール総論」を参照すること。

【授業計画】3 年次では, 担当教官の指定するテキストの講読などを中心し, 各自が研究対象とする作品・テーマを見つけることが主眼となる。英語圏の作品を研究対象とする場合に必要ない言語能力を身につけるための訓練もできるかぎりおこなう。4 年次では, 選んだ作品・テーマについて研究をさらに進めていく。

【成績評価】毎週の研究報告と授業への出席 50%, レポート提出 50% の比率で評価を決める。

【再試験】行わない。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有り

【教科書】

- ◇ 教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリントなどを配布するなどして準備する。参考書として、竹内実・西川長夫編『比較文化キーワード』上・下、サイマル出版会、1994年。
- ◇ 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、2000年。
- ◇ 新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社、1997年。

【参考書】依岡隆児『読書のススメ～四国から、グローバルに～』（徳島新聞社）

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218617>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から12時50分まで。)

【備考】17年度前期。

国際文化ゼミナール (その1)

2単位 3年(前期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】欧米の社会と文化や歴史を、様々なレベルでとらえて研究する。宗教や哲学、法律や政治・経済、言語から文学、演劇、絵画、さらには映画や音楽などの現象まで、ヨーロッパやアメリカを特徴づける様々な事象を考察の対象とします。

【授業概要】フランス語圏を中心とする文化についての多面的考察

【キーワード】フランス文学、フランスの文化、言語

【先行科目】『実用フランス語演習 I (その1)』(1.0, ⇒99頁)

【関連科目】『実用フランス語演習 II (その1)』(0.5, ⇒100頁), 『フランス語圏文化論 (その1)』(0.5)

【履修上の注意】国際文化コースの学生は3・4年次に計8単位履修しなければなりません。時間割上は水曜9-10講時に開講します。

【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。

【授業計画】授業の具体的なテーマは受講者諸君の興味を聞いて決定しますが、フランス語の原書を講読することになるでしょう。テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます。

【成績評価】講読や発表の担当の分担、講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】なし。

【教科書】受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218618>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 田島俊郎:水曜日16時30分から17時30分)

国際文化ゼミナール (その1)

2単位 3年(前期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【授業概要】歴史のダイナミックな動向あるいは日常的社会現象に潜む問題を対象に、その歴史的・社会的背景、人びとの反応、あるいは権力の問題—たとえば「中心」と抑圧される「周縁」との間の線引きの問題—などを探求し、それを通じて現代世界や歴史に対する見方が変わるという体験をしよう。「歴史・社会」サブコースの授業科目や「ゼミ」はそのためにあるのだと思います。そのようなことを念頭に、ヨーロッパ(英・仏以外)の歴史、現代のヨーロッパや日本の問題に関心のある方は、一緒に勉強できるかもしれないと思っています。これまでに在籍したゼミ生の卒業研究のテーマは、例えば次のようなものです。これらは全てゼミ生が自分で選んだもので、私が特に勧めたわけではありません: 中世史関係(ヨーロッパの都市共同体における兄弟団・賤民)、民族問題関係(ヨーロッパに流入したロマニに対する差別とイメージの問題、トルコのクルド人問題、ルワンダのツチとフツの抗争とエスニシティの政治化)、ナチス関係(青少年組織と反抗青年、優生学と強制断種・「安楽死」、医学の犯罪・ホロコーストと戦後責任)、社会主義関係(チェコスロヴァキアの民主化とソ連の武力介入、東独の民主化革命とキリスト教会)、ドイツ現代社会関係(トルコ人労働者の流入と長期滞在に関わる問題、「再統一」後の極右の台頭と外国人排斥)、ヨーロッパ統合関係(EUとイスラームの関係、現代世界関係(食糧危機と援助の問題))。

【キーワード】近現代ヨーロッパ、歴史研究、社会研究、卒業研究

【先行科目】『国際文化基礎演習 (その1)』(1.0), 『国際文化基礎演習 (その2)』(1.0)

【関連科目】『国際文化基礎演習 (その1)』(0.5, ⇒101頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(0.5, ⇒46頁), 『ヨーロッパ地域研究特論』(0.5, ⇒130頁), 『ヨーロッパ社会研究 III』(0.5)

【履修上の注意】「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【到達目標】「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【授業計画】1. 3年次前期には、いくつかの日本語文献を共通のテキストとして、一緒に読みながら内容を理解し、論点を確認するという作業を中心に行います。その際、重要な事象、概念、人名、地名などについては、参考図書を使って調べてきてもらいます。テキストは、受講者の関心を考慮に入れて選びたいと思います。また、この時期に文献・資料の調査・収集の方法についても学習します。4年次では、卒業論文へ向けての研究が中心となるでしょう。なおゼミで、あるいは卒業研究のために英語やドイツ語の文献を読むかどうかは、受講者の意欲と研究テーマによります。2. ゼミの時間には、予め用意してもらったレジュメにもとづき、まず基本的な報告をしてもらいます。続いて、報告内容について質疑応答や討論を行います。3. ときおり、論説文の内容を要約し、論点を整理したペーパーを提出してもらい、添削するという読解・文章表記の練習も行おうと思います。4. 卒業研究についてはいろいろと相談に乗りますが、研究テーマ自体は自由に選んで、自主的・積極的に勉強を進めてほしいと思います。どのようなテーマを選ぶにしろ、各自の問題意識を大切に、視野はできるだけ広く、同時に研究対象は具体的に絞り込んで、それをできるだけ深く掘り下げる、ということを目指したいと思います。自分の研究を最終的に卒業論文にまとめていくために、ゼミを通じて文献・資料の綿密な調査・読解と併せ、調べたことを自分なりに整理し、報告する手法にも習熟してほしいと思います。

【成績評価】毎回の課題へのとりくみ方、討論への参加の程度などの観点から総合的に評価します。

【再試験】行いません。

【教科書】特定の教科書は用いません。

【参考書】教材・参考文献等は随時、配付もしくは紹介します。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai/staff3.html>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218619>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

【備考】◇2011年度前期開講 ◇(金)9-10

国際文化ゼミナール (その1)

2単位 3年(前期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】日本社会および他の社会の諸現象、特に家族に関する事象、貧困や差別問題について分析・考察を行う。

【授業概要】「総論」を参照。

【履修上の注意】「総論」を参照。

【到達目標】「総論」を参照。

【授業計画】1. 受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び、その関連の文献を発表し、それをもとに討議する形式をとる。同時に、文献や資料の探し方、調査方法、分析方法、論文の構成など、論文作成の「基本」を勉強する。2. 受講者には、3年次の終わりに、卒業論文のテーマと方法を絞ってもらい、4年次のはじめに卒業論文の章構成案を決定し、各章を順番に発表してもらって卒業論文指導を進めたい。3. 上記に加えて、アメリカのホームレスや児童虐待問題などに関心をもち、現場を是非、自分の目でみたいという受講者がいる場合は、希望に応じて4年次にアメリカの大学のゼミとの交流プログラムや現地での現場見学を準備したい(渡航滞在費用は自己負担)。通訳に全面的に頼らず、できれば片言でも自分で話しかけることができれば見えてくるもの大きいと思います。4. 外国語の応用が苦手という言葉のハンディだけが原因で、自国文化以外の文化を体験する機会が制限を受けるという状況は、非常に残念なことです。このゼミナールの受講者には、できれば英語の実践能力を高め、文献と現場の両方から、社会や文化をみる目を養い、自分の職業や将来の人生設計に役立ててもらいたいと願っています。

【成績評価】「総論」を参照。

【再試験】「総論」を参照。

【教科書】卒業論文作成に向けたゼミであることから、受講者各自が、基本文献や資料を探し、読み、自分の関心や問題意識を絞っていくことが必要になります。そのために担当者も、個々の受講者の関心にそったトピック毎の必読文献を積極的にアドバイスしていきたいと考えています。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218620>

【連絡先】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日 11時50分～12時50分)

【備考】17年度前期

国際文化ゼミナール (その1)

2単位 3年(前期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

国際文化ゼミナール (その1)

2 単位 3 年 (前期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 哲学的に思考するための態度と知識と技術を身に付ける。
【授業概要】 フランス近代哲学・科学論などを中心に読書を進め、講義時間にはその週に自分が勉強してきたことを発表してもらい、それをともに議論する。
【キーワード】 哲学
【先行科目】 『哲学思想基本研究 I (その1)』(0.8, ⇒124 頁)
【関連科目】 『人間と生命/認知哲学』(0.3), 『ヨーロッパ思想研究』(0.3, ⇒123 頁), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.1)
【履修上の注意】 「総論」を参照。
【到達目標】 「総論」を参照。
【授業計画】 テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます。
【成績評価】 講読や発表の担当の分担、講義中の態度などから総合的に判断します。
【再試験】 なし。
【教科書】 受講者と相談の上決定します。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218626>
【連絡先】
 ⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 10:30~11:30)

国際文化ゼミナール (その1)

2 単位 3 年 (前期)
スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

- 【授業目的】** この国際文化ゼミナール (その1) の内容は、欧米言語ゼミナール (その1) の内容と同じです。欧米言語ゼミナール (その1) のページをご覧ください。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219144>
【連絡先】
 ⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

国際文化ゼミナール (その1)

2 単位 3 年 (前期)
スタージドナルド・講師/人間文化学科

- 【授業目的】** この国際文化ゼミナール (その1) の内容は、欧米言語ゼミナール (その1) の内容と同じです。欧米言語ゼミナール (その1) のページをご覧ください。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219145>
【連絡先】
 ⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

国際文化ゼミナール (その2)

2 単位 3 年 (後期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

- 【授業目的】** この授業は、近・現代の英語圏または日本の文化や社会を中心に卒業研究を進めたいと計画している学生を主な対象とする。担当教官の専門分野は、現代アイルランド英語文学であるが、近代または現代の日本や英語圏の映画、小説、歌、演劇、詩、児童文学などの作品やメディアなどを研究の素材とすることを希望する学生には柔軟に対応していきたい。特に、作品やそれを伝えるメディアが社会・時代の現状をどのように反映しているのか、あるいは社会や個人にどのような影響を与えうるかについて考察していくことが主な目的となるであろう。
【授業概要】 英語圏または日本の文化現象を対象とした研究指導
【到達目標】 「国際文化ゼミナール総論」を参照すること。
【授業計画】 3 年次では、担当教官の指定するテキストの講読などを中心に、各自が研究対象とする作品・テーマを見つけることが主眼となる。英語圏の作品を研究対象にする場合に必要言語能力を身につけるための訓練もできるかぎりおこなう。4 年次では、選んだ作品・テーマについて研究をさらに進めていく。
【成績評価】 毎週の研究報告と授業への出席 50%, レポート提出 50% の比率で評価を決める。
【再試験】 行わない。
【教科書】 特に指定しない。
【参考書】 必要に応じて、授業中に提示する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218628>
【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 3 年後期

国際文化ゼミナール (その2)

2 単位 3 年 (後期)
佐久間 亮・教授/人間文化学科

- 【授業目的】** このゼミナールは歴史学を中心として、イギリスあるいは、かつて英帝国に組み込まれた地域 (アメリカ大陸を除く) について、研究しようとする諸君向けに開設されるものである。ここでは、旧来、歴史学の研究テーマとされてきた政治、経済、思想のみならず、さまざまな社会現象、音楽、映画演劇、スポーツなど広い意味での文化活動、あるいは民俗なども対象とする。また、現代のイギリス社会の諸問題について歴史的視点から考察することも可能である。これまでの学問の枠にとらわれない、独自に温めているテーマをゼミに持ち寄って欲しい。後期は、個別報告を中心にすすめ、卒論提出間近の 4 年生には、最後は個別面談で研究作成の助言指導をおこなう。
【授業概要】 イギリスの歴史と社会
【キーワード】 史料収集, ディスカッション, 批判能力, 史料操作, プレゼンテーション
【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒45 頁), 『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒129 頁), 『ヨーロッパ史特論 I』(1.0, ⇒130 頁)
【関連科目】 『ヨーロッパ史特論 II』(1.0, ⇒130 頁), 『ヨーロッパ地域研究特論』(1.0, ⇒130 頁), 『アメリカ史特論』(1.0, ⇒130 頁)
【履修上の注意】 総論を参照してください。2010 年後期に開講します。
【到達目標】 総論を参照してください。
【授業概要】 基本的には 3, 4 年生ともに卒業論文作成に向けての研究をおこなう場であるが、3 年生はそのための基礎訓練 (情報収集の方法、研究報告のし方についての訓練、基本文献の輪読), 4 年生は基本文献の輪読に参加するとともに、卒論のテーマに絞った個別報告、ディスカッションをおこなう。
【成績評価】 ディスカッションへの参加・貢献度、レポートなど。
【再試験】 なし
【教科書】 開講時に指示します。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218629>
【連絡先】
 ⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 12 時~13 時)

国際文化ゼミナール (その2)

2 単位 3 年 (後期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

- 【授業目的】** この授業は主として比較文化研究で卒業研究を進めていくことを考えている学生を対象とする。従来の専門分野にとらわれず、学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化の研究方法を紹介し、学生各人が個々の問題意識から主体的にテーマを見つけ、追求していく態度を養うことが、授業の目的である。各人のテーマに関しては徹底的に研究し、かつそれを比較という観点から相対化して検証していくということで、より普遍的な文化現象に迫っていく方法を身につけてもらいたい。また、卒業論文の指導もあわせて行う。
【授業概要】 比較文化研究, 異文化理解, 卒業研究指導
【キーワード】 比較文化, 異文化理解
【先行科目】 『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒44 頁)
【関連科目】 『国際文化基礎演習 (その1)』(0.5, ⇒101 頁)
【履修上の注意】 「比較文化研究」(依岡担当)を受講していることが望ましい。受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養っていつてもらいたい。二年間受講することを原則とするが、必ずしも卒業研究のためではない学生の受講も認めることはある。
【到達目標】 比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会への理解を深めること。卒業研究の完成。
【授業計画】 1. 1. 比較文化という専門について、その意義、内容、領域、方法などについて、文献講読などを通して、明らかにしていく。 2. 2. 各人が文化に関する自分のテーマを見つけ、深めていくため、最近の出来事の中から文化トピックについて適宜報告してもらう。 3. 3. 比較文化関係の文献を講読し、発表させる。レジュメ・資料作成と口頭発表の訓練をし、発表後はそれをレポートとして提出してもらう。テーマは近代化と文化受容の問題や文化の雑種性の問題、越境する文化の問題など。 4. 4. 論文作成のための基本的な訓練をする。(図書館での実習、インターネットによる検索や文書作成、研究計画の立案や論文の構成、まとめ方を学ぶ。) 5. 5. 野外実習などは適宜行う。(ドイッ館, モラエス館, 徳島文学・書道館など)
【成績評価】 出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。
【再試験】 有り
【教科書】

- ◇ 教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリントなどを配布するなどして準備する。参考書として、竹内実・西川長夫編『比較文化キーワード』上・下、サイマル出版会、1994年。
- ◇ 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、2000年。
- ◇ 新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社、1997年。

【参考書】依岡隆児『読書のススメ～ 四国から、グローバルに～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218630>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から12時50分まで。)

【備考】17年度後期。

国際文化ゼミナール (その2)

2単位 3年(後期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】 欧米の社会と文化や歴史を、様々なレベルでとらえて研究する。宗教や哲学、法律や政治・経済、言語から文学、演劇、絵画、さらには映画や音楽などの現象まで、ヨーロッパやアメリカを特徴づける様々な事象を考察の対象とします。

【授業概要】 フランス語文化圏についての多面的考察

【キーワード】 フランス文学、フランス文化、言語

【先行科目】 『実用フランス語演習 I (その1)』(1.0)

【関連科目】 『フランス語圏文化論 (その1)』(0.5), 『実用フランス語演習 III (その1)』(0.5, ⇒100頁)

【履修上の注意】 国際文化コースの学生は3・4年次に計8単位履修しなければなりません。時間割上は水曜9-10講時に開講します。

【到達目標】 卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。

【授業計画】 授業の具体的なテーマは受講者諸君の興味を聞いて決定しますが、フランス語の原書を講読することになるでしょう。テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます。

【成績評価】 講読や発表の担当の分担、講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218631>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 田島俊郎:水曜日16時20分~17時30分)

【備考】2008(平成20)年度後期。

国際文化ゼミナール (その2)

2単位 3年(後期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 フランス語圏の社会を研究する。担当教員の専門はフランス近現代史だが、ゼミで扱うテーマは歴史に限定されない。

【キーワード】 フランス、歴史

【履修上の注意】 「総論」を参照。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 「その1」を参照。

【成績評価】 同上。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218632>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 長井伸仁:水曜日11時50分から12時50分)

【備考】24年度後期

国際文化ゼミナール (その2)

2単位 3年(後期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 ゼミナールという授業の性格から考えて、担当教師の専門や関心のありかを紹介して、それに興味のある学生諸君にこのゼミナールを受講してもらうのが本来でしょう。サブコースでいうと「哲学・思想」ということですが、なかでもわたしが専門としているのは古代ギリシアの哲学で、特にプラトンやプロティノスを読んでいます。それ以外に興味があり、少しは勉強もしたものといえば、新・旧約聖書、言葉をかえると、古代イスラエルの宗教思想やキリスト教思想ということになり、それとの比較という点から、仏教の思想にも関心をもっています。さらに関心のある哲学者の名前を挙げると、中世ではアウグスティヌス、アンセルムス、トマス・アクィナス、近世ヨーロッパではスピノザ、ライブニッツやフィヒテ、シェリングなどということになります。しかし、哲学というのは、本来、何でも屋とい

うか欲張りなところがある学問で、思想的な問題であれば、何であれそれに取り組み、勉強を始めるという意欲は、わたしも持っているつもりです。そうした点からすれば、諸君に何か思想的な興味があれば、それを一緒に勉強することもできるわけで、上に挙げた分野や哲学者の名前にはこだわらずに、哲学や思想に関心のある諸君が広く受講してくれば、わたしとしても嬉しく思います。なお、国際文化ゼミナール(総論)の[目的]の部分も読んでください。

【授業概要】 哲学・思想分野のゼミナール

【キーワード】 正攻法、ゆっくり急げ

【履修上の注意】 国際文化ゼミナール(総論)の[注意]の部分を参照のこと。平成13年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 1. ゼミナールの具体的なテーマや授業の計画は、受講生諸君の実際の希望を聞いてから決定します。2. 授業は15週行い、16週目は成績評価と評価の講評にあてて。

【成績評価】 ゼミに対する取り組みの姿勢によって評価する。もちろん、口頭発表やレポートも評価の対象になります。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218633>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部1号館1N11室(北棟1階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 吉田昌市:水曜日12時から13時)

【備考】2011年度後期

国際文化ゼミナール (その2)

2単位 3年(後期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 哲学的に思考するための態度と知識と技術を身に付ける。

【授業概要】 フランス近代哲学・科学論などを中心に読書を進め、講義時間にはその週に自分が勉強してきたことを発表してもらい、それをもとに議論する。

【キーワード】 哲学

【先行科目】 『哲学思想基本研究 I (その1)』(0.8, ⇒124頁)

【関連科目】 『人間と生命/認知哲学』(0.3), 『ヨーロッパ思想研究』(0.3, ⇒123頁), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.1)

【履修上の注意】 「総論」を参照。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます。

【成績評価】 講読や発表の担当の分担、講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218634>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育4号館404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

国際文化ゼミナール (その2)

2単位 3年(後期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【授業概要】 歴史のダイナミックな動向あるいは日常的社会現象に潜む問題を対象に、その歴史的・社会的背景、人びとの反応、あるいは権力の問題—例えば「中心」と抑圧される「周縁」との間の線引きの問題—などを探求し、それを通じて現代世界や歴史に対する見方が変わるという体験をせよ。「歴史・社会」サブコースの授業科目や「ゼミ」はそのためにあるのだと思います。そのようなことを念頭に、ヨーロッパ(英・仏以外)の歴史、現代のヨーロッパや日本の問題に関心のある方は、一緒に勉強できるかもしれないと思っています。

【キーワード】 近現代ヨーロッパ、歴史研究、社会研究、卒業研究

【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(1.0, ⇒46頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ地域研究特論』(0.5, ⇒130頁), 『ヨーロッパ社会研究 III』(0.5, ⇒129頁)

【履修上の注意】 「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【到達目標】 「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【授業計画】 1. 3年次前期には、いくつかの日本語文献を共通のテキストとして、一緒に読みながら内容を理解し、論点を確認するという作業を中心に行います。その際、重要な事象、概念、人名、地名などについては、参考図書を使って調べてきてもらいます。テキストは、受講者の関心を考慮に入れつつ選びたいと思います。また、この時期に文献・資料の調査・収集の方法についても学習します。2. 3年次後期

には、前期と同じような学習に加えて、卒業研究のテーマを決め、研究をスタートしてもらいます。3. ときおり論説文の内容を要約し、論点を整理したペーパーを提出してもらい、添削するという読解・文章表記の練習も行おうと思います。4. 4 年次後期には、「卒業研究中間発表会」を経て、よいよ卒業論文をまとめていくこととなります。なおゼミで、あるいは卒業研究のために英語やドイツ語の文献を読むかどうかは、受講者の意欲と研究テーマによります。5. ゼミの時間には、予め用意してもらったレジュメにもとづき、まず基本的な報告をしてもらいます。続いて、報告内容について質疑応答や討論を行います。6. 卒業研究についてはいろいろと相談に乗りますが、研究テーマ自体は自由に選んで、自主的・積極的に勉強を進めてほしいと思います。どのようなテーマを選ぶにしろ、各自の問題意識を大切に、視野はできるだけ広く、同時に研究対象は具体的に絞り込んで、それをできるだけ深く掘り下げる、ということを目指したいと思います。自分の研究を最終的に卒業論文にまとめていくために、ゼミを通じて文献・資料の綿密な調査・読解と併せ、調べたことを自分なりに整理し、報告する手法にも習熟してほしいと思います。

【成績評価】 毎回の課題へのとりくみ方、討論への参加の程度などの観点から総合的に評価します。

【再試験】 行いません。

【教科書】 特定の教科書は用いません。

【参考書】 教材・参考文献等は随時、付随もしくは紹介します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218635>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

【備考】 ◯2011 年度後期開講 ◯(金)9・10

国際文化ゼミナール (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】 アメリカおよび日本社会の諸現象、特に家族に関する事象や貧困問題を分析し考察を行う。

【授業概要】 受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び、その関連の文献を発表し、それをもとに討議する形式をとる。同時に、文献や資料の探し方、調査方法、分析方法、論文の構成など、論文作成の「基本」を勉強する。

【履修上の注意】 外国語の応用が苦手という言葉のハンディだけが原因で、自国文化以外の文化を体験する機会が制限を受けるという状況は、非常に残念なことです。このゼミナールの受講者には、できれば英語の実用能力を高め、文献と現場の両方から、社会や文化をみる目を養い、自分の職業や将来設計に役立ててもらいたいと願っています。

【到達目標】

1. 受講者には、3 年次の終わりに、卒業論文のテーマと方法のある程度絞ってもらい、4 年次のはじめに卒業論文の章構成案を決定し、各章を順番に発表してもらって卒業論文指導を進めたい。
2. 上記に加えて、アメリカのホームレスや児童虐待問題などに関心をもち、現場を是非、自分の目でみたいという受講者が場合は、希望に応じて 4 年次にアメリカの大学のゼミとの交流プログラムや現地での現場見学を準備したい(渡航滞在費用は自己負担)。通訳に全面的に頼らず、できれば片言でも自分で話しかけることができれば見えてくるものがあると思います。

【成績評価】 「総論」を参照。

【再試験】 「総論」を参照。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218636>

【連絡先】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日 11時50分~12時50分)

【備考】 17 年度後期

国際文化ゼミナール (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 卒業論文作成へ向けて、文献検索の仕方や論文の読み方・論文作成の指導を行う。受講生は、3 年次以降に、このゼミナールを通じて個別テーマの研究に着手することになる。国際文化コース所属の全教官が担当し、研究領域に応じて複数のクラスを開講する。これは特に哲学・思想サブコースに関わるゼミナールである。

【授業概要】 哲学思想に関する諸問題を扱う。哲学・宗教・文学など、さまざまなジャンルのテーマを各人の関心・興味により自由に考察する。

【キーワード】 哲学, 思想, 倫理

【履修上の注意】 月に 1 ないし 2 回の発表があるので、何を発表するか、準備しておく必要がある。発表はつねにレジュメを用意すること。

【到達目標】 卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。

【授業計画】 1. 哲学思想に関わる文献と一緒に読むと共に、参加学生諸君の話し合いにより、参加学生が発表をローテーションで行い、それ

を中心に討論によって進めていく。2. 参考のためにこれまでの発表題目の例を挙げると次の通りである。(1)「言語」という夢一言語に関する幾つかの誤解の解消のために(2)日本人の宗教「的」意識について(4)哲学・政治・人道(5)現実とは何か一荘周の認識論(6)スピノザ哲学の考察一決定論と自由の整合性から(7)バリ島の宗教(8)グレゴリオ聖歌について(9)イスラム教と悪魔について(10)ヨブ記について(11)ミケランジェロによる三体のピエタ

【成績評価】 発表したレジュメと出席で評価する。

【再試験】 無し

【教科書】 資料・レジュメは各自で用意する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218637>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

国際文化ゼミナール (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 最近、情報科学分野において、人文科学(哲史文)に分類されてきた対象が積極的に取り上げられつつあります。そこで、情報科学と人文科学の接点について考察します。

【授業概要】 情報科学と人文科学

【キーワード】 データマイニング, テキストマイニング, 統計学

【到達目標】 対象を形式的に考察、解析するテクニックを習得する。

【授業計画】 1. データベース, プログラミング, データ解析について総合的に触れる。2. 未定だが、Playstation3 を使った PPE/SPE プログラミングにも挑戦したい

【成績評価】 演習の成果

【再試験】 なし

【教科書】 未定

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218638>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時から12時50分)

【備考】 18 年度後期。

国際文化ゼミナール (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】 このゼミナールでは、日本とヨーロッパの文化や社会について、その共通点や相違点、および関係についてともに考えます。そこでは、表面に現れた現象だけを単純に比較するのではなく、その現象の背景となっている社会のありさまを掘り下げて、構造的に理解することをめざします。

【授業概要】 日本と現代ヨーロッパの社会文化研究。テーマ領域としては学校教育、環境保護、スポーツ、音楽などが考えられますが、テーマはできる限り受講者諸君の希望に応じます。外国の文化を知る上で最も良い方法の一つは、直接、相手の国の人々と交流することでしょう。桂はドイツの学校や各種団体と交流を続けていますが、参加者からの希望があれば、学生諸君にも、種々のかたちでこのような交流に参加する機会を提供します。インターネットによる交流、さらにできれば現地での交流など(交流は英語を媒介語として行なうことができます)。

【キーワード】 卒業研究につながるゼミナール, 比較文化的関心を深める

【履修上の注意】 ヨーロッパへの関心, 比較文化的な関心を持つ受講者を歓迎します。

【到達目標】 ヨーロッパの社会や文化における種々の現象を、具体的かつ構造的に理解するアプローチを身につける。

【授業計画】 3 年次では、いくつかのテーマに基づいて基本図書を講読し、ディスカッションを行います。4 年次では、各自が選択したテーマについての研究を深めます。

【成績評価】 ゼミナールへの積極的参加の度合いによって総合的に評価します。

【再試験】 なし

【教科書】 ゼミナールで選択するテーマに応じて指定します。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218639>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4時限, 金曜5・6時限)

国際文化ゼミナール (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
スティーンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】この国際文化ゼミナール(その2)の内容は、欧米言語ゼミナール(その2)の内容と同じです。欧米言語ゼミナール(その2)のページをご覧ください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219147>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

国際文化ゼミナール(その2)

2 単位 3 年(後期)
スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】この国際文化ゼミナール(その2)の内容は、欧米言語ゼミナール(その2)の内容と同じです。欧米言語ゼミナール(その2)のページをご覧ください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219148>

【連絡先】

⇒ スタージ(総合科学部1号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

国際文化ゼミナール(その3)

2 単位 4 年(前期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】この授業は、近・現代の英語圏または日本の文化や社会を中心に卒業研究を進めたいと計画している学生を主な対象とする。担当教官の専門分野は、現代アイルランド英語文学であるが、近代または現代の日本や英語圏の映画、小説、歌、演劇、詩、児童文学などの作品やメディアなどを研究の素材とすることを希望する学生には柔軟に対応していきたい。特に、作品やそれを伝えるメディアが社会・時代の現状をどのように反映しているのか、あるいは社会や個人にどのような影響を与えるかについて考察していくことが主な目的となるであろう。

【授業概要】英語圏または日本の文化現象を対象とした研究指導

【到達目標】「国際文化ゼミナール総論」を参照すること。

【授業計画】3 年次では、担当教官の指定するテキストの講読などを中心に、各自が研究対象とする作品・テーマを見つけることが主眼となる。英語圏の作品を研究対象にする場合に必要の言語能力を身につけるための訓練もできるかぎりおこなう。4 年次では、選んだ作品・テーマについて研究をさらに進めていく。

【成績評価】毎週の研究報告と授業への出席 50%、レポート提出 50%の比率で評価を決める。

【再試験】行わない。

【教科書】特に指定しない。

【参考書】必要に応じて、授業中に提示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218640>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】4 年前期

国際文化ゼミナール(その3)

2 単位 4 年(前期)
佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】このゼミナールは歴史学を中心として、イギリスあるいは、かつて英帝国に組み込まれた地域(アメリカ大陸を除く)について、研究しようとする諸君向けに開設されるものである。ここでは、旧来、歴史学の研究テーマとされてきた政治、経済、思想のみならず、さまざまな社会現象、音楽、映画演劇、スポーツなど広い意味での文化活動、あるいは民俗なども対象とする。また、現代のイギリス社会の諸問題について歴史的視点から考察することも可能である。これまでの学問の枠にとらわれない、独自に温めているテーマをゼミに持ち寄って欲しい。前期は、研究に必要な文献収集の方法、発表の方法など技術的側面を中心とする。

【授業概要】イギリスの歴史と社会

【キーワード】史料収集、ディスカッション、批判能力、史料操作、プレゼンテーション

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒45 頁), 『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒129 頁), 『ヨーロッパ史特論 I』(1.0, ⇒130 頁)

【関連科目】『ヨーロッパ史特論 II』(1.0, ⇒130 頁), 『ヨーロッパ地域研究特論』(1.0, ⇒130 頁), 『アメリカ史特論』(1.0, ⇒130 頁)

【履修上の注意】総論を参照してください。2011 年度前期に開講します。

【到達目標】総論を参照してください。

【授業計画】基本的には 3、4 年生とともに卒業論文作成に向けての研究をおこなう場であるが、3 年生はそのための基礎訓練(情報収集の方法、研究報告のし方についての訓練、基本文献の輪読)、4 年生は基本文献

の輪読に参加するとともに、卒論のテーマに絞った個別報告、ディスカッションをおこなう。

【成績評価】ディスカッションへの参加・貢献度、レポートなど。

【再試験】なし

【教科書】開講時に指示します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218641>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

国際文化ゼミナール(その3)

2 単位 4 年(前期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】この授業は主として比較文化研究で卒業研究を進めていくことを考えている学生を対象とする。従来の専門分野にとらわれず、学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化の研究方法を紹介し、学生各人が個々の問題意識から主体的にテーマを見つけ、追求していく態度を養うことが、授業の目的である。各人のテーマに関しては徹底的に研究し、かつそれを比較という観点から相対化して検証していくということで、より普遍的な文化現象に迫っていく方法を身につけてもらいたい。また、卒業論文の指導もあわせて行う。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、卒業研究指導

【キーワード】比較文化、異文化理解

【先行科目】『比較文化研究(その1)』(1.0, ⇒44 頁)

【関連科目】『国際文化基礎演習(その1)』(0.5, ⇒101 頁)

【履修上の注意】「比較文化研究」(依岡担当)を受講していることが望ましい。受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養ってってもらいたい。二年間受講することを原則とするが、必ずしも卒業研究のためではない学生の受講も認めることはある。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会への理解を深めること。卒業研究の完成。

【授業計画】1. 1. 比較文化という専門について、その意義、内容、領域、方法などについて、文献講読などを通して、明らかにしていく。2. 2. 各人が文化に関する自分のテーマを見つけ、深めていくため、最近の出来事の中から文化トピックについて適宜報告してもらう。3. 3. 比較文化関係の文献を講読し、発表させる。レジュメ・資料作成と口頭発表の訓練をし、発表後はそれをレポートとして提出してもらう。テーマは近代化と文化受容の問題や文化の雑種性の問題、越境する文化の問題など。4. 4. 論文作成のための基本的な訓練をする。(図書館での実習、インターネットによる検索や文書作成、研究計画の立案や論文の構成、まとめ方を学ぶ。)5. 5. 野外実習などは適宜行う。(ドイツ館、モラエス館、徳島文学・書道館など)6. 6. 卒業論文作成のための指導。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有り

【教科書】

- 教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリントなどを配布するなどして準備する。参考書として、竹内実・西川長夫編『比較文化キーワード』上・下、サイマル出版会、1994 年。
- 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、2000 年。
- 新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社、1997 年。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218642>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時から12時50分まで)

【備考】18 年度前期。

国際文化ゼミナール(その3)

2 単位 4 年(前期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】欧米の社会と文化や歴史を、様々なレベルでとらえて研究する。宗教や哲学、法律や政治・経済、言語から文学、演劇、絵画、さらには映画や音楽などの現象まで、ヨーロッパやアメリカを特徴づける様々な事象を考察の対象とします。

【授業概要】フランス語圏を中心とする文化についての多面的考察

【キーワード】フランス文学、フランス文化、言語

【先行科目】『実用フランス語演習 I(その1)』(1.0, ⇒99 頁)

【関連科目】『フランス語圏文化論(その2)』(0.5)

【履修上の注意】国際文化コースの学生は 3・4 年次に計 8 単位履修しなければなりません。時間割上は水曜日 9-10 講時に開講します。

【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。

【授業計画】授業の具体的なテーマは受講者諸君の興味を聞いて決定しますが、フランス語の原書を講読することになるでしょう。テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます。

【成績評価】 講読や発表の担当の分担，講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218643>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 田島俊郎:水曜日16時20分~17時30分)

【備考】 2009(平成 21) 年度前期。

国際文化ゼミナール (その 3)

2 単位 4 年 (前期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 フランス語圏の社会を研究する。担当教員の専門はフランス近現代史だが，ゼミで扱うテーマは歴史に限定されない。

【キーワード】 歴史，フランス

【履修上の注意】 「総論」を参照。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 「その 1」を参照。

【成績評価】 講読や発表の担当の分担，講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218644>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 長井伸仁:月曜11時50分から12時50分)

【備考】 23 年度前期。

国際文化ゼミナール (その 3)

2 単位 4 年 (前期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 ゼミナールという授業の性格から考えて，担当教師の専門や関心のありかを紹介して，それに興味のある学生諸君にこのゼミナールを受講してもらうのが本来でしょう。サブコースでいうと「哲学・思想」ということですが，なかでもわたしが専門としているのは古代ギリシアの哲学で，特にプラトンやプロティノスを読んでいます。それ以外に興味があり，少しは勉強したものといえば，新・旧約聖書，言葉をかえると，古代イスラエルの宗教思想やキリスト教思想ということになり，それとの比較という点から，仏教の思想にも関心をもっています。さらに関心のある哲学者の名前を挙げると，中世ではアウグスティヌス，アンセルムス，トマス・アクィナス，近世ヨーロッパではスピノザ，ライプニッツやフィヒテ，シェリングなどということになります。しかし，哲学というのは，本来，何でも屋というか欲張りなところがある学問で，思想的な問題であれば，何でもあれそれに取り組み，勉強を始めるという意欲は，わたしも持っているつもりです。そうした点からすれば，諸君に何か思想的な興味があれば，それを一緒に勉強することもできるわけで，上に挙げた分野や哲学者の名前にはこだわらずに，哲学や思想に関心のある諸君が広く受講してくれば，わたしとしても嬉しく思います。なお，国際文化ゼミナール(総論)の[目的]の部分も読んでください。

【授業概要】 哲学・思想分野のゼミナール

【キーワード】 正攻法，ゆっくり急げ

【履修上の注意】 国際文化ゼミナール(総論)の[注意]の部分参照のこと。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 1. ゼミナールの具体的なテーマや授業の計画は，受講生諸君の実際の希望を聞いてから決定します。 2. 授業は 15 週行い，16 週目は成績評価と評価の講評にあてる。

【成績評価】 ゼミに対する取り組みの姿勢によって評価する。もちろん，口頭発表やレポートも評価の対象になります。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218645>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室(北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 吉田昌市:水曜日12時から13時)

【備考】 2012 年度前期

国際文化ゼミナール (その 3)

2 単位 4 年 (前期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 哲学的に思考するための態度と知識と技術を身に付ける。

【授業概要】 フランス近代哲学・科学論などを中心に読書を進め，講義時間にはその週に自分が勉強してきたことを発表してもらい，それをともに議論する。

【キーワード】 哲学

【履修上の注意】 「総論」を参照。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます。

【成績評価】 講読や発表の担当の分担，講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218646>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

国際文化ゼミナール (その 3)

2 単位 4 年 (前期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【授業概要】 ヨーロッパ史(イギリス史・フランス史以外) 研究一特にドイツ史研究，あるいは現代ヨーロッパ社会もしくは現代日本社会に関する研究

【履修上の注意】 「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【到達目標】 「本ゼミナール(総論)」のシラバスを参照のこと。

【授業計画】 1. ここ 20-30 年ほどの間に西洋史学の関心は，政治史や経済史から日常生活の社会史的研究へと移ってきました。それに伴って，扱われるテーマも以前には考えられなかったほど多様化し，また豊かな成果も生み出されるようになりました。 2. 私自身は，ヨーロッパ近代社会における下層民の社会的抗議や労働者運動，「国民国家」と民族問題，ナチス社会における人種主義，社会主義をめぐる諸問題，戦争責任・戦後責任の問題，ドイツ「再統一」をめぐる問題，外国人労働者・難民の流入と統合に関する問題等々に関心を寄せていますが，ドイツ史研究においても近年，飲食物，住居や建築，健康と病，余暇と大衆文化における手がかりにした，また特に女性や若者に焦点を当てた民衆生活史研究も盛んに行われるようになってきました。 3. 例えば以上のような様々なテーマや観点との関連で，ドイツ史またはイギリス・フランス以外のヨーロッパの歴史に興味のある方，あるいは環境問題，男女同権化をめぐる問題，外国人との共生の問題等々，比較的新しい諸問題についての現代ヨーロッパ社会研究もしくは現代日本社会研究に関心のある方とは，一緒に勉強できると思っています。 4. 3 年次前期には，いくつかの日本語文献を共通のテキストとして，一緒に読みながら要旨を理解し，問題点を確認するという作業を中心に行います。その際，重要な用語や人名，地名，事象などについては，参考図書を使って調べてきてもらいます。テキストは，参加者の関心を考慮に入れて選ぶしたいと思います。また，この時期に文献・資料の調査・収集の方法についても学習します。3 年次後期には，前期と同じような学習に加えて，卒業研究のテーマを決め，研究をスタートしてもらいます。4 年次には，卒業論文へ向けての研究が中心となるでしょう。なお，ゼミで，あるいは卒業研究のために英語やドイツ語の文献を読むかどうかは，参加者の意欲と研究テーマによります。 5. ゼミの時間には，予め用意してもらったレジュメにもとづき，まず基本的な報告をしてもらいます。続いて，報告内容について質疑応答や討論を行います。 6. 卒業研究については相談に乗りますが，研究テーマ自体は自由に選んで，自主的・積極的に勉強を進めてほしいと思います。どのようなテーマを選ぶにしても，各自の問題意識を大切に，視野はできるだけ広く，同時に研究対象は具体的に絞り込んで，それをできるだけ深く掘り下げる，ということを目指したいと思います。自分の研究を最終的に卒業論文にまとめていくために，ゼミを通じて文献・資料の綿密な調査・読解と併せて，調べたことを自分なりに整理し，報告する手法にも習熟してほしいと思います。

【成績評価】 毎回の課題へのとりくみ方，討論への参加の程度などの観点から総合的に評価します。

【教科書】 特定の教科書は用いません。教材・参考文献等は随時，配付もしくは紹介します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218647>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:30-18:00)

【備考】 2011 年度前期開講。

国際文化ゼミナール (その 3)

2 単位 4 年 (前期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】日本社会および他の社会の諸現象、特に家族に関する事象、貧困や差別問題について分析・考察を行う。

【授業概要】「総論」を参照。

【履修上の注意】「総論」を参照。

【到達目標】「総論」を参照。

【授業計画】1. 受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び、その関連の文献を発表し、それをもとに討議する形式をとる。同時に、文献や資料の探し方、調査方法、分析方法、論文の構成など、論文作成の「基本」を勉強する。2. 受講者には、3年次の終わりに、卒業論文のテーマと方法のある程度絞ってもらい、4年次のはじめに卒業論文の章構成案を決定し、各章を順番に発表してもらう形で卒業論文指導を進めたい。3. 上記に加えて、アメリカのホームレスや児童虐待問題などに関心をもち、現場を是非、自分の目でみたいという受講者が場合は、希望に応じて4年次にアメリカの大学のゼミとの交流プログラムや現地での現場見学を準備したい(渡航滞在費用は自己負担)。通訳に全面的に頼らず、できれば片言でも自分で話しかけることができれば見えてくるもの大きいと思います。4. 外国語の応用が苦手という言葉のハンディだけが原因で、自国文化以外の文化を体験する機会が制限を受けるという状況は、非常に残念なことです。このゼミナールの受講者には、英語の実用能力を高め、文献と現場の両方から、社会や文化をみる目を養い、自分の職業や将来設計に役立ててもらいたいと願っています。

【成績評価】「総論」を参照。

【再試験】「総論」を参照。

【教科書】卒業論文作成に向けたゼミであることから、受講者各自が、基本文献や資料を探し、読み、自分の関心や問題意識を絞っていくことが必要になる。そのため担当者も、個々の受講者の関心にそったトピック毎の必読文献を積極的にアドバイしていきたい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218648>

【連絡先】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日 11時50分~12時50分)

【備考】18年度前期

国際文化ゼミナール (その3)

2単位 4年(前期)

石田三千雄 教授/人間文化学科

【授業目的】卒業論文作成へ向けて、文献検索の仕方や論文の読み方・論文作成の指導を行う。受講生は、3年次以降に、このゼミナールを通じて個別テーマの研究に着手することになる。国際文化コース所属の全教官が担当し、研究領域に応じて複数のクラスを開講する。これは特に哲学・思想サブコースに関わるゼミナールである。

【授業概要】哲学思想に関する諸問題を扱う。哲学・宗教・文学など、さまざまなジャンルのテーマを各人の関心・興味により自由に考察する。

【キーワード】哲学、思想、倫理

【履修上の注意】月に1ないし2回の発表があるので、何を発表するか、準備しておく必要がある。発表はつねにレジュメを用意すること。

【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。

【授業計画】1. 哲学思想に関わる文献と一緒に読むと共に、参加学生諸君の話し合いにより、参加学生が発表をローテーションで行い、それを中心に討論によって進めていく。2. 参考のためにこれまででの発表題目の例を挙げると次の通りである。(1)「言語」という夢一言語に関する幾つかの誤解の解消のために(2)日本人の宗教「的」意識について(4)哲学・政治・人道(5)現実とは何か―荘周の認識論―(6)スピノザ哲学の考察―決定論と自由の整合性から―(7)バリ島の宗教について(8)グレゴリオ聖歌について(9)イスラム教と悪魔について(10)ヨブ記について(11)ミケランジェロによる三体のピエタ

【成績評価】発表したレジュメと出席で評価する。

【再試験】無し

【教科書】資料・レジュメは各自で用意する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218649>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

国際文化ゼミナール (その3)

2単位 4年(前期)

石田基広 准教授/社会創生学科

【授業目的】最近、情報科学分野において、人文科学(哲史文)に分類されてきた対象が積極的に取り上げられつつあります。そこで、情報科学と人文科学の接点について考察します。

【授業概要】情報科学と人文科学

【キーワード】データマイニング、テキストマイニング、統計学

【到達目標】対象を形式的に考察、解析するテクニックを習得する。

【授業計画】1. データベース、プログラミング、データ解析について総合的に触れる 2. 未定だが、Playstation3を使ったPPE/SPEプログラミングにも挑戦したい

【成績評価】演習の成果

【再試験】なし

【教科書】未定

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218650>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時から12時50分)

【備考】19年度前期。

国際文化ゼミナール (その3)

2単位 4年(前期)

桂 修治 教授/人間文化学科

【授業目的】このゼミナールでは、日本とヨーロッパの文化や社会について、その共通点や相違点、および関係についてともに考えます。そこでは、表面に現れた現象だけを単純に比較するのではなく、その現象の背景となっている社会のありさまを掘り下げて、構造的に理解することをめざします。

【授業概要】日本と現代ヨーロッパの社会文化研究。テーマ領域としては学校教育、環境保護、スポーツ、音楽などが考えられますが、テーマはできる限り受講者諸君の希望に応じます。外国の文化を知る上で最も良い方法の一つは、直接、相手の国の人々と交流することでしょう。桂はドイツの学校や各種団体と交流を続けていますが、参加者からの希望があれば、学生諸君にも、種々のかたちでこのような交流に参加する機会を提供します。インターネットによる交流、さらにできれば現地での交流など(交流は英語を媒介語として行なうことができます)。

【キーワード】卒業研究につながるゼミナール、比較文化的関心を深める

【履修上の注意】ヨーロッパへの関心、比較文化的な関心を持つ受講者を歓迎します。

【到達目標】ヨーロッパの社会や文化における種々の現象を、具体的かつ構造的に理解するアプローチを身につける。

【授業計画】3年次では、いくつかのテーマに基づいて、日独の比較研究を行ないます。4年次では、各自が選択したテーマについての研究を深めます。

【成績評価】ゼミナールへの積極的参加の度合いによって総合的に評価します。

【再試験】なし

【教科書】ゼミナールで選択するテーマに応じて指定します。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218651>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4時限, 金曜5・6時限)

【備考】18年度前期

国際文化ゼミナール (その3)

2単位 4年(前期)

ステイーヴンズ, メリディス・アン 講師/人間文化学科

【授業目的】 a) Choose a research question b) Commence research c) Write up the Literature Review

【授業概要】 A theme of research will be chosen, and from this students create a research question. We will examine the research methodologies and students will choose suitable ones for their research. Students collect data for their research.

【キーワード】 **Research Question, Research Methodology, Data Collection**

【履修上の注意】 Student need to work independently and source their own materials. Students need to submit homework assignments on time.

【到達目標】 Completion of Data Collection

【授業計画】 1. a) Choosing a research question b) Research methods 2. Qualitative and quantitative research 3. a) Informed consent b) Conducting interviews 4. Methods in action research 5. Designing questionnaires and administering surveys 6. Avoiding plagiarism 7. The context/background to your research 8. Useful ways to write about the ideas of others 9. Overview of the research paper 10. Formal and informal expressions 11. Finding the gap 12. Writing the Literature Review 13. as above 14. as above 15. Exam 16. Feedback

【成績評価】 Regular assignments, Weekly presentations, Exam

【再試験】 Possible

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219917>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

国際文化ゼミナール (その3)2 単位 4 年 (前期)
スタージ ドナルド・講師/人間文化学科【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219918>**【連絡先】**

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

国際文化ゼミナール (その4)2 単位 4 年 (後期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】この授業は、近・現代の英語圏または日本の文化や社会を中心に卒業研究を進めたいと計画している学生を主な対象とする。担当教官の専門分野は、現代アイルランド英語文学であるが、近代または現代の日本や英語圏の映画、小説、歌、演劇、詩、児童文学などの作品やメディアなどを研究の素材とすることを希望する学生には柔軟に対応していきたい。特に、作品やそれを伝えるメディアが社会・時代の現状をどのように反映しているのか、あるいは社会や個人にどのような影響を与えているかについて考察していくことが主な目的となるであろう。

【授業概要】英語圏または日本の文化現象を対象とした研究指導

【到達目標】「国際文化ゼミナール総論」を参照すること。

【授業計画】3 年次では、担当教官の指定するテキストの講読などを中心に、各自が研究対象とする作品・テーマを見つけることが主眼となる。英語圏の作品を研究対象にする場合に必要言語能力を身につけるための訓練もできるかぎりおこなう。4 年次では、選んだ作品・テーマについて研究をさらに進めていく。

【成績評価】毎週の研究報告と授業への出席 50%、レポート提出 50%の比率で評価を決める。

【再試験】行わない。

【教科書】特に指定しない。

【参考書】必要に応じて、授業中に提示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218652>**【連絡先】**

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】4 年後期

国際文化ゼミナール (その4)2 単位 4 年 (後期)
佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】このゼミナールは歴史学を中心として、イギリスあるいは、かつて英帝国に組み込まれた地域(アメリカ大陸を除く)について、研究しようとする諸君向けに開設されるものである。ここでは、旧来、歴史学の研究テーマとされてきた政治、経済、思想のみならず、さまざまな社会現象、音楽、映画演劇、スポーツなど広い意味での文化活動、あるいは民俗なども対象とする。また、現代のイギリス社会の諸問題について歴史的視点から考察することも可能である。これまでの学問の枠にとらわれない、独自に温めているテーマをゼミに持ち寄って欲しい。後期は、個別報告を中心にすすめ、卒論提出間近の 4 年生には、最後は個別面談で研究作成の助言指導をおこなう。

【授業概要】イギリスの歴史と社会

【キーワード】史料収集、ディスカッション、批判能力、史料操作、プレゼンテーション

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒45 頁), 『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒129 頁), 『ヨーロッパ史特論 I』(1.0, ⇒130 頁)

【関連科目】『ヨーロッパ史特論 II』(1.0, ⇒130 頁), 『ヨーロッパ地域研究特論』(1.0, ⇒130 頁), 『アメリカ史特論』(1.0, ⇒130 頁)

【履修上の注意】総論を参照してください。2011 年度後期に開講します。

【到達目標】総論を参照してください。

【授業計画】基本的には 3, 4 年生ともに卒業論文作成に向けての研究をおこなう場であるが、3 年生はそのための基礎訓練(情報収集の方法、研究報告のし方についての訓練、基本文献の輪読)、4 年生は基本文献の輪読に参加するとともに、卒論のテーマに絞った個別報告、ディスカッションをおこなう。

【成績評価】ディスカッションへの参加・貢献度、レポートなど。

【再試験】なし

【教科書】開講時に指示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218653>**【連絡先】**

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

国際文化ゼミナール (その4)2 単位 4 年 (後期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】この授業は主として比較文化研究で卒業研究を進めていくことを考えている学生を対象とする。従来の専門分野にとらわれず、学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化の研究方法を紹介し、学生各人が個々の問題意識から主体的にテーマを見つけ、追求していく態度を養うことが、授業の目的である。各人のテーマに関しては徹底的に研究し、かつそれを比較という観点から相対化して検証していくということで、より普遍的な文化現象に迫っていく方法を身につけてもらいたい。また、卒業論文の指導もあわせて行う。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、卒業研究指導

【キーワード】比較文化、異文化理解

【先行科目】『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒44 頁)

【関連科目】『国際文化基礎演習 (その1)』(0.5, ⇒101 頁)

【履修上の注意】「比較文化研究」(依岡担当)を受講していることが望ましい。受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。2 年間受講することを原則とするが、必ずしも卒業研究のためではない学生の受講も認めることはある。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得、多文化社会への理解を深めること、卒業研究の完成。

【授業計画】1. 1. 比較文化という専門について、その意義、内容、領域、方法などについて、文献講読などを通して、明らかにしていく。 2. 2. 各人が文化に関する自分のテーマを見つけ、深めていくため、最近の出来事の中から文化トピックについて適宜報告してもらう。 3. 3. 比較文化関係の文献を講読し、発表させる。レジュメ・資料作成と口頭発表の訓練をし、発表後はそれをレポートとして提出してもらう。テーマは近代化と文化受容の問題や文化の雑種性の問題、越境する文化の問題など。 4. 4. 論文作成のための基本的な訓練をする。(図書館での実習、インターネットによる検索や文書作成、研究計画の立案や論文の構成、まとめ方を学ぶ。) 5. 5. 野外実習などは適宜行う。(ドイツ館、モラエス館、徳島大学・書道館など) 6. 6. 卒業論文作成の指導。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有り

【教科書】

- ◇教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリントなどを配布するなどして準備する。参考書として、竹内実・西川長夫編『比較文化キーワード』上・下、サイマル出版会、1994 年。
- ◇稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、2000 年。
- ◇新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社、1997 年。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218654>**【連絡先】**

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から12時50分まで。)

【備考】18 年度後期

国際文化ゼミナール (その4)2 単位 4 年 (後期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】欧米の社会と文化や歴史を、様々なレベルでとらえて研究する。宗教や哲学、法律や政治・経済、言語から文学、演劇、絵画、さらには映画や音楽などの現象まで、ヨーロッパやアメリカを特徴づける様々な事象を考察の対象とします

【授業概要】フランス語圏を中心とする文化についての多面的考察

【キーワード】フランス文学、フランス文化、言語

【先行科目】『実用フランス語演習 I (その2)』(1.0, ⇒100 頁)

【関連科目】『フランス語圏文化論 (その2)』(0.5)

【履修上の注意】国際文化コースの学生は 3・4 年次に計 8 単位履修しなければなりません。時間割上は水曜 9-10 講時に開講します。

【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。

【授業計画】授業の具体的なテーマは受講者諸君の興味を聞いて決定しますが、フランス語の原書を講読することになるでしょう。テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます。

【成績評価】講読や発表の担当の分担、講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】なし。

【教科書】受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218655>**【連絡先】**

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 田島俊郎:水曜日16時20分~17時30分)

【備考】2009(平成 21) 年度後期。

国際文化ゼミナール (その 4) 2 単位 4 年 (後期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 フランス語圏の社会を研究する。担当教員の専門はフランス近現代史だが、ゼミで扱うテーマは歴史に限定されない。

【キーワード】 フランス、歴史

【履修上の注意】 「総論」を参照。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 「その 1」を参照。

【成績評価】 講読や発表の担当の分担、講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218656>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 長井伸仁:月曜11時50分から12時50分)

【備考】 23 年度後期

国際文化ゼミナール (その 4) 2 単位 4 年 (後期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 ゼミナールという授業の性格から考えて、担当教師の専門や関心のありかを紹介して、それに興味のある学生諸君にこのゼミナールを受講してもらうのが本来でしょう。サブコースでいうと「哲学・思想」ということですが、なかでもわたしが専門としているのは古代ギリシアの哲学で、特にプラトンやプロティノスを読んでいます。それ以外に興味があり、少しは勉強もしたものとえば、新・旧約聖書、言葉をかえると、古代イスラエルの宗教思想やキリスト教思想ということになり、それとの比較という点から、仏教の思想にも関心をもっています。さらに関心のある哲学者の名前を挙げると、中世ではアウグスティヌス、アンセルムス、トマス・アクィナス、近世ヨーロッパではスピノザ、ライプニッツやフィヒテ、シェリングなどということになります。しかし、哲学というのは、本来、何でも屋というか欲張りなところがある学問で、思想的な問題であれば、何でもあれそれに取り組み、勉強を始めるという意欲は、わたしも持っているつもりです。そうした点からすれば、諸君に何か思想的な興味があれば、それを一緒に勉強することもできるわけで、上に挙げた分野や哲学者の名前にはこだわらずに、哲学や思想に関心のある諸君が広く受講してくれれば、わたしとしても嬉しく思います。なお、国際文化ゼミナール (総論) の [目的] の部分も読んでください。

【授業概要】 哲学・思想分野のゼミナール

【キーワード】 正攻法、ゆっくり急げ

【履修上の注意】 国際文化ゼミナール (総論) の [注意] の部分を参照のこと。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 1. ゼミナールの具体的テーマや授業の計画は、受講生諸君の実際の希望を聞いてから決定します。 2. 授業は 15 週行い、16 週目は成績評価と評価の講評にあてます。

【成績評価】 ゼミに対する取り組みの姿勢によって評価する。もちろん、口頭発表やレポートも評価の対象になります。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218657>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 吉田昌市:水曜12時から13時)

【備考】 2012 年度後期

国際文化ゼミナール (その 4) 2 単位 4 年 (後期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 哲学的に思考するための態度と知識と技術を身に付ける。

【授業概要】 フランス近代哲学・科学論などを中心に読書を進め、講義時間にはその週に自分が勉強してきたことを発表してもらい、それをもとに議論する。

【キーワード】 哲学

【履修上の注意】 「総論」を参照。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます。

【成績評価】 講読や発表の担当の分担、講義中の態度などから総合的に判断します。

【再試験】 なし。

【教科書】 受講者と相談の上決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218658>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

国際文化ゼミナール (その 4) 2 単位 4 年 (後期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 「本ゼミナール (総論)」のシラバスを参照のこと。

【授業概要】 ヨーロッパ史 (イギリス史・フランス史以外) 研究一特にドイツ史研究、あるいは現代ヨーロッパ社会に関する研究

【履修上の注意】 「本ゼミナール (総論)」のシラバスを参照のこと。

【到達目標】 「本ゼミナール (総論)」のシラバスを参照のこと。

【授業計画】 1. 各自のテーマに沿って卒業研究の完成に向けて学習を進めること、これに尽きます。 2. 予め定める日程にしたがって各自の卒業研究の中間報告と質疑応答・討論を行います。

【成績評価】 各自の課題へのとりくみ方、討論への参加の程度などの観点から総合的に評価します。

【教科書】 特定の教科書は用いません。教材・参考文献等は随時、配付もしくは紹介します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218659>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:30-18:00)

【備考】 2011 年度後期開講。

国際文化ゼミナール (その 4) 2 単位 4 年 (後期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】 アメリカ社会の諸現象、特に家族に関する事象や貧困問題を分析し考察を行う。

【授業概要】 「総論」を参照。

【履修上の注意】 「総論」を参照。

【到達目標】 「総論」を参照。

【授業計画】 1. 受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び、その関連の文献を発表し、それをもとに討議する形式をとる。同時に、文献や資料の探し方、調査方法、分析方法、論文の構成など、論文作成の「基本」を勉強する。また適宜、社会学の基礎文献も紹介していきたい。 2. 受講者には、3 年次の終わりに、卒業論文のテーマと方法がある程度絞ってもらい、4 年次のはじめに卒業論文の章構成案を決定し、各章を順番に発表してもらう形で卒業論文指導を進めたい。 3. 上記に加えて、アメリカのホームレスや児童虐待問題などに関心を持ち、現場を是非、自分の目でみたいという受講者が場合は、希望に応じて 4 年次にアメリカの大学のゼミとの交流プログラムや現地での現場見学を準備したい (渡航滞在費用は自己負担)。通訳に全面的に頼らず、できれば片言でも自分で話しかけることができれば見えてくるものが大きいと思います。 4. 外国語の応用が苦手という言葉のハンディだけが原因で、自国文化以外の文化を体験する機会が制限を受けるといった状況は、非常に残念なことです。このゼミナールの受講者には、できるだけ英語実用能力を高め、文献と現場の両方から、社会や文化をみる目を養い、自分の職業や将来の生活に役立ててもらいたいと願っています。

【成績評価】 「総論」を参照。

【再試験】 「総論」を参照。

【教科書】 卒業論文作成に向けたゼミであることから、受講者各自が、基本文献や資料を探し、読み、自分の関心や問題意識を絞っていくことが必要になる。そのために担当者も、個々の受講者の関心にそったトピック毎の必読文献を積極的にアドバイしていきたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218660>

【連絡先】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日 11時50分~12時50分)

【備考】 18 年度後期

国際文化ゼミナール (その 4) 2 単位 4 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 卒業論文作成へ向けて、文献検索の仕方や論文の読み方・論文作成の指導を行う。受講生は、3 年次以降に、このゼミナールを通じて個別テーマの研究に着手することになる。国際文化コース所属の

全教官が担当し、研究領域に応じて複数のクラスを開講する。これは特に哲学・思想サブコースに関わるゼミナールである。

【授業概要】 哲学思想に関する諸問題を扱う。哲学・文学など、さまざまなジャンルのテーマを各人の関心・興味により自由に考察する。

【キーワード】 哲学, 思想, 倫理

【履修上の注意】 月に1ないし2回の発表があるので、何を発表するか、準備しておく必要がある。発表はつねにレジュメを用意すること。

【到達目標】 卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。

【授業計画】 1. 哲学思想に関わる文献と一緒に読むと共に、参加学生諸君の話し合いにより、参加学生が発表をローテーションで行い、それを中心に討論によって進めていく。 2. 参考のためにこれまでの発表題目の例を挙げると次の通りである、(1)「言語」という夢—言語に関する幾つかの誤解の解消のために—(2)日本人の宗教「的」意識について(4)哲学・政治・人道(5)現実とは何か—荘周の認識論—(6)スピノザ哲学の考察—決定論と自由の整合性から—(7)バリ島の宗教(8)グレゴリオ聖歌について(9)イスラム教と悪魔について(10)ヨブ記について(11)ミケランジェロによる三体のピエタ

【成績評価】 発表したレジュメと出席で評価する。

【再試験】 無し

【教科書】 資料・レジュメは各自で用意する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218661>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

国際文化ゼミナール (その4)

2 単位 4 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 最近、情報科学分野において、人文科学(哲史文)に分類されてきた対象が積極的に取り上げられつつあります。そこで、情報科学と人文科学の接点について考察します。

【授業概要】 情報科学と人文科学

【到達目標】 対象を形式的に考察、解析するテクニックを習得する。

【授業計画】 1. データベース, プログラミング, データ解析について総合的に触れる 2. 未定だが、Playstation3 を使った PPE/SPE プログラミングにも挑戦したい

【成績評価】 演習の成果

【再試験】 なし

【教科書】 未定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218662>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時から12時50分)

【備考】 19 年度後期。

国際文化ゼミナール (その4)

2 単位 4 年 (後期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】 このゼミナールでは、日本とヨーロッパの文化や社会について、その共通点や相違点、および関係についてともに考えます。ここでは、表面に現れた現象だけを単純に比較するのではなく、その現象の背景となっている社会のありさまを掘り下げて、構造的に理解することをめざします。

【授業概要】 日本と現代ヨーロッパの社会文化研究。テーマ領域としては学校教育、環境保護、スポーツ、音楽などが考えられますが、テーマはできる限り受講者諸君の希望に応じます。外国の文化を知る上で最も良い方法の一つは、直接、相手の国の人々と交流することでしょう。桂はドイツの学校や各種団体と交流を続けていますが、参加者からの希望があれば、学生諸君にも、種々のかたちでこのような交流に参加する機会を提供します。インターネットによる交流、さらにできれば現地での交流など(交流は英語を媒介語として行なうことができます)。

【キーワード】 卒業研究につながるゼミナール, 比較文化的関心を深める

【履修上の注意】 ヨーロッパへの関心, 比較文化的な関心を持つ受講者を歓迎します。

【到達目標】 ヨーロッパの社会や文化における種々の現象を、具体的かつ構造的に理解するアプローチを身につける。

【授業計画】 3 年次では、いくつかのテーマに基づいて基本図書を講読し、ディスカッションを行います。4 年次では、各自が選択したテーマについての研究を深めます。

【成績評価】 ゼミナールへの積極的参加の度合いによって総合的に評価します。

【再試験】 なし

【教科書】 ゼミナールで選択するテーマに応じて指定します。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218663>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4時限, 金曜5・6時限)

【備考】 18 年度後期。

国際文化ゼミナール (その4)

2 単位 4 年 (後期)
スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】 To complete writing the students' undergraduate thesis in a topic concerning an aspect of second language acquisition.

【授業概要】 Each section of the thesis will be written with direct supervision from the teacher. Students will make weekly presentations on either the literature or their research findings.

【履修上の注意】 It is essential that students keep to the schedule so that they can finish writing their thesis by the set date in the end of January.

【到達目標】 To make a finding in their chosen topic and make a contribution to the field.

【授業計画】 1. Write a preliminary outline of the thesis. 2. Write up the results. 3. as above 4. Write up the discussion. 5. as above 6. as above 7. as above 8. as above 9. Writing the introduction 10. Writing the conclusion 11. Writing the contents page 12. Starting the preliminary draft 13. Final draft and references 14. Writing the abstract 15. Feedback session 16. Feedback session

【成績評価】 Weekly presentation of the literature or research findings, Written homework assignments

【再試験】 Possible

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219919>

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

国際文化ゼミナール (その4)

2 単位 4 年 (後期)
スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219920>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

人間社会学科 国際文化コース 文化情報サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

比較文化研究 (その1) ... 依岡/2年(前期).....	114
比較文化研究 (その2) ... 依岡/2年(後期).....	115
文化情報研究 (その1) ... 石田/3年(前期).....	115
文化情報研究 (その2) ... 石田/3年(後期).....	115
言語情報プログラミング演習 (その1) ... 石田/2年(前期).....	115
言語情報プログラミング演習 (その2) ... 石田/2年(後期).....	116
言語情報プログラミング演習 (その3) ... 石田/3年(前期).....	116
言語情報プログラミング演習 (その4) ... 石田/3年(後期).....	116
アメリカ文化論 (その1) ... 上野/2年(前期).....	116
アメリカ文化論 (その2) ... 上野/2年(後期).....	116
ドイツ語圏文化論 (その1) ... 桂/3年(前期).....	117
ドイツ語圏文化論 (その2) ... 桂/3年(後期).....	117
フランス語圏文化論 (その1) ... 田島/3年(前期).....	117
フランス語圏文化論 (その2) ... 田島/3年(後期).....	118
文化批評論 (その1) ... 吉田/2年(前期).....	118
文化批評論 (その2) ... 吉田/2年(後期).....	118
日本語教育方法論 I ... 大石/2年(前期).....	119
日本語教育方法論 II ... 橋本/2年(後期).....	119
日本語教授法 I ... 大石/2年(前期).....	119
日本語教授法 II ... 橋本/2年(後期).....	119
日本語教育演習 (その1) ... 大石/3年(後期).....	119
日本語教育演習 (その2) ... 大石/4年(後期).....	120
英米の社会と文化 I (その1) ... 吉田/2年(前期).....	120
英米の社会と文化 I (その2) ... 吉田/2年(後期).....	120
異文化間コミュニケーション (その1) ... 坂田/2年(前期, 集中).....	121
異文化間コミュニケーション (その2) ... 坂田/2年(後期, 集中).....	121
言語情報処理研究 (その1) ... 中島/3年(前期), 4年(前期).....	121
言語情報処理研究 (その2) ... 中島/3年(後期), 4年(後期).....	121
言語情報処理研究 (その3) ... 中島/3年(前期), 4年(前期).....	121
言語情報処理研究 (その4) ... 中島/3年(後期), 4年(後期).....	122
比較文化演習 (その1) ... スタージ/3年(前期).....	122
比較文化演習 (その2) ... スタージ/3年(後期).....	122
ドイツの社会と文化 (その1) ... ヘルベルト/2年(前期).....	122
ドイツの社会と文化 (その2) ... ヘルベルト/2年(後期).....	122
社会思想研究 ... 石田・山口/2年(後期).....	123
比較思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(前期).....	123
ヨーロッパ思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(後期).....	123
社会的行為の理論 ... 堀田・櫻田/2年(前期, 集中).....	124
哲学思想基本研究 I (その1) ... 山口/2年(前期).....	124
哲学思想基本研究 I (その2) ... 山口/2年(後期).....	124
哲学思想基本研究 I (その3) ... 山口/3年(前期).....	125
哲学思想基本研究 I (その4) ... 山口/3年(後期).....	125
哲学思想基本研究 II (その1) ... 石田/2年(前期).....	125
哲学思想基本研究 II (その2) ... 石田/2年(後期).....	125
哲学思想基本研究 II (その3) ... 石田/3年(前期).....	125
哲学思想基本研究 II (その4) ... 石田/3年(後期).....	126
哲学思想基本研究 III (その1) ... 吉田/2年(前期).....	126
哲学思想基本研究 III (その2) ... 吉田/2年(後期).....	126
哲学思想基本研究 III (その3) ... 吉田/3年(前期).....	126
哲学思想基本研究 III (その4) ... 吉田/3年(後期).....	127
哲学思想基本研究 IV (その1) ... 石田/2年(前期).....	127

哲学思想基本研究 IV (その2) ... 石田/2年(後期).....	127
哲学思想基本研究 IV (その3) ... 石田/3年(前期).....	127
哲学思想基本研究 IV (その4) ... 石田/3年(後期).....	127
ヨーロッパ歴史・社会論 I ... 佐久間/2年(前期).....	128
ヨーロッパ歴史・社会論 II ... 長井/2年(前期).....	128
ヨーロッパ歴史・社会論 III ... 今井/2年(前期).....	128
アメリカ歴史・社会論 ... 吉岡・今井/2年(前期).....	128
ヨーロッパ社会研究 I ... 佐久間/2年(後期).....	129
ヨーロッパ社会研究 II ... 長井/2年(前期).....	129
ヨーロッパ社会研究 III ... 今井/2年(後期).....	129
アメリカ社会研究 ... 西出・今井/2年(後期).....	129
ヨーロッパ史特論 I ... 佐久間/3年(後期).....	130
ヨーロッパ史特論 II ... 長井/3年(後期).....	130
ヨーロッパ地域研究特論 ... 今井/3年(後期).....	130
アメリカ史特論 ... 西出・今井/3年(後期).....	130
英米文化研究 I (その1) ... 宮崎/2年(前期).....	131
英米文化研究 I (その2) ... 宮崎/2年(後期).....	131
英米言語研究 I (その1) ... 井上・山田/2年(前期, 集中).....	131
英米言語研究 I (その2) ... 井上・山田/2年(後期, 集中).....	131
現代英語演習 I (その1) ... 森岡/2年(前期).....	132
現代英語演習 I (その2) ... 森岡/2年(後期).....	132
民俗学研究 I ... 高橋/2年(後期).....	132
文化人類学研究 I ... 高橋/2年(前期).....	132
ジェンダー研究 ... 北村・平木/2年(後期), 3年(後期), 4年(後期).....	133
社会心理学 ... 佐藤/2年(後期).....	133
日本文学基礎研究 III (前期) ... 鳥羽・衣川/2年(前期, 集中), 3年(前期, 集中).....	133
日本文学基礎研究 III (後期) ... 鳥羽・衣川/2年(後期, 集中), 3年(後期, 集中).....	134
日本語基礎研究 I (前期) ... 岸江/2年(前期).....	134
日本語基礎研究 I (後期) ... 岸江/2年(後期).....	134
日本語基礎研究 II (前期) ... 仙波/2年(前期).....	134
日本語基礎研究 II (後期) ... 仙波/2年(後期).....	135
日本語演習 I ... 岸江/3年(前期), 4年(前期).....	135
日本語演習 I ... 岸江/3年(後期), 4年(後期).....	135
日本語演習 II (前期) ... 仙波/3年(前期), 4年(前期).....	135
日本語演習 II (後期) ... 仙波/3年(後期), 4年(後期).....	136
ドイツ言語文化研究 I (その1) ... 石川/2年(前期).....	136
ドイツ言語文化研究 I (その2) ... 石川/2年(後期).....	136
ドイツ言語文化研究 I (その3) ... 石川/3年(前期).....	136
ドイツ言語文化研究 I (その4) ... 石川/3年(後期).....	137

比較文化研究 (その1)

2 単位 2 年 (前期)
依岡 隆児 教授 / 人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間に思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、マイノリティの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】 比較文化, 異文化理解, マルチカルチャー
【先行科目】 『比較文化研究 (その2)』(1.0, ⇒115 頁)
【関連科目】 『比較文化研究 (その2)』(0.5, ⇒115 頁), 『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒122 頁)
【履修上の注意】 受講者は日々, 新聞や雑誌, 映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。
【到達目標】 比較文化研究についての理解とその方法の習得. 多文化社会と文化変容への理解を深めること。
【授業計画】 前期は, 課題発想的な比較文化研究の概念を検討し, 授業の導入とする。「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題点を概観する。映画やドキュメンタリー・ビデオ, 新聞記事なども適宜利用して, 従来の学問区分に必ずしもとらわれない学際的・総合的な研究方法を示していく。具体的には, 外国人・移民問題, 文化的に見た民族問題, メルヘンと国民文化の問題, 映像メディアによるホロコーストの表現の比較, 「近代」に対する文化的批判, 多文化社会の可能性といったテーマを考えている。文化研究の仕方として最近の「カルチュラル・スタディーズ」の成果なども紹介する。
【成績評価】 出席状況と授業への積極的な参加を前提として, レポートの提出による。
【再試験】 有
【教科書】 教科書は使わない。教材は適宜, 授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として, 西川長夫編『増補 国境の越え方』平凡社, 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会, 新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社, カミュ『異邦人』新潮文庫, 谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫, モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫, ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫, 戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店, E. W. サイド『オリエンタリズム』平凡社。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219308>
【連絡先】
 ⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

比較文化研究 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
 依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】 異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め, 異文化研究の方法と実情を概観していく。特に, グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題, モダニズムの問題, そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間の思いがけない結びつきや差異を発見していく比較文化研究の面白さを味わってほしい。
【授業概要】 比較文化研究, 異文化理解, マイノリティの立場の理解, 近代化の問題
【キーワード】 比較文化, 異文化理解, マルチカルチャー
【先行科目】 『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒114 頁)
【関連科目】 『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒122 頁)
【履修上の注意】 受講者は日々, 新聞や雑誌, 映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。
【到達目標】 比較文化研究についての理解とその方法の習得. 多文化社会と文化変容への理解を深めること。
【授業計画】 後期は, 日本国内外の代表的な日本文化論を概観し, それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する。文化間の影響関係として, 具体的には, 日本の西洋モダニズム受容や, 海外におけるジャポニズムから最近のマンガ・アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる。また, 日本文化論に内在するナショナリズムやイデオロギー性を批判的に考察する。日本文化の雑種性への感受性を大切に, 既存の日本文化のイメージにとらわれない, 新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく。地域文化 (徳島) と国際性といったテーマも取り上げる予定。
【成績評価】 出席状況と授業への積極的な参加を前提として, レポートの提出による。
【再試験】 有
【教科書】
 ○ 教科書は使わない。教材は適宜, 授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として, 西川長夫『増補 国境の越え方』平凡社, 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会, 新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社, カミュ『異邦人』新潮文庫, 谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫, モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫, ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫, 戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店。
 ○ 依岡隆児『読書のススメ ~ 四国から, グローカルに ~』(徳島新聞社)
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218953>
【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

文化情報研究 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
 石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 WEB アプリケーション入門
【授業概要】 WEB アプリケーション入門
【キーワード】 Web プログラミング, プログラミング
【関連科目】 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(0.5, ⇒116 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その4)』(0.5, ⇒116 頁)
【履修上の注意】 コンピュータについて十分な知識と技術があること
【到達目標】 WEB を理解する
【授業計画】 1. Web サーバーについて 2. html 言語について 3. 実習 1 Web ページの作成 4. Script とは何か 5. Script 言語の基礎 6. データベースの基礎とネットを介したアクセス方法 7. 実習 2 インタラクティブな Web サイトの構築 8. Flash とは何か 9. Flash 作成方法 10. Web デザインを総合的に考える 11. Web サイトのインターフェイスデザイン 12. Web サイトのナビゲーション方法 13. 実習 3 個人 Web サイトの構築 14. 総評 1 各自の Web サイトの講評 15. 総評 2 各自の Web サイトの講評 16. まとめ 1 17. まとめ 2
【成績評価】 成績そのものは試験によって判定する。ただし出欠も重視する。欠席が続けば, そもそもその後の内容が全く分らなくなります。
【再試験】 未定
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218989>
【連絡先】
 ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 水曜日, 木曜日の12時00分から13時00分のあいだ)

文化情報研究 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
 石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 情報科学の技術を応用したデザインとプロジェクトを企画実行する
【授業概要】 情報科学技術を主体的に応用した企画立案を共同でおこなう。学期最初に計画をデザインし, そのデザインの実現のための工程を作成する。以降は, その工程にしたがって作業する。
【キーワード】 Web プログラミング, プログラミング
【先行科目】 『文化情報研究 (その1)』(1.0, ⇒115 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(1.0, ⇒116 頁)
【関連科目】 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(0.5, ⇒116 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その4)』(0.5, ⇒116 頁)
【履修上の注意】 授業時間はもちろんのこと, 時間外でも相応の時間を割けること
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 自身の情報技術と知識を披露するプレゼン (一人 20 分) 3. 前回プレゼンの反省 4. 情報デザインの提案とプレゼン (一人 20 分) 5. 企画書の作成とプレゼン 6. プロジェクト進行具合報告 1 (一人 10 分) 7. プロジェクト進行具合報告 2 (一人 10 分) 8. プロジェクト進行具合報告 3 (一人 10 分) 9. プロジェクト進行具合報告 4 (一人 10 分) 10. プロジェクト進行具合報告 5 (一人 10 分) 11. プロジェクトの完成前プレゼン (10 分) 12. プロジェクトのプレゼン (30 分) 13. プロジェクトの総括 (15 分) 14. プロジェクトの発展可能性についてプレゼン (10 分) 15. 個人の総括 (30 分) 16. 全体総括
【成績評価】 課題の評価 (25 点 ×3), 出席点 25 点の 100 点満点で評価する
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218990>
【連絡先】
 ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その1)

2 単位 2 年 (前期)
 石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 コンピュータの働きとプログラミングについて学ぶ
【授業概要】 プログラミング入門。
【キーワード】 テキスト処理, プログラミング
【先行科目】 『文化情報研究 (その1)』(1.0, ⇒115 頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒115 頁)
【履修上の注意】 欠席すると, 後の内容が分らなくなってしまうので注意してください。なお, 受講者が少数の場合, Mac OS X を使う可能性があります。
【到達目標】 プログラミング言語に関する知識, 技能を身につける。
【授業計画】 1. オリエンテーション, コンピュータでできること 2. プログラミングとは何をするのか 3. プログラミング言語のいろいろ

ろ 4. 最初のトライアル 5. プログラミングすることとはデザインなり 6. それには基礎的な知識の習得は不可欠, 基礎練習その1 7. 基礎練習その2 8. 基礎練習その3 9. 基礎練習その4 10. コンピュータで人間の言語を扱う 11. 基礎練習その5 12. 基礎練習その6 13. 応用編その1, しごとの流れを考える 14. 応用編その2, まねをするのも悪くない 15. 応用編その3, やや高度なプログラムに挑戦 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 未定

【教科書】 配布資料による。

【参考書】 プログラミングに関連するものを適宜指示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218569>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その2) 2単位 2年 (後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 プログラミング言語とその応用を学ぶ

【授業概要】 初級プログラミング入門。

【キーワード】 コーパス言語学

【関連科目】 『文化情報研究 (その1)』(0.5, ⇒115頁), 『文化情報研究 (その2)』(0.5, ⇒115頁)

【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なおホームページ上で予習復習用のページを開設予定です。 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/index.html>

【到達目標】 プログラミング言語に関する基礎的知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. まずは簡単なプログラムを書いてみる 3. プログラミング言語にも文法がある 4. プログラミング言語の語彙 5. プログラミング言語の「辞書」 6. 関数について 7. 関数を応用する 8. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 1 9. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 2 10. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 3 11. 応用プログラミングに挑戦する 1 12. 応用プログラミングに挑戦する 2 13. 応用プログラミングに挑戦する 3 14. 応用プログラミングに挑戦する 4 15. 応用プログラミングに挑戦する 5 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 しない

【教科書】 未定ですが、プログラム言語の教科書(日本語)を指定する予定。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218570>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜、水曜、木曜日16時から17時のあいだ)

言語情報プログラミング演習 (その3) 2単位 3年 (前期)

石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 高度なプログラミング技法について学ぶ。

【授業概要】 応用プログラミング入門。

【キーワード】 テキスト処理, プログラミング

【先行科目】 『言語情報プログラミング演習 (その1)』(1.0, ⇒115頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒115頁)

【履修上の注意】 た欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なお、受講者が少数の場合、Mac OS X を使う 可能性があります。

【到達目標】 プログラミング言語に関する知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション、コンピュータでできること 2. プログラミングとは何をすることか 3. プログラミング言語のいろいろ 4. 最初のトライアル 5. プログラミングすることとはデザインなり 6. それには基礎的な知識の習得は不可欠, 基礎練習その1 7. 基礎練習その2 8. 基礎練習その3 9. 基礎練習その4 10. コンピュータで人間の言語を扱うために知るべきこと 11. 基礎練習その5 12. 基礎練習その6 13. 応用編その1, しごとの流れを考える 14. 応用編その2, まねをするのも悪くない 15. 応用編その3, 高度なプログラムに挑戦 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 未定

【教科書】 資料を配布する。

【参考書】 プログラミングに関連するものを適宜指示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218571>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その4) 2単位 3年 (後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 プログラミング言語とその応用を学ぶ

【授業概要】 初級プログラミング入門。

【キーワード】 コーパス言語学

【先行科目】 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(1.0, ⇒116頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒115頁)

【関連科目】 『文化情報研究 (その1)』(0.5, ⇒115頁), 『文化情報研究 (その2)』(0.5, ⇒115頁)

【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なおホームページ上で予習復習用のページを開設予定です。 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/index.html>

【到達目標】 プログラミング言語に関する基礎的知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. まずは簡単なプログラムを書いてみる 3. プログラミング言語にも文法がある 4. プログラミング言語の語彙 5. プログラミング言語の「辞書」 6. 関数について 7. 関数を応用する 8. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 1 9. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 2 10. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 3 11. 応用プログラミングに挑戦する 1 12. 応用プログラミングに挑戦する 2 13. 応用プログラミングに挑戦する 3 14. 応用プログラミングに挑戦する 4 15. 応用プログラミングに挑戦する 5 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 しない

【教科書】 未定ですが、プログラム言語の教科書(日本語)を指定する予定。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218572>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜、水曜、木曜日16時から17時のあいだ)

アメリカ文化論 (その1) 2単位 2年 (前期)

上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】 アメリカ社会学の理論や概念をいくつか講義しながら、少年犯罪、いじめ、児童虐待、経済格差、自尊心の低下といった社会的関心の高い問題を考えていきます。

【授業概要】 具体的な例(非行、いじめ、不登校、児童虐待、精神疾患、ADHD等)を用いて、アメリカ社会学の主要な理論や概念を分かりやすく説明します。メディア報道の分析方法(メディアリタラジー)、問題の公的統計の社会的解釈方法などについても講義します。授業では、私たちの個人的な悩みやトラブルと受けとめられることでさえも、すべて社会的な起源と文脈があるという点から考えていきます。

【履修上の注意】 地域システムコース『青少年問題研究II』(地域システムコース)との合同講義なので、両方の授業に登録することはできない。

【到達目標】 受講後、皆さんが、テレビや新聞が報じる子どもと青少年の諸問題や自分自身の問題について少しでも違った見方ができるようになることを期待します。

【授業計画】 1. オリエンテーション/「犯罪」「病氣」「障害」「問題」の社会的な捉え方(逸脱の社会学) 2. ひとほどのようにして非行少年や異常者になってしまうのか(ラベリング論を学ぶ) 3. ひととはなぜ犯罪をおかすのか①諦められない人生について(アノミー理論を学ぶ) 4. ひととはなぜ犯罪をおかすのか②下位文化論③損得勘定で人生を生きる(ポンド理論を学ぶ) 5. 少年犯罪の「増加・深刻化」について(公的統計の社会的な解釈法を学ぶ) 6. いじめ問題(予言の自己成就について学ぶ) 7. 児童虐待の「増加・深刻化」について(社会問題の社会構築主義を学ぶ) 8. 医療化現象 9. モラルパニック—社会問題報道と厳罰主義 10. メーガン法の成立 11. 性的虐待とバックラッシュ 12. 子どもの時代の記憶論争 13. アイデンティティのポリティクス 14. 講義のまとめ 15. 受講生発表

【成績評価】 授業への参加度や発表などを総合的に評価する。レポートによる評価(7割)、授業への参加度ならびに発表(3割)。

【再試験】 無

【教科書】 教科書なし。毎回配布するレジユメに関連文献を記載する。

【参考書】 バリーグラスナー著、松本薫訳、2004年『アメリカは恐怖に踊る』草思社; ジョエル・バスト著、林大訳、2002年『統計はこうしてウソをつく』白揚社など

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219049>

【連絡先】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日 11時50分~12時50分)

アメリカ文化論 (その2) 2単位 2年 (後期)

上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】 「愛とケアの南北問題」について理解を深める。
【授業概要】 少子高齢化、女性の就労、共働き世帯の増加などで生じた経済先進諸国での「ケア・クライシス」を解決するにはいくつかの方法が考えられる。本講義では、それらの方法を比較検討し、そのなかでも主に各々の家族が経済発展の遅れた国から安い賃金の女性労働者や「花嫁」を調達するアジア家族福祉レジームをシンガポールなどを例にみていく。そして、そのシステムの中で国境を越えて働く女性たちの生活の一部を紹介したい。
【キーワード】 ケアクライシス、移動の女性化
【履修上の注意】 ()
【到達目標】
 1. 女性の国際移動を、「コモンの侵食」「ケア流出」といった南北問題を捉えることができる。
 2. 本講義で議論する「ケア・クライシス」をグローバル化社会に生きる自分たちの問題として捉えることができるようになる。
【授業計画】 1. オリエンテーション - 再生産労働のグローバル化 2. 国際労働移動の諸要因 3. アジア家族福祉レジーム 4. 外国人家事・ケア労働者としての生活 5. 底辺労働者の抵抗のストラテジー 6. 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント 7. 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント 8. NGOで作られるヒロインたち 9. トランスナショナルなライフコース 10. 日本での外国人研修生・実習生制度 11. 日本での外国人研修生・実習生制度 12. 結婚での国際移動 13. 結婚での国際移動 14. インドネシア・フィリピンの外国人介護士・看護士 15. 愛とケアの南北問題 16. まとめ
【成績評価】 毎回のリアクションペーパーと学期末のレポートで評価
【再試験】 無
【教科書】 上野加代子『なぜ女は国境を越えるのか - アジアの出稼ぎ家事労働者』(仮題)世界思想社, 2011年
【参考書】 毎回のレジメに記載
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219050>
【連絡先】
 ⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 11時40分~12時40分)

ドイツ語圏文化論 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】 ドイツの人々の生活や社会に関するいくつかのテーマをとりあげ、これらを媒介として、幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと。
【授業概要】 ドイツについて学ぶ手がかりとなるような、いくつかのトピックを取り上げ、日本の状況と比較しながら、その歴史的・文化的背景を考えます。希望によっては、ドイツの人々との交流(電子メールなど)やドイツの状況の視察なども組み入れることも可能です。
【キーワード】 ドイツ語圏の文化を知る
【履修上の注意】 この授業では、ドイツ語の知識は前提としません(もちろん、片言でも出来れば申し分ありません)。異なる文化に触れるとき、自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが、大きな問題になってきたりすることがあります。受講者には、このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います。参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です(授業で詳しく紹介します)。
【到達目標】 現代ドイツの社会についての概要とその多様性を知り、さらに関心を展開して行く足がかりを得る。同時に、自国の文化についての新たな観点を獲得する。
【授業計画】 1. 導入・文献や資料の紹介 2. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (1) 3. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (2) 4. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (3) 5. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (4) 6. ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) 7. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (1) 8. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (2) 9. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (3) 10. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (4) 11. ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) 12. ドイツの学校と教育制度を知る (1) 13. ドイツの学校と教育制度を知る (2) 14. ドイツの学校と教育制度を知る (3) 15. ディスカッション及び参加者による研究発表 (3) 16. 前期授業のまとめ(レポート提出)
【成績評価】 出席、授業での発表、レポートを総合して行ないます。
【再試験】 なし
【教科書】
 ◇ プリントを配布します。教科書や参考書の指定はありませんが、手に入りやすい参考書として次のものを推薦します。その他、授業で紹介いたします。
 ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの政治(早稲田大学出版部)
 ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの経済(早稲田大学出版部)
 ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの社会(早稲田大学出版部)
 ◇ 天野正治他:ドイツの教育(東信堂)
 ◇ 在間進・河合節子:現代ドイツ情報ハンドブック(三修社)

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218904>
【連絡先】
 ⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4, 金曜5-6)

ドイツ語圏文化論 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】 ドイツの人々の生活や社会に関するいくつかのテーマをとりあげ、これらを媒介として、幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと。
【授業概要】 後期の授業では、主として、ヨーロッパの言語教育およびドイツの学校教育の実情と問題点をとりあげます。日本でもドイツでも教育にはさまざまな重い問題がありますが、同時に学校教育には、現代の文化現象を読み解く上での重要なヒントがあります。ここでは、制度的側面の理解とともに、教育内容、学校文化などの研究が重要です。そこで使用されている具体的な教科書を紹介します。授業の様子のビデオ等も活用します。
【キーワード】 ドイツ語圏の文化を知る、ドイツの学校教育、ヨーロッパの言語教育
【履修上の注意】 この授業では、ドイツ語の知識は前提としません(もちろん片言でも出来れば申し分ありません)。異なる文化に触れるとき、自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが、大きな問題になってきたりすることがあります。受講者には、このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います。参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です(授業で詳しく紹介します)。
【到達目標】 現代ドイツの教育事情の概要とその多様性を知ることとおして、自国の文化についての新たな観点を獲得する。
【授業計画】 1. 導入・文献や資料の紹介 2. ヨーロッパにおける外国語教育 - 多言語性と言語政策 3. ヨーロッパにおける外国語教育 - ヨーロッパ共通参照枠(Common Framework)とポートフォリオ 4. ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) 5. ドイツの学校教育の現状と問題点 6. ドイツのドイツ語(国語)教育を見る (1) - 授業のビデオを見る 7. ドイツのドイツ語(国語)教育を見る (2) - 国語教科書を見る 8. ドイツのドイツ語(国語)教育を見る (3) - 教育目標とカリキュラム 9. ドイツのドイツ語(国語)教育を見る (4) - 授業のビデオを見る 10. ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) 11. ドイツの政治授業を見る (1) ビデオを見る 12. ドイツの政治授業を見る (2) 教科書を見る 13. ドイツの政治授業を見る (3) ドイツの政治教育の歴史 14. ドイツの大学 15. ディスカッション及び参加者による研究発表 (3) 16. 後期授業のまとめ(レポート提出)
【成績評価】 出席、授業での発表、レポートを総合して行ないます。
【再試験】 なし
【教科書】
 ◇ プリントを配布します。教科書や参考書の指定はありませんが、手に入りやすい参考書として次のものを推薦します。その他、授業で紹介いたします。
 ◇ 天野正治他:ドイツの教育(東信堂)
 ◇ マックス・ブランク研究所(天野他訳):ドイツの教育のすべて
 ◇ クリストフ・フェール(天野他訳):ドイツの学校と大学
 ◇ 近藤孝弘:ドイツの政治教育
 ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの社会(早稲田大学出版部)
 ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの政治(早稲田大学出版部)
【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218905>
【連絡先】
 ⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4, 金曜5-6)

フランス語圏文化論 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】 フランス語で書かれた文学作品を原語で読み、作家のテクニクについて考える。
【授業概要】 フランスの文学 人間は内面の感情や知識を伝達したいと考えるとき、記号に頼らざるを得ない。内面的な感情は、テレパシーや、脳に電極を差し込んでそれぞれ直接電気信号を伝えようなんてことが可能でない限り、そのまま伝えることはできず、絵や音楽や言語と呼ばれる記号や表象を介してしか伝わらないだろう。もし直接に心の動きが伝えられるとしたら、そちらのほうがまだあなたはどうだろうか?それとも心の中が直接相手に伝わらないからこそ幸いだと思うだろうか。田島は、自分の内面を表象を介して間接的にしか伝えられないことを幸いだと思う。だって、やばいことは言わなきゃいけないだから。いやそういう意味だけではなく、ある内面を表現するためにある表象が選ばれる。その際にその表象が果たして発信者と受信者の間で同じものとして認識されているかどうかは疑問である。悲

しいとか嬉しいとか単純な気持ちでも涙で表現されたとき、正しく相手に伝わるだろうか、ましてやそれよりも複雑な感覚であればそれなりに技巧をこらさなければ発信者の感情は伝えようがない、そして技巧をこらした表象であっても発信者と受信者の間で同じものとして認識されないかもしれない、このこと自体がむしろ幸いだと思う、だからこそ技巧が発達し、表象自体を楽しむことができるのだから。

- 【キーワード】 フランスの文学, 表象, テキスト
 【先行科目】 『実用フランス語演習 I』(1.0), 『フランス語』(1.0)
 【関連科目】 『実用フランス語演習 I』(0.5)
 【履修上の注意】 全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。
 【到達目標】 フランス語で文学を読むためのフランス語能力と、文学作品を鑑賞し、理解し、論評するための語彙、方法を獲得する。
 【授業計画】 19世紀か20世紀のフランス語で書かれた比較的短い作品を読み、作者自身について、作品の時代背景について、作品に使われた技法について、また作品の受容について調査検討する。
 【成績評価】 出席および授業中の発言を重視します。
 【再試験】 行いません。
 【教科書】 コピーを配布します。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218984>
 【連絡先】
 ⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)
 【備考】 2009(平成21)年カリキュラムのと同時間開講のため、月曜3-4講時に開講します。

フランス語圏文化論 (その2) 2単位 3年(後期)
 田島 俊郎・教授/人間文化学科

- 【授業目的】 フランス語で書かれた文学作品を原語で読み、作家のテクニクについて考える。
 【授業概要】 人間は内面の感情や知識を伝達したいと考えるとき、記号に頼らざるを得ない。内面的感情は、テレパシーや、脳に電極を差し込んでそれぞれ直接電気信号を伝えあうなんてことが可能でない限り、そのまま伝えることはできず、絵や音楽や言語と呼ばれる記号や表象を介してしか伝わらないだろう、もし直接に心の動きが伝えられるとしたら、そちらのほうがましだとあなたは思うだろうか?それとも心の中が直接相手に伝わらないからこそ幸いだと思うだろうか。田島は、自分の内面を表象を介して間接的にしか伝えられないことを幸いだと思う。だって、やばいことは言わなきゃばれないんだから、いやそういう意味だけではなく、ある内面を表現するためある表象が選ばれる。その際にその表象が果たして発信者と受信者の間で同じものとして認識されているかどうかは疑問である。悲しいとか嬉しいとか単純な気持ちでも涙で表現されたとき、正しく相手に伝わるだろうか、ましてやそれよりも複雑な感覚であればそれなりに技巧をこらさなければ発信者の感情は伝えようがない、そして技巧をこらした表象であっても発信者と受信者の間で同じものとして認識されないかもしれない、このこと自体がむしろ幸いだと思う、だからこそ技巧が発達し、表象自体を楽しむことができるのだから。

- 【キーワード】 フランス文学, 表象, テキスト
 【先行科目】 『フランス語』(1.0)
 【関連科目】 『実用フランス語演習 I』(0.5)
 【履修上の注意】 全学共通教育のフランス語 I を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。
 【到達目標】 フランス語で文学を読むためのフランス語能力と、文学作品を鑑賞し、理解し、論評するための語彙、方法を獲得する。
 【授業計画】 19世紀か20世紀のフランス語で書かれた比較的短い作品を読み、作者自身について、作品の時代背景について、作品に使われた技法について、また作品の受容について調査検討する。
 【成績評価】 出席および授業中の発言を重視します。
 【再試験】 行いません。
 【教科書】 コピーを配布します。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218985>
 【連絡先】
 ⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)
 【備考】 後期は火曜3-4講時に開講。

文化批評論 (その1) 2単位 2年(前期)
 吉田 文美・准教授/人間文化学科

- 【授業目的】 この授業では、「研究の素材」となりうるもの自体について学ぶというよりは、「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書、論文を日本語または英語で講読し、研究テーマの設定方法や研究手法について学ぶことを目的とする。

- 【授業概要】 文芸、文化、文学などに関する批評理論を読む。今回は、Keith Sanger 著の The Language of Drama の前半部 (Unit 1-3) を読み、ドラマ(舞台劇、ラジオドラマ、TVドラマ、映画等)の台詞として使われる言語の特徴について分析する。
 【キーワード】 ドラマ, 言語, 文学
 【関連科目】 『文化批評論(その2)』(1.0, ⇒118頁), 『比較文化研究(その1)』(0.5, ⇒114頁), 『比較文化研究(その2)』(0.5, ⇒115頁), 『英米の社会と文化 I(その1)』(0.5, ⇒120頁), 『英米の社会と文化 I(その2)』(0.5, ⇒120頁)
 【履修上の注意】 隔年開講となる。2011年度は開講しない。
 【到達目標】 講読した研究書や論文中で示されている研究手法や批評方法を十分に理解することを目標とする。
 【授業計画】 1. Class Guidance (The following class plan is tentative, and could be changed.) 2. Introduction (pp. 1-3) 3. Unit 1: Are you sitting comfortably? (pp. 5-7) 4. Unit 1: Are you sitting comfortably? (pp. 8-11) 5. Unit 1: Are you sitting comfortably? (pp. 11-14) 6. Unit 1: Are you sitting comfortably? (pp. 15-17) 7. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 19-22) 8. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 22-25) 9. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 25-28) 10. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 28-30) 11. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 31-32); Unit 3: Presentation of character (pp. 33-34) 12. Unit 3: Presentation of character (pp. 34-37) 13. Unit 3: Presentation of character (pp. 37-40) 14. Unit 3: Presentation of character (pp. 41-42) 15. Final Test or Final Paper 16. Review
 【成績評価】 授業への出席状況、各自の担当箇所の読解、授業中の課題(50%程度)、最終テストまたはレポート(50%程度)により評価する。
 【再試験】 評価が50%以上の者のみ実施する。
 【教科書】 Keith Sanger. The Language of Drama (Intertext). London: Routledge, 2001
 【参考書】 授業中に指示する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218991>
 【連絡先】
 ⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)
 【備考】 隔年開講(前期)。平成23年度開講せず

文化批評論 (その2) 2単位 2年(後期)
 吉田 文美・准教授/人間文化学科

- 【授業目的】 この授業では、「研究の素材」となりうるもの自体について学ぶというよりは、「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書、論文を日本語または英語で講読し、研究テーマの設定方法や研究手法について学ぶことを目的とする。
 【授業概要】 文芸、文化、文学などに関する批評理論を読む。今回は、前期に引き続き、Keith Sanger 著の The Language of Drama の後半部 (Unit 4-7) を読み、ドラマ(舞台劇、ラジオドラマ、TVドラマ、映画等)の台詞として使われる言語の特徴について分析する。
 【キーワード】 ドラマ, 言語, 文学
 【先行科目】 『文化批評論(その1)』(1.0, ⇒118頁)
 【関連科目】 『比較文化研究(その1)』(0.5, ⇒114頁), 『比較文化研究(その2)』(0.5, ⇒115頁), 『英米の社会と文化 I(その1)』(0.5, ⇒120頁), 『英米の社会と文化 I(その2)』(0.5, ⇒120頁)
 【履修上の注意】 2005年度より、隔年開講となる。2011年は開講しない。
 【到達目標】 講読した研究書や論文中で示されている研究手法や批評方法を十分に理解することを目標とする。
 【授業計画】 1. Class Guidance (The following class plan is tentative, and could be changed.) 2. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 43-46) 3. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 47-50) 4. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 51-52); Unit 5 Storytelling (pp. 53-54) 5. Unit 5 Storytelling (pp. 55-58) 6. Unit 5 Storytelling (pp. 58-61) 7. Unit 5 Storytelling (pp. 61-64) 8. Unit 5 Storytelling (pp. 64-68) 9. Unit 6 The grammar of sound (pp. 69-72) 10. Unit 6 The grammar of sound (pp. 73-76) 11. Unit 6 The grammar of sound (pp. 77-80) 12. Unit 7 Book to film (pp. 81-84) 13. Unit 7 Book to film (pp. 84-87) 14. Unit 7 Book to film (pp. 88-89) 15. Final Test or Final Paper 16. Review
 【成績評価】 授業への出席状況、各自の担当箇所の読解、授業中の課題(50%程度)、最終テストまたはレポート(50%程度)により評価する。
 【再試験】 評価が50%以上の者のみ実施する。
 【教科書】 Keith Sanger. The Language of Drama (Intertext). London: Routledge, 2001
 【参考書】 授業中に指示する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218992>
 【連絡先】
 ⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】隔年開講(後期),平成23年度開講せず

日本語教育方法論 I

2 単位 2 年(前期)
大石 寧子・教授/国際センター

- 【授業目的】**日本語教育に限らず、広く教育の方法について理解し、これからの教育活動の基礎を習得する。
- 【授業概要】**日本語教育の前提となる、教育及び学習に焦点をあて、私たちが受けてきた教育活動を振り返り、これからの教育—学習活動を再構築し実践していく方法を体得する。[継]
- 【キーワード】**生涯学習、自律学習、心とからだのコミュニケーション、意識と無意識、教えると学ぶ
- 【関連科目】**『日本語教育演習(その2)』(0.5, ⇒120頁)
- 【履修上の注意】**講義以外に集中講義形式で外部講師による「ここからからだの研修」を実施するこれも必ず受講すること。
- 【到達目標】**
1. 日本語教育や日本語学習者の概観を知るとともに、言語はいかに習得されるか、学習者がどのようなものを求めているのかを理解できるようにする。
 2. 自分を見つめ、また他者との関わりから教える・学ぶを考える。
- 【授業計画】** 1. 自己紹介とガイダンス 2. 自分を知る 1 ところから 3. 自分を知る 2 ところから 4. 相手を知る 1 コミュニケーション 5. 相手を知る 2 コミュニケーション 6. 教える 1 ことば 7. 教える 2 知識 8. 学ぶ 1 ことば 9. 学ぶ 2 知識 10. 教えることと学ぶこと 体験学習とは 11. ところとからだのレッスン 1(集中講義) 12. ところとからだのレッスン 2(集中講義) 13. ところとからだのレッスン 3(集中講義) 14. ところとからだのレッスン 4(集中講義) 15. 自己成長と教育 16. まとめにかえて
- 【成績評価】**出席を重視します。毎回振り返りを記入または発言を記録し、評価とします。テストは行わない。
- 【再試験】**無
- 【教科書】**授業内で提示する。
- 【参考書】**竹内敏晴「からだことばのレッスン」野口三千三体操 ニューカウンセリング
- 【授業コンテンツ】**<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219298>
- 【連絡先】**
⇒大石(088-656-9875, oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 9:30~ 12:00 但し事前の連絡があれば他の日時でも対応します。)
- 【備考】**平成24年度開講

日本語教育方法論 II

2 単位 2 年(後期)
橋本 智・准教授/国際センター

- 【授業目的】**「外国語としての日本語」を認識・理解し、その教育方法について考察し、言語学習活動の基礎とする。
- 【授業概要】**日本語教育とは、日本語を教えるということ、何をどう教えるか、日本語教育に係る領域・環境について考察し、自分なりの日本語教育方法を模索する
- 【キーワード】**外国語としての日本語、何を教えるか、どう教えるか
- 【履修上の注意】**隔年開講のため2011年には開講されない。
- 【到達目標】**外国語としての日本語を認識・理解する。またその教育方法を学ぶ。
- 【授業計画】** 1. 本授業の概要・計画の説明 2. 「外国語としての日本語」に必要なもの① 3. 「外国語としての日本語」に必要なもの② 4. 「外国語としての日本語」のコンテンツ①シラバス 5. 「外国語としての日本語」のコンテンツ②シラバス以外のもの 6. 留学生に聞く 7. 何を教えるか① 8. 何を教えるか② 9. どう教えるか① 10. どう教えるか② 11. 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営① 12. 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営② 13. 「外国語としての日本語」教育における教材・教具とは 14. 留学生・地域と「面白い日本語授業」を考える 15. 「面白い日本語授業」のグループ発表 16. 総括
- 【成績評価】**グループ発表時の積極性、クラスに臨む姿勢、参加度を重視。またレポートを課す。
- 【再試験】**無
- 【教科書】**適宜コピー教材を配付
- 【参考書】**
- ◇「日本語教育の方法」田中望 大修館書店
 - ◇「新しい日本語教育のために」J.V. ネウストプニー サイマル出版
 - ◇「新・はじめての日本語教育1・2」アスク出版
- 【授業コンテンツ】**<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218924>
- 【連絡先】**
⇒橋本(088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)
- 【備考】**隔年開講,2011年には開講されない。

日本語教授法 I

2 単位 2 年(前期)
大石 寧子・教授/国際センター

- 【授業目的】**外国語教育としての日本語教育とは何かを追究する。その中で、日本語を教えるための知識、方法及び技術を修得することを目的とする。
- 【授業概要】**日本語を教えるための方法に関わる者全ての視点から理解する。
- 【キーワード】**言語教育、学習ストラテジー、コースデザイン
- 【履修上の注意】**課題解決型の講義のため、出席と授業態度を重視する。
- 【到達目標】**日本語教師を目指す者として、様々な教授法や教育的な関わりを理解する。さらに教育を実施する側の学習者への働きかけについても、実際に日本語を学ぶ人たちを交えて検討する。
- 【授業計画】** 1. 日本語教育の歴史 2. 日本語教育の担うもの 3. 日本語を学ぶ環境 異文化コミュニケーション 4. 様々な教授法① 5. 様々な教授法② 6. 様々な教授法③ 7. 様々な教授法④ 8. 様々な教授法⑤ 9. 様々な教授法⑥ 10. 様々な教授法⑦ 11. 評価の目的 12. 評価の方法 13. 授業見学① 14. 授業見学② 15. 日本語教育とは 16. 総括授業 まとめ
- 【成績評価】**出席及び毎回の講義内でのタスクさらに最終課題を評価する。
- 【再試験】**無
- 【教科書】**授業初日に指示
- 【授業コンテンツ】**<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219296>
- 【連絡先】**
⇒大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

日本語教授法 II

2 単位 2 年(後期)
橋本 智・准教授/国際センター

- 【授業目的】**留学生をはじめ外国人と接する時、日本語はコミュニケーション手段の基本となり、その日本語を支えているものは文法である。この文法は国文法とは異なる視点で形成された外国人のための日本語教育の文法である。テキストだけでなくとどまらず時には留学生もまじえ生きた日本語の仕組みを体感する。
- 【授業概要】**「外国人のための日本語」について文法を軸に仕組みを学ぶ。
- 【キーワード】**外国人のための日本語、コミュニケーションの道具、運用
- 【到達目標】**外国人のための日本語の仕組みを学び、日本語指導やコミュニケーション時の基本とする。
- 【授業計画】** 1. ①本授業の進め方②各自の外国語習得について③日本語教育とは 2. ①日本語教育のこれまで②外国人のための日本語(以下「日本語」とする)の特徴(1)SOV型・主語の省略・従属節 3. 「日本語」の特徴(2)複数・助動詞など 4. 音声・リズム 5. 文法①国文法との違い②品詞③名詞文「～は～です」 6. ①動詞とは②その活用③文型とは 7. その文型の機能とそれ支える各フォーム(1)て形、ない形、た形 8. その文型の機能とそれ支える各フォーム(2)辞書形、可能形、意向形、命令・禁止形 9. その文型の機能とそれ支える各フォーム(3)受身形、使役形、敬語 10. ①アスペクト②まとめ-留学生と共に 11. ①形容詞とは②その活用③形容詞の機能(1)印象・感想、描写 12. ①形容詞の機能(2)②～たい～ほしい 13. ①助詞②接続詞③副詞の役割と機能 14. 表記①ひらがな・かたかな・漢字について 15. 表記②導入-留学生と共に 16. 総括授業
- 【成績評価】**課題への取り組み方、クラスでの姿勢、レポートなどによって評価する。
- 【再試験】**無
- 【教科書】**授業初日に伝える
- 【授業コンテンツ】**<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219297>
- 【連絡先】**
⇒橋本(088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)

日本語教育演習(その1)

2 単位 3 年(後期)
大石 寧子・教授/国際センター

- 【授業目的】**実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授法やクラス運営を学ぶ。
- 【授業概要】**日本語教育の演習
- 【キーワード】**演習、実習
- 【先行科目】**『日本語教授法 I』(1.0, ⇒119頁), 『日本語教授法 II』(1.0, ⇒119頁), 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒119頁), 『日本語教育方法論 II』(1.0, ⇒119頁)
- 【履修上の注意】**学生のレベルや人数などの状況により、授業内容や計画が変更される場合があります。
- 【到達目標】**今まで勉強してきた理論や教授法などを復習しながら、どのように日本語の授業を組み立ててまた運営していくかを検討する。実際

に教室で日本語を教える経験を通して、日本語教師に必要な知識や経験を得る。授業の前に練習を行い、授業後にクラスを振り返り、効果的な授業やクラス運営について考える。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 教案の作成 (1) 3. 教案の作成 (2) 4. 実習計画 5. 日本語教育実習 (1) 6. 日本語教育実習 (2) 7. 日本語教育実習 (3) 8. 日本語教育実習 (4) 9. 日本語教育実習 (5) 10. 日本語教育実習 (6) 11. 日本語教育実習 (7) 12. 日本語教育実習 (8) 13. 日本語教育実習 (9) 14. 日本語教育実習 (10) 15. 日本語教育実習 (11) 16. 振り返り

【成績評価】 本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に適宜提示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218920>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

【備考】 授業時間外の活動も多いため、適宜受講生と内容方法を相談しながら進めます。

日本語教育演習 (その2)

2 単位 4 年 (後期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授方法やクラス運営を学ぶ。様々な教材=リソースについても確認する。

【授業概要】 日本語教育の演習

【キーワード】 演習, 実習

【先行科目】 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒119 頁), 『日本語教育方法論 II』(1.0, ⇒119 頁), 『日本語教授法 I』(1.0, ⇒119 頁), 『日本語教授法 II』(1.0, ⇒119 頁)

【履修上の注意】 受講者は、日本語教育方法論及び日本語教授法、あるいは日本語教育関連の授業を既に受講し、単位を取得していることが望まれる。内容上多くの人数受け入れが不可能なこともある。受講前に必ず担当者と面談をすること。また授業時以外にも活動をすることを念頭に置いておくこと。

【到達目標】

1. ガイダンス
2. 教案の作成 (1)

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 教案の作成 (1) 3. 教案の作成 (2) 4. 実習計画 5. 日本語教育実習 (1) 6. 日本語教育実習 (2) 7. 日本語教育実習 (3) 8. 日本語教育実習 (4) 9. 日本語教育実習 (5) 10. 日本語教育実習 (6) 11. 日本語教育実習 (7) 12. 日本語教育実習 (8) 13. 日本語教育実習 (9) 14. 日本語教育実習 (10) 15. 日本語教育実習 (11) 16. 振り返り

【成績評価】 本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に指示する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218922>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

【備考】 授業時間外にも活動を行うため、受講生と適宜方法内容について相談します。

英米の社会と文化 I (その1)

2 単位 2 年 (前期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテクストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。前期 (その1) では、比較的平易な作品を取り上げる。

【キーワード】 *poetry in English, reading poems, introduction to English poetry*

【関連科目】 『英米文化研究 I (その1)』(0.5, ⇒131 頁), 『英米文化研究 I (その2)』(0.5, ⇒131 頁), 『英米文化研究 II (その1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その2)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米の社会と文化 II (その1)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米の社会と文化 II (その2)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米文化研究 III (その1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その2)』(0.5, ⇒66 頁)

2)』(0.5, ⇒66 頁), 『文化批評論 (その1)』(0.5, ⇒118 頁), 『文化批評論 (その2)』(0.5, ⇒118 頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年度は開講する。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮して、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び、毎回 3~5 編ずつ講読する予定です。学期中に 2 回のテストを行います。詳しい日程は最初の授業で指示します。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928) 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指定します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218385>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講 (前期)。2011 年度は開講。

英米の社会と文化 I (その2)

2 単位 2 年 (後期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテクストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。後期 (その2) では、前期 (その1) で取り上げたものより、難解な作品が中心となる。

【キーワード】 *introduction to English poetry, reading poems, poetry in English*

【先行科目】 『英米の社会と文化 I (その1)』(1.0, ⇒120 頁)

【関連科目】 『英米の社会と文化 II (その1)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米の社会と文化 II (その2)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米文化研究 I (その1)』(0.5, ⇒131 頁), 『英米文化研究 I (その2)』(0.5, ⇒131 頁), 『英米文化研究 II (その1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その2)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その2)』(0.5, ⇒66 頁), 『文化批評論 (その1)』(0.5, ⇒118 頁), 『文化批評論 (その2)』(0.5, ⇒118 頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年は開講。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮し、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品を読む予定です。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928), 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指示します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218386>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】隔年開講(後期), 2011 年度開講.

異文化間コミュニケーション(その1) 2 単位
2 年(前期, 集中)
Cross-cultural Communications 坂田浩・助教授/国際センター

【授業目的】現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生していくことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1)受講者自身が自らの文化に気づき、(2)多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3)異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行くための具体的な方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。

【授業概要】異文化トレーニング

【履修上の注意】具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【授業計画】1. 具体的な内容・計画は以下の通り。 2. (1)「自文化を気づくトレーニング」 3. (2)「Perception/Programming のエクササイズ」 4. (3)「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 5. (4)「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 6. (5)「価値観の多様性に関するエクササイズ」 7. (6)「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 8. (7)「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 9. (8)「Organizational/Individual Challenges」 10. (9)「多文化で共生できる人とは?DMIS」 11. (10)「多文化で共生する為のヒント:DIE」 12. (11)「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」 13. (12)「Action Planning:大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」 14. など

【成績評価】評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。

【再試験】行わない。

【教科書】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218359>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:各集中講義時間終了後)

異文化間コミュニケーション(その2) 2 単位
2 年(後期, 集中)
坂田浩・准教授/国際センター

【授業目的】本授業では、前期の集中講義を基に授業を展開するが、概要としては、(1)異文化間コミュニケーションに必要とされる技術(スキル)と態度を養う、(2)自己のあり方を振り返り、今後の自分について考える、(3)外国語に対する認識と態度を再考する、という内容を中心に授業を展開していく予定である。

【授業概要】目的を参照

【先行科目】『異文化間コミュニケーション(その1)』(I.0, ⇒121 頁)

【履修上の注意】具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【到達目標】

1. 文化的な「違い」に対する認識と態度について再考出来るようになる
2. 自己を振り返り、望ましい自分について具体的なイメージを形成できる
3. 具体的な理想のイメージに向かっていく為に必要なコミュニケーション能力を獲得する
4. 自分とは異なる人達と有効な人間関係を構築することが出来る

【授業計画】1. オリエンテーション 2. マインドマップを使って自分の価値観を探りましょう! 3. 価値観を達成する為のヒントとリソースを考えましょう! 4. コミュニケーションエクササイズ(1): 承認とフィードバック 5. コミュニケーションエクササイズ(2): 質問・質問(1) 6. コミュニケーションエクササイズ(3): 質問・質問(2) 7. コミュニケーションエクササイズ(4): 自己開示(1) 8. コミュニケーションエクササイズ(5): 自己開示(2) 9. コミュニケーションエクササイズ(6): 傾聴(1) 10. コミュニケーションエクササイズ(7): 傾聴(2) 11. コミュニケーションエクササイズ(8): リーダーシップとチームワーク(1) 12. コミュニケーションエクササイズ(9): リーダーシップとチームワーク(2) 13. 今年の誓いとミッション・ステートメント 14. 人間関係・異文化とコミュニケーション 15. 予備日

【成績評価】評価は、基本的には出席・レポート・発表内容を基に行う。

【再試験】行わない。

【教科書】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219389>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜 12:00-12:50)

【備考】定員: 30 名まで *30 名以上の場合は、総合科学部生(欧米言語コース 2-3 年生, 国際文化コース 2-3 年生)を優先し、残りに関しては抽選を行います。

言語情報処理研究(その1) 2 単位 3 年(前期), 4 年(前期)
中島浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール(KWIC コンコーダンサー等)、Unix コマンド、プログラミング言語(Perl)を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. Perl 言語概要 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】「独習 Perl 第 2 版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218564>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

言語情報処理研究(その2) 2 単位 3 年(後期), 4 年(後期)
中島浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール(KWIC コンコーダンサー等)、Unix コマンド、プログラミング言語(Perl)を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成(文字列の加工、頻度表の作成、KWIC 出力, etc.)

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】「独習 Perl 第 2 版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218565>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究(その3) 2 単位 3 年(前期), 4 年(前期)
中島浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール(KWIC コンコーダンサー等)、Unix コマンド、プログラミング言語(Perl)を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的技能を身につける。

【授業計画】 1. Perl 言語概説 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218566>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その4) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダランサー等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】 コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】 Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】 基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的技能を身につける。

【授業計画】 1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218567>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

比較文化演習 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218950>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

比較文化演習 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218951>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

ドイツの社会と文化 (その1)

2 単位 2 年 (前期)
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会的な想像力を身につける事。ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、外国人排斥思想、移民受け入れ理論、グローバル化、高齢化問題、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】 1. 社会学入門:社会学とは何か。 2. ライフスタイル。文化社会学: Pierre Bourdieu 3. Bourdieu 理論のキーワード:資本、ハビトウス、階級、ディステンクシオン等 4. エリートを生む学歴社会:ドイツとフランスの教育制度 5. Gerhard Schulze: 現代ドイツ社会の分析、その理論と研究デザイン 6. 日常生活の社会学:ドイツの主な五つの生活様式 7. ドイツ社会のライフスタイルグループの具体的な描写 8. ドイツの主流社会から排除されているグループ 9. 移民社会としてのドイツ:外国人受け入れの歴史と現状 10. 排斥主義と国家主義とネオナチ問題 11. 外国人受け入れ理論 1. 同化論、統合論、多様文化論、超文化論 12. 若者文化 1. 1960年代から現代までのそれぞれの若い世代の特徴 13. 若者文化 2. 現代ドイツで族化している若者の分類 14. 若者文化 3. 若者の代表的な「族」の紹介 15. 纏めと質疑応答 16. Ulrich Beck: ドイツとグローバル化をめぐる

【成績評価】 出席, レポート, 発表, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書, 教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218906>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】 授業は日本語で行われます。

ドイツの社会と文化 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会的な想像力を身につける事、ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、移民社会、高齢化問題、(生と死の)哲学、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】 1. ドイツとオーストリーの相違と特徴 2. オーストリーの歴史、ケルト人、ローマ時代から十九世紀まで 3. 20、21世紀のオーストリー:政治、経済、社会、文化 4. オーストリーとEUにおける移民政策 5. EUの統合と組織犯罪の在り方 6. 世俗化したドイツ、オーストリーにおける宗教 7. 若い世代と宗教:精神世界、ニューエイジ思想、折衷主義 8. ドイツ社会と東洋思想:インド哲学、仏教、禅との出会い 9. bodycult and bodyart/body modification: 身体変更/改造、リストカット症候群、体の社会学 10. 高齢社会、その問題と課題 11. 西洋哲学での生と死の見方 12. 安楽死をめぐる 13. ホスピス、その歴史と理念 14. 緩和ケア、特にスピリチュアルケアについて 15. 纏めと質疑応答 16. 「ソフィの世界」ドイツ語圏での哲学ブーム

【成績評価】 出席、レポート、発表、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書、教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218907>

【連絡先】
⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】 授業は日本語で行われます。

社会思想研究

2 単位 2 年 (後期)

石田 三千雄・教授/人間文化学科, 山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 環境倫理学を通じて、倫理学の基本的な考え方を理解する。現代社会における「倫理的問題」は、単に思想や価値観の問題であるだけでなく、「社会的問題」でもあることを理解する。環境倫理学のトピック、その思想的背景、現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ、現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける。その上で、自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける。レポートをもとに意見を発表し、討議する力を身に付ける。

【授業概要】 「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い、そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する。

【キーワード】 哲学、倫理学、環境、社会と自然

【到達目標】

1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション: 「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) 2. 環境倫理学の系譜 (1): 環境倫理学成立の背景: 1950~60年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) 3. 環境倫理学の系譜 (2): 環境倫理学の源流: 19世紀ロマン主義の思想 (山口) 4. 環境倫理学の系譜 (3): 「自然の権利」論を中心に: クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマノクロウサギ訴訟 (山口) 5. 環境倫理学の系譜 (4): 「動物の解放」論を中心に: 動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) 6. 地球温暖化問題の成立 (1): 地球寒冷化論と温暖化論: 酸性雨問題からフィラッパ会議まで (山口) 7. 地球温暖化問題の成立 (2): フィラッパ会議後の展開: 地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) 8. 地球温暖化問題の成立 (3): IPCCの成立と気候変動枠組み条約の締結: 新たな国際枠組みの模索 (山口) 9. 地球温暖化問題の成立 (4): 京都議定書とその後の展開 10. アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる。シャロウ・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を、その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造、エコフィロソフィーとエコソフィー、自己実現との関連で講じる (石田)。 11. マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる。ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判、位階性の批判、自然の進化と社会の進化、リバタリアン的な地域自治主義を講じる (石田)。 12. ドイツの環境政策を講じる。1970年代以降のドイツの環境政策を概観した上で、地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策、ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴェーパータル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター4」を講じる (石田)。 13. ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる。自然は果たして権利の主体になりうるか、人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か、等を論じる。 (石田) 14. ドイツの環境思想家マイアー=アービヒの『自然との和解への道』で述べられた、実践的自然哲学を講じる。政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること、自然の理解は広い意味で法の中で論じられること、人間中心主義に対する哲

学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ、自然中心主義の世界像から、自然としての人間、自然の法共同体を講じる。 (石田) 15. 「環境倫理学の現代的課題」まとめ: ディスカッション (石田)

【成績評価】 毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2点×15=30点、レポート2回=70点。

【再試験】 行う。

【教科書】 その都度資料を配付する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219396>

【連絡先】
⇒ 山口 (共通教育4号館404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)
⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜14時~15時)

比較思想研究

2 単位 2 年 (前期)

石田 三千雄・教授/人間文化学科, 吉田 昌市・教授/人間文化学科
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 いくつかの「哲学的」トピックを取り上げ、それらについて考えることで、現代社会の諸問題を考察する視座を得る。

【授業概要】 哲学史上論じられてきた多様なトピックについて、一般的・包括的な内容を各3~4回の講義で紹介する。それを受けた「まとめ」の回は受講者の中から若干名にレポートを発表してもらい、ディスカッションを行う。毎回の授業後に疑問や意見を「一言カード」記入してもらい、次回授業の冒頭で復習を行う。また、授業で用いたファイルや資料はウェブページに公開するので復習に役立てること。

【キーワード】 哲学、科学と哲学、倫理学

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒123頁), 『比較文化研究 (その2)』(0.5, ⇒115頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒123頁)

【到達目標】

1. 人文科学 (哲学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション: 現代における哲学の意義 (吉田, 石田, 山口) 2. 哲学の立場 その1: 批判精神としての哲学 - ソクラテスの人と思想 - (吉田) 3. 哲学の立場 その2: 何のための批判? - イデアの哲学へ - (吉田) 4. 哲学の立場 その3: イデアの哲学 - 哲学と宗教 - (吉田) 5. まとめとディスカッション (吉田, 石田, 山口) 6. 現代科学論の系譜 (1) 自然法則とイデア論 (山口) 7. 現代科学論の系譜 (2) 経験は真理を保証できるか (山口) 8. 現代科学論の系譜 (3) プラナリアの記憶物質 (山口) 9. 現代科学論の系譜 (4) 因果関係は実在するか (山口) 10. まとめとディスカッション: 「科学の正しさ」をめぐる (吉田, 石田, 山口) 11. 倫理的な正しさとは何か その1: リベラリズムの立場 (石田) 12. 倫理的な正しさとは何か その2: リバタリアニズムの立場 (石田) 13. 倫理的な正しさとは何か その3: コミュニタリアニズムの立場 (石田) 14. まとめとディスカッション (吉田, 石田, 山口) 15. 授業全体のまとめ (吉田, 石田, 山口)

【成績評価】 毎回の授業の最後に記入する「一言カード」、授業中に行う「小テスト」、「まとめ」授業における発表、学期末レポートを総合して評価する。得点の配分や発表と期末レポートの採点基準については授業中に説明する。

【再試験】 (再試験)を行う。

【教科書】 なし。

【参考書】 授業中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219307>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜14時から15時)
⇒ 山口 (共通教育4号館404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)
⇒ 吉田 (総合科学部1号館1N11室(北棟1階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜12時から13時)

ヨーロッパ思想研究

2 単位 2 年 (後期)

石田 三千雄・教授/人間文化学科, 吉田 昌市・教授/人間文化学科
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 西洋の哲学・宗教思想について、テーマ、時代、人などの視点で問題を切り取って講義を行う。またそれを通して、現代社会の諸問題をその背景から思想的に理解する力を養うことを目指す。

【授業概要】 まずヨーロッパ思想のバックボーンをなす古代ギリシアやヘブライの思想の基礎を学び、続いて近代哲学の基礎を築いたデカルトからヘーゲル・ドイツ観念論に至る近代哲学の基礎を学び、フランスを中心とした現代哲学(とくに、科学認識論)の基礎を学ぶ。

【キーワード】 倫理学、科学と哲学、哲学

【関連科目】 『哲学思想基本研究1(その1)』(0.5, ⇒124頁)

【到達目標】

1. 人文科学 (西洋思想) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】 1. 古代ギリシアの哲学 1: エレア学派の論理 (吉田昌市) 2. 古代ギリシアの哲学 2: ソクラテスの対話 (吉田昌市) 3. 古代ギリシアの哲学 3: プラトンの学問論 (吉田昌市) 4. 古代イスラエルの宗教思想 1: 「創世記」 (吉田昌市) 5. 古代イスラエルの宗教思想 2: 「創世記 (続)」 (吉田昌市) 6. ドイツの思想 1: カントの理論哲学 (石田三千雄) 7. ドイツの思想 2: カントの社会哲学 (石田三千雄) 8. ドイツの思想 3: フッサール現象学の基礎 (石田三千雄) 9. ドイツの思想 4: フッサールの生活世界論 (石田三千雄) 10. ドイツの思想 5: ハイデッガーの思想 (石田三千雄) 11. フランスの思想 1: フランス近代の重要性 (山口) 12. フランスの思想 2: デカルトの仕事 (山口) 13. フランスの思想 3: デカルトと経験論哲学 (山口) 14. フランスの思想 4: 経験論哲学の認識理論 (山口) 15. フランスの思想 5: まとめ (山口)

【成績評価】 毎回の授業終了時に書く「一言カード」、3回のレポートにより評価する。レポートの課題や評価基準などについては授業中に示す。

【再試験】 なし。

【教科書】 講義中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219083>

【連絡先】

- ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜13時から14時)
- ⇒ 吉田 (総合科学部 1号館 1N11 室 (北棟 1階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)
- ⇒ 山口 (共通教育 4号館 404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日10:30~11:30)

社会的行為の理論

2 単位 2 年 (前期, 集中)

堀田 裕子・非常勤講師, 榎田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 理論とは物事についての見(え)方や考え方であり, 社会理論を学ぶことによって, 人間や社会についての見(え)方や考え方が豊かになると言える。本講義では現象学的社会学の視点も念頭に置きつつ、「意味の獲得と伝達」「意味をめぐる闘争」「意味の生成」というように, 意味を基軸とした3つの側面から社会に切り込んでいく。また, そうした意味をめぐる問いが, 身体なき精神のような主体ではなく, 身体的存在としての人間を通じて為されるべきであるとする趨勢も強調しておきたい。この意味で, いわゆる「身体社会学」の議論にも眼を向ける。そして, 社会理論を考察や分析においてどう活かすかを実践的にも学ぶ。そのために, いくつかトピックを取り上げ, それについて受講者が自分で考える時間を設ける。本講義を通じて, 社会理論のおもしろさを受講者と共有できれば幸いである。

【授業概要】 基本的に講義形式で, 社会や人間について理解し, 考察するための諸理論を学習する。本講義で言及する主な論者としては, G. H. ミード, M. フーコー, P. ブルデュなどが挙げられる。できるだけ原典を読み解くことを心掛け, 理論の背景をも意識していきたい。途中4回ほど, ジェンダーやファッションなどを含む身近なトピックに関して概説したうえで, 課題を出し, 受講者が自分で考察する時間を設ける予定である。うち, 1回は, 近未来を描いた映画を題材に, 社会や人間の今後をともに考えた。

【キーワード】 意味, 身体, 自己, 他者, 権力, 現象学

【履修上の注意】 出欠確認は毎回行う。

【到達目標】

1. 社会理論の読解力を養う。
2. さまざまな問題について自分で考える力を身につける

【授業計画】 1. 社会学における「意味」と「身体」の意義 2. 意味の獲得と伝達 (1) 幼児にとつての世界と社会化 3. 意味の獲得と伝達 (2) 自我とアイデンティティ 4. 意味の獲得と伝達 (3) 相互行為と地位・役割 5. 自己・他者を考える-考察1 6. 意味をめぐる闘争 (1) 権力と知 7. 意味をめぐる闘争 (2) 身体-権力と生-権力 8. ジェンダーを考察する-考察2 9. 意味の生成 (1) 構造と主体 10. 意味の生成 (2) 社会空間と身体 11. 意味の生成 (3) 間主観性 12. “近未来”を考察する-考察3 13. 社会学と現象学 (1) 現象学的社会学の視点 14. 社会学と現象学 (2) 現象学的身体論 15. ファッションを考察する-考察4

【成績評価】 出席点 (10%) + レポート (70%) + ミニペーパー (20%) で評価する。ミニペーパーは, 考察 (全4回) の際に書いてもらうものを指す。

【再試験】 おこなわない

【教科書】 なし

【参考書】 N. クロスリー著 (西原 和久監訳) 『社会学キーコンセプト-「批判的社会理論」の基礎概念 57』新泉社, 2008. ほか, 随時指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218699>

【連絡先】

- ⇒ 堀田
- ⇒ 榎田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3階 プロジェクト研究室 1に常駐1号館南棟 1階 1S19 はととき, 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 集中講義期間中適宜。)

哲学思想基本研究 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)

山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 我々が何かものを考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】 フーコー『言葉と物』研究。毎回, 担当を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ2, 3週間に一章のペースで進める。

【キーワード】 科学と哲学, 哲学

【先行科目】 『人間と生命/認知哲学』(0.4), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.2)

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.3, ⇒123頁)

【履修上の注意】 たくさん本を読むこと。毎回の授業で, 関連する文献を紹介し, また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを手し, 読み, 報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも1冊, できれば週に1冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】 1. イントロダクション: 授業についての説明など 2. 第1章侍女たち (1) 3. 第1章侍女たち (2) 4. 第2章世界という散文 (1) 5. 第2章世界という散文 (2) 6. 第3章表象すること (1) 7. 第3章表象すること (2) 8. 第3章表象すること (3) 9. 第4章語ること (1) 10. 第4章語ること (2) 11. 第4章語ること (3) 12. 第5章分類すること (1) 13. 第5章分類すること (2) 14. 第5章分類すること (3) 15. まとめ

【成績評価】 担当を分担して報告すること, 3分の1以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218877>

【連絡先】

- ⇒ 山口 (共通教育 4号館 404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)

山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 我々が何かものを考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】 フーコー『言葉と物』研究。毎回, 担当を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ2, 3週間に一章のペースで進める。

【キーワード】 科学と哲学, 哲学

【先行科目】 『人間と生命/認知哲学』(0.4), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.2), 『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.9, ⇒124頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.3, ⇒123頁)

【履修上の注意】 たくさん本を読むこと。毎回の授業で, 関連する文献を紹介し, また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを手し, 読み, 報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも1冊, できれば週に1冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】 1. イントロダクション: 授業の説明など 2. 第6章交換すること (1) 3. 第6章交換すること (2) 4. 第6章交換すること (3) 5. 第7章表象の限界 (1) 6. 第7章表象の限界 (2) 7. 第7章表象の限界 (3) 8. 第8章労働, 生命, 言語 (1) 9. 第8章労働, 生命, 言語 (2) 10. 第9章人間とその分身 (1) 11. 第9章人間とその分身 (2) 12. 第9章人間とその分身 (3) 13. 第10章人文諸科学 (1) 14. 第10章人文諸科学 (2) 15. まとめ

【成績評価】 担当を分担して報告すること, 3分の1以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218878>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama
guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その 3)

2 単位 3 年 (前期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】我々が何かものを考えるときには、さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした、「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは、そうした「思考の前提」を問い直し、明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで、思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】フーコー『言葉と物』研究。毎回、担当者を決め、担当箇所の概要、議論すべき論点、疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ 2, 3 週間に一章のペースで進める。

【キーワード】科学と哲学、哲学

【履修上の注意】たくさん本を読むこと。毎回の授業で、関連する文献を紹介し、また、研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを手し、読み、報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも 1 冊、できれば週に 1 冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】1. イントロダクション:授業についての説明など 2. 第 1 章侍女たち (1) 3. 第 1 章侍女たち (2) 4. 第 2 章世界という散文 (1) 5. 第 2 章世界という散文 (2) 6. 第 3 章表象すること (1) 7. 第 3 章表象すること (2) 8. 第 3 章表象すること (3) 9. 第 4 章語ること (1) 10. 第 4 章語ること (2) 11. 第 4 章語ること (3) 12. 第 5 章分類すること (1) 13. 第 5 章分類すること (2) 14. 第 5 章分類すること (3) 15. まとめ

【成績評価】担当を分担して報告すること、3 分の 1 以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子、議論への参加、学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】なし。

【教科書】ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218879>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama
guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その 4)

2 単位 3 年 (後期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】我々が何かものを考えるときには、さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした、「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは、そうした「思考の前提」を問い直し、明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで、思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】フーコー『言葉と物』研究。毎回、担当者を決め、担当箇所の概要、議論すべき論点、疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ 2, 3 週間に一章のペースで進める。

【キーワード】科学と哲学、哲学

【先行科目】『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.9, ⇒124 頁)

【履修上の注意】たくさん本を読むこと。毎回の授業で、関連する文献を紹介し、また、研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを手し、読み、報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも 1 冊、できれば週に 1 冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】1. イントロダクション:授業の説明など 2. 第 6 章交換すること (1) 3. 第 6 章交換すること (2) 4. 第 6 章交換すること (3) 5. 第 7 章表象の限界 (1) 6. 第 7 章表象の限界 (2) 7. 第 7 章表象の限界 (3) 8. 第 8 章労働、生命、言語 (1) 9. 第 8 章労働、生命、言語 (2) 10. 第 9 章人間とその分身 (1) 11. 第 9 章人間とその分身 (2) 12. 第 9 章人間とその分身 (3) 13. 第 10 章人文諸科学 (1) 14. 第 10 章人文諸科学 (2) 15. まとめ

【成績評価】担当を分担して報告すること、3 分の 1 以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子、議論への参加、学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】なし。

【教科書】ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218880>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama
guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 II (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】カントの『人倫の形而上学』を読んで、カントの法についての基本的な考え方を学ぶ。

【授業概要】カントの「人倫の形而上学」の体系は法論と徳論から成る。法と徳はどのように区別され、またどのように関連するのであろうか。また法の強制力とは何であり、徳の義務とは何であろうか。これらカントの『人倫の形而上学』を読むことによって考えてみたい。

【キーワード】カント、法、倫理

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.5, ⇒124 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 1)』(0.5, ⇒126 頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】カントの権利や契約といった法的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 2~3 家族的社会的権利について (1):婚姻権 3. 4~5 家族的社会的権利について (2):両親の権利 4. 6~7 家族的社会的権利について (3):家長権 5. 8~9 契約について 6. 10~11 貨幣について 7. 2~13 書物について 8. 14 取得について 9. 15 相続について:レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】行わない。

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218881>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜14時~15時)

【備考】本年度開講せず

哲学思想基本研究 II (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】カントの『人倫の形而上学』を読んで、カントの法についての基本的な考え方を学ぶ。

【授業概要】カントの「人倫の形而上学」の体系は法論と徳論から成る。法と徳はどのように区別され、またどのように関連するのであろうか。また法の強制力とは何であり、徳の義務とは何であろうか。これらカントの『人倫の形而上学』を読むことによって考えてみたい。

【キーワード】カント、徳、義務

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 2)』(0.5, ⇒124 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 2)』(0.5, ⇒126 頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】カントの国家法や国際法といった法的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 2~3 国家法について (1):公民的状态、国家 3. 4~5 国家法について (2):国家の三権力 4. 6~7 国家法について (3):支配者と国民 5. 8~9 国家法について (4):刑罰権と恩赦権 6. 10~11 国家法について (5):国家形式 7. 12~13 国際法について (1):自然状態と戦争 8. 14~15 国際法について (2):戦争と平和 9. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】行わない。

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218882>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

【備考】隔年開講、本年度開講せず。

哲学思想基本研究 II (その 3)

2 単位 3 年 (前期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】カントの『人倫の形而上学』第二部「徳論の形而上学的基礎論」を読んで、倫理学の基本概念についての考え方を学ぶ。

【授業概要】カントの「徳論の形而上学的基礎論」は徳や義務について詳細に論じている。徳論は、内的立法のみが可能な法則を対象とし、行為主体に選択の余地がある義務を主題としている。徳論にかかわる義務は自己自身による強制が可能である。『人倫の形而上学』第二部を読むことによって、徳義務のさまざまな問題を考えてみたい。

【キーワード】カント、徳、義務

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 3)』(0.5, ⇒125 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 3)』(0.5, ⇒126 頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】カントの徳や義務といった倫理的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 2~3 徳論への序論 (1):徳論の概念 3. 4~5 徳論への序論 (2):徳の義務と法の義務 4. 6~7 徳論への序論 (3):義務である目的 5. 8~9 徳論への序論 (4):自分の完全性と他人の幸福 6. 10~11 徳論への序論 (5):倫理的義務と法の義務 7. 12~13 徳論への序論 (6):徳の義務 8. 14 徳論への序論 (7):道徳的感情 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す

【再試験】行わない。

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218883>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

哲学思想基本研究 II (その 4)

2 単位 3 年 (後期)

石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】カントの『人倫の形而上学』第二部「徳論の形而上学的基礎論」を読んで、倫理学の基本概念についての考え方を学ぶ。

【授業概要】カントの「徳論の形而上学的基礎論」は徳や義務について詳細に論じている。徳論は、内的立法のみが可能な法則を対象とし、行為主体に選択の余地がある義務を主題としている。徳論にかかわる義務は自己自身による強制が可能である。『人倫の形而上学』第二部を読むことによって、徳義務のさまざまな問題を考えてみたい。

【キーワード】カント、徳、義務

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 4)』(0.5, ⇒125 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 4)』(0.5, ⇒127 頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】カントの徳の概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 2~3 徳論への序論 (8):良心について 3. 4~5 徳論への序論 (9):尊敬について 4. 6~7 人倫の形而上学の一般的原則 5. 8~9 徳一般について 6. 10~11 徳論を法論から分ける原理について 7. 12~13 徳と自分の支配 8. 14 徳と無情念 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】行わない。

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218884>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

哲学思想基本研究 III (その 1)

2 単位 2 年 (前期)

吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】哲学史上の基本的著作の講読

【キーワード】存在と認識、倫理と宗教、自然、文化、宗教

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒123 頁)

【履修上の注意】根気よくテキストとつきあってください。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】原典に向き合い、原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。

【授業計画】1. 2011 年度は、波多野精一の『時と永遠』を講読する。2. 授業は 15 週行い、16 週目は成績評価と評価の講評にあてる。

【成績評価】期末の試験は行わない。講読にあたっては、毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて、総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。

【再試験】行わない。

【教科書】『波多野精一全集』(第四巻に所収)や単行本(いずれも岩波書店刊)が大学図書館にあるので、受講者はそれを借り出されたい。

【参考書】参考文献等は授業の中で紹介する。

【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218885>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)

【備考】2011 年度前期

哲学思想基本研究 III (その 2)

2 単位 2 年 (後期)

吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】哲学史上の基本的著作の講読

【キーワード】存在と認識、倫理と宗教、自然、文化、宗教

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒123 頁)

【履修上の注意】根気よくテキストとつきあってください。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】原典に向き合い、原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。

【授業計画】1. 前期のシラバスを参照。2. 授業は 15 週行い、16 週目は成績評価と評価の講評にあてる。

【成績評価】期末の試験は行わない。講読にあたっては、毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて、総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。

【再試験】行わない。

【教科書】前期のシラバスを参照。

【参考書】参考文献等は授業の中で紹介する。

【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218886>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)

【備考】2011 年度後期

哲学思想基本研究 III (その 3)

2 単位 3 年 (前期)

吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】哲学史上の基本的著作の講読

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒123 頁)

【履修上の注意】根気よくテキストとつきあってください。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】原典に向き合い、原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。

【授業計画】1. 授業内容は未定。2. 授業は 15 週行い、16 週目は成績評価と評価の講評にあてる。

【成績評価】期末の試験は行わない。講読にあたっては、毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎

回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて、総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。

【再試験】行わない。

【教科書】未定

【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218887>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)

【備考】2012 年度前期

哲学思想基本研究 III (その 4)

2 単位 3 年 (後期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を読解理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】哲学史上の基本的著作の講読

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒123 頁)

【履修上の注意】根気よくテキストとつきあってください。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】原典に向き合い、原典に即して考える (これは「批判的」であることを排除しない) 姿勢を身につけること。

【授業計画】1. 授業内容は未定。 2. 授業は 15 週行い、16 週目は成績評価と評価の講評にあてる。

【成績評価】期末の試験は行わない。講読にあたっては、毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらい、その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて、総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。

【再試験】行わない。

【教科書】未定

【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218888>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)

【備考】2012 年度後期

哲学思想基本研究 IV (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』を読んで、家族、市民社会および国家のあり方について考える。

【授業概要】欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか。諸個人が「私人」として、自分個人の利益を追求する社会とはいかなる社会であるのか。欲求や労働とは何であるのか。この授業ではこういった問題を考える手がかりを、ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』に求め、現代の社会や国家のあり方について考える。

【キーワード】ヘーゲル、市民社会、国家

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.5, ⇒124 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 1)』(0.5, ⇒126 頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。

【到達目標】ヘーゲルの市民社会や国家に関わる事柄について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. 1 ガイダンス 2. 2~3 市民社会について (1):労働の仕方 3. 4~5 市民社会について (2):資産 4. 6~7 市民社会について (3):身分 5. 8~9 市民社会について (4):司法活動 6. 10~11 市民社会について (5):法律としての 7. 12~13 市民社会について (6):法律の現存在 8. 14 市民社会について (7):裁判 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、報告状況を基本に評価し、学期末に簡単なレポートを課す。

【再試験】実施しない

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】ヘーゲル『法の哲学』I, II (中公クラシックス)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218889>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 14時~15時)

【備考】本年度開講せず、平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』を読みながら、市民社会や国家のあり方について考える。

【授業概要】欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか。社会における、司法活動、法律とはいかなるものであるのか。国家の制度とはいかなるものか。この授業ではこれらの問題を考える手がかりを、ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』に求め、現代の社会や国家のあり方について考える。

【キーワード】ヘーゲル、市民社会、国家

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 2)』(0.5, ⇒124 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 2)』(0.5, ⇒126 頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。

【到達目標】社会や国家とは何か、等について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. 1 ガイダンス 2. 2~3 市民社会について (8):訴訟手続き 3. 4~5 市民社会について (9):福祉行政 4. 6~7 市民社会について (10):貧困 5. 8~9 市民社会について (11):職業団体 6. 10~11 国家について (1):国家の概念 7. 12~13 国家について (2):国家の理念 8. 14 国家について (3):国内公法 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、意見発表を基本に評価し、学期末に簡単なレポートを課す。

【再試験】実施しない

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】ヘーゲル『法の哲学』II (中公クラシックス)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218890>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 14時~15時)

【備考】本年度開講せず、平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 3)

2 単位 3 年 (前期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』を読みながら、市民社会や国家のあり方について考える。

【授業概要】欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか。社会における、司法活動、法律とはいかなるものであるのか。国家の制度とはいかなるものか。この授業ではこれらの問題を考える手がかりを、ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』に求め、現代の社会や国家のあり方について考える。

【キーワード】ヘーゲル、市民社会、国家

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.5, ⇒124 頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。

【到達目標】ヘーゲルの国家に関する事柄について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. 1 ガイダンス 2. 国家について (4):近代国家 3. 国家について (5):主体的自由の実現態としての国家 4. 国家について (6):職業選択の自由 5. 国家について (7):国家・家族・市民社会 6. 国家について (8):国家の目的 7. 国家について (9):国家の心術 8. 国家について (10):国家の目的 9. レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、報告状況を基本に評価し、学期末に簡単なレポートを課す。

【再試験】実施しない

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】ヘーゲル『法の哲学』II (中公クラシックス)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218891>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 14時~15時)

【備考】本年度開講せず、隔年開講、平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 4)

2 単位 3 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】ヘーゲルの『法(権利)の哲学』を読みながら、市民社会や国家のあり方について考える。

【授業概要】欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか、社会における、司法活動、法律とはいかなるものであるのか、国家の制度とはいかなるものか。この授業ではこれらの問題を考える手がかりを、ヘーゲルの『法(権利)の哲学』に求め、現代の社会や国家のあり方について考える。

【キーワード】ヘーゲル、市民社会、国家

【関連科目】『哲学思想基本研究Ⅰ(その2)』(0.5, ⇒124頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。

【到達目標】ヘーゲルの国家に関する事柄について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. 1 ガイダンス 2. 2~3 国家について(11):国家と宗教 3. 4~5 国家について(12):国家と教会 4. 6~7 国家について(13):国内体制 5. 8~9 国家について(14):政治的国家 6. 10~11 国家について(15):君主権 7. 12~13 国家について(16):国民主権 8. 14 国家について(17):統治権 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、報告状況を基本に評価し、学期末に簡単なレポートを課す。

【再試験】実施しない

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】ヘーゲル『法の哲学』Ⅱ(中公クラシックス)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218892>

【連絡先】⇒石田(2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 14時~15時)

【備考】本年度開講せず。隔年開講。平成24年度開講

【授業概要】フランス近現代史の諸問題

【キーワード】史学

【先行科目】『ヨーロッパ社会研究Ⅱ』(1.0, ⇒129頁)

【履修上の注意】フランス語の知識は不要です。

【到達目標】フランス近現代史の基本的な問題をいくつか取り上げ、史料に基づきつつ検討する。

【授業計画】1. 民主政 2. ネイション 3. 宗教とライシテ 4. 歴史と記憶

【成績評価】平常点(授業への取り組みなど)と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する。

【再試験】なし

【教科書】教材は、プリントのかたちで配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219085>

【連絡先】⇒長井(3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】この授業は隔年開講であり、平成24年度開講

ヨーロッパ歴史・社会論Ⅲ 2単位 2年(前期)
今井晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】本科目は、西洋近現代史あるいはドイツ史の総花式の叙述を目的とするものではない。歴史の流れを時代順にマクロ的に辿りながらではあるが、主眼はあくまでも下記「概要」に挙げた諸問題の考察に置かれる。特に20世紀前半のドイツ史は今日、異文化間の接触や交流のあり方を考える際、一つの巨大な反面教師の役割を果たすであろう。また、「国民国家」や人種主義の問題性は、今日なお決して無視できない重みをもつと思われる。

【授業概要】「国民国家」とナショナリズム、帝国主義、人種主義などの問題性の考察—19世紀後半~第二次世界大戦期のドイツ史を中心に

【キーワード】国民国家、ナショナリズム、帝国主義、人種主義

【関連科目】『ヨーロッパ社会研究Ⅲ』(0.5, ⇒129頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論Ⅰ』(0.5, ⇒128頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論Ⅱ』(0.5, ⇒128頁)

【履修上の注意】ドイツ史を含む西洋近現代史に関心のある人ならば、誰でも歓迎される。ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】西洋近現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的なパースペクティブをもって多面的に捉えられること。そして、自分が学習したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。

【授業計画】1. 最初の数回は、特に19世紀-20世紀前半の西洋史を理解する上で重要だと思われる分析視角の中から「国民国家」の創出あるいは「国民」形成の問題をとりあげ、話題をドイツ史に限定せずにヨーロッパ近代史の特徴の一つを浮き彫りにすることを試みる。2. 続いて、国家と社会との関係、「国民国家」ないし「民族共同体」と「異分子」との関係を中心に、「マイノリティ」=疎外、差別、迫害される人々の状況に目配りしつつ、ドイツ史を中心に19世紀末葉から第一次世界大戦期(1914-18年)、ワイマル共和制期(1919-33年)を経て、ナチス支配の時代(1933-45年)までを視野に入れ、特に総力戦体制の構築とナショナリズムの急進化、ワイマル共和国の崩壊=ナチス台頭の背景、優生思想・人種主義とナチズム、ナチ体制にとって「有害無益」な存在(浮浪者、売春婦、同性愛者、「障害者」、シンティ・ロマ、ユダヤ人等々)の排除・抹殺、といった問題をとりあげて論じたい。また、以上のような問題の分析・叙述を通して、「国民国家」とナショナリズム、優生思想と人種主義などの問題をとりあげることの今日的意味についても考えてみたい。3. 時おり映像資料も使用する。4. より詳しいことは、開講時に説明する。

【成績評価】主として期末のレポートによるが、授業への参加状況も参考にする。

【再試験】場合によっては行う(レポート再提出)。

【教科書】特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219027>

【連絡先】⇒今井(1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】隔年開講(2011年度前期開講)

アメリカ歴史・社会論 2単位 2年(前期)
吉岡宏祐・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
今井晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】アメリカ・インディアンの歴史と現実を、先住民の権利という視点から分析する。

【授業概要】現在アメリカのインディアン問題の実情を具体的に分析し、その歴史にさかのぼって由来を考える。

【キーワード】アメリカ、先住民、インディアン

ヨーロッパ歴史・社会論Ⅰ 2単位 2年(前期)
佐久間亮・教授/人間文化学科

【授業目的】イギリスの近代史を、いわゆるグローバル・ヒストリの中に位置づけて論じる。イギリスの歴史は、一時期を除いて第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで、帝国の歴史である。この過程は、現代のグローバル化社会の出発点ともいえ、現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている。イギリス国内のことから理解する上でも、このような観点は欠かせない。たとえば、イングランド人、スコットランド人、ウェールズ人がそれぞれの文化的差異を含みながらも、イギリス人というアイデンティティ(ブリティッシュネス)へと統合されてきたのは、帝国の存在があったためである。

【授業概要】グローバル・ヒストリとイギリス近代史

【キーワード】ナショナルアイデンティティ, 文化統合, 大英帝国

【関連科目】『ヨーロッパ社会研究Ⅰ』(1.0, ⇒129頁), 『ヨーロッパ史論Ⅰ』(1.0, ⇒130頁), 『アジア史研究Ⅲ』(0.9, ⇒8頁)

【履修上の注意】視覚的印象は、テーマを理解する上で欠かせない要素である。授業中にもしばしばビデオを利用するが、以下に参考となる映画(ビデオ化され入手しやすいもの)をあげておく。予め観ておくことが望ましい。授業中にも言及されるだろう。『エリザベス』Elizabeth(1998), 『恋に落ちたシェイクスピア』Shakespeare in Love(1998), 『マイ・フェア・レディ』My Fair Lady(1964), 『オスカー・ワイルド』Wilde(1997), 『インドへの道』A Passage To India(1984), 『遠い夜明け』Cry Freedom(1987), 『日の名残り』The Remains of the Day(1993)。

【到達目標】1. イギリス社会の歴史的形成的プロセスと理解すること 2. 歴史的パースペクティブから現代の事象を理解する重要性を体感すること

【授業計画】1. 現在のイギリスを理解するために 2. イギリス宗教改革のインパクト 3. 帝国化への転換点としての16世紀 4. 「ピューリタン革命」論の再検討 5. 共和制という名の恐怖政治 6. 名誉革命とアイルランドの運命 7. 戦争と財政軍事国家イギリスの誕生 8. アメリカ独立の衝撃 9. ジェントルマン社会と「国民」統合 10. 帝国とスコットランド人 11. 「男らしさ」と戦争 12. フットボールの世界化 13. アイドル・ウーマンと帝国へ渡る女性たち 14. ジェントルマン資本主義とインドへの道 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は使用せず、授業中に配布するプリントを中心に講義をすすめる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219084>

【連絡先】⇒佐久間(088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

ヨーロッパ歴史・社会論Ⅱ 2単位 2年(前期)
長井伸仁・准教授/人間文化学科

【履修上の注意】聞きっぱなしにならないように、毎回小レポートを書いてもらいます。その際、自分の考えをはっきりと書いて下さい。

【到達目標】

1. アメリカに先住民がいて、独自の歴史を持っていたことを知り、
2. 今日のアメリカと先住民の関係についての認識を深めること。

【授業計画】1. インディアン問題について 2. 保留地の苦悩—絶望と貧困— 3. 権利の回復—先住民条約権の履行— 4. インディアン・カジノー伝説とギャンブルの相克— 5. インディアンの原文化—自然と文化の融合— 6. 白人との遭遇—ポカホンタス伝説の解剖— 7. 清掃政策への転換—先住民排斥の論理— 8. 独立革命とインディアン—「外国」としてのインディアン— 9. フロンティア理論とインディアン—アメリカ自由原理の暴走— 10. チェロキー共和国と強制移住—文明化したインディアンの悲劇— 11. 西部開拓とインディアン戦争—侵略の西部史— 12. 同化政策とインディアン学校—部族の解体と文化の破壊— 13. ニューディール政策とインディアン—多文化主義の実験— 14. 終結政策—インディアン保護責任の放棄— 15. レッドパワー—闘うインディアンの復活—

【成績評価】毎回の小レポートの成績と講義への受講姿勢を評価する。

【再試験】行わない

【教科書】ありません。

【参考書】富田虎男『アメリカ・インディアンの歴史』(雄山閣)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219051>

【連絡先】

- ⇒ 吉岡
- ⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

ヨーロッパ社会研究 I

2 単位 2 年 (後期)
佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】18, 9 世紀のイギリスの歴史を、社会史的なパースペクティブとグローバルヒストリの観点を交えて論じる。イギリスの歴史は、第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで、帝国の歴史である。この過程は、現代のグローバル化社会の出発点ともいえ、現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている。この帝国形成のプロセスは国内の様々な社会現象と密接に結びついていて、それぞれの目配りなしには、この国の近代史は理解不能なのである。

【授業概要】近現代イギリス史、イギリス帝国史

【キーワード】ナショナル・アイデンティティ、グローバル・ヒストリ、社会史

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒128 頁)

【関連科目】『ヨーロッパ社会研究 II』(1.0, ⇒129 頁), 『ヨーロッパ社会研究 III』(1.0, ⇒129 頁)

【履修上の注意】2011 年度開講

【到達目標】

1. イギリス社会と文化の歴史的なりたち、多様性、流動性を理解すること
2. 歴史的パースペクティブから現代の事象を理解する重要性を体感すること

【授業計画】1. 名誉革命体制とアイルランドの運命 2. 戦争と「財政軍事国家」イギリスの誕生 3. 社会的犯罪とはなにか 4. ジャコバイトと国民化 5. アメリカ独立戦争の衝撃 6. 「自由な帝国」と奴隷解放 7. ジェントルマン社会と「国民」統合 8. 成り上がりものたちのイギリス史 9. 帝国とスコットランド人 10. 「男らしさ」・戦争・フットボール 11. アイドルウーマンと帝国へ渡る女性たち 12. ロンドン・シティとジェントルマンの共棲 13. インドへの道 14. アイルランド問題の爪あと 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は使用せず、授業中に配布するプリントを中心に講義をすすめる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219086>

【連絡先】

- ⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

【備考】隔年開講。

ヨーロッパ社会研究 II

2 単位 2 年 (前期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】第 5 共和政の歴史をたどり直すことで、現代フランスの政治的・社会的な特徴を概観する。

【授業概要】第 5 共和政のフランス

【キーワード】史学

【関連科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(1.0, ⇒128 頁)

【履修上の注意】授業は演習形式でおこなう。文献講読や学生の報告も予定している。

【到達目標】フランスの例を通じて、現代とはどのような時代なのかを理解する。

【授業計画】1. はじめに:フランスと共和政 2. 第 5 共和政の成立:オーダーメイドの共和政 3. アルジェリア独立:歴史と記憶 4. 1968 年 5 月:習俗の革命 5. 1981 年 5 月:社会主義の実験 6. 2002 年 5 月:保守対抗の終焉 7. おわりに:ヨーロッパとフランス

【成績評価】試験もしくはレポートの点数をもとに評価する。

【再試験】なし

【教科書】谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』ミネルヴァ書房, 2006 年。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219087>

【連絡先】

- ⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】隔年開講。平成 23 年度は開講する。

ヨーロッパ社会研究 III

2 単位 2 年 (後期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】第二次世界大戦後のドイツを中心に、冷戦構造とその変容過程、東欧革命とドイツ「再統一」(1989/90 年)の経過、それらのうちに表れた諸問題について理解すること。

【授業概要】よく知られているように、ドイツは約 20 年前、東独における民主化市民革命=社会主義体制の崩壊、さらにはドイツ「再統一」(1989/90 年)という大変動を経験した。そして、その変動はその後のドイツ社会にも様々な影響を及ぼしてきた。本科目では、1989/90 年の激動の背景・過程を跡付けるとともに、その後の「新生」ドイツが抱え込んだ問題の一端をとりあげ、考察してみたい。

【キーワード】「ベルリンの壁」、民主化要求市民運動、社会主義体制の崩壊、ドイツ「再統一」、「心の壁」

【先行科目】『社会変動研究』(0.5, ⇒155 頁), 『ドイツの社会と文化 (その 1)』(0.5, ⇒122 頁)

【関連科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(0.5, ⇒128 頁), 『ヨーロッパ社会研究 II』(0.5, ⇒129 頁)

【履修上の注意】本科目のテーマ・内容に興味のある人なら、誰でも歓迎される。ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的なパースペクティブをもって多面的に捉えられること。そして、自分が理解したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。

【授業計画】1. まず第二次世界大戦後のドイツ史の動向を、1989/90 年の状況を理解するのに欠かせないポイントに絞って概観する。冷戦構造の中の東西両ドイツ=分断国家の状況、とりわけ東独社会主義体制の抱えていた諸問題及び両ドイツ間関係に重点が置かれる。2. 続いて、大量の東独(民主共和国)市民の越境=西独(連邦共和国)への出国、民主化を求める東独市民の運動の高揚、同国の社会主義体制の崩壊からドイツ「再統一」へという歴史過程を、東独市民の動向を中心に、国際情勢(冷戦構造の変化、東欧革命など)をも視野に入れながら、できるだけ多面的かつリアルに辿り直してみたい。3. また、その後の「統一」ドイツにおける諸問題の中から、異なった体制の下で生きてきた旧東西ドイツ市民の間の「心の壁」=心理的・文化的距離のないし摩擦の問題をとりあげて、考察したい。4. 講義が中心だが、授業時には地図、年表、写真、映像など様々な資料をも配付あるいは使用したいと考えている。5. より詳しいことは、開講時にお知らせする。

【成績評価】主として期末のレポートによるが、授業への参加状況も参考にする。

【再試験】場合によっては行う(レポート再提出)。

【教科書】特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219023>

【連絡先】

- ⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:30-18:00)

【備考】隔年開講(2012 年度後期開講)

アメリカ社会研究

2 単位 2 年 (後期)
西出 敬一・教授, 今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】アメリカ社会における人種問題の分析。

【授業概要】アメリカの歴史における黒人の存在がもつ意味を歴史的にたどり、現在のアメリカ社会における人種関係の問題点を、具体的事例をもとに分析する。

【キーワード】アメリカ 民主主義 人種差別

【履修上の注意】講義の聞き流しに終わらないように、毎回小レポートを書いてもらいます。講義の要約ではなく、自分の考えをはっきりと書いて下さい。

【到達目標】

1. アメリカの人種問題の現状を理解する。
2. 民主主義と人種差別の関係を理解する。

【授業計画】1. 日本人の黒人認識 2. アメリカ人種主義の起源 3. 旧南部社会と奴隷制 4. 奴隷制とレジスタンス 5. 人種分離社会 6. キング牧師と公民権運動の展開 7. マルコム X と黒人ナショナリズム 8. アメリカ人の人種偏見 9. 逆差別論争 10. 教育と人種差別 11. ネオ・ナチと人種主義 12. 黒人のアイデンティティ 13. 黒人と貧困 14. 黒人と犯罪 15. 黒人と政治 16. アメリカ社会と黒人

【成績評価】毎回の小レポートの成績と授業に対する積極性を評価の基準にします。

【再試験】再評価は行いません。

【教科書】なし

【参考書】川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』(名古屋大学出版会)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218357>

【連絡先】

⇒ 西出

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】隔年開講 (今年度は開講しない)

ヨーロッパ史特論 I

2 単位 3 年 (後期)
佐久間亮・教授/人間文化学科

【授業目的】この講義は担当者が専門とする研究テーマについて論述し、大学における歴史研究とはどのようなものであるかを体感してもらうことを目的に開講されるものである。予定されているテーマは、近年歴史学でも取り上げられるようになってきた「環境史」である。イギリス人が自然の限界を深刻に認識しはじめた 19 世紀以降を中心に、自然保護運動の歴史を論じることにする。ただし、自然の限界に直面して、その結果として、保護思想が出現、敷衍され、それがさらに保護運動へつなげていくというような予定調和的な歴史の見方はここではしない。むしろ、保護主義とは一見無縁に見える諸イデオロギー・運動の絡まりあいの中から、自然環境保護の現代的な運動が生まれてくる様子を、英領南アフリカを舞台として検討する。地球規模での自然・環境保護が重要な課題になっている現在、19 世紀の時点で地域・国家の規模を越えた環境保護に乗り出した英帝国の経験は、その背景にあるイデオロギーや目的が現代のそれとは大きく異なるとはいえず、充分検討に値するものである。前半の 5 回を背景説明のための講義にあて、残りに関連英文の輪読にあてる。

【授業概要】イギリス帝国と自然環境保護の試み

【キーワード】自然保護運動、イギリス帝国、野生動物保全、国立公園、文化衝突

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒128 頁), 『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒129 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(1.0, ⇒128 頁)

【関連科目】『ヨーロッパ史特論 II』(1.0, ⇒130 頁), 『ヨーロッパ地域研究特論』(1.0, ⇒130 頁), 『比較文化研究 (その 1)』(0.9, ⇒114 頁)

【履修上の注意】本講義は、偶数年に開講される。

【到達目標】

1. 現代の事象を理解する上で、歴史的パースペクティブの重要性を認識する
2. 英語の研究論文読解の基礎力を培う

【授業計画】1. ジェントルマンと狩猟 (1) 2. ジェントルマンと狩猟 (2) 3. ジェントルマン支配の動揺とハンティング熱のグローバル化 4. ボーア人の南アフリカ 5. 南アフリカの野生動物の危機? 6. 英語論文輪読 (1) 7. 英語論文輪読 (2) 8. 英語論文輪読 (3) 9. 英語論文輪読 (4) 10. 英語論文輪読 (5) 11. 英語論文輪読 (6) 12. 英語論文輪読 (7) 13. 英語論文輪読 (8) 14. 英語論文輪読 (9) 15. 期末テスト 16. 総括授業

【成績評価】期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は使用せず、前半 5 回は授業中に配布するプリントを中心に講義、残りは英語論文の輪読を中心にすすめる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219081>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

【備考】平成 24 年度開講

ヨーロッパ史特論 II

2 単位 3 年 (後期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】19・20 世紀フランスの宗教と宗教的現象について考察する。

【授業概要】宗教は、近代化が進むにつれて衰退・消滅に向かうわけでは必ずしもない。むしろ、その位置づけや変容をみることで、近代史をより深く理解することが可能になると考えられる。講義では、宗教を中心に据えてフランス近世・近代史をたどり直してみたい。

【キーワード】史学

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(1.0, ⇒128 頁)

【到達目標】近現代フランスの政治・社会の基本的な特徴を理解すること

【授業計画】1. 問題の所在 2. 宗教改革 3. 啓蒙思想 4. フランス革命と宗教 5. 19 世紀の諸体制と宗教 6. 政教分離 7. 宗教の変容

【成績評価】平常点 (授業への取り組みなど) と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する。

【再試験】なし

【教科書】【参考書】谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史』ミネルヴァ書房、2006 年

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219082>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】この授業は隔年開講であり、平成 24 年度開講

ヨーロッパ地域研究特論

2 単位 3 年 (後期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】この科目は、専門的歴史研究および史料の一端を紹介しながら、専門的に歴史の勉強を進めるとはどのようなことなのかを、特に「歴史・社会サブコース」に所属する受講者に体験してもらうための科目である。今年度は、「ヨーロッパ歴史・社会論」の講義でとりあげた対象のうち、「ナチスの人種主義政策」をテーマとして、それについて受講者とともに、より深く学習したいと考えている。

【授業概要】ドイツ近現代史研究の一端の体験

【キーワード】ナチズム、人種主義、優生学、反ユダヤ主義、ホロコースト

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(0.5)

【関連科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(0.5, ⇒128 頁)

【履修上の注意】本科目のテーマ・内容に興味のある人なら誰でも歓迎されるが、上記のような趣旨の科目なので、歴史研究や西洋近現代史に対する関心は薄く、単に単位取得を希望するという人々には不向きである。なお、ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】授業でとりあげる事象の具体的様相を探り、テーマについて考察することを通じて、専門的な歴史研究の方法を理解すること。

【授業計画】1. まず、とりあげるテーマにアプローチするための論点とその歴史的背景を理解するための講義を、数回にわたって行う。2. そのうえで、文献・史料の一部を受講者にも予め読んできてもらい、授業時にその要点について報告してもらい、さらに、内容を確認し、問題を理解するための質疑応答や討論を行う。3. 授業時には、可能な限り絵や地図、写真、映像など、様々な資料も提示し、授業でとりあげる事象について具体的に理解するための一助としたいと考えている。4. より詳しいことは、開講時に説明する。

【成績評価】授業時に出される課題へのとりくみ方など、授業への参加の状況と期末のレポートとによって評価する。

【再試験】場合によっては行う (レポート再提出)。

【教科書】特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219024>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】隔年開講 (2011 年度後期開講)。

アメリカ史特論

2 単位 3 年 (後期)
西出 敬一・教授、今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】植民地時代から現代までのアメリカの歴史変遷のなかで女性の地位が変化していくプロセスを、資料の講義を通じて検討する。

【授業概要】アメリカ民主主義の展開の先駆性と模範的な原理・思想が 17 世紀以来発展するが、先住民や黒人と女性についてはその適用が除外されたり、大幅に遅れたりする。その事情と歴史的背景について、理解してもらい、近代のフェミニズムがアメリカに展開することになるまでの経過を探ってゆく。

【キーワード】アメリカ史、民主主義、フェミニズム

【履修上の注意】特になし

【到達目標】女性史を通じてアメリカ民主主義の矛盾を理解する..

【授業計画】1. アメリカとフェミニズム 2. 植民地時代の女性 3. 独立革命の原理と女性 4. 奴隷制反対運動と女性運動 5. 南北戦争と女性 6. 新しい女性運動 7. 第一次大戦中の女性 8. 1920 年代と新女性の出現 9. ニューディールと女性の受難 10. 第二次大戦と「たくましい」女性像 11. 冷戦時代の保守帰帰と女性 12. 現代フェミニズムの展開 13. ウーマンリブとラディカル・フェミニズム 14. アメリカ女性の現在 15. アメリカ女性運動の展望

【成績評価】毎回の小レポート

【再試験】行わない
 【教科書】特になし。
 【参考書】講義中に配付します。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219048>
 【連絡先】
 ⇒ 西出 . (オフィスアワー: 質問などは、講義の前後に教室で聞きます。)
 ⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)
 【備考】隔年開講 (今年度後期開講)

英米文化研究 I (その 1) 2 単位 2 年 (前期)
 宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 英文学の歴史的発展の過程を論述し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。
 【授業概要】 英文学史
 【キーワード】 文学史, 時代背景, 文学事情
 【関連科目】 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁)
 【履修上の注意】 英文学の通史であるので通年受講が望ましい。年間の授業計画は、以下に示してあるが、前期は、おおむね小説誕生と勃興あたりまでを、試験を含め 16 回の授業で扱う。
 【到達目標】 英文学史上の詩人・劇作家・小説家等及びその代表的作品について、並びに文芸思潮についての知識習得と理解を目標とする。英文学の流れを概ね以下に沿って追い、それぞれの時代の背景や思潮を概観しながら、代表的な詩人、劇作家、小説家等の作品を味わいたい。
 【授業計画】 1. ※履修上の注意を参照。 2. アングロ・サクソン時代 3. 中世時代 4. 文芸復興期 (ルネッサンス) 5. 清教主義 (ピューリタニズム) の時代 6. 古典主義の時代 7. 古典主義の衰退と小説の勃興 8. ロマン主義の復興 9. ヴィクトリア朝 10. 20 世紀の文学
 【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業への出席状況、授業時の取り組み姿勢などに基づく平常点での評価と、期末試験またはレポート等の結果による評価をあわせて、成績の評価としたい。
 【再試験】 行う。
 【教科書】 授業時に適宜指示する。また必要に応じて、教材、参考資料等を用意する。
 【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218391>
 【連絡先】
 ⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~ 13時)

英米文化研究 I (その 2) 2 単位 2 年 (後期)
 宮崎 隆義・教授/人間文化学科

【授業目的】 英文学の歴史的発展の過程を論述し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。
 【授業概要】 英文学史
 【キーワード】 文学史, 時代背景, 文学事情
 【関連科目】 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁)
 【履修上の注意】 英文学の通史であるので通年受講が望ましい。年間の授業計画は、以下に示してあるが、後期は、おおむねロマン主義の復興から現代までを、試験を含め 16 回の授業で扱う。
 【到達目標】 英文学史上の詩人・劇作家・小説家等及びその代表的作品について、並びに文芸思潮についての知識習得と理解を目標とする。英文学の流れを概ね以下に沿って追い、それぞれの時代の背景や思潮を概観しながら、代表的な詩人、劇作家、小説家等の作品を味わいたい。
 【授業計画】 1. ※履修上の注意を参照。 2. アングロ・サクソン時代 3. 中世時代 4. 文芸復興期 (ルネッサンス) 5. 清教主義 (ピューリタニズム) の時代 6. 古典主義の時代 7. 古典主義の衰退と小説の勃興 8. ロマン主義の復興 9. ヴィクトリア朝 10. 20 世紀の文学
 【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業への出席状況、授業時の取り組み姿勢などに基づく平常点での評価と、期末試験またはレポート等の結果による評価をあわせて、成績の評価としたい。
 【再試験】 行う。
 【教科書】 授業時に適宜指示する。また必要に応じて、教材、参考資料等を用意する。
 【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218392>
 【連絡先】
 ⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~ 13時)

英米言語研究 I (その 1) 2 単位 2 年 (前期, 集中)
 井上 永幸., 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この講義では、日常生活の身近な例を使って、英語の意味と形について考えてゆく。「明かりをつける」という意味の turn on the light と turn the light on はどう違うのか、the light を代名詞にして it にするとなぜ turn it on のように turn と on にはさまれるのか、John has many books. はなぜ不自然か、happen, occur, take place はどこが違うか、常に「なぜ」考える姿勢で、複数の表現形式と意味の関係を考察してゆく、その際、適宜コンピュータを使ったコーパス言語学的手法を援用する。
 【授業概要】 現代英語の文法・語法研究
 【キーワード】 英語学, 英語語法研究, コーパス言語学, 辞書学
 【履修上の注意】 (1) 常に自分から問題点を探求する態度で望んでほしい。学生諸君の新鮮でユニークな発想を期待している。(2) 後期の授業は前期の授業の内容を前提としているので、まず前期を受講し、その後で後期を受講することが望ましい。
 【到達目標】 現代英語の文法・語法研究に必要な基礎知識を身につけること。
 【授業計画】 1. 講義概要説明 2. 文体と使用域 3. 慣用句とコロケーション 4. 語順と話し手・書き手の意図 (1) 5. 語順と話し手・書き手の意図 (2) 6. 有標性 7. 反意語と否定 (1) 8. 反意語と否定 (2) 9. 直示 10. 指向性 (1) 11. 指向性 (2) 12. 時制と相 13. 動詞の相 (1) 14. 動詞の相 (2) 15. 総括授業
 【成績評価】 授業参加及び試験による。
 【再試験】 行わない。
 【教科書】
 ◇ 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版, 三省堂。
 ◇ ※適宜, プリントも配布。
 【参考書】
 ◇ 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎 編 (2005) 『英語コーパス言語学—基礎と実践—【改訂新版】』研究社。
 ◇ ※最初の授業で、参考文献一覧表を配布。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218374>
 【連絡先】
 ⇒ 井上 . (オフィスアワー: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
 ⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 I (その 2) 2 単位 2 年 (後期, 集中)
 井上 永幸., 山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この講義では、日常生活の身近な例を使って、英語の意味と形について考えてゆく。「明かりをつける」という意味の turn on the light と turn the light on はどう違うのか、the light を代名詞にして it にするとなぜ turn it on のように turn と on にはさまれるのか、John has many books. はなぜ不自然か、happen, occur, take place はどこが違うか、常に「なぜ」考える姿勢で、複数の表現形式と意味の関係を考察してゆく、その際、適宜コンピュータを使ったコーパス言語学的手法を援用する。
 【授業概要】 現代英語の文法・語法研究
 【キーワード】 英語学, 英語語法研究, コーパス言語学, 辞書学
 【履修上の注意】 (1) 常に自分から問題点を探求する態度で望んでほしい。学生諸君の新鮮でユニークな発想を期待している。(2) 後期の授業は前期の授業の内容を前提としているので、まず前期を受講し、その後で後期を受講することが望ましい。
 【到達目標】 コンピュータ・コーパス (英語資料の集積) を活用して自ら研究が行えるようになること。
 【授業計画】 1. 講義概要説明 2. コーパスとコーパス言語学 3. コーパスで何がわかるか 4. コーパスと統計値 (1) 5. コーパスと統計値 (2) 6. コーパスと統計値 (3) 7. コーパスと辞書編集 8. コーパスと語法研究 9. コーパスとシノニム研究 (1) 10. コーパスとシノニム研究 (2) 11. コーパスとシノニム研究 (3) 12. コーパスとシノニム研究 (4) 13. 発表 (1) 14. 発表 (2) 15. 発表 (3)
 【成績評価】 授業参加、発表及びペーパーによる。
 【再試験】 行わない。
 【教科書】
 ◇ 井上永幸・赤野一郎 編 (2007) 『ウィズダム英和辞典』第 2 版, 三省堂。
 ◇ ※適宜, プリントも配布。
 【参考書】
 ◇ 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎 編 (2005) 『英語コーパス言語学—基礎と実践—【改訂新版】』研究社。
 ◇ ※最初の授業で、参考文献一覧表を配布。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218375>
 【連絡先】

⇒ 井上 (オフィスアワー: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

現代英語演習 I (その1)

2 単位 2 年 (前期)
森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 英語音声学の基礎 [前期] から始め、英語音韻論の初歩 [後期] までを扱うことによって、英語の音体系についての理解を深めるとともに、英語の実際の音声訓練を効果的にするための裏付けを提供することを目的としている。授業を通して、英語という個別言語の音組織は常に日本語のそれと対比・比較されて特徴が一層明らかにされるのと同時に、一般音声学・音韻理論の中に位置づけられることになる。

【授業概要】 英語音声の理解と演習

【キーワード】 音声学, 音韻論, 分節音, 母音, 子音

【先行科目】 『言語理論研究 I (その1)』(1.0, ⇒75 頁), 『言語理論研究 I (その2)』(1.0, ⇒75 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(1.0, ⇒72 頁)

【関連科目】 『言語理論研究 I (その1)』(0.5, ⇒75 頁), 『言語理論研究 II (その1)』(0.5, ⇒75 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(0.5, ⇒72 頁)

【履修上の注意】 実技的演習が部分的に含まれるが、英語の発音を劇的に改善することを意図してはいない。むしろ、言語の音についての理解深化をめざしている。もちろん、理解に基づく発音練習が効率的になることは期待している。

【到達目標】 英語の文節音と超文節音に関わる特性を理解し、基本的聞き取りと調音ができること。

【授業計画】 1. 前期 (分節音素中心) 2. 1. 導入 3. 2-3. 音声学とは 4. 4-5. 発声のメカニズム 5. 6-7. 音声表記 6. 8-9. 母音の調音 7. 10-11. 子音の調音 8. 12-13. 音縮小 9. 14-15. 同時調音 10. 16. まとめ

【成績評価】 リポート提出等を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 教科書 佐藤寧・佐藤努共著『現代の英語音声学』・金星堂 1997
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著『英語リスニング科学的上達法』・講談社 1998
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著『英語スピーキング科学的上達法』・講談社 1999

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218577>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

現代英語演習 I (その2)

2 単位 2 年 (後期)
森岡 芳洋・教授/人間文化学科

【授業目的】 英語音声学の基礎 [前期] から始め、英語音韻論の初歩 [後期] までを扱うことによって、英語の音体系についての理解を深めるとともに、英語の実際の音声訓練を効果的にするための裏付けを提供することを目的としている。授業を通して、英語という個別言語の音組織は常に日本語のそれと対比・比較されて特徴が一層明らかにされるのと同時に、一般音声学・音韻理論の中に位置づけられることになる。

【授業概要】 英語音声の理解と演習

【キーワード】 超分節要素, 強勢, 抑揚, スペクトログラム, フォルマント

【先行科目】 『言語理論研究 I (その1)』(1.0, ⇒75 頁), 『言語理論研究 I (その2)』(1.0, ⇒75 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(1.0, ⇒72 頁)

【関連科目】 『言語理論研究 I (その1)』(0.5, ⇒75 頁), 『言語理論研究 II (その1)』(0.5, ⇒75 頁), 『英米言語研究 II (その1)』(0.5, ⇒72 頁)

【履修上の注意】 実技的演習が部分的に含まれるが、英語の発音を劇的に改善することを意図してはいない。むしろ、言語の音についての理解深化をめざしている。もちろん、理解に基づく発音練習が効率的になることは期待している。

【到達目標】 英語の文節音と超文節音に関わる特性を理解し、基本的聞き取りと調音ができること。

【授業計画】 1. 後期 (超分節音素中心) 2. 1. 導入 3. 2-3. 音節 4. 4-5. 語強勢 5. 6-7. イントネーション 6. 8-9. 音響音声学 7. 10-11. 聴覚音声学 8. 12-13. リズム 9. 14-15. 音韻理論等 10. 16. まとめ

【成績評価】 リポート提出等を含む平常点 (30%) と期末試験 (70%) により行う。

【再試験】 行う

【教科書】

- ◇ 教科書 佐藤寧・佐藤努共著『現代の英語音声学』・金星堂 1997
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著『英語リスニング科学的上達法』・講談社 1998
- ◇ 参考書 山田恒夫, 他著『英語スピーキング科学的上達法』・講談社 1999

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218578>

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時50分~14時20分)

民俗学研究 I

2 単位 2 年 (後期)
高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】 日本民俗学の主な研究目的は、各地に見られる民俗 (一般の人々が日常生活の中で育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式) の持つ意味を明らかにし、さらにそれらの比較検討を通して、日本の基層文化を究明することにある。このような過去過渡的=歴史学的側面を持つ一方で、日本民俗学は、民俗の変化とその要因の解明、あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している。本授業では、こうした日本民俗学の基本概念について概説する。

【授業概要】 日本民俗学の基本問題

【キーワード】 民俗, 日本文化

【関連科目】 『文化人類学研究 I』(0.5, ⇒132 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する。

【到達目標】 日本民俗学の基本的な概念を理解し、過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる。

【授業計画】 1. 民俗学の考え方 (民俗学の研究対象・目的・方法) 2. 社会の民俗 (イエとムラの民俗) 3. 環境の民俗 (景観・地形と民俗) 4. 生業の民俗 (海・山・里の生業と民俗) 5. 時間の民俗 (年中行事と民俗) 6. 生と死の民俗 (出産・葬儀の民俗) 7. 神と霊魂の民俗 (祖先祭祀, 他界観と民俗) 8. 境界と怪異の民俗 (異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) 9. 性と民俗 (女性の民俗, 男性の民俗) 10. 語りの民俗 (昔話・伝説・世間話の民俗) 11. 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗) (1) 12. 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗) (2) 13. 観光と民俗 (民俗の「発見」と「活用」) 14. 比較民俗学への道 (環東シナ海文化圏の民俗) 15. 民俗研究の課題と展望 (現代社会と民俗, 民俗学の現代的意義) 16. まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館, 1996 年
- ◇ 松崎憲三他編『民俗学の冒険』1~4, ちくま新書, 1999 年
- ◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~10 巻, 雄山閣, 1998-2000 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219310>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】 本年度開講せず (隔年開講。次回は平成 24 年度開講予定)

文化人類学研究 I

2 単位 2 年 (前期)
高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】 文化人類学の中心的なテーマについて講義する。世界の諸民族の事例を通して、人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し、異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である。グローバル化の進展の中で現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい。

【授業概要】 文化人類学の基本問題

【キーワード】 文化, 現代社会, グローバリゼーション

【関連科目】 『民俗学研究 I』(0.5, ⇒132 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【到達目標】 人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化 (自文化) の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。

【授業計画】 1. 文化人類学のパースペクティブ 2. 「ことば」と認識・言語文化へのアプローチ 3. 人生のステップを超える・通過儀礼の構造と意味 4. 交換とコミュニケーション・贈り物の文化論 5. 信仰と価値のシステム・宗教文化へのアプローチ 6. 環境の人類誌・環境への適応戦略と経済システム 7. ジェンダーの人類学・男になる・女になる

ということ 8. 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって 9. メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 10. グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム 11. 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 12. ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より 13. 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ 14. 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか 15. 「転換期」の時代の文化人類学 16. まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関する概念的な参考書を以下に挙げる。個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ20のモデル』弘文堂、2005年
- ◇ 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店、2003年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書、1982年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣、2008年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219280>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~13時)

【備考】本年度開講(隔年開講)

ジェンダー研究 2単位 2年(後期), 3年(後期), 4年(後期)

北村 修二・教授/社会創生学科, 平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】現代日本におけるセクシュアルマイノリティについて、社会的に理解する。

【授業概要】私たちは、日常生活の中で、他者と関わらずにはいられない。私たちは自らと見られたりじつと見つめられたりさえることに始まり、身振りを示し合ったり、ことばをやりとりすることで、他者を何者かだと判断しながら、他者とやりとりをしている。それによって、私たちの日常生活は営まれていると言える。そのような他者とのやりとり—相互行為—は、秩序だったものである。つまり、相互行為には決まり事がある。それが、どのようなものであるのかを、女だけれど女が好きだったり、女に生まれたけれど男として生きようとしているような人びと—セクシュアルマイノリティー—の経験から見ていく。その経験から、私たちが当たり前で生きている性別に関わる秩序が、そのようなものを一緒に振り返り、それによって、私たちが生きている社会がどのような社会であるのかを考えていく。なお、授業中に書いてもらうリアクションペーパーによって、質問を受け付け、また理解度を確認する。

【キーワード】ジェンダー、身体、社会学、性同一性障害、スティグマ、パッシング、セクシュアルマイノリティ、カミングアウト、性自認

【履修上の注意】適宜資料を配付し、文献を紹介する。

【到達目標】現代日本におけるセクシュアルマイノリティについて、社会的に理解する。

【授業計画】1. 自己紹介、講義のイントロダクション 2. セクシュアルマイノリティと基本用語の説明 3. ドラマ「わたしがわたしであるために」(1) 4. ドラマ「私が私であるために」(2)・次回の導入(スティグマとパッシング) 5. 性同一性障害と相互行為 6. 医療(1)性同一性障害の精神療法の実践(映像含む) 7. 医療(2)性別の基準を再考する 8. 性同一性障害者特例法 9. レズビアン(1)カミングアウト(映像含む)・婚姻の問題(1)映画「ウーマンラプアマン」(1) 10. 婚姻の問題(様々な法律と婚姻形態) 11. 「ウーマンラプアマン」(2)(3)解説 12. 性的指向と性自認再考 13. いかにして「ふつう」の外見に駆り立てられるのか(1) 14. いかにして「ふつう」の外見に駆り立てられるのか(2) 15. 多様になってきている「性同一性障害」のあり方 16. ドキュメンタリー「まんこ独り語り」(まとめ)

【成績評価】レポートによって理解度を確認する。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。

【参考書】加藤秀一・石田仁・海老原暁子、2005、『図解雑学ジェンダー』ナツメ社。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219061>

【連絡先】

⇒ 北村
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成21年度開講(隔年開講)。平成21年度の本授業は夏期集中として、9月24日8:40から27日11:55にかけて開講される見込みです。

社会心理学

2単位 2年(後期)

佐藤 健二・教授/人間文化学科

【授業目的】近年、社会心理学に対する期待は、著しく増大している。なぜなら、社会心理学は、人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて、近年生じている、さまざまな社会的行動に関する諸問題の解決に資する可能性をもっているからである。そこで、本講義では、人間の社会的行動に関する一般の知見とその近年の展開について概説することを目的とする。

【授業概要】人間の社会行動の理解

【キーワード】社会的行動、自己、対人行動、集団行動、集合行動

【履修上の注意】OHP、パワーポイント、紙資料、ビデオテープなどを使用する。私語厳禁。

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果、概念、方法論、近年の展開について理解すること

【授業計画】1. イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 2. 社会的影響(同調、服従、役割) 3. 攻撃、暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? 4. 援助、なぜ多数の人が目撃しているながら殺人を傍観していたのか? 5. 集団行動(リーダーシップ研究、「プロジェクトX」視聴) 6. 集合行動(流言、うわさ、群衆行動) 7. 言語・非言語コミュニケーション(視線行動など) 8. 抑うつ(社会心理学、認知の歪み、自己注目、相互作用モデルとの関連) 9. 自己呈示と対人不安 10. 対人魅力、近接性と好意、身体的魅力、類似性と好意、返報性 11. 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 12. 自己開示・対人関係の発展や健康への影響 13. 社会的認知(原因帰属など) 14. 自己意識、自己評価研究とその臨床領域への応用 15. 試験 16. 総括

【成績評価】三分の二以上の出席した者に対して、期末試験結果による評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】参考書・安藤清志他 社会心理学 岩波書店、坂本真士・佐藤健二 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219395>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時, 3S05室, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学基礎研究 III (前期)

2単位

2年(前期, 集中), 3年(前期, 集中)

鳥羽 耕史・准教授/人間文化学科, 衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】1950年代は、商業紙誌、サークル誌、映画、テレビ、演劇、絵画、紙芝居、幻灯など、様々なメディアで「記録」が展開された時代であった。ここでは、必ずしも「マス(大量の)」受け手に向けられたものではないが、「マス(大衆)」としての受け手を向けたメディアにおける「記録」を紹介しながら、その今日的意義を考えてみたい。

【授業概要】プリントや映像を教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

【キーワード】文学、映画

【関連科目】『日本文学演習 III』(1.0, ⇒21頁)

【履修上の注意】授業時に発言を求めると、指定された場合にはテキストを読んで上で授業に臨むこと。

【到達目標】豊かな「記録」の遺産に触れ、客観的で中立なものという既成概念を超えた「記録」の可能性を理解できるようになる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 1950年代概論 3. サークル詩の「記録」 4. 生活記録運動と幻灯 5. 国民的歴史学運動と紙芝居 6. ルポルタージュの実験 7. ルポルタージュ絵画の展開 8. 岩波映画のドキュメンタリー 9. テレビドラマと「記録」(1) 10. テレビドラマと「記録」(2) 11. ダムをめぐる「記録」(1) 12. ダムをめぐる「記録」(2) 13. ダムをめぐる「記録」(3) 14. 基地をめぐる「記録」 15. まとめ 16. レポート

【成績評価】出席確認を兼ねた毎回の小レポート、授業内での質疑応答(予習の確認)、授業内での議論への参加、期末レポートにより総合的に評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】特に指定しない。教材として映像やプリントを使用する。

【参考書】鳥羽耕史『1950年代「記録」の時代』(河出書房新社、2010年)など。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218935>

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転中のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間の直後)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学基礎研究 III (後期) 2 単位
2 年 (後期, 集中), 3 年 (後期, 集中)
鳥羽 耕史・准教授/人間文化学科, 衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 「近代文学の終り」(柄谷行人) が語られる中, 「現代文学」が何であるのかは, 文学観が問われる問題である。ここでは, 「近代文学」の延長線上にある「現代文学」として考えられるのが, とりあえず「昭和」の文学であると仮定して, 「昭和文学史」を再検討してみたい。授業の中では, それぞれの時期の文学をプリントで紹介しつつ, 「文学史」の展開を考えていきたい。

【授業概要】 プリントを教材として用い, 二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い, 出席者には積極的な発言を求める。

【キーワード】 文学

【先行科目】 『日本文学基礎研究 III (前期)』(0.2, ⇒133 頁)

【関連科目】 『日本文学演習 III』(0.2, ⇒21 頁), 『アジアの近代』(0.2, ⇒5 頁)

【履修上の注意】 授業時に発言を求めらるので, 指定された場合にはテキストを読んでから授業に臨むこと。

【到達目標】 「昭和文学史」の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる。

【授業計画】 1. ガイダンス: 「昭和文学」と「現代文学」 2. 関東大震災と「昭和」のはじまり 3. モダニズム文学 4. プロレタリア文学 5. 転向文学と「文芸復興」 6. 戦時下の文学 (1) 7. 戦時下の文学 (2) 8. 戦後の文学 (1) 9. 戦後の文学 (2) 10. 戦後の文学 (3) 11. 高度成長期の文学 (1) 12. 高度成長期の文学 (2) 13. 高度成長期の文学 (3) 14. 1980 年代の文学 15. 「昭和文学史」再考 16. レポート

【成績評価】 出席確認を兼ねた毎回の小レポートと授業時の発言, 期末レポートにより総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 特に指定しない。教材としてプリントを配布する。

【参考書】 年表の会編『近代文学年表』(双文社出版, 2002 年増補 4 版), 『新潮日本文学アルバム別巻 昭和文学アルバム 1・2』(新潮社, 1986-87 年) など。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218936>

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転中のため, メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間の直後)

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本語基礎研究 I (前期) 2 単位 2 年 (前期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では, 日本語の敬語や配慮表現を中心に講義する。敬語一般の基礎的な知識を身につけること, 敬語や配慮表現について取り上げ, 実際に敬語研究に触れ, 日本語の敬語について理解することを目標にする。これまで敬語, 配慮表現に関連する日本語学各方面で得られた研究成果を概説的に学習する。科学的視点での, ものの見方, とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。

【授業概要】 日本語学・社会言語学・日本語教育等で基礎となる学習を行う。この授業では主に敬語をはじめ, ポライトネス, 配慮表現などを中心的に取り上げ, 社会言語学的視点から対人コミュニケーションとは何かについて学ぶ。配慮表現に関するデータを統計的に処理する方法を身につけ, 言語分析の方法について学ぶ。

【履修上の注意】 授業は, 講義形式を原則とするが, 一部, 調査の関係でゼミ形式をとる場合もある。受講生各人が授業で扱ういろいろなテーマの中から一つ興味を持ち, レポートを完成させる。毎時, 簡単な小テストを行うこともある。

【到達目標】 日本語を科学的な視野からとらえ, 日本語学の基礎を理解する。

【授業計画】 1. (1) 日本語の敬語の特色 2. (2) 日本の社会言語学とは 3. (3) 属性にもとづく言語バリエーション-地域差・世代差・性差- 4. (4) 敬語行動とは何か 5. (5) ポライトネスと配慮表現 (1) 6. (6) ポライトネスと配慮表現 (2) 7. (7) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(1) 8. (8) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(2) 9. (9) 自由回答をどう分析するか 10. (10) テキストマイニングによる分析手法を学ぶ 11. (11) ソフトを利用した分析 12. (12) アンケート調査の実施 13. (13) アンケート調査のデータ集計-受講生が分担して行う- 14. (14) アンケートデータの分析と解説 15. (15) レポートの準備のため文献資料の解説 16. (16) 総括授業

【成績評価】 評価は, レポート, 小テスト, フィールド調査への参加を目安とする。

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 教材: 授業でプリントを配布する。
- ◇ 参考書: 各分野に必要な論文・図書を紹介する。

【参考書】 国立国語研究所編 (2006) 『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218915>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館3階(2307) 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 ◇IC レコーダー等の音声機器の使い方, データ分析の方法の説明を行う。◇データ分析を行う際にノートパソコンや IC レコーダーの貸し出しを行うこともある。

日本語基礎研究 I (後期) 2 単位 2 年 (後期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では, 日本語学概論の音声・音韻・アクセントについての講義をする。音声学に関する基礎的な知識を身につけること, 日本語学各分野への興味づけを行うことを目的にする。音声を科学的に追究するという姿勢を学び, 音声学の研究成果を概説的に学習する。科学的視点での, ものの見方, とらえ方などを音声学の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。なお, 全国諸方言の音声・アクセント調査をフィールドワークとして実施し, 各自が資料収集にあたり, 分析を行う。

【授業概要】 国語学・日本語学・日本語教育等で基礎となる学習を行うが, ここでは主に日本語の音声・アクセントなどを幅広く取り上げ, 概説的な授業のあと, 音声・アクセントの資料を集め, 分析を行う。

【履修上の注意】 授業は, 講義形式を原則とするが, 受講生各人が興味を持つ分野について, レポートを提出する。学期末毎にテストを行うこともある。

【到達目標】 日本語を科学的な視野からとらえ, 日本語学の基礎を理解する。

【授業計画】 1. (1) 音声研究入門 2. (2) 音声とは? 3. (3) 聴音音声学と音響音声学 4. (4) 音声器官と発声の仕組み 5. (5) 母音と子音 6. (6) 拍と音節 7. (7) 日本語のポーズとイントネーション 8. (8) 日本語のアクセント 9. (9) 音声の対照研究 10. (10) 日本語の方言音声 11. (11) 日本語の方言音声 2 12. (12) 日本語音声の音響分析-母音編- 13. (13) 日本語音声の音響分析-子音編- 14. (14) 全国諸方言音声・アクセント世代調査票の説明 15. (15) 全国諸方言音声・アクセント世代調査の実施 16. 総括授業

【成績評価】 評価は, レポート, 小テスト, 音声調査の参加を目安とする。

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 教科書: 特に指定しない
- ◇ 教材: 授業でプリントを配布することがある。
- ◇ 参考書: 各分野に必要な論文・図書を紹介する。

【参考書】 今石元久編『音声研究入門』和泉書院

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218916>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館3階(2307) 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 ◇音声データの分析方法についての学習も行う。◇ノートパソコン, IC レコーダーを貸し出すこともある。

日本語基礎研究 II (前期) 2 単位 2 年 (前期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】 日本語はどのような歴史をたどってきたか, 前期は, 日本語の音韻(発音の変化など)を中心に, 言語変化の原理を理解できるようにする。

【授業概要】 日本語の歴史通覧 (23 年度前期は開講しません。後期月曜 5・6 校時で受講してください)

【キーワード】 音韻史, 上代特殊仮名遣, ヤ行のイエ, 撥音, 促音, オ段長音, 連声, 四つ仮名

【到達目標】 日本語の歴史を音韻の面から学び, 発音の変化はなぜ起こるのか, また, それが他の要素にどのように影響するかを考える。

【授業計画】 1. 音韻とは何か, および, 国語史の時代区分について。 2. 奈良時代 1(なぜ, 8 母音だったと考えられるのか。) 3. 奈良時代 2(母音体系と文法体系の関係) 4. 平安時代 1(ア行のエのヤ行のイエへの統合) 5. 平安時代 2(母音の減少がもたらしたもの) 6. 平安時代 3(ハ行子音の発音の変遷が意味するもの) 7. 平安時代 4(音韻としての撥音「ン」と促音「ツ」の成立) 8. 鎌倉室町時代 1(ワ行「キ」「エ」の消滅と合拗音) 9. 鎌倉室町時代 2(オ段長音の変遷, 開音合音の発生から開合の区別消滅まで) 10. 鎌倉室町時代 3(キリシタン資料から分かる室町時代の音韻体系) 11. 鎌倉室町時代 4(音便, 連濁, 連声) 12. 江戸時代以降 1(四つ仮名 [ジチズツ] の混同) 13.

江戸時代以降 3(江戸語・東京語の音韻) 14. アクセントの歴史 15. 試験 16. 補足とまとめ

【成績評価】各時代の特徴づける語彙について基本的なことがらを理解できているかどうかについて、小テストなどで、40%、期末試験を60%の割合で評価する予定。

【再試験】あり

【教科書】
 ◇ 沖森卓也編『日本語史』(おうふう)1900円を予定。
 ◇ 参考書 平凡社ライブラリー『日本語の歴史』1~7ほか

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218917>

【連絡先】
 ⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~17時30分 その他随時。)

日本語基礎研究 II (後期) 2単位 2年 (後期)
 仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】「方言」について正しい認識を持つ。また、言葉を体系の中で考えることの必要を理解する。

【授業概要】徳島県の方言(俚言)を手がかりとして、言葉の歴史や体系を考える。

【到達目標】
 1. 方言について、正確な知識を獲得する。
 2. 言葉の由来、あるいは語源について正しい考え方を理解する。
 3. 言葉を単独で考えず、つねに体系の中で考える習慣を身につける。
 4. 言葉や言語資料の背景となるものを意識して、言葉を考える習慣を身につける。
 5. 「方言」が特定の地域に孤立して存在するものでないことを理解する。

【授業計画】 1. 授業の進め方についての説明。この授業で使う「方言」の意味は何か。徳島の方言概説(その1) 2. 徳島の方言概説(その2) 3. 「せこい」という言葉。(語源の考え方 その1 なぜ徳島だけ意味が異なるのか) 4. ウンカゴブジ(温和御無事)(語源の考え方その2 方言の中の漢語語彙) 5. 気象と言葉(雨や風の名前 ベックノジャラセ・ナガセ・サダチ・サオカタギ等) 6. 身体部位をあらわす言葉(ヤネとはどこを指す? 意味のずれの発生など) 7. オビユからオブケル(驚く)の変化をどう説明するか。 8. 子どもの世界と言葉(カマキリ・メダカ・じゃんけん等、多彩な語形が失われたわけ) 9. 木屋平の方言(個人のメモから分かること、新居熊太氏のメモから) 10. 相生の方言(個人のメモから分かること、方言資料の残し方。) 11. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 12. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 13. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 14. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 15. 徳島県の俚言の語誌(内容未定) 16. 補足とまとめ(内容未定)

【成績評価】出席、授業に対する積極性(質問、意見など)とレポートを総合して評価する。レポートに大きい比重を置く。

【再試験】再レポート

【教科書】『徳島県のことば』(明治書院)を予定。

【参考書】授業の中で随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218918>

【連絡先】
 ⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~17時30分 その他随時。)

日本語演習 I 2単位 3年(前期)、4年(前期)
 岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】地域方言のフィールドワークを行い、得られたデータの分析を行う。

【授業概要】地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする。日本語諸方言の音韻・アクセント・文法・語彙などの特色を把握する。前半では、フィールド調査に関する調査票の作成、フィールド調査の方法等について学ぶ。夏期休業中期間等を利用し、フィールドワークを実施する予定である。現段階で調査地域は未定である。ちなみに、10年度は三重県志摩地方に3泊4日の調査に出かけた。調査地域は、受講生の意見を尊重して決める予定である。後期では、エクセル、音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ、受講生全体での共同作業として、調査票の整理、データ入力を行ったあと、各調査項目の分担を決め、各自発表を行うこととする。また、年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である。

【履修上の注意】夏休み(昨年度は9月下旬に実施)を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】表計算及び統計ソフトを利用した言語変異の分析と方法の習得

【授業計画】 1. 方言調査とは? 2. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 1. 3. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 2. 4. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 3. 5. 各グループによる調査票の準備と検討 1. 6. 各グループによる調査票

の準備と検討 2. 7. 各グループによる調査票の準備と検討 3. 8. グループ毎で調査項目の作成 1. 9. グループ毎で調査項目の作成 2. 10. グループ毎で調査項目の作成 3. 11. 各自(各グループ)による録音機器類の操作方法の習得 12. 各グループ毎で話を幹旋してもらうため、調査地へ連絡をとる。 13. 調査票全体の作成 1. 14. 調査票全体の作成 2. 15. 調査票全体の印刷。 16. 調査のしおりの作成と調査の実施。

【成績評価】成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること。調査への参加は出席点に加える。

【再試験】無

【教科書】
 ◇ 教科書:特に指定しない。
 ◇ 教材:授業でプリントを配布する。
 ◇ 参考書:西日本諸方言に関する必要な論文、データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219295>

【連絡先】
 ⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館1階南棟656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。

日本語演習 II 2単位 3年(後期)、4年(後期)
 岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】日本の一地域においてフィールドワークを行い、調査によって得られたデータの処理の方法として、「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ。

【授業概要】後期では、エクセル、音声ソフトなどのソフトの操作法を学習しつつ、受講生全体での共同作業として、調査票の整理、データ入力を行ったあと、各調査項目の分担を決め、データの分析を通じて、各自発表を行うこととする。また、年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である。

【履修上の注意】夏休み(昨年度は9月下旬に実施)を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】野外での方言調査を通じて、生きた方言に触れる

【授業計画】 1. 臨地方言調査の総括と反省 2. データ整理 1. 3. データ整理 2. 4. データ整理 3. 5. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 1. 6. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 2. 7. データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 3. 8. 発表の分担の打ち合わせ 1. 9. 発表の分担の打ち合わせ 2. 10. 各自(各グループ)による研究発表 1 11. 各自(各グループ)による研究発表 2 12. 各自(各グループ)による研究発表 3 13. 各自(各グループ)による研究発表 4 14. 各自(各グループ)による研究発表 5 15. 全体的にデータを見渡し、特徴的な結果について整理する。 16. レポート等、報告書の作成。

【成績評価】成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること。調査への参加は出席点に加える。

【再試験】無

【教科書】
 ◇ 教科書:特に指定しない。
 ◇ 教材:授業でプリントを配布する。
 ◇ 参考書:日本の諸方言に関する必要な論文、エクセル操作マニュアル等を授業で紹介したい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218910>

【連絡先】
 ⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館1階南棟 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。

日本語演習 II (前期) 2単位 3年(前期)、4年(前期)
 仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】中世前期日本語の文献資料解説を通して、日本語研究の方法を身につける。自ら調査する過程に於いて、辞書、先行研究、その他参考文献等の適切な利用方法、探索方法を学ぶ。

【授業概要】『宇治拾遺物語』を対象とし、各説話の解説(現代語訳)を、正確に行いながら、同時に、特定の語について深く掘り下げる。受講者は、それぞれ分担の説話と、自らが設定したテーマについての調査結果を発表する。

【キーワード】宇治拾遺物語集、説話、中世日本語

【履修上の注意】特になし。

【到達目標】

1. 大型辞書の適切な利用と評価ができるようになる。
 2. 古典文法の基礎的知識を活かしながら、日本語の変化に気付く。
 3. 先行研究を効率的に探索し、有効に利用できる。
- 【授業計画】 1. 授業の進め方について説明し、各人の分担を決める。 2. 『宇治拾遺物語集』から巻第6を順次検討してゆく。 3. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 4. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 5. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 6. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 7. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 8. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 9. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 10. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 11. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 12. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 13. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 14. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 15. 『宇治拾遺物語集』第6の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 16. まとめ
- 【成績評価】 出席、発表、授業参加の意欲などを総合して評価する (50%)。また、発表内容にもとづくレポートを合わせて評価する (50%)。
- 【再試験】 なし
- 【参考書】 各自、『宇治拾遺物語集』を用意すること。文庫本でもよい。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218911>
- 【連絡先】
⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~18時ほか随時。)

日本語演習 II (後期) 2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期) 仙波 光明・教授/社会創生学科

- 【授業目的】 近世初期の言葉の教育の書である『かたこと』の語彙、記述を検討することを通して、情報に乏しい方言集を利用して語彙を研究する方法を知り、その力を養う。
- 【授業概要】 『かたこと』の解説を通して、近世初期京都方言と現代の方言との関係を検討する。
- 【履修上の注意】 特になし。
- 【到達目標】 国語辞典、方言集、またその他のさまざまな言語資料を利用しながら、言葉についての記述に適切な評価をし、正しい結論を導き出せる。
- 【授業計画】 1. 『片言』について概説。授業の進め方を説明し、分担を決める。 2. 『片言』の始めの部分の解説。 3. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 4. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 5. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 6. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 7. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 8. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 9. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 10. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 11. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 12. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 13. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 14. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 15. 『片言』の、割り当てられた項目についての調査報告と議論。 16. レポート作成
- 【成績評価】 出席、発表、授業参加の意欲などを総合して評価する (60%)。また、発表内容にもとづくレポートを合わせて評価する (40%)。
- 【再試験】 なし
- 【教科書】 テキストは、コピーを配布。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218912>
- 【連絡先】
⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~18時ほか随時。)

ドイツ言語文化研究 I (その 1) 2 単位 2 年 (前期) 石川 榮作・教授/人間文化学科

- 【授業目的】 ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ラインの黄金』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
- 【授業概要】 ドイツ・オペラの講読と鑑賞

- 【キーワード】 ドイツ文学, ワグナー, 楽劇, ニーベルンゲン伝説, 北欧神話
- 【先行科目】 『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁)
- 【履修上の注意】 ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。
- 【到達目標】 ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。
- 【授業計画】 1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。2011 年度前期はその一作目の作品『ラインの黄金』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。前期の授業計画は次の通りである。 2. 1) ワグナーの生涯と作品 (2 回) 3. 2) 『ラインの黄金』講読 (12 回) 4. 3) 『ラインの黄金』全四場を鑑賞 (2 回)
- 【成績評価】 授業への取り組み (50%) と期末試験 (またはレポート) (50%) による。
- 【再試験】 行わない
- 【教科書】 対訳プリント (石川訳) を配付する。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218896>
- 【連絡先】
⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日15時~16時)
- 【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。(その 1) と (その 2) はそれぞれ今度前期と後期に開講、(その 3) と (その 4) は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 I (その 2) 2 単位 2 年 (後期) 石川 榮作・教授/人間文化学科

- 【授業目的】 ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ヴァルキューレ』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
- 【授業概要】 ドイツ・オペラの講読と鑑賞
- 【キーワード】 ドイツ文学, ワグナー, 楽劇, ニーベルンゲン伝説, 北欧神話
- 【先行科目】 『ドイツの文学』(1.0, ⇒64 頁)
- 【履修上の注意】 ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。
- 【到達目標】 ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。
- 【授業計画】 1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。2011 年度後期はその二作目の作品『ヴァルキューレ』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。後期の授業計画は次の通りである。 2. 1) 『ヴァルキューレ』第一幕講読 (5 回) 3. 2) 『ヴァルキューレ』第二幕鑑賞 (1 回) 4. 3) 『ヴァルキューレ』第三幕講読 (5 回) 5. 4) 『ヴァルキューレ』全三幕を通して鑑賞 (3 回) 6. 5) 『ヴァルキューレ』の特質 (総まとめ)
- 【成績評価】 授業への取り組み (50%) と期末試験 (またはレポート) (50%) による。
- 【再試験】 行わない
- 【教科書】 対訳プリント (石川訳) を配付する。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218897>
- 【連絡先】
⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日15時~16時)
- 【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。(その 1) と (その 2) は今年度それぞれ前期と後期に開講、(その 3) と (その 4) は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究 I (その 3) 2 単位 3 年 (前期) 石川 榮作・教授/人間文化学科

- 【授業目的】 ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ジークフリート』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
- 【授業概要】 ドイツ・オペラの講読と鑑賞
- 【キーワード】 ドイツ文学, ワグナー, 楽劇, ニーベルンゲン伝説, 北欧神話

- 【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64頁)
- 【履修上の注意】ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。
- 【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。
- 【授業計画】1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。来年度前期はその三作目の作品『ジークフリート』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。前期の授業計画は下記のとおりである。 2. 1)『ラインの黄金』と『ヴァルキューレ』の解説(1回) 3. 2)『ジークフリート』第一幕鑑賞(1回) 4. 3)『ジークフリート』第二幕鑑賞(1回) 5. 4)『ジークフリート』第三幕講読(12回) 6. 5)『神々の黄昏』ハイライト形式で鑑賞(1回)
- 【成績評価】授業への取り組み(50%)と期末試験(またはレポート)(50%)による。
- 【再試験】行わない。
- 【教科書】対訳プリント(石川訳)を配付する。
- 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218898>
- 【連絡先】
⇒石川(088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)
- 【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(1)と(2)は今年度それぞれ前期と後期に開講、(3)と(4)は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

ドイツ言語文化研究Ⅰ(その4)

2単位 3年(後期)
石川 榮作・教授/人間文化学科

- 【授業目的】ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ヴァーグナー(1813-83)は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『神々の黄昏』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
- 【授業概要】ドイツ・オペラの講読と鑑賞
- 【キーワード】ドイツ文学、ワーグナー、楽劇、ニーベルンゲン伝説、北欧神話
- 【先行科目】『ドイツの文学』(1.0, ⇒64頁)
- 【履修上の注意】ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。
- 【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを目標とする。
- 【授業計画】1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。来年度後期はその四作目の作品『神々の黄昏』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。後期の授業計画は下記のとおりである。 2. 1)『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』及び『ジークフリート』の解説(1回) 3. 2)『神々の黄昏』序幕講読(2回) 4. 3)『神々の黄昏』第一幕鑑賞(1回) 5. 4)『神々の黄昏』第二幕鑑賞(1回) 6. 5)『神々の黄昏』第三幕講読(10回) 7. 6)『神々の黄昏』第三幕鑑賞(1回)
- 【成績評価】授業への取り組み(50%)と期末試験(またはレポート)(50%)による。
- 【再試験】行わない。
- 【教科書】対訳プリント(石川訳)を配付する。
- 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218899>
- 【連絡先】
⇒石川(088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)
- 【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(1)と(2)は今年度それぞれ前期と後期に開講、(3)と(4)は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。

人間社会学科 国際文化コース 哲学・思想サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

社会思想研究 ...石田・山口/2年(後期).....	138
比較思想研究 ...石田・吉田・山口/2年(前期).....	139
ヨーロッパ思想研究 ...石田・吉田・山口/2年(後期).....	139
社会的行為の理論 ...堀田・櫻田/2年(前期, 集中).....	139
哲学思想基本研究 I (その1) ...山口/2年(前期).....	140
哲学思想基本研究 I (その2) ...山口/2年(後期).....	140
哲学思想基本研究 I (その3) ...山口/3年(前期).....	140
哲学思想基本研究 I (その4) ...山口/3年(後期).....	140
哲学思想基本研究 II (その1) ...石田/2年(前期).....	141
哲学思想基本研究 II (その2) ...石田/2年(後期).....	141
哲学思想基本研究 II (その3) ...石田/3年(前期).....	141
哲学思想基本研究 II (その4) ...石田/3年(後期).....	141
哲学思想基本研究 III (その1) ...吉田/2年(前期).....	141
哲学思想基本研究 III (その2) ...吉田/2年(後期).....	142
哲学思想基本研究 III (その3) ...吉田/3年(前期).....	142
哲学思想基本研究 III (その4) ...吉田/3年(後期).....	142
哲学思想基本研究 IV (その1) ...石田/2年(前期).....	142
哲学思想基本研究 IV (その2) ...石田/2年(後期).....	143
哲学思想基本研究 IV (その3) ...石田/3年(前期).....	143
哲学思想基本研究 IV (その4) ...石田/3年(後期).....	143
比較文化研究 (その1) ...依岡/2年(前期).....	143
比較文化研究 (その2) ...依岡/2年(後期).....	144
文化情報研究 (その1) ...石田/3年(前期).....	144
文化情報研究 (その2) ...石田/3年(後期).....	144
言語情報プログラミング演習 (その1) ...石田/2年(前期).....	144
言語情報プログラミング演習 (その2) ...石田/2年(後期).....	144
言語情報プログラミング演習 (その3) ...石田/3年(前期).....	145
言語情報プログラミング演習 (その4) ...石田/3年(後期).....	145
アメリカ文化論 (その1) ...上野/2年(前期).....	145
アメリカ文化論 (その2) ...上野/2年(後期).....	145
ドイツ語圏文化論 (その1) ...桂/3年(前期).....	146
ドイツ語圏文化論 (その2) ...桂/3年(後期).....	146
フランス語圏文化論 (その1) ...田島/3年(前期).....	146
フランス語圏文化論 (その2) ...田島/3年(後期).....	146
文化批評論 (その1) ...吉田/2年(前期).....	147
文化批評論 (その2) ...吉田/2年(後期).....	147
日本語教育方法論 I ...大石/2年(前期).....	147
日本語教育方法論 II ...橋本/2年(後期).....	148
日本語教授法 I ...大石/2年(前期).....	148
日本語教授法 II ...橋本/2年(後期).....	148
日本語教育演習 (その1) ...大石/3年(後期).....	148
日本語教育演習 (その2) ...大石/4年(後期).....	148
英米の社会と文化 I (その1) ...吉田/2年(前期).....	149
英米の社会と文化 I (その2) ...吉田/2年(後期).....	149
異文化間コミュニケーション (その1) ...坂田/2年(前期, 集中).....	149
異文化間コミュニケーション (その2) ...坂田/2年(後期, 集中).....	150
言語情報処理研究 (その1) ...中島/3年(前期), 4年(前期).....	150
言語情報処理研究 (その2) ...中島/3年(後期), 4年(後期).....	150
言語情報処理研究 (その3) ...中島/3年(前期), 4年(前期).....	150
言語情報処理研究 (その4) ...中島/3年(後期), 4年(後期).....	150
比較文化演習 (その1) ...スタージ/3年(前期).....	151

比較文化演習 (その2) ...スタージ/3年(後期).....	151
ドイツの社会と文化 (その1) ...ヘルベルト/2年(前期).....	151
ドイツの社会と文化 (その2) ...ヘルベルト/2年(後期).....	151
ヨーロッパ歴史・社会論 I ...佐久間/2年(前期).....	152
ヨーロッパ歴史・社会論 II ...長井/2年(前期).....	152
ヨーロッパ歴史・社会論 III ...今井/2年(前期).....	152
アメリカ歴史・社会論 ...吉岡・今井/2年(前期).....	152
ヨーロッパ社会研究 I ...佐久間/2年(後期).....	153
ヨーロッパ社会研究 II ...長井/2年(前期).....	153
ヨーロッパ社会研究 III ...今井/2年(後期).....	153
アメリカ社会研究 ...西出・今井/2年(後期).....	153
ヨーロッパ史特論 I ...佐久間/3年(後期).....	154
ヨーロッパ史特論 II ...長井/3年(後期).....	154
ヨーロッパ地域研究特論 ...今井/3年(後期).....	154
アメリカ史特論 ...西出・今井/3年(後期).....	154
アジア思想研究 I ...有馬/2年(前期).....	154
アジア思想研究 II ...有馬・郡・田中/2年(前期).....	155
理論経済学 I ...立花/2年(前期).....	155
理論経済学 II ...立花/2年(後期).....	155
社会変動研究 ...樋口/2年(前期).....	155

社会思想研究

2単位 2年(後期)

石田 三千雄・教授/人間文化学科, 山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 環境倫理学を通じて、倫理学の基本的な考え方を理解する。現代社会における「倫理的問題」は、単に思想や価値観の問題であるだけでなく、「社会的問題」でもあることを理解する。環境倫理学のトピックス、その思想的背景、現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ、現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける。その上で、自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける。レポートをもとに意見を発表し、討議する力を身に付ける。

【授業概要】 「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い、そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する。

【キーワード】 哲学、倫理学、環境、社会と自然

【到達目標】

1. 人文科学(環境倫理学)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】 1. イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義(石田・山口) 2. 環境倫理学の系譜(1):環境倫理学成立の背景:1950~60年代の環境破壊と自然保護思想の台頭(山口) 3. 環境倫理学の系譜(2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想(山口) 4. 環境倫理学の系譜(3):「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟(山口) 5. 環境倫理学の系譜(4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで(山口) 6. 地球温暖化問題の成立(1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで(山口) 7. 地球温暖化問題の成立(2):フィラッハ会議後の展開:地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結(山口) 8. 地球温暖化問題の成立(3):IPCCの成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索(山口) 9. 地球温暖化問題の成立(4):京都議定書とその後の展開 10. アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる。シャロウ・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を、その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造、エコフィロソフィーとエコソフィー、自己実現との関連で講じる(石田)。 11. マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる。ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判、位階性の批判、自然の進化と社会の進化、リパタリアン的な地域自治主義を講じる(石田)。 12. ドイツの環境政策を講じる。1970年代以降のドイツの環境政策を概観した上で、地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策、ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴァーパタル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター4」を講じる(石田)。 13. ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる。自然は果たして権利の主体になりうるか、人間と自然との関係を寄生関

係から共生関係へ変えることは可能か、等を論じる。(石田) 14. ドイツの環境思想家マイアー＝アービヒの『自然との和解への道』で述べられた、実践的自然哲学を講じる。政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理的基礎づけとなること、自然の理解は広い意味で法の中で論じられること、人間中心主義に対する哲学的・倫理的批判をカントの思想との対決の中で論じ、自然中心主義的世界像から、自然としての人間、自然の法共同体を講じる。(石田) 15. 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション(石田)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2点×15=30点、レポート2回=70点。

【再試験】行う。

【教科書】その都度資料を配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219396>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama.guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)
⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14時~15時)

比較思想研究

2 単位 2 年 (前期)

石田 三千雄・教授/人間文化学科, 吉田 昌市・教授/人間文化学科
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】いくつかの「哲学的」トピックを取り上げ、それらについて考えることで、現代社会の諸問題を考察する視座を得る。

【授業概要】哲学史上論じられてきた多様なトピックについて、一般的・包括的な内容を各3~4回の講義で紹介する。それを受けた「まとめ」の回では受講者の中から若干名にレポートを発表してもらい、ディスカッションを行う。毎回の授業後に疑問や意見を「一言カード」記入してもらい、次回授業の冒頭で復習を行う。また、授業で用いたファイルや資料はウェブページに公開するので復習に役立てること。

【キーワード】哲学, 科学と哲学, 倫理学

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒139頁), 『比較文化研究(その2)』(0.5, ⇒144頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒138頁)

【到達目標】

1. 人文科学 (哲学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】1. イントロダクション:現代における哲学の意義 (吉田, 石田, 山口) 2. 哲学の立場 その1:批判精神としての哲学 - ソクラテスの人と思想 - (吉田) 3. 哲学の立場 その2:何のための批判?- イデアの哲学へ - (吉田) 4. 哲学の立場 その3:イデアの哲学 - 哲学と宗教 - (吉田) 5. まとめとディスカッション (吉田, 石田, 山口) 6. 現代科学論の系譜 (1) 自然法則とイデア論 (山口) 7. 現代科学論の系譜 (2) 経験は真理を保証できるか (山口) 8. 現代科学論の系譜 (3) ブラナリアの記憶物質 (山口) 9. 現代科学論の系譜 (4) 因果関係は実在するか (山口) 10. まとめとディスカッション:「科学の正しさ」をめぐって (吉田, 石田, 山口) 11. 倫理的な正しさとは何か その1:リベラリズムの立場 (石田) 12. 倫理的な正しさとは何か その2:リベラリアニズムの立場 (石田) 13. 倫理的な正しさとは何か その3:コミュニタリアニズムの立場 (石田) 14. まとめとディスカッション (吉田, 石田, 山口) 15. 授業全体のまとめ (吉田, 石田, 山口)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」、授業中に行う「小テスト」、「まとめ」授業における発表、学期末レポートを総合して評価する。得点の配分や発表と期末レポートの採点基準については授業中に説明する。

【再試験】(再試験を)行う。

【教科書】なし。

【参考書】授業中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219307>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜14時から15時)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama.guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)
⇒ 吉田 (総合科学部 1号館 1N11 室(北棟1階), 088-656-7150, sh.oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

ヨーロッパ思想研究

2 単位 2 年 (後期)

石田 三千雄・教授/人間文化学科, 吉田 昌市・教授/人間文化学科
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】西洋の哲学・宗教思想について、テーマ、時代、人などの視点で問題を切り取って講義を行う。またそれを通して、現代社会の諸問題をその背景から思想的に理解する力を養うことを目指す。

【授業概要】まずヨーロッパ思想のバックボーンをなす古代ギリシアやヘブライの思想の基礎を学び、続いて近代哲学の基礎を築いたデカルトからヘーゲル・ドイツ観念論に至る近代哲学の基礎を学び、フランスを中心とした現代哲学(とくに、科学認識論)の基礎を学ぶ。

【キーワード】倫理学, 科学と哲学, 哲学

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その1)』(0.5, ⇒140頁)

【到達目標】

1. 人文科学 (西洋思想) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】1. 古代ギリシアの哲学 1:エレア学派の論理 (吉田昌市) 2. 古代ギリシアの哲学 2:ソクラテスの対話 (吉田昌市) 3. 古代ギリシアの哲学 3:プラトンの学問論 (吉田昌市) 4. 古代イスラエルの宗教思想 1:「創世記」(吉田昌市) 5. 古代イスラエルの宗教思想 2:「創世記(続)」(吉田昌市) 6. ドイツの思想 1:カントの理論哲学 (石田三千雄) 7. ドイツの思想 2:カントの社会哲学 (石田三千雄) 8. ドイツの思想 3:フッサール現象学の基礎 (石田三千雄) 9. ドイツの思想 4:フッサールの生活世界論 (石田三千雄) 10. ドイツの思想 5:ハイデッガーの思想 (石田三千雄) 11. フランスの思想 1:フランス近代の重要性 (山口) 12. フランスの思想 2:デカルトの仕事 (山口) 13. フランスの思想 3:デカルトと経験論哲学 (山口) 14. フランスの思想 4:経験論哲学の認識理論 (山口) 15. フランスの思想 5:まとめ (山口)

【成績評価】毎回の授業終了時に書く「一言カード」、3回のレポートにより評価する。レポートの課題や評価基準などについては授業中に示す。

【再試験】なし。

【教科書】講義中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219083>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜13時から14時)
⇒ 吉田 (総合科学部 1号館 1N11 室(北棟1階), 088-656-7150, sh.oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama.guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

社会的行為の理論

2 単位 2 年 (前期, 集中)

堀田 裕子・非常勤講師, 榎田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】理論とは物事についての見(え)方や考え方であり、社会理論を学ぶことによって、人間や社会についての見(え)方や考え方が豊かになると言える。本講義では現象学的社会学の視点も念頭に置きつつ、「意味の獲得と伝達」「意味をめぐる闘争」「意味の生成」というように、意味を基軸とした3つの側面から社会に切り込んでいく。また、そうした意味をめぐる問いが、身体なき精神のような主体ではなく、身体的存在としての人間を通じて為されるべきであるとする趨勢も強調しておきたい。この意味で、いわゆる「身体社会学」の議論にも眼を向ける。そして、社会理論を考察や分析においてどう活かすかを実践的にも学ぶ。そのために、いくつかトピックを取り上げ、それについて受講者が自分で考える時間を設ける。本講義を通じて、社会理論のおもしろさを受講者と共有できれば幸いである。

【授業概要】基本的に講義形式で、社会や人間について理解し、考察するための諸理論を学習する。本講義で言及する主な論者としては、G. H. ミード, M. フーコー, P. ブルデュなどが挙げられる。できるだけ原典を読み解くことを心掛け、理論の背景をも意識していきたい。途中4回ほど、ジェンダーやファッションなどを含む身近なトピックに関して概説したうえで、課題を出し、受講者が自分で考察する時間を設ける予定である。うち、1回は、近未来を描いた映画を題材に、社会や人間の今後をともに考えたい。

【キーワード】意味, 身体, 自己, 他者, 権力, 現象学

【履修上の注意】出欠確認は毎回行う。

【到達目標】

1. 社会理論の読解力を養う。
2. さまざまな問題について自分で考える力を身につける

【授業計画】1. 社会学における「意味」と「身体」の意義 2. 意味の獲得と伝達 (1) 幼児にとつての世界と社会化 3. 意味の獲得と伝達 (2) 自我とアイデンティティ 4. 意味の獲得と伝達 (3) 相互行為と地位・役割 5. 自己・他者を考える-考察1 6. 意味をめぐる闘争 (1) 権力と知 7. 意味をめぐる闘争 (2) 身体-権力と生-権力 8. ジェンダーを考へる-考察2 9. 意味の生成 (1) 構造と主体 10. 意味の生成 (2) 社会空間と身体 11. 意味の生成 (3) 間主観性 12. “近未来”を考へる -考察3 13. 社会学と現象学 (1) 現象学的社会学の視点 14. 社会学と現象学 (2) 現象学的身体論 15. ファッションを考へる -考察4

【成績評価】出席点(10%)+レポート(70%)+ミニペーパー(20%)で評価する。ミニペーパーは、考察(全4回)の際に書いてもらうものを指す。

【再試験】おこなわない

【教科書】なし

【参考書】N. クロスリー著 (西原 和久監訳) 『社会学キーコンセプト-批判的社会理論』の基礎概念 57』新泉社, 2008. ほか, 随時指示する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218699>

【連絡先】

⇒ 堀田 .
⇒ 檜田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐. 1 号館南棟 1 階 1S19 はととき, 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 集中講義期間中適宜.)

哲学思想基本研究 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】我々が何かものを考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる. そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である. しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う. ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る.

【授業概要】フーコー『言葉と物』研究. 毎回, 担当者を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう. 発表をもとに参加者で議論を行う. おおよそ 2, 3 週間に一章のペースで進める.

【キーワード】科学と哲学, 哲学

【先行科目】『人間と生命/認知哲学』(0.4), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.2)

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.3, ⇒139 頁)

【履修上の注意】たくさん本を読むこと. 毎回の授業で, 関連する文献を紹介しします. また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています. それらを手し, 読み, 報告すること. 一ヶ月にどんなに少なくとも 1 冊, できれば週に 1 冊のペースで読むこと.

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける.
2. 自ら哲学的に思考する技術を身につける.

【授業計画】1. イントロダクション:授業についての説明など 2. 第 1 章侍女たち (1) 3. 第 1 章侍女たち (2) 4. 第 2 章世界という散文 (1) 5. 第 2 章世界という散文 (2) 6. 第 3 章表象すること (1) 7. 第 3 章表象すること (2) 8. 第 3 章表象すること (3) 9. 第 4 章語ること (1) 10. 第 4 章語ること (2) 11. 第 4 章語ること (3) 12. 第 5 章分類すること (1) 13. 第 5 章分類すること (2) 14. 第 5 章分類すること (3) 15. まとめ

【成績評価】担当を分担して報告すること, 3 分の 1 以上の欠席をしないことが必要条件. 報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する.

【再試験】なし.

【教科書】ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218877>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】我々が何かものを考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる. そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である. しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う. ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る.

【授業概要】フーコー『言葉と物』研究. 毎回, 担当者を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう. 発表をもとに参加者で議論を行う. おおよそ 2, 3 週間に一章のペースで進める.

【キーワード】科学と哲学, 哲学

【先行科目】『人間と生命/認知哲学』(0.4), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.2), 『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.9, ⇒140 頁)

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.3, ⇒139 頁)

【履修上の注意】たくさん本を読むこと. 毎回の授業で, 関連する文献を紹介しします. また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています. それらを手し, 読み, 報告すること. 一ヶ月にどんなに少なくとも 1 冊, できれば週に 1 冊のペースで読むこと.

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける.
2. 自ら哲学的に思考する技術を身につける.

【授業計画】1. イントロダクション:授業の説明など 2. 第 6 章交換すること (1) 3. 第 6 章交換すること (2) 4. 第 6 章交換すること (3) 5. 第 7 章表象の限界 (1) 6. 第 7 章表象の限界 (2) 7. 第 7 章表象の限界 (3) 8. 第 8 章労働, 生命, 言語 (1) 9. 第 8 章労働, 生命,

言語 (2) 10. 第 9 章人間とその分身 (1) 11. 第 9 章人間とその分身 (2) 12. 第 9 章人間とその分身 (3) 13. 第 10 章人文諸科学 (1) 14. 第 10 章人文諸科学 (2) 15. まとめ

【成績評価】担当を分担して報告すること, 3 分の 1 以上の欠席をしないことが必要条件. 報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する.

【再試験】なし.

【教科書】ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218878>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その 3)

2 単位 3 年 (前期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】我々が何かもの考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる. そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である. しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う. ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る.

【授業概要】フーコー『言葉と物』研究. 毎回, 担当者を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう. 発表をもとに参加者で議論を行う. おおよそ 2, 3 週間に一章のペースで進める.

【キーワード】科学と哲学, 哲学

【履修上の注意】たくさん本を読むこと. 毎回の授業で, 関連する文献を紹介しします. また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています. それらを手し, 読み, 報告すること. 一ヶ月にどんなに少なくとも 1 冊, できれば週に 1 冊のペースで読むこと.

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける.
2. 自ら哲学的に思考する技術を身につける.

【授業計画】1. イントロダクション:授業についての説明など 2. 第 1 章侍女たち (1) 3. 第 1 章侍女たち (2) 4. 第 2 章世界という散文 (1) 5. 第 2 章世界という散文 (2) 6. 第 3 章表象すること (1) 7. 第 3 章表象すること (2) 8. 第 3 章表象すること (3) 9. 第 4 章語ること (1) 10. 第 4 章語ること (2) 11. 第 4 章語ること (3) 12. 第 5 章分類すること (1) 13. 第 5 章分類すること (2) 14. 第 5 章分類すること (3) 15. まとめ

【成績評価】担当を分担して報告すること, 3 分の 1 以上の欠席をしないことが必要条件. 報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する.

【再試験】なし.

【教科書】ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218879>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その 4)

2 単位 3 年 (後期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】我々が何かもの考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる. そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である. しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う. ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る.

【授業概要】フーコー『言葉と物』研究. 毎回, 担当者を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう. 発表をもとに参加者で議論を行う. おおよそ 2, 3 週間に一章のペースで進める.

【キーワード】科学と哲学, 哲学

【先行科目】『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.9, ⇒140 頁)

【履修上の注意】たくさん本を読むこと. 毎回の授業で, 関連する文献を紹介しします. また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています. それらを手し, 読み, 報告すること. 一ヶ月にどんなに少なくとも 1 冊, できれば週に 1 冊のペースで読むこと.

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける.
2. 自ら哲学的に思考する技術を身につける.

【授業計画】1. イントロダクション:授業の説明など 2. 第 6 章交換すること (1) 3. 第 6 章交換すること (2) 4. 第 6 章交換すること (3) 5. 第 7 章表象の限界 (1) 6. 第 7 章表象の限界 (2) 7. 第 7 章表象の限界 (3) 8. 第 8 章労働, 生命, 言語 (1) 9. 第 8 章労働, 生命, 言語 (2) 10. 第 9 章人間とその分身 (1) 11. 第 9 章人間とその分身

(2) 12. 第9章人間とその分身 (3) 13. 第10章人文諸科学 (1) 14. 第10章人文諸科学 (2) 15. まとめ

【成績評価】担当を分担して報告すること、3分の1以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子、議論への参加、学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】なし。

【教科書】ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218880>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育4号館404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 II (その1)

2単位 2年(前期)
石田三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】カントの『人倫の形而上学』を読んで、カントの法についての基本的な考え方を学ぶ。

【授業概要】カントの『人倫の形而上学』の体系は法論と徳論から成る。法と徳はどのように区別され、またどのように関連するのであろうか。また法の強制力とは何であり、徳の義務とは何であろうか。これらカントの『人倫の形而上学』を読むことによって考えてみたい。

【キーワード】カント, 法, 倫理

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その1)』(0.5, ⇒140頁), 『哲学思想基本研究 III (その1)』(0.5, ⇒141頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】カントの権利や契約といった法的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 2~3 家族的社会的権利について (1):婚姻権 3. 4~5 家族的社会的権利について (2):両親の権利 4. 6~7 家族的社会的権利について (3):家長権 5. 8~9 契約について 6. 10~11 貨幣について 7. 2~13 書物について 8. 14 取得について 9. 15 相続について:レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】行わない。

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218881>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜14時~15時)

【備考】本年度開講せず

哲学思想基本研究 II (その2)

2単位 2年(後期)
石田三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】カントの『人倫の形而上学』を読んで、カントの法についての基本的な考え方を学ぶ。

【授業概要】カントの『人倫の形而上学』の体系は法論と徳論から成る。法と徳はどのように区別され、またどのように関連するのであろうか。また法の強制力とは何であり、徳の義務とは何であろうか。これらカントの『人倫の形而上学』を読むことによって考えてみたい。

【キーワード】カント, 徳, 義務

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その2)』(0.5, ⇒140頁), 『哲学思想基本研究 III (その2)』(0.5, ⇒142頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】カントの国家法や国際法といった法的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 2~3 国家法について (1):公民的状态, 国家 3. 4~5 国家法について (2):国家の三権力 4. 6~7 国家法について (3):支配者と国民 5. 8~9 国家法について (4):刑罰権と恩赦権 6. 10~11 国家法について (5):国家形式 7. 12~13 国際法について (1):自然状態と戦争 8. 14~15 国際法について (2):戦争と平和 9. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】行わない。

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218882>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

【備考】隔年開講, 本年度開講せず。

哲学思想基本研究 II (その3)

2単位 3年(前期)
石田三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】カントの『人倫の形而上学』第二部「徳論の形而上学的基礎論」を読んで、倫理学の基本概念についての考え方を学ぶ。

【授業概要】カントの『徳論の形而上学的基礎論』は徳や義務について詳細に論じている。徳論は、内的立法のみが可能な法則を対象とし、行為主体に選択の余地がある義務を主題としている。徳論にかかわる義務は自己自身による強制が可能である。『人倫の形而上学』第二部を読むことによって、徳義務のさまざまな問題を考えてみたい。

【キーワード】カント, 徳, 義務

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その3)』(0.5, ⇒140頁), 『哲学思想基本研究 III (その3)』(0.5, ⇒142頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】カントの徳や義務といった倫理的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. 1. ガイダンス 2. 2~3 徳論への序論 (1):徳論の概念 3. 4~5 徳論への序論 (2):徳の義務と法の義務 4. 6~7 徳論への序論 (3):義務である目的 5. 8~9 徳論への序論 (4):自分の完全性と他人の幸福 6. 10~11 徳論への序論 (5):倫理的義務と法の義務 7. 12~13 徳論への序論 (6):徳の義務 8. 14 徳論への序論 (7):道徳的感情 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】行わない。

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218883>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

哲学思想基本研究 II (その4)

2単位 3年(後期)
石田三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】カントの『人倫の形而上学』第二部「徳論の形而上学的基礎論」を読んで、倫理学の基本概念についての考え方を学ぶ。

【授業概要】カントの『徳論の形而上学的基礎論』は徳や義務について詳細に論じている。徳論は、内的立法のみが可能な法則を対象とし、行為主体に選択の余地がある義務を主題としている。徳論にかかわる義務は自己自身による強制が可能である。『人倫の形而上学』第二部を読むことによって、徳義務のさまざまな問題を考えてみたい。

【キーワード】カント, 徳, 義務

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その4)』(0.5, ⇒140頁), 『哲学思想基本研究 III (その4)』(0.5, ⇒142頁)

【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】カントの徳の概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 2~3 徳論への序論 (8):良心について 3. 4~5 徳論への序論 (9):尊敬について 4. 6~7 人倫の形而上学の一一般の原則 5. 8~9 徳一般について 6. 10~11 徳論を法論から分ける原理について 7. 12~13 徳と自分の支配 8. 14 徳と無情念 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】行わない。

【教科書】授業の時に資料を配付する。

【参考書】『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218884>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

哲学思想基本研究 III (その1)

2単位 2年(前期)
吉田昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を誤解・理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】 哲学史上の基本的著作の講読
【キーワード】 存在と認識, 倫理と宗教, 自然, 文化, 宗教
【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒139頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒138頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒139頁)
【履修上の注意】 根気よくテキストとつきあってください。平成13年度以降に入学した学生が対象です。
【到達目標】 原典に向き合い, 原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。
【授業計画】 1. 2011年度は, 波多野精一の『時と永遠』を講読する。 2. 授業は15週行い, 16週目は成績評価と評価の講評にあてる。
【成績評価】 期末の試験は行わない。講読にあたっては, 毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて, 総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。
【再試験】 行わない。
【教科書】 「波多野精一全集」(第四巻に所収)や単行本(いずれも岩波書店刊)が大学図書館にあるので, 受講者はそれを借り出されたい。
【参考書】 参考文献等は授業の中で紹介する。
【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218885>
【連絡先】
 ⇒ 吉田(総合科学部1号館1N11室(北棟1階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)
【備考】 2011年度前期

哲学思想基本研究 III (その2) 2単位 2年(後期)
 吉田昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作, あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して, 哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には, 日本語訳を用いることもある。
【授業概要】 哲学史上の基本的著作の講読
【キーワード】 存在と認識, 倫理と宗教, 自然, 文化, 宗教
【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒139頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒138頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒139頁)
【履修上の注意】 根気よくテキストとつきあってください。平成13年度以降に入学した学生が対象です。
【到達目標】 原典に向き合い, 原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。
【授業計画】 1. 前期のシラバスを参照。 2. 授業は15週行い, 16週目は成績評価と評価の講評にあてる。
【成績評価】 期末の試験は行わない。講読にあたっては, 毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて, 総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。
【再試験】 行わない。
【教科書】 前期のシラバスを参照。
【参考書】 参考文献等は授業の中で紹介する。
【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218886>
【連絡先】
 ⇒ 吉田(総合科学部1号館1N11室(北棟1階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)
【備考】 2011年度後期

哲学思想基本研究 III (その3) 2単位 3年(前期)
 吉田昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作, あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して, 哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には, 日本語訳を用いることもある。
【授業概要】 哲学史上の基本的著作の講読
【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒139頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒138頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒139頁)
【履修上の注意】 根気よくテキストとつきあってください。平成13年度以降に入学した学生が対象です。
【到達目標】 原典に向き合い, 原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。

【授業計画】 1. 授業内容は未定。 2. 授業は15週行い, 16週目は成績評価と評価の講評にあてる。
【成績評価】 期末の試験は行わない。講読にあたっては, 毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて, 総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。
【再試験】 行わない。
【教科書】 未定
【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218887>
【連絡先】
 ⇒ 吉田(総合科学部1号館1N11室(北棟1階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)
【備考】 2012年度前期

哲学思想基本研究 III (その4) 2単位 3年(後期)
 吉田昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作, あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して, 哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には, 日本語訳を用いることもある。
【授業概要】 哲学史上の基本的著作の講読
【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒139頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒138頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒139頁)
【履修上の注意】 根気よくテキストとつきあってください。平成13年度以降に入学した学生が対象です。
【到達目標】 原典に向き合い, 原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。
【授業計画】 1. 授業内容は未定。 2. 授業は15週行い, 16週目は成績評価と評価の講評にあてる。
【成績評価】 期末の試験は行わない。講読にあたっては, 毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて, 総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。
【再試験】 行わない。
【教科書】 未定
【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218888>
【連絡先】
 ⇒ 吉田(総合科学部1号館1N11室(北棟1階), 088-656-7150, sh_oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)
【備考】 2012年度後期

哲学思想基本研究 IV (その1) 2単位 2年(前期)
 石田三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 ヘーゲルの『法(権利)の哲学』を読んで, 家族, 市民社会および国家のあり方について考える。
【授業概要】 欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか, 諸個人が「私人」として, 自分個人の利益を追求する社会とはいかなる社会であるのか, 欲求や労働とは何であるのか。この授業ではこういった問題を考える手がかりを, ヘーゲルの『法(権利)の哲学』に求め, 現代の社会や国家のあり方について考える。
【キーワード】 ヘーゲル, 市民社会, 国家
【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その1)』(0.5, ⇒140頁), 『哲学思想基本研究 III (その1)』(0.5, ⇒141頁)
【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので, 演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。
【到達目標】 ヘーゲルの市民社会や国家に関わる事柄について自分で考え, 討論することができる。
【授業計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2~3 市民社会について(1):労働の仕方 3. 4~5 市民社会について(2):資産 4. 6~7 市民社会について(3):身分 5. 8~9 市民社会について(4):司法活動 6. 10~11 市民社会について(5):法律としての 7. 12~13 市民社会について(6):法律の現存在 8. 14 市民社会について(7):裁判 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業
【成績評価】 毎回の出席状況, 報告状況を基本に評価し, 学期末に簡単なレポートを課す。
【再試験】 実施しない
【教科書】 授業の時に資料を配付する。

【参考書】ヘーゲル『法の哲学』I, II(中公クラシックス)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218889>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オ
 フィスアワー: 水曜 14時~15時)
 【備考】本年度開講せず, 平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 2) 2 単位 2 年 (後期)
 石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』を読みながら, 市民社会や国家のあり方について考える。
 【授業概要】欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか, 社会における, 司法活動, 法律とはいかなるものであるのか, 国家の制度とはいかなるものか, この授業ではこれらの問題を考える手がかりを, ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』に求め, 現代の社会や国家のあり方について考える。
 【キーワード】ヘーゲル, 市民社会, 国家
 【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 2)』(0.5, ⇒140 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 2)』(0.5, ⇒142 頁)
 【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので, 演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。
 【到達目標】社会や国家とは何か, 等について自分で考え, 討論することができる。
 【授業計画】1. 1 ガイダンス 2. 2~3 市民社会について (8):訴訟手続き 3. 4~5 市民社会について (9):福祉行政 4. 6~7 市民社会について (10):貧困 5. 8~9 市民社会について (11):職業団体 6. 10~11 国家について (1):国家の概念 7. 12~13 国家について (2):国家の理念 8. 14 国家について (3):国内公法 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業
 【成績評価】毎回の出席状況, 意見発表を基本に評価し, 学期末に簡単なレポートを課す。
 【再試験】実施しない
 【教科書】授業の時に資料を配付する。
 【参考書】ヘーゲル『法の哲学』II(中公クラシックス)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218890>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オ
 フィスアワー: 水曜 14時~15時)
 【備考】本年度開講せず, 平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 3) 2 単位 3 年 (前期)
 石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』を読みながら, 市民社会や国家のあり方について考える。
 【授業概要】欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか, 社会における, 司法活動, 法律とはいかなるものであるのか, 国家の制度とはいかなるものか, この授業ではこれらの問題を考える手がかりを, ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』に求め, 現代の社会や国家のあり方について考える。
 【キーワード】ヘーゲル, 市民社会, 国家
 【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.5, ⇒140 頁)
 【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので, 演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。
 【到達目標】ヘーゲルの国家に関する事柄について自分で考え, 討論することができる。
 【授業計画】1. 1 ガイダンス 2. 国家について (4):近代国家 3. 国家について (5):主体的自由の実現態としての国家 4. 国家について (6):職業選択の自由 5. 国家について (7):国家・家族・市民社会 6. 国家について (8):国家の目的 7. 国家について (9):国家的心術 8. 国家について (10):国家の目的 9. レポートの課題提示 10. 16 総括授業
 【成績評価】毎回の出席状況, 報告状況を基本に評価し, 学期末に簡単なレポートを課す。
 【再試験】実施しない
 【教科書】授業の時に資料を配付する。
 【参考書】ヘーゲル『法の哲学』II(中公クラシックス)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218891>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オ
 フィスアワー: 水曜 14時~15時)
 【備考】本年度開講せず, 隔年開講, 平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 4) 2 単位 3 年 (後期)
 石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』を読みながら, 市民社会や国家のあり方について考える。
 【授業概要】欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか, 社会における, 司法活動, 法律とはいかなるものであるのか, 国家の制度とはいかなるものか, この授業ではこれらの問題を考える手がかりを, ヘーゲルの『法 (権利) の哲学』に求め, 現代の社会や国家のあり方について考える。
 【キーワード】ヘーゲル, 市民社会, 国家
 【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その 2)』(0.5, ⇒140 頁)
 【履修上の注意】演習形式で授業を進めるので, 演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。
 【到達目標】ヘーゲルの国家に関する事柄について自分で考え, 討論することができる。
 【授業計画】1. 1 ガイダンス 2. 2~3 国家について (11):国家と宗教 3. 4~5 国家について (12):国家と教会 4. 6~7 国家について (13):国内体制 5. 8~9 国家について (14):政治的国家 6. 10~11 国家について (15):君主権 7. 12~13 国家について (16):国民主権 8. 14 国家について (17):統治権 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業
 【成績評価】毎回の出席状況, 報告状況を基本に評価し, 学期末に簡単なレポートを課す。
 【再試験】実施しない
 【教科書】授業の時に資料を配付する。
 【参考書】ヘーゲル『法の哲学』II(中公クラシックス)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218892>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オ
 フィスアワー: 水曜 14時~15時)
 【備考】本年度開講せず, 隔年開講, 平成 24 年度開講

比較文化研究 (その 1) 2 単位 2 年 (前期)
 依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め, 異文化研究の方法と実情を概観していく。特に, グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題, モダニズムの問題, そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間に思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。
 【授業概要】比較文化研究, 異文化理解, マイノリティの立場の理解, 近代化の問題
 【キーワード】比較文化, 異文化理解, マルチカルチャー
 【先行科目】『比較文化研究 (その 2)』(1.0, ⇒144 頁)
 【関連科目】『比較文化研究 (その 2)』(0.5, ⇒144 頁), 『ドイツの社会と文化 (その 1)』(0.5, ⇒151 頁)
 【履修上の注意】受講者は日々, 新聞や雑誌, 映画などで異文化の問題について関心を養ってってもらいたい。
 【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。
 【授業計画】前期は, 課題発想的な比較文化研究の概念を検討し, 授業の導入とする。「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題点を概観する。映画やドキュメンタリー・ビデオ, 新聞記事なども適宜利用して, 従来の学問区分に必ずしもとらわれない学際的・総合的な研究方法を示していく。具体的には, 外国人・移民問題, 文化的に見た民族問題, メルヘンと国民文化の問題, 映像メディアによるホロコーストの表現の比較, 「近代」に対する文化的批判, 多文化社会の可能性といったテーマを考えている。文化研究の仕方として最近の「カルチュラル・スタディーズ」の成果なども紹介する。
 【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として, レポートの提出による。
 【再試験】有
 【教科書】教科書は使わない。教材は適宜, 授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として, 西川長夫編『増補 国境の越え方』平凡社, 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会, 新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社, カミュ『異邦人』新潮文庫, 谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫, モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫, プルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫, 戴エイカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店, E. W. サイード『オリエンタリズム』平凡社。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219308>
 【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

比較文化研究 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間の思いがけない結びつきや差異を発見していく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究, 異文化理解, マイノリティの立場の理解, 近代化の問題

【キーワード】比較文化, 異文化理解, マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒143 頁)

【関連科目】『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒151 頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養っていただきたい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】後期は、日本国内外の代表的な日本文化論を概観し、それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する。文化間の影響関係として、具体的には、日本の西洋モダニズム受容や、海外におけるジャポニズムから最近のマンガ・アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる。また、日本文化論に内在するナショナリズムやイデオロギー性を批判的に考察する。日本文化の雑種性への感受性を大切に、既存の日本文化のイメージにとらわれない、新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく。地域文化 (徳島) と国際性とといったテーマも取り上げる予定。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】

- ◇ 教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店。
- ◇ 依岡隆児『読書のススメ～四国から、グローバルに～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218953>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

文化情報研究 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】WEB アプリケーション入門

【授業概要】WEB アプリケーション入門

【キーワード】Web プログラミング, プログラミング

【関連科目】『言語情報プログラミング演習 (その2)』(0.5, ⇒144 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その4)』(0.5, ⇒145 頁)

【履修上の注意】コンピュータについて十分な知識と技術があること

【到達目標】WEB を理解する

【授業計画】1. Web サーバーについて 2. html 言語について 3. 実習 1 Web ページの作成 4. Script とは何か 5. Script 言語の基礎 6. データベースの基礎とネットを介したアクセス方法 7. 実習 2 インタラクティブな Web サイトの構築 8. Flash とは何か 9. Flash 作成方法 10. Web デザインを総合的に考える 11. Web サイトのインターフェイスデザイン 12. Web サイトのナビゲーション方法 13. 実習 3 個人 Web サイトの構築 14. 総評 1 各自の Web サイトの講評 15. 総評 2 各自の Web サイトの講評 16. まとめ 1 17. まとめ 2

【成績評価】成績そのものは試験によって判定する。ただし出席も重視する。欠席が続けば、そもそもその後の内容が全く分らなくなります。

【再試験】未定

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218989>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 水曜日, 木曜日の12時00分から13時00分のあいだ)

文化情報研究 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】情報科学の技術を活用したデザインとプロジェクトを企画実行する

【授業概要】情報科学技術を主体的に応用した企画立案を共同でおこなう。学期最初に計画をデザインし、そのデザインの実現のための工程を作成する。以降は、その工程にしたがって作業する。

【キーワード】Web プログラミング, プログラミング

【先行科目】『文化情報研究 (その1)』(1.0, ⇒144 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(1.0, ⇒144 頁)

【関連科目】『言語情報プログラミング演習 (その2)』(0.5, ⇒144 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その4)』(0.5, ⇒145 頁)

【履修上の注意】授業時間はもちろんのこと、時間外でも相応の時間を割けること

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 自身の情報技術と知識を披露するプレゼン (一人 20 分) 3. 前回プレゼンの反省 4. 情報デザインの提案とプレゼン (一人 20 分) 5. 企画書の作成とプレゼン 6. プロジェクト進行具合報告 1 (一人 10 分) 7. プロジェクト進行具合報告 2 (一人 10 分) 8. プロジェクト進行具合報告 3 (一人 10 分) 9. プロジェクト進行具合報告 4 (一人 10 分) 10. プロジェクト進行具合報告 5 (一人 10 分) 11. プロジェクトの完成前プレゼン (10 分) 12. プロジェクトのプレゼン (30 分) 13. プロジェクトの総括 (15 分) 14. プロジェクトの発展可能性についてプレゼン (10 分) 15. 個人の総括 (30 分) 16. 全体総括

【成績評価】課題の評価 (25 点 ×3), 出席点 25 点の 100 点満点で評価する

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218990>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その1)

2 単位 2 年 (前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】コンピュータの働きとプログラミングについて学ぶ

【授業概要】プログラミング入門

【キーワード】テキスト処理, プログラミング

【先行科目】『文化情報研究 (その1)』(1.0, ⇒144 頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒144 頁)

【履修上の注意】欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なお、受講者が少数の場合、Mac OS X を使う可能性があります。

【到達目標】プログラミング言語に関する知識、技能を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション, コンピュータでできること 2. プログラミングとは何をするのか 3. プログラミング言語のいろいろ 4. 最初のトライアル 5. プログラミングすることとはデザインなり 6. それには基礎的な知識の習得は不可欠, 基礎練習その1 7. 基礎練習その2 8. 基礎練習その3 9. 基礎練習その4 10. コンピュータで人間の言語を扱う 11. 基礎練習その5 12. 基礎練習その6 13. 応用編その1, しごとの流れを考える 14. 応用編その2, まねをするのも悪くない 15. 応用編その3, やや高度なプログラムに挑戦 16. まとめ

【成績評価】毎回の課題提出と期末試験

【再試験】未定

【教科書】配布資料による。

【参考書】プログラミングに関連するものを適宜指示します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218569>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】プログラミング言語とその応用を学ぶ

【授業概要】初級プログラミング入門

【キーワード】コーパス言語学

【関連科目】『文化情報研究 (その1)』(0.5, ⇒144 頁), 『文化情報研究 (その2)』(0.5, ⇒144 頁)

【履修上の注意】欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なおホームページ上で予習復習用のページを開設予定です。 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/index.html>

【到達目標】プログラミング言語に関する基礎的な知識、技能を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. まずは簡単なプログラムを書いてみる 3. プログラミング言語にも文法がある 4. プログラミング

言語の語彙 5. プログラミング言語の「辞書」 6. 関数について 7. 関数を応用する 8. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 1 9. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 2 10. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 3 11. 応用プログラミングに挑戦する 1 12. 応用プログラミングに挑戦する 2 13. 応用プログラミングに挑戦する 3 14. 応用プログラミングに挑戦する 4 15. 応用プログラミングに挑戦する 5 16. まとめ

- 【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験
- 【再試験】 しない
- 【教科書】 未定ですが、プログラム言語の教科書(日本語)を指定する予定.
- 【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218570>
- 【連絡先】
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜、水曜、木曜日16時から17時のあいだ)

言語情報プログラミング演習 (その3) 2 単位 3 年 (前期) 石田 基広・准教授/社会創生学科

- 【授業目的】 高度なプログラミング技法について学ぶ.
- 【授業概要】 応用プログラミング入門.
- 【キーワード】 テキスト処理, プログラミング
- 【先行科目】 『言語情報プログラミング演習 (その1)』(1.0, ⇒144 頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒144 頁)
- 【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なお、受講者が少数の場合、Mac OS X を使う 可能性が あります。
- 【到達目標】 プログラミング言語に関する知識、技能を身につける。
- 【授業計画】 1. オリエンテーション、コンピュータでできること 2. プログラミングとは何をするのか 3. プログラミング言語のいろいろ 4. 最初のトライアル 5. プログラミングすることはデザインなり 6. それには基礎的な知識の習得は不可欠、基礎練習その 1 7. 基礎練習その 2 8. 基礎練習その 3 9. 基礎練習その 4 10. コンピュータで人間の言語を扱うために知るべきこと 11. 基礎練習その 5 12. 基礎練習その 6 13. 応用編その 1, しごとの流れを考える 14. 応用編その 2, まねをするのも悪くない 15. 応用編その 3, 高度なプログラムに挑戦 16. まとめ
- 【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験
- 【再試験】 未定
- 【教科書】 資料を配布する。
- 【参考書】 プログラミングに関連するものを適宜指示します。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218571>
- 【連絡先】
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その4) 2 単位 3 年 (後期) 石田 基広・准教授/社会創生学科

- 【授業目的】 プログラミング言語とその応用を学ぶ
- 【授業概要】 初級プログラミング入門.
- 【キーワード】 コーパス言語学
- 【先行科目】 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(1.0, ⇒144 頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒144 頁)
- 【関連科目】 『文化情報研究 (その1)』(0.5, ⇒144 頁), 『文化情報研究 (その2)』(0.5, ⇒144 頁)
- 【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なおホームページ上で予習復習用のページを開設予定です。 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/index.html>
- 【到達目標】 プログラミング言語に関する基礎的知識、技能を身につける。
- 【授業計画】 1. オリエンテーション 2. まずは簡単なプログラムを書いてみる 3. プログラミング言語にも文法がある 4. プログラミング言語の語彙 5. プログラミング言語の「辞書」 6. 関数について 7. 関数を応用する 8. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 1 9. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 2 10. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 3 11. 応用プログラミングに挑戦する 1 12. 応用プログラミングに挑戦する 2 13. 応用プログラミングに挑戦する 3 14. 応用プログラミングに挑戦する 4 15. 応用プログラミングに挑戦する 5 16. まとめ
- 【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験
- 【再試験】 しない
- 【教科書】 未定ですが、プログラム言語の教科書(日本語)を指定する予定.
- 【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218572>
- 【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜、水曜、木曜日16時から17時のあいだ)

アメリカ文化論 (その1) 2 単位 2 年 (前期) 上野 加代子・教授/社会創生学科

- 【授業目的】 アメリカ社会学の理論や概念をいくつか講義しながら、少年犯罪、いじめ、児童虐待、経済格差、自尊心の低下といった社会的関心の高い問題を考えていきます。
- 【授業概要】 具体的な例(非行、いじめ、不登校、児童虐待、精神疾患、ADHD 等)を用いて、アメリカ社会学の主要な理論や概念を分かりやすく説明します。メディア報道の分析方法(メディアリタラシー)、問題の公的統計の社会的解説方法などについても講義します。授業では、私たちの個人的な悩みやトラブルと受けとめられることでさえも、すべて社会的な起源と文脈があるという点から考えていきます。
- 【履修上の注意】 地域システムコース『青少年問題研究 II』(地域システムコース)との合同講義なので、両方の授業に登録することはできない。
- 【到達目標】 受講後、皆さんが、テレビや新聞が報じる子どもと青少年の諸問題や自分自身の問題について少しでも違った見方ができるようになることを期待します。
- 【授業計画】 1. オリエンテーション/「犯罪」「病気」「障害」「問題」の社会学的な捉え方(逸脱の社会学) 2. ひととはどのようにして非行少年や異常者になってしまうのか(ラベリング論を学ぶ) 3. ひととはなぜ犯罪をおかすのか①諦められない人生について(アノミー理論を学ぶ) 4. ひととはなぜ犯罪をおかすのか②下位文化論③損得勘定で人生を生きる(ポンド理論を学ぶ) 5. 少年犯罪の「増加・深刻化」について(公的統計の社会学的な解説法を学ぶ) 6. いじめ問題(予言の自己成就について学ぶ) 7. 児童虐待の「増加・深刻化」について(社会問題の社会構築主義を学ぶ) 8. 医療化現象 9. モラルパニックー社会問題報道と厳罰主義 10. メーガン法の成立 11. 性的虐待とバックラッシュ 12. 子どもの時代の記憶論争 13. アイデンティティのポリティクス 14. 講義のまとめ 15. 受講生発表
- 【成績評価】 授業への参加度や発表などを総合的に評価する。レポートによる評価(7割)、授業への参加度ならびに発表(3割)。
- 【再試験】 無
- 【教科書】 教科書なし。毎回配布するレジュメに関連文献を記載する。
- 【参考書】 バリー・グラスナー著、松本薫訳、2004年『アメリカは恐怖に踊る』草思社; ジョエル・ベスト著、林大訳、2002年『統計はこうしてウソをつく』白揚社など
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219049>
- 【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日 11時50分~12時50分)

アメリカ文化論 (その2) 2 単位 2 年 (後期) 上野 加代子・教授/社会創生学科

- 【授業目的】 「愛とケアの南北問題」について理解を深める。
- 【授業概要】 少子高齢化、女性の就労、共働き世帯の増加などで生じた経済先進諸国での「ケア・クライシス」を解決するにはいくつかの方法が考えられる。本講義では、それらの方法を比較検討し、そのなかでも主に各々の家族が経済発展の遅れた国から安い賃金の女性労働者や「花嫁」を調達するアジア家族福祉レジームをシンガポールなどを例にみていく。そして、そのシステムの中で国境を越えて働く女性たちの生活の一部を紹介したい。
- 【キーワード】 ケアクライシス、移動の女性化
- 【履修上の注意】 ()
- 【到達目標】
- 1. 女性の国際移動を、「コモンの侵食」「ケア流出」といった南北問題を捉えることができる。
- 2. 本講義で議論する「ケア・クライシス」をグローバル化社会に生きる自分たちの問題として捉えることができるようになる。
- 【授業計画】 1. オリエンテーションー再生産労働のグローバル化 2. 国際労働移動の諸要因 3. アジア家族福祉レジーム 4. 外国人家事・ケア労働者としての生活 5. 底辺労働者の抵抗のストラテジー 6. 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント 7. 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント 8. NGO で作られるヒロインたち 9. トランスナショナルなライフコース 10. 日本での外国人研修生・実習生制度 11. 日本での外国人研修生・実習生制度 12. 結婚での国際移動 13. 結婚での国際移動 14. インドネシア・フィリピンの外国人介護士・看護師 15. 愛とケアの南北問題 16. まとめ
- 【成績評価】 毎回のリアクションペーパーと学期末のレポートで評価
- 【再試験】 無
- 【教科書】 上野加代子『なぜ女は国境を越えるのかーアジアの出稼ぎ家事労働者』(仮題)世界思想社、2011年

【参考書】毎回のレジュメに記載

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219050>

【連絡先】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 11時40分~12時40分)

ドイツ語圏文化論 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの人々の生活や社会に関するいくつかのテーマをとりあげ、これらを媒介として、幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと。

【授業概要】ドイツについて学ぶ手がかりとなるような、いくつかのトピックを取り上げ、日本の状況とも比較しながら、その歴史的・文化的背景を考えます。希望によっては、ドイツの人々との交流 (電子メールなど) やドイツの状況の視察なども組み入れることも可能です。

【キーワード】ドイツ語圏の文化を知る

【履修上の注意】この授業では、ドイツ語の知識は前提としません (もちろん、片言でも出来れば申し分ありません)。異なる文化に触れるとき、自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが、大きな問題になってきたりすることがあります。受講者には、このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います。参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です (授業で詳しく紹介します)。

【到達目標】現代ドイツの社会についての概要とその多様性を知り、さらに関心を展開して行く足がかりを得る。同時に、自国の文化についての新たな観点を獲得する。

【授業計画】1. 導入・文献や資料の紹介 2. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (1) 3. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (2) 4. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (3) 5. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (4) 6. ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) 7. 戦後から現代にいたるドイツの歴史の歩みを見る (1) 8. 戦後から現代にいたるドイツの歴史の歩みを見る (2) 9. 戦後から現代にいたるドイツの歴史の歩みを見る (3) 10. 戦後から現代にいたるドイツの歴史の歩みを見る (4) 11. ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) 12. ドイツの学校と教育制度を知る (1) 13. ドイツの学校と教育制度を知る (2) 14. ドイツの学校と教育制度を知る (3) 15. ディスカッション及び参加者による研究発表 (3) 16. 前期授業のまとめ (レポート提出)

【成績評価】出席、授業での発表、レポートを総合して行ないます。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ プリントを配布します。教科書や参考書の指定はありませんが、手に入りやすい参考書として次のものを推薦します。その他、授業で紹介いたします。
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの政治 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの経済 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの社会 (早稲田大学出版部)
- ◇ 天野正治他:ドイツの教育 (東信堂)
- ◇ 在間進・河合節子:現代ドイツ情報ハンドブック (三修社)

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218904>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4, 金曜5-6)

ドイツ語圏文化論 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの人々の生活や社会に関するいくつかのテーマをとりあげ、これらを媒介として、幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと。

【授業概要】後期の授業では、主として、ヨーロッパの言語教育およびドイツの学校教育の実情と問題点をとりあげます。日本でもドイツでも教育にはさまざまな重い問題がありますが、同時に学校教育には、現代の文化現象を読み解く上での重要なヒントがあります。ここでは、制度的側面の理解とともに、教育内容、学校文化などの研究が重要です。そこで使用されている具体的な教科書を紹介します。授業の様子のビデオ等も活用します。

【キーワード】ドイツ語圏の文化を知る、ドイツの学校教育、ヨーロッパの言語教育

【履修上の注意】この授業では、ドイツ語の知識は前提としません (もちろん片言でも出来れば申し分ありません)。異なる文化に触れるとき、自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが、大きな問題になってきたりすることがあります。受講者には、このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います。参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です (授業で詳しく紹介します)。

【到達目標】現代ドイツの教育事情の概要とその多様性を知ることとおして、自国の文化についての新たな観点を獲得する。

【授業計画】1. 導入・文献や資料の紹介 2. ヨーロッパにおける外国語教育 - 多言語性と言語政策 3. ヨーロッパにおける外国語教育 - ヨーロッパ共通参照枠 (Common Framework) とポर्टフォリオ 4. ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) 5. ドイツの学校教育の現状と問題点 6. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (1) - 授業のビデオを見る 7. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (2) - 国語教科書を見る 8. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (3) - 教育目標とカリキュラム 9. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (4) - 授業のビデオを見る 10. ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) 11. ドイツの政治授業を見る (1) ビデオを見る 12. ドイツの政治授業を見る (2) 教科書を見る 13. ドイツの政治授業を見る (3) ドイツの政治教育の歴史 14. ドイツの大学 15. ディスカッション及び参加者による研究発表 (3) 16. 後期授業のまとめ (レポート提出)

【成績評価】出席、授業での発表、レポートを総合して行ないます。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ プリントを配布します。教科書や参考書の指定はありませんが、手に入りやすい参考書として次のものを推薦します。その他、授業で紹介いたします。
- ◇ 天野正治他:ドイツの教育 (東信堂)
- ◇ マックス・プランク研究所 (天野他訳):ドイツの教育のすべて
- ◇ クリストフ・フェール (天野他訳):ドイツの学校と大学
- ◇ 近藤孝弘:ドイツの政治教育
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの社会 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの政治 (早稲田大学出版部)

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218905>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4, 金曜5-6)

フランス語圏文化論 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】フランス語で書かれた文学作品を原語で読み、作家のテクニクについて考える。

【授業概要】フランスの文学 人間は内面の感情や知識を伝達したいと考えるとき、記号に頼らざるを得ない。内的な感情は、テレパシーや、脳に電極を差し込んでそれぞれ直接電気信号を伝えあうなんてことが可能でない限り、そのまま伝えることはできず、絵や音楽や言語と呼ばれる記号や表象を介してしか伝わらないだろう。もし直接に心の動きが伝えられるとしたら、そちらのほうがまだとあなたは思うだろうか?それとも心の中が直接相手に伝わらないからこそ幸いだと思うだろうか。田島は、自分の内面を表象を介して間接的にしか伝えられないことを幸いだと思う。だって、やばいことは言わなきゃいけないんだから、いやそういう意味だけではなく、ある内面を表現するためある表象が選ばれる。その際にその表象が果たして発信者と受信者の間で同じものとして認識されているかどうかは疑問である。悲しいとか嬉しいとか単純な気持ちでも涙で表現されたとき、正しく相手に伝わるだろうか。ましてやそれよりも複雑な感覚であればそれなりに技巧をこらさなければ発信者の感情は伝えようがない。そして技巧をこらした表象であっても発信者と受信者の間で同じものとして認識されないかもしれない。このこと自体がむしろ幸いだと思う。だからこそ技巧が発達し、表象自体を楽しむことができるのだから。

【キーワード】フランスの文学、表象、テキスト

【先行科目】『実用フランス語演習Ⅰ』(1.0), 『フランス語』(1.0)

【関連科目】『実用フランス語演習Ⅰ』(0.5)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。

【到達目標】フランス語で文学を読むためのフランス語能力と、文学作品を鑑賞し、理解し、論評するための語彙、方法を獲得する。

【授業計画】19世紀か20世紀のフランス語で書かれた比較的短い作品を読み、作者自身について、作品の時代背景について、作品に使われた技法について、また作品の受容について調査検討する。

【成績評価】出席および授業中の発言を重視します。

【再試験】行いません。

【教科書】コピーを配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218984>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

【備考】2009(平成21)年カリキュラムのと同時間開講のため、月曜3-4講時に開講します。

フランス語圏文化論 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】 フランス語で書かれた文学作品を原語で読み、作家のテクニクについて考える。

【授業概要】 人間は内面の感情や知識を伝達したいと考えるとき、記号に頼らざるを得ない。内的な感情は、テレパシーや、脳に電極を差し込んでそれぞれ直接電気信号を伝えあうなんてことが可能でない限り、そのまま伝えることはできず、絵や音楽や言語と呼ばれるを記号や表象を介してしか伝わらないだろう。もし直接に心の動きが伝えられるとしたら、そちらのほうがまだとあなたは思うだろうか?それとも心の中が直接相手に伝わらないからこそ幸いだと思うだろうか。田島は、自分の内面を表象を介して間接的にしか伝えられないことを幸いだと思う。だって、やばいことは言わなきゃばれないんだから。いやそういう意味だけではなく、ある内面を表現するためにある表象が選ばれる。その際にその表象が果たして発信者と受信者の間で同じものとして認識されているかどうかは疑問である。悲しいとか嬉しいとか単純な気持ちでも涙で表現されたとき、正しく相手に伝わるだろうか。ましてやそれよりも複雑な感覚であればそれなりに技巧をこらさなければ発信者の感情は伝えようがない。そして技巧をこらした表象であっても発信者と受信者の間で同じものとして認識されないかもしれない。このこと自体がむしろ幸いだと思う。だからこそ技巧が発達し、表象自体を楽しむことができるのだから。

【キーワード】 フランス文学, 表象, テキスト

【先行科目】 『フランス語』(1.0)

【関連科目】 『実用フランス語演習 I』(0.5)

【履修上の注意】 全学共通教育のフランス語 I を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。

【到達目標】 フランス語で文学を読むためのフランス語能力と、文学作品を鑑賞し、理解し、論評するための語彙、方法を獲得する。

【授業計画】 19 世紀か 20 世紀のフランス語で書かれた比較的短い作品を読み、作者自身について、作品の時代背景について、作品に使われた技法について、また作品の受容について調査検討する。

【成績評価】 出席および授業中の発言を重視します。

【再試験】 行いません。

【教科書】 コピーを配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218985>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

【備考】 後期は火曜 3-4 講時に開講。

文化批評論 (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、「研究の素材」となりうるもの自体について学ぶというよりは、「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書、論文を日本語または英語で講読し、研究テーマの設定方法や研究手法について学ぶことを目的とする。

【授業概要】 文芸、文化、文学などに関する批評理論を読む。今回は、Keith Sanger 著の *The Language of Drama* の前半部 (Unit 1-3) を読み、ドラマ (舞台劇, ラジオドラマ, TV ドラマ, 映画等) の台詞として使われる言語の特徴について分析する。

【キーワード】 ドラマ, 言語, 文学

【関連科目】 『文化批評論 (その 2)』(1.0, ⇒147 頁), 『比較文化研究 (その 1)』(0.5, ⇒143 頁), 『比較文化研究 (その 2)』(0.5, ⇒144 頁), 『英米の社会と文化 I (その 1)』(0.5, ⇒149 頁), 『英米の社会と文化 I (その 2)』(0.5, ⇒149 頁)

【履修上の注意】 隔年開講となる。2011 年度は開講しない。

【到達目標】 講読した研究書や論文中で呈示されている研究手法や批評方法を十分に理解することを目標とする。

【授業計画】 1. Class Guidance (The following class plan is tentative, and could be changed.) 2. Introduction (pp. 1-3) 3. Unit 1: Are you sitting comfortably? (pp. 5-7) 4. Unit 1: Are you sitting comfortably? (pp. 8-11) 5. Unit 1: Are you sitting comfortably? (pp. 11-14) 6. Unit 1: Are you sitting comfortably? (pp. 15-17) 7. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 19-22) 8. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 22-25) 9. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 25-28) 10. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 28-30) 11. Unit 2: Realism: telling it like it is? (pp. 31-32); Unit 3: Presentation of character (pp. 33-34) 12. Unit 3: Presentation of character (pp. 34-37) 13. Unit 3: Presentation of character (pp. 37-40) 14. Unit 3: Presentation of character (pp. 41-42) 15. Final Test or Final Paper 16. Review

【成績評価】 授業への出席状況、各自の担当箇所の読解、授業中の課題 (50%程度)、最終テストまたはレポート (50%程度) により評価する。

【再試験】 評価が 50%以上の者のみ実施する。

【教科書】 Keith Sanger. *The Language of Drama* (Intertext). London: Routledge, 2001

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218991>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講 (前期)。平成 23 年度開講せず

文化批評論 (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、「研究の素材」となりうるもの自体について学ぶというよりは、「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書、論文を日本語または英語で講読し、研究テーマの設定方法や研究手法について学ぶことを目的とする。

【授業概要】 文芸、文化、文学などに関する批評理論を読む。今回は、前期に引き続き、Keith Sanger 著の *The Language of Drama* の後半部 (Unit 4-7) を読み、ドラマ (舞台劇, ラジオドラマ, TV ドラマ, 映画等) の台詞として使われる言語の特徴について分析する。

【キーワード】 ドラマ, 言語, 文学

【先行科目】 『文化批評論 (その 1)』(1.0, ⇒147 頁)

【関連科目】 『比較文化研究 (その 1)』(0.5, ⇒143 頁), 『比較文化研究 (その 2)』(0.5, ⇒144 頁), 『英米の社会と文化 I (その 1)』(0.5, ⇒149 頁), 『英米の社会と文化 I (その 2)』(0.5, ⇒149 頁)

【履修上の注意】 2005 年度より、隔年開講となる。2011 年は開講しない。

【到達目標】 講読した研究書や論文中で呈示されている研究手法や批評方法を十分に理解することを目標とする。

【授業計画】 1. Class Guidance (The following class plan is tentative, and could be changed.) 2. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 43-46) 3. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 47-50) 4. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 51-52); Unit 5 Storytelling (pp. 53-54) 5. Unit 5 Storytelling (pp. 55-58) 6. Unit 5 Storytelling (pp. 58-61) 7. Unit 5 Storytelling (pp. 61-64) 8. Unit 5 Storytelling (pp. 64-68) 9. Unit 6 The grammar of sound (pp. 69-72) 10. Unit 6 The grammar of sound (pp. 73-76) 11. Unit 6 The grammar of sound (pp. 77-80) 12. Unit 7 Book to film (pp. 81-84) 13. Unit 7 Book to film (pp. 84-87) 14. Unit 7 Book to film (pp. 88-89) 15. Final Test or Final Paper 16. Review

【成績評価】 授業への出席状況、各自の担当箇所の読解、授業中の課題 (50%程度)、最終テストまたはレポート (50%程度) により評価する。

【再試験】 評価が 50%以上の者のみ実施する。

【教科書】 Keith Sanger. *The Language of Drama* (Intertext). London: Routledge, 2001

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218992>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講 (後期)。平成 23 年度開講せず

日本語教育方法論 I

2 単位 2 年 (前期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 日本語教育に限らず、広く教育の方法について理解し、これからの教育活動の基礎を習得する。

【授業概要】 日本語教育の前提となる、教育及び学習に焦点をあて、私たちが受けてきた教育活動を振り返り、これからの教育-学習活動を再構築し実践していく方法を体得する。 [継]

【キーワード】 生涯学習, 自律学習, 心とからだのコミュニケーション, 意識と無意識, 教えると学ぶ

【関連科目】 『日本語教育演習 (その 2)』(0.5, ⇒148 頁)

【履修上の注意】 講義以外に集中講義形式で外部講師による「こころをからだの研修」を実施するこれも必ず受講すること。

【到達目標】

1. 日本語教育や日本語学習者の概観を知るとともに、言語はいかに習得されるか、学習者がどのようなものを求めているのかを理解できるようにする。
2. 自分を見つめ、また他者との関わりから教える・学ぶを考える。

【授業計画】 1. 自己紹介とガイダンス 2. 自分を知る 1 こころとからだ 3. 自分を知る 2 こころとからだ 4. 相手を知る 1 コミュニケーション 5. 相手を知る 2 コミュニケーション 6. 教える 1 ことば 7. 教える 2 知識 8. 学ぶ 1 ことば 9. 学ぶ 2 知識 10. 教えることと学ぶこと 体験学習とは 11. こころとからだのレッスン 1(集中講義) 12. こころとからだのレッスン 2(集中講義) 13. こころとからだのレッスン 3(集中講義) 14. こころとからだのレッスン 4(集中講義) 15. 自己成長と教育 16. まとめにかえて

【成績評価】 出席を重視します。毎回振り返りを記入または発言を記録し、評価とします。テストは行わない。

【再試験】無

【教科書】授業内で提示する。

【参考書】竹内敏晴「からだことばのレッスン」野口三千三体操 ニュー
カウンセリング

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219298>

【連絡先】

⇒ 大石 (088-656-9875, oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスア
ワー: 金曜日 9:30~12:00 但し事前の連絡があれば他の日時でも
対応します。)

【備考】平成 24 年度開講

日本語教育方法論 II

2 単位 2 年 (後期)
橋本智・准教授/国際センター

【授業目的】「外国語としての日本語」を認識・理解し、その教育方法に
ついて考察し、言語学習活動の基礎とする。

【授業概要】日本語教育とは、日本語を教えるということ、何をどう教え
るか、日本語教育に係る領域・環境について考察し、自分なりの日本
語教育方法を模索する

【キーワード】外国語としての日本語、何を教えるか、どう教えるか

【履修上の注意】隔年開講のため 2011 年には開講されない。

【到達目標】外国語としての日本語を認識・理解する、またその教育方法
論を学ぶ。

【授業計画】1. 本授業の概要・計画の説明 2. 「外国語としての日本語」
に必要なもの① 3. 「外国語としての日本語」に必要なもの② 4.
「外国語としての日本語」のコンテンツ①シラバス 5. 「外国語とし
ての日本語」のコンテンツ②シラバス以外のもの 6. 留学生に聞く
7. 何を教えるか① 8. 何を教えるか② 9. どう教えるか① 10. どう
教えるか② 11. 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運
営① 12. 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営② 13.
「外国語としての日本語」教育における教材・教具とは 14. 留学生
地域と「面白い日本語授業」考える 15. 「面白い日本語授業」のグ
ループ発表 16. 総括

【成績評価】グループ発表時の積極性、クラスに臨む姿勢、参加度を重
視。またレポートを課す。

【再試験】無

【教科書】適宜コピー教材を配付

【参考書】

- ◇ 「日本語教育の方法」田中望 大修館書店
- ◇ 「新しい日本語教育のために」J.V. ネウストブニー サイマル出版
- ◇ 「新・はじめての日本語教育 1・2」アスク出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218924>

【連絡先】

⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)

【備考】隔年開講、2011 年には開講されない。

日本語教授法 I

2 単位 2 年 (前期)
大石寧子・教授/国際センター

【授業目的】外国語教育としての日本語教育とは何かを追究する。その
中で、日本語を教えるための知識、方法及び技術を修得することを目
的とする。

【授業概要】日本語を教えるための方法を関わる者全ての視点から理解
する。

【キーワード】言語教育、学習ストラテジー、コースデザイン

【履修上の注意】課題解決型の講義のため、出席と授業態度を重視する。

【到達目標】日本語教師を目指す者として、様々な教授法や教育的な関わ
りを理解する。さらに教育を実施する側の学習者への働きかけについ
ても、実際に日本語を学ぶ人々を交えて検討する。

【授業計画】1. 日本語教育の歴史 2. 日本語教育の担うもの 3. 日本語
を学ぶ環境 異文化コミュニケーション 4. 様々な教授法① 5. 様々
な教授法② 6. 様々な教授法③ 7. 様々な教授法④ 8. 様々な教
授法⑤ 9. 様々な教授法⑥ 10. 様々な教授法⑦ 11. 評価の目的
12. 評価の方法 13. 授業見学① 14. 授業見学② 15. 日本語教育
とは 16. 総括授業 まとめ

【成績評価】出席及び毎回の講義内でのタスクさらに最終課題を評価する。

【再試験】無

【教科書】授業初日に指示

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219296>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.j
p) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

日本語教授法 II

2 単位 2 年 (後期)
橋本智・准教授/国際センター

【授業目的】留学生をはじめ外国人と接する時、日本語はコミュニケー
ション手段の基本となり、その日本語を支えているものは文法である。
この文法は国文法とは異なる視点で形成された外国人のための日本語
教育の文法である。テキストだけでなくとどまらず時には留学生もまじえ
生きた日本語の仕組みを体感する。

【授業概要】「外国人のための日本語」について文法を軸に仕組みを学ぶ。

【キーワード】外国人のための日本語、コミュニケーションの道具、運用

【到達目標】外国人のための日本語の仕組みを学び、日本語指導やコミュ
ニケーション時の基本とする。

【授業計画】1. ①本授業の進め方②各自の外国語習得について③日本語
教育とは 2. ①日本語教育のこれまで②外国人のための日本語 (以下
「日本語」とする)の特徴 (1)SOV 型・主語の省略・従属節 3. 「日本
語」の特徴 (2)複数・助数詞など 4. 音声・リズム 5. 文法①国文
法との違い②品詞③名詞文「～は～です」 6. ①動詞とは②その活
用③文型とは 7. その文型の機能とそれ支える各フォーム (1)て形
ない形、た形 8. その文型の機能とそれ支える各フォーム (2)辞書
形、可能形、意向形、命令・禁止形 9. その文型の機能とそれ支える
各フォーム (3)受身形、使役形、敬語 10. ①アスペクト②まとめ-留
学生と共に 11. ①形容詞とは②その活用③形容詞の機能 (1)印象・
感想、描写 12. ①形容詞の機能 (2)～たい・～ほしい 13. ①助
詞②接続詞③副詞の役割と機能 14. 表記①ひらがな・かたかな・漢
字について 15. 表記②導入-留学生と共に 16. 総括授業

【成績評価】課題への取り組み方、クラスでの姿勢、レポートなどによっ
て評価する。

【再試験】無

【教科書】授業初日に伝える

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219297>

【連絡先】

⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)

日本語教育演習 (その 1)

2 単位 3 年 (後期)
大石寧子・教授/国際センター

【授業目的】実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果
的な教授方法やクラス運営を学ぶ。

【授業概要】日本語教育の演習

【キーワード】演習、実習

【先行科目】『日本語教授法 I』(1.0, ⇒148 頁), 『日本語教授法 II』(1.0,
⇒148 頁), 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒147 頁), 『日本語教育方法論
II』(1.0, ⇒148 頁)

【履修上の注意】学生のレベルや人数などの状況により、授業内容や計画が
変更される場合があります。

【到達目標】今まで勉強してきた理論や教授法などを復習しながら、どの
ように日本語の授業を組み立てまた運営していくかを検討する。実際
に教室で日本語を教える経験を通して、日本語教師に必要な知識や経
験を得る。授業の前に練習を行い、授業後にクラスを振り返り、効果
的な授業やクラス運営について考える。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 教案の作成 (1) 3. 教案の作成 (2) 4.
実習計画 5. 日本語教育実習 (1) 6. 日本語教育実習 (2) 7. 日本
語教育実習 (3) 8. 日本語教育実習 (4) 9. 日本語教育実習 (5) 10.
日本語教育実習 (6) 11. 日本語教育実習 (7) 12. 日本語教育実習
(8) 13. 日本語教育実習 (9) 14. 日本語教育実習 (10) 15. 日本語
教育実習 (11) 16. 振り返り

【成績評価】本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作
成、実習の内容などを総合して行う。

【再試験】無

【教科書】授業中に適宜提示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218920>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.j
p) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

【備考】授業時間外の活動も多いため、適宜受講生と内容方法等を相談し
ながら進めます。

日本語教育演習 (その 2)

2 単位 4 年 (後期)
大石寧子・教授/国際センター

【授業目的】実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果
的な教授方法やクラス運営を学ぶ。様々な教材=リソースについても
確認する。

【授業概要】日本語教育の演習

【キーワード】 演習, 実習

【先行科目】 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒147 頁), 『日本語教育方法論 II』(1.0, ⇒148 頁), 『日本語教授法 I』(1.0, ⇒148 頁), 『日本語教授法 II』(1.0, ⇒148 頁)

【履修上の注意】 受講者は、日本語教育方法論及び日本語教授法、あるいは日本語教育関連の授業を既に受講し、単位を取得していることが望まれる。内容上多くの人数受け入れが不可能なこともある。受講前に必ず担当者と面談をすること。また授業時以外にも活動することを念頭に置いておくこと。

【到達目標】

1. ガイダンス
2. 教案の作成 (1)

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 教案の作成 (1) 3. 教案の作成 (2) 4. 実習計画 5. 日本語教育実習 (1) 6. 日本語教育実習 (2) 7. 日本語教育実習 (3) 8. 日本語教育実習 (4) 9. 日本語教育実習 (5) 10. 日本語教育実習 (6) 11. 日本語教育実習 (7) 12. 日本語教育実習 (8) 13. 日本語教育実習 (9) 14. 日本語教育実習 (10) 15. 日本語教育実習 (11) 16. 振り返り

【成績評価】 本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に指示する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218922>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30-12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

【備考】 授業時間外にも活動を行うため、受講生と適宜方法内容について相談します。

英米の社会と文化 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。前期(その 1)では、比較的平易な作品を取り上げる。

【キーワード】 *poetry in English, reading poems, introduction to English poetry*

【関連科目】 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『文化批評論 (その 1)』(0.5, ⇒147 頁), 『文化批評論 (その 2)』(0.5, ⇒147 頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年度は開講する。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮して、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び、毎回 3~5 編ずつ講読する予定です。学期中に 2 回のテストを行います。詳しい日程は最初の授業で指示します。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928) 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指定します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218385>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講(前期)。2011 年度は開講。

英米の社会と文化 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。後期(その 2)では、前期(その 1)で取り上げたものより、難解な作品が中心となる。

【キーワード】 *introduction to English poetry, reading poems, poetry in English*

【先行科目】 『英米の社会と文化 I (その 1)』(1.0, ⇒149 頁)

【関連科目】 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『文化批評論 (その 1)』(0.5, ⇒147 頁), 『文化批評論 (その 2)』(0.5, ⇒147 頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年は開講。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮し、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品を読む予定です。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928), 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指示します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218386>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講(後期)。2011 年度開講。

異文化間コミュニケーション (その 1)

2 単位
2 年 (前期, 集中)

Cross-cultural Communications

坂田 浩・助教/国際センター

【授業目的】 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生して行くことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1) 受講者自身が自らの文化に気づき、(2) 多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行くための具体的な方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。

【授業概要】 異文化トレーニング

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【授業計画】 1. 具体的な内容・計画は以下の通り。 2. (1)「自文化を気づくトレーニング」 3. (2)「Perception/Programming」のエクササイズ 4. (3)「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 5. (4)「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 6. (5)「価値観の多様性に関するエクササイズ」 7. (6)「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 8. (7)「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 9. (8)「Organizational/Individual Challenges」 10.

(9)「多文化で共生できる人とは?DMIS」 11. (10)「多文化で共生する為のヒント: DIE」 12. (11)「多文化で共生する為のヒント: Action Planning」 13. (12)「Action Planning: 大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」 14. など

【成績評価】評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。

【再試験】行わない。

【教科書】なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218359>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:各集中講義時間終了後)

異文化間コミュニケーション (その 2)

2 単位

2 年 (後期, 集中)

坂田 浩・准教授/国際センター

【授業目的】本授業では、前期の集中講義を基に授業を展開するが、概要としては、(1)異文化間コミュニケーションに必要とされる技術(スキル)と態度を養う、(2)自己のあり方を振り返り、今後の自分について考える、(3)外国語に対する認識と態度を再考する、という内容を中心に授業を展開していく予定である。

【授業概要】目的を参照

【先行科目】『異文化間コミュニケーション (その 1)』(1.0, ⇒149 頁)

【履修上の注意】具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【到達目標】

1. 文化的な「違い」に対する認識と態度について再考出来るようになる
2. 自己を振り返り、望ましい自分について具体的なイメージを形成できる
3. 具体的な理想のイメージに向かっていく為に必要なコミュニケーション能力を獲得する
4. 自分とは異なる人達と有効な人間関係を構築することが出来る

【授業計画】1. オリエンテーション 2. マインドマップを使って自分の価値観を探りましょう! 3. 価値観を達成する為のヒントとリソースを考えましょう! 4. コミュニケーションエクササイズ (1): 承認とフィードバック 5. コミュニケーションエクササイズ (2): 質問・質問 (1) 6. コミュニケーションエクササイズ (3): 質問・質問 (2) 7. コミュニケーションエクササイズ (4): 自己開示 (1) 8. コミュニケーションエクササイズ (5): 自己開示 (2) 9. コミュニケーションエクササイズ (6): 傾聴 (1) 10. コミュニケーションエクササイズ (7): 傾聴 (2) 11. コミュニケーションエクササイズ (8): リーダーシップとチームワーク (1) 12. コミュニケーションエクササイズ (9): リーダーシップとチームワーク (2) 13. 今年の誓いとミッション・ステートメント 14. 人間関係・異文化とコミュニケーション 15. 予備日

【成績評価】評価は、基本的には出席・レポート・発表内容を基に行う。

【再試験】行わない。

【教科書】なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219389>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜 12:00-12:50)

【備考】定員: 30 名まで *30 名以上の場合には、総合科学部生 (欧米言語コース 2・3 年生, 国際文化コース 2・3 年生) を優先し、残りに関しては抽選を行います。

言語情報処理研究 (その 1)

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何かを理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダ等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. Perl 言語概要 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】「独習 Perl 第 2 版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218564>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

言語情報処理研究 (その 2)

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何かを理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダ等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】「独習 Perl 第 2 版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218565>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その 3)

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何かを理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダ等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】1. Perl 言語概説 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】「独習 Perl 第 2 版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218566>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その 4)

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何かを理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダ等), Unix コマンド, プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】Perl, コーパス言語学

【履修上の注意】基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的技能を身につける。

【授業計画】 1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218567>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

比較文化演習 (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218950>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

比較文化演習 (その 2)

2 単位 3 年 (後期)
スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218951>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

ドイツの社会と文化 (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会的な想像力を身につける事。ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、外国人排斥思想、移民受け入れ理論、グローバル化、高齢化問題、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】 1. 社会学入門:社会学とは何か。 2. ライフスタイル、文化社会学: Pierre Bourdieu 3. Bourdieu 理論のキーワード:資本, ハビトウス, 階級, ディステンクシオン等 4. エリートを生む学歴社会学: ドイツとフランスの教育制度 5. Gerhard Schulze: 現代ドイツ社会の分析, その理論と研究デザイン 6. 日常生活の社会学:ドイツの主な五つの生活様式 7. ドイツ社会のライフスタイルグループの具体的な描写 8. ドイツの主流社会から排除されているグループ 9. 移民社会としてのドイツ:外国人受け入れの歴史と現状 10. 排斥主義と国家主義とネオナチ問題 11. 外国人受け入れ理論 1. 同化論, 統合論, 多様な文化論, 超文化論 12. 若者文化 1. 1960 年代から現代までのそれぞれの若い世代の特徴 13. 若者文化 2. 現代ドイツで族化している若者の分類 14. 若者文化 3. 若者の代表的な「族」の紹介 15. 纏めと質疑応答 16. Ulrich Beck: ドイツとグローバル化をめぐって

【成績評価】 出席, レポート, 発表, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書, 教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218906>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:15h-17:30h (総合科学部 1 号館 1階 N06))

【備考】 授業は日本語で行われます。

ドイツの社会と文化 (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会的な想像力を身につける事。ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、移民社会、高齢化問題、(生と死の) 哲学、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】 1. ドイツとオーストリーの相違と特徴 2. オーストリーの歴史, ケルト人, ローマ時代から十九世紀まで 3. 20, 21 世紀のオーストリー:政治, 経済, 社会, 文化 4. オーストリーと EU における移民政策 5. EU の統合と組織犯罪の在り方 6. 世俗化したドイツ, オーストリーにおける宗教 7. 若い世代と宗教:精神世界, ニューエイジ思想, 折衷主義 8. ドイツ社会と東洋思想:インド哲学, 仏教, 禅との出会い 9. bodycult と bodyart/body modification: 身体変更/改造, リストカット症候群, 体の社会学 10. 高齢社会, その問題と課題 11. 西洋哲学での生と死の見方 12. 安楽死をめぐって 13. ホスピス, その歴史と理念 14. 緩和ケア, 特にスピリチュアルケアについて 15. 纏めと質疑応答 16. 「ソフィの世界」ドイツ語圏での哲学ブーム

【成績評価】 出席, レポート, 発表, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書, 教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218907>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】授業は日本語で行われます。

ヨーロッパ歴史・社会論 I

2 単位 2 年 (前期)
佐久間亮・教授/人間文化学科

【授業目的】イギリスの近代史を、いわゆるグローバル・ヒストリの中に位置づけて論じる。イギリスの歴史は、一時期を除いて第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで、帝国の歴史である。この過程は、現代のグローバル化社会の出発点ともいえ、現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている。イギリス国内のことがらを理解する上でも、このような観点は欠かせない。たとえば、イングランド人、スコットランド人、ウェールズ人がそれぞれの文化的差異を含みながらも、イギリス人というアイデンティティ (ブリティッシュネス) へと統合されてきたのは、帝国の存在があったためである。

【授業概要】グローバル・ヒストリとイギリス近代史

【キーワード】ナショナルアイデンティティ, 文化統合, 大英帝国

【関連科目】『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒153 頁), 『ヨーロッパ史特論 I』(1.0, ⇒154 頁), 『アジア史研究 III』(0.9, ⇒8 頁)

【履修上の注意】視覚的印象は、テーマを理解する上で欠かせない要素である。授業中にもしばしばビデオを利用するが、以下に参考となる映画 (ビデオ化され入手しやすいもの) をあげておく。予め観ておくことが望ましい。授業中にも言及されるだろう。『エリザベス』Elizabeth(1998), 『恋に落ちたシェイクスピア』Shakespeare in Love(1998), 『マイ・フェア・レディ』My Fair Lady(1964), 『オスカー・ワイルド』Wilde(1997), 『インドへの道』A Passage To India(1984), 『遠い夜明け』Cry Freedom(1987), 『日の名残り』The Remains of the Day(1993)。

【到達目標】

1. イギリス社会の歴史的形成的プロセスと理解すること
2. 歴史的パースペクティブから現代の事象を理解する重要性を体感すること

【授業計画】1. 現在のイギリスを理解するために 2. イギリス宗教改革のインパクト 3. 帝国化への転換点としての 16 世紀 4. 「ピューリタン革命」論の再検討 5. 共和制という名の恐怖政治 6. 名誉革命とアイルランドの運命 7. 戦争と財政軍事国家イギリスの誕生 8. アメリカ独立の衝撃 9. ジェントルマン社会と「国民」統合 10. 帝国とスコットランド人 11. 「男らしさ」と戦争 12. フットボールの世界化 13. アイドル・ウーマンと帝国へ渡る女性たち 14. ジェントルマン資本主義とインドへの道 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は使用せず、授業中に配布するプリントを中心に講義をすすめる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219084>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

ヨーロッパ歴史・社会論 II

2 単位 2 年 (前期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業概要】フランス近現代史の諸問題

【キーワード】史学

【先行科目】『ヨーロッパ社会研究 II』(1.0, ⇒153 頁)

【履修上の注意】フランス語の知識は不要です。

【到達目標】フランス近現代史の基本的な問題をいくつか取り上げ、史料に基づきつつ検討する。

【授業計画】1. 民主政 2. ネイション 3. 宗教とライシテ 4. 歴史と記憶

【成績評価】平常点 (授業への取り組みなど) と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する。

【再試験】なし

【教科書】教材は、プリントのかたちで配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219085>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】この授業は隔年開講であり、平成 24 年度開講

ヨーロッパ歴史・社会論 III

2 単位 2 年 (前期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】本科目は、西洋近現代史あるいはドイツ史の総花式の叙述を目的とするものではない。歴史の流れを時代順にマクロ的に辿りながらではあるが、主眼はあくまでも下記「概要」に挙げた諸問題の考察に置かれる。特に 20 世紀前半のドイツ史は今日、異文化間の接触や交流のあり方を考える際、一つの巨大な反面教師の役割を果たすであろう。また、「国民国家」や人種主義の問題性は、今日なお決して無視できない重みをもつと思われる。

【授業概要】「国民国家」とナショナリズム、帝国主義、人種主義などの問題性の考察—19 世紀後半～第二次世界大戦期のドイツ史を中心に

【キーワード】国民国家, ナショナリズム, 帝国主義, 人種主義

【関連科目】『ヨーロッパ社会研究 III』(0.5, ⇒153 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(0.5, ⇒152 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(0.5, ⇒152 頁)

【履修上の注意】ドイツ史を含む西洋近現代史に関心のある人ならば、誰でも歓迎される。ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】西洋近現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的なパースペクティブをもって多面的に捉えられること。そして、自分が学習したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。

【授業計画】1. 最初の数回は、特に 19 世紀-20 世紀前半の西洋史を理解する上で重要だと思われる分析視角の中から「国民国家」の創出あるいは「国民」形成の問題をとりあげ、話題をドイツ史に限定せずにヨーロッパ近代史の特徴の一つを浮き彫りにすることを試みる。2. 続いて、国家と社会との関係、「国民国家」ないし「民族共同体」と「異分子」との関係の軸に、「マイノリティ」=疎外、差別、迫害される人々の状況に目配りしつつ、ドイツ史を中心に 19 世紀末葉から第一次世界大戦期 (1914-18 年)、ワイマル共和制期 (1919-33 年) を経て、ナチス支配の時代 (1933-45 年) までを視野に入れ、特に総力戦体制の構築とナショナリズムの急進化、ワイマル共和国の崩壊=ナチス台頭の背景、優生思想・人種主義とナチズム、ナチ体制にとって「有害無益」な存在 (浮浪者、売春婦、同性愛者、「障害者」、シンティ・ロマ、ユダヤ人等々) の排除・抹殺、といった問題をとりあげて論じたい。また、以上のような問題の分析・叙述を通して、「国民国家」とナショナリズム、優生思想と人種主義などの問題をとりあげることの今日的意味についても考えてみたい。3. 時おり映像資料も使用する。4. より詳しいことは、開講時に説明する。

【成績評価】主として期末レポートによるが、授業への参加状況も参考にする。

【再試験】場合によっては行う (レポート再提出)。

【教科書】特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219027>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】隔年開講 (2011 年度前期開講)

アメリカ歴史・社会論

2 単位 2 年 (前期)
吉岡 宏祐・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究所
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】アメリカ・インディアン史の歴史と現実を、先住民の権利という視点から分析する。

【授業概要】現在アメリカのインディアン問題の実情を具体的に分析し、その歴史にさかのぼって由来を考える。

【キーワード】アメリカ, 先住民, インディアン

【履修上の注意】聞きっぱなしにならないように、毎回小レポートを書いてもらいます。その際、自分の考えをはっきりと書いて下さい。

【到達目標】

1. アメリカに先住民がいて、独自の歴史を持っていたことを知り、
2. 今日のアメリカと先住民の関係についての認識を深めること。

【授業計画】1. インディアン問題について 2. 保留地の苦悩—絶望と貧困— 3. 権利の回復—先住民族条約の履行— 4. インディアン・カジノ—伝統とギャンブルの相克— 5. インディアンの原文化—自然と文化の融合— 6. 白人との遭遇—ポカホンタス伝説の解剖— 7. 清掃政策への転換—先住民排斥の論理— 8. 独立革命とインディアン—「外国」としてのインディアン— 9. フロンティア理論とインディアン—アメリカ自由原理の暴走— 10. チェロキー共和国と強制移住—文明化したインディアンの悲劇— 11. 西部開拓とインディアン戦争—侵略の西部史— 12. 同化政策とインディアン学校—部族の解体と文化の破壊— 13. ニューディール政策とインディアン—多文化主義の実験— 14. 終結政策—インディアン保護責任の放棄— 15. レッドパワー—闘うインディアンの復活—

【成績評価】毎回の小レポートの成績と講義への受講姿勢を評価する。

【再試験】行わない

【教科書】ありません。

【参考書】富田虎男『アメリカ・インディアンの歴史』(雄山閣)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219051>

【連絡先】

⇒ 吉岡 .
⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

ヨーロッパ社会研究 I

2 単位 2 年 (後期)
佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】 18, 9 世紀のイギリスの歴史を, 社会的なパースペクティブとグローバルヒストリの観点から論じる。イギリスの歴史は, 第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで, 帝国の歴史である。この過程は, 現代のグローバル化社会の出発点ともいえ, 現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている。この帝国形成のプロセスは国内の様々な社会現象と密接に結びついていて, それぞれの目盛りなしには, この国の近代史は理解不能なのである。

【授業概要】 近現代イギリス史, イギリス帝国史

【キーワード】 ナショナル・アイデンティティ, グローバル・ヒストリ, 社会史

【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒152 頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ社会研究 II』(1.0, ⇒153 頁), 『ヨーロッパ社会研究 III』(1.0, ⇒153 頁)

【履修上の注意】 2011 年度開講

【到達目標】

1. イギリス社会と文化の歴史的なりたち, 多様性, 流動性を理解すること
2. 歴史的パースペクティブから現代の事象を理解する重要性を体感すること

【授業計画】 1. 名誉革命体制とアイルランドの運命 2. 戦争と「財政軍事国家」イギリスの誕生 3. 社会的犯罪とはなにか 4. ジャコバイトと国民化 5. アメリカ独立戦争の衝撃 6. 「自由な帝国」と奴隷解放 7. ジェントルマン社会と「国民」統合 8. 成り上がりものたちのイギリス史 9. 帝国とスコットランド人 10. 「男らしさ」・戦争・フットボール 11. アイドルウーマンと帝国へ渡る女性たち 12. ロンドン・シティとジェントルマンの共棲 13. インドへの道 14. アイルランド問題の爪あと 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は使用せず, 授業中に配布するプリントを中心に講義をすすめる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219086>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

【備考】 隔年開講。

ヨーロッパ社会研究 II

2 単位 2 年 (前期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 第 5 共和政の歴史をたどり直すことで, 現代フランスの政治的・社会的な特徴を概観する。

【授業概要】 第 5 共和政のフランス

【キーワード】 史学

【関連科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(1.0, ⇒152 頁)

【履修上の注意】 授業は演習形式でおこなう。文献講読や学生の報告も予定している。

【到達目標】 フランスの例を通じて, 現代とはどのような時代なのかを理解する。

【授業計画】 1. はじめに:フランスと共和政 2. 第 5 共和政の成立:オーグーメットの共和政 3. アルジェリア独立:歴史と記憶 4. 1968 年 5 月:習俗の革命 5. 1981 年 5 月:社会主義の実験 6. 2002 年 5 月:保革対抗の終焉 7. おわりに:ヨーロッパとフランス

【成績評価】 試験もしくはレポートの点数をもとに評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 谷川 稔・渡辺 和行編『近代フランスの歴史』ミネルヴァ書房, 2006 年。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219087>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】 隔年開講。平成 23 年度は開講する。

ヨーロッパ社会研究 III

2 単位 2 年 (後期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 第二次世界大戦後のドイツを中心に, 冷戦構造とその変容過程, 東欧革命とドイツ「再統一」(1989/90 年)の経過, それらのうちに表れた諸問題について理解すること。

【授業概要】 よく知られているように, ドイツは約 20 年前, 東独における民主化市民革命=社会主義体制の崩壊, さらにドイツ「再統一」(1989/90 年)という大変動を経験した。そして, その変動はその後のドイツ社会にも様々な影響を及ぼしてきた。本科目では, 1989/90 年の激動の背景・過程を跡付けるとともに, その後の「新生」ドイツが抱え込んだ問題の一端をとりあげ, 考察してみたい。

【キーワード】 「ベルリンの壁」, 民主化要求市民運動, 社会主義体制の崩壊, ドイツ「再統一」, 「心の壁」

【先行科目】 『社会変動研究』(0.5, ⇒155 頁), 『ドイツの社会と文化 (その 1)』(0.5, ⇒151 頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(0.5, ⇒152 頁), 『ヨーロッパ社会研究 II』(0.5, ⇒153 頁)

【履修上の注意】 本科目のテーマ・内容に興味のある人なら, 誰でも歓迎される。ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】 現代史上のいくつかの重要な事象や問題について, 歴史的なパースペクティブをもって多面的に捉えられること。そして, 自分が理解したことについて, 明快で論理的な文章によって表現できること。

【授業計画】 1. まず第二次世界大戦後のドイツ史の動向を, 1989/90 年の状況を理解するのに欠かせないポイントに絞って概観する。冷戦構造の中の東西両ドイツ=分断国家の状況, とりわけ東独社会主義体制の抱えていた諸問題及び両ドイツ間関係に重点が置かれる。2. 続いて, 大量の東独(民主共和国)市民の越境=西独(連邦共和国)への出国, 民主化を求める東独市民の運動の高揚, 同国の社会主義体制の崩壊からドイツ「再統一」へという歴史過程を, 東独市民の動向を中心に, 国際情勢(冷戦構造の変化, 東欧革命など)をも視野に入れながら, できるだけ多面的かつリアルに辿り直してみたい。3. また, その後の「統一」ドイツにおける諸問題の中から, 異なった体制の下で生きてきた旧東西ドイツ市民の間の「心の壁」=心理的・文化的距離のない摩擦の問題をとりあげて, 考察したい。4. 講義が中心だが, 授業時には地図, 年表, 写真, 映像など様々な資料をも配付あるいは使用したいと考えている。5. より詳しいことは, 開講時にお知らせする。

【成績評価】 主として期末のレポートによるが, 授業への参加状況も参考にする。

【再試験】 場合によっては行う(レポート再提出)。

【教科書】 特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】 毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219023>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:30-18:00)

【備考】 隔年開講(2012 年度後期開講)

アメリカ社会研究

2 単位 2 年 (後期)
西出 敬一・教授, 今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 アメリカ社会における人種問題の分析。

【授業概要】 アメリカの歴史における黒人の存在がもつ意味を歴史的にたどり, 現在のアメリカ社会における人種関係の問題点を, 具体的事例をもとに分析する。

【キーワード】 アメリカ 民主主義 人種差別

【履修上の注意】 講義の聞き流しに終わらないように, 毎回小レポートを書いてもらいます。講義の要約ではなく, 自分の考えををはっきりと書いて下さい。

【到達目標】

1. 1. アメリカの人種問題の現状を理解する。
2. 2. 民主主義と人種差別の関係を理解する。

【授業計画】 1. 日本人の黒人認識 2. アメリカ人種主義の起源 3. 旧南部社会と奴隷制 4. 奴隷制とレジスタンス 5. 人種分離社会 6. キング牧師と公民権運動の展開 7. マルコム X と黒人ナショナリズム 8. アメリカ人の人種偏見 9. 逆差別論争 10. 教育と人種差別 11. ネオ・ナチと人種主義 12. 黒人のアイデンティティ 13. 黒人と貧困 14. 黒人と犯罪 15. 黒人と政治 16. アメリカ社会と黒人

【成績評価】 毎回の小レポートの成績と授業に対する積極性を評価の基準にします。

【再試験】 再評価は行いません。

【教科書】 なし

【参考書】 川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』(名古屋大学出版会)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218357>

【連絡先】

⇒ 西出 .

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 隔年開講(今年度は開講しない)

ヨーロッパ史特論 I

2 単位 3 年 (後期)
佐久間 亮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 この講義は担当者が専門とする研究テーマについて論述し、大学における歴史研究とはどのようなものであるかを体感してもらうことを目的に開講されるものである。予定されているテーマは、近年歴史学でも取り上げられるようになってきた「環境史」である。イギリス人が自然の限界を深刻に認識しはじめた 19 世紀以降を中心に、自然保護運動の歴史を論じることとする。ただし、自然の限界に直面して、その結果として、保護思想が出現、敷衍され、それがさらに保護運動へつながっていくというような予定調和的な歴史の見方はここではしない。むしろ、保護主義とは一見無縁にみえる諸イデオロギー・運動の絡まりあいの中から、自然環境保護の現代的な運動が生まれてくる様子を、英領南アフリカを舞台として検討する。地球規模での自然・環境保護が重要な課題になっている現在、19 世紀の時点で地域・国家の規模を越えた環境保護に乗り出した英帝国の経験は、その背景にあるイデオロギーや目的が現代のそれとは大きく異なるとはいえ、充分検討に値するものである。前半の 5 回を背景説明のための講義にあて、残りに関連英文論文の輪読にあてる。

【授業概要】 イギリス帝国と自然環境保護の試み

【キーワード】 自然保護運動、イギリス帝国、野生動物保全、国立公園、文化衝突

【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒152 頁), 『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒153 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(1.0, ⇒152 頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ史特論 II』(1.0, ⇒154 頁), 『ヨーロッパ地域研究特論』(1.0, ⇒154 頁), 『比較文化研究 (その 1)』(0.9, ⇒143 頁)

【履修上の注意】 本講義は、偶数年に開講される。

【到達目標】

1. 現代の事象を理解する上で、歴史的パースペクティブの重要性を認識する
2. 英語の研究論文読解の基礎力を培う

【授業計画】 1. ジェントルマンと狩猟 (1) 2. ジェントルマンと狩猟 (2) 3. ジェントルマン支配の動揺とハンティング熱のグローバル化 4. ボーア人の南アフリカ 5. 南アフリカの野生動物の危機? 6. 英語論文輪読 (1) 7. 英語論文輪読 (2) 8. 英語論文輪読 (3) 9. 英語論文輪読 (4) 10. 英語論文輪読 (5) 11. 英語論文輪読 (6) 12. 英語論文輪読 (7) 13. 英語論文輪読 (8) 14. 英語論文輪読 (9) 15. 期末テスト 16. 総括授業

【成績評価】 期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は使用せず、前半 5 回は授業中に配布するプリントを中心に講義、残りは英語論文の輪読を中心にすすめる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219081>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

【備考】 平成 24 年度開講

ヨーロッパ史特論 II

2 単位 3 年 (後期)
長井 伸仁・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 19・20 世紀フランスの宗教と宗教的現象について考察する。

【授業概要】 宗教は、近代化が進むにつれて衰退・消滅に向かうわけでは必ずしもない。むしろ、その位置づけや変容をみることで、近代史をより深く理解することが可能になると考えられる。講義では、宗教を中心に据えてフランス近世・近代史をたどり直してみたい。

【キーワード】 史学

【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(1.0, ⇒152 頁)

【到達目標】 近現代フランスの政治・社会の基本的な特徴を理解すること

【授業計画】 1. 問題の所在 2. 宗教改革 3. 啓蒙思想 4. フランス革命と宗教 5. 19 世紀の諸体制と宗教 6. 政教分離 7. 宗教の変容

【成績評価】 平常点 (授業への取り組みなど) と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 【参考書】 谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史』ミネルヴァ書房、2006 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219082>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】 この授業は隔年開講であり、平成 24 年度開講

ヨーロッパ地域研究特論

2 単位 3 年 (後期)
今井 晋哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 この科目は、専門的歴史研究および史料の一端を紹介しながら、専門的に歴史の勉強を進めるとはどのようなことなのかを、特に「歴史・社会サブコース」に所属する受講者に体験してもらうための科目である。今年度は、「ヨーロッパ歴史・社会論」の講義でとりあげた対象のうち、「ナチスの人種主義政策」をテーマとして、それについて受講者とともに、より深く学習したいと考えている。

【授業概要】 ドイツ近現代史研究の一端の体験

【キーワード】 ナチズム、人種主義、優生学、反ユダヤ主義、ホロコースト

【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(0.5)

【関連科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(0.5, ⇒152 頁)

【履修上の注意】 本科目のテーマ・内容に興味のある人なら誰でも歓迎されるが、上記のような趣旨の科目なので、歴史研究や西洋近現代史に対する関心は薄く、単に単位取得を希望するという人々には不向きであろう。なお、ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】 授業でとりあげる事象の具体的様相を探り、テーマについて考察することを通じて、専門的な歴史研究の方法を理解すること。

【授業計画】 1. まず、とりあげるテーマにアプローチするための論点とその歴史的背景を理解するための講義を、数回にわたって行う。2. そのうえで、文献・史料の一部を受講者にも予め読んできてもらい、授業時にその要点について報告してもらう。さらに、内容を確認し、問題を理解するための質疑応答や討論を行う。3. 授業時には、可能な限り絵や地図、写真、映像など、様々な資料も提示し、授業でとりあげる事象について具体的に理解するための一助としたいと考えている。4. より詳しいことは、開講時に説明する。

【成績評価】 授業時に出される課題へのとりくみ方など、授業への参加の状況と期末レポートとによって評価する。

【再試験】 場合によっては行う (レポート再提出)。

【教科書】 特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】 毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219024>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】 隔年開講 (2011 年度後期開講)。

アメリカ史特論

2 単位 3 年 (後期)
西出 敬一・教授, 今井 晋哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 植民地時代から現代までのアメリカの歴史変遷のなかで女性の地位が変化していくプロセスを、資料の講読を通じて検討する。

【授業概要】 アメリカ民主主義の展開の先駆性と模範的な原理・思想が 17 世紀以来発展するが、先住民や黒人と女性についてはその適用が除外されたり、大幅に遅れたりする。その事情と歴史的背景について、理解してもらい、近代のフェミニズムがアメリカに展開することになるまでの経過を探ってゆく。

【キーワード】 アメリカ史、民主主義、フェミニズム

【履修上の注意】 特になし

【到達目標】 女性史を通じてアメリカ民主主義の矛盾を理解する..

【授業計画】 1. アメリカとフェミニズム 2. 植民地時代の女性 3. 独立革命の原理と女性 4. 奴隷制反対運動と女性運動 5. 南北戦争と女性 6. 新しい女性運動 7. 第一次大戦中の女性 8. 1920 年代と新女性の出現 9. ニューディールと女性の受難 10. 第二次大戦と「たくましい」女性像 11. 冷戦時代の保守回帰と女性 12. 現代フェミニズムの展開 13. ウーマンリブとラディカル・フェミニズム 14. アメリカ女性の現在 15. アメリカ女性運動の展望

【成績評価】 毎回の小レポート

【再試験】 行わない

【教科書】 特になし。

【参考書】 講義中に配付します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219048>

【連絡先】

⇒ 西出 () (オフィスアワー: 質問などは、講義の前後に教室で聞きます。)

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 隔年開講 (今年度後期開講)

アジア思想研究 I

2 単位 2 年 (前期)
有馬 卓也・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 アジア思想研究では、文学作品や思想書、或いは画像などを手がかりに、中国の思想・文化を様々なテーマから解明し理解していくことを主眼に於て講義を行っていく。そして、中国文化の基層に流れている様々なものを考えていきたい。今年度は中国思想・文学の巨大なテーマの一つである隠者論を考える。このテーマは人間が生き

ていく中で必ずと言っていいほど体験する疎外感と密接に関わる問題であり、それ故、数多くの議論がなされてきた。それらの争点を明らかにした上で、日本の幕末維新期の志士たちをモデルに考えていく。

【授業概要】 孤立した人間—中国的隠者論の展開

【キーワード】 隠者論, 志士, 幕末維新

【履修上の注意】 本講義を受講するためにあらかじめ準備しておくことはない。講義中の私語等は即刻退場を命じることがある。

【到達目標】 日本における漢学の流れを理解し、あわせて文化理解への基礎的能力を養う。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 隠者論が生まれた背景と隠者論の諸相 3. 長州藩高杉晋作の場合 4. 米沢藩雲井龍雄の場合 5. 薩摩藩西郷隆盛の場合 6. まとめ

【成績評価】 出席点と最終回に行う試験を総合的(おおむね5:5の予定)に判断して評価する。欠席をする場合、あらかじめ連絡を入れること。連絡があった場合の欠席と無断欠席とは評価が異なるので注意。詳細は第一回目の講義の時に連絡する。試験は持ち込み可とするが、知識を問うような問題は出さない。

【再試験】 行わない

【教科書】 毎回プリント(漢文)を配布するので特に教科書・参考書として指定するものはない。参考となる文献等については随時提示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219043>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

【備考】 隔年開講

アジア思想研究 II

2 単位 2 年 (前期)

有馬 卓也・教授/人間文化学科, 邵 迎建・教授/人間文化学科
田中 智行・准教授/人間文化学科

【授業目的】 アジア思想研究では、文学作品や思想書、或いは画像などを手がかりに、古代から近現代に至る中国の思想・文化を様々なテーマから解明し理解していくことを主眼に於て講義を行っていく。そして、中国文化の基層に流れている様々なものを考えていきたい。

【授業概要】 本講義は、中国の春秋戦国から唐代までを有馬が、唐・宋・明を田中が、清から近現代までを邵が担当する。そして、各時代の文化的特質を様々な事件や社会現象を通して、幅広く考えていく。

【キーワード】 中国思想, 中国文学, 中国文化

【履修上の注意】 本講義を受講するためにあらかじめ準備しておくことはない。講義中の私語等は即刻退場を命じることがある。

【到達目標】 中国文化の理解を通して、人間の普遍的な理解を試み得る目をもつ。

【授業計画】 1. ガイダンス・春秋戦国期の思想 2. 秦から前漢へ 3. 前漢武帝期 4. 前漢の終焉と後漢 5. 初期道教 6. 道教の隆盛 7. 魏晉南北朝の志怪小説 8. 唐代の伝奇小説 9. 唐宋の詩文 10. 宋詞と元曲 11. 明清の文学と出版文化 12. 国民国家と小説 13. 戦争期の映画と演劇 14. 中華人民共和国の人民文学 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 出席と期末テストによる。

【再試験】 行わない

【教科書】 授業中に適宜紹介していく

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219044>

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

【備考】 隔年開講, 平成 24 年度開講

理論経済学 I

2 単位 2 年 (前期)

立花 敬雄・教授/社会創生学科

【授業目的】 長期不況, 途上国の債務, 過疎過密, 事業再構築, 雇用, 福祉, 環境問題といった, 現代経済の諸問題を解決するためには, 資本主義経済の本質, 構造の理論的理解が不可欠である。十分な理論的解明のためには, 分析と総合, 帰納と演繹といった学問的方法を踏まえる必要がある。本講義では, 商品論, 価値論, 貨幣論, 剰余価値論, 等のそれぞれの内容と関連を概説することによって, 現代経済の諸問題の解決に資することとする。

【履修上の注意】 特になし。

【到達目標】 資本主義経済を分析, 総合する理論経済学の知識を習得し, 応用能力を養う。

【授業計画】 1. 1. 経済学の方法と体系 2. 2. 商品と商品形態 3. 3. 使用価値と価値 4. 4. 交換過程 5. 5. 価値形態と貨幣 6. 6. 貨幣と資本 7. 7. 労働過程と価値増殖過程 8. 8. 可変資本と剰余価値率 9. 9. 労働日と絶対的剰余価値 10. 10. 相対的剰余価値の生産

【成績評価】 論述形式のテスト, 受講態度などにより, 評価を行う。

【再試験】 実施する

【教科書】 資料, 参考書は講義中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219353>

【連絡先】

⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 随時)

理論経済学 II

2 単位 2 年 (後期)

立花 敬雄・教授/社会創生学科

【授業目的】 長期不況, 途上国の債務, 過疎過密, 事業再構築, 雇用, 福祉, 環境問題といった, 現代経済の諸問題を解決するためには, 資本主義経済の本質, 構造の理論的理解が不可欠である。十分な理論的解明のためには, 分析と総合, 帰納と演繹といった学問的方法を踏まえる必要がある。本講義では, 剰余価値論, 賃金論, 蓄積論, 表式論, 価格論, 利子論, 等のそれぞれの内容と関連を概説することによって, 現代経済の諸問題の解決に資することとする。

【履修上の注意】 特になし。

【到達目標】 資本主義的生産とその発展を分析, 総合する理論経済学の知識を習得し, 応用能力を養う。

【授業計画】 1. 1. 剰余価値の生産 2. 2. 生産方法と大工業 3. 3. 時間賃金と出来高賃金 4. 4. 賃金の国際的比較 5. 5. 単純再生産と拡大再生産 6. 6. 資本主義的蓄積の一般的法則 7. 7. 流通過程と再生産表式 8. 8. 価格と利潤率 9. 9. 商業利潤と利子 10. 10. 差額地代と絶対地代

【成績評価】 論述形式のテスト, 受講態度などにより, 評価を行う。

【再試験】 実施する。

【教科書】 資料, 参考書は講義中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219354>

【連絡先】

⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 随時)

社会変動研究

2 単位 2 年 (前期)

樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】 数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが, 社会変動論の特徴である。本講義では, そのうち現代社会の特質を把握するためのさまざまな議論を, 個別領域毎に解説していききたい。今年度は, 今後わたしたちが生きていく 21 世紀の特質を, 過去との比較という観点からみていききたい。受講者には, 自分たちが現在生活している現代社会を自分なりに理解する機会としてほしい。理解を助けるための映画を 1 回鑑賞するほか, 受講生が過度に多くなければグループ・ディスカッションもしてもらおう。

【授業概要】 21 世紀はどういう社会なのか

【履修上の注意】 この講義では, 社会学の基本的な概念の解説も盛り込んでおり, 社会学入門的な性格も持たせてある。ただし, 知識そのものを覚えてもらうことは重視しない。社会的な思考法を学んでもらうこと, 現代社会の課題や問題を自分のこととしてとらえ, 自分なりの意見を持ってもらうことを重視する。そのため, 毎回課題について簡単なコメントを書いてもらい, 評価に加える。

【到達目標】 自分で選択したテーマについて, 文献を読んでデータを集め, レポートを書けるようになる(詳細は後述)。

【授業計画】 1. 1. イントロダクション 2. 2. 情報化とネットワーク社会の誕生 3. (1) 情報社会と都市の盛衰 4. (2) 情報技術と社会関係の変容 5. 3. 個人化する社会 6. (1) 個人化する家族—社会の個人化とは何か 7. (2) 新宗教と社会変動 8. 4. 身体をめぐる政治 9. (1) 身体は誰のものか?—中絶をめぐる政治 10. (2) 生殖技術と身体への介入 11. (3) 生殖技術に関わる映画鑑賞 12. (4) 生殖技術をめぐるグループ・ディスカッション 13. 5. リスク社会としての現代 14. (1) リスク社会の誕生 15. (2) リスクの何が問題なのか 16. 6. 福祉国家と労働市場の再編 17. (1) 誰が福祉を担うのか? 18. (2) 正社員からフリーターへ?

【成績評価】 成績評価はレポートと出席点による。6 月に提出してもらったレポートの原案にコメントをつけて返却する。受講者は, それをもとにレポートを完成させて 8 月に提出する。毎回提出してもらった小テストが 40 点, レポートの計画書が 10 点, レポートが 50 点という配分になる。評価基準やレポートのテーマ設定, 書式など詳しくは初回に説明するので, 必ず出席すること。

【再試験】 レポート計画書を提出している者に対して認める

【教科書】

- ◇ 毎回レジュメを配布する。関連する文献リストを初回に配布する。レポート作成にあたっては, 参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる。
- ◇ 参考書 落合恵美子『21 世紀家族へ』有斐閣
- ◇ 参考書 ウルリヒ・ベック『危険社会』法政大学出版局
- ◇ 長谷川公一他『社会学』有斐閣

総合科学部 (2011) > 人間社会学科 国際文化コース 哲学・思想サブコース

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219394>

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスア
ワー: (前期)水曜日 12時~13時)

【備考】平成24年度開講

人間社会学科 国際文化コース 歴史・社会サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

ヨーロッパ歴史・社会論 I ... 佐久間/2年(前期).....	157
ヨーロッパ歴史・社会論 II ... 長井/2年(前期).....	158
ヨーロッパ歴史・社会論 III ... 今井/2年(前期).....	158
アメリカ歴史・社会論 ... 吉岡・今井/2年(前期).....	158
ヨーロッパ社会研究 I ... 佐久間/2年(後期).....	158
ヨーロッパ社会研究 II ... 長井/2年(前期).....	159
ヨーロッパ社会研究 III ... 今井/2年(後期).....	159
アメリカ社会研究 ... 西出・今井/2年(後期).....	159
ヨーロッパ史特論 I ... 佐久間/3年(後期).....	159
ヨーロッパ史特論 II ... 長井/3年(後期).....	160
ヨーロッパ地域研究特論 ... 今井/3年(後期).....	160
アメリカ史特論 ... 西出・今井/3年(後期).....	160
比較文化研究(その1) ... 依岡/2年(前期).....	160
比較文化研究(その2) ... 依岡/2年(後期).....	161
文化情報研究(その1) ... 石田/3年(前期).....	161
文化情報研究(その2) ... 石田/3年(後期).....	161
言語情報プログラミング演習(その1) ... 石田/2年(前期).....	161
言語情報プログラミング演習(その2) ... 石田/2年(後期).....	161
言語情報プログラミング演習(その3) ... 石田/3年(前期).....	162
言語情報プログラミング演習(その4) ... 石田/3年(後期).....	162
アメリカ文化論(その1) ... 上野/2年(前期).....	162
アメリカ文化論(その2) ... 上野/2年(後期).....	162
ドイツ語圏文化論(その1) ... 桂/3年(前期).....	163
ドイツ語圏文化論(その2) ... 桂/3年(後期).....	163
フランス語圏文化論(その1) ... 田島/3年(前期).....	163
フランス語圏文化論(その2) ... 田島/3年(後期).....	163
文化批評論(その1) ... 吉田/2年(前期).....	164
文化批評論(その2) ... 吉田/2年(後期).....	164
日本語教育方法論 I ... 大石/2年(前期).....	164
日本語教育方法論 II ... 橋本/2年(後期).....	165
日本語教授法 I ... 大石/2年(前期).....	165
日本語教授法 II ... 橋本/2年(後期).....	165
日本語教育演習(その1) ... 大石/3年(前期).....	165
日本語教育演習(その2) ... 大石/4年(後期).....	165
英米の社会と文化 I(その1) ... 吉田/2年(前期).....	166
英米の社会と文化 I(その2) ... 吉田/2年(後期).....	166
異文化間コミュニケーション(その1) ... 坂田/2年(前期, 集中).....	166
異文化間コミュニケーション(その2) ... 坂田/2年(後期, 集中).....	167
言語情報処理研究(その1) ... 中島/3年(前期), 4年(前期).....	167
言語情報処理研究(その2) ... 中島/3年(後期), 4年(後期).....	167
言語情報処理研究(その3) ... 中島/3年(前期), 4年(前期).....	167
言語情報処理研究(その4) ... 中島/3年(後期), 4年(後期).....	167
比較文化演習(その1) ... スタージ/3年(前期).....	168
比較文化演習(その2) ... スタージ/3年(後期).....	168
ドイツの社会と文化(その1) ... ヘルベルト/2年(前期).....	168
ドイツの社会と文化(その2) ... ヘルベルト/2年(後期).....	168
社会思想研究 ... 石田・山口/2年(後期).....	169
比較思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(前期).....	169
ヨーロッパ思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(後期).....	169
社会的行為の理論 ... 堀田・榎田/2年(前期, 集中).....	170
哲学思想基本研究 I(その1) ... 山口/2年(前期).....	170

哲学思想基本研究 I(その2) ... 山口/2年(後期).....	170
哲学思想基本研究 I(その3) ... 山口/3年(前期).....	170
哲学思想基本研究 I(その4) ... 山口/3年(後期).....	171
哲学思想基本研究 II(その1) ... 石田/2年(前期).....	171
哲学思想基本研究 II(その2) ... 石田/2年(後期).....	171
哲学思想基本研究 II(その3) ... 石田/3年(前期).....	171
哲学思想基本研究 II(その4) ... 石田/3年(後期).....	172
哲学思想基本研究 III(その1) ... 吉田/2年(前期).....	172
哲学思想基本研究 III(その2) ... 吉田/2年(後期).....	172
哲学思想基本研究 III(その3) ... 吉田/3年(前期).....	172
哲学思想基本研究 III(その4) ... 吉田/3年(後期).....	172
哲学思想基本研究 IV(その1) ... 石田/2年(前期).....	173
哲学思想基本研究 IV(その2) ... 石田/2年(後期).....	173
哲学思想基本研究 IV(その3) ... 石田/3年(前期).....	173
哲学思想基本研究 IV(その4) ... 石田/3年(後期).....	173
アジア社会研究 I ... 荒武/2年(後期).....	174
アジア社会研究 II ... 荒武/2年(後期).....	174
アジア史研究 III ... 葭森/2年(後期).....	174
日本史研究 I ... 桑原/2年(前期), 3年(前期).....	174
文化人類学研究 I ... 高橋/2年(前期).....	174
民俗学研究 I ... 高橋/2年(後期).....	175
家族社会学研究 ... 榎田/2年(後期).....	175
社会変動研究 ... 樋口/2年(前期).....	175
地誌学 ... 平井/2年(前期).....	176
ジェンダー研究 ... 北村・平木/2年(後期), 3年(後期), 4年(後期).....	176
経済原論 I ... 眞弓/2年(前期, 集中).....	176
金融論 I ... 趙/3年(前期).....	176
国際関係論 I ... 饗場/3年(前期).....	176
国際関係論 II ... 饗場/3年(後期).....	177
世界経済論 I ... 水島/3年(前期).....	177
世界経済論 II ... 水島/3年(後期).....	177
社会心理学 ... 佐藤/2年(後期).....	178

ヨーロッパ歴史・社会論 I

2単位 2年(前期)
佐久間亮・教授/人間文化学科

【授業目的】イギリスの近代史を、いわゆるグローバル・ヒストリの中に位置づけて論じる。イギリスの歴史は、一時期を除いて第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで、帝国の歴史である。この過程は、現代のグローバル化社会の出発点ともいえ、現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている。イギリス国内のことがらを理解する上でも、このような観点は欠かせない。たとえば、イングランド人、スコットランド人、ウェールズ人がそれぞれの文化的差異を含みながらも、イギリス人というアイデンティティ(ブリティッシュネス)へと統合されてきたのは、帝国の存在があったためである。

【授業概要】グローバル・ヒストリとイギリス近代史

【キーワード】ナショナルアイデンティティ、文化統合、大英帝国

【関連科目】『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒158頁), 『ヨーロッパ史特論 I』(1.0, ⇒159頁), 『アジア史研究 III』(0.9, ⇒174頁)

【履修上の注意】視覚的印象は、テーマを理解する上で欠かせない要素である。授業中にもしばしばビデオを利用するが、以下に参考となる映画(ビデオ化され入手しやすいもの)をあけておく。予め観ておくことが望ましい。授業中にも言及されるだろう。『エリザベス』Elizabeth(1998), 『恋に落ちたシェイクスピア』Shakespeare in Love(1998), 『マイ・フェア・レディ』My Fair Lady(1964), 『オスカー・ワイルド』Wilde(1997), 『インドへの道』A Passage To India(1984), 『遠い夜明け』Cry Freedom(1987), 『日の名残り』The Remains of the Day(1993)。

【到達目標】

1. イギリス社会の歴史的形成的プロセスと理解すること
2. 歴史的パースペクティブから現代の事象を理解する重要性を体感すること

【授業計画】 1. 現在のイギリスを理解するために 2. イギリス宗教改革のインパクト 3. 帝国化への転換点としての16世紀 4. 「ピューリタン革命」論の再検討 5. 共和制という名の恐怖政治 6. 名誉革命とアイルランドの運命 7. 戦争と財政軍事国家イギリスの誕生 8. アメリカ独立の衝撃 9. ジェントルマン社会と「国民」統合 10. 帝国とスコットランド人 11. 「男らしさ」と戦争 12. フットボールの世界化 13. アイドル・ウーマンと帝国へ渡る女性たち 14. ジェントルマン資本主義とインドへの道 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は使用せず、授業中に配布するプリントを中心に講義をすすめる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219084>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

ヨーロッパ歴史・社会論 II

2 単位 2 年 (前期)

長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業概要】 フランス近現代史の諸問題

【キーワード】 史学

【先行科目】 『ヨーロッパ社会研究 II』(1.0, ⇒159 頁)

【履修上の注意】 フランス語の知識は不要です。

【到達目標】 フランス近現代史の基本的な問題をいくつか取り上げ、史料に基づきつつ検討する。

【授業計画】 1. 民主政 2. ネイション 3. 宗教とライシテ 4. 歴史と記憶

【成績評価】 平常点(授業への取り組みなど)と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 教材は、プリントのかたちで配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219085>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】 この授業は隔年開講であり、平成 24 年度開講

ヨーロッパ歴史・社会論 III

2 単位 2 年 (前期)

今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 本科目は、西洋近現代史あるいはドイツ史の総花式の叙述を目的とするものではない。歴史の流れを時代順にマクロ的に辿りながらではあるが、主眼はあくまでも下記「概要」に挙げた諸問題の考察に置かれる。特に 20 世紀前半のドイツ史は今日、異文化間の接触や交流のあり方を考える際、一つの巨大な反面教師の役割を果たすであろう。また、「国民国家」や人種主義の問題性は、今日なお決して無視できない重みをもつと思われる。

【授業概要】 「国民国家」とナショナリズム、帝国主義、人種主義などの問題性の考察—19 世紀後半～第二次世界大戦期のドイツ史を中心に

【キーワード】 国民国家, ナショナリズム, 帝国主義, 人種主義

【関連科目】 『ヨーロッパ社会研究 III』(0.5, ⇒159 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(0.5, ⇒157 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(0.5, ⇒158 頁)

【履修上の注意】 ドイツ史を含む西洋近現代史に関心のある人ならば、誰でも歓迎される。ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】 西洋近現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的なパースペクティブをもって多面的に捉えられること。そして、自分が学習したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。

【授業計画】 1. 最初の数回は、特に 19 世紀-20 世紀前半の西洋史を理解する上で重要だと思われる分析視角の中から「国民国家」の創出あるいは「国民」形成の問題をとりあげ、話題をドイツ史に限定せずにヨーロッパ近代史の特徴の一つを浮き彫りにすることを試みる。 2. 続いて、国家と社会との関係、「国民国家」ないし「民族共同体」と「異分子」との関係を中心に、「マイノリティ」=疎外、差別、迫害される人々の状況に目配りしつつ、ドイツ史を中心に 19 世紀末葉から第一次世界大戦期(1914-18 年)、ワイマル共和制期(1919-33 年)を経て、ナチス支配の時代(1933-45 年)までを視野に入れ、特に総力戦体制の構築とナショナリズムの急進化、ワイマル共和制の崩壊=ナチス台頭の背景、優生思想・人種主義とナチズム、ナチ体制にとって「有害無益」な存在(浮浪者、売春婦、同性愛者、「障害者」、シンティ・ロマ、ユダヤ人等々)の排除・抹殺、といった問題をとりあげて論じたい。また、以上のような問題の分析・叙述を通して、「国民国家」とナショナリズム、優生思想と人種主義などの問題をとりあげることの今日的意

味についても考えてみたい。 3. 時おり映像資料も使用する。 4. より詳しいことは、開講時に説明する。

【成績評価】 主として期末のレポートによるが、授業への参加状況も参考にする。

【再試験】 場合によっては行う(レポート再提出)。

【教科書】 特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】 毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219027>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】 隔年開講(2011 年度前期開講)

アメリカ歴史・社会論

2 単位 2 年 (前期)

吉岡 宏祐・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 アメリカ・インディアンの歴史と現実を、先住民の権利という視点から分析する。

【授業概要】 現在アメリカのインディアン問題の実情を具体的に分析し、その歴史にさかのぼって由来を考える。

【キーワード】 アメリカ, 先住民, インディアン

【履修上の注意】 聞きっぱなしにならないように、毎回小レポートを書いてもらいます。その際、自分の考えをはっきりと書いて下さい。

【到達目標】

1. アメリカに先住民がいて、独自の歴史を持っていたことを知り、
2. 今日のアメリカと先住民の関係についての認識を深めること。

【授業計画】 1. インディアン問題について 2. 保留地の苦悩—絶望と貧困— 3. 権利の回復—先住民条約の履行— 4. インディアン・カジノ—伝統とギャンブルの相克— 5. インディアンの原文化—自然と文化の融合— 6. 白人との遭遇—ポカホンタス伝説の解剖— 7. 清掃政策への転換—先住民排斥の論理— 8. 独立革命とインディアン—「外国」としてのインディアン— 9. フロンティア理論とインディアン—アメリカ自由原理の暴走— 10. チェロキー共和国と強制移住—文明化したインディアンの悲劇— 11. 西部開拓とインディアン戦争—侵略の西部史— 12. 同化政策とインディアン学校—部族の解体と文化の破壊— 13. ニューディール政策とインディアン—多文化主義の実験— 14. 終結政策—インディアン保護責任の放棄— 15. レッドパワー—闘うインディアンの復活—

【成績評価】 毎回の小レポートの成績と講義への受講姿勢を評価する。

【再試験】 行わない

【教科書】 ありません。

【参考書】 富田虎男『アメリカ・インディアンの歴史』(雄山閣)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219051>

【連絡先】

⇒ 吉岡

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

ヨーロッパ社会研究 I

2 単位 2 年 (後期)

佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】 18, 9 世紀のイギリスの歴史を、社会史的なパースペクティブとグローバルヒストリの観点を変えて論じる。イギリスの歴史は、第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで、帝国の歴史である。この過程は、現代のグローバル化社会の出発点ともいえ、現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている。この帝国形成のプロセスは国内の様々な社会現象と密接に結びついていて、それぞれの目配りなしには、この国の近代史は理解不能なのである。

【授業概要】 近現代イギリス史, イギリス帝国史

【キーワード】 ナショナル・アイデンティティ, グローバル・ヒストリ, 社会史

【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒157 頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ社会研究 II』(1.0, ⇒159 頁), 『ヨーロッパ社会研究 III』(1.0, ⇒159 頁)

【履修上の注意】 2011 年度開講

【到達目標】

1. イギリス社会と文化の歴史的なりたち、多様性、流動性を理解すること
2. 歴史的パースペクティブから現代の事象を理解する重要性を体感すること

【授業計画】 1. 名誉革命体制とアイルランドの運命 2. 戦争と「財政軍事国家」イギリスの誕生 3. 社会的犯罪とはなにか 4. ジャコバイトと国民化 5. アメリカ独立戦争の衝撃 6. 「自由な帝国」と奴隷解放 7. ジェントルマン社会と「国民」統合 8. 成り上がりものたちのイギリス史 9. 帝国とスコットランド人 10. 「男らしさ」・戦

争・フットボール 11. アイドルウーマンと帝国へ渡る女性たち 12. ロンドン・シティとジェントルマンの共棲 13. インドへの道 14. アイルランド問題の爪あと 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は使用せず、授業中に配布するプリントを中心に講義をすすめる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219086>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

【備考】 隔年開講。

ヨーロッパ社会研究 II

2 単位 2 年 (前期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 第 5 共和政の歴史をたどり直すことで、現代フランスの政治的・社会的な特徴を概観する。

【授業概要】 第 5 共和政のフランス

【キーワード】 史学

【関連科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(1.0, ⇒158 頁)

【履修上の注意】 授業は演習形式でおこなう。文献講読や学生の報告も予定している。

【到達目標】 フランスの例を通じて、現代とはどのような時代なのかを理解する。

【授業計画】 1. はじめに:フランスと共和政 2. 第 5 共和政の成立:オーダメドの共和政 3. アルジェリア独立:歴史と記憶 4. 1968 年 5 月:習俗の革命 5. 1981 年 5 月:社会主義の実験 6. 2002 年 5 月:保革対抗の終焉 7. おわりに:ヨーロッパとフランス

【成績評価】 試験もしくはレポートの点数をもとに評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』ミネルヴァ書房、2006 年。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219087>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】 隔年開講。平成 23 年度は開講する。

ヨーロッパ社会研究 III

2 単位 2 年 (後期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 第二次世界大戦後のドイツを中心に、冷戦構造とその変容過程、東欧革命とドイツ「再統一」(1989/90 年)の経過、それらのうちに表れた諸問題について理解すること。

【授業概要】 よく知られているように、ドイツは約 20 年前、東独における民主化市民革命=社会主義体制の崩壊、さらにはドイツ「再統一」(1989/90 年)という大変動を経験した。そして、その変動はその後のドイツ社会にも様々な影響を及ぼしてきた。本科目では、1989/90 年の激動の背景・過程を跡付けるとともに、その後の「新生」ドイツが抱え込んだ問題の一端をとりあげ、考察してみたい。

【キーワード】 「ベルリンの壁」、民主化要求市民運動、社会主義体制の崩壊、ドイツ「再統一」、「心の壁」

【先行科目】 『社会変動研究』(0.5, ⇒175 頁), 『ドイツの社会と文化 (その 1)』(0.5, ⇒168 頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(0.5, ⇒158 頁), 『ヨーロッパ社会研究 II』(0.5, ⇒159 頁)

【履修上の注意】 本科目のテーマ・内容に興味のある人なら、誰でも歓迎される。ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】 現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的なパースペクティブをもって多面的に捉えられること。そして、自分が理解したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。

【授業計画】 1. まず第二次世界大戦後のドイツ史の動向を、1989/90 年の状況を理解するのに欠かせないポイントに絞って概観する。冷戦構造の中の東西両ドイツ=分断国家の状況、とりわけ東独社会主義体制の抱えていた諸問題及び両ドイツ間関係に重点が置かれる。 2. 続いて、大量の東独(民主共和国)市民の越境=西独(連邦共和国)への出国、民主化を求める東独市民の運動の高揚、同国の社会主義体制の崩壊からドイツ「再統一」へという歴史過程を、東独市民の動向を中心に、国際情勢(冷戦構造の変化、東欧革命など)をも視野に入れながら、できるだけ多面的かつリアルに辿り直してみたい。 3. また、その後の「統一」ドイツにおける諸問題の中から、異なった体制の下で生きてきた旧東西ドイツ市民の間の「心の壁」=心理的・文化的距離のない摩擦の問題をとりあげて、考察したい。 4. 講義が中心だが、授業時には地図、年表、写真、映像など様々な資料をも配付あるいは使用したいと考えている。 5. より詳しいことは、開講時にお知らせする。

【成績評価】 主として期末のレポートによるが、授業への参加状況も参考にする。

【再試験】 場合によっては行う(レポート再提出)。

【教科書】 特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】 毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219023>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:30-18:00)

【備考】 隔年開講 (2012 年度後期開講)

アメリカ社会研究

2 単位 2 年 (後期)
西出 敬一・教授, 今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 アメリカ社会における人種問題の分析。

【授業概要】 アメリカの歴史における黒人の存在がもつ意味を歴史的にたどり、現在のアメリカ社会における人種関係の問題点を、具体的事例をもとに分析する。

【キーワード】 アメリカ 民主主義 人種差別

【履修上の注意】 講義の聞き流しに終わらないように、毎回小レポートを書いてもらいます。講義の要約ではなく、自分の考えををはっきりと書いて下さい。

【到達目標】

1. アメリカの人種問題の現状を理解する。
2. 民主主義と人種差別の関係を理解する。

【授業計画】 1. 日本人の黒人認識 2. アメリカ人種主義の起源 3. 旧南部社会と奴隷制 4. 奴隷制とレジスタンス 5. 人種分離社会 6. キング牧師と公民権運動の展開 7. マルコム X と黒人ナショナリズム 8. アメリカ人の人種偏見 9. 逆差別論争 10. 教育と人種差別 11. ネオ・ナチと人種主義 12. 黒人のアイデンティティ 13. 黒人と貧困 14. 黒人と犯罪 15. 黒人と政治 16. アメリカ社会と黒人

【成績評価】 毎回の小レポートの成績と授業に対する積極性を評価の基準にします。

【再試験】 再評価は行いません。

【教科書】 なし

【参考書】 川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』(名古屋大学出版会)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218357>

【連絡先】

⇒ 西出

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 隔年開講 (今年度は開講しない)

ヨーロッパ史特論 I

2 単位 3 年 (後期)
佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】 この講義は担当者が専門とする研究テーマについて論述し、大学における歴史研究とはどのようなものであるかを体感してもらうことを目的に開講されるものである。予定されているテーマは、近年歴史学でも取り上げられるようになってきた「環境史」である。イギリス人が自然の限界を深刻に認識しはじめた 19 世紀以降を中心に、自然保護運動の歴史を論じることとする。ただし、自然の限界に直面して、その結果として、保護思想が出現、敷衍され、それがさらに保護運動へつながっていくというような予定調和的な歴史の見方ではしない。むしろ、保護主義とは一見無縁にみえる諸イデオロギー・運動の絡まりあいの中から、自然環境保護の現代的な運動が生まれてくる様子を、英領南アフリカを舞台として検討する。地球規模での自然・環境保護が重要な課題になっている現在、19 世紀の時点で地域・国家の規模を越えた環境保護に乗り出した英帝国の経験は、その背景にあるイデオロギーや目的が現代のそれとは大きく異なるとはいえず、充分検討に値するものである。前半の 5 回を背景説明のための講義にあて、残りを関連英文論文の輪読にあてる。

【授業概要】 イギリス帝国と自然環境保護の試み

【キーワード】 自然保護運動、イギリス帝国、野生動物保全、国立公園、文化衝突

【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論 I』(1.0, ⇒157 頁), 『ヨーロッパ社会研究 I』(1.0, ⇒158 頁), 『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(1.0, ⇒158 頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ史特論 II』(1.0, ⇒160 頁), 『ヨーロッパ地域研究特論』(1.0, ⇒160 頁), 『比較文化研究 (その 1)』(0.9, ⇒160 頁)

【履修上の注意】 本講義は、偶数年に開講される。

【到達目標】

1. 現代の事象を理解する上で、歴史的パースペクティブの重要性を認識する
2. 英語の研究論文読解の基礎力を培う

【授業計画】1. ジェントルマンと狩猟 (1) 2. ジェントルマンと狩猟 (2) 3. ジェントルマン支配の動揺とハンティング熱のグローバル化 4. ボーア人の南アフリカ 5. 南アフリカの野生動物の危機? 6. 英語論文輪読 (1) 7. 英語論文輪読 (2) 8. 英語論文輪読 (3) 9. 英語論文輪読 (4) 10. 英語論文輪読 (5) 11. 英語論文輪読 (6) 12. 英語論文輪読 (7) 13. 英語論文輪読 (8) 14. 英語論文輪読 (9) 15. 期末テスト 16. 総括授業

【成績評価】期末試験の結果によって評価をおこなう。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は使用せず、前半5回は授業中に配布するプリントを中心に講義、残り11回は英語論文の輪読を中心にすすめる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219081>

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~13時)

【備考】平成24年度開講

ヨーロッパ史特論 II

2単位 3年(後期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】19・20世紀フランスの宗教と宗教的現象について考察する。
【授業概要】宗教は、近代化が進むにつれて衰退・消滅に向かうわけでは必ずしもない。むしろ、その位置づけや変容をみることで、近代史をより深く理解することが可能になると考えられる。講義では、宗教を中心に据えてフランス近世・近代史をたどり直してみたい。

【キーワード】史学

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(1.0, ⇒158頁)

【到達目標】近現代フランスの政治・社会の基本的な特徴を理解すること

【授業計画】1. 問題の所在 2. 宗教改革 3. 啓蒙思想 4. フランス革命と宗教 5. 19世紀の諸体制と宗教 6. 政教分離 7. 宗教の変容

【成績評価】平常点(授業への取り組みなど)と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する。

【再試験】なし

【教科書】【参考書】谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史』ミネルヴァ書房、2006年

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219082>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】この授業は隔年開講であり、平成24年度開講

ヨーロッパ地域研究特論

2単位 3年(後期)
今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】この科目は、専門的歴史研究および史料の一端を紹介しながら、専門的に歴史の勉強を進めるとはどのようなことなのかを、特に「歴史・社会サブコース」に所属する受講者に体験してもらうための科目である。今年度は、「ヨーロッパ歴史・社会論」の講義でとりあげた対象のうち、「ナチスの人種主義政策」をテーマとして、それについて受講者とともに、より深く学習したいと考えている。

【授業概要】ドイツ近現代史研究の一端の体験

【キーワード】ナチズム、人種主義、優生学、反ユダヤ主義、ホロコースト

【先行科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 III』(0.5)

【関連科目】『ヨーロッパ歴史・社会論 II』(0.5, ⇒158頁)

【履修上の注意】本科目のテーマ・内容に興味のある人なら誰でも歓迎されるが、上記のような趣旨の科目なので、歴史研究や西洋近現代史に対する関心は薄く、単に単位取得を希望するという人々には不向きであろう。なお、ドイツ語の知識は特に必要ではない。

【到達目標】授業でとりあげる事象の具体的な様相を探り、テーマについて考察することを通じて、専門的な歴史研究の方法を理解すること。

【授業計画】1. まず、とりあげるテーマにアプローチするための論点とその歴史的背景を理解するための講義を、教回にわたって行う。2. そのうえで、文献・史料の一部を受講者にも予め読んできてもらい、授業時にその要点について報告してもらう。さらに、内容を確認し、問題を理解するための質疑応答や討論を行う。3. 授業時には、可能な限り絵や地図、写真、映像など、様々な資料も提示し、授業でとりあげる事象について具体的に理解するための一助としたいと考えている。4. より詳しいことは、開講時に説明する。

【成績評価】授業時に出される課題へのとりくみ方など、授業への参加の状況と期末レポートとによって評価する。

【再試験】場合によっては行う(レポート再提出)。

【教科書】特定の教科書は用いない。教材や資料は授業時に配付する。

【参考書】毎回の授業時に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219024>

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】隔年開講(2011年度後期開講)。

アメリカ史特論

2単位 3年(後期)
西出 敬一・教授, 今井 晋哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】植民地時代から現代までのアメリカの歴史変遷のなかで女性の地位が変化していくプロセスを、資料の講読を通じて検討する。

【授業概要】アメリカ民主主義の展開の先駆性と規範的な原理・思想が17世紀以来発展するが、先住民や黒人と女性についてはその適用が除外されたり、大幅に遅れたりする。その事情と歴史的背景について、理解してもらい、近代のフェミニズムがアメリカに展開することになるまでの経過を探ってゆく。

【キーワード】アメリカ史, 民主主義, フェミニズム

【履修上の注意】特になし

【到達目標】女性史を通じてアメリカ民主主義の矛盾を理解する..

【授業計画】1. アメリカとフェミニズム 2. 植民地時代の女性 3. 独立革命の原理と女性 4. 奴隷制反対運動と女性運動 5. 南北戦争と女性 6. 新しい女性運動 7. 第一次大戦の中の女性 8. 1920年代と新女性の出現 9. ニューディールと女性の受難 10. 第二次大戦と「たくましい」女性像 11. 冷戦時代の保守回帰と女性 12. 現代フェミニズムの展開 13. ウーマンリブとラディカル・フェミニズム 14. アメリカ女性の現在 15. アメリカ女性運動の展望

【成績評価】毎回の小レポート

【再試験】行わない

【教科書】特になし。

【参考書】講義中に配付します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219048>

【連絡先】

⇒ 西出 . (オフィスアワー: 質問などは、講義の前後に教室で聞きます。)

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】隔年開講(今年度後期開講)

比較文化研究(その1)

2単位 2年(前期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間に思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究, 異文化理解, マイノリティの立場の理解, 近代化の問題

【キーワード】比較文化, 異文化理解, マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究(その2)』(1.0, ⇒161頁)

【関連科目】『比較文化研究(その2)』(0.5, ⇒161頁), 『ドイツの社会と文化(その1)』(0.5, ⇒168頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】前期は、課題発想的な比較文化研究の概念を検討し、授業の導入とする。「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題点を概観する。映画やドキュメンタリー・ビデオ、新聞記事なども適宜利用して、従来の学問区分に必ずしもとらわれない学際的・総合的な研究方法を示していく。具体的には、外国人・移民問題、文化的に見た民族問題、メルヘンと国民文化の問題、映像メディアによるホロコーストの表現の比較、「近代」に対する文化的批判、多文化社会の可能性といったテーマを考えている。文化研究の仕方として最近の「カルチュラル・スタディーズ」の成果なども紹介する。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫編『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エイカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店、E. W. サイド『オリエンタリズム』平凡社。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219308>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

比較文化研究 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】 異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間の思いがけない結びつきや差異を発見していく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】 比較文化研究, 異文化理解, マイノリティの立場の理解, 近代化の問題

【キーワード】 比較文化, 異文化理解, マルチカルチャー

【先行科目】 『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒160 頁)

【関連科目】 『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒168 頁)

【履修上の注意】 受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養って貰いたい。

【到達目標】 比較文化研究についての理解とその方法の習得、多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】 後期は、日本国内外の代表的な日本文化論を概観し、それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する。文化間の影響関係として、具体的には、日本の西洋モダニズム受容や、海外におけるジャポニズムから最近のマンガ・アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる。また、日本文化論に内在するナショナリズムやイデオロギー性を批判的に考察する。日本文化の雑種性への感受性を大切にし、既存の日本文化のイメージにとらわれない、新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく。地域文化 (徳島) と国際性といったテーマも取り上げる予定。

【成績評価】 出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】 有

【教科書】

- ◇ 教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店、
- ◇ 依岡隆児『読書のススメ～ 四国から、グローカルに～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218953>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

文化情報研究 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 WEB アプリケーション入門

【授業概要】 WEB アプリケーション入門

【キーワード】 Web プログラミング, プログラミング

【関連科目】 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(0.5, ⇒161 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その4)』(0.5, ⇒162 頁)

【履修上の注意】 コンピュータについて十分な知識と技術があること

【到達目標】 WEB を理解する

【授業計画】 1. Web サーバーについて 2. html 言語について 3. 実習 1 Web ページの作成 4. Script とは何か 5. Script 言語の基礎 6. データベースの基礎とネットを介したアクセス方法 7. 実習 2 インタラクティブな Web サイトの構築 8. Flash とは何か 9. Flash 作成方法 10. Web デザインを総合的に考える 11. Web サイトのインターフェイスデザイン 12. Web サイトのナビゲーション方法 13. 実習 3 個人 Web サイトの構築 14. 総評 1 各自の Web サイトの講評 15. 総評 2 各自の Web サイトの講評 16. まとめ 1 17. まとめ 2

【成績評価】 成績そのものは試験によって判定する。ただし出欠も重視する。欠席が続けば、そもそもその後の内容が全く分らなくなります。

【再試験】 未定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218989>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日, 水曜日, 木曜日の12時00分から13時00分のあいだ)

文化情報研究 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 情報科学の技術を活用したデザインとプロジェクトを企画実行する

【授業概要】 情報科学技術を主体的に応用した企画立案を共同でおこなう。学期最初に計画をデザインし、そのデザインの実現のための工程を作成する。以降は、その工程にしたがって作業する。

【キーワード】 Web プログラミング, プログラミング

【先行科目】 『文化情報研究 (その1)』(1.0, ⇒161 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(1.0, ⇒161 頁)

【関連科目】 『言語情報プログラミング演習 (その2)』(0.5, ⇒161 頁), 『言語情報プログラミング演習 (その4)』(0.5, ⇒162 頁)

【履修上の注意】 授業時間はもちろんのこと、時間外でも相応の時間を割けること

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 自身の情報技術と知識を披露するプレゼン (一人 20 分) 3. 前回プレゼンの反省 4. 情報デザインの提案とプレゼン (一人 20 分) 5. 企画書の作成とプレゼン 6. プロジェクト進行具合報告 1 (一人 10 分) 7. プロジェクト進行具合報告 2 (一人 10 分) 8. プロジェクト進行具合報告 3 (一人 10 分) 9. プロジェクト進行具合報告 4 (一人 10 分) 10. プロジェクト進行具合報告 5 (一人 10 分) 11. プロジェクトの完成前プレゼン (10 分) 12. プロジェクトのプレゼン (30 分) 13. プロジェクトの総括 (15 分) 14. プロジェクトの発展可能性についてプレゼン (10 分) 15. 個人の総括 (30 分) 16. 全体総括

【成績評価】 課題の評価 (25 点 ×3), 出席点 25 点の 100 点満点で評価する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218990>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その1)

2 単位 2 年 (前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 コンピュータの働きとプログラミングについて学ぶ

【授業概要】 プログラミング入門。

【キーワード】 テキスト処理, プログラミング

【先行科目】 『文化情報研究 (その1)』(1.0, ⇒161 頁), 『文化情報研究 (その2)』(1.0, ⇒161 頁)

【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なお、受講者が少数の場合、Mac OS X を使う可能性があります。

【到達目標】 プログラミング言語に関する知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション, コンピュータでできること 2. プログラミングとは何をするのか 3. プログラミング言語のいろいろ 4. 最初のトライアル 5. プログラミングすることとはデザインなり 6. それには基礎的な知識の習得は不可欠, 基礎練習その1 7. 基礎練習その2 8. 基礎練習その3 9. 基礎練習その4 10. コンピュータで人間の言語を扱う 11. 基礎練習その5 12. 基礎練習その6 13. 応用編その1, しごとの流れを考える 14. 応用編その2, まねをするのも悪くない 15. 応用編その3, やや高度なプログラムに挑戦 16. まとめ

【成績評価】 毎回の課題提出と期末試験

【再試験】 未定

【教科書】 配布資料による。

【参考書】 プログラミングに関連するものを適宜指示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218569>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 プログラミング言語とその応用を学ぶ

【授業概要】 初級プログラミング入門。

【キーワード】 コーパス言語学

【関連科目】 『文化情報研究 (その1)』(0.5, ⇒161 頁), 『文化情報研究 (その2)』(0.5, ⇒161 頁)

【履修上の注意】 欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なおホームページ上で予習復習用のページを開設予定です。 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/index.html>

【到達目標】 プログラミング言語に関する基礎的な知識、技能を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. まずは簡単なプログラムを書いてみる 3. プログラミング言語にも文法がある 4. プログラミング

言語の語彙 5. プログラミング言語の「辞書」 6. 関数について 7. 関数を応用する 8. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 1 9. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 2 10. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 3 11. 応用プログラミングに挑戦する 1 12. 応用プログラミングに挑戦する 2 13. 応用プログラミングに挑戦する 3 14. 応用プログラミングに挑戦する 4 15. 応用プログラミングに挑戦する 5 16. まとめ

【成績評価】毎回の課題提出と期末試験

【再試験】しない

【教科書】未定ですが、プログラム言語の教科書(日本語)を指定する予定。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218570>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜, 水曜, 木曜日16時から17時のあいだ)

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜, 水曜, 木曜日16時から17時のあいだ)

アメリカ文化論(その1)

2 単位 2 年(前期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】アメリカ社会学の理論や概念をいくつか講義しながら、少年犯罪、いじめ、児童虐待、経済格差、自尊心の低下といった社会的関心の高い問題を考えていきます。

【授業概要】具体的な例(非行、いじめ、不登校、児童虐待、精神疾患、ADHD等)を用いて、アメリカ社会学の主要な理論や概念を分かりやすく説明します。メディア報道の分析方法(メディアリタラシー)、問題の公的統計の社会的解釈方法などについても講義します。授業では、私たちの個人的な悩みやトラブルと受けとめられることでさえも、すべて社会的な起源と文脈があるという点から考えていきます。

【履修上の注意】地域システムコース『青少年問題研究Ⅱ』(地域システムコース)との合同講義なので、両方の授業に登録することはできない。

【到達目標】受講後、皆さんが、テレビや新聞が報じる子どもと青少年の諸問題や自分自身の問題について少しでも違った見方ができるようになることを期待します。

【授業計画】1. オリエンテーション/「犯罪」「病氣」「障害」「問題」の社会的な捉え方(逸脱の社会学) 2. ひととどのようにして非行少年や異常者になってしまうのか(ラベリング論を学ぶ) 3. ひととはなぜ犯罪をおかすのか①諦められない人生について(アノミー理論を学ぶ) 4. ひととはなぜ犯罪をおかすのか②下位文化論③損得勘定で人生を生きる(ポンド理論を学ぶ) 5. 少年犯罪の「増加・深刻化」について(公的統計の社会的な解釈法を学ぶ) 6. いじめ問題(予言の自己成就について学ぶ) 7. 児童虐待の「増加・深刻化」について(社会問題の社会構築主義を学ぶ) 8. 医療化現象 9. モラルパニック—社会問題報道と厳罰主義 10. メーガン法の成立 11. 性的虐待とバックラッシュ 12. 子どもの時代の記憶論争 13. アイデンティティのポリティクス 14. 講義のまとめ 15. 受講生発表

【成績評価】授業への参加度や発表などを総合的に評価する。レポートによる評価(7割)、授業への参加度ならびに発表(3割)。

【再試験】無

【教科書】教科書なし。毎回配布するレジュメに関連文献を記載する。

【参考書】バリー・グラスナー著、松本薫訳、2004年『アメリカは恐怖に踊る』草思社; ジョエル・ベスト著、林大訳、2002年『統計はこうしてウソをつく』白揚社など

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219049>

【連絡先】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 木曜日 11時50分~12時50分)

アメリカ文化論(その2)

2 単位 2 年(後期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】「愛とケアの南北問題」について理解を深める。

【授業概要】少子高齢化、女性の就労、共働き世帯の増加などで生じた経済先進諸国での「ケア・クライシス」を解決するにはいくつかの方法が考えられる。本講義では、それらの方法を比較検討し、そのなかでも主に各々の家族が経済発展の遅れた国から安い賃金の女性労働者や「花嫁」を調達するアジア家族福祉レジームをシンガポールなどを例にみていく。そして、そのシステムの中で国境を越えて働く女性たちの生活の一部を紹介したい。

【キーワード】ケアクライシス、移動の女性化

【履修上の注意】()

【到達目標】

1. 女性の国際移動を、「コモンの侵食」「ケア流出」といった南北問題として捉えることができる。
2. 本講義で議論する「ケア・クライシス」をグローバル化社会に生きる自分たちの問題として捉えることができるようになる。

【授業計画】1. オリエンテーション—再生産労働のグローバル化 2. 国際労働移動の諸要因 3. アジア家族福祉レジーム 4. 外国人家事・ケア労働者としての生活 5. 底辺労働者の抵抗のストラテジー 6. 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント 7. 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント 8. NGOで作られるヒロインたち 9. トランスナショナルなライフコース 10. 日本での外国人研修生・実習生制度 11. 日本での外国人研修生・実習生制度 12. 結婚での国際移動 13. 結婚での国際移動 14. インドネシア・フィリピンの外国人介護士・看護士 15. 愛とケアの南北問題 16. まとめ

【成績評価】毎回のリアクションペーパーと学期末のレポートで評価

【再試験】無

【教科書】上野加代子『なぜ女は国境を越えるのか—アジアの出稼ぎ家事労働者』(仮題)世界思想社、2011年

言語情報プログラミング演習(その3)

2 単位 3 年(前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】高度なプログラミング技法について学ぶ。

【授業概要】応用プログラミング入門。

【キーワード】テキスト処理、プログラミング

【先行科目】『言語情報プログラミング演習(その1)』(1.0, ⇒161頁), 『文化情報研究(その2)』(1.0, ⇒161頁)

【履修上の注意】欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なお、受講者が少数の場合、Mac OS X を使う 可能性があります。

【到達目標】プログラミング言語に関する知識、技能を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション、コンピュータでできること 2. プログラミングとは何をするのか 3. プログラミング言語のいろいろ 4. 最初のトライアル 5. プログラミングすることはデザインなり 6. それには基礎的な知識の習得は不可欠、基礎練習その1 7. 基礎練習その2 8. 基礎練習その3 9. 基礎練習その4 10. コンピュータで人間の言語を扱うために知るべきこと 11. 基礎練習その5 12. 基礎練習その6 13. 応用編その1、しごとの流れを考える 14. 応用編その2、まねをするのも悪くない 15. 応用編その3、高度なプログラムに挑戦 16. まとめ

【成績評価】毎回の課題提出と期末試験

【再試験】未定

【教科書】資料を配布する。

【参考書】プログラミングに関連するものを適宜指示します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218571>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報プログラミング演習(その4)

2 単位 3 年(後期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】プログラミング言語とその応用を学ぶ

【授業概要】初級プログラミング入門。

【キーワード】コーパス言語学

【先行科目】『言語情報プログラミング演習(その2)』(1.0, ⇒161頁), 『文化情報研究(その2)』(1.0, ⇒161頁)

【関連科目】『文化情報研究(その1)』(0.5, ⇒161頁), 『文化情報研究(その2)』(0.5, ⇒161頁)

【履修上の注意】欠席すると、後の内容が分からなくなってしまうので注意してください。なおホームページ上で予習復習用のページを開設予定です。 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/index.html>

【到達目標】プログラミング言語に関する基礎的な知識、技能を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. まずは簡単なプログラムを書いてみる 3. プログラミング言語にも文法がある 4. プログラミング言語の語彙 5. プログラミング言語の「辞書」 6. 関数について 7. 関数を応用する 8. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 1 9. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 2 10. 簡単ではあるが、完結したプログラムを作る 3 11. 応用プログラミングに挑戦する 1 12. 応用プログラミングに挑戦する 2 13. 応用プログラミングに挑戦する 3 14. 応用プログラミングに挑戦する 4 15. 応用プログラミングに挑戦する 5 16. まとめ

【成績評価】毎回の課題提出と期末試験

【再試験】しない

【教科書】未定ですが、プログラム言語の教科書(日本語)を指定する予定。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/linguistik/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218572>

【連絡先】

【参考書】毎回のレジメに記載

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219050>

【連絡先】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 水曜日 11時40分～12時40分)

ドイツ語圏文化論 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの人々の生活や社会に関するいくつかのテーマをとりあげ、これらを媒介として、幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと。

【授業概要】ドイツについて学ぶ手がかりとなるような、いくつかのトピックを取り上げ、日本の状況とも比較しながら、その歴史的・文化的背景を考えます。希望によっては、ドイツの人々との交流 (電子メールなど) やドイツの状況の視察なども組み入れることも可能です。

【キーワード】ドイツ語圏の文化を知る

【履修上の注意】この授業では、ドイツ語の知識は前提としません (もちろん、片言でも出来れば申し分ありません)。異なる文化に触れるとき、自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが、大きな問題になってきたりすることがあります。受講者には、このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います。参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です (授業で詳しく紹介します)。

【到達目標】現代ドイツの社会についての概要とその多様性を知り、さらに関心を展開して行く足がかりを得る。同時に、自国の文化についての新たな観点を獲得する。

【授業計画】1. 導入・文献や資料の紹介 2. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (1) 3. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (2) 4. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (3) 5. 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (4) 6. ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) 7. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (1) 8. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (2) 9. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (3) 10. 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (4) 11. ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) 12. ドイツの学校と教育制度を知る (1) 13. ドイツの学校と教育制度を知る (2) 14. ドイツの学校と教育制度を知る (3) 15. ディスカッション及び参加者による研究発表 (3) 16. 前期授業のまとめ (レポート提出)

【成績評価】出席、授業での発表、レポートを総合して行ないます。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ プリントを配布します。教科書や参考書の指定はありませんが、手に入りやすい参考書として次のものを推薦します。その他、授業で紹介いたします。
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの政治 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの経済 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの社会 (早稲田大学出版部)
- ◇ 天野正治他:ドイツの教育 (東信堂)
- ◇ 在間進・河合節子:現代ドイツ情報ハンドブック (三修社)

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218904>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4, 金曜5-6)

ドイツ語圏文化論 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
桂 修治・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの人々の生活や社会に関するいくつかのテーマをとりあげ、これらを媒介として、幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと。

【授業概要】後期の授業では、主として、ヨーロッパの言語教育およびドイツの学校教育の実情と問題点をとりあげます。日本でもドイツでも教育にはさまざまな重い問題がありますが、同時に学校教育には、現代の文化現象を読み解く上での重要なヒントがあります。そこでは、制度的側面の理解とともに、教育内容、学校文化などの研究が重要です。そこで使用されている具体的な教科書を紹介します。授業の様子のビデオなども活用します。

【キーワード】ドイツ語圏の文化を知る、ドイツの学校教育、ヨーロッパの言語教育

【履修上の注意】この授業では、ドイツ語の知識は前提としません (もちろん片言でも出来れば申し分ありません)。異なる文化に触れるとき、自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが、大きな問題になってきたりすることがあります。受講者には、このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います。参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です (授業で詳しく紹介します)。

【到達目標】現代ドイツの教育事情の概要とその多様性を知ることとおして、自国の文化についての新たな観点を獲得する。

【授業計画】1. 導入・文献や資料の紹介 2. ヨーロッパにおける外国語教育 - 多言語性と言語政策 3. ヨーロッパにおける外国語教育 - ヨーロッパ共通参照枠 (Common Framework) とポर्टフォリオ 4. ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) 5. ドイツの学校教育の現状と問題点 6. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (1) - 授業のビデオを見る 7. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (2) - 国語教科書を見る 8. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (3) - 教育目標とカリキュラム 9. ドイツのドイツ語 (国語) 教育を見る (4) - 授業のビデオを見る 10. ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) 11. ドイツの政治授業を見る (1) ヴィデオを見る 12. ドイツの政治授業を見る (2) 教科書を見る 13. ドイツの政治授業を見る (3) ドイツの政治教育の歴史 14. ドイツの大学 15. ディスカッション及び参加者による研究発表 (3) 16. 後期授業のまとめ (レポート提出)

【成績評価】出席、授業での発表、レポートを総合して行ないます。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ プリントを配布します。教科書や参考書の指定はありませんが、手に入りやすい参考書として次のものを推薦します。その他、授業で紹介いたします。
- ◇ 天野正治他:ドイツの教育 (東信堂)
- ◇ マックス・ブランク研究所 (天野他訳):ドイツの教育のすべて
- ◇ クリストフ・フェール (天野他訳):ドイツの学校と大学
- ◇ 近藤孝弘:ドイツの政治教育
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの社会 (早稲田大学出版部)
- ◇ 大西健夫/U. リンス編:ドイツの政治 (早稲田大学出版部)

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218905>

【連絡先】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜3-4, 金曜5-6)

フランス語圏文化論 (その1)

2 単位 3 年 (前期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】フランス語で書かれた文学作品を原語で読み、作家のテクニクについて考える。

【授業概要】フランスの文学 人間は内面の感情や知識を伝えたいと考えるとき、記号に頼らざるを得ない。内的な感情は、テレパシーや、脳に電極を差し込んでそれぞれ直接電気信号を伝えようなんてことが可能でない限り、そのまま伝えることはできず、絵や音楽や言語と呼ばれる記号や表象を介してしか伝わらないだろう。もし直接に心の動きが伝えられるとしたら、そちらのほうがまだとあなたは思うだろうか?それとも心の中が直接相手に伝わらないからこそ幸いだと思うだろうか。田島は、自分の内面を表象を介して間接的にしか伝えられないことを幸いだと思う。だって、やばいことは言わなきゃいけないんだから。いやそういう意味だけではなく、ある内面を表現するためにある表象が選ばれる。その際にその表象が果たして発信者と受信者の間で同じものとして認識されているかどうかは疑問である。悲しいとか嬉しいとか単純な気持ちでも涙で表現されたとき、正しく相手に伝わるだろうか。ましてやそれよりも複雑な感覚であればそれなりに技巧をこらさなければ発信者の感情は伝えようがない。そして技巧をこらした表象であっても発信者と受信者の間で同じものとして認識されないかもしれない。このこと自体がむしろ幸いだと思う。だからこそ技巧が発達し、表象自体を楽しむことができるのだから。

【キーワード】フランスの文学、表象、テキスト

【先行科目】『実用フランス語演習 I』(1.0), 『フランス語』(1.0)

【関連科目】『実用フランス語演習 I』(0.5)

【履修上の注意】全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。

【到達目標】フランス語で文学を読むためのフランス語能力と、文学作品を鑑賞し、理解し、論評するための語彙、方法を獲得する。

【授業計画】19 世紀か 20 世紀のフランス語で書かれた比較的短い作品を読み、作者自身について、作品の時代背景について、作品に使われた技法について、また作品の受容について調査検討する。

【成績評価】出席および授業中の発言を重視します。

【再試験】行いません。

【教科書】コピーを配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218984>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

【備考】2009(平成 21) 年カリキュラムの同時開講のため、月曜 3-4 講時に開講します。

フランス語圏文化論 (その2)

2 単位 3 年 (後期)
田島 俊郎・教授/人間文化学科

【授業目的】 フランス語で書かれた文学作品を原語で読み、作家のテクニクについて考える。

【授業概要】 人間は内面の感情や知識を伝えたいと考えるとき、記号に頼らざるを得ない。内的な感情は、テレパシーや、脳に電極を差し込んでそれぞれ直接電気信号を伝えようなんてことが可能でない限り、そのまま伝えることはできず、絵や音楽や言語と呼ばれる記号や表象を介してしか伝わらないだろう。もし直接に心の動きが伝えられるとしたら、そちらのほうがまだとあなたは思うだろうか?それとも心の中が直接相手に伝わらないからこそ幸いだと思うだろうか。田島は、自分の内面を表象を介して間接的にしか伝えられないことを幸いだと思う。だって、やばいことは言わなきゃいけないんだから、いやそういう意味だけではなく、ある内面を表現するためにある表象が選ばれる。その際にその表象が果たして発信者と受信者の間で同じものとして認識されているかどうかは疑問である。悲しいとか嬉しいとか単純な気持ちでも涙で表現されたとき、正しく相手に伝わるだろうか。ましてやそれよりも複雑な感覚であればそれなりに技巧をこらさなければ発信者の感情は伝えようがない。そして技巧をこらした表象であっても発信者と受信者の間で同じものとして認識されないかもしれない。このこと自体がむしろ幸いだと思う。だからこそ技巧が発達し、表象自体を楽しむことができるのだから。

【キーワード】 フランス文学、表象、テキスト

【先行科目】 『フランス語』(1.0)

【関連科目】 『実用フランス語演習 I』(0.5)

【履修上の注意】 全学共通教育のフランス語 I を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。

【到達目標】 フランス語で文学を読むためのフランス語能力と、文学作品を鑑賞し、理解し、論評するための語彙、方法を獲得する。

【授業計画】 19世紀から20世紀のフランス語で書かれた比較的短い作品を読み、作者自身について、作品の時代背景について、作品に使われた技法について、また作品の受容について調査検討する。

【成績評価】 出席および授業中の発言を重視します。

【再試験】 行いません。

【教科書】 コピーを配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218985>

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

【備考】 後期は火曜3-4 講時に開講。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218991>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講(前期)。平成23年度開講せず

文化批評論 (その2)

2単位 2年(後期)
吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、「研究の素材」となりうるもの自体について学ぶというよりは、「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書、論文を日本語または英語で講読し、研究テーマの設定方法や研究手法について学ぶことを目的とする。

【授業概要】 文芸、文化、文学などに関する批評理論を読む。今回は、前期に引き続き、Keith Sanger 著の *The Language of Drama* の後半部 (Unit 4-7) を読み、ドラマ(舞台劇、ラジオドラマ、TVドラマ、映画等)の台詞として使われる言語の特徴について分析する。

【キーワード】 ドラマ、言語、文学

【先行科目】 『文化批評論 (その1)』(1.0, ⇒164頁)

【関連科目】 『比較文化研究 (その1)』(0.5, ⇒160頁), 『比較文化研究 (その2)』(0.5, ⇒161頁), 『英米の社会と文化 I (その1)』(0.5, ⇒166頁), 『英米の社会と文化 I (その2)』(0.5, ⇒166頁)

【履修上の注意】 2005年度より、隔年開講となる。2011年は開講しない。

【到達目標】 講読した研究書や論文中で呈示されている研究手法や批評方法を十分に理解することを目標とする。

【授業計画】 1. Class Guidance (The following class plan is tentative, and could be changed.) 2. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 43-46) 3. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 47-50) 4. Unit 4 The Shakespearean protagonist (pp. 51-52); Unit 5 Storytelling (pp. 53-54) 5. Unit 5 Storytelling (pp. 55-58) 6. Unit 5 Storytelling (pp. 58-61) 7. Unit 5 Storytelling (pp. 61-64) 8. Unit 5 Storytelling (pp. 64-68) 9. Unit 6 The grammar of sound (pp. 69-72) 10. Unit 6 The grammar of sound (pp. 73-76) 11. Unit 6 The grammar of sound (pp. 77-80) 12. Unit 7 Book to film (pp. 81-84) 13. Unit 7 Book to film (pp. 84-87) 14. Unit 7 Book to film (pp. 88-89) 15. Final Test or Final Paper 16. Review

【成績評価】 授業への出席状況、各自の担当箇所の読解、授業中の課題(50%程度)、最終テストまたはレポート(50%程度)により評価する。

【再試験】 評価が50%以上の者のみ実施する。

【教科書】 Keith Sanger. *The Language of Drama* (Intertext). London: Routledge, 2001

【参考書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218992>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講(後期)。平成23年度開講せず

日本語教育方法論 I

2単位 2年(前期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 日本語教育に限らず、広く教育の方法について理解し、これからの教育活動の基礎を習得する。

【授業概要】 日本語教育の前提となる、教育及び学習に焦点をあて、私たちが受けてきた教育活動を振り返り、これからの教育-学習活動を再構築し実践していく方法を体得する。[継]

【キーワード】 生涯学習、自律学習、心とからだのコミュニケーション、意識と無意識、教えると学ぶ

【関連科目】 『日本語教育演習 (その2)』(0.5, ⇒165頁)

【履修上の注意】 講義以外に集中講義形式で外部講師による「こころとからだの研修」を実施するこれも必ず受講すること。

【到達目標】

1. 日本語教育や日本語学習者の概観を知るとともに、言語はいかに習得されるか、学習者がどのようなものを求めているのかを理解できるようにする。

2. 自分を見つめ、また他者との関わりから教える・学ぶを考える。

【授業計画】 1. 自己紹介とガイダンス 2. 自分を知る 1 こころとからだ 3. 自分を知る 2 こころとからだ 4. 相手を知る 1 コミュニケーション 5. 相手を知る 2 コミュニケーション 6. 教える 1 ことば 7. 教える 2 知識 8. 学ぶ 1 ことば 9. 学ぶ 2 知識 10. 教えることと学ぶこと 体験学習とは 11. こころとからだのレッスン 1(集中講義) 12. こころとからだのレッスン 2(集中講義) 13. こころとからだのレッスン 3(集中講義) 14. こころとからだのレッスン 4(集中講義) 15. 自己成長と教育 16. まとめにかえて

【成績評価】 出席を重視します。毎回振り返りを記入または発言を記録し、評価とします。テストは行わない。

【再試験】無

【教科書】授業内で提示する。

【参考書】竹内敏晴「からだごとことばのレッスン」野口三千三体操 ニューカウニング

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219298>

【連絡先】

⇒ 大石 (088-656-9875, oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 9:30~ 12:00 但し事前の連絡があれば他の日時でも対応します。)

【備考】平成 24 年度開講

日本語教育方法論 II

2 単位 2 年 (後期)
橋本 智・准教授/国際センター

【授業目的】「外国語としての日本語」を認識・理解し、その教育方法について考察し、言語学習活動の基礎とする。

【授業概要】日本語教育とは、日本語を教えるということ、何をどう教えるか、日本語教育が係る領域・環境について考察し、自分なりの日本語教育方法を模索する

【キーワード】外国語としての日本語、何を教えるか、どう教えるか

【履修上の注意】隔年開講のため 2011 年には開講されない。

【到達目標】外国語としての日本語を認識・理解する。またその教育方法論を学ぶ。

【授業計画】1. 本授業の概要・計画の説明 2. 「外国語としての日本語」に必要なもの① 3. 「外国語としての日本語」に必要なもの② 4. 「外国語としての日本語」のコンテンツ①シラバス 5. 「外国語としての日本語」のコンテンツ②シラバス以外のもの 6. 留学生に聞く 7. 何を教えるか① 8. 何を教えるか② 9. どう教えるか① 10. どう教えるか② 11. 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営① 12. 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営② 13. 「外国語としての日本語」教育における教材・教具とは 14. 留学生・地域と「面白い日本語授業」を考える 15. 「面白い日本語授業」のグループ発表 16. 総括

【成績評価】グループ発表時の積極性、クラスに臨む姿勢、参加度を重視。またレポートを課す。

【再試験】無

【教科書】適宜コピー教材を配付

【参考書】

- ◇ 「日本語教育の方法」田中望 大修館書店
- ◇ 「新しい日本語教育のために」J.V. ネウストブニー サイマル出版
- ◇ 「新・はじめての日本語教育 1・2」アスク出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218924>

【連絡先】

⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)

【備考】隔年開講、2011 年には開講されない。

日本語教授法 I

2 単位 2 年 (前期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】外国語教育としての日本語教育とは何かを追究する。その中で、日本語を教えるための知識、方法及び技術を修得することを目的とする。

【授業概要】日本語を教えるための方法に関わる者全ての視点から理解する。

【キーワード】言語教育、学習ストラテジー、コースデザイン

【履修上の注意】課題解決型の講義のため、出席と授業態度を重視する。

【到達目標】日本語教師を目指す者として、様々な教授法や教育的な関わりを理解する。さらに教育を実施する側の学習者への働きかけについても、実際に日本語を学ぶ人たちを交えて検討する。

【授業計画】1. 日本語教育の歴史 2. 日本語教育の担うもの 3. 日本語を学ぶ環境 異文化コミュニケーション 4. 様々な教授法① 5. 様々な教授法② 6. 様々な教授法③ 7. 様々な教授法④ 8. 様々な教授法⑤ 9. 様々な教授法⑥ 10. 様々な教授法⑦ 11. 評価の目的 12. 評価の方法 13. 授業見学① 14. 授業見学② 15. 日本語教育とは 16. 総括発表 まとめ

【成績評価】出席及び毎回の講義内でのタスクさらに最終課題を評価する。

【再試験】無

【教科書】授業初日に指示

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219296>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

日本語教授法 II

2 単位 2 年 (後期)
橋本 智・准教授/国際センター

【授業目的】留学生をはじめ外国人と接する時、日本語はコミュニケーション手段の基本となり、その日本語を支えているものは文法である。この文法は国文法とは異なる視点で形成された外国人のための日本語教育の文法である。テキストだけにとどまらず時には留学生もまじえ生きた日本語の仕組みを体感する。

【授業概要】「外国人のための日本語」について文法を軸に仕組みを学ぶ。

【キーワード】外国人のための日本語、コミュニケーションの道具、運用

【到達目標】外国人のための日本語の仕組みを学び、日本語指導やコミュニケーション時の基本とする。

【授業計画】1. ①本授業の進め方②各自の外国語習得について③日本語教育とは 2. ①日本語教育のこれまで②外国人のための日本語 (以下「日本語」とする)の特徴 (1)SOV 型・主語の省略・従属節 3. 「日本語」の特徴 (2)複数・助数詞など 4. 音声・リズム 5. 文法①国文法との違い②品詞③名詞文「～は～です」 6. ①動詞とは②その活用③文型とは 7. その文型の機能とそれ支える各フォーム (1)て形、ない形、た形 8. その文型の機能とそれ支える各フォーム (2)辞書形、可能形、意向形、命令・禁止形 9. その文型の機能とそれ支える各フォーム (3)受身形、使役形、敬語 10. ①アスペクト②まとめ-留学生と共に 11. ①形容詞とは②その活用③形容詞の機能 (1)印象・感想、描写 12. ①形容詞の機能 (2)②～たい・～ほしい 13. ①助詞②接続詞③副詞の役割と機能 14. 表記①ひらがな・かたかな・漢字について 15. 表記②導入-留学生と共に 16. 総括授業

【成績評価】課題への取り組み方、クラスでの姿勢、レポートなどによって評価する。

【再試験】無

【教科書】授業初日に伝える

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219297>

【連絡先】

⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)

日本語教育演習 (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授方法やクラス運営を学ぶ。

【授業概要】日本語教育の演習

【キーワード】演習、実習

【先行科目】『日本語教授法 I』(1.0, ⇒165 頁), 『日本語教授法 II』(1.0, ⇒165 頁), 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒164 頁), 『日本語教育方法論 II』(1.0, ⇒165 頁)

【履修上の注意】学生のレベルや人数などの状況により、授業内容や計画が変更される場合があります。

【到達目標】今まで勉強してきた理論や教授法などを復習しながら、どのように日本語の授業を組み立てまた運営していくかを検討する。実際に教室で日本語を教える経験を通して、日本語教師に必要な知識や経験を得る。授業の前に練習を行い、授業後にクラスを振り返り、効果的な授業やクラス運営について考える。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 教案の作成 (1) 3. 教案の作成 (2) 4. 実習計画 5. 日本語教育実習 (1) 6. 日本語教育実習 (2) 7. 日本語教育実習 (3) 8. 日本語教育実習 (4) 9. 日本語教育実習 (5) 10. 日本語教育実習 (6) 11. 日本語教育実習 (7) 12. 日本語教育実習 (8) 13. 日本語教育実習 (9) 14. 日本語教育実習 (10) 15. 日本語教育実習 (11) 16. 振り返り

【成績評価】本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

【再試験】無

【教科書】授業中に適宜提示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218920>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

【備考】授業時間外の活動も多いため、適宜受講生と内容方法等を相談しながら進めます。

日本語教育演習 (その 2)

2 単位 4 年 (後期)
大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】実際の教室で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授方法やクラス運営を学ぶ。様々な教材=リソースについても確認する。

【授業概要】日本語教育の演習

【キーワード】 演習, 実習

【先行科目】 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒164 頁), 『日本語教育方法論 II』(1.0, ⇒165 頁), 『日本語教授法 I』(1.0, ⇒165 頁), 『日本語教授法 II』(1.0, ⇒165 頁)

【履修上の注意】 受講者は、日本語教育方法論及び日本語教授法、あるいは日本語教育関連の授業を既に受講し、単位を取得していることが望まれる。内容上多くの人教受け入れが不可能なこともある。受講前に必ず担当者と面談をすること。また授業時以外にも活動することを念頭にしておくこと。

【到達目標】

1. ガイダンス
2. 教案の作成 (1)

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 教案の作成 (1) 3. 教案の作成 (2) 4. 実習計画 5. 日本語教育実習 (1) 6. 日本語教育実習 (2) 7. 日本語教育実習 (3) 8. 日本語教育実習 (4) 9. 日本語教育実習 (5) 10. 日本語教育実習 (6) 11. 日本語教育実習 (7) 12. 日本語教育実習 (8) 13. 日本語教育実習 (9) 14. 日本語教育実習 (10) 15. 日本語教育実習 (11) 16. 振り返り

【成績評価】 本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に指示する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218922>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

【備考】 授業時間外にも活動を行うため、受講生と適宜方法内容について相談します。

英米の社会と文化 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)

吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。前期 (その 1) では、比較的平易な作品を取り上げる。

【キーワード】 *poetry in English, reading poems, introduction to English poetry*

【関連科目】 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『文化批評論 (その 1)』(0.5, ⇒164 頁), 『文化批評論 (その 2)』(0.5, ⇒164 頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年度は開講する。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮して、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び、毎回 3~5 編ずつ講読する予定です。学期中に 2 回のテストを行います。詳しい日程は最初の授業で指示します。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928) 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指定します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218385>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講 (前期)。2011 年度は開講。

英米の社会と文化 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)

吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。後期 (その 2) では、前期 (その 1) で取り上げたものより、難解な作品が中心となる。

【キーワード】 *introduction to English poetry, reading poems, poetry in English*

【先行科目】 『英米の社会と文化 I (その 1)』(1.0, ⇒166 頁)

【関連科目】 『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5, ⇒69 頁), 『英米文化研究 I (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 I (その 2)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 1)』(0.5, ⇒65 頁), 『英米文化研究 II (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その 1)』(0.5, ⇒66 頁), 『英米文化研究 III (その 2)』(0.5, ⇒66 頁), 『文化批評論 (その 1)』(0.5, ⇒164 頁), 『文化批評論 (その 2)』(0.5, ⇒164 頁)

【履修上の注意】 隔年開講。2011 年は開講。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮し、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】 1. 以下にあげる詩人の作品を読む予定です。 2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), 3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) 4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928), 5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), 6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), 7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) 8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業中に指示します。

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218386>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 隔年開講 (後期)。2011 年度開講。

異文化間コミュニケーション (その 1)

2 単位

2 年 (前期, 集中)

Cross-cultural Communications

坂田 浩・助教授/国際センター

【授業目的】 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生していくことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1) 受講者自身が自らの文化に気づき、(2) 多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行くための具体的な方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。

【授業概要】 異文化トレーニング

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【授業計画】 1. 具体的な内容・計画は以下の通り。 2. (1) 「自文化を気づくトレーニング」 3. (2) 「Perception/Programming」のエクササイズ 4. (3) 「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 5. (4) 「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 6. (5) 「価値観の多様性に関するエクササイズ」 7. (6) 「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 8. (7) 「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 9. (8) 「Organizational/Individual Challenges」 10.

(9)「多文化で共生できる人とは?:DMIS」 11. (10)「多文化で共生する為のヒント:DIE」 12. (11)「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」 13. (12)「Action Planning:大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」 14. など

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218359>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:各集中講義時間終了後)

異文化間コミュニケーション (その2)

2 単位

2 年 (後期, 集中)

坂田 浩・准教授/国際センター

【授業目的】 本授業では、前期の集中講義を基に授業を展開するが、概要としては、(1) 異文化間コミュニケーションに必要とされる技術 (スキル) と態度を養う、(2) 自己のあり方を振り返り、今後の自分について考える、(3) 外国語に対する認識と態度を再考する、という内容を中心に授業を展開していく予定である。

【授業概要】 目的を参照

【先行科目】 『異文化間コミュニケーション (その1)』 (I.0, ⇒166 頁)

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【到達目標】

1. 文化的な「違い」に対する認識と態度について再考出来るようになる
2. 自己を振り返り、望ましい自分について具体的なイメージを形成できる
3. 具体的な理想のイメージに向かっていく為に必要なコミュニケーション能力を獲得する
4. 自分とは異なる人達と有効な人間関係を構築することが出来る

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. マインドマップを使って自分の価値観を探りましょう! 3. 価値観を達成する為のヒントとリソースを考えましょう! 4. コミュニケーションエクササイズ (1): 承認とフィードバック 5. コミュニケーションエクササイズ (2): 質問・詰問 (1) 6. コミュニケーションエクササイズ (3): 質問・詰問 (2) 7. コミュニケーションエクササイズ (4): 自己開示 (1) 8. コミュニケーションエクササイズ (5): 自己開示 (2) 9. コミュニケーションエクササイズ (6): 傾聴 (1) 10. コミュニケーションエクササイズ (7): 傾聴 (2) 11. コミュニケーションエクササイズ (8): リーダーシップとチームワーク (1) 12. コミュニケーションエクササイズ (9): リーダーシップとチームワーク (2) 13. 今年の誓いとミッション・ステートメント 14. 人間関係・異文化とコミュニケーション 15. 予備日

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポート・発表内容を基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219389>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜 12:00-12:50)

【備考】 定員: 30 名まで *30 名以上の場合には、総合科学部生 (欧米言語コース 2-3 年生, 国際文化コース 2-3 年生) を優先し、残りに関しては抽選を行います。

言語情報処理研究 (その1)

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等)、Unix コマンド、プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】 コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】 *Perl*, コーパス言語学

【履修上の注意】 基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】 1. Perl 言語概要 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218564>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】 この授業科目は 8 単位まで履修することができます。

言語情報処理研究 (その2)

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等)、Unix コマンド、プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】 コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】 *Perl*, コーパス言語学

【履修上の注意】 基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】 1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218565>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その3)

2 単位 3 年 (前期), 4 年 (前期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等)、Unix コマンド、プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】 コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】 *Perl*, コーパス言語学

【履修上の注意】 基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】 1. Perl 言語概説 2. スカラー変数 3. 演算子 4. 制御構造 5. 配列 6. ハッシュ

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218566>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 (その4)

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】 言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等)、Unix コマンド、プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】 コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】 *Perl*, コーパス言語学

【履修上の注意】 基本的なパソコン操作力を前提とする。前期と後期は内容的に連続しているため、前期・後期とも受講することが望ましい。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的技能を身につける。

【授業計画】 1. 正規表現 2. 関数 3. モジュール 4. ファイル操作 5. 応用プログラム作成 (文字列の加工, 頻度表の作成, KWIC 出力, etc.)

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「独習 Perl 第2版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218567>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218951>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

ドイツの社会と文化 (その1)

2 単位 2 年 (前期)

ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会的な想像力を身につける事、ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、外国人排斥思想、移民受け入れ理論、グローバル化、高齢化問題、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】 1. 社会学入門:社会学とは何か、2. ライフスタイル、文化社会学: Pierre Bourdieu 3. Bourdieu 理論のキーワード:資本、ハビトゥス、階級、ディステンクシオン等 4. エリートを生む学歴社会学:ドイツとフランスの教育制度 5. Gerhard Schulze: 現代ドイツ社会の分析、その理論と研究デザイン 6. 日常生活の社会学:ドイツの主な五つの生活様式 7. ドイツ社会のライフスタイルグループの具体的な描写 8. ドイツの主流社会から排除されているグループ 9. 移民社会としてのドイツ:外国人受け入れの歴史と現状 10. 排斥主義と国家主義とネオナチ問題 11. 外国人受け入れ理論 1. 同化論、統合論、多様文化論、超文化論 12. 若者文化 1. 1960 年代から現代までのそれぞれの若い世代の特徴 13. 若者文化 2. 現代ドイツで族化している若者の分類 14. 若者文化 3. 若者の代表的な「族」の紹介 15. 纏めと質疑応答 16. Ulrich Beck: ドイツとグローバル化をめぐる

【成績評価】 出席、レポート、発表、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書、教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218906>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】 授業は日本語で行われます。

ドイツの社会と文化 (その2)

2 単位 2 年 (後期)

ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会的な想像力を身につける事、ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、移民社会、高齢化問題、(生と死の) 哲学、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】 1. ドイツとオーストリーの相違と特徴 2. オーストリーの歴史、ケルト人、ローマ時代から十九世紀まで 3. 20, 21 世紀のオーストリー:政治、経済、社会、文化 4. オーストリーと EU における移民政策 5. EU の統合と組織犯罪の在り方 6. 世俗化したドイツ、オーストリーにおける宗教 7. 若い世代と宗教:精神世界、ニューエイジ思想、折衷主義 8. ドイツ社会と東洋思想:インド哲学、仏教、禅との出会い 9. bodycult と bodyart/body modification: 身体変更/改造、リストカット症候群、体の社会学 10. 高齢社会、その問題と課題 11. 西洋哲学での生と死の見方 12. 安楽死をめぐる 13. ホスピス、その歴史と理念 14. 緩和ケア、特にスピリチュアルケアについて 15. 纏めと質疑応答 16. 「ソーフィの世界」ドイツ語圏での哲学ブーム

【成績評価】 出席、レポート、発表、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書、教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218907>

【連絡先】

比較文化演習 (その1)

2 単位 3 年 (前期)

スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

【成績評価】 Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】 No

【教科書】 Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218950>

【連絡先】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

比較文化演習 (その2)

2 単位 3 年 (後期)

スタージドナルド・講師/人間文化学科

【授業目的】 This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group

【授業概要】 Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】 A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】 Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】 1. A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. 2. Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, 3. listening comprehension exercises and videos.

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】授業は日本語で行われます。

社会思想研究

2 単位 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科, 山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】環境倫理学を通じて、倫理学の基本的な考え方を理解する。現代社会における「倫理的問題」は、単に思想や価値観の問題であるだけでなく、「社会的問題」でもあることを理解する。環境倫理学のトピックス、その思想的背景、現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ、現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける。その上で、自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける。レポートをもとに意見を発表し、討議する力を身に付ける。

【授業概要】「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い、そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する。

【キーワード】哲学、倫理学、環境、社会と自然

【到達目標】

1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】1. イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) 2. 環境倫理学の系譜 (1):環境倫理学成立の背景:1950~60年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) 3. 環境倫理学の系譜 (2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想 (山口) 4. 環境倫理学の系譜 (3):「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟 (山口) 5. 環境倫理学の系譜 (4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) 6. 地球温暖化問題の成立 (1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで (山口) 7. 地球温暖化問題の成立 (2):フィラッハ会議後の展開:地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) 8. 地球温暖化問題の成立 (3):IPCC の成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索 (山口) 9. 地球温暖化問題の成立 (4):京都議定書とその後の展開 10. アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる。シャロー・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を、その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造、エコフィロソフィーとエコソフィー、自己実現との関連で講じる (石田)。 11. マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる。ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判、位階性の批判、自然の進化と社会の進化、リバタリアン的な地域自治主義を講じる (石田)。 12. ドイツの環境政策を講じる。1970年代以降のドイツの環境政策を概観した上で、地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策、ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴァーパタル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター4」を講じる (石田)。 13. ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる。自然は果たして権利の主体になりうるか、人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か、等を論じる。 (石田) 14. ドイツの環境思想家マイヤー＝アービヒの『自然との和解への道』で述べられた、実践的自然哲学を講じる。政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること、自然の理解は広い意味で法の中で論じられること、人間中心主義に対する哲学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ、自然中心主義的世界像から、自然としての人間、自然の法共同体を講じる。 (石田) 15. 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション (石田)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2点×15=30点、レポート2回=70点。

【再試験】行う。

【教科書】その都度資料を配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219396>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama.guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)
⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14時~15時)

比較思想研究

2 単位 2 年 (前期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科, 吉田 昌市・教授/人間文化学科
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】いくつかの「哲学的」トピックを取り上げ、それらについて考えることで、現代社会の諸問題を考察する視座を得る。

【授業概要】哲学史上論じられてきた多様なトピックについて、一般的・包括的な内容を各3~4回の講義で紹介する。それを受けた「まとめ」の回では受講者の中から若干名にレポートを発表してもらい、ディスカッションを行う。毎回の授業後に疑問や意見を「一言カード」記入してもらい、次回授業の冒頭で復習を行う。また、授業で用いたファイルや資料はウェブページに公開するので復習に役立てること。

【キーワード】哲学、科学と哲学、倫理学

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒169頁), 『比較文化研究 (その2)』(0.5, ⇒161頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒169頁)

【到達目標】

1. 人文科学 (哲学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】1. イントロダクション:現代における哲学の意義 (吉田, 石田, 山口) 2. 哲学の立場 その1:批判精神としての哲学 - ソクラテスの人と思想 - (吉田) 3. 哲学の立場 その2:何のための批判? - アイデアの哲学へ - (吉田) 4. 哲学の立場 その3:アイデアの哲学 - 哲学と宗教 - (吉田) 5. まとめとディスカッション (吉田, 石田, 山口) 6. 現代科学論の系譜 (1) 自然法則とアイデア論 (山口) 7. 現代科学論の系譜 (2) 経験は真理を保証できるか (山口) 8. 現代科学論の系譜 (3) プラナリアの記憶物質 (山口) 9. 現代科学論の系譜 (4) 因果関係は実在するか (山口) 10. まとめとディスカッション:「科学の正しさ」をめぐって (吉田, 石田, 山口) 11. 倫理的な正しさとは何か その1:リバタリアニズムの立場 (石田) 12. 倫理的な正しさとは何か その2:リバタリアニズムの立場 (石田) 13. 倫理的な正しさとは何か その3:コミュニタリアニズムの立場 (石田) 14. まとめとディスカッション (吉田, 石田, 山口) 15. 授業全体のまとめ (吉田, 石田, 山口)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」、授業中に行う「小テスト」、「まとめ」授業における発表、学期末レポートを総合して評価する。得点の配分や発表と期末レポートの採点基準については授業中に説明する。

【再試験】(再試験を) 行う。

【教科書】なし。

【参考書】授業中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219307>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜14時から15時)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yama.guti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)
⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh.oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

ヨーロッパ思想研究

2 単位 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科, 吉田 昌市・教授/人間文化学科
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】西洋の哲学・宗教思想について、テーマ、時代、人などの視点で問題を切り取って講義を行う。またそれを通して、現代社会の諸問題をその背景から思想的に理解する力を養うことを目指す。

【授業概要】まずヨーロッパ思想のバックボーンをなす古代ギリシアやヘブライの思想の基礎を学び、続いて近代哲学の基礎を築いたデカルトからヘーゲル・ドイツ観念論に至る近代哲学の基礎を学び、フランスを中心とした現代哲学(とくに、科学認識論)の基礎を学ぶ。

【キーワード】倫理学、科学と哲学、哲学

【関連科目】『哲学思想基本研究 I (その1)』(0.5, ⇒170頁)

【到達目標】

1. 人文科学 (西洋思想) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】1. 古代ギリシアの哲学 1:エレア学派の論理 (吉田昌市) 2. 古代ギリシアの哲学 2:ソクラテスの対話 (吉田昌市) 3. 古代ギリシアの哲学 3:プラトンの学問論 (吉田昌市) 4. 古代イスラエルの宗教思想 1:「創世記」(吉田昌市) 5. 古代イスラエルの宗教思想 2:「創世記(続)」(吉田昌市) 6. ドイツの思想 1:カントの理論哲学 (石田三千雄) 7. ドイツの思想 2:カントの社会哲学 (石田三千雄) 8. ドイツの思想 3:フッサール現象学の基礎 (石田三千雄) 9. ドイツの思想 4:フッサールの生活世界論 (石田三千雄) 10. ドイツの思想 5:ハイデッガーの思想 (石田三千雄) 11. フランスの思想 1:フランス近代の重要性 (山口) 12. フランスの思想 2:デカルトの仕事 (山口) 13. フランスの思想 3:デカルトと経験論哲学 (山口) 14. フランスの思想 4:経験論哲学の認識理論 (山口) 15. フランスの思想 5:まとめ (山口)

【成績評価】毎回の授業終了時に書く「一言カード」、3回のレポートにより評価する。レポートの課題や評価基準などについては授業中に示す。

【再試験】なし。

【教科書】講義中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219083>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜13時から14時)
⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh.oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

社会的行為の理論

2 単位 2 年 (前期, 集中)
堀田 裕子・非常勤講師, 梶田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 理論とは物事についての見(え)方や考え方であり, 社会理論を学ぶことによって, 人間や社会についての見(え)方や考え方が豊かになると言える。本講義では現象学的社会学の視点も念頭に置きつつ, 「意味の獲得と伝達」「意味をめぐる闘争」「意味の生成」というように, 意味を基軸とした3つの側面から社会に切り込んでいく。また, そうした意味をめぐる問いが, 身体なき精神のような主体ではなく, 身体的存在としての人間を通じて為されるべきであるとする趨勢も強調しておきたい。この意味で, いわゆる「身体社会学」の議論にも眼を向ける。そして, 社会理論を考察や分析においてどう活かすかを実践的にも学ぶ。そのために, いくつかトピックを取り上げ, それについて受講者が自分で考える時間を設ける。本講義を通じて, 社会理論のおもしろさを受講者と共有できれば幸いである。

【授業概要】 基本的に講義形式で, 社会や人間について理解し, 考察するための諸理論を学習する。本講義で言及する主な論者としては, G. H. ミード, M. フーコー, P. ブルデュナリなどが挙げられる。できるだけ原典を読み解くことを心掛け, 理論の背景をも意識していきたい。途中4回ほど, ジェンダーやファッションなどを含む身近なトピックに関して概説したうえで, 課題を出し, 受講者が自分で考察する時間を設ける予定である。うち, 1回は, 近未来を描いた映画を題材に, 社会や人間の今後をともに考えたい。

【キーワード】 意味, 身体, 自己, 他者, 権力, 現象学

【履修上の注意】 出欠確認は毎回行う。

【到達目標】

1. 社会理論の読解力を養う。
2. さまざまな問題について自分で考える力を身につける

【授業計画】 1. 社会学における「意味」と「身体」の意義 2. 意味の獲得と伝達 (1) 幼児にとつての世界と社会化 3. 意味の獲得と伝達 (2) 自我とアイデンティティ 4. 意味の獲得と伝達 (3) 相互行為と地位・役割 5. 自己・他者を考える-考察1 6. 意味をめぐる闘争 (1) 権力と知 7. 意味をめぐる闘争 (2) 身体-権力と生-権力 8. ジェンダーを考察する-考察2 9. 意味の生成 (1) 構造と主体 10. 意味の生成 (2) 社会空間と身体 11. 意味の生成 (3) 間主観性 12. “近未来”を考察する-考察3 13. 社会学と現象学 (1) 現象学的社会学の視点 14. 社会学と現象学 (2) 現象学的身体論 15. ファッションを考察する - 考察4

【成績評価】 出席点 (10%) + レポート (70%) + ミニペーパー (20%) で評価する。ミニペーパーは, 考察 (全4回) の際に書いてもらうものを指す。

【再試験】 おこなわない

【教科書】 なし

【参考書】 N. クロスリー著 (西原 和久監訳) 『社会学キーコンセプト-「批判的社会理論」の基礎概念 57』新泉社, 2008. ほか, 随時指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218699>

【連絡先】

- ⇒ 堀田
- ⇒ 梶田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき。088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 集中講義期間中適宜。)

哲学思想基本研究 I (その 1)

2 単位 2 年 (前期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 我々が何かものを考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】 フーコー『言葉と物』研究。毎回, 担当を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ2, 3 週間に一章のペースで進める。

【キーワード】 科学と哲学, 哲学

【先行科目】 『人間と生命/認知哲学』(0.4), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.2)

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.3, ⇒169 頁)

【履修上の注意】 たくさん本を読むこと。毎回の授業で, 関連する文献を紹介し, また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを手直し, 読み, 報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも1冊, できれば週に1冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】 1. イントロダクション: 授業についての説明など 2. 第1章侍女たち (1) 3. 第1章侍女たち (2) 4. 第2章世界という散文 (1) 5. 第2章世界という散文 (2) 6. 第3章表象すること (1) 7. 第3章表象すること (2) 8. 第3章表象すること (3) 9. 第4章語ること (1) 10. 第4章語ること (2) 11. 第4章語ること (3) 12. 第5章分類すること (1) 13. 第5章分類すること (2) 14. 第5章分類すること (3) 15. まとめ

【成績評価】 担当を分担して報告すること, 3分の1以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218877>

【連絡先】

- ⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 我々が何かものを考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】 フーコー『言葉と物』研究。毎回, 担当を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ2, 3 週間に一章のペースで進める。

【キーワード】 科学と哲学, 哲学

【先行科目】 『人間と生命/認知哲学』(0.4), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.2), 『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.9, ⇒170 頁)

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.3, ⇒169 頁)

【履修上の注意】 たくさん本を読むこと。毎回の授業で, 関連する文献を紹介し, また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを手直し, 読み, 報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも1冊, できれば週に1冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】 1. イントロダクション: 授業の説明など 2. 第6章交換すること (1) 3. 第6章交換すること (2) 4. 第6章交換すること (3) 5. 第7章表象の限界 (1) 6. 第7章表象の限界 (2) 7. 第7章表象の限界 (3) 8. 第8章労働, 生命, 言語 (1) 9. 第8章労働, 生命, 言語 (2) 10. 第9章人間とその分身 (1) 11. 第9章人間とその分身 (2) 12. 第9章人間とその分身 (3) 13. 第10章人文諸科学 (1) 14. 第10章人文諸科学 (2) 15. まとめ

【成績評価】 担当を分担して報告すること, 3分の1以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218878>

【連絡先】

- ⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その 3)

2 単位 3 年 (前期)
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 我々が何かもの考えるときには, さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした, 「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは, そうした「思考の前提」を問い直し, 明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで, 思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】 フーコー『言葉と物』研究。毎回, 担当を決め, 担当箇所の概要, 議論すべき論点, 疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ2, 3 週間に一章のペースで進める。

【キーワード】 科学と哲学, 哲学

【履修上の注意】 たくさん本を読むこと。毎回の授業で, 関連する文献を紹介し, また, 研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを手直し, 読み, 報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも1冊, できれば週に1冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】 1. イントロダクション:授業についての説明など 2. 第1章侍女たち (1) 3. 第1章侍女たち (2) 4. 第2章世界という散文 (1) 5. 第2章世界という散文 (2) 6. 第3章表象すること (1) 7. 第3章表象すること (2) 8. 第3章表象すること (3) 9. 第4章語ること (1) 10. 第4章語ること (2) 11. 第4章語ること (3) 12. 第5章分類すること (1) 13. 第5章分類すること (2) 14. 第5章分類すること (3) 15. まとめ

【成績評価】 担当を分担して報告すること、3分の1以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子、議論への参加、学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218879>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4号館 404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 I (その4)

2単位 3年(後期)

山口裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 我々が何かもの考えるときには、さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした、「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは、そうした「思考の前提」を問い直し、明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで、思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】 フーコー『言葉と物』研究。毎回、担当を決め、担当箇所の概要、議論すべき論点、疑問点などを発表してもらい、発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ2、3週間に一章のペースで進める。

【キーワード】 科学と哲学、哲学

【先行科目】 『哲学思想基本研究 I (その1)』(0.9, ⇒170頁)

【履修上の注意】 たくさん本を読むこと、毎回の授業で、関連する文献を紹介します。また、研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを手直し、読み、報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも1冊、できれば週に1冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】 1. イントロダクション:授業の説明など 2. 第6章交換すること (1) 3. 第6章交換すること (2) 4. 第6章交換すること (3) 5. 第7章表象の限界 (1) 6. 第7章表象の限界 (2) 7. 第7章表象の限界 (3) 8. 第8章労働、生命、言語 (1) 9. 第8章労働、生命、言語 (2) 10. 第9章人間とその分身 (1) 11. 第9章人間とその分身 (2) 12. 第9章人間とその分身 (3) 13. 第10章人文諸科学 (1) 14. 第10章人文諸科学 (2) 15. まとめ

【成績評価】 担当を分担して報告すること、3分の1以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子、議論への参加、学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218880>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育 4号館 404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

哲学思想基本研究 II (その1)

2単位 2年(前期)

石田三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 カントの『人倫の形而上学』を読んで、カントの法についての基本的な考え方を学ぶ。

【授業概要】 カントの「人倫の形而上学」の体系は法論と徳論から成る。法と徳はどのように区別され、またどのように関連するのであろうか。また法の強制力とは何であり、徳の義務とは何であろうか。これらをもとにカントの『人倫の形而上学』を読むことによって考えてみたい。

【キーワード】 カント、法、倫理

【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その1)』(0.5, ⇒170頁), 『哲学思想基本研究 III (その1)』(0.5, ⇒172頁)

【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】 カントの権利や契約といった法的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 2~3 家族的社会的権利について (1):婚姻権 3. 4~5 家族的社会的権利について (2):両親の権利 4. 6~7 家族的社会的権利について (3):家長権 5. 8~9 契約について 6.

- 10~11 貨幣について 7. 2~13 書物について 8. 14 取得について 9. 15 相続について:レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】 毎回の出席状況、議論状況を基本的に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業の時に資料を配付する。

【参考書】 『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218881>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜14時~15時)

【備考】 本年度開講せず

哲学思想基本研究 II (その2)

2単位 2年(後期)

石田三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 カントの『人倫の形而上学』を読んで、カントの法についての基本的な考え方を学ぶ。

【授業概要】 カントの「人倫の形而上学」の体系は法論と徳論から成る。法と徳はどのように区別され、またどのように関連するのであろうか。また法の強制力とは何であり、徳の義務とは何であろうか。これらをもとにカントの『人倫の形而上学』を読むことによって考えてみたい。

【キーワード】 カント、徳、義務

【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その2)』(0.5, ⇒170頁), 『哲学思想基本研究 III (その2)』(0.5, ⇒172頁)

【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】 カントの国家法や国際法といった法的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 2~3 国家法について (1):公民的状态, 国家 3. 4~5 国家法について (2):国家の三権力 4. 6~7 国家法について (3):支配者と国民 5. 8~9 国家法について (4):刑罰権と恩赦権 6. 10~11 国家法について (5):国家形式 7. 12~13 国際法について (1):自然状態と戦争 8. 14~15 国際法について (2):戦争と平和 9. 16 総括授業

【成績評価】 毎回の出席状況、議論状況を基本的に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業の時に資料を配付する。

【参考書】 『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218882>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

【備考】 隔年開講, 本年度開講せず。

哲学思想基本研究 II (その3)

2単位 3年(前期)

石田三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 カントの『人倫の形而上学』第二部「徳論の形而上学的基礎論」を読んで、倫理学の基本概念についての考え方を学ぶ。

【授業概要】 カントの「徳論の形而上学的基礎論」は徳や義務について詳細に論じている。徳論は、内的立法のみが可能な法則を対象とし、行為主体に選択の余地がある義務を主題としている。徳論にかかわる義務は自己自身による強制が可能である。『人倫の形而上学』第二部を読むことによって、徳義務のさまざまな問題を考えてみたい。

【キーワード】 カント、徳、義務

【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その3)』(0.5, ⇒170頁), 『哲学思想基本研究 III (その3)』(0.5, ⇒172頁)

【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】 カントの徳や義務といった倫理的概念について自分で考え、討論することができる。

【授業計画】 1. 1. ガイダンス 2. 2~3 徳論への序論 (1):徳論の概念 3. 4~5 徳論への序論 (2):徳の義務と法の義務 4. 6~7 徳論への序論 (3):義務である目的 5. 8~9 徳論への序論 (4):自分の完全性と他人の幸福 6. 10~11 徳論への序論 (5):倫理的義務と法の義務 7. 12~13 徳論への序論 (6):徳の義務 8. 14 徳論への序論 (7):道徳的感情 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】 毎回の出席状況、議論状況を基本的に評価し、学期末にレポートを課す

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業の時に資料を配付する。

【参考書】 『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218883>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

哲学思想基本研究 II (その4)

2 単位 3 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 カントの『人倫の形而上学』第二部「徳論の形而上学的基礎論」を読んで、倫理学の基本概念についての考え方を学ぶ。

【授業概要】 カントの「徳論の形而上学的基礎論」は徳や義務について詳細に論じている。徳論は、内的立法のみが可能な法則を対象とし、行為主体に選択の余地がある義務を主題としている。徳論にかかわる義務は自己自身による強制が可能である。『人倫の形而上学』第二部を読むことによって、徳義務のさまざまな問題を考えてみたい。

【キーワード】 カント, 徳, 義務

【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その4)』(0.5, ⇒171 頁), 『哲学思想基本研究 III (その4)』(0.5, ⇒172 頁)

【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な参加と準備・議論を期待する。

【到達目標】 カントの徳の概念について自分で考え、討論することができ。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 2~3 徳論への序論 (8);良心について 3. 4~5 徳論への序論 (9);尊敬について 4. 6~7 人倫の形而上学の一一般の原則 5. 8~9 徳一般について 6. 10~11 徳論を法論から分ける原理について 7. 12~13 徳と自分の支配 8. 14 徳と無情念 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業

【成績評価】 毎回の出席状況、議論状況を基本に評価し、学期末にレポートを課す。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業の時に資料を配付する。

【参考書】 『世界の名著 32 カント』中央公論社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218884>

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~15時)

哲学思想基本研究 III (その1)

2 単位 2 年 (前期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】 哲学史上の基本的著作の講読

【キーワード】 存在と認識, 倫理と宗教, 自然, 文化, 宗教

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒169 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒169 頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒169 頁)

【履修上の注意】 根気よくテキストとつきあってください。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】 原典に向き合い、原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。

【授業計画】 1. 2011 年度は、波多野精一の『時と永遠』を講読する。2. 授業は 15 週行い、16 週目は成績評価と評価の講評にあてる。

【成績評価】 期末の試験は行わない。講読にあたっては、毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて、総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。

【再試験】 行わない。

【教科書】 「波多野精一全集」(第四巻に所収)や単行本(いずれも岩波書店刊)が大学図書館にあるので、受講者はそれを借り出されたい。

【参考書】 参考文献等は授業の中で紹介する。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218885>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)

【備考】 2011 年度前期

哲学思想基本研究 III (その2)

2 単位 2 年 (後期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】 哲学史上の基本的著作の講読

【キーワード】 存在と認識, 倫理と宗教, 自然, 文化, 宗教

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒169 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒169 頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒169 頁)

【履修上の注意】 根気よくテキストとつきあってください。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】 原典に向き合い、原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。

【授業計画】 1. 前期のシラバスを参照。2. 授業は 15 週行い、16 週目は成績評価と評価の講評にあてる。

【成績評価】 期末の試験は行わない。講読にあたっては、毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて、総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。

【再試験】 行わない。

【教科書】 前期のシラバスを参照。

【参考書】 参考文献等は授業の中で紹介する。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218886>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)

【備考】 2011 年度後期

哲学思想基本研究 III (その3)

2 単位 3 年 (前期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】 哲学史上の基本的著作の講読

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒169 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒169 頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒169 頁)

【履修上の注意】 根気よくテキストとつきあってください。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】 原典に向き合い、原典に即して考える(これは「批判的」であることを排除しない)姿勢を身につけること。

【授業計画】 1. 授業内容は未定。2. 授業は 15 週行い、16 週目は成績評価と評価の講評にあてる。

【成績評価】 期末の試験は行わない。講読にあたっては、毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて、総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。

【再試験】 行わない。

【教科書】 未定

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218887>

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, sh oichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12時から13時)

【備考】 2012 年度前期

哲学思想基本研究 III (その4)

2 単位 3 年 (後期)
吉田 昌市・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作、あるいはそれに関連する文献を講読する。テキストの精読を通して、哲学的思想を読解し理解するために必要な基礎的訓練を与える。取り上げる思想家の著作が外国語で書かれている場合には、日本語訳を用いることもある。

【授業概要】 哲学史上の基本的著作の講読

【関連科目】 『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒169 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒169 頁), 『比較思想研究』(0.5, ⇒169 頁)

【履修上の注意】 根気よくテキストとつきあってください。平成 13 年度以降に入学した学生が対象です。

【到達目標】 原典に向き合い、原典に即して考える（これは「批判的」であることを排除しない）姿勢を身につけること。
 【授業計画】 1. 授業内容は未定。 2. 授業は15週行い、16週目は成績評価と評価の講評にあてる。
 【成績評価】 期末の試験は行わない。講読にあたっては、毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう。その発表の様子や毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて、総合的に成績評価をする。期末にレポートの提出を求める場合もある。
 【再試験】 行わない。
 【教科書】 未定
 【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218888>
 【連絡先】
 ⇒ 吉田（総合科学部 1号館 1N11 室（北棟 1階）, 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp）（オフィスアワー：水曜 12時から13時）
 【備考】 2012 年度後期

哲学思想基本研究 IV (その 1) 2 単位 2 年 (前期)
 石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 ヘーゲルの『法（権利）の哲学』を読んで、家族、市民社会および国家のあり方について考える。
 【授業概要】 欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか。諸個人が「私人」として、自分個人の利益を追求する社会とはいかなる社会であるのか。欲求や労働とは何であるのか。この授業ではこういった問題を考える手がかりを、ヘーゲルの『法（権利）の哲学』に求め、現代の社会や国家のあり方について考える。
 【キーワード】 ヘーゲル、市民社会、国家
 【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.5, ⇒170 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 1)』(0.5, ⇒172 頁)
 【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。
 【到達目標】 ヘーゲルの市民社会や国家に関わる事柄について自分で考え、討論することができる。
 【授業計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2~3 市民社会について (1):労働の仕方 3. 4~5 市民社会について (2):資産 4. 6~7 市民社会について (3):身分 5. 8~9 市民社会について (4):司法活動 6. 10~11 市民社会について (5):法律としての 7. 12~13 市民社会について (6):法律の現存在 8. 14 市民社会について (7):裁判 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業
 【成績評価】 毎回の出席状況、報告状況を基本に評価し、学期末に簡単なレポートを課す。
 【再試験】 実施しない
 【教科書】 授業の時に資料を配付する。
 【参考書】 ヘーゲル『法の哲学』I, II(中公クラシックス)
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218889>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：水曜 14時~15時)
 【備考】 本年度開講せず、平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 2) 2 単位 2 年 (後期)
 石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 ヘーゲルの『法（権利）の哲学』を読みながら、市民社会や国家のあり方について考える。
 【授業概要】 欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか。社会における、司法活動、法律とはいかなるものであるのか。国家の制度とはいかなるものか。この授業ではこれらの問題を考える手がかりを、ヘーゲルの『法（権利）の哲学』に求め、現代の社会や国家のあり方について考える。
 【キーワード】 ヘーゲル、市民社会、国家
 【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その 2)』(0.5, ⇒170 頁), 『哲学思想基本研究 III (その 2)』(0.5, ⇒172 頁)
 【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。
 【到達目標】 社会や国家とは何か、等について自分で考え、討論することができる。
 【授業計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2~3 市民社会について (8):訴訟手続き 3. 4~5 市民社会について (9):福祉行政 4. 6~7 市民社会について (10):貧困 5. 8~9 市民社会について (11):職業団体 6. 10~11 国家について (1):国家の概念 7. 12~13 国家について (2):国家の理

念 8. 14 国家について (3):国内公法 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業
 【成績評価】 毎回の出席状況、意見発表を基本に評価し、学期末に簡単なレポートを課す。
 【再試験】 実施しない
 【教科書】 授業の時に資料を配付する。
 【参考書】 ヘーゲル『法の哲学』II(中公クラシックス)
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218890>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：水曜 14時~15時)
 【備考】 本年度開講せず、平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 3) 2 単位 3 年 (前期)
 石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 ヘーゲルの『法（権利）の哲学』を読みながら、市民社会や国家のあり方について考える。
 【授業概要】 欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか。社会における、司法活動、法律とはいかなるものであるのか。国家の制度とはいかなるものか。この授業ではこれらの問題を考える手がかりを、ヘーゲルの『法（権利）の哲学』に求め、現代の社会や国家のあり方について考える。
 【キーワード】 ヘーゲル、市民社会、国家
 【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その 1)』(0.5, ⇒170 頁)
 【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。
 【到達目標】 ヘーゲルの国家に関する事柄について自分で考え、討論することができる。
 【授業計画】 1. 1 ガイダンス 2. 国家について (4):近代国家 3. 国家について (5):主体的自由の実現態としての国家 4. 国家について (6):職業選択の自由 5. 国家について (7):国家・家族・市民社会 6. 国家について (8):国家の目的 7. 国家について (9):国家的心術 8. 国家について (10):国家の目的 9. レポートの課題提示 10. 16 総括授業
 【成績評価】 毎回の出席状況、報告状況を基本に評価し、学期末に簡単なレポートを課す。
 【再試験】 実施しない
 【教科書】 授業の時に資料を配付する。
 【参考書】 ヘーゲル『法の哲学』II(中公クラシックス)
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218891>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：水曜 14時~15時)
 【備考】 本年度開講せず、隔年開講、平成 24 年度開講

哲学思想基本研究 IV (その 4) 2 単位 3 年 (後期)
 石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】 ヘーゲルの『法（権利）の哲学』を読みながら、市民社会や国家のあり方について考える。
 【授業概要】 欲求の体系としての市民社会とはいったいどのような仕組みで成り立っているのか。社会における、司法活動、法律とはいかなるものであるのか。国家の制度とはいかなるものか。この授業ではこれらの問題を考える手がかりを、ヘーゲルの『法（権利）の哲学』に求め、現代の社会や国家のあり方について考える。
 【キーワード】 ヘーゲル、市民社会、国家
 【関連科目】 『哲学思想基本研究 I (その 2)』(0.5, ⇒170 頁)
 【履修上の注意】 演習形式で授業を進めるので、演習時間毎に予習が不可欠である。学生諸君の積極的な準備と参加・発表を期待する。
 【到達目標】 ヘーゲルの国家に関する事柄について自分で考え、討論することができる。
 【授業計画】 1. 1 ガイダンス 2. 2~3 国家について (11):国家と宗教 3. 4~5 国家について (12):国家と教会 4. 6~7 国家について (13):国内体制 5. 8~9 国家について (14):政治的国家 6. 10~11 国家について (15):君主権 7. 12~13 国家について (16):国民主権 8. 14 国家について (17):統治権 9. 15 レポートの課題提示 10. 16 総括授業
 【成績評価】 毎回の出席状況、報告状況を基本に評価し、学期末に簡単なレポートを課す。
 【再試験】 実施しない
 【教科書】 授業の時に資料を配付する。
 【参考書】 ヘーゲル『法の哲学』II(中公クラシックス)
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218892>
 【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 14時~15時)

【備考】本年度開講せず。隔年開講。平成 24 年度開講

アジア社会研究 I

2 単位 2 年 (後期)
荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】今年度の授業は台湾が舞台。
【授業概要】有史以前から現代まで、台湾史通覧
【キーワード】台湾社会
【関連科目】『アジア地域交流史』(0.5, ⇒5 頁)
【到達目標】台湾社会に対する認識を深める。
【授業計画】1. 今年の授業は台湾史。 2. 有史以前から大航海時代、漢民族移民の増加、ヨーロッパ型近代との衝突、日本植民地時代、戦後台湾というトピックを扱う
【成績評価】授業態度は評価を受ける前提。レポート或いは期末試験にて評価。
【再試験】無
【教科書】教科書はない。教材は配布する。
【参考書】おって指示。
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219046>
【連絡先】
⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp)

アジア社会研究 II

2 単位 2 年 (後期)
荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【授業目的】中国史の近世・近代にかけての基礎知識を学ぶ。
【授業概要】中国は我が国とは異なる社会である。この社会の有様をその基層から考察する。
【キーワード】中国社会, 近世・近代・現代
【履修上の注意】中国史について全く勉強したことがない学生も、分かるよう、理解しようという熱意がある限り、受講できる。授業中の睡眠や携帯電話の使用は一切認めない。
【到達目標】中国社会についての理解を深める
【授業計画】1. ガイダンス 2. 伝統中国の地域 3. 家族のあり方 4. 村落の構造 5. 鎮(町)と村落 6. 州県 人口数十万人の世界 7. 州県と国家 8. 大明帝国 9. 大清帝国 10. 中華世界の素描 11. テスト
【成績評価】授業態度は評価の前提である。授業態度が良好と認められた学生に対しては、期末試験で評価を行う。
【再試験】なし。
【教科書】おって指示
【参考書】おって指示
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219047>
【連絡先】
⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝一コマ目が望ましい。)
【備考】平成 24 年度開講

アジア史研究 III

2 単位 2 年 (後期)
葎森 健介・教授/人間文化学科

【授業目的】東アジアの古代から近世に至る歴史(の流れ、東アジアの文化の特質とその歴史的背景を理解し、東アジア史(日本を含む)を学ぶ意味について考える力を養う。
【授業概要】東アジア文化の核となる中国文化の形成と発展、周辺への影響、及びその背景にある社会の変化について、中国史の流れをおいつつ、アジアの歴史の特性について講義する。
【キーワード】アジア史, 地域社会, 時代区分論
【履修上の注意】高校までの世界史、日本史の知識を復習しておいてほしい。なおこの授業は3年に一回開講。25度は開講予定、23年度、24年度は開講しない。
【到達目標】日本を含むアジア史の流れを理解し、自分たちが立つ位置を自覚し、将来歴史の教師となった際にも生徒に世界的な観点から日本史を授業しうる能力を涵養する。
【授業計画】1. 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る 2. 歴史理論と中国史研究、-日本における東洋史研究の始まり 3. アジアにおける古代・中世・近代-戦後の時代区分論争 4. 中華文明の発生と展開 5. 中国における専制国家の成立と展開 6. 三国志の時代とは-アジアの古代から中世への展開 7. 貴族制と官僚制-東アジアの中世とは 8. 律令制の成立と受容-中国の中世・日本の古代 9. 唐宋変革の意味-東アジアにおける近世 10. 中国における土地制度の変遷-均田農民から佃戸へ 11. 中国における都市と商業の発展-東洋

のルネッサンス 12. 近世の科挙制度と西洋の絶対王政 13. 中国革命への道筋-近世儒教の革新 14. 歴史の伝統と現代中国の課題-和諧社会は達成できるか? 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】小テスト、期末試験を総合的に評価
【再試験】再試験はしない
【教科書】プリント配布、ただし、高校の日本史、世界史の教科書を持参のこと
【参考書】授業中に適宜紹介
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219042>
【連絡先】
⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~15:00)
【備考】三年一回開講する。23, 24 年度は開講しない。

日本史研究 I

2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
桑原 恵・教授/人間文化学科

【授業目的】日本の古代から近代に至る歴史を概説的に講義する。日本史の通史的な流れを理解する。
【授業概要】古代から近代までの日本史について、トピック的に史料を提示して、社会の変化を理解し、史料にもとづいて歴史的事実を確認することについて考察する。四国や徳島の事例を取り入れることで、地域への理解を深めるように努める
【キーワード】日本史, 通史
【関連科目】『日本史研究 II』(0.5, ⇒19 頁)
【履修上の注意】史料を配布して、講義を進めるが、受講生の意見や質問も受けながら、講義を進めたい。積極的に講義に参加されることを期待する。
【到達目標】
1. 日本の通史を理解する。
2. 社会の変化がどのような要因でなされたかを理解する。
【授業計画】1. クニから国家へ(大王の国家) 2. 律令国家の成立 3. 平安朝の政治と宗教勢力 4. 荘園制の成立と展開 5. 武家政治の展開 6. 鎌倉新仏教の登場 7. 南北朝の内乱と室町幕府 8. 室町幕府の政治と外交 9. 一揆の展開 10. 自力の時代 11. 豊臣政権の成立 12. 江戸時幕府の確立と支配 13. 近世の都市と農村 14. 近世社会の変動と明治維新 15. 総括授業
【成績評価】出席状況に加えて、平常点として的小テストを2回程度行い、期末テストの成績を合わせて、総合的な評価を行う。
【再試験】行わない。
【教科書】教科書や参考書は、特に指定しない。講義に使用するプリントは適宜配布する。
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219288>
【連絡先】
⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールでの連絡があれば、時間調整します。megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

文化人類学研究 I

2 単位 2 年 (前期)
高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】文化人類学の中心的なテーマについて講義する。世界の諸民族の事例を通して、人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し、異文化(および自文化)の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である。グローバリゼーションの中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい。
【授業概要】文化人類学の基本問題
【キーワード】文化, 現代社会, グローバリゼーション
【関連科目】『民俗学研究 I』(0.5, ⇒175 頁)
【履修上の注意】受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。
【到達目標】人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化(自文化)の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。
【授業計画】1. 文化人類学のパースペクティブ 2. 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ 3. 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 4. 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 5. 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ 6. 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム 7. ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ 8. 現代医療と文化-新生殖技術をめぐる 9. メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 10. グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム 11. 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 12. ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの

事例より 13. 民族の「はぎま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ 14. 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか 15. 「転換期」の時代の文化人類学 16. まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる。個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類学入門-古典と現代をつなぐ20のモデル』弘文堂、2005年
- ◇ 中島成久編『グローバル化のなかの文化人類学案内』明石書店、2003年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書、1982年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣、2008年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219280>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~13時)

【備考】本年度開講(隔年開講)

民俗学研究 I

2 単位 2 年 (後期)

高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】日本民俗学の主な研究目的は、各地に見られる民俗(一般の人々が日常生活の中で育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式)の持つ意味を明らかにし、さらにそれらの比較検討を通して、日本の基層文化を究明することにある。このような過去適的=歴史学的側面を持つ一方で、日本民俗学は、民俗の変化とその要因の解明、あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している。本授業では、こうした日本民俗学の基本概念について概説する。

【授業概要】日本民俗学の基本問題

【キーワード】民俗、日本文化

【関連科目】『文化人類学研究 I』(0.5, ⇒174 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。

【到達目標】日本民俗学の基本的な概念を理解し、過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる。

【授業計画】1. 民俗学の考え方(民俗学の研究対象・目的・方法) 2. 社会の民俗(イエとムラの民俗) 3. 環境の民俗(景観・地形と民俗) 4. 生業の民俗(海・山・里の生業と民俗) 5. 時間の民俗(年中行事と民俗) 6. 生と死の民俗(出産・葬儀の民俗) 7. 神と霊魂の民俗(祖先祭祀、他界観と民俗) 8. 境界と怪異の民俗(異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) 9. 性と民俗(女性の民俗、男性の民俗) 10. 語りの民俗(昔話・伝説・民間話の民俗) 11. 都市の民俗(生成・変容する都市民俗)(1) 12. 都市の民俗(生成・変容する都市民俗)(2) 13. 観光と民俗(民俗の「発見」と「活用」) 14. 比較民俗学への道(環東シナ海文化圏の民俗) 15. 民俗研究の課題と展望(現代社会と民俗、民俗学の現代的意義) 16. まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館、1996年
- ◇ 松崎憲三他編『民俗学の冒険』1~4, ちくま新書、1999年
- ◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~10 巻, 雄山閣、1998-2000年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219310>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】本年度開講せず(隔年開講。次回は平成24年度開講予定)

家族社会学研究

2 単位 2 年 (後期)

梶田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】家族をめぐる近年の状況を批判的に読み解く力を養うこと。
【授業概要】家族社会学の講義である。現代の家族に関する興味深いトピックをとりあげて、社会学的に解説する。講義を通して、個々の受講生が自分の家族観を相対化していく作業を行うことを期待している。

【キーワード】家族、子ども、アジア、社会学

【履修上の注意】毎回出席をとりまします。3分の1以上の欠席は「不可」になるので注意してください。

【到達目標】家族についての社会学の基礎的な知識を習得する。

【授業計画】1. オリエンテーション I 近代家族の誕生と変容 <子ども>の誕生 2. I 近代家族の誕生と変容 <母親>の誕生 3. I 近代家族の誕生と変容 <子ども>の終焉? 4. I 近代家族の誕生と変容 <家族の私事化・個人化、主観化> 5. II 家族と「問題」 <病巣としての家族(アダルトチルドレン、共依存)> 6. II 家族と「問題」 <家族ストレス論> 7. 家族と「問題」 <日本で婚外子はなぜ少ないか?> 8. III 家族と「問題」 <生殖補助技術と家族> 9. 家族と「問題」 <家庭科教科書問題> 10. 家族と「問題」 <家族の養育機能は低下しているのか?> 11. IV 労働としての家族相互作用 <家事労働と感情労働> 12. V 演技としての家族相互作用 <表層演技と深層演技> 13. VI アジアの家族主義 <福祉機能としての家族(日本の公的介護保険の誕生と変容)> 14. VI アジアの家族主義 <福祉機能としての家族(国際結婚と海外出稼ぎ)> 15. まとめ

【成績評価】リアクションペーパー(出席点を含む)と学期末のレポート。

【再試験】おこなわない

【教科書】教科書指定なし。参考書として『21世紀アジア家族』(落合恵美子・上野加代子編, 明石書店)。詳しい文献情報は毎回のレジュメに記載。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219214>

【連絡先】

⇒ 梶田 (工学部キャンパス SVBL 棟3階プロジェクト研究室1に常駐。1号館南棟1階1S19 ほととぎさ, 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日:14:00 から 15:00)

【備考】平成20年度は開かず。平成19年度、21年度、23年度に開講予定(隔年開講)。

社会変動研究

2 単位 2 年 (前期)

樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが、社会変動論の特徴である。本講義では、そのうち現代社会の特質を把握するためのさまざまな議論を、個別領域毎に解説していき、今年度は、今後わたしたちが生きていく21世紀の特質を、過去との比較という観点からみていきたい。受講者には、自分たちが現在生活している現代社会を自分なりに理解する機会としてほしい。理解を助けるための映画を1回鑑賞するほか、受講生が過度に多くなければグループ・ディスカッションもしてもらおう。

【授業概要】21世紀はどういう社会なのか

【履修上の注意】この講義では、社会学の基本的な概念の解説も盛り込んでおり、社会学入門的な性格も持たせてある。ただし、知識そのものを覚えてもらうことは重視しない。社会学的な思考法を学んでもらうこと、現代社会の課題や問題を自分のこととしてとらえ、自分なりの意見を持ってもらうことを重視する。そのため、毎回課題について簡単なコメントを書いてもらい、評価に加える。

【到達目標】自分で選択したテーマについて、文献を読んでデータを集め、レポートを書けるようになる(詳細は後述)。

【授業計画】1. 1. イントロダクション 2. 2. 情報化とネットワーク社会の誕生 3. (1) 情報社会と都市の盛衰 4. (2) 情報技術と社会関係の変容 5. 3. 個人化する社会 6. (1) 個人化する家族—社会の個人化とは何か 7. (2) 新宗教と社会変動 8. 4. 身体をめぐる政治 9. (1) 身体は誰のものか?—中絶をめぐる政治 10. (2) 生殖技術と身体への介入 11. (3) 生殖技術に関わる映画鑑賞 12. (4) 生殖技術をめぐるグループ・ディスカッション 13. 5. リスク社会としての現代 14. (1) リスク社会の誕生 15. (2) リスクの何が問題なのか 16. 6. 福祉国家と労働市場の再編 17. (1) 誰が福祉を担うのか? 18. (2) 正社員からフリーターへ?

【成績評価】成績評価はレポートと出席点による。6月に提出してもらったレポートの原案にコメントをつけて返却する。受講者は、それをもとにレポートを完成させて8月に提出する。毎回提出してもらった小テストが40点、レポートの計画書が10点、レポートが50点という配分になる。評価基準やレポートのテーマ設定、書式など詳しくは初回に説明するので、必ず出席すること。

【再試験】レポート計画書を提出している者に対して認める

【教科書】

- ◇ 毎回レジュメを配布する。関連する文献リストを初回に配布する。レポート作成にあたっては、参考文献を5点以上読んで引用することが求められる。
- ◇ 参考書 落合恵美子『21世紀家族へ』有斐閣
- ◇ 参考書 ウルリヒ・バック『危険社会』法政大学出版局
- ◇ 長谷川公一『社会学』有斐閣

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219394>

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: (前期)水曜日 12時~13時)

【備考】平成 24 年度開講

地誌学

2 単位 2 年 (前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】伝統的生活空間である村落の成立は、土地開発の歴史と深く関連している。この授業では、日本および欧米等における土地開発の進展と村落の立地・特徴について代表的な事例を取り上げ、歴史地理学的・集落地理学的な視点から総観するものである。また、こうした事例を通じて、人間と自然との関わりや、東西文化の共通点や相違点についても論じていくことにしたい。

【授業概要】日本および欧米の村落

【キーワード】地理学、地誌学、村落

【履修上の注意】この授業科目は、教員免許取得 (中学校・社会/高校・地歴) のための科目でもある。旧カリキュラムの「日本地誌」もしくは「欧米地誌」の、いずれか 1 科目への読み替えが可能である。本授業では随時、OHP やパワーポイントなどを使用するが、ノートの取り方は各自が工夫すること。

【到達目標】日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について、時間的・空間的な展開の中で理解するとともに、地域的な差異の特徴について把握できるようにすること。

【授業計画】1. 村落の定義 2. 村落の立地環境 3. 村落の形態 4. 古代日本の土地開発と条里制 5. 古代日本の集落形態 6. 中世起源の環濠集落と豪族屋敷村 7. 散村地域の形成と展開 8. 近世日本の新田開発 9. 北海道の開発と殖民地区画 10. 古代中国 ローマにおける方格地割 11. ヨーロッパにおける集落形態 12. 耕地制と三圃式農業 13. 中世大開墾時代の開拓村 14. 囲い込み運動と散居農場 15. 北米フロンティアのタウンシップと散居農場 16. 授業のまとめ

【成績評価】本授業は講義形式で行うが、授業中に数回行う小テストや課題、授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と、期末試験 (持ち込み不可) 結果による評価を併用して行う。

【再試験】再試験はない。

【教科書】とくに教科書は使用せず、必要な資料は随時配布する。中学校もしくは高校で使用した地図帳を準備しておくことよい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219200>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館中棟1階 火・金曜日12:00~13:00)

【備考】平成 23 年度開講。隔年開講のため、平成 24 年度は開講しない。

ジェンダー研究

2 単位 2 年 (後期), 3 年 (後期), 4 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科, 平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】現代日本におけるセクシュアルマイノリティについて、社会的に理解する。

【授業概要】私たちは、日常生活の中で、他者と関わらずにはいられない。私たちはちらと見られたりじっと見つめられたりさえることに始まり、身振りを示し合ったり、ことばをやりとりすることで、他者を何者かだと判断しながら、他者とやりとりをしている。それによって、私たちの日常生活は営まれていると言える。そのような他者とのやりとり―相互行為―は、秩序だったものである。つまり、相互行為には決まり事がある。それが、どのようなものであるのかを、女だけでなく女が好きだったり、女に生まれたけれど男として生きようとしているような人びと―セクシュアルマイノリティー―の経験から見ていく。その経験から、私たちが当たり前で生きている性別に関わる秩序が、そのようなものを一緒に振り返り、それによって、私たちが生きている社会がどのような社会であるのかを考えていく。なお、授業中に書いてもらいうりアクションペーパーによって、質問を受け付け、また理解度を確認する。

【キーワード】ジェンダー、身体、社会学、性同一性障害、スティグマ、パッシング、セクシュアルマイノリティ、カミングアウト、性自認

【履修上の注意】適宜資料を配付し、文献を紹介する。

【到達目標】現代日本におけるセクシュアルマイノリティについて、社会的に理解する。

【授業計画】1. 自己紹介、講義のイントロダクション 2. セクシュアルマイノリティと基本用語の説明 3. ドラマ「わたしがわたしであるために」(1) 4. ドラマ「私が私であるために」(2)・次回の導入(スティグマとパッシング) 5. 性同一性障害と相互行為 6. 医療(1)性同一性障害の精神療法の実例(映像含む) 7. 医療(2)性別の基準を再考する 8. 性同一性障害者特例法 9. レズビアン(1)カミングアウト(映像含む)・婚姻の問題(1)映画「ウーマンラプアマン」(1) 10. 婚姻の問題(様々な法律と婚姻形態) 11. 「ウーマンラプアマン」(2)(3)解説 12. 性的指向と性自認再考 13. いかにして「ふつう」

の外見に駆り立てられるのか(1) 14. いかにして「ふつう」の外見に駆り立てられるのか(2) 15. 多様になってきている「性同一性障害」のあり方 16. ドキュメンタリー「まんこ独り語り」(まとめ)

【成績評価】レポートによって理解度を確認する。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。

【参考書】加藤秀一・石田仁・海老原暁子,2005,『図解雑学ジェンダー』ナツメ社。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219061>

【連絡先】

⇒ 北村 .
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 21 年度開講 (隔年開講)。平成 21 年度の本授業は夏期集中として、9月24日 8:40 から 27日 11:55 にかけて開講される見込みです。

経済原論 I

2 単位 2 年 (前期, 集中)
眞弓 浩三・教授/社会創生学科

【授業目的】経済科学におけるミクロ分析的な手法を学ぶ。

【授業概要】標準経済学の企業の理論とゲーム理論の初歩的手法を学習する。

【到達目標】標準経済学のミクロ理論について精通する。

【授業計画】1. 数学の準備:微分の基礎 2. 数学の準備:多変数関数の微分 3. 数学の準備:制約条件付極値問題 4. 企業理論:導入 5. 独占1:行動形態 6. 独占2:課税とその影響 7. 独占的競争:導入 8. 独占的競争:行動形態 9. ゲーム理論:導入 10. ゲーム理論:クルーナーの複占理論 11. ゲーム理論:シュタッセルベルクの複占理論 12. ゲーム理論:マーケットシェア 13. 寡占:導入 14. 寡占:行動形態 15. 定期試験 16. 総括

【成績評価】通常の試験の結果のみで判断する。平常点などというものはない。プロセスよりも結果だけが大切であることを理解せよ。

【教科書】教科書は指定しない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219419>

【連絡先】

⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午後、あらかじめメールで連絡ください。)

金融論 I

2 単位 3 年 (前期)
趙 彤・准教授/社会創生学科

【授業目的】長い人生において、貯蓄したり、住宅のためのローンを借りたりすることがあるし、さらには、保険、株式、信託などの金融商品と向き合うこともあるだろう。この授業では、皆さんがこれから社会人として必要となる金融知識を教えることを目的としている。マクロ経済学から出発し、経済全体のメカニズムを学習した上、金融論に進み、金融論に関わりの深い部分を重点的に講義する。さらに、財政政策と金融政策についても時間を割り当てて解説する予定である。

【授業概要】金融論を学ぶためのマクロ経済学基礎

【履修上の注意】数学に関しては、微分についての高校教科書レベルの知識があれば十分であるし、授業中も必要に応じて説明する。原則として毎回の授業の最後 15 分ぐらいを小レポートの時間に当てる。

【到達目標】マクロ経済学及び金融の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。

【授業計画】1. (1) 講義のガイダンス (1 回) 2. (2) マクロ経済学の諸概念 (2 回) 3. (3) 国民所得の決定メカニズム (2 回) 4. (4) 貨幣の需要と供給 (2 回) 5. (5) IS-LM 分析 (3 回) 6. (6) 金融・財政政策の効果 (2 回) 7. (7) 新古典派とケインズ派の経済体系の比較 (1 回)

【成績評価】出席と期末試験

【再試験】原則的に行わないが、病気等の止むを得ない事情の場合のみ実施する。

【教科書】

◇ マンキュー 「マクロ経済学 I 入門篇」 東洋経済新報社
◇ マンキュー 「マクロ経済学 II 応用篇」 東洋経済新報社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219477>

【連絡先】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00-14:30 088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp (@を半角して下さい))

【備考】総合科学部 1 号館 3 階中棟、オフィスアワー以外の時間でも事前にメールで連絡をしてもらえれば対応できる

国際関係論 I

2 単位 3 年 (前期)
養場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】米ソがらみ合った冷戦中は、明日にも第三次世界大戦が起き、核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった。89年、米ソ首脳が握手をかわし、幸運にも人類は冷戦を脱した。ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが、まもなく幻滅が広がった。噴出する内戦・民族紛争と、拡大する貧富の格差。新たな試練に苦悶するうちに世紀が変わると、9/11テロの衝撃が世界を揺るがした。そして今、アフガン戦争、イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され、国際社会はいったい、どこに行こうとしているのか。この授業では、こうした変動する現代国際社会の現実を知り、そこで生起する諸問題について、特に平和と戦争に関する観点を中心に、考察する。

【授業概要】国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ。授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも、筆者のフィールドワーク(紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など)や、新聞記者の経験などに基づく「教科書に載っていない」解説も試みたい。また、適宜、時事的な国際ニュースも取り上げ、ビデオやスライドも使う。国際関係論Ⅰでは、主に総論的、理論的、概念的な問題を扱う。

【履修上の注意】国際関係論ⅠとⅡはそれぞれ独立しており、一方だけ受講することもできるが、Ⅰで総論的、基礎的な解説を行い、Ⅱではそれを元に各論的、発展的な内容になる面もあるので、連続して受講する方が望ましい。

【到達目標】

1. 国際社会の性質、特徴を理解すること。
2. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係、実態を知ること。
3. 国際政治と国際法の基本について、とらえ方、原理、原則を把握すること。
4. 「冷静な現実主義」と、「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと。

【授業計画】1. (日) 国際社会の成り立ちと特徴(1) 2. (日) 国際社会の成り立ちと特徴(2) 3. 国際法の基本(1) 4. 国際法の基本(2) 5. 国際社会を見る理論的枠組(1) 6. 国際社会を見る理論的枠組(2) 7. 国際安全保障の諸理論(1) 8. 国際安全保障の諸理論(2) 9. 民族とアイデンティティ(1) 10. 民族とアイデンティティ(2) 11. 民族紛争(ルワンダ、旧ユーゴ、コソボなど)(1) 12. 民族紛争(ルワンダ、旧ユーゴ、コソボなど)(2) 13. 戦争の違法化(1) 14. 戦争の違法化(2) 15. 補足と総括 16. 試験

【成績評価】授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらおうが、それ末で出欠の確認も行う。試験は論述式(短答式と長文論述併用)の期末試験を行う。持ち込み不可。成績は試験の結果に、出席状況、授業中の質疑応答などを加味して判断する。

【再試験】行わない。ただし、僅差で合格点に達しない受講者には、一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える。

【教科書】教科書は特に指定せず。授業中に配布するレジュメ、資料に沿って解説する。参考書などは適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219152>

【連絡先】

⇒ 養場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~14:30, 金曜日14:30~16:00。この時間以外でも在室時は随時可。)

国際関係論Ⅱ

2単位 3年(後期)
養場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】国際関係論Ⅰを参照。

【授業概要】国際関係論Ⅰを参照。

【履修上の注意】国際関係論Ⅰを参照。

【到達目標】国際関係論Ⅰを参照。

【授業計画】1. 正戦論(1) 2. 正戦論(2) 3. 9/11テロとアメリカ(1) 4. 9/11テロとアメリカ(2) 5. 国連の成り立ち、機能、国連による安全保障(1) 6. 国連の成り立ち、機能、国連による安全保障(2) 7. 人道的介入(1) 8. 人道的介入(2) 9. 平和の意味、構造的暴力、非暴力主義(1) 10. 平和の意味、構造的暴力、非暴力主義(2) 11. 核兵器とゲーム理論(1) 12. 核兵器とゲーム理論(2) 13. 日本の安全と憲法、自衛隊、平和構築(1) 14. 日本の安全と憲法、自衛隊、平和構築(2) 15. 補足と総括 16. 試験

【成績評価】国際関係論Ⅰを参照。

【再試験】国際関係論Ⅰを参照。

【教科書】国際関係論Ⅰを参照。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219153>

【連絡先】

⇒ 養場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 国際関係論Ⅰを参照。)

世界経済論Ⅰ

World Economy 1

2単位 3年(前期)
水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は、その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し、その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた。講義では、この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う。

【授業概要】世界経済(国際経済)の歴史と理論

【履修上の注意】「世界経済論Ⅰ」(前期)として2単位を認定するが、「世界経済論Ⅱ」(後期)と併せて通年で受講するのが望ましい。前期で終了できなかった項目については、後期「世界経済論Ⅱ」で扱う。17年度は「国際貿易論」「多国籍企業論」が開講されるので、授業計画の(4)(5)は、簡単に触れるにとどめる。

【到達目標】学説史、学説、現状に係わる論点の理解。

【授業計画】1. 以下のテーマについて番号順に取り扱う。1. テーマ1講義を予定するが、進捗状況によっては次回の講義に繰り越すこともある。時間があれば〔補論〕に進む。 2. 1. 産業資本主義以前の世界経済(遠隔地貿易と重商主義) 3. 2. 自由貿易論の系譜(1)(Adam Smithの時代と貿易論) 4. 3. 自由貿易論の系譜(2)(D.Ricardoの時代と貿易論) 5. 4. 自由貿易論の系譜(3)(J.S.Mill/A.Marshallの時代と貿易論) 6. 5. 世界経済構造の批判的理解(1)(K.Marxの「プラン」後半体系) 7. 5. 世界経済構造の批判的理解(2)(K.Marxの時代と植民地・世界市場論) 8. 7. 保護貿易論の系譜(1)(途上国のTCC批判:ドイト歴史学派) 9. 8. 保護貿易論の系譜(2)(複数の帝国主義国と植民地経済圏) 10. 9. 世界経済構造の批判的理解(3) 11. (レニニ『帝国主義論』:世界大戦の原因) 12. 10. 保護貿易論の系譜(3) 13. (「相対的安定期」・1929年世界恐慌と「ブロック経済」) 14. (補論)帝国主義論の系譜(1) 15. (Hobson,Kautsky,Rosa Luxemburgの帝国主義論) 16. (補論)帝国主義論の系譜(2) 17. (自由貿易帝国主義論:レニニ『帝国主義論』批判) 18. (補論)国民経済・世界市場の規定(大塚・木下・村岡の議論)

【成績評価】筆記試験

【再試験】なし

【教科書】講義中に配付する資料を用いる。

【参考書】参照すべき図書は、適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219089>

【連絡先】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義終了後(研究室ドアに掲示)。E-mail:mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp, 電話:088-656-7188(研究室))

【備考】2009年度から、構成を変更する。このため2008年度から授業構成を変更する部分が出てくるので、上記は目安としてのみ理解してください。

世界経済論Ⅱ

World Economy 2

2単位 3年(後期)
水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は、その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し、その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた。講義では、この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う。

【授業概要】世界経済(国際経済)の歴史と理論

【履修上の注意】前期「世界経済論Ⅰ」で終了できなかった項目から、後期「世界経済論Ⅱ」を開始する。「世界経済論Ⅱ」(後期)として2単位を認定するが、「世界経済論Ⅰ」(前期)と併せて通年で受講するのが望ましい。

【到達目標】学説史、学説、現状に係わる論点の理解。

【授業計画】1. 以下のテーマについて、番号順に出来るだけ進めたい。 2. W.W2後の基本構造 3. 基本概念(1)(交易条件) 4. 基本概念(2)(国際収支と国際収支表の見方) 5. 基本概念(3)(外国為替の決済と為替レート) 6. 18. 自由貿易論の系譜(5)(新古典派による「比較生産費」説〔TCC〕理解) 7. 19. Pax Americanaの世界経済(1)(対外投資と多国籍企業の発展) 8. 20. 開発論の系譜(1)(Marx批判としての『経済発展の諸段階』と単線史観の破綻) 9. 21. 開発論の系譜(2)(「輸入代替政策」と「輸出志向政策」,「緑の革命」) 10. (途上国からの「比較生産費」説批判:「従属学派」と世界システム論) 11. 23. Pax Americanaの世界経済(2)(ドル危機・地域統合への対応) 12. 24. Pax Americanaの世界経済(3)(エネルギー問題への対応) 13. 26. Globalizationの功罪(世界はPax Consortisに向かうのか?)

【成績評価】筆記試験

【再試験】なし

【教科書】(講義中に指示する。)

【参考書】参照すべき図書は、適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219090>

【連絡先】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義終了後(研究室ドアに表示)。E-mail:mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp, 電話:088-656-7188(研究室))

【備考】2009年度から、構成を変更する。上記は目安としてのみ理解してください。

社会心理学

2 単位 2 年 (後期)
佐藤 健二・教授/人間文化学科

【授業目的】近年、社会心理学に対する期待は、著しく増大している。なぜなら、社会心理学は、人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて、近年生じている、さまざまな社会的行動に関する諸問題の解決に資する可能性をも持っているからである。そこで、本講義では、人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする。

【授業概要】人間の社会行動の理解

【キーワード】社会的行動、自己、対人行動、集団行動、集合行動

【履修上の注意】OHP、パワーポイント、紙資料、ビデオテープなどを使用する。私語厳禁。

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果、概念、方法論、近年の展開について理解すること

【授業計画】1. イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野
2. 社会的影響(同調、服従、役割) 3. 攻撃・暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? 4. 援助。なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? 5. 集団行動(リーダーシップ研究、「プロジェクトX」視聴) 6. 集合行動(流言、うわさ、群衆行動) 7. 言語・非言語コミュニケーション(視線行動など) 8. 抑うつ社会心理学。認知の歪み、自己注目、相互作用モデルとの関連 9. 自己呈示と対人不安 10. 対人魅力、近接性と好意、身体的魅力、類似性と好意、返報性 11. 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 12. 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- 13. 社会的認知(原因帰属など) 14. 自己意識、自己評価研究とその臨床領域への応用 15. 試験 16. 総括

【成績評価】三分の二以上の出席した者に対して、期末試験結果による評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】参考書・安藤清志他 社会心理学 岩波書店、坂本真士・佐藤健二 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219395>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 木曜日 12時~13時, 3S05室, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間社会学科 マルチメディアコース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

マルチメディア基礎演習 ... 河原崎/2年(前期).....	179
芸術基礎理論演習 ... 平木/2年(後期).....	179
インタラクティブコミュニケーション論 ... 掛井/2年(後期).....	179
メディアアート ... 河原崎/3年(後期).....	179
仮想空間論 ... 掛井/2年(前期).....	180
計算機概論 ... 中山/2年(前期).....	180
映像メディア表現研究 ... 掛井/2年(前期).....	180
アーツ・アンド・テクノロジー論 ... 石井/2年(前期).....	181
ミュージックデザイン ... 宮澤/2年(後期).....	181
映像デザイン表現研究 ... 石井/2年(前期).....	181
プログラミング基礎演習 II ... 鍋島/2年(後期).....	181
音楽学 ... 片岡/2年(後期).....	182
世界の諸民族の音楽 ... 片岡/2年(前期).....	182
現代音楽芸術論 ... 宮澤/2年(前期).....	182
音楽理論研究 ... 宮澤/2年(前期).....	182
現代絵画論 ... 平木/2年(前期).....	183
美術概論 ... 江川・平木/2年(後期).....	183
運動文化比較研究 ... 中村/2年(後期).....	183
身体表現論 ... 中村/3年(前期, 集中).....	183
認知心理学 ... 濱田/3年(前期).....	184
知覚心理学 ... 濱田/2年(後期).....	184
文化人類学研究 I ... 高橋/2年(前期).....	184
民俗学研究 I ... 高橋/2年(後期).....	184
造形表現基礎 ... 平木/2年(後期).....	185
デッサンと表現技法 ... 平木/2年(後期).....	185
絵画表現研究 ... 平木/2年(後期).....	185
彫刻研究 ... 上月・平木/2年(前期).....	186

マルチメディア基礎演習

2 単位 2 年(前期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】 Web を活用した表現と Web サイト運営の実践
【授業概要】 web を用いた表現又はサービスを企画し構築する。web のみならず、ギャラリーでの展示やストーリーミング等と連携したものも含む。
【先行科目】 『デッサンと表現技法』(0.5, ⇒185 頁)
【関連科目】 『映像デザイン表現研究』(0.5, ⇒181 頁), 『アーツ・アンド・テクノロジー論』(0.5, ⇒181 頁), 『インタラクティブコミュニケーション論』(0.5, ⇒179 頁)
【履修上の注意】 新カリキュラムの Web デザイン II と同時に開講
【到達目標】 各自 Web サイトの構築と運営, web を活用した表現の発表。
【授業計画】 1. web の現状 1 2. web の現状 2 3. Web を活用した表現のプランニング 1 4. Web を活用した表現のプランニング 2 5. Web を活用した表現のプランニング 3 6. Web を活用した表現のプランニング 4 7. プランのプレゼンテーション 1 8. プランのプレゼンテーション 2 9. Web を活用した表現の構築 1 10. Web を活用した表現の構築 2 11. Web を活用した表現の構築 3 12. Web を活用した表現の構築 4 13. Web を活用した表現の構築 5 14. 完成作品のプレゼンテーション 1 15. 完成作品のプレゼンテーション 2 16. 総括
【成績評価】 課題と出席
【再試験】 実施せず
【教科書】 各自で WEB 制作に関する書籍, 参考書, 雑誌等を購入すること。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219077>
【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 この講義はマルチメディアコースの必修科目なので, コース所属学生は必ず受講すること。

芸術基礎理論演習

2 単位 2 年(後期)
平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】 芸術をキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献する。
【授業概要】 アートを使った地域活性化事業について理解し, 地域住民との共同作業による参加型美術作品の制作をする。具体的には, 徳島においては, LED(発光ダイオード)による地域活性化事業が展開されているので地域に相応しい LED 作品を発想し制作する。
【キーワード】 絵画, 美術, 芸術
【履修上の注意】 この授業は, マルチメディアコースの必修科目である。マルチメディアコースの 2 年生は, 必ず履修する事。
【到達目標】 地域の活性化に貢献する。
【授業計画】 1. 地域活性化事業について 2. アートを使った地域活性化事業について 3. 地域の視察 4. 住民との意見交換 5. 美術を使った地域活性化を発想し意見交換 6. 美術を使った地域活性化を発想し意見交換及び役割分担 7. 住民との意見交換 8. 地域住民との共同作業による作品制作(説明) 9. 地域住民との共同作業による作品制作(制作) 10. 地域住民との共同作業による作品制作(制作) 11. 地域住民との共同作業による作品制作(制作) 12. 地域住民との共同作業による作品制作(制作調整) 13. 地域住民との共同作業による作品制作(制作完成) 14. 完成作品の記録及び聞き取り調査 15. 外部に向けた成果発表会
【成績評価】 評価は, 期末レポートの結果と出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う。
【再試験】 行わない。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219446>
【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】 社会創生学科の「芸術創生基礎演習(後期開講)」を受講することで読み替える。

インタラクティブコミュニケーション論

2 単位 2 年(後期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】 C 言語によるプログラミングを通じて論理的な思考方法を身に付け, 簡易なプログラムを自ら作成できるようになる。
【授業概要】 C 言語の文法を学び, 与えられたアプリケーションを利用するだけではなく, 自らプログラムを作成することにより, 論理的な思考方法やコンピュータによる情報処理方法を理解する。
【キーワード】 プログラミング, 情報リテラシー
【関連科目】 『映像メディア表現研究』(1.0, ⇒180 頁), 『仮想環境構築法 I』(1.0, ⇒187 頁)
【履修上の注意】 「映像メディア表現研究」, 「仮想環境構築法 I」の受講は「インタラクティブコミュニケーション論」の履修が条件となります。「映像メディア表現研究」, 「仮想環境構築法 I」の受講希望者は本授業を必ず受講してください。他コースからの受講は人数制限をする可能性があります。
【到達目標】 C 言語を用いて簡易なプログラムを作成できるようになる。
【授業計画】 1. プログラム作成の流れ 2. C 言語の約束事 3. 変数と算術演算子 4. 型変換と記憶クラス 5. 条件による分岐 1 if 文 6. 条件による分岐 2 switch 文 7. 繰り返し処理 1 for 文 8. 繰り返し処理 2 while 文 9. 実習 1 「条件分岐」, 「繰り返し処理」, 「乱数」を利用したプログラム作成 10. 配列 11. 関数 12. ポインタとアドレス 13. ポインタと配列 14. 構造体 15. 再帰 16. 実習 2 「関数呼び出し」, 「配列」, 「ポインタ」を利用したプログラム作成
【成績評価】 課題の提出及び授業貢献により評価, 試験は実施せず。
【再試験】 再試験は実施せず。
【参考書】 授業中に適宜指定する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219052>
【連絡先】
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日5-6(他の時間帯でも連絡の上随時訪問可))

メディアアート

2 単位 3 年(後期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】 作品制作における各自のテーマをつかみ、メディア、テクノロジーへの俯瞰の視点を持ち 具体的な作品制作へと結びつける

【授業概要】 制作の軸となる主題や問題設定等を書籍、作品資料等を用いて研究、発表をおこない、それらを基盤とした作品の制作と学外での発表をおこなう。

【キーワード】 メディアアート、現代美術

【履修上の注意】 一方的な講義ではなくグループディスカッション等を行う予定なので、受け身の姿勢ではなく積極的な参加が必要となる。横断領域表現研究室所属予定の学生が履修すること。

【到達目標】 メディアアートの制作と発表の実践

【授業計画】 1. 各自のテーマ設定による研究、読込 2. 各自のテーマ設定による研究、読込 3. 各自のテーマ設定による研究、読込 4. 各自のテーマ設定による研究、読込 5. 各自のテーマ設定による研究、読込 6. 各自のテーマ設定による研究、読込 7. 各自のテーマ設定に基いた作品制作実習 8. 各自のテーマ設定に基いた作品制作実習 9. 各自のテーマ設定に基いた作品制作実習 10. 各自のテーマ設定に基いた作品制作実習 11. 各自のテーマ設定に基いた作品制作実習 12. 各自のテーマ設定に基いた作品制作実習 13. 学外ギャラリー等での作品発表 14. 学外ギャラリー等での作品発表 15. 学外ギャラリー等での作品発表 16. 学外ギャラリー等での作品発表

【成績評価】 (課題の作成) (授業への貢献)

【再試験】 実施せず

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219014>

【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

【授業目的】 計算機とその周辺機器を用いた、現在の情報処理システムについての理解を深める。パソコンの理解から始め、現在及び今後どのように計算機システムが利用されるのか理解できるように内容を取り上げる。

【授業概要】 幅広く計算機の仕組み・動作原理について学ぶ。

【キーワード】 計算機のしくみ、パソコンのしくみ

【関連科目】 『プログラミング基礎演習 II』(0.5, ⇒181頁), 『マルチメディア演習』(0.5, ⇒291頁), 『計測・制御概論』(0.5)

【履修上の注意】 「計測・制御概論」の講義を受講する予定の方はあらかじめこの講義を受講しておいてください。

【到達目標】 情報処理機器として身近な、パソコンの動作原理の基礎知識をハード・ソフトの両面から身につける。またネットワークに関する基礎知識を身につける。情報処理技術者試験(午前)程度の内容を理解している。

【授業計画】 1. パソコン基礎・ハード 2. パソコン基礎・ソフト 3. パソコンによるネットワーク 4. 色々な計算機と周辺機器のアーキテクチャ 5. 計算機の動作原理 6. 論理回路 7. CPU など 8. ソフトウェアの実装 9. プログラミングの基礎 10. データベース 11. マルチメディア技術 12. ネットワークの仕組み 13. ネットワークと周辺機器 14. システムインテグレーション・応用 15. 情報処理システムの管理運用等 16. まとめ(他講義へのガイダンス)

【成績評価】 レポート課題の提出結果と期末試験とで総合評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 必要な教材・資料は随時講義で配布・指定します。本当に力をつけたい人は色々な本を自分から読むようにしてください。また早めに自分のパソコンを購入して使う経験も非常に大事です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219461>

【連絡先】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 月~ 金 9:30~ 17:00)

仮想空間論

2 単位 2 年(前期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】 バーチャルリアリティは「仮想現実」と訳され、「現実感を伴った仮想的な世界をコンピュータの中に創り出す技術」と解釈されている。しかし、「バーチャルリアリティ=仮想現実」と捉えてしまうと、バーチャルリアリティはあくまで「ニセモノ」であり、ニセモノ v.s. ホンモノというステレオタイプな二元論の陥穽から抜け出ることができずに、その可能性を狭く限定してしまうこととなる。この授業では、バーチャルリアリティを「人間の意識内部に形成され、そこでの人間行動を可能にする環境」と捉え、バーチャルリアリティのコンセプトや背景を学び、バーチャルリアリティの潜在的可能性について探る。

【授業概要】 バーチャルリアリティのコンセプト及び、その背景について学ぶ。

【キーワード】 バーチャル・リアリティ、メディア環境

【関連科目】 『認知心理学』(0.3, ⇒184頁), 『知覚心理学』(0.3, ⇒184頁), 『空間デザインゼミナール』(0.8, ⇒189頁)

【履修上の注意】 この授業では一方的な講義だけではなく、適宜、グループディスカッションを行う予定であるので、受け身の姿勢ではなく積極的な参加を望む。

【到達目標】 ・自分なりのバーチャルリアリティに対する考えを持つ

【授業計画】 1. バーチャルリアリティと仮想現実 開発史 2. バーチャルリアリティと仮想現実 virtual = 仮想 ? 3. リアリティとは何かピカソとエッシャー 4. リアリティとは何か 顕性と潜性 5. バーチャルリアリティを構築する技術 視覚関連技術 6. バーチャルリアリティを構築する技術 その他の技術 7. バーチャルリアリティ適用事例のカテゴリズ 動的 VR 8. バーチャルリアリティ適用事例のカテゴリズ 能動的 VR 9. バーチャルリアリティ適用事例のカテゴリズ 複合的 VR 10. バーチャルリアリティとは何なのか visibility 11. バーチャルリアリティとは何なのか AIP cube 12. バーチャルリアリティとは何なのか Piazza と茶室 13. バーチャルリアリティの可能性 刺激の削減 14. バーチャルリアリティの可能性 ユビキタス環境 15. 総括 16. 試験

【成績評価】 ((中間テスト:50%)+(最終レポート:50%))×(授業への貢献)

【再試験】 実施せず。

【参考書】
◇ M. メルロ=ポンティ「行動の構造」みすず書房
◇ 中村雄二郎「共通感覚」岩波書店
◇ 服部桂「人工現実感の世界」工業調査会
◇ J. ギブソン「生態論的視覚論」サイエンス社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219110>

【連絡先】
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日5-6(他の時間帯でもメール等で連絡の上随時訪問可).)

計算機概論

2 単位 2 年(前期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

映像メディア表現研究

2 単位 2 年(前期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】 コンピュータは開発された当初から、その高速な演算処理能力を活かしシミュレータとしても利用されていたが、かつてはシミュレーションが実行されるのは科学、工学、経済など分析対象が数学モデルで表現される分野に限られていた。しかし、CG を含むインターフェイス技術が発達し、コンピュータは単に計算をこなすだけの装置ではなく、対話性を付与されたメディアとしても利用できるという認識が広まるとともに、それは個人の表現のための道具としても活用されてきた。この授業では CG プログラミングについて学ぶとともにコンピュータによるパターン生成の意味についても考えていきたい。

【授業概要】 プログラミングによる視覚情報の生成

【キーワード】 シミュレーション、マルチメディア、自己組織化、創発、デザイン

【先行科目】 『インタラクティブコミュニケーション論』(0.9, ⇒179頁)

【関連科目】 『仮想環境構築法 I』(0.9, ⇒187頁), 『仮想環境構築法 II』(0.5, ⇒187頁), 『空間デザインゼミナール』(0.8, ⇒189頁)

【履修上の注意】 22 年度は開講せず

【到達目標】
1. OpenGL によるインタラクティブ手法、アニメーション手法(2D)を習得する。
2. デザインに於けるプログラミングの意義について自分なりの考えを持つ。

【授業計画】 1. Warm Up :環境の設定 2. OpenGL 入門 1 :Display Callback 関数 3. OpenGL 入門 2 :Idle Callback 関数 4. OpenGL 入門 3 :Animation 5. OpenGL 入門 4 :その他の Callback 関数 6. OpenGL 入門 5 :Interaction 7. 課題作成 1(Animation, Interaction) 8. Chaos 1:Logistic 関数 9. Chaos 2:Attractor 10. Chaos 3:Lyapounov 空間 11. Fractal 1:Mandelbrot 集合 12. Fractal 2:Julia 集合 13. Cellular Automata:1 次元セル・オートマトン 14. Cellular Automata2:Game of Life 15. Cellular Automata3:自己組織化 16. 課題作成 2(Chaos, 自己組織化)

【成績評価】 課題及び出席

【再試験】 実施せず。

【参考書】
◇ 『OpenGL 入門 やさしいコンピュータグラフィックス』エドワード・エンジェル, ピアソン・エデュケーション
◇ 『カオス 新しい科学をつくる』J. グリック, 新潮社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219299>

【連絡先】
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日5-6(他の時間帯でもメール等で連絡の上随時訪問可).)

アーツ・アンド・テクノロジー論 2単位 2年(前期)
Arts and Technology 石井 健二・教授/社会創生学科

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))

【授業目的】 情報化の進展によって芸術表現のあり方や見方、そして表現手法も大きく変わりつつある。そこで本講義では、人類発生時のイメージの定着方法からコンピュータの普及にともなう新しいメディアを駆使した表現の可能性を含めて考察する。そして芸術表現についての関心呼び起こし、その基礎知識を提供することにより、現代のマルチメディア社会に適合できる人材養成を図ることを目的とする。

【授業概要】 芸術作品の制作を通して、作品の保存・修復・管理及び展示方法について考察する。

【キーワード】 視覚表現, 古典技法

【先行科目】 『美術概論』(1.0, ⇒183頁), 『現代絵画論』(1.0, ⇒183頁), 『デッサンと表現技法』(1.0, ⇒185頁)

【関連科目】 『映像デザイン表現研究』(0.5, ⇒181頁)

【履修上の注意】 受講条件:前期開講。映像デザイン表現研究を受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1階 講義・実習室にて行なう。全学共通教育のアーツ・アンド・テクノロジーを受講したものは、講義内容が似ている為、受講できない。

【到達目標】 表現された作品の展示と保存・修復に関する知識を身に付ける。

【授業計画】 1. 芸術作品に関する表現について、時代背景を追いながら考察し、主な表現技法についてはワークショップ(制作実習)を交えながら、技法の解明を行う。 2. 受講者による発表を中心に授業を進める 3. デザイン処理について 4. 壁画・絵画・版画・染織・映像・総合芸術について 5. イメージの定着方法について 6. 版画エッチング技法について 7. リトグラフ技法について 8. シルクスクリーン技法について 9. 壁画フレスコ画技法について 10. 染色, 型染め技法について 11. カリグラフィー模写実習 12. コンサベーションについて 13. マルチメディアを利用した総合芸術の可能性 14. コンピュータによる表現の現状と今後の可能性 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】 課題と期末レポート及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書】 講義の中で配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218330>

【連絡先】
⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 昼休み)

【備考】 ○平成 23 年度 前期開講。 ○平成 23 年度は木曜日 5-6 講時開講。 ○講義はマルチメディア B 棟 講義・実習室で行う

ミュージックデザイン 2単位 2年(後期)
Design of Music 宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代社会には様々な目的に音楽が使われている。ここでは芸術的表現を目的としていない、言い換えれば日常の環境の中で多様な形で表れる音楽について、それらがなぜ必要なのか、またどのような要素が「心地よく」感じられるのかについて考察する。

【授業概要】 人間にとって「心地よい音楽」とはどのようなものなのかについて、様々な角度から考察する。

【先行科目】 『芸術基礎理論演習』(1.0, ⇒179頁), 『現代音楽芸術論』(0.7, ⇒182頁)

【関連科目】 『デスク・トップ・ミュージック』(1.0)

【履修上の注意】 日常生活の中での音楽全般を授業の対象とするので、日頃から身の周りの音楽、音響に関心を持ってもらいたい。楽譜を書いたり、実際に演奏したりすることもある。

【到達目標】 音楽を構成する様々な要素を確実に理解し、使用目的に応じた音楽を作り出せる。

【授業計画】 1. 音楽の様々な目的 2. ドラムの構造と演奏技法 3. ベースとギターの構造と演奏方法 4. 様々な鍵盤楽器 5. ストリングスとホーンセクション 6. ゲームの音楽 7. テレビやコマーシャルの音楽 8. 街で聞かれる様々な音楽 9. 音楽と映像によるマルチメディア作品の鑑賞(その1) 10. 教材 DVD における音楽の役割についての考察 11. 音楽とイメージの考察 12. ヒーリング音楽とは(なぜ音楽で癒されるのか) 13. 音楽と映像によるマルチメディア作品の鑑賞(その2) 14. 着メロ製作 15. 総括授業 16. 期末レポート

【成績評価】 講義時間中の小テスト、およびレポート

【再試験】 行わない

【教科書】 教材については適宜プリントなどを配付する。その他参考書籍については講義の際に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219079>

【連絡先】

映像デザイン表現研究 2単位 2年(前期)
Study of Visual Image Expression 石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】 多様化した現代の画像表現技術を学ぶと共に、美術館・図書館・官庁等で所有している写真や芸術作品の保存・修復・管理について、その在り方、必要性等についても考察し、表現と保存の両局面から今後考えられる画像文化の在り様を探る。

【授業概要】 19世紀中紀から現代に至る写真画像表現について考察し、デジタル画像処理の今後についても検討する。

【キーワード】 映像情報, 写真画像

【先行科目】 『アーツ・アンド・テクノロジー論』(1.0, ⇒181頁), 『芸術基礎理論演習』(1.0, ⇒179頁)

【関連科目】 『映像メディア表現研究』(0.5, ⇒180頁)

【履修上の注意】 前期開講。受講条件:アーツ・アンド・テクノロジーを受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1階 講義・実習室にて行なう。

【到達目標】 映像に関する基礎知識を身に付ける。

【授業計画】 1. 時代背景を追いながら考察を行う 2. 受講者による発表を中心に授業を進める 3. 写真表現の現状と保存・修復・管理について 4. 白黒フィルムによるスタジオ撮影について 5. カラーフィルムによるスタジオ撮影について 6. 白黒フィルムの撮影後の処理について 7. カラーフィルムの撮影後の処理について 8. 白黒・カラーフィルムのプリント処理及び管理方法について 9. サイアノタイプ技法によるワークショップ 10. ペンホールカメラの制作 11. ペンホールカメラによる撮影 12. 映像作品鑑賞 13. ビデオ作品として自己紹介ビデオを作製する。 14. 映像を利用した総合芸術の今後について 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】 課題と期末レポート及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書】 授業の中で配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218373>

【連絡先】
⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 昼休み)

【備考】 ○平成 23 年度 前期開講。 ○平成 23 年度は、金 5・6 講時開講 ○講義はマルチメディア B 棟 講義・実習室で行う。

プログラミング基礎演習 II 2単位 2年(後期)
 鍋島 克輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 この授業の目的は、パソコンで簡単なプログラムが作成できるようになるまで、初歩からプログラミングを学習することである。数学の問題を題材とし、パソコンを使った実習を通じて、プログラミングの基礎知識を習得する。

【授業概要】 まず、数学の基礎的な問題を題材にして、プログラミング言語の文法についての演習を繰り返し、言語に備わる基本的な構文の使い方を習得する。次に、整列や連立1次方程式の解法などの演習により、アルゴリズムを理解して、それをプログラムにする能力を身に付ける。

【キーワード】 プログラミング, 基本アルゴリズム

【履修上の注意】 この授業は、数理・情報コースの学生を対象とします。 π や e などの数学定数の近似計算、素数や級数の和、方程式の解を求める演習などを行いますので、その程度の数学の知識を仮定します。尚、設備の関係上、受講希望者が多数のときは、受講できない場合があります。必ず担当教員の受講許可を得てから受講登録してください。

【到達目標】

1. 言語処理系の操作法を習得し、簡単なプログラムを短時間で作成できるようにすること
2. 与えられたアルゴリズムを理解し、それをプログラムにすることができるようになること

【授業計画】 1. 文法の基礎(変数, 代入文) 2. 文法の基礎(場合分け, 繰り返し文) 3. 文法の基礎(配列, 手続き) 4. 文法の基礎(グラフィックス, アニメーション) 5. 基本アルゴリズムの理解とその実装

【成績評価】 授業への取り組みと期末課題により評価する。

【再試験】 期末課題の再提出を認める。

【教科書】 毎回プリントを配布する。

【参考書】 林・児玉共著『実習 Visual Basic 2005』サイエンス社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219075>

【連絡先】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp)

音楽学2 単位 2 年 (後期)
片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】当授業では、音楽学的視点を土台としつつ、音楽学研究の方法論、並びに(主として)西洋音楽史の古代からバロック期までを講義する。西洋音楽の古い時代は学生にとっても比較的なじみが薄く、音楽文化の一端に新鮮なかたちで触れることによって、現代の音楽文化を考える際のよりどころのひとつが与えられれば幸いである。

【授業概要】音楽学の視点に基づいた西洋音楽史(古代～バロック)の講義。

【キーワード】音楽学、西洋音楽史、研究方法論、音楽鑑賞、西洋古代からバロックまで

【関連科目】『世界の諸民族の音楽』(0.5, ⇒182 頁), 『現代音楽芸術論』(0.5, ⇒182 頁), 『文化人類学研究 I』(0.5, ⇒184 頁)

【履修上の注意】当授業は講義形式なので、受け身的に受講しがちであるが、できるだけ主体的で積極的な姿勢をもって授業に取り組んでほしい。なお、先行科目は特定したくないので記入しておらず、関連科目は、あくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。

【到達目標】音楽学的発想になじむと共に、古代からバロック時代のヨーロッパ音楽文化についての造詣を深める。

【授業計画】1. 1-3 週目 「音楽学」という言葉に関する説明を行い、音楽史の書物・音楽辞(事)典類の紹介をし、音楽史研究の方法論について講義する。2. 4-6 週目 古代から現代に至る西洋音楽史を概観する。3. 7-8 週目 古代の音楽。4. 9-10 週目 中世の音楽。5. 11-12 週目 ルネッサンス音楽。6. 13-14 週目 バロック音楽。7. 15 週目 総括授業。これまで行ってきた授業を全体的に振り返り、その内容についての意見交換等を行う。

【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書として、皆川達夫著「合唱音楽の歴史-改訂版-」(全音楽譜出版社)を用いる。同教科書は授業の際に教員サイドが貸与し、授業終了時に返還してもらう方法を取る。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218465>

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 木曜日の昼休み)

【備考】平成 23 年度は、後期・木曜 1-2 講時に新カリキュラムの「音楽学」と同時に開講。

世界の諸民族の音楽2 単位 2 年 (前期)
片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で、しかも変化に富んだものである。多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し、世界中にはさまざまな音楽が存在している。この授業では、民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し、そのことを通じて、音楽文化・民族性・音楽の本質等について、一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている。

【授業概要】民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義

【キーワード】民族音楽、音楽学、音楽鑑賞、民族性、異文化理解

【関連科目】『音楽学』(0.5, ⇒182 頁)

【履修上の注意】当授業は講義形式なので、受講者は受け身的になりがちであるが、できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい。なお、平成 16 年度以降、共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが、その内容は同授業と相当程度重複しているため、「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること。又、先行科目は特定したくないので記入していないし、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。それと、同授業は、昨年度より新体制の「芸術文化論」と同時に開講しており、受講者の人数は 100 名程度となっており、部屋(マルチメディア A 棟 1 階「音響スタジオ」)の広さの関係(普通の状態での収容可能人数は 50 名程度)から、学生の身体的な負担が大きかった。だからといって、別のもっと広い部屋で同授業を実施することは授業内容の性格からして無理なことなので、同授業を受講しなくても卒業要件を満たせる場合は、できれば可能な範囲内で別の授業を選択する方法をとっていただければ大変ありがたいと考えている。

【到達目標】世界には様々な音楽文化が存在すること、それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し、音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く。

【授業計画】1. 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために、講義の説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる。2. 1 週目 授業の趣旨説明を行い、現代の音楽の特徴につ

いて言及する。3. 2 週目 日本の音楽。4. 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽。5. 9-13 週目 インド・西アジアの音楽。6. 14 週目 アラブの音楽。7. 15 週目 総括授業。授業内容全体について、反省・補足・意見交換等を行う。8. 授業内容全体についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが、若干のずれが生じることもあるので、その点あらかじめご了承願いたい。

【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験】行わない。

【教科書】この授業では教科書等は使用しない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218766>

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日の昼休み)

【備考】同授業は、平成 23 年度は前期・金曜 5-6 講時に新カリキュラムの「芸術文化論」と同時に開講する。なお、注意のところで書いたことであるが、同授業を受講しない選択肢について、可能な範囲内でご配慮いただければ幸いである。

現代音楽芸術論

2 単位 2 年 (前期)

History of the Contemporary Music

宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】20 世紀の芸術音楽についてはいわゆる「現代音楽」という言葉でくくられて、日常的にふれる機会が非常に少ないのが現状である。この講義では 19 世紀末から 20 世紀の芸術音楽の歴史をなぞることにより、現代という時代に表現活動を行う人間にとって必要不可欠な「現代芸術の理解」を深めることを目的とする。なおポピュラー音楽(ジャズやロック等)は取り上げない。

【授業概要】20 世紀の芸術音楽について、それぞれの重要な作曲家の特徴を学び、作品を鑑賞する。

【キーワード】機能と声の崩壊、様々な作曲技法、芸術と娯楽の対立

【先行科目】『音楽学』(1.0, ⇒182 頁), 『芸術基礎理論演習』(0.5, ⇒179 頁)

【履修上の注意】楽譜が読める必要は必ずしもないが、きちんと読める方が学習効果が上がるのは当然である。それ以上に「好奇心旺盛」であることを望む。

【到達目標】20 世紀の芸術音楽の流れを音楽史全体の流れの中で位置づけられる。また、その美しさを体得できる。

【授業計画】1. 20 世紀芸術音楽の流れ 2. ドビュッシー(印象主義?) 3. ストラヴィンスキー(3 大バレエとその周辺) 4. ドイツの後期ロマン派(煮詰まる音楽) 5. 表現主義と新ウィーン楽派(無調の始まり) 6. ストラヴィンスキーの新古典主義(昔帰り?) 7. 12 音技法(無調の組織化へ向かって) 8. バルトーク(民族音楽の組織化) 9. ヒンデミットと実用音楽、および社会主義リアリズム 10. 音楽素材の拡大とさまざまな試み 11. 第二次世界大戦以後の音楽(1950 年代と総音列技法) 12. 60 年代の前衛 13. 70 年代以降の前衛 14. 20 世紀音楽の非主流派? 15. 総括授業(20 世紀音楽の総括) 16. 期末レポートの提出

【成績評価】レポートを使用する。課題は授業中に指示する。

【再試験】行わない。

【教科書】毎回プリントを配付する。その他参考書籍や CD については講義の際に紹介する。

【参考書】講義中に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219349>

【連絡先】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))

【備考】◇ 前期、木曜日 1~2 講時、音楽を静かに鑑賞できること。◇ 人間文化学科の「現代音楽芸術論」と同時開講。

音楽理論研究

2 単位 2 年 (前期)

Study of Music Theory

宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】音楽作品を作るために学ばなければならない基礎的な知識には様々なものがあるが、この講義では先ず基礎的な「和声法」を学ぶ。

【授業概要】基礎的な音楽理論、すなわち楽譜の正しい読み方と書き方からはじめ、音楽理論の最も重要な「和声法」について学習する。

【キーワード】和声、機能と声

【先行科目】『音楽学』(1.0, ⇒182 頁)

【関連科目】『現代音楽芸術論』(0.5, ⇒182 頁)

【履修上の注意】この講義を受講するためには、正確に楽譜を読み書きする能力、ピアノの演奏能力、ソルフェージュの十分な学習が不可欠である。先ず各自の音楽能力の査定を行い、基準を満たさない者には受講を許可しない。

【到達目標】和声学を正しく理解し、正しい書式を身に付ける。
【授業計画】1. 和音の種類と分類 2. 和声と3種類の機能 3. 4声体の構造と低音位(基本位置と転回位置) 4. 4声体の構造と低音位(基本位置と転回位置) 5. 進行上の禁則 6. 基本位置の和音連結(部分課題) 7. カデンツの種類と終止 8. 基本位置の和声課題(その1) 9. 基本位置の和声課題(その2) 10. 第1転回位置 11. 第1転回位置の和声課題(その1) 12. 第1転回位置の和声課題(その2) 13. 第2転回位置 14. 第2転回位置の和声課題 15. 総括授業 16. 期末試験
【成績評価】講義中に実施した課題の出来具合、および授業時間中の試験。
【再試験】行わない
【教科書】
 ◇和声(I)理論と実習 音楽之友社
 ◇五線紙のノートは通常の12段のものを使用する。それ以外のノートは学習に適さないため、使用しないこと。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219483>
【連絡先】
 ⇒宮澤(マルチメディアA棟204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー:水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))
【備考】◇今年度は開講する。なお、今回の開講が最終回となる。◇平成20年度以前の入学生が対象である。21年度以後の入学生は受講できない。

現代絵画論

2単位 2年(前期)
 平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】アカデミックな西洋絵画の歴史の流れを変えた印象派の登場から現代絵画の道が開けてくるのであるが、その後、後期印象派やキュビズム、未来派、抽象絵画の出現など20世紀初頭の絵画の動きは非常に活発なものである。それ以降のシュルレアリスム、記号論、アクションペインティング、ニューヨーク派、ポップアートなど、現代絵画の基礎となる考え方を学ぶ。現代絵画を理解するための基礎講座である。この講義の特徴として、それぞれの理論の理解をより深め、自分のものとするために、理論に基づいた簡単な実技を設定している。言葉で考えると難解な理論も、実際に描くことにより感覚的に理解できることもある。

【授業概要】近現代美術
【キーワード】絵画, 美術, 芸術
【関連科目】『美術概論』(0.5, ⇒183頁), 『造形表現基礎』(0.5, ⇒185頁)
【到達目標】
 1. 現代絵画の基礎となる考え方を学ぶ。
 2. 現代絵画を理解する。
【授業計画】1. 近現代の美術の流れ 2. 印象派・筆触分割法について 3. 後期印象派・色彩学に基づいた分割法 4. キュビズム・二次元と三次元の問題、絵画の平面化 5. 未来派・絵画と時間性 6. 抽象絵画・平面にふさわしい形態と色彩の模索 7. シュルレアリスム・反構築、深層にせまる絵画の理論と技法 8. シュルレアリスム・偶然から生まれる絵画の中の自然 9. 記号論・記号としての物の描え方 10. アクションペインティング・身体の動きと絵画 11. オブジェ・物が示す観念 12. ニューヨーク派・現代を描える。アキュミレーション(集積) 13. ポップアート・消費社会と絵画の大衆化 14. これからの絵画 15. 批評会 16. まとめ
【成績評価】評価は、授業中に行う小テスト式作品評価を基本として、出席や授業への取り組み姿勢等を併用して行う。
【再試験】行わない
【教科書】教科書、参考書は、使用しない。授業中に毎回プリントを配布する。準備物として水彩絵の具の道具一式とスケッチブック(八つ切り画用紙程度の大きさ)、HB, B, 2Bの鉛筆を持つてくること。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219348>
【連絡先】
 ⇒平木(103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)
【備考】共通教育「現代絵画論」との読み替え科目である。

美術概論

2単位 2年(後期)
 江川 佳秀・非常勤講師/徳島県立近代美術館, 平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】日本美術を中心とした絵画、彫刻、工芸等の具体的な作例を通じて、美術作品が伝えるメッセージを読み解く方法を学ぶ。さらには、日本美術と日本美術に影響を与えた東洋や西洋の美術を概観することで、日本美術の背景にある文化思想の特性を考察する。
【授業概要】美術文化思想
【キーワード】美術, 芸術, 文化思想
【先行科目】『現代絵画論』(1.0, ⇒183頁)
【関連科目】『現代絵画論』(0.5, ⇒183頁), 『造形表現基礎』(0.5, ⇒185頁)

【履修上の注意】毎回の授業ごとに、相当数の作品画像をパワーポインターで紹介する。また、授業の一環として、県内の美術館や博物館で見学会を実施する。その場合は、通常の授業を土曜日、または日曜日に振り替えて実施する(現地集合、現地解散、要覧覧観覧料)。
【到達目標】美術に関する基礎的な知識を身につけ、美術作品を読み解く能力を養う。
【授業計画】1. 美術とは何か 1(美術という用語が誕生する以前と以降) 2. 美術とは何か 2(日本画と洋画、絵画と平面、彫刻と立体) 3. 美術とは何か 3(美術とアート) 4. 日本絵画の形態(屏風、絵巻物、掛幅、障屏画など) 5. 日本美術を概観する 1(仏像、仏画) 6. 日本美術を概観する 2(やまと絵と漢画、南蛮美術) 7. 日本美術を概観する 3(琳派、文人画、円山四条派) 8. 日本美術を概観する 4(近代の始まり) 9. 東西の画題 10. 作家、作品研究 1(鬘光) 11. 作家、作品研究 2(山下菊二) 12. 作家、作品研究 4(エコール・ド・パリと日本) 13. 実作家、作品研究 3(近代東アジアの美術交流) 14. 実際の作品を前に(見学会) 15. 試験
【成績評価】規定の出席数を満たした者を対象に、平常点と試験の成績(またはレポート)をもとに評価する。平常点は、見学会での議論への参加の度合いなども参考に評価する。
【再試験】行わない
【教科書】教科書は使用しない。参考図書情報は、授業時間中に適宜紹介する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218959>
【連絡先】
 ⇒江川
 ⇒平木(103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日11:50~12:50)
【備考】本年度開講しない。隔年講義である。

運動文化比較研究

2単位 2年(後期)
 中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】文明が発達した現在では、身体運動、スポーツ、ダンス等は健康のための手段として重要視されている。しかし、これらは健康の手段として生まれてきたのではない。それぞれの運動やスポーツ、ダンスは各国、各地域の固有の文化としてとらえることができる。本講義では、これらの内容及び歴史的な意味について概説し、現代社会における遠藤やスポーツ、ダンスを気岸社会学や文化人類学の観点から検討し、寄り不快認識を得ることを目的とする。
【授業概要】生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついていく過程を歴史社会学の観点から分析し、現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する。
【キーワード】ダンス, スポーツ, 生産形態, 健康
【履修上の注意】本授業ではOHPやビデオなどを使用し、視覚的に動きの違いを理解できるようにしているが、見るだけで終わらせることがないようにノートの取り方を工夫すること。
【授業計画】1. 運動と文化-スポーツ、ダンスの発生 2. 遊びと余暇 3. 生産形態とリズム(5つのリズム感) 4. 山村畑作民のリズムとスポーツ、ダンス 5. 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ、ダンス 日本 6. 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ、ダンス アジア 7. 海洋漁労民のリズムとスポーツ、ダンス 8. 狩猟民のリズムとスポーツ、ダンス 9. 牧畜民のリズムとスポーツ、ダンス 10. 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 11. スポーツの遊技性と競争性 12. 近代スポーツの成立 13. 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ 14. 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ 15. まとめ 16. 課題レポート作成、提出
【成績評価】本授業は講義形式で行うが、数回の小レポートや出席状況などにもとづく平常点での評価と、期末の課題レポートの結果による評価を併用して行う。
【再試験】行わない
【教科書】
 ◇教科書は使用せず、授業中にプリントを随時配布する。参考書として以下の文献を紹介する。
 ◇「舞踊学講義」舞踊教育研究会編 大修館書店
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219468>
【連絡先】
 ⇒中村(3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 木曜日12時~13時)

身体表現論

2単位 3年(前期, 集中)
 中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】身振りからはじまり、マイム、舞踊などの芸術表現に至るまでの身体の動きが発信する内容とそれらを受け入れる文化との関係について取り上げ、身体の動きをとらえてコミュニケーションをはかるノンバーバルな世界について考えることを目的としている。

【授業概要】 身体の動きによるコミュニケーションから身体の動きによる芸術作品(自己表現)まで、ノンバーバルな世界について考える。

【履修上の注意】 特になし。

【到達目標】 1. 身体の動きとコミュニケーションについて理解する。

【授業計画】 1. 身体は容れ物か? 2. 身体観について 3. 身体技法について 4. 身振りコミュニケーションについて I 5. 身振りコミュニケーションについて II 6. 身体表現の歴史(1)身体表現と神の存在について 7. (2) 娯楽としての身体表現 8. (3) 自己表現の手段としての身体 9. 舞踊を構成する要素 10. 芸術としての舞踊 I 11. 芸術としての舞踊 II 12. 舞踊作品の鑑賞法 I 13. 舞踊作品の鑑賞法 II 14. 舞踊作品の鑑賞法 III 15. まとめ 16. レポート提出

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業中に行う課題レポートの提出と、期末レポートの結果による評価を併用して行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用せず、授業中にプリントを随時配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219465>

【連絡先】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 火曜日12時~13時)

【備考】 本年度開講せず

認知心理学

2 単位 3 年 (前期)
濱田 治良・教授/人間文化学科

【授業目的】 外的環境に対する人間の優れた適応力を、私たちは日常生活のなかで疑問に思うことがないが、考え直してみると極めて不思議なことである。人間は外的環境の認知を物理的な刺激からだけではなく、記憶や知識体系との統合によって実現している。本講義では、心理学的な実験を通して明らかにされた研究成果を紹介しながら、できるだけ平易に人間の認知の機能について考察する。特に、外的環境に対する空間の認知、パターン認知、人間の記憶などを人間の情報処理の観点から概説し、人間を理解する試みを紹介する。

【授業概要】 パターン認知と人間の記憶

【先行科目】 『知覚心理学』(1.0, ⇒184 頁)

【履修上の注意】 講義は随時資料を配付しながら進める。

【到達目標】 人間が外的環境の認知を物理的な刺激からだけでなく、記憶や過去経験との統合によって実現していることを理解する。

【授業計画】 1. 空間の認知 2. 大きさの恒常性 3. 大きさ・距離不変仮説 4. パターン認知 5. 形の恒常性 6. 対称性の認知 7. 心的回転 8. 視覚的注意 9. 画像貯蔵庫 10. 音響貯蔵庫 11. 短期貯蔵庫からの忘却 12. 短期貯蔵庫の容量 13. 短期貯蔵庫からの情報検索 14. 長期貯蔵庫への情報の記入 15. 維持リハーサルと精緻化リハーサル

【成績評価】 中間試験、期末試験、レポート及び出席状況によって評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 資料を配布する。

【参考書】 中溝・箱田・近藤「情報処理心理学入門 I-II-III」サイエンス社、大村彰道「人間の記憶・認知心理学入門」東大出版会、御領・菊地・江草共著「認知心理学への招待」サイエンス社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219462>

【連絡先】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日, 12時~13時)

知覚心理学

2 単位 2 年 (後期)
濱田 治良・教授/人間文化学科

【授業目的】 私たちを取り巻いている物理的環境と私たちが見聞きした結果である主観的な知覚の世界の間には大きな違いがある。私たちは外界・環境をどのように知覚しているのでしょうか?この講義では認識や行動の出発点である知覚の基礎について出来るだけ平易に論じ、未知なる人間、我々自身を理解するための科学的試みを紹介する。その為に、代表的な錯視現象を通して「人間が外界をいかに知覚し、認識しているのか」を論じ、科学の歴史をたどりながら錯視の成立機序とその意義を考察する。ところで、錯覚や錯視は私たちの目の不完全さを示しているのではなく、人間の知覚の機能の素晴らしさを示している。日常生活で経験する知覚現象を網膜の神経構造との関連で考察する。また、客観的な刺激と主観的な感性の間には一定の規則的な関係がある。心理学的実験及びその方法を説明し、理論的考察から導き出された幾つかの法則を時代を追いながら説明する。

【授業概要】 人間は外界をどのように見ているか?

【関連科目】 『認知心理学』(0.5, ⇒184 頁)

【履修上の注意】 テストを実施する。また、知覚心理学の実験を行いレポート提出を求める。

【到達目標】 様々な視覚現象を通して物理的刺激と心理的反応の間に関与する機構を理解し、人間特有の知覚の仕方を理解する。

【授業計画】 1. マッハ・バンド 2. 側方抑制 3. 主観的輪郭線 4. 明るさの同時対比 5. 明るさの対比と同化 6. 明るさの恒常性 7. 幾何学的錯視 8. 幾何学的錯視における対比と同化 9. 眼球運動と静止網膜像 10. 感覚遮断 11. 明暗順応 12. 網膜の構造 13. 三原色色説 14. 反対色説 15. 色覚の段階説

【成績評価】 中間試験、期末試験、レポート及び出席状況によって評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 資料を配付する。

【参考書】 参考書として、大山 正著「視覚心理学への招待」サイエンス社、松田隆夫著「視知覚」培風館、金子隆芳著「色彩の心理学」岩波新書、メッツガー著・盛永四郎訳「視覚の法則」岩波書店を推薦する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219392>

【連絡先】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日, 12時~13時)

文化人類学研究 I

2 単位 2 年 (前期)
高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】 文化人類学の中心的なテーマについて講義する。世界の諸民族の事例を通して、人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し、異文化(および自文化)の構造や意味を客観的に理解するための視点を得ることが本講義の目的である。グローバル化の進展の中で現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい。

【授業概要】 文化人類学の基本問題

【キーワード】 文化, 現代社会, グローバリゼーション

【関連科目】 『民俗学研究 I』(0.5, ⇒184 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【到達目標】 人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化(自文化)の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。

【授業計画】 1. 文化人類学のパースペクティブ 2. 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ 3. 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 4. 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 5. 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ 6. 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム 7. ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ 8. 現代医療と文化-新生殖技術をめぐる 9. メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 10. グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム 11. 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 12. ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より 13. 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ 14. 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか 15. 「転換期」の時代の文化人類学 16. まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる。個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂, 2005 年
- ◇ 中島成久編『グローバル化のなかの文化人類学案内』明石書店, 2003 年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書, 1982 年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣, 2008 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219280>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~13時)

【備考】 本年度開講(隔年開講)

民俗学研究 I

2 単位 2 年 (後期)
高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】 日本民俗学の主な研究目的は、各地に見られる民俗(一般の人々が日常生活の中で育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式)の持つ意味を明らかにし、さらにそれらの比較検討を通して、日本の基層文化を究明することにある。このような過去適応的=

歴史学の側面を持つ一方で、日本民俗学は、民俗の変化とその要因の解明、あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している。本授業では、こうした日本民俗学の基本概念について概説する。

【授業概要】日本民俗学の基本問題

【キーワード】民俗、日本文化

【関連科目】『文化人類学研究Ⅰ』(0.5, ⇒184頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する。

【到達目標】日本民俗学の基本的な概念を理解し、過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる。

【授業計画】1. 民俗学の考え方(民俗学の研究対象・目的・方法) 2. 社会の民俗(イエとムラの民俗) 3. 環境の民俗(景観・地形と民俗) 4. 生業の民俗(海・山・里の生業と民俗) 5. 時間の民俗(年中行事と民俗) 6. 生と死の民俗(出産・葬儀の民俗) 7. 神と霊魂の民俗(祖先祭祀、他界観と民俗) 8. 境界と怪異の民俗(異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) 9. 性と民俗(女性の民俗、男性の民俗) 10. 語りの民俗(昔話・伝説・世間話の民俗) 11. 都市の民俗(生成・変容する都市民俗)(1) 12. 都市の民俗(生成・変容する都市民俗)(2) 13. 観光と民俗(民俗の「発見」と「活用」) 14. 比較民俗学への道(環東シナ海文化圏の民俗) 15. 民俗研究の課題と展望(現代社会と民俗、民俗学の現代的意義) 16. まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館、1996年
- ◇ 松崎憲三編『民俗学の冒険』1~4、ちくま新書、1999年
- ◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~10巻、雄山閣、1998-2000年

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219310>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】本年度開講せず(隔年開講、次回は平成24年度開講予定)

造形表現基礎

2単位 2年(後期)
平本 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】絵画やデザインを作るためには、限られた画面の上でどのように描く物を配置するのかが、大切な要素となる。この事は、古典絵画から近、現代絵画及びデザインの世界で様々な工夫が意識的または感覚的にされてきた。例えば三角構図と逆三角構図は、安心と恐怖という全く違う感情を人に与えるだろう。そのような人間の感情と画面構成の関係や画面を見る人が、気持ちよく目を動かされる視覚誘導の作り方、画面の中心を目的に合わせて設定する方法などを通して、画面構成の基礎理論を学び、簡単な作品(学内の風景をモチーフとした水彩画)を作る事で表現を広げる。

【授業概要】画面構成

【キーワード】絵画、美術、芸術

【関連科目】『絵画表現研究』(0.5, ⇒185頁), 『デッサンと表現技法』(0.5, ⇒185頁), 『芸術基礎理論演習』(0.5, ⇒179頁)

【到達目標】

1. 画面構成の基礎理論を理解する。
2. 画面構成を応用して作品に生かす。

【授業計画】1. 画面構成について、古典絵画から近代絵画の作品を基にして視覚誘導を解説する。 2. 安定構図と不安定構図から生まれる感情表現 3. 不安定構図に力の動きを作り出し画面の安定を作り出す。 4. 不安定構図から作り出す視覚誘導 5. U字形の視覚誘導 6. 重なりあう2つのU字形の視覚誘導を使い、画面の中心を作る。 7. 視覚誘導の入口と出口の作り方とその効果 8. 不安定構図から作り出す視覚誘導を2つ画面に作り、複雑な画面構成を作る。 9. ジグザクな動きの視覚誘導 10. U字形視覚誘導を各自が工夫して作り出す。 11. 不安定構図から作り出す視覚誘導を各自が工夫して作り出す。 12. 幾つかの視覚誘導法を組み合わせて画面構成する。 13. 独自に構成法を考えて画面構成する。 14. 独自に構成法を考えて画面構成する。 15. まとめと批評会 16. まとめと鑑賞

【成績評価】評価は、授業中に行う小テスト式作品評価を基本として、出席や授業への取り組み姿勢等を併用して行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書、参考書は、使用しない。準備物として水彩絵の具の道具一式とスケッチブック(八つ切り画用紙程度の大きさ)、HB、B、2Bの鉛筆を持ってこよう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219466>

【連絡先】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12時~13時)

【備考】共通教育「絵画表現と技法」との読み替え科目である。

デッサンと表現技法

2単位 2年(後期)
平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】絵画表現や絵画を考える上での基礎となるものがデッサンである。ただ単に上手に描くことを目的とするのではなく、デッサンを身に付けることによって自然界の作り出す規則性やリズムの法則を観察の中から見つけだしてほしい。また、デッサンを深めることにより人間の目を持つ機能の曖昧さや三次元を二次元に写し取ることの矛盾を知ることができれば現代美術の理解につながって来る。具体的には鉛筆による石膏デッサンを通して画面構成、空間表現、立体感、量感、質感にせまる表現を学習する。また、デッサンによる表現として小さな物を拡大して描く細密拡大描写をする。

【授業概要】絵画表現の基礎

【キーワード】絵画、美術、芸術

【関連科目】『絵画表現研究』(0.5, ⇒185頁), 『造形表現基礎』(0.5, ⇒185頁), 『現代絵画論』(0.5, ⇒183頁)

【到達目標】デッサンの基本を習得する。

【授業計画】1. 1. デッサンについて・デッサンの目的 2. 鉛筆デッサンの描き方や考え方 3. 自然界の規則性について 4. 影と光の関係 5. 鉛筆による明暗の色の作り方 6. 鉛筆による比の取り方 7. 鉛筆による角度の計り方 8. 2. 鉛筆デッサン実技・石膏幾何形模型「球」 9. 石膏幾何形模型「円柱」 10. 石膏幾何形模型「多面体」 11. 石膏「女の足」 12. 石膏「女の手(ダビンチ作)」 13. 細密拡大描写「指」 14. 細密拡大描写「小物」 15. 細密拡大描写「小物」 16. 3. 批評会…作品制作後に毎回批評会を行う。自作の作品についての感想を述べ合う。

【成績評価】評価は、作品評価を基本として、出席や授業への取り組み姿勢等を併用して行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は、使用しない。準備物として八つ切り画用紙が同寸のスケッチブック、HB、B、2Bの鉛筆、消しゴム又は練りゴムを持ってこよう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219068>

【連絡先】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

絵画表現研究

2単位 2年(後期)
平本 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】絵画表現をする上で基礎となる力を養う。

【授業概要】絵画表現をするためには、表現を考える事とそれを表わすための技術が必要となるが、ここでは表現を考えるために毎週イメージデッサンの提出を求める。そして、アクリル絵の具を中心とした表現技法実習を行う。

【キーワード】絵画

【履修上の注意】アクリル絵具を各自購入してもらう。また、材料費を徴収する場合もある。

【到達目標】絵画表現ができるようになる。

【授業計画】1. 授業概要の説明 2. 封入樹脂によるボックスアートの制作 1 3. 封入樹脂によるボックスアートの制作 2 4. 封入樹脂によるボックスアートの制作 3 5. 封入樹脂によるボックスアートの制作 4 6. 封入樹脂によるボックスアートの制作 5 7. 凹凸絵画制作 1 8. 凹凸絵画制作 2 9. 凹凸絵画制作 3 10. 凹凸絵画制作 4 11. 凹凸絵画制作 5 12. パネルによる絵画作品制作 1 13. パネルによる絵画作品制作 2 14. パネルによる絵画作品制作 3 15. パネルによる絵画作品制作 4 16. 総評

【成績評価】提出作品とイメージデッサンで評価する。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は、使用しない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219436>

【連絡先】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時)

【備考】新カリキュラム科目「アート表現基礎」との読み替えである。

彫刻研究
Studies for Sculpturing

2 単位 2 年 (前期)
上月 佳代・非常勤講師
平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】 造形芸術に関する表現活動における彫刻分野の基礎的な知識や表現能力の習得を目指し、制作実習の授業を行い、立体分野への理解を深めたい。

【授業概要】 彫刻の基礎

【キーワード】 彫刻, 美術, 芸術

【先行科目】 『美術概論』(1.0, ⇒183 頁)

【関連科目】 『現代絵画論』(0.5, ⇒183 頁)

【履修上の注意】 特に美術の教職専門科目でもあるので教職希望者は必ず履修する事。

【到達目標】

1. 彫刻分野の基礎的な知識や表現能力の習得。
2. 現代彫刻や造形教育における立体分野の理解。

【授業計画】 1. 1. 現代彫刻の諸相について 2. 線材による抽象表現 3. 作品批評と鑑賞 4. 面材による立体造形 5. 作品批評と鑑賞 6. 粘土による頭像制作 1 7. 粘土による頭像制作 2 8. 粘土による頭像制作 3 9. 粘土による頭像制作 4 10. 作品批評と鑑賞 11. 粘土による抽象表現 1 12. 粘土による抽象表現 2 13. 粘土による抽象表現 3 14. 粘土による抽象表現 4 15. 石膏素材の実習 16. 3. まとめと代表的な現代彫刻の鑑賞

【成績評価】 評価は、出席と課題作品による。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 教科書は、使用しない。授業中に資料を配布する。参考書 中原祐介著「現代彫刻」美術出版社
- ◇ 美術出版社「カラー版 20 世紀の美術」

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219221>

【連絡先】

- ⇒ 上月 .
- ⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期, 水曜日 16時20分~16時50分)

【備考】 本授業は、隔年開講である。

人間社会学科 マルチメディアコース マルチ情報サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

仮想環境構築法 I ...掛井/3年(前期).....	187
仮想環境構築法 II ...河原崎/3年(後期).....	187
空間デザイン論 ...掛井/3年(後期).....	187
デスク・トップ・ミュージック ...宮澤/2年(後期).....	187
MIDI 概論 ...宮澤/2年(後期).....	188
マーケティング情報表現研究 (その1) ...石井/2年(後期).....	188
マーケティング情報表現研究 (その2) ...石井/3年(後期).....	188
ミュージアムスタディー ...石井/3年(後期).....	188
空間デザインゼミナール ...掛井/4年(後期).....	189
環境デザインゼミナール ...石井/3年(後期).....	189
メディアアート概論 ...河原崎/2年(前期).....	189
モデリング理論 ...宇野/2年(後期).....	189
ネットワーク論 ...中山/1年(前期).....	190
コンピュータグラフィックス基礎論 ...中山/1年(後期).....	190
デスク・トップ・ミュージックゼミナール ...宮澤/4年(前期).....	190
音楽学研究 ...片岡/3年(前期).....	190
作曲法研究 ...宮澤/2年(後期).....	191
指揮法研究 ...宮澤/2年(後期, 集中).....	191
音楽学ゼミナール I ...片岡/3年(後期).....	191
音楽学ゼミナール II ...片岡/3年(後期).....	191
書法表現研究 I ...養毛・堤/2年(後期, 集中).....	192
平面表現研究 ...平木/3年(前期).....	192
工芸表現研究 ...平木/2年(後期).....	192
平面表現ゼミナール ...平木/3年(後期), 4年(後期).....	192
メディアアート ...河原崎/3年(後期).....	193

仮想環境構築法 I

2 単位 3 年 (前期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業ではイベント駆動型 3 次元アニメーションの制作を通して、OpenGL による 3 次元グラフィックスのプログラミングの基礎を学ぶ。
【授業概要】 コンピュータシミュレーションによる環境の構築、表現について学ぶ。
【キーワード】 シミュレーション、マルチメディア、バーチャル・リアリティ
【先行科目】 『インタラクティブコミュニケーション論』(0.9, ⇒179 頁), 『映像メディア表現研究』(0.9, ⇒180 頁)
【関連科目】 『仮想環境構築法 II』(0.5, ⇒187 頁), 『空間デザインゼミナール』(0.8, ⇒189 頁), 『空間デザイン論』(0.3, ⇒187 頁)
【到達目標】 OpenGL の関数を利用してモデリングが出来るようになる
【授業計画】 1. OpenGL(2 次元)の復習 2. 投影法 3. 隠面処理 4. 変換行列を用いたモデリング 5. 変換行列を用いたアニメーション 6. シェーディング 7. 光源の設定 8. テクスチャマッピング 9. スプライン曲面 10. シミュレーション 1 11. シミュレーション 2 12. ウォークスルー 1 13. ウォークスルー 2 14. 課題作成 1 15. 課題作成 2 16. プレゼンテーション
【成績評価】 (課題の作成)×(授業への貢献)
【再試験】 実施せず
【教科書】 参考資料
【参考書】 『OpenGL による 3 次元 CG プログラミング』林 武文 他, コロナ社
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219108>
【連絡先】
 ⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 5-6(他の時間帯でもメール等で連絡の上随時訪問可).)

仮想環境構築法 II

2 単位 3 年 (後期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】 多様な表現手法の概観とメディアへの批評性を持った表現の演習。
【授業概要】 メディアアート作品研究とインスタレーション演習
【キーワード】 インタラクション, インスタレーション, メディアアート
【関連科目】 『仮想環境構築法 I』(0.5, ⇒187 頁)
【履修上の注意】 一方的な講義ではなくグループディスカッション等を行う予定なので、受け身の姿勢ではなく積極的な参加が必要となる。横断領域表現研究室所属予定の学生が履修すること。
【到達目標】 メディアアート表現の理解と実践
【授業計画】 1. メディアアートについて 2. 作品研究 1 3. 作品研究 2 4. 作品研究 3 5. 作品研究 4 6. 課題作品制作 1 7. 課題作品制作 2 8. 課題作品のプレゼンテーション 9. 課題作品制作 3 10. 課題作品制作 4 11. 課題作品制作 5 12. 課題作品制作 6 13. 課題作品のプレゼンテーション 14. 課題作品の展示準備 15. 課題作品の展示 16. 総括
【成績評価】 (課題の作成)×(授業への貢献)
【再試験】 実施せず
【教科書】
 ◇ 参考書
 ◇ 参考資料
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219109>
【連絡先】
 ⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

空間デザイン論

2 単位 3 年 (後期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】 住宅設計及び大学施設設計を通して、「デザインする」という行為(条件の整理, 課題の発見, アイディアの検討, かたちの実現)について学ぶ。講評会でのプレゼンテーションを通して、自らの考えを論理的に説明することを学ぶ。
【授業概要】 住宅設計及び大学施設設計を行い、設計した住宅、大学施設についてのプレゼンテーションを行う。
【キーワード】 デザイン, 建築計画, シミュレーション
【関連科目】 『仮想環境構築法 I』(0.3, ⇒187 頁), 『空間デザインゼミナール』(0.7, ⇒189 頁)
【履修上の注意】 空間デザインを卒業研究として専攻する場合は履修すること。
【到達目標】 自ら課題を発見し、課題を様々な視点から検討し、纏められるようになる。
【授業計画】 1. 空間のデザインとはなにか? 2. 住宅設計課題の説明 3. エスキスの作成 1 立地と配置 4. エスキスの作成 2 空間の連結性 5. エスキスによる設計チェック 6. 設計作業 1 3 面図 7. 設計作業 2 パース 8. 講評会 9. 大学施設設計課題の説明 10. 大学研究室におけるコミュニケーション 11. エスキスの作成 1 立地と配置 12. エスキスの作成 2 空間の連結性 13. エスキスによる設計チェック 14. 設計作業 1 3 面図 15. 設計作業 2 パース 16. 講評会
【成績評価】 (設計課題)×(授業への取り組み)
【再試験】 実施せず
【参考書】 授業内で適宜, 指定
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219404>
【連絡先】
 ⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 5-6(他の時間帯でもメールなどで連絡の上, 随時可))

デスク・トップ・ミュージック Desk Top Music

2 単位 2 年 (後期)
宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代では音楽の製作にシンセサイザーやコンピュータは不可欠なものになっている。これらの機材を使いこなすことが一部のみにだけ許された時代はすでに終わり、今日では非常に身近な存在になっている。しかし、これらの機材の能力を十分に生かすためには、身につけなくてはならない新しい知識も多く、さらに多種多様な音楽への理解も大切である。この講義ではデスク・トップ・ミュージックに必要な知識を学び、実践に役立てることができるようになることを目指す。
【授業概要】 コンピュータとシンセサイザーを組み合わせた音楽制作の方法について学ぶ。

【キーワード】シンセサイザー、MIDI、コンピュータと音楽
 【先行科目】『現代音楽芸術論』(1.0), 『音楽理論研究』(1.0)
 【関連科目】『MIDI 概論』(1.0), 『デスク・トップ・ミュージックゼミナール』(0.5)
 【履修上の注意】この講義は、卒業研究でデスク・トップ・ミュージックの専攻を希望する学生にとっては必要不可欠である。
 【到達目標】各種シンセサイザーの構造と音作りの方式を理解し、それらの音色を的確に使いこなすことができる。また、音楽制作のためのテクノロジーを十分に理解する。
 【授業計画】1. シンセサイザーとコンピュータの原理、正しい使用方法 2. アナログ・シンセサイザー 3. デジタルシンセサイザー 4. GM 音源及び各メーカーの拡張企画 5. それぞれの音色の特徴とその生かし方 6. ドラムの入力 7. ベースの入力 8. 鍵盤楽器の入力 9. ストリングスとホーンセクションの入力 10. 様々なリズムパターンの分析 11. 映像の音楽が加わることで何がかわるか、音楽の効用 12. MIDI 信号(ノートオンとノートオフ) 13. MIDI 信号(音色の選択とピッチバンド) 14. MIDI 信号(コントロールチェンジ) 15. 総括授業(コンピュータと音楽の最前線) 16. 期末レポートの提出
 【成績評価】講義中の小テストおよびレポート
 【再試験】行わない
 【教科書】使用しない。講義の時に資料を配布することがある。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219066>
 【連絡先】
 ⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))
 【備考】○後期、金曜日 5-6 講時 ○人間文化学科の「デスクトップミュージック」と同時開講

MIDI 概論 2 単位 2 年 (後期)
Basic Theory of MIDI 宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】デスク・トップ・ミュージックでは MIDI と呼ばれる国際規格によってデータが作られ、また演奏に使用される。この規格によることで、様々なデータは国際的な物として広く共有されることになる。またこの規格を学ぶことにより、効率の良いデータ編集が行えるようになる。この講義では、複雑で多彩な MIDI データの構造を学び、実際の音楽制作の役に立てるようにすることを目的とする。
 【授業概要】MIDI(ミディ) 信号の詳細について講義を行う。
 【キーワード】音楽とデジタル信号、16 進法、コンピュータとシンセサイザー
 【先行科目】『デスク・トップ・ミュージック』(1.0)
 【関連科目】『ミュージックデザイン』(1.0, ⇒181 頁), 『デスク・トップ・ミュージックゼミナール』(0.5, ⇒190 頁)
 【履修上の注意】この講義は、卒業研究でデスク・トップ・ミュージックの専攻を希望する学生にとっては必要不可欠である。デスク・トップ・ミュージックに関する基礎知識を持っていること。
 【到達目標】MIDI について充分理解し、実際の音楽制作の現場でこの講義での知識を行かすことができる。
 【授業計画】1. MIDI 規格と 16 進法、2 種類のバイト 2. 演奏に関するメッセージ 3. 演奏データの入力 4. 音色の選択方法(プログラムチェンジとバンクセレクト) 5. 音色選択データの入力 6. ピッチバンドとアフタータック 7. ピッチバンドデータの入力 8. コントロールチェンジ(連続タイプ) 9. コントロールチェンジ(on-off タイプ, RPN, NRPN) 10. コントロールチェンジ(様々なパラメータを操作するための信号) 11. コントロールチェンジの入力(その 1) 12. コントロールチェンジの入力(その 2) 13. システムメッセージ 14. システムメッセージの入力 15. 総括授業 16. 期末試験
 【成績評価】テスト(80%) および出席状況(20%)
 【再試験】行わない
 【教科書】使用しない。講義の時に資料を配布することがある。
 【参考書】『MIDI 検定 3 級』のテキスト等、様々な関連書籍が出版されている
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219037>
 【連絡先】
 ⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))
 【備考】後期、金曜日 7~8 講時

マーケティング情報表現研究 (その 1) 2 単位 2 年 (後期)
Studies of Marketing Information (1) 石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】多様化した情報メディアによる、マーケティング戦略について考察すると共に、人間の持っている視覚特性についても検討を行う。
 【授業概要】ブレインストーミングを通じたビジュアルコミュニケーションをテーマにトータルデザインについて論じる。
 【キーワード】トータルデザイン
 【先行科目】『ミュージアムスタディー』(1.0, ⇒188 頁)
 【関連科目】『環境デザインゼミナール』(0.5, ⇒189 頁)
 【履修上の注意】後期開講。受講条件:ビジュアルコミュニケーションに興味のある学生を対象とする。映像デザイン表現研究、アーツ・アンド・テクノロジー論を受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1 階講義・実習室にて行なう。
 【到達目標】マーケティング戦略を身につける。
 【授業計画】1. トータルデザインをテーマに商品計画を進める。 2. 受講者による発表を中心に授業を進める 3. デザインテクニックの紹介 4. レタリング基本ストロークについて 5. オフセット印刷の基礎原理を学ぶ。 6. 新築されるデパート等のトータルデザイン 7. デパートの CI(Corporate Identity) の特色 8. 立地条件と主力商品の決定 9. ネーミングを決定する。 10. ロゴタイプを検討する。 11. グラフィック等を決定する。 12. トータルカラーを決定する。 13. マーケティング・ミックス部分からビジュアルコミュニケーションを検討する。 14. 地域社会との調和について 15. レポート提出 16. 総括授業
 【成績評価】課題と期末試験及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。
 【再試験】行わない。
 【教科書】講義の中でテーマ毎に紹介する。
 【参考書】授業の中で配布する。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219003>
 【連絡先】
 ⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 昼休み)
 【備考】○平成 23 年度 後期開講。 ○平成 23 年度は、金 5・6 講時開講。 ○講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室で行う。

マーケティング情報表現研究 (その 2) 2 単位 3 年 (後期)
Studies of Marketing Information(2) 石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】情報メディアによる、マーケティング戦略について考察すると共に、人間の持っている視覚特性についても検討を行う。
 【授業概要】ビジュアルコミュニケーションをテーマにトータルデザインについて論じる。
 【キーワード】トータルデザイン
 【先行科目】『ミュージアムスタディー』(1.0, ⇒188 頁)
 【関連科目】『環境デザインゼミナール』(0.5, ⇒189 頁)
 【履修上の注意】後期開講。受講条件:映像デザイン表現研究、アーツ・アンド・テクノロジー論を受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行なう。
 【到達目標】マーケティング戦略を身につける。
 【授業計画】1. 店舗計画のトータルデザインを考える。 2. 受講者による発表を中心に授業を進める 3. デザインテクニックの基本として用具の取り扱いについて説明する。 4. オリジナルなレタリングの作成方法について 5. 印刷の基礎原理を学び、平版と凸版について作例を作成する。 6. 店舗のトータルデザインを考える。 7. 店舗の CI(Corporate Identity) の特色 8. 立地条件と主力商品を考える。 9. ネーミングを決定する。 10. ロゴタイプを検討する。 11. グラフィック等を決定する。 12. トータルカラー等を決定する。 13. マーケティング・ミックス部分からビジュアルコミュニケーションを検討する。 14. 地域社会との調和について考える。 15. レポート提出 16. 総括授業
 【成績評価】課題と期末試験及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。
 【再試験】行わない。
 【教科書】講義の中でテーマ毎に紹介する。
 【参考書】授業の中で配布。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219004>
 【連絡先】
 ⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 昼休み)
 【備考】○平成 24 年度 後期開講。 ○平成 24 年度は、金 5・6 講時開講。 ○講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行なう。

ミュージアムスタディー 2 単位 3 年 (後期)
Museum Studies 石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】 歴史的な 19 世紀中期における画像表現技術を学ぶと共に、美術館・図書館・公官庁等で所有している古写真や芸術作品の保存・修復・管理について、その在り方、必要性等についても考察を深め、画像表現と画像保存の両局面から今後考えられる画像文化のあり様を探る。

【授業概要】 画像の表現のあり方及び芸術作品の保存・修復・管理について理解を深めるとともに、より良い照明による作品の展示方法等についても考察する。

【キーワード】 保存修復

【先行科目】 『環境デザインゼミナール』(1.0, ⇒189 頁)

【関連科目】 『マーケティング情報表現研究 (その 1)』(0.5, ⇒188 頁)

【履修上の注意】 後期開講。受講条件:文化遺産の保護と修復そしてデジタルアーカイブについて考察しておくこと、映像デザイン表現研究, アーランドテクノロジー論を受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。

【到達目標】 より良い保存コンディションによる作品の展示方法を身につける。

【授業計画】 1. 本授業では主にミュージアムに於ける写真画像について検討を行う。19 世紀中期以降現代に至るまでに表現された、写真画像を教材とし、画像の識別方法について検討を行う。2. 受講者による発表を中心に授業を進める 3. 21 世紀における写真画像保存の現状とその必要性について 4. 写真撮影と撮影画像の利用方法について 5. ハウジング実習とその必要性について 6. 写真画像の劣化と古文書の管理方法について 7. コンディションレポートの書き方について 8. コンディションレポート作成 9. 写真画像の識別方法について 10. 白黒フィルムを使った、オブジェの撮影実習 11. 白黒フィルム処理について 12. カラーフィルムを使った、オブジェの撮影実習 13. カラーフィルム処理について 14. 作品の展示方法について 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】 課題と期末レポート及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書】 授業の中で配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219010>

【連絡先】
⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 木曜日 昼休み)

【備考】 ◯23 年度 後期開講。◯23 年度は、金 3・4 講時開講。◯講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。

空間デザインゼミナール

2 単位 4 年 (後期)

掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】 モバイル端末向けアプリケーションのデザイン、開発および公開を経験し、ICT を積極的に使いこなす姿勢を涵養する。

【授業概要】 自らの体験および社会のニーズを基に、モバイル端末向けアプリケーションを企画する。アプリケーションをモバイル端末に実装し、公開する。

【先行科目】 『仮想環境構築法 I』(1.0, ⇒187 頁), 『空間デザイン論』(0.9, ⇒187 頁), 『仮想空間論』(0.9, ⇒180 頁)

【履修上の注意】 空間デザインを卒業研究として専攻する学生は必ず履修すること。この授業はディスカッション、発表を中心に構成されるので積極的に参加することが望まれる。

【到達目標】 モバイル端末向けアプリケーションの作成スキルを身につける。

【授業計画】 1. モバイル端末に関する技術動向 2. モバイル端末の特性 3. モバイル端末向けアプリケーションの市場動向 4. アプリケーションの企画 5. アプリケーションの設計 6. アプリケーションの実装 Interface Builder 入門 7. アプリケーションの実装 Objective-C 入門 8. アプリケーションの実装 Objective-C 応用 9. アプリケーションの実装 インターフェイスのデザイン 10. アプリケーションの実装 クラスの設計 11. アプリケーションの実装 エミュレーション 12. アプリケーションの評価 インターフェース的観点 13. アプリケーションの評価 機能的観点 14. アプリケーションのシェイプアップ 15. アプリケーションの公開 16. 総括

【成績評価】 積極性など授業への貢献により評価する。

【再試験】 実施せず。

【参考書】 必要に応じて授業にて適宜文献 (主に英文) を指定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219403>

【連絡先】
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日5-6(他の時間帯でもメール等で連絡の上随時訪問可))

環境デザインゼミナール Seminar on Environmental Design

2 単位 3 年 (後期)

石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】 デザインは環境に対して何をやってきたか、また何ができるかという事をテーマに、環境とは何か、人工環境と自然環境の諸問題、環境デザインと交通システム、環境デザインのエコロジー等について考察する。また、デジタルアーカイブについても検討する。

【授業概要】 調和のとれた未来社会について考察する。

【キーワード】 環境デザイン

【先行科目】 『マーケティング情報表現研究 (その 1)』(1.0, ⇒188 頁), 『空間デザイン論』(1.0, ⇒187 頁)

【関連科目】 『ミュージアムスタディー』(0.5, ⇒188 頁)

【履修上の注意】 後期開講。受講条件:環境美化と自然と人類の共存の在り方について考察しておくこと。映像デザイン表現研究, ミュージアムスタディーを受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。

【到達目標】 デザインが生活環境に果たす役割を身につける。

【授業計画】 1. 環境計画として、歴史と科学の両面から考える。2. 受講生による発表を中心に授業を進める。3. 開かれた公園について 4. 庭園の在り方について 5. ユニバーシティコンサベーションについて 6. BEFORE-DURING-AFTER TREATMENT 写真撮影について 7. カラーリバーサルフィルム処理について 8. ガーデンキュレーションについて 9. 環境アセスメントの一環として学内のオブジェを対象に実習を行う。(下地塗装) 10. 環境アセスメントの一環として学内のオブジェを対象に実習を行う。(本塗り) 11. カラーリバーサルフィルム処理及びスライド鑑賞について。12. 計画事例として、庭園や道作りを通じて、様々な都市環境の関わりについて考察する。13. 環境にやさしい地域社会について考える。14. 調和のとれた未来社会について 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】 課題と期末レポート及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書】 授業の中で配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218488>

【連絡先】
⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 木曜日 昼休み)

【備考】 ◯平成 23 年度 後期開講。◯平成 23 年度は、金 9-10 講時開講。◯講義はマルチメディア B 棟 講義・実習室で行う。

メディアアート概論

2 単位 2 年 (前期)

河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】 作品制作における各自のテーマをつかみ、メディア、テクノロジーへの俯瞰の視点を持ち具体的な作品制作へと結びつけるための基礎を養う。

【授業概要】 現代における芸術表現の多様性を把握し、可能性を探る。

【キーワード】 メディアアート、現代美術

【履修上の注意】 一方的な講義ではなくグループディスカッション等を行う予定なので、受け身の姿勢ではなく積極的な参加が必要となる。横断領域表現研究室所属予定の学生が履修すること。

【到達目標】 メディアアート表現の理解

【授業計画】 1. 作家研究 2. 作家研究 3. 作家研究 4. 作家研究 5. 作家研究 6. 作家研究 7. 各自のテーマ設定による研究, 読込 8. 各自のテーマ設定による研究, 読込 9. 各自のテーマ設定による研究, 読込 10. 各自のテーマ設定による研究, 読込 11. 各自のテーマ設定による研究, 読込 12. 各自のテーマ設定による研究, 読込 13. 各自のテーマ設定に基いた作品制作演習 14. 各自のテーマ設定に基いた作品制作演習 15. 各自のテーマ設定に基いた作品制作演習 16. 各自のテーマ設定に基いた作品制作演習

【成績評価】 (課題の作成) (授業への貢献)

【再試験】 実施せず

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219015>

【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

モデリング理論 modeling theory

2 単位 2 年 (後期)

宇野 剛史・准教授/総合理数学科

【授業目的】 数理モデル化とシミュレーション

【授業概要】 この講義では自然現象や社会現象などの様々な現象を分析するために用いる数理モデルやシミュレーションモデルの作り方とその

活用法に重点を置いて講義する。現象を数理的に定式化する代表的な数理モデルの例を示し、コンピュータを活用したデータ解析、シミュレーション、および、図表やグラフ等の視覚化について取り扱う。

【キーワード】数理モデル、シミュレーション

【先行科目】『情報社会と情報倫理』(0.2, ⇒292頁), 『数学基礎 I』(0.2, ⇒289頁), 『数学基礎 II』(0.2, ⇒289頁)

【関連科目】『マルチメディア演習』(0.2, ⇒291頁), 『プログラミング演習』(0.2, ⇒303頁)

【履修上の注意】特になし。ただし、線形代数学と微積分の初等的知識を使う。

【到達目標】

1. (1) 簡単な数理モデルおよびシミュレーションモデルが作成できる。
2. (2) 基本的なモデルの解析とグラフ等の視覚化ができる。

【授業計画】1. 0. イントロダクション, 「わかる」とは 2. 1. モデル化の基礎 3. 2. モデルの特性 2.1 モデルの種類 4. 乱数を用いた簡単な例(演習・レポート1) 5. 2.2 モデル化の目的, 2.3 モデルの評価 6. 2.4 モデルの特性 7. 物理現象の解析(演習・レポート2) 8. 3. シミュレーションの基礎 3.1 シミュレーションの目的 9. 3.2 シミュレーションの分類 10. 3.3 シミュレーションの手順, 3.4 プログラム 11. 微分方程式, 差分方程式(演習・レポート3) 12. 4. システムのモデル化 4.1 システム分析 13. 4.2 要素のモデル化 14. 4.3 非数値的な要素・関連分析, 4.4 数値的分析法 15. 期末試験

【成績評価】レポートと期末試験で評価する。

【再試験】あり。

【教科書】教科書:教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219080>

【連絡先】

⇒宇野(総合科学部1号棟2S08室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

ネットワーク論

2単位 1年(前期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】今日、コンピュータの高性能化、および、通信網の整備により、インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている。今後、あらゆる家電製品や携帯電話などが、ネットワークへの接続を前提に作られるようになり、ネットワークが生活の基盤になるであろう。よって、ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ること、将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる。このような観点から、情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする。

【授業概要】情報通信ネットワークについて学ぶ

【キーワード】通信ネットワーク、インターネット、プロトコル、TCP/IP

【履修上の注意】2進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識があること。

【到達目標】ネットワークに関する知識や設計技法の習得、および、それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする。

【授業計画】1. 情報通信の発達過程 2. ネットワークの種類と形態 3. ネットワークに関する基礎技術 4. 通信プロトコル 1 5. 通信プロトコル 2 6. 伝送制御手順 7. 通信サービスと技術 1 8. 通信サービスと技術 2 9. ネットワークの分析 1 10. ネットワークの分析 2 11. ネットワークの設計 1 12. ネットワークの設計 2 13. ネットワークセキュリティ 1 14. ネットワークセキュリティ 2 15. ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】レポート、中間試験、期末試験で総合的に判断する

【再試験】行う

【教科書】プリント

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219072>

【連絡先】

⇒中山(1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

コンピュータグラフィックス基礎論

2単位 1年(後期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】コンピュータの普及と共に、さまざまな分野でコンピュータグラフィックス(CG)が活用されるようになってきている。CGを作成するには、デザイン関連の知識も必要であるが、コンピュータで幾何学的な計算をさせるため、数学的な知識も必要である。本講義では、コンピュータグラフィックスに関する概念や理論、特に、CGの基本として使われる数学的手法について論じる。また理論を学んだ後に随時プログラムも行う。

【授業概要】コンピュータグラフィックにおける数学的手法について学び、その後プログラム作成を行う。

【キーワード】コンピュータ・グラフィックス

【先行科目】『プログラミング演習』(1.0, ⇒303頁)

【関連科目】『プログラミング演習』(0.5, ⇒303頁)

【履修上の注意】グラフィックスに関するプログラム演習を行うので、C言語を使いこなせること

【到達目標】コンピュータグラフィックスに関する概念や理論を習得し、コンピュータグラフィックスに関するプログラミングが可能となることを目標とする。

【授業計画】1. 概論, CGの現状 2. 座標系 3. 物体の表現 4. 形状モデル 5. 幾何学的要素の代数的表現 6. 変換行列 7. 図形の投影:投影変換, 並行投影, 透視投影 8. 図形の変換 I:アフィン変換 9. 図形の変換 II:射影変換 10. 投影図法 11. 透視変換と射影変換 12. 曲線 I:クロソイド曲線, スプライン曲線 13. 曲線 II:2次曲線, 3次曲線 14. レンダリング 15. コンピュータアニメーション

【成績評価】レポート、中間試験、期末試験で総合的に判断する

【再試験】行う

【教科書】授業時に指定する

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219059>

【連絡先】

⇒中山(1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

デスク・トップ・ミュージックゼミナール 2単位 4年(前期) Seminar of Desk Top Music 宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】この講義では、卒業研究にデスク・トップ・ミュージックを選択した学生を主な対象とし、実際に音楽制作を行う

【授業概要】コンピュータとシンセサイザーを組み合わせたシステムを用いて、実際の音楽制作を行う。

【キーワード】コンピュータによる音楽制作, DAW アプリケーション

【先行科目】『デスク・トップ・ミュージック』(1.0), 『ミュージックデザイン』(1.0, ⇒181頁), 『MIDI 概論』(1.0, ⇒188頁)

【関連科目】『音楽理論研究』(1.0, ⇒182頁), 『作曲法研究』(1.0, ⇒191頁)

【履修上の注意】この講義は、卒業研究でデスク・トップ・ミュージックを専攻した学生を対象とする。ただし設備に余裕があれば、他の学生も受け入れることは可能。その場合は、コンピュータやシンセサイザーおよびMIDIシステムに対する十分な知識を持っていることが必要不可欠である。

【到達目標】各自の表現意欲に基づいた音楽作品を、コンピュータを使用して作り上げる。

【授業計画】1. 音楽制作とコンピュータの基礎 2. 音楽制作に使用するアプリケーションの使用法 3. 音楽制作の実践(その1) 4. 音楽制作の実践(その2) 5. 音楽制作の実践(その3) 6. 音楽制作の実践(その4) 7. 音楽制作の実践(その5) 8. 中間発表と今後の進行予定の確認 9. 音楽制作の実践(その6) 10. 音楽制作の実践(その7) 11. 音楽制作の実践(その8) 12. 音楽制作の実践(その9) 13. 音楽制作の実践(その10) 14. 音楽制作の実践(その11) 15. 総括授業 16. 期末発表会(成績評価を行う)

【成績評価】講義中の小テストおよびレポート

【再試験】行わない

【教科書】使用しない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219067>

【連絡先】

⇒宮澤(マルチメディアA棟204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))

【備考】◇前期, 水曜日9~10講時 ◇平成20年度以前の入学生を対象とする。

音楽学研究

2単位 3年(前期)
片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】当授業では、主として日本の伝統音楽について民族音楽学的視点から講義する。ただそれと共に、(日本以外の)世界の諸民族の音楽についても可能な範囲で並行的に言及する。この授業を通じてわが国の伝統音楽についての造詣が深められると共に、現代の音楽文化を各自が再考するためのきっかけのひとつが与えられれば、私としては幸いであると考えている。

【授業概要】民族音楽学的観点に立った日本の伝統音楽並びに世界の諸民族の音楽についての講義(日本の伝統音楽の講義に重点を置く。)

【キーワード】日本伝統音楽, 世界の諸民族の音楽, 音楽学, 日本の古代から中世にかけての音楽, 音楽鑑賞

【関連科目】『音楽学ゼミナール I』(0.5, ⇒191頁), 『音楽学ゼミナール II』(0.5, ⇒191頁)

【履修上の注意】当授業は講義形式なので、受講者は受け身的になりがちであるが、できるだけ主体的かつ積極的な姿勢で授業に取り組んでほしい

い、なお、先行科目は特定したくないので記入しておらず、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。

【到達目標】日本の伝統音楽並びに日本以外の世界の諸民族の音楽についての造詣を深め、多様な音楽文化に対する認識を広める。

【授業計画】1. 上記に述べた内容を具現するために、講義的説明に加えて、A.V. 機器を使用して鑑賞も行う。2. 1-3 週目 授業の趣旨説明と、日本の伝統音楽研究のための文献類の紹介。3. 4-6 週目 古代から現代に至る日本伝統音楽の歴史の概説。4. 7-10 週目 古代の日本の音楽。5. 11-14 週目 中世の日本の音楽。6. 15 週目 総括授業。これまでの授業内容全体について意見交換等を行う。7. 近世以降の日本の音楽については、時間的な関係で細かい言及はできない。なお上述したように、同授業では原則として、毎回並行して(日本以外の)世界の諸民族の音楽についても言及する。

【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験】行わない。

【教科書】この授業では教科書等は使用しない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218466>

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日の昼休み)

【備考】平成 23 年度は、前期・火曜 1-2 講時に開講。

作曲法研究

Study of Composition

2 単位 2 年 (後期)

宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】この講義では音楽理論研究で学んだ基礎的な「和声学」を土台に、さらに高度な内容を学ぶ。和声学の学習を一通り終えた段階で、さらに「対位法」や「編曲法」についても学習する。旋律への和声付けや、伴奏付けを行うことで、多様な音楽表現の方法を身につける。

【授業概要】すでに学んだ「音楽理論研究」をふまえて、実践的な作曲や編曲の方法を学ぶ。

【先行科目】『音楽理論研究』(1.0, ⇒182 頁)

【関連科目】『現代音楽芸術論』(0.5, ⇒182 頁)

【履修上の注意】この講義を受講するためには、「音楽理論研究」を受講していることが必要不可欠である。この講義から受講を希望する学生には、十分な音楽的素養を身に付けていることが要求される。また毎週かなりの量の課題をこなして行かなければならない。授業以外の学習に相当な時間を割かれることになる。課題の進行状態の悪い者には単位が出ないこともある。

【到達目標】それぞれの音楽スタイルにふさわしい伴奏付けができる。また、様々な編成に向けた編曲ができる。

【授業計画】1. この講義では、前期で学習した内容を基本に各受講生の進歩に応じて、授業内容の詳細を決める。2. 課題の実践(その 1) 3. 課題の実践(その 2) 4. 課題の実践(その 3) 5. 課題の実践(その 4) 6. 課題の実践(その 5) 7. 課題の実践(その 6) 8. 課題の実践(その 7) 9. 課題の実践(その 8) 10. 課題の実践(その 9) 11. お互いの解答を比較し検討する(その 1) 12. お互いの解答を比較し検討する(その 2) 13. 最終的な解答の作成(その 1) 14. 最終的な解答の作成(その 2) 15. 総括授業 16. 期末課題の提出

【成績評価】講義時間中の課題の出来具合、および最終のテストにより評価する。

【再試験】行わない

【教科書】授業のための課題を、そのつどプリントして配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219112>

【連絡先】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))

【備考】○今年度は開講する。なお、今回の開講が最終回になる。○平成 20 年度以前の入学生を対象とする。21 年度以後の入学生は受講できない。

指揮法研究

Study of Conducting

2 単位 2 年 (後期, 集中)

宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】指揮は音楽の演奏行為の一つであり、正しく行うためにはしっかりと基礎訓練と表現のための技術を十分に磨き上げる必要がある。しかし、指揮者は自分で音を出さないので、しばしばいい加減に行われることも多い。この講義では、指揮を正しく行うための筋肉運動の訓練と、音楽のそれぞれの場面にふさわしい「指揮者の」表現を学ぶ。

【授業概要】指揮の理論と実践

【関連科目】『音楽理論研究』(0.5, ⇒182 頁)

【履修上の注意】楽譜を正しく読む能力と幅広い音楽的知識。またソナチネアルバム終了程度のピアノの演奏能力があることが不可欠である。受講希望者は、今までに多くの音楽的体験、特に実際の演奏体験があることが必要である。なお、同授業は前期に集中講義として実施するので、日程等には充分注意すること。

【到達目標】様々な音楽演奏上の要求に対して、的確な図形を描き、無駄のない指揮を行える能力を身につける。

【授業計画】1. 腕を「正しく動かす」ための訓練。2. 腕の訓練が終了したら、それぞれの拍子を正しく振るための基本動作を訓練する。3. それぞれの拍子を正しく振り分けられるようになったら、様々なテンポで正しい図形を保つ訓練をする。4. 拍の 2 分割, 3 分割の訓練。5. 平均運動と、テンポの予備の訓練。6. 以上の訓練が全て終了した段階で、身につけた腕の動きを音楽表現に結びつけるための訓練に移る。7. 実際の音楽作品を指揮(その 1) 8. 実際の音楽作品を指揮(その 2) 9. 実際の音楽作品を指揮(その 3) 10. 実際の音楽作品を指揮(その 4) 11. 実際の音楽作品を指揮(その 5) 12. 実際の音楽作品を指揮(その 6) 13. 実際の音楽作品を指揮(その 7) 14. 実際の音楽作品を指揮(その 8) 15. 総括授業 16. 期末試験

【成績評価】講義中に各受講生の実力を判断し決定する。出席状況も考慮される。

【再試験】行わない

【教科書】受講生の実力に応じて決定する。指揮棒を各自で準備または購入(1 本約 1000 円程度)しておくこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219247>

【連絡先】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))

【備考】○今年度は開講する。なお、今回の開講が最終回になる。○平成 20 年度以前の入学生を対象とする。21 年度以後の入学生は受講できない。

音楽学ゼミナール I

2 単位 3 年 (後期)

片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】当授業では、J. S. バッハの人と音楽について勉強する。バッハの音楽は、極めて多様で無限の魅力があり、時代・民族・文化等の違いを超えてすべての人に切々と訴えかける力を持っている。この授業を通じて、バッハの音楽についての学生各自の造詣が深められることを願うと共に、音楽の本質は何かという問題についても考えてみたい。

【授業概要】J. S. バッハ研究。

【キーワード】J.S. バッハ, 音楽の本質, 音楽鑑賞, 西洋の音楽文化, バロック音楽

【関連科目】『音楽学ゼミナール II』(0.5, ⇒191 頁), 『音楽学研究』(0.5, ⇒190 頁)

【履修上の注意】この授業は平成 15 年度に開始されているが、隔年開講で、今年度(平成 23 年度)の開講が最終となる。(同じ時間帯で、今年度は「音楽学ゼミナール II」は開講されず、こちらは平成 24 年度の開講が最終となる。)専門的な素養がなければ同授業は受講できないといった性格のものではないので、バッハの音楽に関心のある学生であれば、気楽に授業に参加してかまわない。なお、先行科目は特定したくないので記入しておらず、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。

【到達目標】同授業を通じて、バッハの音楽並びに音楽の本質について真剣に考える姿勢を育みたい。

【授業計画】1. 上記の内容を具現するために、バッハに関する講義的説明に加えて、CD やビデオ等で彼の作品をできるだけ多く鑑賞したい。2. 1 週目 バッハの祖先。3. 2-3 週目 バッハの生誕から彼の青年時代にかけて。4. 4 週目 アルンシュタット時代。5. 5 週目 ミュールハウゼン時代。6. 6-8 週目 ヴァイマル時代。7. 9-11 週目 ケーテン時代。8. 12-14 週目 ライプツィヒ時代。9. 15 週目 総括授業。授業内容全体について意見交換等を行う。

【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書はとりたてて指定せず、学生と相談の上適当な書物を選定して、それをよりどころとしながら勉強してゆきたい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218467>

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 木曜日の昼休み)

【備考】同授業は隔年開講で、今年度(平成 23 年度)の開講が最終となる。

音楽学ゼミナール II

2 単位 3 年 (後期)

片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】この授業は、「音楽学ゼミナールⅠ」を土台としつつバッハの音楽に関する多様な研究と考察を行う。広い視野からバッハについて考え、音楽の本質についても探求してみたい。なお受講者の都合と事情によっては、「Ⅰ」と「Ⅱ」を逆転受講することもさしつかえない。

【授業概要】J.S. バッハ研究。

【キーワード】J.S. バッハ、音楽の本質、音楽鑑賞、音楽象徴論、西洋の文化

【関連科目】『音楽学ゼミナールⅠ』(0.5, ⇒191頁), 『音楽学研究』(0.5, ⇒190頁)

【履修上の注意】この授業は平成16年度に開始されたが、隔年開講で、今年度(平成23年度)は実施されず、平成24年度の開講が最終となる。(同じ時間帯で、「音楽学ゼミナールⅠ」は、今年度は実施される。(最終回))同授業は、専門的な素養がなければ受講できないといった性格のものではないので、バッハの音楽に関心のある学生であれば、気楽に受講してかまわない。なお、先行科目は特定したくないので記入していないし、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。

【到達目標】同授業を通じて、バッハの音楽並びに音楽の本質について真剣に考える姿勢を育みたい。

【授業計画】1. 1-14週目 授業の目的と趣旨で述べたことを具現するために柔軟な態度で授業に臨みたい。具体的な授業の実施方法であるが、前以て固めることはあえてせず、受講生と相談しながら、広い視野からバッハ研究を行いたい。テキスト等はとりたてて指定せず、むしろ自由な束縛されない状況の中でバッハの音楽について論じ合っただけでよい。2. 15週目 総括授業。同授業全体について意見交換等を行う。

【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験】行わない。

【教科書】とりたてて教科書等は使用しない。授業の雰囲気の中で、必要な書物が出てきた場合は、教員サイドで具体的な指定を行って購入してもらうこともある。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218468>

【連絡先】

⇒片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 木曜日の昼休み)

【備考】隔年開講。平成24年度開講(最終回)

書法表現研究Ⅰ

2単位 2年(後期, 集中)

養毛 政雄 / 四国大学, 堤 和博 / 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】書写・書道の基礎的な技法と知識、さらにその指導法を習得する。

【授業概要】楷書・行書・仮名の毛筆と硬筆における表現技法を学びながら、中国・日本の書道史に関する知識も併せて習得する。また、書写・書道教育の指導法についても、実習を通して理解する。

【キーワード】書写、書道、指導法

【履修上の注意】筆・墨・半紙等は自己負担。下敷き・硯・文鎮は大学のものを使用可。

【到達目標】楷書・行書・かなの基礎的な技法を習得し、併せて関連する知識を身につける。また、それらの指導方法を理解する。

【授業計画】1. 楷書の基本点画、書体の変遷について、2. 楷書の結構法、漢字の結構について、3. 楷書の書風、唐の四大家について、4. 行書の学習(1)、蘭亭序を書く、行書のリズム、5. 行書の学習(2)、蘭亭序を書く、点画の連続と省略、6. 行書の学習(3)、蘭亭序を書く、点画の連続と省略、7. 国語科書写の指導法、8. かなの基本、かなの発生と発達、9. かなの連続、かなの名品、10. かなの散らし書き、かなの名品、11. 硬筆の練習(楷書)、筆順について、12. 硬筆の練習(行書)、許容される書き方について、13. 硬筆の練習(漢字かな交じり)、縦書きと横書き、14. 生活に活きる書(小筆を使って) 15. 生活に活きる書(詩を書く) 16. 総括(まとめ)

【成績評価】本授業は講義と実習の併用で行い、毎時の提出物、授業への取り組み・関心・態度などを総合して評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】「明解書写教育」萱原書房、1575円。(その他必要なプリント類は、授業時に配布する)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219300>

【連絡先】

⇒養毛 .
⇒堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成24年度開講。今年度から、人間文化学科の「書道」と同時開講。従って「書道」を受講することで、単位を読み替える。

平面表現研究

2単位 3年(前期)

平木 美鶴 / 教授 / 社会創生学科

【授業目的】平面における絵画表現から空間を使い環境を意識した作品を作る。

【授業概要】現代の美術は、平面に描く事だけではなく外に向かう方向性もある。様々な表現の一つとして環境アートを試みる。今回は、4月17日～25日まで開催される徳島LEDアートフェスティバルの作品制作に参加する。

【キーワード】絵画、美術、芸術

【関連科目】『平面表現ゼミナール』(0.5, ⇒192頁), 『工芸表現研究』(0.5, ⇒192頁)

【履修上の注意】4月17日～25日まで開催される徳島LEDアートフェスティバルの作品制作に参加するため集中講義となる。作品制作や期間中のボランティア活動及び企画や展示作品を鑑賞体験してもらう。

【到達目標】アートを地域活性化活動に組み入れる事ができる。

【授業計画】1. 環境アートについて 2. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品の紹介 3. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 4. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 2 5. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 3 6. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 4 7. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 5 8. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 6 9. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 7 10. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 8 11. 徳島LEDアートフェスティバル期間中の活動 1 12. 徳島LEDアートフェスティバル期間中の活動 2 13. 徳島LEDアートフェスティバル期間中の活動 3 14. 徳島LEDアートフェスティバル期間中の作品鑑賞 1 15. 徳島LEDアートフェスティバル期間中の作品鑑賞 2 16. まとめ

【成績評価】徳島LEDアートフェスティバル作品制作や期間中のボランティア及び企画や展示作品を鑑賞体験した結果のレポート提出を課す。評価は普段の活動への関わり方とレポート点で判断する。

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219218>

【連絡先】

⇒平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時～13時)

【備考】新カリキュラム「環境アート」との読み替えである

工芸表現研究

2単位 2年(後期)

平木 美鶴 / 教授 / 社会創生学科

【授業目的】工芸と純粋美術の違いは、絵画や彫刻のような純粋美術が生活の中での使用目的を全く持たないことに対して、工芸品は陶芸、手芸、木工などのように日常生活における使用目的を持った要素が多くなる。しかしながら、最近のすぐれた現代工芸は使用目的から離れ、純粋美術に近付いてきている。そのような現代工芸のあり方を探ると共に、工芸の実技を通して素材への理解や道具を使用する基本的な能力を養う。具体的には木を素材として木の特徴を理解した上で木を切る、削る、磨く、着色することにより木工作品を制作する。

【授業概要】工芸

【キーワード】美術、芸術、工芸

【関連科目】『平面表現研究』(0.5, ⇒192頁), 『平面表現ゼミナール』(0.5, ⇒192頁)

【履修上の注意】500円程度の材料費が必要である。

【到達目標】

1. 現代工芸を理解し表現する。
2. 素材への理解や道具を使用する基本的な能力を養う。

【授業計画】1. 現代工芸について 2. レリーフについて 3. 構想を練る 4. 下絵を木にトレースする 5. 構想に従い大まかに切り取る 6. 彫刻刀でレリーフを入れる 7. 磨きを入れ完成 8. 3. 木彫の立体作品 9. 構想を練る 10. 下絵を木に描く 11. 構想に従い大まかに切り取る 12. 彫刻刀で彫る 13. 彫刻刀で彫る 14. 彫刻刀で彫る 15. 磨きを入れ完成 16. 批評会

【成績評価】評価は、作品評価を基本として、出席や授業への取り組み姿勢等を併用して行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は、使用しない。準備物としてスケッチブック、彫刻刀、定規、絵の具などが必要である。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219215>

【連絡先】

⇒平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時～13時)

【備考】○隔年開講、2012年開講 ○新カリキュラム「工芸表現と技法」との読み替えである。

平面表現ゼミナール

2単位 3年(後期), 4年(後期)

平木 美鶴 / 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 これまでの絵画表現研究を土台として、カンバスやパネル等の基底材を制作し、個別テーマによって制作を行うことにより各自の表現形式を形づくるための研究や大学構内や地方自治団体との協力のもとに環境アートを行う。批評会では、受講者が制作した作品を通して、絵画が人間にとってどのような関わりを示しているか検討を行う。現代絵画はその時代に生きる人間の存在や社会をどのように捕らえていくかの指針であったり、代表であったりする。今に生きる私たちが感じていることは、社会の様々な動きとともに培われてきたものであるし、生活環境も大きく影響していると思われる。そのように形成された自己を視覚表現できる事が目的である。

【授業概要】 絵画表現の応用

【キーワード】 絵画, 美術, 芸術

【先行科目】 『平面表現研究』(1.0, ⇒192頁)

【履修上の注意】 この科目は、3年で2単位、4年で2単位の計4単位取れる重ね読み科目である。授業計画1~3と4~5を隔年開講する。

【到達目標】 各自の表現形式を見つける。

【授業計画】 1. 1. パネルに描く絵画(木の特性を生かす。) 2. パネルの制作…組み立て方, 表面の仕上げ 3. パネルに描く…マイナス要素を入れる。 4. 2. パネルに描く絵画(オブジェを画面に入れる) 5. パネルの制作…組み立て方, 表面の仕上げ 6. パネルに描く…オブジェを入れる 7. 3. カンバスに描く絵画(偶然性を生かした効果) 8. 布地のカンバスに偶然性を生かした効果を様々試す。 9. 枠にカンバスを張り付け, 偶然性から発想した形を描く。 10. 4. カンバスに描く絵画(マチエール研究) 11. カンバスに砂や土, 石を砕いたもの等を接着させる。 12. 画面に表情が生まれるまで作業をくり返す。 13. 5. 環境芸術について 14. 自然の中に人工的の作為を残す。 15. 風景に錯視を潜ませる。 16. 批評会…作品制作後に毎回批評会を行う。自作の作品についての感想を述べ合う。

【成績評価】 評価は、作品評価を基本として、出席や授業への取り組み姿勢等を併用して行う。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は、使用しない。参考書は、抽象絵画の誕生:土肥美夫(白水社 1984), 西洋の美術-新しい視座から-:神林恒道, 潮江宏三

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219217>

【連絡先】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

メディアアート

2単位 3年(後期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】 作品制作における各自のテーマをつかみ、メディア、テクノロジーへの俯瞰の視点を持ち 具体的な作品制作へと結びつける

【授業概要】 制作の軸となる主題や問題設定等を書籍、作品資料等を用いて研究、発表をおこない、それらを基盤とした作品の制作と学外での発表をおこなう。

【キーワード】 メディアアート, 現代美術

【履修上の注意】 一方的な講義ではなくグループディスカッション等を行う予定なので、受け身の姿勢ではなく積極的な参加が必要となる。横断領域表現研究室所属予定の学生が履修すること。

【到達目標】 メディアアートの制作と発表の実践

【授業計画】 1. 各自のテーマ設定による研究, 読込 2. 各自のテーマ設定による研究, 読込 3. 各自のテーマ設定による研究, 読込 4. 各自のテーマ設定による研究, 読込 5. 各自のテーマ設定による研究, 読込 6. 各自のテーマ設定による研究, 読込 7. 各自のテーマ設定に基づいた作品制作実習 8. 各自のテーマ設定に基づいた作品制作実習 9. 各自のテーマ設定に基づいた作品制作実習 10. 各自のテーマ設定に基づいた作品制作実習 11. 各自のテーマ設定に基づいた作品制作実習 12. 各自のテーマ設定に基づいた作品制作実習 13. 学外ギャラリー等での作品発表 14. 学外ギャラリー等での作品発表 15. 学外ギャラリー等での作品発表 16. 学外ギャラリー等での作品発表

【成績評価】 (課題の作成) (授業への貢献)

【再試験】 実施せず

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219014>

【連絡先】

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間社会学科 マルチメディアコース アート情報サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

音楽学研究 ...片岡/3年(前期).....	194
作曲法研究 ...宮澤/2年(後期).....	194
指揮法研究 ...宮澤/2年(後期, 集中).....	194
音楽学ゼミナール I ...片岡/3年(後期).....	195
音楽学ゼミナール II ...片岡/3年(後期).....	195
書法表現研究 I ...養毛・堤/2年(後期, 集中).....	195
平面表現研究 ...平木/3年(前期).....	195
工芸表現研究 ...平木/2年(後期).....	196
平面表現ゼミナール ...平木/3年(後期), 4年(後期).....	196
仮想環境構築法 I ...掛井/3年(前期).....	196
仮想環境構築法 II ...河原崎/3年(後期).....	196
空間デザイン論 ...掛井/3年(後期).....	197
MIDI 概論 ...宮澤/2年(後期).....	197
マーケティング情報表現研究 (その1) ...石井/2年(後期).....	197
マーケティング情報表現研究 (その2) ...石井/3年(後期).....	197
ミュージアムスタディー ...石井/3年(後期).....	198
空間デザインゼミナール ...掛井/4年(後期).....	198
環境デザインゼミナール ...石井/3年(後期).....	198
デスク・トップ・ミュージックゼミナール ...宮澤/4年(前期).....	198
モデリング理論 ...宇野/3年(後期).....	199
ネットワーク論 ...中山/3年(前期).....	199
コンピュータグラフィックス基礎論 ...中山/3年(後期).....	199
平面製作法 ...平木/3年(前期).....	199

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 木曜日の昼休み)

【備考】平成 23 年度は、前期・火曜・1-2 講時に開講。

作曲法研究

Study of Composition

2 単位 2 年(後期)
宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】この講義では音楽理論研究で学んだ基礎的な「和声学」を土台に、さらに高度な内容を学ぶ。和声学の学習を一通り終えた段階で、さらに「対位法」や「編曲法」についても学習する。旋律への和声付けや、伴奏付けを行うことで、多様な音楽表現の方法を身につける。

【授業概要】すでに学んだ「音楽理論研究」をふまえて、実践的な作曲や編曲の方法を学ぶ。

【先行科目】『音楽理論研究』(1.0, ⇒182 頁)

【関連科目】『現代音楽芸術論』(0.5, ⇒182 頁)

【履修上の注意】この講義を受講するためには、「音楽理論研究」を受講していることが必要不可欠である。この講義から受講を希望する学生には、十分な音楽的素養を身に付けていることが要求される。また毎週かなりの量の課題をこなして行かなければならない。授業以外の学習に相当な時間を割かれることになる。課題の進行状態の悪い者には単位が出ないこともある。

【到達目標】それぞれの音楽スタイルにふさわしい伴奏付けができる。また、様々な編成に向けた編曲ができる。

【授業計画】1. この講義では、前期で学習した内容を基本に各受講生の進捗に応じて、授業内容の詳細を決める。 2. 課題の実践(その1) 3. 課題の実践(その2) 4. 課題の実践(その3) 5. 課題の実践(その4) 6. 課題の実践(その5) 7. 課題の実践(その6) 8. 課題の実践(その7) 9. 課題の実践(その8) 10. 課題の実践(その9) 11. お互いの解答を比較し検討する(その1) 12. お互いの解答を比較し検討する(その2) 13. 最終的な解答の作成(その1) 14. 最終的な解答の作成(その2) 15. 総括授業 16. 期末課題の提出

【成績評価】講義時間中の課題の出来具合、および最終のテストにより評価する。

【再試験】行わない

【教科書】授業のための課題を、そのつどプリントして配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219112>

【連絡先】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))

【備考】◇今年度は開講する。なお、今回の開講が最終回になる。◇平成 20 年度以前の入学生を対象とする。21 年度以後の入学生は受講できない。

指揮法研究

Study of Conducting

2 単位 2 年(後期, 集中)
宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】指揮は音楽の演奏行為の一つであり、正しく行うためにはしっかりと基礎訓練と表現のための技術を充分に磨き上げる必要がある。しかし、指揮者は自分で音を出さないで、しばしばいい加減に行われることも多い。この講義では、指揮を正しく行うための筋肉運動の訓練と、音楽のそれぞれの場面にふさわしい「指揮者の」表現を学ぶ。

【授業概要】指揮の理論と実践

【関連科目】『音楽理論研究』(0.5, ⇒182 頁)

【履修上の注意】楽譜を正しく読む能力と幅広い音楽的知識。またソナチネアルバム終了程度のピアノの演奏能力があることが不可欠である。受講希望者は、今までに多くの音楽的体験、特に実際の演奏体験があることが必要である。なお、同授業は前期に集中講義として実施するので、日程等には充分注意すること。

【到達目標】様々な音楽演奏上の要求に対して、的確な図形を描き、無駄のない指揮を行える能力を身につける。

【授業計画】1. 腕を「正しく動かす」ための訓練。 2. 腕の訓練が終了したら、それぞれの拍子を正しく振るための基本動作を訓練する。 3. それぞれの拍子を正しく振り分けられるようになったら、様々なテンポで正しい図形を保つ訓練をする。 4. 拍の 2 分割, 3 分割の訓練。 5. 平均運動と、テンポの予備の訓練。 6. 以上の訓練が全て終了した段階で、身につけた腕の動きを音楽表現に結びつけるための訓練に移る。 7. 実際の音楽作品を指揮(その1) 8. 実際の音楽作品を指揮(その2) 9. 実際の音楽作品を指揮(その3) 10. 実際の音楽作品を指揮(その4) 11. 実際の音楽作品を指揮(その5) 12. 実際の音楽作品を指揮(その6) 13. 実際の音楽作品を指揮(その7) 14. 実際の音楽作品を指揮(その8) 15. 総括授業 16. 期末試験

音楽学研究

2 単位 3 年(前期)
片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】当授業では、主として日本の伝統音楽について民族音楽学的視点から講義する。ただそれと共に、(日本以外の)世界の諸民族の音楽についても可能な範囲で並行的に言及する。この授業を通じてわが国の伝統音楽についての造詣が深められると共に、現代の音楽文化を各自が再考するためのきっかけのひとつが与えられれば、私としては幸いであると考えている。

【授業概要】民族音楽学的観点に立った日本の伝統音楽並びに世界の諸民族の音楽についての講義(日本の伝統音楽の講義に重点を置く。)

【キーワード】日本伝統音楽、世界の諸民族の音楽、音楽学、日本の古代から中世にかけての音楽、音楽鑑賞

【関連科目】『音楽学ゼミナール I』(0.5, ⇒195 頁), 『音楽学ゼミナール II』(0.5, ⇒195 頁)

【履修上の注意】当授業は講義形式なので、受講者は受け身的になりがちであるが、できるだけ主体的かつ積極的な姿勢で授業に取り組んでほしい。なお、先行科目は特定したくないので記入しておらず、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。

【到達目標】日本の伝統音楽並びに日本以外の世界の諸民族の音楽についての造詣を深め、多様な音楽文化に対する認識を広める。

【授業計画】1. 上記に述べた内容を具現するために、講義的説明に加えて、A.V. 機器を使用して鑑賞も行う。 2. 1-3 週目 授業の趣旨説明と、日本の伝統音楽研究のための文献類の紹介。 3. 4-6 週目 古代から現代に至る日本伝統音楽の歴史の概説。 4. 7-10 週目 古代の日本の音楽。 5. 11-14 週目 中世の日本の音楽。 6. 15 週目 総括授業。これまでの授業内容全体について意見交換等を行う。 7. 近世以降の日本の音楽については、時間的な関係で細かい言及はできない。なお上述したように、同授業では原則として、毎回並行して(日本以外の)世界の諸民族の音楽についても言及する。

【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験】行わない。

【教科書】この授業では教科書等は使用しない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218466>

【連絡先】

【成績評価】講義中に各受講生の実力を判断し決定する。出席状況も考慮される。
 【再試験】行わない
 【教科書】受講生の実力に応じて決定する。指揮棒を各自で準備または購入(1本約1000円程度)しておくこと。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219247>
 【連絡先】
 ⇒宮澤(マルチメディアA棟204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー:水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))
 【備考】○今年度は開講する。なお、今回の開講が最終回になる。○平成20年度以前の入学生を対象とする。21年度以後の入学生は受講できない。

音楽学ゼミナール I

2単位 3年(後期)
片岡啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】当授業では、J. S. バッハの人と音楽について勉強する。バッハの音楽は、極めて多様で無限の魅力があり、時代・民族・文化等の違いを超えてすべての人に切々と訴えかける力を持っている。この授業を通じて、バッハの音楽についての学生各自の造詣が深められることを願うと共に、音楽の本質は何かという問題についても考えてみたい。
 【授業概要】J. S. バッハ研究。
 【キーワード】J.S. バッハ, 音楽の本質, 音楽鑑賞, 西洋の音楽文化, バロック音楽
 【関連科目】『音楽学ゼミナール II』(0.5, ⇒195頁), 『音楽学研究』(0.5, ⇒194頁)
 【履修上の注意】この授業は平成15年度に開始されているが、隔年開講で、今年度(平成23年度)の開講が最終となる。(同じ時間帯で、今年度は「音楽学ゼミナール II」は開講されず、こちらは平成24年度の開講が最終となる。)専門的な素養がなければ同授業は受講できないといった性格のものではないので、バッハの音楽に関心のある学生であれば、気楽に授業に参加してかまわない。なお、先行科目は特定したくないので記入しておらず、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。
 【到達目標】同授業を通じて、バッハの音楽並びに音楽の本質について真剣に考える姿勢を育みたい。
 【授業計画】1. 上記の内容を具現するために、バッハに関する講義的説明に加えて、CDやビデオ等で彼の作品をできるだけ多く鑑賞したい。
 2. 1週目 バッハの祖先 3. 2-3週目 バッハの生誕から彼の青年時代にかけて 4. 4週目 アルンシュタット時代 5. 5週目 ミュールハウゼン時代 6. 6-8週目 ヴァイマル時代 7. 9-11週目 ケーテン時代 8. 12-14週目 ライプツィヒ時代 9. 15週目 総括授業。授業内容全体について意見交換等を行う。
 【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。
 【再試験】行わない。
 【教科書】教科書はとりたてて指定せず、学生と相談の上適当な書物を選定して、それをよりどころとしながら勉強してゆきたい。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218467>
 【連絡先】
 ⇒片岡(201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー:後期 木曜日の昼休み)
 【備考】同授業は隔年開講で、今年度(平成23年度)の開講が最終となる。

音楽学ゼミナール II

2単位 3年(後期)
片岡啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】この授業は、「音楽学ゼミナール I」を土台としつつバッハの音楽に関する多様な研究と考察を行う。広い視野からバッハについて考え、音楽の本質についても探求してみたい。なお受講者の都合と事情によっては、「I」と「II」を逆転受講することもさしつかえない。
 【授業概要】J.S. バッハ研究。
 【キーワード】J.S. バッハ, 音楽の本質, 音楽鑑賞, 音楽象徴論, 西洋の文化
 【関連科目】『音楽学ゼミナール I』(0.5, ⇒195頁), 『音楽学研究』(0.5, ⇒194頁)
 【履修上の注意】この授業は平成16年度に開始されたが、隔年開講で、今年度(平成23年度)は実施されず、平成24年度の開講が最終となる。(同じ時間帯で、「音楽学ゼミナール I」は、今年度は実施される。(最終回)同授業は、専門的な素養がなければ受講できないといった性格のものではないので、バッハの音楽に関心のある学生であれば、気楽に受講してかまわない。なお、先行科目は特定したくないので記入していないし、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。

【到達目標】同授業を通じて、バッハの音楽並びに音楽の本質について真剣に考える姿勢を育みたい。
 【授業計画】1. 1-14週目 授業の目的と趣旨で述べたことを具現するために柔軟な態度で授業に臨みたい。具体的な授業の実施方法であるが、前以て固めることはあえてせず、受講生と相談しながら、広い視野からバッハ研究を行いたい。テキスト等はとりたてて指定せず、むしろ自由な束縛されない状況の中でバッハの音楽について論じてゆきたい。2. 15週目 総括授業。同授業全体について意見交換等を行う。
 【成績評価】試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。
 【再試験】行わない。
 【教科書】とりたてて教科書等は使用しない。授業の雰囲気の中で、必要な書物が出てきた場合は、教官サイドで具体的な指定を行って購入してもらうこともある。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218468>
 【連絡先】
 ⇒片岡(201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー:後期 木曜日の昼休み)
 【備考】隔年開講。平成24年度開講(最終回)

書法表現研究 I

2単位 2年(後期, 集中)
蓑毛政雄 / 四国大学, 堤和博・准教授/人間文化学科

【授業目的】書写・書道の基礎的な技法と知識、さらにその指導法を習得する。
 【授業概要】楷書・行書・仮名の毛筆と硬筆における表現技法を学びながら、中国・日本の書道史に関する知識も併せて習得する。また、書写・書道教育の指導法についても、実習を通して理解する。
 【キーワード】書写, 書道, 指導法
 【履修上の注意】筆・墨・半紙等は自己負担。下敷き・硯・文鎮は大学のものを使用可。
 【到達目標】楷書・行書・かなの基礎的な技法を習得し、併せて関連する知識を身につける。また、それらの指導方法を理解する。
 【授業計画】1. 楷書の基本点画。書体の変遷について。2. 楷書の結構法。漢字の結構について。3. 楷書の書風。唐の四大家について。4. 行書の学習(1)。蘭亭序を書く。行書のリズム。5. 行書の学習(2)。蘭亭序を書く。点画の連続と省略。6. 行書の学習(3)。蘭亭序を書く。点画の連続と省略。7. 国語科書写の指導法。8. かなの基本。かなの発生と発達。9. かなの連綿。かなの名品。10. かなの散らし書き。かなの名品。11. 硬筆の練習(楷書)。筆順について。12. 硬筆の練習(行書)。許容される書き方について。13. 硬筆の練習(漢字かな交じり)。縦書きと横書き。14. 生活に活きる書(小筆を使って)15. 生活に活きる書(詩を書く)16. 総括(まとめ)
 【成績評価】本授業は講義と実習の併用で行い、毎時の提出物、授業への取り組み・関心・態度などを総合して評価する。
 【再試験】行わない。
 【教科書】「明解書写教育」萱原書房、1575円。(その他必要なプリント類は、授業時に配布する)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219300>
 【連絡先】
 ⇒蓑毛・
 ⇒堤(4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
 【備考】平成24年度開講。今年度から、人間文化学科の「書道」と同時開講。従って「書道」を受講することで、単位を読み替える。

平面表現研究

2単位 3年(前期)
平木美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】平面における絵画表現から空間を使い環境を意識した作品を作る。
 【授業概要】現代の美術は、平面に描く事だけではなく外に向う方向性もある。様々な表現の一つとして環境アートを試みる。今回は、4月17日～25日まで開催される徳島LEDアートフェスティバルの作品制作に参加する。
 【キーワード】絵画, 美術, 芸術
 【関連科目】『平面表現ゼミナール』(0.5, ⇒196頁), 『工芸表現研究』(0.5, ⇒196頁)
 【履修上の注意】4月17日～25日まで開催される徳島LEDアートフェスティバルの作品制作に参加するため集中講義となる。作品制作や期間中のボランティア活動及び企画や展示作品を鑑賞体験してもらう。
 【到達目標】アートを地域活性化活動に組み入れる事ができる。
 【授業計画】1. 環境アートについて 2. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品の紹介 3. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 1 4. 徳島LEDアートフェスティバル入選作品制作 2 5. 徳島LED

アートフェスティバル入選作品制作 3 6. 徳島 LED アートフェスティバル入選作品制作 4 7. 徳島 LED アートフェスティバル入選作品制作 5 8. 徳島 LED アートフェスティバル入選作品制作 6 9. 徳島 LED アートフェスティバル入選作品制作 7 10. 徳島 LED アートフェスティバル入選作品制作 8 11. 徳島 LED アートフェスティバル期間中の活動 1 12. 徳島 LED アートフェスティバル期間中の活動 2 13. 徳島 LED アートフェスティバル期間中の活動 3 14. 徳島 LED アートフェスティバル期間中の作品鑑賞 1 15. 徳島 LED アートフェスティバル期間中の作品鑑賞 2 16. まとめ

【成績評価】徳島 LED アートフェスティバル作品制作や期間中のボランティア及び企画や展示作品を鑑賞体験した結果のレポート提出を課す。評価は普段の活動への関わり方とレポート点で判断する。

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219218>

【連絡先】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時)

【備考】新カリキュラム「環境アート」との読み替えである

工芸表現研究

2 単位 2 年 (後期)
平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】工芸と純粋美術の違いは、絵画や彫刻のような純粋美術が生活の中での使用目的を全く持たないことに対して、工芸品は陶芸、手芸、木工などのように日常生活における使用目的を持った要素が多くなる。しかしながら、最近のすぐれた現代工芸は使用目的から離れ、純粋美術に近付いてきている。そのような現代工芸のあり方を探ると共に、工芸の実技を通して素材への理解や道具を使用する基本的な能力を養う。具体的には木を素材として木の特徴を理解した上で木を切る、削る、磨く、着色することにより木工作品を制作する。

【授業概要】工芸

【キーワード】美術, 芸術, 工芸

【関連科目】『平面表現研究』(0.5, ⇒195 頁), 『平面表現ゼミナール』(0.5, ⇒196 頁)

【履修上の注意】500 円程度の材料費が必要である。

【到達目標】

1. 現代工芸を理解し表現する。
2. 素材への理解や道具を使用する基本的な能力を養う。

【授業計画】1. 現代工芸について 2. レリーフについて 3. 構想を練る 4. 下絵を木にトレースする 5. 構想に従い大まかに切り取る 6. 彫刻刀でレリーフを入れる 7. 磨きを入れ完成。 8. 3. 木彫の立体作品 9. 構想を練る 10. 下絵を木に描く 11. 構想に従い大まかに切り取る 12. 彫刻刀で彫る 13. 彫刻刀で彫る 14. 彫刻刀で彫る 15. 磨きを入れ完成。 16. 批評会

【成績評価】評価は、作品評価を基本として、出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は、使用しない。準備物としてスケッチブック、彫刻刀、定規、絵の具などが必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219215>

【連絡先】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時)

【備考】○ 隔年開講, 2012 年開講 ○ 新カリキュラム「工芸表現と技法」との読み替えである。

平面表現ゼミナール

2 単位 3 年 (後期), 4 年 (後期)
平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】これまでの絵画表現研究を土台として、カンバスやパネル等の基底材を制作し、個別テーマによって制作を行うことにより各自の表現形式を形づくるための研究や大学構内や地方自治団体との協力のもとに環境アートを行う。批評会では、受講者が制作した作品を通して、絵画が人間にとってどのような関わりを示しているか検討を行う。現代絵画はその時代に生きる人間の存在や社会をどのように捕らえていくかの指針であったり、代表であったりする。今に生きる私たちが感じていることは、社会の様々な動きとともに培われてきたものであるし、生活環境も大きく影響していると思われる。そのように形成された自己を視覚表現でできる事が目的である。

【授業概要】絵画表現の応用

【キーワード】絵画, 美術, 芸術

【先行科目】『平面表現研究』(1.0, ⇒195 頁)

【履修上の注意】この科目は、3 年で 2 単位、4 年で 2 単位の計 4 単位取れる重ね読み科目である。授業計画 1~3 と 4~5 を隔年開講する。

【到達目標】各自の表現形式を見つける。

【授業計画】1. 1. パネルに描く絵画(木の特性を生かす。) 2. パネルの制作…組み立て方, 表面の仕上げ 3. パネルに描く…マイナス要素を入れる。 4. 2. パネルに描く絵画(オブジェを画面に入れる) 5. パネルの制作…組み立て方, 表面の仕上げ 6. パネルに描く…オブジェを入れる 7. 3. カンバスに描く絵画(偶然性を生かした効果) 8. 布地のカンバスに偶然性を生かした効果を様々試す。 9. 枠にカンバスを張り付け, 偶然性から発想した形を描く。 10. 4. カンバスに描く絵画(マチエール研究) 11. カンバスに砂や土, 石を砕いたもの等を接着させる。 12. 画面に表情が生まれるまで作業をくり返す。 13. 5. 環境芸術について 14. 自然の中に人工的の作為を残す。 15. 風景に錯視を潜ませる。 16. 批評会…作品制作後に毎回批評会を行う。自作の作品についての感想を述べ合う。

【成績評価】評価は、作品評価を基本として、出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は、使用しない。参考書は、抽象絵画の誕生:土肥美夫(白水社 1984), 西洋の美術-新しい視座から-:神林恒道, 潮江宏三

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219217>

【連絡先】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12時~13時)

仮想環境構築法 I

2 単位 3 年 (前期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業ではイベント駆動型 3 次元アニメーションの制作を通して、OpenGL による 3 次元グラフィックスのプログラミングの基礎を学ぶ。

【授業概要】コンピュータシミュレーションによる環境の構築, 表現について学ぶ。

【キーワード】シミュレーション, マルチメディア, バーチャル・リアリティ

【先行科目】『インタラクティブコミュニケーション論』(0.9, ⇒179 頁), 『映像メディア表現研究』(0.9, ⇒180 頁)

【関連科目】『仮想環境構築法 II』(0.5, ⇒196 頁), 『空間デザインゼミナール』(0.8, ⇒198 頁), 『空間デザイン論』(0.3, ⇒197 頁)

【到達目標】OpenGL の関数を利用してモデリングが出来るようになる

【授業計画】1. OpenGL(2 次元)の復習 2. 投影法 3. 隠面処理 4. 変換行列を用いたモデリング 5. 変換行列を用いたアニメーション 6. シェーディング 7. 光源の設定 8. テクスチャマッピング 9. スプライン曲面 10. シミュレーション 1 11. シミュレーション 2 12. ウォークスルー 1 13. ウォークスルー 2 14. 課題作成 1 15. 課題作成 2 16. プレゼンテーション

【成績評価】(課題の作成)×(授業への貢献)

【再試験】実施せず。

【教科書】参考資料

【参考書】『OpenGL による 3 次元 CG プログラミング』林 武文 他, コロナ社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219108>

【連絡先】

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 5-6(他の時間帯でもメール等で連絡の上随時訪問可。)

仮想環境構築法 II

2 単位 3 年 (後期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】多様な表現手法の概観とメディアへの批評性を持った表現の演習。

【授業概要】メディアアート作品研究とインストール演習

【キーワード】インタラクション, インストール, メディアアート

【関連科目】『仮想環境構築法 I』(0.5, ⇒196 頁)

【履修上の注意】一方的な講義ではなくグループディスカッション等を行う予定なので、受け身の姿勢ではなく積極的な参加が必要となる。横断領域表現研究室所属予定の学生が履修すること。

【到達目標】メディアアート表現の理解と実践

【授業計画】1. メディアアートについて 2. 作品研究 1 3. 作品研究 2 4. 作品研究 3 5. 作品研究 4 6. 課題作品制作 1 7. 課題作品制作 2 8. 課題作品のプレゼンテーション 9. 課題作品制作 3 10. 課題作品制作 4 11. 課題作品制作 5 12. 課題作品制作 6 13. 課題作品のプレゼンテーション 14. 課題作品の展示準備 15. 課題作品の展示 16. 総括

【成績評価】(課題の作成)×(授業への貢献)

【再試験】実施せず。

【教科書】

- ◇ 参考書
- ◇ 参考資料

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219109>

【連絡先】

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

空間デザイン論

2 単位 3 年 (後期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】 住宅設計及び大学施設設計を通して、「デザインする」という行為 (条件の整理, 課題の発見, アイディアの検討, かたちの実現) について学ぶ。講評会でのプレゼンテーションを通して, 自らの考えを論理的に説明することを学ぶ。

【授業概要】 住宅設計及び大学施設設計を行い, 設計した住宅, 大学施設についてのプレゼンテーションを行う。

【キーワード】 デザイン, 建築計画, シミュレーション

【関連科目】 『仮想環境構築法 I』(0.3, ⇒196 頁), 『空間デザインゼミナール』(0.7, ⇒198 頁)

【履修上の注意】 空間デザインを卒業研究として専攻する場合は履修すること。

【到達目標】 自ら課題を発見し, 課題を様々な視点から検討し, 纏められるようになる。

【授業計画】 1. 空間のデザインとはなにか? 2. 住宅設計課題の説明 3. エスキスの作成 1 立地と配置 4. エスキスの作成 2 空間の連結性 5. エスキスによる設計チェック 6. 設計作業 1 3 面図 7. 設計作業 2 パース 8. 講評会 9. 大学施設設計課題の説明 10. 大学研究室におけるコミュニケーション 11. エスキスの作成 1 立地と配置 12. エスキスの作成 2 空間の連結性 13. エスキスによる設計チェック 14. 設計作業 1 3 面図 15. 設計作業 2 パース 16. 講評会

【成績評価】 (設計課題)×(授業への取り組み)

【再試験】 実施せず

【参考書】 授業内で適宜, 指定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219404>

【連絡先】

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 5-6(他の時間帯でもメールなどで連絡の上, 随時可))

MIDI 概論

Basic Theory of MIDI

2 単位 2 年 (後期)
宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】 デスク・トップ・ミュージックでは MIDI と呼ばれる国際規格によってデータが作られ, また演奏に使用される。この規格によることで, 様々なデータは国際的な物として広く共有されることになる。またこの規格を学ぶことにより, 効率の良いデータ編集が行えるようになる。この講義では, 複雑で多彩な MIDI データの構造を学び, 実際の音楽制作の役に立てるようにすることを目的とする。

【授業概要】 MIDI(ミディ) 信号の詳細について講義を行う。

【キーワード】 音楽とデジタル信号, 16 進法, コンピュータとシンセサイザー

【先行科目】 『デスク・トップ・ミュージック』(1.0)

【関連科目】 『ミュージックデザイン』(1.0, ⇒181 頁), 『デスク・トップ・ミュージックゼミナール』(0.5, ⇒198 頁)

【履修上の注意】 この講義は, 卒業研究でデスク・トップ・ミュージックの専攻を希望する学生にとっては必要不可欠である。デスク・トップ・ミュージックに関する基礎知識を持っていること。

【到達目標】 MIDI について充分理解し, 実際の音楽制作の現場でこの講義での知識を行かすことができる。

【授業計画】 1. MIDI 規格と 16 進法, 2 種類のバイト 2. 演奏に関するメッセージ 3. 演奏データの入力 4. 音色の選択方法 (プログラムチェンジとバンクセレクト) 5. 音色選択データの入力 6. ピッチバンドとアフタータッチ 7. ピッチバンドデータの入力 8. コントロールチェンジ (連続タイプ) 9. コントロールチェンジ (on-off タイプ, RPN, NRPN) 10. コントロールチェンジ (様々なパラメータを操作するための信号) 11. コントロールチェンジの入力 (その 1) 12. コントロールチェンジの入力 (その 2) 13. システムメッセージ 14. システムメッセージの入力 15. 総括授業 16. 期末試験

【成績評価】 テスト (80%) および出席状況 (20%)

【再試験】 行わない

【教科書】 使用しない。講義の時に資料を配布することがある。

【参考書】 「MIDI 検定 3 級」のテキスト等, 様々な関連書籍が出版されている

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219037>

【連絡先】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は, 特別な場合を除いて対応可能))

【備考】 後期, 金曜日 7~8 講時

マーケティング情報表現研究 (その 1)

2 単位 2 年 (後期)

Studies of Marketing Infomation (1)

石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】 多様化した情報メディアによる, マーケティング戦略について考察すると共に, 人間の持っている視覚特性についても検討を行う。

【授業概要】 プレゼンテーションを通じたビジュアルコミュニケーションをテーマにトータルデザインについて論じる。

【キーワード】 トータルデザイン

【先行科目】 『ミュージアムスタディー』(1.0, ⇒198 頁)

【関連科目】 『環境デザインゼミナール』(0.5, ⇒198 頁)

【履修上の注意】 後期開講, 受講条件: ビジュアルコミュニケーションに興味のある学生を対象とする。映像デザイン表現研究, アーツ・アンド・テクノロジー論を受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1 階講義・実習室にて行なう。

【到達目標】 マーケティング戦略を身につける。

【授業計画】 1. トータルデザインをテーマに商品計画を進める。 2. 受講者による発表を中心に授業を進める 3. デザインテクニックの紹介 4. レタリング基本ストロークについて 5. オフセット印刷の基礎原理を学ぶ。 6. 新築されるデパート等のトータルデザイン 7. デパートの CI(Corporate Identity) の特色 8. 立地条件と主力商品の決定 9. ネーミングを決定する。 10. ロゴタイプを検討する。 11. グラフィック等を決定する。 12. トータルカラーを決定する。 13. マーケティング・ミックス部分からビジュアルコミュニケーションを検討する。 14. 地域社会との調和について 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】 課題と期末試験及び, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書】 授業の中で配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219003>

【連絡先】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 昼休み)

【備考】 ◇平成 23 年度 後期開講。 ◇平成 23 年度は, 金 5・6 講時開講。 ◇講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室で行う。

マーケティング情報表現研究 (その 2)

2 単位 3 年 (後期)

Studies of Marketing Infomation(2)

石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】 情報メディアによる, マーケティング戦略について考察すると共に, 人間の持っている視覚特性についても検討を行う。

【授業概要】 ビジュアルコミュニケーションをテーマにトータルデザインについて論じる。

【キーワード】 トータルデザイン

【先行科目】 『ミュージアムスタディー』(1.0, ⇒198 頁)

【関連科目】 『環境デザインゼミナール』(0.5, ⇒198 頁)

【履修上の注意】 後期開講, 受講条件: 映像デザイン表現研究, アーツ・アンド・テクノロジー論を受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行なう。

【到達目標】 マーケティング戦略を身につける。

【授業計画】 1. 店舗計画のトータルデザインを考える。 2. 受講者による発表を中心に授業を進める 3. デザインテクニックの基本として用具の取り扱いについて説明する。 4. オリジナルなレタリングの作成方法について 5. 印刷の基礎原理を学び, 平版と凸版について作例を作成する。 6. 店舗のトータルデザインを考える。 7. 店舗の CI(Corporate Identity) の特色 8. 立地条件と主力商品を考える。 9. ネーミングを決定する。 10. ロゴタイプを検討する。 11. グラフィック等を決定する。 12. トータルカラー等を決定する。 13. マーケティング・ミックス部分からビジュアルコミュニケーションを検討する。 14. 地域社会との調和について考える。 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】 課題と期末試験及び, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書】 授業の中で配布。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219004>

【連絡先】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 木曜日 昼休み)

【備考】◇平成 24 年度 後期開講。◇平成 24 年度は、金 5・6 講時開講。
◇講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。

ミュージアムスタディー Museum Studies

2 単位 3 年 (後期)
石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】歴史的な 19 世紀中期における画像表現技術を学ぶと共に、美術館・図書館・公官庁等で所有している古写真や芸術作品の保存・修復・管理について、その在り方、必要性等についても考察を深め、画像表現と画像保存の両局面から今後考えられる画像文化のあり様を探る。

【授業概要】画像の表現のあり方及び芸術作品の保存・修復・管理について理解を深めるとともに、より良い照明による作品の展示方法等についても考察する。

【キーワード】保存修復

【先行科目】『環境デザインゼミナール』(1.0, ⇒198 頁)

【関連科目】『マーケティング情報表現研究 (その 1)』(0.5, ⇒197 頁)

【履修上の注意】後期開講。受講条件:文化遺産の保護と修復そしてデジタルアーカイブについて考察しておくこと。映像デザイン表現研究、アートアンドテクノロジー論を受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。

【到達目標】より良い保存コンディションによる作品の展示方法を身につける。

【授業計画】1. 本授業では主にミュージアムに於ける写真画像について検討を行う。19 世紀中期以降現代に至るまでに表現された、写真画像を教材とし、画像の識別方法について検討を行う。2. 受講者による発表を中心に授業を進める。3. 21 世紀における写真画像保存の現状とその必要性について 4. 写真撮影と撮影画像の利用方法について 5. ハウジング実習とその必要性について 6. 写真画像の劣化と古文書の管理方法について 7. コンディションレポートの書き方について 8. コンディションレポート作成 9. 写真画像の識別方法について 10. 白黒フィルムを使った、オブジェの撮影実習 11. 白黒フィルム処理について 12. カラーフィルムを使った、オブジェの撮影実習 13. カラーフィルム処理について 14. 作品の展示方法について 15. レポート提出 16. 総括授業

【成績評価】課題と期末レポート及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書】授業の中で配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219010>

【連絡先】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 木曜日 昼休み)

【備考】◇23 年度 後期開講。◇23 年度は、金 3・4 講時開講。◇講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。

空間デザインゼミナール

2 単位 4 年 (後期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】モバイル端末向けアプリケーションのデザイン、開発および公開を経験し、ICT を積極的に使いこなす姿勢を涵養する。

【授業概要】自らの体験および社会のニーズを基に、モバイル端末向けアプリケーションを企画する。アプリケーションをモバイル端末に実装し、公開する。

【先行科目】『仮想環境構築法 I』(1.0, ⇒196 頁), 『空間デザイン論』(0.9, ⇒197 頁), 『仮想空間論』(0.9, ⇒180 頁)

【履修上の注意】空間デザインを卒業研究として専攻する学生は必ず履修すること。この授業はディスカッション、発表を中心に構成されるので積極的に参加することが望まれる。

【到達目標】モバイル端末向けアプリケーションの作成スキルを身につける。

【授業計画】1. モバイル端末に関する技術動向 2. モバイル端末の特性 3. モバイル端末向けアプリケーションの市場動向 4. アプリケーションの企画 5. アプリケーションの設計 6. アプリケーションの実装 Interface Builder 入門 7. アプリケーションの実装 Objective-C 入門 8. アプリケーションの実装 Objective-C 応用 9. アプリケーションの実装 インターフェイスのデザイン 10. アプリケーションの実装 クラスの設計 11. アプリケーションの実装 エミュレーション 12. アプリケーションの評価 インターフェイスの観点 13. アプリケーションの評価 機能的観点 14. アプリケーションのシェイプアップ 15. アプリケーションの公開 16. 総括

【成績評価】積極性など授業への貢献により評価する。

【再試験】実施せず。

【参考書】必要に応じて授業にて適宜文献 (主に英文) を指定する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219403>

【連絡先】

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 5-6(他の時間帯でもメール等で連絡の上随時訪問可))

環境デザインゼミナール Seminar on Environmental Design

2 単位 3 年 (後期)

石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】デザインは環境に対して何をやってきたか、また何ができるかという事をテーマに、環境とは何か、人工環境と自然環境の諸問題、環境デザインと交通システム、環境デザインのエコロジー等について考察する。また、デジタルアーカイブについても検討する。

【授業概要】調和のとれた未来社会について考察する。

【キーワード】環境デザイン

【先行科目】『マーケティング情報表現研究 (その 1)』(1.0, ⇒197 頁), 『空間デザイン論』(1.0, ⇒197 頁)

【関連科目】『ミュージアムスタディー』(0.5, ⇒198 頁)

【履修上の注意】後期開講。受講条件:環境美化と自然と人類の共存の在り方について考察しておくこと。映像デザイン表現研究、ミュージアムスタディーを受講することが望ましい。講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。

【到達目標】デザインが生活環境に果たす役割を身につける。

【授業計画】1. 環境計画として、歴史と科学の両面から考える。2. 受講生による発表を中心に授業を進める。3. 開かれた公園について 4. 庭園の在り方について 5. ユニバーシティコンサベーションについて 6. BEFORE-DURING-AFTER TREATMENT 写真撮影について 7. カラーリバーサルフィルム処理について 8. ガーデンキューレーションについて 9. 環境アセスメントの一端として学内のオブジェを対象に実習を行う。(下地塗装) 10. 環境アセスメントの一端として学内のオブジェを対象に実習を行う。(本塗) 11. カラーリバーサルフィルム処理及びスライド鑑賞について。12. 計画事例として、庭園や道作りを通じて、様々な都市環境の関わりについて考察する。13. 環境にやさしい地域社会について考える。14. 調和の取れた未来社会について 15. レポート提出 16. 総括授業。

【成績評価】課題と期末レポート及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書】授業の中で配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218488>

【連絡先】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 木曜日 昼休み)

【備考】◇平成 23 年度 後期開講。◇平成 23 年度は、金 9-10 講時開講。◇講義はマルチメディア B 棟 講義・実習室で行う。

デスク・トップ・ミュージックゼミナール Seminar of Desk Top Music

2 単位 4 年 (前期)
宮澤 一人・教授/人間文化学科

【授業目的】この講義では、卒業研究にデスク・トップ・ミュージックを選択した学生を主な対象とし、実際に音楽制作を行う

【授業概要】コンピュータとシンセサイザーを組み合わせたシステムを用いて、実際の音楽制作を行う。

【キーワード】コンピュータによる音楽制作, DAW アプリケーション

【先行科目】『デスク・トップ・ミュージック』(1.0), 『ミュージックデザイン』(1.0, ⇒181 頁), 『MIDI 概論』(1.0, ⇒197 頁)

【関連科目】『音楽理論研究』(1.0, ⇒182 頁), 『作曲法研究』(1.0, ⇒194 頁)

【履修上の注意】この講義は、卒業研究でデスク・トップ・ミュージックを専攻した学生を対象とする。ただし設備に余裕があれば、他の学生も受け入れることは可能。その場合は、コンピュータやシンセサイザーおよび MIDI システムに対する十分な知識を持っていることが必要不可欠である。

【到達目標】各自の表現意欲に基づいた音楽作品を、コンピュータを使用して作り上げる。

【授業計画】1. 音楽制作とコンピュータの基礎 2. 音楽制作に使用するアプリケーションの使用方法 3. 音楽制作の実践 (その 1) 4. 音楽制作の実践 (その 2) 5. 音楽制作の実践 (その 3) 6. 音楽制作の実践 (その 4) 7. 音楽制作の実践 (その 5) 8. 中間発表と今後の進行予定の確認 9. 音楽制作の実践 (その 6) 10. 音楽制作の実践 (その 7) 11. 音楽制作の実践 (その 8) 12. 音楽制作の実践 (その 9) 13. 音楽制作の実践 (その 10) 14. 音楽制作の実践 (その 11) 15. 総括授業 16. 期末発表会 (成績評価を行う)

【成績評価】講義中の小テストおよびレポート
 【再試験】行わない
 【教科書】使用しない。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219067>
 【連絡先】
 ⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))
 【備考】◇前期, 水曜日 9~10 講時 ◇平成 20 年度以前の入学生を対象とする。

モデリング理論
modeling theory

2 単位 3 年 (後期)
 宇野 剛史・准教授/総合理数学科

【授業目的】数理モデル化とシミュレーション
 【授業概要】この講義では自然現象や社会現象などの様々な現象を分析するために用いる数理モデルやシミュレーションモデルの作り方とその活用法に重点を置いて講義する。現象を数理的に定式化する代表的な数理モデルの例を示し、コンピュータを活用したデータ解析, シミュレーション, および, 図表やグラフ等の視覚化について取り扱う。
 【キーワード】数理モデル, シミュレーション
 【先行科目】『情報社会と情報倫理』(0.2, ⇒292 頁), 『数学基礎 I』(0.2, ⇒289 頁), 『数学基礎 II』(0.2, ⇒289 頁)
 【関連科目】『マルチメディア演習』(0.2, ⇒291 頁), 『プログラミング演習』(0.2, ⇒303 頁)
 【履修上の注意】特になし。ただし, 線形代数学と微積分の初等的知識を使う。
 【到達目標】
 1. (1) 簡単な数理モデルおよびシミュレーションモデルが作成できる。
 2. (2) 基本的なモデルの解析とグラフ等の視覚化ができる。
 【授業計画】1. 0. イントロダクション, 「わかる」とは 2. 1. モデル化の基礎 3. 2. モデルの特性 2.1 モデルの種類 4. 乱数を用いた簡単な例 (演習・レポート 1) 5. 2.2 モデル化の目的, 2.3 モデルの評価 6. 2.4 モデルの特性 7. 物理現象の解析 (演習・レポート 2) 8. 3. シミュレーションの基礎 3.1 シミュレーションの目的 9. 3.2 シミュレーションの種類 10. 3.3 シミュレーションの手順, 3.4 プログラム 11. 微分方程式, 差分方程式 (演習・レポート 3) 12. 4. システムのモデル化 4.1 システム分析 13. 4.2 要素のモデル化 14. 4.3 非数値的な要素・関連分析, 4.4 数値的分析法 15. 期末試験
 【成績評価】レポートと期末試験で評価する。
 【再試験】あり。
 【教科書】教科書:教科書は使用せず, 適宜資料を配布する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219080>
 【連絡先】
 ⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

ネットワーク論

2 単位 3 年 (前期)
 中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】今日, コンピュータの高性能化, および, 通信網の整備により, インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている。今後, あらゆる家電製品や携帯電話などが, ネットワークへの接続を前提に作られるようになり, ネットワークが生活の基盤になるであろう。よって, ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ること, 将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる。このような観点から, 情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする。
 【授業概要】情報通信ネットワークについて学ぶ
 【キーワード】通信ネットワーク, インターネット, プロトコル, TCP/IP
 【履修上の注意】2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識があること。
 【到達目標】ネットワークに関する知識や設計技法の習得, および, それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする。
 【授業計画】1. 情報通信の発達過程 2. ネットワークの種類と形態 3. ネットワークに関する基礎技術 4. 通信プロトコル 1 5. 通信プロトコル 2 6. 伝送制御手順 7. 通信サービスと技術 1 8. 通信サービスと技術 2 9. ネットワークの分析 1 10. ネットワークの分析 2 11. ネットワークの設計 1 12. ネットワークの設計 2 13. ネットワークセキュリティ 1 14. ネットワークセキュリティ 2 15. ネットワークセキュリティ 3
 【成績評価】レポート, 中間試験, 期末試験で総合的に判断する
 【再試験】行う
 【教科書】プリント
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219072>
 【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

コンピュータグラフィックス基礎論

2 単位 3 年 (後期)
 中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】コンピュータの普及と共に, さまざまな分野でコンピュータグラフィックス (CG) が活用されるようになってきている。CG を作成するには, デザイン関連の知識も必要であるが, コンピュータで幾何学的な計算をさせるため, 数学的な知識も必要である。本講義では, コンピュータグラフィックスに関する概念や理論, 特に, CG の基本として使われる数学的手法について論じる。また理論を学んだ後に随時プログラムも行う。
 【授業概要】コンピュータグラフィックにおける数学的手法について学び, その後プログラム作成を行う。
 【キーワード】コンピュータ・グラフィックス
 【先行科目】『プログラミング演習』(1.0, ⇒303 頁)
 【関連科目】『プログラミング演習』(0.5, ⇒303 頁)
 【履修上の注意】グラフィックスに関するプログラム演習を行うので, C 言語を使いこなせること
 【到達目標】コンピュータグラフィックスに関する概念や理論を習得し, コンピュータグラフィックスに関するプログラミングが可能となることを目標とする。
 【授業計画】1. 概論, CG の現状 2. 座標系 3. 物体の表現 4. 形状モデル 5. 幾何学的要素の代数的表現 6. 変換行列 7. 図形の投影:投影変換, 並行投影, 透視投影 8. 図形の変換 I :アフィン変換 9. 図形の変換 II :射影変換 10. 投影図法 11. 透視変換と射影変換 12. 曲線 I :クロソイド曲線, スプライン曲線 13. 曲線 II :2 次曲線, 3 次曲線 14. レンダリング 15. コンピュータアニメーション
 【成績評価】レポート, 中間試験, 期末試験で総合的に判断する
 【再試験】行う
 【教科書】授業時に指定する
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219059>
 【連絡先】
 ⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

平面製作法

2 単位 3 年 (前期)
 平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】描く行為は直接的技法であり, 手の動きと密接に結び付いている。しかし, 絵画がただ単に現実空間を写す行為でなくなった現代の美術では積極的に間接的技法を作品に取り込むようになってきている。この授業では間接的技法として木版画を制作し, 間接技法の多様な経験を積み上げ, 表現に広がりを持たせてほしい。
 【授業概要】現代木版画は, 従来の木版画の世界では考えられないほどの多様な広がりを持っている。様々な技法に接するなかで, 発想の転換やイメージの転換を計ってほしい。具体的には, ハガキサイズの小品を数多く作る。
 【キーワード】工芸, 版画, 絵画, 教育
 【履修上の注意】材料代 500 円程度必要である。
 【到達目標】間接技法の多様な経験を積み上げる
 【授業計画】1. 版画の概要と木版画の様々な表現について 2. 水性木版画「下絵作り」 3. 水性木版画「トレースと見当について」 4. 水性木版画「彫りの技法について」 5. 水性木版画「彫り」 6. 水性木版画「彫りの技法について」 7. 水性木版画「刷り上げる」 8. 作品批評会 9. 多色刷水性木版画について 10. 多色刷水性木版画「下絵について」 11. 多色刷水性木版画「トレースと見当について」 12. 多色刷水性木版画「彫りに関して」 13. 多色刷水性木版画「刷りに関して」 14. 多色刷水性木版画「刷り上げる」 15. 批評会とまとめ
 【成績評価】毎回の授業で描いた作品や授業感想等の提出を求める。レポートなどにより総合的に評価する
 【再試験】行わない
 【教科書】「新しい木版画入門」誠文堂新光社刊, 「木版画」黒崎彰著 六耀社刊
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218995>
 【連絡先】
 ⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間社会学科 地域システムコース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

地域調査法 AI ... 田中/2年(前期).....	200
地域調査法 BI ... 北村/2年(前期).....	200
地域調査法 CI ... 矢部/2年(前期).....	200
地域調査法 DI ... 豊田/2年(前期).....	201
地域調査法 EI ... 平井/2年(前期).....	201
地域調査法 FI ... 榎田/2年(前期).....	201
地域調査法 AII ... 田中/2年(後期).....	202
地域調査法 BII ... 北村/2年(後期).....	202
地域調査法 CII ... 矢部/2年(後期).....	202
地域調査法 DII ... 豊田/2年(後期).....	202
地域調査法 EII ... 平井/2年(後期).....	203
地域調査法 FII ... 榎田/2年(後期).....	203
地域調査実習 AI ... 田中/2年(前期).....	203
地域調査実習 BI ... 北村/2年(前期).....	204
地域調査実習 CI ... 矢部/2年(前期).....	204
地域調査実習 DI ... 豊田/2年(前期).....	204
地域調査実習 EI ... 平井/2年(前期).....	205
地域調査実習 FI ... 榎田/2年(前期).....	205
地域調査実習 AII ... 田中/2年(後期).....	205
地域調査実習 BII ... 北村/2年(後期).....	205
地域調査実習 CII ... 矢部/2年(後期).....	206
地域調査実習 DII ... 豊田/2年(後期).....	206
地域調査実習 EII ... 平井/2年(後期).....	206
地域調査実習 FII ... 榎田/2年(後期).....	207
社会統計基礎論 ... 豊田・石田/2年(前期).....	207
文化人類学研究 I ... 高橋/2年(前期).....	207
人文地理学研究 I ... 豊田/2年(後期).....	208
地域社会研究 ... 矢部/2年(前期).....	208
学校制度論 ... 岩永/2年(後期).....	208
家族社会学研究 ... 榎田/2年(後期).....	208
環境社会学研究 ... 樋口/2年(前期).....	208
日本経済史 I ... 中嶋/3年(前期).....	209
日本経済史 II ... 中嶋/3年(後期).....	209
経営組織論 ... 高橋・石田/2年(前期, 集中).....	209
空間情報科学 I ... 田中/2年(後期).....	210
空間情報科学 II ... 田中/3年(前期).....	210
ボランティア組織論 ... 萩原・榎田/2年(前期).....	210
地域政策論 I ... 北村/2年(後期).....	210
地域政策論 II ... 北村/2年(後期).....	211

⇒ 田中

地域調査法 BI

2 単位 2 年 (前期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】 本授業では、地域問題を考察・解明するのに不可欠な地域調査を行うための研究方法、さらにその調査結果を分析しまとめる方法の修得が課題である。このため、研究テーマを設定し、統計資料分析、現地調査から、地域の実態と、それを踏まえた新たな地域政策をも解明することにある。地域調査法 BI は、こうした地域調査に不可欠な研究手法や分析手法の基礎を、地域調査法 BI は、調査結果を分析する際の方法を学ぶ。

【授業概要】 地域課題を考察するのに必要な地域調査と資料・統計分析の習得

【キーワード】 フィールドワーク、地域情報、情報分析

【関連科目】 『地域調査法 BII』(1.0, ⇒202 頁), 『地域調査実習 BI』(1.0, ⇒204 頁), 『地域調査実習 BII』(1.0, ⇒205 頁)

【履修上の注意】 地域調査法 BI-II では地域調査の基礎と技法を、地域調査実習 BI-II では地域調査の実践と応用を学ぶので、両者を併せて前後期とも受講すること。ただし、本授業は実習的な性格をもつため、受講者数を制限する場合がある。

【到達目標】 地域調査に必要な調査方法とデータ収集・解析に関する基本的な手法を身につける。

【授業計画】 1. 地域調査の目的と意義 2. 地域調査について (1) 3. 地域調査について (2) 4. 地域調査について (3) 5. インターネットを用いた情報・文献の検索・収集法 (1) 6. インターネットを用いた情報・文献の検索・収集法 (2) 7. 地域および地域政策に関する資料・統計等データの収集法 (1) 8. 地域および地域政策に関する資料・統計等データの収集法 (2) 9. 地域調査の事例紹介 (1) 10. 地域調査の事例紹介 (2) 11. 地域調査の事例紹介 (3) 12. 地域調査の事例紹介 (4) 13. フィールドワークの方法 (1) 14. フィールドワークの方法 (2) 15. フィールドワークの方法 (3) 16. まとめ

【成績評価】 授業中の課題やレポート、発表内容や授業への取り組み状況をもとに評価する。

【再試験】 無

【教科書】 本授業では教科書は指定せず、必要な資料については適時紹介する。

【参考書】 適時紹介する。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219177>

【連絡先】

⇒ 北村

【備考】 平成 24 年度開講

地域調査法 CI

2 単位 2 年 (前期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では地域社会とその変容を調査・分析するための多様な理論、視角、手法について議論することを目的とする。特に、地域社会学、都市社会学の視点からの実証的な研究に関する基礎的な文献を取り上げ、実際の調査に必要な知識と社会学的想像力を身につけることを目指す。

【授業概要】 地域社会学、都市社会学的地域調査とデータ解析の技法

【キーワード】 社会調査、地域問題

【先行科目】 『社会統計基礎論』(1.0, ⇒207 頁)

【関連科目】 『地域調査法 CII』(1.0, ⇒202 頁), 『地域調査実習 CI』(0.5, ⇒204 頁), 『地域調査実習 CII』(0.5, ⇒206 頁)

【履修上の注意】 「地域調査法 CI-II」では調査の理論と技法を、「地域調査実習 CI-II」では実践と応用を学ぶので、両者を併せて受講することが望ましい。授業では、講義形式による解説に平行してコンピュータを利用した実習をおこなう。前提として受講者は「社会統計基礎論」をあらかじめ履修しておくか、並行して履修することが求められる。なお、利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある。

【到達目標】 地域社会学、都市社会学的な地域研究の方法を理解し、社会調査・地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける。

【授業計画】 1. どのような社会調査をしたいのか:「社会調査の歴史」「社会調査の種類」「社会調査の方法」「社会調査の目的」について説明する 2. 社会調査をはじめの前に:「図書館の活用法」「文献検索法」「統計書の活用」「知的生産技術」について説明する 3. 社会調査で何がわかるか:「社会学における理論」「社会学における検証」「社会調査の限界」について説明する 4. 人間の探求活動と科学:「真実探求への道」「社会科学の基礎」「社会調査における多様なアプローチ」「社会調査の倫理」について説明する 5. 理論と社会調査:「社会科学の

地域調査法 AI

2 単位 2 年 (前期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では、地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を学ぶ。

【授業概要】 地域調査に必要な分析方法や調査方法の基礎を学ぶ。

【キーワード】 地域調査、文献、資料、地図

【履修上の注意】 地域調査実習 AI と併せて履修すること。後期に地域調査法 AII 及び地域調査実習 AIIIG(後期)を履修すること。

【到達目標】 研究とは?地域調査とは?

【授業計画】 1. 研究とは?地域調査とは? 2. 論文とは? 3. 文献の収集法 4. 文献リストの作成 5. 文献輪読 1 6. 文献輪読 2 7. 文献輪読 3 8. ミニ巡検 1 9. ミニ巡検 2 10. 調査テーマの検討 1 11. 調査の企画 12. 調査計画の立案 13. 調査地の情報・資料の収集 1 14. 調査地の情報・資料の収集 2 15. 予備調査 1 16. 予備調査 2

【成績評価】 授業への取り組み、レポートやプレゼン内容をもとに評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219175>

【連絡先】

パラダイム」「演繹法と帰納法」「演繹法による理論構築」「帰納法による理論構築」「理論と調査のつながり」について概説する 6. 社会調査における因果関係:「決定論と社会科学」「個性記述的モデルと法則定立的モデルにおける因果関係」「因果関係の基準」「間違った因果関係の推測」「変数の測定方法と相関関係のつながり」について概説する。 7. 概念化, 操作化, および測定:「概念化」「記述的および説明的研究における定義」「操作化」「測定の質を評価するための基準」について説明する。 8. 指数, 尺度, および類型:「指数と尺度」「指数の作成」「尺度の作成」「類型」について説明する。 9. 標本抽出の理論:「標本抽出の歴史」「非確率抽出法」「確率抽出法の理論と論理」「確率論, 標本分布, および標本誤差の推定」「母集団と標本抽出枠」「標本設計の種類」「多段クラスター抽出法」「確率抽出法の復習」について説明する 10. 社会調査はどのようにすすめるか:「社会調査の手順」「事前準備」「現地調査」に関して説明する 11. 調査票をどうつくるか:「調査票づくりの基本姿勢」「調査票作成の仕事の流れ」「調査設計と調査票」「質問の仕方」「回答形式」「質問票の流れとレイアウト」について説明する 12. データの整理とチェック (分析の前に行うこと):「データの整備と入力」「データクリーニング」「変数の同定」「合成尺度の構成」について説明する 13. データ分析 (基礎の基礎):「分析にあたっての注意」「データ分析の基本的な心構え」「データの種類の整理」「データの関連」「第三変数の導入, そして理論へ」を説明する 14. 公表の方法と報告書作成の要領:「作品としての公表」「報告書の構成の仕方」「報告書の原稿執筆」「様々な公表にむけて」について説明する 15. 実例報告:私が関わったプロジェクトの論文を紹介しながら, 社会調査の流れ, 問題点, 今後の課題などを説明する。

【成績評価】平常点, 期末レポート

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ E. バビー著, 社会調査法 1, 培風館, 2003. E. バビー著, 社会調査法 2, 培風館, 2005
- ◇ 森岡清志編著, ガイドブック社会調査, 日本評論社, 1998
- ◇ 大谷信介編著『社会調査へのアプローチ・第2版』ミネルヴァ書房, 2005年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219179>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】本年度開講

地域調査法 DI

2 単位 2 年 (前期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会学において, 理論と調査の往復運動は研究上不可欠であるが, 講義と調査を架橋する機会は多くない。この講義では, 自分が住む地域の多文化状況に関する調査を事例として, 地域調査の手順を学んでもらう。具体的には, 徳島市におけるモスクとムスリム (イスラム教徒) を事例として, 移民ネットワークや移民による資源動員, エスニック関係に対して質的にアプローチする方法をテーマとする。授業にあたっては, インタビューに必要な問の立て方, 当事者に対するアプローチの仕方, KJ 法による議論の整理と仮説構築について, 講義と発表形式により身に付けていきたい。

【授業概要】この講義は, 地域調査実習 F と連動して行われる。単なる調査方法を教えるだけでなく, それをすぐに具体的な調査で応用してもらおうになる。

【キーワード】社会調査

【関連科目】『地域調査実習 DI』(1.0, ⇒204 頁), 『地域調査法 DII』(1.0, ⇒202 頁), 『地域調査実習 DII』(1.0, ⇒206 頁)

【履修上の注意】地域調査演習 F とセットで受講し, なおかつ基本的には通年で受講することを前提とする。

【到達目標】社会調査の概要を学び, 調査に同行して基礎的な方法を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 調査目的を考える:何を知るのか? 生活世界の解明とは何か? 3. 調査の方法論:量的調査, 質的調査, 資料収集, 史料にもとづく考証 4. 質的調査で何がわかるか (1): インタビューデータの使い方 5. 質的調査で何がわかるか (2): ライフヒストリー分析の射程 6. 調査方法の選定:個人と集団に対する質的なアプローチ 7. 対象者へのアプローチ方法:ホームページ, 関連文献の収集, データの整理法 8. インタビューの準備:依頼状の書き方, アポイントのとり方, 下調べの仕方 9. インタビューの準備:質問項目の作り方 10. インタビュー実施の注意事項:訪問の仕方, 質問の仕方, メモの取り方 11. インタビュー記録の作成:メモをどの程度とれているか, それをどのように文章にするか, 礼状をどのように書くか 12. インタビュー記録の分析:事前に収集した資料とインタビューの違い, インタビューにより何がわかるのか 13. 予備調査と本調査:予備調査の役割, 本調査に向けた質問票作成 14. 仮説の整理:資料とインタビューからの仮説構築 15. 仮説から質問票へ:KJ 法による整理, ワーディングの仕方

【成績評価】通常の講義とは異なり, 調査実習と連動する授業のため, 平常の出席と発表により成績評価する。

【再試験】行わない

【教科書】佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社, 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219181>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

【備考】隔年開講, 平成 24 年度開講

地域調査法 EI

2 単位 2 年 (前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】地域調査は, 文化人類学・地理学・社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である。地域調査法 EI・II では, とくに文化人類学・民俗学的な調査 (フィールドワーク) の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。授業の中では, 問題設定・仮説構成から, 調査の計画・準備, 実施 (資料・データ収集), 分析に至るまでの調査の流れを説明した後, 演習もまじえながら, 質的調査 (参与観察, インタビュー), 量的調査 (統計調査, 調査票調査), 文献調査の基本的技法の習得を目指す。

【授業概要】文化人類学的調査とデータ分析の基礎

【キーワード】地域調査, 文化人類学, 民俗学, フィールドワーク

【関連科目】『地域調査法 EII』(0.5, ⇒203 頁), 『地域調査実習 EI』(0.5, ⇒205 頁), 『地域調査実習 EII』(0.5, ⇒206 頁)

【履修上の注意】授業では随時, 参与観察・インタビュー調査・アンケート調査など, それぞれの調査技法を応用した課題 (宿題) を出すので, それに基づいて各自が実際に簡単なフィールドワークを行い, その結果をショート・レポートとして提出することが義務づけられる。地域調査法 EI・II では文化人類学的フィールドワークの理論と技法を, 地域調査実習 EI・II では実践と応用を学ぶので, 両者をあわせて受講することが望ましい。なお, 本授業は実習的な性格を持つため, 受講者数を制限する場合がある。

【到達目標】文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し, 具体的な事例に適用することができる。

【授業計画】1. フィールドワークとは何か (1) 2. フィールドワークとは何か (2) 3. フィールドワークのプロセス 4. 文献研究の技法 (1) 基礎資料の概要と利用方法 5. 文献研究の技法 (2) 文献の検索・利用方法 6. 文献研究の技法 (3) Web を利用した文献の検索・利用方法 7. フィールドワークの方法的調査と質的調査 8. 参与観察の技法 (1) 9. 参与観察の技法 (2) 10. インタビュー調査の技法 (1) 11. インタビュー調査の技法 (2) 12. インタビュー調査の技法 (3) 13. 調査データ (質的データ) の整理法 (1) フィールドノートの整理 14. 調査データ (質的データ) の整理法 (2) 調査データのデジタル化 15. 社会調査・フィールドワークの倫理 (1) 調査の過程の中で 16. 社会調査・フィールドワークの倫理 (2) 調査結果を公表する際の問題

【成績評価】本授業の成績は, 授業への取り組み状況と, ショート・レポートの成績をあわせて評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。授業中に随時プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる。
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社, 2002 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社, 1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房, 1999 年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣, 1997 年
- ◇ 松田素二・川田牧人編『エスノグラフィ・ガイドブック』嵯峨野書院, 2002 年
- ◇ 盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣, 2004 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219183>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度は開講せず。

地域調査法 FI

2 単位 2 年 (前期)
梶田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】本年度は, 認知症者とその家族およびケアラーに関するコミュニケーション上の諸問題を, 総合科学的に検討するために必要な社会調査を行うための理論と方法を身につける。具体的には, エスノメソドロジー・会話分析の技法をはじめとした質的調査法の主要部分 (インタビュー・参与観察等々) を学ぶ。

【授業概要】社会学における問題は日増しに複雑化している。この複雑な現象をそもそも認知症とはいかなる現象なのかという水準から読み取っていききたい。そのために, 教科書 (山崎敬一編 2004『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣, 好井ほか編『会話分析への招待』世界思想社等) の読解を毎週おこなう。また, 随時, インタビュー・参与観察等々の訓練も行う。

【履修上の注意】 機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合がある。また、共生社会論(講義科目)は関係が深い科目なので、合わせて受講されたい。全学共通教育科目『ボランティア論』等の紹介する諸科目とのコラボレーションもあるので、異世代間交流に意を払って欲しい。

【到達目標】 社会問題への質的なアプローチ方法を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. コミュニケーションの捉え方 (1):会話分析という考え方 3. コミュニケーションの捉え方 (2):ビデオエスノグラフィーという考え方 4. コミュニケーションの捉え方 (3):ジメルとウエーバー 5. コミュニケーションの捉え方 (4):パーソンズとガーフィンケル 6. コミュニケーションの捉え方 (5):シュッツとガーフィンケル 7. コミュニケーションの捉え方 (6):ゴフマンとガーフィンケル 8. コミュニケーションの捉え方 (7):日本のエスノメソドロジー・会話分析 9. コミュニケーションの捉え方 (8):相互行為秩序の緒問題 10. コミュニケーションの捉え方 (9):インタビュー・参与観察と会話分析 11. コミュニケーションの捉え方 (10):ヘリテージとメイナード 12. コミュニケーションの捉え方 (11):日本の研究者たち 13. コミュニケーションの捉え方 (12):社会的実践への応用可能性 14. コミュニケーションの捉え方 (13):まとめ

【成績評価】 出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。

【再試験】 行わない

【教科書】 山崎敬一編 2004『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣、ほか。追加で購入してもらっても可い。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219186>

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき。088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日の14:00から15:00(VBL棟3階プロジェクト研究室3階1, に来て欲しい))

【備考】 2012 年, 2015 年開講予定。

地域調査法 AII

2 単位 2 年 (後期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では、地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を学ぶ。

【授業概要】 地域調査に必要な分析方法や調査方法の基礎を学ぶ。

【キーワード】 地域調査, 地図, GIS

【関連科目】 『地域調査法 AI』(0.5, ⇒200 頁), 『地域調査実習 AI』(0.5, ⇒203 頁), 『地域調査実習 AII』(0.5, ⇒205 頁)

【履修上の注意】 前期開講の地域調査法 AI および地域調査実習 AI を履修しておくこと。地域調査実習 AII(後期)も履修すること。

【到達目標】 地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を習得する。

【授業計画】 1. 現地調査で得た資料・データの分析法 1 2. 現地調査で得た資料・データの分析法 2 3. 現地調査で得た資料・データの分析法 3 4. 補足資料の収集 1 5. 補足資料の収集 2 6. 補足調査の方法 1 7. 補足調査の方法 2 8. 調査のまとめ 1 9. 調査のまとめ 2 10. プレゼンテーション方法 1 11. プレゼンテーション方法 2 12. プレゼンテーション方法 3 13. 報告書の作成法 1 14. 報告書の作成法 2 15. 報告書の作成法 3 16. 総括

【成績評価】 授業への取り組み、レポートやプレゼン内容をもとに評価する。

【再試験】 再試験は行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。適宜資料を配付する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219176>

【連絡先】

⇒ 田中。

地域調査法 BII

2 単位 2 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】 本授業は、地域調査を行うための研究方法、また調査結果を分析・文書化する方法を修得することを目的とする。地域調査の目的は、研究テーマを設定し、統計資料分析や現地調査から、地域の実態と、それを踏まえた新たな地域のあるべき政策をも解明することにある。地域調査法 BI は地域調査に不可欠な研究手法の基礎を、地域調査法 BII は主として調査結果を分析・文章化する際の方法について学ぶ。

【授業概要】 地域調査を踏まえた資料・統計分析方法の習得

【キーワード】 地域調査, 地域情報, 情報資料分析

【先行科目】 『地域調査法 BI』(1.0, ⇒200 頁), 『地域調査実習 BI』(1.0, ⇒204 頁)

【関連科目】 『地域調査実習 BII』(1.0, ⇒205 頁), 『地域政策論 I』(1.0, ⇒210 頁)

【履修上の注意】 地域調査法 BI・II では地域調査の基礎と技法を、地域調査実習 BI・II では地域調査の実践と応用を学ぶので、両者を併せて

前後期とも受講すること。ただし、本授業では、受講者数を制限する場面がある。

【到達目標】 地域調査に必要な調査方法とデータ収集・解析に関する手法を培う。

【授業計画】 1. 地域調査の分析とまとめについて (1) 2. 地域調査の分析とまとめについて (2) 3. 地域情報・データの作成・整理 (1) 4. 地域情報・データの作成・整理 (2) 5. 統計や資料を用いた分析方法 (1) 6. 統計や資料を用いた分析方法 (2) 7. 統計や資料を用いた分析方法 (3) 8. 分析結果のプレゼン法 (1) 9. 分析結果のプレゼン法 (2) 10. 分析結果のプレゼン法 (3) 11. 報告書の作成法 (1) 12. 報告書の作成法 (2) 13. 報告書の作成法 (3) 14. 報告書の作成法 (4) 15. まとめ (1) 16. まとめ (2)

【成績評価】 授業中の課題やレポート、発表内容や授業への取り組み状況をもとに評価する。

【再試験】 無

【参考書】 適時紹介する。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219178>

【連絡先】

⇒ 北村。

【備考】 平成 24 年度開講

地域調査法 CII

2 単位 2 年 (後期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 社会調査・地域調査は、文化人類学・地理学・社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である。地域調査法 CII では、社会学的手法を取り入れた調査(フィールドワーク)の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。アンケート調査を企画・設計する際に必要となる仮説と検証の考え方、配布や回収をおこなう上での実際的な問題点、データの整理や分析の手法、結果のまとめ方などを学ぶ。

【授業概要】 地域社会学、都市社会学的地域調査とデータ解析の技法

【キーワード】 社会調査, 地域問題, 都市社会学, 地域社会学

【先行科目】 『社会統計基礎論』(1.0, ⇒207 頁), 『地域調査法 CI』(1.0, ⇒200 頁)

【関連科目】 『地域調査実習 CI』(0.5, ⇒204 頁), 『地域調査実習 CII』(0.5, ⇒206 頁)

【到達目標】 地域社会学、都市社会学的地域研究の方法を理解し、社会調査・地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける。

【授業計画】 1. 対象地域と調査テーマ テーマの立て方と対象事例の選択のための視点 2. 社会調査・地域調査の目的と方法 問題発見型と仮説検証型、観察調査法と質問調査法 3. 仮説の設定と検証 演繹法と帰納法、理論と実証のフィードバック 4. アンケート調査の技法 (1) 調査対象者の選び方、全数調査と標本調査、配布法と回収法 5. アンケート調査の技法 (2) : 調査票の作成、自由回答法と選択肢法、フェイスシート 6. アンケート調査の技法 (3) : 測定尺度の構成、名義尺度と数値尺度、妥当性・信頼性 7. アンケート調査の技法 (4) : コーディング、エディティング、データクリーニング 8. アンケート調査の技法 (5) : 統計的仮説検定、クロス集計、帰無仮説と有意水準 9. フィールドワークの技法 (1) 密着取材・体験取材としてのフィールドワーク 10. フィールドワークの技法 (2) 観察研究としてのフィールドワーク 11. フィールドワークの技法 (3) 聞き取り調査としてのフィールドワーク 12. フィールドワークの技法 (4) 定性的調査方法の発想 13. フィールドワークの技法 (5) フィールドノートをつける 14. フィールドワークの技法 (6) 聞き取りをする 15. 調査レポート・報告書作成の方法 実際の報告書を見ながら解説 16. 授業のまとめ

【成績評価】 平常点と期末レポート

【再試験】 行わない

【教科書】

- ◇ 大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ・第 2 版』ミネルヴァ書房、2005 年
- ◇ 佐藤郁哉『組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門』有斐閣、2002

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219180>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】 本年度開講 (次年度開講せず)

地域調査法 DII

2 単位 2 年 (後期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】この講義では、前半で調査に関する基本的な知識と考え方を講義し、後半では移民の宗教とネットワークに対する調査の代表的なものをいくつか取り上げ、その問題設定と具体的な調査方法との関連をみていくこととする。

【授業概要】樋口がこれまで行ってきた調査事例を適宜取り上げつつ、調査の目的・方法・マネーなどについて解説する。後半では、以下の2つを中心に講義と購読により授業を進めていく。①移民の組織に関する代表的な研究を紹介し、日本での代表的な文献を読む。ライフヒストリー論の問題関心とその方法論的特徴を解説し、購読を通じて理論と調査を架橋する。②エスノグラフィ的な移民研究を紹介し、移民現象を生身の人間の織り成す舞台として捉えるアプローチ方法を学んでもらう。古典的な研究を購読することで、その面白みと実際の方法論について学んでいく。

【キーワード】社会調査

【先行科目】『地域調査法 DI』(1.0, ⇒201頁), 『地域調査実習 DI』(1.0, ⇒204頁), 『社会統計基礎論』(1.0, ⇒207頁)

【関連科目】『地域調査実習 DII』(1.0, ⇒206頁)

【履修上の注意】前期と連続した内容であるため、基本的に後期のみの受講は認められない。どうしても受講したい場合にはあらかじめ相談されたい。

【到達目標】調査に際して必要な素養を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 移民研究の調査手法と代表的な研究成果:どのような方法により何を明らかにするのか? 3. 移民調査の目的:移民一組織一近隣住民の何をどのようにして明らかにするのか 4. 移民調査の方法:ネットワーク論, エスノグラフィ, インタビュー 5. 調査倫理:対象者との関係, データ使用でのトラブル, 移民調査におけるトラブルの事例 6. 質的調査における調査者の立場:対立する争点をめぐる羅生門問題, 分析者の位置取りなどの解説 7. 調査の実例と方法:講師自身の調査と早稲田大学グループによる調査手法とインタビューデータから解説 8. 移民に対する世論調査データ:データの種類と入手方法, 活用方法の解説 9. 海外における移民への態度の調査:ISSP データの紹介 10. 調査の失敗の事例:広田康生『エスニシティと都市』の調査手法と問題点の解説 11. 移民ネットワークのフィールドワーク(1):樋口直人他『国境を越える』購読と調査手法の解説 12. 移民ネットワークのフィールドワーク(2):樋口直人他『国境を越える』購読と分析手法の解説 13. モスクへのアプローチ(2):早稲田大学グループの調査の概要と方法論の解説 14. モスクへのアプローチ(3):早稲田大学グループによるラポール構築に関する解説 15. 全体のまとめ 16. 期末レポート作成

【成績評価】少人数での参加型授業であるため、出席と授業中の報告で評価する。

【再試験】行わない

【教科書】樋口直人他『国境を越える』青弓社, 好井裕明・宮内洋編『当事者をめぐる社会学』北大路書房

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219182>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~13:00)

【備考】隔年開講, 平成 24 年度開講

地域調査法 EII

2 単位 2 年 (後期)
平井 松午 教授/社会創生学科

【授業目的】地域調査法 EI・II では、とくに文化人類学・民俗学的な調査(フィールドワーク)の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。授業の中では、問題設定・仮説構成から、調査の計画・準備、実施(資料・データ収集)、分析に至るまでの調査の流れを説明した後、演習もまじえながら、質的調査(参与観察, インタビュー)、量的調査(統計調査, 調査票調査)、文献調査の基本的技法の習得を目指す。

【授業概要】文化人類学的調査とデータ分析の基礎

【キーワード】地域調査, 文化人類学, 民俗学, フィールドワーク

【関連科目】『地域調査法 EI』(0.5, ⇒201頁), 『地域調査実習 EI』(0.5, ⇒205頁), 『地域調査実習 EII』(0.5, ⇒206頁)

【履修上の注意】授業では随時, 参与観察・インタビュー調査・アンケート調査など, それぞれの調査技法を応用した課題(宿題)を出すので, それに基づいて各自が実際に簡単なフィールドワークを行い, その結果をショート・レポートとして提出することが義務づけられる。地域調査法 EI・II では文化人類学的フィールドワークの理論と技法を, 地域調査実習 EI・II では実践と応用を学ぶので, 両者をあわせて受講することが望ましい。なお, 本授業は実習的な性格を持つため, 受講者数を制限する場合がある。

【到達目標】文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し, 具体的な事例に適用することができる。

【授業計画】1. 統計的調査の技法 2. 調査票調査の技法(1) 調査の設計・実施方法の技法 3. 調査票調査の技法(2) サンプルングの技法 4. 調査票調査の技法(3) 調査票の作成 5. 調査票調査の技法(4) 集計・分析の技法 6. 調査票調査の技法(5) 調査の実施とデータ整理

7. 調査票調査の技法(6) 調査結果の分析 8. コンピューターによるデータ処理の技法(1) 文字データ処理の技法 9. コンピューターによるデータ処理の技法(2) 画像データ処理の技法 10. コンピューターによるデータ処理の技法(3) 動画データ処理の技法 11. 調査レポート・調査報告書のまとめ方 12. 調査データ(とくに質的データ)の分析法(1) 13. 調査データ(とくに質的データ)の分析法(2) 14. プレゼンテーション(発表)の技法(1) 15. プレゼンテーション(発表)の技法(2) 16. まとめ

【成績評価】本授業の成績は、授業への取り組み状況と、ショート・レポートの成績をあわせて評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。授業中に随時プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる。
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社, 2002 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社, 1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房, 1999 年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣, 1997 年
- ◇ 松田素二・川田牧人編『エスノグラフィー・ガイドブック』嵯峨野書院, 2002 年
- ◇ 盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣, 2004 年

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219184>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 23 年度は開講せず。

地域調査法 FII

2 単位 2 年 (後期)
樫田 美雄 准教授/社会創生学科

【授業目的】後期には、前期に引き続いて現代における地域福祉の重要問題である認知症に関わって生じる問題を調査するための理論と方法を、とりわけ質的調査に関係させた形で身につける。

【授業概要】この講義では、前期に具体的な調査方法を一通り経験してもらったことをふまえて、ワークスペース研究や自成的秩序研究につながる調査の代表的なものをいくつか取り上げ、その問題設定と具体的な調査方法との関連をみていくこととする。その際、以下の2つを中心に講義と購読により授業を進めていく。①秩序を意識に還元しない立場の可能性を考える。②エスノグラフィ的な知識を組み込んだ会話分析の方法としてのビデオエスノグラフィーという考え方を紹介し、この方法を生かすためにインタビュー等が重要である事を学んでもらう。古典的な研究を新しい目で講読することで、その面白みと実際の方法論について学んでいく。

【履修上の注意】地域調査法 FI-II では調査の理論と技法を、地域調査実習 FI-II では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合がある。授業は1年間で授業全体の計画を実行するため、なるべく通年で受講すること。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 秩序へのアプローチ(1):エスノグラフィー的手法 3. 秩序へのアプローチ(2):焦点の定まらない集まりへのアプローチ 4. 秩序へのアプローチ(3):ワークスペース研究という方法 5. 秩序へのアプローチ(4):歴史的現象に対する研究の可能性 6. 秩序へのアプローチ(5):組織科学とエスノメソロジー・会話分析 7. 社会秩序研究と福祉的問題の関係に関する考察 8. 医療・福祉へのアプローチ(1):エスノグラフィ的アプローチ 9. 医療・福祉へのアプローチ(2):サドナウのアプローチ 10. 医療・福祉へのアプローチ(3):D. グードのアプローチ 11. 医療・福祉へのアプローチ(4):ダグラス・メイナードのアプローチ 12. 医療・福祉へのアプローチ(5):日本の諸研究 13. 医療・福祉へのアプローチ(6):ビデオエスノグラフィーという考え方 14. 認知症と家族・介護者に関する従来の社会学的研究

【成績評価】出席点, 発表の回数と内容により成績評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】教材については、基本的に必要な部分をコピーして輪読する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219185>

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐:1 号館南棟 1 階 1S19 はとときどき, 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日:14:00 から 15:00)

地域調査実習 AI

1 単位 2 年 (前期)
田中 耕市 准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業では、地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査を学ぶ。

【授業概要】地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査を実施する。

【キーワード】地域調査, 地理情報システム

【関連科目】『地域調査実習 AII』(0.5, ⇒205 頁), 『地域調査法 AI』(0.5, ⇒200 頁), 『地域調査法 AII』(0.5, ⇒202 頁)

【履修上の注意】地域調査法 AI を履修すること。土日や休業期間等の授業時間外に、宿泊を伴う現地調査を実施する予定である。

【到達目標】地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査の実践法を習得する。

【授業計画】1. フィールドワークとは? 2. フィールドワークとは? 2 3. 文献の収集 1 4. 文献の収集 2 5. 統計データの種類と入手法 6. 統計データを用いた分析法 1 7. 統計データを用いた分析法 2 8. ミニ巡検 1 9. ミニ巡検 2 10. 空間データの種類と入手法 11. 空間データを用いた分析法 1 12. 空間データを用いた分析法 2 13. 調査地の情報・資料の分析 1 14. 調査地の情報・資料の分析 2 15. 予備調査 1 16. 予備調査 2

【成績評価】授業への取り組み、レポートやプレゼン内容をもとに評価する。

【再試験】再試験はない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219163>

【連絡先】

⇒ 田中

地域調査実習 BI

1 単位 2 年 (前期)
北村 修二 教授/社会創生学科

【授業目的】地域の活性化においては、地域調査による分析、特に統計資料分析とフィールドワークに基づく実証的な分析が欠かせない。このための授業では、統計分析や地域調査を行うための方法、また調査結果を分析する方法を修得することを目的としている。このように地域の活性化に欠かせない地域調査による研究手法や分析方法を学ぶ。

【授業概要】地域調査や分析法の習得

【キーワード】地域調査, 地域情報, 統計情報分析

【先行科目】『地域調査法 BII』(1.0, ⇒202 頁), 『地域調査実習 BI』(1.0, ⇒204 頁), 『地域調査実習 BII』(1.0, ⇒205 頁)

【関連科目】『地域調査実習 BII』(1.0, ⇒205 頁), 『地域調査法 BI』(1.0, ⇒200 頁), 『地域調査法 BII』(1.0, ⇒202 頁)

【履修上の注意】地域調査法 BI・II では地域調査の基礎と技法を、地域調査実習 BI・II では地域調査の実践と応用を学ぶので、両者を併せて前後期とも受講すること。ただし、本授業は実習的な性格をもつため、受講者数を制限する場合がある。また、現地調査等については定められた授業時間外に、宿泊または日帰りで行う場合がある。

【到達目標】地域の活性化に必要な地域調査の方法とデータの収集・解析に関する基本的な手法を身につける。

【授業計画】1. 地域調査の目的と意義 2. 地域調査に関する資料・統計データの収集法 3. インターネットによる情報・文献の検索・収集法 4. 調査事例の紹介 (1) 5. 調査事例の紹介 (2) 6. 調査事例の紹介 (3) 7. フィールドワークの方法 (1) 8. フィールドワークの方法 (2) 9. 統計資料の分析法 (1) 10. 統計資料の分析法 (2) 11. 調査結果のまとめ方 (1) 12. 調査結果のまとめ方 (2) 13. 調査結果のプレゼンテーション (1) 14. 調査結果のプレゼンテーション (2) 15. 報告書の作成 (1) 16. 報告書の作成 (2)

【成績評価】授業中の課題やレポート、発表内容、授業への取り組み状況により評価する。

【再試験】無

【教科書】本授業では教科書は使用しない。必要な資料については適時紹介する。

【参考書】適時紹介する

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219165>

【連絡先】

⇒ 北村

【備考】平成 24 年度開講

地域調査実習 CI

1 単位 2 年 (前期)
矢部 拓也 准教授/社会創生学科

【授業目的】まちづくりに関する調査・分析

【授業概要】この授業では社会調査の手法を、実習の形式で修得することを目的とする。ここでは、特定のテーマを設定し、調査票を用いたサーベイ調査(アンケート調査)、個別の団体調査・インタビュー調査、既存の統計資料調査など、多様な手法を用い、対象となる社会現象を記述・分析し、報告書の執筆、調査対象地域でのプレゼンテーション、場合によってはまちづくりへの実践活動することが目指される。調査の対象地域や課題に関しては、受講者と議論を通じて決めてゆきたい。また、本調査実習全体の設計に関しては、地域調査法 ID・IID で検討して決定するので、併せて受講することを希望する。今年度は、まちづくりを基本テーマとして、調査自体が、地域社会に役立つことと、学生が卒業後も、実習経験が実際の仕事に役立つような形にしたい。つまり、学内の学生だけで完結するのではなく、常に対象者である地

域社会とのインタラクションをもった「地域調査」を目指す。今のところ、以下のような形を考えている。1. 「地域の問題の掘り起こし」 2. 「地域の人とのディスカッション」 3. 「調査票の設計」 4. 「調査」 5. 「地域でのプレゼン/実践」自分自身が中心市街地活性化に関心があることから、特に受講者側からの希望が無ければ、地元商店街などを対象とした中心市街地活性化に関する聞き取りから始めて行きたいと考えている。単にテクニカルな調査票の作り方を学ぶのではなく、社会と関わり地域から学ぶことで、必要な知識を身につけて行くスタイルを取りたい。また、可能であるなら、徳島市や周辺自治体とのパートナーシップで、自治体の政策形成のための基礎調査や、これまでの政策評価などを行い、行政への政策提言、TMO(まちづくり会社)やまちづくりへの支援・参加をしてゆきたいと考えている。いずれにせよ、何らかの形で、学外(地域)と関わり、評価が受けられるような調査実習にしたい。そして、このような授業を通じて、地域社会に開かれ、社会の問題が気楽に大学に持ちこまれる、シンクタンク機能と実践力をもった、頼れる大学(地域調査実習)を目指そうと考えている。

【キーワード】社会調査, 地域問題, 都市社会学, フィールドワーク, 中心市街地活性化, 都市再生

【関連科目】『地域調査実習 CII』(1.0, ⇒206 頁), 『地域調査法 CI』(0.5, ⇒200 頁), 『地域調査法 CII』(0.5, ⇒202 頁)

【到達目標】地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する。

【成績評価】発表やレポートの内容など授業への取り組みのほか、行動力、表現力、チームワークにおける指導性や協調性を見ながら総合的に評価する。

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219167>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】本年度開講(次年度開講せず)

地域調査実習 DI

1 単位 2 年 (前期)
豊田 哲也 准教授/社会創生学科

【授業目的】本年度は、徳島市に建設されたモスクとそこに集まる人々、および近隣住民に対して国際社会学的なアプローチから調査を行う。2000 年代に入って全国各地でモスクの建設が進んでおり、徳島モスクは四国で 3 つ目になる。そして地方都市のモスクの多くは、留学生を主な担い手としているが、建設費用は全国的な募金によりまかなっている。外国人多住地域とはいえない徳島のような地域で、ムスリムたちはどのように集い、必要な資源を動員し、近隣住民とどのような関係を結び、滞日経験をここのムスリムはどのように意味づけているかを分析することが、この実習の目的である。その際、調査に関する基礎的な事項をこの実習で学び、具体的なインタビューの分析や報告書の執筆などは後期に行う。

【授業概要】授業は、フィールドワークに向けた準備や予備知識の蓄積と、実際のフィールドワークからなる。前期は、調査の基礎的な仕方を教えるほか、予備調査から本調査に至るまでの過程を教える。具体的には、以下の順で調査を行っていく予定。イスラームやムスリムに対する基礎的な知識の習得 → ムスリム移民の世界的な状況と日本での現状についての解説 → ホームページからアクセス可能なムスリム・ネットワークに関する情報の入手 → インタビューの実際(フィールドワーク) → インタビュー後の記録作り → 資料に基づく調査対象者の選定 → 2 回目のフィールドワーク → インタビュー後の作業 → 調査計画書の作成と提出

【キーワード】社会調査

【先行科目】『社会統計基礎論』(1.0, ⇒207 頁), 『地域調査法 DI』(1.0, ⇒201 頁)

【履修上の注意】基本的には前後期を通して報告書執筆まで到達してもらうため、通年での受講を前提としている。また、樋口が開講する調査法と連続した内容になるため、両方セットでの受講を前提とする。

【到達目標】調査の実践を学ぶ。

【授業計画】調査法の授業とセットで行うため、基本的にはそれに併せて進める。

【成績評価】実習科目であるため、調査への参加や記録作成など、通常の作業により評価する。

【再試験】行わない

【教科書】調査法と同じ

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219169>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

【備考】隔年開講, 平成 24 年度開講

地域調査実習 EI

1 単位 2 年 (前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 地域の本質を把握するためには、的確な視点から問題を設定し、綿密な調査を通じて実証を重ねていく作業が不可欠である。本実習では、地域に展開する文化現象に注目し、実際の調査 (文化人類学・民俗学的なフィールドワーク) を通じてこれらの能力を養成することを目的としている。授業では調査計画の立案に始まり、実際のフィールドワークを行い、その結果得られたデータを整理・分析し、報告書にまとめあげるまでの過程を「体験的に」学習する。先行研究の内容を踏まえていなければ、フィールドワークの成果は十分に上がらない。本授業では、特定のテーマに関連した文献資料を効率よく収集し、調査研究に生かす手法についてもあわせて紹介する。

【授業概要】 文化人類学実習

【キーワード】 地域調査, 文化人類学, 民俗学, フィールドワーク

【関連科目】 『地域調査実習 EII』(0.5, ⇒206 頁), 『地域調査法 EI』(0.5, ⇒201 頁), 『地域調査法 EII』(0.5, ⇒203 頁)

【履修上の注意】 地域調査法 EI・II では調査の理論と技法を、地域調査実習 EI・II では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。前期・後期の授業内容は相互に密接な関連を持つため、通年で受講することがある。本授業では、日本国内の特定地域をフィールドとして共通の研究テーマを設定 (祭り・年中行事・人生儀礼・衣食住・伝説・観光など、さまざまな文化現象の中から一つを選定) し、担当教員と学生が共同で調査研究を行っていく。調査対象地域と調査テーマについては、受講者と相談の上決定する。授業では、受講者を数名ずつのグループに分けて具体的な作業を進めてもらう。その中で、講義形式の授業では行いにくい、ディスカッションやプレゼンテーションの訓練も積むようにしたい。

【到達目標】 文化人類学・民俗学的なフィールドワークを計画・実行し、その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる。

【授業計画】 1. フィールドワークとは 2. 調査の企画 (1) 調査地・調査テーマの検討 3. 調査の企画 (2) 調査地・調査テーマの検討 4. 調査の企画 (3) 調査地・テーマの決定 5. 調査計画の立案 (1) 問題の設定と仮説構成 6. 調査計画の立案 (2) 調査スケジュールの検討 7. 調査計画の立案 (3) 調査班の編成 8. 関連文献の収集 (1) 文献検索・収集 9. 関連文献の収集 (2) 文献リストの作成 10. 関連文献の輪読 (1) 11. 関連文献の輪読 (2) 12. 関連文献の輪読 (3) 13. 予備調査の計画 (1) 実施体制・内容の検討 14. 予備調査の計画 (2) 役割分担の検討 15. 予備調査の実施 (1) 16. 予備調査の実施 (2)

【成績評価】 授業への取り組み状況、授業中に課せられるレポートや報告書の内容、調査時における姿勢や分析力をもとに評価を行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。授業中に随時プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる。
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社, 2002 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社, 1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房, 1999 年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣, 1997 年
- ◇ 高橋晋一編『徳島大学文化人類学研究報告』1~9, 同研究室, 1996 年~2009 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219171>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 平成 23 年度は開講せず。

地域調査実習 FI

1 単位 2 年 (前期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 社会学理論を専攻する者でない限り、何らかの経験的なデータによる実証が社会学では求められる。社会調査実習の目的は、長期的には卒業論文での実証や卒業後のリサーチに必要な手法を身につけることであり、短期的には特定のテーマでまとまった量の調査報告を執筆できるようにすることである。本実習では、聞き取り調査、公私の各種文書の収集・分析、テープレコーダー、カメラ、ビデオカメラ、等緒情報機器の利用、実地調査 (参与観察を含む) といった方法により、社会調査の基礎を、実習を通して学んでもらう。

【授業概要】 本年度は、認知症者と家族・介護担当者とのコミュニケーション上の絡み合いの解明がメインテーマである。このテーマに関わって、参与観察、インタビュー、ビデオ分析、会話分析を総合的に活用できるようにすることが、この実習の目的である。その際、調査に関する基礎的な事項は地域調査法 FI で学び、具体的な情報収集やインタビュー、トランスクリプトづくり、ビデオセッションによる解析作業等をこの実習で行う。後期の目的は、前期で行った調査についての解析を本格的に進め、報告書の作成まで行い調査の一連のプロセスを経験することにある。また、実習は班に分かれて調査を進めるため、各人が責任を持って参加することが重要である。

【履修上の注意】 地域調査法 FI・II では調査の理論と技法を、地域調査実習 FI・II では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合がある。授業は 1 年間で授業全体の計画を実行するため、なるべく通年で受講すること。

【到達目標】 年度末には班別に調査報告書 (A4 用紙で 10-20 枚程度) を執筆してもらうのでそのつもりで受講すること。トランスクリプトづくり、ビデオセッションによる解析作業など膨大な時間がかかる事が予想されるが、時間をかけただけの成果があがることは保証しよう。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 会話分析の基礎:隣接対, 優先構造, 割り込み 3. トランスクリプトづくりの基礎:沈黙, 同時発話, 視線の秩序 4. お願い状の書き方, アポイントメントの取り方 5. エスノグラフィーの知識の入手法:ホームページや出版資料による情報収集 6. インタビューに至るまでの道:半構造化面接の準備シートの作成等 7. 練習インタビュー:インタビュー直後に複数人で記録をつきあわせる事の価値 8. 本番インタビュー:臨機応変にインタビューする 9. ビデオ撮影の準備 (1):ワイドコンパクションレンズ, 時刻合わせ, アングル 10. ビデオ撮影の準備 (2):外部マイク, ワイヤレスマイク, マイクミキサーの使い方 11. ビデオセッションの準備 (1):トランスクリプトづくり, 静止画切り出し 12. ビデオセッションの準備 (2):動画クリップの編集, 匿名性の確保法 13. ビデオセッションのまとめ方 (1):先行研究との関連 1(能力判定のエスノメソドロジー) 14. ビデオセッションのまとめ方 (2):先行研究との関連 2(知識認定の相互反映性) 15. 認知症に関する講演会 (井口高志先生=信州大学医学部=を招いて) 16. 夏休み合宿の企画

【成績評価】 出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。

【再試験】 行わない

【教科書】 教材に関しては、適宜コピーして輪読する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219173>

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐:1 号館南棟 1 階 1S19 はとときどき, 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日の 14:00 から 15:00)

地域調査実習 AII

1 単位 2 年 (後期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では、地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査を学ぶ。

【授業概要】 この授業では、地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査を学ぶ。

【キーワード】 地域調査, 地理情報システム

【関連科目】 『地域調査実習 AI』(0.5, ⇒203 頁), 『地域調査法 AI』(0.5, ⇒200 頁), 『地域調査法 AII』(0.5, ⇒202 頁)

【履修上の注意】 前期に「地域調査法 AI」および「地域調査演習 AI」を履修すること。後期は「地域調査法 AII」を履修すること。土日や休業期間等の授業時間外に、宿泊を伴う現地調査を実施する予定である。

【到達目標】 地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査の実践法を習得する。

【授業計画】 1. 現地調査 1 2. 現地調査 2 3. 現地調査 3 4. 現地調査 4 5. 現地調査で得た資料・データの分析 1 6. 現地調査で得た資料・データの分析 2 7. 現地調査で得た資料・データの分析 3 8. 補足調査 1 9. 補足調査 2 10. プレゼンテーションの作成 1 11. プレゼンテーションの作成 2 12. プレゼンテーションの実施 13. 報告書の作成 1 14. 報告書の作成 2 15. 報告書の作成 3 16. 総括

【成績評価】 授業への取り組み、レポートやプレゼン内容をもとに評価する。

【再試験】 再試験はない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219164>

【連絡先】

⇒ 田中

地域調査実習 BII

1 単位 2 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】 地域の活性化においては、地域調査による分析、特に地域および地域政策に関する統計資料・資料分析とフィールドワークに基づく実証的な分析が欠かせない。このためこの授業では、統計分析や地域調査を行うための方法、また調査結果を分析する方法を実践的に修得することを目的としている。このように地域の活性化に欠かせない地域調査に関する研究手法や分析方法を実践的な形で学ぶ。地域調査の実践により地域調査の重要性とその意味を理解するとともに、調査結果については、報告書等にまとめるよう努める。

【授業概要】 地域調査と統計資料を用いた地域分析方法の実践的な習得

【キーワード】 地域調査, 地域情報, 情報・統計分析

【先行科目】 『地域調査実習 BI』(1.0, ⇒204 頁), 『地域調査法 BI』(1.0, ⇒200 頁)

【関連科目】 『地域調査法 BII』(1.0, ⇒202 頁), 『地域政策論 I』(1.0, ⇒210 頁)

【履修上の注意】地域調査法 BI・II では地域調査の理論と技法を、地域調査実習 BI・II では地域調査の実践と応用を学ぶので、両者を併せて前後期とも受講すること。ただし、本授業は実習という性格のため、受講者数を制限する場合がある。また、現地調査等については定められた授業時間外に、宿泊または日帰りで行う場合がある。

【到達目標】具体的な調査事例を通じた、地域調査の方法の習得が目標
【授業計画】 1. 現地調査の企画 2. 現地調査に必要な地域情報データ等の収集 3. 地域データの整理・分析 4. 現地調査 (1) 5. 現地調査 (2) 6. 現地調査 (3) 7. 現地調査 (4) 8. 調査結果の分析 (1) 9. 調査結果の分析 (2) 10. 補足調査と補足資料収集 (1) 11. 補足調査と補足資料の収集 (2) 12. 調査結果のまとめ (1) 13. 調査結果のまとめ (2) 14. 調査結果の発表 15. 報告書の作成 (1) 16. 報告書の作成 (2)

【成績評価】レポートや報告内容、調査時における参加姿勢、発表内容等により評価する。

【再試験】無

【教科書】本授業では教科書を定めず授業を行う。必要な資料については適時紹介する。

【参考書】適時紹介する

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219166>

【連絡先】

⇒ 北村

【備考】平成 24 年度開講

地域調査実習 CII

1 単位 2 年 (後期)
 矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】まちづくりに関する調査・分析

【授業概要】この授業では社会調査の手法を、実習の形式で修得することを目的とする。ここでは、特定のテーマを設定し、調査票を用いたサーベイ調査(アンケート調査)、個別の団体調査・インタビュー調査、既存の統計資料調査など、多様な手法を用い、対象となる社会現象を記述・分析し、報告書の執筆、調査対象地域でのプレゼンテーション、場合によってはまちづくりへの実践活動することが目指される。調査の対象地域や課題に関しては、受講者と議論を通じて決めてゆきたい。また、本調査実習全体の設計に関しては、地域調査法 ID・IID で検討して決定するので、併せて受講することを希望する。今年度は、まちづくりを基本テーマとして、調査自体が、地域社会に役立つことと、学生が卒業後も、実習経験が実際の仕事に役立つような形にしたい。つまり、学内の学生だけで完結するのではなく、常に対象者である地域社会とのインタラクションをもった「地域調査」を目指す。今のところ、以下のような形を考えている。1. 「地域の問題の掘り起こし」 2. 「地域の人とのディスカッション」 3. 「調査票の設計」 4. 「調査」 5. 「地域でのプレゼン/実践」自分自身が中心市街地活性化に関心があることから、特に受講者側からの希望が無ければ、地元商店街などを対象とした中心市街地活性化に関する聞き取りから始めて行きたいと考えている。単にテクニカルな調査票の作り方を学ぶのではなく、社会と関わり地域から学ぶことで、必要な知識を身につけて行くスタイルを取りたい。また、可能であるなら、徳島市や周辺自治体とのパートナーシップで、自治体の政策形成のための基礎調査や、これまでの政策評価などを行い、行政への政策提言、TMO(まちづくり会社)やまちづくりへの支援・参加をしてゆきたいと考えている。いずれにせよ、何らかの形で、学外(地域)と関わり、評価が受けられるような調査実習にしたい。そして、このような授業を通じて、地域社会に関かれ、社会の問題が気楽に大学に持ちこまれる、シンクタンク機能と実践力をもった、頼れる大学(地域調査実習)を目指そうと考えている。

【キーワード】社会調査、地域問題、都市社会学、フィールドワーク

【先行科目】『地域調査実習 CI』(1.0, ⇒204 頁)

【関連科目】『地域調査法 CI』(0.5, ⇒200 頁), 『地域調査法 CII』(0.5, ⇒202 頁)

【到達目標】地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する。

【成績評価】発表やレポートの内容など授業への取り組みのほか、行動力、表現力、チームワークにおける指導性や協調性を見ながら総合的に評価する。

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219168>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】本年度開講(次年度開講せず)

地域調査実習 DII

1 単位 2 年 (後期)
 豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】前期に引き続いて、徳島に建設されたモスクの調査を行う。2000 年代に入って全国各地でモスクの建設が進んでおり、徳島モスクは四国で 3 つ目になる。そして地方都市のモスクの多くは、留学生を主な担い手としているが、建設費用は全国的な募金によりまかなっている。外国人多住地域とはいえない徳島のような地域で、ムスリムたちがどのように集い、必要な資源を動員し、近隣住民とどのような関係性を結び、滞日経験をここのムスリムはどのように意味づけているかを分析することが、この実習の目的である。後期には、本格的に調査を進めていくことになるため、受講生ひとりひとりが個々のムスリムたちとコミュニケーションをとる機会を多く設ける。それにより、異なる文化にアプローチする際の倫理と方法についても学ぶ。

【授業概要】前期の調査を受けて、後期では関心に従って以下の 3 つの班に分かれて調査を行う。(1) モスクという組織水準を中心に展開するネットワークの調査。(2) 個々のムスリムたちのライフストーリーと滞日経験の意味づけ。(3) 近隣住民との関係。班ごとに各 10 件程度のインタビューを行っていく。実習では、フィールドワークをあいた日程に入れていくほか、インタビュー記録の整理の仕方やそれを報告書に向けて焦点を絞る作業を行う。具体的には以下のようにして進める。班ごとに詳細な質問票を作成→対象者へのアポイント取りとインタビューのアレンジメント→インタビュー→記録作りと情報共有の方法の習得→報告書に向けた個々人のテーマ設定→調査データの分析と報告書執筆。

【先行科目】『地域調査実習 DI』(1.0, ⇒204 頁), 『社会統計基礎論』(1.0, ⇒207 頁), 『地域調査法 DI』(1.0, ⇒201 頁)

【履修上の注意】前期から連続した内容なので、連続での受講を前提とする。また、調査法と連動した授業なので、セットでの受講を前提とする。

【到達目標】最初は一通りやり方を学ぶ機会を 3 回ほど設け、その後はインタビューの補助として記録の作成などを行い、最終的には報告書を執筆する

【授業計画】調査法と連動して行うので、基本的には調査法と同じ。

【成績評価】最終的な報告書に加えて、そこに至る過程でのさまざまな作業状況をみて評価する。

【再試験】行わない

【教科書】調査法と同じ

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219170>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~13:00)

【備考】隔年開講、平成 24 年度開講

地域調査実習 EII

1 単位 2 年 (後期)
 平井 松平・教授/社会創生学科

【授業目的】地域の本質を把握するためには、的確な視点から問題を設定し、綿密な調査を通じて実証を重ねていく作業が不可欠である。本実習では、地域に展開する文化現象に注目し、実際の調査(文化人類学・民俗学的なフィールドワーク)を通じてこれらの能力を養成することを目的としている。授業では調査計画の立案に始まり、実際のフィールドワークを行い、その結果得られたデータを整理・分析し、報告書にまとめあげるまでの過程を「体験的に」学習する。先行研究の内容を踏まえていなければ、フィールドワークの成果は十分に上がらない。本授業では、特定のテーマに関連した文献資料を効率よく収集し、調査研究に生かす手法についてもあわせて紹介する。

【授業概要】文化人類学実習

【キーワード】地域調査、文化人類学、民俗学、フィールドワーク

【関連科目】『地域調査実習 EI』(0.5, ⇒205 頁), 『地域調査法 EI』(0.5, ⇒201 頁), 『地域調査法 EII』(0.5, ⇒203 頁)

【履修上の注意】地域調査法 EI・II では調査の理論と技法を、地域調査実習 EI・II では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。前期・後期の授業内容は相互に密接な関連を持つため、通年で受講することが望ましい。また、実習という授業の性格上、受講者数を制限することがある。本授業では、日本国内の特定地域をフィールドとして共通の研究テーマを設定(祭り・年中行事・人生儀礼・衣食住・伝説・観光など、さまざまな文化現象の中から一つを選定)し、担当教員と学生が共同で調査研究を行っていく。調査対象地域と調査テーマについては、受講者と相談の上決定する。授業では、受講者を数名ずつのグループに分けて具体的な作業を進めてもらう。その中で、講義形式の授業では行けない、ディスカッションやプレゼンテーションの訓練も積むようにしたい。

【到達目標】文化人類学・民俗学的なフィールドワークを計画・実行し、その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる。

【授業計画】1. 予備調査結果の報告会 2. 本調査に向けての体制作り (1) 調査体制の検討 3. 本調査に向けての体制作り (2) 調査要項の確定 4. 本調査の実施 5. 本調査のデータ整理 (1) 6. 本調査のデータ整理 (2) 7. 補足調査項目の検討 8. 補足調査の実施 9. 調査報告書の構成検討、執筆分担 10. 調査結果の整理・分析、報告書原稿の執筆 (1) 11. 調査結果の整理・分析、報告書原稿の執筆 (2) 12. 調査結果の整理・分析、報告書原稿の執筆 (3) 13. 研究成果報告会に向

ける準備作業 14. 研究成果報告会 15. 報告書の発送作業 16. 1年の調査経験をふまえての討論会

【成績評価】授業への取り組み状況、授業中に課せられるレポートや報告の内容、調査時における姿勢や分析力をもとに評価を行う。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。授業中に随時プリントを配布する。

【参考書】

- 主な参考書を以下に挙げる。
- 佐藤郁哉 『フィールドワークの技法』新曜社、2002年
- 佐藤郁哉 『フィールドワーク』新曜社、1992年
- 箕浦康子 『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房、1999年
- ジョン&リン・ロフランド 『社会状況の分析』恒星社厚生閣、1997年
- 高橋晋一編 『徳島大学文化人類学研究室報告』1~9, 同研究室、1996年~2009年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219172>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 23 年度は開講せず。

地域調査実習 FII

1 単位 2 年 (後期)
榎田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会理論を専攻する者でない限り、何らかの経験的なデータによる実証が社会学では求められる。社会調査実習は、卒業論文での実証や卒業後のリサーチに必要な手法を身につけ、特定のテーマでまとまった量の調査報告を執筆することを目的とする。本実習では、当事者の知識のエスノグラフィックな活用を特徴としたビデオエスノグラフィという考え方に基いて、総合科学的な社会調査の基礎を学んでもらう。

【授業概要】この実習では、地域調査実習 FI に引き続き、認知症者と家族・介護担当者とのコミュニケーション上の絡問題を、ビデオエスノグラフィという考え方を手法として、検討する。相互行為の意味の発見を助けるために、オムロン社の「活動量計」を用いる。具体的には、10秒ごとの活動量の記録が24時間とれるので、ビデオのタイマーと連動して活動量の増減・多寡を比較する事で、素人とプロフェッショナルの介護活動における活動量の違い、人間関係的な近しさが活動量に与える影響などを検討していける事だろう。

【履修上の注意】地域調査法 FI-II では調査の理論と技法を、地域調査実習 FI-II では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合がある。授業は1年間で授業全体の計画を実行するため、なるべく通年で受講すること。

【到達目標】年度末には調査実習報告書の原稿を班ごとに執筆してもらう。卒論中間発表会の主催などを通して、屋根瓦方式での教育を行う。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 認知症のコミュニケーション上の絡問題としてどのようなものがあるか:検討会 3. 知症のコミュニケーション上の絡問題の分析方法について:検討会 4. ビデオセッションによる解析作業 (1):トランスクリプトづくり、静止画切り取り 5. ビデオセッションによる解析作業 (2):動画クリップ、イラスト化 6. 補充的インタビュー調査 (1):家族、ケアワーカー、ケアマネジャー 7. 補充的インタビュー調査 (2):管理職、行政担当者、市民団体 (認知症の人と家族の会) 8. 活動量計との組み合わせ調査 (1):グラフ作りと動画との照らし合わせ 9. 活動量計との組み合わせ調査 (2):コミュニケーション上の特徴の発見 10. 中間報告会:それぞれの知見の報告と班毎の視点や進行状況の整理、次の研究に向けた課題 11. 関連研究のサーベイ (1):介護保険認定調査の研究のビデオエスノグラフィ 12. 関連研究のサーベイ (2):施設内コミュニケーションの研究 13. 卒論調査 (夜勤時の認知症者サポートの研究) との連動:夜の認知症者について 14. 進行状況の報告会:班毎のレジュメの集約、全体の構成と教員による総論の提示 15. 報告書草稿の提出、教員による講評と相互批評

【成績評価】出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は好井・串田編『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社ほか、を指定する予定。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219174>

【連絡先】

⇒ 榎田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1号館南棟 1 階 1S19 はとときどき。088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日の14:00から15:00)

社会統計基礎論

2 単位 2 年 (前期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科, 石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】統計データを用いた分析は人文社会科学の重要な論証手段であるだけでなく、あらゆる調査研究に不可欠のツールである。本授業では、統計分析の基礎的な理論と手法を実習形式で学ぶ。授業の目標は以下の3点からなる。①基本的な統計学の理論を理解する。②実

践的な分析の技能を習得する。③複雑な社会的現象を探求する科学的態度を学ぶ。

【授業概要】統計分析の理論と応用

【キーワード】統計学, 情報処理, 社会調査

【関連科目】『社会情報分析法』(0.5, ⇒218 頁)

【履修上の注意】受講者は前提として Windows 操作の基礎的知識をすでに獲得していることが求められる。授業は講義と実習を組み合わせでおこない、各回の内容に応じて課題を課す。なお、利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある。

【到達目標】人文社会科学の実証研究に必要な統計学の基礎理論を学び、データ分析の実践的手法を習得する。

【授業計画】1. さまざまな統計データ: 全数調査と抽出調査, 統計の種類と利用 2. 基本統計量 (1): 量的データと質的データ 3. 基本統計量 (2): 代表値, 散布度, 集中度 4. 相関係数: 2変数間の関係, 疑似相関, 媒介関係, 外れ値 5. 回帰分析 (1): 予測モデル, 最小二乗法 6. 回帰分析 (2): 非線形性, 多重共線性, 誤差項の自己相関 7. カテゴリカルデータ (1): 分割表と連関度 8. カテゴリカルデータ (2): 独立性に関するカイ二乗検定 9. 確率論の基本: 順列・組み合わせ, 期待値 10. 確率変数と分布: 二項分布と正規分布 11. 母集団と標本: 抽出法の理論 12. 統計的推定 (1): 最尤法の基本 13. 統計的推定 (2): 点推定と区間推定 14. 統計的検定 (1): 考え方と手順, 両側検定と片側検定 15. 統計的検定 (2): 母平均と差の検定 16. 授業のまとめ

【成績評価】授業への取り組みと課題の評価による。

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219401>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 初回の授業時間に指示する。)
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

文化人類学研究 I

2 単位 2 年 (前期)
高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】文化人類学の中核的なテーマについて講義する。世界の諸民族の事例を通して、人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し、異文化(および自文化)の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である。グローバル化の中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい。

【授業概要】文化人類学の基本問題

【キーワード】文化, 現代社会, グローバリゼーション

【関連科目】『民俗学研究 I』(0.5, ⇒23 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【到達目標】人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化(自文化)の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。

【授業計画】1. 文化人類学のパースペクティブ 2. 「ことば」と認識・言語文化へのアプローチ 3. 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 4. 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 5. 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ 6. 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム 7. ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ 8. 現代医療と文化-新生殖技術をめぐる 9. メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 10. グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム 11. 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 12. ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より 13. 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ 14. 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか 15. 「転換期」の時代の文化人類学 16. まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる。個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂、2005年
- 中島成久編『グローバル化のなかの文化人類学案内』明石書店、2003年
- 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書、1982年
- 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣、2008年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219280>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~13時)

【備考】本年度開講 (隔年開講)

人文地理学研究 I
Human Geography I

2 単位 2 年 (後期)
豊田 哲也・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 経済や情報のグローバル化が急速に進む現代において、地域のかたちやしくみはどうかあるべきかが問われ直されている。あらゆる経済活動は地域の資源や市場を前提に成立しており、われわれのくらは農業、工業、商業など産業の立地によって支えられている。そうした地域と立地のメカニズムを系統的かつ論理的に考えてみるのがこの授業の目的である。前半は、チューネン、ウェーバー、クリスタラーに代表される古典理論の系譜を紹介し、後半では現代における立地論の新たな展開と応用について学ぶ。

【授業概要】 経済地理学概説

【キーワード】 地理学, 地域経済学, 政策科学, 産業, 立地

【関連科目】 『地域構造論研究 I』(0.5, ⇒217 頁), 『地域構造論研究 II』(0.5, ⇒217 頁), 『計画の論理』(0.5)

【履修上の注意】 この授業は教員免許取得 (中学校・社会, 高校・地歴) のための必修科目 (『地域構造論研究 I』) といずれか選択) となっている。なお, 『人文地理学研究 I』は平成 23 年度には開講されない。

【到達目標】 経済地理学の基礎理論を学び, 社会現象を理論的・空間的に考察する能力を身につけることを重視する。

【授業計画】 1. 地理学の体系と立地論の系譜 2. チューネンの農業立地論 3. 地代と土地利用モデル 4. ウェーバーの工業立地論 5. 外部経済と集積の利益 6. クリスタラーの中心地理論 7. 都市の階層的システム 8. テスト (第 1 回) 9. オフィスの立地 10. 流通革命とコンビニの立地戦略 11. 公共施設の立地・配分モデル 12. クルーズの産業立地モデル 13. ボーターの産業クラスター論 14. グローバリゼーションと多国籍企業 15. テスト (第 2 回) 16. 授業のまとめ

【成績評価】 授業内容の確認と復習を兼ねたテスト (持ち込み不可) を実施し, 授業への取り組みと併せて成績評価をおこなう。

【再試験】 なし

【教科書】 松原宏編著『立地論入門』古今書院, 2002 年。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jinbunchiri/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219094>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~13:00)

【備考】 隔年開講のため, 平成 23 年度は開講されない。

地域社会研究

2 単位 2 年 (前期)
矢部 拓也・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 地域社会をより深く理解するため, 地域社会学および都市社会学の基本的な考え方を理解し, 自分にあった地域社会へのアプローチ方法を見出し, 地域分析ができるようになること。

【授業概要】 地域社会の構造と変動

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 徳島の地域社会 3. <地域>へのアプローチ 4. 地域社会とは何だろうか? 5. 地域を枠づける制度と組織 6. 地域に生きる集団とネットワーク 7. 地域が歴史を作り出す, 歴史が地域を創り出す 8. なぜ地域が大切か 9. 子育てと地域社会 10. 学校と地域 11. 自営業者たちと地域社会 12. 高齢化と地域社会 13. エスニック集団と地域社会 14. 国家とグローバリゼーション 15. 地域社会と未来 16. 総括ディスカッション

【成績評価】 中間レポートと期末レポートの評価および, 毎回の授業で提出してもらったアクションペーパーにより判断する。詳しくは初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【再試験】 行わない

【教科書】

◇ 森岡清志編 (2008) 『地域の社会学』有斐閣
◇ 町村敏志・西澤彦彦 (2000) 『都市の社会学』有斐閣

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219162>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】 本年度開講 (次年度開講せず・隔年開講)

学校制度論

2 単位 2 年 (後期)
岩永定・非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】 教育現象を, 教授-学習関係というミクロな視点からだけではなく, 社会的 (政策, 行政, 法・制度等) な文脈に位置づけて把握するというマクロな視点の獲得を目指します。

【授業概要】 国民の「教育を受ける権利」の保障を使命とする教職員には, 教育関係法令の理解と遵守が求められています。この講義では, ①公教育が基盤としている法と行政に関する基本的知識, ②法理念の実現のためにとられている教育制度の概要と学校経営の構造, ③現代の教育改革の動向と具体的内容について触れる。

【履修上の注意】 教育 (小) 六法を持参することが望ましい。

【到達目標】

1. 教育法と行政の基本について理解し, 説明できる。主要な法令については, その条文内容を理解している。
2. 教育制度の基本的構造について, その法的根拠とともに説明できる。
3. 今日教育改革の動向について, その背景と意義, 問題点について説明できる。また, 改革の方針・内容についてもその概要を理解している。

【授業計画】 1. 法の存在形式 (法源) 2. 憲法・教育基本法の理念 3. 条約等に見る現代公教育の理念 4. 学校制度と就学義務 5. 学校運営の具体的な仕組み 6. 学校・学級経営の役割 7. 学校における生徒指導 (懲戒, 体罰, 校則) 8. 学校における保健・衛生・安全 9. 教育課程と教科書 10. 教職員に関する制度 11. 学校を支える教育行政①: 中央教育行政 12. 学校を支える教育行政②: 地方教育行政 13. 地方分権と学校の自律性 14. 学校と家庭・地域の連携 15. 学校評価とアカウントビリティ

【成績評価】 期末試験の総合点で評価します。

【再試験】 3 分の 2 以上の出席を条件に実施します。

【教科書】

- ◇ 教育六法 (平成 20 年版, 三省堂)
- ◇ ※平成 19 年度に学校教育法の大幅改定があったため, それ以前の六法は使用不可。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218483>

【連絡先】

⇒ Tel:687-6255, ただし留守の場合が多いので, メールによる質問を勧めます。

⇒ iwana@naruto-u.ac.jp, 自宅でも可能なので時間帯は問いません。

家族社会学研究

2 単位 2 年 (後期)
樫田 美雄・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 家族をめぐる近年の状況を批判的に読み解く力を養うこと。

【授業概要】 家族社会学の講義である。現代の家族に関する興味深いトピックをとりあげて, 社会学的に解説する。講義を通して, 個々の受講生が自分の家族観を相対化していく作業を行うことを期待している。

【キーワード】 家族, 子ども, アジア, 社会学

【履修上の注意】 毎回出席をとりま。3 分の 1 以上の欠席は「不可」になるので注意してください。

【到達目標】 家族についての社会学の基礎的な知識を習得する。

【授業計画】 1. オリエンテーション I 近代家族の誕生と変容 <子ども>の誕生 2. I 近代家族の誕生と変容 <母親>の誕生 3. I 近代家族の誕生と変容 <子ども>の終焉? 4. I 近代家族の誕生と変容 <家族の私事化・個人化, 主観化 5. II 家族と「問題」 <病巣としての家族 (アダルトチルドレン, 共依存) 6. II 家族と「問題」 <家族ストレス論 7. 家族と「問題」 <日本で婚外子はなぜ少ないか? 8. III 家族と「問題」 <生殖補助技術と家族 9. 家族と「問題」 <家庭科教科書問題 10. 家族と「問題」 <家族の養育機能は低下しているのか? 11. IV 労働としての家族相互作用 <家事労働と感情労働 12. V 演技としての家族相互作用 <表層演技と深層演技 13. VI アジアの家族主義 <福祉機能としての家族 (日本の公的介護保険の誕生と変容 14. VI アジアの家族主義 <福祉機能としての家族 (国際結婚と海外出稼ぎ) 15. まとめ

【成績評価】 リアクションペーパー (出席点を含む) と学期末のレポート。

【再試験】 おこなわない

【教科書】 教科書指定なし。参考書として『21 世紀アジア家族』(落合恵美子・上野加代子編, 明石書店), 詳しい文献情報は毎回のレジュメに記載。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219214>

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 はとときどき, 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14:00 から 15:00)

【備考】 平成 20 年度は開かず, 平成 19 年度, 21 年度, 23 年度に開講予定 (隔年開講)。

環境社会学研究

2 単位 2 年 (前期)
樋口 直人・准教授 / 社会創生学科

【**授業目的**】本年度は、新カリキュラムとの移行期に当たるため、グローバル社会論と環境社会学研究の双方の性格を持たせた講義をする。個々の環境問題は局地的な現象としてあらわれるが、我々ほもはや個別の地域で完結した環境問題を語ることはできない。地球環境問題がいわれようようになってから 20 年が経過した現在、それぞれの地域をみるためにはグローバルな影響を常に考える必要がある。本講義ではこうした立場から、グローバル化と社会について解説していく。

【**授業概要**】グローバル化する社会が抱える問題について、社会学の概念を用いてアプローチする。その際、特に身近な生活のグローバル化、環境問題のグローバル化、移民問題の 3 点を柱としてそれぞれ具体的な素材を用いて説明する。特に徳島のような地域では、グローバル化についてもイメージがわきにくいので、映像資料の解説をできる限り取り入れて理解を助けるようにしたい。

【**履修上の注意**】社会変動研究は関連の強い科目なので、可能な限り受講されたい。

【**到達目標**】グローバル化する社会について、単に現象を現象として理解するのではなく、社会学的に把握する視点を学んでほしい。

【**授業計画**】1. 1. イントロダクション 2. 2. 大量生産の時代としての現代 3. 3. 大量生産を考える:モダンタイムズと人間疎外 4. 4. 環境と人口の 20 世紀:「生産と消費」の限界としての環境問題 5. 5. 私たちは誰とつながっているのか:市場経済, 環境, フェアトレード 6. 6. 食卓の裏側:「ダーウィンの悪夢」とグローバル化する食卓 7. 7. アメリカ化する世界:グローバルな農業の工業化 8. 8. グローバルとローカル:『モンド・ヴィーノ』と食をめぐる 2 つの道 9. 9. 新国際分業と世界都市の形成 10. 10. 南北国境の 3000 キロ:メキシコとアメリカの移民問題 11. 11. メキシコ化するアメリカ:『ブレッド&ローズ』と移住労働者 12. 12. グローバル化する移民:(1) 南米の日系人と経済危機 13. 13. グローバル化する移民:(2) 日本の南米人と経済危機 14. 14. グローバル化する移民:(3) 家事・介護労働と移民

【**成績評価**】成績評価はレポートと出席点による。6 月に提出してもらったレポートの原案にコメントをつけて返却する。受講者は、それをもとにレポートを完成させて 8 月に提出する。毎回提出してもらった小テストが 40 点、レポートの計画書が 10 点、レポートが 50 点という配分になる。評価基準やレポートのテーマ設定、書式など詳しくは初回に説明するので、必ず出席すること。

【**再試験**】行わない

【**教科書**】

- ◇ 教科書は用いないが、関連する文献リストを初回に配布する。また、教科書の代わりに毎回レジュメを配布する。レポート作成にあたっては、参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる。
- ◇ 参考書 コーエン&ケネディ『グローバル・ソシオロジー』1・2 巻 平凡社, 2003 年
- ◇ 参考書 見田宗介『現代社会の理論』岩波書店, 1996 年
- ◇ 参考書 梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会, 2005 年

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219359>

【**連絡先**】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 水曜日12~13時)

日本経済史 I

Economic History of JAPAN

2 単位 3 年 (前期)

中嶋 信・教授/社会創生学科

【**授業目的**】日本経済の実像に正しく迫るには、その構造が形成された経過に即して捉える方法が有効である。また将来のあるべき姿を描く上でも、獲得された地点と埋められるべき課題を歴史的に解明する方法が通常採用されている。このように日本経済を歴史的に分析する作業は、優れて現代的関心に基づいている。歴史的転換点に位置する日本経済の針路を探る素材を提供する。

【**授業概要**】戦後日本経済の推移を画期ごとに考察し、その構造と特質を明らかにする。

【**キーワード**】日本経済, 歴史, 経済成長

【**関連科目**】『日本経済史 II』(0.5, ⇒209 頁)

【**履修上の注意**】専用ファイルを準備し、レジュメ・ノート・関連資料などをまとめて私的なテキストを作成すること。

【**到達目標**】

1. 第 2 次世界大戦期以降の日本経済の発展段階とその背景を理解する。
2. 今日の世界の構造的特質を理解し、改革課題を理解する。

【**授業計画**】1. 戦後日本資本主義の諸段階 2. 占領体制と「戦後民主化」 3. 冷戦構造と日本の選択 4. 講和と日本経済の再編成 5. 「55 年体制」と経済成長 6. 高度経済成長のシステム 7. 産業と階級構成の変動 8. 国民生活様式の変貌 9. 成長方式の破綻と構造不況 10. 構造不況と財政危機 11. 世界資本主義の動揺と調整 12. 国際協定と構造転換政策 13. 日本経済のグローバル化 14. 戦後日本経済の構造と段階 15. 期末試験 16. 総括:日本資本主義の戦前と戦後

【**成績評価**】前期は日本経済史 I, 後期は日本経済史 II で、分割履修ができる。それぞれ、中間レポートと期末筆記試験で単位を認定する。出席状況による成績の補正があり得る。

【**再試験**】行わない

【**教科書**】教科書は用いず、レジュメに即して進行する。参考書等を適宜紹介する。

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218908>

【**連絡先**】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 月曜日 13時~16時 木曜日 10時~12時)

日本経済史 II

Economic History of JAPAN

2 単位 3 年 (後期)

中嶋 信・教授/社会創生学科

【**授業目的**】日本経済の実像に正しく迫るには、その構造が形成された経過に即して捉える方法が有効である。また将来のあるべき姿を描く上でも、獲得された地点と埋められるべき課題を歴史的に解明する方法が通常採用されている。このように日本経済を歴史的に分析する作業は、優れて現代的関心に基づいている。歴史的転換点に位置する日本経済の針路を探る素材を提供する。

【**授業概要**】明治維新からアジア太平洋戦争敗北までの経過をたどりつつ、戦前期日本経済の構造と特質および現代的課題を明らかにする。

【**キーワード**】国民経済, 経済成長, 日本の経済システム

【**先行科目**】『日本経済史 I』(1.0, ⇒209 頁)

【**履修上の注意**】専用ファイルを準備し、レジュメ・ノート・関連資料などをまとめて私的なテキストを作成すること。

【**到達目標**】

1. 日本経済の歴史的展開過程とその意味を理解する。
2. 20 世紀前半における世界資本主義の構造と日本の位置を理解する。

【**授業計画**】1. 日本経済史の課題と方法 2. 日本経済の戦前と戦後 3. 明治維新の歴史的位置 4. (資本主義の成立と近代天皇制 5. 産業革命と日清・日露戦争 6. 東アジア分割と大日本帝国 7. 大戦ブームと産業の高度化 8. 戦間期の社会構造再編 9. 国民経済の構造矛盾と金融再編 10. 昭和恐慌と経済構造の転換 11. 戦時国家独占資本主義 12. 世界分割戦争と日本の戦略 13. 世界資本主義体制と日本の位置 14. 戦時経済体制の崩壊の意味 15. 期末試験 16. 総括:日本経済の発展構造と特質

【**成績評価**】前期は日本経済史 I, 後期は日本経済史 II で、分割履修ができる。それぞれ、中間レポートと期末筆記試験で単位を認定する。出席状況による成績の補正があり得る。

【**再試験**】行わない

【**教科書**】教科書は用いず、レジュメに即して進行する。参考書等を適宜紹介する。

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218909>

【**連絡先**】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 月曜日13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

経営組織論

2 単位 2 年 (前期, 集中)

高橋 意智郎, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【**授業目的**】大学生であること、アルバイト、サークル、部活動、ボランティア活動など企業でなくとも私たちは、日常生活の中で何かしらの組織に所属しています。この授業では、組織の中の人々がどのように意思疎通を行い、組織として活動しながら目標を達成しているのか、また、組織にはどのような機能があるのかを学びます。組織の中の人、および集団レベルに焦点を当てた講義で、モチベーションやリーダーシップ、組織文化、心理的契約、集団内慮なども私たちの身の回りで起きている内容を扱います。主に組織構造や組織デザインの話や市場環境、戦略と関連させながら説明をします。

【**授業概要**】組織理論の説明と応用

【**キーワード**】組織 (構造), モチベーション, 戦略

【**関連科目**】『経営戦略論』(0.5, ⇒219 頁)

【**到達目標**】組織論の理論を用いて自分の身の回りで起きている事柄を理解・解釈できるようになること。

【**授業計画**】1. イントロダクション, 経営組織論が扱う内容 2. 経営学の基礎:大まかな流れ 3. 経営学の基礎:様々な人間観 (経済人から複雑人モデル) 4. 組織の中の個人 (1):パーソナリティ 5. 組織の中の個人 (2):意思決定 6. 意志決定 2 とモチベーション理論の基礎:内容理論 7. モチベーション理論の基礎:過程理論 8. リーダーシップ論の基礎 (1):特性論から開発論へ 9. リーダーシップ論の基礎 (2) と組織と環境 10. 3 つの組織構造 11. ゲストスピーカー 12. 組織と戦略 (1):環境分析 13. 組織と戦略 (2):2 つの戦略論 14. キャリア論と様々な働き方 15. 期末試験 16. 総括授業

【**成績評価**】1) 期末試験 50%, 中間試験 (もしくはレポート)30%, 授業中にランダムに取る出席 (20%) を考えていますが、変更する可能性があります。その場合はアナウンスします。

【**再試験**】行わない

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219418>

【**連絡先**】

⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

空間情報科学 I

2 単位 2 年 (後期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】 GIS(地理情報システム)とは、デジタル化された地図画像にデータベース機能を結びつけた新しいテクノロジーで、地図や空間情報を扱うあらゆる学問分野で様々な展開を示している。また、行政機関や企業など実務面でも急速に普及し、いまや GIS 産業として巨大な市場を形成しつつある。それにともなう、専門的な知識や技術を身につけた人材の育成に対する社会的な要請が高まっている。本講義では、GIS の基本的機能とどのような応用可能性があるのかを学び、実習もまじえながら基本操作を修得してもらう。

【授業概要】 GIS の基礎理論

【キーワード】 空間情報, GIS, 地域分析, 地域調査

【先行科目】 『社会統計基礎論』(0.9, ⇒207 頁)

【履修上の注意】 Excel 等の表計算ソフトの基本操作を習得していることを前提とする。前期の社会統計基礎論を履修済であることが望ましい。使用できる端末の台数などにより、受講者数の制限を行うことがある。

【到達目標】 空間情報科学とそれを支える GIS についての概念や構造を理解して、基本的な操作技術を習得する。

【授業計画】 1. 空間情報科学とは?GIS とは? 2. GIS の機能と利用事例 3. GIS のデータ構造 4. 主題図作成と HumanGIS? 5. GIS に触ってみよう! 6. GIS で主題図作成 7. 属性テーブルの操作 8. 空間検索と属性検索 9. レイアウトの編集 10. 基本的ジオプロセシング 11. ジオプロセシングを用いた地域分析 12. ラスタデータを用いた空間解析 13. ネットワーク解析 14. 3D 地形分析 15. 3D バーチャル景観の作成 16. テスト

【成績評価】 出席および授業への取組 (40%), 数回のレポートおよびテスト (60%), 単位の取得には、課題レポートの提出が必須であるので、注意すること。

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 教科書:高橋重雄他『事例で学ぶ GIS と地域分析-ArcGIS を用いて』
- ◇ 参考書:矢野桂司『地理情報システムの世界』ニュートンプレス、1999 年
- ◇ 参考書:野上道男他『地理情報学入門』東京大学出版会、2001 年
- ◇ その他、授業中に紹介する。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219405>

【連絡先】

⇒ 田中 . (オフィスアワー: 木曜日 12時から13時。ただし、出張等で不在になることがあるため、できる限りメールでの事前連絡を勧める。)

【備考】 この授業は、GIS 学術士資格の認定科目【B】である。

空間情報科学 II

2 単位 3 年 (前期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】 生活環境評価やエリアマーケティング、ハザードマップの作成など幅広い分野で GIS が活用されている。それに伴って、GIS を援用した空間解析の知識や技術の習得者の需要は、社会的にも高まっている。実務的に GIS を利用する場合、解析ツールや手法などの理論的枠組のみならず、データの収集・変換などの作業が必要不可欠となる。本講義では、空間データや統計資料の入手から、それらを用いた分析、そしてその分析結果のプレゼンテーションまで、一通りの作業を実習する。その過程で、空間情報科学 I で習得した基本技術をもとに、より高度な空間分析手法を学ぶ。

【授業概要】 GIS を援用した空間解析の実習

【先行科目】 『空間情報科学 I』(1.0), 『社会統計基礎論』(0.7)

【履修上の注意】 実際に GIS を操作しながら授業を進行する。空間情報科学 I の単位を取得済みであること。使用できる端末の台数などにより、受講者数の制限を行うことがある。

【到達目標】 空間分析の計画から、データの収集、GIS を援用した空間解析、結果の発表までを自ら実行できること。

【授業計画】 1. 測地系と座標系 2. GIS データファイルの構造 3. 空間データと統計資料の入手法 4. 空間データの形式と変換 5. メッシュデータの活用法 6. 国土数値情報を活用した地価分析 1:xy データの利用 7. 国土数値情報を活用した地価分析 2:ラスタ解析 8. 案内図の作成 9. 地形と農業土地利用の関連分析 1:DEM データの活用 10. 地形と農業土地利用の関連分析 2:オーバーレイ解析 11. プレゼンテーション 12. 商圏分析 1:ネットワーク構築 13. 商圏分析 2:ネットワーク解析 14. アドレスマッチングの活用法 15. 授業総括 16. テスト

【成績評価】 出席および授業への取組 (40%), 実習課題およびレポート (60%), 原則として、単位取得には実習課題およびレポートの全提出が必須である。

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 教科書:高橋重雄他『事例で学ぶ GIS と地域分析-ArcGIS を用いて』
- ◇ その他、参考書は授業中に紹介する。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219406>

【連絡先】

⇒ 田中 . (オフィスアワー: 木曜日 12時から13時。ただし、出張等で不在になることがあるため、できる限りメールでの事前連絡をすること。メール連絡があれば、上記時間以外でも随時対応可能。)

【備考】 この授業は、GIS 学術士資格の認定科目【C】である。

ボランティア組織論**Voluntary Association Studies**

2 単位 2 年 (前期)

萩原 なつ子・非常勤講師

梶田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 民主主義という制度のもとで、市民は二通りの手法で自分の意見および「声」を出すことができる。一つは主に選挙で行う代表制民主主義である。もうひとつは NPO など集団的レベルで社会運動の形をとる直接民主主義である。この講義では、最近の反貧困運動を含む、日本の社会運動の歴史と影響を理解するため、多様な理論等を紹介し、国際比較を行う。

【授業概要】 日本における社会運動と社会変動:理論と国際比較

【キーワード】 社会運動, 社会変動, 貧困, 不平等, グローバルな危機

【先行科目】 『ボランティア組織論 II』(1.0)

【関連科目】 『環境社会学研究』(0.5, ⇒208 頁)

【履修上の注意】 この講義では、政治社会学の立場から社会運動を理解するために、社会運動のルーツと社会的影響を客観的に分析・説明する。「道徳的」に社会運動を評価したり、党派的なアプローチするものではない。

【到達目標】 社会運動に関する理解を高め、客観的な視点で理解すること。我々が民主主義の市民の一人として、社会変動に影響を与える存在であることを理解する。

【授業計画】 1. 1 イントロダクション 2. (1)ヨーロッパの社会運動論 3. (2)アメリカの社会運動論 4. 2-国境を超える社会運動:グローバル市民社会 5. (1)海外の社会運動:フランスにおける失業者、ホームレスなど排除された者の社会運動 6. (2)トランスナショナルな社会運動:ヨーロッパの失業者運動、ヨーロッパ社会フォーラム(ビデオ付) 7. (3)国際レベルの運動:日本の NPO の事例 8. (4)フランスと日本(二重国)の運動 9. 3-戦後日本の社会運動を考える(終戦から 2010 年まで) 10. (1)住民運動の減少 11. (2)反貧困運動の成長 12. (3)グループ・ワーク:テーマを選んで、そのテーマを社会問題化して、運動戦略、目的を考える 13. (4)グループ・ワーク 14. (5)グループ・ワーク 15. (6)発表 16. (7)グループ・ディスカッション

【成績評価】 出席、グループ・ワーク発表、最終小レポート。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は特になし。毎回の授業でレジュメを配布し、関連する文献を示す。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219076>

【連絡先】

⇒ 萩原 .

⇒ 梶田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1号館南棟 1階 1S19 はときどき。088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日:14:00 から 15:00)

地域政策論 I**Regional Management and Regional Policy**

2 単位 2 年 (後期)

北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】 地域の開発、特に地域経済、地域環境や地域システムに新しい方向性を出すに必要な知識や考え方を提供するものである。地域条件や地域環境に適った経済や地域開発、さらに地域の環境管理や環境保全等対策の重要性や意義を理解させる。

【授業概要】 国際化のなかで、地域経済や地域システムを把握し考察して行くことの意味と重要性を明らかにする。それを理解した上で、地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発、環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察させる。

【キーワード】 地域経済, 地域環境, 地域システム, 地域開発, 地域づくり

【履修上の注意】 新規科目ですが、平成 17~19 年度入学の学生も履修でき、合格した場合には単位として認定されます。

【到達目標】 ①国際化時代の地域経済と地域システムへの理解、②新たな時代における地域や環境の再生、産業づくりや地域づくりについて理解し考察できる能力を培う。

【授業計画】1. ガイダンス・授業の趣旨と進め方 2. 国際化の進展に伴う再編成 3. 地域経済の再編成 4. 地域システムの再編成 5. 環境問題の変容と新たな状況 6. 環境問題と循環社会をめぐる課題 7. 環境と地域経済をめぐる状況 8. 新たな社会とそれへの対応 9. 環境問題への新たな対応 10. 地方自治体と企業の環境問題への取り組み 11. 地域開発をめぐる問題 12. 地域の再生とまちづくり 13. 環境の再生と地域づくり 14. 新たな産業や地域づくりに向けて 15. まとめ 16. 試験

【成績評価】講義時間内の小テスト (配点は 60%) と試験やレポート (配点は 40 %) により評価する。

【再試験】なし

【教科書】教科書は 北村修二『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版、必ず入手すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219157>

【連絡先】

⇒ 北村

【備考】◇平成 22 年度開講。隔年開講のため、平成 23 年度は開講されない。平成 23 年度には、「地域政策論 II」を開講の予定。◇国際社会での地域的諸問題や環境問題に関心があり、それらの課題を勉強する意志がありそれを実行できる人は参加できる。オフィスアワー 随時、研究室

地域政策論 II

2 単位 2 年 (後期)

Regional Management and Regional policy

北村 修二・教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域の開発に新しい方向性を出すのに必要な知識や考え方を提供するとともに、地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発、さらに地域の環境管理や環境保全等対策を考察・解明させようとするものである。

【授業概要】国際化の中での地域経済や地域システムを把握するとともに、地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発、環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察・解明させる。

【キーワード】地域経済、地域環境、地域システム、新たな地域開発・地域づくり

【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムについての理解、②新たな時代における地域や環境の再生、産業づくりや地域づくりについて考察・解明できる能力を培う。

【授業計画】1. ガイダンス・授業の趣旨と進め方 2. 国際化の進展に伴う地域経済の再編成 3. 地域構造・地域システムの再編成 4. 地域環境問題の変容と新たな状況 5. 地域環境問題と循環社会をめぐる課題 6. 新たな社会と地域システム 7. 新たな社会と環境問題 8. 新たな社会と地域循環型システム 9. 地方自治体と地域環境問題 10. わが国における新たな地域開発・地域づくり (1) 11. わが国における新たな地域開発・地域づくり (2) 12. 四国における新たなまちづくり・地域づくり 13. 徳島県における新たなまちづくり・地域づくり 14. 新たな産業や地域づくりに向けて 15. まとめ 16. 総括

【成績評価】講義時間内の小テスト (配点は 60%) と試験やレポート (配点は 40%) により評価する

【再試験】なし

【教科書】教科書は最初の授業で紹介するので入手すること。

【参考書】適時紹介する

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219158>

【連絡先】

⇒ 北村

【備考】隔年開講のため、平成 22 年度 (地域政策論 I を開講) は開講されない。国際社会での地域問題や環境問題に対処すべき地域政策や環境政策に関心があり、それらの課題を勉強する意志があり、それを実行できる人は参加できる。オフィスアワー随時、研究室

人間社会学科 地域システムコース 地域情報サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

地域情報ゼミナール AI (その1) ...北村/3年(前期).....	212
地域情報ゼミナール AI (その2) ...北村/4年(前期).....	212
地域情報ゼミナール BI (その1) ...平井/3年(前期).....	212
地域情報ゼミナール BI (その2) ...平井/4年(前期).....	213
地域情報ゼミナール CI (その1) ...豊田/3年(前期).....	213
地域情報ゼミナール CI (その2) ...豊田/4年(前期).....	213
地域情報ゼミナール DI (その1) ...田中/3年(前期).....	214
地域情報ゼミナール DI (その2) ...田中/4年(前期).....	214
地域情報ゼミナール AII (その1) ...北村/3年(後期).....	214
地域情報ゼミナール AII (その2) ...北村/4年(後期).....	214
地域情報ゼミナール BII (その1) ...平井/3年(後期).....	215
地域情報ゼミナール BII (その2) ...平井/4年(後期).....	215
地域情報ゼミナール CII (その1) ...豊田/3年(後期).....	215
地域情報ゼミナール CII (その2) ...豊田/4年(後期).....	216
地域情報ゼミナール DII (その1) ...田中/3年(後期).....	216
地域情報ゼミナール DII (その2) ...田中/4年(後期).....	216
民俗学研究 I ...高橋/2年(後期).....	220
地域構造論研究 I ...豊田/2年(後期).....	217
地域構造論研究 II ...田中/2年(後期).....	217
地域変容論研究 I ...平井/2年(後期).....	217
地域変容論研究 II ...高橋/2年(後期).....	217
地域経済論 ...中嶋/2年(前期).....	218
社会福祉研究 ...樫田/3年(後期).....	218
社会情報分析法 ...矢部/2年(後期).....	218
社会変動研究 ...樋口/2年(前期).....	219
経営戦略論 ...高橋・石田/3年(後期, 集中).....	219
ジェンダー研究 ...北村・平木/2年(後期).....	219
民俗学研究 I ...高橋/2年(後期).....	220
自然地理学研究 -吉野川流域の地形環境と自然災害- ...古田・平井/2年(前期).....	220
地誌学 ...平井/2年(前期).....	220
国際関係論 I ...齋藤/3年(前期).....	220
異文化間コミュニケーション(その1) ...坂田/2年(前期, 集中).....	221
異文化間コミュニケーション(その2) ...坂田/2年(後期, 集中).....	221
ドイツの社会と文化(その1) ...ヘルベルト/2年(前期).....	221
ドイツの社会と文化(その2) ...ヘルベルト/2年(後期).....	222
比較文化研究(その1) ...依岡/2年(前期).....	222
比較文化研究(その2) ...依岡/2年(後期).....	222
社会心理学 ...佐藤/2年(後期).....	222
空間デザイン論 ...掛井/3年(後期).....	223

地域情報ゼミナール AI (その1) 2 単位 3 年(前期) 北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業は、企業・産業・地域づくりを中心とした地域研究を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者には、企業・産業・地域づくりに関する概念や知識を修得してもらうとともに、実際に自らが研究テーマを設定し、調査研究(フィールドワーク)を進め、レポートを書くという経験を通して、卒業・産業・地域やまちづくりに関する研究の視点と実践的能力を培うことを課題としている。

【授業概要】 地域政策研究ゼミナール

【キーワード】 人・企業・産業づくり、地域・まちづくり、フィールドワーク、地域政策

【関連科目】 『地域情報ゼミナール AI (その2)』(0.5, ⇒212 頁), 『地域情報ゼミナール AII (その1)』(0.5, ⇒214 頁), 『地域情報ゼミナール AII (その2)』(0.5, ⇒214 頁)

【履修上の注意】 地域情報ゼミナール AII と併せて通年で履修すること。

【到達目標】 人・企業・産業・地域づくりに関する研究領域から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、レポートにまとめることができる。

【授業計画】 1. 3 年次では、受講者各自の関心に応じて研究テーマを設定し、実際の調査(フィールドワーク)を行い、レポートを作成するという作業を通して、地域調査に関する実践的な能力を培う。前期のゼミナールにおいては、受講者が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため、研究論文を選び、内容をまとめ発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し、調査や分析の方法を検討し、実際の調査に向けた準備を行う。2. 授業ではあわせて、企業・産業、地域やまちづくりの調査方法(フィールドワーク)、研究の視点や方法に関する文献の輪読を進め、調査・研究を主体的に進める上での能力を涵養する。

【成績評価】 授業への取り組み状況と討議への参加状況、報告内容をもとに評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218798>

【連絡先】

⇒ 北村 . (オフィスアワー: (前期・後期)月曜日12時~13時)

地域情報ゼミナール AI (その2) 2 単位 4 年(前期) 北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業は、企業、産業および地域づくりをテーマとした卒業研究(卒業論文作成)を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者は、卒業研究の作成を目指して、企業づくり、産業づくり、地域づくりに関する領域から、各自が研究テーマを設定し、授業中の発表・討議を踏まえて、企業、産業、地域づくりに関する研究を深めて行く。

【授業概要】 地域政策研究ゼミナール

【キーワード】 地域政策、企業・産業づくり、フィールドワーク、地域づくり

【関連科目】 『地域情報ゼミナール AI (その1)』(0.5, ⇒212 頁), 『地域情報ゼミナール AII (その1)』(0.5, ⇒214 頁), 『地域情報ゼミナール AII (その2)』(0.5, ⇒214 頁)

【履修上の注意】 地域情報サブコース 4 年生で、北村を指導教員として卒業研究を進める人は、地域情報ゼミナール AI(その2)・地域情報ゼミナール AII(その2)を通年で履修すること。

【到達目標】 企業・産業・地域づくりの研究領域から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。

【授業計画】 1. 4 年次前期には、卒業研究のテーマを確定し、調査・分析を進めていくことが求められる。これまでの研究を読み、その方法論を学び応用していくことが重要である。と同時に、調査によりデータを収集し、研究目的にふさわしい分析や考察を加えていくことも重要である。授業では、それらの作業を進めるとともに発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議し深めていく。2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討議をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。

【成績評価】 授業への取り組み状況と討議への参加状況、報告内容により評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】 適時紹介する

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218799>

【連絡先】

⇒ 北村 . (オフィスアワー: (前期・後期)月曜日12時~13時)

地域情報ゼミナール BI (その1) 2 単位 3 年(前期) 平井 松平・教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業は、地域に展開する歴史地理的現象や農山村における空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「歴史地理学」や「農村地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、GIS(地理情報システム)を援用した独自の調査・分析をおこない、論理的な考察を深めることを目的とする。

【授業概要】 歴史地理学ゼミナール

【キーワード】 地理学, 歴史地理学, 歴史的景観, 村落, 古地図

【先行科目】 『地誌学』(0.5, ⇒220頁)

【関連科目】 『地域情報ゼミナール AI (その1)』(0.5, ⇒212頁), 『地域情報ゼミナール CI (その1)』(0.5, ⇒213頁), 『地域情報ゼミナール DI (その2)』(0.5, ⇒214頁)

【履修上の注意】 地域情報ゼミナール BII(その1)と併せて通年で履修すること。4年次向けに開講される地域情報ゼミナール BI (その2)とは、単位の重ね読みができる。

【到達目標】 歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び、適切な方法による調査や分析をおこない、報告書にまとめることができる。

【授業計画】 1. 歴史地理学や農村地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。3年次では、受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづいた個人調査をおこない、地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる。そのための最初のステップとして、自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため、いくつかの研究論文を選び、内容をまとめて発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し、調査や分析の方法を検討しながら、夏季個人調査に向けた準備をおこなう。2. 個人研究では、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A, 地域情報ゼミナール C, 地域情報ゼミナール D とも有機的な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】 授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の水準をもとに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 参考書 有蘭正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院, ¥2, 800
- ◇ 参考書 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社, ¥2, 500

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218802>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30-17:30)

地域情報ゼミナール BI (その2)

2 単位 4 年 (前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業は、地域に展開する歴史地理的現象や農山村の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「歴史地理学」や「農村地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、GIS(地理情報システム)を援用した独自の調査・分析をおこない、論理的な考察を深めることを目的とする。

【授業概要】 歴史地理学ゼミナール

【キーワード】 歴史地理学, 歴史的景観, 村落, 古地図

【先行科目】 『地誌学』(0.5, ⇒220頁)

【関連科目】 『地域情報ゼミナール AI (その2)』(0.5, ⇒212頁), 『地域情報ゼミナール CI (その2)』(0.5, ⇒213頁), 『地域情報ゼミナール DI (その2)』(0.5, ⇒214頁)

【履修上の注意】 地域情報ゼミナール BII と併せて通年で履修すること。3年次向けに開講される地域情報ゼミナール BI (その1)とは、単位の重ね読みができる。

【到達目標】 歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。

【授業計画】 1. 歴史地理学や農村地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。4年次前期には、卒業研究のテーマを確定し、調査・分析を着実に進めていくことが求められる。第一に、これまでの先行研究を広くかつ綿密に読みこなし、その方法を学びとりながら応用や展開の可能性を探ることが重要である。第二に、独自の調査によって実証的なデータを収集し、研究目的にふさわしい分析を加えていかななくてはならない。授業では、それぞれの作業の進展に応じて3回程度の中間発表をおこない、その内容を教員お

よび受講生全員で討議する。2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A, 地域情報ゼミナール C, 地域情報ゼミナール D と密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】 授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 参考書 有蘭正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院, ¥2, 800
- ◇ 参考書 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社, ¥2, 500

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218803>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30-17:30)

地域情報ゼミナール CI (その1)

2 単位 3 年 (前期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業は、地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない、論理的考察を深めることを目的とする。

【授業概要】 人文地理学ゼミナール

【キーワード】 地理学, 空間構造, 地域問題, 地理情報システム

【先行科目】 『人文地理学研究 I』(1.0, ⇒208頁), 『地域構造論研究 I』(1.0, ⇒217頁)

【関連科目】 『地域構造論研究 I』(0.5, ⇒217頁), 『人文地理学研究 I』(0.5, ⇒208頁), 『社会統計基礎論』(0.5, ⇒207頁)

【履修上の注意】 本ゼミナールの受講にあたっては地域情報ゼミナール CII と併せて通年で履修すること。4年次向けに開講される地域情報ゼミナール CI (その2)とは、単位の重ね読みができる。

【到達目標】 自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない、レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる。

【授業計画】 1. 人文地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。3年次では、受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづいた個人調査をおこない、地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる。そのための最初のステップとして、自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため、いくつかの研究論文を選び、内容をまとめて発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し、調査や分析の方法を検討しながら、夏季個人調査に向けた準備をおこなう。2. 個人研究にせよ卒業研究にせよ、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、両学年とも、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A, 地域情報ゼミナール B, 地域情報ゼミナール D とも密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】 授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の水準をもとに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

【再試験】 行わない

【教科書】 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社, ¥2,500

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218806>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~17:30)

地域情報ゼミナール CI (その2)

2 単位 4 年 (前期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業は、地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない、論理的考察を深めることを目的とする。

【授業概要】 人文地理学ゼミナール

【キーワード】 地理学, 空間構造, 地域問題, 地理情報システム

【先行科目】『地域情報ゼミナール CI (その 1)』(1.0, ⇒213 頁), 『地域情報ゼミナール CI (その 2)』(1.0, ⇒213 頁)

【関連科目】『地域構造論研究 I』(0.5, ⇒217 頁), 『人文地理学研究 I』(0.5, ⇒208 頁)

【履修上の注意】本ゼミナールの受講にあたって地域情報ゼミナール CI と併せて通年で履修すること。3 年次向けに開講される地域情報ゼミナール CI (その 1) とは、単位の重ね読みができる。

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない、レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる。

【授業計画】1. 人文地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。4 年次前期には、卒業研究のテーマを確定し、調査・分析を着実に進めていくことが求められる。第一に、これまでの先行研究を広範かつ綿密に読みこなし、その方法論を学びとりながら応用や展開の可能性を探ることが重要である。第二に、独自の調査によって実証的なデータを収集し、研究目的にふさわしい分析を加えていかなくてはならない。授業では、それぞれの作業の進展に応じて 3 回程度の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A、地域情報ゼミナール B、地域情報ゼミナール D と密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

【再試験】行わない

【教科書】浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218807>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~17:30)

【授業目的】この授業は、地域に展開する経済・社会現象やその変容過程について、空間的視点から研究しようとする学生を対象としている。教員と受講者とが十分に相談したうえで、「空間情報科学」に含まれるさまざまな研究領域の中から研究テーマを設定する。卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向かって、GIS(地理情報システム)を援用した独自の調査・分析を実施して、論理的考察を深めることを目的とする。

【授業概要】空間情報科学ゼミナール

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けての調査・分析・考察能力やレポート・論文執筆能力、プレゼンテーション能力の修得を目標としている。

【授業計画】1. 卒業研究の進展に応じて年間 4~5 回の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。論文作成に必要な分析方法や具体的な執筆要領などについては、適切な時期にその都度指示する。2. 受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. 研究テーマや発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A・B・C とも有機的な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】毎回の授業の準備状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。当然ながら、単位取得には、規定回数の報告・発表をすることが前提である。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ 参考書
- ◇ 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【WEB 頁】<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218811>

【連絡先】

⇒ 田中 (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~17:30)

【備考】この授業は、GIS 学術士資格の認定科目【D】である。

地域情報ゼミナール DI (その 1)

2 単位 3 年 (前期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、地域に展開する経済・社会現象やその変容過程について、空間的視点から研究しようとする学生を対象としている。教員と受講者とが十分に相談したうえで、「空間情報科学」に含まれるさまざまな研究領域の中から研究テーマを設定する。卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向かって、GIS(地理情報システム)を援用した独自の調査・分析を実施して、論理的考察を深めることを目的とする。

【授業概要】空間情報科学ゼミナール

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けての調査・分析・考察能力やレポート・論文執筆能力、プレゼンテーション能力の修得を目標としている。

【授業計画】1. 空間情報科学でも地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。3 年次前期には、自分が興味や関心を抱いた研究分野の研究動向を概観するため、いくつかの研究論文を選び、内容をまとめて発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマを設定し、調査や分析の方法を検討しながら、夏季個人調査の準備をおこなう。後期においては、夏季休暇中に実施したフィールドワークの調査結果を報告し、そこで指摘された課題や調査経験をともに卒業論文作成のための準備を整える。2. 受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. 個人研究にせよ卒業研究にせよ、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。4. なお、両学年とも、研究テーマや発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A・B・C とも有機的な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】毎回の授業の準備状況と討議への参加意欲とともに、数回の機会がある報告・発表内容の完成度をもとに評価する。当然ながら、単位取得には、規定回数の報告・発表をすることが前提である。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ 参考書
- ◇ 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【WEB 頁】<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218810>

【連絡先】

⇒ 田中 (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~17:30)

地域情報ゼミナール AII (その 1)

2 単位 3 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、人・企業・産業、地域づくりやまちづくりを研究テーマとして、地域研究を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者には、人や企業、産業や地域づくりについての知識を修得してもらうとともに、実際に自らが研究テーマを設定し、調査研究(フィールドワーク)を進め、レポートを書くという経験を通して、企業や産業づくり、地域づくりやまちづくりへの研究の視点や実践能力を体得してもらう。

【授業概要】地域環境づくりゼミナール

【キーワード】人・企業・産業づくり、地域・まちづくり、フィールドワーク、地域政策

【関連科目】『地域情報ゼミナール AI (その 1)』(0.5, ⇒212 頁), 『地域情報ゼミナール AI (その 2)』(0.5, ⇒212 頁), 『地域情報ゼミナール AII (その 2)』(0.5, ⇒214 頁)

【履修上の注意】地域情報ゼミナール AI と併せて通年で履修すること。

【到達目標】人・企業・産業、地域やまちづくりの研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、レポートにまとめることができる。

【授業計画】1. 3 年次では、受講者各自の関心に依って研究テーマを設定し、実際の調査(フィールドワーク)を行い、レポートを作成するという作業を通して、地域調査に関する実践的な能力を培う。後期のゼミナールにおいては、フィールドワークの調査結果を報告し、その内容を多面的に討議・検討する。必要に応じ追加調査や分析をおこないながら、より完成度の高いレポートの作成を目指す。2. 授業ではあわせて、企業や地域の調査方法(フィールドワーク)、研究の視点・方法に関する文献の輪読を進め、調査・研究を主体的に進める上での能力を涵養する。

【成績評価】授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218800>

【連絡先】

⇒ 北村 (オフィスアワー: (前期・後期)月曜日12時~13時)

地域情報ゼミナール AII (その 2)

2 単位 4 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、人・企業・産業、地域やまちづくりを研究テーマとして、卒業研究や卒業論文作成を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者は、卒業研究の作成を目指して、人・企業・

産業・地域やまちづくりの領域の中から自由に各自が研究テーマを設定し、授業中の発表・討議を踏まえて、その研究内容を深めていく。

【授業概要】地域環境づくりゼミナール

【キーワード】人・企業・産業、地域・まちづくり、フィールドワーク、地域活性化政策

【関連科目】『地域情報ゼミナール AI (その 1)』(0.5, ⇒212 頁), 『地域情報ゼミナール AI (その 2)』(0.5, ⇒212 頁), 『地域情報ゼミナール AII (その 1)』(0.5, ⇒214 頁)

【履修上の注意】地域情報サブコース 4 年生で、北村を指導教員として卒業研究を進める人は、地域情報ゼミナール AI(その 2)・地域情報ゼミナール AII(その 2)を通年で履修すること。

【到達目標】人・企業・産業・地域やまちづくりの研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。

【授業計画】1. 4 年次後期には、卒業論文作成に向け、考察を深めながら調査結果をとりまとめていき、論文全体をどのように構成するか、分析結果をいかに論理的に解釈するか、成果をどう説得力のある形で表現するかが問われる。それらの作業を進めるとともに発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては、適切な時期にその都度指示する。2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討議を、切磋琢磨しあいながら内容を高めていくことが期待される。

【成績評価】授業への取り組み状況と討議への参加状況、報告内容の完成度をもとに評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/region/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218801>

【連絡先】

⇒ 北村 (オフィスアワー: (前期・後期)月曜日12時~13時)

地域情報ゼミナール BII (その 1)

2 単位 3 年 (後期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、地域に展開する歴史地理的現象や農山村の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「歴史地理学」や「農村地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、GIS(地理情報システム)を援用した独自の調査・分析をおこない、論理的な考察を深めることを目的とする。

【授業概要】歴史地理学ゼミナール

【キーワード】歴史地理学、歴史的景観、村落、古地図

【先行科目】『地誌学』(0.5, ⇒220 頁)

【関連科目】『地域情報ゼミナール AII (その 1)』(0.5, ⇒214 頁), 『地域情報ゼミナール CII (その 1)』(0.5, ⇒215 頁), 『地域情報ゼミナール DII (その 1)』(0.5, ⇒216 頁)

【履修上の注意】地域情報ゼミナール BI と併せて通年で履修すること。4 年次向けに開講される地域情報ゼミナール BII (その 2) とは、単位の重ね読みができる。

【到達目標】歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び、適切な方法による調査や分析をおこない、報告書にまとめることができる。

【授業計画】1. 地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。3 年次では、受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづき個人調査をおこない、地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる。後期のゼミナールにおいては、フィールドワークの調査結果を報告し、その内容を多面的に討議・検討する。必要に応じ追加的な調査や分析をおこないながら、より完成度の高い報告書の作成を目指す。2. 個人研究では、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討議をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A、地域情報ゼミナール C、地域情報ゼミナール D と密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

【再試験】無

【教科書】

- ◇ 参考書 有蘭正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院、¥2,800
- ◇ 参考書 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218804>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30-17:30)

地域情報ゼミナール BII (その 2)

2 単位 4 年 (後期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、地域に展開する歴史地理的現象や農山村の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「歴史地理学」や「農村地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、GIS(地理情報システム)を援用して独自の調査・分析をおこない、論理的な考察を深めることを目的とする。

【授業概要】歴史地理学ゼミナール

【キーワード】地理学、歴史地理学、歴史的景観、村落、古地図

【先行科目】『地誌学』(0.5, ⇒220 頁)

【関連科目】『地域情報ゼミナール AII (その 2)』(0.5, ⇒214 頁), 『地域情報ゼミナール CII (その 2)』(0.5, ⇒216 頁), 『地域情報ゼミナール DII (その 2)』(0.5, ⇒216 頁)

【履修上の注意】地域情報ゼミナール BI と併せて通年で履修すること。3 年次向けに開講される地域情報ゼミナール BI(その 1) とは、単位の重ね読みができる。

【到達目標】歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。

【授業計画】1. 地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。4 年次後期には、卒業論文作成に向け、考察を深めながら調査結果をとりまとめていき、論文全体をどのように構成するか、分析結果をいかに論理的に解釈するか、成果をどう説得力のある形で表現するか問われる。それぞれの作業の進展に応じて 2~3 回程度の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては、適切な時期にその都度指示する。2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討議をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A、地域情報ゼミナール C、地域情報ゼミナール D と密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

【再試験】無

【教科書】

- ◇ 参考書 有蘭正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院、¥2,800
- ◇ 参考書 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218805>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30-17:30)

地域情報ゼミナール CII (その 1)

2 単位 3 年 (後期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない、論理的な考察を深めることを目的とする。

【授業概要】人文地理学ゼミナール

【キーワード】地理学、空間構造、地域問題、地理情報システム

【関連科目】『地域構造論研究 I』(0.5, ⇒217 頁), 『人文地理学研究 I』(0.5, ⇒208 頁)

【履修上の注意】本ゼミナールの受講にあたって地域情報ゼミナール CI と併せて通年で履修すること。4 年次向けに開講される地域情報ゼミナール CII (その 2) とは、単位の重ね読みができる。

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない、レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる。

【授業計画】1. 地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。3 年次では、受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづき個人調査をおこない、地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる。後期のゼミナールにおいては、フィールドワークの調査結果を報告し、その内容を多面的に討議・検討する。必要に応じ追加的な調査や分析をおこないながら、より完成度の高い報告書の作成を目指す。2. 個人研究にせよ卒業研究にせよ、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、

参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A、地域情報ゼミナール B、地域情報ゼミナール D と密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の完成度をともに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

【再試験】行わない

【教科書】浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218808>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~17:30)

地域情報ゼミナール CII (その2)

2 単位 4 年 (後期)

豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない、論理的考察を深めることを目的とする。

【授業概要】人文地理学ゼミナール

【キーワード】地理学、空間構造、地域問題、地理情報システム

【先行科目】『地域情報ゼミナール CI (その1)』(1.0, ⇒213 頁), 『地域情報ゼミナール CII (その1)』(1.0, ⇒215 頁), 『地域情報ゼミナール CI (その2)』(1.0, ⇒213 頁)

【関連科目】『地域構造論研究 I』(0.5, ⇒217 頁), 『人文地理学研究 I』(0.5, ⇒208 頁)

【履修上の注意】本ゼミナールの受講にあたって地域情報ゼミナール CI と併せて通年で履修すること。3 年次向けに開講される地域情報ゼミナール CI (その1) とは、単位の重ね読みができる。

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない、レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる。

【授業計画】1. 地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。4 年次後期には、卒業論文作成に向け、考察を深めながら調査結果をとりまとめていく。論文全体をどのように構成するか、分析結果をいかに論理的に解釈するか、成果をどう説得力のある形で表現するかが問われる。それぞれの作業の進展に応じて 2~3 回程度の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては、適切な時期にその都度指示する。2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A、地域情報ゼミナール B、地域情報ゼミナール D と密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の完成度をともに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教員の合議のもとに判定する。

【再試験】行わない

【教科書】浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218809>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~17:30)

地域情報ゼミナール DII (その1)

2 単位 3 年 (後期)

田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、地域に展開する経済・社会現象やその変容過程について、空間的視点から研究しようとする学生を対象としている。教員と受講者が十分に相談したうえで、「空間情報科学」に含まれるさまざまな研究領域の中から研究テーマを設定する。卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向かって、GIS(地理情報システム)を援用した独自の調査・分析を実施して、論理的考察を深めることを目的とする。

【授業概要】空間情報科学ゼミナール

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けての調査・分析・考察能力やレポート・論文執筆能力、プレゼンテーション能力の修得を目標としている。

【授業計画】1. 空間情報科学でも地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。3 年次前期には、自分が興味や関心を抱いた研究分野の研究動向を概観するため、いくつかの研究論文を選

び、内容をまとめて発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマを設定し、調査や分析の方法を検討しながら、夏季個人調査の準備をおこなう。後期においては、夏季休暇中に実施したフィールドワークの調査結果を報告し、そこで指摘された課題や調査経験をもちに卒業論文作成のための準備を整える。2. 受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. 研究テーマや発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A・B・C と有機的な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】毎回の授業の準備状況と討議への参加意欲とともに、数回の機会がある報告・発表内容の完成度をともに評価する。当然ながら、単位取得には、規定回数の報告・発表をすることが前提である。

【再試験】なし

【教科書】

◇ 参考書

◇ 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【WEB 頁】<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218812>

【連絡先】

⇒ 田中 (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~17:30)

地域情報ゼミナール DII (その2)

2 単位 4 年 (後期)

田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は、地域に展開する経済・社会現象やその変容過程について、空間的視点から研究しようとする学生を対象としている。教員と受講者が十分に相談したうえで、「空間情報科学」に含まれるさまざまな研究領域の中から研究テーマを設定する。卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向かって、GIS(地理情報システム)を援用した独自の調査・分析を実施して、論理的考察を深めることを目的とする。

【授業概要】空間情報科学ゼミナール

【到達目標】空間情報科学に関する研究分野の中から研究テーマを主体的に選び、適切な方法による調査や分析をおこない、報告書にまとめることができる。

【授業計画】1. 卒業研究の進展に応じて年間 4~5 回の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。論文作成に必要な分析方法や具体的な執筆要領などについては、適切な時期にその都度指示する。2. 受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。3. なお、研究テーマや発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A・B・C と有機的な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

【成績評価】毎回の授業の準備状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をともに評価する。当然ながら、単位取得には、規定回数の報告・発表をすることが前提である。

【再試験】なし

【教科書】

◇ 参考書

◇ 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

【WEB 頁】<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218813>

【連絡先】

⇒ 田中 (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~17:30)

【備考】この授業は、GIS 学術士資格の認定科目【D】である。

民俗学研究 I

2 単位 2 年 (後期)

高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】日本民俗学の主な研究目的は、各地に見られる民俗(一般の人々が日常生活の中で育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式)の持つ意味を明らかにし、さらにそれらの比較検討を通して、日本の基層文化を究明することにある。このような過去過渡的=歴史学的側面を持つ一方で、日本民俗学は、民俗の変化とその要因の解明、あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している。本授業では、こうした日本民俗学の基本概念について概説する。

【授業概要】日本民俗学の基本問題

【キーワード】民俗、日本文化

【関連科目】『文化人類学研究 I』(0.5, ⇒23 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。

【到達目標】日本民俗学の基本的な概念を理解し、過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる。

【授業計画】 1. 民俗学の考え方 (民俗学の研究対象・目的・方法) 2. 社会の民俗 (イエとムラの民俗) 3. 環境の民俗 (景観・地形と民俗) 4. 生業の民俗 (海・山・里の生業と民俗) 5. 時間の民俗 (年中行事と民俗) 6. 生と死の民俗 (出産・葬儀の民俗) 7. 神と靈魂の民俗 (祖先祭祀, 他界観と民俗) 8. 境界と怪異の民俗 (異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) 9. 性と民俗 (女性の民俗, 男性の民俗) 10. 語りの民俗 (昔話・伝説・世間話の民俗) 11. 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗)(1) 12. 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗)(2) 13. 観光と民俗 (民俗の「発見」と「活用」) 14. 比較民俗学への道 (環東シナ海文化圏の民俗) 15. 民俗研究の課題と展望 (現代社会と民俗, 民俗学の現代的意義) 16. まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は, 授業への取り組み状況, 授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数, 期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない。毎回, 授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが, 個々のトピックに関する参考書については, 講義の中で随時紹介する。
- ◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館, 1996年
- ◇ 松崎憲三他編『民俗学の冒険』1~4, ちくま新書, 1999年
- ◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~10巻, 雄山閣, 1998-2000年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219310>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】 本年度開講せず (隔年開講, 次回は平成 24 年度開講予定)

地域構造論研究 I

2 単位 2 年 (後期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 「都市論」は, 建築学, 社会学, 歴史学, 芸術等の幅広い分野において, かつてない大きな関心を集めるようになった。こうした思潮に先んじて, 地理学では都市研究に多くの蓄積を重ねてきた。都市地理学と呼ばれる学問分野は, 空間的側面から都市の機能や形態に注目し, これを系統立てて理解しようとする。本講義では都市をシステム論的な視点から把握し, 都市と都市との関係 (inter-urban system) と, 都市内部における地域と地域との関係 (intra-urban system) の二つの空間スケールから, 都市形成のメカニズムを広く考察する。また, 日本や世界の事例を数多く取り上げ, 現代の都市が直面する課題について空間的視点から検討をおこなう。

【授業概要】 都市地理学の基本問題

【キーワード】 地理学, 地域科学, 都市システム, 空間構造, 地域問題

【関連科目】 『地域構造論研究 II』(0.5, ⇒217 頁), 『人文地理学研究 I』(0.5, ⇒208 頁), 『都市・交通計画』(0.5)

【履修上の注意】 都市をキーワードとして各回の話題は歴史学, 社会学, 経済学, 建築学, 心理学へと広がる。授業中はノートをきちんと取って復習に役立ててほしい。この授業は教員免許取得 (中学校・社会, 高校・地歴) のための必修科目にある (「人文地理学研究 I」といづれか選択)。なお, 「地域構造論研究 I」(平成 23 年度開講) と「人文地理学研究 I」(平成 24 年度開講予定) とは, 隔年で交互に開講される。

【到達目標】 都市地理学が扱う幅広いテーマについて学説史をふまえた基礎的知識を学び, 複雑な現象の背後にはたらく諸要因を理論的に検討する能力を身につけることを到達目標とする。

【授業計画】 1. 都市地理学の分析視角 2. 都市の成立と歴史的展開 3. 経済発展と中心・周辺モデル 4. 都市の順位・規模モデル 5. 都市の機能と類型区分 6. 都市成長と経済基盤モデル 7. 中心地理論と都市システム 8. 中間テスト 9. 都市の内部構造理論 10. 都市の地価形成と土地利用 11. 都市空間の知覚とメンタルマップ 12. 都市圏の構造変化 13. 都市構造と社会階層の分極化 14. 経済のグローバル化と世界都市 15. 期末テスト 16. 授業の総括

【成績評価】 試験 (持ち込み不可) は 2 回に分けて実施し, 出席状況など授業への取り組みと併せて成績評価をおこなう。

【再試験】 あり

【教科書】

- ◇ 高橋伸夫他著『新しい都市地理学』東洋書林, 1997年
- ◇ 富田和暁・藤井正編『図説・大都市圏』古今書院, 2001年
- ◇ このほか授業教材として毎回プリントを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219159>

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~13:00)

【備考】 隔年開講のため, 平成 22 年度は開講しない。

地域構造論研究 II

2 単位 2 年 (後期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】 私たちが暮らす地表上では気候・地形の自然条件も様々であれば, 言語・宗教・習俗といった人間文化も多種多様である。そのため, この地表上で発生する人文社会的現象・問題を解明するためには, 地域独特の文化的・社会経済的背景や, 地域間の空間的な相互関係を理解することが不可欠である。本講義では, 地域の諸現象を把握するための空間的概念と分析手法を学び, 地域内・間で発生する問題を考察するための目を養う。

【授業概要】 地域分析の基本問題

【キーワード】 地域構造, 地理空間, 交通

【先行科目】 『社会統計基礎論』(0.6, ⇒207 頁)

【関連科目】 『空間情報科学 I』(0.7, ⇒210 頁)

【到達目標】 地域の諸現象の分析方法を習得して, 地域構造や地域問題を把握・考察する力を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 地域とは? 3. 地域とは? 4. 地理的事象の空間分布とパターン解釈 5. 地名とイメージ 6. メンタルマップ 7. 第 1 回テスト 8. 交通ネットワーク分析 9. アクセシビリティ 10. 重力モデル 11. 立地-配分モデル 12. 日本の航空・空港問題 13. グローバル化と世界の航空 14. チェーン店の物流システム 15. 第 2 回テスト 16. テストの解説

【成績評価】 出席および授業への取組 (30%), テストおよびレポート (70%)。単位取得には, 全レポートの提出とテスト受験が必須である。

【再試験】 なし

【教科書】 授業中に紹介する。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219160>

【連絡先】

⇒ 田中 (オフィスアワー: 木曜日 12時から13時。ただし, 出張等で不在にすることがあるため, できる限りメールでの事前連絡を勧める。)

【備考】 平成 24 年度開講

地域変容論研究 I

2 単位 2 年 (後期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 「人」の移動は「文化」の移動でもあり, 移植された社会組織や文化は新たな環境に適合する場合もあれば, 大きく変質したり, 消滅したりもする。そこで本授業では, おもに 18-19 世紀にヨーロッパから北アメリカに渡った農業移民をとりあげ, 地理学的な視点から, フロンティア地域への移住・入植過程や開拓プロセスについて解説し, 移民社会や移民文化の変容過程を考察することにした。

【授業概要】 北米フロンティア: 農業移民の移住と定着

【キーワード】 地理学, 歴史地理学, フロンティア, 移民, 村落

【関連科目】 『地誌学』(0.2, ⇒220 頁)

【履修上の注意】 授業ではパワーポイントなどを使用するが, 配付プリント類は必ず毎時間持ってくる。なお, 地域変容論研究 I は教員免許取得 (中学校・社会/高校・地歴) のための選択科目でもある。

【到達目標】 フロンティアへの人口移動を通じて, 地域形成・地域変化のメカニズムを理解する地理学的な能力を身につける。

【授業計画】 1. フロンティア地域の特性 2. 北米フロンティアの西漸運動 3. フロンティアの歴史の意味 4. イギリス系植民者の入植地 5. フランス系植民者の入植地 6. スペイン系植民者の入植地 7. 初期開拓地における入植形態 8. 中西部の開拓とタウンシップ 9. タウンシップの土地区画 10. ソッドハウスと丸木小屋 11. 商業的穀物農業地帯の形成 12. 北米移民の出身地域 13. ヨーロッパの「周辺化」地域と移民の送出 14. 移住者の社会的特徴 15. 大量移住の形成 16. 授業のまとめ

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが, 授業中に数回行う小テストや課題, 出席状況, 質疑応答といった授業への取り組み姿勢などにもとづく平常点での評価と, 期末試験 (持ち込み不可) 結果による評価を併用して行う。

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 教科書は使用しないが, 受講にあたっては下記の文献などにもあたっておくこと。
- ◇ R.A. ビリントン著/渡辺真治訳『フロンティアの遺産』研究社出版, 1971年
- ◇ 渡辺真治『フロンティア』近藤出版社, 1975年
- ◇ 岡田泰男『フロンティアと開拓者-アメリカ西漸運動の研究』東大出版会, 1994年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219155>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館中棟1階 火・金曜日 12:00-13:00)

【備考】 平成 23 年度は開講しない。平成 24 年度開講予定。

地域変容論研究 II

2 単位 2 年 (後期)
高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】 地域文化は、どのような構造を有し、地域社会の中でどのような意味を持ったものとして存在しているのだろうか。また、地域文化は、それを取り巻く(社会的、経済的、政治的などの)諸要因の変化にともない、どのように変容していくのだろうか。本講義では、「祭り」という比較的身近な題材を通して、地域文化の構造と、変容の論理を明らかにすることを目的とする。日本の事例のみならず、世界各地の祭りの事例を取り上げながら、具体的かつわかりやすく講義を進めていきたい。

【授業概要】 「祭り」を通して見る地域文化

【キーワード】 地域文化、文化変容、祭り、社会変動

【関連科目】 『文化人類学研究Ⅰ』(0.5、⇒23頁)、『民俗学Ⅰ』(0.5、⇒220頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。

【到達目標】 地域文化の構造と変容のメカニズムを理解し、その理論を現代の具体的な文化現象に適用して考えることができる。

【授業計画】 1. はじめに(1)「祭り」とは何か 2. はじめに(2)祭り研究の視点 3. 祭りの構造と機能(1)祭りの構造-システムとしての祭り 4. 祭りの構造と機能(2)祭りの機能-なぜ祭りを行うのか 5. 祭りの深層(1)祭りと言語-祭りの奥に隠された「論理」 6. 祭りの深層(2)祭りの象徴分析-象徴体系としての祭り 7. 祭りと社会(1)村落共同体の祭りと社会組織 8. 祭りと社会(2)都市祭りとネットワーク 9. 祭りと社会(3)祭りの伝承システム 10. 祭りと社会(4)祭りの地域性-徳島県の事例より 11. 祭りのダイナミズム(1)祭りと言語-民族を象徴する祭り 12. 祭りのダイナミズム(2)祭りと国家-政治的な表象としての祭り 13. 祭りのダイナミズム(3)祭りと観光、地域振興-経済的資源としての祭り 14. 祭りのダイナミズム(4)越境するモチーフ-祭りとグローバル化 15. 祭りのダイナミズム(5)現代社会と祭り 16. まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。授業中に随時プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる。個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 芦田徹郎『祭りと言語の現代社会学』世界思想社、2001年
- ◇ 日本生活学会編『祝祭の100年』ドメス出版、2000年
- ◇ 伊藤幹治『宴と日本文化』中公新書、1984年
- ◇ 森田一郎『祭りの文化人類学』世界思想社、1990年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219156>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】 本年度開講せず(隔年開講)

期の住民の課題 (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 15. 地域経済論の学び方 地域経済論の近年の動向と研究課題

【成績評価】 講義中に提出を求める数回の演習問題、期末に提出を求めるレポートの結果によって単位を認定する。

【再試験】 行わない

【参考書】

- ◇ 岡田知弘『地域づくりの経済学入門』自治体研究社、2005年
- ◇ 中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社、2007年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218778>

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部1号館2218室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期)月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

社会福祉研究

2単位 3年(後期)

榎田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 社会学の立場から社会福祉学を講じる。現代社会は福祉社会である。20世紀において社会福祉は、ケインズ主義の下、経済発展の動因であった。21世紀では、社会福祉は、人間のデータベース的管理の基盤となろうとしている。テキストを用いながら、社会福祉の現代社会的基盤を論じよう。

【授業概要】 社会学の立場から考える社会福祉の研究

【キーワード】 福祉社会学, 社会政策, 援助, 共生, セルフヘルプグループ, インタビュー論, 社会福祉と現代社会

【履修上の注意】 教科書は生協に取り寄せてあるので(定価1700円), そこから購入すること。また, 参考書の一部は高価だが読みがいがある。古本でよいから買ってよむとよい。出欠確認は毎回行う。とりわけ, 初回のオリエンテーションは重要なので, 欠席しないようにせよ。欠席には理由を問う。なお, 全学共通教育では「ボランティア論(木曜5-6限前期)」が, 関連科目である。なお, 受講学人数にもよるが, 複数回の小論文執筆が課せられることを覚悟してほしい。大学での学習成果は, 書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるから。また, ダイソーでの買い物などの宿題も課せられる。日本のグローバル化の状況を身をもって看取してもらう必要があるからだ。

【到達目標】 現代社会を学ぶことと, 社会福祉を学ぶことがどのようにつながっているのか講義する

【授業計画】 1. 0. 榎田によるイントロダクション:現代社会論として福祉を考える。セルフヘルプグループ論。 2. 1. 社会福祉とは 3. 2. ウェルビーイングタウン社会福祉って何だろう 4. 3. 福祉のしくみ 5. 4. レポートを書いてみよう(消費社会をテーマとして) 6. まとめ

【成績評価】 出席+テストおよびレポート

【再試験】 おこなわない

【教科書】

- ◇ 岩田正美ほか著 1999『ウェルビーイングタウン社会福祉入門』有斐閣(教科書)
- ◇ 参考書『福祉社会事典』弘文堂
- ◇ 齋藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房。三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実践:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- ◇ 石川准・倉本智明編著『障害学の主張』明石書店 2002
- ◇ メイナード著榎田・岡田訳『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房 2004
- ◇ コリン・バーンズ他(杉野昭博他訳)『ディスアビリティスタディーズ:イギリス障害学概論』明石書店

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219398>

【連絡先】

⇒ 榎田(工学部キャンパス SVBL 棟3階プロジェクト研究室1に常駐:1号館南棟1階1S19 はときどき, 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日14:00-15:00SVBL棟3階プロジェクト研究室(面談申込書あり, 榎田研ドアに掲出。))

【備考】 平成22年度は後期の金曜日3・4限に開講される。

社会情報分析法

2単位 2年(後期)

矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 社会科学において, 社会調査はその研究の基礎となる方法論の一つである。その主な目的は, 実際の社会における人々の様々な行為などに関するデータを収集し, 分析することによって, それらを記述, 説明することにある。つまり, 社会調査とは, 特定の社会的現象を, 一定の方法を用いて言語化することであり, そのプロセス全体を指す。このクラスでは, ボンシュテット/ノーキ(1990)をテキストに, そのような方法論を学び, 実際の調査に必要な技術を身につけることを目指す。特に社会調査の量的手法(サーベイ調査)に関する, SPSS(統計分析ソフト)を用いた演習が中心となる。既存の調査票とデータセットを用いて, 自分の立てた仮説を検証し, その結果を解釈

することが演習の目標となる。使用するデータに関しては、受講者の興味に即して、私がこれまで関わり使用することのできるデータや、公開されているデータを使用しようと考えている。

【授業概要】社会調査の手法と統計分析

【キーワード】社会調査, アンケート調査, 量的調査

【履修上の注意】機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合があります。この授業を出席するものは、前期に開講される「社会統計基礎論」を履修しておくことを強く希望する。

【到達目標】サーベイ調査の手法に習熟することを目指す。

【授業計画】1. 社会調査とは何か 2. 社会調査の方法と種類-量的方法と質的方法- 3. 社会調査の過程 4. 度数分布表 5. 度数分布の記述 6. クロス集計表(カイ二乗検定) 7. 統計的推測と仮説検定 8. 2つの平均の差の検定(t検定) 9. 複数の平均の差の検定(F検定) 10. 2変量回帰と相関 11. 離散変数間の関連を測定する 12. 多重分割分析の理論 13. 重回帰分析 14. 因果モデルとパス解析 15. オリジナル分析のための討論会 16. 試験

【成績評価】授業毎に提出してもらう課題と期末レポート、および出席による

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ 社会調査方法論に関する教科書
- ◇ 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社, 1998
- ◇ ボーンシュテット/ノーク『社会統計学-社会調査のためのデータ分析』海野道郎/中村隆監訳, ハーベスト社, 1990
- ◇ 参考書
- ◇ 馬場浩也『SPSSで学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社, 2002
- ◇ 鈴木義一郎『「比較」統計学のすすめ:違いを見分けるテクニック』講談社ブルーバックス(B-380), 1979
- ◇ グレル・ハフ『統計でウソをつく法:数式を使わない統計学入門』高木秀玄訳, 講談社ブルーバックス(B-120), 1968
- ◇ 古谷野巨『数学が苦手な人のための多変量解析ガイド:調査データのまとめかた』川島書店, 1988
- ◇ 調査報告に関する参考書
- ◇ 佐藤俊樹『不平等社会日本:さよなら総中流』中公新書(1537), 2000
- ◇ 岩井紀子・佐藤博樹編『日本人の姿:JGSSにみる意識と行動』有斐閣選書, 2002
- ◇ 佐藤博樹編著『社会調査の公開データ:2次分析への招待』東京大学出版会, 2000

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219397>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

社会変動研究

2単位 2年(前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが、社会変動論の特徴である。本講義では、そのうち現代社会の特質を把握するためのさまざまな議論を、個別領域毎に解説していきたい。今年度は、今後わたしたちが生きていく21世紀の特質を、過去との比較という観点からみていきたい。受講者には、自分たちが現在生活している現代社会を自分なりに理解する機会としてほしい。理解を助けるための映画を1回鑑賞するほか、受講生が過度に多くなければグループ・ディスカッションもしてもらう。

【授業概要】21世紀はどういう社会なのか

【履修上の注意】この講義では、社会学の基本的な概念の解説も盛り込んでおり、社会学入門的な性格も持たせてある。ただし、知識そのものを覚えてもらうことは重視しない。社会学的な思考法を学んでもらうこと、現代社会の課題や問題を自分のこととしてとらえ、自分なりの意見を持ってもらうことを重視する。そのため、毎回課題について簡単なコメントを書いてもらい、評価に加える。

【到達目標】自分で選択したテーマについて、文献を読んでデータを集め、レポートを書けるようにする(詳細は後述)。

【授業計画】1. 1. イントロダクション 2. 2. 情報化とネットワーク社会の誕生 3. (1) 情報社会と都市の盛衰 4. (2) 情報技術と社会関係の容容 5. 3. 個人化する社会 6. (1) 個人化する家族—社会の個人化とは何か 7. (2) 新宗教と社会変動 8. 4. 身体をめぐる政治 9. (1) 身体は誰のものか?—中絶をめぐる政治 10. (2) 生殖技術と身体への介入 11. (3) 生殖技術に関わる映画鑑賞 12. (4) 生殖技術をめぐるグループ・ディスカッション 13. 5. リスク社会としての現代 14. (1) リスク社会の誕生 15. (2) リスクの何が問題なのか 16. 6. 福祉国家と労働市場の再編 17. (1) 誰が福祉を担うのか? 18. (2) 正社員からフリーターへ?

【成績評価】成績評価はレポートと出席点による。6月に提出してもらうレポートの原案にコメントをつけて返却する。受講者は、それをもとにレポートを完成させて8月に提出する。毎回提出してもらう小テストが40点、レポートの計画書が10点、レポートが50点という配分になる。評価基準やレポートのテーマ設定、書式など詳しくは初回に説明するので、必ず出席すること。

【再試験】レポート計画書を提出している者に対して認める【教科書】

- ◇ 毎回レジュメを配布する。関連する文献リストを初回に配布する。レポート作成にあたっては、参考文献を5点以上読んで引用することが求められる。
- ◇ 参考書 落合恵子『21世紀家族へ』有斐閣
- ◇ 参考書 ウルリヒ・ベック『危険社会』法政大学出版局
- ◇ 長谷川公一他『社会学』有斐閣

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219394>

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: (前期)水曜日 12時~13時)

【備考】平成24年度開講

経営戦略論

2単位 3年(後期, 集中)
高橋 意智郎・, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】経営戦略の定義は様々ですが、この授業では「企業の将来像とそれを達成するための道筋」として考えていきます。経営戦略論は、経営学の中でも主要なトピックの1つで、経営組織論、マーケティング論、人材マネジメント論、イノベーション論など様々な隣接領域と関連します。この授業は、戦略に関する理論を学び、理論を用いて企業を分析する力を養成することを目的とします。

【授業概要】経営戦略論の基本的な考え方を身につけることを目的としています。

【キーワード】戦略, 組織, (持続的)競争優位

【関連科目】『経営組織論』(0.3, ⇒209頁)

【履修上の注意】経営戦略という言葉は、普段の生活の中ではあまりピンとこないかもしれませんが、実は身近な出来事に当てはめることができます。机上の空論として扱うのではなく、生きた学問として身につけることを意識して下さい。授業中に意見を求める可能性があります。分かる範囲で回答してみてください。

【到達目標】経営戦略の理論を用いて新聞記事や雑誌記事で書かれている事柄を理解・分析できるようにすること。

【授業計画】1. イントロダクション, 経営戦略とは何か 2. 経営戦略を見る4つの枠組み 3. 規模の経済・経験曲線とポジショニングアプローチ(1) 4. ポジショニングアプローチ(2) 5. 一般戦略(Porterの競争戦略) 6. 資源アプローチ 7. ロジカル・シンキング 8. 中間試験(試験にするかレポートにするかは未定) 9. 市場細分化 10. 市場地位別戦略 11. 学習アプローチ 12. プロダクト・ライフ・サイクル 13. PPMとゲームアプローチ 14. 多角化の理論 15. 期末試験 16. まとめ

【成績評価】期末試験50%, 中間レポート30%, 出席を兼ねた小レポート20%

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219417>

【連絡先】

⇒ 高橋・
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】進捗状況によって内容がずれる可能性があります。

ジェンダー研究

2単位 2年(後期)
北村 修二・教授/社会創生学科, 平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】現代日本におけるセクシュアルマイノリティについて、社会的に理解する。

【授業概要】私たちは、日常生活の中で、他者と関わらずにはいられない。私たちはちらと見られたりじつと見つめられたりさえることに始まり、身振りを示し合ったり、ことばをやりとりすることで、他者を何者かだと判断しながら、他者とやりとりをしている。それによって、私たちの日常生活は営まれていると言える。そのような他者とのやりとり—相互行為—は、秩序だったものである。つまり、相互行為には決まり事がある。それが、どのようなものであるのかを、女だけれど女が好きだったり、女に生まれたけれど男として生きようとしているような人びと—セクシュアルマイノリティ—の経験から見ていく。その経験から、私たちが当たり前に生きている性別に関わる秩序が、そのようなものかを一緒に振り返り、それによって、私たちが生きている社会がどのような社会であるのかを考えていく。なお、授業中に書いてもらうアクションペーパーによって、質問を受け付け、また理解度を確認する。

【キーワード】ジェンダー, 身体, 社会学, 性同一性障害, スティグマ, バッシング, セクシュアルマイノリティ, カミングアウト, 性自認

【履修上の注意】適宜資料を配付し、文献を紹介する。

【到達目標】現代日本におけるセクシュアルマイノリティについて、社会的に理解する。

【授業計画】1. 自己紹介, 講義のイントロダクション 2. セクシュアルマイノリティと基本用語の説明 3. ドラマ「わたしがわたしであるために」(1) 4. ドラマ「私が私であるために」(2)・次回の導入(スティ

グマとパッシング) 5. 性同一性障害と相互行為 6. 医療 (1) 性同一性障害の精神療法の実際 (映像含む) 7. 医療 (2) 性別の基準を再考する 8. 性同一性障害者特例法 9. レズビアン (1) カミングアウト (映像含む)・婚姻の問題 (1) 映画「ウーマンラプウーマン」(1) 10. 婚姻の問題 (様々な法律と婚姻形態) 11. 「ウーマンラプウーマン」(2)(3) 解説 12. 性的指向と性自認再考 13. いかにして「ふつう」の外見に駆り立てられるのか (1) 14. いかにして「ふつう」の外見に駆り立てられるのか (2) 15. 多様になってきている「性同一性障害」のあり方 16. ドキュメンタリー「まんこ独り語り」(まとめ)

【成績評価】 レポートによって理解度を確認する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。

【参考書】 加藤秀一・石田仁・海老原暁子,2005,『図解雑学ジェンダー』ナツメ社。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219061>

【連絡先】

⇒ 北村 .

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 平成 21 年度開講 (隔年開講)。平成 21 年度の本授業は夏期集中として、9 月 24 日 8:40 から 27 日 11:55 にかけて開講される見込みです。

民俗学研究 I

2 単位 2 年 (後期)

高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】 日本民俗学の主な研究目的は、各地に見られる民俗 (一般の人々が日常生活の中で育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式) の持つ意味を明らかにし、さらにそれらの比較検討を通して、日本の基層文化を究明することにある。このような過去と現在=歴史学的側面を持つ一方で、日本民俗学は、民俗の変化とその要因の解明、あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している。本授業では、こうした日本民俗学の基本概念について概説する。

【授業概要】 日本民俗学の基本問題

【キーワード】 民俗, 日本文化

【関連科目】 『文化人類学研究 I』(0.5, ⇒23 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視覚教材を多用する。

【到達目標】 日本民俗学の基本的な概念を理解し、過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる。

【授業計画】 1. 民俗学の考え方 (民俗学の研究対象・目的・方法) 2. 社会の民俗 (イエとムラの民俗) 3. 環境の民俗 (景観・地形と民俗) 4. 生業の民俗 (海・山・里の生業と民俗) 5. 時間の民俗 (年中行事と民俗) 6. 生と死の民俗 (出産・葬儀の民俗) 7. 神と霊魂の民俗 (祖先祭祀、他界観と民俗) 8. 境界と怪異の民俗 (異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) 9. 性と民俗 (女性の民俗, 男性の民俗) 10. 語りの民俗 (昔話・伝説・世間話の民俗) 11. 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗)(1) 12. 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗)(2) 13. 観光と民俗 (民俗の「発見」と「活用」) 14. 比較民俗学への道 (環東シナ海文化圏の民俗) 15. 民俗研究の課題と展望 (現代社会と民俗, 民俗学の現代的意義) 16. まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館, 1996 年
- ◇ 松崎憲三他編『民俗学の冒険』1~4, ちくま新書, 1999 年
- ◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~10 巻, 雄山閣, 1998-2000 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219310>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】 本年度開講せず (隔年開講, 次回は平成 24 年度開講予定)

自然地理学研究 - 吉野川流域の地形環境と自然災害 - 2 単位 2 年 (前期)

古田 昇・非常勤講師/総合科学部, 平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 吉野川流域の豊かで多様な自然環境と人々との関わりを、他地域と比較しながら考えるとともに、自然災害の履歴や減災に向けたプランの検討を行う。

【授業概要】 河川がつくる地形・地形形成過程をもとに地形環境の多様性を述べる。

【キーワード】 地理学, 河川環境, 災害, 吉野川

【履修上の注意】 この授業科目は、教員免許取得 (中学校・社会/高校・地歴) のための科目でもある。平成 22 年度は開講するが、平成 23 年度は開講しない可能性もあるため、受講に際しては注意を要す。

【到達目標】 地形環境とその歴史的变化を理解し、将来の生活へ活かす。

【授業計画】 1. 授業にあたってのガイダンス 2. 吉野川を知っていますか? 3. 四国, 吉野川の地理的概要 4. 河川がつくる地形, 河川により変化する地形 5. 吉野川中・上流部の山地と河川 6. 中・上流部の自然環境を活かした生活 7. 吉野川下流部の地形環境 8. 吉野川下流部における自然堤防の発達 9. 吉野川下流域における沖積平野の形成 10. 河川と海洋との接点 11. 自然災害はなぜなくならないのか 12. 被災のレベルに地域差が生まれるのは? 13. 木も大切, 森もおお大切 14. 見えるもの, みえないもの 15. レポート・試験 16. 授業のまとめ

【成績評価】 講義内での小レポート, 筆記試験, 履修状況

【再試験】 無

【教科書】 教科書は使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。参考図書については、随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219445>

【連絡先】

⇒ 古田 . (オフィスアワー: 授業の前後の時間)

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 平成 23 年度 i 以降は開講しない。

地誌学

2 単位 2 年 (前期)

平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 伝統的生活空間である村落の成立は、土地開発の歴史と深く関連している。この授業では、日本および欧米等における土地開発の進展と村落の立地・特徴について代表的な事例を取り上げ、歴史地理学的・集落地理学的な視点から総観するものである。また、こうした事例を通じて、人間と自然との関わりや、東西文化の共通点や相違点についても論じていくことにしたい。

【授業概要】 日本および欧米の村落

【キーワード】 地理学, 地誌学, 村落

【履修上の注意】 この授業科目は、教員免許取得 (中学校・社会/高校・地歴) のための科目でもある。旧カリキュラムの「日本地誌」もしくは「欧米地誌 I」の、いずれか 1 科目への読み替えが可能である。本授業では随時、OHP やパワーポイントなどを使用するが、ノートの取り方は各自が工夫すること。

【到達目標】 日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について、時間的・空間的な展開の中で理解するとともに、地域的な差異の特徴について把握できるようになること。

【授業計画】 1. 村落の定義 2. 村落の立地環境 3. 村落の形態 4. 古代日本の土地開発と条里制 5. 古代日本の集落形態 6. 中世起源の環濠集落と豪族屋敷村 7. 散村地域の形成と展開 8. 近世日本の新田開発 9. 北海道の開発と殖民地地区画 10. 古代中国 ローマにおける方格地割 11. ヨーロッパにおける集落形態 12. 耕区制と三圃式農業 13. 中世大開墾時代の開拓村 14. 囲い込み運動と散居農場 15. 北米フロンティアのタウンシップと散居農場 16. 授業のまとめ

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業中に数回行う小テストや課題、授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と、期末試験 (持ち込み不可) 結果による評価を併用して行う。

【再試験】 再試験はない。

【教科書】 とくに教科書は使用せず、必要な資料は随時配布する。中学校もしくは高校で使用した地図帳を準備しておくことよい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219200>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館中棟1階 火・金曜日12:00~13:00)

【備考】 平成 23 年度開講。隔年開講のため、平成 24 年度は開講しない。

国際関係論 I

2 単位 3 年 (前期)

饗場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】 米ソがらみ合った冷戦中は、明日にも第三次世界大戦が起き、核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった。89 年、米ソ首脳が握手をかわし、幸運にも人類は冷戦を脱した。ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが、まもなく幻滅が広がった。噴出する内戦・民族紛争と、拡大する貧富の格差。新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると、9/11 テロの衝撃が世界を揺るが

した。そして今、アフガン戦争、イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され、国際社会はいつか、どこに行こうとしているのか。この授業では、こうした変動する現代国際社会の現実を知り、そこで生起する諸問題について、特に平和と戦争に関係する観点を中心に、考察する。

- 【授業概要】** 国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ。授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも、筆者のフィールドワーク(紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など)や、新聞記者の経験などに基づく「教科書に載っていない」解説も試みたい。また、適宜、時事的な国際ニュースも取り上げ、ビデオやスライドも使う。国際関係論Ⅰでは、主に総論的、理論的、概念的な問題を扱う。
- 【履修上の注意】** 国際関係論ⅠとⅡはそれぞれ独立しており、一方だけ受講することもできるが、Ⅰで総論的、基礎的な解説を行い、Ⅱではそれを元に各論的、発展的な内容になる面もあるので、連続して受講する方が望ましい。

- 【到達目標】**
1. 国際社会の性質、特徴を理解すること。
 2. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的事実関係、実態を知ること。
 3. 国際政治と国際法の基本について、とらえ方、原理、原則を把握すること。
 4. 「冷静な現実主義」と、「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと。

- 【授業計画】** 1. (日) 国際社会の成り立ちと特徴 (1) 2. (日) 国際社会の成り立ちと特徴 (2) 3. 国際法の基本 (1) 4. 国際法の基本 (2) 5. 国際社会を見る理論的枠組 (1) 6. 国際社会を見る理論的枠組 (2) 7. 国際安全保障の諸理論 (1) 8. 国際安全保障の諸理論 (2) 9. 民族とアイデンティティ (1) 10. 民族とアイデンティティ (2) 11. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど) (1) 12. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど) (2) 13. 戦争の違法化 (1) 14. 戦争の違法化 (2) 15. 補足と総括 16. 試験

【成績評価】 授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらいが、それらで出欠の確認も行う。試験は論述式(短答式と長文論述併用)の期末試験を行う。持ち込み不可。成績は試験の結果に、出席状況、授業中の質疑応答などを加味して判断する。

【再試験】 行わない。ただし、僅差で合格点に達しない受講者には、一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える。

【教科書】 教科書は特に指定せず、授業中に配布するレジュメ、資料に沿って解説する。参考書などは適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219152>

【連絡先】
⇒ 養場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~14:30、金曜日14:30~16:00。この時間以外でも在室時は随時可。)

異文化間コミュニケーション(その1)

2 単位

2年(前期, 集中)

Cross-cultural Communications

坂田 浩・助教/国際センター

【授業目的】 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生していくことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1)受講者自身が自らの文化に気づき、(2)多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3)異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行く為の具体的な方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。

【授業概要】 異文化トレーニング

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

- 【授業計画】** 1. 具体的な内容・計画は以下の通り。 2. (1)「自文化を気づくトレーニング」 3. (2)「Perception/Programming」のエクササイズ 4. (3)「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 5. (4)「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 6. (5)「価値観の多様性に関するエクササイズ」 7. (6)「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 8. (7)「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 9. (8)「Organizational/Individual Challenges」 10. (9)「多文化で共生できる人とは? DMIS」 11. (10)「多文化で共生する為のヒント:DIE」 12. (11)「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」 13. (12)「Action Planning:大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」 14. など

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218359>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:各集中講義時間終了後)

異文化間コミュニケーション(その2)

2 単位

2年(後期, 集中)

坂田 浩・准教授/国際センター

【授業目的】 本授業では、前期の集中講義を基に授業を展開するが、概要としては、(1)異文化間コミュニケーションに必要とされる技術(スキル)と態度を養う、(2)自己のあり方を振り返り、今後の自分について考える、(3)外国語に対する認識と態度を再考する、という内容を中心に授業を展開していく予定である。

【授業概要】 目的を参照

【先行科目】 『異文化間コミュニケーション(その1)』(1.0, ⇒221頁)

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【到達目標】

1. 文化的な「違い」に対する認識と態度について再考出来るようになる
2. 自己を振り返り、望ましい自分について具体的なイメージを形成できる
3. 具体的な理想のイメージに向かっていく為に必要なコミュニケーション能力を獲得する
4. 自分とは異なる人達と有効な人間関係を構築することが出来る

- 【授業計画】** 1. オリエンテーション 2. マインドマップを使って自分の価値観を探りましょう! 3. 価値観を達成する為のヒントとリソースを考えましょう! 4. コミュニケーションエクササイズ(1): 承認とフィードバック 5. コミュニケーションエクササイズ(2): 質問・質問(1) 6. コミュニケーションエクササイズ(3): 質問・質問(2) 7. コミュニケーションエクササイズ(4): 自己開示(1) 8. コミュニケーションエクササイズ(5): 自己開示(2) 9. コミュニケーションエクササイズ(6): 傾聴(1) 10. コミュニケーションエクササイズ(7): 傾聴(2) 11. コミュニケーションエクササイズ(8): リーダーシップとチームワーク(1) 12. コミュニケーションエクササイズ(9): リーダーシップとチームワーク(2) 13. 今年の誓いとミッション・ステートメント 14. 人間関係・異文化とコミュニケーション 15. 予備日

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポート・発表内容を基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219389>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜 12:00-12:50)

【備考】 定員: 30名まで *30名以上の場合は、総合科学部生(欧米言語コース2,3年生、国際文化コース2,3年生)を優先し、残りに関しては抽選を行います。

ドイツの社会と文化(その1)

2 単位 2年(前期)

ヘルバルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会学的な想像力を身につける事。ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、外国人排斥思想、移民受け入れ理論、グローバル化、高齢化問題、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。 居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

- 【授業計画】** 1. 社会学入門:社会学とは何か。 2. ライフスタイル。文化社会学: Pierre Bourdieu 3. Bourdieu 理論のキーワード:資本、ハビトウス、階級、ディステンション等 4. エリートを生む学歴社会学: ドイツとフランスの教育制度 5. Gerhard Schulze: 現代ドイツ社会の分析、その理論と研究デザイン 6. 日常生活の社会学:ドイツの主な五つの生活様式 7. ドイツ社会のライフスタイルグループの具体的な描写 8. ドイツの主流社会から排除されているグループ 9. 移民社会としてのドイツ:外国人受け入れの歴史と現状 10. 排斥主義と国家主義とネオナチ問題 11. 外国人受け入れ理論 12. 同化論、統合論、多様文化論、超文化論 13. 若者文化 1. 1960年代から現代までのそれぞれの若い世代の特徴 13. 若者文化 2. 現代ドイツで族化している若者の分類 14. 若者文化 3. 若者の代表的な「族」の紹介 15. 纏めと質疑応答 16. Ulrich Beck: ドイツとグローバル化をめぐって

【成績評価】 出席、レポート、発表、授業への取り組み状況などをとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書、教材は要りません。参考書は授業を進めながら推奨します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218906>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】授業は日本語で行われます。

ドイツの社会と文化 (その2)

2 単位 2 年 (後期)

ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】授業の目的は社会的な想像力を身につける事、ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、移民社会、高齢化問題、(生と死の)哲学、オーストリー、ドイツの社会的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】受講者にレポートを發表させます、居眠り厳禁

【到達目標】様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】1. ドイツとオーストリーの相違と特徴 2. オーストリーの歴史、ケルト人、ローマ時代から十九世紀まで 3. 20、21世紀のオーストリー:政治、経済、社会、文化 4. オーストリーとEUにおける移民政策 5. EUの統合と組織犯罪の在り方 6. 世俗化したドイツ、オーストリーにおける宗教 7. 若い世代と宗教:精神世界、ニューエイジ思想、折衷主義 8. ドイツ社会と東洋思想:インド哲学、仏教、禅との出会い 9. bodycult と bodyart/body modification: 身体変更/改造、リストカット症候群、体の社会学 10. 高齢社会、その問題と課題 11. 西洋哲学での生と死の見方 12. 安楽死をめぐる 13. ホスピス、その歴史と理念 14. 緩和ケア、特にスピリチュアルケアについて 15. 纏めと質疑応答 16. 「ソーフィの世界」ドイツ語圏での哲学アーム

【成績評価】出席、レポート、発表、授業への取り組み状況などをともに総合的に評価する

【再試験】あり。

【教科書】教科書、教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218907>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】授業は日本語で行われます。

比較文化研究 (その1)

2 単位 2 年 (前期)

依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間に思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、マイノリティの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】比較文化、異文化理解、マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究 (その2)』(1.0, ⇒222頁)

【関連科目】『比較文化研究 (その2)』(0.5, ⇒222頁), 『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒221頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養っていただいたい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】前期は、課題発想的な比較文化研究の概念を検討し、授業の導入とする。「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題点を概観する。映画やドキュメンタリー・ビデオ、新聞記事なども適宜利用して、従来の学問区分に必ずしもとられない学際的・総合的な研究方法を示していく。具体的には、外国人・移民問題、文化的に見た民族問題、メルヘンと国民文化の問題、映像メディアによるホロコーストの表現の比較、「近代」に対する文化的批判、多文化社会の可能性といったテーマを考えている。文化研究の仕方として最近の「カルチュラル・スタディーズ」の成果なども紹介する。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫編『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店、E. W. サイド『オリエンタリズム』平凡社。

出版会、新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店、E. W. サイド『オリエンタリズム』平凡社。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219308>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioaka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

比較文化研究 (その2)

2 単位 2 年 (後期)

依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間の思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、マイノリティの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】比較文化、異文化理解、マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒222頁)

【関連科目】『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒221頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養っていただいたい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】後期は、日本国内外の代表的な日本文化論を概観し、それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する。文化間の影響関係として、具体的には、日本の西洋モダニズム受容や、海外におけるジャポニズムから最近のマンガ・アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる。また、日本文化論に内在するナショナルリズムやイデオロギー性を批判的に考察する。日本文化の雑種性への感受性を大切に、既存の日本文化のイメージにとらわれない、新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく。地域文化 (徳島) と国際性といったテーマも取り上げる予定。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】

○教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新陸夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エリカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店、
○依岡隆児『読書のススメ～四国から、グローカルに～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218953>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioaka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

社会心理学

2 単位 2 年 (後期)

佐藤 健二・教授/人間文化学科

【授業目的】近年、社会心理学に対する期待は、著しく増大している。なぜなら、社会心理学は、人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて、近年生じている、さまざまな社会的行動に関する諸問題の解決に資する可能性をも持っているからである。そこで、本講義では、人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする。

【授業概要】人間の社会行動の理解

【キーワード】社会的行動、自己、対人行動、集団行動、集合行動

【履修上の注意】OHP、パワーポイント、紙資料、ビデオテープなどを使用する。私語厳禁。

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果、概念、方法論、近年の展開について理解すること

【授業計画】1. イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 2. 社会的影響(同調、服従、役割) 3. 攻撃、暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? 4. 援助。なぜ多数の人が目撃しているながら殺人を傍観していたのか? 5. 集団行動(リーダーシップ研究、「プロジェクト X」視聴) 6. 集合行動(流言、うわさ、群衆行動) 7. 言語・非言語

- コミュニケーション(視線行動など) 8. 抑うつつ社会心理学. 認知の歪み, 自己注目, 相互作用モデルとの関連 9. 自己呈示と対人不安 10. 対人魅力. 近接性と好意, 身体的魅力, 類似性と好意, 返報性 11. 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 12. 自己開示-対人関係の発展や健康への影響 13. 社会的認知(原因帰属など) 14. 自己意識, 自己評価研究とその臨床領域への応用 15. 試験 16. 総括
- 【成績評価】 三分の二以上の出席した者に対して, 期末試験結果による評価を行う.
- 【再試験】 行わない
- 【教科書】 参考書・安藤清志他 社会心理学 岩波書店, 坂本真士・佐藤健二 はじめての臨床社会心理学 有斐閣
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219395>
- 【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 木曜日 12時~13時, 3S05室, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

空間デザイン論

2 単位 3 年 (後期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

- 【授業目的】 住宅設計及び大学施設設計を通して, 「デザインする」という行為(条件の整理, 課題の発見, アイディアの検討, かたちの実現)について学ぶ. 講評会でのプレゼンテーションを通して, 自らの考えを論理的に説明することを学ぶ.
- 【授業概要】 住宅設計及び大学施設設計を行い, 設計した住宅, 大学施設についてのプレゼンテーションを行う.
- 【キーワード】 デザイン, 建築計画, シミュレーション
- 【関連科目】 『仮想環境構築法 I』(0.3, ⇒187 頁), 『空間デザインゼミナール』(0.7, ⇒189 頁)
- 【履修上の注意】 空間デザインを卒業研究として専攻する場合は履修すること.
- 【到達目標】 自ら課題を発見し, 課題を様々な視点から検討し, 纏められるようになる.
- 【授業計画】 1. 空間のデザインとはなにか? 2. 住宅設計課題の説明 3. エスキスの作成 1 立地と配置 4. エスキスの作成 2 空間の連結性 5. エスキスによる設計チェック 6. 設計作業 1 3 面図 7. 設計作業 2 パース 8. 講評会 9. 大学施設設計課題の説明 10. 大学研究室におけるコミュニケーション 11. エスキスの作成 1 立地と配置 12. エスキスの作成 2 空間の連結性 13. エスキスによる設計チェック 14. 設計作業 1 3 面図 15. 設計作業 2 パース 16. 講評会
- 【成績評価】 (設計課題)×(授業への取り組み)
- 【再試験】 実施せず
- 【参考書】 授業内で適宜, 指定
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219404>
- 【連絡先】
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 5-6(他の時間帯でもメールなどで連絡の上, 随時可))

人間社会学科 地域システムコース 地域社会サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

地域社会ゼミナール AI(その 1) ...高橋/3 年(前期).....	224
地域社会ゼミナール AI(その 2) ...高橋/4 年(前期).....	224
地域社会ゼミナール BI (その 1) ...榎田/3 年(前期).....	225
地域社会ゼミナール BI (その 2) ...榎田/4 年(前期).....	225
地域社会ゼミナール CI (その 1) ...矢部/3 年(前期).....	225
地域社会ゼミナール CI (その 2) ...矢部/4 年(前期).....	226
地域社会ゼミナール DI (その 1) ...樋口/3 年(前期).....	226
地域社会ゼミナール DI (その 2) ...樋口/4 年(前期).....	226
地域社会ゼミナール AII(その 1) ...高橋/3 年(後期).....	227
地域社会ゼミナール AII(その 2) ...高橋/4 年(後期).....	227
地域社会ゼミナール BII (その 1) ...榎田/3 年(後期).....	227
地域社会ゼミナール BII (その 2) ...榎田/4 年(後期).....	228
地域社会ゼミナール CII (その 1) ...矢部/3 年(後期).....	228
地域社会ゼミナール CII (その 2) ...矢部/4 年(後期).....	228
地域社会ゼミナール DII (その 1) ...樋口/3 年(後期).....	229
地域社会ゼミナール DII (その 2) ...樋口/4 年(後期).....	229
社会福祉研究 ...榎田/3 年(後期).....	229
社会情報分析法 ...矢部/2 年(後期).....	230
社会変動研究 ...樋口/2 年(前期).....	230
経営戦略論 ...高橋・石田/3 年(後期, 集中).....	230
民俗学研究 I ...高橋/2 年(後期).....	230
空間デザイン論 ...掛井/3 年(後期).....	231
地域構造論研究 I ...豊田/2 年(後期).....	231
地域構造論研究 II ...田中/2 年(後期).....	231
地域変容論研究 I ...平井/2 年(後期).....	231
地域変容論研究 II ...高橋/2 年(後期).....	232
地域経済論 ...中嶋/2 年(前期).....	232
ジェンダー研究 ...北村・平木/2 年(後期).....	232
自然地理学研究 -吉野川流域の地形環境と自然災害- ...古田・平井/2 年(前期).....	233
地誌学 ...平井/2 年(前期).....	233
地域スポーツ社会学 ...佐藤/2 年(前期).....	233
レジャーマーケティング論 ...行實/2 年(後期).....	233
障害者スポーツ論 ...小原・佐藤/2 年(前期).....	234
国際関係論 I ...養場/3 年(前期).....	234
異文化間コミュニケーション(その 1) ...坂田/2 年(前期, 集中)...	234
異文化間コミュニケーション(その 2) ...坂田/2 年(後期, 集中)...	235
ドイツの社会と文化(その 1) ...ヘルベルト/2 年(前期).....	235
ドイツの社会と文化(その 2) ...ヘルベルト/2 年(後期).....	235
比較文化研究(その 1) ...依岡/2 年(前期).....	235
比較文化研究(その 2) ...依岡/2 年(後期).....	236
社会心理学 ...佐藤/2 年(後期).....	236

地域社会ゼミナール AI(その 1) 2 単位 3 年(前期)
高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】 この授業は、文化人類学・民俗学的手法を用いて地域研究を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者には文化人類学・民俗学の基礎概念を修得してもらうとともに、実際に自ら研究テーマを設定し調査研究(フィールドワーク)を進め、レポートを書くという経験を通して、文化人類学・民俗学の研究の視点と実践能力を体得してもらう。

【授業概要】 文化人類学ゼミナール

【キーワード】 文化人類学, 民俗学, 地域文化, フィールドワーク

【関連科目】 『地域社会ゼミナール AI(その 2)』(0.5, ⇒224 頁), 『地域社会ゼミナール AII(その 1)』(0.5, ⇒227 頁), 『地域社会ゼミナール AII(その 2)』(0.5, ⇒227 頁)

【履修上の注意】 地域社会ゼミナール AII(その 1) とあわせて通年で受講すること。

【到達目標】 文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、レポートにまとめることができる。

【授業計画】 1. 3 年次では、受講者各自の関心に応じて研究テーマを設定し、実際の調査(フィールドワーク)を行い、レポートを作成するという作業を通して、地域調査に関する実践的な能力を高めていく。前期のゼミナールにおいては、最初のステップとして、自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため、いくつかの研究論文を選び、内容をまとめて発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し、調査や分析の方法を検討しながら、実際の調査に向けた準備を行う。2. 授業ではあわせて、文化人類学・民俗学の調査方法(フィールドワーク)、研究の視点・方法に関する文献の輪読を進め、調査・研究を主体的に進める上での基礎能力を涵養していく。

【成績評価】 授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣, 2001 年
- ◇ 伊藤重人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣, 2007 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社, 2007 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218781>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィス
アワー: 月曜 12:00-13:00)

地域社会ゼミナール AI(その 2)

2 単位 4 年(前期)
高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】 この授業は、文化人類学・民俗学的手法を用いて卒業研究(卒業論文作成)を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者は卒業研究の作成を目指して、文化人類学・民俗学の領域の中から自由に各自の研究テーマを設定し、授業中の発表・討議をふまえ、その研究内容の深化をはかる。

【授業概要】 文化人類学ゼミナール

【キーワード】 文化人類学, 民俗学, 地域文化, フィールドワーク

【関連科目】 『地域社会ゼミナール AI(その 1)』(0.5, ⇒224 頁), 『地域社会ゼミナール AII(その 1)』(0.5, ⇒227 頁), 『地域社会ゼミナール AII(その 2)』(0.5, ⇒227 頁)

【履修上の注意】 地域社会ゼミナール AII(その 2) とあわせて通年で受講すること。

【到達目標】 文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。

【授業計画】 1. 4 年次前期には、卒業研究のテーマを確定し、調査・分析を着実に進めていくことが求められる。第一に、これまでの先行研究を広範かつ綿密に読みこなし、その方法論を学びとりながら応用や展開の可能性を探ることが重要である。第二に、独自の調査によって実証的なデータを収集し、研究目的にふさわしい分析を加えていかななくてはならない。授業では、それぞれの作業の進展に応じて数回の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討議をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。

【成績評価】 授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣, 2001年
- ◇ 伊藤重人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣, 2007年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社, 2007年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218782>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

地域社会ゼミナール BI (その1)

2 単位 3 年 (前期)
 榎田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 家族も福祉も医療も社会的なものであり、一種の制度である。このような社会秩序としての制度、とりわけ、人と人が出会っている場面で観察できる相互行為秩序の研究手法としてのエスノメソドロジー・会話分析を、演習形式で基礎から応用まで教授する。具体的には、国内外の議論を文献に基づいて概観し、さらに、実際のデータを扱わせることで技法に習熟してもらい、国内最速の約8ヶ月間で、オリジナル・データに基づくそれなりの論文が書けるよう速成しよう。なお、平成23年度と26年度は4年次生(以上)の学生のみで構成するので、当該年度の3年次生は履修申請を行わないこと。逆に、榎田を指導教官とする卒論生は、その卒業年度に開かれる本演習を必ず履修すること。また、年度末には『ゼミ論集』を作成するので、その覚悟で臨むこと。

【授業概要】 エスノメソドロジー的相互行為分析の基礎から応用まで

【キーワード】 エスノメソドロジー, 会話分析, 相互行為分析, 芸としてのコメント, 知の技法

【履修上の注意】 1. 演習という性格上規模の限界があるので、希望者が多い場合は調整する。2. 地域社会サブコース所属の3年次生は、サブコース所属教官が開講しているゼミナールを、最低限一つは履修すること。また、地域社会サブコース所属の2&3年次にはいずれかの年度に所属サブコース教員が開講している調査実習を必ずひとつは履修することが望ましい。3. 知識不足が顕著なものには、「課題図書」を指定するので自習すること。

【到達目標】 相互行為分析の基礎を身につける。卒業論文(エスノメソドロジー以外の領域も相談の上引き受ける場合がある)およびゼミ論文に必要なテキスト読解能力を身につける。

【授業計画】 前期は、まず4月に「これまでの徳大での学習・研究生生活の総括」を行い、卒論・ゼミ論に向かう構えを作る。ついで『エスノメソドロジーを学ぶひとのために』『実践エスノメソドロジー入門』『語る身体・見る身体』中の主要論文を読み、各自のテーマ設定を行う。前期後半から後期にかけては各人の研究発表を行うと共に、関連する邦文・欧文献(たとえば、『文化と社会』第2号所収の諸論文)を輪読する。分担部分の報告者1名と討論者1名は必ずレジュメを作成してこよう。レジュメの作成技法およびコメント・討議する際の留意点は演習の中で随時教示する。雑誌論文の検索法・取り寄せ法も教授する。最終的には、発表もコメントも芸であることを理解させたい。具体的には、あとさきを考えた、議論の流れを誘導するようなコメントを行う能力の獲得を目指したい。なお、必要に応じて合宿を実施し、長時間討論や、プレゼンテーション能力の涵養にも留意する。

【成績評価】 平常点(発表と討論の様子)を基本とするが、学習を促すための中間テストでの点を加点の素材として加える可能性もある。

【再試験】 おこなわない

【教科書】

- ◇ 教科書(以下のものを想定しているが履修者人数分を著者割りで取り寄せる予定なので事前入手の必要はない) 山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣 2004
- ◇ 好井 裕明・串田 秀也編『エスノメソドロジーを学ぶひとのために』世界思想社 2010.
- ◇ 山崎敬一・西阪仰編『語る身体・見る身体』ハーベスト社 1997
- ◇ 『文化と社会』第2号 ISBN:-4-89616-127-0, マルジュ社 2000
- ◇ 参考書 西阪仰『心と行為-エスノメソドロジーの視点-』岩波書店 2001
- ◇ 西阪仰『相互行為分析という視点』金子書房 1997
- ◇ サーサス/ガーフィンケル他『日常性の解剖学』マルジュ社 1989
- ◇ 好井・山田編『会話分析への招待』世界思想社 1999
- ◇ D. サドナウ『病院でつくられる死』せりか書房 1992

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218785>

【連絡先】

⇒ 榎田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 はとときどき, 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14時~15時の予定(面談申込書あり, 榎田研ドアに掲出。))

【備考】 地域調査実習を担当する年度は、卒論生にのみ開講する。そうでない年度は3年生にも開講する(予定)

地域社会ゼミナール BI (その2)

2 単位 4 年 (前期)
 榎田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 (その2)は平成24年度開講用とする。平成24年度の具体的な内容は未定であるが概ね以下のとおり。家族も福祉も医療も社会的なものであり、一種の制度である。このような社会秩序としての制度、とりわけ、人と人が出会っている場面で観察できる相互行為秩序の研究手法としてのエスノメソドロジー・会話分析を、演習形式で基礎から応用まで教授する。具体的には、国内外の議論を文献に基づいて概観し、さらに、実際のデータを扱わせることで技法に習熟してもらい、国内最速の約8ヶ月間で、オリジナル・データに基づくそれなりの論文が書けるよう速成しよう。なお、西暦奇数年度は4年次生(以上)の学生のみで構成するので、当該年度の3年次生は履修申請を行わないこと。逆に、榎田を指導教官とする卒論生は、その卒業年度に開かれる本演習を必ず履修すること。また、年度末には『ゼミ論集』を作成するので、その覚悟で臨むこと。なお、毎年テキストの違う部分を使うので本演習は続けてとつても違う内容を学ぶことができる。また後期で扱うオリジナルテーマも毎年違ったものを課題とするように促す。

【授業概要】 エスノメソドロジー的相互行為分析の基礎から応用まで

【履修上の注意】 1. 演習という性格上規模の限界があるので、希望者が多い場合は調整する。2. 地域社会サブコース所属の3年次生は、サブコース所属教官が開講しているゼミナールを、最低限一つは履修すること。また、3年次には当該年度に所属サブコース教員が開講している調査実習を必ずひとつは履修すること。3. 知識不足が顕著なものには、「課題図書」を指定するので自習すること。

【到達目標】 相互行為分析の基礎を身につける。卒業論文(エスノメソドロジー以外の領域も相談の上引き受ける場合がある)およびゼミ論文に必要なテキスト読解能力を身につける。

【授業計画】 前期は、まず4月に「これまでの徳大での学習・研究生生活の総括」を行い、卒論・ゼミ論に向かう構えを作る。ついで『実践エスノメソドロジー入門』『語る身体・見る身体』中の主要論文を読み、各自のテーマ設定を行う。前期後半から後期にかけては各人の研究発表を行うと共に、関連する邦文・欧文献(たとえば、『文化と社会』第2号所収の諸論文)を輪読する。分担部分の報告者1名と討論者1名は必ずレジュメを作成してこよう。レジュメの作成技法およびコメント・討議する際の留意点は演習の中で随時教示する。雑誌論文の検索法・取り寄せ法も教授する。最終的には、あとさきを考えた、議論の流れを誘導するようなコメントを行う能力の獲得を目指したい。なお、必要に応じて合宿を実施し、長時間討論や、プレゼンテーション能力の涵養にも留意する。

【成績評価】 平常点(発表と討論の様子)を基本とするが、学習を促すための中間テストでの点を加点の素材として加える可能性もある。

【再試験】 おこなわない

【教科書】

- ◇ 教科書(事前購入の必要はない) 山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣 2004
- ◇ 山崎敬一・西阪仰編『語る身体・見る身体』ハーベスト社 1997
- ◇ 『文化と社会』第2号 ISBN:-4-89616-127-0, マルジュ社 2000
- ◇ 参考書 西阪仰『心と行為-エスノメソドロジーの視点-』岩波書店 2001
- ◇ 西阪仰『相互行為分析という視点』金子書房 1997
- ◇ サーサス/ガーフィンケル他『日常性の解剖学』マルジュ社 1989
- ◇ 好井・山田編『会話分析への招待』世界思想社 1999
- ◇ D. サドナウ『病院でつくられる死』せりか書房 1992
- ◇ 好井 裕明・串田 秀也編『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 2010.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218786>

【連絡先】

⇒ 榎田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 はとときどき, 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: (前期)火曜日 14時~15時の予定(面談申込書あり, 榎田研ドアに掲出。))

【備考】 平成21, 24年度は、卒論生にのみ開講する。平成22,23年度は3年生にも開講する(予定)

地域社会ゼミナール CI (その1)

2 単位 3 年 (前期)
 矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 前後期を通じて、現代社会に対しての社会学的視座と社会問題を解決する力を身につけることを目指す。前期は、文献講読を通じて、現代社会の諸問題に対する基本的な社会学的視座を習得し、後期は、まちづくりを題材に、実践的な知を身につけることを目指す。

【授業概要】 まずは、親密圏(友だち関係)を題材に、土井(2004)の文献を元に、身近な人間関係を分析する際の見方を習得する。次に、近年大きな問題になっている、失業、野宿者、貧困の問題を扱っている、湯浅(2008)を取り上げる。湯浅は、単なる評論家とは異なり、現在の野宿者問題を理論的に分析した上で、派遣村やNPOなどを通じた実践を行っている。後期につながる視点であるが、単なる社会分析に終わらず、実践に生きる社会分析を身につけて欲しい。その上で、我々現代人が進むべき社会とはどういった社会であるのかといった、マクロな視点から現代社会を再考するために、広井(2001)を取り上げる。

高度成長期以降の拡大社会から、今後の社会は人口停滞・縮小に向かう。新たに到来する社会とはこれまで我々が当然と思っていた社会とどのように異なるのか、「定常社会」というキーワードのもと、今後の社会のあり方について議論を行う。最後に後期へのつながりとして、金子(1992)を取り上げる。金子は研究者でありながら、実際のNPOなどの支援と実践を行っている。そこで経験する様々な問題点を踏まえながら、ボランティアという活動についての議論を展開している。学術的に分析することと、実践することの交差を議論する。

【キーワード】社会学, 貧困, 定常型社会, ボランティア, 現代社会

【到達目標】文献講読を通じて、現代社会を見る上での基本的な視点を身につけること

【授業計画】1. ガイダンス 2. 『「個性」を煽られる子どもたち:親密圏の変容を考える』3. フリーター漂流ビデオ視聴 4. 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』1 5. 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』2 6. 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』3 7. 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』4 8. 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』1 9. 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』2 10. 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』3 11. 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』4 12. 『ボランティア:もうひとつの情報社会』1 13. 『ボランティア:もうひとつの情報社会』2 14. 『ボランティア:もうひとつの情報社会』3 15. 『ボランティア:もうひとつの情報社会』4 16. 『ボランティア:もうひとつの情報社会』5

【成績評価】成績評価は平常点(ゼミにおけるプレゼンテーションと貢献)

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ 土井隆義, 2004 『「個性」を煽られる子どもたち:親密圏の変容を考える』岩波ブックレット 433
- ◇ 湯浅誠, 2008 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』岩波書店
- ◇ 広井良典, 2001 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』岩波書店
- ◇ 金子郁容, 1992 『ボランティア:もうひとつの情報社会』

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218789>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】「隔年開講」本年度開講

地域社会ゼミナール CI (その2)

2 単位 4 年 (前期)

矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】現在、地域社会は様々な問題を抱えており、そこからの再生は大きな政策的課題でもある。このような問題に対応する、新たな地域の担い手として、行政や企業でない、市民セクター、NPO といった新しい動きが注目されており、それらは「地域自立」といった視点からまともなように思える。そこで、本ゼミナールでは、まちづくりをテーマに現在の地域社会の抱える様々な問題点の把握と分析、その上で地域自立の可能性の検討、また、可能であれば、自ら問題解決の主体になることも視野に入れた問題解決方法を議論、実践してゆきたいと考えている。加えて、このような市民セクターやNPOに関わっている人々は、特別な人ではなく、普通の社会人であるが、今後の社会の新しい方向性がある程度見えている中で生活している。そこで、このゼミナールでは、このような新しい地域社会の潮流に触れている普通の人をゲストスピーカーと呼び、まちづくりを実践している彼らと議論する中で、自分なりの今後の都市再生への感触をつかんで欲しいと考えている。

【授業概要】都市の衰退と再生過程に関する研究

【履修上の注意】親が自営業主で、卒業後、地元に戻り家業を継ごうか迷っている人、また、親元に戻り就職しようと考えている人には是非、本ゼミを受講して欲しい。また、地元徳島のまちづくりに関心をもっていたり、すでにそうした活動を行っている受講生を大歓迎する。大学にいるより現場に出たり、遊ぶのが大好き、もしくは、インタビューは苦手だが、Web 検索したり図書館にこもって文献検索するのは大好きという受講生も大歓迎する。本授業では、自分の得意なものをバックグラウンドに、議論に参加することが要求される。また4年生の場合、このゼミナールは卒論研究の指導と直接関連するので、受講希望者は、担当教官と相談の上で、このゼミナールの受講を決めること。

【到達目標】都市社会構造と都市の衰退と再生過程に対する理解を深め、それらを分析する視点と都市問題を自分たちの力で解決する術を身につける。

【授業計画】1. 授業では、まず矢部(1997)、小林・山本(1999)をテキストに、現在の商業を中心としたまちづくりの現状と問題点、先進事例の目指している方向性を理解してもらう。また、私は1999年より毎月1回1週間弱滋賀県長浜市に滞在し、地元のみまちづくり運動に関わりながら調査(参与観察)を行っている。その報告を行い、現場サイドからの理解を深めてもらう。加えて、長浜でのまちづくり活動を通じて知り合った人々をゲストスピーカーとして呼び、現在進行形の問題に関する生きた議論してもらおうと考えている。本ゼミを通じて、地元徳島のまちづくりに触れたいと考えているので、月に

1回はゼミでまちあるきを行い、座学と現場のバランスのとれた議論を行えるようにする予定である。2. 前期のうちに各自の研究テーマを発表し、各自のテーマに関連した先行研究について検討すると共に、後期にかけて各々データの収集・分析やフィールドワークをおこなう。後期末には、レポートとして分析・調査結果をまとめる。

【成績評価】成績評価は平常点(ゼミにおけるプレゼンテーションと貢献)と期末レポートによる。詳しくは授業の中で説明する。

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ テキスト
- ◇ 矢作弘『都市はよみがえるか:地域商業とまちづくり』岩波書店, 1997
- ◇ 小林重敏・山本正堯『既成市街地の再構築と都市計画(新時代の都市計画3)』ぎょうせい, 1999
- ◇ 矢部拓也『地方小都市再生の前提条件:滋賀県長浜市第三セクター「黒壁」の登場と地域社会の変容』『日本都市社会学年報』18, 2000
- ◇ 参考書
- ◇ 日本政策投資銀行地域企画チーム編著『自立する地域:その課題と戦略』ぎょうせい, 2001
- ◇ 日本政策投資銀行地域企画チーム編著『錦おりなす自立する地域:9つの視点から見た100の振興プロジェクト』ぎょうせい, 2002
- ◇ 金子郁容『コミュニティ・ソリューション:ボランティアな問題解決にむけて』岩波書店, 1999
- ◇ ピックパンス編『都市社会学:新しい理論的展望』山田他共訳, 恒星社厚生閣, 1982
- ◇ 藤村望洋『早稲田発 ゴミが商店街を元気にした!』商業界, 2001

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218790>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

地域社会ゼミナール DI (その1)

2 単位 3 年 (前期)

樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】本年度は、社会的な考え方、発想の仕方を1年かけて習得する。身近なものや社会現象を社会的にみるとは、いったいどのようなことなのか。社会学の古典が提示する命題の解説、さらにそれをさまざまな例にひきつけて解釈することにより、普段とは異なるものの見方ができるようにしていきたい。

【授業概要】さまざまな命題の理解・応用を通じた社会的思考の醸成。教科書のほか、必要に応じて新聞記事などの補助資料を用いる。文献を読んで、それをまず理解してもらうことから始め、レジュメの切り方、議論の仕方を学ぶ。

【履修上の注意】毎回1回は必ず発言してもらう。どんな現象に対しても自分なりの意見を持てるようになってほしい。

【到達目標】輪番でレジュメをきちんと作成し、そのうえで参加者全員が命題や概念を事例にひきつけて解釈することが、最低限の到達目標となる。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 自我の社会:ミード 3. 文化としての性差:ミード 4. 動機の語彙:ミルズ 5. 自己呈示のドラマツルギー:ゴフマン 6. 多元的現実の構成:シュッツ/バーガー 7. ダブル・バインド:ペイトン 8. 認知的不協和の理論:フェスティンガー 9. ラベリングと逸脱:ベッカー 10. 予言の自己成就:マートン 11. 外集団への敵対と内集団の親和 12. 準拠集団と相対的不満:マートン 13. 寡頭制の鉄則:ミヘルス 14. AGIL 図式:パーソンズ 15. 互酬の不均衡と権力の派生:プラウ

【成績評価】出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書 作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房, 2100 円

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218793>

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: (前期)水曜日12時~13時 (後期)水曜日 12時~13時)

地域社会ゼミナール DI (その2)

2 単位 4 年 (前期)

樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】各自の卒論に関連する文献講読、報告を行う。

【授業概要】社会的思考の育成

【履修上の注意】毎回1回は必ず発言してもらう。また、毎月1回は報告してもらう。どんな現象に対しても自分なりの意見を持てるようになってほしい。

【到達目標】レジュメをきちんと作成し、それに基づきすべての文献に対してコメントすることが、最低限の到達目標となる。

【授業計画】毎回個人報告を行ったうえで、それに対して討議する。

【成績評価】出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。
 【再試験】行わない
 【教科書】受講生と相談のうえで決める
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218794>
 【連絡先】
 ⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: (前期)水曜日12時~13時 (後期)水曜日 12時~13時)
 【備考】これは4年生向けのゼミナールであり、卒論を執筆することが受講の条件となる。

地域社会ゼミナール AII(その1) 2単位 3年(後期)
 高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】この授業は、文化人類学・民俗学的手法を用いて地域研究を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者には文化人類学・民俗学の基礎概念を修得してもらうとともに、実際に自ら研究テーマを設定し調査研究(フィールドワーク)を進め、レポートを書くという経験を通して、文化人類学・民俗学的研究の視点・実践能力を体得してもらう。
 【授業概要】文化人類学ゼミナール
 【キーワード】文化人類学, 民俗学, 地域文化, フィールドワーク
 【関連科目】『地域社会ゼミナール AI(その1)』(0.5, ⇒224頁), 『地域社会ゼミナール AI(その2)』(0.5, ⇒224頁), 『地域社会ゼミナール AII(その2)』(0.5, ⇒227頁)
 【履修上の注意】地域社会ゼミナール AI(その1)とあわせて通年で受講すること。
 【到達目標】文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、レポートにまとめることができる。
 【授業計画】1. 3年次では、受講者各自の関心に応じて研究テーマを設定し、実際の調査(フィールドワーク)を行い、レポートを作成するという作業を通して、地域調査に関する実践的な能力を高めていく。後期のゼミナールにおいては、フィールドワークの調査結果を報告し、その内容を多面的に討議・検討する。必要に応じ追加調査や分析をおこないながら、より完成度の高いレポートの作成を目指す。2. 授業ではあわせて、文化人類学・民俗学の調査方法(フィールドワーク)、研究の視点・方法に関する文献の輪読を進め、調査・研究を主体的に進める上で基礎能力を涵養していく。
 【成績評価】授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。
 【再試験】行わない。
 【教科書】教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。
 【参考書】
 ◇伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣, 2001年
 ◇伊藤亜人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣, 2007年
 ◇佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社, 2007年
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218783>
 【連絡先】
 ⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

地域社会ゼミナール AII(その2) 2単位 4年(後期)
 高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】この授業は、文化人類学・民俗学的手法を用いて卒業研究(卒業論文作成)を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者は卒業研究の作成を目指して、文化人類学・民俗学の領域の中から自由に各自の研究テーマを設定し、授業中の発表・討議をふまえ、その研究内容の深化をはかる。
 【授業概要】文化人類学ゼミナール
 【キーワード】文化人類学, 民俗学, 地域文化, フィールドワーク
 【関連科目】『地域社会ゼミナール AI(その1)』(0.5, ⇒224頁), 『地域社会ゼミナール AI(その2)』(0.5, ⇒224頁), 『地域社会ゼミナール AII(その1)』(0.5, ⇒227頁)
 【履修上の注意】地域情報ゼミナール AI(その2)とあわせて通年で受講すること。
 【到達目標】文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。
 【授業計画】1. 4年次後期には、卒業論文作成に向け、考察を深めながら調査結果をとりまとめる。論文全体をどのように構成するか、分析結果をいかに論理的に解釈するか、成果をどう説得力のある形で表現するかが問われる。それぞれの作業の進展に応じて数回の中間発表をおこない、その内容を教員および受講生全員で討議する。論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては、適切な時期にその都度指示する。2. 卒業研究には、受講者の主体的な取り組みと粘

り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。

【成績評価】授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。
 【再試験】行わない。
 【教科書】教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。
 【参考書】
 ◇伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣, 2001年
 ◇伊藤亜人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣, 2007年
 ◇佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社, 2007年
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218784>
 【連絡先】
 ⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

地域社会ゼミナール BII(その1) 2単位 3年(後期)
 樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】これは平成24年度後期分のシラバスである。家族も福祉も医療も社会的なものであり、一種の制度である。このような社会秩序としての制度、とりわけ、人と人が出会っている場面で観察できる相互行為の研究方法としてのエスノメソドロジー・会話分析を、演習形式で基礎から応用まで教授する。具体的には、国内外の議論を文献に基づいて概観し、さらに、実際のデータを扱わせることで技法に習熟してもらい、国内最速の約8ヶ月間で、オリジナル・データに基づくそれなりの論文が書けるよう速成しよう。なお、平成21年度と23年度(予定)は4年次生(以上)の学生のみで構成するので、当該年度の3年次生は履修申請を行わないこと。逆に、樫田を指導教官とする卒業生は、その卒業年度に開かれる本演習を必ず履修すること。また、年度末には『ゼミ論集』を作成するので、その覚悟で臨むこと。
 【授業概要】エスノメソドロジー的相互行為分析の基礎から応用まで
 【キーワード】エスノメソドロジー, 保健福祉, ビデオ撮影
 【履修上の注意】1. 演習という性格上規模の限界があるので、希望者が多い場合は調整する。2. 地域社会サブコース所属の3年次生は、サブコース所属教官が開講しているゼミナールを、最低限一つは履修すること。また、3年次には当該年度に所属サブコース教員が開講している調査実習は必ずひとつは履修すること。3. 知識不足が顕著なものには、「課題図書」を指定するので自習すること。
 【到達目標】相互行為分析の基礎を身につける。卒業論文(エスノメソドロジー以外の領域も相談の上引き受ける場合がある)およびゼミ論文に必要なテキスト読解能力を身につける。
 【授業計画】前期は、まず4月に「これまでの徳大での学習・研究生生活の総括」を行い、卒業・ゼミ論に向けた構成を作る。ついで『実践エスノメソドロジー入門』『語る身体・見る身体』中の主要論文を読み、各自のテーマ設定を行う。前期後半から後期にかけては各人の研究発表を行うと共に、関連する邦文・欧文献(たとえば、『文化と社会』第2号所収の諸論文)を輪読する。分担部分の報告者1名と討論者1名は必ずレジュメを作成してくること。レジュメの作成技法およびコメント・討議する際の留意点は演習の中で随時教示する。雑誌論文の検索法・取り寄せ法も教授する。最終的には、発表もコメントも芸であることを理解させたい。具体的には、あとさきを考えた、議論の流れを誘導するようなコメントを行う能力の獲得を目指したい。なお、必要に応じて合宿を実施し、長時間討論や、プレゼンテーション能力の涵養にも留意する。
 【成績評価】平常点(発表と討論の様子)を基本とするが、学習を促すための中間テストでの点を加点の素材として加える可能性もある。
 【再試験】おこなわない
 【教科書】
 ◇教科書(事前に購入する必要はない)山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣 2004
 ◇山崎敬一・西阪仰編『語る身体・見る身体』ハーベスト社 1997
 ◇『文化と社会』第2号 ISBN:4-89616-127-0, マルジュ社 2000
 ◇参考書 西阪仰『心と行為-エスノメソドロジーの視点-』岩波書店 2001
 ◇西阪仰『相互行為分析という視点』金子書房 1997
 ◇サーサス/ガーフィンケル他『日常性の解剖学』マルジュ社 1989
 ◇好井・山田編『会話分析への招待』世界思想社 1999
 ◇D. サドナウ『病院でつくられる死』せりか書房 1992

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218787>
 【連絡先】
 ⇒ 樫田(工学部キャンパス SVBL 棟 3階プロジェクト研究室1に常駐。1号館南棟1階1S19 ほとときどき, 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14時~15時の予定(面談申込書あり, 樫田研ドアに掲出).)
 【備考】平成21, 23年度は、卒業生にのみ開講する。平成22, 24年度は3年生にも開講する(予定)

地域社会ゼミナール BII (その2)

2 単位 4 年 (後期)

榎田 美雄・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 (その4) は平成 23 年度後期用のシラバス。家族も福祉も医療も社会的なものであり、一種の制度である。このような社会秩序としての制度、とりわけ、人と人が出会っている場面で観察できる相互行為の秩序の研究方法としてのエスノメソドロジー・会話分析を、演習形式で基礎から応用まで教授する。具体的には、国内外の議論を文献に基づいて概観し、さらに、実際のデータを扱わせることで技法に習熟してもらい、国内最速の約 8 ヶ月間で、オリジナル・データに基づくそれなりの論文が書けるよう速成しよう。なお、平成 21 年度と 23 年度 (予定) は 4 年次生 (以上) の学生のみで構成するので、当該年度の 3 年次生は履修申請を行わないこと。逆に、榎田を指導教官とする卒論生は、その卒業年度に開かれる本演習を必ず履修すること。また、年度末には『ゼミ論集』を作成するので、その覚悟で臨むこと。

【授業概要】 エスノメソドロジーの相互行為分析の基礎から応用まで

【履修上の注意】 1. 演習という性格上規模の限界があるので、希望者が多い場合は調整する。2. 地域社会サブコース所属の 3 年次生は、サブコース所属教官が開講しているゼミナールを、最低限一つは履修すること。また、3 年次には当該年度に所属サブコース教官が開講している調査実習は必ずひとつは履修すること。3. 知識不足が顕著なものには、「課題図書」を指定するので自習すること。

【到達目標】 相互行為分析の基礎を身につける。卒業論文 (エスノメソドロジー以外の領域も相談の上引き受ける場合がある) およびゼミ論文に必要なテキスト読解能力を身につける。

【授業計画】 前期は、まず 4 月に「これまでの徳大での学習・研究生活の総括」を行い、卒論・ゼミ論に向かう構えを作る。ついで『実践エスノメソドロジー入門』『語る身体・見る身体』中の主要論文を読み、各自のテーマ設定を行う。前期後半から後期にかけては各人の研究発表を行うと共に、関連する邦文・欧文文献 (たとえば、『文化と社会』第 2 号所収の諸論文) を輪読する。分担部分の報告者 1 名と討論者 1 名は必ずレジュメを作成してくること。レジュメの作成技法およびコメント・討議の際の留意点は演習の中で随時指示する。雑誌論文の検索法・取り寄せ法も教授する。最終的には、発表もコメントも芸であることを理解させたい。具体的には、あとさきを考えた、議論の流れを誘導するようなコメントを行う能力の獲得を目指したい。なお、必要に応じて合宿を実施し、長時間討論や、プレゼンテーション能力の涵養にも留意する。

【成績評価】 平常点 (発表と討論の様子) を基本とするが、学習を促すための中間テストでの点を加点の素材として加える可能性もある。

【再試験】 おこなわない

【教科書】

- ◇ 教科書 (事前に購入する必要はない) 山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣 2004
- ◇ 山崎敬一・西阪仰編『語る身体・見る身体』ハーベスト社 1997
- ◇ 『文化と社会』第 2 号 ISBN:-4-89616-127-0, マルジュ社 2000
- ◇ 参考書 西阪仰『心と行為-エスノメソドロジーの視点-』岩波書店 2001
- ◇ 西阪仰『相互行為分析という視点』金子書房 1997
- ◇ サーサス/ガーフィンケル他『日常性の解剖学』マルジュ社 1989
- ◇ 好井・山田編『会話分析への招待』世界思想社 1999
- ◇ D. サドナウ『病院でつくられる死』せりか書房 1992

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218788>

【連絡先】

⇒ 榎田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐) 1 号館南棟 1 階 1S19 はとときどき, 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14 時~ 15 時の予定 (面談申込書あり, 榎田研ドアに掲出。)

【備考】 平成 21, 23 年度は、卒論生にのみ開講する。平成 22, 24 年度は 3 年生にも開講する (予定)

地域社会ゼミナール CII (その1)

2 単位 3 年 (後期)

矢部 拓也・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 現在、地域社会は様々な問題を抱えており、そこからの再生は大きな政策的課題でもある。このような問題に対応する、新たな地域の担い手として、行政や企業でない、市民セクター、NPO といった新しい動きが注目されており、それらは「地域自立」といった視点からまとめられるように思える。そこで、本ゼミナールでは、まちづくりをテーマに現在の地域社会の抱える様々な問題点の把握と分析、その上で地域自立の可能性の検討、また、可能であれば、自ら問題解決の主体になることも視野に入れた問題解決方法を議論、実践してゆきたいと考えている。加えて、このような市民セクターや NPO に関わっている人々は、特別な人ではなく、普通の社会人であるが、今後の社会の新しい方向性がある程度見えている中で生活している。そこで、このゼミナールでは、このような新しい地域社会の潮流に触れている普通の人をゲストスピーカーに呼び、まちづくりを実践している彼らと議論する中で、自分なりの今後の都市再生への感触をつかんで欲しいと考えている。

【授業概要】 都市の衰退と再生過程に関する研究

【履修上の注意】 親が自営業主で、卒業後、地元に戻り家業を継ごうか迷っている人、また、親元に戻り就職をしようと考えている人には是非、本ゼミを受講して欲しい。また、地元徳島のまちづくりなどに関心をもっていたり、すでにそういった活動を行っている受講生を大歓迎する。大学にいるより現場に出たり、遊ぶのが大好き、もしくは、インタビューは苦手だが、Web 検索したり図書館にこもって文献検索するのは大好きという受講生も大歓迎する。本授業では、自分の得意なものをバックグラウンドに、議論に参加することが要求される。また 4 年生の場合、このゼミナールは卒論研究の指導と直接関連するので、受講希望者は、担当教官と相談の上で、このゼミナールの受講を決めること。

【到達目標】 都市社会構造と都市の衰退と再生過程に対する理解を深め、それらを分析する視点と都市問題を自分たちの力で解決する術を身につける。

【授業計画】 1. 授業では、まず矢部 (1997)、小林・山本 (1999) をテキストに、現在の商業を中心としたまちづくりの現状と問題点、先進事例の目指している方向性を理解してもらおう。また、私は 1999 年より毎月 1 回 1 週間弱滋賀県長浜市に滞在し、地元のまちづくり運動に関わりながら調査 (参与観察) を行っているため、その報告を行い、現場サイドからの理解を深めてもらう。加えて、長浜でのまちづくり活動を通じて知り合った人々をゲストスピーカーとして呼び、現在進行形の問題に関しての生きた議論をしてもらおうと考えている。本ゼミを通じて、地元徳島のまちづくりにも触れたいと考えているので、月に 1 回はゼミでまちあるきを行い、座学と現場のパランスのとれた議論を行えるようにする予定である。2. 前期のうちに各自の研究テーマを発表し、各自のテーマに関連した先行研究について検討すると共に、後期にかけて各々データの収集・分析やフィールドワークをおこなう。後期末には、レポートとして分析・調査結果をまとめる。

【成績評価】 成績評価は平常点 (ゼミにおけるプレゼンテーションと貢献) と期末レポートによる。詳しくは授業の中で説明する。

【再試験】 行わない

【教科書】

- ◇ テキスト
- ◇ 矢部弘『都市はよみがえるか: 地域商業とまちづくり』岩波書店, 1997
- ◇ 小林重敏・山本正堯『既成市街地の再構築と都市計画 (新時代の都市計画 3)』ぎょうせい, 1999
- ◇ 矢部拓也『地方小都市再生の前提条件: 滋賀県長浜市第三セクター『黒壁』の登場と地域社会の変容』『日本都市社会学会年報』18, 2000
- ◇ 参考書
- ◇ 日本政策投資銀行地域企画チーム編著『自立する地域: その課題と戦略』ぎょうせい, 2001
- ◇ 日本政策投資銀行地域企画チーム編著『錦おりなす自立する地域: 9 つの視点から見た 100 の振興プロジェクト』ぎょうせい, 2002
- ◇ 金子郁容『コミュニティ・ソリューション: ボランティアな問題解決にむけて』岩波書店, 1999
- ◇ ピックバンス編『都市社会学: 新しい理論的展望』山田他共訳, 恒星社厚生閣, 1982
- ◇ 藤村望洋『早稲田発 ゴミが商店街を元気にした!』商業界, 2001

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218791>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時~ 13 時)

【備考】 「隔年開講」本年度開講

地域社会ゼミナール CII (その2)

2 単位 4 年 (後期)

矢部 拓也・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 現在、地域社会は様々な問題を抱えており、そこからの再生は大きな政策的課題でもある。このような問題に対応する、新たな地域の担い手として、行政や企業でない、市民セクター、NPO といった新しい動きが注目されており、それらは「地域自立」といった視点からまとめられるように思える。そこで、本ゼミナールでは、まちづくりをテーマに現在の地域社会の抱える様々な問題点の把握と分析、その上で地域自立の可能性の検討、また、可能であれば、自ら問題解決の主体になることも視野に入れた問題解決方法を議論、実践してゆきたいと考えている。加えて、このような市民セクターや NPO に関わっている人々は、特別な人ではなく、普通の社会人であるが、今後の社会の新しい方向性がある程度見えている中で生活している。そこで、このゼミナールでは、このような新しい地域社会の潮流に触れている普通の人をゲストスピーカーに呼び、まちづくりを実践している彼らと議論する中で、自分なりの今後の都市再生への感触をつかんで欲しいと考えている。

【授業概要】 都市の衰退と再生過程に関する研究

【履修上の注意】 親が自営業主で、卒業後、地元に戻り家業を継ごうか迷っている人、また、親元に戻り就職をしようと考えている人には是非、本ゼミを受講して欲しい。また、地元徳島のまちづくりなどに関心をもっていたり、すでにそういった活動を行っている受講生を大歓迎する。大学にいるより現場に出たり、遊ぶのが大好き、もしくは、イン

タビューは苦手だが、Web 検索したり図書館にこもって文献検索するのは大好きという受講生も大歓迎する。本授業では、自分の得意なものをバックグラウンドに、議論に参加することが要求される。また4年生の場合、このゼミナールは卒論研究の指導と直接関連するので、受講希望者は、担当教官と相談の上で、このゼミナールの受講を決めること。

【到達目標】都市社会構造と都市の衰退と再生過程に対する理解を深め、それらを分析する視点と都市問題を自分たちの力で解決する術を身につける。

【授業計画】1. 授業では、まず矢作 (1997)、小林・山本 (1999) をテキストに、現在の商業を中心としたまちづくりの現状と問題点、先進事例の目指している方向性を理解してもらおう。また、私は1999年より毎月1回1週間滋賀県長浜市に滞在し、地元のみちづくり運動に関わりながら調査(参与観察)を行っている。その報告を行い、現場サイドからの理解を深めてもらう。加えて、長浜でのまちづくり活動を通じて知り合った人々をゲストスピーカーとして呼び、現在進行形の問題に関しての生きた議論をしてもらおうと考えている。本ゼミを通じて、地元徳島のまちづくりにも触れたいと考えているので、月に1回はゼミでまちあるきを行い、座学と現場のバランスのとれた議論を行えるようにする予定である。2. 前期のうちに各自の研究テーマを発表し、各自のテーマに関連した先行研究について検討すると共に、後期にかけて各々データの収集・分析やフィールドワークをおこなう。後期末には、レポートとして分析・調査結果をまとめる。

【成績評価】成績評価は平常点(ゼミにおけるプレゼンテーションと貢献)と期末レポートによる。詳しくは授業の中で説明する。

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ テキスト
- ◇ 矢作弘『都市はよみがえるか:地域商業とまちづくり』岩波書店、1997
- ◇ 小林重敬・山本正堯『既成市街地の再構築と都市計画(新時代の都市計画3)』ぎょうせい、1999
- ◇ 矢部拓也『地方小都市再生の前提条件:滋賀県長浜市第三セクター『黒壁』の登場と地域社会の変容』『日本都市社会学会年報』18、2000
- ◇ 参考書
- ◇ 日本政策投資銀行地域企画チーム編著『自立する地域:その課題と戦略』ぎょうせい、2001
- ◇ 日本政策投資銀行地域企画チーム編著『錦おりなす自立する地域:9つの視点から見た100の振興プロジェクト』ぎょうせい、2002
- ◇ 金子郁容『コミュニティ・ソリューション:ボランティアな問題解決にむけて』岩波書店、1999
- ◇ ビックパンス編『都市社会学:新しい理論的展望』山田他共訳、恒星社厚生閣、1982
- ◇ 藤村望洋『早稲田発 ゴミが商店街を元気にした!』商業界、2001

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218792>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時~13時)

地域社会ゼミナールDII (その1)

2単位 3年(後期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】前期に引き続いて、社会学的なものの考え方を学んでいく。基本的には前期の続きであり、詳しくは地域社会ゼミナールDIの内容を参考にされたい。

【授業概要】社会学的発想の習得

【履修上の注意】前期と後期はテーマが同じであり、通年で受講することが望ましいが、半期での受講も可。

【到達目標】社会学を学んだ者ならではの視点、発想、分析の仕方を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 贈与論:モース 3. 女性の交換と近親婚の禁止:レヴィ=ストロース 4. 狂気の閉じ込めと監視:フーコー 5. 犯罪の潜在的機能:デュルケム 6. 聖-俗-遊:カイヨワ 7. 生産力と生産関係の矛盾:マルクス 8. 集合行動の理論:スメルサー 9. エリートの間流:パレット 10. 権力による暴力独占と文明化:エリアス 11. プロテスタンティズムの倫理と資本主義:ウェバー 12. 自由と平等の非両立性:トクヴィル 13. 自由からの逃走:フロム 14. 高度産業社会と他人指向型:リースマン 15. 誇示的消費:ヴェブレン 16. アイデンティティとモラトリアム:エリクソン

【成績評価】出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書 作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房、2100円

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218795>

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: (後期)水曜日12時~13時)

地域社会ゼミナールDII (その2)

2単位 4年(後期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】前期に引き続いて、社会学的なものの考え方を学んでいく。基本的には前期の続きであり、詳しくは地域社会ゼミナールDIの内容を参考にされたい。

【授業概要】社会学的発想の習得

【履修上の注意】前期と後期はテーマが同じであり、通年で受講することが望ましいが、半期での受講も可。

【到達目標】社会学を学んだ者ならではの視点、発想、分析の仕方を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション 2. 贈与論:モース 3. 女性の交換と近親婚の禁止:レヴィ=ストロース 4. 狂気の閉じ込めと監視:フーコー 5. 犯罪の潜在的機能:デュルケム 6. 聖-俗-遊:カイヨワ 7. 生産力と生産関係の矛盾:マルクス 8. 集合行動の理論:スメルサー 9. エリートの間流:パレット 10. 権力による暴力独占と文明化:エリアス 11. プロテスタンティズムの倫理と資本主義:ウェバー 12. 自由と平等の非両立性:トクヴィル 13. 自由からの逃走:フロム 14. 高度産業社会と他人指向型:リースマン 15. 誇示的消費:ヴェブレン 16. アイデンティティとモラトリアム:エリクソン

【成績評価】出席点、発表の回数と内容により成績評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書 作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房、2100円

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222185>

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: (後期)水曜日12時~13時)

社会福祉研究

2単位 3年(後期)
榎田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会学の立場から社会福祉学を講じる。現代社会は福祉社会である。20世紀において社会福祉は、ケインズ主義の下、経済発展の動因であった。21世紀では、社会福祉は、人間のデータベース的管理の基盤となろうとしている。テキストを用いながら、社会福祉の現代社会的基盤を論じよう。

【授業概要】社会学の立場から考える社会福祉の研究

【キーワード】福祉社会学, 社会政策, 援助, 共生, セルフヘルプグループ, インタビュー論, 社会福祉と現代社会

【履修上の注意】教科書は生協に取り寄せてあるので(定価1700円)、そこから購入すること。また、参考書の一部は高価だが読みがいがあ。古本でよいから買ってよむとよい。出欠確認は毎回行う。とりわけ、初回のオリエンテーションは重要なので、欠席しないようにせよ。欠席者には理由を問う。なお、全学共通教育では「ボランティア論(木曜5-6限前期)」が、関連科目である。なお、受講学生数にもよるが、複数回の小論文執筆が課せられることを覚悟してほしい。大学での学習成果は、書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ。また、ダイソーでの買い物などの宿題も課せられる。日本のグローバリゼーションの状況を身をもって看取してもらう必要があるからだ。

【到達目標】現代社会を学ぶことと、社会福祉を学ぶことがどのようにつながっているのか講義する

【授業計画】1. 0. 榎田によるイントロダクション:現代社会論として福祉を考える。セルフヘルプグループ論。2. 1. 社会福祉とは 3. 2. ウェルビーイングタウン社会福祉って何だろう 4. 3. 福祉のしくみ 5. 4. レポートを書いてみよう(消費社会化をテーマとして) 6. まとめ

【成績評価】出席+テストおよびレポート

【再試験】おこなわない

【教科書】

- ◇ 岩田正美ほか著 1999『ウェルビーイングタウン社会福祉入門』有斐閣(教科書)
- ◇ 参考書 『福祉社会事典』弘文堂。
- ◇ 齋藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネヴァ書房。三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- ◇ 石川准・倉本智明編著『障害学の主張』明石書店 2002
- ◇ メイナード著榎田・岡田訳『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房 2004
- ◇ コリン・バーンズ他(杉野昭博他訳)『ディスアビリティスタディーズ:イギリス障害学概論』明石書店

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219398>

【連絡先】

⇒ 榎田(工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 ほとときどき。088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日14:00-15:00SVBL棟3階プロジェクト研究室(面談申込書あり、榎田研ドアに掲出。))

【備考】平成 22 年度は後期の金曜日 3・4 限に開講される。

社会情報分析法

2 単位 2 年 (後期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会科学において、社会調査はその研究の基礎となる方法論の一つである。その主な目的は、実際の社会における人々の様々な行為などに関するデータを収集し、分析することによって、それらを記述、説明することにある。つまり、社会調査とは、特定の社会的現象を、一定の方法を用いて言語化することであり、そのプロセス全体を指す。このクラスでは、ボンシュテット/ノーク (1990) をテキストに、そのような方法論を学び、実際の調査に必要な技術を身につけることを目指す。特に社会調査の量的手法 (サーベイ調査) に関する、SPSS (統計分析ソフト) を用いた演習が中心となる。既存の調査票とデータセットを用いて、自分の立てた仮説を検証し、その結果を解釈することが演習の目標となる。使用するデータに関しては、受講者の興味に即して、私がこれまで関わり使用することのできるデータや、公開されているデータを使用しようと考えている。

【授業概要】社会調査の手法と統計分析

【キーワード】社会調査、アンケート調査、量的調査

【履修上の注意】機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合があります。この授業を出席するものは、前期に開講される「社会統計基礎論」を履修しておくことを強く希望する。

【到達目標】サーベイ調査の手法に習熟することを目指す。

【授業計画】1. 社会調査とは何か 2. 社会調査の方法と種類-量的方法と質的方法 3. 社会調査の過程 4. 度数分布表 5. 度数分布の記述 6. クロス集計表 (カイ二乗検定) 7. 統計的推測と仮説検定 8. 2 つの平均の差の検定 (t 検定) 9. 複数の平均の差の検定 (F 検定) 10. 2 変量回帰と相関 11. 離散変数間の関連を測定する 12. 多重分割分析の理論 13. 重回帰分析 14. 因果モデルとパス解析 15. オリジナル分析のための討論会 16. 試験

【成績評価】授業毎に提出してもらう課題と期末レポート、および出席による

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ 社会調査方法論に関する教科書
- ◇ 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998
- ◇ ボンシュテット/ノーク『社会統計学-社会調査のためのデータ分析』海野道郎/中村隆監訳、ハーベスト社、1990
- ◇ 参考書
- ◇ 馬場浩也『SPSS で学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社、2002
- ◇ 鈴木義一郎『「比較」統計学のすすめ:違いを見分けるテクニック』講談社ブルーバックス (B-380)、1979
- ◇ ダレル・ハフ『統計でウソをつく法:数式を使わない統計学入門』高木秀玄訳、講談社ブルーバックス (B-120)、1968
- ◇ 古谷野巨『数学が苦手な人のための多変量解析ガイド:調査データのまとめかた』川島書店、1988
- ◇ 調査報告に関する参考書
- ◇ 佐藤俊樹『不平等社会日本:さよなら総中流』中公新書 (1537)、2000
- ◇ 岩井紀子・佐藤博樹編『日本人の姿:JGSS にみる意識と行動』有斐閣選書、2002
- ◇ 佐藤博樹編著『社会調査の公開データ:2 次分析への招待』東京大学出版会、2000

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219397>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

社会変動研究

2 単位 2 年 (前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが、社会変動論の特徴である。本講義では、そのうち現代社会の特質を把握するためのさまざまな議論を、個別領域毎に解説していきたい。今年度は、今後わたしたちが生きていく 21 世紀の特質を、過去との比較という観点からみていきたい。受講者には、自分たちが現在生活している現代社会を自分なりに理解する機会としてほしい。理解を助けるための映画を 1 回鑑賞するほか、受講生が過度に多くなればグループ・ディスカッションもしてもらう。

【授業概要】21 世紀はどういう社会なのか

【履修上の注意】この講義では、社会学の基本的な概念の解説も盛り込んでおり、社会学入門的な性格も持たせてある。ただし、知識そのものを覚えてもらうことは重視しない。社会的な思考法を学んでもらうこと、現代社会の課題や問題を自分のこととしてとらえ、自分なりの意見を持ってもらうことを重視する。そのため、毎回課題について簡単なコメントを書いてもらい、評価に加える。

【到達目標】自分で選択したテーマについて、文献を読んでデータを集め、レポートを書けるようにする (詳細は後述)。

【授業計画】1. インTRODクシヨン 2. 情報化とネットワーク社会の誕生 3. (1) 情報社会と都市の盛衰 4. (2) 情報技術と社会関係の変容 5. 3. 個人化する社会 6. (1) 個人化する家族——社会の個人化とは何か 7. (2) 新宗教と社会変動 8. 4. 身体をめぐる政治 9. (1) 身体は誰のものか?——中絶をめぐる政治 10. (2) 生殖技術と身体への介入 11. (3) 生殖技術に関わる映画鑑賞 12. (4) 生殖技術をめぐるグループ・ディスカッション 13. 5. リスク社会としての現代 14. (1) リスク社会の誕生 15. (2) リスクの何が問題なのか 16. 6. 福祉国家と労働市場の再編 17. (1) 誰が福祉を担うのか? 18. (2) 正社員からフリーターへ?

【成績評価】成績評価はレポートと出席点による。6 月に提出してもらうレポートの原案にコメントをつけて返却する。受講者は、それをもとにレポートを完成させて 8 月に提出する。毎回提出してもらう小テストが 40 点、レポートの計画書が 10 点、レポートが 50 点という配分になる。評価基準やレポートのテーマ設定、書式など詳しくは初回に説明するので、必ず出席すること。

【再試験】レポート計画書を提出している者に対して認める

【教科書】

- ◇ 毎回レジュメを配布する。関連する文献リストを初回に配布する。レポート作成にあたっては、参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる。
- ◇ 参考書 落合恵美子『21 世紀家族へ』有斐閣
- ◇ 参考書 ウルリヒ・ベック『危険社会』法政大学出版局
- ◇ 長谷川公一他『社会学』有斐閣

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219394>

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: (前期)水曜日 12時~13時)

【備考】平成 24 年度開講

経営戦略論

2 単位 3 年 (後期, 集中)
高橋 智彦郎・石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】経営戦略の定義は様々ですが、この授業では「企業の将来像とそれを達成するための道筋」として考えていきます。経営戦略論は、経営学の中でも主要なトピックの 1 つで、経営組織論、マーケティング論、人材マネジメント論、イノベーション論など様々な隣接領域と関連します。この授業は、戦略に関する理論を学び、理論を用いて企業を分析する力を養成することを目的とします。

【授業概要】経営戦略論の基本的な考え方を身につけることを目的としています。

【キーワード】戦略、組織、(持続的)競争優位

【関連科目】『経営組織論』(0.3, ⇒209 頁)

【履修上の注意】経営戦略という言葉は、普段の生活の中ではあまりピンとこないかもしれませんが、実は身近な出来事に当てはめることができます。机上の空論として扱うのではなく、生きた学問として身につけることを意識して下さい。授業中に意見を求める可能性があります。分かる範囲で回答してみてください。

【到達目標】経営戦略の理論を用いて新聞記事や雑誌記事で書かれている事柄を理解・分析できるようになること。

【授業計画】1. INTRODUCTION、経営戦略とは何か 2. 経営戦略を見る 4 つの枠組み 3. 規模の経済・経験曲線とポジショニングアプローチ (1) 4. ポジショニングアプローチ (2) 5. 一般戦略 (Porter の競争戦略) 6. 資源アプローチ 7. ロジカル・シンキング 8. 中間試験 (試験にしたらレポートにするかは未定) 9. 市場細分化 10. 市場地位別戦略 11. 学習アプローチ 12. プロダクト・ライフ・サイクル 13. PPM とゲームアプローチ 14. 多角化の理論 15. 期末試験 16. まとめ

【成績評価】期末試験 50%、中間レポート 30%、出席を兼ねた小レポート 20%

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219417>

【連絡先】

⇒ 高橋
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】進捗状況によって内容がずれる可能性があります。

民俗学研究 I

2 単位 2 年 (後期)
高橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】日本民俗学の主な研究目的は、各地に見られる民俗 (一般の人々が日常生活の中で育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式) の持つ意味を明らかにし、さらにそれらの比較検討を通して、日本の基層文化を究明することにある。このような過去適応的=歴史学的側面を持つ一方で、日本民俗学は、民俗の変化とその要因の解明、あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している。本授業では、こうした日本民俗学の基本概念について概説する。

【授業概要】 日本民俗学の基本問題
【キーワード】 民俗, 日本文化
【関連科目】 『文化人類学研究 I』(0.5, ⇒23 頁)
【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため, 授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する。
【到達目標】 日本民俗学の基本的な概念を理解し, 過去の, あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる。
【授業計画】 1. 民俗学の考え方 (民俗学の研究対象・目的・方法) 2. 社会の民俗 (イエとムラの民俗) 3. 環境の民俗 (景観・地形と民俗) 4. 生業の民俗 (海・山・里の生業と民俗) 5. 時間の民俗 (年中行事と民俗) 6. 生と死の民俗 (出産・葬儀の民俗) 7. 神と靈魂の民俗 (祖先祭祀, 他界観と民俗) 8. 境界と怪異の民俗 (異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) 9. 性と民俗 (女性の民俗, 男性の民俗) 10. 語りの民俗 (昔話・伝説・世間話の民俗) 11. 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗)(1) 12. 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗)(2) 13. 観光と民俗 (民俗の「発見」と「活用」) 14. 比較民俗学への道 (環東シナ海文化圏の民俗) 15. 民俗研究の課題と展望 (現代社会と民俗, 民俗学の現代的意義) 16. まとめ
【成績評価】 本授業の成績評価は, 授業への取り組み状況, 授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数, 期末レポートの点数を総合して行う。
【再試験】 なし
【教科書】 教科書は使用しない。毎回, 授業中にプリントを配布する。
【参考書】
 ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが, 個々のトピックに関する参考書については, 講義の中で随時紹介する。
 ◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館, 1996 年
 ◇ 松崎憲三編『民俗学の冒険』1~4, ちくま新書, 1999 年
 ◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~10 巻, 雄山閣, 1998-2000 年
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219310>
【連絡先】
 ⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)
【備考】 本年度開講せず (隔年開講, 次回は平成 24 年度開講予定)

空間デザイン論

2 単位 3 年 (後期)

掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】 住宅設計及び大学施設設計を通して, 「デザインする」という行為 (条件の整理, 課題の発見, アイディアの検討, かたちの実現) について学ぶ。講評会でのプレゼンテーションを通して, 自らの考えを論理的に説明することを学ぶ。
【授業概要】 住宅設計及び大学施設設計を行い, 設計した住宅, 大学施設についてのプレゼンテーションを行う。
【キーワード】 デザイン, 建築計画, シミュレーション
【関連科目】 『仮想環境構築法 I』(0.3, ⇒187 頁), 『空間デザインゼミナール』(0.7, ⇒189 頁)
【履修上の注意】 空間デザインを卒業研究として専攻する場合は履修すること。
【到達目標】 自ら課題を発見し, 課題を様々な視点から検討し, 纏められるようになる。
【授業計画】 1. 空間のデザインとはなにか? 2. 住宅設計課題の説明 3. エスキスの作成 1 立地と配置 4. エスキスの作成 2 空間の連結性 5. エスキスによる設計チェック 6. 設計作業 1 3 面図 7. 設計作業 2 パース 8. 講評会 9. 大学施設設計課題の説明 10. 大学研究室におけるコミュニケーション 11. エスキスの作成 1 立地と配置 12. エスキスの作成 2 空間の連結性 13. エスキスによる設計チェック 14. 設計作業 1 3 面図 15. 設計作業 2 パース 16. 講評会
【成績評価】 (設計課題)×(授業への取り組み)
【再試験】 実施せず
【参考書】 授業内で適宜, 指定
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219404>
【連絡先】
 ⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 5-6(他の時間帯でもメールなどで連絡の上, 随時可))

地域構造論研究 I

2 単位 2 年 (後期)

豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 「都市論」は, 建築学, 社会学, 歴史学, 芸術等の幅広い分野において, かつてない大きな関心を集めるようになった。こうした思潮に先んじて, 地理学では都市研究に多くの蓄積を重ねてきた。都市地理学と呼ばれる学問分野は, 空間的側面から都市の機能や形態に

注目し, これを系統立てて理解しようとする。本講義では都市をシステム論的な視点から把握し, 都市と都市との関係 (inter-urban system) と, 都市内部における地域と地域の関係 (intra-urban system) の二つの空間スケールから, 都市形成のメカニズムを広く考察する。また, 日本や世界の事例を数多く取り上げ, 現代の都市が直面する課題について空間的視点から検討をおこなう。

【授業概要】 都市地理学の基本問題
【キーワード】 地理学, 地域科学, 都市システム, 空間構造, 地域問題
【関連科目】 『地域構造論研究 II』(0.5, ⇒231 頁), 『人文地理学研究 I』(0.5, ⇒208 頁), 『都市・交通計画』(0.5)
【履修上の注意】 都市をキーワードとして各回のお話は歴史学, 社会学, 経済学, 建築学, 心理学へと広がる。授業中はノートをきちんと取って復習に役立ててほしい。この授業は教員免許取得 (中学校・社会, 高校・地歴) のための必修科目にあたる (「人文地理学研究 I」といづれか選択)。なお, 「地域構造論研究 I」(平成 23 年度開講) と「人文地理学研究 I」(平成 24 年度開講予定) とは, 隔年で交互に開講される。
【到達目標】 都市地理学が扱う幅広いテーマについて学説史をふまえた基礎的知識を学び, 複雑な現象の背後にはたらく諸要因を論理的に検討する能力を身につけることを到達目標とする。
【授業計画】 1. 都市地理学の分析視角 2. 都市の成立と歴史的展開 3. 経済発展と中心・周辺モデル 4. 都市の順位・規模モデル 5. 都市の機能と類型区分 6. 都市成長と経済基盤モデル 7. 中心地理論と都市システム 8. 中間テスト 9. 都市の内部構造論 10. 都市の地価形成と土地利用 11. 都市空間の知覚とメンタルマップ 12. 都市圏の構造変化 13. 都市構造と社会階層の分極化 14. 経済のグローバル化と世界都市 15. 期末テスト 16. 授業の総括
【成績評価】 試験 (持ち込み不可) は 2 回に分けて実施し, 出席状況など授業への取り組みと併せて成績評価をおこなう。
【再試験】 あり
【教科書】
 ◇ 高橋伸夫他著『新しい都市地理学』東洋書林, 1997 年
 ◇ 富田和暁・藤井正編『図説・大都市圏』古今書院, 2001 年
 ◇ このほか授業教材として毎回プリントを配布する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219159>
【連絡先】
 ⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~13:00)
【備考】 隔年開講のため, 平成 22 年度は開講しない。

地域構造論研究 II

2 単位 2 年 (後期)

田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】 私たちが暮らす地球上では気候・地形の自然条件も様々であれば, 言語・宗教・習俗といった人間文化も多種多様である。そのため, この地球上で発生する人文社会的現象・問題を解明するためには, 地域独特の文化的・社会経済的背景や, 地域間の空間的な相互関係を理解することが不可欠である。本講義では, 地域の諸現象を把握するための空間的概念と分析手法を学び, 地域内・間で発生する問題を考察するための目を養う。
【授業概要】 地域分析の基本問題
【キーワード】 地域構造, 地理空間, 交通
【先行科目】 『社会統計基礎論』(0.6, ⇒207 頁)
【関連科目】 『空間情報科学 I』(0.7, ⇒210 頁)
【到達目標】 地域の諸現象の分析方法を習得して, 地域構造や地域問題を把握・考察する力を身につける。
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 地域とは? 1 3. 地域とは? 2 4. 地理的事象の空間分布とパターン解釈 5. 地名とイメージ 6. メンタルマップ 7. 第 1 回テスト 8. 交通ネットワーク分析 9. アクセシビリティ 10. 重力モデル 11. 立地・配分モデル 12. 日本の航空・空港問題 13. グローバル化と世界の航空 14. チェーン店の物流システム 15. 第 2 回テスト 16. テストの解説
【成績評価】 出席および授業への取組 (30%), テストおよびレポート (70%), 単位取得には, 全レポートの提出とテスト受験が必須である。
【再試験】 なし
【教科書】 授業中に紹介する。
【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219160>
【連絡先】
 ⇒ 田中 (オフィスアワー: 木曜日 12時から13時。ただし, 出張等で不在にすることがあるため, できる限りメールでの事前連絡を勧める。)
【備考】 平成 24 年度開講

地域変容論研究 I

2 単位 2 年 (後期)

平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】「人」の移動は「文化」の移動でもあり、移植された社会組織や文化は新たな環境に適合する場合もあれば、大きく変質したり、消滅したりもする。そこで本授業では、おもに18-19世紀にヨーロッパから北アメリカに渡った農業移民をとりあげ、地理学的な視点から、フロンティア地域への移住・入植過程や開拓プロセスについて解説し、移民社会や移民文化の変容過程を考察することにした。

【授業概要】北米フロンティア:農業移民の移住と定着

【キーワード】地理学, 歴史地理学, フロンティア, 移民, 村落

【関連科目】『地誌学』(0.2, ⇒233頁)

【履修上の注意】授業ではパワーポイントなどを使用するが、配付プリント類は必ず毎時間持っていくこと。なお、地域変容論研究Ⅰは教員免許取得(中学校・社会/高校・地歴)のための選択科目でもある。

【到達目標】フロンティアへの人口移動を通じて、地域形成・地域変化のメカニズムを理解する地理学的能力を身に付ける。

【授業計画】1. フロンティア地域の特性 2. 北米フロンティアの西漸運動 3. フロンティアの歴史の意味 4. イギリス系植民者の入植地 5. フランス系植民者の入植地 6. スペイン系植民者の入植地 7. 初期開拓地における入植形態 8. 中西部の開拓とタウンシップ 9. タウンシップの土地区画 10. ソッドハウスと丸木小屋 11. 商業的穀物農業地帯の形成 12. 北米移民の出身地域 13. ヨーロッパの「周辺化」地域と移民の送出 14. 移住者の社会的特徴 15. 大量移住の形成 16. 授業のまとめ

【成績評価】本授業は講義形式で行うが、授業中に数回行う小テストや課題、出席状況、質疑応答といった授業への取り組み姿勢などにもとづく平常点での評価と、期末試験(持ち込み不可)結果による評価を併用して行う。

【再試験】無

【教科書】

- ◇ 教科書は使用しないが、受講にあたっては下記の文献などにもあたっておくこと。
- ◇ R.A. ヒリントン著/渡辺真治訳『フロンティアの遺産』研究社出版、1971年
- ◇ 渡辺真治『フロンティア』近藤出版社、1975年
- ◇ 岡田泰男『フロンティアと開拓者-アメリカ西漸運動の研究-』東大出版会、1994年

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219155>

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館中棟1階 火・金曜日 12:00-13:00)

【備考】平成23年度は開講しない、平成24年度開講予定。

地域変容論研究Ⅱ

2単位 2年(後期)

高橋 晋一・教授(併任)/社会創生学科

【授業目的】地域文化は、どのような構造を有し、地域社会の中でどのような意味を持ったものとして存在しているのだろうか。また、地域文化は、それを取り巻く(社会的、経済的、政治的などの)諸要因の変化にとともに、どのように変容していくのだろうか。本講義では、「祭り」という比較的身近な題材を通して、地域文化の構造と、変容の論理を明らかにすることを目的とする。日本の事例のみならず、世界各地の祭りの事例を取り上げながら、具体的かつわかりやすく講義を進めていきたい。

【授業概要】「祭り」を通して見る地域文化

【キーワード】地域文化, 文化変容, 祭り, 社会変動

【関連科目】『文化人類学研究Ⅰ』(0.5, ⇒23頁), 『民俗学研究Ⅰ』(0.5, ⇒230頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため、授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する。

【到達目標】地域文化の構造と変容のメカニズムを理解し、その理論を現代の具体的な文化現象に適用して考えることができる。

【授業計画】1. はじめに (1)「祭り」とは何か 2. はじめに (2)祭り研究の視点 3. 祭りの構造と機能 (1)祭りの構造-システムとしての祭り 4. 祭りの構造と機能 (2)祭りの機能-なぜ祭りを行うのか 5. 祭りの深層 (1)祭りと世界観-祭りの奥に隠された「論理」 6. 祭りの深層 (2)祭りの象徴分析-象徴体系としての祭り 7. 祭りと社会 (1)村落共同体の祭りと社会組織 8. 祭りと社会 (2)都市祭りとネットワーク 9. 祭りと社会 (3)祭りの伝承システム 10. 祭りと社会 (4)祭りの地域性-徳島県の事例より 11. 祭りのダイナミズム (1)祭りとエスニシティ-民族を象徴する祭り 12. 祭りのダイナミズム (2)祭りと国家-政治的な表象としての祭り 13. 祭りのダイナミズム (3)祭りと観光, 地域振興-経済的資源としての祭り 14. 祭りのダイナミズム (4)越境するモチーフ-祭りとグローバル化 15. 祭りのダイナミズム (5)現代社会と祭り 16. まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は、授業への取り組み状況、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数、期末レポートの点数を総合して行う。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。授業中に随時プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる。個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 芦田徹郎『祭りと宗教の現代社会学』世界思想社、2001年
- ◇ 日本生活学会編『祝祭の100年』ドメス出版、2000年
- ◇ 伊藤幹治『宴と日本文化』中公新書、1984年
- ◇ 森田一郎『祭りの文化人類学』世界思想社、1990年

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219156>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~13時)

【備考】本年度開講せず(隔年開講)

地域経済論

2単位 2年(前期)

regional economics

中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業目的】地域経済に対する関心が高まっている。都市の過密問題や地方圏の過疎問題が深まっており、実践的解決が求められているためである。地域経済学(論)はそのような要請に対応して形成された比較的新しい学問領域である。この講義は地域社会の土をなす地域経済の構成と動態を説明するための理論をやさしく伝える。

【授業概要】地域経済論入門:地域経済論(地域経済学)の基本骨格を理解した上で、徳島などを例に具体的な地域分析を行う。

【キーワード】地域経済, 地域問題, 地域政策, 自治

【関連科目】『日本経済史Ⅰ』(0.5, ⇒209頁)

【履修上の注意】各回の講義はレジュメとテキストを用いて運営する。

【到達目標】

1. 地域問題解決のための初歩的な理論を理解する。
2. 具体的な地域問題を経済学的に分析する手法を理解する。

【授業計画】1. 地域問題と地域経済 実践科学としての地域経済論(学)の課題と構成 2. 地域経済と国民経済「地域」経済の概念 地域経済論の系譜 3. 地域政策の理念と体系 欧米諸国の地域政策の展開過程の検討 4. 地域づくりと住民参加 地方自治体の総合計画と住民参加の諸形態 5. 地域政策の展開過程 (1)日本資本主義の蓄積様式と地域政策の関係 6. 地域政策の展開過程 (2)高度成長期の地域政策の理念と展開内容 7. 地域経済分析の方法 (1)人口構造の動態とその分析手法 8. 地域経済分析の方法 (2)産業構造の動態とその分析手法 9. 地域経済分析の方法 (3)地域経済及び地域政策の担い手の状態 10. 県内地域経済の動向 (1)過疎地域における産業と社会の状況と課題 11. 県内地域経済の動向 (2)徳島市周辺部の動向と課題 12. 地域経済と地方自治 地方行政財政活動と地方自治制度の骨格 13. 転換期の住民の課題 (1)地域づくりの新たな理念及び政策体系 14. 転換期の住民の課題 (2)新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 15. 地域経済論の学び方 地域経済論の近年の動向と研究課題

【成績評価】講義中に提出を求める数回の演習問題、期末に提出を求めるレポートの結果によって単位を認定する。

【再試験】行わない

【参考書】

- ◇ 岡田知弘『地域づくりの経済学入門』自治体研究社、2005年
- ◇ 中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社、2007年

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218778>

【連絡先】

⇒ 中嶋(総合科学部1号館2218室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期)月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

ジェンダー研究

2単位 2年(後期)

北村 修二・教授/社会創生学科, 平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】現代日本におけるセクシュアルマイノリティについて、社会的に理解する。

【授業概要】私たちは、日常生活の中で、他者と関わらずにはいられない。私たちは自らと見られたりじつと見つめられたりさえることに始まり、身振りを示し合ったり、ことばをやりとりすることで、他者を何者かだと判断しながら、他者とやりとりをしている。それによって、私たちの日常生活は営まれていると言える。そのような他者とのやりとり——相互行為——は、秩序だったものである。つまり、相互行為には決まり事がある。それが、どのようなものであるのかを、女だけれど女が好きだったり、女に生まれたけれど男として生きようとしているような人びと——セクシュアルマイノリティ——の経験から見ていく。その経験から、私たちが当たり前に生きている性別に関わる秩序が、そのようなものを一緒に振り返り、それによって、私たちが生きている社会がどのような社会であるのかを考えていく。なお、授業中に書いてもらったりアクションペーパーによって、質問を受け付け、また理解度を確認する。

【キーワード】ジェンダー, 身体, 社会学, 性同一性障害, スティグマ, バッシング, セクシュアルマイノリティ, カミングアウト, 性自認

【履修上の注意】適宜資料を配付し, 文献を紹介する。

【到達目標】現代日本におけるセクシュアルマイノリティについて, 社会的に理解する。

【授業計画】1. 自己紹介, 講義のイントロダクション 2. セクシュアルマイノリティと基本用語の説明 3. ドラマ「わたしがわたしであるために」(1) 4. ドラマ「私が私であるために」(2)・次回の導入(スティグマとバッシング) 5. 性同一性障害と相互行為 6. 医療(1)性同一性障害の精神療法の実例(映像含む) 7. 医療(2)性別の基準を再考する 8. 性同一性障害者特例法 9. レズビアン(1)カミングアウト(映像含む)・婚姻の問題(1)映画「ウーマンラヴウーマン」(1) 10. 婚姻の問題(様々な法律と婚姻形態) 11. 「ウーマンラヴウーマン」(2)(3)解説 12. 性的指向と性自認再考 13. いかにして「ふつう」の外見に駆り立てられるのか(1) 14. いかにして「ふつう」の外見に駆り立てられるのか(2) 15. 多様になってきている「性同一性障害」のあり方 16. ドキュメンタリー「まんこ独り語り」(まとめ)

【成績評価】レポートによって理解度を確認する。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は使用しない。

【参考書】加藤秀一・石田仁・海老原暁子,2005,『図解雑学ジェンダー』ナツメ社。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219061>

【連絡先】
⇒ 北村 .
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 21 年度開講(隔年開講)。平成 21 年度の本授業は夏期集中として, 9 月 24 日 8:40 から 27 日 11:55 にかけて開講される見込みです。

自然地理学研究 -吉野川流域の地形環境と自然災害- 2 単位
2 年(前期)

古田 昇・非常勤講師/総合科学部, 平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】吉野川流域の豊かで多様な自然環境と人々との関わりを, 他地域と比較しながら考えるとともに, 自然災害の履歴や減災に向けたプランの検討を行う。

【授業概要】河川がつくる地形・地形形成過程をもとに地形環境の多様性を述べる。

【キーワード】地理学, 河川環境, 災害, 吉野川

【履修上の注意】この授業科目は, 教員免許取得(中学校・社会/高校・地歴)のための科目でもある。平成 22 年度は開講するが, 平成 23 年度は開講しない可能性もあるため, 受講に際しては注意を要す。

【到達目標】地形環境とその歴史的变化を理解し, 将来の生活へ活かす。

【授業計画】1. 授業にあたってのガイダンス 2. 吉野川を知っていますか? 3. 四国, 吉野川の地理的概要 4. 河川がつくる地形, 河川により変化する地形 5. 吉野川中・上流部の山地と河川 6. 中・上流域の自然環境を活かした生活 7. 吉野川下流部の地形環境 8. 吉野川下流部における自然堤防の発達 9. 吉野川下流域における沖積平野の形成 10. 河川と海洋との接点 11. 自然災害はなぜなくなるのか 12. 被災のレベルに地域差が生まれるのは? 13. 木も大切, 森もなお大切 14. 見えるもの, みえないもの 15. レポート・試験 16. 授業のまとめ

【成績評価】講義内での小レポート, 筆記試験, 履修状況

【再試験】無

【教科書】教科書は使用しないが, 必要に応じてプリントを配布する。参考図書については, 随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219445>

【連絡先】
⇒ 古田 . (オフィスアワー: 授業の前後の時間)
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 23 年度 i 以降は開講しない。

地誌学

2 単位 2 年(前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】伝統的生活空間である村落の成立は, 土地開発の歴史と深く関連している。この授業では, 日本および欧米等における土地開発の進展と村落の立地・特徴について代表的な事例を取り上げ, 歴史地理学的・集落地理学的な視点から総観するものである。また, こうした事例を通じて, 人間と自然との関わりや, 東西文化の共通点や相違点についても論じていくことにしたい。

【授業概要】日本および欧米の村落

【キーワード】地理学, 地誌学, 村落

【履修上の注意】この授業科目は, 教員免許取得(中学校・社会/高校・地歴)のための科目でもある。旧カリキュラムの「日本地誌」もしくは「欧

米地誌 I」の, いずれか 1 科目への読み替えが可能である。本授業では随時, OHP やパワーポイントなどを使用するが, ノートの取り方は各自が工夫すること。

【到達目標】日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について, 時間的・空間的な展開の中で理解するとともに, 地域的な差異の特徴について把握できるようにすること。

【授業計画】1. 村落の定義 2. 村落の立地環境 3. 村落の形態 4. 古代日本の土地開発と条里制 5. 古代日本の集落形態 6. 中世起源の環濠集落と豪族屋敷村 7. 散村地域の形成と展開 8. 近世日本の新田開発 9. 北海道の開発と殖民地区画 10. 古代中国 ローマにおける方格地割 11. ヨーロッパにおける集落形態 12. 耕区制と三圃式農業 13. 中世大開墾時代の開拓村 14. 囲い込み運動と散居農場 15. 北米フロンティアのタウンシップと散居農場 16. 授業のまとめ

【成績評価】本授業は講義形式で行うが, 授業中に数回行う小テストや課題, 授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と, 期末試験(持ち込み不可)結果による評価を併用して行う。

【再試験】再試験はない。

【教科書】とくに教科書は使用せず, 必要な資料は随時配布する。中学校もしくは高校で使用した地図帳を準備しておくことよい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219200>

【連絡先】
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館中棟1階 火・金曜日12:00~13:00)

【備考】平成 23 年度開講。隔年開講のため, 平成 24 年度は開講しない。

地域スポーツ社会学

2 単位 2 年(前期)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】地域における社会的身体活動のひとつであるスポーツ行動に注目し, ウェルネス概念の根幹にある Well-being という視点から, 「人間-スポーツ-社会」の関係を探究する。現代社会における身体文化としてのスポーツの存在意義, 問題点を考察する社会学の見方考え方を習得する。

【授業概要】地域スポーツと豊かな暮らし「Well-being」の探究

【履修上の注意】テストを 2 回行う。授業では数回課題を提出してもらい評価の対象とする。

【到達目標】
1. 地域社会における文化・社会活動としてのスポーツの見方考え方を理解する力を養う
2. スポーツ社会学の基本的な理論を学ぶ

【授業計画】1. 1. 人間存在とからだ文化 2. 2. 文化としてのスポーツと地域生活:スポーツに関するライフヒストリー 3. 3. 地域における子どもの運動遊びと体力問題・スポーツ環境問題 4. 4. 遊びとスポーツの関係:Play Theory 5. 5. 運動部と地域スポーツの深い絆 6. 6. 競技スポーツと企業とメディア:中間確認テスト 7. 7. 見るスポーツとアニメと若者文化 8. 8. 見るスポーツとメディアスポーツの盛隆 9. 9. 見るスポーツと地域の活性化 10. 10. スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画:スポーツ政策と事業の関係 11. 11. 地域の構造変動と総合型地域スポーツクラブの推進 12. 12. 地域の健康生活とスポーツの功罪 13. 13. 地域活動を支えるスポーツボランティア 14. 14. 地域文化としてスポーツ空間デザイン 15. 15. 後期確認テスト 16. 16. 総括

【成績評価】筆記試験を 2 回実施し, それぞれ 40 点満点。授業課題を数回提出し, 全部で 20 点, 合計 100 点満点で評価します。

【再試験】なし

【教科書】
◇ 参考書 ノバルト, エリアス&エリック, ダニング「スポーツと文明化」法政大学出版
◇ D. ジェリー&J. ホーン「スポーツ・レジャー社会学」道和本書院
◇ 團&大橋「学校五日制と生涯スポーツ」不味堂出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219154>

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日11:55-12:45)

レジャーマーケティング論

2 単位 2 年(後期)
行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】我が国のレジャー産業は 80 兆円という市場規模にまで成長し, 現在もなお発展し続けている。本授業では, レジャー産業のなかでも特にスポーツという視点から産業全体を概観していく。具体的には, スポーツとビジネスを結びつけるために必要なマーケティングに関する技術を, 顧客志向の考え方や, 消費者行動論, 経営戦略論等も交えながら紹介することで, レジャーマーケティングに関する基本的な考え方の理解を深めることを目的とする。

【授業概要】レジャーマーケティングの基本的な考え方や技術に対する理解を深め, それらを事業戦略に反映させるための基礎知識を身に付ける。

【キーワード】 スポーツ産業、スポーツマーケティング、顧客志向、消費者行動、経営戦略

【関連科目】 『スポーツマネジメント論』(0.5, ⇒267頁), 『地域スポーツ社会学』(0.5, ⇒233頁)

【履修上の注意】 受講者は、テキストとして指定している教科書を必ず購入すること。また、毎回、授業終了時に授業内容に関する意見・感想・質問などの感想文を提出してもらう

【到達目標】 レジャーマーケティングに関する基礎知識を理解するとともに、事業戦略について思慮できる能力を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション(レジャー産業の概要) 2. スポーツ産業の発展と動向 1(進化するスポーツ産業) 3. スポーツ産業の発展と動向 2(スポーツ用品・施設(空間)産業) 4. スポーツ産業の発展と動向 3(スポーツとメディア産業) 5. スポーツマーケティングのマネジメント理論 1(基本的な考え方) 6. スポーツマーケティングのマネジメント理論 2(戦略的マーケティングミックス) 7. スポーツサービスの特徴とスポーツ消費者の行動特性 8. スポーツ組織を取り巻くステークホルダー 9. スポーツ施設のマーケティング戦略 10. スポーツイベントのマーケティング戦略 11. プロスポーツチーム・リーグのマーケティング戦略 12. スポーツスポンサーシップ 13. スポーツツーリズム 14. コミュニティビジネスとしての可能性を持つコミュニティスポーツ 15. まちづくりの担い手を育むスポーツボランティアとソーシャル消費 16. 総括

【成績評価】 評価は「出席」「学習態度」「レポート」の3つの視点で評価する。評価配分は「出席:30%」「学習態度:10%」「レポート:60%」とする。

【再試験】 実施しない

【教科書】 参考書:原田宗彦編著「スポーツ産業論第4版」杏林書院(2008)その他、資料を適宜配布する。

【参考書】

- ◇ 八代勉・中村平(編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店。
- ◇ 山下秋二・原田宗彦(編)「図解スポーツマネジメント」大修館書店。
- ◇ 原田宗彦(編)「スポーツマーケティング」大修館書店。
- ◇ 伊佐淳・松尾匡・西川芳昭(編)「市民参加のまちづくり コミュニティビジネス編」創成社。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219088>

【連絡先】

⇒ 行實(スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

障害者スポーツ論

2単位 2年(前期)

小原繁・教授/人間文化学科, 佐藤充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代社会に潜む障害者というスティグマに対して、スポーツはどのように関わっていくべきなのでしょう?障害者や障害者をスポーツという文化やその基盤となる日常生活動作の視点から考え直し、障害者スポーツに求められる身体活動の社会支援の意義を探索することを目的としています。

【授業概要】 障害者スポーツとウェルネス

【キーワード】 障害者、スポーツ、身体機能、ウェルネス

【履修上の注意】 障害者や高齢者の身体機能や身体活動の支援に焦点を当てて構成しています。途中、障害者スポーツの理解を深めるために体験実習があり、少人数での討論会も行います。

【到達目標】

1. 身体障害について基本事項を理解する。
2. 身体障害によってできることとできないことを理解する。
3. 障害者への支援の意義について理解する。
4. 障害者が実施できるスポーツの体験を通じて理解する。

【授業計画】 1. 1. ガイダンス:障害者の残存機能と身体活動 2. 2.(A)上肢障害の場合 3. 3.(B)下肢障害の場合 4. 4.(C)視覚障害の場合 5. 5.(D)聴覚障害の場合 6. 6. 身体障害者の運動実施上の注意 7. 7. 障害者スポーツ体験実習 8. 8. 「障害とは?」スティグマと障害者観を問う 9. 9. 障害者福祉の援助技術:リハビリテーションからスポーツへ 10. 10. 障害者スポーツとセルフ・エフィカシー:ICFモデルと自立支援 11. 11. 障害者のチャンピオンシップスポーツ:パラリンピック 12. 12. 障害者スポーツ支援団体の活動・スペシャルオリンピックス日本徳島 13. 13. 障害者スポーツのユニバーサルデザイン I 14. 14. 障害者スポーツのユニバーサルデザイン II 15. 15. 討論会 16. 16. 総括

【成績評価】 授業中の提出物内容と各担当者の試験によって総合的に評価します。

【再試験】 なし

【教科書】 参考書・編 祐二・佐藤充宏「障害者における僕らにスポーツ 僕らもスポーツ」ベースボールマガジン社・石川 准・長瀬 修「障害学への招待」明石書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219479>

【連絡先】

⇒ 小原(088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業後、および水曜日午後5時から6時まで研究室います。)

国際関係論 I

2単位 3年(前期)
饗場和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】 米ソがらみ合った冷戦中は、明日にも第三次世界大戦が起き、核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった。89年、米ソ首脳が握手をかわし、幸運にも人類は冷戦を脱した。ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが、まもなく幻滅が広がった。噴出する内戦・民族紛争と、拡大する貧富の格差。新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると、9/11テロの衝撃が世界を揺るがした。そして今、アフガン戦争、イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され、国際社会はいったい、どこに行こうとしているのか。この授業では、こうした変動する現代国際社会の現実を知り、そこで生起する諸問題について、特に平和と戦争に関する観点を中心に、考察する。

【授業概要】 国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ。授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも、筆者のフィールドワーク(紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など)や、新聞記者の経験などに基づく「教科書に載っていない」解説も試みたい。また、適宜、時事的な国際ニュースも取り上げ、ビデオやスライドも使う。国際関係論 I では、主に総論的、理論的、概念的な問題を扱う。

【履修上の注意】 国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており、一方だけ受講することもできるが、I で総論的、基礎的な解説を行い、II ではそれを元に各論的、発展的な内容になる面もあるので、連続して受講する方が望ましい。

【到達目標】

1. 国際社会の性質、特徴を理解すること。
2. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係、実態を知ること。
3. 国際政治と国際法の基本について、とらえ方、原理、原則を把握すること。
4. 「冷静な現実主義」と、「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと。

【授業計画】 1. (日) 国際社会の成り立ちと特徴 (1) 2. (日) 国際社会の成り立ちと特徴 (2) 3. 国際法の基本 (1) 4. 国際法の基本 (2) 5. 国際社会を見る理論的枠組 (1) 6. 国際社会を見る理論的枠組 (2) 7. 国際安全保障の諸理論 (1) 8. 国際安全保障の諸理論 (2) 9. 民族とアイデンティティ (1) 10. 民族とアイデンティティ (2) 11. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど)(1) 12. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど)(2) 13. 戦争の違法化 (1) 14. 戦争の違法化 (2) 15. 補足と総括 16. 試験

【成績評価】 授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらおうが、それらで出欠の確認も行う。試験は論述式(短答式と長文論述併用)の期末試験を行う。持ち込み不可。成績は試験の結果に、出席状況、授業中の質疑応答などを加味して判断する。

【再試験】 行わない。ただし、僅差で合格点に達しない受講者には、一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える。

【教科書】 教科書は特に指定せず、授業中に配布するレジュメ、資料に沿って解説する。参考書などは適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219152>

【連絡先】

⇒ 饗場(088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~14:30, 金曜日14:30~16:00, この時間以外でも在室時は随時可。)

異文化間コミュニケーション(その1)

2単位

2年(前期, 集中)

Cross-cultural Communications

坂田浩・助教授/国際センター

【授業目的】 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生してくことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1)受講者自身が自らの文化に気づき、(2)多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3)異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行くための具体的方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。

【授業概要】 異文化トレーニング

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【授業計画】 1. 具体的な内容・計画は以下の通り。 2. (1)「自文化を気づくトレーニング」 3. (2)「Perception/Programming」のエクササイズ 4. (3)「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 5. (4)「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 6. (5)「価値観の多様性に関するエクササイズ」 7. (6)「コミュニケーションスタイルに

関するエクササイズ」 8. (7)「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 9. (8)「Organizational/Individual Challenges」 10. (9)「多文化で共生できる人とは?:DMIS」 11. (10)「多文化で共生する為のヒント: DIE」 12. (11)「多文化で共生する為のヒント: Action Planning」 13. (12)「Action Planning: 大学内の留学生との活動を計画しましょう」 14. など

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218359>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:各集中講義時間終了後)

異文化間コミュニケーション (その2)

2 単位

2 年 (後期, 集中)

坂田 浩・准教授/国際センター

【授業目的】 本授業では、前期の集中講義を基に授業を展開するが、概要としては、(1)異文化間コミュニケーションに必要とされる技術(スキル)と態度を養う、(2)自己のあり方を振り返り、今後の自分について考える、(3)外国語に対する認識と態度を再考する、という内容を中心に授業を展開していく予定である。

【授業概要】 目的を参照

【先行科目】 『異文化間コミュニケーション (その1)』(I.0, ⇒234 頁)

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【到達目標】

1. 文化的な「違い」に対する認識と態度について再考出来るようになる
2. 自己を振り返り、望ましい自分について具体的なイメージを形成できる
3. 具体的な理想のイメージに向かっていく為に必要なコミュニケーション能力を獲得する
4. 自分とは異なる人達と有効な人間関係を構築することが出来る

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. マインドマップを使って自分の価値観を探りましょう! 3. 価値観を達成する為のヒントとリソースを考えましょう! 4. コミュニケーションエクササイズ (1): 質問・フィードバック 5. コミュニケーションエクササイズ (2): 質問・質問 (1) 6. コミュニケーションエクササイズ (3): 質問・質問 (2) 7. コミュニケーションエクササイズ (4): 自己開示 (1) 8. コミュニケーションエクササイズ (5): 自己開示 (2) 9. コミュニケーションエクササイズ (6): 傾聴 (1) 10. コミュニケーションエクササイズ (7): 傾聴 (2) 11. コミュニケーションエクササイズ (8): リーダーシップとチームワーク (1) 12. コミュニケーションエクササイズ (9): リーダーシップとチームワーク (2) 13. 今年の誓いとミッション・ステートメント 14. 人間関係・異文化とコミュニケーション 15. 予備日

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポート・発表内容を基に行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219389>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜 12:00-12:50)

【備考】 定員: 30 名まで *30 名以上の場合には、総合科学部生 (欧米言語コース 2.3 年生, 国際文化コース 2.3 年生) を優先し、残りに関しては抽選を行います。

ドイツの社会と文化 (その1)

2 単位 2 年 (前期)

ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会学的な想像力を身につける事。ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、外国人排斥思想、移民受け入れ理論、グローバル化、高齢化問題、オーストリー、ドイツの社会学的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】 1. 社会学入門:社会学とは何か、 2. ライフスタイル、文化社会学: Pierre Bourdieu 3. Bourdieu 理論のキーワード:資本、ハビトウス、階級、デステンクシオン等 4. エリートを生む学歴社会:ドイツとフランスの教育制度 5. Gerhard Schulze: 現代ドイツ社会の分析、その理論と研究デザイン 6. 日常生活の社会学:ドイツの主な五つの生活様式 7. ドイツ社会のライフスタイルグループの具体的

な描写 8. ドイツの主流社会から排除されているグループ 9. 移民社会としてのドイツ:外国人受け入れの歴史と現状 10. 排他主義と国家主義とネオナチ問題 11. 外国人受け入れ理論 1. 同化論, 統合論, 多様文化論, 超文化論 12. 若者文化 1. 1960 年代から現代までのそれぞれの若い世代の特徴 13. 若者文化 2. 現代ドイツで族化している若者の分類 14. 若者文化 3. 若者の代表的な「族」の紹介 15. 纏めと質疑応答 16. Ulrich Beck: ドイツとグローバル化をめぐる

【成績評価】 出席、レポート、発表、授業への取り組み状況などをとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書、教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218906>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】 授業は日本語で行われます。

ドイツの社会と文化 (その2)

2 単位 2 年 (後期)

ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 授業の目的は社会学的な想像力を身につける事。ドイツ、オーストリーの社会問題と趨勢を取り上げる。ライフスタイル、価値観の多様化、若者文化、移民社会、高齢化問題、(生と死の)哲学、オーストリー、ドイツの社会学的、文化的に興味深い事象を紹介します。

【授業概要】 ドイツ、オーストリーの社会の時事問題

【履修上の注意】 受講者にレポートを発表させます。居眠り厳禁

【到達目標】 様々な社会的なテーマ、問題について好奇心を持つようになり、視野を広げること。

【授業計画】 1. ドイツとオーストリーの相違と特徴 2. オーストリーの歴史、ケルト人、ローマ時代から十九世紀まで 3. 20. 21 世紀のオーストリー:政治、経済、社会、文化 4. オーストリーと EU における移民政策 5. EU の統合と組織犯罪の在り方 6. 世俗化したドイツ、オーストリーにおける宗教 7. 若い世代と宗教:精神世界、ニューエイジ思想、折衷主義 8. ドイツ社会と東洋思想:インド哲学、仏教、禅との出会い 9. bodycult と bodyart/body modification: 身体変更/改造、リストカット症候群、体の社会学 10. 高齢社会、その問題と課題 11. 西洋哲学での生と死の見方 12. 安楽死をめぐる 13. ホスピス、その歴史と理念 14. 緩和ケア、特にスピリチュアルケアについて 15. 纏めと質疑応答 16. 「ソーフィの世界」ドイツ語圏での哲学ブーム

【成績評価】 出席、レポート、発表、授業への取り組み状況などをとに総合的に評価する

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書、教材は要りません。参考書は授業を進めながら推薦します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218907>

【連絡先】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】 授業は日本語で行われます。

比較文化研究 (その1)

2 単位 2 年 (前期)

依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】 異文化やマイノリティの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間に思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】 比較文化研究、異文化理解、マイノリティの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】 比較文化、異文化理解、マルチカルチャー

【先行科目】 『比較文化研究 (その2)』(I.0, ⇒236 頁)

【関連科目】 『比較文化研究 (その2)』(0.5, ⇒236 頁), 『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒235 頁)

【履修上の注意】 受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。

【到達目標】 比較文化研究についての理解とその方法の習得、多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】 前期は、課題発想的な比較文化研究の概念を検討し、授業の導入とする。「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題点を概観する。映画やドキュメンタリー・ビデオ、新聞記事なども適宜利用して、従来の学問区分に必ずしも

とらわれない学際的・総合的な研究方法を示していく。具体的には、外国人・移民問題、文化的に見た民族問題、メルヘンと国民文化の問題、映像メディアによるホロコーストの表現の比較、「近代」に対する文化的批判、多文化社会の可能性といったテーマを考えている。文化研究の仕方として最近の「カルチュラル・スタディーズ」の成果なども紹介する。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫編『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エイカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店、E. W. サイド『オリエンタリズム』平凡社。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219308>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

比較文化研究 (その2)

2 単位 2 年 (後期)
依岡 隆児・教授/人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である。現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め、異文化研究の方法と実情を概観していく。特に、グローバル化とその問題点を紹介する。社会的マイノリティーの存在や移民の問題、モダニズムの問題、そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく。個々の文化現象の間の思いがけない結びつきや差異を発見していく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業概要】比較文化研究、異文化理解、マイノリティーの立場の理解、近代化の問題

【キーワード】比較文化、異文化理解、マルチカルチャー

【先行科目】『比較文化研究 (その1)』(1.0, ⇒235 頁)

【関連科目】『ドイツの社会と文化 (その1)』(0.5, ⇒235 頁)

【履修上の注意】受講者は日々、新聞や雑誌、映画などで異文化の問題について関心を養ってほしい。

【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得、多文化社会と文化変容への理解を深めること。

【授業計画】後期は、日本国内外の代表的な日本文化論を概観し、それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する。文化間の影響関係として、具体的には、日本の西洋モダニズム受容や、海外におけるジャポニズムから最近のマンガ・アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる。また、日本文化論に内在するナショナリズムやイデオロギー性を批判的に考察する。日本文化の雑種性への感受性を大切に、既存の日本文化のイメージにとらわれない、新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく。地域文化 (徳島) と国際性といったテーマも取り上げる予定。

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

【再試験】有

【教科書】

- 教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリント等を配布するなどして準備する。参考書として、西川長夫『増補 国境の越え方』平凡社、稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社、カミュ『異邦人』新潮文庫、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫、モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫、ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫、戴エイカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店。
- 依岡隆児『読書のススメ～ 四国から、グローバルに～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218953>

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時から13時まで。)

社会心理学

2 単位 2 年 (後期)
佐藤 健二・教授/人間文化学科

【授業目的】近年、社会心理学に対する期待は、著しく増大している。なぜなら、社会心理学は、人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて、近年生じている、さまざまな社会的行動に関する諸問題の解決に資する可能性をも持っているからである。そこで、本講義では、人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする。

【授業概要】人間の社会行動の理解

【キーワード】社会的行動、自己、対人行動、集団行動、集合行動

【履修上の注意】OHP、パワーポイント、紙資料、ビデオテープなどを使用する。私語厳禁。

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果、概念、方法論、近年の展開について理解すること

【授業計画】1. イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 2. 社会的影響 (同調、服従、役割) 3. 攻撃、暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? 4. 援助、なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? 5. 集団行動 (リーダーシップ研究、「プロジェクト X」視聴) 6. 集合行動 (流言、うわさ、群衆行動) 7. 言語・非言語コミュニケーション (視線行動など) 8. 抑うつ、社会心理学、認知の歪み、自己注目、相互作用モデルとの関連 9. 自己呈示と対人不安 10. 対人魅力、近接性と好意、身体的魅力、類似性と好意、返報性 11. 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 12. 自己開示・対人関係の発展や健康への影響 13. 社会的認知 (原因帰属など) 14. 自己意識、自己評価研究とその臨床領域への応用 15. 試験 16. 総括

【成績評価】三分の二以上の出席した者に対して、期末試験結果による評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】参考書・安藤清志他 社会心理学 岩波書店、坂本真士・佐藤健二 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219395>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 木曜日 12時~13時, 3S05室, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間社会学科 法律経済コース 授業概要

● コース共通科目

憲法 I ... 林・上原/2年(前期).....	237
民法 I ... 直井・上原/2年(前期).....	237
経済原論 I ... 眞弓/2年(前期, 集中).....	238
現代社会と経済 ... 立花/2年(前期).....	238
経営組織論 ... 高橋・石田/2年(前期, 集中).....	238
法律学演習 I ... 上原/3年(通年).....	238
政治学演習 I[国際政治学] ... 饗場/3年(通年).....	238
政治学演習 II[政治学] ... 栗栖/3年(通年).....	239
経済学演習 I ... 眞弓/3年(通年).....	239
経済学演習 II[財政学] ... 石田/3年(通年).....	239
経済学演習 III[金融論] ... 趙/3年(通年).....	239
経済学演習 IV[国際経済論] ... 水島/3年(通年).....	239
経済学演習 V ... 内藤/3年(通年).....	240
経済学演習 VI[日本経済史] ... 中嶋/3年(通年).....	240
経済学演習 VII[理論経済学] ... 立花/3年(通年).....	240
経営学演習 I[マーケティング論] ... 多田/3年(通年).....	240
憲法 II ... 林・上原/2年(後期).....	240
民法 II ... 未定/2年(後期).....	241
民法 III ... 直井・上原/3年(前期).....	241
経済法 I ... 泉・上原/2年(前期, 集中).....	241
経済法 II ... 泉・上原/2年(後期, 集中).....	241
商法 I ... 清水/2年(前期).....	241
商法 II ... 清水/2年(後期).....	242
企業取引法 ... 清水/3年(前期).....	242
行政法 I ... 上原/2年(前期).....	242
行政法 II ... 上原/2年(後期).....	243
環境政治学 I ... 栗栖/2年(前期).....	243
環境政治学 II ... 栗栖/3年(後期).....	243
国際関係論 I ... 饗場/3年(前期).....	243
国際関係論 II ... 饗場/3年(後期).....	244
刑法 I ... 山本・上原/3年(前期, 集中).....	244
刑法 II ... 山本・上原/3年(後期, 集中).....	244
経済原論 II ... 眞弓/2年(後期).....	244
理論経済学 I ... 立花/2年(前期).....	244
理論経済学 II ... 立花/2年(後期).....	245
金融論 I ... 趙/2年(前期).....	245
金融論 II ... 趙/2年(後期).....	245
日本経済史 I ... 中嶋/3年(前期).....	245
日本経済史 II ... 中嶋/3年(後期).....	245
地域経済論 ... 中嶋/2年(前期).....	246
財政学 I ... 石田/3年(前期).....	246
財政学 II ... 石田/3年(後期).....	246
産業経済論 I ... 内藤/3年(前期).....	246
産業経済論 II ... 内藤/3年(後期).....	247
世界経済論 I ... 水島/3年(前期).....	247
世界経済論 II ... 水島/3年(後期).....	247
会計学 I ... 三木・西村/2年(前期).....	247
会計学 II ... 三木・西村/2年(後期).....	248
経営戦略論 ... 高橋・石田/3年(後期, 集中).....	248
マーケティング論 ... 多田/3年(後期).....	248
流通論 ... 多田/2年(後期).....	248

社会科学特論 ... 饗場/2年(前期).....	248
比較思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(前期).....	249
学校制度論 ... 岩永/2年(後期).....	249
社会科学特論 II(ニュービジネス概論) ... 他/3年(前期).....	249
法律学演習 II ... 上原/4年(通年).....	249
法律学演習 III ... 清水/4年(通年).....	250
政治学演習 III[国際政治学] ... 饗場/4年(通年).....	250
政治学演習 IV[政治学] ... 栗栖/4年(通年).....	250
経済学演習 III[金融論] ... 趙/4年(通年).....	250
経済学演習 IV[国際経済論] ... 水島/4年(通年).....	250
経済学演習 V[財政学] ... 石田/4年(通年).....	251
経済学演習 VI ... 内藤/4年(通年).....	251
経済学演習 VII[日本経済史] ... 中嶋/4年(通年).....	251
経済学演習 VIII[理論経済学] ... 立花/4年(通年).....	251
経済学演習 IX ... 眞弓/4年(通年).....	251
経営学演習 III[マーケティング論] ... 多田/4年(通年).....	251

憲法 I

2単位 2年(前期)

林喜代美, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 人権意識を体得し、国家と個人、国家と国民との関係、さらには国際社会における人権はいかにあるべきか、についての洞察力を身につける。

【授業概要】 個人・自由・平等・主権をキーワードに、憲法の基本的な考え方(総論)、憲法思想、歴史的背景、統治機構の仕組みおよび人権の基礎的・総論的内容について講義する。

【キーワード】 個人, 自由, 平等, 主権

【履修上の注意】 エチケットを心得ていない学生の受講は取り消す。

【到達目標】 憲法・国際法の公法的な思考様式を体得すること。

【授業計画】 1. 近代法の価値観の成立史 2. 立憲主義の成立過程-英国, 米国, 仏国- 3. 国民主権あるいは民主主義 4. 人権の保障 5. 人権と国際法 6. 日本の憲法の歴史 7. 明治憲法の制定過程 8. 明治憲法の特質 9. 新憲法の制定過程 10. 日本国憲法の基本原理 I(国民主権・人権尊重主義) 11. 日本国憲法の基本原理 II(非武装平和主義・安全保障と国際法) 12. 憲法と国際法 13. 人権総論 14. 人権と「公共の福祉」 15. 法の下での平等 16. 試験

【成績評価】 テスト, 受講態度, 出欠により評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 根本博愛・青木宏治編『地球時代の憲法』第二版(法律文化社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219246>

【連絡先】

⇒ 林

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

民法 I

2単位 2年(前期)

直井 義典・准教授/社会創生学科, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 民法全体の基礎をなす総則部分をならびに物権法の内用の益物権について理解することにより、民法 II・民法 III で扱う担保物権法・債権法学習の基礎を固める。

【授業概要】 本講義では民法の根底をなす総則部分ならびに物権法の内用の益物権について講ずる。とりわけ総則は民法の中でも抽象度が高く難解とされる部分であるが、法律行為の無効・時効など、物権法・債権法の理解の前提となる部分であるので、できるだけ事例を挙げながらわかりやすく説明していくこととする。

【キーワード】 法律行為, 能力, 代理, 物権変動, 所有

【関連科目】 『商法 I』(0.5, ⇒241頁), 『経済法 I』(0.5, ⇒241頁)

【履修上の注意】 私法の根底をなす講義であるので、「民法 II」・「民法 III」・「商法 I」・「商法 II」・「企業取引法」・「経済法 I」・「経済法 II」のうちのいずれかの科目の履修を考えている者は必ず履修すること。初回から、六法を持参すること(『セレクト六法』・『ポケット六法』などの小型のもので足りる。できる限り新しいものを用意することが望ましい)。

【到達目標】

1. 民法の根拠をなす総則部分を理解すること。
2. 物権変動とは何かを理解すること。
3. 民法典の全体像を描けるようになること。

【授業計画】 1. 民法とは?(法律全体の中での位置づけ) 2. 法律行為の成立 1(意思の完全性) 3. 法律行為の成立 2(内容の妥当性) 4. 法律行為の成立 3(無効と取消し) 5. 法律行為の主体 1(自然人の能力) 6. 法律行為の主体 2(代理一般) 7. 法律行為の主体 3(表見代理・無権代理) 8. 法律行為の主体 4(法人) 9. 法律行為の客体(物)・時効 1(取得時効) 10. 時効 2(消滅時効)・条件・期限・期間 11. 不動産物権変動 12. 動産物権変動 13. 占有権・所有権 14. 所有権の取得・制限 15. 共有・用益物権 16. 期末試験

【成績評価】 出席点(5点)・小テスト(20点)・論述式を含む期末試験の成績(75点)による。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 大村敦志『基本民法 II第3版』(有斐閣)
- ◇ 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選 II第6版』(有斐閣)

【参考書】 初回の授業で指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219312>

【連絡先】

- ⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 10時 25分 ~ 11時 55分)
- ⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

経済原論 I

2 単位 2 年 (前期, 集中)
眞弓 浩三・教授/社会創生学科

【授業目的】 経済学におけるミクロ分析的な手法を学ぶ。

【授業概要】 標準経済学の企業の理論とゲーム理論の初歩的手法を学習する。

【到達目標】 標準経済学のミクロ理論について精通する。

【授業計画】 1. 数学の準備:微分の基礎 2. 数学の準備:多変数関数の微分 3. 数学の準備:制約条件付極値問題 4. 企業理論:導入 5. 独占 1:行動形態 6. 独占 2:課税とその影響 7. 独占的競争:導入 8. 独占的競争:行動形態 9. ゲーム理論:導入 10. ゲーム理論:クルーノーの複占理論 11. ゲーム理論:シュタッケルベルクの複占理論 12. ゲーム理論:マーケットシェアー 13. 寡占:導入 14. 寡占:行動形態 15. 定期試験 16. 総括

【成績評価】 通常の試験の結果のみで判断する。平常点などというものはない。プロセスよりも結果だけが大切であることを理解せよ。

【教科書】 教科書は指定しない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219419>

【連絡先】

- ⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午後、あらかじめメールで連絡ください。)

現代社会と経済

2 単位 2 年 (前期)
立花 敬雄・教授/社会創生学科

【授業目的】 現代社会と経済をめぐる、これまで多面的に論じられている。その成果を踏まえて、現代社会と経済を的確に理解するためには、生産力的に最も高い水準に達した資本主義経済を分析的、総合的に考察するのに必要な視座を明らかにする必要がある。本講義では、現代社会と経済の歴史的位相、現代資本主義との関連での経済学、等を検討することを通して、その新しい展開の意味を説明する。

【履修上の注意】 特になし。

【到達目標】 現代社会と経済を分析、総合する経済学等の知識を習得する。

【授業計画】 1. 1. 現代社会と経済の歴史的位相 2. 2. 経済学の現代的課題 3. 3. 資本主義社会と経済学 4. 4. 現代資本主義と経済学 5. 5. 現代社会と経済の新展開

【成績評価】 論述形式のテスト、受講態度などにより、評価を行う。

【再試験】 実施する。

【教科書】 講義時に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219347>

【連絡先】

- ⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 随時)

経営組織論

2 単位 2 年 (前期, 集中)
高橋 意智郎・, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 大学生であること、アルバイト、サークル、部活動、ボランティア活動など企業でなくとも私たちは、日常生活の中で何かしらの組織に所属しています。この授業では、組織の中の人々がどのように意思疎通を行い、組織として活動しながら目標を達成しているのか、また、組織にはどのような機能があるのかを学びます。組織の中の人、および集団レベルに焦点を当てた講義で、モチベーションやリーダーシップ、組織文化、心理的契約、集団浅慮など、企業でなくとも私たちの身の回りで起きている内容を扱います。主に組織構造や組織デザインの話を市場環境、戦略と関連させながら説明をします。

【授業概要】 組織理論の説明と応用

【キーワード】 組織 (構造)、モチベーション、戦略

【関連科目】 『経営戦略論』(0.5、⇒248 頁)

【到達目標】 組織論の理論を用いて自分の身の回りで起きている事柄を理解・解釈できるようになること。

【授業計画】 1. イントロダクション、経営組織論が扱う内容 2. 経営学の基礎:大まかな流れ 3. 経営学の基礎:様々な人間観(経済人から複雑人モデル) 4. 組織の中の個人(1):パーソナリティ 5. 組織の中の個人(2):意思決定 1 6. 意志決定 2 とモチベーション理論の基礎:内容理論 7.モチベーション理論の基礎:過程理論 8. リーダーシップ論の基礎(1):特性論から開発論へ 9. リーダーシップ論の基礎(2)と組織と環境 10. 3つの組織構造 11. ゲストスピーカー 12. 組織と戦略(1):環境分析 13. 組織と戦略(2):2つの戦略論 14. キャリア論と様々な働き方 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 1) 期末試験 50%, 中間試験 (もしくはレポート)30%, 授業中にランダムに取る出席 (20%) を考えていますが、変更する可能性があります。その場合はアナウンスします。

【再試験】 行わない

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219418>

【連絡先】

- ⇒ 高橋
- ⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

法律学演習 I Seminar(Law)

4 単位 3 年 (通年)
上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 商法は企業の組織や活動を規制する法律である。金融機関、小売業と業態を問わず、ほとんどの企業は会社形態、特に株式会社を採用している。我々は日常的に株式会社と取引しており、経済活動をする場合、何らかの形で株式会社とかわらざるを得ない。学生諸君が株式会社に就職する可能性も極めて高いものと思われる。本演習では、この株式会社を規律する会社法を中心に学習する。会社法の基礎知識を習得すると同時に、その問題点を考察することで、法的なモノの見方に触れることを目的とする。

【授業概要】 以下の項目から、受講生と相談の上、決めたい。他に希望があれば、柔軟に対応する。①会社法の従来の改正の経緯および新会社法の内容の確認、会社法の基礎知識の習得・強化・批判的な検討、②近年の重要判例の検討、③企業再編に関する論文・図書の講読、④金融商品取引法(証券取引法)の学習・検討。これらを通して、企業社会で何が問題になっているのか・問題になろうとしているのか考察していく。

【キーワード】 新会社法、レポーター制

【関連科目】 『商法 I』(0.5、⇒241 頁)、 『商法 II』(0.5、⇒242 頁)、 『企業取引法』(0.5、⇒242 頁)

【履修上の注意】 商法 I, II を受講済みであることが望ましい。単位取得の有無は問わない。これらを受講していない学生には、こちらが指定する文献を第 1 回の演習以前に読むことを求める。

【到達目標】

1. 新会社法の内容を理解する。
2. 会社法がどのように変わるのか、そこにはどのような問題点があるのかを理解する。

【授業計画】 1. 演習は全 16 回行う。演習内容は上記の通りであるが、受講者の希望に柔軟に対応する。 2. 一定数の受講者がおり、かつ希望者がいる場合には、大阪証券取引所・東京証券取引所等の見学や他大学との合同ゼミも検討する。

【成績評価】 出席、担当部分の報告、演習での発言を基準とする。

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は指定しない。教材を適宜配付する。会社法はここ数年、改正が相次いでいるため、必ず最新の六法を持参すること(『デイリー六法』『ポケット六法』『コンパクト六法』のいずれかでもよい)。

【参考書】 参考文献は、適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219316>

【連絡先】

- ⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

政治学演習 II[国際政治学]

4 単位 3 年 (通年)
襲場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】 現代の国際社会ではさまざまな問題が起き、それらはたとえば法的、経済的、文化的、歴史的な側面からも分析できるが、この演習ではこうした国際的な問題について、主に国際政治学の観点から考察する。国際安全保障、平和と戦争、民族問題、紛争解決、国連、国際協力などに関するテーマが中心になるが、ゼミ生の関心/希望を重視する。冷静な現実主義に根ざしながらも、毅然として理想主義を忘れないというスタンスで、国際政治の本質を洞察してもらいたい。

【授業概要】 国際政治の諸相

【履修上の注意】 新聞の国際面のニュースはよく読むように。

【到達目標】 国際政治に関する知識の習得と、考察力の習得。

【授業計画】 1. 文献/資料などを輪読して、その内容について毎回学生の担当者が報告を行う。他の学生はそれについて質問、意見を出し、全員で討論する。 2. 机の上の理論だけに偏らず現場感覚も重視するので、フィールドワーク、スタディツアーなどで海外に出かけてきた報告なども期待する。

【成績評価】 授業中のプレゼンテーション(発表/報告)の内容や、質疑応答、議論への参加度/貢献度、出席状況など総合的に判断して評価する。特に試験は行わない。

【再試験】 行わない。

【教科書】 ゼミ生の関心/希望を聞いてから決めて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219251>

【連絡先】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 13:30~ 14:30, 金曜日 14:30~ 16:00, この時間以外でも在室の際は随時。)

【備考】 他コースの学生も受講できるし、傍聴(単位を取らない)という形も可能。実際の授業は曜日と時間が変更になる場合があるので、事前に教員に確認すること。

政治学演習 I[政治学]

4 単位 3 年(通年)
栗栖 聡・教授/社会創生学科

【授業目的】 本演習は、環境問題を政治学的に分析する能力をつけることを目的とする。

【授業概要】 講義ではなく、演習方式で授業を実施する。

【キーワード】 環境政治学

【到達目標】 環境政治学的思考を身につけること。

【授業計画】 1. 3 年次は、テキストを定め、それを全員で輪読し、討論する。報告者とコメンテーターを毎回決め、報告者はレジュメ作成のうえ報告を行い、コメンテーターはそれに対する質問・意見を述べ、さらに全員で討論するという形態をとる。4 年次では、各自の卒論のテーマに関する発表を行い、全員でそれについて検討する。 2. 演習の具体的な内容及びテキストに関しては、ゼミ生とも相談のうえ、最初の授業で決定する予定である。

【成績評価】 ゼミでの発表、議論への参加、レポート等

【教科書】 ゼミにおいて決定する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219252>

【連絡先】

⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後2時30分~4時)

経済学演習 I

4 単位 3 年(通年)
眞弓 浩三・教授/社会創生学科

【授業目的】 資源環境経済学について学習し、各自の卒業研究テーマを決定し、卒業論文にまとめる。

【授業概要】 資源環境経済学

【キーワード】 持続可能性, エコロジー経済学, エネルギー分析, 生物経済学

【履修上の注意】 特にはなし。

【到達目標】 生物経済学の基礎的な知識を取得するとともに、数理的な取り扱いは苦にせずすむようになる。判りやすいプレゼンテーションができるようになる。

【授業計画】 この演習では資源環境経済学を学ぶ。ただし、新古典派経済学によるアプローチはとらない。ジョージ・ジェスクリューゲンが 1960 年代に提唱し始めた方法論(生物経済学)にもとづき資源環境問題に取り組む。研究対象はエネルギー分析や太陽エネルギー利用技術の自立性のシステムダイナミクスモデル分析、土地の生態学的諸問題、農産物貿易や GMO の長期的な環境への影響の考察、そして古代文明没落の生態学的分析などである。3 年次に基礎的文献を読み、4 年次のはじめに卒業研究のテーマを決定し研究報告を順次行う。学生の進捗に応じてフレキシブルに演習をする。英語の文献を中心にし、コンピュータ使用になれること、時間制限してプレゼンテーションすることにも慣れていただく。

【成績評価】 ゼミ発表および質疑応答で成績を総合的に評価する。

【再試験】 試験はしない。

【教科書】 この分野は多岐にわたるので演習時に各自の興味に応じて紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219421>

【連絡先】

⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: あらかじめメールなどで相談のうえお越しくください。)

経済学演習 II[財政学] Economics Seminar I

4 単位 3 年(通年)
石田 和之・助教/社会創生学科

【授業目的】 財政学についての基本的な理解を深める

【授業概要】 財政学の基礎を習得するため、演習形式で受講生の報告を中心にして、テキストの輪読を行う。テキストは、受講生諸君と相談のうえ、決定する。

【キーワード】 行財政改革, 税制改革, 財政, 財政分析, 地方財政

【関連科目】 『財政学 I』(1.0, ⇒246 頁), 『財政学 II』(1.0, ⇒246 頁)

【到達目標】

1. 財政学の理解を深める。
2. 学生同時の親睦を深める
3. 財政分析の手法に慣れる

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 財政学とは何か 3. 日本財政の現状と課題 4. 予算制度 5. 市場メカニズムと資源配分の効率性 6. 資源配分機能(1):公共財 7. 資源配分機能(2):外部効果 8. 資源配分機能(3):費用逓減産業 9. 所得再配分機能 10. 経済安定化機能(1):自動安定化装置 11. 経済安定化機能(2):裁量的財政政策 12. 国と地方の役割分担 13. 国と地方の税源配分 14. 政府間財政関係(1):地方交付税 15. 政府間財政関係(2):補助金 16. 官民の役割分担 17. 政府の捉え方(1):慈悲深い政府 18. 政府の捉え方(2):リバイアサン政府 19. 集団的意思決定の理論:公共選択の考え方 20. 財政の持続可能性 21. 日本の税制の現状と課題 22. 所得課税 23. 消費課税 24. 資産課税 25. その他の税:目的税 26. 公債(1):国債 27. 公債(2):地方債, 地方債計画 28. 社会保障(1):医療 29. 社会保障(2):年金 30. 財政政策

【成績評価】 授業への取り組み状況などにより評価する

【再試験】 なし

【教科書】 未定(受講生と相談の上、決定)

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/index.html/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219432>

【連絡先】

⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

経済学演習 II[金融論]

2 単位 3 年(通年)
趙 彤・准教授/社会創生学科

【授業目的】 経済学は非常に抽象的な学問である上に、数学的な手法も盛んに取り入れている学問である。「習うより慣れよ」という言葉のように、暫く演習問題を解いていくことにより自然に習得できると思われる。本当についていけるかどうかなどという不安をいらずに抱かずに取り組んでもらいたい。

【授業概要】 マクロ経済学と金融論の理論及びその演習

【履修上の注意】 金融論 I と金融論 II を履修するのが望ましい。

【到達目標】 マクロ経済学と金融理論をしっかりと習得し、マクロ経済と金融の時事問題を理論的に分析できるようにすること。

【授業計画】 『入門新しい金融論』を輪読し演習問題を解く。毎回のレポーターを決め、レポーターはテキストの内容と演習をレジュメに整理し報告する。その報告内容について、ゼミ生全員で議論する。

【成績評価】 課題、レポート、出席及びゼミへの参加姿勢を総合的に評価する。特に、報告を重視する。

【再試験】 無

【教科書】 滝川好夫 『入門新しい金融論』

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219433>

【連絡先】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12:50~14:20 水曜日 12:50~14:20)

経済学演習 II[国際経済論] Seminar: International Economics 1

4 単位 3 年(通年)
水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】 担当教員の研究対象は三分野あります。・第一は中東産油国の社会経済論。この地域はイスラームの強い影響下にあり、また、その多くが開発途上国であるため、分析方法としては経済学の手法と地域研究の手法を用います。・第二は、これと表裏をなすものとしての石油・天然ガス産業論。・第三は、これらを統合して理解するための基礎理論としての世界経済論です(ゼミの名称、には、一般的な「国際経済論」を使用)。ゼミでは、これらに関連する問題を中心に、世界経済の問題についての理解を深めます。

【授業概要】 毎回のゼミでは、世界経済論の基礎理論と現実の問題の関連を常に考えます。本年は石油・天然ガス産業の特殊性と途上国金融の基礎を考えます。

【履修上の注意】 「世界経済論Ⅰ、Ⅱ」は必修。・ゼミは、学習の場であるとともに、会議の運営とプレゼンテーションの訓練の場でも、あります。従ってゼミを受ける際には自発的な研修が必要ですが、同時に、ゼミの運営には自治意識の涵養、信頼関係の醸成が基本になります。・3年終了までに、経済史、経済学説史、近代経済学とマルクス経済学について基本的、な教科書で良いから、通読してください。そのテキストについては相談に応じます。・経済学の古典に関心を持つこと。古典には教科書にない力があります。・統計処理と語学力を高める努力を続けてください。

【到達目標】

1. 基本的論点の理解。
2. 問題の発見能力とリサーチ能力を身に付ける。
3. ディベート、および、プレゼンテーション能力を身に付ける。
4. 形式をきちんと踏まえた論文を作成する。

【授業計画】 下記に指定した図書を輪読する。

【成績評価】 出席と報告と質疑応答により判定する。

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ G. マイヤー『開発経済学概論』(岩波書店、2006年) 3780円(税込み)
- ◇ (その他、必要に応じて提示する。)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219428>

【連絡先】

- ⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail:mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp, 電話:088-656-7188(研究室))

【授業計画】 演習運営の基本ルールは、学生の自主性にに基づき、民主的に運営すること、および外部に対し公開されていることとする。前半は共通テキストの講読を行い、後半は自主課題に基づく研究レポートの作成を行う。また、4年次学生や院生との共同運営を予定しており、卒論作成の技法マスターなどの学習方法の実習を随時組み込むこととする。

【成績評価】 セミナーへの参加状況および課題論文の到達水準で評価。

【再試験】 行わない。

【教科書】 相談して決定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219429>

【連絡先】

- ⇒ 中嶋 (総合科学部 1号館 2218室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 随時)

経済学演習Ⅱ[理論経済学]

4単位 3年(通年)
立花 敬雄・教授/社会創生学科

【授業目的】 現代社会において、考えるべき問題は、多岐にわたっている。それに適切に対応していくには、一方で、現代の生産様式の特徴、例えば、技術革新、産業・経済構造や労働環境の変化、グローバルリゼーションといったことを経済学的に理解するとともに、他方で生産、経済から社会、文化、思想にいたる諸相を多面的に研究する必要がある。そのための文献を学習する。

【授業概要】 現代資本主義と経済学

【履修上の注意】 演習生の研究テーマ決定は主体性を重視する。

【到達目標】 諸問題を分析・検証する経済学等の知識を習得し、問題解決能力を養う。

【授業計画】 経済学に関する文献、や現代資本主義の諸相を明らかにした文献を共同で読み進み、討議形式で検討することを通して理解を深める。

【成績評価】 演習での報告、受講態度などにより、評価を行う。

【再試験】 実施しない。

【教科書】 演習時に相談して決める。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219430>

【連絡先】

- ⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 随時)

経営学演習Ⅱ[マーケティング論]

4単位 3年(通年)
多田 正仁・准教授/社会創生学科

【授業目的】 マーケティングとは商品開発から流通、販売促進、広告にいたるまで企業が消費者に商品を供給する一連の過程を総称するものである。マーケティングは消費者の注文にただ応じていればよいというものではなく、デザインや広告、ネーミングと結びつくことによって消費者の欲望を開発する機能を果たしており、科学というよりもアートの世界に近い。そこで今年度は流行商品のマーケティングと広告の研究を演習で取り上げる。文献ももちろん取り上げるが、それ以上に学生自身の体験報告やアンケート調査も実施して、実習の時間を多く取る。

【履修上の注意】 課外活動にも積極的に参加すること。

【到達目標】 マーケティング論に関する、基礎知識と実践法を体得する

【授業計画】 1. 「ゼミ運営方法」 2. テキストの輪読を終えた後は各人が自分の関心がある商品や広告についてレポートし、全員でそれについて討論を行う。

【成績評価】 毎週のレポート

【再試験】 行わない

【教科書】 未定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219415>

【連絡先】

- ⇒ 多田 (2204, 088-656-7170, RXN10515@nifty.com) (オフィスアワー: (前後期) 水曜日 15時~17時)

【備考】 本年度開講せず

憲法Ⅱ

2単位 2年(後期)
林 喜代美・, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 人権意識を体得し、国家と個人、国家と国民との関係はいかにあるべきか、についての洞察力を身につける。

【授業概要】 自由・平等・人権・主権・民主主義をキーワードに、憲法の人権にかかわる規定の内容を中心に講義する。

【キーワード】 自由, 平等, 人権, 主権, 民主主義

【先行科目】 『憲法Ⅰ』(1.0, ⇒237頁)

【履修上の注意】 エチケットを心得ていない学生の受講は取り消す。

経済学演習Ⅰ

4単位 3年(通年)
内藤 徹・教授/社会創生学科

【授業目的】 本演習の目的は、卒業研究の作成の基本となる経済理論の習得することである。卒業研究では各自が選択したテーマに関する経済理論分析を行ってもらう予定である。そのために必要な分析ツールを習得することを目標とする。

【授業概要】 本演習では、ミクロ経済学を取り扱う予定である。

【キーワード】 都市経済学

【先行科目】 『産業経済論Ⅱ』(1.0)

【関連科目】 『経済原論Ⅰ』(0.5)

【到達目標】 ミクロ経済学の現実問題への適用可能性を探る

【授業計画】 前半はミクロ経済学の基礎理論に関するテキストを輪読・報告を行ってもらう予定である。報告者は指定範囲を予め理解し、レジュメを作成し、当日報告(内容の解説)を行ってもらう。その中で不明な点などを参加者全員で考えて、解決していく。

【成績評価】 平素の成績

【再試験】 なし

【教科書】 開講時に相談して決定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219431>

【連絡先】

- ⇒ 内藤 (naito@kyudai.jp)

経済学演習Ⅱ[日本経済史]

4単位 3年(通年)
中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業目的】 日本経済の構造把握に歴史的にアプローチすることを学習課題とする。講義・日本経済史の内容を集団学習により深めるものである。主として戦後段階を対象とするので「日本経済論」と称される領域と重複する。ゼミ共通テーマは「戦後日本資本主義の特質の解明」だが、テキストの選定や個人の研究課題など、具体的な運営はゼミ開始後に相談して決める。

【授業概要】 日本経済の戦後史

【履修上の注意】 法律経済コースでは「演習」を中軸とした科目履修を指導している。日本経済史演習を含む各演習の履修方法については、別に資料を配布し説明を行うので、それに基づいて履修選択を行うこと。

【到達目標】 「研究する学生」に成長するための準備をする。

【到達目標】人権意識を体得し、国家と個人、国家と国民との関係はいかにあるべきか、についての洞察力を身につける。

【授業計画】1. 象徴天皇制と国民権 2. 非武装平和主義と自衛隊 3. 思想・良心の自由 4. 信教の自由 I(法制度) 5. 信教の自由 II(判例の動き) 6. 学問の自由 7. 表現の自由 I(憲法上の地位) 8. 表現の自由 II(合憲性の判断基準) 9. 人身の自由 10. 生存権と教育を受ける権利 11. 労働基本権 12. 私的所有権 13. 権力分立制 I(国会と内閣) 14. 権力分立制 II(裁判の独立) 15. 違憲審査制 16. 試験

【成績評価】テスト、受講態度、欠席により評価する。

【再試験】なし

【教科書】根本博愛・青木宏治編『地球時代の憲法』第二版(法律文化社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218590>

【連絡先】
⇒ 林
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

民法 II 2 単位 2 年(後期) 未定

【授業目的】民法のうち、債権各論部分を学習することにより、日常生活において民法が果たしている役割を理解する。

【授業概要】民法総則を学習していることを前提として債権各論部分を講ずる。ここには契約・不法行為・事務管理・不当利得という、日常生活に密接に関わり消費者問題・公害問題等の解決に必須の法的事項が含まれる。そこで、日常生活に即した具体的な事例を挙げながら説明を加えていくこととする。民法 I に比べて扱う対象が身近な分、理解し易いはずである。

【先行科目】『民法 I』(1.0, ⇒237 頁)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219313>

【連絡先】
⇒ 未定

民法 III 2 単位 3 年(前期) 直井 義典・准教授/社会創生学科, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】民法 I・II の学習をもとに、金融界で必須の債権総論・担保物権に関する知識を身につけ、民法のうち財産法領域の体系的な理解をする。

【授業概要】本講義では、金融界で必須の知識となっている保証人・抵当権・連帯債務などについて扱う債権総論・担保物権法を、これまでに学習した事例との関連に気を配りながら講じていく。余力があれば最先端の金融手段についても講じることとする。

【キーワード】債権、保証、担保、抵当権

【先行科目】『民法 I』(1.0, ⇒237 頁), 『民法 II』(1.0, ⇒241 頁)

【履修上の注意】毎回六法を持参すること。

【到達目標】民法の根拠をなす概念を習得することにより、物権法・債権法と関連させた形で財産法の全体像が把握できるようにする。

【授業計画】1. 債権内容の確定 2. 弁済 3. 債権譲渡 4. 強制履行 5. 損害賠償 6. 債権者代位権 7. 詐害行為取消権 8. 連帯債務・保証債務 9. 抵当権 I(概要) 10. 抵当権 II(効果) 11. 抵当権 III(特殊な抵当権) 12. 非典型担保 I(仮登記担保) 13. 非典型担保 II(譲渡担保・所有権留保) 14. 法定担保物権(留置権・先取特権) 15. 質権 16. 期末試験

【成績評価】出席状況(25 点)ならびに期末試験の成績(75 点)による。

【再試験】行わない。

【教科書】
◇ 大村敦志『基本民法 III 第 2 版』(有斐閣)
◇ 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選 I 第 6 版』(有斐閣)
◇ 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選 II 第 6 版』(有斐閣)

【参考書】講義の際に適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219314>

【連絡先】
⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 10 時 25 分~11 時 55 分)
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

経済法 I 2 単位 2 年(前期, 集中) 泉 克幸・教授/社会創生学科, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】企業や個人、国家等の経済活動に関する基本的ルールが経済法である。中でも、国の競争政策や技術政策、産業政策などの実現を直接的に規律する法律が主たる対象となる。本講義ではこうした経済法の概観を行うことで、その基本的原理、あるいは現代における重要

性を説く、細かな条文の解釈や学説、判例を追うだけでなく、具体的事例を出来るだけ紹介したい。

【授業概要】独占禁止法の基本的理解

【キーワード】経済法、独占禁止法

【関連科目】『経済法 II』(0.5, ⇒241 頁), 『商法 I』(0.5, ⇒241 頁), 『刑法 II』(0.5, ⇒244 頁)

【授業計画】1. 経済法 I では経済法の中心である独占禁止法(以下、「独禁法」)にスポットを当て、16 回の授業を行う。独禁法は、「公正かつ自由な競争」を目的としており、資本主義経済社会において重要な役割を果たす市場に関する基本的ルールを定めている法律である。授業では以下のような内容を持つ独禁法を概説する。また、現在、特に議論されている分野の紹介などもリアルタイムで行う。 2. 1) 独禁法の目的 3. 2) 不当な取引制限(カルテル) 4. 3) 不正な取引方法(再販売価格の拘束、抱き合わせ、ポイコット等) 5. 4) 集中規制(6. イ)一般集中規制(持株会社、企業集団等) 7. ロ)市場集中規制(私的独占、合併等の企業結合等) 8. 5) 独禁法の実現手段 9. 6) 公正取引委員会の役割

【成績評価】期末試験を中心に、授業メモ(ミニレポート)、小テスト、質問の有無等を考慮し評価を行う。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書として、根岸哲・杉浦市郎編『経済法』(法律文化社)を用いる。その他の参考書・資料等については随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219434>

【連絡先】
⇒ 泉 (088-656-7184, izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:水曜14時から15時)
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

経済法 II 2 単位 2 年(後期, 集中) 泉 克幸・教授/社会創生学科, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】経済法とは一定の経済政策に関する法全体を指す。経済法 II では、様々な領域を対象とする経済法のうち、知的財産法を概説する(なお、経済法 I の履修または単位取得は要件ではない)。知的財産法とは、人間の知的活動の成果であって財産的価値を有する知的財産(具体的には技術や情報、音響、画像、コンピュータ・ソフトウェア、デザイン、ブランド等)に関する法の総称である。知的財産に関する議論は、わが国における産業政策・経済政策の柱の 1 つとして取り上げられていること、米国が近年、強化政策を採っていること、莫大な経済的利益に直結すること、情報化・マルチメディア化・ネットワーク化の進展に大きな影響があることなどを背景とし、現在最も重要視されている分野であるといえる。授業では知的財産法の体系を順に説明するだけでなく、最近のトピックスも出来る限り取り上げたい。法律の専門的知識は必ずしも求めないが、政治・経済・社会上の動きを知るため、新聞やニュース等に対して敏感な姿勢を望む。

【授業概要】知的財産法の基本的理解

【キーワード】知的財産法、著作権、特許、商標、経済法

【関連科目】『経済法 I』(0.5, ⇒241 頁), 『民法 I』(0.5, ⇒237 頁), 『民法 II』(0.5, ⇒241 頁)

【授業計画】1. 以下のような体系をもつ知的財産法を、16 回の授業により概説する。 2. 1) 産業財産権法 3. 1) 知的創作物に関するもの……特許権、実用新案権、半導体の回路配置権、植物の新品種 4. 1) に関する権利、意匠権、ノウハウ(企業秘密) 5. 2) 営業標識に関するもの……商標権、商号権、サービスマーク、原産地表示 6. 2) 著作権 7. 1) 著作物の権利……著作財産権(複製権など)、著作人人格権 8. 2) 著作隣接権(レコード業者、放送業者、歌手・演奏家等の権利) 9. 3. その他 10. 独禁法との関係、ライセンス、国際的動向など

【成績評価】期末試験を中心に、授業メモ(ミニレポート)、小テスト、質問の有無等を考慮して成績評価を行う。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書については未定である。参考書として、著作権と特許について、1 点ずつ挙げておく。・吉田大輔『著作権が明解になる 10 章』(出版ニュース社) 竹田和彦『特許がわかる 12 章』(ダイヤモンド社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219435>

【連絡先】
⇒ 泉 (088-656-7184, izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:水曜16時10分から17時10分)
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

商法 I 2 単位 2 年(前期) 清水 真人・准教授/社会創生学科

【授業目的】本講義では会社法を中心に、特に、機関関係について講義する。すなわち、取締役、監査役、株主総会などの企業組織に関する問題を扱う。本講義では、平成 18 年に施行されたいわゆる新会社法にはどのような特徴があるのか、それまでの商法から何が変わったの

か、新会社法にはどのような問題があるのかについて理解することを目的とする。

【授業概要】「商法Ⅰ」では商法のうち会社法を中心に、特に、株式会社の機関関係を講義する。「コーポレート・ガバナンス」「企業組織法」と呼ばれる分野である。全16回の講義において、企業形態や会社の種類に触れた後、株式会社とはいかなる制度であるのか、その内部組織はどのように構成されているのかについて、考察していく。以下の項目を1,2回で講義する。

【キーワード】新会社法、コーポレート・ガバナンス、企業組織法

【先行科目】『民法Ⅰ』(1.0, ⇒237頁), 『民法Ⅱ』(1.0, ⇒241頁)

【関連科目】『民法Ⅲ』(0.5, ⇒241頁), 『企業取引法』(0.5, ⇒242頁)

【履修上の注意】「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」は別の科目とされているが、両者を受講して、初めて会社法の全体をつかむことができるため、「商法Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。また、商法はそれのみで完結した分野ではなく、他の法律、特に民法との関係が強い。民法の受講を本講義履修の前提とはしないが、「民法Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ」と同時履修、または履修済みであることが望まれる。なお、本講義は他学部生も受講可能としているが、他学部生については、全学共通教育で法律系の科目を履修済みであることを受講の要件とする(1科目でよい)。

【到達目標】株式会社の機関関係について基礎知識を得、理解を深める。

【授業計画】1. 会社の種類 2. 株式会社の特質 3. 証券市場と株主の地位 4. 株主総会の役割 5. 取締役と取締役会 6. 取締役の義務と責任 7. 委員会設置会社の意義と仕組み 8. 会計参与 9. 監査役・監査役会 10. 会計監査人

【成績評価】学期末に筆記式の試験を実施する。受講者と相談の上、任意のレポート提出を課したり、小テストを実施するかも知れない。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇落合誠一＝神田秀樹＝近藤光男『有斐閣Sシリーズ 商法Ⅱ』(有斐閣)を使用する。
- ◇レジュメを配付し、レジュメを中心に講義するが、教科書も適宜参照するため毎回持参すること。
- ◇必ず最新の六法を持参すること(『デイリー六法』『ポケット六法』『コンパクト六法』のいずれかでよい)。

【参考書】講義において随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219140>

【連絡先】

⇒清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜7-8講時)

商法Ⅱ

2単位 2年(後期)

清水 真人・准教授/社会創生学科

【授業目的】本講義では会社法を中心に、特に、企業の資金調達、会社の計算、設立、企業再編に関する問題を扱う。本講義では、平成18年に施行されたいわゆる新会社法にはどのような特徴があるのか、それまでの商法から何が変わったのか、新会社法にはどのような問題があるのかについて理解することを目的とする。

【授業概要】「商法Ⅱ」では、商法のうち会社法を中心に、特に、株式会社の機関関係以外の分野、すなわち、企業の資金調達、会社の計算、設立、企業再編を考察する。商法Ⅰが企業組織に関する内容を扱うのに対して、商法Ⅱでは、全16回の講義において、会社の設立の際にその組織がどのように形成されるのか、会社の資金調達の仕組み、企業買収がどのように行われるのか、その際利害関係者がどのように保護されるのかなどの問題を扱う。以下の項目を1,2回で講義していく。

【キーワード】コーポレート・ファイナンス、会社の計算、企業再編(M&A)、会社の設立

【先行科目】『商法Ⅰ』(1.0, ⇒241頁), 『民法Ⅰ』(1.0, ⇒237頁), 『民法Ⅱ』(1.0, ⇒241頁)

【関連科目】『民法Ⅲ』(0.5, ⇒241頁), 『経済法Ⅰ』(0.5, ⇒241頁), 『会計学Ⅰ』(0.5, ⇒247頁)

【履修上の注意】「商法Ⅰ」と「商法Ⅱ」は別の科目とされているが、本講義は「商法Ⅰ」の内容が前提となる。初回の講義で、株式会社のガバナンスについて簡単に内容を確認する予定であるが、「商法Ⅰ」の受講を強く求める。また、商法はそれのみで完結した分野ではなく、他の分野との関連も強い(商法Ⅱでは民法、経済法、会計学など)。これらの科目、特に「民法Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ」と同時履修、または履修済みであることが望ましい。なお、本講義は他学部生にも受講を認めている。他学部生については、「商法Ⅰ」を受講済みであることを本講義の受講の要件とする。

【到達目標】株式会社の資金調達、計算、設立、企業再編について基礎知識を得、理解を深める。

【授業計画】1. 株式 2. 募集株式の発行 3. 社債 4. 新株予約権・ストックオプション 5. 開示規制 6. 剰余金の配当規制 7. 株式会社の設立 8. 企業再編

【成績評価】学期末に筆記式の試験を実施する。受講者と相談の上、任意のレポート提出を課したり、小テストを実施するかも知れない。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇落合誠一＝神田秀樹＝近藤光男『有斐閣Sシリーズ 商法Ⅱ』(有斐閣)を使用する。
- ◇レジュメを配付し、基本的にレジュメに沿って講義するが、教科書を適宜参照するので、教科書も毎回持参すること。
- ◇最新の六法を持参すること(『デイリー六法』『ポケット六法』『コンパクト六法』のいずれかでよい)。

【参考書】参考書は主に初回の講義において紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219141>

【連絡先】

⇒清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日7-8講時)

企業取引法

2単位 3年(前期)

清水 真人・講師/社会創生学科

【授業目的】現在の経済社会でその中心を担っているのは株式会社を始めとした企業である。それら企業の取引は営利を目的として継続的になされるものであることから、私法的な取引について定める民法とは性格を異にするとされる。例えば、独自の商的色彩を帯びたものであると主張され、また、通説はこれを企業関係に特有な法規制の総体(企業法)であるとする。本講義ではこうした企業取引にかかわる商法全体の通則と企業組織に関する法規制がどのように定められているのか、またそれらにどういった特徴があるのかについて理解することを目的とする。

【授業概要】この講義では商法総則・商行為法を中心に、全16回の講義において企業組織・企業活動に対する法規制を講義する。消費者契約や手形・小切手の概要、さらに現代的な取引にも可能な限り言及したい。下記の授業計画にある項目を1,2回で講義していく。

【キーワード】商法総則、商行為法、企業取引・商取引、消費者契約

【先行科目】『民法Ⅰ』(1.0, ⇒237頁), 『民法Ⅱ』(1.0, ⇒241頁), 『民法Ⅲ』(1.0, ⇒241頁)

【関連科目】『商法Ⅰ』(0.5, ⇒241頁), 『商法Ⅱ』(0.5, ⇒242頁)

【履修上の注意】商取引に関する法分野は、そのみで完結した分野ではなく、他の法律、特に民法との関係が強い。民法の受講を本講義履修の前提とはしないが、「民法Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ」と同時履修、または履修済みであることが強く望まれる。特に他コースから受講を希望する者は、この点に留意すること。

【到達目標】企業取引、企業組織に関わる法制について基礎知識を得、理解を深める。

【授業計画】1. 企業・商人・商行為(基礎概念) 2. 商号:企業のブランド 3. 商業登記:企業情報の公示 4. 企業の会計(商業帳簿) 5. 企業の人的組織(商業使用人と代理商) 6. 営業と営業譲渡 7. 商行為の通則 8. 商事売買 9. 運送および寄託業務 10. 倉庫取引 11. 場屋取引 12. 消費者契約 13. 有価証券(手形・小切手の概要)

【成績評価】学期末に筆記式の試験を実施する。受講者と相談の上、任意のレポート提出を課したり、小テストを実施するかも知れない。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇山下眞弘『やさしい商法総則・商行為法〔第3版〕』(法学書院・2006)を使用する。教科書を参照しつつ講義するので、教科書は必携。
- ◇最新の六法を持参すること(『デイリー六法』『ポケット六法』『コンパクト六法』のいずれかでよい)。

【参考書】参考書は主に初回の講義で紹介する。

【WEB 頁】<http://www.016.upp.so-net.ne.jp/y-nishik/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219111>

【連絡先】

⇒清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日7-8講時)

行政法Ⅰ

2単位 2年(前期)

上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】行政法は、行政活動を規律させるための法であり、その適用範囲は、現代においては、われわれのほとんどすべての生活領域に及んでいる。本授業では、行政法に共通する一般理論(行政法総論)のうち、行政法の基本原理、現代型行政システムである行政手続、情報公開、古典的行政法システムである行政行為について説明し、行政法の基本的理解を獲得することを目的とする。

【授業概要】行政法の基本原理と行政行為の法システム

【キーワード】行政、法治行政、行政行為、行政裁量、行政強制

【履修上の注意】六法を持参して受講すること。

【到達目標】行政法の基本原理並びに行政行為についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力を養う。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 行政・行政法概念 3. 行政法の発展・行政法の法源 4. 行政法における公法と私法(1)公法私法二元論 5. 行政法における公法と私法(2)特別権力関係論 6. 行政法関係 7.

法律による行政の原理 8. 行政手続 (1) 行政手続法理 9. 行政手続 (2) 行政手続法 10. 行政行為 (1) 行政行為の概念, 種別 11. 行政行為 (2) 行政行為の効力, 瑕疵 12. 行政行為 (3) 行政行為の取消・撤回, 附款 13. 行政行為 (4) 行政裁量 14. 行政上の実効性の確保 15. 試験 16. 行政と情報

【成績評価】記述式による学期末試験の成績を基本としてレポート, 出席などの平常点も考慮する。

【再試験】実施しない。

【教科書】

- ◇教科書:原田尚彦「行政法要論」(全訂第6版増補版)学陽書房
- ◇参考書:別冊ジュリスト 行政判例百選 I, II(第5版)有斐閣

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219453>

【連絡先】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日12時から12時50分)

行政法 II

2単位 2年(後期)
上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】本授業では、行政法 I で獲得した行政法への基礎的な理解を発展させ、行政法以外の行政の諸活動について法的に考察し、さらに行政活動によって権利利益を侵害された場合にどのような法的救済がなされるかを理解することを目標とする。

【授業概要】行政の諸活動の法形式と行政救済法

【キーワード】行政救済, 国家補償, 行政訴訟, 行政計画, 行政指導

【履修上の注意】本講義は、行政法 I の受講を前提として開講されるので、行政法 I を履修しているか、(自習などにより)その内容を理解している者以外の受講は望ましくない。また、六法を持参して受講すること。

【到達目標】行政行為以外の行政活動の法形式並びに行政救済法についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考能力をさらに深める。

【授業計画】1. 行政立法 2. 行政計画 3. 行政契約 4. 行政指導 5. 国家補償法総説 6. 損失補償法 (1) 意義・根拠 7. 損失補償法 (2) 要件・内容・方法 8. 国家賠償法 (1) 総説・1条 9. 国家賠償法 (2) 2条 10. 国家賠償の谷間 11. 行政事件訴訟法 (1) 総説 12. 行政事件訴訟法 (2) 訴訟類型等 13. 行政事件訴訟法 (3) 処分性 14. 行政事件訴訟法 (4) 原告適格 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】記述式による学期末試験の成績を基本として出席などの平常点も考慮する。

【再試験】実施しない。

【教科書】

- ◇教科書:原田尚彦「行政法要論」(全訂第7版増補版)学陽書房
- ◇参考書:別冊ジュリスト 行政判例百選 I, II(第5版)有斐閣

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219454>

【連絡先】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日12時から12時50分)

【備考】隔年開講

環境政治学 I

2単位 2年(前期)
栗栖聡・教授/社会創生学科

【授業目的】環境政策について体系的に理解することによって、持続可能な社会への転換の方向性を把握すること。

【授業概要】環境問題, 環境政治・政策学, 現代社会の基本的枠組みを検討し、ついで、環境政策に関して、その理念, 手法, 決定過程を検討する。さらに、環境基本法を踏まえつつ、大気, 水, 自然環境に関する規制の内容, 循環型社会形成のための政策について論じる。最後に、市民参加の観点から環境影響評価の仕組みを検討する。

【到達目標】環境政策の体系的理解

【授業計画】1. 環境問題とは 2. 環境政治・政策学とは 3. 環境問題と国家の役割 4. 環境政策の理念 5. 環境政策の手法(総論) 6. 環境政策の手法(規制, 経済的手法, 市民参加等) 7. 環境政策決定過程(議会, 行政) 8. 環境基本法の制定過程と概要 9. 規制(大気, 水, 土壌) 10. 規制(自然環境保全) 11. 循環型社会形成政策(廃棄物処理) 12. 循環型社会形成政策(排出削減) 13. 環境影響評価(事業アセス)と市民参加 14. 環境影響評価(戦略アセス)と市民参加 15. 試験 16. まとめ

【成績評価】平常点(20%)と期末試験(80%)

【再試験】なし

【教科書】授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219356>

【連絡先】

⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後2時30分-4時)

環境政治学 II

2単位 3年(後期)
栗栖聡・教授/社会創生学科

【授業目的】持続可能な社会に向けての環境ガバナンスのあり方を、環境政治・政策学の基本的枠組みの下に理解することによって、持続可能な社会への転換の方向性を把握すること。

【授業概要】環境問題をまず正義論の観点から、さらに、エコロジズム, エコロジーの近代化, 持続可能な発展という三つの分析枠組みの観点から検討する。ついで、環境問題を幾つかの民主主義モデルとの関連で論じ、最後に国家論のレベルで環境問題の意味を探る。

【キーワード】環境政治学

【履修上の注意】特になし

【到達目標】持続可能な社会に向けての環境ガバナンスのあり方を理解する。

【授業計画】1. 環境政治・政策学の基本枠組み 2. 環境的正義 3. 生態学的正義 4. 経済システムと自然環境 5. エコロジズム 6. エコロジーの近代化論 7. 持続可能な発展 8. 環境政策統合 9. 環境問題と参加民主主義 10. 環境問題と熟議民主主義 11. 環境問題と結社民主主義 12. 環境問題と市民社会 13. 環境ガバナンス 14. 環境国家 15. 試験 16. 自由主義国家, 福祉国家, 環境国家

【成績評価】試験

【再試験】なし

【教科書】授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219357>

【連絡先】

⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後2時30分-4時)

国際関係論 I

2単位 3年(前期)
養場和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】米ソがにらみ合った冷戦中は、明日にも第三次世界大戦が起き、核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった。89年、米ソ首脳が握手をかわし、幸運にも人類は冷戦を脱した。ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが、まもなく幻滅が広がった。噴出する内戦・民族紛争と、拡大する貧富の格差。新たな広範囲に苦悶するうちに世紀が変わると、9/11テロの衝撃が世界を揺るがした。そして今、アフガン戦争, イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され、国際社会はいったい、どこに行こうとしているのか。この授業では、こうした変動する現代国際社会の現実を知り、そこで生起する諸問題について、特に平和と戦争に関する観点を中心に、考察する。

【授業概要】国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ。授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも、筆者のフィールドワーク(紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など)や、新聞記者の経験などに基づく"教科書に載っていない"解説も試みたい。また、適宜、時事的な国際ニュースも取り上げ、ビデオやスライドも使う。国際関係論 I では、主に総論的、理論的、概念的な問題を扱う。

【履修上の注意】国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており、一方だけ受講することもできるが、I で総論的、基礎的な解説を行い、II ではそれを元に各論的、発展的な内容になる面もあるので、連続して受講する方が望ましい。

【到達目標】

1. 国際社会の性質, 特徴を理解すること。
2. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係, 実態を知ること。
3. 国際政治と国際法の基本について、とらえ方, 原理, 原則を把握すること。
4. 「冷静な現実主義」と、「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと。

【授業計画】1. (日) 国際社会の成り立ちと特徴 (1) 2. (日) 国際社会の成り立ちと特徴 (2) 3. 国際法の基本 (1) 4. 国際法の基本 (2) 5. 国際社会を見る理論的枠組 (1) 6. 国際社会を見る理論的枠組 (2) 7. 国際安全保障の諸理論 (1) 8. 国際安全保障の諸理論 (2) 9. 民族とアイデンティティ (1) 10. 民族とアイデンティティ (2) 11. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど)(1) 12. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど)(2) 13. 戦争の違法化 (1) 14. 戦争の違法化 (2) 15. 補足と総括 16. 試験

【成績評価】授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらおうが、それらで出欠の確認も行う。試験は論述式(短答式と長文論述併用)の期末試験を行う。持ち込み不可。成績は試験の結果に、出席状況、授業中の質疑応答などを加味して判断する。

【再試験】行わない。ただし、僅差で合格点に達しない受講者には、一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える。

【教科書】教科書は特に指定せず、授業中に配布するレジュメ、資料に沿って解説する。参考書などは適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219152>

【連絡先】

⇒ 養場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~14:30, 金曜日14:30~16:00. この時間以外でも在室時は随時可.)

国際関係論 II

2 単位 3 年 (後期)
養場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】 国際関係論 I を参照。
【授業概要】 国際関係論 I を参照。
【履修上の注意】 国際関係論 I を参照。
【到達目標】 国際関係論 I を参照。
【授業計画】 1. 正戦論 (1) 2. 正戦論 (2) 3. 9/11 テロとアメリカ (1) 4. 9/11 テロとアメリカ (2) 5. 国連の成り立ち, 機能, 国連による安全保障 (1) 6. 国連の成り立ち, 機能, 国連による安全保障 (2) 7. 人道的介入 (1) 8. 人道的介入 (2) 9. 平和の意味, 構造的暴力, 非暴力主義 (1) 10. 平和の意味, 構造的暴力, 非暴力主義 (2) 11. 核兵器とゲーム理論 (1) 12. 核兵器とゲーム理論 (2) 13. 日本の安全と憲法, 自衛隊, 平和構築 (1) 14. 日本の安全と憲法, 自衛隊, 平和構築 (2) 15. 補足と総括 16. 試験
【成績評価】 国際関係論 I を参照。
【再試験】 国際関係論 I を参照。
【教科書】 国際関係論 I を参照。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219153>
【連絡先】
⇒ 養場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 国際関係論 I を参照.)

刑法 I

2 単位 3 年 (前期, 集中)
山本 雅昭・, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 刑法総論とは, 刑法典第 1 編「総則」を主な対象とし, 犯罪のタイプが異なってもそこに共通する問題について考察しようとするものである。犯罪と刑罰に関する基礎的理論をその内容としているが, 刑罰という峻厳な制裁を加えるべき犯罪の成否を判断するに当たっては慎重を期することが求められることから, ここでは分けても犯罪論が著しい発展をみた。そこで, 本講義でも犯罪論を中心に据えて解説を行い, 犯罪のタイプにかかわらず犯罪の一般的成立要件について理解を深められるよう配慮したい。
【授業概要】 刑法総論
【キーワード】 法律
【先行科目】 『憲法 I』 (1.0, ⇒237 頁), 『憲法 II』 (1.0, ⇒240 頁), 『行政法 I』 (1.0, ⇒242 頁), 『行政法 II』 (1.0, ⇒243 頁)
【関連科目】 『民法 I』 (0.5, ⇒237 頁), 『民法 II』 (0.5, ⇒241 頁), 『民法 III』 (0.5, ⇒241 頁)
【履修上の注意】 他の法律系科目 (特に, 憲法, 民法, 行政法) と合わせて履修することが望ましい。
【到達目標】 各部分が相互に有機的に結び付いて刑法総論の体系をなしていることを把握すること。
【授業計画】 1. 刑法総論と刑法の原則 2. 刑法の適用範囲 3. 構成要件要素 4. 構成要件該当性の諸問題 5. 違法性と違法性阻却事由 6. 正当行為, 正当防衛 7. 緊急避難, 被害者の承諾 8. 責任, 責任能力 9. 故意と過失 10. 錯誤, 違法性の意識, 期待可能性 11. 未遂 12. 共犯の基礎 13. 共犯の諸問題 14. 罪数 15. 期末試験 16. 総括授業
【成績評価】 期末試験の成績に基づいて行う。
【再試験】 なし
【教科書】
◇ 教科書は使用しないが, 最新の六法を持参されたい。
◇ なお, 参考書として, 山口厚『刑法』(有斐閣), 『刑法判例百選 II [第 6 版]』(別冊ジュリスト, 有斐閣)を推薦する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218554>
【連絡先】
⇒ 山本
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】 前期集中講義

刑法 II

2 単位 3 年 (後期, 集中)
山本 雅昭・, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 刑法典第 2 編「罪」(刑法各則) や特別刑法に定める各犯罪について具体的・個別的に考察するのが刑法各論の課題である。このうち, 本講義では, 刑法各則に定める基本的な犯罪の個別的成立要件とその問題点について, 判例や学説の状況を参照しつつ, 解説を行いたい。
【授業概要】 刑法各論

【キーワード】 法律

【先行科目】 『憲法 I』 (1.0, ⇒237 頁), 『憲法 II』 (1.0, ⇒240 頁), 『行政法 I』 (1.0, ⇒242 頁), 『行政法 II』 (1.0, ⇒243 頁)
【関連科目】 『民法 I』 (0.5, ⇒237 頁), 『民法 II』 (0.5, ⇒241 頁), 『民法 III』 (0.5, ⇒241 頁)
【履修上の注意】 刑法総論と関連付けて理解する必要のある場合があるため, 前期に開講する刑法 I を履修しておくことが望ましい。
【到達目標】 刑法各則に定める各犯罪のうち主なものについて理解を深めること。
【授業計画】 1. 刑法各論の意味 2. 殺人罪・自殺関与罪 3. 傷害罪・暴行罪 4. 交通事犯と人身犯罪 5. 脅迫罪・強要罪, 住居侵入罪 10. 詐欺罪 11. 横領罪 12. 背任罪 13. 文書偽造罪 14. 公務執行妨害罪 15. 期末試験 16. 総括授業
【成績評価】 期末試験の成績に基づいて行う。
【再試験】 なし
【教科書】
◇ 教科書は使用しないが, 最新の六法を持参されたい。
◇ なお, 参考書として, 山口厚『刑法』(有斐閣), 『刑法判例百選 II [第 6 版]』(別冊ジュリスト, 有斐閣)を推薦する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218555>
【連絡先】
⇒ 山本
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

経済原論 II

2 単位 2 年 (後期)
眞弓 浩三・教授/社会創生学科

【授業目的】 前期に引き続いて, 積極的に初等数学を援用しながらマイクロ経済学の基礎を学習する。
【授業概要】 近代経済学のマイクロ理論の基礎
【キーワード】 効用理論, 効率的配分, ラグランジュの未定乗数法
【先行科目】 『経済原論 I』 (1.0, ⇒238 頁)
【履修上の注意】 マクロ経済学については金融論と国際金融論を受講してください。
【到達目標】 ミクロ経済学の数理的取り扱いに慣れる。
【授業計画】 1. 次の 3 項目について講義する。 2. 1. 企業行動と生産関数論 3. 費用曲線と産業均衡 4. 3. 市場の効率性と不完全競争の基礎
【成績評価】 成績は学期末試験の成績で評価する。
【再試験】 ありません。
【教科書】 教科書は西村和雄著「マイクロ経済学入門」, 岩波書店を使用しますので, 各自購入してください。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219420>
【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもお越しくください.)

理論経済学 I

2 単位 2 年 (前期)
立花 敬雄・教授/社会創生学科

【授業目的】 長期不況, 途上国の債務, 過疎過密, 事業再構築, 雇用, 福祉, 環境問題といった, 現代経済の諸問題を解決するためには, 資本主義経済の本質, 構造の理論的理解が不可欠である。十分な理論的解明のためには, 分析と総合, 帰納と演繹といった学問的方法を踏まえる必要がある。本講義では, 商品論, 価値論, 貨幣論, 剰余価値論, 等のそれぞれの内容と関連を概説することによって, 現代経済の諸問題の解決に資することとする。
【履修上の注意】 特になし。
【到達目標】 資本主義経済を分析, 総合する理論経済学の知識を習得し, 応用能力を養う。
【授業計画】 1. 1. 経済学の方法と体系 2. 2. 商品と商品形態 3. 3. 使用価値と価値 4. 4. 交換過程 5. 5. 価値形態と貨幣 6. 6. 貨幣と資本 7. 7. 労働過程と価値増殖過程 8. 8. 可変資本と剰余価値率 9. 9. 労働日と絶対的剰余価値 10. 10. 相対的剰余価値の生産
【成績評価】 論述形式のテスト, 受講態度などにより, 評価を行う。
【再試験】 実施する
【教科書】 資料, 参考書は講義中に指示する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219353>
【連絡先】
⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 随時)

理論経済学 II

2 単位 2 年 (後期)
立花 敬雄・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 長期不況、途上国の債務、過疎過密、事業再構築、雇用、福祉、環境問題といった、現代経済の諸問題を解決するためには、資本主義経済の本質、構造の理論的理解が不可欠である。十分な理論的解明のためには、分析と総合、帰納と演繹といった学問的方法を踏まえる必要がある。本講義では、剰余価値論、賃金論、蓄積論、表式論、価格論、利子論、等のそれぞれの内容と関連を概説することによって、現代経済の諸問題の解決に資することとする。

【履修上の注意】 特になし。

【到達目標】 資本主義的生産とその発展を分析、総合する理論経済学の知識を習得し、応用能力を養う。

【授業計画】 1. 1. 剰余価値の生産 2. 2. 生産方法と大工業 3. 3. 時間賃金と出来高賃金 4. 4. 賃金の国際的比較 5. 5. 単純再生産と拡大再生産 6. 6. 資本主義的蓄積の一般的法則 7. 7. 流通過程と再生産表式 8. 8. 価格と利潤率 9. 9. 商業利潤と利子 10. 10. 差額地代と絶対地代

【成績評価】 論述形式のテスト、受講態度などにより、評価を行う。

【再試験】 実施する。

【教科書】 資料、参考書は講義中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219354>

【連絡先】

⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 随時)

金融論 I

2 単位 2 年 (前期)
趙形・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 長い人生において、貯蓄したり、住宅のためのローンを借りたりすることがあるし、さらには、保険、株式、信託などの金融商品と向き合うこともあるだろう。この授業では、皆さんがこれから社会人として必要となる金融知識を教えることを目的としている。マクロ経済学から出発し、経済全体のメカニズムを学習した上、金融論に進み、金融論に関わりの深い部分を重点的に講義する。さらに、財政政策と金融政策についても時間を割り当てる予定である。

【授業概要】 金融論を学ぶためのマクロ経済学基礎

【履修上の注意】 数学に関しては、微分についての高校教科書レベルの知識があれば十分であるし、授業中も必要に応じて説明する。原則として毎回の授業の最後 15 分ぐらいを小レポートの時間に当てる。

【到達目標】 マクロ経済学及び金融の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。

【授業計画】 1. (1) 講義のガイダンス (1 回) 2. (2) マクロ経済学の諸概念 (2 回) 3. (3) 国民所得の決定メカニズム (2 回) 4. (4) 貨幣の需要と供給 (2 回) 5. (5) IS-LM 分析 (3 回) 6. (6) 金融・財政政策の効果 (2 回) 7. (7) 新古典派とケインズ派の経済体系の比較 (1 回)

【成績評価】 出席と期末試験

【再試験】 原則的に行わないが、病気等の止むを得ない事情の場合のみ実施する。

【教科書】

- ◇ マンキュー 「マクロ経済学 I 入門篇」 東洋経済新報社
- ◇ マンキュー 「マクロ経済学 II 応用篇」 東洋経済新報社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219477>

【連絡先】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00-14:30 088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp (@を半角して下さい))

【備考】 総合科学部 1 号館 3 階中棟、オフィスアワー以外の時間でも事前にメールで連絡をしてもらえれば対応できる

金融論 II

2 単位 2 年 (後期)
趙形・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 長い人生において、貯蓄したり、住宅のためのローンを借りたりすることがあるし、さらには、保険、株式、信託などの金融商品と向き合うこともあるだろう。この授業では、皆さんがこれから社会人として必要となる金融知識を教えることを目的としている。マクロ経済学から出発し、経済全体のメカニズムを学習した上、金融論に進み、金融論に関わりの深い部分を重点的に講義する。さらに、財政政策と金融政策についても時間を割り当てる予定である。

【授業概要】 金融論 II 金融理論および金融の仕組み

【履修上の注意】 数学に関しては、微分についての高校教科書レベルの知識があれば十分であるし、授業中も必要に応じて説明する。原則として毎回の授業の最後 15 分ぐらいを小レポートの時間に当てる。

【到達目標】 マクロ経済学及び金融の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。

【授業計画】 1. (1) 講義のガイダンス (1 回) 2. (2) 貨幣と金融 (2 回) 3. (3) 利子率と資産価格の決定メカニズム (3 回) 4. (4) 家計と企業の金融行動 (3 回) 5. (5) 金融政策 (3 回) 6. (6) 金融派生商品の紹介 (1 回)

【成績評価】 出席と期末試験

【再試験】 原則的に行わないが、病気等の止むを得ない事情の場合のみ実施する。

【教科書】

- ◇ マンキュー 「マクロ経済学 I 入門篇」 東洋経済新報社
- ◇ マンキュー 「マクロ経済学 II 応用篇」 東洋経済新報社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219478>

【連絡先】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00-14:30 088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp (@を半角して下さい))

【備考】 総合科学部 1 号館 3 階中棟、オフィスアワー以外の時間でも事前にメールで連絡をしてもらえれば対応できる

日本経済史 I

Economic History of JAPAN 2 単位 3 年 (前期)

中嶋 信・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 日本経済の実像に正しく迫るには、その構造が形成された経過に即して捉える方法が有効である。また将来のあるべき姿を描く上でも、獲得された地点と埋められるべき課題を歴史的に解明する方法が通常採用されている。このように日本経済を歴史的に分析する作業は、優れて現代的関心に基づいている。歴史的転換点に位置する日本経済の針路を探る素材を提供する。

【授業概要】 戦後日本経済の推移を画期ごとに考察し、その構造と特質を明らかにする。

【キーワード】 日本経済、歴史、経済成長

【関連科目】 『日本経済史 II』(0.5, ⇒245 頁)

【履修上の注意】 専用ファイルを準備し、レジュメ・ノート・関連資料などをまとめて私的なテキストを作成すること。

【到達目標】

1. 第 2 次世界大戦期以降の日本経済の発展段階とその背景を理解する。
2. 今日の日本経済の構造的な特質を理解し、改革課題を理解する。

【授業計画】 1. 戦後日本資本主義の諸段階 2. 占領体制と「戦後民主化」 3. 冷戦構造と日本の選択 4. 講和と日本経済の再編成 5. 「55 年体制」と経済成長 6. 高度経済成長のシステム 7. 産業と階級構成の変動 8. 国民生活様式の変貌 9. 成長方式の破綻と構造不況 10. 構造不況と財政危機 11. 世界資本主義の動揺と調整 12. 国際協調と構造転換政策 13. 日本経済のグローバル化 14. 戦後日本経済の構造と段階 15. 期末試験 16. 総括:日本資本主義の戦前と戦後

【成績評価】 前期は日本経済史 I、後期は日本経済史 II で、分割履修ができる。それぞれ、中間レポートと期末筆記試験で単位を認定する。出席状況による成績の補正があり得る。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は用いず、レジュメに即して進行する。参考書等を適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218908>

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 月曜日 13時~16時 木曜日 10時~12時)

日本経済史 II

Economic History of JAPAN 2 単位 3 年 (後期)

中嶋 信・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 日本経済の実像に正しく迫るには、その構造が形成された経過に即して捉える方法が有効である。また将来のあるべき姿を描く上でも、獲得された地点と埋められるべき課題を歴史的に解明する方法が通常採用されている。このように日本経済を歴史的に分析する作業は、優れて現代的関心に基づいている。歴史的転換点に位置する日本経済の針路を探る素材を提供する。

【授業概要】 明治維新からアジア太平洋戦争敗北までの経過をたどりつつ、戦前期日本経済の構造と特質および現代的課題を明らかにする。

【キーワード】 国民経済、経済成長、日本の経済システム

【先行科目】 『日本経済史 I』(1.0, ⇒245 頁)

【履修上の注意】 専用ファイルを準備し、レジュメ・ノート・関連資料などをまとめて私的なテキストを作成すること。

【到達目標】

1. 日本経済の歴史的展開過程とその意味を理解する。
2. 20 世紀前半における世界資本主義の構造と日本の位置を理解する。

【授業計画】 1. 日本経済史の課題と方法 2. 日本経済の戦前と戦後 3. 明治維新の歴史的的位置 4. (資本主義の成立と近代天皇制 5. 産業革命と日清・日露戦争 6. 東アジア分割と大日本帝国 7. 大戦ブームと産業の高度化 8. 戦間期の社会構造再編 9. 国民経済の構造矛盾と金融再編 10. 昭和恐慌と経済構造の転換 11. 戦時国家独占資本主義 12. 世界分断戦争と日本の戦略 13. 世界資本主義体制と日本の位置 14. 戦時経済体制の崩壊の意味 15. 期末試験 16. 総括:日本経済の発展構造と特質

【成績評価】 前期は日本経済史Ⅰ, 後期は日本経済史Ⅱで, 分割履修ができる。それぞれ, 中間レポートと期末筆記試験で単位を認定する。出席状況による成績の補正があり得る。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は用いず, レジュメに即して進行する。参考書等を適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218909>

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

1. 財政の現状を理解する
2. 財政学の基礎的理解を得る

【授業計画】 1. 財政と財政学 2. 日本の財政制度 (1) 予算・決算・会計 3. 日本の財政制度 (2) 国家財政・地方財政 4. 日本の財政制度 (3) 政府間財政 5. 財政の3機能 (1) 資源配分機能 6. 財政の3機能 (2) 所得再配分機能 7. 財政の3機能 (3) 経済安定化機能 8. 財政と金融 9. 政府の捉え方 10. 租税の基礎 11. 日本の税制:国税・地方税 12. 税制の経済効果 13. 消費課税 14. 所得課税 15. 資産課税 16. 定期試験 (または, 期末レポート)

【成績評価】 授業への取組み (20%), 中間試験 (または中間レポート)(30%), 定期試験 (または期末レポート)(50%) による

【再試験】 無

【教科書】 無

【参考書】 講義中に配布する。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/zaiseigaku1.html/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219463>

【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日5:6講時)

地域経済論 regional economics

2 単位 2 年 (前期)
中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業目的】 地域経済に対する関心が高まっている。都市の過密問題や地方圏の過疎問題が深まっており, 実践的解決が求められているためである。地域経済学 (論) はそのような要請に対応して形成された比較的新しい学問領域である。この講義は地域社会の土台をなす地域経済の構成と動態を解明するための理論をやさしく伝える。

【授業概要】 地域経済論入門:地域経済論 (地域経済学) の基本骨格を理解した上で, 徳島などを例に具体的な地域分析を行う。

【キーワード】 地域経済, 地域問題, 地域政策, 自治

【関連科目】 『日本経済史Ⅰ』(0.5, ⇒245 頁)

【履修上の注意】 各回の講義はレジュメとテキストを用いて運営する。

【到達目標】
1. 地域問題解決のための初歩的な理論を理解する。
2. 具体的な地域問題を経済学的に分析する手法を理解する。

【授業計画】 1. 地域問題と地域経済 実践科学としての地域経済論 (学) の課題と構成 2. 地域経済と国民経済 「地域」経済の概念 地域経済論の系譜 3. 地域政策の理念と体系 欧米諸国の地域政策の展開過程の検討 4. 地域づくりと住民参加 地方自治体の総合計画と住民参加の諸形態 5. 地域政策の展開過程 (1) 日本資本主義の蓄積様式と地域政策の関係 6. 地域政策の展開過程 (2) 高度成長期の地域政策の理念と展開内容 7. 地域経済分析の方法 (1) 人口構造の動態とその分析手法 8. 地域経済分析の方法 (2) 産業構造の動態とその分析手法 9. 地域経済分析の方法 (3) 地域経済及び地域政策の担い手の状態 10. 県内地域経済の動向 (1) 過疎地域における産業と社会の状況と課題 11. 県内地域経済の動向 (2) 徳島市周辺部の動向と課題 12. 地域経済と地方自治 地方行財政活動と地方自治制度の骨格 13. 転換期の住民の課題 (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 14. 転換期の住民の課題 (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 15. 地域経済論の学び方 地域経済論の近年の動向と研究課題

【成績評価】 講義中に提出を求める数回の演習問題, 期末に提出を求めるレポートの結果によって単位を認定する。

【再試験】 行わない

【参考書】
◇ 岡田知弘 『地域づくりの経済学入門』自治体研究社, 2005 年
◇ 中嶋信 『新しい「公共」をつくる』自治体研究社, 2007 年

財政学 II PublicFinance2

2 単位 3 年 (後期)
石田 和之・助教授/社会創生学科

【授業目的】 財政の制度や現状を理解し, 財政学の基礎的な理解を得る。

【授業概要】 財政学Ⅰと財政学Ⅱを合わせて, 財政学全般にわたる講義を行う。部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが, 極力数式による説明を避け, グラフと言葉を用いて解説する。

【キーワード】 政府, 社会保障, 受益と負担, パブリック・マネジメント, 公共支出

【関連科目】 『財政学Ⅰ』(1.0, ⇒246 頁), 『経済原論Ⅰ』(0.5, ⇒238 頁), 『経済原論Ⅱ』(0.5, ⇒244 頁)

【履修上の注意】 通年での履修を推奨する。

【到達目標】
1. 財政の現状を理解する
2. 財政学の基礎的理解を得る

【授業計画】 1. 受益と負担 2. 公債 (1) 資金調達 3. 公債 (2) 債務残高 4. 社会保障 (1) 年金財政 5. 社会保障 (2) 医療財政 6. 教育財政 7. 公共事業 8. パブリック・マネジメント 9. 環境と財政 10. 文化と財政 11. トピック (1) 地域間格差 12. トピック (2) 国と地方の役割分担 13. トピック (3) 政府の規模 14. トピック (4) 国会 (議会) と予算 15. トピック (5) 公平と効率 16. 定期試験 (または, 期末レポート)

【成績評価】 授業への取組み (20%), 中間試験 (または中間レポート)(30%), 定期試験 (または期末レポート)(50%)

【再試験】 無

【教科書】 無

【参考書】 講義中に配布する。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/zaiseigaku1.html/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219464>

【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日5:6講時)

産業経済論 I

2 単位 3 年 (前期)
内藤 徹・教授/社会創生学科

【授業目的】 ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項の厳密な把握と理解を目的とする。

【授業概要】 本講義では, 消費者理論および生産者理論の議論を行った後, 完全競争市場を前提とした市場均衡理論を解説します。後半ではこれらの知識をもとに不完全競争市場, 市場の失敗, 不確実性と情報の経済分析, ゲーム理論といったミクロ経済学の先端の話に触れる予定です。

【キーワード】 ミクロ経済学, 消費者理論, 生産者理論, 市場均衡, 市場の失敗

【先行科目】 『経済原論Ⅰ』(1.0, ⇒238 頁), 『経済原論Ⅱ』(1.0, ⇒244 頁)

【関連科目】 『経済原論Ⅰ』(1.0, ⇒238 頁), 『経済原論Ⅱ』(1.0, ⇒244 頁)

【到達目標】 ミクロ経済学の基本事項を理論的に説明できるようになる。

【授業計画】 1. ミクロ経済学で学ぶこと 2. 需要の理論 3. 消費者行動の理論:需要の理論の背景にあるもの 4. 供給の理論 5. 需要曲線と弾力性 6. 中間試験 7. 市場の理論 8. 需要と供給で解く経済問題 9. 余剰分析で解く経済問題 10. 市場の失敗 (1):外部性と公共財 11. 市場の失敗 (2):情報の非対称性 12. 市場の失敗 (3):独占 13. 不確実性のもとでの選択行動 14. まとめ 15. 筆記試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末テストと中間テスト (もしくは課題) の総合評価

財政学 I public finance 1

2 単位 3 年 (前期)
石田 和之・助教授/社会創生学科

【授業目的】 財政の制度や現状を理解し, 財政学の基礎的な理解を得る。

【授業概要】 財政学Ⅰと財政学Ⅱを合わせて, 財政学全般にわたる講義を行う。部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが, 極力数式による説明を避け, グラフと言葉を用いて解説する。

【キーワード】 政府, 予算, 税, 財政

【関連科目】 『財政学Ⅱ』(1.0, ⇒246 頁), 『経済原論Ⅰ』(0.5, ⇒238 頁), 『経済原論Ⅱ』(0.5, ⇒244 頁)

【履修上の注意】 通年での履修を推奨する。

【到達目標】

【再試験】なし
 【教科書】『基礎からわかるミクロ経済学(第2版)』小川光(著)中央経済社
 【参考書】講義で使用するレジュメ等を公開します。
 【WEB 頁】<http://sites.google.com/site/s947140/>
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219387>
 【連絡先】
 ⇒ naito@kyudai.jp

産業経済論 II

2 単位 3 年 (後期)
 内藤 徹・教授/社会創生学科

【授業目的】産業経済論 I で習得したミクロ経済学の知識を現実の事象にどのように適用することが可能であるかを理解する。
 【授業概要】本講義では都市や空間を分析するツールとしてミクロ経済学をはじめとする経済理論を応用し分析する。古典的な単一中心都市モデルから新しい空間経済学モデルなどを解説する。
 【キーワード】ミクロ経済学, 空間経済学, 都市経済学, 地方財政, 交通
 【先行科目】『経済原論 I』(0.3, ⇒238 頁), 『経済原論 II』(0.3, ⇒244 頁), 『産業経済論 I』(1.0, ⇒246 頁)
 【関連科目】『経済原論 I』(1.0, ⇒238 頁), 『経済原論 II』(1.0, ⇒244 頁), 『産業経済論 I』(0.5, ⇒246 頁)
 【履修上の注意】本講義は経済原論 I-II(ミクロ経済学)と内容的に深い関連をもっており, 経済原論 I-II を既に履修しているか同時に履修することが望ましい。また授業理解のために必要と思われる, トピックスについては, 経済原論 I-II の内容を一部復習することもある。
 【到達目標】ミクロ経済学を応用して現実経済を分析できる力を習得することを目標とする。
 【授業計画】1. イントロダクション 2. 都市と都市化の概念 3. 日本の地域構造 4. 都市集積の理論 5. 集積の経済 6. 家計の立地行動 (1) 7. 家計の立地行動 (2) 8. 均衡地代の決定理論 9. 企業・産業の立地 10. 商業地の立地理論 11. 公共サービスと都市・地域政策 12. 住宅市場と住宅政策 13. 地域交易と空間経済学 14. 都市・農村間の移住モデル 15. おさらい 16. 予備日
 【成績評価】期末テスト
 【再試験】なし
 【教科書】黒田達朗・田淵隆俊・中村良平(著)『都市と地域の経済学』有斐閣ブックス
 【参考書】講義で使用するレジュメ, スライドを提供する
 【WEB 頁】<http://sites.google.com/site/s947140/>
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219388>
 【連絡先】
 ⇒ 後日, 指示します
 【備考】当講義はミクロ経済学の知識を前提として進めていく予定である。したがって, 産業経済論 I の内容を十分に理解しておくことが必要となります。

世界経済論 I World Economy I

2 単位 3 年 (前期)
 水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は, その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し, その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた。講義では, この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う。
 【授業概要】世界経済(国際経済)の歴史と理論
 【履修上の注意】「世界経済論 I」(前期)として 2 単位を認定するが, 「世界経済論 II」(後期)と併せて通年で受講するのが望ましい。前期で終了できなかった項目については, 後期「世界経済論 II」で扱う。17 年度は「国際貿易論」「多国籍企業論」が開講されるので, 授業計画の(4)(5)は, 簡単に触れるにとどめる。
 【到達目標】学説史, 学説, 現状に係わる論点の理解。
 【授業計画】1. 以下のテーマについて番号順に取り扱う。1 テーマ 1 講義を予定するが, 進捗状況によっては次回の講義に繰り越すこともある。時間があれば〔補論〕に進む。 2. 1. 産業資本主義以前の世界経済(遠隔地貿易と重商主義) 3. 2. 自由貿易論の系譜(1)(Adam Smith の時代と貿易論) 4. 3. 自由貿易論の系譜(2)(D.Ricardo の時代と貿易論) 5. 4. 自由貿易論の系譜(3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論) 6. 5. 世界経済構造の批判的理解(1)(K.Marx の「プラン」後半体系) 7. 5. 世界経済構造の批判的理解(2)(K.Marx の時代と植民地・世界市場論) 8. 7. 保護貿易論の系譜(1)(途上国の TCC 批判: ドイツ歴史学派) 9. 8. 保護貿易論の系譜(2)(複数の帝国主義国と植民地経済圏) 10. 9. 世界経済構造の批判的理解(3) 11. (Lenin 『帝国主義論』: 世界大戦の原因) 12. 10. 保護貿易論の系譜(3) 13. (「相対的安定期」: 1929 年世界恐慌と「ブロック経済」) 14. 〔補論〕帝国主義論の系譜(1) 15. (Hobson, Kautsky, Rosa Luxemburg の

帝国主義論) 16. 〔補論〕帝国主義論の系譜(2) 17. (自由貿易帝国主義論: Lenin 『帝国主義論』批判) 18. 〔補論〕国民経済・世界市場の規定(大塚・木下・村岡の議論)

【成績評価】筆記試験

【再試験】なし
 【教科書】講義中に配付する資料を用いる。
 【参考書】参照すべき図書は, 適宜指示する。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219089>
 【連絡先】
 ⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義終了後(研究室ドアに掲示), E-mail:mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp, 電話:088-656-7188(研究室))
 【備考】2009 年度から, 構成を変更する。このため 2008 年度から授業構成を変更する部分が出てくるので, 上記は目安としてのみ理解してください。

世界経済論 II World Economy 2

2 単位 3 年 (後期)
 水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は, その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し, その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた。講義では, この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う。
 【授業概要】世界経済(国際経済)の歴史と理論
 【履修上の注意】前期「世界経済論 I」で終了できなかった項目から, 後期「世界経済論 II」を開始する。「世界経済論 II」(後期)として 2 単位を認定するが, 「世界経済論 I」(前期)と併せて通年で受講するのが望ましい。
 【到達目標】学説史, 学説, 現状に係わる論点の理解。
 【授業計画】1. 以下のテーマについて, 番号順に出来るだけ進めたい。 2. W. W2 後の基本構造 3. 基本概念(1)(交易条件) 4. 基本概念(2)(国際収支と国際収支表の見方) 5. 基本概念(3)(外国為替の決済と為替レート) 6. 18. 自由貿易論の系譜(5)(新古典派による「比較生産費」説〔TCC〕理解) 7. 19. Pax Americana の世界経済(1)(対外投資と多国籍企業の発展) 8. 20. 開発論の系譜(1)(Marx 批判としての「経済発展の諸段階」と単線史観の破綻) 9. 21. 開発論の系譜(2)(「輸入代替政策」と「輸出志向政策」, 「緑の革命」) 10. (途上国からの「比較生産費」説批判: 「従属学派」と世界システム論) 11. 23. Pax Americana の世界経済(2)(ドル危機・地域統合への対応) 12. 24. Pax Americana の世界経済(3)(エネルギー問題への対応) 13. 26. Globalization の功罪(世界は Pax Consortis に向かうのか?)
 【成績評価】筆記試験
 【再試験】なし
 【教科書】(講義中に指示する。)
 【参考書】参照すべき図書は, 適宜指示する。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219090>
 【連絡先】
 ⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義終了後(研究室ドアに表示), E-mail:mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp, 電話:088-656-7188(研究室))
 【備考】2009 年度から, 構成を変更する。上記は目安としてのみ理解してください。

会計学 I

2 単位 2 年 (前期)
 三木 正幸・, 西村 孝史・准教授/社会創生学科

【授業目的】古来, 「良き経営」は, 「良き会計」からといわれている。これは変化の激しい環境の中で, 企業が健全な経営を営み, 高い収益性と流動性を維持しながら持続的に成長していくために, 「会計」や「会計学」の知識が不可欠であることを示唆した含蓄のある言葉である。この講義では, 今日, 120 万社ある株式会社企業に適用されている会計制度とそこで行われている収益・費用計算, 財産計算を中心に, 会計理論をわかりやすく解説。そして, 受講生が就職活動を行ったり, 卒業後民間企業等で働く場合, 心得ていなければならない必須の「概念」や「考え方」を中心に, 社会的に有用性の高い講義を目指す予定である。
 【授業概要】現代における企業会計制度の基礎理論について学ぶ。
 【キーワード】会計情報, 財務情報公開制度
 【履修上の注意】原則として 2 年次配当とするが, 3 年生も受講可能である。簿記論を並行して勉強をすれば, 一層楽しく, 理解しやすくなる。なお, 後期のみ履修では, 全貌をとらえ難いので, 前後期(I, II)を履修することが好ましい。
 【到達目標】
 1. 企業の財務情報公開制度を巡る諸問題
 2. 資産評価の方法の基礎理論

【授業計画】1. 企業会計と会計学の関係, 会計の意味, 会計の機能 2. 財務会計の規範, 会計基準, 会計原則 3. 財務会計の処理プロセス 4. 財務会計のフレームワーク(商法会計, 証取法会計, 税務会計) 5. 財務会計の基礎理論(計算構造上の特徴, 原価・実現主義, 取得原価主義) 6. 会計基準と会計原則(一般原則について) 7. 中間試験 8. 資産評価(分類, 評価基準) 9. 資産の評価基準と問題演習 10. 現金預金の会計と報告 11. 金銭会計の会計と報告 12. 有価証券の会計と報告 13. 棚卸資産の会計と報告 14. 有形資産の会計と報告 15. 減価償却の目的, 効果, 方法 16. 無形資産の会計と報告

【成績評価】中間試験期末試験の平均値による。

【再試験】行わない

【教科書】広瀬儀州「財務会計」中央経済社

【参考書】飯野利夫著「財務会計論」同文館

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218471>

【連絡先】

⇒ 三木(090-8974-6397 mickey@mail.kbn.ne.jp)
 ⇒ 西村(総合科学部1号館 2階中棟(2215), 088-656-7171, t-nishim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週月曜日 12:00-16:00 経営組織論研究室(2215), それ以外の時間でも事前
 にメールで連絡してもらえれば対応できます。2010年4月以降は、総合科学部1号館3F中棟になります。)

会計学 II

2単位 2年(後期)

三木正幸・, 西村孝史・准教授/社会創生学科

【授業目的】古来、「良き経営」は、「良き会計」からといわれている。これは変化の激しい環境の中で、企業が健全な経営を営み、高い収益性と流動性を維持しながら持続的に成長していくために、「会計」や「会計学」の知識が不可欠であることを示唆した含蓄のある言葉である。この講義では、今日、120万社ある株式会社企業に適用されている会計制度とそこで行われている収益・費用計算、財産計算を中心に、会計理論をわかりやすく解説。そして、受講生が就職活動を行ったり、卒業後民間企業等で働く場合、心得ていなければならない必須の「概念」や「考え方」を中心に、社会的に有用性の高い講義を目指す予定である。

【授業概要】現代における企業会計制度の基礎理論について学ぶ。

【履修上の注意】原則として2年次配当とするが、3年生も受講可能である。簿記論を履修しているか、平行履修するならば、一層楽しく、理解しやすくなる(未履修者であってもわかりやすく講義するので差し支えない。)なお、後期のみの履修では、全貌をとらえ難いので、前後期(I, II)を履修することが好ましい。

【到達目標】

1. 1 資産会計の諸問題について、理解を深める。
2. 2 負債会計(引当金、社債など)について、会計上の問題と理論を学ぶ。
3. 3 資本会計についての会計上の諸問題と理論を学ぶ。
4. 4 収益費用計算の原理を知る。
5. 5 会計情報の公開制度と理論を学ぶ。

【授業計画】1. 資産会計(静態論・動態論、貨幣性資産・費用性資産、流動・固定分類) 2. 資産会計(現金預金、売上債権、有価証券) 3. 資産会計(棚卸資産の取得原価と評価基準) 4. 資産会計(その他の流動資産、自己株式等) 5. 資産会計(有形固定資産の取得原価、資本的支出と収益的支出) 6. 資産会計(無形資産の会計と報告) 7. 資産会計(繰延資産の会計と報告) 8. 負債会計(負債の概念と分類、社債、引当金会計) 9. 資本会計(株主資本、純資産、剰余金) 10. 資本会計(設立の会計処理、株式の発行と資本金の額、単元株制度、種類株式、資本金と準備金の額) 11. 資本会計(合併会計、株式交換、株式移転、会社分割) 12. 資本会計(新株の発行、新株予約権、新株予約権付社債、ストックオプション) 13. 資本会計(計数の変動、自己株式、株主変動計算書) 14. 経営成績の計算と損益計算書(収益・費用の認識基準、個別財務諸表と連結財務諸表)

【成績評価】小テスト、中間試験、期末試験の平均による。

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ テキスト 広瀬儀州著「財務会計」中央経済社
- ◇ 参考書 飯野利夫著「財務会計論」同文館

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218472>

【連絡先】

⇒ 三木(090-8974-6397 mickey@mail.kbn.ne.jp)
 ⇒ 西村(総合科学部1号館 2階中棟(2215), 088-656-7171, t-nishim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週月曜日 12:00-16:00 経営組織論研究室(2215), それ以外の時間でも事前
 にメールで連絡してもらえれば対応できます。2010年4月以降は、総合科学部1号館3F中棟になります。)

経営戦略論

2単位 3年(後期, 集中)

高橋意智郎・, 石田和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】経営戦略の定義は様々ですが、この授業では「企業の将来像とそれを達成するための道筋」として考えていきます。経営戦略論は、経営学の中でも主要なトピックの1つで、経営組織論、マーケティング論、人材マネジメント論、イノベーション論など様々な隣接領域と関連します。この授業は、戦略に関する理論を学び、理論を用いて企業を分析する力を養成することを目的とします。

【授業概要】経営戦略論の基本的な考え方を身につけることを目的としています。

【キーワード】戦略、組織、(持続的)競争優位

【関連科目】『経営組織論』(0.3, ⇒238頁)

【履修上の注意】経営戦略という言葉は、普段の生活の中ではあまりピンとこないかもしれませんが、実は身近な出来事に当てはめることができます。机上の空論として扱うのではなく、生きた学問として身につけることを意識して下さい。授業中に意見を求める可能性があります。が、分かる範囲で回答してみてください。

【到達目標】経営戦略の理論を用いて新聞記事や雑誌記事で書かれている事柄を理解・分析できるようになること。

【授業計画】1. イントロダクション、経営戦略とは何か 2. 経営戦略を見る4つの枠組み 3. 規模の経済・経験曲線とポジショニングアプローチ(1) 4. ポジショニングアプローチ(2) 5. 一般戦略(Porterの競争戦略) 6. 資源アプローチ 7. ロジカル・シンキング 8. 中間試験(試験にすかるレポートにするかは未定) 9. 市場細分化 10. 市場地位別戦略 11. 学習アプローチ 12. プロダクト・ライフ・サイクル 13. PPMとゲームアプローチ 14. 多角化の理論 15. 期末試験 16. まとめ

【成績評価】期末試験50%、中間レポート30%、出席を兼ねた小レポート20%

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219417>

【連絡先】

⇒ 高橋・
 ⇒ 石田(2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】進捗状況によって内容がずれる可能性があります。

マーケティング論

2単位 3年(後期)

多田正仁・准教授/社会創生学科

【授業目的】ビジネスゲームを通してマーケティング戦略を学ぶ。

【履修上の注意】成績の評価は授業への参加度による。毎週、電卓を持参すること。

【授業計画】1. 以下のような諸問題を取り上げる予定である。 2. (1) 価格戦略 3. (2) 価格-生産戦略 4. (3) 価格-生産?マーケティング戦略 5. (4) データの解析

【成績評価】授業への参加と関与度

【再試験】行わない

【教科書】市川 貢他「電卓のできるビジネスゲーム」(中央経済社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219078>

【連絡先】

⇒ 多田(2204, 088-656-7170, RXN10515@nifty.com) (オフィスアワー: (前期) 水曜日 15時~17時)

流通論

2単位 2年(後期)

多田正仁・准教授/社会創生学科

【授業目的】ほしい商品を、必要な時に適正な価格で顧客に提供するの流通業の本質的な役割である。今日の高度資本主義及び市場社会はその意味で急速な発達を遂げたが、それが完成したのでは決してない。すなわち、顧客の満足水準及び要求水準はますます高度化するため、流通業は永遠に新しい課題に直面する。以上のような背景のもとに商学の対象とディシプリンを解明する作業を展開することになる。

【履修上の注意】規定の出席回数に及ばない者には単位を与えない。

【授業計画】1. 面商、とりわけ流通業が現在おかれている状況をその機能と問題点の面から、主として業態別に考察する。 2. 代表的な項目は百貨店、スーパー、専門店、コンビニ、通信販売、外食 etc である。

【成績評価】出席回数と期末試験

【再試験】行わない

【教科書】未定

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219325>

【連絡先】

⇒ 多田(2204, 088-656-7170, RXN10515@nifty.com) (オフィスアワー: (後期) 水曜日 15時~17時)

【備考】開講せず

社会科学特論

2単位 2年(前期)

齋場和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】「国際交流・協力体験」と読み替えますので、同授業のシラバスを参照してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218694>

比較思想研究

2 単位 2 年 (前期)

石田 三千雄・教授/人間文化学科, 吉田 昌市・教授/人間文化学科
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】いくつかの「哲学的」トピックを取り上げ、それらについて考えることで、現代社会の諸問題を考察する視座を得る。

【授業概要】哲学史上論じられてきた多様なトピックについて、一般的・包括的な内容を各 3~4 回の講義で紹介する。それを受けた「まとめ」の回では受講者の中から若干名にレポートを発表してもらい、ディスカッションを行う。毎回の授業後に疑問や意見を「一言カード」記入してもらい、次回授業の冒頭で復習を行う。また、授業で用いたファイルや資料はウェブページに公開するので復習に役立てること。

【キーワード】哲学、科学と哲学、倫理学

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.5, ⇒123 頁), 『比較文化研究 (その 2)』(0.5, ⇒45 頁), 『社会思想研究』(0.5, ⇒123 頁)

【到達目標】

1. 人文科学 (哲学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業計画】1. イントロダクション:現代における哲学の意義 (吉田, 石田, 山口) 2. 哲学の立場 その 1:批判精神としての哲学 - ソクラテスの人と思想 - (吉田) 3. 哲学の立場 その 2:何のための批判? - アイデアの哲学へ - (吉田) 4. 哲学の立場 その 3:アイデアの哲学 - 哲学と宗教 - (吉田) 5. まとめとディスカッション (吉田, 石田, 山口) 6. 現代科学論の系譜 (1) 自然法則とイデア論 (山口) 7. 現代科学論の系譜 (2) 経験は真理を保証できるか (山口) 8. 現代科学論の系譜 (3) プラナリアの記憶物質 (山口) 9. 現代科学論の系譜 (4) 因果関係は実在するか (山口) 10. まとめとディスカッション:「科学の正しさ」をめぐって (吉田, 石田, 山口) 11. 倫理的な正しさとは何か その 1:リベラリズムの立場 (石田) 12. 倫理的な正しさとは何か その 2:パタリアニズムの立場 (石田) 13. 倫理的な正しさとは何か その 3:コミュニタリアニズムの立場 (石田) 14. まとめとディスカッション (吉田, 石田, 山口) 15. 授業全体のまとめ (吉田, 石田, 山口)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」、授業中に行う「小テスト」、「まとめ」授業における発表、学期末レポートを総合して評価する。得点の配分や発表と期末レポートの採点基準については授業中に説明する。

【再試験】(再試験)を行う。

【教科書】なし。

【参考書】授業中に適宜指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219307>

【連絡先】

- ⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜14時から15時)
- ⇒ 山口 (共通教育4号館404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)
- ⇒ 吉田 (総合科学部1号館1N11室(北棟1階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜12時から13時)

学校制度論

2 単位 2 年 (後期)

岩永 定・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】教育現象を、教授-学習関係というミクロな視点からだけでなく、社会的 (政策, 行政, 法・制度等) な文脈に位置づけて把握するというマクロな視点の獲得を目指します。

【授業概要】国民の「教育を受ける権利」の保障を使命とする教職員には、教育関係法令の理解と遵守が求められています。この講義では、①公教育が基盤としている法と行政に関する基本的知識、②法理念の実現のためにとられている教育制度の概要と学校経営の構造、③現代の教育改革の動向と具体的内容について触れる。

【履修上の注意】教育 (小) 六法を持参することが望ましい。

【到達目標】

1. 教育法と行政の基本について理解し、説明できる。主要な法令については、その条文内容を理解している。
2. 教育制度の基本的構造について、その法的根拠とともに説明できる。
3. 今日の教育改革の動向について、その背景と意義、問題点について説明できる。また、改革の方針・内容についてもその概要を理解している。

【授業計画】1. 法の存在形式 (法源) 2. 憲法・教育基本法の理念 3. 契約等に見る現代公教育の理念 4. 学校制度と就学義務 5. 学校運営の具体的な仕組み 6. 学校・学級経営の役割 7. 学校における生徒指導 (懲戒, 体罰, 校則) 8. 学校における保健・衛生・安全 9. 教

育課程と教科書 10. 教職員に関する制度 11. 学校を支える教育行政①:中央教育行政 12. 学校を支える教育行政②:地方教育行政 13. 地方分権と学校の自律性 14. 学校と家庭・地域の連携 15. 学校評価とアカウントビリティ

【成績評価】期末試験の総合点で評価します。

【再試験】3 分の 2 以上の出席を条件に実施します。

【教科書】

- ◇ 教育六法 (平成 20 年版, 三省堂)
- ◇ ※平成 19 年度に学校教育法の大改定があったため、それ以前の六法は使用不可。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218483>

【連絡先】

- ⇒ Tel:687-6255,ただし留守の場合が多いので、メールによる質問を勧めます。
- ⇒ iwanaga@naruto-u.ac.jp,自宅でも可能なので時間帯は問いません。

社会科学特論 II(ニュービジネス概論) 2 単位 3 年 (前期) 他

【授業目的】ニュービジネスとは、新しいアイデアや専門的な知識・技術を駆使して創造的に展開される事業を意味する言葉であり、その主たる担い手はベンチャーと呼ばれる企業である。この授業の目的は、受講生がベンチャー企業を起業するために必要とされる知識、ノウハウ、そしてスピリットを提供することにある。

【授業概要】活力ある日本社会の再生が求められている。こうした要請を受け、政府は平成 14~16 年度にかけて「大学発ベンチャー 3 年 1000 社計画」を実施し、その目標はほぼ達成されたが、今後も継続的に起業家教育を推進していくことの重要性には変わりはない。この授業は、こうした認識にもとづいて、徳島県が支援して開設された「学生創業支援講座」である。

【キーワード】ベンチャー企業、起業家育成、ビジネスプラン

【履修上の注意】遅刻や授業中の私語は厳禁。

【到達目標】

1. ベンチャービジネスを起業するために必要な知識を習得すること
2. ビジネスプランが作成できるようになること

【授業計画】1. ガイダンス 2. ニュービジネスとは? 3. 基調講演 4. 独立型ベンチャー成功のための理論 5. 起業者に必要な法知識 6. 資金調達と資本政策 7. 間接金融 8. 直接金融 9. 会社経営の基礎 10. 企業会計の基礎知識 11. ビジネスプラン作成のポイント 12. 経営戦略とマーケティング 13. 製品開発と知的財産権 14. ビジネスプラン作成実習 15. 期末試験 16. ビジネスプラン発表会

【成績評価】到達目標の達成度を評価する。授業計画のうち、4~9 は期末試験 (60 点分) で、10~14 はビジネスプランのレポート (40 点分) で評価する。合計で 60 点以上であれば合格とする。

【再試験】行わない。

【教科書】

- ◇ 教科書:特に使用しない。授業中にレジュメを配布する。
- ◇ 参考書:授業中に数冊紹介する予定。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219399>

【連絡先】

⇒ 矢野

【備考】この授業は工学部の授業科目である「ニュービジネス概論/特論」を総合科学部学生に対して「社会科学特論 II」の授業科目で開講するものである

法律学演習 II

4 単位 4 年 (通年)

上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】わが国の民法学で問題とされている事柄について、なぜそれが問題となっているのかを把握する。その上で具体的な判例で裁判所が構築した論理の当否について分析を加えられるようにする。

【授業概要】法学の特質としては、法規定に依りながら論理を構築することによって問題を解決することが挙げられる。そこで前期は、民法学説がどのような問題についてどのような論理構成によって議論を組み立てているのかという点に関する報告者の分析を批判的に検討する。そして後期は、前期に得られた知見を応用して判例を分析し、全員で議論する。民事事件を題材としたディベートを行うことも予定している。

【キーワード】民法、学説、判例

【到達目標】報告者による報告を批判的に検討できる力を身につけること。

【授業計画】1. 前期:民法学説の分析 2. 後期:民法判例の分析

【成績評価】平常点による。

【再試験】行わない。

【教科書】使用しない。

【参考書】内田貴=大村敦志編『民法の争点』(有斐閣)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219317>

【連絡先】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

法学演習 II Seminar(Law)

4 単位 4 年 (通年)
清水 真人・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】商法は企業の組織や活動を規制する法律である。金融機関、小売業と業態を問わず、ほとんどの企業は会社形態、特に株式会社を採用している。我々は日常的に株式会社と取引しており、経済活動をする場合、何らかの形で株式会社とかかわらざるを得ない。学生諸君が株式会社に就職する可能性も極めて高いものと思われる。本演習では、この株式会社を規律する会社法を中心に学習する。会社法の基礎知識を習得すると同時に、その問題点を考察することで、法的なモノの見方に触れることを目的とする。

【授業概要】以下の項目から、受講生と相談の上、決めたい。他に希望があれば柔軟に対応する。①会社法の従来の改正の経緯および新会社法の内容の確認、会社法の基礎知識の習得・強化・批判的な検討、②近年の重要判例の検討、③企業再編に関する論文・図書の講読、④金融商品取引法(証券取引法)の学習・検討。これらを通して、企業社会で何が問題になっているのか・問題になろうとしているのか考察していく。

【キーワード】新会社法, レポーター制

【先行科目】『法律学演習 I』(1.0, ⇒238 頁)

【関連科目】『商法 I』(0.5, ⇒241 頁), 『商法 II』(0.5, ⇒242 頁), 『企業取引法』(0.5, ⇒242 頁)

【到達目標】新会社法の理解を深める。

【授業計画】1. 演習は全 16 回行う。演習内容は上記の通りであるが、受講生の希望に柔軟に対応する。2. 4 年生は卒業研究の遂行も求められる。受講者は前・後期を通じて中間報告を行い、教員のアドバイスを受けて、卒業論文の完成を目指すこととなる。

【成績評価】出席、担当部分の報告、演習での発言を基準とする。

【再試験】なし

【教科書】教科書は指定しない。教材を適宜配付する。会社法はここ数年、改正が相次いでいるため、必ず最新の六法を持参すること(『ディリー六法』『ポケット六法』『コンパクト六法』のいずれかでよい)。

【参考書】参考書は適宜紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219318>

【連絡先】

⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

政治学演習 II[国際政治学]

4 単位 4 年 (通年)
饗場 和彦・教授 / 社会創生学科

【授業目的】現代の国際社会ではさまざまな問題が起き、それらはたとえば法的、経済的、文化的、歴史的な側面からも分析できるが、この演習ではこうした国際的な問題について、主に国際政治学の観点から考察する。国際安全保障、平和と戦争、民族問題、紛争解決、国連、国際協力などに関するテーマが中心になるが、ゼミ生の関心/希望を重視する。冷静な現実主義に根ざしながらも、毅然として理想主義を忘れないというスタンスで、国際政治の本質を洞察してもらいたい。

【授業概要】国際政治の諸相

【履修上の注意】新聞の国際面のニュースはよく読むように。

【到達目標】国際政治に関する知識の習得と、考察力の習得。

【授業計画】1. 文献/資料などを輪読して、その内容について毎回学生の担当者が報告を行う。他の学生はそれについて質問、意見を出し、全員で討論する。2. 机の上の理論だけに偏らず現場感覚も重視するので、フィールドワーク、スタディツアーなどで海外に出かけてきた報告なども期待する。

【成績評価】授業中のプレゼンテーション(発表/報告)の内容や、質疑応答、議論への参加度/貢献度、出席状況など総合的に判断して評価する。特に試験は行わない。

【再試験】行わない。

【教科書】ゼミ生の関心/希望を聞いてから決めて指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219249>

【連絡先】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~14:30, 金曜日14:30~16:00。この時間以外でも在室の際は随時。)

【備考】他コースの学生も受講できるし、傍聴(単位は出ない)という形も可能。実際の授業は曜日と時間の変更になる場合があるので、事前に教員に確認すること。

政治学演習 II[政治学]

4 単位 4 年 (通年)
栗栖 聡・教授 / 社会創生学科

【授業目的】本演習は、環境問題を政治的に分析する能力をつけることを目的とする。

【授業概要】講義ではなく、演習方式で授業を実施する。

【キーワード】環境政治学

【到達目標】環境政治学的思考を身につける。

【授業計画】1. 3 年次は、テキストを定め、それを全員で輪読し、討論する。報告者とコメントーターを毎回決め、報告者はレジュメ作成のうえ報告を行い、コメントーターはそれに対する質問・意見を述べ、さらに全員で討論するという形態をとる。4 年次では、各自の卒論のテーマに関する発表を行い、全員でそれについて検討する。2. 演習の具体的な内容及びテキストに関しては、ゼミ生とも相談のうえ、最初の授業で決定する予定である。

【成績評価】ゼミでの発表、議論への参加、レポート等

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219250>

【連絡先】

⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後2時30分~4時)

経済学演習 II[金融論]

4 単位 4 年 (通年)
趙彤・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】経済学は非常に抽象的な学問である上に、数学的な手法も盛んに取り入れている学問である。「習うより慣れよ」という言葉のように、暫く演習問題を解いていくことにより自然に習得できると思われる。到達目標についていけるかどうかなどという不安をいらずに抱かずに取り組んでもらいたい。

【授業概要】マクロ経済学と金融論の理論及びその演習

【履修上の注意】金融論 I と金融論 II を履修するのが望ましい。

【到達目標】マクロ経済学と金融理論をしっかりと習得し、マクロ経済と金融の時事問題を理論的に分析できるようにすること。

【授業計画】『入門新しい金融論』を輪読し演習問題を解く。毎回のレポーターを決め、レポーターはテキストの内容と演習をレジュメに整理し報告する。その報告内容について、ゼミ生全員で議論する。

【成績評価】課題、レポート、出席及びゼミへの参加姿勢を総合的に評価する。特に、報告を重視する。

【再試験】無

【教科書】滝川好夫『入門新しい金融論』

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219427>

【連絡先】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12:50~14:20 水曜日 12:50~14:20)

経済学演習 II[国際経済論]

4 単位 4 年 (通年)
Seminar: International Economics 2
水島 多喜男・教授 / 社会創生学科

【授業目的】担当教官の研究対象は三分野あります。・第一は中東産油国の社会経済論。この地域はイスラームの強い影響下にあり、また、その多、くが開発途上国であるため、分析方法としては経済学的手法と地域研究の手法を用います。・第二は、これと表裏をなすものとしての石油・天然ガス産業論。・第三は、これらを統合して理解するための基礎理論としての世界経済論です(ゼミの名称。には、一般的な「国際経済論」を使用)。ゼミでは、これらに関連する問題を中心に、世界経済の問題についての理解を深めます。

【授業概要】毎回のゼミでは、世界経済論の基礎理論と現実の問題の関連を常に考えます。本年は石油・天然ガス産業の特殊性と途上国金融の基礎を考えます。

【履修上の注意】・「世界経済論 I, II」は必修。・ゼミは、学習の場であるとともに、会議の運営とプレゼンテーションの訓練の場でも、あります。従ってゼミを受ける際には自発的な研修が必要ですが、同時に、ゼミの運営には自治意識の涵養、信頼関係の醸成が基本になります。・3 年終了までに、経済史、経済学説史、近代経済学とマルクス経済学について基本的、な教科書で良いから、通読してください。そのテキストについては相談に応じます。・経済学の古典に関心を持つこと。古典には教科書にない力があります。・統計処理と語学力を高める努力を続けてください。

【到達目標】

1. 基本的論点の理解。
2. 問題の発見能力とリサーチ能力を身に付ける。
3. ディベート、および、プレゼンテーション能力を身に付ける。
4. 形式をきちんと踏まえた論文を作成する。

【授業計画】下記に指定した図書を輪読する。

【成績評価】出席と報告と質疑応答により判定する。

【再試験】なし

【教科書】(其の他、必要に応じて提示する。)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219423>

【連絡先】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: E-mail:mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp, 電話:088-656-7188(研究室))

経済学演習 II[財政学]
EconomicsSeminar2

4 単位 4 年 (通年)
石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 受講生自らが課題を見つけ、分析し、結果を得ることができるようになる。そのために必要な技術を習得する。財政に関する理解を深める。学生同士の親睦を深める。
【授業概要】 基本書を輪読し、学生同士で議論することにより、財政学の基礎的理解を深める。また、随時、現地視察や実務家との懇話会を開催する。
【キーワード】 財政学
【関連科目】 『財政学 I』(1.0, ⇒246 頁), 『財政学 II』(1.0, ⇒246 頁)
【到達目標】

1. 自分で文献を探し、分析し、結果を出す
2. 学生同士の親睦を深める

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 財政学とは何か 3. 日本財政の現状と課題 4. 予算制度 5. 市場メカニズムと資源配分の効率性 6. 資源配分機能 (1):公共財 7. 資源配分機能 (2):外部効果 8. 資源配分機能 (3):費用削減産業 9. 所得再分配機能 10. 経済安定化機能 (1):自動安定化装置 11. 経済安定化機能 (2):裁量的財政政策 12. 国と地方の役割分担 13. 国と地方の税源配分 14. 政府間財政関係 (1):地方交付税 15. 政府間財政関係 (2):補助金 16. 官民の役割分担 17. 政府の捉え方 (1):慈悲深い政府 18. 政府の捉え方 (2):リアライサン政府 19. 集団的意思決定の理論 20. 財政の持続可能性 (1):ドーマー命題 21. 財政の持続可能性 (2):プライマリーバランス 22. 日本の税制の現状と課題 23. 所得課税 24. 消費課税 25. 資産課税 26. その他の課税:目的税, 政策税制など 27. 公債 (1):国債 28. 公債 (2):地方債 29. 社会保障 (1):医療 30. 社会保障 (2):年金

【成績評価】 平常点により評価する
【再試験】 なし
【教科書】 未定 (受講生と相談の上, 決定)
【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/index.html/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219426>
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

経済学演習 II

4 単位 4 年 (通年)
内藤 徹・教授/社会創生学科

【授業目的】 空間経済学を中心とする研究論文 (卒業研究) を完成させること。そのための基礎学力の習得へのトレーニング (特に, ミクロ経済学的手法), 及び研究指導をします。
【授業概要】 主として空間経済学を中心とした論文, テキストを扱う。
【キーワード】 都市経済学
【先行科目】 『産業経済論 II』(1.0)
【履修上の注意】 卒業研究を行うにあたり, 十分な経済理論の理解が必要とされる。したがって, 本演習を選択する学生はそれを認識して受講すること。演習は教員ではなく受講生が主体となるため, その意識によって充実度が大きく影響すること。認識すること。
【授業計画】 空間経済学・都市経済学に関する基礎的知識を習得したのち, 現実の問題を鑑みた経済モデルの構築および分析を行い, その処方箋を提示できるように指導する。
【成績評価】 平素の成績
【再試験】 なし
【教科書】 演習内で指定
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218547>
【連絡先】
⇒ 内藤 (naito@kyudai.jp)

経済学演習 III[日本経済史]

4 単位 4 年 (通年)
中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業目的】 日本経済の構造把握に歴史的にアプローチすることを学習課題とする。講義・日本経済史の内容を集団学習により深めるものである。主として戦後段階を対象とするので「日本経済論」と称される領域と重複する。ゼミ共通テーマは「戦後日本資本主義の特質の解明」だが, テキストの選定や個人の研究課題など, 具体的な運営はゼミ開始後に相談して決める。
【授業概要】 日本経済の戦後史
【履修上の注意】 国際経済社会システムコースでは「演習」を中軸とした科目履修を指導している。日本経済史演習を含む各演習の履修方法につ

いては, 別に資料を配布し説明を行うので, それに基づいて履修選択を行うこと。

【到達目標】 「研究する学生」に育つ。
【授業計画】 演習運営の基本ルールは, 学生の自主性に基づき, 民主的に運営すること, および外部に対し公開されていることとする。前半は共通テキストの講読を行い, 後半は自主課題に基づく研究レポートの作成を行う。また, 4 年次学生や院生との共同運営を予定しており, 卒論作成の技法マスターなどの学習方法の実習を随時組み込むこととする。
【成績評価】 セミナーへの参加状況および課題論文の到達水準で評価。
【再試験】 行わない。
【教科書】 相談して決定する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219424>
【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 随時)

経済学演習 III[理論経済学]

4 単位 4 年 (通年)
立花 敬雄・教授/社会創生学科

【授業目的】 現代社会において, 考えるべき問題は, 多岐にわたっている。それに適切に対応していくには, 一方で, 現代の生産様式の特徴, 例えば, 技術革新, 産業・経済構造や労働環境の変化, グローバリゼーションといったことを経済学的に理解するとともに, 他方で生産, 経済から社会, 文化, 思想にいたる諸相を多面的に研究する必要がある。そのための文献を学習する。
【授業概要】 現代資本主義と経済学
【履修上の注意】 演習生の研究テーマ決定は主体性を重視する。
【到達目標】 諸問題を分析・検証する経済学等の知識を習得し, 問題解決能力を養う。
【授業計画】 経済学に関する文献, や現代資本主義を明らかにした文献を共同で読み進み, 討議形式で検討することを通して, 理解を深める。
【成績評価】 演習での報告, 受講態度などにより, 評価を行う。
【再試験】 実施しない。
【教科書】 演習時に相談して決める。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219425>
【連絡先】
⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前後期) 随時)

経済学演習 II

4 単位 4 年 (通年)
眞弓 浩三・教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219422>
【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

経営学演習 III[マーケティング論]

4 単位 4 年 (通年)
多田 正仁・准教授/社会創生学科

【授業目的】 マーケティングとは商品開発から流通, 販売促進, 広告にいたるまで企業が消費者に商品を提供する一連の過程を総称するものである。マーケティングは消費者の注文にただ応じていればよいというものではなく, デザインや広告, ネイミングと結びつくことによって消費者の欲望を開発する機能を果たしており, 科学というよりもアートの世界に近い。そこで今年度は流行商品のマーケティングと広告の研究を演習で取り上げる。文献ももちろん取り上げるが, それ以上に学生自身の体験報告やアンケート調査も実施して, 実習の時間を多く取る。
【履修上の注意】 課外活動にも積極的に参加すること。
【到達目標】 マーケティング論に関する基礎知識と, 実践法を体得する。
【授業計画】 1. 「ゼミ運営方法」 2. テキストの輪読を終えた後は各人が自分の関心がある商品や広告についてレポートし, 全員でそれについて討論を行う。
【成績評価】 毎週のレポート
【再試験】 行わない
【教科書】 未定
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219414>
【連絡先】
⇒ 多田 (2204, 088-656-7170, RXN10515@nifty.com) (オフィスアワー: (前後期) 水曜日 15時~17時)
【備考】 本年度開講せず

人間社会学科 人間行動コース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

生涯発達心理学 ... 山本/2年(前期).....	252
ウェルネス概論 ... 田中/2年(前期).....	252
人間行動ゼミナール ... 佐藤/2年(後期).....	252
人間行動ゼミナール ... 佐竹/2年(後期).....	252
人間行動研究法 ... 川野/3年(前期).....	253
行動統計学Ⅰ ... 川野・原/2年(後期, 集中).....	253
人間行動実験実習Ⅰ ... 濱田・佐藤・境/2年(前期).....	253
人間行動実験実習Ⅱ ... 荒木・的場・佐竹・三浦/2年(後期).....	254
人間行動実験実習Ⅲ ... 佐藤・中村/2年(前期).....	254
人間行動実験実習Ⅳ ... 山本・原・内海・福森/2年(後期).....	254

生涯発達心理学

2 単位 2 年 (前期)
山本 真由美・教授/人間文化学科

【授業目的】 従来の発達心理学では、人間が成長、発達していく時期は乳幼児期から青年期までであると考えられていました。しかし、長寿化、価値観や生き方の多様化という社会の中で成人期以降でも自分らしい生き方の模索などは共通課題であると考えられるようになってきました。そこで、生涯発達を胎前から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とします。

【授業概要】 生涯にわたって発達し続ける存在である人間の発達について学び、考えていきたいと思います。

【キーワード】 生涯発達、個人と環境、相互性

【履修上の注意】 主体性を持って学ぶことを期待します。隔週にテーマを出します。受講生はグループに分かれて、そのテーマについて話し合い、次に受講生全体で討論をしていきます。

【到達目標】 生涯発達の意味を理解し、先に挙げた授業のテーマに基づき、今までの自己を振り返り、これからの自己の存在について考えることを到達目標とします。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 家族の発達 3. 話し合いと発表 4. 認知・知能の発達 5. 話し合いと発表 6. 身体の発達 7. 話し合いと発表 8. 社会性・対人関係の発達 9. 話し合いと発表 10. 自我の発達 11. 話し合いと発表 12. 社会の広がり(地域・学校・職場) 13. 話し合いと発表 14. 人生観・死生観 15. 話し合いと発表 16. レポート解説

【成績評価】 小レポート、発表態度、期末レポートの結果を勘案し、総合評価します。

【再試験】 有

【教科書】 担当者がその都度配布もしくは紹介します。

【参考書】 下山晴彦・丹野義彦編 2001 講座 臨床心理学 5 発達臨床心理学 東京大学出版会

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219383>

【連絡先】

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

ウェルネス概論

2 単位 2 年 (前期)
田中 俊夫・教授/大学開放実践センター

【授業概要】 少子高齢化が進む日本社会にあつて、医療費の増加に歯止めをかけ、高齢者の QOL を維持していくことは極めて重要・至難な社会的課題である。この健康福祉に関して、国の施策方針から地域現場における具体的な実践例まで、さまざまなレベルにおける取組を学習し、その成果と課題について考察する。さらに、今後の健康福祉政策のあるべき姿について考えていく

【キーワード】 健康福祉、メタボリックシンドローム、介護予防、運動指針

【授業計画】 1. 地域健康福祉概論 2. アメリカと日本における健康福祉政策 3. 健康福祉を担う指導者 4. メタボリックシンドロームと健康福祉政策 5. 運動基準・運動指針 6. 介護予防・高齢者医療と健康福祉政策 7. 県レベルにおける健康福祉への取り組み 8. 市町村レベルにおける健康福祉への取り組み 9. 民間企業・団体における健康福祉への取り組み 10. 具体的な実践事例 1(生活習慣病と運動授学) 11. 具体的な実践事例 2(健康づくり運動とカウンセリング支援) 12. 現場の声を聞く 1(メンタルヘルスと運動の効果) 13. 現場の声を

を聞く 2(ストレスアセスメントと運動指導) 14. 地域健康福祉の未来像を探る 15. まとめ

【成績評価】 出席状況 (40%), 小テスト授業内レポート (10%), 期末試験 (50%)

【再試験】 行わない

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219054>

【連絡先】

⇒ 田中 (088-656-7280, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

人間行動ゼミナール

2 単位 2 年 (後期)
佐藤 健二・教授/人間文化学科

【授業目的】 コースに所属した 2 年生に対して、学生自身が興味を持つ人間行動に関する身近なテーマから、あるいは教員から提示される基礎的な文献資料によって、学生自らが参加して学ぶ力を養うことを目的とします。

【授業概要】 人間行動コースに所属する学生が人間行動に関することを少人数で主体的に学ぶ。

【キーワード】 人間行動、心理学、ウェルネス

【履修上の注意】 5 人の担当教員ごとのゼミナール (1 ゼミで 11 人程度) 形式で授業が進められます。この授業は必修科目となっています。

【到達目標】 少人数のゼミナール形式で、学生自らが選択した書籍や文献あるいは指定された書籍や文献を講読する能力を養う。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 2. ~ 16. 各担当教員でゼミナール 3. ○濱田治良:知覚心理学の英文の入門書を講読し、人間が外界を知覚することの意義を考察し、かつ、英文の読解力の向上を図ります。なお、専門的な知識等は必要ではありません。4. ○佐藤健二:テーマは、臨床心理学・社会心理学を中心として、広く関連領域(精神医学、生理心理学など)における、興味深い現象、謎です。それについて、各自が資料(本、論文他)を調べて、発表してもらい、皆で議論します。5. ○長積:机上に留まらない”スポーツマネジメント”を体験することに主眼を置く。幸運にも徳島県下には、サッカーと野球の 2 つのプロスポーツチームが存在するが、これらのチームを題材に、観戦者調査やゲーム内でのイベントプロデュースを企画提案し、実際に運営を行う。これまでの経験や知識については、一切不問!ただし、学外とのタイアップで授業を進めるという性質上、固定的な授業時間外にヒアリングに出かけたり、ミーティングを行ったりすることが多いので、時間とエネルギー・意欲が注がないと思う人は、受講を遠慮していただきたい。6. ○的場秀樹:テーマは自分のからだとの対話です。からだとの対話は、寝ていたりすに座ったままでは十分にはできません。運動やスポーツを実際に行い活動水準を上げることが必要です。そのような観点から、主に筋トレを通して、からだを対話したいと考えています。7. ○佐竹昌之:テーマとして「オリンピック」を取りあげます。これは、スポーツによって健全な心と体を調和的に育成し、平和に貢献しようという考えです。オリンピック憲章を読みながら、興味のあるテーマについて掘り下げたいと思います。

【成績評価】 教員ごとに評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 教員が適宜授業の中で示す。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219098>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)

人間行動ゼミナール

2 単位 2 年 (後期)
佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 コースに所属した 2 年生に対して、学生自身が興味を持つ人間行動に関する身近なテーマから、あるいは教員から提示される基礎的な文献資料によって、学生自らが参加して学ぶ力を養うことを目的とします。

【授業概要】 人間行動コースに所属する学生が人間行動に関することを少人数で主体的に学ぶ。

【キーワード】 人間行動、心理学、ウェルネス

【履修上の注意】 5 人の担当教員ごとのゼミナール (1 ゼミで 11 人程度) 形式で授業が進められます。この授業は必修科目となっています。

【到達目標】 少人数のゼミナール形式で、学生自らが選択した書籍や文献あるいは指定された書籍や文献を講読する能力を養う。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 2. ~ 16. 各担当教員でゼミナール 3. ○濱田治良:知覚心理学の英文の入門書を講読し、人間が外界を知覚することの意義を考察し、かつ、英文の読解力の向上を図

ります。なお、専門的な知識等は必要ではありません。4. ○佐藤健二:テーマは、臨床心理学・社会心理学を中心として、広く関連領域における、興味深い現象、謎です。それについて、各自が資料(本、論文他)を調べて、発表してもらい、皆で議論します。5. ○的場秀樹:テーマは自分のからだとの対話です。からだとの対話は、寝ていたりいすに座ったままで十分にはできません。運動やスポーツを実際に行い活動水準を上げることが必要です。そのような観点から、主に筋トレを通して、からだに対話したいと考えています。6. ○佐竹昌之:テーマとして「オリンピックズム」を取りあげます。これは、スポーツによって健全な心と体を調和的に育成し、平和に貢献しようという考えです。オリンピック憲章を読みながら、興味のあるテーマについて掘り下げていこうと思います。7. ○小原 繁:日常的な生活身体活動や食事、睡眠の在り方が身体にどのような影響を与えるかを調査しながら、授業を進めます。

【成績評価】 教員ごとに評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 教員が適宜授業の中で示す。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219099>

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

人間行動研究法

2単位 3年(前期)

川野 卓二・教授/大学開放実践センター

【授業目的】 人間行動を数量的に把握するための系統的なデータ収集法(観察、調査、実験など)について概括し、研究目的に適した手法を用いて収集されたデータの型に即した統計処理法の選択、および基本的な手法の手順の修得を目的とする。そのために、班単位で実際にデータ収集から整理、分析、報告書の作成までを行なう。また、学術誌に発表された論文の研究手法欄を理解することにも重点を置き、研究論文として備えるべき条件についても併せて触れる。

【授業概要】 科学的な視点から人間行動を捉えるための方法について、研究計画からデータ収集、分析、報告書の作成および発表までの過程について学ぶ。

【キーワード】 科学的な研究手法、測定の信頼性と妥当性、研究の信頼性と妥当性、知見の共有化

【先行科目】 『行動統計学Ⅰ』(1.0, ⇒253頁)

【関連科目】 『行動統計学Ⅱ』(0.5, ⇒259頁)

【履修上の注意】 4年生の受講も認める。授業には8桁以上、√演算機能つき電卓を持参すること。

【到達目標】 グループとして、研究目的に適したデータ収集法を用いて研究計画の立案・実施を行なうことが出来、得られたデータの信頼性と妥当性に関する検証を行なうとともに、適切な分析方法を用いて統計処理を行ない、結果の整理・考察・報告を効果的に行なうことが出来る。

【授業計画】 1. 1. 研究計画立案の視点 2. 2. データ収集法としての観察、調査、実験法 3. 3. 独立変数と従属変数 4. 4. データの型と統計処理の基本的な手法 5. 5. 測定値のモデル 6. 6. データの整理と記述統計 7. 7. 測定の信頼性、妥当性 8. 8. 研究の妥当性 9. 9. 学術誌論文の研究手法欄 10. 10. 研究報告書の作成 11. 11. 発表スライドの作成 12. 12. 発表会

【成績評価】 評価の配分は、課題(個人課題、グループ課題)50%、期末試験50%で行なう。期末試験には、自著ノート(A4紙1枚)のみ持ち込みを認める。

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇教科書 アン・サール 著「心理学研究法入門」新曜社
- ◇参考書 岩淵千明編著「あなたもできるデータの処理と解析」福村出版
- ◇参考書 高橋・渡辺・大淵編著「人間科学研究法ハンドブック」ナカニシヤ出版

【参考書】 資料は、適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219104>

【連絡先】

⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月・火曜日 午後12時10分から12時40分まで(and/or by a ppointment), メールによる質問も受け付ける kawano@cue.tokushima-u.ac.jp)

行動統計学Ⅰ

2単位 2年(後期, 集中)

川野 卓二・教授/大学開放実践センター, 原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】 人間行動を数量的に把握するための方法(例えば、観察、調査、実験など)によって収集したデータを整理、分析するために必要な統計的手法の基本と応用について講義する。

【授業概要】 データの種類や目的にあったデータ分析の手法を学ぶ。収集したデータの整理、分析に必要な統計処理の原理や基本的な手法について、相関係数、t検定、F検定、χ²検定を中心に学ぶ。微・積分学的な数式を用いることは最小限にとどめ、代数学的な表現により統計学的基本概念を講義する。ノンパラメトリック法や汎用性が高い重回帰分析についても触れる。

【キーワード】 記述統計、推測統計、統計的仮説検定

【先行科目】 『情報処理の基礎Ⅰ』(1.0)

【履修上の注意】 卒業研究で何らかの数量的なデータの収集・分析を予定している者が受講することが望ましい。4年生の受講も認める。授業には8桁以上、√演算機能つき電卓を持参すること。

【到達目標】

1. 収集したデータの測定のレベルや型に適し、且つ、分析の目的にあった統計手法が選択できる。
2. 正確な計算により得られた結果が正しく解釈できる。

【授業計画】 1. 記述統計量と標準化得点(「情報処理の基礎」の復習) 2. 計算機を用いてさまざまな統計量の計算 3. 母集団と標本 4. 統計分析に用いる確率分布 5. 統計的仮説検定と区間推定の理論と基本的考え方 6. 2つの平均値の差の検定 7. 分散分析法入門 8. 要因計画と被験者内分散分析 9. ノンパラメトリック検定:度数や比率の検定 10. ノンパラメトリック検定法:順位による検定 11. さまざまな相関係数 12. 相関と回帰によるデータの理解 13. 重相関と重回帰分析 14. 差の検定と関係の検定 15. 期末試験 16. 解説とまとめ

【成績評価】 評価の配分は、課題30%、まとめのノート30%、期末試験40%で行なう。期末試験には、自著ノート(A4紙1枚)のみ持ち込みを認める。

【再試験】 再試験

【教科書】

- ◇教科書 山内光哉 著「心理・教育のための統計法<第3版>」サイエンス社
- ◇参考書 南風原朝和 著「心理統計学の基礎」有斐閣
- ◇参考書 森敏昭、吉田寿夫 著「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房
- ◇参考書 岩原信九郎 著「新訂版 教育と心理のための推計学」日本文化科学社
- ◇参考書 山上 暁、倉智 佐一 編著「新版 要説 心理統計法」北大路書房

【参考書】 適宜、資料を配布する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219450>

【連絡先】

⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月・火曜日 午後12時10分から12時40分まで(and/or by a ppointment), メールによる質問も受け付ける kawano@cue.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間行動実験実習Ⅰ

1単位 2年(前期)

濱田 治良・教授/人間文化学科, 佐藤 健二・教授/人間文化学科
境 泉洋・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業は、心理学に関する基礎的な実験法・調査法等を体験的に学ぶことを目的とします。具体的には、実験心理学、社会心理学、及びコミュニティ心理学に関する諸手法を学ぶこととなります。

【授業概要】 人間行動の理解に必要な基礎的知識と技術を実験実習形式で具体的に学びます。

【キーワード】 心理学基礎実験

【履修上の注意】 毎回レポートの提出を求めます。

【到達目標】 心理学に関する基礎的な実験法・調査法等を体験し、具体的にそれらの手法を身につけ、加えて統計処理やレポートの書き方等、心理学の研究に必要な基礎知識を獲得する。

【授業計画】 1. 濱田教員: 実験心理学に関する基礎的な実験を行います。具体的には幾何学的錯視の典型例である「ミュラー・リヤー錯視」、知覚運動学習についての「鏡映描写」、無意味綴りの記憶についての「系列予言法による記銘学習」、そして「マグニチュード推定法」等の実験を行います。 2. 佐藤(健)教員: 社会心理学の中でも、臨床心理学、とりわけ認知行動療法との関連性の深いテーマ(例、対人不安等)について基礎的な実験を行います。 3. 境 教員: 怒り感情に関する認知行動論的観点からの分析を行います。怒りを感じる場面についてのプロトコル分析を行います。

【成績評価】 出席とレポートにより評価します。全ての教員のレポートが提出されていないと単位は認定されません。

【再試験】 しません。

【教科書】 必要な資料は全て教員が用意します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219100>

【連絡先】

- ⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官のオフィスアワーを参照して下さい。)
 ⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官のオフィスアワーを参照して下さい。)
 ⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

人間行動実験実習 II

1 単位 2 年 (後期)

荒木 秀夫・教授/人間文化学科, 的場 秀樹・教授/人間文化学科
佐竹 昌之・准教授/人間文化学科, 三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 人間行動の科学的な測定と解析についての基礎を実験実習を通じて学習し、行動科学の実験科学的意義を理解する。

【授業概要】 人間行動科学は、生理学、工学などの実験科学を基礎に置いている。そこで本授業では、人間行動の日常的な課題テーマを題材に、運動・応用生理学、力学、健康科学、人間工学にわたる実験的手法からの検討方法について、基礎的な実験実習を行う。

【キーワード】 人間行動, 実験, 身体機能, 身体構造

【先行科目】 『ウェルネス概論』(1.0, ⇒252 頁), 『人間行動ゼミナール』(1.0, ⇒252 頁)

【関連科目】 『運動生理学』(0.5, ⇒261 頁), 『行動制御論』(0.5, ⇒276 頁), 『運動療法学』(0.8, ⇒262 頁), 『バイオメカニクス』(0.5, ⇒261 頁)

【到達目標】 人間行動における諸特性と科学的知見との対応の仕組みを理解する。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. データ整理・統計について 3. レポートの書き方・プレゼンテーションについて 4. 事象関連電位 5. 動作分析 6. 身体活動時の心拍数 7. 筋力測定 8. 形態計測 9. パワーの測定 10. エネルギー消費量の測定 11. エネルギー摂取量の測定と栄養バランスのチェック 12. 血管の形態・機能測定 13. 中高齢者の体力測定・評価 14. データ処理の仕方 15. レポート作成のための関連文献の講読

【成績評価】 出席, 授業態度およびレポートでの総合評価

【再試験】 行わない

【教科書】 なし

【参考書】 各教員より随時配布する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218944>

【連絡先】

- ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
 ⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間行動実験実習 III

1 単位 2 年 (前期)

佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 人間行動コースにおける基礎スキルとして、ウェルネス行動科学におけるボディ・ワークとコンサルティング・スキルを学ぶ。ボディ・ワークでは、自分のからだの動作を通じて自己認識していく過程を体験する。コンサルティング・スキルでは、時代の変革に求められる人間関係センスやスキルを身につける。

【授業概要】 コンサルティングスキルの開発, ボディーワーク

【履修上の注意】 ボディ・ワーク 1~4 では運動できる服装で参加すること

【到達目標】

1. 社会問題を解決するコンサルティング・スキルを身につける
2. 人間の存在として身体を動作を通して理解する

【授業計画】 1. 授業ガイダンス:コンサルティング・スキルとは 2. グループワークと自己開示:アイスブレイク 3. 問題分析法:ロジックツリー 4. 課題分析からアプローチ分析へ 5. 提言:プレゼンテーション 6. 説得の技術:RPG 7. セルフ・コンサルテーション 8. ボディ・ワーク 1: 心身の解緊① 9. ボディ・ワーク 2: 心身の解緊② 10. ボディ・ワーク 3:重心の移動について 11. ボディ・ワーク 4:東洋の身体操法 12. ウェルネス環境マップづくり① 実態を探る 13. ウェルネス環境マップづくり② データを集める 14. ウェルネス環境マップづくり③ 情報を構成する 15. ウェルネス環境マップづくり④ 発表する

【成績評価】 各セクションのレポート提出, 授業参加の状況, 課題の提出物内容を総合的に判断し, 評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 適宜, 資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219101>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業の前後で対応する)
 ⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業の前後で対応する)

人間行動実験実習 IV

1 単位 2 年 (後期)

山本 真由美・教授/人間文化学科, 原 幸一・准教授/人間文化学科
内海 千種・講師/人間文化学科, 福森 崇貴・准教授/人間文化学科

【授業目的】 カウンセリングを知識として知っている人は多いが、実際に受けたり、カウンセリングをしたりという経験をもつ人は、一般にはまれである。この授業では、まず、コミュニケーションと観察法の体験学習を行う。つぎに心理療法の技法としての遊戯療法について概説とロールプレイを行う。三番目に投射技法の一つであるバウムテストについて理論的かつ実践的に学ぶ。事例を取り上げ議論する事により、カウンセリングの実践例に触れる。カウンセリングの基礎理論を知るだけでなく、カウンセリングとはどのようなものかを、体験的に学び味わう時間としたい。

【授業概要】 カウンセリングを体験的に知る

【キーワード】 カウンセリング, コミュニケーション技法, 観察法, 遊戯療法, バウムテスト, ロールプレイ, 事例研究

【先行科目】 『人間行動実験実習 I』(1.0, ⇒253 頁)

【関連科目】 『人間行動実験実習 I』(0.5, ⇒253 頁)

【履修上の注意】 受講生の主体性や積極性が重要である。

【到達目標】

1. カウンセリングの基礎理論を理解する。
2. コミュニケーション技法について学び、体験する。
3. 観察法を体験する。
4. 遊戯療法の理論と実践を学ぶ。
5. バウムテストの理論と実践を学ぶ。
6. ロールプレイを通してカウンセリングにおける応答の実際を学習する。
7. 事例研究の討論に参加する。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. コミュニケーション技法 3. コミュニケーション技法 (非言語的) 4. コミュニケーション技法 (言語的) 5. 観察法:観察とは 6. 観察法:自然観察法 7. 観察法:実験的観察法 8. 中間まとめ 9. ロールプレイ①スクイグル 10. 遊戯療法 (概説) 11. ロールプレイ②遊戯療法説明 12. バウムテスト理論 13. バウムテスト解釈 14. バウムテスト事例研究 15. まとめ 16. 総括

【成績評価】 各担当者が課すレポートによる。授業態度や出席なども考慮に入れる。

【再試験】 行わない

【教科書】 担当者がその都度紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219102>

【連絡先】

- ⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各担当者のオフィスアワー)
 ⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各担当者のオフィスアワー)
 ⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各担当者のオフィスアワー)
 ⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各担当者のオフィスアワー)

人間社会学科 人間行動コース 心理学サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

心理学演習Ⅰ ... 濱田・山本・佐藤・山下・境・原・内海・福森/3年(前期)	255
心理学演習Ⅱ ... 濱田・山本・佐藤・山下・境・原・内海・福森/3年(後期)	255
心理学実験実習Ⅰ ... 山本・原・内海・福森/3年(前期)	255
心理学実験実習Ⅱ ... 佐藤・濱田・境/3年(後期)	256
生理心理学 ... 佐野・原/2年(前期)	256
知覚心理学 ... 濱田/2年(後期)	256
認知心理学 ... 濱田/3年(前期)	256
学習心理学 ... 境/3年(前期)	257
社会心理学 ... 佐藤/2年(後期)	257
コミュニティ心理学 ... 境/2年(後期)	257
人格心理学 ... 原/3年(後期)	257
青年期発達論 ... 山本/3年(後期)	258
人間形成論 ... 木内/3年(後期)	258
臨床心理学 ... 内海/2年(後期)	258
行動障害論 ... 内海/3年(前期)	258
福祉心理学 ... /2年(後期, 集中)	259
ストレス心理学 ... 佐藤/3年(前期)	259
行動統計学Ⅱ ... 川野・原/2年(後期, 集中)	259
精神医学 ... 大森・住谷・伊賀・中瀧・沼田・中土井・富永・亀岡/2年(後期)	259
教育相談 ... 福森/3年(後期)	260
生理学概論 ... 荒木・小原・的場・佐竹・三浦/2年(前期)	260
解剖学概論 ... 佐竹/2年(前期)	260
人体構造機能学 ... 的場/2年(前期)	260
運動生理学 ... 三浦・荒木・小原・的場・佐竹/2年(前期)	261
神経生理学 ... 荒木/3年(後期)	261
バイオメカニクス ... 佐竹/3年(後期)	261
スポーツ生理学 ... 三浦/3年(前期)	261
コンディショニング論 ... 的場・三浦/2年(後期)	262
運動療法学 ... 三浦/2年(後期)	262
運動生理学実験実習 ... 佐竹・荒木・小原・的場・三浦・野村/3年(前期)	262
健康教育論 ... 野村・佐竹/2年(後期)	263
発育発達学 ... 的場/2年(後期, 集中)	263
健康行動論 ... 荒木・小原・的場・佐竹・三浦/2年(前期)	263
運動処方論 ... 小原・佐藤・野村/3年(前期)	263
衛生・公衆衛生学 ... 前田・井崎/2年(後期)	263
健康運動指導論 ... 佐竹・中村/3年(前期)	264
健康運動実習Ⅰ ... 中村/2年(後期)	264
健康運動実習Ⅰ ... 荒木/2年(後期)	264
健康運動実習Ⅲ-a ... 佐竹/2年(前期)	264
健康運動実習Ⅲ-a ... 三浦/2年(後期)	265
健康運動実習Ⅲ-a ... 佐藤/2年(前期)	265
健康運動実習Ⅲ-b ... 小原/2年(後期)	265
健康運動実習Ⅲ-b ... 的場/2年(前期)	265
健康運動実習Ⅲ-b ... 行實/2年(前期)	265
運動文化比較研究 ... 中村/2年(前期)	266
身体表現論 ... 中村/3年(前期, 集中)	266
障害者スポーツ論 ... 小原・佐藤/2年(前期)	266
地域スポーツ社会学 ... 佐藤/2年(前期)	266
レジャーマーケティング論 ... 行實/2年(後期)	267
スポーツマネジメント論 ... 行實/3年(前期)	267
ウェルネスリサーチ演習 ... 佐藤・行實/3年(後期)	267
ウェルネスリサーチ演習 ... 佐藤・行實/3年(前期)	267
学校救急処置 ... 野村・佐竹/3年(後期)	268

心理学演習Ⅰ

2単位 3年(前期)

濱田 治良・教授/人間文化学科, 山本 真由美・教授/人間文化学科
佐藤 健二・教授/人間文化学科, 山下 泰子・准教授/人間文化学科
境 泉洋・准教授/人間文化学科, 原 幸一・准教授/人間文化学科
内海 千種・講師/人間文化学科, 福森 崇貴・准教授/人間文化学科

【授業目的】 次年度における卒業論文作成のために各学生の研究テーマを決定し, 必要となる知識, 技能を獲得する。

【授業概要】 担当教員の指導に従い, 研究テーマを方向付け, 具体的な目標に向かって各学生が主体的に論文作成のための手続きを進める。

【到達目標】 卒業論文作成のためのテーマの決定, 計画立案

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218720>

【連絡先】

- ⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)
- ⇒ 山下 (088-656-7193, yamashit@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)
- ⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理学演習Ⅱ

2単位 3年(後期)

濱田 治良・教授/人間文化学科, 山本 真由美・教授/人間文化学科
佐藤 健二・教授/人間文化学科, 山下 泰子・准教授/人間文化学科
境 泉洋・准教授/人間文化学科, 原 幸一・准教授/人間文化学科
内海 千種・講師/人間文化学科, 福森 崇貴・准教授/人間文化学科

【授業目的】 次年度における卒業論文作成のために各学生の研究テーマを決定し, 必要となる知識, 技能を獲得する。

【授業概要】 担当教員の指導に従い, 研究テーマを方向付け, 具体的な目標に向かって各学生が主体的に論文作成のための手続きを進める。

【到達目標】 卒業論文作成のためのテーマの決定, 計画立案

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218721>

【連絡先】

- ⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)
- ⇒ 山下 (088-656-7193, yamashit@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)
- ⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理学実験実習Ⅰ

1単位 3年(前期)

山本 真由美・教授/人間文化学科, 原 幸一・准教授/人間文化学科
内海 千種・講師/人間文化学科, 福森 崇貴・准教授/人間文化学科

【授業目的】 心理学実験実習Ⅰでは, 心理臨床場面で用いられるいくつかの心理検査を通じて, 心理査定(心理アセスメント)のあり方を体験的に学習することを目的としている。個人のパーソナリティを理解することは容易ではないが, 質問紙法検査や投射法検査などのさまざまな心理検査を総合的に用いることで, 「その人らしさ」が少しずつ見えるのである。ここでは, 自分自身が心理検査を受けることで, その特徴や意義を理解すると同時に, 自身のあり方について考える機会になると思う。

【授業概要】 心理査定(心理アセスメント)の実際と自己理解

【キーワード】 パーソナリティ検査, 知能検査, ロールシャッハ・テスト, バウムテスト

【先行科目】 『臨床心理学』(1.0, ⇒258頁), 『教育心理学』(1.0)

【関連科目】 『人格心理学』(1.0, ⇒257頁), 『ストレス心理学』(1.0, ⇒259頁), 『青年期発達論』(1.0, ⇒258頁)

【履修上の注意】 各教員が3~4回の授業を担当する。実習形式の授業なので, 主体的な参加が必要となる。また, 各心理検査に対する自分自身の反応から自己理解(自分自身への気づき)を深めることも期待したい。なお, 課題レポートは提出期限を厳守することとする。

【到達目標】 各心理検査の実施方法や解釈法などを習得し, 心理学的アセスメントを行うための基本的技法を獲得することを目指す。また, 自

身の検査結果を基に自己分析を行い、自己理解を深めることを目標とする。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 質問紙法 (YG 性格検査) 3. 質問紙法 (TEG) 4. 作業検査法 (クレペリン) 5. 知能検査 (概論) 6. 知能検査 (実施) 7. 知能検査 (事例検討) 8. 中間まとめ 9. ロールシャッハ法 (理論) 10. ロールシャッハ法 (実施) 11. ロールシャッハ法 (解釈) 12. パウムテスト (理論) 13. パウムテスト (実施) 14. パウムテスト (解釈) 15. まとめ 16. レポート試験の解説

【成績評価】 授業態度や出席、および各教官が課するレポートの成績を総合して判断する。

【再試験】 なし

【教科書】 各教員が実習中に適宜紹介する。

【参考書】 各教員が授業中に適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219222>

【連絡先】

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 授業内容の順は、他の授業科目との関係で入れ替わることがある。

心理学実験実習 II

1 単位 3 年 (後期)

佐藤 健二・教授 / 人間文化学科, 濱田 治良・教授 / 人間文化学科
境 泉洋・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 心理学研究のための基礎的な実験および実習を行う。

【授業概要】 心理学の基礎実験と実習

【キーワード】 心理学実験, 卒業研究

【先行科目】 『心理学実験実習 I』(1.0, ⇒255 頁)

【履修上の注意】 出席状況とレポートの提出を重視する。

【到達目標】 心理学の卒業研究に繋がる基礎的な考え方を実験実習を通して身につける。

【授業計画】 1. (1) 各自が被験者および実験者となり、パターン認知に関する実験を行います。そして、そのデータを整理し、簡単な統計的検定を行います。さらに、論文執筆の前段階としてのレポートを提出してもらいます。(濱田担当) 2. (2) 行動観察をとおして、オペラント学習理論にもとづく環境保護行動の理解を深めるとともに、環境保護行動の促進に関する実験を行う(境担当)。 3. (3) 臨床社会心理学の観点から、対人不安またはトラウマの開示に関する実験を行う。不安喚起場面または開示場面の前後における気分の変化などを継続的に測定する(佐藤担当)

【成績評価】 各テーマについてレポートの提出を求める。

【再試験】 レポートの再・追提出をすること。

【教科書】 授業中に資料等を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219223>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 別途に示されている各教官のオフィスアワー。)

⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

生理心理学

2 単位 2 年 (前期)

佐野 勝徳・教授, 原 幸一・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 生理心理学は、主に生理学的諸手法を用いて脳と行動の関係等を研究し、人間の行動や、心のはたらきを理解しようとする基礎心理学の一領域です。近年、その成果が広く応用、心理学の分野に援用されるようになってきています。これらを視野に入れながら、授業を進めます。授業は、10 回の講義と 5 回のグループ発表からなります。

【授業概要】 脳と心との関係を学び、その臨床心理への応用可能性を探ります。

【キーワード】 心の科学, 認知脳科学, 生物時計, 神経心理学

【先行科目】 『学習心理学』(0.8, ⇒257 頁)

【関連科目】 『ストレス心理学』(0.7, ⇒259 頁)

【履修上の注意】 レポートの出来具合で授業の良し悪しが決まります。皆さんの主体的・積極的な参加を希望します。

【到達目標】

1. 次の 3 点を目標とします。

2. (1) 脳と心との関係について、その基礎知識を身につけること。

3. (2) 与えられたテーマについて、グループで調べ、グループでまとめてレポートを作成する力を身につけること。

4. (3) 調べた内容を一定時間内に分かりやすく発表する力を身につけること。

【授業計画】 1. 生理心理学の概要 2. 生理心理学の研究法 3. 末梢神経系の構造と機能 4. 中枢神経系の構造と機能 (1) 5. 中枢神経系の構造と機能 (2) 6. 眠りと生活 (1) 7. 眠りと生活 (2) 8. 学習の生理心理 9. 記憶の生理心理 10. グループ発表 (1) 11. グループ発表 (2) 12. グループ発表 (3) 13. グループ発表 (4) 14. グループ発表 (5) 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】 レポート発表と期末試験によって評価します。

【再試験】 原則としてしません。

【教科書】 参考書等は必要に応じて紹介します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219386>

【連絡先】

⇒ 佐野 (オフィスアワー: 水曜日 2 時 30 分から 約 1 時間)

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

知覚心理学

2 単位 2 年 (後期)

濱田 治良・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 私たちを取り巻いている物理的環境と私たちが見聞きした結果である主観的な知覚的世界の間には大きな違いがある。私たちは外界・環境をどのように知覚しているのだろうか? この講義では認識や行動の出発点である知覚の基礎について出来るだけ平易に論じ、未知なる人間、我々自身を理解するための科学的試みを紹介する。その為、代表的な錯視現象を通して「人間が外界をいかに知覚し、認識しているのか」を論じ、科学の歴史をたどりながら錯視の成立機序とその意義を考察する。ところで、錯覚や錯視は私たちの目の不完全さを示しているのではなく、人間の知覚の機能の素晴らしを示している。日常生活で経験する知覚現象を網膜の神経構造との関連で考察する。また、客観的な刺激と主観的な感性の間には一定の規則的な関係がある。心理学的実験及びその方法を説明し、理論的考察から導き出された幾つかの法則を時代を追いながら説明する。

【授業概要】 人間は外界をどのように見ているか?

【関連科目】 『認知心理学』(0.5, ⇒256 頁)

【履修上の注意】 テストを実施する。また、知覚心理学の実験を行いレポート提出を求める。

【到達目標】 様々な視覚現象を通して物理的的刺激と心理的反応の間に介入する機構を理解し、人間特有の知覚の仕方を理解する。

【授業計画】 1. マッハ・バンド 2. 側方抑制 3. 主観的輪郭線 4. 明るさの同時対比 5. 明るさの対比と同化 6. 明るさの恒常性 7. 幾何学的錯視 8. 幾何学的錯視における対比と同化 9. 眼球運動と静止網膜像 10. 感覚遮断 11. 明暗順応 12. 網膜の構造 13. 三原色説 14. 反対色説 15. 色覚の段階説

【成績評価】 中間試験, 期末試験, レポート及び出席状況によって評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 資料を配付する。

【参考書】 参考書として、大山 正著「視覚心理学への招待」サイエンス社、松田隆夫著「視知覚」培風館、金子隆芳著「色彩の心理学」岩波新書、メツガー著・盛永四郎訳「視覚の法則」岩波書店を推薦する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219392>

【連絡先】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日, 12 時 ~ 13 時)

認知心理学

2 単位 3 年 (前期)

濱田 治良・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 外的環境に対する人間の優れた適応力を、私たちは日常生活のなかで疑問に思うことがないが、考え直してみると極めて不思議なことである。人間は外的環境の認知を物理的な刺激からだけではなく、記憶や知識体系との統合によって実現している。本講義では、心理学的な実験を通して明らかにされた研究成果を紹介しながら、できるだけ平易に人間の認知の機能について考察する。特に、外的環境に対する空間の認知、パターン認知、人間の記憶などを人間の情報処理の観点から概説し、人間を理解する試みを紹介する。

【授業概要】 パターン認知と人間の記憶

【先行科目】 『知覚心理学』(1.0, ⇒256 頁)

【履修上の注意】 講義は随時資料を配付しながら進める。

【到達目標】 人間が外的環境の認知を物理的な刺激からだけでなく、記憶や過去経験との統合によって実現していることを理解する。

【授業計画】 1. 空間の認知 2. 大きさの恒常性 3. 大きさ・距離不変仮説 4. パターン認知 5. 形の恒常性 6. 対称性の認知 7. 心的回転 8. 視覚的注意 9. 画像貯蔵庫 10. 音響貯蔵庫 11. 短期貯蔵庫からの忘却 12. 短期貯蔵庫の容量 13. 短期貯蔵庫からの情報検索 14. 長期貯蔵庫への情報の記入 15. 維持リハーサルと精緻化リハーサル

【成績評価】 中間試験, 期末試験, レポート及び出席状況によって評価する。
 【再試験】 行わない。
 【教科書】 資料を配布する。
 【参考書】 中溝・箱田・近藤「情報処理心理学入門 I-II-III」サイエンス社, 大村彰道「人間の記憶-認知心理学入門」東大出版会, 御領・菊地・江草共著「認知心理学への招待」サイエンス社
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219462>
 【連絡先】
 ⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日, 12時~13時)

学習心理学 2単位 3年(前期)
Psychology of learning 境 泉洋・准教授/人間文化学科

【授業目的】 記憶, 思考, 言語, 行動の学習の基礎について学ぶことを目的とする。そして, 学習心理学の基礎的知識が臨床にどのように応用されているかを理解することを目的とする。
 【授業概要】 記憶, 思考, 言語, 行動の学習について講義を行う。そして, 応用においては学習心理学を基盤に発展してきた認知行動療法を中心に上げ, 学習心理学の臨床心理学への応用について講義をすすめていく。受講生に発表の機会を与え, プレゼンテーション, ディスカッションの実践も行う。
 【キーワード】 学習心理学, 臨床心理学, 認知行動療法
 【関連科目】 『コミュニティ心理学』(0.5, ⇒257頁)
 【履修上の注意】 授業で配付した資料をホームページで公開するので, 欠席した場合など適宜参照すること。
 【到達目標】 学習心理学の基礎知識を身につけるとともに, その臨床応用の概要を理解する。
 【授業計画】 1. 行動と認知の学習 2. 古典的条件付け 3. オペラント条件付け 4. 社会的学習 5. 技能学習 6. 記憶と忘却 7. 言語の学習 8. 思考の学習 9. 学習の条件 10. 臨床心理学と学習心理学 11. 不安と学習心理学 12. 抑うつと学習心理学 13. 怒りと学習心理学 14. 発達と学習心理学 15. 定期試験 16. まとめ
 【成績評価】 出席, 受講態度, 発表, レポート, 期末テスト等により総合的に評価する。
 【再試験】 原則として再試験は実施しないが, 受講生の事情に応じて追加レポート等により可否の判定を行うこともある。
 【教科書】 教科書は使用しない。資料は授業中にプリントを配付する。参考図書などは適宜紹介する。
 【参考書】
 ◇ 山内光哉・春木 豊 (編著) 2001 グラフィック学習心理学:行動と認知 サイエンス社 2550 円
 ◇ 多鹿秀継 (編著) 2008 学習心理学の最前線:学びのしくみを科学する あいり出版 1900 円
 ◇ 福井 至 (編著) 2008 図解による学習理論と認知行動療法 培風館 2800 円
 【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219203>
 【連絡先】
 ⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)
 【備考】 毎年開講

社会心理学 2単位 2年(後期)
 佐藤 健二・教授/人間文化学科

【授業目的】 近年, 社会心理学に対する期待は, 著しく増大している。なぜなら, 社会心理学は, 人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて, 近年生じている, さまざまな社会的行動に関する諸問題の解決に資する可能性をも持っているからである。そこで, 本講義では, 人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする。
 【授業概要】 人間の社会行動の理解
 【キーワード】 社会的行動, 自己, 対人行動, 集団行動, 集合行動
 【履修上の注意】 OHP, パワーポイント, 紙資料, ビデオテープなどを使用する。私語厳禁。
 【到達目標】 社会心理学における重要な研究結果, 概念, 方法論, 近年の展開について理解すること
 【授業計画】 1. イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 2. 社会的影響(同調, 服従, 役割) 3. 攻撃, 暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? 4. 援助, なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? 5. 集団行動(リーダーシップ研究, 「プロジェクト X」視聴) 6. 集合行動(流言, うわさ, 群衆行動) 7. 言語・非言語コミュニケーション(視線行動など) 8. 抑うつの社会心理学, 認知

の歪み, 自己注目, 相互作用モデルとの関連 9. 自己呈示と対人不安 10. 対人魅力, 近接性と好意, 身体的魅力, 類似性と好意, 返報性 11. 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 12. 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- 13. 社会的認知(原因帰属など) 14. 自己意識, 自己評価研究とその臨床領域への応用 15. 試験 16. 総括
 【成績評価】 三分の二以上の出席した者に対して, 期末試験結果による評価を行う。
 【再試験】 行わない
 【教科書】 参考書 安藤清志他 社会心理学 岩波書店, 坂本真士・佐藤健二 はじめての臨床社会心理学 有斐閣
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219395>
 【連絡先】
 ⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 木曜日 12時~13時, 3S05室, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

コミュニティ心理学 2単位 2年(後期)
 境 泉洋・准教授/人間文化学科

【授業目的】 コミュニティで起こっている問題は, 面接場面だけでは解決できないものである。コミュニティ心理学においては, クライアントがどのようなコミュニティで生活し, そのコミュニティに適応するためにどのような援助が必要なのかという視点が必要となる。本講義では, コミュニティ心理学の基礎とその応用について理解を深めることを目的とする。
 【授業概要】 本講義では, 予防, コンサルテーション, 危機介入といったコミュニティ心理学の基礎を学ぶ。その上で, コミュニティ心理学の実践についての理解を深めていく。受講生にグループ発表してもらうことで, 受講生に積極的な授業参加の機会を提供する。
 【キーワード】 コミュニティ心理学, 臨床心理学
 【関連科目】 『学習心理学』(0.7, ⇒257頁), 『社会心理学』(0.4, ⇒257頁), 『心理学実験実習 I』(0.3, ⇒255頁)
 【履修上の注意】 授業で配布した資料はホームページにて公開するので, 授業を欠席した場合など適宜参照すること。
 【到達目標】 予防教育, 治療的介入, 社会復帰支援という一連のプロセスについて理解し, 柔軟な心理的援助を行うための知識を身につけることを目標とする。
 【授業計画】 1. ガイダンス:コミュニティ心理学的関与のプロセス 2. コミュニティ心理学とは何か? 3. コミュニティ心理学の背景理論 4. 予防 5. 危機介入 6. 臨床心理面接の初期 7. 臨床心理面接の中期 8. 臨床心理面接の後期 9. 社会復帰支援 10. 非専門家による支援 11. 訪問による支援 12. 非対面式による支援 13. ひきこもり:実態と心理学的理解 14. ひきこもり:コミュニティ心理学的介入 15. 期末試験 16. 総括授業
 【成績評価】 出席, 受講態度, 発表, レポート, 期末試験により総合的に評価する。
 【再試験】 原則として再試験は実施しないが, 受講者の事情によっては追加レポート等により可否の判定を行うこともある。
 【教科書】 教科書は使用しない。資料は授業中にプリントを配付する。参考図書などは適宜紹介する。
 【参考書】 植村勝彦 (編) 2007 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版 2400 円
 【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/index.html>
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218664>
 【連絡先】
 ⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)
 【備考】 毎年開講

人格心理学 2単位 3年(後期)
 原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】 人格はその人を表すことばである。その人の個性とも云えることから多くの人に共通する特性まであります。人格がどのように形成され, どのように理解しているのかを諸理論, 測定方法などを紹介します。
 【授業概要】 人格の概念, 測定の方法, さまざまな理論, 人格に関わる要因, 逸脱や人格に関わる誤解などについて講義をする。
 【キーワード】 人格, 気質, 測定
 【先行科目】 『臨床心理学』(1.0, ⇒258頁)
 【関連科目】 『臨床心理学』(1.0, ⇒258頁)
 【到達目標】 人格と関連する心理学的な事実についての理解。
 【授業計画】 1. 1. 人格とは 2. 2. 人格理解の歴史 類型論 3. 3. 特性論 4. 4. 人格の測定・1 5. 5. 人格の測定・2 6. 6. 人格の測定・3 7. 7. 人格の説明理論 1 8. 8. 人格の説明理論 2 9.

9. 人格の説明理論 3 10. 10. 人格の要因 11. 11. 人格の形成
1 12. 12. 人格の形成 2 13. 13. 人格に関わる障害 1 14. 14.
人格に関わる障害 2 15. 15. まとめ

【成績評価】 2/3 以上の出席を必要条件として、受講態度 30% レポート
70%

【教科書】 講義中に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219096>

【連絡先】

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 自分と他者を理解するための一助になればと思います。

⇒ 木内 (kiuchi@naruto-u.ac.jp)

臨床心理学

2 単位 2 年 (後期)
内海 千種・講師/人間文化学科

【授業目的】 近年、心理学に関連した資格を持つ専門家の役割が認識され、社会的にも関心を寄せられるようになってきました。しかし、一般にいわれている「こころ」についての考えは、必ずしも心理学でいわれている知見と一致するわけではありません。本授業では、学問としての臨床心理学の視点から、「こころ」に対するアプローチの紹介を目的とします。

【授業概要】 臨床心理学の歴史を概観した後、心理学的な支援を行う際に必要となる、アセスメント、理論、技法などについて講義します。また、心理臨床家が支援をおこなっている領域について概観します。

【キーワード】 臨床心理学、アセスメント、心理療法

【関連科目】 『行動障害論』(1.0, ⇒258 頁), 『精神医学』(1.0, ⇒259 頁)

【到達目標】 臨床心理学における基本的な理論や技法を理解し、心理臨床家が支援する様々な領域について認識することを目標とします。

【授業計画】 1. はじめに 2. 臨床心理学とは 3. 臨床心理学の資格と仕事 4. 臨床心理学の対象①発達に関して 5. 臨床心理学の対象②適応に関して 6. アセスメントの方法①面接と検査 7. アセスメントの方法②行動・発達 8. アセスメントの方法③その他 9. おもな理論と技法①精神分析・分析心理学 10. おもな理論と技法②クライエント中心療法 11. おもな理論と技法③芸術・表現療法 12. おもな理論と技法④その他 13. 危機介入とコンサルテーション 14. 臨床アプローチ 15. 学期末試験 16. 総括

【成績評価】 2/3 以上の出席者にのみ学期末試験を実施します。評価は、授業への取り組み状況、学期末試験の成績から総合的に行います。

【再試験】 無

【教科書】 教科書は使用しません。参考図書を紹介しながら、適宜資料を配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219444>

【連絡先】

⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 何らかの心の問題を抱えている人を支援するには、心理学はもちろんのこと、幅広い知見と柔軟な思考が必要です。他の関連科目もしっかりと学習してください。WEB ページ → コンテンツサーバ (EDB/CMS)

行動障害論

2 単位 3 年 (前期)
内海 千種・講師/人間文化学科

【授業目的】 行動障害には様々な環境への不適応が含まれますが、本授業では、事件・事故・災害など、生命の危機を感じるような出来事に遭遇した後の心理的な後遺症について講義します。みずからも考えることにより、危機的な状況に直面した後起こりうる、心理的な変化と行動への影響および対応を学ぶことを目的とします。

【授業概要】 心身に影響を及ぼす出来事と、それによって障害される行動や心理的变化について講義します。また、映像や話し合いを通して、危機時の対応について考えていきます。

【キーワード】 心的外傷、グリーフ、二次被害、二次受傷

【先行科目】 『臨床心理学』(1.0, ⇒258 頁), 『精神医学』(1.0, ⇒259 頁), 『ストレス心理学』(1.0, ⇒259 頁)

【到達目標】 「異常な事態における、正常な反応」について理解を深めるとともに、実践的な知識を身につけることを目標とします。

【授業計画】 1. はじめに 2. 行動障害とは 3. 心身に影響をおこす事柄①概要 4. 心身に影響をおこす事柄②ビデオ視聴 5. 事件・事故・災害などのあとに起こる反応と対応①急性ストレス障害 6. 事件・事故・災害などのあとに起こる反応と対応②外傷後ストレス障害 7. 事件・事故・災害などのあとに起こる反応と対応③子どもの症状 8. 事件・事故・災害などのあとに起こる反応と対応④その他 9. 危機時の初期対応①サイコロジカル・ファーストエイド 10. 危機時の初期対応②危機対応チーム 11. 外傷後ストレス障害への心理療法 12. 事件・事故に遭った人を取り巻く状況 13. 支援者の精神健康①惨事ストレス 14. 支援者の精神健康②二次受傷 15. まとめ

【成績評価】 2/3 以上の出席者にのみ学期末試験を実施します。評価は、授業への取り組み状況、学期末試験の成績から総合的に行います。

【再試験】 無

【教科書】 教科書は使用しません。参考図書を紹介しながら、適宜資料を配布します。

【参考書】 参考文献・参考資料は授業中に適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219452>

【連絡先】

⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 全くの他人事としてではなく、自分にも起こる可能性があることとして、主体的に授業に参加してください。WEB ページ → コンテンツサーバ (EDB/CMS)

青年期発達論

2 単位 3 年 (後期)
山本 真由美・教授/人間文化学科

【授業目的】 青年期は不思議な時代です。また、青年期は時代を映す鏡とも言われます。それはなぜでしょうか。青年期の諸事情と社会との関連について考えることを目的とします。

【授業概要】 青年期の心理について学びながら自らの問題として捉え、考えていきましょう。

【キーワード】 生涯発達、家族、地域社会

【先行科目】 『生涯発達心理学』(1.0, ⇒252 頁)

【関連科目】 『青少年問題研究 II』(0.5), 『ジェンダー研究』(0.5)

【履修上の注意】 自らの問題として主体的に学ぶ姿勢を期待します。2 週に 1 回テーマを出します。受講生はグループを作り、そのテーマについて話し合ったり、ロールプレイを実施したりします。

【到達目標】

1. 青年期心理学の理論を理解し、説明できる。
2. 青年期の特徴を説明できる。
3. 青年期の特徴を理解し、対応法を考える。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 1. 青年期とは 3. 2. 青年期を理解するための理論 (1) 生理学的視点 4. 青年期を理解するための理論 (2) 精神分析的・心理社会的視点 5. 青年期を理解するための理論 (3) 認知的・社会認知的視点 6. 青年期を理解するための理論 (4) 社会文化的視点 7. 3. 青年期の思考特徴 自己中心性 8. 4. 青年期の恋愛と結婚 9. 話合いとロールプレイ 10. 5. 青年期の職業観と就職活動 11. 話合いとロールプレイ 12. 6. 青年期の病理 13. 話合いとロールプレイ 14. 全体討論 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 ミニッツペーパー (30%), レポート (50%), 討論への参加状況 (20%) を勘案し、総合的に判断する。

【再試験】 なし

【教科書】 使用しない。担当者がその都度配布もしくは紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219482>

【連絡先】

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 金曜日昼休み)

人間形成論

2 単位 3 年 (後期)
木内 陽一・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】 人間形成の様態を、哲学的、思想的立場から考究する。

【授業概要】 人間形成論の立場から見た西田幾多郎の哲学

【キーワード】 西田幾多郎、京都学派の哲学、教育哲学、教育思想史

【履修上の注意】 近代日本哲学の代表者のひとり、西田幾多郎 (1870-1945) の著作を読んで、近代日本の哲学思想、人間形成論の一端に触れてみましょう。哲学や思想史の知識がなくても、興味があれば受講して下さい。

【到達目標】 「人間形成」論の成立した、歴史的・社会的状況がわかる/近代の人間観の概要がわかる/初期の西田哲学の概要がわかる

【授業計画】 1. はじめに—なぜ「人間形成」は「問題」になるのか? 2. 近代の人間観—イマヌエル・カントの事例 3. 近代人間形成論の展開 (1)—中世から近代へ 4. 近代人間形成論の展開 (2)—19 世紀から現代へ 5. 外国人が見た近代日本の文化と教育—ラファディオ・ハーンの事例 (1) 6. 外国人が見た近代日本の文化と教育—ラファディオ・ハーンの事例 (2) 7. 人間形成論としての西田哲学—西田幾多郎の人と思想 8. 「實在」とは何か (1) 9. 「實在」とは何か (2) 10. 「純粋経験」を考える (1) 11. 「純粋経験」を考える (2) 12. 「善」とは何か (1) 13. 「善」とは何か (2) 14. 西田の宗教観 (1) 15. 西田の宗教観 (2) 16. まとめ—人間形成論としての西田哲学

【成績評価】 レポートの提出を求める。

【再試験】 口述試験をおこなう。

【教科書】 西田幾多郎 (全注釈:小坂国継) 『善の研究』(講談社学術文庫(本書には岩波文庫版もあるが、全注釈がつけた講談社学術文庫版を購入してほしい。))

【参考書】 参考文献は、授業中に紹介する。また、必要な資料はプリントを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219097>

【連絡先】

福祉心理学

2 単位 2 年 (後期, 集中)

【授業目的】 この授業では、主に乳幼児・児童、障害者および高齢者の福祉に関連する心理学的知見等について学び合います。授業は、チャートリアル形式です。与えられた課題または自ら選んだ課題について、グループごとに資料の収集・分析、レポート作成、発表を行ってもらいます。

【授業概要】 福祉に必要な心理学的知識を学ぶ

【到達目標】 福祉活動に従事する際に、求められる心理学的基礎知識を獲得する。

【授業計画】 1. 人々の暮らしと福祉について (講義) 2. 福祉の担い手 (福祉の心) について (講義) 3. グループ (1 グループ 6 人程度) に分けて発表するテーマを、グループ討議で決める。 4. グループ単位でレポート作成 5. グループ単位でレポート作成 6. グループ単位でレポート作成 7. プレゼンテーションと質疑応答 (1) 8. プレゼンテーションと質疑応答 (2) 9. プレゼンテーションと質疑応答 (3) 10. プレゼンテーションと質疑応答 (4) 11. プレゼンテーションと質疑応答 (5) 12. プレゼンテーションと質疑応答 (6) 13. プレゼンテーションと質疑応答 (7) 14. プレゼンテーションと質疑応答 (8) 15. 総括討論

【成績評価】 小テストと期末試験によって評価します。

【再試験】 原則としてしません。

【教科書】 プリントを配布します。参考書等は必要に応じて紹介します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219402>

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

【備考】 平成 22 年度以降開講せず

ストレス心理学

2 単位 3 年 (前期)
佐藤 健二・助教/人間文化学科

【授業目的】 ストレスが人間に及ぼす影響、ストレスへの対処法について、心理学的観点から学習することを目的とする。ストレスが人間に及ぼす影響として、不安、抑うつ、怒りなど日常的にも経験しうる感情、PTSD(外傷後ストレス障害)などの精神疾患、過敏性腸症候群などの心身症までを検討の対象とする。ストレスへの対処法としては、行動療法、認知療法、認知行動療法、他、効果が実証されているさまざまなアプローチについて概説する。

【授業概要】 ストレスに関する心理学的な理解と制御

【キーワード】 ストレス、ストレス・マネジメント、健康、行動療法、認知療法

【履修上の注意】 パワーポイント、紙資料、ビデオテープなどを使用する。私語厳禁。他の受講者の迷惑になるので。

【到達目標】 不安、抑うつ、怒りから精神疾患、心身症まで、ストレスが人間に及ぼす影響とそれらへの対処方法を理解することを到達目標とする。

【授業計画】 1. 1. ストレス研究における概念・用語の説明 (PTSD ビデオ視聴法) 2. 2. 生理学的反応としてのストレス 3. 3. 心理学的ストレスモデルとストレスマネジメント (リラクゼーション法など) 4. 4. 行動療法 (1):レスポナント条件付けに基づく恐怖症治療他 5. 5. 行動療法 (2):オペラント条件付けに基づく発達障害治療他 (ADHD など) 6. 6. 行動療法 (3):エクスポージャー&反応妨害法に基づく強迫性障害治療 7. 7. 社会的学習理論とソーシャルスキル訓練 8. 8. 認知療法 (1):理論編 9. 9. 認知療法 (2):実践編 (抑うつ他) 10. 10. 認知行動療法概論 (ストレス免疫訓練等) 11. 11. 広場恐怖を伴うパニック障害への認知行動療法 12. 12. PTSD への認知行動療法 13. 13. 社会不安・対人恐怖への認知行動療法 14. 14. 心身症 (摂食障害等) への認知行動療法 15. 15. 非行・犯罪と認知行動療法、レポート課題提示 16. 総括

【成績評価】 出席状況、レポート提出

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない予定である。参考書などは、適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219062>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12-13時)

行動統計学 II

2 単位 2 年 (後期, 集中)
川野 卓二・教授/大学開放実践センター, 原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】 授業では、まず、収集したデータの 2 変数間の関連の強さに関する相関係数と、1 個の説明変数と 1 個の目的変数間の単回帰分析について復習する。その後、多変量解析法 (重回帰分析, 多要因分

散分析, 因子分析, 共分散構造分析等) の原理と特徴, 解析手順を修得するために例題を用いて授業を進める。あわせて、研究デザインやデータの種類別に適切な統計分析手法を決定するために考慮しなければならない事柄についても触れる。

【授業概要】 収集されたデータの様々な種類や目的にあったデータ分析の手法を学ぶ。

【キーワード】 分散分析, ノンパラメトリック法, 重回帰分析, 因子分析

【先行科目】 『行動統計学 I』(1.0. ⇒253 頁)

【履修上の注意】 卒業研究で何らかの数量的なデータの収集・分析を予定している者が受講することが望ましい。4 年生の受講も認める。授業には 8 桁以上, √ 演算機能付きの電卓を持参すること。

【到達目標】 収集したデータの測定のレベルや型に適し、且つ、分析の目的にあった統計手法が選択でき、正確な計算により得られた結果が正しく解釈できる。

【授業計画】 1. 1. 相関係数と回帰係数 2. 2. 重回帰分析の利用 3. 3. 多要因分散分析の応用 4. 4. ノンパラメトリック法の基礎 5. 5. 因子分析と共分散構造分析の基礎 6. 6. 測定のレベルとデータの型 7. 7. 多変量解析の種類と利用

【成績評価】 評価の配分は、課題 30%, まとめのノート 30%, 期末試験 40%で行なう。期末試験には、自著ノート (A4 紙 1 枚) のみ持ち込みを認める。

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 教科書 山上 暁, 倉智 佐一 編著「新版 要説 心理統計法」北大路書房
- ◇ 参考書 南風原朝和 著「心理統計学の基礎」有斐閣
- ◇ 参考書 石村貞夫 著「すぐわかる多変量解析」東京図書
- ◇ 参考書 内田治 著「すぐわかる Excel による多変量解析」東京図書
- ◇ 参考書 森敏昭, 吉田寿夫 著「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房
- ◇ 参考書 岩原信九郎 著「新訂版 教育と心理のための推計学」日本文化科学社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219451>

【連絡先】

⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月・火曜日 午後12時10分から12時40分まで (and/or by appointment), メールによる質問も受け付ける kawano@cue.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

精神医学

2 単位 2 年 (前期)

大森 哲郎・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

住谷 さつき・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

伊賀 淳一・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 中瀬 理仁・助教/病院

沼田 周助・助教/病院, 中土井 芳弘・助教/病院, 富永 武男・助教/病院

亀岡 尚美・

【授業目的】 精神医学に関する正しい理解と認識が、今ほど求められている時代はないと思われ、単に医療の世界だけにとどまらず臨床心理、福祉、教育、法律などの分野においても精神医学の知識と応用が大切になってくると思われる。臨床医学の経験をもとに、なるべく平易に、かつ率率的に、こうした精神医学に対するニーズを満たせるように講義したい。ICD-10(WHO による国際疾病分類) にのっとり各疾病について概説しながら、精神医学の基礎知識、メンタルヘルス、精神医療の歴史、精神保健福祉法などについても触れていきたい。

【授業概要】 精神医学の基礎と臨床を分かりやすく学ぶ

【関連科目】 『臨床心理学』(0.5, ⇒258 頁), 『ストレス心理学』(0.5, ⇒259 頁)

【履修上の注意】 皆さんの積極的な質問等を歓迎します。

【到達目標】 精神医学の現代における知見と医療全般の理解を深め、障害者への正しい認識と豊かな人間性を養う一助としたい。

【授業計画】 1. 精神医学総論 2. 精神科症候学 3. 精神科診断学 4. 気分障害 (山内) 5. 統合失調症 6. パニック障害・全般性不安障害・社会不安障害 7. 身体表現性障害・解離性障害・PTSD 8. 強迫性障害・適応障害 9. 摂食障害 10. 児童思春期精神医学 11. 人格障害 12. 認知症 13. てんかん 14. 睡眠障害・アルコール依存・薬物依存 15. 器質性・症状性精神障害 16. 総括

【成績評価】 期末試験による。

【再試験】 行わない。

【教科書】 日本評論社、新版「精神医学ハンドブック」、山下格著をテキストにして、適宜プリントを追加して教材とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218741>

【連絡先】

⇒ 大森 (臨床研究棟 8F 教授室, 088-633-7130, tohmori@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 設けない。)

⇒ 住谷 (satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 伊賀 (088-633-7130, igajunichi@hotmail.com)

⇒ 中瀧 .
⇒ 沼田 .
⇒ 中土井 .
⇒ 富永 .
⇒ 亀岡 .
⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育相談

2 単位 3 年 (後期)
福森 崇貴・准教授/人間文化学科

【授業目的】 学校現場では日々、様々な問題が起こっている。このような背景のもと、生徒たちの「その子らしさ」と一体どのように付き合っていけばよいのだろうか。そのような問いについて教育相談という立場から考えると共に、現場の実際や問題への対応について理解することを目的とする。

【授業概要】 教育相談に関する基礎理論及び学校現場の実際について
【到達目標】 教育相談の意義と必要性について考え、その上で、一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につけることを目標とする。
【授業計画】 1. ガイダンス ―教育相談とは何か― 2. カウンセリングの基本的理論 3. 傾聴の実際 その1 4. 傾聴の実際 その2 5. 話の促し その1 6. 話の促し その2 7. 沈黙への対応 8. カウンセリング場面での実際 9. 生徒理解に向けて 10. 問題行動とその対応 その1:不登校 11. 問題行動とその対応 その2:いじめ 12. 問題行動とその対応 その3:その他の問題 13. 保護者との関わり 14. まとめ 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】 期末試験、授業への取り組みなどを元に総合的に評価する。

【再試験】 無

【教科書】 特に指定せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】 なし。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218539>

【連絡先】

⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 授業中は、受講者に対し頻繁に意見を求めていく予定である。是非主体的に授業に参加して欲しい。

生理学概論

2 単位 2 年 (前期)
荒木 秀夫・教授/人間文化学科, 小原 繁・教授/人間文化学科
的場 秀樹・教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科
三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 運動を行うときに身体の様々な機能を働かせて身体活動が成り立っている。本講義では身体活動という視点から身体の構造を学び、また身体のような機能を使っているかを理解することを目標とする。基本動作としての走運動、投動作、跳躍動作に関わる身体の構造と機能を理解する。複合動作としての球技系の運動での身体の動きを理解する。

【授業概要】 解剖分野として骨格系、筋肉系、神経系の構造を理解する。生理学分野として筋系、神経系、心臓血管系、呼吸系、代謝系、内分泌系、感覚系、免疫系、体温調節の機能を講義し、身体活動による一過性の身体の変化と運動継続による身体の変化について理解を高める。

【キーワード】 解剖学, 生理学, 運動

【関連科目】 『人体構造機能学』(0.5, ⇒260 頁), 『運動生理学』(0.5, ⇒261 頁), 『解剖学概論』(0.5, ⇒260 頁), 『運動生理学実験実習』(0.5, ⇒262 頁)

【到達目標】

1. 骨格系, 筋肉系, 神経系の構造を理解する。
2. 人間の生理的機能について理解する。

【授業計画】 1. 細胞と組織 2. 骨格の構造と機能 3. 筋の構造と機能 4. 中枢神経系, 末梢神経系の構造と機能 5. 運動と感覚系の活動 (走・跳・投における随意動作と反射) 6. 心臓血管系の構造と機能:心臓血管機能 7. 呼吸系の構造と機能 8. 運動時の代謝 (疲労との関係) 9. 運動時の代謝 (糖代謝, 脂肪代謝) 10. 運動と内分泌系の働き 11. 運動と免疫系機能 12. 陸上運動と水中運動の比較 13. 運動と体温調節 14. 運動による適応現象 15. 定期試験 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況 (40%), 小テスト授業内レポート (10%), 期末試験 (50%) で評価する。

【再試験】 有, 再試験

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219385>

【連絡先】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後5時より6時まで)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

解剖学概論

2 単位 2 年 (前期)
佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 人体のそれぞれの器官が体全体の中でいかに助け合い、役割を分担しあっているのかを理解する。

【授業概要】 人体を部分部分に切り離していく過程を解剖といいますが、解剖学は、人体の構造とそれを構成する各部分の相互関係を取り扱う学問です。人間の行動を学ぶ上でこれらの知識は欠かせないものです。解剖学を学ぶとき、組織や器官の名称をただ単に暗記しようとしてもなかなか覚えられないばかりか、興味を持つことができません。この授業では、それぞれの器官が体全体の中でいかに助け合い、役割を分担しあっているのかを学習します。私たちの体は実に見事に作られており、解剖学に関する知見を学べば学ぶほどその見事に驚かされます。この授業を通して、自分自身の「からだ」をより身近なものに感じ取ってください。

【キーワード】 解剖, 人体構造, 人体機能

【関連科目】 『人体構造機能学』(0.5, ⇒260 頁), 『バイオメカニクス』(0.5, ⇒261 頁), 『運動生理学』(0.5, ⇒261 頁), 『神経生理学』(0.5, ⇒261 頁), 『健康運動指導論』(0.5, ⇒264 頁)

【履修上の注意】 この授業で詳しく取り上げるのでできない項目については、次の授業科目で取り上げられていますので、それらの講義も受講することを望みます。(生理学概論・運動生理学・人体構造機能学・神経生理学 (3 年次開講))

【到達目標】

1. 全身の 11 の器官について一般的な機能を理解する。
2. 皮膚やその付随器官の構造・機能を、日常生活や運動場面との関連で理解する。
3. 消化器系の名称とその相互関係を学び、食物の消化吸収の機序を理解する。
4. 腎臓各部位について学び、尿の生成過程を理解する。
5. 生殖系の構造・機能を学び、精子・卵子が受精するまでの過程を理解する。

【授業計画】 1. ガイダンス, 人体の構造と機能についての概論・細胞と組織 2. 組織および器官系について 3. 器官について 4. 外皮系と人体を構成する膜 5. 骨格系 6. 骨格筋系 (その1) 7. 骨格筋系 (その2) 8. 神経系 9. 循環器系 10. 消化器系 (その1) 11. 消化器系 (その2) 12. 泌尿器系 13. 男性生殖器 14. 女性生殖器 15. 感覚器系 16. 定期試験

【成績評価】 レポート及び定期試験 (持ち込み不可)

【再試験】 定期試験のみ、同様の方法で再試験を行います。

【教科書】 カラーで学ぶ解剖生理学, ゲーリー・A・ティボドー他著, 医学書院 5600 円

【参考書】 補助教材 (印刷資料) を使用します。第 3 回目の授業時に配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219455>

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

人体構造機能学

2 単位 2 年 (前期)
的場 秀樹・教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、人間を科学的に理解するための基礎である人体の構造と機能について講義する。本講義のねらいは、学生諸君に人体の構造と機能との関連を把握しながら理解してもらうことにあり。

【授業概要】 人体の構造と機能と関連づけて理解する。

【キーワード】 解剖学, 生理学

【先行科目】 『解剖学概論』(1.0, ⇒260 頁)

【関連科目】 『生理学概論』(0.5, ⇒260 頁), 『運動生理学』(0.5, ⇒261 頁)

【履修上の注意】 単に出席するだけでなく、授業へ積極的に取り組むことを希望する。

【到達目標】 人体の構造と機能を人体の器官系に基づき系統的に理解する。

【授業計画】 1. 授業概要, 教科書, 成績評価の方法等の説明 2. 人体を構成する器官系の概説 3. 細胞と組織 4. 骨格系 I 5. 骨格系 II 6. 骨格筋系 I 7. 骨格筋系 II 8. 血液 I 9. 血液 II 10. 免疫系 11. 呼吸系 12. 循環系 13. 内分泌系 14. 神経系 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況, レポート, 試験結果から総合的に評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 ティボドー&バットン「カラーで学ぶ解剖生理学」医学書院 MYW 5600 円+税

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219093>

【連絡先】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分から17時30分まで)

運動生理学

2単位 2年(前期)

三浦 哉・准教授/人間文化学科, 荒木 秀夫・教授/人間文化学科
小原 繁・教授/人間文化学科, 的場 秀樹・教授/人間文化学科
佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 本講義では、運動時の生体の諸機能の変化およびトレーニング効果について理解してもらう。そのために、成人から高齢者の身体機能の特性およびその測定評価方法について、生活習慣病の予防、介護予防との関連から論じることを目的とする。

【授業概要】 運動時のエネルギー代謝、神経系・呼吸循環系機能の変化を理解し、健康づくりのための身体活動・運動の意義を運動生理学的な視点から理解を深める。

【キーワード】 運動, 身体機能, 健康, 体力

【先行科目】 『生理学概論』(1.0, ⇒260頁), 『解剖学概論』(1.0, ⇒260頁), 『人体構造機能学』(1.0, ⇒260頁)

【関連科目】 『スポーツ生理学』(0.5, ⇒261頁), 『運動処方論』(0.5, ⇒263頁)

【履修上の注意】 単に出席するだけでなく、授業に積極的に参加することを希望する。

【到達目標】

1. 運動時の生体機能の変化を理解すること
2. 生活習慣病予防、介護予防のための運動指導のための基本的知識を習得すること

【授業計画】 1. 運動と骨格筋(筋収縮) 2. 運動と骨格筋(エネルギー供給機構) 3. 運動と神経(動作の運動制御) 4. 運動と神経(学習と記憶) 5. 運動と呼吸(換気応答) 6. 運動と呼吸(酸素摂取量) 7. 運動と循環(中心循環) 8. 運動と循環(末梢循環) 9. 体力と運動能力 10. 中年者の新体力テスト(筋力・筋持久力)と測定方法 11. 中年者の新体力テスト(持久走能力・柔軟性)と測定方法 12. 高齢者の体力測定法(高齢者の体力特性と測定法の注意点) 13. 高齢者の体力測定法(各測定法と評価法) 14. 介護予防のための体力測定の在り方 15. 介護予防のための体力測定と評価の実際 16. 定期試験

【成績評価】 出席状況(40%), 小テスト授業内レポート(10%), 期末試験による総合評価

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219469>

【連絡先】

- ⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分から17時30分まで)
- ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分～17時30分)

神経生理学

2単位 3年(後期)

荒木 秀夫・教授/人間文化学科

【授業目的】 人間行動の基礎となる脳神経系の機能的役割を理解するために、感覚情報処理、運動制御及び高次神経活動に関する生理学的メカニズムを学習する。

【授業概要】 神経生理学分野の基礎的、総論的内容を扱う。ニューロン(神経細胞)の「構造と機能」としての興奮や情報処理の仕組みを理解し、細胞における基礎的な細胞の活動が組織化されることによって感覚、運動、精神活動などの高次な神経活動が実現する過程を学習する。

【キーワード】 ニューロン, 脳, 学習

【先行科目】 『行動制御論』(1.0, ⇒276頁)

【履修上の注意】 個々に事例を扱うことが多いが、それらの関係の意味を中心にノートをとること。

【到達目標】 脳神経系機能とネットワークの階層的構造の意味を理解する。

【授業計画】 1. 神経科学と神経生理学 2. ニューロンの仕組み 3. 静止電位と活動電位 4. 興奮の伝導 5. 興奮の伝達 6. 神経回路理論 7. 抹消神経総論 8. 中枢神経総論 9. 神経と感覚機能 10. 神経と運動機能 11. 感覚運動統合論 12. 高次神経活動-学習と記憶- 13. 高次神経活動-言語と認知- 14. 脳・神経科学の展望 15. 総括授業

【成績評価】 試験による成績 80%。(試験での持ち込み不可) 授業態度 20%(出席、発言等)

【再試験】 原則として行わない

【教科書】 プリントを配布

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218719>

【連絡先】

- ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火7:8講時)

バイオメカニクス

2単位 3年(後期)

佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 身体運動の「からくり」を解明する

【授業概要】 バイオメカニクスという学問は生理学、解剖学、力学(物理学)の知見を参考にして、身体運動(力強い動き、巧みな動き、効率的な動きなど)の仕組みを解析する学問です。これらの仕組みがわかると、スポーツの技術の習得や指導などに役に立ちますし、スポーツをみる場合でも違った観点からスポーツを楽しむことができるでしょう。この授業の前半では、バイオメカニクスの基礎的な知識(力学を中心に)の理解を目的とします。そして、後半では、前半で理解した知識を用い、基礎的運動(走、跳、投など)について、その「からくり」を解説し、あわせて運動技能トレーニングについても考えてみます。

【キーワード】 身体運動, 運動技術, 運動力学

【先行科目】 『解剖学概論』(1.0, ⇒260頁), 『人体構造機能学』(1.0, ⇒260頁)

【関連科目】 『行動制御論』(0.5, ⇒276頁), 『健康運動指導論』(0.5, ⇒264頁), 『運動生理学実験実習』(0.5, ⇒262頁)

【履修上の注意】 数学や物理学が得意な方でも理解できるように授業を進めていきます。

【到達目標】

1. バイオメカニクスの基礎となる筋収縮特性や筋・骨格の解剖学的知識を理解する。
2. 力学用語の使い方になれる。
3. 並進・回転運動における力学的法則について、身体運動と関連づけて理解する。
4. 運動の力学的エネルギーと効率について理解する。
5. 走・跳・投などの基本的運動についてバイオメカニクスの観点からその動きの特徴を理解する。

【授業計画】 1. スポーツ・バイオメカニクスとは何か 2. スポーツ・バイオメカニクスの基礎(生理学・解剖学) 3. 運動の3法則(ニュートンの法則)・質量と重量 4. 力の働かせ方(運動量, 力積など) 5. 慣性モーメント 6. 回転運動(慣性モーメント, 角運動量, ジャイロ効果など) 7. 流体力学(流体抵抗, 揚力, マグナス効果など) 8. 運動の力学的エネルギーと効率 9. 基本的運動のバイオメカニクス(歩く) 10. 基本的運動のバイオメカニクス(走る) 11. 基本的運動のバイオメカニクス(高く跳ぶ) 12. 基本的運動のバイオメカニクス(遠く跳ぶ) 13. 基本的運動のバイオメカニクス(投げる) 14. 基本的運動のバイオメカニクス(打つ・蹴る) 15. 基本的運動のバイオメカニクス(泳ぐ) 16. 定期試験

【成績評価】 基礎的な知識(目標の1~4)は定期試験(持ち込み不可)の結果で(50%), 応用的な分野(目標の5)についてはレポートの結果(50%)による総合評価を行います。

【再試験】 定期試験については再試験を行います。

【教科書】 なし

【参考書】 補助教材(印刷資料)を使用します。第3回目の授業時に配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219073>

【連絡先】

- ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分～17時30分)

スポーツ生理学

2単位 3年(前期)

三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日常的な身体活動の継続, つまり、「トレーニング」は、その内容に応じて、身体諸機能に特異的な効果をもたらす。例えば、ヒトの体力は筋力、持久力、スピード、パワー、平衡性、敏捷性などに分類されるが、レジスタンストレーニングでは主に筋力・筋持久力の改善が、持久的トレーニングでは主に持久力の改善が生じる。また、トレーニング効果には性差があり、発育・加齢の影響を大きく受ける。本講義では、このようなトレーニングに対する身体諸機能の変化および反応について、運動生理学的な視点から論じることを目的とする。

【授業概要】 身体トレーニングによる生体応答

【キーワード】 トレーニング, 身体機能, 身体構造

【先行科目】 『コンディショニング論』(0.8, ⇒262頁), 『運動生理学』(0.8, ⇒261頁), 『運動療法学』(0.8, ⇒262頁)

【関連科目】 『コンディショニング論』(0.8, ⇒262頁), 『運動生理学』(0.8, ⇒261頁), 『運動療法学』(0.8, ⇒262頁), 『運動生理学実験実習』(0.8, ⇒262頁)

【履修上の注意】 本授業は応用生理学的な内容のために運動生理学, コンディショニング論のどちらかを受講していることが望ましい。また、本授業では随時、関連資料を印刷物以外に、プロジェクターを利用して提示をしますので、ノートのとり方に留意すること。

【到達目標】

- 健康の維持・増進のためのトレーニングによる身体機能の変化を理解すること
- 競技スポーツ, および健康増進のために適切な運動を指導するための知識を習得すること

【授業計画】 1. 「トレーニング」の意義 2. 骨格筋へのトレーニング効果 3. 呼吸循環能へのトレーニング効果 I 4. 呼吸循環能へのトレーニング効果 II 5. 代謝系へのトレーニング効果 6. 内分泌系へのトレーニング効果 7. 骨へのトレーニング効果 8. 神経系へのトレーニング効果 9. 筋力の発育・発達 10. 全身持久力の発育・発達 11. 動作の発育・発達 12. 加齢とトレーニング効果との関係 13. 性差とトレーニング効果との関係 14. 各種トレーニングの効果 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 本授業は講義形式であり、成績評価は出席状況、レポート、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価と、前期試験結果から総合的に評価する。なお、平常点は20点、前期試験は80点、合計100点で評価する。

【再試験】 実施する

【教科書】 教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する。また、受講の際に参考となるテキストは以下の通りである。スポーツ生理学 朝倉書店 1994

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219064>

【連絡先】
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日11時55分から12時50分 応用生理学研究室(総合科学部1号館1階), E-mail hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

の観点から運動の重要性を再認識してもらい、一方、傷害予防・再発防止のためにスポーツマッサージ、テーピング、ストレッチングなどのアスレティックリハビリテーションの方法が普及している。そこで本講義ではこれら手法の生理的側面からみた意義を講義し、実際にそれらの手法も修得させる。

【授業概要】 疾病後の運動の意義および傷害予防のリハビリテーション

【キーワード】 運動療法, 生活習慣病, リハビリテーション

【先行科目】 『運動生理学』(0.6, ⇒261頁), 『コンディショニング論』(0.6, ⇒262頁)

【関連科目】 『コンディショニング論』(0.8, ⇒262頁), 『スポーツ生理学』(0.8, ⇒261頁), 『運動生理学』(0.8, ⇒261頁), 『運動生理学実験実習』(0.8, ⇒262頁)

【履修上の注意】 本授業は講義形式の授業であるが、一部実習の形態を取り入れて実施する。

【到達目標】

- 生活習慣病と運動との関わり、およびスポーツ障害の予防法を理解すること
- 自分自身、また、他者に対して運動の重要性、障害の予防法をアドバイスする知識を習得すること

【授業計画】 1. 運動療法の概念 2. 生活習慣病について 3. 高血圧症に対する運動療法 4. 糖尿病に対する運動療法 5. 高脂血症に対する運動療法 6. 肥満症に対する運動療法 7. 虚血性心疾患に対する運動療法 8. 認知症と運動との関係 9. 転倒防止と運動との関係 10. がんと運動との関係 11. 運動療法の実際(実習) 12. スポーツマッサージの理論・方法 13. テーピング・スポーツ用具の効果と方法 14. ストレッチングの理論・方法 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 本授業は講義・実習形式であり、成績評価は出席状況、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価、実習の試験および後期試験結果から総合的に評価する。なお、平常点は20点、実習の試験は10点、および後期試験は70点、合計100点で評価する。

【再試験】 実施する

【教科書】 教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219471>

【連絡先】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日11時55分から12時50分 応用生理学研究室(総合科学部1号館1階), E-mail hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

コンディショニング論

2 単位 2 年(後期)

的場 秀樹・教授/人間文化学科, 三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 コンディショニングとは、身体や精神の状態を表す「condition」と、その状態が進行中である「ing」が合成された後であり、「心身の状態を目的に向かかってより好ましい方向に整えることを目的とした対象者自身への働きかけ」を意味する。身体活動は1)健康、体力の維持増進のため、)競技力向上のため、3)体重のコントロールのため、などの様々な目的で実施されるが、その際のコンディショニングは栄養・休養・環境などの様々な要因によって影響を受ける。そこで本講義では、身体活動を実施する上で影響する様々な外的要因が生体の諸機能に及ぼす影響について概説する。

【授業概要】 栄養、休養、環境と身体機能との関係について理解する

【キーワード】 コンディショニング, 栄養, 環境

【関連科目】 『運動生理学』(0.8, ⇒261頁), 『運動療法学』(0.8, ⇒262頁), 『スポーツ生理学』(0.8, ⇒261頁)

【履修上の注意】 本授業では随時、関連資料を印刷物以外に、プロジェクトを利用して提示をするので、ノートのとり方に留意すること。

【到達目標】

- 「栄養」・「休養」・「環境」といった外的要因と生体機能との関連を理解すること
- 日常生活の中で自分自身、また、他者への体調・健康管理に対してアドバイスする知識を習得すること。

【授業計画】 1. 「コンディショニング」の意義 2. コンディションチェック 3. ピーキング、デイトレーニングの影響 4. ウォーミングアップ、クーリングダウンの効果 5. 身体活動と糖質・脂質代謝 6. 運動と栄養供給 7. ビタミン・ミネラルの役割 8. ウェイトコントロールの実際 9. 疲労のメカニズム 10. 暑熱・寒冷下での運動時の生体応答 11. 低圧・高圧下での運動時の生体応答 12. ドーピング 13. 健康関連商品の動向 14. スポーツシューズ、ウェア等の生体機能への影響 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 本授業は講義形式であり、成績評価は出席状況、レポート、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価と、前期試験結果から総合的に評価する。なお、平常点は20点、前期試験は80点、合計100点で評価する。

【再試験】 実施する

【教科書】 教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する。また、受講の際に参考となるテキストは以下の通りである。コンディショニングの科学 朝倉書店 1995

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219058>

【連絡先】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動療法学

2 単位 2 年(後期)

三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 高血圧症、糖尿病、高脂血症に代表される生活習慣病の予防・治療のためには薬物療法だけではなく身体活動、つまり運動療法の重要性も明らかにされている。本講義では、生活習慣病の予防・治療のための運動の意義およびその運動療法の実際を概説し、健康・疾病

運動生理学実験実習

2 単位 3 年(前期)

佐竹 昌之・准教授/人間文化学科, 荒木 秀夫・教授/人間文化学科

小原 繁・教授/人間文化学科, 的場 秀樹・教授/人間文化学科

三浦 哉・准教授/人間文化学科, 野村 昌弘・

【授業目的】 スポーツ科学に関する基礎的な実験を行い、スポーツを科学的に認識する態度を養う。

【授業概要】 運動生理学、運動生化学およびバイオメカニクス領域の基礎的な実験を取り上げ、測定を通して実験方法とデータのまとめ方を理解する。1 授業は180分連続で行われる。

【キーワード】 身体構造, 身体機能, 運動負荷テスト

【先行科目】 『生理学概論』(1.0, ⇒260頁), 『運動生理学』(1.0, ⇒261頁), 『解剖学概論』(1.0, ⇒260頁)

【関連科目】 『運動処方論』(0.5, ⇒263頁), 『バイオメカニクス』(0.5, ⇒261頁)

【履修上の注意】 計画は、受講者数等によって変更がありますので、1回目の授業には必ず参加してください。

【到達目標】 運動生理学に関する基礎的な実験方法、データのまとめ方を理解する

【授業計画】 1. オリエンテーション・形態計測・新体力テスト 2. 筋力・パワー測定 3. 運動負荷試験とは 4. 運動負荷試験の実際:呼吸循環機能の測定 5. 運動負荷試験の実際:酸素摂取量・換気応答の測定 6. 反射と応答 7. 筋と筋肉図 8. 知覚運動と脳波 9. 身体活動時の酸素動態 10. 血中乳酸濃度の測定 11. 血糖値の測定 12. タンパク質の定量 13. 心機能 14. 体温・皮膚温 15. データ整理・レポート作成 16. まとめ

【成績評価】 出席状況(60%), 実験レポート(40%)で評価する

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【参考書】 各実習時に資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219470>

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時から17時まで)

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時から17時まで)

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時から17時まで)

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 野村 .

健康教育論

2 単位 2 年 (後期)
野村 昌弘・, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】現代社会の歪みがもたらす健康問題を学際的に理解し、問題解決能力を養う。また、社会において健康の保持増進に貢献できる実践力を修得する。

【授業概要】ヘルスプロモーションは、人々が自ら健康をコントロールし、改善する能力を高めるとともに、環境整備によって社会全体の健康づくりを包括的、総合的に推進しようとする考え方である。健康教育はヘルスプロモーションの理念に基づいて、今日的な健康問題を科学的に理解し、健康づくりのための理論や方法について実践的に学習する。

【キーワード】健康問題

【到達目標】健康問題を学際的に理解し、問題解決能力を養う。

【授業計画】1. ヘルスプロモーションと QOL, 健康教育, 健康管理論 2. 健康の定義と医事法規 3. 生活習慣病概論 4. 生活習慣と健康問題-高血圧症, 高脂血症- 5. 高血圧症・高脂血症と生活改善 6. 生活習慣と健康問題-糖尿病- 7. 糖尿病と生活改善 8. 生活習慣病と健康問題-虚血性心疾患- 9. 虚血性心疾患と生活改善 10. 骨粗鬆症とその予防 11. 関節リウマチと変形性関節症とその予防 12. 介護予防概論 13. 生涯保健とライフスタイル 14. リスク行動と生活改善 15. 定期試験 16. 総括授業

【成績評価】出席状況 (40%), 小テスト授業内レポート (10%), 期末試験 (50%) で評価する。

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】プリントを配布する

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219115>

【連絡先】

⇒ 野村
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

発育発達学

2 単位 2 年 (後期, 集中)
的場 秀樹・教授/人間文化学科

【授業目的】人の受精, 発生, 誕生, 成長, 成熟, 老化の過程を概観する。生涯における変化の現象を明らかにするとともに、外部からの働きかけにより内在する諸能力を引き出し、発達を促すための理論を学習する。また、発達障害や発達援助についても可能な限り学習する。身体発達学を中心に講義を行うが行うが、発達に関わる専門職に必要な発達論についても学習し、主体がめざす発達の方向性や時代が要求する能力観など、能力の成立条件と主体の関係など、教育の視点からも理解を深める。

【授業概要】本年度、開講せず

【到達目標】生涯における心身の変化の過程及び変化に影響を与える諸要因について多面的に理解する。

【授業計画】1. 1. 発育発達の概念 2. 2. 発育, 発達, 加齢による身体構造と機能の変化 (1) 3. 3. 発育, 発達, 加齢による身体構造と機能の変化 (2) 4. 4. 発育, 発達, 加齢に関わる諸問題 (1) 性の決定と性分化 5. 5. 発育, 発達, 加齢に関わる諸問題 (2) ボルトマンの習慣的早産説 6. 6. 発育, 発達, 加齢に関わる諸問題 (3) 発育期のスポーツ 7. 7. 発育, 発達, 加齢に関わる諸問題 (4) 老化と死 8. 8. 成長発達の方向性 9. 9. 成長発達の多様性 10. 10. 発達と環境要因 11. 11. 発達と労働 12. 12. 発達障害と発達支援 (1) 13. 13. 発達障害と発達支援 (2) 14. 14. 発達論再考 15. 15. 総括授業 16. 16. 期末テスト

【成績評価】レポート、筆記試験、出席を総合して行う

【再試験】再評価は行わない

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219391>

【連絡先】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ (オフィスアワー: 月曜日(16時~17時))

【備考】隔年開講 (本年度は開講しません)

健康行動論

2 単位 2 年 (前期)
荒木 秀夫・教授/人間文化学科, 小原 繁・教授/人間文化学科
的場 秀樹・教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科
三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】授業で習得した知識や態度が、自己の生活や社会活動に生かされ、健康で豊かな、そして安全な生活が営まれることを目標とする。授業は健康運動、生活行動、安全管理をテーマに進める。

【授業概要】健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし、健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う。具体的

には、健康障害や事故の予防、それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する。

【キーワード】健康問題、生活行動、運動・スポーツ活動

【到達目標】授業で習得した知識や態度が、自己の生活や社会活動に生かされ、健康で豊かな生活が営まれることを目的とする。

【授業計画】1. 健康とは 2. 健康と運動 3. 健康運動の方法 4. スポーツと健康 5. 薬物と健康 (服薬者の運動実施と注意点) 6. 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 7. 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 8. 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 9. 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 10. 発育発達期に多いケガや病気 11. 運動中に多い病気とその予防 12. 運動中に多いケガとその予防 13. 現代の健康 14. 環境と健康 15. これからの健康 16. 総括

【成績評価】レポート、小テスト、授業の取り組み方などで総合的に評価する。

【再試験】再試験はしない。

【教科書】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219116>

【連絡先】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動処方論

2 単位 3 年 (前期)
小原 繁・教授/人間文化学科, 佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 野村 昌弘・

【授業目的】身体の仕組みを学びつつ、健康の保持増進のための運動のあり方について講義を行います。運動は両刃の剣であり、使い方によっては毒にも薬にもなります。薬の処方では服用する薬の量やタイミングが大事ですが、運動の処方でも同じで運動の強さと時間が重要です。この様なことについて学んでゆきます。

【授業概要】体力と健康という概念を確認して、運動による健康の維持・増進について具体的な方法を学んでいきます。特に運動の強度と身体への反応との関係を学習しながら、日常生活での健康の維持・増進について議論していきます。

【履修上の注意】授業の内容は自然科学的なものになりますが、理科系の科目に対して得意でなくても、苦手意識を持っていなければ大丈夫です。

【到達目標】

1. 1. 身体と体力の関連を理解する。
2. 2. 運動強度の表し方を理解する。
3. 3. 一過性の運動による身体への反応を理解する。
4. 4. トレーニング効果としての身体への反応を理解する。
5. 5. 運動によるエネルギー消費量の算出方法を理解する。
6. 6. 加齢による身体機能の変化を理解する。

【授業計画】1. 健康・体力とは何か? 2. 競技スポーツと健康のための運動はどのように違うのか? 3. 運動処方とは何か? 4. 運動強度その 1 5. 運動強度その 2 6. 運動持続時間・運動の頻度 7. 疾病と運動との関わり・中間試験 8. 運動強度と身体への反応 (一過性の反応) 9. 運動継続に伴う身体の変化 (トレーニング効果) 10. エネルギー消費量の求め方 11. 老化に伴う身体の変化 (1) 12. 老化に伴う身体の変化 (2) 13. 子どもの身体・体格と体力について 14. Wellness(Quality of Life: QOL) を求めて 15. 実習による理論の確認 16. 最終筆記試験

【成績評価】中間テストと最終テストにより評価します。

【再試験】1 回行います。

【教科書】教科書は使わずに資料を中心にして授業を進めます。

【参考書】必要に応じてスライドを見せたり、資料を配付したりします。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219467>

【連絡先】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後5時から6時まで)
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 野村・

衛生・公衆衛生学

2 単位 2 年 (後期)
前田 健一・教授/保健管理センター, 井崎 ゆみ子・准教授/保健管理センター

【授業目的】1. 衛生・公衆衛生の講義を通じて、健康の保持・増進を図るための知識を習得する。2. 呼吸器疾患、感染症、精神疾患などの疾病を主に取り上げ、それぞれの疾病の病因と治療方法についての知識を習得する。3. 健康管理や健康診断の重要性とその方法を理解し、生活習慣病の予防と治療法を理解する。

【授業概要】生活習慣病、呼吸器疾患および精神保健・精神疾患に関する基礎知識を習得するとともに各種疾患の予防方法や治療方法について学習する。

【授業計画】 1. 生活習慣病とメタボリックシンドローム 2. 高血圧の予防と治療 3. 脂質異常症の予防と治療 4. 糖尿病の予防と治療 5. 呼吸器感染症 6. 肺癌 7. 喘息 8. COPD 9. 精神保健における諸問題, 精神医学の方法論 10. 精神作用物質による精神障害 11. 統合失調症 12. 認知症 13. うつ病 14. 睡眠障害, 不安障害 15. 発達障害 16. 保健管理センターの見学, 実習

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218369>

【連絡先】

⇒ 前田 (maedak@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 井崎
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

健康運動指導論 2単位 3年(前期)
佐竹 昌之・准教授/人間文化学科, 中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 コーチの役割について理解するとともに、コーチングを行う上で必要な、スポーツ医学、スポーツ生理学、トレーニング学の知見を身につける。また、対象別の指導上の留意点についても学ぶ

【授業概要】 まず、コーチング前のメディカルチェックについて教授する。次にトレーニングの指導について運動生理学的観点から解説するとともに、プログラムの作成方法についても教授する。最後に、対象別のコーチングの留意点についても学んでいく。

【キーワード】 コーチング, メディカルチェック, トレーニング, 運動プログラム

【先行科目】 『健康運動実習 III-a』(1.0, ⇒264頁), 『解剖学概論』(1.0, ⇒260頁)

【関連科目】 『バイオメカニクス』(0.5, ⇒261頁), 『教育相談』(0.5, ⇒260頁), 『学校救急処置』(0.5, ⇒268頁)

【到達目標】

1. コーチの役割について理解する
2. コーチングを行う上で必要な知見を理解する。
3. 対象別の指導上の留意点について理解する。

【授業計画】 1. コーチの役割 2. 事前検診の在り方と結果の理解 3. 効果判定の理解 4. メディカルチェック 5. 心電図の評価と記録の仕方 6. トレーニング概論 7. トレーニング計画(条件・反応・強度) 8. コーチングにおける筋力増強のトレーニング 9. コーチングにおける筋パワー・筋持久力のトレーニング 10. コーチングにおけるエアロビック・トレーニング 11. 運動プログラムの作成方法(学習過程・目標と評価・行動変容・援助技法) 12. 運動プログラムの作成方法(安全管理・自立支援) 13. ジュニア期のコーチングの留意点 14. 女性のコーチングの留意点 15. 加齢に伴う体力減退と運動指導の留意点 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況およびレポートで総合的に評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【参考書】 適宜, 資料を配付する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219121>

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康運動実習 I 2単位 2年(後期)
中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 リズムやイメージの世界で踊る楽しさを理解し、イメージやテーマを全身で自由に表現する「創作ダンス」、伝統的な踊りを身につけて踊る「フォークダンス」、健康づくりのための現代的な音楽によって踊る「エアロビックダンス」を学習することによって、自らの能力に応じた課題を選び、グループで協力して課題を解決できるようにする。

【授業概要】 ダンスのもつ文化性を理解し自らの身体を使って創作表現したり、健康づくりのための指導法を身につける

【キーワード】 ダンス, 健康, リズム, 身体表現

【履修上の注意】 本授業は隔年開講で、来年度は開講しないので受講の際は注意して下さい。第一週は授業全体についてのガイダンスを行うので必ず出席すること。本授業は実技をとおしての実習であるので、動きやすい服装で受講すること。

【到達目標】

1. 1. 身体による自己表現ができる。
2. 2. リズムにのって、心と体を開放することができる。
3. 3. 簡単な作品を創作することができる。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 創作ダンス:即興による動きの創出 3. 創作ダンス:構成と空間の使い方:空間構成 4. 創作ダンス:構成と空間の使い方:時間構成 5. 創作ダンス:イメージ課題による表現 6. 創作ダンス:運動課題による表現 7. フォークダンス:日本の民踊 8.

フォークダンス:西欧の民踊 9. ア波踊り 10. エアロビックダンス:有酸素運動とダンス 11. エアロビックダンス:構成と指導法 12. 社交ダンス:基本の動き 13. 社交ダンス:競技 14. ロック, ヒップ・ホップ 15. まとめ 16. ビデオ視聴によるまとめ

【成績評価】 本授業は実技をとおしての実習であるので、授業中に行う発表を小テストとして評価し、出席状況などにもとづく平常点での評価も併用して成績の評価とする。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は使用せず、授業中にプリントを随時配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219120>

【連絡先】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 火曜日12時~13時)

【備考】 隔年開講。平成 24 年度開講

健康運動実習 I 2単位 2年(後期)
荒木 秀夫・教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、サッカーの技術を理解し、個人技能を高め、集団での技能や戦術を考えて実施できる能力を身につける。さらにこれらの種目に対する指導力を養成することを目的とする。

【授業概要】 サッカーに関する知識とスキルの習得【1. 基礎的運動の理論と実践 2. 球技・サッカーの運動としての基礎理論と基礎トレーニング法 3. スポーツにおける運動制御, 知覚運動・コーディネーション論に基づいたスキルトレーニングなどの応用】

【キーワード】 サッカー, コーディネーショントレーニング, スキルトレーニン

【履修上の注意】 この授業では、主にサッカーを中心に実習を行うが、他のスポーツや楽器演奏にも共通する基礎運動の理論と実践をテーマとしている。これまでにスポーツを苦手と感じている学生も、積極的に受講することを望む。

【到達目標】 運動の発達と学習についての実践的な理論を体験的に学習し、自らが自信の能力向上に応用する資質を得る。

【授業計画】 1. サッカーの個人技能の確認(ドリブル, リフティング) 2. パスとドリブルとトラップ(パス&ゴー) 3. ボールキープ(パスゲーム) 4. シュートとゴールキーパー 5. 守備の基本とグリッド練習 6. マークの仕方と4x4 7. オープンスペースの使い方4x4 8. 三角ポジションと攻守のカバーリング7x7 9. オーバーラップとセントラルリング7x7 10. コーナーキック・セットプレー11x11 11. オフサイドラインの守り方攻め方11x11 12. チームのシステムと攻守の切り替え11x11 13. チームのシステムとポジションチェンジ11x11 14. サッカーの評価法 15. まとめ 16. 総括授業

【教科書】 適宜, 資料を配布する

【参考書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218556>

【連絡先】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

健康運動実習 III-a 1単位 2年(前期)
佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、体ほぐしの運動と体力を高める運動の必要性を理解するとともに、自己の体力や生活に応じた運動を計画的に実施できる資質や能力、さらにはそれに必要な指導力を養成することを目的とする。

【授業概要】 体ほぐしの運動と体づくり運動に対する知識とスキルの習得。

【キーワード】 体ほぐし運動, 体づくり運動, コーチング

【関連科目】 『健康運動指導論』(0.5, ⇒264頁), 『健康運動実習 III-b』(0.5, ⇒265頁)

【履修上の注意】 1回目授業は総合体育館に運動のできる服装で集まってください。

【到達目標】 体ほぐしの運動と体づくり運動に対する知識とスキルの習得

【授業計画】 1. 体ほぐしとは(アイスブレイキングとコミュニケーションゲーム) 2. ストレッチとリラクゼーション(静的運動) 3. ウォーミングアップとクーリングダウン 4. ボールを使ったレクリエーション・スポーツ(1) 5. ボールを使ったレクリエーション・スポーツ(2) 6. レクリエーション・ダンスとボディワーク 7. アジリティトレーニング 8. コーディネーショントレーニング 9. 走・跳・投の動きづくりと体力づくり運動 10. 跳び箱と体づくり運動 11. マット運動と体づくり運動 12. 鉄棒と体づくり運動 13. 器械運動とサーキットトレーニング 14. 運動と脈拍変動の実験 15. 持久力を高める体力づくり 16. 総括及び振り返り

【成績評価】 出席状況および授業内レポートで総合的に評価する

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219118>

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

【備考】隔年開講

健康運動実習 III-a

1 単位 2 年 (後期)
三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】この授業では、体ほぐしの運動と体力を高める運動の必要性を理解するとともに、自己の体力や生活に応じた運動を計画的に実施できる資質や能力、さらにはそれに必要な指導力を養成することを目的とする。

【授業概要】体ほぐしの運動と体づくり運動に対する知識とスキルの習得。

【キーワード】体ほぐし運動, 体づくり運動, コーチング

【先行科目】『健康運動指導論』(1.0, ⇒264頁)

【到達目標】体ほぐしの運動と体づくり運動に対する知識とスキルの習得

【授業計画】1. 体ほぐしとは(アイスブレーキングとコミュニケーションゲーム) 2. ストレッチとリラクゼーション(静的運動) 3. ウォーミングアップとクーリングダウン 4. ボールを使ったレクリエーション・スポーツ(1) 5. ボールを使ったレクリエーション・スポーツ(2) 6. レクリエーション・ダンスとボディワーク 7. アジリティトレーニング 8. コーディネーショントレーニング 9. 走・跳・投の動きづくりと体づくり運動 10. 跳び箱と体づくり運動 11. マット運動と体づくり運動 12. 鉄棒と体づくり運動 13. 器械運動とサーキットトレーニング 14. 運動と脈拍変動の実験 15. 持久力を高める体づくり 16. 総括及び振り返り

【再試験】無

【教科書】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218557>

【連絡先】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

健康運動実習 III-a

1 単位 2 年 (前期)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】本授業では、バレーボールの技能を理解し、学習段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃を生かしたゲームができるようになる。また、その指導法や技術評価法についても学ぶ。

【授業概要】バレーボールの個人技能を高め、防御から攻撃への展開をゲームに生かす指導法を身につける。

【到達目標】バレーボールの学習指導法を理解し、コーチングスキルを身につける

【授業計画】1. バレーボールの個人技能と動きづくり 2. バレーボールの特性論とラリーゲーム 3. パスとレシーブ 4. サーブ 5. レシーブからのトスワーク 6. スパイクとブロック 7. 3 段攻撃とポジショニング 8. 作戦の立て方・練習計画 9. 個人技能の評価のしかた 10. リーグ戦第 1 節:サーブとレシーブの評価 11. リーグ戦第 2 節:カバリングの評価 12. リーグ戦第 3 節:防御から攻撃の組み立て 13. リーグ戦第 4 節:クイック攻撃とオープン攻撃 14. 集団戦術の評価のしかた 15. まとめ

【成績評価】実習内容 (60%), バレーボールノート (20%), 課題レポート (20%)

【再試験】再試験は行わない

【教科書】適宜、資料を配布する

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218558>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康運動実習 III-b

1 単位 2 年 (後期)
小原 繁・教授/人間文化学科

【授業目的】走・跳・投といった陸上運動に関して、自己の能力に応じた課題解決、技術の獲得や記録の向上に必要な知識と技術を習得する。さらには陸上競技に必要な指導力を養成することを目的とする。

【授業概要】陸上競技に関する知識とスキルの習得

【履修上の注意】健康運動実習 III b は、隔年開講であり、平成 21 年度は開講しない。

【到達目標】

1. 走動作、跳躍動作、投動作における身体の使い方を理解する。
2. これらの動作を競技レベルまで高めるための練習方法と健康や体力増進という目標で実施する場合の方法の違いについて理解できるようにする。

【授業計画】1. 短距離走:スタートとスタートダッシュ 2. 短距離走:中間走法・フィニッシュとリレー 3. 健康体力向上のためのウォーキングとジョギング 4. 健康体力向上のためのジョギング 5. 長距離走:スピードトレーニングと競走 6. ハードル走:ハードリングの方法 7. ハードル走:ハードル間のピッチとストラライド 8. ハードル走:総合疾走と競走 9. 走り幅跳び:反り跳びとはさみ跳びの跳躍方法 10. 走り幅跳び:助走と踏切 11. 走り高跳び:はさみ跳びとベリーロール 12. 走り高跳び:背面跳び 13. 投てき:砲丸投げ 14. 投てき:円盤投げ 15. 投てき:やり投げ 16. まとめ

【成績評価】出席状況や理解度および技術水準により評価する。

【再試験】なし

【教科書】資料を配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219119>

【連絡先】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 小原:水曜日16時~17時, 的場:月曜日7~8時, 長横:授業開講時間外に随時対応する。)

【備考】隔年開講

健康運動実習 III-b

1 単位 2 年 (前期)
的場 秀樹・教授/人間文化学科

【授業目的】健康づくりの基本となるトレーニング手法について理解し、その指導の方法を身につける

【授業概要】トレーニング方法の理解

【到達目標】健康づくりの基本となるトレーニング手法について理解し、その指導の方法を身につける

【授業計画】1. トレーニングの原則 2. エネルギー代謝の理解と METS・エクササイズ 3. 身体活動量測定 4. 生活習慣病予防と有酸素機能を高めるトレーニング 5. 生活習慣病予防と筋持久力を高めるトレーニング 6. 生活習慣病予防と柔軟性・敏捷性を高めるトレーニング 7. 身体組成の測定 8. 静的レジスタンストレーニング実習 9. 動的レジスタンストレーニング実習 10. トレーニング計画と評価 11. 介護予防に関する体力測定 12. 介護予防トレーニング:ダンベル運動・チューブ運動・タオル運動 13. 介護予防トレーニング:チェアエクササイズ・マットエクササイズ 14. 継続を支援するセルフモニタリング評価 15. 発育発達とトレーニング 16. まとめ

【成績評価】出席状況 (80%), 小テスト授業内レポート (20%) で評価する

【再試験】なし

【教科書】使用しない

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218559>

【連絡先】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】本年度開講せず

健康運動実習 III-b

1 単位 2 年 (前期)
行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】本授業では、有酸素運動に適した水中運動の体験を通して、水中での運動の留意点を理解するとともに、健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的としている。具体的には、水中での身体の使い方と推進力の理論を踏まえ、水難救助の方法や、アクアエクササイズの実践、基本ストロークの技術練習や泳力練習などを行う予定である。

【授業概要】水中での運動の留意点を理解するとともに、水泳の 4 泳法をマスターする。

【キーワード】水中運動, 水難救助法, アクアエクササイズ, 4 泳法

【履修上の注意】本授業は夏季集中授業とする。事前オリエンテーションの日時は掲示板を確認すること。授業時に必要となる水着、タオル、給水用の水筒は各自で準備すること。また、成績評価のために 3/4 以上の出席数が必要となる。

【到達目標】水中運動に必要な基礎知識を理解するとともに、水泳指導に必要な基礎泳力(具体的には 4 泳法を 25m 以上)を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション(授業内容の紹介) 2. 水中運動の留意点 3. 水中ウォーキング 4. アクアエクササイズ 1 5. アクアエクササイズ 2 6. 水中安全管理について 7. 溺者への対応 8. 水中運動プログラムの計画と管理 9. 蹴伸びの習得 10. フリーストロークの習得 11. プレストストロークの習得 12. バックストロークの習得 13. バタフライストロークの習得 14. ターンの習得 15. 泳力テスト 16. 総括

【成績評価】講義も数時間実施するが基本的には実技が中心となるため、出席状況を重視する。さらに授業態度、技術点も評価する。評価配分は「出席 70%」「授業態度 20%」「技術点 10%」とする。

【再試験】実施しない

【教科書】資料を適宜配布する

【参考書】

- ◇日本水泳連盟(編)「水泳指導教本【地域スポーツ指導者用】」大修館書店
- ◇日本赤十字社「赤十字水上安全法講習教本」
- ◇日本スイミング協会(編)「アクアフィットネス・アクアダンスインストラクター教本」大修館

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218560>

【連絡先】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日午後)

【備考】 隔年開講, 平成 24 年度開講

運動文化比較研究

2 単位 2 年 (前期)
中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 文明が発達した現在では, 身体運動, スポーツ, ダンス等は健康のための手段として重要視されている. しかし, これらは健康の手段として生まれてきたのではない, それぞれの運動やスポーツ, ダンスは各国, 各地域の固有の文化としてとらえることができる. 本講義では, これらの内容及び歴史的な意味について概説し, 現代社会における遠藤やスポーツ, ダンスを気岸社会学や文化人類学の観点から検討し, 寄り不快感を得ることを目的とする.

【授業概要】 生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついていく過程を歴史社会学の観点から分析し, 現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する.

【キーワード】 ダンス, スポーツ, 生産形態, 健康

【履修上の注意】 本授業では OHP やビデオなどを使用し, 視覚的に動きの違いを理解できるようにしているが, 見るだけで終わらせることがないようにノートの取り方を工夫すること.

【授業計画】 1. 運動と文化-スポーツ, ダンスの発生 2. 遊びと余暇 3. 生産形態とリズム (5つのリズム感) 4. 山村畑作民のリズムとスポーツ, ダンス 5. 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ, ダンス 日本 6. 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ, ダンス アジア 7. 海洋漁労民のリズムとスポーツ, ダンス 8. 狩猟民のリズムとスポーツ, ダンス 9. 牧畜民のリズムとスポーツ, ダンス 10. 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 11. スポーツの遊技性と競争性 12. 近代スポーツの成立 13. 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ 14. 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ 15. まとめ 16. 課題レポート作成, 提出

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが, 数回の小レポートや出席状況などにもとづく平常点での評価と, 期末の課題レポートの結果による評価を併用して行う.

【再試験】 行わない

【教科書】

- ◇教科書は使用せず, 授業中にプリントを随時配布する. 参考書として以下の文献を紹介する.
- ◇「舞踊学講義」 舞踊教育研究会編 大修館書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219468>

【連絡先】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 木曜日12時~13時)

身体表現論

2 単位 3 年 (前期, 集中)
中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 身振りからはじまり, マイム, 舞踊などの芸術表現に至るまでの身体の動きが発信する内容とそれらを受け入れる文化との関係について取り上げ, 身体の動きをとらえてコミュニケーションをはかるノンバーバルな世界について考えることを目的としている.

【授業概要】 身体の動きによるコミュニケーションから身体の動きによる芸術作品 (自己表現) まで, ノンバーバルな世界について考える.

【履修上の注意】 特になし.

【到達目標】 1. 身体の動きとコミュニケーションについて理解する.

【授業計画】 1. 身体は容れ物か? 2. 身体観について 3. 身体技法について 4. 身振りとコミュニケーションについて I 5. 身振りとコミュニケーションについて II 6. 身体表現の歴史 (1) 身体表現と神の存在について 7. (2) 娯楽としての身体表現 8. (3) 自己表現の手段としての身体 9. 舞踊を構成する要素 10. 芸術としての舞踊 I 11. 芸術としての舞踊 II 12. 舞踊作品の鑑賞法 I 13. 舞踊作品の鑑賞法 II 14. 舞踊作品の鑑賞法 III 15. まとめ 16. レポート提出

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが, 授業中に行う課題レポートの提出と, 期末レポートの結果による評価を併用して行う.

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は使用せず, 授業中にプリントを随時配布する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219465>

【連絡先】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 火曜日12時~13時)

【備考】 本年度開講せず

障害者スポーツ論

2 単位 2 年 (前期)

小原 繁・教授/人間文化学科, 佐藤 充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代社会に潜む障害者というスティグマに対して, スポーツはどのように関わっていくべきなのでしょう? 障害や障害者をスポーツという文化やその基盤となる日常生活動作の視点から考え直し, 障害者スポーツに求められる身体活動の社会支援の意義を探究することを目的としています.

【授業概要】 障害者スポーツとウェルネス

【キーワード】 障害者, スポーツ, 身体機能, ウェルネス

【履修上の注意】 障害者や高齢者の身体機能や身体活動の支援に焦点を当てて構成されています. 途中, 障害者スポーツの理解を深めるために体験実習があり, 少人数での討論会も行います.

【到達目標】

1. 身体障害について基本事項を理解する.
2. 身体障害によってできることとできないことを理解する.
3. 障害者への支援の意義について理解する.
4. 障害者が実施できるスポーツの体験を通じて理解する.

【授業計画】 1. 1. ガイダンス:障害者の残存機能と身体活動 2. 2.(A) 上肢障害の場合 3. 3.(B) 下肢障害の場合 4. 4.(C) 視覚障害の場合 5. 5.(D) 聴覚障害の場合 6. 6. 身体障害者の運動実施上の注意 7. 7. 障害者スポーツ体験実習 8. 8. 「障害とは?」 スティグマと障害者観を問う 9. 9. 障害者福祉の援助技術: リハビリテーションからスポーツへ 10. 10. 障害者スポーツとセルフ・エフィカシー:ICF モデルと自立支援 11. 11. 障害者のチャンピオンシップスポーツ:パラリンピック 12. 12. 障害者スポーツ支援団体の活動・スペシャルオリムピクス日本徳島 13. 13. 障害者スポーツのユニバーサルデザイン I 14. 14. 障害者スポーツのユニバーサルデザイン II 15. 15. 討論会 16. 16. 総括

【成績評価】 授業中の提出物内容と各担当者の試験によって総合的に評価します.

【再試験】 なし

【教科書】 参考書・綿 祐二・佐藤充宏「障害者における僕らにスポーツ僕らもスポーツ」 ベースボールマガジン社・石川 准・長瀬 修「障害学への招待」 明石書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219479>

【連絡先】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業後, および水曜日午後5時から6時まで研究室います.)

地域スポーツ社会学

2 単位 2 年 (前期)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】 地域における社会的身体活動のひとつであるスポーツ行動に注目し, ウェルネス概念の根幹にある Well-being という視点から, 「人間-スポーツ-社会」の関係を探究する. 現代社会における身体文化としてのスポーツの存在意義, 問題点を考察する社会学の見方考え方を習得する.

【授業概要】 地域スポーツと豊かな暮らし 「Well-being」の探究

【履修上の注意】 テストを 2 回行う. 授業では数回課題を提出してもらい評価の対象とする.

【到達目標】

1. 地域社会における文化・社会活動としてのスポーツの見方考え方を理解する力を養う
2. スポーツ社会学の基本的な理論を学ぶ

【授業計画】 1. 1. 人間存在とからだ文化 2. 2. 文化としてのスポーツと地域生活:スポーツに関するライフヒストリー 3. 3. 地域における子どもの運動遊びと体力問題・スポーツ環境問題 4. 4. 遊びとスポーツの関係:Play Theory 5. 5. 運動部と地域スポーツの深い絆 6. 6. 競技スポーツと企業とメディア:中間確認テスト 7. 7. 見るスポーツとアニメと若者文化 8. 8. 見るスポーツとメディアスポーツの盛隆 9. 9. 見るスポーツと地域の活性化 10. 10. スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画:スポーツ政策と事業の関係 11. 11. 地域の構造変遷と総合型地域スポーツクラブの推進 12. 12. 地域の健康生活とスポーツの功罪 13. 13. 地域活動を支えるスポーツボランティア 14. 14. 地域文化としてスポーツ空間デザイン 15. 15. 後期確認テスト 16. 16. 総括

【成績評価】 筆記試験を 2 回実施し, それぞれ 40 点満点. 授業課題を数回提出し, 全部で 20 点, 合計 100 点満点で評価します.

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 参考書 ノバルト, エリアス&エリック, ダニング「スポーツと文明化」法政大学出版
- ◇ D, ジェリー&J, ホーン「スポーツ・レジャー社会学」道南書院
- ◇ 團&大橋「学校五日制と生涯スポーツ」不味堂出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219154>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日11:55-12:45)

レジャーマーケティング論

2 単位 2 年 (後期)
行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】我が国のレジャー産業は 80 兆円という市場規模にまで成長し、現在もなお発展し続けている。本授業では、レジャー産業のなかでも特にスポーツという視点から産業全体を概観していく。具体的には、スポーツとビジネスを結びつけるために必要なマーケティングに関する技術を、顧客志向の考え方や、消費者行動論、経営戦略論等も交えながら紹介することで、レジャーマーケティングに関する基本的な考え方の理解を深めることを目的とする。

【授業概要】レジャーマーケティングの基本的な考え方や技術に対する理解を深め、それらを事業戦略に反映させるための基礎知識を身に付ける。

【キーワード】スポーツ産業、スポーツマーケティング、顧客志向、消費者行動、経営戦略

【関連科目】『スポーツマネジメント論』(0.5, ⇒267 頁), 『地域スポーツ社会学』(0.5, ⇒266 頁)

【履修上の注意】受講者は、テキストとして指定している教科書を必ず購入すること。また、毎回、授業終了時に授業内容に関する意見・感想・質問などの感想文を提出してもらう

【到達目標】レジャーマーケティングに関する基礎知識を理解するとともに、事業戦略について思慮できる能力を身につける。

【授業計画】1. オリエンテーション(レジャー産業の概要) 2. スポーツ産業の発展と動向 1(進化するスポーツ産業) 3. スポーツ産業の発展と動向 2(スポーツ用品・施設(空間)産業) 4. スポーツ産業の発展と動向 3(スポーツとメディア産業) 5. スポーツマーケティングのマネジメント理論 1(基本的な考え方) 6. スポーツマーケティングのマネジメント理論 2(戦略的マーケティングミックス) 7. スポーツサービスの特徴とスポーツ消費者の行動特性 8. スポーツ組織を取り巻くステークホルダー 9. スポーツ施設のマーケティング戦略 10. スポーツイベントのマーケティング戦略 11. プロスポーツチーム・リーグのマーケティング戦略 12. スポーツスポンサーシップ 13. スポーツツーリズム 14. コミュニティビジネスとしての可能性を持つコミュニティスポーツ 15. まちづくりの担い手を育むスポーツボランティアとソーシャル消費 16. 総括

【成績評価】評価は「出席」「学習態度」「レポート」の3つの視点で評価する。評価配分は「出席:30%」「学習態度:10%」「レポート:60%」とする。

【再試験】実施しない

【教科書】参考書:原田宗彦編著「スポーツ産業論第4版」杏林書院(2008)その他、資料を適宜配布する。

【参考書】

- ◇ 八代勉・中村平(編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店。
- ◇ 山下秋二・原田宗彦(編)「図解スポーツマネジメント」大修館書店。
- ◇ 原田宗彦(編)「スポーツマーケティング」大修館書店。
- ◇ 伊佐淳・松尾匡・西川芳昭(編)「市民参加のまちづくり コミュニティビジネス編」創成社。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219088>

【連絡先】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

スポーツマネジメント論

2 単位 3 年 (前期)
行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】本授業では、スポーツマネジメントを実践するための専門的知識について学習する。具体的には、学校、地域、民間、公共スポーツ施設組織等といった個別組織におけるスポーツ事業の構成方法や演出方法についての理解を深めるとともに、生涯スポーツの振興を図る為の効率的・効果的な経営過程論についても理解を深めていくことを目的とする。

【授業概要】スポーツマネジメントに関する基礎知識の習得と、その現象(学校、地域、民間、公共スポーツ組織)を取り巻く現代的課題についての理解を深めていく。

【キーワード】生涯スポーツ、スポーツ事業、運動者行動、経営過程(マネジメントサイクル)

【関連科目】『地域スポーツ社会学』(0.5, ⇒266 頁), 『レジャーマーケティング論』(0.5, ⇒267 頁)

【履修上の注意】受講者は、テキストとして指定している教科書を必ず購入すること。また、毎回、授業終了時に授業内容に関する意見・感想・質問などの感想文を提出してもらう

【到達目標】実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身に付ける

【授業計画】1. オリエンテーション(スポーツマネジメント概論) 2. 我が国のスポーツを取り巻く現状と課題-するスポーツ- 3. 我が国のスポーツを取り巻く現状と課題-みる・ささえるスポーツ- 4. スポーツマネジメントの目的・構造およびその領域特性 5. スポーツ事業論(1)-エリア・サービスの概念とスポーツ施設の性格- 6. スポーツ事業論(2)-プログラムのサービスの捉え方とタイプ論- 7. スポーツ事業論(3)-クラブ・サービスの捉え方とクラブの構成要件- 8. スポーツ事業論(4)-関連的体育スポーツ事業とプロモーションの概念- 9. 運動者行動と運動生活の捉え方 10. スポーツ経営過程論(1)計画:経営計画の種類と立案プロセス 11. スポーツ経営過程論(2)組織:組織の構造と特性 12. スポーツ経営過程論(3)統制:経営評価の視点とコントロール 13. スポーツマネジメントのトピック 1:スポーツ施設と指定管理者制度 14. スポーツマネジメントのトピック 2:スポーツ組織と NPO 法人格 15. 定期試験 16. スポーツマネジメントのトピック 3:スポーツイベントのマネジメント

【成績評価】評価は「出席」「学習態度」「試験」の3つの視点で評価する。評価配分は「出席:30%」「学習態度:10%」「試験:60%」とする。

【再試験】実施しない。

【教科書】

- ◇ 八代勉・中村平(編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店。
- ◇ 教材:資料を適宜配布する。

【参考書】

- ◇ 山下秋二・中西純司・畑炊・富田幸博(編)「[改訂版]スポーツ経営学」大修館書店。
- ◇ 原田宗彦・小笠原悦子(編)「スポーツマネジメント」大修館書店。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219063>

【連絡先】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

ウェルネスリサーチ演習

2 単位 3 年 (後期)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】統計データを用いた分析はウェルネスのマーケティング領域の重要な論証手段である。マーケティング手法を習得するための様々な社会科学調査の基礎的スキルを学ぶ。

【授業概要】ウェルネスのマーケティングにおける社会科学的研究法の学習

【キーワード】研究法、問題の構造化、定量的・定性的分析

【履修上の注意】平成 23 年度は開講しない。

【到達目標】社会的な減少を客観的に把握し、統計的な分析手法を用いて、仮説を説得力ある形で提示する能力を身につけることを目指す。

【授業計画】1. ウェルネスのリアルを探る:研究の観点 2. 社会問題を形にしてみる:NIE による問題構造化 3. ウェルネス調査の設計法:理論の利用 4. 事例の奥に潜む本質:記述データの取り方 5. 資料からの推理:ドキュメント解析法 6. ビデオデータから考える:観察調査/会話分析 7. 面接調査法 8. 体系的データを読む 9. 質問紙調査法 10. 質問紙調査法 11. 社会データの計量分析法 12. 社会データの計量分析法 13. 社会データの計量分析法 14. データ結果のまとめ方 15. データ結果のまとめ方 16. 総括

【成績評価】与えられた課題に対して、その完成度を評価する。評価の視点:データ選択の着眼点、分析的的確さ、考察の論理性。試験は実施しない。

【再試験】なし

【教科書】参考書:今田高俊「社会学研究法「リアリティの捉え方」」有斐閣アルマ

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219053>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 初回授業時間に指示する)
⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

ウェルネスリサーチ演習

2 単位 3 年 (前期)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】統計データを用いた分析はウェルネスのマーケティング領域の重要な論証手段である。マーケティング手法を習得するための様々な社会科学調査の基礎的スキルを学ぶ。

【授業概要】ウェルネスのマーケティングにおける社会科学的研究法の学習

【キーワード】 研究法, 問題の構造化, 定量的・定性的分析

【履修上の注意】 受講者は前提として Windows 操作の基礎的知識をすでに獲得していることが求められる。授業は講義と実習を組み合わせることがない、各回の内容に応じて課題を課す。なお、利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合があります。

【到達目標】 社会的な減少を客観的に把握し、統計的な分析手法を用いて、仮説を説得力ある形で提示する能力を身につけることを目指す。

【授業計画】 1. ウェルネスのリアルを探る:研究の観点 2. 社会問題を形にしてみる:NIEによる問題構造化 3. ウェルネス調査の設計法:理論の利用 4. 事例の奥に潜む本質:記述データの取り方 5. 資料からの推理:ドキュメント解析法 6. ビデオデータから考える:観察調査/会話分析 7. 面接調査法 8. 体系的データを読む 9. 質問紙調査法 10. 質問紙調査法 11. 社会データの計量分析法 12. 社会データの計量分析法 13. 社会データの計量分析法 14. データ結果のまとめ方 15. データ結果のまとめ方 16. 総括

【成績評価】 与えられた課題に対して、その完成度を評価する。評価の視点:テーマ選択の着眼点、分析的的確さ、考察の論理性。試験は実施しない。

【再試験】 なし

【教科書】 参考書:今田高俊「社会学研究法「リアリティの捉え方」」有斐閣アルマ

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219955>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 初回授業時間に指示する)
- ⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

学校救急処置

2 単位 3 年 (後期)

野村 昌弘・教授, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 運動指導時における傷病の救急処置法や運動傷害予防法を学ぶ

【授業概要】 運動者の健康管理で必要とされる救急処置・応急処置と運動障害予防のための手法を習得させる。

【キーワード】 障害予防, 傷害予防, 応急処置, 救急蘇生

【到達目標】

1. バイタルサインのチェックの習得
2. 救急処置法の習得

【授業計画】 1. 傷病者の観察とバイタルサイン 2. 運動による内科的障害 3. 内科的障害の予防 4. 運動による上肢の傷害と予防 5. 運動による下肢の傷害と予防 6. 運動による脊柱の傷害と予防 7. 止血の理論と実際 8. 皮膚外傷の処置と対応 9. 救急処置総論 10. 救急蘇生の理論と実際 11. 対症処置各論:熱中症 12. 対症処置各論:薬物・アレルギー 13. 救急医薬品 14. 医療的ケア 15. 総括 16. 定期試験

【成績評価】 講義の出席状況と試験

【再試験】 行わない

【教科書】 なし

【参考書】 講義内に資料を提示する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219202>

【連絡先】

- ⇒ 野村
- ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

人間社会学科 人間行動コース ウェルネス行動科学サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

ウェルネス行動科学演習 I ... 荒木・中村・小原・的場・三浦・佐竹・佐藤 ・行實/3年(前期).....	269
ウェルネス行動科学演習 II ... 荒木・中村・小原・的場・三浦・佐竹・佐藤 ・行實/3年(後期).....	269
ウェルネス行動科学実習 ... 荒木・小原・佐藤・中村・的場・佐竹・三浦/3 年(後期).....	270
生理学概論 ... 荒木・小原・的場・佐竹・三浦/2年(前期).....	270
解剖学概論 ... 佐竹/2年(前期).....	270
人体構造機能学 ... 的場/2年(前期).....	270
運動生理学 ... 三浦・荒木・小原・的場・佐竹/2年(前期).....	271
神経生理学 ... 荒木/3年(後期).....	271
バイオメカニクス ... 佐竹/3年(後期).....	271
スポーツ生理学 ... 三浦/3年(前期).....	271
コンディショニング論 ... 的場・三浦/2年(後期).....	272
運動療法学 ... 三浦/2年(後期).....	272
運動生理学実験実習 ... 佐竹・荒木・小原・的場・三浦・野村/3年(前期).....	272
健康教育論 ... 野村・佐竹/2年(後期).....	273
発育発達学 ... 的場/2年(後期, 集中).....	273
健康行動論 ... 荒木・小原・的場・佐竹・三浦/2年(前期).....	273
運動処方論 ... 小原・佐藤・野村/3年(前期).....	273
健康運動指導論 ... 佐竹・中村/3年(前期).....	274
衛生・公衆衛生学 ... 前田・井崎/2年(後期).....	274
健康運動実習 I ... 中村/2年(後期).....	274
健康運動実習 I ... 荒木/2年(後期).....	274
健康運動実習 III-a ... 佐竹/2年(前期).....	274
健康運動実習 III-a ... 三浦/2年(後期).....	275
健康運動実習 III-a ... 佐藤/2年(前期).....	275
健康運動実習 III-b ... 小原/2年(後期).....	275
健康運動実習 III-b ... 的場/2年(前期).....	275
健康運動実習 III-b ... 行實/2年(前期, 集中).....	275
行動制御論 ... 三浦・荒木・的場・佐竹/2年(後期).....	276
運動文化比較研究 ... 中村/2年(前期).....	276
身体表現論 ... 中村/2年(前期, 集中).....	276
障害者スポーツ論 ... 小原・佐藤/2年(前期).....	276
地域スポーツ社会学 ... 佐藤/2年(前期).....	277
レジャーマーケティング論 ... 行實/2年(後期).....	277
スポーツマネジメント論 ... 行實/3年(前期).....	277
ウェルネスリサーチ演習 ... 佐藤・行實/3年(後期).....	278
ウェルネスリサーチ演習 ... 佐藤・行實/3年(前期).....	278
学校救急処置 ... 野村・佐竹/3年(後期).....	278
生理心理学 ... 佐野・原/2年(前期).....	278
知覚心理学 ... 濱田/2年(後期).....	278
認知心理学 ... 濱田/3年(前期).....	279
学習心理学 ... 境/3年(前期).....	279
社会心理学 ... 佐藤/2年(後期).....	279
コミュニティ心理学 ... 境/2年(後期).....	279
人格心理学 ... 原/3年(後期).....	280
青年期発達論 ... 山本/3年(後期).....	280
人間形成論 ... 木内/3年(後期).....	280
臨床心理学 ... 内海/2年(後期).....	280
行動障害論 ... 内海/3年(前期).....	281

福祉心理学 .../2年(後期, 集中).....	281
ストレス心理学 ... 佐藤/3年(前期).....	281
行動統計学 II ... 川野・原/2年(後期, 集中).....	281
精神医学 ... 大森・住谷・伊賀・中瀧・沼田・中土井・富永・亀岡/2年(前 期).....	282
教育相談 ... 福森/3年(後期).....	282
社会福祉研究 ... 樫田/3年(後期).....	282
ボランティア組織論 ... 萩原・樫田/2年(前期).....	282
マーケティング論 ... 多田/3年(後期).....	283
経営戦略論 ... 高橋・石田/3年(後期, 集中).....	283

ウェルネス行動科学演習 I

2単位 3年(前期)

荒木 秀夫・教授/人間文化学科, 中村 久子・教授/人間文化学科
小原 繁・教授/人間文化学科, 的場 秀樹・教授/人間文化学科
三浦 哉・准教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科
佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 行實 鉄平・講師/人間文化学科

- 【授業概要】 ウェルネス行動科学のための演習を行う。
- 【履修上の注意】 この演習はゼミナール形式で各指導教員が行う。受講者調整は2年後期1月に希望調査を行い、指導教員を決定する。IとIIは前期と後期に分かれており、通年で履修することになる。この演習選択ガイダンスで、担当指導教員の演習内容の資料を配布するので、必ず熟読し、希望演習を選択すること。
- 【到達目標】 ウェルネス行動科学の研究に関する理論を習得すること。
- 【授業計画】 各指導教員による卒業研究に向けた基礎知識や基礎技術等を学習する。少人数のゼミナール形式で、文献・資料の収集、実験や調査手法等を学ぶ。
- 【成績評価】 所属した指導教員によって評価される。
- 【再試験】 なし。
- 【教科書】 講義内で各教員が指示する。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219056>
- 【連絡先】
- ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
 - ⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)
 - ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
 - ⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
 - ⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
 - ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)
 - ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)
 - ⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)

ウェルネス行動科学演習 II

2単位 3年(後期)

荒木 秀夫・教授/人間文化学科, 中村 久子・教授/人間文化学科
小原 繁・教授/人間文化学科, 的場 秀樹・教授/人間文化学科
三浦 哉・准教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科
佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 行實 鉄平・講師/人間文化学科

- 【授業概要】 ウェルネス行動科学のための演習を行う。
- 【履修上の注意】 この演習はゼミナール形式で各指導教員が行う。受講者調整は2年後期1月に希望調査を行い、指導教員を決定する。IとIIは前期と後期に分かれており、通年で履修することになる。この受講選択ガイダンスで、各指導教員の演習内容の資料を配布するので、必ず熟読し、希望演習を選択すること。
- 【到達目標】 ウェルネス行動科学に関する研究の技能を習得すること。
- 【授業計画】 各指導教員による卒業研究に向けた基礎知識や基礎技術等を学習する。少人数のゼミナール形式で、文献・資料の収集、実験や調査手法等を学ぶ。
- 【成績評価】 所属した指導教員によって評価される。
- 【再試験】 なし。
- 【教科書】 講義内で各教員が指示する。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219057>
- 【連絡先】

- ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オ
フィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)
- ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokus
hima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)

ウェルネス行動科学実習 2単位 3年(後期)

荒木 秀夫・教授/人間文化学科, 小原 繁・教授/人間文化学科
佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 中村 久子・教授/人間文化学科
的場 秀樹・教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科
三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 ウェルネス行動科学サブコースでは, 新しい時代の健康づく
りや生活スタイルについて自ら考える力をつけ, 幅広い視点から人々
の健康増進や豊かな暮らし, 社会づくりに貢献できる人材を育成する
ために, 3年次において大学外の健康増進, 健康福祉, スポーツ・レ
ジャーに関する企業や社会団体, 組織においてインターシップを行い,
地域社会で求められるウェルネスに関する知識や技能の応用と実践力
を養う。

【授業概要】 ウェルネス行動科学とインターンシップ
【履修上の注意】 実際の実習場所については指導教員と相談の上決定し, 学
生が主体的に, 実習依頼, 実習計画, 実習実施, 実習報告を行う。全
体のガイダンスは前期の試験期間中に行い, 夏期休暇と冬期休暇を含
めた後期の期間中に実習が終わるように計画する。
【到達目標】 インターンシップ制度を通じて自らのウェルネスの専門的
知識や技能を現場にて応用させ実践力を身につける。
【授業計画】 1. 1. 実習事前指導 2. 2. 演習の指導教員と実習受入先の団
体との交渉, 実習計画 3. 3. 実習 4. 4. 実習報告 5. 1. はウェルネ
ス行動科学サブコース3年生を対象に全体で行う 6. 2. 以降は, 演
習担当教員の指導の下で実習を行う 7. いままで受入をしていただ
いた主な団体 8. 民間スポーツクラブ, 青少年団体, 健康スポーツ
増進施設・団体, 児童福祉団体, 障害者福祉団体, 老人福祉団体, 健
康福祉・スポーツ関係のイベント等

【成績評価】 指導教員と実習受入先の担当者などが協力して評価を行う
【再試験】 ない

【教科書】
◇ 必要な資料はプリントにして配布する
◇ 履歴書, 実習計画, 実習日誌等は統一したものを事前指導で配布
する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219055>
【連絡先】

- ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オ
フィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)
- ⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

生理学概論 2単位 2年(前期)

荒木 秀夫・教授/人間文化学科, 小原 繁・教授/人間文化学科
的場 秀樹・教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科
三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 運動を行うときに身体の様々な機能を働かせて身体活動が
成り立っている。本講義では身体活動という視点から身体の構造を学
び, また身体のような機能を使っているかを理解することを目標
とする。基本動作としての走運動, 投動作, 跳躍動作に関わる身体の
構造と機能を理解する。複合動作としての球技系の運動での身体の動
きを理解する。

【授業概要】 解剖分野として骨格系, 筋肉系, 神経系の構造を理解する。
生理学分野として筋系, 神経系, 心臓血管系, 呼吸系, 代謝系, 内分泌
系, 感覚系, 免疫系, 体温調節の機能を講義し, 身体活動による一過
性の身体の変化と運動継続による身体の変化について理解を高める。
【キーワード】 解剖学, 生理学, 運動

【関連科目】 『人体構造機能学』(0.5, ⇒270頁), 『運動生理学』(0.5, ⇒271
頁), 『解剖学概論』(0.5, ⇒270頁), 『運動生理学実験実習』(0.5, ⇒272
頁)

【到達目標】
1. 骨格系, 筋肉系, 神経系の構造を理解する。
2. 人間の生理的機能について理解する。

【授業計画】 1. 細胞と組織 2. 骨格の構造と機能 3. 筋の構造と機能
4. 中枢神経系, 末梢神経系の構造と機能 5. 運動と感覚系の活動
(走・跳・投における随意動作と反射) 6. 心臓血管系の構造と機能:心
臓血管機能 7. 呼吸系の構造と機能 8. 運動時の代謝(疲労との関
係) 9. 運動時の代謝(糖代謝, 脂肪代謝) 10. 運動と内分泌系の働き
11. 運動と免疫系機能 12. 陸上運動と水中運動の比較 13. 運動と
体温調節 14. 運動による適応現象 15. 定期試験 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況(40%), 小テスト授業内レポート(10%), 期末試験
(50%)で評価する。

【再試験】 有, 再試験
【教科書】 なし
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219385>

【連絡先】

- ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスア
ワー: 水曜日 午後5時より6時まで)
- ⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オ
フィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)
- ⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

解剖学概論 2単位 2年(前期)
佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 人体のそれぞれの器官が体全体の中でいかに助け合い, 役割
を分担しあっているのかを理解する。

【授業概要】 人体を部分部分に切り離していく過程を解剖といひます。解
剖学は, 人体の構造とそれを構成する各部分の相互関係を取り扱う学
問です。人間の行動を学ぶ上でこれらの知識は欠かせないものです。
解剖学を学ぶとき, 組織や器官の名称をただ単に暗記しようとしても
なかなか覚えられないばかりか, 興味を持つことができません。この
授業では, それぞれの器官が体全体の中でいかに助け合い, 役割を分
担しあっているのかを学習します。私たちの体は実に見事に作られ
ており, 解剖学に関する知見を学べば学ぶほどその見事さに驚かされ
ます。この授業を通して, 自分自身の「からだ」をより身近なものに
感じ取ってください。

【キーワード】 解剖, 人体構造, 人体機能
【関連科目】 『人体構造機能学』(0.5, ⇒270頁), 『バイオメカニクス』(0.5,
⇒271頁), 『運動生理学』(0.5, ⇒271頁), 『神経生理学』(0.5, ⇒271
頁), 『健康運動指導論』(0.5, ⇒274頁)

【履修上の注意】 この授業で詳しく取り上げることのできない項目につ
いては, 次の授業科目で取り上げられていますので, それらの講義も受
講することを望みます。(生理学概論・運動生理学・人体構造機能学
・神経生理学(3年次開講))

【到達目標】

1. 全身の11の器官について一般的な機能を理解する。
2. 皮膚やその付属器官の構造・機能を, 日常生活や運動場面との関連
で理解する。
3. 消化器官の名称とその相互関係を学び, 食物の消化吸収の機序を理
解する。
4. 腎臓各部位について学び, 尿の生成過程を理解する。
5. 生殖系の構造・機能を学び, 精子・卵子が受精するまでの過程を理
解する。

【授業計画】 1. ガイダンス, 人体の構造と機能についての概論・細胞と
組織 2. 組織および器官系について 3. 器官について 4. 外皮系と
人体を構成する膜 5. 骨格系 6. 骨格筋系(その1) 7. 骨格筋系
(その2) 8. 神経系 9. 循環器系 10. 消化器系(その1) 11. 消化
器系(その2) 12. 泌尿器系 13. 男性生殖器 14. 女性生殖器 15.
感覚器系 16. 定期試験

【成績評価】 レポート及び定期試験(持ち込み不可)
【再試験】 定期試験のみ, 同様の方法で再試験を行います。

【教科書】 カラーで学ぶ解剖生理学, ゲーリー・A・ティボドー他著, 医学
書院 5600円

【参考書】 補助教材(印刷資料)を使用します。第3回目の授業時に配布
します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219455>
【連絡先】

- ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オ
フィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

人体構造機能学 2単位 2年(前期)

的場 秀樹・教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では, 人間を科学的に理解するための基礎である人
体の構造と機能について講義する。本講義のねらいは, 学生諸君に人
体の構造と機能との関連を把握しながら理解してもらうことにある。
【授業概要】 人体の構造を機能と関連づけて理解する。

【キーワード】 解剖学, 生理学
【先行科目】 『解剖学概論』(1.0, ⇒270 頁)
【関連科目】 『生理学概論』(0.5, ⇒270 頁), 『運動生理学』(0.5, ⇒271 頁)
【履修上の注意】 単に出席するだけでなく, 授業へ積極的に取り組むことを希望する。
【到達目標】 人体の構造と機能を人体の器官系に基づき系統的に理解する。
【授業計画】 1. 授業概要, 教科書, 成績評価の方法等の説明 2. 人体を構成する器官系の概説 3. 細胞と組織 4. 骨格系 I 5. 骨格系 II 6. 骨格筋系 I 7. 骨格筋系 II 8. 血液 I 9. 血液 II 10. 免疫系 11. 呼吸系 12. 循環系 13. 内分泌系 14. 神経系 15. 期末試験 16. 総括授業
【成績評価】 出席状況, レポート, 試験結果から総合的に評価する。
【再試験】 なし
【教科書】 ティボドー&パットン「カラーで学ぶ解剖生理学」医学書院 MYW 5600 円+税
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219093>
【連絡先】
 ⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分から17時30分まで)

運動生理学

2 単位 2 年 (前期)

三浦 哉・准教授/人間文化学科, 荒木 秀夫・教授/人間文化学科
 小原 繁・教授/人間文化学科, 的場 秀樹・教授/人間文化学科
 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 本講義では, 運動時の生体の諸機能の変化およびトレーニング効果について理解してもらい, そのために, 成人から高齢者の身体機能の特性およびその測定評価方法について, 生活習慣病の予防, 介護予防との関連から論じることを目的とする。
【授業概要】 運動時のエネルギー代謝, 神経系・呼吸循環系機能の変化を理解し, 健康づくりのための身体活動・運動の意義を運動生理学的な視点から理解を深める。
【キーワード】 運動, 身体機能, 健康, 体力
【先行科目】 『生理学概論』(1.0, ⇒270 頁), 『解剖学概論』(1.0, ⇒270 頁), 『人体構造機能学』(1.0, ⇒270 頁)
【関連科目】 『スポーツ生理学』(0.5, ⇒271 頁), 『運動処方論』(0.5, ⇒273 頁)
【履修上の注意】 単に出席するだけでなく, 授業に積極的に参加することを希望する。
【到達目標】
 1. 運動時の生体機能の変化を理解すること
 2. 生活習慣病予防, 介護予防のための運動指導のための基本的知識を習得すること
【授業計画】 1. 運動と骨格筋 (筋収縮) 2. 運動と骨格筋 (エネルギー供給機構) 3. 運動と神経 (動作の運動制御) 4. 運動と神経 (学習と記憶) 5. 運動と呼吸 (換気応答) 6. 運動と呼吸 (酸素摂取量) 7. 運動と循環 (中心循環) 8. 運動と循環 (末梢循環) 9. 体力と運動能力 10. 中年者の新体力テスト (筋力・筋持久力) と測定方法 11. 中年者の新体力テスト (持久走能力・柔軟性) と測定方法 12. 高齢者の体力測定法 (高齢者の体力特性と測定法の注意点) 13. 高齢者の体力測定法 (各測定法と評価法) 14. 介護予防のための体力測定の在り方 15. 介護予防のための体力測定と評価の実例 16. 定期試験
【成績評価】 出席状況 (40%), 小テスト授業内レポート (10%), 期末試験による総合評価
【再試験】 なし
【教科書】 教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219469>
【連絡先】
 ⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分から17時30分まで)
 ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

神経生理学

2 単位 3 年 (後期)

荒木 秀夫・教授/人間文化学科

【授業目的】 人間行動の基礎となる脳神経系の機能的役割を理解するために, 感覚情報処理, 運動制御及び高次神経活動に関する生理学的メカニズムを学習する。
【授業概要】 神経生理学分野の基礎的, 総論的内容を扱う。ニューロン (神経細胞) の「構造と機能」としての興奮や情報処理の仕組みを理解し, 細胞における基礎的な細胞の活動が組織化されることによって感覚, 運動, 精神活動などの高次な神経活動が実現する過程を学習する。

【キーワード】 ニューロン, 脳, 学習
【先行科目】 『行動制御論』(1.0, ⇒276 頁)
【履修上の注意】 個々に事例を扱うことが多いが, それらの関係の意味を中心にノートをとること。
【到達目標】 脳神経系機能とネットワークの階層的構造の意味を理解する。
【授業計画】 1. 神経科学と神経生理学 2. ニューロンの仕組み 3. 静止電位と活動電位 4. 興奮の伝導 5. 興奮の伝達 6. 神経回路理論 7. 抹消神経総論 8. 中枢神経総論 9. 神経と感覚機能 10. 神経と運動機能 11. 感覚運動統合論 12. 高次神経活動-学習と記憶- 13. 高次神経活動-言語と認知- 14. 脳: 神経科学の展望 15. 総括授業
【成績評価】 試験による成績 80%。(試験での持ち込み不可) 授業態度 20%(出席, 発言等)
【再試験】 原則として行わない
【教科書】 プリントを配布
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218719>
【連絡先】
 ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火7-8講時)

バイオメカニクス

2 単位 3 年 (後期)

佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 身体運動の「からくり」を解明する
【授業概要】 バイオメカニクスという学問は生理学, 解剖学, 力学 (物理学) の知見を参考にして, 身体運動 (力強い動き, 巧みな動き, 効率的な動きなど) の仕組みを解析する学問です。これらの仕組みがわかると, スポーツの技術の習得や指導などに役に立ちますし, スポーツをみる場合でも違った観点からスポーツを楽しむことができるでしょう。この授業の前半では, バイオメカニクスの基礎的な知識 (力学を中心に) の理解を目的とします。そして, 後半では, 前半で理解した知識を用い, 基礎的運動 (走, 跳, 投など) について, その「からくり」を解説し, あわせて運動技能トレーニングについても考えてみます。
【キーワード】 身体運動, 運動技術, 運動力学
【先行科目】 『解剖学概論』(1.0, ⇒270 頁), 『人体構造機能学』(1.0, ⇒270 頁)
【関連科目】 『行動制御論』(0.5, ⇒276 頁), 『健康運動指導論』(0.5, ⇒274 頁), 『運動生理学実験実習』(0.5, ⇒272 頁)
【履修上の注意】 数学や物理学が得意な方でも理解できるように授業を進めていきます。
【到達目標】
 1. バイオメカニクスの基礎となる筋収縮特性や筋・骨格の解剖学的知識を理解する。
 2. 力学用語の使い方になれる。
 3. 並進・回転運動における力学的法則について, 身体運動と関連づけて理解する。
 4. 運動の力学的エネルギーと効率について理解する。
 5. 走・跳・投などの基本的運動についてバイオメカニクスの観点からその動きの特徴を理解する。
【授業計画】 1. スポーツ・バイオメカニクスとは何か 2. スポーツ・バイオメカニクスの基礎 (生理学・解剖学) 3. 運動の 3 法則 (ニュートンの法則)・質量と重量 4. 力の働かせ方 (運動量, 力積など) 5. 慣性モーメント 6. 回転運動 (慣性モーメント, 角運動量, ジャイロ効果など) 7. 流体力学 (流体抵抗, 揚力, マグヌス効果など) 8. 運動の力学的エネルギーと効率 9. 基本的運動のバイオメカニクス (歩く) 10. 基本的運動のバイオメカニクス (走る) 11. 基本的運動のバイオメカニクス (高く跳ぶ) 12. 基本的運動のバイオメカニクス (遠く跳ぶ) 13. 基本的運動のバイオメカニクス (投げる) 14. 基本的運動のバイオメカニクス (打つ・蹴る) 15. 基本的運動のバイオメカニクス (泳ぐ) 16. 定期試験
【成績評価】 基礎的な知識 (目標の 1~4) は定期試験 (持ち込み不可) の結果で (50%), 応用的な分野 (目標の 5) についてはレポートの結果 (50%) による総合評価を行います。
【再試験】 定期試験については再試験を行います。
【教科書】 なし
【参考書】 補助教材 (印刷資料) を使用します。第 3 回目の授業時に配布します。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219073>
【連絡先】
 ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

スポーツ生理学

2 単位 3 年 (前期)

三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 日常的な身体活動の継続, つまり, 「トレーニング」は, その内容に応じて, 身体の諸機能に特異的な効果をもたらす. 例えば, ヒトの体力は筋力, 持久力, スピード, パワー, 平衡性, 敏捷性などに分類されるが, レジスタンストレーニングでは主に筋力・筋持久力の改善が, 持久的トレーニングでは主に持久力の改善が生じる. また, トレーニング効果には性差があり, 発育・加齢の影響を大きく受ける. 本講義では, このようなトレーニングに対する生体諸機能の変化および反応について, 運動生理学的な視点から論じることを目的とする.

【授業概要】 身体トレーニングによる生体応答

【キーワード】 トレーニング, 身体機能, 身体構造

【先行科目】 『コンディショニング論』(0.8, ⇒272頁), 『運動生理学』(0.8, ⇒271頁), 『運動療法学』(0.8, ⇒272頁)

【関連科目】 『コンディショニング論』(0.8, ⇒272頁), 『運動生理学』(0.8, ⇒271頁), 『運動療法学』(0.8, ⇒272頁), 『運動生理学実験実習』(0.8, ⇒272頁)

【履修上の注意】 本授業は応用生理学的な内容のために運動生理学, コンディショニング論のどちらかを受講していることが望ましい. また, 本授業では随時, 関連資料を印刷物以外に, プロジェクターを利用して提示するので, ノートのとり方に留意すること.

【到達目標】

1. 健康の維持・増進のためのトレーニングによる身体機能の変化を理解すること
2. 競技スポーツ, および健康増進のために適切な運動を指導するための知識を習得すること

【授業計画】 1. 「トレーニング」の意義 2. 骨格筋へのトレーニング効果 3. 呼吸循環系へのトレーニング効果 I 4. 呼吸循環系へのトレーニング効果 II 5. 代謝系へのトレーニング効果 6. 内分泌系へのトレーニング効果 7. 骨へのトレーニング効果 8. 神経系へのトレーニング効果 9. 筋力の発育・発達 10. 全身持久力の発育・発達 11. 動作の発育・発達 12. 加齢とトレーニング効果との関係 13. 性差とトレーニング効果との関係 14. 各種トレーニングの効果 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 本授業は講義形式であり, 成績評価は出席状況, レポート, 授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価と, 前期試験結果から総合的に評価する. なお, 平常点は20点, 前期試験は80点, 合計100点で評価する.

【再試験】 実施する

【教科書】 教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する. また, 受講の際に参考となるテキストは以下の通りである. スポーツ生理学 朝倉書店 1994

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219064>

【連絡先】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日11時55分から12時50分 応用生理学研究室(総合科学部1号館1階), E-mail hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

コンディショニング論

2 単位 2 年 (後期)

的場 秀樹・教授/人間文化学科, 三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 コンディショニングとは, 身体や精神の状態を表す「condition」と, その状態が進行中である「ing」が合成された後であり, 「心身の状態を目的に向かってより好ましい方向に整えることを目的とした対象者自身への働きかけ」を意味する. 身体活動は1)健康, 体力の維持増進のため, 2)競技力向上のため, 3)体重のコントロールのため, などの様々な目的で実施されるが, その際のコンディションは栄養・休養・環境などの様々な要因によって影響を受ける. そこで本講義では, 身体活動を実施する上で影響する様々な外的要因が生体の諸機能に及ぼす影響について概説する.

【授業概要】 栄養, 休養, 環境と身体機能との関係について理解する

【キーワード】 コンディション, 栄養, 環境

【関連科目】 『運動生理学』(0.8, ⇒271頁), 『運動療法学』(0.8, ⇒272頁), 『スポーツ生理学』(0.8, ⇒271頁)

【履修上の注意】 本授業では随時, 関連資料を印刷物以外に, プロジェクターを利用して提示するので, ノートのとり方に留意すること.

【到達目標】

1. 「栄養」・「休養」・「環境」といった外的要因と生体機能との関連を理解すること
2. 日常生活の中で自分自身, また, 他者への体調・健康管理に対してアドバイスする知識を習得すること.

【授業計画】 1. 「コンディショニング」の意義 2. コンディションチェック 3. ピーキング, ディトレーニングの影響 4. ウォーミングアップ, クーリングダウンの効果 5. 身体活動と糖質・脂質代謝 6. 運動と栄養補給 7. ビタミン・ミネラルの役割 8. ウェイトコントロールの実践 9. 疲労のメカニズム 10. 暑熱・寒冷下での運動時の生体応答 11. 低圧・高圧下での運動時の生体応答 12. ドーピング 13. 健康関連商品の動向 14. スポーツシューズ, ウェア等の生体機能への影響 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 本授業は講義形式であり, 成績評価は出席状況, レポート, 授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価と, 前期試験結果から総合的に評価する. なお, 平常点は20点, 前期試験は80点, 合計100点で評価する.

【再試験】 実施する

【教科書】 教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する. また, 受講の際に参考となるテキストは以下の通りである. コンディショニングの科学 朝倉書店 1995

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219058>

【連絡先】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動療法学

2 単位 2 年 (後期)

三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 高血圧症, 糖尿病, 高脂血症に代表される生活習慣病の予防・治療のためには薬物療法だけではなく身体活動, つまり運動療法の重要性も明らかにされている. 本講義では, 生活習慣病の予防・治療のための運動の意義およびその運動療法の実際を概説し, 健康・疾病の観点から運動の重要性を再認識してもらう. 一方, 傷害予防・再発防止のためにスポーツマッサージ, テーピング, ストレッチングなどのアスレティックリハビリテーションの方法が普及している. そこで本講義ではこれら手法の生理的側面からみた意義を講義し, 実際にそれらの手法も修得させる.

【授業概要】 疾病後の運動の意義および傷害予防のリハビリテーション

【キーワード】 運動療法, 生活習慣病, リハビリテーション

【先行科目】 『運動生理学』(0.6, ⇒271頁), 『コンディショニング論』(0.6, ⇒272頁)

【関連科目】 『コンディショニング論』(0.8, ⇒272頁), 『スポーツ生理学』(0.8, ⇒271頁), 『運動生理学』(0.8, ⇒271頁), 『運動生理学実験実習』(0.8, ⇒272頁)

【履修上の注意】 本授業は講義形式の授業であるが, 一部実習の形態を取り入れて実施する.

【到達目標】

1. 生活習慣病と運動との関わり, およびスポーツ障害の予防法を理解すること
2. 自分自身, また, 他者に対して運動の重要性, 障害の予防法をアドバイスする知識を習得すること

【授業計画】 1. 運動療法の概念 2. 生活習慣病について 3. 高血圧症に対する運動療法 4. 糖尿病に対する運動療法 5. 高脂血症に対する運動療法 6. 肥満症に対する運動療法 7. 虚血性心疾患に対する運動療法 8. 認知症と運動との関係 9. 転倒防止と運動との関係 10. がん運動との関係 11. 運動療法の実際(実習) 12. スポーツマッサージの理論・方法 13. テーピング・スポーツ装具の効果と方法 14. ストレッチングの理論・方法 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 本授業は講義・実習形式であり, 成績評価は出席状況, 授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価, 実習の試験および後期試験結果から総合的に評価する. なお, 平常点は20点, 実習の試験は10点, および後期試験は70点, 合計100点で評価する.

【再試験】 実施する

【教科書】 教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219471>

【連絡先】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日11時55分から12時50分 応用生理学研究室(総合科学部1号館1階), E-mail hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動生理学実験実習

2 単位 3 年 (前期)

佐竹 昌之・准教授/人間文化学科, 荒木 秀夫・教授/人間文化学科

小原 繁・教授/人間文化学科, 的場 秀樹・教授/人間文化学科

三浦 哉・准教授/人間文化学科, 野村 昌弘・

【授業目的】 スポーツ科学に関する基礎的な実験を行い, スポーツを科学的に認識する態度を養う.

【授業概要】 運動生理学, 運動生化学およびバイオメカニクス領域の基礎的な実験を取り上げ, 測定を通して実験方法とデータのまとめ方を理解する. 1 授業は180分連続で行われる.

【キーワード】 身体構造, 身体機能, 運動負荷テスト

【先行科目】 『生理学概論』(1.0, ⇒270頁), 『運動生理学』(1.0, ⇒271頁), 『解剖学概論』(1.0, ⇒270頁)

【関連科目】 『運動処方論』(0.5, ⇒273頁), 『バイオメカニクス』(0.5, ⇒271頁)

【履修上の注意】 計画は, 受講者数等によって変更がありますので, 1 回目の授業には必ず参加してください.

【到達目標】運動生理学に関する基礎的な実験方法、データのまとめ方等を理解する

【授業計画】1. オリエンテーション・形態計測・新体力テスト 2. 筋力・パワー測定 3. 運動負荷試験とは 4. 運動負荷試験の実際:呼吸循環機能の測定 5. 運動負荷試験の実際:酸素摂取量・換気応答の測定 6. 反射と応答 7. 筋と筋電図 8. 知覚運動と脳波 9. 身体活動時の酸素動態 10. 血中乳酸濃度の測定 11. 血糖値の測定 12. タンパク質の定量 13. 心機能 14. 体温・皮膚温 15. データ整理・レポート作成 16. まとめ

【成績評価】出席状況(60%), 実験レポート(40%)で評価する

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】各実習時に資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219470>

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時から17時まで)

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時から17時まで)

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日16時から17時まで)

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 野村 .

健康教育論

2 単位 2 年 (後期)
野村 昌弘・, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】現代社会の歪みもたらす健康問題を学際的に理解し、問題解決能力を養う。また、社会において健康の保持増進に貢献できる実践力を修得する。

【授業概要】ヘルスプロモーションは、人々が自ら健康をコントロールし、改善する能力を高めるとともに、環境整備によって社会全体の健康づくりを包括的、総合的に推進しようとする考えである。健康教育はヘルスプロモーションの理念に基づいて、今日的な健康問題を科学的に理解し、健康づくりのための理論や方法について実践的に学習する。

【キーワード】健康問題

【到達目標】健康問題を学際的に理解し、問題解決能力を養う。

【授業計画】1. ヘルスプロモーションと QOL, 健康教育, 健康管理論 2. 健康の定義と医事法規 3. 生活習慣病概論 4. 生活習慣と健康問題-高血圧症, 高脂血症- 5. 高血圧症・高脂血症と生活改善 6. 生活習慣と健康問題-糖尿病- 7. 糖尿病と生活改善 8. 生活習慣病と健康問題-虚血性心疾患- 9. 虚血性心疾患と生活改善 10. 骨粗鬆症とその予防 11. 関節リウマチと変形性関節症とその予防 12. 介護予防概論 13. 生涯保健とライフスタイル 14. リスク行動と生活改善 15. 定期試験 16. 総括授業

【成績評価】出席状況(40%), 小テスト授業内レポート(10%), 期末試験(50%)で評価する。

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】プリントを配布する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219115>

【連絡先】

⇒ 野村 .

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

発育発達学

2 単位 2 年 (後期, 集中)
的場 秀樹・教授/人間文化学科

【授業目的】人の受精, 発生, 誕生, 成長, 成熟, 老化の過程を概観する。生涯における変化の現象を明らかにするとともに、外部からの働きかけにより内在する諸能力を引き出し、発達を促すための理論を学習する。また、発達障害や発達援助についても可能な限り学習する。身体発達学を中心に講義を行うが、発達に関わる専門職に必要な発達論についても学習し、主体がめざす発達の方向性や時代が要求する能力観など、能力の成立条件と主体の関係など、教育の視点からも理解を深める。

【授業概要】本年度、開講せず

【到達目標】生涯における心身の変化の過程及び変化に影響を与える諸要因について多面的に理解する。

【授業計画】1. 1. 発育発達概念 2. 2. 発育, 発達, 加齢による身体構造と機能の変化(1) 3. 3. 発育, 発達, 加齢による身体構造と機能の変化(2) 4. 4. 発育, 発達, 加齢に関する諸問題(1) 性的決定と性分化 5. 5. 発育, 発達, 加齢に関する諸問題(2) ボルトマン

の習慣的早産説 6. 6. 発育, 発達, 加齢に関する諸問題(3) 発育期のスポーツ 7. 7. 発育, 発達, 加齢に関する諸問題(4) 老化と死 8. 8) 成長発達の方向性 9. 9) 成長発達の多様性 10. 10) 発達と環境要因 11. 11) 発達と労働 12. 12) 発達障害と発達支援(1) 13. 13) 発達障害と発達支援(2) 14. 14) 発達論再考 15. 15) 総括授業 16. 16) 期末テスト

【成績評価】レポート、筆記試験、出席を総合して行う

【再試験】再評価は行わない

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219391>

【連絡先】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ (オフィスアワー: 月曜日(16時~17時))

【備考】隔年開講(本年度は開講しません)

健康行動論

2 単位 2 年 (前期)
荒木 秀夫・教授/人間文化学科, 小原 繁・教授/人間文化学科
的場 秀樹・教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科
三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】授業で習得した知識や態度が、自己の生活や社会活動に生かされ、健康で豊かな生活が営まれることを目標とする。授業は健康運動、生活行動、安全管理をテーマに進める。

【授業概要】健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし、健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う。具体的には、健康障害や事故の予防、それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する。

【キーワード】健康問題, 生活行動, 運動・スポーツ活動

【到達目標】授業で習得した知識や態度が、自己の生活や社会活動に生かされ、健康で豊かな生活が営まれることを目的とする。

【授業計画】1. 健康とは 2. 健康と運動 3. 健康運動の方法 4. スポーツと健康 5. 薬物と健康(服薬者の運動実施と注意点) 6. 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 7. 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 8. 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 9. 発育発達期の身体的特徴, 心理的特徴 10. 発育発達期に多いケガや病気 11. 運動中に多い病気とその予防 12. 運動中に多いケガとその予防 13. 現代の健康 14. 環境と健康 15. これからの健康 16. 総括

【成績評価】レポート、小テスト、授業の取り組み方などで総合的に評価する。

【再試験】再試験はしない。

【教科書】なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219116>

【連絡先】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動処方論

2 単位 3 年 (前期)
小原 繁・教授/人間文化学科, 佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 野村 昌弘・

【授業目的】身体の仕組みを学びつつ、健康の保持増進のための運動のあり方について講義を行います。運動は両刃の剣であり、使い方によっては毒にも薬にもなります。薬の処方では服用する薬の量やタイミングが大事ですが、運動の処方も同じで運動の強さと時間が重要です。この様なことについて学んでゆきます。

【授業概要】体力と健康という概念を確認して、運動による健康の維持・増進について具体的な方法を学んでいきます。特に運動の強度と身体への反応との関係を学習しながら、日常生活での健康の維持・増進について議論してきます。

【履修上の注意】授業の内容は自然科学的なものになりますが、理科系の科目に対して得意でなくても、苦手意識を持っていないければ大丈夫です。

【到達目標】

1. 健康と体力の関連を理解する。
2. 2. 運動強度の表し方を理解する。
3. 3. 一過性の運動による身体の反応を理解する。
4. 4. トレーニング効果としての身体の反応を理解する。
5. 5. 運動によるエネルギー消費量の算出方法を理解する。
6. 6. 加齢による身体機能の変化を理解する。

【授業計画】1. 健康・体力とは何か? 2. 競技スポーツと健康のための運動はどのように違うのか? 3. 運動処方とは何か? 4. 運動強度その 1 5. 運動強度その 2 6. 運動持続時間・運動の頻度 7. 疾病と運動との関わり・中間試験 8. 運動強度と身体の反応(一過性の反応) 9. 運動継続に伴う身体の変化(トレーニング効果) 10. エネルギー消費量の求め方 11. 老化に伴う身体の変化(1) 12. 老化に伴う身体の変化

(2) 13. 子どもの身体・体格と体力について 14. Wellness(Quality of Life: QOL)を求めて 15. 実習による理論の確認 16. 最終筆記試験
【成績評価】 中間テストと最終テストにより評価します。
【再試験】 1 回行います。
【教科書】 教科書は使わずに資料を中心にして授業を進めます。
【参考書】 必要に応じてスライドを見せたり、資料を配付したりします。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219467>
【連絡先】
 ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後5時から6時まで)
 ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 野村 .

健康運動実習 I

2 単位 2 年 (後期)
 中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 リズムやイメージの世界で踊る楽しさを理解し、イメージやテーマを全身で自由に表現する「創作ダンス」、伝統的な踊りを身につけて踊る「フォークダンス」、健康づくりのための現代的な音楽にのって踊る「エアロビックダンス」を学習することによって、自らの能力に応じた課題を選び、グループで協力して課題を解決できるようにする。
【授業概要】 ダンスのもつ文化性を理解し自らの身体を使って創作表現したり、健康づくりのための指導法を身につける
【キーワード】 ダンス, 健康, リズム, 身体表現
【履修上の注意】 本授業は隔年開講で、来年度は開講しないので受講の際は注意して下さい。第一週は授業全体についてのガイダンスを行うので必ず出席すること。本授業は実技をとおしての実習であるので、動きやすい服装で受講すること。

【到達目標】
 1. 1. 身体による自己表現ができる。
 2. 2. リズムにのって、心と体を開放することができる。
 3. 3. 簡単な作品を創作することができる。
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 創作ダンス:即興による動きの創出 3. 創作ダンス:構成と空間の使い方:空間構成 4. 創作ダンス:構成と空間の使い方:時間構成 5. 創作ダンス:イメージ課題による表現 6. 創作ダンス:運動課題による表現 7. フォークダンス:日本の民謡 8. フォークダンス:西欧の民謡 9. アロ踊り 10. エアロビックダンス:有酸素運動とダンス 11. エアロビックダンス:構成と指導法 12. 社交ダンス:基本の動き 13. 社交ダンス:競技 14. ロック, ヒップ・ホップ 15. まとめ 16. ビデオ視聴によるまとめ
【成績評価】 本授業は実技をとおしての実習であるので、授業中に行う発表を小テストとして評価し、出席状況などにもとづく平常点での評価も併用して成績の評価とする。

【再試験】 行わない
【教科書】 教科書は使用せず、授業中にプリントを随時配布する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219120>
【連絡先】
 ⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 火曜日12時~13時)
【備考】 隔年開講。平成 24 年度開講

健康運動実習 I

2 単位 2 年 (後期)
 荒木 秀夫・教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、サッカーの技術を理解し、個人技能を高め、集団での技能や戦術を考えて実施できる能力を身につける。さらにこれらの種目に対する指導力を養成することを目的とする。
【授業概要】 サッカーに関する知識とスキルの習得【 1. 基礎的運動の理論と実践 2. 球技・サッカーの運動としての基礎理論と基礎トレーニング法 3. スポーツにおける運動制御, 知覚運動・コーディネーション論に基づいたスキルトレーニングなどの応用】
【キーワード】 サッカー, コーディネーショントレーニング, スキルトレーニング
【履修上の注意】 この授業では、主にサッカーを中心に実習を行うが、他のスポーツや楽器演奏にも共通する基礎運動の理論と実践をテーマとしている。これまでにスポーツを苦手と感じている学生も、積極的に受講することを望む。
【到達目標】 運動の発達と学習についての実践的な理論を体験的に学習し、自らが自信の能力向上に応用する資質を得る。
【授業計画】 1. サッカーの個人技能の確認(ドリブル, リフティング) 2. パスとドリブルとトラップ(パス&ゴー) 3. ボールキープ(パスゲーム) 4. シュートとゴールキーパー 5. 守備の基本とグリッド練習 6. マークの仕方と 4x4 7. オープンスペースの使い方 4x4 8. 三角ポジションと攻守のカバーリング 7x7 9. オーバーラップとセンタリング 7x7 10. コーナーキック・セットプレー 11x11 11. オフサイドラインの守り方攻め方 11x11 12. チームのシステムと攻守の切り替え 11x11 13. チームのシステムとポジションチェンジ 11x11 14. サッカーの評価法 15. まとめ 16. 総括授業
【教科書】 適宜、資料を配布する
【参考書】 なし
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218556>
【連絡先】
 ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

健康運動実習 III-a

1 単位 2 年 (前期)
 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

健康運動指導論

2 単位 3 年 (前期)
 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科, 中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 コーチの役割について理解するとともに、コーチングを行う上で必要な、スポーツ医学, スポーツ生理学, トレーニング学の知見を身につける。また、対象別の指導上の留意点についても学ぶ
【授業概要】 まず、コーチング前のメディカルチェックについて教授する。次にトレーニングの指導について運動生理学的観点から解説するとともに、プログラムの作成方法についても教授する。最後に、対象別のコーチングの留意点についても学んでいく。
【キーワード】 コーチング, メディカルチェック, トレーニング, 運動プログラム
【先行科目】 『健康運動実習 III-a』(1.0, ⇒274 頁), 『解剖学概論』(1.0, ⇒270 頁)
【関連科目】 『バイオメカニクス』(0.5, ⇒271 頁), 『教育相談』(0.5, ⇒282 頁), 『学校救急処置』(0.5, ⇒278 頁)

【到達目標】
 1. コーチの役割について理解する
 2. コーチングを行う上で必要な知見を理解する。
 3. 対象別の指導上の留意点について理解する。
【授業計画】 1. コーチの役割 2. 事前検診の在り方と結果の理解 3. 効果判定の理解 4. メディカルチェック 5. 心電図の評価と記録の仕方 6. トレーニング概論 7. トレーニング計画(条件・反応・強度) 8. コーチングにおける筋力増強のトレーニング 9. コーチングにおける筋パワー・筋持久力のトレーニング 10. コーチングにおけるエアロビック・トレーニング 11. 運動プログラムの作成方法(学習過程・目標と評価・行動変容・援助技法) 12. 運動プログラムの作成方法(安全管理・自立支援) 13. ジュニア期のコーチングの留意点 14. 女性のコーチングの留意点 15. 加齢に伴う体力減退と運動指導の留意点 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況およびレポートで総合的に評価する。
【再試験】 なし
【教科書】 なし
【参考書】 適宜、資料を配付する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219121>
【連絡先】
 ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
 ⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

衛生・公衆衛生学

2 単位 2 年 (後期)
 前田 健一・教授/保健管理センター, 井崎 ゆみ子・准教授/保健管理センター

【授業目的】 1. 衛生・公衆衛生の講義を通じて、健康の保持・増進を図り疾病を予防するための知識を習得する。 2. 呼吸器疾患, 感染症, 精神疾患などの疾病を主に取り上げ、それぞれの疾病の病因と治療方法についての知識を習得する。 3. 健康管理や健康診断の重要性とその方法を理解し、生活習慣病の予防と治療法を理解する。
【授業概要】 生活習慣病, 呼吸器疾患および精神保健・精神疾患に関する基礎知識を習得するとともに各種疾患の予防方法や治療法について学習する。
【授業計画】 1. 生活習慣病とメタボリックシンドローム 2. 高血圧の予防と治療 3. 脂質異常症の予防と治療 4. 糖尿病の予防と治療 5. 呼吸器感染症 6. 肺癌 7. 喘息 8. COPD 9. 精神保健における諸問題, 精神医学の方法論 10. 精神作用物質による精神障害 11. 統合失調症 12. 認知症 13. うつ病 14. 睡眠障害, 不安障害 15. 発達障害 16. 保健管理センターの見学, 実習
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218369>
【連絡先】
 ⇒ 前田 (maedak@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 井崎 .
 ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

【授業目的】 この授業では、体ほぐしの運動と体力を高める運動の必要性を理解するとともに、自己の体力や生活に応じた運動を計画的に実施できる資質や能力、さらにはそれに必要な指導力を養成することを目的とする。

【授業概要】 体ほぐしの運動と体づくり運動に対する知識とスキルの習得。

【キーワード】 体ほぐし運動、体づくり運動、コーチング

【関連科目】 『健康運動指導論』(0.5, ⇒274 頁), 『健康運動実習 III-b』(0.5, ⇒275 頁)

【履修上の注意】 1 回目の授業は総合体育館に運動のできる服装で集まってください。

【到達目標】 体ほぐしの運動と体づくり運動に対する知識とスキルの習得

【授業計画】 1. 体ほぐしとは(アイスブレイキングとコミュニケーションゲーム) 2. ストレッチとリラクゼーション(静的運動) 3. ウォーミングアップとクーリングダウン 4. ボールを使ったレクリエーション・スポーツ(1) 5. ボールを使ったレクリエーション・スポーツ(2) 6. レクリエーション・ダンスとボディワーク 7. アジリティトレーニング 8. コーディネーショントレーニング 9. 走・跳・投の動きづくりと体力づくり運動 10. 跳び箱と体づくり運動 11. マット運動と体づくり運動 12. 鉄棒と体づくり運動 13. 器械運動とサーキットトレーニング 14. 運動と脈拍変動の実験 15. 持久力を高める体力づくり 16. 総括及び振り返り

【成績評価】 出席状況および授業内レポートで総合的に評価する

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219118>

【連絡先】
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

【備考】 隔年開講

健康運動実習 III-a

1 単位 2 年(後期)
三浦 哉・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この授業では、体ほぐしの運動と体力を高める運動の必要性を理解するとともに、自己の体力や生活に応じた運動を計画的に実施できる資質や能力、さらにはそれに必要な指導力を養成することを目的とする。

【授業概要】 体ほぐしの運動と体づくり運動に対する知識とスキルの習得。

【キーワード】 体ほぐし運動、体づくり運動、コーチング

【先行科目】 『健康運動指導論』(1.0, ⇒274 頁)

【到達目標】 体ほぐしの運動と体づくり運動に対する知識とスキルの習得

【授業計画】 1. 体ほぐしとは(アイスブレイキングとコミュニケーションゲーム) 2. ストレッチとリラクゼーション(静的運動) 3. ウォーミングアップとクーリングダウン 4. ボールを使ったレクリエーション・スポーツ(1) 5. ボールを使ったレクリエーション・スポーツ(2) 6. レクリエーション・ダンスとボディワーク 7. アジリティトレーニング 8. コーディネーショントレーニング 9. 走・跳・投の動きづくりと体力づくり運動 10. 跳び箱と体づくり運動 11. マット運動と体づくり運動 12. 鉄棒と体づくり運動 13. 器械運動とサーキットトレーニング 14. 運動と脈拍変動の実験 15. 持久力を高める体力づくり 16. 総括及び振り返り

【再試験】 無

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218557>

【連絡先】
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 平成 24 年度開講

健康運動実習 III-a

1 単位 2 年(前期)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】 本授業では、バレーボールの技能を理解し、学習段階に応じた作戦を立て、防衛から攻撃を生かしたゲームができるようにする。また、その指導法や技術評価法についても学ぶ。

【授業概要】 バレーボールの個人技能を高め、防衛から攻撃への展開をゲームに生かす指導法を身につける。

【到達目標】 バレーボールの学習指導法を理解し、コーチングスキルを身につける

【授業計画】 1. バレーボールの個人技能と動きづくり 2. バレーボールの特性論とラリーゲーム 3. パスとレシーブ 4. サーブ 5. レシーブからのトスワーク 6. スパイクとブロック 7. 3 段攻撃とポジショニング 8. 作戦の立て方・練習計画 9. 個人技能の評価のしかた 10. リーグ戦第 1 節:サーブとレシーブの評価 11. リーグ戦第 2 節:カバリングの評価 12. リーグ戦第 3 節:防衛から攻撃の組み立て 13. リーグ戦第 4 節:キック攻撃とオープン攻撃 14. 集団戦術の評価のしかた 15. まとめ

【成績評価】 実習内容 (60%), バレーボールノート (20%), 課題レポート (20%)

【再試験】 再試験は行わない

【教科書】 適宜、資料を配布する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218558>

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康運動実習 III-b

1 単位 2 年(後期)
小原 繁・教授/人間文化学科

【授業目的】 走・跳・投といった陸上運動に関して、自己の能力に応じた課題解決、技術の獲得や記録の向上に必要な知識と技術を習得する。さらには陸上競技に必要な指導力を養成することを目的とする。

【授業概要】 陸上競技に関する知識とスキルの習得

【履修上の注意】 健康運動実習 III b は、隔年開講であり、平成 21 年度は開講しない。

【到達目標】
1. 走動作、跳躍動作、投動作における身体の使い方理解する。
2. これらの動作を競技レベルまで高めるための練習方法と健康や体力増進という目標で実施する場合の方法の違いについて理解できるようにする。

【授業計画】 1. 短距離走:スタートとスタートダッシュ 2. 短距離走:中間走法・フィニッシュとリレー 3. 健康体力向上のためのウォーキングとジョギング 4. 健康体力向上のためのジョギング 5. 長距離走:スピードトレーニングと競走 6. ハードル走:ハードリングの方法 7. ハードル走:ハードル間のピッチとストライド 8. ハードル走:総合疾走と競走 9. 走り幅跳び:反り跳びとはさみ跳びの跳躍方法 10. 走り幅跳び:助走と踏切 11. 走り高跳び:はさみ跳びとベリーロール 12. 走り高跳び:背面跳び 13. 投てき:砲丸投げ 14. 投てき:円盤投げ 15. 投てき:やり投げ 16. まとめ

【成績評価】 出席状況や理解度および技術水準により評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219119>

【連絡先】
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 小原:水曜日16時~17時, 釣場:月曜日7~8限, 長積:授業開講時間外に随時対応する。)

【備考】 隔年開講

健康運動実習 III-b

1 単位 2 年(前期)
的場 秀樹・教授/人間文化学科

【授業目的】 健康づくりの基本となるトレーニング手法について理解し、その指導の方法を身につける

【授業概要】 トレーニング方法の理解

【到達目標】 健康づくりの基本となるトレーニング手法について理解し、その指導の方法を身につける

【授業計画】 1. トレーニングの原則 2. エネルギー代謝の理解と METS・エクササイズ 3. 身体活動量測定 4. 生活習慣病予防と有酸素機能を高めるトレーニング 5. 生活習慣病予防と筋持久力を高めるトレーニング 6. 生活習慣病予防と柔軟性・敏捷性を高めるトレーニング 7. 身体組成の測定 8. 静的レジスタンストレーニング実習 9. 動的レジスタンストレーニング実習 10. トレーニング計画と評価 11. 介護予防に関する体力測定 12. 介護予防トレーニング:ダンベル運動・チューブ運動・タオル運動 13. 介護予防トレーニング:チェア・エクササイズ・マットエクササイズ 14. 継続を支援するセルフモニタリング評価 15. 発達発達とトレーニング 16. まとめ

【成績評価】 出席状況 (80%), 小テスト授業内レポート (20%) で評価する

【再試験】 なし

【教科書】 使用しない

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218559>

【連絡先】
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 本年度開講せず

健康運動実習 III-b

1 単位 2 年(前期, 集中)
行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】 本授業では、有酸素運動に適した水中運動の体験を通して、水中での運動の留意点を理解するとともに、健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的としている。具体的には、水中での身体の使い方と推進力の理論を踏まえ、水難救助の方法や、アクアア

総合科学部 (2011) 人間社会学科 人間行動コース ウェルネス行動科学サブコース

クササイズの実践、基本ストロークの技術練習や泳力練習などを行う予定である。

【授業概要】 水中での運動の留意点を理解するとともに、水泳の4泳法をマスターする。

【キーワード】 水中運動、水難救助法、アクアエクササイズ、4泳法

【履修上の注意】 本授業は夏季集中授業とする。事前オリエンテーションの日は掲示板を確認すること。授業時に必要となる水着、タオル、給水用の水筒は各自で準備すること。また、成績評価のために3/4以上の出席数が必要となる。

【到達目標】 水中運動に必要な基礎知識を理解するとともに、水泳指導に必要な基礎泳力(具体的には4泳法を25m以上)を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション(授業内容の紹介) 2. 水中運動の留意点 3. 水中ウォーキング 4. アクアエクササイズ1 5. アクアエクササイズ2 6. 水中安全管理について 7. 溺者への対応 8. 水中運動プログラムの計画と管理 9. 蹴伸びの習得 10. フリーストロークの習得 11. プレストストロークの習得 12. バックストロークの習得 13. バタフライストロークの習得 14. ターンの習得 15. 泳力テスト 16. 総括

【成績評価】 講義も数時間実施するが基本的には実技が中心となるため、出席状況を重視する。さらに授業態度、技術点も評価する。評価配分は「出席70%」「授業態度20%」「技術点10%」とする。

【再試験】 実施しない

【教科書】 資料を適宜配布する

【参考書】

- ◇日本水泳連盟(編)「水泳指導教本【地域スポーツ指導者用】」大修館書店
◇日本赤十字社「赤十字水上安全法講習教本」
◇日本スイミング協会(編)「アクアフィットネス・アクアダンスインストラクター教本」大修館

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218560

【連絡先】

⇒ 行實(スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日午後)

【備考】 隔年開講, 平成24年度開講

行動制御論

2単位 2年(後期)

三浦 哉・准教授/人間文化学科, 荒木 秀夫・教授/人間文化学科
的場 秀樹・教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 健康と体力の問題を、エネルギー代謝系と情報処理系をテーマとする生理科学・運動科学の諸知見を学んだ上で、人間生活における健康体力の意義を理解する。

【授業概要】 現代社会における健康問題は、次第に複雑な様相を示しつつある。その最大の特徴は、身心が相互に関係し合い、様々な身体・運動能力の変化が相乗的に影響し合うといったバランスの欠如にある。この問題を正しく捉えるために、神経系、筋系、呼吸循環器系、代謝系、運動機能に関わる基礎的な理解を踏まえ、日常生活における具体的な健康体力の諸問題の解決策を学習する。

【キーワード】 健康、体力、身体、運動

【到達目標】 健康と体力に関する科学的基礎知識を得る

【授業計画】 1. 健康と体力に関する科学的基礎知識を得る 2. 現代社会における健康体力問題 3. 健康と体力の評価 4. 体力を支える筋機能とエネルギー代謝 5. 運動の仕組みーバイオメカニクスと運動生理学ー 6. 運動とホルモン 7. 健康と脳・神経 8. 健康のための基礎運動-トレーニング論- 9. 健康のための基礎運動-スポーツ論- 10. 脳に及ぼす運動効果 11. 栄養と食事 12. 中高齢者のための健康運動 13. トレーニング計画 14. 健康のための運動実践 15. 総括授業ー日常生活と健康志向-

【成績評価】 試験による

【再試験】 原則として再試験は行わない。

【教科書】 必要に応じて授業用のテキストを配布する。

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218605

【連絡先】

- ⇒三浦(3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒荒木(3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒的場(3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒佐竹(2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

運動文化比較研究

2単位 2年(前期)

中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 文明が発達した現在では、身体運動、スポーツ、ダンス等は健康のための手段として重要視されている。しかし、これらは健康の手段として生まれてきたのではない。それぞれの運動やスポーツ、ダンスは各国、各地域の固有の文化としてとらえることができる。本

講義では、これらの内容及び歴史的な意味について概説し、現代社会における遠藤やスポーツ、ダンスを気岸社会学や文化人類学の観点から検討し、寄り不快認識を得ることを目的とする。

【授業概要】 生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついていく過程を歴史社会学の観点から分析し、現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する。

【キーワード】 ダンス、スポーツ、生産形態、健康

【履修上の注意】 本授業ではOHPやビデオなどを使用し、視覚的に動きの違いを理解できるようにしているが、見るだけで終わらせることがないようにノートの取り方を工夫すること。

【授業計画】 1. 運動と文化-スポーツ、ダンスの発生 2. 遊びと余暇 3. 生産形態とリズム(5つのリズム感) 4. 山村畑作民のリズムとスポーツ、ダンス 5. 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ、ダンス 日本 6. 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ、ダンス アジア 7. 海洋漁労民のリズムとスポーツ、ダンス 8. 狩猟民のリズムとスポーツ、ダンス 9. 牧畜民のリズムとスポーツ、ダンス 10. 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 11. スポーツの遊技性と競争性 12. 近代スポーツの成立 13. 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ 14. 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ 15. まとめ 16. 課題レポート作成、提出

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、数回的小レポートや出席状況などにもとづく平常点での評価と、期末の課題レポートの結果による評価を併用して行う。

【再試験】 行わない

【教科書】

- ◇教科書は使用せず、授業中にプリントを随時配布する。参考書として以下の文献を紹介する。
◇「舞踊学講義」舞踊教育研究会編 大修館書店

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219468

【連絡先】

⇒ 中村(3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 木曜日12時~13時)

身体表現論

2単位 2年(前期, 集中)

中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】 身振りからはじまり、マイム、舞踊などの芸術表現に至るまでの身体の動きが発信する内容とそれを受け入れる文化との関係について取り上げ、身体の動きをとらえてコミュニケーションをはかるノンバーバルな世界について考えることを目的としている。

【授業概要】 身体の動きによるコミュニケーションから身体の動きによる芸術作品(自己表現)まで、ノンバーバルな世界について考える。

【履修上の注意】 特になし。

【到達目標】 1. 身体の動きとコミュニケーションについて理解する。

【授業計画】 1. 身体は容れ物か? 2. 身体観について 3. 身体技法について 4. 身振りとコミュニケーションについて I 5. 身振りとコミュニケーションについて II 6. 身体表現の歴史 (1) 身体表現と神の存在について 7. (2) 娯楽としての身体表現 8. (3) 自己表現の手段としての身体 9. 舞踊を構成する要素 10. 芸術としての舞踊 I 11. 芸術としての舞踊 II 12. 舞踊作品の鑑賞法 I 13. 舞踊作品の鑑賞法 II 14. 舞踊作品の鑑賞法 III 15. まとめ 16. レポート提出

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業中に行う課題レポートの提出と、期末レポートの結果による評価を併用して行う。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は使用せず、授業中にプリントを随時配布する。

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219465

【連絡先】

⇒ 中村(3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 火曜日12時~13時)

【備考】 本年度開講せず

障害者スポーツ論

2単位 2年(前期)

小原 繁・教授/人間文化学科, 佐藤 充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】 現代社会に潜む障害者というスティグマに対して、スポーツはどのように関わっていくべきなのでしょうか?障害や障害者をスポーツという文化やその基盤となる日常生活動作の視点から考え直し、障害者スポーツに求められる身体活動の社会支援の意義を探究することを目的としています。

【授業概要】 障害者スポーツとウェルネス

【キーワード】 障害者、スポーツ、身体機能、ウェルネス

【履修上の注意】 障害者や高齢者の身体機能や身体活動の支援に焦点を当てて構成しています。途中、障害者スポーツの理解を深めるために体験実習があり、少人数での討論会も行います。

【到達目標】

1. 身体の障害について基本事項を理解する。
 2. 身体の障害によってできることとできないことを理解する。
 3. 障害者への支援の意義について理解する。
 4. 障害者が実施できるスポーツの体験を通じて理解する。

【授業計画】 1. 1. ガイダンス:障害者の残存機能と身体活動 2. 2.(A) 上肢障害の場合 3. 3.(B) 下肢障害の場合 4. 4.(C) 視覚障害の場合 5. 5.(D) 聴覚障害の場合 6. 6. 身体障害者の運動実施上の注意 7. 7. 障害者スポーツ体験実習 8. 8. 「障害とは?」 ステイグマと障害者観を問う 9. 9. 障害者福祉の援助技術: リハビリテーションからスポーツへ 10. 10. 障害者スポーツとセルフ・エフィカシー:ICF モデルと自立支援 11. 11. 障害者のチャンピオンシップスポーツ:パラリンピック 12. 12. 障害者スポーツ支援団体の活動・スペシャルオリンピック 13. 13. 障害者スポーツのユニバーサルデザイン I 14. 14. 障害者スポーツのユニバーサルデザイン II 15. 15. 討論会 16. 16. 総括

【成績評価】 授業中の提出物内容と各担当者の試験によって総合的に評価します。

【再試験】 なし

【教科書】 参考書・綿 祐二・佐藤充宏「障害者における僕らにスポーツ僕らもスポーツ」ベースボールマガジン社・石川 准・長瀬 修「障害学への招待」明石書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219479>

【連絡先】
 ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業後, および水曜日午後5時から6時まで研究室います。)

地域スポーツ社会学

2 単位 2 年 (前期)
 佐藤 充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】 地域における社会的身体活動のひとつであるスポーツ行動に注目し、ウェルネス概念の根幹にある Well-being という視点から、「人間-スポーツ-社会」の関係を探究する。現代社会における身体文化としてのスポーツの存在意義、問題点を考察する社会学の見方考え方を習得する。

【授業概要】 地域スポーツと豊かな暮らし「Well-being」の探究

【履修上の注意】 テストを 2 回行う。授業では数回課題を提出してもらい評価の対象とする。

【到達目標】
 1. 地域社会における文化・社会活動としてのスポーツの見方考え方を理解する力を養う
 2. スポーツ社会学の基本的な理論を学ぶ

【授業計画】 1. 1. 人間存在とからだ文化 2. 2. 文化としてのスポーツと地域生活:スポーツに関するライフストーリー 3. 3. 地域における子どもの運動遊びと体力問題・スポーツ環境問題 4. 4. 遊びとスポーツの関係:Play Theory 5. 5. 運動部と地域スポーツの深い絆 6. 6. 競技スポーツと企業とメディア:中間確認テスト 7. 7. 見るスポーツとアニメと若者文化 8. 8. 見るスポーツとメディアスポーツの隆盛 9. 9. 見るスポーツと地域の活性化 10. 10. スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画:スポーツ政策と事業の関係 11. 11. 地域の構造変動と総合型地域スポーツクラブの推進 12. 12. 地域の健康生活とスポーツの功罪 13. 13. 地域活動を支えるスポーツボランティア 14. 14. 地域文化としてスポーツ空間デザイン 15. 15. 後期確認テスト 16. 16. 総括

【成績評価】 筆記試験を 2 回実施し、それぞれ 40 点満点、授業課題を数回提出し、全部で 20 点、合計 100 点満点で評価します。

【再試験】 なし

【教科書】
 ◇ 参考書 ノバルト、エリアス&エリック、ダニング「スポーツと文明化」法政大学出版
 ◇ D. ジェリー&J. ホーン「スポーツ・レジャー社会学」道和書院
 ◇ 團&大橋「学校五日制と生涯スポーツ」不味堂出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219154>

【連絡先】
 ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日11:55-12:45)

レジャーマーケティング論

2 単位 2 年 (後期)
 行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】 我が国のレジャー産業は 80 兆円という市場規模にまで成長し、現在もなお発展し続けている。本授業では、レジャー産業のなかでも特にスポーツという視点から産業全体を概観していく。具体的には、スポーツとビジネスを結びつけるために必要なマーケティングに関する技術、顧客志向の考え方、消費者行動論、経営戦略論等も交えながら紹介することで、レジャーマーケティングに関する基本的な考え方の理解を深めることを目的とする。

【授業概要】 レジャーマーケティングの基本的な考え方や技術に対する理解を深め、それらを事業戦略に反映させるための基礎知識を身に付ける。

【キーワード】 スポーツ産業、スポーツマーケティング、顧客志向、消費者行動、経営戦略

【関連科目】 『スポーツマネジメント論』(0.5, ⇒277 頁), 『地域スポーツ社会学』(0.5, ⇒277 頁)

【履修上の注意】 受講者は、テキストとして指定している教科書を必ず購入すること。また、毎回、授業終了時に授業内容に関する意見・感想・質問などの感想文を提出してもらおう

【到達目標】 レジャーマーケティングに関する基礎知識を理解するとともに、事業戦略について思慮できる能力を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション(レジャー産業の概要) 2. スポーツ産業の発展と動向 1(進化するスポーツ産業) 3. スポーツ産業の発展と動向 2(スポーツ用品・施設(空間)産業) 4. スポーツ産業の発展と動向 3(スポーツとメディア産業) 5. スポーツマーケティングのマネジメント理論 1(基本的な考え方) 6. スポーツマーケティングのマネジメント理論 2(戦略的マーケティングミックス) 7. スポーツサービスの特徴とスポーツ消費者の行動特性 8. スポーツ組織を取り巻くステークホルダー 9. スポーツ施設のマーケティング戦略 10. スポーツイベントのマーケティング戦略 11. プロスポーツチーム・リーグのマーケティング戦略 12. スポーツベンチャーシップ 13. スポーツツーリズム 14. コミュニティビジネスとしての可能性を持つコミュニティスポーツ 15. まちづくりの担い手を育むスポーツボランティアとソーシャル消費 16. 総括

【成績評価】 評価は「出席」「学習態度」「レポート」の 3 つの視点で評価する。評価配分は「出席:30%」「学習態度:10%」「レポート:60%」とする。

【再試験】 実施しない

【教科書】 参考書:原田宗彦編著「スポーツ産業論第 4 版」杏林書院(2008)その他、資料を適宜配布する。

【参考書】
 ◇ 八代勉・中村平(編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店。
 ◇ 山下秋二・原田宗彦(編)「図解スポーツマネジメント」大修館書店。
 ◇ 原田宗彦(編)「スポーツマーケティング」大修館書店。
 ◇ 伊佐淳・松尾匡・西川芳昭(編)「市民参加のまちづくり コミュニティビジネス編」創成社。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219088>

【連絡先】
 ⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

スポーツマネジメント論

2 単位 3 年 (前期)
 行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】 本授業では、スポーツマネジメントを実践するための専門的知識について学習する。具体的には、学校、地域、民間、公共スポーツ施設組織等といった個別組織におけるスポーツ事業の構成方法や演出方法についての理解を深めるとともに、生涯スポーツの振興を図る為の効率的・効果的な経営過程論についても理解を深めていくことを目的とする。

【授業概要】 スポーツマネジメントに関する基礎知識の習得と、その現象(学校、地域、民間、公共スポーツ組織)を取り巻く現代的課題についての理解を深めていく。

【キーワード】 生涯スポーツ、スポーツ事業、運動者行動、経営過程(マネジメントサイクル)

【関連科目】 『地域スポーツ社会学』(0.5, ⇒277 頁), 『レジャーマーケティング論』(0.5, ⇒277 頁)

【履修上の注意】 受講者は、テキストとして指定している教科書を必ず購入すること。また、毎回、授業終了時に授業内容に関する意見・感想・質問などの感想文を提出してもらおう

【到達目標】 実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身に付ける

【授業計画】 1. オリエンテーション(スポーツマネジメント概論) 2. 我が国のスポーツを取り巻く現状と課題-するスポーツ- 3. 我が国のスポーツを取り巻く現状と課題-みる・ささえるスポーツ- 4. スポーツマネジメントの目的・構造およびその領域特性 5. スポーツ事業論(1)-エリア・サービスの概念とスポーツ施設の性格- 6. スポーツ事業論(2)-プログラム・サービスの捉え方とタイプ論- 7. スポーツ事業論(3)-クラブ・サービスの捉え方とクラブの構成要件- 8. スポーツ事業論(4)-関連的体育スポーツ事業とプロモーションの概念- 9. 運動者行動と運動生活の捉え方 10. スポーツ経営過程論(1) 計画:経営計画の種類と立案プロセス 11. スポーツ経営過程論(2) 組織:組織の構造と特性 12. スポーツ経営過程論(3) 統制:経営評価の視点とコントロール 13. スポーツマネジメントのトピック 1:スポーツ施設と指定管理者制度 14. スポーツマネジメントのトピック 2:スポーツ組織と NPO 法人格 15. 定期試験 16. スポーツマネジメントのトピック 3:スポーツイベントのマネジメント

【成績評価】評価は「出席」「学習態度」「試験」の3つの視点で評価する。評価配分は「出席:30%」「学習態度:10%」「試験:60%」とする。

【再試験】実施しない。

【教科書】

- ◇ 八代勉・中村平(編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店。
- ◇ 教材:資料を適宜配布する。

【参考書】

- ◇ 山下秋二・中西純司・畑攻・富田幸博(編)「[改訂版] スポーツ経営学」大修館書店。
- ◇ 原田宗彦・小笠原悦子(編)「スポーツマネジメント」大修館書店。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219063>

【連絡先】

- ⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

ウェルネスリサーチ演習

2単位 3年(後期)

佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】統計データを用いた分析はウェルネスのマーケティング領域の重要な論証手段である。マーケティング手法を習得するための様々な社会科学調査の基礎的スキルを学ぶ。

【授業概要】ウェルネスのマーケティングにおける社会科学的研究方法の学習

【キーワード】研究法, 問題の構造化, 定量的・定性的分析

【履修上の注意】平成23年度は開講しない。

【到達目標】社会的な減少を客観的に把握し, 統計的な分析手法を用いて, 仮説を説得力ある形で提示する能力を身につけることを目指す。

【授業計画】1. ウェルネスのリアルを探る:研究の観点 2. 社会問題を形にしてみる:NIEによる問題構造化 3. ウェルネス調査の設計法:理論の利用 4. 事例の奥に潜む本質:記述データの取り方 5. 資料からの推理:ドキュメント解析法 6. ビデオデータから考える:観察調査/会話分析 7. 面接調査法 8. 体系的データを読む 9. 質問紙調査法 10. 質問紙調査法 11. 社会データの計量分析法 12. 社会データの計量分析法 13. 社会データの計量分析法 14. データ結果のまとめ方 15. データ結果のまとめ方 16. 総括

【成績評価】与えられた課題に対して, その完成度を評価する。評価の視点:テーマ選択の着眼点, 分析的的確さ, 考察の論理性。試験は実施しない。

【再試験】なし

【教科書】参考書:今田高俊「社会学研究法「リアリティの捉え方」」有斐閣アルマ

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219053>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 初回授業時間に指示する)
- ⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

ウェルネスリサーチ演習

2単位 3年(前期)

佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 行實 鉄平・講師/人間文化学科

【授業目的】統計データを用いた分析はウェルネスのマーケティング領域の重要な論証手段である。マーケティング手法を習得するための様々な社会科学調査の基礎的スキルを学ぶ。

【授業概要】ウェルネスのマーケティングにおける社会科学的研究方法の学習

【キーワード】研究法, 問題の構造化, 定量的・定性的分析

【履修上の注意】受講者は前提としてWindows操作の基礎的知識をすでに獲得していることが求められる。授業は講義と実習を組み合わせる。各回の内容に応じて課題を課す。なお, 利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合があります

【到達目標】社会的な減少を客観的に把握し, 統計的な分析手法を用いて, 仮説を説得力ある形で提示する能力を身につけることを目指す。

【授業計画】1. ウェルネスのリアルを探る:研究の観点 2. 社会問題を形にしてみる:NIEによる問題構造化 3. ウェルネス調査の設計法:理論の利用 4. 事例の奥に潜む本質:記述データの取り方 5. 資料からの推理:ドキュメント解析法 6. ビデオデータから考える:観察調査/会話分析 7. 面接調査法 8. 体系的データを読む 9. 質問紙調査法 10. 質問紙調査法 11. 社会データの計量分析法 12. 社会データの計量分析法 13. 社会データの計量分析法 14. データ結果のまとめ方 15. データ結果のまとめ方 16. 総括

【成績評価】与えられた課題に対して, その完成度を評価する。評価の視点:テーマ選択の着眼点, 分析的的確さ, 考察の論理性。試験は実施しない。

【再試験】なし

【教科書】参考書:今田高俊「社会学研究法「リアリティの捉え方」」有斐閣アルマ

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219955>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 初回授業時間に指示する)
- ⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

学校救急処置

2単位 3年(後期)

野村 昌弘・教授, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】運動指導時における傷病の救急処置法や運動傷害予防法を学ぶ

【授業概要】運動者の健康管理で必要とされる救急処置・応急処置と運動障害予防のための手法を習得させる。

【キーワード】障害予防, 傷害予防, 応急処置, 救急蘇生

【到達目標】

1. バイタルサインのチェックの習得
2. 救急処置法の習得

【授業計画】1. 傷病者の観察とバイタルサイン 2. 運動による内科的障害 3. 内科的障害の予防 4. 運動による上肢の傷害と予防 5. 運動による下肢の傷害と予防 6. 運動による脊柱の傷害と予防 7. 止血の理論と実際 8. 皮膚外傷の処置と対応 9. 救急処置総論 10. 救急蘇生の理論と実際 11. 対症処置各論:熱中症 12. 対症処置各論:薬物・アレルギー 13. 救急医薬品 14. 医療的ケア 15. 総括 16. 定期試験

【成績評価】講義の出席状況と試験

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】講義内に資料を提示する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219202>

【連絡先】

- ⇒ 野村 .
- ⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

生理心理学

2単位 2年(前期)

佐野 勝徳・教授, 原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】生理心理学は, 主に生理学的諸手法を用いて脳と行動の関係等を研究し, 人間の行動や, 心のはたらきを理解しようとする基礎心理学の一領域です。近年, その成果が広く応用, 心理学の分野に援用されるようになってきています。これらを視野に入れながら, 授業を進めます。授業は, 10回の講義と5回のグループ発表からなります。

【授業概要】脳と心の間接関係を学び, その臨床心理への応用可能性を探ります。

【キーワード】心の科学, 認知脳科学, 生物時計, 神経心理学

【先行科目】『学習心理学』(0.8, ⇒279頁)

【関連科目】『ストレス心理学』(0.7, ⇒281頁)

【履修上の注意】レポートの出来具合で授業の良し悪しが決まります。皆さんの主体的・積極的な参加を希望します。

【到達目標】

1. 次の3点を目標とします。
2. (1) 脳と心の関係について, その基礎知識を身につけること。
3. (2) 与えられたテーマについて, グループで調べ, グループでまとめてレポートを作成する力を身につけること。
4. (3) 調べた内容を一定時間内に分かりやすく発表する力を身につけること。

【授業計画】1. 生理心理学の概要 2. 生理心理学の研究法 3. 末梢神経系の構造と機能 4. 中枢神経系の構造と機能(1) 5. 中枢神経系の構造と機能(2) 6. 眠りと生活(1) 7. 眠りと生活(2) 8. 学習の生理心理 9. 記憶の生理心理 10. グループ発表(1) 11. グループ発表(2) 12. グループ発表(3) 13. グループ発表(4) 14. グループ発表(5) 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】レポート発表と期末試験によって評価します。

【再試験】原則としてしません。

【教科書】参考書等は必要に応じて紹介します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219386>

【連絡先】

- ⇒ 佐野 . (オフィスアワー: 水曜日2時30分から約1時間)
- ⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

知覚心理学

2単位 2年(後期)

濱田 治良・教授/人間文化学科

【授業目的】 私たちを取り巻いている物理的環境と私たちが見聞きした結果である主観的な知覚の世界の間には大きな違いがある。私たちは外界・環境をどのように知覚しているのだろうか?この講義では認識や行動の出発点である知覚の基礎について出来るだけ平易に論じ、未知なる人間、我々自身を理解するための科学的試みを紹介する。その為に、代表的な錯視現象を通して「人間が外界をいかに知覚し、認識しているのか」を論じ、科学の歴史をたどりながら錯視の成立機序とその意義を考察する。ところで、錯覚や錯視は私たちの目の不完全さを示しているのではなく、人間の知覚の機能の素晴らしさを示している。日常生活で経験する知覚現象を網膜の神経構造との関連で考察する。また、客観的な刺激と主観的な感性の間には一定の規則的な関係がある。心理学的実験及びその方法を説明し、理論的考察から導き出された幾つかの法則を時代を追いながら説明する。

- 【授業概要】** 人間は外界をどのように見ているか?
【関連科目】 『認知心理学』(0.5, ⇒279 頁)
【履修上の注意】 テストを実施する。また、知覚心理学の実験を行いレポート提出を求める。
【到達目標】 様々な視覚現象を通して物理的刺激と心理的反応の間に介在する機構を理解し、人間特有の知覚の仕方を理解する。
【授業計画】 1. マッハ・バンド 2. 側方抑制 3. 主観的輪郭線 4. 明るさの同時対比 5. 明るさの対比と同化 6. 明るさの恒常性 7. 幾何学的錯視 8. 幾何学的錯視における対比と同化 9. 眼球運動と静止網膜像 10. 感覚遮断 11. 明暗順応 12. 網膜の構造 13. 三原色説 14. 反対色説 15. 色覚の段階説
【成績評価】 中間試験、期末試験、レポート及び出席状況によって評価する。
【再試験】 行わない。
【教科書】 資料を配付する。
【参考書】 参考書として、大山 正著「視覚心理学への招待」サイエンス社、松田隆夫著「視知覚」培風館、金子隆芳著「色彩の心理学」岩波新書、メッツガー著・盛永四郎訳「視覚の法則」岩波書店を推薦する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219392>
【連絡先】
 ⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日, 12時~13時)

認知心理学

2 単位 3 年 (前期)
 濱田 治良・教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 外的環境に対する人間の優れた適応力を、私たちは日常生活のなかで疑問に思うことがないが、考え直してみると極めて不思議なことである。人間は外的環境の認知を物理的な刺激からだけではなく、記憶や知識体系との統合によって実現している。本講義では、心理学的な実験を通して明らかにされた研究成果を紹介しながら、できるだけ平易に人間の認知の機能について考察する。特に、外的環境に対する空間の認知、パターン認知、人間の記憶などを人間の情報処理の観点から概説し、人間を理解する試みを紹介する。
【授業概要】 パターン認知と人間の記憶
【先行科目】 『知覚心理学』(1.0, ⇒278 頁)
【履修上の注意】 講義は随時資料を配付しながら進める。
【到達目標】 人間が外的環境の認知を物理的な刺激からだけでなく、記憶や過去経験との統合によって実現していることを理解する。
【授業計画】 1. 空間の認知 2. 大きさの恒常性 3. 大きさ・距離不変仮説 4. パターン認知 5. 形の恒常性 6. 対称性の認知 7. 心的回転 8. 視覚的注意 9. 画像貯蔵庫 10. 音響貯蔵庫 11. 短期貯蔵庫からの忘却 12. 短期貯蔵庫の容量 13. 短期貯蔵庫からの情報検索 14. 長期貯蔵庫への情報の記入 15. 維持リハーサルと精緻化リハーサル
【成績評価】 中間試験、期末試験、レポート及び出席状況によって評価する。
【再試験】 行わない。
【教科書】 資料を配布する。
【参考書】 中溝・箱田・近藤訳「情報処理心理学入門 I-II-III」サイエンス社、大村彰道訳「人間の記憶-認知心理学入門」東大出版会、御領・菊地・江草共著「認知心理学への招待」サイエンス社
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219462>
【連絡先】
 ⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日, 12時~13時)

学習心理学

Psychology of learning

2 単位 3 年 (前期)
 境 泉洋・准教授/人間文化学科

【授業目的】 記憶、思考、言語、行動の学習の基礎について学ぶことを目的とする。そして、学習心理学の基礎的知識が臨床にどのように応用されているかを理解することを目的とする。

【授業概要】 記憶、思考、言語、行動の学習について講義を行う。そして、応用においては学習心理学を基盤に発展してきた認知行動療法を中心に取り上げ、学習心理学の臨床心理学への応用について講義をすすめていく。受講生に発表の機会を与え、プレゼンテーション、ディスカッションの実践も行う。

- 【キーワード】** 学習心理学, 臨床心理学, 認知行動療法
【関連科目】 『コミュニティ心理学』(0.5, ⇒279 頁)
【履修上の注意】 授業で配付した資料をホームページで公開するので、欠席した場合など適宜参照すること。
【到達目標】 学習心理学の基礎知識を身につけるとともに、その臨床応用の概要を理解する。
【授業計画】 1. 行動と認知の学習 2. 古典的条件付け 3. オペラント条件付け 4. 社会的学習 5. 技能学習 6. 記憶と忘却 7. 言語の学習 8. 思考の学習 9. 学習の条件 10. 臨床心理学と学習心理学 11. 不安と学習心理学 12. 抑うつと学習心理学 13. 怒りと学習心理学 14. 発達と学習心理学 15. 定期試験 16. まとめ
【成績評価】 出席、受講態度、発表、レポート、期末テスト等により総合的に評価する。
【再試験】 原則として再試験は実施しないが、受講生の事情に応じて追加レポート等により可否の判定を行うこともある。
【教科書】 教科書は使用しない。資料は授業中にプリントを配付する。参考図書などは適宜紹介する。
【参考書】
 ◇ 山内光哉・春木 豊 (編著) 2001 グラフィック学習心理学:行動と認知 サイエンス社 2550 円
 ◇ 多鹿秀継 (編著) 2008 学習心理学の最前線:学びのしくみを科学する あいり出版 1900 円
 ◇ 福井 至 (編著) 2008 図解による学習理論と認知行動療法 培風館 2800 円
【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219203>
【連絡先】
 ⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)
【備考】 毎年開講

社会心理学

2 単位 2 年 (後期)
 佐藤 健二・教授/人間文化学科

- 【授業目的】** 近年、社会心理学に対する期待は、著しく増大している。なぜなら、社会心理学は、人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて、近年生じている、さまざまな社会的行動に関する諸問題の解決に資する可能性も持っているからである。そこで、本講義では、人間の社会的行動に関する一般の知見とその近年の展開について概説することを目的とする。
【授業概要】 人間の社会行動の理解
【キーワード】 社会的行動, 自己, 対人行動, 集団行動, 集合行動
【履修上の注意】 OHP, パワーポイント, 紙資料, ビデオテープなどを使用する。私語厳禁。
【到達目標】 社会心理学における重要な研究結果、概念、方法論、近年の展開について理解すること
【授業計画】 1. イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 2. 社会的影響 (同調, 服従, 役割) 3. 攻撃, 暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? 4. 援助, なぜ多数の人が目撃しているながら殺人を傍観していたのか? 5. 集団行動 (リーダーシップ研究, 「プロジェクト X」視聴) 6. 集合行動 (流言, うわさ, 群衆行動) 7. 言語・非言語コミュニケーション (視線行動など) 8. 抑うつと社会心理学, 認知の歪み, 自己注目, 相互作用モデルとの関連 9. 自己呈示と対人不安 10. 対人魅力, 近接性と好意, 身体的魅力, 類似性と好意, 返報性 11. 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 12. 自己開示・対人関係の発展や健康への影響- 13. 社会的認知 (原因帰属など) 14. 自己意識, 自己評価研究とその臨床領域への応用 15. 試験 16. 総括
【成績評価】 三分の二以上の出席した者に対して、期末試験結果による評価を行う。
【再試験】 行わない
【教科書】 参考書・安藤清志他 社会心理学 岩波書店, 坂本真士・佐藤健二 はじめての臨床社会心理学 有斐閣
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219395>
【連絡先】
 ⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 木曜日 12時~13時, 3S05室, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

コミュニティ心理学

2 単位 2 年 (後期)
 境 泉洋・准教授/人間文化学科

【授業目的】 コミュニティで起こっている問題は、面接場面だけでは解決できないものである。コミュニティ心理学においては、クライアントがどのようなコミュニティで生活し、そのコミュニティに適應するためにどのような援助が必要なのかという視点が必要となる。本講義では、コミュニティ心理学の基礎とその応用について理解を深めることを目的とする。

【授業概要】 本講義では、予防、コンサルテーション、危機介入といったコミュニティ心理学の基礎を学ぶ。その上で、コミュニティ心理学の実際についての理解を深めていく。受講生にグループ発表してもらうことで、受講生に積極的な授業参加の機会を提供する。

【キーワード】 コミュニティ心理学、臨床心理学

【関連科目】 『学習心理学』(0.7, ⇒279頁), 『社会心理学』(0.4, ⇒279頁), 『心理学実験実習 I』(0.3, ⇒255頁)

【履修上の注意】 授業で配布した資料はホームページにて公開するので、授業を欠席した場合など適宜参照すること。

【到達目標】 予防教育、治療的介入、社会復帰支援という一連のプロセスについて理解し、柔軟な心理的援助を行うための知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】 1. ガイダンス:コミュニティ心理学的関与のプロセス 2. コミュニティ心理学とは何か? 3. コミュニティ心理学の背景理論 4. 予防 5. 危機介入 6. 臨床心理面接の初期 7. 臨床心理面接の中期 8. 臨床心理面接の後期 9. 社会復帰支援 10. 非専門家による支援 11. 訪問による支援 12. 非対面式による支援 13. ひきこもり:実態と心理学的理解 14. ひきこもり:コミュニティ心理学的介入 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 出席、受講態度、発表、レポート、期末試験により総合的に評価する。

【再試験】 原則として再試験は実施しないが、受講者の事情によっては追加レポート等により可否の判定を行うこともある。

【教科書】 教科書は使用しない。資料は授業中にプリントを配付する。参考図書などは適宜紹介する。

【参考書】 植村勝彦(編) 2007 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版 2400円

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218664>

【連絡先】

⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

【備考】 毎年開講

人格心理学

2 単位 3 年 (後期)
原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】 人格はその人を表すことばである。その人の個性とも云えることから多くの人に共通する特性まであります。人格がどのように形成され、どのように理解しているのかを諸理論、測定方法などを紹介します。

【授業概要】 人格の概念、測定の方法、さまざまな理論、人格に関わる要因、逸脱や人格に関わる誤解などについて講義をする。

【キーワード】 人格、気質、測定

【先行科目】 『臨床心理学』(1.0, ⇒280頁)

【関連科目】 『臨床心理学』(1.0, ⇒280頁)

【到達目標】 人格と関連する心理学的な事実についての理解。

【授業計画】 1. 1. 人格とは 2. 2. 人格理解の歴史 類型論 3. 3. 特性論 4. 4. 人格の測定・1 5. 5. 人格の測定・2 6. 6. 人格の測定・3 7. 7. 人格の説明理論 1 8. 8. 人格の説明理論 2 9. 9. 人格の説明理論 3 10. 10. 人格の要因 11. 11. 人格の形成 1 12. 12. 人格の形成 2 13. 13. 人格に関わる障害 1 14. 14. 人格に関わる障害 2 15. 15. まとめ

【成績評価】 2/3 以上の出席を必要条件として、受講態度 30% レポート 70%

【教科書】 講義中に紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219096>

【連絡先】

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 自分と他者を理解するための一助になればと思います。

青年期発達論

2 単位 3 年 (後期)
山本 真由美・教授/人間文化学科

【授業目的】 青年期は不思議な時代です。また、青年期は時代を映す鏡とも言われます。それはなぜでしょうか。青年期の諸事情と社会との関連について考えることを目的とします。

【授業概要】 青年期の心理について学びながら自らの問題として捉え、考えていきたいと思います。

【キーワード】 生涯発達、家族、地域社会

【先行科目】 『生涯発達心理学』(1.0, ⇒252頁)

【関連科目】 『青少年問題研究 II』(0.5), 『ジェンダー研究』(0.5)

【履修上の注意】 自らの問題として主体的に学ぶ姿勢を期待します。2 週に 1 回テーマを出します。受講生はグループを作り、そのテーマについて話し合ったり、ロールプレイを実施したりします。

【到達目標】

1. 青年期心理学の理論を理解し、説明できる。
2. 青年期の特徴を説明できる。
3. 青年期の特徴を理解し、対応法を考える。

【授業計画】 1. ガイダンス 2. 1. 青年期とは 3. 2. 青年期を理解するための理論 (1) 生理学的視点 4. 青年期を理解するための理論 (2) 精神分析的・心理社会的視点 5. 青年期を理解するための理論 (3) 認知的・社会認知的視点 6. 青年期を理解するための理論 (4) 社会文化的視点 7. 3. 青年期の思考特徴 自己中心性 8. 4. 青年期の恋愛と結婚 9. 話し合いとロールプレイ 10. 5. 青年期の職業観「と就職活動 11. 話し合いとロールプレイ 12. 6. 青年期の病理 13. 話し合いとロールプレイ 14. 全体討論 15. 試験 16. 総括

【成績評価】 ミニツペーパー(30%), レポート(50%), 討論への参加状況(20%)を勘案し、総合的に判断する。

【再試験】 なし

【教科書】 使用しない。担当者がその都度配布もしくは紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219482>

【連絡先】

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日昼休み)

人間形成論

2 単位 3 年 (後期)
木内 陽一・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】 人間形成の様態を、哲学的、思想史的立場から考究する。

【授業概要】 人間形成論の立場から見た西田幾多郎の哲学

【キーワード】 西田幾多郎、京都学派の哲学、教育哲学、教育思想史

【履修上の注意】 近代日本哲学の代表者のひとり、西田幾多郎(1870-1945)の著作を読んで、近代日本の哲学思想、人間形成論の一端に触れてみましょう。哲学や思想史の知識がなくても、興味があれば受講して下さい。

【到達目標】 「人間形成」論の成立した、歴史的・社会的状況がわかる/近代の人間観の概要がわかる/初期の西田哲学の概要がわかる

【授業計画】 1. はじめに一なぜ「人間形成」は「問題」になるのか? 2. 近代の人間観—イマヌエル・カントの事例 3. 近代人間形成論の展開 (1)—中世から近代へ 4. 近代人間形成論の展開 (2)—19 世紀から現代へ 5. 外国人が見た近代日本の文化と教育—ラフカディオ・ハーンの事例 (1) 6. 外国人が見た近代日本の文化と教育—ラフカディオ・ハーンの事例 (2) 7. 人間形成論としての西田哲学—西田幾多郎の人と思想 8. 「実在」とは何か (1) 9. 「実在」とは何か (2) 10. 「純粹経験」を考える (1) 11. 「純粹経験」を考える (2) 12. 「善」とは何か (1) 13. 「善」とは何か (2) 14. 西田の宗教観 (1) 15. 西田の宗教観 (2) 16. まとめ—人間形成論としての西田哲学

【成績評価】 レポートの提出を求める。

【再試験】 口述試験をおこなう。

【教科書】 西田幾多郎(全注訳:小坂国継)『善の研究』(講談社学術文庫)(本書には岩波文庫版もあるが、全注訳がついた講談社学術文庫版を購入して下さい。)

【参考書】 参考文献は、授業中に紹介する。また、必要な資料はプリントを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219097>

【連絡先】

⇒ 木内 (kiuchi@naruto-u.ac.jp)

臨床心理学

2 単位 2 年 (後期)
内海 千種・講師/人間文化学科

【授業目的】 近年、心理学に関連した資格を持つ専門家の役割が認識され、社会的にも関心を寄せられるようになっていきます。しかし、一般にいわれている「こころ」についての考えは、必ずしも心理学でいわれている知見と一致するわけではありません。本授業では、学問としての臨床心理学の視点から、「こころ」に対するアプローチの紹介を目的とします。

【授業概要】 臨床心理学の歴史を概観した後、心理学的な支援を行う際に必要となる、アセスメント、理論、技法などについて講義します。また、心理臨床家が支援をおこなっている領域について概観します。

【キーワード】 臨床心理学、アセスメント、心理療法

【関連科目】 『行動障害論』(1.0, ⇒281頁), 『精神医学』(1.0, ⇒282頁)

【到達目標】 臨床心理学における基本的な理論や技法を理解し、心理臨床家が支援する様々な領域について認識することを目標とします。

【授業計画】1. はじめに 2. 臨床心理学とは 3. 臨床心理学の資格と仕事 4. 臨床心理学の対象①発達に関して 5. 臨床心理学の対象②適応に関して 6. アセスメントの方法①面接と検査 7. アセスメントの方法②行動・発達 8. アセスメントの方法③その他 9. おもな理論と技法①精神分析・分析心理学 10. おもな理論と技法②クライエント中心療法 11. おもな理論と技法③芸術・表現療法 12. おもな理論と技法④その他 13. 危機介入とコンサルテーション 14. 臨床アプローチ 15. 学期末試験 16. 総括

【成績評価】2/3 以上の出席者にのみ学期末試験を実施します。評価は、授業への取り組み状況、学期末試験の成績から総合的にを行います。

【再試験】無

【教科書】教科書は使用しません。参考図書を紹介しながら、適宜資料を配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219444>

【連絡先】

⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】何らかの心の問題を抱えている人を支援するには、心理学はもちろんのこと、幅広い知見と柔軟な思考が必要です。他の関連科目もしっかりと学習してください。WEB ページ → コンテンツサーバ (EDB/CMS)

行動障害論

2 単位 3 年 (前期)
内海 千種・講師/人間文化学科

【授業目的】行動障害には様々な環境への不適応が含まれますが、本授業では、事件・事故・災害など、生命の危機を感じるような出来事に遭遇した後の心理的な後遺症について講義します。みずからも考えることにより、危機的な状況に直面した後に起こりうる、心理的な変化と行動への影響および対応を学ぶことを目的とします。

【授業概要】心身に影響を及ぼす出来事と、それによって障害される行動や心理的变化について講義します。また、映像や話し合いを通して、危機時の対応について考えていきます。

【キーワード】心的外傷、グリーフ、二次被害、二次受傷

【先行科目】『臨床心理学』(1.0, ⇒280 頁), 『精神医学』(1.0, ⇒282 頁), 『ストレス心理学』(1.0, ⇒281 頁)

【到達目標】「異常な事態における、正常な反応」について理解を深めるとともに、実践的な知識を身につけることを目標とします。

【授業計画】1. はじめに 2. 行動障害とは 3. 心身に影響をおこす事柄①概要 4. 心身に影響をおこす事柄②ビデオ視聴 5. 事件・事故・災害などのあとに起こる反応と対応①急性ストレス障害 6. 事件・事故・災害などのあとに起こる反応と対応②外傷後ストレス障害 7. 事件・事故・災害などのあとに起こる反応と対応③子どもの症状 8. 事件・事故・災害などのあとに起こる反応と対応④その他 9. 危機時の初期対応①サイコソカル・ファーストエイド 10. 危機時の初期対応②危機対応チーム 11. 外傷後ストレス障害への心理療法 12. 事件・事故に遭った人を取り巻く状況 13. 支援者の精神健康①惨事ストレス 14. 支援者の精神健康②二次受傷 15. まとめ

【成績評価】2/3 以上の出席者にのみ学期末試験を実施します。評価は、授業への取り組み状況、学期末試験の成績から総合的にを行います。

【再試験】無

【教科書】教科書は使用しません。参考図書を紹介しながら、適宜資料を配布します。

【参考書】参考文献・参考資料は授業中に適宜紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219452>

【連絡先】

⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】全くの他人事としてではなく、自分にも起こる可能性があることとして、主体的に授業に参加してください。WEB ページ → コンテンツサーバ (EDB/CMS)

福祉心理学

2 単位 2 年 (後期, 集中)

【授業目的】この授業では、主に乳幼児・学童、障害者および高齢者の福祉に関連する心理学的知見等について学び合います。授業は、チュートリアル形式です。与えられた課題または自ら選んだ課題について、グループごとに資料の収集・分析、レポート作成、発表を行ってもらいます。

【授業概要】福祉に必要な心理学的知識を学ぶ

【到達目標】福祉活動に従事する際に、求められる心理学的基礎知識を獲得する。

【授業計画】1. 人々の暮らしと福祉について (講義) 2. 福祉の担い手 (福祉の心) について (講義) 3. グループ (1 グループ 6 人程度) に分けて発表するテーマを、グループ討議で決める。 4. グループ単位でレポート作成 5. グループ単位でレポート作成 6. グループ単位でレポート作成 7. プレゼンテーションと質疑応答 (1) 8. プレゼンテーションと質疑応答 (2) 9. プレゼンテーションと質疑応答 (3)

10. プレゼンテーションと質疑応答 (4) 11. プレゼンテーションと質疑応答 (5) 12. プレゼンテーションと質疑応答 (6) 13. プレゼンテーションと質疑応答 (7) 14. プレゼンテーションと質疑応答 (8) 15. 総括討論

【成績評価】小テストと期末試験によって評価します。

【再試験】原則としてしません。

【教科書】プリントを配布します。参考書等は必要に応じて紹介します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219402>

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日: 16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

【備考】平成 22 年度以降開講せず

ストレス心理学

2 単位 3 年 (前期)
佐藤 健二・助教授/人間文化学科

【授業目的】ストレスが人間に及ぼす影響、ストレスへの対処法について、心理学的観点から学習することを目的とする。ストレスが人間に及ぼす影響として、不安、抑うつ、怒りなど日常的にも経験しうる感情、PTSD(外傷後ストレス障害)などの精神疾患、過敏性腸症候群などの心身症までを検討の対象とする。ストレスへの対処法としては、行動療法、認知療法、認知行動療法、他、効果が実証されているさまざまなアプローチについて概説する。

【授業概要】ストレスに関する心理学的な理解と制御

【キーワード】ストレス、ストレス・マネジメント、健康、行動療法、認知療法

【履修上の注意】パワーポイント、紙資料、ビデオテープなどを使用する。私語厳禁、他の受講者の迷惑になるので。

【到達目標】不安、抑うつ、怒りから精神疾患、心身症まで、ストレスが人間に及ぼす影響とそれらへの対処方法を理解することを到達目標とする。

【授業計画】1. 1. ストレス研究における概念・用語の説明 (PTSD ビデオ視聴法) 2. 2. 生理学的反応としてのストレス 3. 3. 心理学的ストレスモデルとストレスマネジメント (リラクゼーション法など) 4. 4. 行動療法 (1):レスポンド条件付けに基づく恐怖症治療他 5. 5. 行動療法 (2):オペラント条件付けに基づく発達障害治療他 (ADHD など) 6. 6. 行動療法 (3):エクスポージャー&反応妨害法に基づく強迫性障害治療 7. 7. 社会的学習理論とソーシャルスキル訓練 8. 8. 認知療法 (1):理論編 9. 9. 認知療法 (2):実践編 (抑うつ他) 10. 10. 認知行動療法概論 (ストレス免疫訓練等) 11. 11. 広場恐怖を伴うパニック障害への認知行動療法 12. 12. PTSD への認知行動療法 13. 13. 社会不安・対人恐怖への認知行動療法 14. 14. 心身症 (摂食障害等) への認知行動療法 15. 15. 非行・犯罪と認知行動療法、レポート課題提示 16. 総括

【成績評価】出席状況、レポート提出

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない予定である。参考書などは、適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219062>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12-13 時)

行動統計学 II

2 単位 2 年 (後期, 集中)
川野 卓二・教授/大学開放実践センター、原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】授業では、まず、収集したデータの 2 変数間の関連の強さに関する相関係数と、1 個の説明変数と 1 個の目的変数間の単回帰分析について復習する。その後、多変量解析法 (重回帰分析、多要因分散分析、因子分析、共分散構造分析等) の原理と特徴、解析手順を修得するために例題を用いて授業を進める。あわせて、研究デザインやデータの種類の別適切な統計分析法を決定するために考慮しなければならぬ事柄についても触れる。

【授業概要】収集されたデータの様々な種類や目的にあったデータ分析の手法を学ぶ。

【キーワード】分散分析、ノンパラメトリック法、重回帰分析、因子分析

【先行科目】『行動統計学 I』(1.0, ⇒253 頁)

【履修上の注意】卒業研究で何らかの数量的なデータの収集・分析を予定している者が受講することが望ましい。4 年生の受講も認める。授業には 8 桁以上、√ 演算機能付きの電卓を持参すること。

【到達目標】収集したデータの測定のレベルや型に適し、且つ、分析の目的にあった統計手法が選択でき、正確な計算により得られた結果が正しく解釈できる。

【授業計画】1. 1. 相関係数と回帰係数 2. 2. 重回帰分析の利用 3. 3. 多要因分散分析の応用 4. 4. ノンパラメトリック法の基礎 5.

5. 因子分析と共分散構造分析の基礎 6. 測定のレベルとデータの型 7. 多変量解析の種類と利用

【成績評価】 評価の配分は、課題 30%, まとめのノート 30%, 期末試験 40%で行なう。期末試験には、自著ノート (A4 紙 1 枚) のみ持ち込みを認める。

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 教科書 山上 暁, 倉智 佐一 編著「新版 要説 心理統計法」北大路書房
- ◇ 参考書 南風原朝和 著「心理統計学の基礎」有斐閣
- ◇ 参考書 石村貞夫 著「すぐわかる多変量解析」東京図書
- ◇ 参考書 内田治 著「すぐわかる Excel による多変量解析」東京図書
- ◇ 参考書 森敏昭, 吉田寿夫 著「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房
- ◇ 参考書 岩原信九郎 著「新訂版 教育と心理のための推計学」日本文化科学社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219451>

【連絡先】

- ⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月・火曜日 午後12時10分から12時40分まで(and/or by appointment), メールによる質問も受け付ける kawano@cue.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

精神医学

2 単位 2 年 (前期)

大森 哲郎・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

住谷 さつき・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

伊賀 淳一・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 中瀧 理仁・助教/病院

沼田 周助・助教/病院, 中土井 芳弘・助教/病院, 富永 武男・助教/病院

亀岡 尚美・

【授業目的】 精神医学に関する正しい理解と認識が、今ほど求められている時代はないと思われる。単に医療の世界だけにとどまらず臨床心理、福祉、教育、法律などの分野においても精神医学の知識と応用が大切になってくると思われる。臨床医学の経験をもとに、なるべく平易に、かつ能率的に、こうした精神医学に対するニーズを満たせるように講義したい。ICD-10(WHO による国際疾病分類)のとりとち各疾病について概説しながら、精神医学の基礎知識、メンタルヘルス、精神医療の歴史、精神保健福祉法などについても触れていきたい。

【授業概要】 精神医学の基礎と臨床を分かりやすく学ぶ

【関連科目】 『臨床心理学』(0.5, ⇒280 頁), 『ストレス心理学』(0.5, ⇒281 頁)

【履修上の注意】 皆さんの積極的な質問等を歓迎します。

【到達目標】 精神医学の現代における知見と医療全般の理解を深め、障害者への正しい認識と豊かな人間性を養う一助としたい。

【授業計画】 1. 精神医学総論 2. 精神科症候学 3. 精神科診断学 4. 気分障害 (山内) 5. 統合失調症 6. パニック障害・全般性不安障害・社会不安障害 7. 身体表現性障害・解離性障害・PTSD 8. 強迫性障害・適応障害 9. 摂食障害 10. 児童思春期精神医学 11. 人格障害 12. 認知症 13. てんかん 14. 睡眠障害・アルコール依存・薬物依存 15. 器質性・症状性精神障害 16. 総括

【成績評価】 期末試験による。

【再試験】 行わない。

【教科書】 日本評論社、新版「精神医学ハンドブック」、山下格著をテキストにして、適宜プリントを追加して教材とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218741>

【連絡先】

- ⇒ 大森 (臨床研究棟 8F 教授室, 088-633-7130, tohkori@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 設けない、)
- ⇒ 住谷 (satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 伊賀 (088-633-7130, igajunichi@hotmail.com)
- ⇒ 中瀧
- ⇒ 沼田
- ⇒ 中土井
- ⇒ 富永
- ⇒ 亀岡
- ⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育相談

2 単位 3 年 (後期)

福森 崇貴・准教授/人間文化学科

【授業目的】 学校現場では日々、様々な問題が起こっている。このような背景のもと、生徒たちの「その子らしさ」と一体どのように付き合っていけばよいのだろうか。そのような問いについて教育相談という立場から考えると共に、現場の実際や問題への対応について理解することを目的とする。

【授業概要】 教育相談に関する基礎理論及び学校現場の実際について

【到達目標】 教育相談の意義と必要性について考え、その上で、一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につけることを目標とする。

【授業計画】 1. ガイダンス —教育相談とは何か— 2. カウンセリングの基本的理論 3. 傾聴の実際 その1 4. 傾聴の実際 その2 5. 話の促し その1 6. 話の促し その2 7. 沈黙への対応 8. カウンセリング場面の実践 9. 生徒理解に向けて 10. 問題行動とその対応 その1:不登校 11. 問題行動とその対応 その2:いじめ 12. 問題行動とその対応 その3:その他の問題 13. 保護者との関わり 14. まとめ 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】 期末試験、授業への取り組みなどを元に総合的に評価する。

【再試験】 無

【教科書】 特に指定せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】 なし。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218539>

【連絡先】

⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 授業中は、受講者に対し頻繁に意見を求めていく予定である。是非主体的に授業に参加して欲しい。

社会福祉研究

2 単位 3 年 (後期)

梶田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 社会学の立場から社会福祉学を講じる。現代社会は福祉社会である。20 世紀において社会福祉は、ケインズ主義の下、経済発展の動因であった。21 世紀では、社会福祉は、人間のデータベース的管理の基盤となろうとしている。テキストを用いながら、社会福祉の現代社会的基盤を論じよう。

【授業概要】 社会学の立場から考える社会福祉の研究

【キーワード】 福祉社会学, 社会政策, 援助, 共生, セルフヘルプグループ, インタビュー論, 社会福祉と現代社会

【履修上の注意】 教科書は生協に取り寄せてあるので (定価 1700 円), そこから購入すること。また, 参考書の一部は高価だが読みがいがあ。古本でよいから買ってよむとよい。出欠確認は毎回行う。とりわけ, 初回のオリエンテーションは重要なので, 欠席しないようにせよ。欠席者には理由を問う。なお, 全学共通教育では「ボランティア論 (木曜 5-6 限前期)」が, 関連科目である。なお, 受講者人数にもよるが, 複数回的小論文執筆が課せられることを覚悟してほしい。大学での学習成果は, 書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ。また, ダイソーでの買い物などの宿題も課せられる。日本のグローバルゼーションの状況をもつて看取してもらう必要があるからだ。

【到達目標】 現代社会を学ぶことと, 社会福祉を学ぶことがどのようにつながっているのか講義する

【授業計画】 1. 0. 梶田によるイントロダクション:現代社会論として福祉を考える。セルフヘルプグループ論。 2. 1. 社会福祉とは 3. 2. ウェルビーイングタウン社会福祉って何だろう 4. 3. 福祉のしくみ 5. 4. レポートを書いてみよう (消費社会化をテーマとして) 6. まとめ

【成績評価】 出席+テストおよびレポート

【再試験】 おこなわない

【教科書】

- ◇ 岩田正美ほか著 1999 『ウェルビーイングタウン社会福祉入門』有斐閣 (教科書)
- ◇ 参考書 『福祉社会事典』弘文堂。
- ◇ 齋藤純一編 『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房。三重野卓・平岡公一編 『福祉政策の理論と実践:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- ◇ 石川 准・倉本智明編著 『障害学の本質』明石書店 2002
- ◇ メイナード著 梶田・岡田訳 『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房 2004
- ◇ コリン・バーズ他 (杉野昭博他訳) 『ディスアビリティスタディーズ:イギリス障害学概論』明石書店

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219398>

【連絡先】

⇒ 梶田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐: 1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日14:00-15:00SVBL棟3階プロジェクト研究室(面談申込書あり, 梶田研ドアに掲出).)

【備考】 平成 22 年度は後期の金曜日 3・4 限に開講される。

ボランティア組織論

Voluntary Association Studies

2 単位 2 年 (前期)

萩原 なつ子・非常勤講師

梶田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 民主主義という制度のもとで, 市民は二通りの手法で自分の意見および「声」を出すことができる。一つ目は主に選挙で行う代表制民主主義である。もうひとつは NPO など集团的レベルで社会運動

の形をとる直接民主主義である。この講義では、最近の反貧困運動を含む、日本の社会運動の歴史と影響を理解するため、多様な理論等を紹介し、国際比較を行う。

【授業概要】日本における社会運動と社会変動:理論と国際比較

【キーワード】社会運動, 社会変動, 貧困, 不平等, グローバルな危機

【先行科目】『ボランティア組織論Ⅱ』(1.0)

【関連科目】『環境社会学研究』(0.5, ⇒208頁)

【履修上の注意】この講義では、政治社会学の立場から社会運動を理解するために、社会運動のルーツと社会的影響を客観的に分析・説明する。「道徳的」に社会運動を評価したり、党派的なアプローチするものではない。

【到達目標】社会運動に関する理解を高め、客観的な視点で理解すること。我々が民主主義の市民の一人として、社会変動に影響を与える存在であることを理解する。

【授業計画】1. 1 イントロダクション 2. (1) ヨーロッパの社会運動論 3. (2) アメリカの社会運動論 4. 2-国境を超える社会運動:グローバル市民社会 5. (1) 海外の社会運動:フランスにおける失業者、ホームレスなど排除された者の社会運動 6. (2) トランスナショナルな社会運動:ヨーロッパの失業者運動, ヨーロッパ社会フォーラム(ビデオ付) 7. (3) 国際レベルの運動:日本のNPOの事例 8. (4) フランスと日本(二重国)の運動 9. 3-戦後日本の社会運動を考える(終戦から2010年まで) 10. (1) 住民運動の減少 11. (2) 反貧困運動の成長 12. (3) グループ・ワーク:テーマを選んで、そのテーマを社会問題化して、運動戦略、目的を考える 13. (4) グループ・ワーク 14. (5) グループ・ワーク 15. (6) 発表 16. (7) グループ・ディスカッション

【成績評価】出席, グループ・ワーク発表, 最終小レポート。

【再試験】行わない

【教科書】教科書は特になし。毎回の授業でレジュメを配布し、関連する文献を示す。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219076>

【連絡先】

⇒ 萩原 .

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐:1 号館南棟 1 階 1S19 はとときぎ, 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14:00 から 15:00)

マーケティング論

2 単位 3 年 (後期)
多田 正仁・准教授/社会創生学科

【授業目的】ビジネスゲームを通してマーケティング戦略を学ぶ。

【履修上の注意】成績の評価は授業への参加度による。毎週、電卓を持参すること。

【授業計画】1. 以下のような諸問題を取り上げる予定である。 2. (1) 価格戦略 3. (2) 価格-生産戦略 4. (3) 価格-生産?マーケティング戦略 5. (4) データの解析

【成績評価】授業への参加と関与度

【再試験】行わない

【教科書】市川 貢他「電卓でできるビジネスゲーム」(中央経済社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219078>

【連絡先】

⇒ 多田 (2204, 088-656-7170, RXN10515@nifty.com) (オフィスアワー: (前期) 水曜日 15時~17時)

経営戦略論

2 単位 3 年 (後期, 集中)
高橋 意智郎, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】経営戦略の定義は様々ですが、この授業では「企業の将来像とそれを達成するための道筋」として考えていきます。経営戦略論は、経営学の中でも主要なトピックの1つで、経営組織論、マーケティング論、人材マネジメント論、イノベーション論など様々な隣接領域と関連します。この授業は、戦略に関する理論を学び、理論を用いて企業を分析する力を養成することを目的とします。

【授業概要】経営戦略論の基本的な考え方を身につけることを目的としています。

【キーワード】戦略, 組織, (持続的) 競争優位

【関連科目】『経営組織論』(0.3, ⇒209頁)

【履修上の注意】経営戦略という言葉は、普段の生活の中ではあまりピンとこないかもしれませんが、実は身近な出来事に当てはめることができます。机上の空論として扱うのではなく、生きた学問として身につけることを意識して下さい。授業中に意見を求める可能性があります。分かる範囲で回答してみてください。

【到達目標】経営戦略の理論を用いて新聞記事や雑誌記事で書かれている事柄を理解・分析できるようになること。

【授業計画】1. イントロダクション, 経営戦略とは何か 2. 経営戦略を見る4つの枠組み 3. 規模の経済・経験曲線とポジショニングア

プローチ (1) 4. ポジショニングアプローチ (2) 5. 一般戦略 (Porter の競争戦略) 6. 資源アプローチ 7. ロジカル・シンキング 8. 中間試験 (試験にすることをレポートにするかは未定) 9. 市場細分化 10. 市場地位別戦略 11. 学習アプローチ 12. プロダクト・ライフ・サイクル 13. PPM とゲームアプローチ 14. 多角化の理論 15. 期末試験 16. まとめ

【成績評価】期末試験 50%, 中間レポート 30%, 出席を兼ねた小レポート 20%

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219417>

【連絡先】

⇒ 高橋 .

⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】進捗状況によって内容がずれる可能性があります。

自然システム学科 共通科目 授業概要

● 学科共通科目

数理科学の基礎 I ... 大淵/1年(前期).....	284
数理科学の基礎 II ... 大沼/1年(後期).....	284
物質科学の基礎 I ... 日置/1年(前期).....	284
物質科学の基礎 II ... 小山・伏見/1年(後期).....	285
物質科学の基礎 III ... 三好/1年(後期).....	285
現代化学の世界 ... 今井/1年(後期).....	285
生命システムの基礎 I ... 横井川・佐藤/1年(前期).....	285
生命システムの基礎 II ... 佐藤/1年(後期).....	285
地球科学の基礎 ... 石田・村田・西山/1年(後期).....	286
プログラミング基礎演習 I ... 前田・運沼/1年(前期).....	286
物質科学基礎実験 I ... 小山・中山・齊藤・伏見・真岸/2年(前期)...	286
物質科学基礎実験 III ... 今井・増田・三好・山本・山本・中村/2年(前期)	287
物質科学基礎実験 V ... 石田・村田・西山/2年(前期).....	287
生命科学基礎実験 ... 中川・小山・大橋・佐藤・真壁・松尾・佐藤・山城・渡部・金丸・横井川・浜野/1年(前期).....	287
社会学 ... 梶田/2年(後期, 集中).....	288

数理科学の基礎 I

2 単位 1 年 (前期)
大淵 朗・教授/総合数学科

【授業目的】 微分積分学は数学のみならず他の広い分野で用いられている。今では自然科学の事象を表す一つの言語であり基礎的なものです。本講義では高校の時に学習するであろう関数の連続や微分及び積分という概念を改めてその定義に立ち返り学習し、高校の時には扱わないような関数も含めてそれら計算が出来るようになることを目的とします。また、様々な解析学に関する言葉の定義を具体的な例を通して理解しその知識を取得することも目的の一つです。

【授業概要】 微分積分学

【キーワード】 一変数関数の微分積分学

【関連科目】 『数理科学の基礎 II』(0.5, ⇒284 頁)

【履修上の注意】 計算力を付けるためには問題演習は欠かせませんがそのための時間を講義内で多く取ることは困難です。各自で問や演習問題を解くことをお願いします。疑問があったら気軽に聞いて欲しい。高校数学の内容でも構いません。高校で数学 III を履修していない学生は全学共通教育での「高大接続科目・数学」を受講する事をお勧めします。この講義の内容理解の助けになると思います。

【到達目標】

1. 微分積分学に関する定義が理解出来る。
2. 微分積分の計算が出来る。
3. 微分積分法を応用した問題を解くことが出来る。
4. 論理的に理解出来る答案を作成出来る。

【授業計画】 1. 数列の極限(その 1)(定義と性質) 2. 数列の極限(その 2)(計算) 3. 1 変数関数の極限 4. 連続関数 5. 中間値の定理と逆関数 6. 1 変数関数の微分 7. 逆関数の微分 8. 平均値の定理 9. 不定形の極限 10. テイラーの定理 11. 1 変数関数の積分(原始関数と不定積分) 12. 部分積分と置換積分 13. 有理関数などの不定積分 14. 定積分(その 1)(定義と性質) 15. 定積分(その 2)(計算)

【成績評価】 受講姿勢及びレポートによる平常点と期末試験による得点で評価します。

【再試験】 有

【教科書】 戸田 暢茂 著 「基礎微分積分学」 学術図書出版社

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219265>

【連絡先】

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィス
アワー: 火曜日 12:00-13:00(随時受け付けます))

数理科学の基礎 II

2 単位 1 年 (後期)
大沼 正樹・准教授/総合数学科

【授業目的】 微分積分学は数学のみならず他の広い分野で用いられている。今では自然科学の事象を表す一つの言語であり基礎的なものです。本講義では高校の時に学習するであろう関数の連続や微分及び積分という概念を改めてその定義に立ち返り学習し、高校の時には扱わないような関数も含めてそれら計算が出来るようになることを目的とします。また、様々な解析学に関する言葉の定義を具体的な例を通して理解しその知識を取得することも目的の一つです。

【授業概要】 微分積分学

【キーワード】 多変数関数の微分積分学

【先行科目】 『数理科学の基礎 I』(1.0, ⇒284 頁)

【履修上の注意】 計算力を付けるためには問題演習は欠かせませんがそのための時間を講義内で多く取ることは困難です。各自で問や演習問題を解くことをお願いします。疑問があったら気軽に聞いて欲しい。前期に開講される「数理科学の基礎 I」を受講している事が望ましい。

【到達目標】

1. 微分積分学に関する定義が理解出来る。
2. 微分積分の計算が出来る。
3. 微分積分法を応用した問題を解くことが出来る。
4. 論理的に理解出来る答案を作成出来る。

【授業計画】 1. 1 変数関数の広義積分(その 1)(定義とその性質) 2. 1 変数関数の広義積分(その 2)(計算) 3. 2 変数関数の極限 4. 2 変数関数の微分(偏微分) 5. 全微分 6. 合成関数の微分と偏微分 7. テイラーの定理 8. 陰関数定理 9. 極値問題 10. 2 変数関数の積分(重積分) 11. 累次積分と重積分の計算 12. 重積分における変数変換 13. 広義積分 14. 多重積分 15. 重積分の応用

【成績評価】 受講姿勢及びレポートによる平常点と期末試験による得点で評価します。

【再試験】 有

【教科書】 戸田 暢茂 著 「基礎微分積分学」 学術図書出版社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219266>

【連絡先】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィス
アワー: (後期)水曜日 12時から12時50分)

物質科学の基礎 I

2 単位 1 年 (前期)
日置 善郎・教授/総合数学科

【授業目的】 自然科学の基礎としての物理学の理解

【授業概要】 物理学は現代の科学技術を支える大きな柱であり、将来どのような分野に進もうと理系学生の基礎として極めて重要な科目である。本講義では、この物理学の中で巨視的な現象を扱う古典物理学(力学・電磁気学・熱統計力学)から現代物理学の中核をなす量子論・相対論の基本的な構成までを概観する。そこには通常の常識では全く理解できないような現象も登場するが、それが正に現代の科学技術の基礎となった諸法則に結び付いている。それらを丁寧に、数式の取り扱いだけでなく基礎概念の理解にも力点を置いて解説していく。

【キーワード】 古典力学, 古典電磁気学, 量子力学, 相対性理論

【関連科目】 『数理科学の基礎 I』(0.5), 『化学の基礎』(0.5)

【履修上の注意】 教科書による講義のほか、例題などを提示し、また各自が演習問題等を行って理解を深める。但し、丁寧に解説するとは言っても、何も考えずにフラッと教室にやってきて、講義終了後も何もしないということであれば、どのような大学の科目も理解出来るはずがない。講義中に疑問があれば質問したり、予習・復習するなどの積極的な学習態度が望まれる。

【到達目標】 自然科学の諸法則を定量的に記述するために必要となる数学の基本事項を身につけ、それが具体的に力学において応用できるようになること。

【授業計画】 1. 物理学の目的・現代物理学概観 2. 古典物理学の世界 (1) 素朴な自然観 3. 古典物理学の世界 (2) 古典力学概説 4. 古典物理学の世界 (3) 電磁気学概説 5. 古典物理学の世界 (4) 熱統計力学概説 6. 古典物理学は万能か?(1) 原子世界と古典物理 7. 古典物理学は万能か?(2) 古典物理の破綻 8. 古典物理学は万能か?(3) 量子力学と現代物理学 9. 量子物理学の世界 (1) 量子の概念 10. 量子物理学の世界 (2) ボーアの原子模型 11. 量子物理学の世界 (3) 粒子の波動性 12. 量子物理学の世界 (4) 量子力学の完成 13. 量子物理学の世界 (5) 原子核・素粒子 14. 相対性理論の世界 (1) 研究の歴史 15. 相対性理論の世界 (2) 特殊相対性理論 16. 期末試験

【成績評価】 数回行う小テスト・学期末試験・受講態度を総合して判定する。

【再試験】 有(筆記試験またはレポート)

【教科書】 教科書は市販のものではなく、自製テキストを使用する。加えて、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】 関連する参考書については、講義中に適宜紹介する予定。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219487>

【連絡先】

⇒ 日置 (総合科学部 3号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)火曜日11時50分~13時 (これ以外の時間でも訪問可))

物質科学の基礎 II

2 単位 1 年 (後期)

小山 晋之・教授/総合理数学科, 伏見 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 20 世紀になって物理学は大きな進歩を遂げ、まさに 20 世紀は「物理の世紀」と呼んでも過言ではない世紀となった。現在の身の周りにある多くの先端技術を利用した装置は物理学の発展に伴って急速に進歩を遂げつつある。この講義では現代物理学を学習することによってさまざまな先端技術の背景を理解することを目的とする。従って、この講義は、物質・環境コースへ進む学生だけでなく、他のコースへ進む学生にも重要な知識となるように用意されている。講義内容は前期の物質科学の基礎 I で学習した知識をもとに、現代物理学の基礎的な項目を解説する。

【授業概要】 自然科学の基礎としての現代物理学の理解

【先行科目】 『物質科学の基礎 I』(1.0)

【関連科目】 『物質科学基礎実験 I』(0.5, ⇒286 頁), 『力学』(0.5, ⇒309 頁), 『電磁気学 I』(0.5, ⇒309 頁), 『物理学』(0.5, ⇒311 頁)

【履修上の注意】 講義のほか、例題などを提示し、また各自が演習問題等を行って理解を深める。但し、丁寧に解説するとは言っても、何も考えずにフラッと教室にやってくる、講義終了後も何もしないということであれば、どのような大学の科目も理解出来るはずがない。講義中に疑問があれば質問したり、予習・復習するなどの積極的な学習態度が望まれる。

【到達目標】

1. 波動について正しい理解をする。屈折の法則について深く理解し、計算することができる。
2. 量子数と周期律表について正しく理解する。
3. 時間と空間の概念について正しい理解をする。同時の相対性、ローレンツ変換について正しく理解し、計算することができる。物質波の概念を理解する。ハイゼンベルクの不確定性原理を正しく説明することができる。

【授業計画】 1. 授業の進め方と成績評価について 2. 相対性理論入門: 空間座標、座標の変換、運動の法則 3. 相対性理論入門: ガリレイの相対性、マイケルソン・モーレーの実験 4. 相対性理論入門: 光速不変の原理、ローレンツ変換、時間の遅れ、長さの短縮など 5. 量子論入門: 光の性質 6. 量子論入門: 光電効果、光量子 7. 量子論入門: 物質波、ボーアの原子論 8. 量子論入門: ハイゼンベルクの不確定性関係 9. 波動 (1): 波とは ~ 単振動について、1 次元の波、波動方程式 10. 波動 (2): 1 次元の波、波動方程式 11. 波動 (3): 波動方程式、ホイヘンスの原理による屈折の法則の導出 12. 波動 (4): フェルマーの原理による屈折の法則の導出、光と電磁波 13. 周期律 (1): 量子数と電子配置 14. 周期律 (2): エネルギー準位、作って学ぶ元素の立体周期律表 15. 学期末テスト 16. 総括授業: 学期末テストの解説など

【成績評価】 学期末試験 (持ち込み不可) だけでなく、数回行う小テスト (持ち込み不可) の結果も総合して判定する。

【再試験】 希望があれば行う。

【教科書】

- ◇ 参考書: 大槻義彦著「理工系の基礎教育 物理学」(学術図書出版社)
- ◇ 参考書: 飯島徹徳他著「アビリティ物理 量子論と相対論」(共立出版)
- ◇ 参考書: 嶋村 修二・萩原 千聡 著「基礎物理学-波動・光・熱」(朝倉書店)
- ◇ その他関連する参考書については、講義中に適宜紹介する予定。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219339>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火、木曜日の 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分 (これ以外に随時、教室内に居ればできるだけ対応します))

⇒ 伏見 (総合科学部 3号館 1N01, 088-656-7238, kushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日を除く 11 時 50 分 ~ 12 時 50 分, 金曜日 3:4 校時)

物質科学の基礎 III

2 単位 1 年 (後期)

三好 徳和・教授/総合理数学科

【授業目的】 化学は物質を対象とする学問である。更に、この世の中を眺めると、様々な物質が身の周りにあることが解るであろう。そこで、物質の性質を理解する基礎知識として、分子を形成する立体化学や化学結合について学ぶ。また無機化学や物理化学的知識を含めて、物質の性質と役割を学ぶ。さらに、教養的知識を含め有機化学の基礎を併せて学ぶ。

【授業概要】 化学の基礎を有機化学を中心に学ぶ

【キーワード】 基礎化学, 有機化学

【先行科目】 『現代化学の世界』(1.0, ⇒285 頁), 『物質科学の基礎 I』(1.0), 『生命システムの基礎 I』(1.0, ⇒285 頁)

【関連科目】 『物質科学の基礎 II』(0.5, ⇒285 頁), 『物質科学基礎実験 I』(0.5, ⇒286 頁), 『物質科学基礎実験 III』(0.5, ⇒287 頁)

【履修上の注意】 受講希望の学生は、WEB 登録を行った上、「所属コースの教務委員」にも受講希望の旨を申し出ること。受講者の都合にて後期に集中で行うこともあります。

【到達目標】 身のまわりの現象を化学的な目で理解できるようにする。

【授業計画】 1. 1. 元素について (1 回) 2. —元素の成り立ちと素粒子について 3. 2. 反応速度とエネルギーとの関係について (1 回) 4. 3. 量子化学の基礎知識と簡単な波動方程式について (1 回) 5. 4. 化学結合について (sp³, sp², sp 混成軌道に関する基礎知識を含む)(2 回) 6. 5. 立体化学について (光学活性化合物を含む)(1 回) 7. 6. 水の化学-物質の溶解について (1 回) 8. 7. 身の回りの有機化合物について (1 回) 9. 8. 環境化学に関する問題提起 (1 回) 10. 9. 有機化学の基礎知識 (1 回) 11. 10. 基本的な有機反応について (5 回) 12. —1) アルカン・アルケン・アルキンについて 13. —2) 芳香族化合物について 14. —3) 付加反応・置換反応・脱離反応について 15. —4) アルドール反応について 16. —5) 酸化・還元反応について 17. 11. 総括授業 (1 回)

【成績評価】 授業へ取り組み姿勢と、期末試験を総合して判定する。

【再試験】 なし

【教科書】 はじめて学ぶ「大学の有機化学」深沢義正・笛吹修治 著 (化学同人)(2200 円+税)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219340>

【連絡先】

⇒ 三好 (総合科学部 3号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 午前 11 時 55 分から午後 12 時 50 分 (昼休み))

現代化学の世界

2 単位 1 年 (後期)

今井 昭二・教授/社会創生学科

【授業概要】 新課程の化学の基礎に読み替える。

【キーワード】 原子の構造, 化学結合, 物質の三態, 化学反応, 熱力学

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219345>

【連絡先】

⇒ 今井 (総合科学部 3号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

生命システムの基礎 I

2 単位 1 年 (前期)

横井川 久己男・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 生物は、さまざまな生体成分が密接に相互作用して「生きている」状態を維持している。本講義では、生命の単位である細胞と主要生体成分について、それらの構造と機能を理解させると共に、それらの代謝や制御機構を通じて、生命現象の基礎を学ぶことを目的とする。

【授業概要】 生物と生命現象の基礎を学ぶ。

【キーワード】 生命科学, 生物化学, 遷移元素

【関連科目】 『機能物質作用学』(0.5, ⇒347 頁)

【履修上の注意】 授業で学んだことを、必ず復習すること。

【到達目標】 生命現象を最小単位で理解して、生命の自然化学的な統一像を得ること。

【授業計画】 1. 生命の誕生と進化 2. 細胞の構造と機能: 3. 原核生物と真核生物 4. アミノ酸とタンパク質の構造と機能 5. 酵素の構造と機能 6. ビタミンと補酵素 7. 核酸の構造と機能 8. エネルギー代謝 9. エネルギー代謝 2 10. 脂質の構造と機能 11. 糖質の構造と機能 12. 細胞膜の構造 13. 物質輸送 14. 生命システム 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】 受講姿勢 (50%), 筆記試験 (50%) により評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】

- ◇ 生命科学 (東京化学同人)
- ◇ 必要に応じてプリントを配布する

【参考書】 参考書: エッセンシャル細胞生物学 (南江堂)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219365>

【連絡先】

⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:20-17:50)

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

生命システムの基礎 II

2 単位 1 年 (後期)

佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 細菌からヒトを含む高等生物まで生命あるものは全て細胞を基本単位としており、生命とは何かを知るためにはまず細胞についてその基本構造を知ることから始める必要がある。細胞は多種多様な化学物質によって構成されており、生命現象は詳細に制御された化学反応の連鎖に基づいている。この授業では生命科学の基礎としての細胞とそれを構成する化学成分について学ぶ。

【授業概要】 細胞とその化学成分、基礎生化学

【先行科目】 『生命システムの基礎 I』(1.0, ⇒285 頁)

【履修上の注意】 この授業は、自然システム学科共通科目です。毎回課題を課しますので、出席してください。教員免許(中学1種理科、高校1種理科)取得希望者は必ず受講してください。また、課題提出が3分の2に達しない人は定期試験受講不可とします。平成23年度は集中講義で開講予定ですが、受講希望者は事前に学務係に問い合わせること。

【到達目標】

1. 細胞の構造や機能について、生物間の共通性や相違点が理解できる。
2. 細胞を構成する生体高分子について、その構造や特性が理解できる。

【授業計画】 1. 0. 化学的基礎(1回) 2. 1. 細胞を構成する化学成分と性質(8回) 3. 1-1 細胞を構成する元素と原子 4. 1-2 細胞を構成する生体高分子(タンパク質、糖、脂質、核酸) 5. 2. 核酸と遺伝情報の流れ(3回) 6. 3. 細胞の基本構造とその機能(3回) 7. 3-1 細胞の基本構造と機能(動物、植物、その他) 8. 3-2 細胞の観察法 9. 3-3 細胞の統一性と多様性 10. 高校で化学や生物を履修していない学生を想定して、高校レベルから授業を始める。 11. 4. 定期試験

【成績評価】 毎回の課題(60%)と定期試験(40%)の合計で成績を算出する。

【再試験】 試験細則に準拠し、受験資格のあるもののみ再試験を行います

【教科書】 「Essential 細胞生物学」(南江堂)の第1,2,4,7章をベースに講義を行う(第4,7章は一部)。将来、生命・環境コースを希望する学生は、購入が望ましい。

【参考書】

- 授業中に随時配布する。
- 配布したパワーポイント資料および実施した課題は、下記 web からダウンロードできます。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219366>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：特に設定しない。質問はいつでもよい。研究室;3号館三階北棟生物化学研究室, e-mail tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp.)

地球科学の基礎

2 単位 1 年 (後期)

石田 啓祐・教授/総合理数学科, 村田 明広・教授/総合理数学科

西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 地球表層部で起こっている地球科学的な現象と事象を学ぶ。
【授業概要】 地質学・進化古生物学(石田)、構造地質学(村田)、岩石学・火山学・気象学(西山)などの地球科学における基礎的な内容を扱う。また、それぞれの分野で最近話題になっている研究内容を紹介し、地球科学の勉学のための導入的な講義とする。

【キーワード】 地層と化石、地球の歴史、断層、褶曲、プレートテクトニクス、活断層、地震、地形学、火山、岩石、地球表層物質循環

【履修上の注意】 パワーポイントやビデオなどを使用することがあります。遅刻・欠席をしないこと。積極的にノートをとること。

【到達目標】 地球の形成・進化・特徴と地球環境に関する基礎的事項を理解する

【授業計画】 1. 地質時代区分:絶対年代(放射年代)と相対年代(石田) 2. 年代指標、環境指標としての古生物・化石(示準化石と示相化石)(石田) 3. 地層の種類と形成環境(堆積岩類と堆積環境)(石田) 4. 地球の運動と環境変化(石田) 5. 地球の環境変化と生物界の変遷(石田) 6. 断層(村田) 7. 褶曲(村田) 8. プレートテクトニクス(村田) 9. プレーートの運動と造山運動(村田) 10. 活断層と地震(村田) 11. 地球上の水循環(西山) 12. 岩石と地下資源(西山) 13. 火山のなりたち(西山) 14. 地形のなりたち(西山) 15. 天気の変化(西山)

【成績評価】 3人の教員が、それぞれの担当部分の理解力を問う小試験を講義時間の最後に行うので、欠席しないようにすること。

【再試験】 積極的な取り組みの見られる学生に対しては行うことがある。

【教科書】 教科書・指定しない。

【参考書】 各教員が配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218855>

【連絡先】

⇒ 西山(総科3号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日12時~13時)

⇒ 石田(総合科学部3号館 2階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@s.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時)

⇒ 村田(総合科学部3号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時 00分~13時 00分)

【備考】 2009年度からは、西山の単名ではなく、地学系教員3名で担当する新カリの同名科目で対応。

プログラミング基礎演習 I

2 単位 1 年 (前期)

前田 茂., 蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 近年の情報機器の普及やネットワーク社会の発展は目覚ましく、コンピュータを使いこなせることは日常生活においてすら不可欠の状況になりつつある。このような状況に対応できるようにするために、計算機による、いわゆる「読み・書き・そろばん」にあたる情報リテラシー技法を、演習を通じて修得することを目的とする。

【授業概要】 情報リテラシー

【履修上の注意】 予備知識は特に必要としないが、是非熱意を持ち続けてほしい。

【到達目標】 情報リテラシー技法を修得すること

【授業計画】 1. 概ね下記の項目について演習を行う。 2. パソコンと WINDOWS XP の基礎 3. ワードプロ 4. インターネットの基礎 5. プレゼンテーション 6. 表計算 7. なお、演習期間中に学外との電子メールのやりとりを行うのに必要な知識認定試験を行う予定である。

【成績評価】 演習中に数回レポートを課し、その内容によって成績を評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 授業の時に指定する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219074>

【連絡先】

⇒ 前田. (オフィスアワー: (後期)火曜日 11時~12時)

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)火曜日 11時~12時)

物質科学基礎実験 I

2 単位 2 年 (前期)

小山 晋之・教授/総合理数学科, 中山 信太郎・教授/総合理数学科

齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科, 伏見 賢一・准教授/総合理数学科

真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 物理学は実験と理論を両輪として発展してきた。単なる自然現象の記述に終わってはならないし、空想空論でもない。実験によって自然に問いかけて法則性を見出すということ、理論を組み立てるということキャッチボールのように繰り返しながら自然を理解していかなければならない。「高校の物理」では実験が軽視されがちで、無味乾燥な暗記物と誤解している学生が多い。本実験では基礎的な物理実験を行い、現象の中から法則性を見出したり、理論的推論を確かめたりすることによって、物理の面白さを体験することを目的とする。また卒業研究等の自分で研究を行う際に、実験(研究)経過・過程をきちんとノートに記録するということが大切である。これをどの様にしたら良いかという点を実験を通して学んでいく。

【授業概要】 最初の数回は、物理測定法の基礎を講義しデータを扱う方法を学ぶ。またノギスとマイクロメータを使って物の長さを測るという測定を、テスターとオシロスコープを使って電圧や抵抗を測定するということを学ぶ。以後、原則として2人一組で力学、熱、波、電磁気、原子物理、物性の中の基礎的な物理実験を数回行う。

【キーワード】 物理

【先行科目】 『物質科学の基礎 I』(1.0), 『物質科学の基礎 II』(1.0, ⇒285 頁)

【関連科目】 『物質科学基礎実験 II』(1.0, ⇒312 頁)

【履修上の注意】 全回出席し、全てのレポートを提出しなければならない。止むを得ず欠席したときは、空いている時間に実験を行うこと。

【到達目標】 実験を正しく行い、その実験の経過をノートに記録することができる。実験の解析を正しく行うことができる。

【授業計画】 1. 導入 2. 誤差論1とノギス・マイクロメータの実験 3. 誤差論2とテスター・オシロスコープの実験 4. 誤差論3と関数電卓の使い方 5. Excelを使ったデータ処理 6. 実験の解説とレポートの書き方 7. 実験1 8. 面接試験1 9. 実験2 10. 面接試験2 11. 実験3 12. 実験4 13. 実験5 14. 実験予備日 15. 面接試験3 16. 総括授業

【成績評価】 提出されたレポートの評価および、個別面接時の実験ノートのチェック、実験テーマの理解度、実験の正確さの評価を併せて評価する。

【再試験】 原則として行わない。

【教科書】 「基礎物理学実験テキスト」総合科学部物理学教室編(徳島大学生協)

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/butsuri/>
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219341>
 【連絡先】
 ⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月 ~ 金 17:30~18:00)
 ⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~12:50)
 ⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)
 ⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp)

物質科学基礎実験 III 2 単位 2 年 (前期)

今井 昭二・教授/社会創生学科, 増田 俊哉・教授/社会創生学科
 三好 徳和・教授/総合理数学科, 山本 裕史・准教授/社会創生学科
 山本 孝・准教授/社会創生学科, 中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】 基礎的な化学実験を行い、物質の分離分析、同定、合成等に必要の基本操作を習得することを目的とする。実験を通して、化学物質に親しみ、その理解を深め、危険な化学物質に対する安全な取り扱い方を学ぶ。

【授業概要】 化学実験の基礎的・基本的操作の習得
 【キーワード】 化学実験, 基礎化学
 【履修上の注意】 総合理数学科の化学基礎実験をもって、物質科学基礎実験 III として読み替える。

【到達目標】 無機化学実験、有機化学実験、分析化学実験、物理化学実験の基礎を習得し、危険が伴う化学実験を行う際の基本的姿勢が自覚できるようにすることを到達目標とする。

【成績評価】 出席点 (実験の取り組み姿勢点も含む) とレポート点を併用して評価する。

【再試験】 実施しない
 【教科書】
 ◇ プリントを配布する。
 ◇ 参考書: 化学同人編「実験を安全に行うために」化学同人発行
 ◇ 化学同人編「続・実験を安全に行うために」化学同人発行

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218973>

【連絡先】
 ⇒ (オフィスアワー: 前期 各担当教官に問い合わせること)
 ⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 各担当教官に問い合わせること)
 ⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 各担当教官に問い合わせること)
 ⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期 各担当教官に問い合わせること)
 ⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

物質科学基礎実験 V 2 単位 2 年 (前期)

石田 啓祐・教授/総合理数学科, 村田 明広・教授/総合理数学科
 西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 地層解析と地質調査のための基本的事項 (堆積岩の区別、化石による地質時代判別、路線測量)(石田), 岩石の偏光顕微鏡観察と空中写真判読による地質構造の把握 (村田), 地質図・天気図 (西山) が活用できる

【授業概要】 層序学・古生物学 (石田), 構造地質学 (村田), 地質図学・気象学 (西山) などの地球科学における基礎的な実習を扱う。この中には、岩石・鉱物・化石の肉眼鑑定、偏光顕微鏡での観察、ルートマップのための路線測量法、天気図の作成など、地球科学の解析に必要な手法を学ぶ。

【キーワード】 地球科学, 岩石, 鉱物
 【先行科目】 『地球科学の基礎』 (1.0, ⇒286 頁)
 【履修上の注意】 実習内容が積み重ね式になっているので、欠席を絶対にしないようにして下さい。
 【到達目標】 地球科学に関する解析に必要な基本的な実験・調査法を身につける。

【授業計画】 1. 粒度表と粒度区分 (ふるいを使った粒度分析と粒度表の作成)(石田) 2. 海岸の堆積物の観察と漂着貝殻の採集 (石田) 3. 海岸の堆積物と漂着貝殻群集の解析 (石田) 4. 堆積岩類と化石の産状 (観察とレプリカ作成)(石田) 5. 古生物の分類と特徴 (大型化石の観察とスケッチ)(石田) 6. 岩石 (火成岩・堆積岩・変成岩) の肉眼観察 (村

田) 7. 偏光顕微鏡による薄片観察 (火成岩)(村田) 8. 偏光顕微鏡による薄片観察 (堆積岩・変成岩)(村田) 9. 空中写真判読による地質構造解析 (村田) 10. リモートセンシングによる地質解析 (村田) 11. 地形断面図と地形分類図の作成 (西山) 12. 走向傾斜・露頭線の作成 (西山) 13. 地質図の作成 (西山) 14. 地質断面図の作成 (西山) 15. 天気図の作成 (西山)

【成績評価】 実習への取り組み姿勢と、成果物の提出・各教員による課題のレポートを総合的に判断して評価する。

【再試験】 実習であり、再試験は原則行わない。

【教科書】 指定しない。

【参考書】 各担当教官が紹介、配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218975>

【連絡先】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
 ⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)
 ⇒ 西山 (総合科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

生命科学基礎実験 2 単位 1 年 (前期)

Basic Training for Life Science
 中川 秀幸・教授/社会創生学科
 小山 保夫・教授/社会創生学科, 大橋 眞・教授/社会創生学科
 佐藤 高則・准教授/社会創生学科, 真壁 和裕・教授/社会創生学科
 松尾 義則・教授/社会創生学科, 佐藤 征弥・准教授/社会創生学科
 山城 考・准教授/社会創生学科, 渡部 稔・准教授/社会創生学科
 金丸 芳・准教授/社会創生学科, 横井 川久己男・教授/社会創生学科
 浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】 高校で生物学を履修していない学生は中学校レベルの生物学的知識を忘れていています。そのまま、大学生活、そして大学院生活あるいは社会生活に入りますと、苦勞することが多いでしょう。日常社会で話題になりやすいことは生命科学分野の話です。そこで、高校で生物学を履修していない学生にも、もちろん、生物学を履修した学生にも、新鮮な気持ちで「生命科学」に触れていただきたいと思います。この実習では、生命科学系の実験を行う上で必要な基本的な技術などを体験させると同時に、生命の基本的現象を観察・理解してもらいます。面白い実習です。

【授業概要】 目的には書きませんが、社会に出てから「最も身近な学問」は生命科学です。なぜなら、健康問題、環境問題などの理解には生命科学分野の知識が求められるからです。生命科学の実験の一端に触れることで、いろいろな問題を容易に理解できる「切っ掛け」になります。細胞 (単細胞生物, 心臓の細胞, 卵, 精子など), 微生物, 昆虫, 植物, 生体分子 (DNA など) など、毎回、様々なテーマで生命科学の知識を広げていきます。同時に、生命科学実験の基礎技術についての理解できるようになります。人生が少し豊かになります。

【キーワード】 生命科学

【履修上の注意】 自分で積極的に「生命現象」を体験してください。そして、必要に応じて図書館などで生命についての疑問点を調べて、面白い内容のレポートを作成してください。また、生命環境コースの選択を考えている学生は受講して下さい。年度により生命環境コースの希望者が定員を越える場合には、この科目を受講している学生が優先されることがあります。

【到達目標】
 1. 生命科学 (生命現象) に興味を持ってもらう。
 2. 生命科学系の実験を行う上で最低限必要な器具・機器の操作法、基本的な技術などを習得してもらう。

【授業計画】 1. ガイダンス (実習の進め方, 内容, レポート, 受講学生の確認など一般的な指導を行います) 2. 顕微鏡の使い方 (中学・高校の顕微鏡と違います) と淡水中のプランクトンの観察 (水一滴滴の中の世界に多くの生物がいます) 3. ラットの単離心筋細胞の収縮運動と細胞の死 (心臓の一個の細胞の収縮, そして細胞が死ぬという現象を観察します) 4. レクチンによるウサギ赤血球の凝集反応 (血液型の判定の基礎が解ります) 5. 生命科学における情報処理の基礎 (もちろん, 生命科学でもパソコンは必須です) 6. DNA の抽出 (DNA 診断の第一歩となる技術です) 7. 無菌操作 (私たちは微生物に囲まれていることを実感してください) 8. リン酸の定量 (生命現象の中で大きな役割を果たすリン酸を定量してみます) 9. 葉で樹木の検索表を作ってみよう (身近な植物を注意深く見てみましょう) 10. 小型魚類の色素胞の伸縮に及ぼすイオンの影響 (細胞の運動の様子を観察します) 11. アフリカツメガエルの人工受精と初期発生 (一個の細胞が個体ができる最初のステップを観察します) 12. ゲルろ過法による生体分子の分離精製 (分子量の異なる生体分子を分子量の大きい順に分離します) 13. 動物個体群の成長と生残 (貝やカニを採集して測定し, 成長率や生残率を推定します)

【成績評価】 提出されたレポートの内容と、実習にどのように参加しているか, 基本的な実習態度も含めて評価します。全ての実習の平均点で評価します。

【再試験】 実習ですので、再評価はありません。

総合科学部 (2011) \ 自然システム学科 共通科目

【教科書】 実習の1回目に具体的なスケジュール(実習書)に示し、実習の概要を説明します。必要に応じて、個々の実習についてのプリントを配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218747>

【連絡先】

- ⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室の時はいつでも。)
- ⇒ 小山 (総合科学部 3号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します。時間は有効に使用します。)
- ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269。)
- ⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

【備考】 実習全体についての質問は渡部 (minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) までお願いします。個々の実習についての質問は担当している教員にお願いします。

社会学

2年(後期, 集中)
榎田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222175>

【連絡先】

- ⇒ 榎田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3階プロジェクト研究室1に常駐。1号館南棟1階 1S19 ほときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14:00 から 15:00)

自然システム学科 数理・情報コース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

線形代数学 I ... 桑原/2年(後期).....	289
線形代数学 II ... 伊藤/2年(後期).....	289
数学基礎 I ... 守安/2年(前期).....	289
数学基礎 II ... 小野/2年(前期).....	289
数学基礎演習 I ... 鍋島/2年(後期).....	290
解析学基礎 ... 大沼/2年(前期).....	290
プログラミング基礎演習 II ... 鍋島/2年(後期).....	290
計算機概論 ... 中山/2年(前期).....	290
マルチメディア演習 ... 石田・掛井・齊藤・中島/2年(後期).....	291
代数学基礎 I ... 片山/2年(前期).....	291
代数学基礎 II ... 大淵/2年(後期).....	291
応用解析 I ... 村上/2年(前期).....	291
応用解析 II ... 小野/2年(後期).....	291
微分方程式 I ... 村上/3年(後期).....	292
微分方程式 II ... 小野/3年(前期).....	292
情報社会と情報倫理 ... 吉田/2年(前期).....	292
モデリング理論 ... 宇野/2年(後期).....	292

線形代数学 I

2 単位 2 年 (後期)
桑原 類史・教授/総合理数学科

【授業目的】線形代数学は、微分積分と並んで大学で学ぶ数学の基礎として位置づけられるとともに、自然科学や情報科学、社会科学などの分野においても広く応用されている。この授業では、主として、行列に関する基本的概念、性質や演算手法、および連立 1 次方程式の解法について、演習を通じて理解・修得する。

【授業概要】行列の演算、行列の基本変形および連立 1 次方程式の理論、行列式の基本概念および計算、固有値とその応用について、演習を通じてより深く理解し、修得する。

【キーワード】行列、行列式、連立 1 次方程式、固有値

【関連科目】『線形代数・演習 II』(0.5)

【履修上の注意】線形代数学 II と合わせて講義が完結するので、線形代数学 II も受講することが望ましい。

【到達目標】

1. 行列に関する基本概念を理解し、種々の演算ができる
2. 行列式の性質を理解し、計算ができる。
3. 行列の基本変形とその応用である連立 1 次方程式の解法を修得する。
4. 固有値の概念とその応用である行列の対角化について理解する。

【授業計画】1. 行列の演算 2. 正方行列、正則行列 3. 行列式の定義、性質 4. 行列式の計算 5. 余因子展開、正則行列と行列式 6. 行列の基本変形、行列の階数 7. 逆行列の計算 8. 連立 1 次方程式と行列の変形 9. 連立 1 次方程式の解法 10. 同次連立 1 次方程式 11. 中間まとめ 12. 固有値と固有ベクトル 13. 固有空間 14. 行列の対角化 15. 対称行列の対角化 16. 総括授業

【成績評価】授業時の演習問題、レポートおよび中間・期末試験によって評価する。

【再試験】有り。ただし、期末試験の評点が 30 点未満のものは、再試験の受験資格無し。

【教科書】適宜、プリント配布

【参考書】守安・小野共著「理工系の線形代数学入門」、他

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219438>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp)

線形代数学 II

2 単位 2 年 (後期)
伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業目的】線形代数学は、理系大学生にとって基礎知識であり、一般大学生にとっても一般教養といってよい学問である。それは、この学問が具体的に扱うものが、一見、中学校で習う連立一次方程式にすぎないが、知識と論理の整理をすることによって、理系のみならず、ほとんど全ての知的領域・分野における数学的な構造の理解に通じるからである。数理学の基礎 III や線形代数・演習 I で、基礎的な計算や取り扱いを学んで来たので、この講義では、線形構造がいかに普遍的にとらえられるかを学ぶ。

【授業概要】個々のベクトルや、行列の性質を学んできた学生を対象に、線形空間や線形写像など、より俯瞰的に数学対象をとらえることを目的とする。比喩的にいえば、「お母さん」や友達「太郎君」として人間を認識してきた子供が成長する過程で「日本国民」や「社会人」といった概念を獲得するようのものである。獲得すべき対象概念は、「線形空間」と「線形写像」であり、幾何学的視点を持つ「内積空間」も対象となる。授業は、講義形式で演習も随時織り込み上記のテーマ順に進める。

【キーワード】ベクトル空間、線形写像、内積

【先行科目】『線形代数学 I』(1.0, ⇒289 頁)

【関連科目】『線形代数学 I』(0.5, ⇒289 頁)

【履修上の注意】この授業は、線形代数学 I 引続く内容である。したがって、線形代数学 I を先に受講しなければならぬので注意すること。

【到達目標】

1. 数学独特の「対象の抽象化」という方法になれること。
2. そのためには、一見無味乾燥であるが厳密な推論技術を取得すること。

【授業計画】1. 行列、行列式の復習 2. 行列式の幾何学的意味 3. 線形空間 4. 部分空間 5. 部分空間の例 6. 一次独立性 7. 基底 8. 次元定理 9. 線形写像 10. 核と像 11. 同型写像・線形変換 12. 表現行列 13. 基底の変換 14. 内積 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】授業中の演習に対する積極的な取り組み、レポート、期末試験を総合的に評価

【再試験】行わない。

【教科書】教科書:守安一峰、小野公輔 著「理工系の線形代数学入門」サイエンス社

【参考書】基礎講座 線形代数学 仁木著 培風館

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219439>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

数学基礎 I

2 単位 2 年 (前期)
守安 一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】現代数学に於いては集合をまず考え、その上で様々な数学的構造を考えると云った記述の仕方が多い。その中で最も基本的な物の一つである位相構造について講義するのがこの授業の目的である。位相構造について解説する為には集合論の知識が必要であるが、ここでは集合論の解説は必要最小限にとどめるつもりである。

【授業概要】位相空間論の基礎

【履修上の注意】特にありません。

【到達目標】

1. 1. 集合と論理の概念が正しく理解出来る。
2. 2. ϵ - δ 論法が正しく理解出来る。
3. 3. 位相空間の基礎的な概念が正しく理解出来る

【授業計画】1. 授業は以下の内容を行うつもりである。 2. . 数学的な論理について・全称命題と存在命題・集合と集合の演算 3. . 写像・全射及び単射について・選択公理などについて(概説) 4. . 数列と収束・数列と収束・関数の極限・関数の連続性 5. . 位相空間の定義・様々な位相空間の定義について・連続写像

【成績評価】学期末試験、レポート、中間試験・授業への取り組み状況などを基に総合的に評価する。

【再試験】原則として行わない

【教科書】鈴木晋一「集合と位相への入門-ユークリッド空間の位相-」サイエンス社

【参考書】松阪和夫『集合・位相入門』岩波書店

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218729>

【連絡先】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp)

数学基礎 II

2 単位 2 年 (前期)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】行列や幾何ベクトルなど高校数学で学習した内容を一般化し、大学数学における線形代数学の入門的な内容を解説する。特に、行列や行列式などにかかわる基本事項の習得を目指す。

【授業概要】行列や行列式などの入門的な線形代数学の基本事項を解説する。授業は講義形式で行う。

【キーワード】線形代数, 行列

【先行科目】『数理学の基礎 II』(1.0, ⇒284 頁), 『数理学の基礎 I』(1.0, ⇒284 頁)

【履修上の注意】授業には積極的に取り組むこと。

【到達目標】授業で取り扱った行列・ベクトル・行列式の基礎・基本を理解し、対応する演習問題の解答が導けるようになること。

【授業計画】1. 授業の内容は以下の通りであるが、学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える。1. 数について 2. 行列の定義 3. 行列とベクトル 4. 行列の演算 5. 正則行列 6. 行列のべき 7. 行列の基本変形 8. 逆行列の求め方 9. 連立1次方程式 10. 同次連立1次方程式 11. 行列式 12. 行列式の性質 13. 行列式の展開公式 14. 行列式的应用 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】授業への取り組み状況、期末試験、宿題レポートなどをもとに総合的に評価する。

【再試験】無

【教科書】「理工系の線形代数学入門」守安一峰・小野公輔共著(サイエンス社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218730>

【連絡先】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分~17時)

数学基礎演習 I

2 単位 2 年 (後期)
鍋島 克輔・准教授/総合数学科

【授業目的】微分積分の応用的研究へ活用できる基礎を演習により理解する

【授業概要】微分積分に関する基礎事項を学び、演習を行うことでその理解力を深めていく。

【履修上の注意】各自問題を解く

【到達目標】微分積分の応用的研究へ活用できる基礎能力を身に付ける

【授業計画】1. ガイダンス (& 微分積分の基礎事項) 2. 【演習 1】微分積分の基礎事項 3. 集合と写像 4. 【演習 2】集合と写像 5. ε - N 論法と ε - δ 論法 6. 【演習 3】 ε - N 論法と ε - δ 論法 7. リーマン積分 8. 【演習 4】リーマン積分 9. 無限級数とべき級数展開 10. 【演習 5】無限級数とべき級数展開 11. 逐次近似 12. 【演習 6】逐次近似 13. 多重積分 14. 【演習 7】多重積分 15. 【演習 8】授業のまとめ

【成績評価】演習での理解度及び期末試験で評価する。

【再試験】行わない

【教科書】適時プリントの配布

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219261>

【連絡先】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 14:00 ~ 15:30 金曜 14:00 ~ 16:00)

解析学基礎

2 単位 2 年 (前期)
大沼 正樹・准教授/総合数学科

【授業目的】微分積分学は数学のみならず他の広い分野で用いられています。今では自然科学の事象を表す一つの言語のようなものであり、基礎的なものです。本講義では1年生時に学習する微分積分学の知識を踏まえて、発展的な計算について学習します。また、数列および1変数関数に関してはその時に学習しなかった論理的な証明の部分にも踏み込んでいきます。同時に様々な解析学に関する言葉の定義を具体的な例を通して理解し、その知識を習得することも目的の一つです。

【授業概要】微分積分学, 解析学

【キーワード】微分積分学, 解析学

【先行科目】『数理学の基礎 I』(1.0, ⇒284 頁), 『数理学の基礎 II』(1.0, ⇒284 頁)

【関連科目】『数学基礎演習 I』(1.0, ⇒290 頁)

【履修上の注意】計算力を付けるためには問題演習は欠かせませんがそのための時間を講義内で多く取ることは困難です。各自で問や演習問題を解くことをお願いします。1年次に開講される「数理学の基礎 I II」を受講している事が望ましい。

【到達目標】

1. 解析学に関する様々な概念の定義が理解出来る。
2. 論理的な証明を与えることが出来る。
3. 微分積分法を応用した問題を解くことが出来る。
4. 論理的に理解出来る答案を作成出来る。

【授業計画】1. 数列と1変数関数の極限 2. 1変数関数の微分 3. 1変数関数の積分 4. 2変数関数の微分積分 5. 実数(上限, 下限) 6. 実数の性質 7. 数列の極限(その1) 8. 数列の極限(その2) 9. 関数の極限(その1) 10. 関数の極限(その2) 11. 連続関数(その1) 12. 連続関数(その2) 13. 級数とその収束 14. 級数の収束判定法(その1) 15. 級数の収束判定(その2)

【成績評価】受講姿勢及びレポートによる平常点と期末試験による得点で評価します。

【再試験】有

【教科書】戸田 暢茂 著「基礎微分積分」学術図書出版社

【参考書】『解析入門 I』杉浦光夫 著 東京大学出版会

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219458>

【連絡先】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)火曜日 12時から12時50分)

プログラミング基礎演習 II

2 単位 2 年 (後期)
鍋島 克輔・准教授/総合数学科

【授業目的】この授業の目的は、パソコンで簡単なプログラムが作成できるようにするまで、初歩からプログラミングを学習することである。数学の問題を題材とし、パソコンを使った実習を通じて、プログラミングの基礎知識を習得する。

【授業概要】まず、数学の基礎的な問題を題材にして、プログラミング言語の文法についての演習を繰り返し、言語に備わる基本的な構文の使用方を習得する。次に、整列や連立1次方程式の解法などの演習により、アルゴリズムを理解して、それをプログラムにする能力を身につける。

【キーワード】プログラミング, 基本アルゴリズム

【履修上の注意】この授業は、数理・情報コースの学生を対象とします。π や e などの数学定数の近似計算、素数や級数の和、方程式の解を求める演習などを行いますので、その程度の数学の知識を仮定します。尚、設備の關係上、受講希望者が多数のときは、受講できない場合があります。必ず担当教員の受講許可を得てから受講登録してください。

【到達目標】

1. 言語処理系の操作法を習得し、簡単なプログラムを短時間で作成できるようにすること
2. 与えられたアルゴリズムを理解し、それをプログラムにすることができるようにすること

【授業計画】1. 文法の基礎(変数, 代入文) 2. 文法の基礎(場合分け, 繰り返し) 3. 文法の基礎(配列, 手続き) 4. 文法の基礎(グラフィックス, アニメーション) 5. 基本アルゴリズムの理解とその実装

【成績評価】授業への取り組みと期末課題により評価する。

【再試験】期末課題の再提出を認める。

【教科書】毎回プリントを配布する。

【参考書】林・児玉共著「実習 Visual Basic 2005」サイエンス社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219075>

【連絡先】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp)

計算機概論

2 単位 2 年 (前期)
中山 慎一・准教授/総合数学科

【授業目的】計算機とその周辺機器を用いた、現在の情報処理システムについての理解を深める。パソコンの理解から始め、現在及び今後どのように計算機システムが利用されるのか理解できるように内容をとり上げる。

【授業概要】幅広く計算機の仕組み・動作原理について学ぶ。

【キーワード】計算機のしくみ, パソコンのしくみ

【関連科目】『プログラミング基礎演習 II』(0.5, ⇒290 頁), 『マルチメディア演習』(0.5, ⇒291 頁), 『計測・制御概論』(0.5)

【履修上の注意】「計測・制御概論」の講義を受講する予定の方はあらかじめこの講義を受講しておいてください。

【到達目標】情報処理機器として身近な、パソコンの動作原理の基礎知識をハード・ソフトの両面から身につける。またネットワークに関する基礎知識を身につける。情報処理技術者試験(午前)程度の内容を理解している。

【授業計画】1. パソコン基礎・ハード 2. パソコン基礎・ソフト 3. パソコンによるネットワーク 4. 色々な計算機と周辺機器のアーキテクチャ 5. 計算機の動作原理 6. 論理回路 7. CPU など 8. ソフトウェアの実装 9. プログラミングの基礎 10. データベース 11. マルチメディア技術 12. ネットワークの仕組み 13. ネットワークと周辺機器 14. システムインテグレーション・応用 15. 情報処理システムの管理運用等 16. まとめ(他講義へのガイダンス)

【成績評価】レポート課題の提出結果と期末試験とで総合評価する。

【再試験】行わない。
 【教科書】必要な教材・資料は随時講義で配布・指定します。本当に力をつけたい人は色々な本を自分から読むようにしてください。また早めに自分のパソコンを購入して使う経験も非常に大事です。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219461>
 【連絡先】
 ⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 月~ 金 9:30~ 17:00)

マルチメディア演習

2 単位 2 年 (後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科, 掛井 秀一・准教授/社会創生学科
 齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科, 中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】問題解決やアルゴリズムの基礎を学び、初歩的なプログラミング能力を習得し、コンピュータを自分の意図した処理を実行する道具として使えるようになる。
 【授業概要】初習者向けプログラミング超入門
 【キーワード】プログラミング, 情報リテラシー, コンテンツ
 【履修上の注意】受講制限を行うこともある。
 【到達目標】簡易なプログラミング言語である VisualBasic などを用いて受講者自身がコンピュータ上でマルチメディアコンテンツなどを自力で作成できるようになり、基礎的な情報リテラシーを身につけ、プログラミングは楽しいと感じられるようになることを目標とする。
 【授業計画】1. ガイダンス, Visual Basic によるプログラム作成の流れ 2. 最初のプログラム 3. 文字の入力, 数値の入力と計算 4. パブリック変数, 数値の表示 5. 条件の判断処理 (2 方向分岐) 6. 条件の判断処理 (多方向分岐) 7. 変数の配列, 繰り返し処理 (For 文) 8. 繰り返し処理 (Do 文) 9. ファイルの操作 10. アルゴリズム 11. タイマー, アイコン 12. 選択処理 13. プログラミングの応用 (1) 14. プログラミングの応用 (2) 15. プログラミングの応用 (3)

【成績評価】授業中に課される課題による評価。
 【再試験】実施せず
 【教科書】なし
 【参考書】「新訂版 Visual Basic 標準テキスト-図解・例解」安藤明之, 工学図書
 【WEB 頁】 <https://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219007>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 5-6 時限)
 ⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)
 ⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

代数学基礎 I

2 単位 2 年 (前期)

片山 真一・教授/総合理数学科

【授業目的】群論は、方程式を代数的に解く(係数のべき根や加減乗除で解を表す公式のこと)のために解の置換を考えることから発展した。現在では、代数学に留まらず数学を超え、物理学や化学の分野でも必須の基本的な概念となっている。本講義では、古くから研究され現在の数学や情報理論においても基礎である置換群や既約剰余類群などの具体的な群の構造を学び、群論の基本について初歩から習得することを目的とする。
 【授業概要】代数的構造と群論入門
 【キーワード】代数的構造, 群論
 【関連科目】『線形代数学 I』(0.7, ⇒289 頁)
 【履修上の注意】線形代数学と共に受講することが望ましい。
 【到達目標】整数の基本的な性質および群の抽象代数構造の基本を理解し、論理を展開できる。
 【授業計画】1. 整数の整除 2. 約数と倍数 3. 徐法の定理 4. ユークリッド互除法 5. 拡張ユークリッド互除法と 2 元不定方程式 6. 連分数展開 7. 合同式の定義 8. 合同式の基本性質 9. 中国剰余定理 10. 群の定義 11. 群の例 12. 部分群 13. 剰余類分解 14. 正規部分群 15. 定期試験 16. 総括授業
 【成績評価】折に触れて課すレポートの内容による平常点と期末試験の結果により評価する。
 【再試験】行う
 【教科書】
 ◇ 参考書 梶元「工科系のための初等整数論入門」培風館
 ◇ 参考書 平松豊一「応用代数学」裳華房
 ◇ 参考書 松坂和夫「代数系入門」岩波書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219106>
 【連絡先】
 ⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 15時00分-17時00分(前期))

代数学基礎 II

2 単位 2 年 (後期)

大淵 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】前期に引き続き群論の、基本的な概念を講義する。また環については、具体的な整数環、多項式環を中心に講義する。
 【授業概要】群および環と多項式
 【キーワード】群論, 環論
 【先行科目】『代数学基礎 I』(0.9, ⇒291 頁), 『線形代数学 I』(0.6, ⇒289 頁)
 【関連科目】『線形代数学 II』(0.5, ⇒289 頁)
 【履修上の注意】代数学基礎 I の知識は仮定するので受講していることが望ましい。
 【到達目標】環などの抽象代数構造を理解して、論理を展開できる。
 【授業計画】1. 群の準同型の定義 2. 群の準同型定理の例 3. 群の準同型定理 4. 環の定義 5. 環の例 (整数環, 行列環) 6. イデアルの定義 7. イデアルの基本性質 8. イデアルと剰余環 9. 環準同型 10. 環の準同型定理 11. 環の直積 12. 中国剰余定理と整数環の剰余環 13. 素イデアルと極大イデアル 14. 多項式環 15. 総括授業
 【成績評価】平常点と期末試験の結果により評価する。
 【再試験】行わない
 【教科書】参考書 松坂和夫「代数系入門」岩波書店
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218772>
 【連絡先】
 ⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

応用解析 I

2 単位 2 年 (前期)

村上 公一・准教授/総合理数学科

【授業目的】微分積分学は実変数の関数を対象としたが、それを複素変数の関数にまで広げたものが複素解析学である。その応用分野は、数学だけにとどまらず、物理学や工学など多岐にわたる。この授業では、複素数の基礎から始めて、正則関数の微分積分に関する基本事項の習得までを目的とする。
 【授業概要】コーシーの積分定理を中心に、複素数, 正則関数, 複素積分について講義する。計算問題が解けるように、授業中に演習も取り入れる。尚、学生の理解度に応じて、内容や進度を調整することもある。
 【キーワード】複素解析学, 複素数
 【関連科目】『応用解析 II』(0.5, ⇒291 頁), 『微分方程式 I』(0.5, ⇒292 頁)
 【到達目標】複素数と正則関数の基本事項を理解し、複素数と正則関数に関する種々の計算問題が解けるようになること。
 【授業計画】1. 授業の概要 2. 複素数 (1) 複素数の四則 3. 複素数 (2) 複素平面と極形式 4. 複素数 (3) ド・モアブルの定理 5. 複素数 (4) オイラーの公式と点集合 6. 正則関数 (1) 複素関数 7. 正則関数 (2) コーシー・リーマンの関係式 8. 正則関数 (3) 指数関数・三角関数 9. 正則関数 (4) 対数関数・べき関数 10. 複素積分 (1) 複素積分 11. 複素積分 (2) コーシーの積分定理 12. 複素積分 (3) コーシーの積分表示 (1) 13. 複素積分 (4) コーシーの積分表示 (2) 14. 複素積分 (5) 実積分への応用 15. 期末試験 16. 総括
 【成績評価】期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。
 【再試験】有
 【教科書】香田・小野著「初歩から複素解析」学術図書
 【参考書】高木貞治著「解析概論」岩波書店
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218462>
 【連絡先】
 ⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)

応用解析 II

2 単位 2 年 (後期)

小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】複素解析学は、極限を中心に組み立てられた微分積分学の上に展開される学問分野の 1 つであり、その応用範囲は理工学の諸分野におよんでいる。この授業では、この分野の基礎・基本を学習し、今後の自然科学の進歩に十分堪えうるような数理的思考能力の修得を目的とする。また、演習問題を解くことにより専門分野への応用能力を養う。
 【授業概要】複素級数, べき級数, ローラン展開, 留数定理等について解説する。
 【キーワード】複素解析学, 関数論, 留数定理

【先行科目】『応用解析 I』(1.0, ⇒291 頁)
 【関連科目】『応用解析 I』(0.5, ⇒291 頁), 『微分方程式 II』(0.5, ⇒292 頁), 『数理学演習』(0.5, ⇒294 頁)
 【履修上の注意】微分積分学の基本定理を履修していること。授業には積極的に取り組むこと。
 【到達目標】授業で取り扱った複素解析学の基礎・基本を理解し, 対応する演習問題の解答が導けるようになること。
 【授業計画】1. 授業の内容は以下の通りであるが, 学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える。1. 数列について 2. 級数 3. 絶対収束級数 4. 収束判定法 5. 収束半径 6. べき級数 7. 級数展開 8. テイラー展開 9. ローラン展開 10. 特異点 11. 留数 12. 留数の計算 13. 留数定理 14. 実積分への応用 15. 期末試験 16. 総括
 【成績評価】授業への取り組み状況, 期末試験, 演習などをもとに総合的に評価する。
 【再試験】無
 【教科書】「初歩からの複素解析」 香田温人・小野公輔共著 (学術図書出版社)
 【参考書】「関数論入門」 梶原壤二著 (森北出版社)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219225>
 【連絡先】
 ⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分~17時)

微分方程式 I

2 単位 3 年 (後期)
 村上 公一・准教授/総合数学科

【授業目的】物理, 化学, 生物, 工学, 経済学などの様々な分野において, 時間とともに変化する現象が微分方程式を使って表され, その解を調べることで現象の解明や予測などが行われている。この授業では, 微分方程式に関する基本事項の理解と, 種々の微分方程式の解法の習得を目的とする。
 【授業概要】線形微分方程式を中心に, 微分方程式の解法について講義する。計算問題が解けるように, 授業中に演習も取り入れる。尚, 学生の理解度に応じて, 内容や進度を調整することもある。
 【キーワード】微分方程式, 線形微分方程式
 【関連科目】『応用解析 I』(0.5, ⇒291 頁), 『微分方程式 II』(0.5, ⇒292 頁)
 【到達目標】線形微分方程式を中心に, 種々の常微分方程式の解が求められるようになること。
 【授業計画】1. 授業の概要 2. 変数分離形 3. 1 階線形 4. 完全微分形 5. 2 階線形 (1) 同次形 6. 2 階線形 (2) 非同次形 7. 記号解法 (1) 同次形 8. 記号解法 (2) 非同次形 9. ラプラス変換 (1) 基本公式 10. ラプラス変換 (2) 初期値問題 11. ラプラス変換 (3) 部分分教展開定理 12. 線形微分方程式の解法のまとめ 13. 連立 1 階線形 (1) 同次形 14. 連立 1 階線形 (2) 非同次形 15. 期末試験 16. 総括
 【成績評価】期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。
 【再試験】有
 【教科書】小寺平治著「テキスト微分方程式」共立出版
 【参考書】小寺平治著「なっとくする微分方程式」講談社
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218965>
 【連絡先】
 ⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)

微分方程式 II

2 単位 3 年 (前期)
 小野 公輔・准教授/総合数学科

【授業目的】数学を使って自然現象や社会現象を解析しようとするとき, 微分方程式によるモデル化が有効な方法となり, その解を調べることによって現象の解明や予測などが行われる。たとえば, 惑星の運動, 化学反応, 生物の個体数変化といった様々な現象が微分方程式でモデル化される。この授業では, 微分方程式の具体的な解法に加えて, 解の存在と一意性, 微分方程式の基本補題等について考察するための数学的な方法を紹介し, 種々の現象解析のための基礎知識の習得を目指す。
 【授業概要】単独 j 微分方程式, 連立微分方程式, 解の存在と一意性, 解の延長問題等について解説する。
 【キーワード】微分方程式
 【先行科目】『微分方程式 I』(0.5, ⇒292 頁)
 【関連科目】『数理学演習』(0.5, ⇒294 頁), 『情報科学演習』(0.5, ⇒302 頁)
 【履修上の注意】微分積分学の基本定理を履修していること。授業には積極的に取り組むこと。
 【到達目標】授業で取り扱った微分方程式の基礎・基本を理解し, 対応する演習問題の解答が導けるようになること。

【授業計画】1. 授業の内容は以下の通りであるが, 学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える。1. 1 階微分方程式 2. 連立方程式 3. 解曲線 4. 定係数 2 階線形微分方程式 5. 非斉次定係数 2 階線形微分方程式 6. 微分方程式のひろがり 7. 簡単な偏微分方程式 8. べき級数 9. 基礎理論 10. 初期値問題 11. 解の存在と一意性 12. 解の延長 13. 解の構造 14. 微分演算子法 15. 期末試験 16. 総括
 【成績評価】授業への取り組み状況, 宿題, 演習, 試験などをもとに総合的に評価する。
 【再試験】無
 【教科書】「概説 微分方程式」中尾慎宏著 (サイエンス社)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218966>
 【連絡先】
 ⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分~17時)

情報社会と情報倫理

Information Society and Ethics

2 単位 2 年 (前期)
 吉田 敦也・教授/社会創生学科

【授業目的】情報化社会, 知的所有権とプライバシー, 情報危機管理
 【授業概要】この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する。受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し, 収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり, 情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める。
 【キーワード】情報リテラシー
 【先行科目】『プログラミング基礎演習 I』(0.5, ⇒286 頁)
 【関連科目】『モデリング理論』(0.2, ⇒292 頁), 『計算機概論』(0.2, ⇒290 頁), 『ネットワーク論』(0.2, ⇒190 頁)
 【履修上の注意】資料に基づいてディスカッションを行うので, 積極的に参加するようにして欲しい。知的所有権については「経済法 II」で詳しく取り扱われるので, 履修することが望ましい。
 【到達目標】現代社会における人, 企業, 物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める。
 【授業計画】1. 1. 情報化社会の到来 1.1 「情報」とは何か, 1.2 コンピュータが動作する仕組み, 2. 1.3 ネットワークによる通信の仕組み, 1.4 [情報の価値]と[情報量], [情報伝達] 3. 1.5 情報化社会の到来, 1.6 社会の情報化の進展と, 文化・人間性の変化, レポート 1 4. 2. 知的所有権とプライバシー 2.1 著作権 5. 2.2 そのほかの知的所有権, 2.3 プライバシー, レポート 2 6. 3. 情報倫理 3.1 情報倫理はどうして「倫理」なのか, 3.2 情報化社会における原則 7. 3.3 情報倫理に必要な知識, 3.4 情報ネットワークを利用するときの判断のあり方, レポート 3 8. 4. 情報危機管理 4.1 情報危機管理がなぜ必要か, 4.2 現実のシステム運用上の事件と, その原因と対策 9. 4.3 運用ポリシーと利用者の価値観, 10. 4.4 運用規約と管理組織, レポート 4 11. 4.5 不正アクセスとセキュリティ 12. 5. ケーススタディ 13. 5.1 発表と評価 1 14. 5.2 発表と評価 2 15. 5.3 発表と評価 3 16. まとめ
 【成績評価】レポートとケーススタディの研究発表で総合的に評価する。
 【再試験】なし。
 【教科書】教科書:辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218710>
 【連絡先】
 ⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp)

モデリング理論 modeling theory

2 単位 2 年 (後期)
 宇野 剛史・准教授/総合数学科

【授業目的】数理モデル化とシミュレーション
 【授業概要】この講義では自然現象や社会現象などの様々な現象を分析するために用いる数理モデルやシミュレーションモデルの作り方とその活用法に重点を置いて講義する。現象を数理的に定式化する代表的な数理モデルの例を示し, コンピュータを活用したデータ解析, シミュレーション, および, 図表やグラフ等の視覚化について取り扱う。
 【キーワード】数理モデル, シミュレーション
 【先行科目】『情報社会と情報倫理』(0.2, ⇒292 頁), 『数学基礎 I』(0.2, ⇒289 頁), 『数学基礎 II』(0.2, ⇒289 頁)
 【関連科目】『マルチメディア演習』(0.2, ⇒291 頁), 『プログラミング演習』(0.2, ⇒303 頁)
 【履修上の注意】特になし。ただし, 線形代数学と微積分の初等的知識を使う。
 【到達目標】
 1. (1) 簡単な数理モデルおよびシミュレーションモデルが作成できる。
 2. (2) 基本的なモデルの解析とグラフ等の視覚化ができる。

【授業計画】 1. 0. イントロダクション, 「わかる」とは 2. 1. モデル化の基礎 3. 2. モデルの特性 2.1 モデルの種類 4. 乱数を用いた簡単な例 (演習・レポート 1) 5. 2.2 モデル化の目的, 2.3 モデルの評価 6. 2.4 モデルの特性 7. 物理現象の解析 (演習・レポート 2) 8. 3. シミュレーションの基礎 3.1 シミュレーションの目的 9. 3.2 シミュレーションの分類 10. 3.3 シミュレーションの手順, 3.4 プログラム 11. 微分方程式, 差分方程式 (演習・レポート 3) 12. 4. システムのモデル化 4.1 システム分析 13. 4.2 要素のモデル化 14. 4.3 非数値的な要素・関連分析, 4.4 数値的分析法 15. 期末試験

【成績評価】 レポートと期末試験で評価する。

【再試験】 あり。

【教科書】 教科書:教科書は使用せず, 適宜資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219080>

【連絡先】

⇒ 宇野 (総合科学部 1号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

自然システム学科 数理・情報コース 数理科学サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

数理科学演習 ...中山/4年(通年).....	294
数理科学演習 ...守安/4年(通年).....	294
数理科学演習 ...大淵/4年(通年).....	294
数理科学演習 ...小野/4年(通年).....	294
数理科学演習 ...蓮沼/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...村上/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...鍋島/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...大沼/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...大橋/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...宇野/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...桑原/4年(通年).....	295
代数学Ⅰ ...大淵/3年(前期).....	296
解析学Ⅰ ...伊藤/3年(前期).....	296
幾何学Ⅰ ...守安/3年(前期).....	296
確率・統計Ⅰ ...大橋/3年(前期).....	296
代数学Ⅱ ...片山/3年(後期).....	297
解析学Ⅱ ...大沼/3年(後期).....	297
幾何学Ⅱ ...桑原/3年(後期).....	297
確率・統計Ⅱ ...守安/3年(後期).....	297
応用解析特論 ...小野/3年(後期).....	297
数値計算法 ...鍋島/3年(前期).....	298
情報数学 ...蓮沼/2年(前期), 3年(前期).....	298
数理科学特論Ⅰ ...伊藤/3年(後期).....	298
数理科学特論Ⅱ ...蓮沼/3年(後期).....	298
情報システム特論Ⅰ ...庄野・新見/2年(後期, 集中).....	298
情報システム特論Ⅱ ...森本・永易/2年(後期, 集中).....	299
ネットワーク最適化論 ...大橋/3年(後期).....	299
ネットワーク論 ...中山/3年(前期).....	299
データベース基礎論 ...蓮沼/3年(後期).....	299
量子力学Ⅰ ...日置/3年(前期).....	299

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時10分~17時)

数理科学演習

4単位 4年(通年)
守安一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】 力学系理論は物理学や化学から生態学や経済学に渡って数多くの非線形問題に適用することが出来る。本演習では、この力学系理論の中からテーマを選び、文献の輪読により基礎理論を学び、数値シミュレーションなどを行うことにより理論の理解を深めていく。

【授業概要】 各自の発表を通して、論理的思考や数学的思考を身につける

【履修上の注意】 特になし

【到達目標】

1. 論理的な思考を身につける。
2. プレゼンテーションの技術を身につける。

【授業計画】 1. 下記のテーマの一つを選び、前期は関連する文献を輪読する 2. (a) 力学系に関係する研究 3. カオスやフラクタルなどに関係する本を選び、主に輪読形式で行う。 4. (b) フラクタル図形 5. 3D フラクタル図形を描くために、フラクタルの基礎と3D図形処理の基礎を学ぶ。 6. (c) 情報教育システムの構築 7. 小中高等学校の情報教育の研究とシステムプラン、ソフトウェア開発など 8. 後期は、前期に行った内容から興味のあるものに内容を絞り、数値実験などの実習と結果の発表などを行う

【成績評価】 演習に対する取り組み(準備, 出席, 発表など)で評価する。

【再試験】 行わない

【教科書】 資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219271>

【連絡先】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時~17時)

数理科学演習

4単位 4年(通年)
大淵朗・教授/総合理数学科

【授業目的】 群・環・体と言った代数学の基本的な理論の総復習から始めて、ある程度高度な理論の修得を目的として、代数学の様々な分野についての基礎的な知識を深める事をめざしたい。体と Galois の理論に重点を置き、場合によっては可換環論の理論の修得もめざしたい。

【授業概要】 タイトル: 体とガロア理論 本講義は以下の内容でゼミナール形式により行う事とする。 1. 群論 部分群, 正規部分群, 準同型定理, 巡回群, 置換群, Sylow の定理 2. 環論 イデアル, 剰余環, 多項式環, 整域, 単項イデアル整域, 素元分解 3. 可群 加群, 自由加群, 加群の構造定理 4. 体論 拡大, 単純拡大, 有限次拡大, 代数拡大, 分解体, 自己同型, 正規拡大, Galois 理論の基本定理, 中根, 可解

【到達目標】 代数が理解できるようになること

【授業計画】 本講義はゼミナール形式により行う事とする。

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219267>

【連絡先】

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12:00-13:00)

数理科学演習

4単位 4年(通年)
小野公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 卒業研究テーマに関係した文献や資料を基に、卒業研究に役立つ基礎知識を身につける。

【授業概要】 卒業研究テーマに関する基礎を身につける。

【キーワード】 数理科学, 卒業研究

【履修上の注意】 受講生が研究したいテーマを相談のうえ決定し、そのテーマに関係した文献や資料を読む。

【到達目標】 各自の卒業研究テーマに沿って、自主的に研究をすすめる。

【授業計画】 1. 受講生が研究したいテーマを相談のうえ決定し、そのテーマに関係した文献や資料を読む。 2. 以下、テーマの例をいくつか紹介する。 3. 現象解析 4. 微分方程式 5. 偏微分方程式 6. 関数解析 7. フーリエ解析 8. 超関数 9. ルベーグ積分 10. 初等解析学 11. 数値解析

【成績評価】 授業への取り組み状況および発表態度などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 無

【教科書】 受講生との相談による研究テーマ内容と基礎知識を判断した上で決定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219272>

【連絡先】

数理科学演習

4単位 4年(通年)
中山慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 コンピュータ発展と共に、近年めざましい発展を遂げている数学の分野に離散数学がある。離散数学は離散的な対象を扱う数学であり、論理回路、アルゴリズム、データ構造、情報理論その他多くの情報科学分野を学ぶのに必要な基礎知識である。本講義では、離散数学の中で特に集合論、組み合わせ論、グラフ理論について学ぶ。

【授業概要】 離散数学について学ぶ。学んだことを確認するために、必要に応じて実習を行う。

【キーワード】 離散数学, グラフ理論

【先行科目】 『ネットワーク論』(1.0, ⇒299頁), 『情報数学』(1.0, ⇒298頁), 『ネットワーク最適化論』(1.0, ⇒299頁)

【関連科目】 『ネットワーク論』(0.5, ⇒299頁), 『情報数学』(0.5, ⇒298頁), 『ネットワーク最適化論』(0.5, ⇒299頁)

【履修上の注意】 卒業研究テーマに関連した基礎知識の修得に積極的に取り組むこと。

【到達目標】 各自の卒業研究テーマに沿って、自主的に研究をすすめる。

【授業計画】 1. セミナー形式で行う内容は以下のとおりである。 2. 集合論 3. 組み合わせ論 4. グラフ理論

【成績評価】 授業への取り組み状況および発表態度などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 無

【教科書】 受講生との相談による研究テーマ内容と基礎知識を判断した上で決定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219270>

【連絡先】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分~17時)

数理科学演習

4 単位 4 年 (通年)
連沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 グラフ理論について学び、物事を深く考えること、また自分の考えをまとめ発表する能力を養うことを目的とする。
【授業概要】 前半は、グラフ理論の教科書を(載っている問題を解きながら)読み、基本的事項の理解及び問題解決能力を養う。後半はテーマを決め、テーマに関連する文献を読み、その後で自分の考察を進める。
【到達目標】 論理的な思考と、物事を深く考える態度を身につける。
【授業計画】 1. 教科書の輪読し、内容の紹介および問題の解答の説明。
 2. テーマをしぼり、関連文献を読み、その内容を説明する。 3. テーマについて自分で考え、その進展状況等を報告し、議論を通して思考を深める。 4. 自分の考えたことを整理し、まとめる。
【成績評価】 本演習に対する取り組み態度により評価する。
【教科書】 授業の時に指定する
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219273>

数理科学演習

4 単位 4 年 (通年)
村上 公一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 卒業研究の準備を目的として、学生による輪講形式で、基礎的な文献を講読する。
【授業概要】 各自の選んだ卒業研究のテーマに沿って、関連する基礎文献を講読する。
【キーワード】 文献購読
【到達目標】
 1. 問題に主体的に取り組み、自ら定めた目標を達成できるようになること
 2. 問題を論理的にとらえ、緻密に分析し、結果を明確に表現できるようになること
【授業計画】 1. 学生による発表形式で授業を進める。 2. 学生の理解度や進度に応じて、内容を変更することもある。
【成績評価】 授業への取り組み状況により評価する。
【再試験】 なし
【教科書】 受講者と相談の上、決定する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219274>
【連絡先】
 ⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~13:00)

数理科学演習

4 単位 4 年 (通年)
鍋島 克輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 卒業研究を側面支援するための授業です。
【授業概要】 卒業研究に必要な、一貫性ある基礎知識を、研究としてはなく授業の形で提供します。
【キーワード】 代数学, 変分問題
【到達目標】 よりよい卒業研究を实らせる。
【授業計画】 卒業研究の進度にあわせて進める。
【成績評価】 受講態度を評価する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219275>
【連絡先】
 ⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp)

数理科学演習

4 単位 4 年 (通年)
大沼 正樹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 卒業研究を進めるための基礎的な知識を取得する。
【授業概要】 受講生の選んだ卒業研究のテーマに合わせて文献を選び講読する。
【キーワード】 文献講読
【到達目標】
 1. 専門文献の講読の方法を学びその理解した内容を説明できる。
 2. 卒業研究を自主的に進めることができる。
【授業計画】 1. 受講生と相談して決定した文献を受講生による輪読形式で授業を進めます。 2. 文献を読んで理解した内容を黒板を用いて発表する形式で進めます。
【成績評価】 授業への取り組み状況と発表状況により評価します。
【再試験】 無
【教科書】 受講生と相談して決定します。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219276>
【連絡先】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:10~17:00)

数理科学演習

4 単位 4 年 (通年)
大橋 守・教授/総合理数学科

【授業目的】 卒業研究の準備を目的として、学生による輪講形式で、基礎的な文献を講読する。
【授業概要】 各自の選んだ卒業研究のテーマに沿って、関連する基礎文献を講読する。
【キーワード】 文献購読
【到達目標】 問題に主体的に取り組み、自ら定めた目標を達成できるようになること。
【授業計画】 学生による発表形式で授業を進める。
【成績評価】 授業への取り組み状況により評価する。
【再試験】 なし
【教科書】 受講者と相談の上、決定する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218731>
【連絡先】
 ⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

数理科学演習

4 単位 4 年 (通年)
宇野 剛史・准教授/総合理数学科

【授業目的】 集合論の拡張として提案されたファジィ理論及びその応用研究の修得
【授業概要】 集合と写像に関する基本的な理論の復習からはじめ、その拡張であるファジィ理論について修得する。また、ファジィ理論の応用分野の一つであるファジィ数理論に関する理論について、数理論問題の拡張として学ぶ。さらに、ファジィ数理論問題の解法アルゴリズムをコード化することで、実用的なプログラミング能力を身に付ける。
【到達目標】
 1. これまで学んできた基本的な集合論の拡張として提案されたファジィ理論の修得
 2. ファジィ理論の応用分野の一つであるファジィ数理論問題に関する理論の修得
 3. ファジィ数理論問題の解法アルゴリズムに対するコード化
【授業計画】 1. 集合論の復習 (1) 実数の連続性 2. 集合論の復習 (2) 集合の定義 3. 集合論の復習 (3) De Morgan の法則 4. 集合論の復習 (4) 写像の定義 5. 集合論の復習 (5) 写像の合成・分解 6. 集合論の復習 (6) 逆写像 7. ファジィ集合論 (1) ファジィ集合の定義 8. ファジィ集合論 (2) 適用例 9. ファジィ集合論 (3) クリスマス集合との類似性 10. ファジィ集合論 (4) α -カット 11. ファジィ集合論 (5) 拡張原理 12. ファジィ集合論 (6) ファジィ数 13. ファジィ集合論 (7) ファジィ数の演算 14. ファジィ集合論 (8) ファジィ決定 15. ファジィ集合論 (9) まとめ 16. ファジィ数理論問題 (1) 数理論問題 17. ファジィ数理論問題 (2) 線形計画問題の理論 18. ファジィ数理論問題 (3) シンプレックス法 19. ファジィ数理論問題 (4) 2 段階法 20. ファジィ数理論問題 (5) 拡張シンプレックス法 21. ファジィ数理論問題 (6) ファジィ線形計画問題への拡張 22. ファジィ数理論問題 (7) その他のファジィ数理論問題 23. ファジィ数理論問題 (8) まとめ 24. ファジィ線形計画問題の解法アルゴリズムのコード化 (1) プログラミングの復習 25. ファジィ線形計画問題の解法アルゴリズムのコード化 (2) 改定シンプレックス法のコード化 26. ファジィ線形計画問題の解法アルゴリズムのコード化 (3) 解法アルゴリズムに基づくフローチャートの作成 27. ファジィ線形計画問題の解法アルゴリズムのコード化 (4) フローチャートに基づくコード化 28. ファジィ線形計画問題の解法アルゴリズムのコード化 (5) プログラムのデバッグ 29. ファジィ線形計画問題の解法アルゴリズムのコード化 (6) 完成したプログラムの実際例への適用 30. ファジィ線形計画問題の解法アルゴリズムのコード化 (7) まとめ
【成績評価】 ゼミナル発表 (60%) 及びプログラムの完成度 (40%) による総合評価
【教科書】 なし
【参考書】 適宜資料を配布する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218732>
【連絡先】
 ⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

数理科学演習

4 単位 4 年 (通年)
桑原 順史・教授/総合理数学科

【授業目的】 数理学に関する卒業研究を進めるための基礎的な知識を取得する。

【授業概要】 受講生の選んだ卒業研究のテーマに合わせて文献を選び講読する。

【キーワード】 文献講読

【到達目標】

1. 専門文献の講読の方法を学びその理解した内容を説明できる。
2. 卒業研究を自主的に進めることができる。

【授業計画】 1. 受講生と相談して決定した文献を受講生による輪読形式で授業を進めます。 2. 文献を読んで理解した内容を黒板を用いて発表する形式で進めます。(前期) 3. 輪読した内容のなかで、各自が興味を持ったテーマについて、より深く勉強、研究し、それを報告する形式で進めます。(後期)

【成績評価】 授業への取り組み状況と発表状況により評価します。

【再試験】 無

【教科書】 受講生と相談して決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219277>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp)

代数学 I

2 単位 3 年 (前期)
大淵 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】 数学の中の大きな柱の一つである代数学の基礎的な内容である群、環、体について学ぶ後期の準備として方程式論を学習するのが本講義の目的である。

【授業概要】 基礎的な代数学の理論

【先行科目】 『代数学基礎 I』(0.8, ⇒291 頁), 『代数学基礎 II』(0.8, ⇒291 頁)

【履修上の注意】 当授業は線形代数学の知識を仮定する。従って該当する講義を聞いていない場合でも事前に線形代数学の参考書等を通り目を通して頂く事が望ましい。

【到達目標】 群論、環論の初歩的な内容が理解出来るようになること。

【授業計画】 1. 代数方程式について(概論) 2. 三次方程式のカルダノによる解法 3. 四次方程式のフェ拉里による解法 4. 四次方程式のオイラーによる解法 5. ラグランジュの方程式論 I 6. ラグランジュの方程式論 II 7. 三次方程式と四次方程式のチルンハウゼンによる解法 8. 五次方程式とラグランジュの方程式論 9. 置換群 10. ルフィニによる五次方程式の解の公式の非存在定理 11. ルフィニの証明の欠陥 12. ガウスとアーベル方程式 13. アーベルによる五次方程式の解の公式の非存在定理 14. ガロアによる方程式論 15. ガロア理論の基本定理

【成績評価】 試験及び授業中に扱われる課題などによる総合的な判断による

【再試験】 原則として行わない

【教科書】 当授業は教科書を用いずに上記の内容を講義するが、講義内容の作成に当たっては下記を強く意識している

【参考書】 松阪和夫 代数学入門 岩波書店(参考書)

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219105>

【連絡先】

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日7-8講時または昼休み(11:50-12:50), 大淵研究室(総合科学部一号館二階)としますが、この時間以外でも質問は原則として受け付けます。 E-mail: ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

解析学 I

2 単位 3 年 (前期)
伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業目的】 高校および大学の初年時に学んだ微分積分学では、リーマン積分を学んできた。多くの実用的な積分計算において、リーマン積分はなら支障なく有効に働く。しかし、この考え方では、集合の長さ、面積、体積などの基本的な概念があいまいであり、解析学や確率論を進める上では積分理論の見直しが必要である。そこで、測度(長さ、面積、体積などの一般化概念)論と、それに基づいたルベーグ積分理論の基礎を概説する。

【授業概要】 測度(長さ、面積、体積などの一般化概念)論と、それに基づいたルベーグ積分理論の基礎を概説する。

【キーワード】 ルベーグ積分, 収束定理

【先行科目】 『数理学の基礎 I』(1.0, ⇒284 頁), 『数理学の基礎 II』(1.0, ⇒284 頁)

【関連科目】 『応用解析特論』(0.5, ⇒297 頁)

【履修上の注意】 計算技術や問題解決テクニックの向上の上では、この講義は一見何の役にも立たないように思われる。そればかりか、積分論の再構築がテーマであるこの講義では、複雑でなじみのない議論が展開

され、はじめて学ぶ学生諸君には何回で取っ付き難いものであろう。多くの先生方も学生時代はそう感じたに違いないと思われる。それにもかかわらず、カリキュラムに組み入れられているのは、この学問なくしては、解析学が構築できないからである。講義の難解さやに圧倒されることなく、新しい推論方法に接するという気楽な気持ちで休まず受講して欲しい。完全に理解できなくとも、その後の勉学にきつと役に立ちます。

【到達目標】

1. 測度とルベーグ積分の概念を理解する。
2. 収束定理が使える。

【授業計画】 1. リーマン積分の問題点 2. 実数, 集合, 収束 3. リーマン積分の定義と問題点 4. 階段関数, 測度 0 の集合 5. ルベーグ積分 6. リーマン積分とルベーグ積分 7. ルベーグ積分の性質 8. 収束定理, レビの定理 9. ルベーグの収束定理 10. ファットウの定理 11. 積分記号のもとでの連続性・微分可能性 12. 関数の積分可能性 13. 多変数関数の積分 14. フェビニの定理 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末試験のほか演習とレポートも重視。

【再試験】 行方用意はある。

【教科書】 関数解析入門 洲之内治夫著 サイエンス社

【参考書】 ルベーグ積分 溝畑茂著 岩波全書

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219456>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. (前期)火曜日12:00-12:45, (後期)火曜日16:30-17:30 2. 月曜日 16:30-17:30)

幾何学 I

2 単位 3 年 (前期)
守安 一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】 ベクトル解析の基礎的範囲を学ぶことで、空間やそのなかの曲面上で定義されたベクトル場の性質を理解し、それを通じて幾何学的な視点を養う。

【授業概要】 幾何学とは、図形およびその入れ物である空間の性質を明らかにすることを目的とした理論である。どの様な対象を、どの様な視点および方法で研究するかによって、種々の幾何学体系がある。本講義では、微積分および線形代数の基礎のもとに、ベクトル解析の基礎的内容を講義と演習によって身につける。また、ベクトル解析は、解析学の各分野(微分方程式論など)や物理学(力学、電磁気学など)において必須の道具でもあり、物理現象への応用についても言及する。

【履修上の注意】 普段から演習などの自主的勉強を期待する。

【授業計画】 1. スカラーとベクトルの復習 2. ベクトルの外積 3. スカラー三重積とベクトル三重積 4. 1変数ベクトル(値関数)の微分積分 5. 空間曲線, 曲面 6. スカラー場の勾配 7. ベクトル場の発散 8. ベクトル場の回転 9. 勾配, 発散, 回転に関する諸公式 10. スカラー場・ベクトル場の線積分 11. スカラー場・ベクトル場の面積分 12. ガウスの発散定理 13. グリーンの定理 14. ストークスの定理 15. 補足およびまとめ 16. 総括授業

【成績評価】 出席、レポートと期末試験により総合的に評価する

【再試験】 有り

【教科書】 寺田文行・木村宣昭共著「ベクトル解析の基礎」サイエンス社

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~kuwabara/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219219>

【連絡先】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16時から17時)

確率・統計 I

2 単位 3 年 (前期)
大橋 守・教授/総合理数学科

【授業目的】 不確かな現象や混沌としたデータを取り扱うための基礎として、確率論の基本的な内容を講義する。確率論は、ランダムな現象を数学として計算可能なかたちに記述し、何らかの客観的な結論を導く手段の一つである。

【授業概要】 確率と統計の基礎

【履修上の注意】 特になし

【到達目標】 確率空間や確率変数を理解し、統計学への応用などと結びつけることができるようになる

【授業計画】 1. 確率とは 2. 確率空間 3. 条件付確率 4. 事象の独立性 5. 離散型確率変数 6. 連続型確率変数 7. 確率変数の平均値と分散 8. 確率変数の独立性 9. 主要な分布 1 10. 主要な分布 2 11. 主要な分布 3 12. 母関数 13. 大数の法則 14. 中心極限定理 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 出席、レポートと期末試験により総合的に評価する

【再試験】 再試験

【教科書】 中村忠・山本英二共著「理工系 確率統計」サイエンス社

【参考書】

- ◇ 鈴木義也, 洲之内長一郎共著「すぐに役立つ統計」学術図書出版
- ◇ 児玉正憲著「基本数理統計学」牧野書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218480>

【連絡先】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

代数学 II

2 単位 3 年 (後期)
片山 真一・教授/総合理数学科

【授業目的】 数学の中の大きな柱の一つである代数学の基礎的な内容である群、環、体のうち体論の体とガロアの理論の基礎を身につける。

【授業概要】 体の定義から始めて、方程式の定めるガロア群についての基本を学ぶ。最終的にガロアの理論の美しい応用である方程式の代数的な解法について学ぶ。

【キーワード】 群論, 方程式の解法, ガロア理論

【先行科目】 『代数学基礎 I』(0.8, ⇒291 頁), 『代数学基礎 II』(0.8, ⇒291 頁), 『代数学 I』(0.9, ⇒296 頁)

【履修上の注意】 当授業は代数学 I の知識を仮定する。従って該当する講義を聞いていない場合でも事前に代数学 I の参考書等を通り目を通しておく事が望ましい。

【到達目標】 数理科学の知識のうち代数について、初歩的な内容が理解出来るようになること。

【授業計画】 1. 体の定義と例 2. 体の拡大 3. 多項式の根 4. 単純拡大 5. 有限拡大と代数拡大 6. 分解体 7. 自己同型群と固定体 8. 正規拡大 9. ガロア対応 10. ガロア理論の基本定理 11. 1 のべき根による拡大 12. 可解群 13. 3 次方程式の解法 14. べき根による方程式の可解性 15. ガロアの基本定理 16. 総括授業

【成績評価】 試験及び授業中に行われる課題などによる総合的な判断による

【再試験】 筆記試験による再評価を行う

【教科書】 当授業は教科書を用いなくて上記の内容を講義するが、講義内容の作成に当たっては下記を強く意識している。

【参考書】 松阪和夫 代数系入門 岩波書店 (参考書)

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218771>

【連絡先】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 15 時~17 時)

解析学 II

2 単位 3 年 (後期)
大沼 正樹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 自然界の幾多の現象は微分方程式により記述され、その方程式を研究することにより諸現象の解析が行われてきた。その研究の一つとして微分方程式の境界値問題があるがその解法としてフーリエ級数とフーリエ変換の理論が誕生した。本講義ではフーリエ級数の基本的な性質とフーリエ級数の偏微分方程式の境界値問題への応用を学習する。

【授業概要】 フーリエ級数と偏微分方程式の境界値問題

【キーワード】 フーリエ級数, 偏微分方程式の境界値問題

【先行科目】 『解析学基礎』(1.0, ⇒290 頁)

【履修上の注意】 講義の進展や内容は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。

【到達目標】

1. 直行関数系とフーリエ級数の概念が理解できる。
2. 簡単な関数のフーリエ級数展開ができる。
3. 簡単な偏微分方程式の境界値問題の解法が理解できる。

【授業計画】 1. 正規直交基底 2. 直行系とフーリエ級数 3. 三角関数系とフーリエ級数 4. 正弦級数と余弦級数 5. 任意区間のフーリエ級数 6. 複素フーリエ級数 7. 近似定理 8. ベッセルの不等式、リーマン・ルベーグの補題 9. 各点収束、一様収束、微分とフーリエ係数 10. ディリクレ積分、ディリクレ核の変形 11. フーリエ級数の収束条件 12. フーリエ級数の収束 13. パーセバルの等式とその応用 14. 三角関数系の完全性、偏微分方程式 15. フーリエ級数の偏微分方程式への応用

【成績評価】 講義への取組状況を確認する提出物と期末試験により総合的に評価する。

【再試験】 期末試験の得点状況により受験できる。

【教科書】 『フーリエ解析とその応用』洲之内源一郎 著 サイエンス社

【参考書】 『解析入門 I』 杉浦光夫 著 東京大学出版会

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219457>

【連絡先】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期) 月曜日 16 時 10 分 ~ 17 時)

幾何学 II

2 単位 3 年 (後期)
桑原 類史・教授/総合理数学科

【授業目的】 幾何学とは、図形およびその入れ物である空間の性質を明らかにすることを目的とした理論である。どのような対象を、どのような視点および方法で研究するかによって、種々の幾何学体系がある。本講義では、グラフ理論について講述する。グラフは、点と線からなる 1 次元の図形であるが、その概念は広い分野の問題と密接に関連しており、その有効性は、計算機科学の発展とともに、益々拡大している。

【授業概要】 グラフについての基礎的な概念、性質を学び、更に、種々の話題(テーマ)について、応用を意識しつつ講義する。

【キーワード】 グラフ, 最短経路問題, ネットワークフロー, 平面グラフ

【履修上の注意】 普段から演習などの自主的勉強を期待する。

【到達目標】

1. グラフに関する基本概念とその性質を理解する。
2. 数理科学や社会科学に関する種々の問題がグラフによって定式化、研究できることを理解する。
3. 具体的な問題について、グラフによる解法例を学び、修得する。

【授業計画】 1. グラフとは - グラフの基礎概念 2. グラフの基礎的諸性質 3. オイラーグラフ, ハミルトングラフ 4. 歩道に関する最適化問題 5. 木の基本性質, 最小全域木 6. 有向グラフ, 最長経路問題 7. ネットワークフロー 8. 最大フロー-最小カット定理 9. 平面グラフ, オイラーの定理 10. グラフの平面性条件 11. 曲面上のグラフ 12. グラフの点彩色 13. 平面グラフの点彩色, 四色問題 14. その他の話題 (1) 15. その他の話題 (2) 16. 総括授業

【成績評価】 授業中に課す演習問題, レポート課題などの評価と期末の試験によって評点を付ける。

【再試験】 有り

【教科書】 プリントを配布する

【参考書】 ウイルソン著 (西関訳)「グラフ理論入門」近代科学社, 他

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~kuwabara/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219220>

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15 時から 17 時)

確率・統計 II

2 単位 3 年 (後期)
守安 一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】 確率・統計 I に引き続き、不確実な現象を取り扱うための基礎として、数理統計学の基本的な事項を講義する。数理統計学は、混沌としたデータの中から整理された情報を引き出す手段の一つである。確率・統計 I では、正規母集団の推定と検定を扱った。本授業では、確率・統計 I で扱えなかった部分を中心に講義する。

【授業概要】 数理統計学の基礎を身につける

【履修上の注意】 特になし

【到達目標】 統計学の目的や考え方を理解し、推定や検定方法の基礎を身につける簡単な応用に結びつけることができる。

【授業計画】 1. 標本調査 2. 統計量 3. 標本分布 4. 中心極限定理 5. 標本分布 6. 標本分布 7. 推定 8. 区間推定 9. 区間推定 2 10. 仮説検定 1 11. 仮説検定 2 12. 仮説検定 3 13. 仮説検定 4 14. 仮説検定 5 15. 総括授業

【成績評価】 出席, レポートと期末試験により総合的に評価する

【再試験】 予定している

【教科書】 中村忠・山本英二共著 「理工系 確率統計」サイエンス社

【参考書】

- ◇ 篠原昌彦著「確率・統計」朝倉書店
- ◇ 金子秀敏著「応用確率・統計入門」現代工学社
- ◇ 服部哲也著「理工系の確率・統計入門」学術図書出版社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219393>

【連絡先】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)

応用解析特論

2 単位 3 年 (後期)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する。また、それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し、現象の数学問題への定式化および意味づけを行う。さらに、数理モデルの妥当性や説明・予測・制御等の初等的方法について理解を深める。

【授業概要】 現象解析のための基本事項について解説する。

【履修上の注意】 微積分学の基本事項を履修しておくこと。授業には積極的に取り組むこと。

【授業計画】 1. 授業の内容は以下の通りであるが、学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える。1. モデル化のための枠組み 2. 人口問題と成長モデル 3. 葉の吸収モデル 4. 水の加熱と冷却の数理モデル 5. ロケットの飛行モデル 6. 抑制された成長モデル 7. 広告に対する売り上げの反応モデル 8. 美術品の贋作判定モデル 9. 電気回路モデル 10. 新古典派の経済成長モデル 11. 五大湖の汚染判定モデル 12. 個人の消費行動モデル 13. 惑星の運動モデル 14. 化学反応速度モデル 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】 授業への取り組み状況、期末試験、演習などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 無

【参考書】 「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・パージェス/著 モラグ・ポリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219226>

【連絡先】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

数値計算法

2 単位 3 年 (前期)
鍋島 克輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 数値計算法とは数学的問題を数値的に合理的かつ実可能な方法で適切な精度のもとに、解く事に関する方法論である。本講義では、各種数値計算技法の中で基本的かつよく使われるものを選んで、技法の説明や使用時の注意事項等について解説をする。

【授業概要】 基本的な数値計算技法

【履修上の注意】 講義を理解するのに必要な知識は、線形代数、微分積分学、関数解析、線形微分方程式などであるが、これらについてはその都度講義で解説する。

【到達目標】 いくつかの数値計算法の手法を実際に使え、必要に応じて更に新たな方法に習熟できるようになる。

【授業計画】 1. コンピューターにおける数の世界 2. 誤差について 3. 非線型方程式 二分法・ニュートン法 4. 連立一次方程式 ガウス・ジョルダンの消去法 5. 連立一次方程式 LU 分解法 6. 連立一次方程式 ヤコビ法、ガウスサイデル法 7. 関数近似と補間法 ワイヤシュトラスの定理 8. 関数近似と補間法 最小二乗近似 9. 関数近似と補間法 ラグランジュの補間 10. 数値積分 ニュートン・コーツの公式 11. 微分方程式 初期値問題 1 12. 微分方程式 初期値問題 2 13. 固有値問題 1 14. 固有値問題 2 15. 期末テスト

【成績評価】 レポートおよび期末試験による得点で評価します。

【再試験】 行わない。

【教科書】 特に指定しない。

【参考書】 篠原能材『数値解析の基礎』日新出版、名取亮『線形計算』朝倉書店、名取亮『数値解析とその応用』コロナ社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219260>

【連絡先】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報数学

2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 計算機科学の基礎理論である、オートマトン、言語理論、計算論についての理解を深めることを目的とする。

【授業概要】 オートマトン、正規表現、文脈自由文法、プッシュダウン・オートマトン、Turing 機械、判定不能問題、NP 完全性

【キーワード】 オートマトン、言語、計算

【到達目標】

1. 有限オートマトンの基本的事項 (決定性、非決定性、正規表現、状態数最小化を理解する。
2. 文脈自由文法とプッシュダウンオートマトンの関係について理解する。
3. Turing 機械、決定不能性、NP 完全性を理解する。

【授業計画】 1. 有限オートマトン 2. 決定性、非決定性 3. 正規表現 4. 非正規言語 5. 状態数最小化 6. 文脈自由文法 7. プッシュダウン・オートマトン 8. 言語とオートマトン 9. Turing 機械 10. Turing 可算言語 11. 決定不能問題 12. 計算量クラス 13. 還元可能性 14. NP 完全性 15. 総括授業

【成績評価】 期末テスト、レポート課題、授業への取り組み等により総合的に評価する。

【再試験】 行う。

【教科書】 参考書: 計算論の基礎, Michael Sipser 著, 渡辺・太田 監訳 共立出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219231>

【連絡先】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 9:10 講時)

数理科学特論 I

2 単位 3 年 (後期)
伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業目的】 関数解析は古典的な解析学から発展した学問領域であり、応用範囲の広い数学分野の 1 つである。この講義では関数解析の基本事項を理解し抽象的な理論の具体的な利用法などについて学習する。

【授業概要】 関数解析に関連する基本事項について解説する。

【キーワード】 関数解析, バナッハ空間

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒292 頁)

【関連科目】 『数理科学演習』(0.5, ⇒294 頁), 『情報科学演習』(0.5, ⇒302 頁)

【履修上の注意】 授業には積極的に取り組むこと。

【到達目標】 関数解析の基本事項を理解し抽象的な理論の取り扱いに慣れる。

【授業計画】 1. 授業の内容は以下の通りであるが、学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える。1. 集合 2. 理論の記号 3. 実数について 4. 縮小写像の原理 5. ベクトル空間 6. バナッハ空間の定義 7. バナッハ空間の性質 8. 連続関数の空間 9. バナッハ空間における縮小写像の原理 10. 線形作用素 11. 有界線形作用素の定義 12. 有界線形作用素のつくる空間 13. 逆作用素 14. 微分方程式と積分方程式 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 授業への取り組み状況、演習、レポート、試験などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 無

【教科書】 「改訂 関数解析入門」洲之内治男著 (サイエンス社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219278>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

【備考】 本年度開講 (「隔年開講」科目)

数理科学特論 II

2 単位 3 年 (後期)
蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する。また、それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し、現象の数学問題への定式化および意味づけを行う。さらに、数理モデルの妥当性や説明・予測・制御等の初等方法について理解を深める。

【授業概要】 現象解析のための基本事項について解説する。

【キーワード】 自然現象の数理, 社会現象の数理, 現象解析の数理

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒292 頁)

【関連科目】 『数理科学演習』(0.5, ⇒294 頁), 『情報科学演習』(0.5, ⇒302 頁)

【履修上の注意】 微分積分学の基本事項を履修しておくこと。授業には積極的に取り組むこと。

【到達目標】 数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する。

【授業計画】 1. 授業の内容は以下の通りであるが、学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える。1. モデル化のための枠組み 2. 人口問題と成長モデル 3. 葉の吸収モデル 4. 水の加熱と冷却の数理モデル 5. ロケットの飛行モデル 6. 抑制された成長モデル 7. 広告に対する売り上げの反応モデル 8. 美術品の贋作判定モデル 9. 電気回路モデル 10. 新古典派の経済成長モデル 11. 五大湖の汚染判定モデル 12. 個人の消費行動モデル 13. 電気回路網モデル 14. 惑星の運動モデル 15. 化学反応速度モデル

【成績評価】 授業への取り組み状況、演習、レポート、試験などをもとに総合的に評価する。

【再試験】 無

【教科書】 「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・パージェス/著 モラグ・ポリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219279>

【連絡先】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 「隔年開講」「本年度開講せず」平成 24 年度開講

情報システム特論 I

2 単位 2 年 (後期, 集中)
庄野 和彦・/テック情報 株式会社
新見 昌弘・/富士通徳島システムエンジニアリング

【授業目的】情報分野はコンピュータ技術の発展に伴い発展し、その分野自体も多様化し技術および環境も複雑化してきている。このように目覚しく発展している分野では教科書や書物だけで学習するだけでは不十分となってきている。本講義では大学内で学習した、或いは学習する内容が、企業でどの様に役に立っているか、ということを実際の現場の人の講義を通して学ぶことを目的とする。

【授業計画】1. 前半は富士通株式会社から新見昌弘氏を講師として予定している。2. 後半はテック情報株式会社から庄野和彦氏を講師として予定している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219228>

【連絡先】

⇒ 庄野

⇒ 新見

【備考】○隔年開講 ○本年度開講せず。

情報システム特論 II

2 単位 2 年 (後期, 集中)

森本 哲史・非常勤講師, 永易 歳浩・/(株)NTT コミュニケーションズ

【授業目的】近年、さまざまな問題を解決するためにコンピュータが利用されるようになってきた。そのためには、問題解決の手順や問題解決と情報との関わり、コンピュータの特性や情報処理の特徴、実際に稼働している情報システムの種類や特性などについて理解することが重要である。さらに、情報システムの開発、運用保守に関する基本的な知識や技術についても習得する必要がある。本講義では、こうした視点に立ち、情報システムの基礎的な内容を実際に企業で活躍されている人の講義を通して学ぶことを目的とする。

【授業計画】1. 前半は STNet ソリューションから森本哲史氏を講師として予定している。2. 後半は西日本電信電話株式会社から永易歳浩氏を講師として予定している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219229>

【連絡先】

⇒ 森本

⇒ 永易

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】「隔年開講」

ネットワーク最適化論

2 単位 3 年 (後期)

network optimization

大橋守・教授/総合理数学科

【授業目的】ネットワークシステムの最適化

【授業概要】この講義ではネットワークシステムや情報システムを効率的に稼働させ、より良い状態を維持するための手法と安全対策に重点を置いて講義する。システムを効率的に運用し、管理するための計画作りと組織化、および、最適化手法について詳しく取り扱う。

【キーワード】数理モデル, 最適化

【先行科目】『線形代数 I』(0.2, ⇒289 頁), 『線形代数 II』(0.2, ⇒289 頁), 『ネットワーク論』(0.2, ⇒299 頁)

【関連科目】『モデリング理論』(0.3, ⇒189 頁), 『計算機概論』(0.2, ⇒180 頁), 『システム管理の基礎』(0.2, ⇒304 頁)

【履修上の注意】3 年前期の「ネットワーク論」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

1. (1) ネットワーク等の管理方法について理解を深める。
2. (2) 基礎的な最適化手法が使える。

【授業計画】1. 1. ネットワーク計画法 1.1 最短経路問題 2. 1.2 最大フロー問題 3. 1.3 最小費用フロー問題 4. 2. PERT-CPM 2.1 PDC サイクル, 2.2 アローダイアグラム 5. 2.3 クリティカルパス, 2.4 ガンチャート 6. 2.5 3 点見積もり 7. 3. 最適化法 3.1 数理計画問題 (1) 8. 3.1 数理計画問題 (2) 9. 3.1 数理計画問題 (3) 10. 3.2 ネットワーク問題 11. 4. 運用管理と保守 4.1 運転管理, 安全管理 12. 4.2 セキュリティ対策 13. 5. 運用管理実習 5.1 システムの起動と停止, ユーザ管理, データ管理 14. 5.2 トラフィック管理, 障害管理, セキュリティ管理 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】レポートと期末試験で評価する。

【再試験】あり。

【教科書】教科書:教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【参考書】

- ◇参考書:一森哲男著「数理計画法」共立出版
- ◇牧野都治著「OR 入門」森北出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219071>

【連絡先】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

ネットワーク論

2 単位 3 年 (前期)

中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】今日、コンピュータの高性能化、および、通信網の整備により、インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている。今後、あらゆる家電製品や携帯電話などが、ネットワークへの接続を前提に作られるようになり、ネットワークが生活の基盤になるであろう。よって、ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ること、は、将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる。このような観点から、情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする。

【授業概要】情報通信ネットワークについて学ぶ

【キーワード】通信ネットワーク, インターネット, プロトコル, TCP/IP

【履修上の注意】2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識があること。

【到達目標】ネットワークに関する知識や設計技法の習得、および、それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする。

【授業計画】1. 情報通信の発達過程 2. ネットワークの種類と形態 3. ネットワークに関する基礎技術 4. 通信プロトコル 1 5. 通信プロトコル 2 6. 伝送制御手順 7. 通信サービスと技術 1 8. 通信サービスと技術 2 9. ネットワークの分析 1 10. ネットワークの分析 2 11. ネットワークの設計 1 12. ネットワークの設計 2 13. ネットワークセキュリティ 1 14. ネットワークセキュリティ 2 15. ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】レポート, 中間試験, 期末試験で総合的に判断する

【再試験】行う

【教科書】プリント

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219072>

【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

データベース基礎論

2 単位 3 年 (後期)

蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】大量にある情報を整理して効率よく管理する能力は、情報化社会においてますます重要になってきている。本講義では、リレーショナルデータベースの理論的事項を理解した上で、実際にリレーショナルデータベースの構築やリレーショナルデータベース言語である SQL を学ぶことにより、管理しやすいデータベースの設計と構築、及び情報検索能力を養うことを目的とする。

【授業概要】前半に、リレーショナルデータベースの理論的事項 (関数従属性, 情報無損失分解, 多値従属性, 正規化理論, リレーショナル代数) を学ぶ。理論を学んだ後で、実際にデータベースを構築し、さらに、リレーショナルデータベース言語である SQL を使い、データベースへの問い合わせの方法を学ぶ。

【キーワード】リレーショナルデータベース, SQL

【履修上の注意】特になし

【到達目標】

1. リレーショナルデータベースの理論的事項を理解すること
2. データベースを構築できること
3. SQL の基本的事項を習得し、データベースへの質問文を SQL で書くことができる

【授業計画】1. リレーショナルデータベース 2. 一貫性制約 3. 関数従属性とその公理系 4. 多値従属性 5. 情報無損失分解 6. 正規化理論 (1)(第 2 正規形, 第 3 正規形) 7. 正規化理論 (2)(ボイス-コード正規形, 関数従属性保存分解) 8. 正規化理論 (3)(第 4 正規形, 第 5 正規形) 9. 中間試験 10. SQL の演習 (1)(データベース構築) 11. SQL の演習 (2)(単純質問) 12. SQL の演習 (3)(結合質問) 13. SQL の演習 (4)(部分質問) 14. Access を使った SQL の演習 15. 総括授業

【成績評価】中間試験, レポート課題, 授業への取り組み等により総合的に評価する。

【再試験】行う

【教科書】参考書: 増永良文著 「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219069>

【連絡先】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 9:10 講時)

量子力学 I

2 単位 3 年 (前期)

日置 善郎・教授/総合理数学科

【授業目的】量子力学の基本的構成の理解

【授業概要】量子力学は、素粒子物理・原子核物理や物性物理といった現代物理学の中核であるばかりでなく、電子工学のような最先端科学技術の重要な基礎ともなっている。従って、物理系分野を専門とする学生だけでなく、自然科学一般を専攻する学生も、その基本的な考え方を理解することが望まれる。ところが、そこにおいては、物体の運動の情報、は、古典力学における位置ベクトルや速度ベクトルのような理解

しやすい量ではなく、初学者にとっては何とも掴み所のない波動関数という量にすべて含まれており、その波動関数の振る舞いを規定するのは、これまたニュートンの運動方程式ではなく、シュレディンガー方程式という名の波動方程式である。この結果、一旦学習を始めても多くの学生は、その入り口で頭を混乱させ立ち往生することになってしまう。この講義は、この量子力学への軟着陸を目指した入門的解説であり、量子力学の中でも特に基本的と考えられる話題(下記)に焦点を絞り、必要に応じて演習も取り入れながら話を進めていく。

【キーワード】シュレディンガー方程式、波動関数、ハミルトニアン、不確定性原理

【先行科目】『力学』(1.0、⇒309頁)

【関連科目】『熱統計力学・量子力学演習』(0.5、⇒318頁)、『量子力学Ⅱ』(0.5、⇒317頁)

【履修上の注意】やさしく解説するとは言っても、講義だけですべてを理解するのは不可能。当然予習・復習等は不可欠。

【到達目標】量子力学の基本方程式はシュレディンガー方程式であることを理解し、簡単な系にそれを適用して、実際に解の波動関数を求めることが出来るようになること。

【授業計画】1. 古典力学から量子力学へ (1) 自然法則とその適用限界 (2) 古典物理学が直面した困難 2. 古典力学から量子力学へ (3) 極微世界の新法則への手掛かり 3. 量子力学のための数学 (1) 複素数 (2) 微積分 (3) 微分方程式 4. 量子力学のための数学 (4) 偏微分とベクトル解析 (5) 演算子の固有値と固有関数 5. シュレディンガー方程式 (1) 波動の数学的表現 (2) 時間に依存するシュレディンガー方程式 6. シュレディンガー方程式 (3) 時間を含まないシュレディンガー方程式 (4) 量子力学という体系 7. 1次元での束縛状態 (1) 井戸型ポテンシャル (2) 無限に深い井戸の場合 (3) 有限の深さの井戸の場合 8. 1次元での束縛状態 (4) 固有関数の規格直交性: 束縛状態の場合 9. 1次元での反射と透過 (1) 確率の保存と確率流密度 10. 1次元での反射と透過 (2) 階段型ポテンシャル 1 11. 1次元での反射と透過 (2) 階段型ポテンシャル 2 12. 1次元での反射と透過 (3) 箱型ポテンシャル障壁: トンネル効果 1 13. 1次元での反射と透過 (3) 箱型ポテンシャル障壁: トンネル効果 2 14. 1次元での反射と透過 (4) 固有関数の規格直交性: 自由状態の場合 1 15. 1次元での反射と透過 (4) 固有関数の規格直交性: 自由状態の場合 2 16. 期末試験

【成績評価】学期末試験(持ち込み不可)だけでなく、数回行う小テスト(持ち込み不可)の結果も総合して判定する。

【再試験】有(但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【教科書】

- ◇教科書: 日置善郎『量子力学』吉岡書店
- ◇参考書: 原康夫『量子力学』岩波書店など。この他に必要に応じてプリント等を配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219474>

【連絡先】

⇒ 日置(総合科学部 3号館 1N04号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)火曜日11時50分~13時(これ以外の時間でも訪問可))

自然システム学科 数理・情報コース 情報科学サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

情報科学演習 ... 中山/4年(通年).....	301
情報科学演習 ... 守安/4年(通年).....	301
情報科学演習 ... 村上/4年(通年).....	301
情報科学演習 ... 蓮沼/4年(通年).....	301
情報科学演習 ... 宇野/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 大淵/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 小野/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 大沼/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 大橋/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 桑原/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 宇野/4年(通年).....	303
情報科学演習 ... 鍋島/4年(通年).....	303
情報科学演習 ... 鍋島/4年(通年).....	303
情報と職業 ... 吉田/3年(後期).....	303
プログラミング演習 ... 宇野/3年(前期).....	303
ネットワーク論 ... 中山/3年(前期).....	303
システム管理の基礎 ... 石田/3年(後期).....	304
ネットワーク最適化論 ... 大橋/3年(後期).....	304
計測・制御概論 ... 村上/3年(前期).....	304
コンピュータグラフィックス基礎論 ... 中山/3年(後期).....	304
データベース基礎論 ... 蓮沼/3年(後期).....	305
情報システム特論 I ... 庄野・新見/2年(後期, 集中).....	305
情報システム特論 II ... 森本・永易/2年(後期, 集中).....	305
数理科学特論 I ... 伊藤/3年(後期).....	305
数理科学特論 II ... 蓮沼/3年(後期).....	305
数値計算法 ... 鍋島/3年(前期).....	306
情報数学 ... 蓮沼/2年(前期), 3年(前期).....	306
マルチメディア基礎演習 ... 河原崎/2年(前期).....	306
インタラクティブコミュニケーション論 ... 掛井/2年(後期).....	306
映像デザイン表現研究 ... 石井/2年(前期).....	306
解析学 I ... 伊藤/3年(前期).....	307
幾何学 I ... 守安/3年(前期).....	307
確率・統計 I ... 大橋/3年(前期).....	307
確率・統計 II ... 守安/3年(後期).....	307
経営戦略論 ... 高橋・石田/3年(後期, 集中).....	308
経営組織論 ... 高橋・石田/2年(前期, 集中).....	308
経済法 II ... 泉・上原/2年(後期).....	308

情報科学演習

4 単位 4 年(通年)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】本演習では、効率的なアルゴリズムの構築法を習得する事を目的とする。そのためにまず、アルゴリズムの設計、および、解析に必要な組み合わせ論、グラフ理論の演習を行い数学的素養を身につける。その後、実際にアルゴリズム設計の演習を行い、なぜそのアルゴリズムがうまく働くのかの「からくり」を理解することにより、計算機を用いた問題解決を効果的に行える能力を構成する。

【授業概要】アルゴリズム論

【到達目標】アルゴリズム設計法を習得する。

【授業計画】1. 1. 組み合わせ論 2. 2. グラフ理論 3. 3. アルゴリズム論 4. 4. 計算量理論

【成績評価】演習に対する取り組み(準備, 出席, 発表など)で評価する。

【再試験】なし

【教科書】資料を配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219234>

【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

情報科学演習

4 単位 4 年(通年)
守安 一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】力学系理論は物理学や化学から生態学や経済学に渡って数多くの非線形問題に適用することが出来る。本演習では、この力学系理論の中からテーマを選び、文献の輪読により基礎理論を学び、数値シミュレーションなどを行うことにより理論の理解を深めていく。

【授業概要】各自の発表を通して、論理的思考や数学的思考を身につける

【履修上の注意】特になし

【到達目標】

1. 論理的な思考を身につける。

2. プレゼンテーションの技術を身につける。

【授業計画】1. 下記のテーマの一つを選び、前期は関連する文献を輪読する。 2. (a) 力学系に関する研究 3. カオスやフラクタルなどに関係する本を選び、主に輪読形式で行う。輪読だけの場合もあれば Visual Basic などプログラムを組み実験を行う場合もある。 4. (b) フラクタル図形 5. 3D フラクタル図形を描くために、フラクタルの基礎と 3D 図形処理の基礎を学ぶ。 6. (c) 情報教育システムの構築 7. 小中高等学校の情報教育の研究とシステムプラン、ソフトウェア開発など 8. 後期は、前期に行った内容から興味のあるものに内容を絞り、数値実験などの実習と結果の発表などを行う。

【成績評価】発表のための準備や発表態度などにより評価する。

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ 長島弘幸・馬場良和:「カオス入門」培風館
- ◇ 石村貞夫・石村園子:「フラクタル数学」東京図書
- ◇ ロビンソン:「力学系」シュプリンガー・フェアラーク東京
- ◇ バイトゲン・ザウベ:「フラクタルイメージ(論理とプログラミング)」シュプリンガー・フェアラーク東京
- ◇ バイトゲン・リヒター:「フラクタルの美(複素力学系のイメージ)」シュプリンガー・フェアラーク東京

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219235>

【連絡先】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時から13時)

情報科学演習

4 単位 4 年(通年)
村上 公一・准教授/総合理数学科

【授業目的】卒業研究の準備を目的として、学生による輪講形式で、基礎的な文献を講読する。

【授業概要】各自の選んだ卒業研究のテーマに沿って、関連する基礎文献を講読する。

【キーワード】文献講読

【到達目標】

1. 問題に主体的に取り組み、自ら定めた目標を達成できるようになること
2. 問題を論理的にとらえ、緻密に分析し、結果を明確に表現できるようになること

【授業計画】1. 学生による発表形式で授業を進める。 2. 学生の理解度や進度に応じて、内容を変更することもある。

【成績評価】授業への取り組み状況により評価する。

【再試験】なし

【教科書】受講者と相談の上、決定する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219236>

【連絡先】

⇒ 村上 (総科1号館2F南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~13:00)

情報科学演習

4 単位 4 年(通年)
蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】グラフ理論について学び、物事を深く考えること、また自分の考えをまとめ発表する能力を養うことを目的とする。

【授業概要】前半は、グラフ理論の教科書を(載っている問題を解きながら)読み、基本的事項の理解及び問題解決能力を養う。後半はテーマを決め、テーマに関連する文献を読み、その後で自分の考察を進める。

【到達目標】論理的な思考と、物事を深く考える態度を身につける

【授業計画】 1. 教科書の輪読し, 内容の紹介および問題の解答の説明, 2. テーマをしぼり, 関連文献を読み, その内容を説明する, 3. テーマについて自分で考え, その進展状況等を報告し, 議論を通して思考を深める, 4. 自分の考えたことを整理し, まとめる.

【成績評価】 本演習に対する取り組み態度により評価する.

【教科書】 授業の時に指定する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219237>

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
宇野 剛史・准教授/総合理数学科

【授業目的】 大規模かつ複雑な数理計画問題に対する最先端の発見的解法に関する理論の修得及びプログラム作成技術の修得

【授業概要】 集合と写像に関する基本的な理論の復習からはじめ, 数理計画問題及び従来解法に関する理論について学ぶ. 次に, 従来解法では解くことが困難な大規模かつ複雑な数理計画問題に対する発見的解法の理論について学ぶ. さらに, 学んだ発見的解法をコード化することで, 実用的なプログラム作成技術を学ぶ.

【到達目標】

1. 数理計画問題及びその従来解法に関する理論の修得
2. 非線形計画問題に対する発見的解法の理論の修得
3. 発見的解法のコード化

【授業計画】 1. 集合論の復習 (1) 実数の連続性 2. 集合論の復習 (2) 集合の定義 3. 集合論の復習 (3) De Morgan の法則 4. 集合論の復習 (4) 写像の定義 5. 集合論の復習 (5) 写像の合成・分解 6. 集合論の復習 (6) 逆写像 7. 数理計画問題とその解法 (1) 数理計画問題 8. 数理計画問題とその解法 (2) 線形計画問題の理論 9. 数理計画問題とその解法 (3) シンプレックス法 10. 数理計画問題とその解法 (4) 2 段階法 11. 数理計画問題とその解法 (5) 拡張シンプレックス法 12. 数理計画問題とその解法 (6) 非線形計画問題の理論 13. 数理計画問題とその解法 (7) まとめ 14. 発見的解法 (1) 発見的解法の適用例 15. 発見的解法 (2) 遺伝的アルゴリズムの理論 16. 発見的解法 (3) 遺伝的アルゴリズムの応用 17. 発見的解法 (4) PSO 手法の概要 18. 発見的解法 (5) PSO 手法の応用 19. 発見的解法 (6) DE アルゴリズムの概要 20. 発見的解法 (7) DE アルゴリズムの応用 21. 発見的解法 (8) まとめ 22. 発見的解法のコード化 (1) プログラミングの復習 23. 発見的解法のコード化 (2) 改定シンプレックス法のコード化 24. 発見的解法のコード化 (3) 発見的解法のアルゴリズムに基づくフローチャートの作成 25. 発見的解法のコード化 (4) フローチャートに基づくコード化 26. 発見的解法のコード化 (5) 各種問題に適用するためのプログラムの微調整 27. 発見的解法のコード化 (6) プログラムのデバッグ 28. 発見的解法のコード化 (7) 完成したプログラムの実例への適用 29. 発見的解法のコード化 (8) 計算結果の考察 30. 発見的解法のコード化 (9) まとめ

【成績評価】 ゼミナール発表 (40%) 及びプログラムの完成度 (60%) による総合評価

【再試験】 なし.

【参考書】 適宜資料を配布する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219238>

【連絡先】

⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
大淵 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】 群・環・体と言った代数学の基本的な理論の総復習から始めて, ある程度高度な理論の修得を目的として, 代数学の様々な分野についての基礎的な知識を深める事をめざしたい. 体と Galois の理論に重点を置き, 場合によっては可換環論の理論の修得もめざしたい.

【授業概要】 タイトル: 体とガロア理論 本講義は以下の内容でゼミナール形式により行う事とする. 1. 群論 部分群, 正規部分群, 準同型定理, 巡回群, 置換群, Sylow の定理 2. 環論 イdeal, 剰余環, 多項式環, 整域, 単項イdeal整域, 素元分解 3. 可群 加群, 自由加群, 加群の構造定理 4. 体論 拡大, 単純拡大, 有限次拡大, 代数拡大, 分解体, 自己同型, 正規拡大, Galois 理論の基本定理, 中根, 可解

【到達目標】 代数が理解できるようになること

【授業計画】 本講義はゼミナール形式により行う事とする.

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219232>

【連絡先】

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12:00-13:00)

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 卒業研究テーマに関係した文献や資料を基に, 卒業研究に役立つ基礎知識を身につける.

【授業概要】 卒業研究テーマに関する基礎を身につける.

【キーワード】 数理学, 卒業研究

【履修上の注意】 卒業研究テーマに関連した基礎知識の修得に積極的に取り組みること.

【到達目標】 各自の卒業研究テーマに沿って, 自主的に研究をすすめる.

【授業計画】 1. 受講生が研究したいテーマを相談のうえ決定し, そのテーマに関連した文献や資料を読む. 2. 以下, テーマの例をいくつか紹介する. 3. 現象解析 4. 微分方程式 5. 偏微分方程式 6. 関数解析 7. フーリエ解析 8. 超関数 9. ルベーグ積分 10. 初等解析学 11. 数値解析

【成績評価】 授業への取り組み状況および発表態度などをもとに総合的に評価する.

【再試験】 無

【教科書】 受講生との相談による研究テーマ内容と基礎知識を判断した上で決定する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219239>

【連絡先】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16時30分~17時)

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
大沼 正樹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 卒業研究を進めるための基礎的な知識を取得する.

【授業概要】 受講生の選んだ卒業研究のテーマに合わせて文献を選び講読する.

【キーワード】 文献講読

【到達目標】

1. 専門文献の講読の方法を学びその理解した内容を説明できる.
2. 卒業研究を自主的に進めることができる.

【授業計画】 1. 受講生と相談して決定した文献を受講生による輪読形式で授業を進めます. 2. 文献を読んで理解した内容を黒板を用いて発表する形式で進めます.

【成績評価】 授業への取り組み状況と発表状況により評価します.

【再試験】 無

【教科書】 受講生と相談して決定します.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219240>

【連絡先】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:10~17:00)

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
大橋 守・教授/総合理数学科

【授業目的】 卒業研究の準備を目的として, 学生による輪講形式で, 基礎的な文献を講読する.

【授業概要】 各自の選んだ卒業研究のテーマに沿って, 関連する基礎文献を講読する.

【キーワード】 文献講読

【到達目標】 問題に主体的に取り組み, 自ら定めた目標を達成できるようになること.

【授業計画】 学生による発表形式で授業を進める.

【成績評価】 授業への取り組み状況により評価する.

【再試験】 なし

【教科書】 受講生と相談の上, 決定する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219241>

【連絡先】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分~12 時 50 分)

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
桑原 類史・教授/総合理数学科

【授業目的】 情報科学に関する卒業研究を進めるための基礎的な知識を取得する.

【授業概要】 受講生の選んだ卒業研究のテーマに合わせて文献を選び講読する.

【キーワード】 文献講読

【到達目標】

1. 専門文献の講読の方法を学びその理解した内容を説明できる.
2. 卒業研究を自主的に進めることができる.

【授業計画】1. 受講生と相談して決定した文献を受講生による輪読形式で授業を進めます。2. 文献を読んで理解した内容を黒板を用いて発表する形式で進めます。(前期) 3. 輪読した内容のなかで、各自が興味を持ったテーマについて、より深く勉強、研究し、それを報告する形式で進めます。(後期)

【成績評価】授業への取り組み状況と発表状況により評価します。

【再試験】無

【教科書】受講生と相談して決定します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219242>

【連絡先】
⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
宇野 剛史・准教授/総合理数学科

【授業目的】大規模かつ複雑な数理計画問題に対する最先端の発見的解法に関する理論の修得及びプログラム作成技術の修得

【授業概要】集合と写像に関する基本的な理論の復習からはじめ、数理計画問題及び従来解法に関する理論について学ぶ。次に、従来解法では解くことが困難な大規模かつ複雑な数理計画問題に対する発見的解法の理論について学ぶ。さらに、学んだ発見的解法をコード化することで、実用的なプログラム作成技術を学ぶ。

【到達目標】

1. 数理計画問題及びその従来解法に関する理論の修得
2. 非線形計画問題に対する発見的解法の理論の修得
3. 発見的解法のコード化

【授業計画】1. 集合論の復習 (1) 実数の連続性 2. 集合論の復習 (2) 集合の定義 3. 集合論の復習 (3) De Morgan の法則 4. 集合論の復習 (4) 写像の定義 5. 集合論の復習 (5) 写像の合成・分解 6. 集合論の復習 (6) 逆写像 7. 数理計画問題とその解法 (1) 数理計画問題 8. 数理計画問題とその解法 (2) 線形計画問題の理論 9. 数理計画問題とその解法 (3) シンプレックス法 10. 数理計画問題とその解法 (4) 2 段階法 11. 数理計画問題とその解法 (5) 拡張シンプレックス法 12. 数理計画問題とその解法 (6) 非線形計画問題の理論 13. 数理計画問題とその解法 (7) まとめ 14. 発見的解法 (1) 発見的解法の適用例 15. 発見的解法 (2) 遺伝的アルゴリズムの理論 16. 発見的解法 (3) 遺伝的アルゴリズムの応用 17. 発見的解法 (4) PSO 手法の概要 18. 発見的解法 (5) PSO 手法の応用 19. 発見的解法 (6) DE アルゴリズムの概要 20. 発見的解法 (7) DE アルゴリズムの応用 21. 発見的解法 (8) まとめ 22. 発見的解法のコード化 (1) プログラミングの復習 23. 発見的解法のコード化 (2) 改定シンプレックス法のコード化 24. 発見的解法のコード化 (3) 発見的解法のアルゴリズムに基づくフローチャートの作成 25. 発見的解法のコード化 (4) フローチャートに基づくコード化 26. 発見的解法のコード化 (5) 各種問題に適用するためのプログラムの微調整 27. 発見的解法のコード化 (6) プログラムのデバッグ 28. 発見的解法のコード化 (7) 完成したプログラムの実際例への適用 29. 発見的解法のコード化 (8) 計算結果の考察 30. 発見的解法のコード化 (9) まとめ

【成績評価】ゼミナール発表 (40%) 及びプログラムの完成度 (60%) による総合評価

【教科書】なし

【参考書】適宜資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219243>

【連絡先】
⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
鍋島 克輔・准教授/総合理数学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222178>

【連絡先】
⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報科学演習

4 単位 4 年 (通年)
鍋島 克輔・准教授/総合理数学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222179>

【連絡先】
⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報と職業

2 単位 3 年 (後期)
吉田 敦也・教授/社会創生学科

【授業目的】 計算機やインターネットの発達、普及による情報化が産業、社会へどのように影響しているか、それらが職業、雇用にどのような影響を与えているかを調査、探求して理解を深めていくのが目的である。

【授業概要】 情報システム、情報化のビジネスへの影響、情報技術の企業での利用状況、電子商取引、インターネットビジネス、情報産業、情報技術の人材育成、情報化の、雇用と職業への影響等について、受講生に主体的に、調査、探索をしてもらい、発表、議論をすることで理解を深める。受講生が調査、準備している間に、情報システムの発展という観点から、計算機の発展の歴史についてかなり詳しく説明をする。

【キーワード】 情報社会、経営情報、電子商取引、情報システム

【到達目標】

1. 情報システムについて調べる。
2. 情報化のビジネスへの影響、情報技術の企業での利用について考える。
3. 電子商取引、インターネットビジネスについて理解する。
4. 情報産業について理解する。
5. 情報化と教育、情報化のため人材育成を理解する。
6. 情報化時代の雇用、職業の状態を理解する。

【授業計画】 1. 情報システムについて (1~3) 2. 情報化のビジネスへの影響 (4~6) 3. 情報技術、情報システムの企業での利用状況 (7~8) 4. 電子商取引とインターネットビジネス (9~10) 5. 情報技術の人材育成 (11~12) 6. 情報化の雇用、職業への影響 (13~14) 7. 時間の余裕のあるときに、情報システムの発展という観点から計算機の歴史を説明する。

【成績評価】 2~3 人のグループに分かれて、いろいろな問題について、主体的に調査、探求して、報告をしてもらいます。それを、評価の中心にします。更に、授業の最後で、簡単なレポートを書いてもらうことがあります。この評価を加味します。

【再試験】 なし。

【教科書】 教科書: 使用せず

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219227>

【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp)

プログラミング演習

2 単位 3 年 (前期)
宇野 剛史・准教授/総合理数学科

【授業目的】 本演習では、他の講義・演習で学んできた数学的知識・アルゴリズム・プログラミング技術を応用して、さまざまな問題を解くためのアルゴリズムを考案してコード化できるように知識・技術を修得し、使いこなせるようになることを目的とする。

【授業概要】 C 言語によるプログラミングの応用的知識・技術の修得

【キーワード】 C 言語, プログラミング, アルゴリズム

【先行科目】 『プログラミング演習』(1.0, 303 頁)

【履修上の注意】 受講者は各授業において、C 言語の本 (プログラム作成用) および USB メモリ (データ保存用) を持参すること。

【到達目標】 さまざまな問題を解決するためのアルゴリズムを考案し、C 言語でプログラミングできるようにする。

【授業計画】 1. ガイダンス、問題解決とプログラミングの概要 2. C 言語の復習 (i) データの入出力 3. C 言語の復習 (ii) 条件分岐による命令の実装 4. C 言語の復習 (iii) 関数の利用 5. 問題演習: 基礎編 (i) 全探索 6. 問題演習: 基礎編 (ii) 貪欲法 7. 問題演習: 基礎編 (iii) 動的計画法 8. 問題演習: 応用編 (i) グラフ構造の利用 9. 問題演習: 応用編 (ii) 二分法 10. 問題演習: 応用編 (iii) 反復法 11. 期末レポートのための問題の考案 12. 問題解決のための手段の考案 13. 問題解決のための手段のコード化 14. 期末レポートの作成 15. 完成した期末レポートに対するグループディスカッション 16. 総括授業

【成績評価】 出席回数、授業態度、レポートによって成績を総合的に評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 特に指定しませんが、授業では C 言語の本を必ず持ってきてください。

【参考書】
◇ 柴田望洋「新版 明解 C 言語入門編」ソフトバンク・クリエイティブ
◇ 秋葉拓哉「プログラミングコンテスト チャレンジブック」毎日コミュニケーションズ

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218986>

【連絡先】
⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

ネットワーク論

2 単位 3 年 (前期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】今日、コンピュータの高性能化、および、通信網の整備により、インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている。今後、あらゆる家電製品や携帯電話などが、ネットワークへの接続を前提に作られるようになり、ネットワークが生活の基盤になるであろう。よって、ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ること、は、将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる。このような観点から、情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする。

【授業概要】情報通信ネットワークについて学ぶ

【キーワード】通信ネットワーク、インターネット、プロトコル、TCP/IP

【履修上の注意】2進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識があること。

【到達目標】ネットワークに関する知識や設計技法の習得、および、それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする。

【授業計画】1. 情報通信の発達過程 2. ネットワークの種類と形態 3. ネットワークに関する基礎技術 4. 通信プロトコル 1 5. 通信プロトコル 2 6. 伝送制御手順 7. 通信サービスと技術 1 8. 通信サービスと技術 2 9. ネットワークの分析 1 10. ネットワークの分析 2 11. ネットワークの設計 1 12. ネットワークの設計 2 13. ネットワークセキュリティ 1 14. ネットワークセキュリティ 2 15. ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】レポート、中間試験、期末試験で総合的に判断する

【再試験】行う

【教科書】プリント

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219072>

【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

システム管理の基礎

2 単位 3 年 (後期)

石田 基広・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】システムとして情報処理システムを管理運用するための基礎知識と技術を身に付ける。特に現在必要とされるネットワーク環境下の情報処理システムに関する基礎知識と技術を扱う。

【授業概要】情報システム (Unix ネットワーク環境) の管理の基礎を学ぶ。

【キーワード】情報処理システム、サーバ管理、サーバ運用、Linux、Unix

【先行科目】『プログラミング演習』(1.0, ⇒303 頁), 『情報システム特論 I』(1.0, ⇒305 頁)

【関連科目】『ネットワーク論』(0.5, ⇒303 頁), 『データベース基礎論』(0.5, ⇒305 頁), 『ネットワーク最適化論』(0.5, ⇒304 頁)

【履修上の注意】実務的な内容が強いこの講義は情報処理機器の基礎知識を必要とします。計算機概論とプログラミング基礎演習 (C 言語) を受講しておいてください。情報システムには PC-Unix (Linux) を用います。平行で開講か、続いて開講のネットワーク論やデータベース基礎論、ネットワーク最適化論で役立つ実際の経験ともなります。受講者が多く PC を用いての演習に無理がある場合は講義内容を変更する場合があります。

【到達目標】Unix OS に近い環境を持ち、現在注目される OS である最新の Linux を使い、ユーザ管理、DNS や Mail サービス環境が構築でき、その環境を維持・管理する基礎知識と技術を身につける。

【授業計画】1. システム理解のための基礎認識 2. システム導入実習 I (Windows) 3. システム導入実習 II (PC Unix の現状) 4. システム導入実習 III (PC Unix のインストール) 5. システム設定実習 I (PC Unix の基礎) 6. システム設定実習 II (PC Unix の利用) 7. システム設定実習 III (PC Unix の環境設定) 8. システム管理実習 I (DNS の導入) 9. システム管理実習 II (DNS の設定) 10. システム管理実習 I (DNS の管理) 11. システム管理実習 II (http サーバーの起動) 12. システム管理実習 III (smtp サーバーの起動) 13. システムセキュリティ実習 I (Unix の Shell) 14. システムセキュリティ実習 II (情報管理) 15. システム保守実習 (トラブル対策)

【成績評価】実習・実験を重視する。特にサーバの起動・設定等し、それが出来たかどうかや実習中の取り組み姿勢などを平常点として加味する。従い期末試験による成績評価は行わない。

【再試験】実習が中心であり行わない。

【教科書】ソーテック社、Fedora (フェドラー) 11 で作る最強の自宅サーバー (変更の可能性あり)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219060>

【連絡先】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

ネットワーク最適化論 network optimization

2 単位 3 年 (後期)

大橋 守・教授 / 総合理数学科

【授業目的】ネットワークシステムの最適化

【授業概要】この講義ではネットワークシステムや情報システムを効率的に稼働させ、より良い状態を維持するための手法と安全対策に重点

を置いて講義する。システムを効率的に運用し、管理するための計画作りと組織化、および、最適化手法について詳しく取り扱う。

【キーワード】数理解モデル、最適化

【先行科目】『線形代数 I』(0.2, ⇒289 頁), 『線形代数 II』(0.2, ⇒289 頁), 『ネットワーク論』(0.2, ⇒303 頁)

【関連科目】『モデリング理論』(0.3, ⇒189 頁), 『計算機概論』(0.2, ⇒180 頁), 『システム管理の基礎』(0.2, ⇒304 頁)

【履修上の注意】3年前期の「ネットワーク論」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

- (1) ネットワーク等の管理方法について理解を深める。
- (2) 基礎的な最適化手法が使える。

【授業計画】1. 1. ネットワーク計画法 1.1 最短経路問題 2. 1.2 最大フロー問題 3. 1.3 最小費用フロー問題 4. 2. PERT-CPM 2.1 PDC サイクル, 2.2 アローダイアグラム 5. 2.3 クリティカルパス, 2.4 ガンチャート 6. 2.5 3点見積もり 7. 3. 最適化法 3.1 数理解計画問題 (1) 8. 3.1 数理解計画問題 (2) 9. 3.1 数理解計画問題 (3) 10. 3.2 ネットワーク問題 11. 4. 運用管理と保守 4.1 運転管理, 安全管理 12. 4.2 セキュリティ対策 13. 5. 運用管理実習 5.1 システムの起動と停止, ユーザ管理, データ管理 14. 5.2 トラフィック管理, 障害管理, セキュリティ管理 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】レポートと期末試験で評価する。

【再試験】あり。

【教科書】教科書:教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【参考書】

- 参考書:一森哲男著「数理解計画法」共立出版
- 参考書:牧野都治著「OR 入門」森北出版

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219071>

【連絡先】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

計測・制御概論

2 単位 3 年 (前期)

村上 公一・准教授 / 総合理数学科

【授業目的】日常表に見えないがマイクロコンピュータは現在至る所に組み込まれ、快適な現代生活を支える重要なデバイスである。このデバイスは複雑な動作を自動制御によって達成できるよう組み込まれる。自動制御は、そのデバイスの置かれた環境の自動計測機能も必要となる。ここではこれら技術の基礎を身に付ける。

【授業概要】現代的な計測・制御システムの基礎を学ぶ。

【キーワード】計測技術、制御理論、電気・電子回路

【関連科目】『プログラミング演習』(0.5, ⇒303 頁)

【履修上の注意】この講義では、デジタル回路や電気回路の基礎知識、プログラミング言語の知識、及び、計算機のハードウェアの知識が必要になります。なお、レポートはワープロで作成したものしか受け付けないので注意してください。

【到達目標】電気・電子回路の基礎を身につけ、電気・電子回路を回路図から読み取り、設計できるようになる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 理科系レポートの書き方 3. 電気に関する基礎知識 4. 抵抗器, コンデンサ 5. トランジスタ, ダイオード 6. レポート 1 7. オペアンプ 8. A/D 変換機・D/A 変換機 9. レポート 2 10. IC の概略, デジタル回路と論理 11. フリップフロップ, カウンタ 12. エンコーダとデコーダ, マルチバイブレータ 13. IC 使用上の注意点 14. 期末レポート 15. 作成したレポートに対するディスカッション 16. 総括授業

【成績評価】出席及びレポート課題の提出状況により評価する。よって、期末試験は行わない。

【再試験】無

【教科書】見崎正行, 小峯龍男「よくわかるメカトロニクス」東京電機大学出版局 2600 円 (税抜)

【参考書】必要時に事前に配布。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219460>

【連絡先】

⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】特になし。

コンピュータグラフィックス基礎論

2 単位 3 年 (後期)

中山 慎一・准教授 / 総合理数学科

【授業目的】コンピュータの普及と共に、さまざまな分野でコンピュータグラフィックス (CG) が活用されるようになってきている。CG を作成するには、デザイン関連の知識も必要であるが、コンピュータで幾何学的な計算をさせるため、数学的な知識も必要である。本講義で

は、コンピュータグラフィックスに関する概念や理論、特に、CGの基本として使われる数学的手法について論じる。また理論を学んだ後に随時プログラムも行う。

【授業概要】 コンピュータグラフィックにおける数学的手法について学び、その後プログラム作成を行う。

【キーワード】 コンピュータ・グラフィックス

【先行科目】 『プログラミング演習』(1.0, ⇒303頁)

【関連科目】 『プログラミング演習』(0.5, ⇒303頁)

【履修上の注意】 グラフィックスに関するプログラム演習を行うので、C言語を使いこなせること

【到達目標】 コンピュータグラフィックスに関する概念や理論を習得し、コンピュータグラフィックスに関するプログラミングが可能となることを目標とする。

【授業計画】 1. 概論, CGの現状 2. 座標系 3. 物体の表現 4. 形状モデル 5. 幾何学的要素の代数的表現 6. 変換行列 7. 図形の投影:投影変換, 並行投影, 透視投影 8. 図形の変換 I :アフィン変換 9. 図形の変換 II :射影変換 10. 投影図法 11. 透視変換と射影変換 12. 曲線 I :クロソイド曲線, スプライン曲線 13. 曲線 II :2次曲線, 3次曲線 14. レンダリング 15. コンピュータアニメーション

【成績評価】 レポート, 中間試験, 期末試験で総合的に判断する

【再試験】 行う

【教科書】 授業時に指定する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219059>

【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

データベース基礎論

2 単位 3 年 (後期)
連沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 大量にある情報を整理して効率よく管理する能力は、情報化社会においてますます重要になってきている。本講義では、リレーショナルデータベースの理論的事項を理解した上で、実際にリレーショナルデータベースの構築やリレーショナルデータベース言語である SQL を学ぶことにより、管理しやすいデータベースの設計と構築、及び情報検索能力を養うことを目的とする。

【授業概要】 前半に、リレーショナルデータベースの理論的事項(関数従属性, 情報無損失分解, 多値従属性, 正規化理論, リレーショナル代数)を学ぶ。理論を学んだ後で、実際にデータベースを構築し、さらに、リレーショナルデータベース言語である SQL を使い、データベースへの問い合わせの方法を学ぶ。

【キーワード】 リレーショナルデータベース, SQL

【履修上の注意】 特になし

【到達目標】

1. リレーショナルデータベースの理論的事項を理解すること
2. データベースを構築できること
3. SQL の基本的事項を習得し、データベースへの質問文を SQL で書くことができる

【授業計画】 1. リレーショナルデータベース 2. 一貫性制約 3. 関数従属性とその公理系 4. 多値従属性 5. 情報無損失分解 6. 正規化理論(1)(第2正規形, 第3正規形) 7. 正規化理論(2)(ボイス-コッド正規形, 関数従属性保存分解) 8. 正規化理論(3)(第4正規形, 第5正規形) 9. 中間試験 10. SQL の演習(1)(データベース構築) 11. SQL の演習(2)(単純質問) 12. SQL の演習(3)(結合質問) 13. SQL の演習(4)(部分質問) 14. Access を使った SQL の演習 15. 総括授業

【成績評価】 中間試験, レポート課題, 授業への取り組み等により総合的に評価する。

【再試験】 行う

【教科書】 参考書: 増永良文著 「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219069>

【連絡先】

⇒ 連沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:10講時)

情報システム特論 I

2 単位 2 年 (後期, 集中)
庄野 和彦・/テック情報株式会社
新見 昌弘・/富士通徳島システムエンジニアリング

【授業目的】 情報分野はコンピュータ技術の発展に伴い発展し、その分野自体も多様化し技術および環境も複雑化してきている。このように目覚しく発展している分野では教科書や書物だけで学習するだけでは不十分になってきている。本講義では大学内で学習した、或いは学習する内容が、企業でどの様に役に立っているか、ということを実際の現場の人の講義を通して学ぶことを目的とする。

【授業計画】 1. 前半は富士通株式会社から新見昌弘氏を講師として予定している。 2. 後半はテック情報株式会社から庄野和彦氏を講師として予定している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219228>

【連絡先】

⇒ 庄野・

⇒ 新見・

【備考】 ◦ 隔年開講 ◦ 本年度開講せず。

情報システム特論 II

2 単位 2 年 (後期, 集中)
森本 哲史・非常勤講師, 永易 歳浩・/(株)NTTコミュニケーションズ

【授業目的】 近年, さまざまな問題を解決するためにコンピュータが利用されるようになってきた。そのためには, 問題解決の手順や問題解決と情報との関わり, コンピュータの特性や情報処理の特徴, 実際に稼働している情報システムの種類や特性などについて理解することが重要である。さらに, 情報システムの開発, 運用保守に関する基本的な知識や技術についても習得する必要がある。本講義では, こうした視点に立ち, 情報システムの基礎的な内容を実際に企業で活躍されている人の講義を通して学ぶことを目的とする。

【授業計画】 1. 前半は STNet ソリューションから森本哲史氏を講師として予定している。 2. 後半は西日本電信電話株式会社から永易歳浩氏を講師として予定している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219229>

【連絡先】

⇒ 森本・

⇒ 永易・

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 「隔年開講」

数理科学特論 I

2 単位 3 年 (後期)
伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業目的】 関数解析は古典的な解析学から発展した学問領域であり、応用範囲の広い数学分野の1つである。この講義では関数解析の基本事項を理解し抽象的な理論の具体的な利用法などについて学習する。

【授業概要】 関数解析に関連する基本事項について解説する。

【キーワード】 関数解析, バナッハ空間

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒292頁)

【関連科目】 『数理科学演習』(0.5, ⇒294頁), 『情報科学演習』(0.5, ⇒302頁)

【履修上の注意】 授業には積極的に取り組むこと。

【到達目標】 関数解析の基本事項を理解し抽象的な理論の取り扱いに慣れる。

【授業計画】 1. 授業の内容は以下の通りであるが、学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える。1. 集合 2. 理論の記号 3. 実数について 4. 縮小写像の原理 5. ベクトル空間 6. バナッハ空間の定義 7. バナッハ空間の性質 8. 連続関数の空間 9. バナッハ空間における縮小写像の原理 10. 線形作用素 11. 有界線形作用素の定義 12. 有界線形作用素の作る空間 13. 逆作用素 14. 微分方程式と積分方程式 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 授業への取り組み状況, 演習, レポート, 試験などをともに総合的に評価する。

【再試験】 無

【教科書】 「改訂 関数解析入門」洲之内治男著(サイエンス社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219278>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

【備考】 本年度開講(「隔年開講」科目)

数理科学特論 II

2 単位 3 年 (後期)
連沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する。また、それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し、現象の数学問題への定式化および意味づけを行う。さらに、数理モデルの妥当性や説明・予測・制御等の初等的方法について理解を深める。

【授業概要】 現象解析のための基本事項について解説する。

【キーワード】 自然現象の数理, 社会現象の数理, 現象解析の数理

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒292頁)

【関連科目】 『数理科学演習』(0.5, ⇒294頁), 『情報科学演習』(0.5, ⇒302頁)

【履修上の注意】微分積分学の基本事項を履修しておくこと。授業には積極的に取り組むこと。

【到達目標】数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する。

【授業計画】1. 授業の内容は以下の通りであるが、学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える。1. モデル化のための枠組み 2. 人口問題と成長モデル 3. 葉の吸収モデル 4. 水の加熱と冷却の数理モデル 5. ロケットの飛行モデル 6. 抑制された成長モデル 7. 広告に対する売り上げの反応モデル 8. 美術品の贋作判定モデル 9. 電気回路モデル 10. 新古典派の経済成長モデル 11. 五大湖の汚染判定モデル 12. 個人の消費行動モデル 13. 電気回路網モデル 14. 惑星の運動モデル 15. 化学反応速度モデル

【成績評価】授業への取り組み状況、演習、レポート、試験などをもとに総合的に評価する。

【再試験】無

【教科書】「微分方程式で数学モデルを作ろう」デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219279>

【連絡先】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】「隔年開講」「本年度開講せず」平成 24 年度開講

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 9-10 講時)

マルチメディア基礎演習

2 単位 2 年 (前期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】Web を活用した表現と Web サイト運営の実践

【授業概要】web を用いた表現又はサービスを企画し構築する。web のみならず、ギャラリーでの展示やストーリーミング等と連携したものも含む。

【先行科目】『デッサンと表現技法』(0.5, ⇒185 頁)

【関連科目】『映像デザイン表現研究』(0.5, ⇒306 頁), 『アート・アンド・テクノロジー論』(0.5, ⇒181 頁), 『インタラクティブコミュニケーション論』(0.5, ⇒306 頁)

【履修上の注意】新カリキュラムの Web デザイン II と同時に開講

【到達目標】各自 Web サイトの構築と運営, web を活用した表現の発表。

【授業計画】1. web の現状 1 2. web の現状 2 3. Web を活用した表現のプランニング 1 4. Web を活用した表現のプランニング 2 5. Web を活用した表現のプランニング 3 6. Web を活用した表現のプランニング 4 7. プランのプレゼンテーション 1 8. プランのプレゼンテーション 2 9. Web を活用した表現の構築 1 10. Web を活用した表現の構築 2 11. Web を活用した表現の構築 3 12. Web を活用した表現の構築 4 13. Web を活用した表現の構築 5 14. 完成作品のプレゼンテーション 1 15. 完成作品のプレゼンテーション 2 16. 総括

【成績評価】課題と出席

【再試験】実施せず

【教科書】各自で WEB 制作に関する書籍, 参考書, 雑誌等を購入すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219077>

【連絡先】

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】この講義はマルチメディアコースの必修科目なので, コース所属学生は必ず受講すること。

インタラクティブコミュニケーション論 2 単位 2 年 (後期)

掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】C 言語によるプログラミングを通じて論理的な思考方法を身に着け, 簡易なプログラムを自ら作成できるようにする。

【授業概要】C 言語の文法を学び, 与えられたアプリケーションを利用するだけでなく, 自らプログラムを作成することにより, 論理的な思考方法やコンピュータによる情報処理方法を理解する。

【キーワード】プログラミング, 情報リテラシー

【関連科目】『映像メディア表現研究』(1.0, ⇒180 頁), 『仮想環境構築法 I』(1.0, ⇒187 頁)

【履修上の注意】「映像メディア表現研究」, 「仮想環境構築法 I」の受講は「インタラクティブコミュニケーション論」の履修が条件となります。「映像メディア表現研究」, 「仮想環境構築法 I」の受講希望者は本授業を必ず受講してください。他コースからの受講は人数制限をする可能性があります。

【到達目標】C 言語を用いて簡易なプログラムを作成できるようになる。

【授業計画】1. プログラム作成の流れ 2. C 言語の約束事 3. 変数と算術演算子 4. 型変換と記憶クラス 5. 条件による分岐 if 文 6. 条件による分岐 2 switch 文 7. 繰り返し処理 1 for 文 8. 繰り返し処理 2 while 文 9. 実習 1 「条件分岐」, 「繰り返し処理」, 「乱数」を利用したプログラム作成 10. 配列 11. 関数 12. ポインタとアドレス 13. ポインタと配列 14. 構造体 15. 再帰 16. 実習 2 「関数呼び出し」, 「配列」, 「ポインタ」を利用したプログラム作成

【成績評価】課題の提出及び授業貢献により評価。試験は実施せず。

【再試験】再評価は実施せず。

【参考書】授業中に適宜指定する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219052>

【連絡先】

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 5-6 (他の時間帯でも連絡の上随時訪問可))

映像デザイン表現研究

Study of Visual Image Expression

2 単位 2 年 (前期)
石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】多様化した現代の画像表現技術を学ぶと共に、美術館・図書館・官庁等で所有している写真や芸術作品の保存・修復・管理について、その在り方、必要性等についても考察し、表現と保存の両面から今後考えられる画像文化の在り様を探る。

数値計算法

2 単位 3 年 (前期)
鍋島 克輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】数値計算法とは数学の問題を数值的に合理的かつ実可能な方法で適切な精度のもとに、解く事に関する方法論である。本講義では、各種数値計算技法の中で基本的かつよく使われるものを選んで、技法の説明や使用時の注意事項等について解説をする。

【授業概要】基本的な数値計算技法

【履修上の注意】講義を理解するのに必要な知識は、線形代数, 微分積分学, 関数解析, 線形微分方程式などであるが, これらについてはその都度講義で解説する。

【到達目標】いくつかの数値計算法の手法を実際に使え, 必要に応じて更に新たな方法に習熟できるようにする。

【授業計画】1. コンピューターにおける数の世界 2. 誤差について 3. 非線型方程式 二分法・ニュートン法 4. 連立一次方程式 ガウス・ジョルダンの消去法 5. 連立一次方程式 LU 分解法 6. 連立一次方程式 ヤコビ法, ガウスサイデル法 7. 関数近似と補間法 ワイヤシュトラスの定理 8. 関数近似と補間法 最小二乗近似 9. 関数近似と補間法 ラグランジェの補間 10. 数値積分 ニュートン・コーツの公式 11. 微分方程式 初期値問題 1 12. 微分方程式 初期値問題 2 13. 固有値問題 1 14. 固有値問題 2 15. 期末テスト

【成績評価】レポートおよび期末試験による得点で評価します。

【再試験】行わない。

【教科書】特に指定しない。

【参考書】篠原能材『数値解析の基礎』日新出版, 名取亮『線形計算』朝倉書店, 名取亮『数値解析とその応用』コロナ社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219260>

【連絡先】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報数学

2 単位 2 年 (前期), 3 年 (前期)
蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】計算機科学の基礎理論である, オートマトン, 言語理論, 計算論についての理解を深めることを目的とする。

【授業概要】オートマトン, 正則表現, 文脈自由文法, プッシュダウン・オートマトン, Turing 機械, 判定不能問題, NP 完全性

【キーワード】オートマトン, 言語, 計算

【到達目標】

1. 有限オートマトンの基本的事項 (決定性, 非決定性, 正則表現, 状態数最小化を理解する。
2. 文脈自由文法とプッシュダウンオートマトンの関係について理解する。
3. Turing 機械, 決定不能性, NP 完全性を理解する。
【授業計画】1. 有限オートマトン 2. 決定性, 非決定性 3. 正則表現 4. 非正則言語 5. 状態数最小化 6. 文脈自由文法 7. プッシュダウン・オートマトン 8. 言語とオートマトン 9. Turing 機械 10. Turing 可算言語 11. 決定不能問題 12. 計算量クラス 13. 還元可能性 14. NP 完全性 15. 総括授業

【成績評価】期末テスト, レポート課題, 授業への取り組み等により総合的に評価する。

【再試験】行う。

【教科書】参考書: 計算論の基礎, Michael Sipser 著, 渡辺・太田 監訳 共立出版

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219231>

【連絡先】

- 【授業概要】** 19世紀中紀から現代に至る写真画像表現について考察し、デジタル画像処理の今後についても検討する。
- 【キーワード】** 映像情報、写真画像
- 【先行科目】** 『アーツ・アンド・テクノロジー論』(1.0, ⇒181頁), 『芸術基礎理論演習』(1.0, ⇒179頁)
- 【関連科目】** 『映像メディア表現研究』(0.5, ⇒180頁)
- 【履修上の注意】** 前期開講。受講条件:アーツ・アンド・テクノロジー論を受講することが望ましい。講義はマルチメディア B棟1階 講義・実習室にて行なう。
- 【到達目標】** 映像に関する基礎知識を身につける。
- 【授業計画】** 1. 時代背景を追いながら考察を行う 2. 受講者による発表を中心に授業を進める 3. 写真表現の現状と保存・修復・管理について 4. 白黒フィルムによるスタジオ撮影について 5. カラーフィルムによるスタジオ撮影について 6. 白黒フィルムの撮影後の処理について 7. カラーフィルムの撮影後の処理について 8. 白黒・カラーフィルムのプリント処理及び管理方法について 9. サイアノタイプ技法によるワークショップ 10. ピンホールカメラの制作 11. ピンホールカメラによる撮影 12. 映像作品鑑賞 13. ビデオ作品として自己紹介ビデオを作製する 14. 映像を利用した総合芸術の今後について 15. レポート提出 16. 総括授業
- 【成績評価】** 課題と期末レポート及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。
- 【再試験】** 行わない。
- 【教科書】** 講義の中でテーマ毎に紹介する。
- 【参考書】** 授業の中で配布する。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218373>
- 【連絡先】**
⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 木曜日 昼休み)
- 【備考】** ○平成23年度 前期開講。○平成23年度は、金5・6 講時開講
○講義はマルチメディア B棟 講義・実習室で行う。

解析学 I

2単位 3年(前期)
伊藤 正幸・教授/総合理数学科

- 【授業目的】** 高校および大学の初年時に学んだ微分積分学では、リーマン積分を学んできた。多くの実用的な積分計算において、リーマン積分はならん支障なく有効に働く。しかし、この考え方では、集合の長さ、面積、体積などの基本的な概念があいまいであり、解析学や確率論を進める上では積分理論の見直しが必要である。そこで、測度(長さ、面積、体積などの一般化概念)論と、それに基づいたルベーク積分論の基礎を概説する。
- 【授業概要】** 測度(長さ、面積、体積などの一般化概念)論と、それに基づいたルベーク積分論の基礎を概説する。
- 【キーワード】** ルベーク積分、収束定理
- 【先行科目】** 『数理学の基礎 I』(1.0, ⇒284頁), 『数理学の基礎 II』(1.0, ⇒284頁)
- 【関連科目】** 『応用解析特論』(0.5, ⇒297頁)
- 【履修上の注意】** 計算技術や問題解決テクニックの向上の上では、この講義は一見何の役にも立たないように思われる。そればかりか、積分論の再構築がテーマであるこの講義では、複雑でなじみのない議論が展開され、はじめて学ぶ学生諸君には何回で取っ付き難いものであろう。多くの先生方も学生時代はそう感じないと思われる。それにも関わらず、カリキュラムに組み入れられているのは、この学問なくしては、解析学が構築できないからである。講義の難解さにや圧倒されることなく、新しい推論方法に接するという気楽な気持ちで休まず受講して欲しい。完全に理解できなくとも、その後の勉学にきつと役に立ちます。
- 【到達目標】**
1. 測度とルベーク積分の概念を理解する。
2. 収束定理が使える。
- 【授業計画】** 1. リーマン積分の問題点 2. 実数、集合、収束 3. リーマン積分の定義と問題点 4. 階段関数、測度0の集合 5. ルベーク積分 6. リーマン積分とルベーク積分 7. ルベーク積分の性質 8. 収束定理、レビの定理 9. ルベークの収束定理 10. ファツウの定理 11. 積分記号のもとでの連続性・微分可能性 12. 関数の積分可能性 13. 多変数関数の積分 14. フェビニの定理 15. 期末試験 16. 総括授業
- 【成績評価】** 期末試験のほか演習とレポートも重視。
- 【再試験】** 行う用意はある。
- 【教科書】** 関数解析入門 洲之内治夫著 サイエンス社
- 【参考書】** ルベーク積分 溝畑茂著 岩波全書
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219456>
- 【連絡先】**
⇒ 伊藤 (総合科学部1号館1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1.(前期)火曜日12:00-12:45, (後期)火曜日16:30-17:30 2. 月曜日 16:30-17:30)

幾何学 I

2単位 3年(前期)
守安 一峰・教授/総合理数学科

- 【授業目的】** ベクトル解析の基礎的範囲を学ぶことで、空間やそのなかの曲面上で定義されたベクトル場の性質を理解し、それを通じて幾何学的な視点を養う。
- 【授業概要】** 幾何学とは、図形およびその入れ物である空間の性質を明らかにすることを目的とした理論である。どの様な対象を、どの様な視点および方法で研究するかによって、種々の幾何学体系がある。本講義では、微積分および線形代数の基礎のもとに、ベクトル解析の基礎的内容を講義と演習によって身につける。また、ベクトル解析は、解析学の各分野(微分方程式論など)や物理学(力学、電磁気学など)において必須の道具でもあり、物理現象への応用についても言及する。
- 【履修上の注意】** 普段から演習などの自主的勉強を期待する。
- 【授業計画】** 1. スカラーとベクトルの復習 2. ベクトルの外積 3. スカラー3重積とベクトル3重積 4. 1変数ベクトル(値関数)の微分積分 5. 空間曲線、曲面 6. スカラー場の勾配 7. ベクトル場の発散 8. ベクトル場の回転 9. 勾配、発散、回転に関する諸公式 10. スカラー場・ベクトル場の線積分 11. スカラー場・ベクトル場の面積分 12. ガウスの発散定理 13. グリーンの定理 14. ストークスの定理 15. 補足およびまとめ 16. 総括授業
- 【成績評価】** 出席、レポートと期末試験により総合的に評価する
- 【再試験】** 有り
- 【教科書】** 寺田文行・木村宣昭共著「ベクトル解析の基礎」サイエンス社
- 【WEB 頁】** <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~kuwabara/>
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219219>
- 【連絡先】**
⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16時から17時)

確率・統計 I

2単位 3年(前期)
大橋 守・教授/総合理数学科

- 【授業目的】** 不確定な現象や混沌としたデータを取り扱うための基礎として、確率論の基本的な内容を講義する。確率論は、ランダムな現象を数学として計算可能なかたちに記述し、何らかの客観的な結論を導く手段の一つである。
- 【授業概要】** 確率と統計の基礎
- 【履修上の注意】** 特になし
- 【到達目標】** 確率空間や確率変数を理解し、統計学への応用などと結びつけることができるようになる
- 【授業計画】** 1. 確率とは 2. 確率空間 3. 条件付確率 4. 事象の独立性 5. 離散型確率変数 6. 連続型確率変数 7. 確率変数の平均値と分散 8. 確率変数の独立性 9. 主要な分布 1 10. 主要な分布 2 11. 主要な分布 3 12. 母関数 13. 大数の法則 14. 中心極限定理 15. 期末試験 16. 総括授業
- 【成績評価】** 出席、レポートと期末試験により総合的に評価する
- 【再試験】** 再試験
- 【教科書】** 中村忠・山本英二共著「理工系 確率統計」サイエンス社
- 【参考書】**
○鈴木義也、洲之内長一郎共著「すぐに役立つ統計」学術図書出版
○児玉正憲著「基本数理統計学」牧野書店
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218480>
- 【連絡先】**
⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11時55分~12時50分)

確率・統計 II

2単位 3年(後期)
守安 一峰・教授/総合理数学科

- 【授業目的】** 確率・統計 I に引き続き、不確定な現象を取り扱うための基礎として、数理統計学の基本的な事項を講義する。数理統計学は、混沌としたデータの中から整理された情報を引き出す手段の一つである。確率・統計 I では、正規母集団の推定と検定を扱った。本授業では、確率・統計 I で扱えなかった部分を中心に講義する。
- 【授業概要】** 数理統計学の基礎を身につける
- 【履修上の注意】** 特になし
- 【到達目標】** 統計学の目的や考え方を理解し、推定や検定方法の基礎を身につける簡単な応用に結びつけることができる。
- 【授業計画】** 1. 標本調査 2. 統計量 3. 標本分布 1 4. 中心極限定理 5. 標本分布 2 6. 標本分布 3 7. 推定 8. 区間推定 1 9. 区間推定 2 10. 仮説検定 1 11. 仮説検定 2 12. 仮説検定 3 13. 仮説検定 4 14. 仮説検定 5 15. 総括授業
- 【成績評価】** 出席、レポートと期末試験により総合的に評価する
- 【再試験】** 予定している
- 【教科書】** 中村忠・山本英二共著「理工系 確率統計」サイエンス社
- 【参考書】**

- ◇ 篠原昌彦著「確率・統計」朝倉書店
- ◇ 金子秀敏著「応用確率・統計入門」現代工学社
- ◇ 服部哲也著「理工系の確率・統計入門」学術図書出版社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219393>

【連絡先】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

経営戦略論

2 単位 3 年 (後期, 集中)
高橋 意智郎, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 経営戦略の定義は様々ですが, この授業では「企業の将来像とそれを達成するための道筋」として考えていきます。経営戦略論は、経営学の中でも主要なトピックの1つで、経営組織論、マーケティング論、人材マネジメント論、イノベーション論など様々な隣接領域と関連します。この授業は、戦略に関する理論を学び、理論を用いて企業を分析する力を養成することを目的とします。

【授業概要】 経営戦略論の基本的な考え方を身につけることを目的としています。

【キーワード】 戦略, 組織, (持続的) 競争優位

【関連科目】 『経営組織論』(0.3, ⇒308 頁)

【履修上の注意】 経営戦略という言葉は、普段の生活の中ではあまりピンとこないかもしれませんが、実は身近な出来事に当てはめることができます。机の上の空論として扱うのではなく、生きた学問として身につけることを意識して下さい。授業中に意見を求める可能性があります。分かる範囲で回答してみてください。

【到達目標】 経営戦略の理論を用いて新聞記事や雑誌記事で書かれている事柄を理解・分析できるようになること。

【授業計画】 1. イントロダクション, 経営戦略とは何か 2. 経営戦略を見る 4 つの枠組み 3. 規模の経済・経験曲線とポジショニングアプローチ (1) 4. ポジショニングアプローチ (2) 5. 一般戦略 (Porter の競争戦略) 6. 資源アプローチ 7. ロジカル・シンキング 8. 中間試験 (試験にすかさずレポートにするかは未定) 9. 市場細分化 10. 市場地位別戦略 11. 学習アプローチ 12. プロダクト・ライフ・サイクル 13. PPM とゲームアプローチ 14. 多角化の理論 15. 期末試験 16. まとめ

【成績評価】 期末試験 50%, 中間レポート 30%, 出席を兼ねた小レポート 20%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219417>

【連絡先】

⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 進捗状況によって内容がずれる可能性があります。

経営組織論

2 単位 2 年 (前期, 集中)
高橋 意智郎, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 大学生であること, アルバイト, サークル, 部活動, ボランティア活動など企業でなくとも私たちは、日常生活の中で何かしらの組織に所属しています。この授業では、組織の中の人がどのように意思疎通を行い、組織として活動しながら目標を達成しているのか、また、組織にはどのような機能があるのかを学びます。組織の中の人、および集団レベルに焦点を当てた講義で、モチベーションやリーダーシップ、組織文化、心理的契約、集団浅慮など、企業でなくとも私たちの身の回りで起きている内容を扱います。主に組織構造や組織デザインの話を市場環境、戦略と関連させながら説明をします。

【授業概要】 組織理論の説明と応用

【キーワード】 組織 (構造), モチベーション, 戦略

【関連科目】 『経営戦略論』(0.5, ⇒308 頁)

【到達目標】 組織論の理論を用いて自分の身の回りで起きている事柄を理解・解釈できるようになること。

【授業計画】 1. イントロダクション, 経営組織論が扱う内容 2. 経営学の基礎: 大まかな流れ 3. 経営学の基礎: 様々な人間観 (経済人から複雑人モデル) 4. 組織の中の個人 (1): パーソナリティ 5. 組織の中の個人 (2): 意思決定 1 6. 意思決定 2 とモチベーション理論の基礎: 内容理論 7. モチベーション理論の基礎: 過程理論 8. リーダーシップ論の基礎 (1): 特性論から開発論へ 9. リーダーシップ論の基礎 (2) と組織と環境 10. 3 つの組織構造 11. ゲストスピーカー 12. 組織と戦略 (1): 環境分析 13. 組織と戦略 (2): 2 つの戦略論 14. キャリア論と様々な働き方 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 1) 期末試験 50%, 中間試験 (もしくはレポート) 30%, 授業中にランダムに取る出席 (20%) を考えていますが、変更する可能性があります。その場合はアナウンスします。

【再試験】 行わない

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219418>

【連絡先】

⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

経済法 II

2 単位 2 年 (後期)
泉 克幸・教授/社会創生学科, 上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 経済法とは一定の経済政策に関する法全体を指す。経済法 II では、様々な領域を対象とする経済法のうち、知的財産法を概説する (なお、経済法 I の履修または単位取得は要件ではない)。知的財産法とは、人間の知的活動の成果であって財産的価値を有する知的財産 (具体的には技術や情報、音響、画像、コンピュータ・ソフトウェア、デザイン、ブランド等) に関する法の総称である。知的財産に関する議論は、わが国における産業政策・経済政策の柱の 1 つとして取り上げられていること、米国が近年、強化政策を採っていること、莫大な経済的利益に直結すること、情報化・マルチメディア化・ネットワーク化の進展に大きな影響があることなどを背景とし、現在最も重要視されている分野であるといえる。授業では知的財産法の体系を順に説明するだけでなく、最近のトピックスも出来る限り取り上げたい。法律の専門的知識は必ずしも求めないが、政治・経済・社会上の動きを知るため、新聞やニュース等に対して敏感な姿勢を望む。

【授業概要】 知的財産法の基本的理解

【キーワード】 知的財産法, 著作権, 特許, 商標, 経済法

【関連科目】 『経済法 I』(0.5, ⇒241 頁), 『民法 I』(0.5, ⇒237 頁), 『民法 II』(0.5, ⇒241 頁)

【授業計画】 1. 以下のような体系をもつ知的財産法を、16 回の授業により概説する。 2. 1. 産業財産権法 3. 1) 知的創作物に関するもの... 特許権, 実用新案権, 半導体の回路配置権, 植物の新品種 4. に関する権利, 意匠権, ノウハウ (企業秘密) 5. 2) 営業標識に関するもの... 商標権, 商号権, サービス・マーク, 原産地表示 6. 2. 著作権 7. 1) 著作者の権利... 著作財産権 (複製権など), 著作人格権 8. 2) 著作隣接権 (レコード業者, 放送業者, 歌手・演奏家等の権利) 9. 3. その他 10. 独禁法との関係, ライセンス, 国際的動向など

【成績評価】 期末試験を中心に、授業メモ (ミニレポート)、小テスト、質問の有無等を考慮して成績評価を行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書については未定である。参考書として、著作権と特許について、1 点ずつ挙げておく。・吉田大輔『著作権が明解になる 10 章』(出版ニュース社) 竹田和彦『特許がわかる 12 章』(ダイヤモンド社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219435>

【連絡先】

⇒ 泉 (088-656-7184, izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期: 水曜16時10分から17時10分)
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

自然システム学科 物質・環境コース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

力学 ... 中山/2年(前期).....	309
電磁気学Ⅰ ... 折戸/2年(前期).....	309
熱・統計力学Ⅰ ... 真岸/2年(後期).....	309
量子力学Ⅰ ... 日置/3年(前期).....	310
無機物質系の化学Ⅰ ... 今井/2年(前期).....	310
有機物質系の化学Ⅰ ... 中村/2年(前期).....	310
物質分析法Ⅰ ... 今井/3年(前期).....	310
分子物理化学Ⅰ ... 山本/2年(前期).....	310
化学環境制御論 ... 山本/2年(前期).....	311
物質構造解析学 ... 森/3年(前期, 集中).....	311
放射線科学 ... 伏見/3年(前期).....	311
物理数学 ... 小山/2年(後期, 集中).....	311
物質科学基礎実験Ⅱ ... 小山・齊藤・伏見・真岸/2年(後期).....	312
有機物質系の化学Ⅱ ... 増田/2年(後期).....	312
物質科学基礎実験Ⅳ ... 今井・増田・三好・山本・山本・中村/2年(後期)	312
環境分析技術法 ... 山本・伏見・西山/3年(前期, 集中).....	313
高分子物質系の化学Ⅰ ... 田中/3年(前期).....	313
地球表層環境論Ⅰ ... 石田/2年(後期).....	313
地球表層構造形成論Ⅰ ... 村田/2年(後期).....	314

力学

2 単位 2 年 (前期)
中山 信太郎・教授/総合理数学科

【授業目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学とくにニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする。高校の物理と大学の物理との連携に重きを置き、力学の基本原則と考え方を学ぶ。

【授業概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る。個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し、その考え方を身につける。

【キーワード】 速度・加速度、運動方程式、初期条件、エネルギー、運動量と角運動量

【関連科目】 『熱・統計力学Ⅰ』(0.5, ⇒309 頁), 『電磁気学Ⅰ』(0.5, ⇒309 頁), 『量子力学Ⅰ』(0.5, ⇒310 頁)

【履修上の注意】 大学初年度に学習した「物質科学の基礎Ⅰ」の初歩の数学(微分, 積分, ベクトル)を理解しておく。この科目で学んだ力学の基本事項を十分に復習し、不明な点があれば質問する。講義中に疑問があれば質問したり、予習・復習をすることが前提である。

【到達目標】

1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し、運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する。
2. 運動方程式を立て、微分・積分の技法を用いて解けるようになる。その際、初期条件の意味を理解する。
3. 多体系および剛体の運動を扱う方法を学び、運動量、角運動量および力のモーメントなどについて理解する。

【授業計画】 1. 数式と関数 2. 三角関数とベクトル 3. 微分と積分 4. 物理学とは 5. 力学の基本 6. 運動の表し方 7. 運動の法則 8. 等速円運動 9. 力と運動 10. 仕事とエネルギー 11. 慣性の力 12. 質点の回転運動 13. 剛体のつり合い 14. 剛体の回転運動 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 授業への取り組み状況、小テスト、期末試験などによる。

【再試験】 小テストが一定レベルに達しているものは再試験を認める。

【教科書】 自作テキスト、生協で販売予定

【参考書】

- ◇ 「物質科学の基礎Ⅰ」の教科書
- ◇ 岩波物理入門コース 「力学」 戸田盛和著 岩波書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219135>

【連絡先】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室時、質問に応じる。水曜日16:30~17:30スタジオで質問に応じる。)

電磁気学Ⅰ

2 単位 2 年 (前期)
折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】 我々の身の回りは電気的な現象、磁気的な現象であふれている。現代の科学技術を理解するには、電磁気学の知識が不可欠である。本講義では、電磁気学について基礎から学び、理工学専門研究における基礎とする事を目的とする。

【授業概要】 電磁気学の入門的な講義を行う。電磁気学の最も一般的な基本法則であるマクスウェル方程式までを一通り概観していく。

【キーワード】 物理学、磁場、電流、マクスウェル方程式、電場

【先行科目】 『物質科学の基礎Ⅰ』(1.0), 『物質科学の基礎Ⅱ』(0.5, ⇒285 頁)

【関連科目】 『電磁気学Ⅱ』(1.0, ⇒316 頁), 『力学・電磁気学演習』(1.0, ⇒316 頁)

【到達目標】 電磁気学の諸法則はどのような現象であるのか、どのような実験から導かれてきたのかを正しく理解する。

【授業計画】 1. 数学準備 2. 電荷 3. 電場 4. 電位 5. 静電容量 6. 誘電体 7. 電流、直流回路 8. 磁場 9. 電流にはたらく力 10. アンペールの法則 11. 電磁誘導 12. インダクタンス 13. 交流回路 14. マクスウェル方程式、電磁波 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末テストのほか演習および授業出席状況などを総合して評価する。

【再試験】 原則として行わない。

【教科書】 「電磁気学入門」、岡崎誠著、裳華房

【参考書】 随時指示する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219481>

【連絡先】

⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

熱・統計力学Ⅰ

2 単位 2 年 (後期)
真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 熱力学は、熱現象と力学現象とが相互に関係する分野をエネルギーという共通の立場から見直し、エネルギーの流れが関係する全ての現象を理解する際の基礎となっている。また、物質の熱的性質が圧力、体積、温度などの少数のマクロな物理量によって表されることを学び、系がどのように外界と熱的エネルギーを交換し、仕事をするかを理解する。熱力学では少数の法則を公理として、これからエネルギー授受に伴う状態変化の際のマクロな物理量の間の多くの関係式が導かれ、マクロな世界の熱が関与する現象が理解できる。しかし、物質のマイクロな構造にまで立ち入った場合、原子および分子の運動を古典力学によって記述していたのでは熱現象を完全には説明できず、古典的な現象論の限界を知る。講義では、まずマクロな現象論の熱力学を学び、次にマイクロな観点から熱現象をとらえる気体分子運動論、統計力学序論と進み、統計力学への橋渡しをする。

【授業概要】 熱力学と統計力学序論

【キーワード】 カルノーサイクル、熱力学第 1 法則、熱力学第 2 法則、熱力学的絶対温度、エントロピー増大則

【先行科目】 『物質科学の基礎Ⅰ』(1.0), 『物質科学の基礎Ⅱ』(1.0, ⇒285 頁), 『力学』(1.0, ⇒309 頁)

【関連科目】 『熱・統計力学Ⅱ』(0.5, ⇒316 頁), 『熱統計力学・量子力学演習』(0.5, ⇒318 頁), 『分子物理化学Ⅰ』(0.5, ⇒310 頁)

【履修上の注意】 「力学」などの 1, 2 年時の物理系科目の既修を前提とする。ノートとレポート用紙を用意すること。

【到達目標】 熱力学の法則により、マクロな世界の熱現象を理解する。

【授業計画】 1. 導入:熱現象と熱力学 2. 温度、熱、仕事、エネルギー 3. 理想気体、状態量と状態方程式 4. 熱の移動、熱伝導、冷却の法則 5. 熱力学第 1 法則、内部エネルギー 6. 理想気体の等温過程と断熱過程 7. カルノーサイクル、熱機関の効率 8. 中間試験 9. 熱力学第 2 法則、不可逆過程 10. 熱力学温度、クラウジウスの不等式 11. エントロピー増大の法則 12. 熱力学関数と自由エネルギー 13. 気体分子運動論、エネルギー等分配則 14. 速度の分布則 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 出席状況、レポート、中間および期末試験の結果について、総合的に評価する。

【再試験】 希望があれば行う。

【教科書】 国友正和著「基礎熱力学」(共立出版)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219328>

【連絡先】

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.toku-shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時 ~ 13時(これ以外に随時, 教員室に居ればできるだけ対応します。))

量子力学 I

2 単位 3 年 (前期)
日置 善郎・教授 / 総合理数学科

【授業目的】量子力学の基本的構成の理解

【授業概要】量子力学は、素粒子物理・原子核物理や物性物理といった現代物理学の中核であるばかりでなく、電子工学のような最先端科学技術の重要な基礎ともなっている。従って、物理系分野を専門とする学生だけでなく、自然科学一般を専攻する学生も、その基本的な考え方を理解することが望まれる。ところが、そこにおいては、物体の運動の情報は、古典力学における位置ベクトルや速度ベクトルのような理解しやすい量ではなく、初学者にとっては何とも掴み所のない波動関数という量にすべて含まれており、その波動関数の振る舞いを規定するのは、これまたニュートンの運動方程式ではなく、シュレディンガー方程式という名の波動方程式である。この結果、一旦学習を始めても多くの学生は、その入り口で頭を混乱させ立ち往生することになってしまう。この講義は、この量子力学への軟着陸を目指した入門的解説であり、量子力学の中でも特に基本的と考えられる話題 (下記) に焦点を絞り、必要に応じて演習も取り入れながら話を進めていく。

【キーワード】シュレディンガー方程式、波動関数、ハミルトニアン、不確定性原理

【先行科目】『力学』(1.0, ⇒309 頁)

【関連科目】『熱統計力学・量子力学演習』(0.5, ⇒318 頁), 『量子力学 II』(0.5, ⇒317 頁)

【履修上の注意】やさしく解説するとは言っても、講義だけですべてを理解することは不可能。当然予習・復習等は不可欠。

【到達目標】量子力学の基本方程式はシュレディンガー方程式であることを理解し、簡単な系にそれを適用して、実際に解の波動関数を求めることが出来るようになること。

【授業計画】1. 古典力学から量子力学へ (1) 自然法則とその適用限界 (2) 古典物理学が直面した困難 2. 古典力学から量子力学へ (3) 極微世界の新たな法則への手掛かり 3. 量子力学のための数学 (1) 複素数 (2) 微積分 (3) 微分方程式 4. 量子力学のための数学 (4) 偏微分とベクトル解析 (5) 演算子の固有値と固有関数 5. シュレディンガー方程式 (1) 波動の数学的表現 (2) 時間に依存するシュレディンガー方程式 6. シュレディンガー方程式 (3) 時間含まないシュレディンガー方程式 (4) 量子力学という体系 7. 1 次元での束縛状態 (1) 井戸型ポテンシャル (2) 無限に深い井戸の場合 (3) 有限の深さの井戸の場合 8. 1 次元での束縛状態 (4) 固有関数の規格直交性: 束縛状態の場合 9. 1 次元での反射と透過 (1) 確率の保存と確率流密度 10. 1 次元での反射と透過 (2) 階段型ポテンシャル 11. 1 次元での反射と透過 (3) 階段型ポテンシャル 12. 1 次元での反射と透過 (4) 箱型ポテンシャル障壁: トンネル効果 1 13. 1 次元での反射と透過 (5) 箱型ポテンシャル障壁: トンネル効果 2 14. 1 次元での反射と透過 (6) 固有関数の規格直交性: 自由状態の場合 1 15. 1 次元での反射と透過 (7) 固有関数の規格直交性: 自由状態の場合 2 16. 期末試験

【成績評価】学期末試験 (持ち込み不可) だけでなく、数回行う小テスト (持ち込み不可) の結果も総合して判定する。

【再試験】有 (但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【教科書】

- ◇ 教科書: 日置善郎『量子力学』吉岡書店
- ◇ 参考書: 原康夫『量子力学』岩波書店など。この他に必要に応じてプリント等を配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219474>

【連絡先】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)火曜日 11時50分 ~ 13時 (これ以外の時間でも訪問可))

無機物質系の化学 I

2 単位 2 年 (前期)
今井 昭二・教授 / 社会創生学科

【授業概要】無機化学 I で読み替える。

【キーワード】*Electronic Structure*

【先行科目】『物質科学の基礎 III』(1.0, ⇒285 頁), 『現代化学の世界』(1.0)

【関連科目】『分子物理化学 I』(0.5, ⇒310 頁), 『物質分析法 I』(0.5, ⇒310 頁), 『化学環境制御論』(0.5, ⇒311 頁), 『量子力学 I』(0.5, ⇒310 頁)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219326>

【連絡先】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

有機物質系の化学 I

2 単位 2 年 (前期)
中村 光裕・講師 / 総合理数学科

【授業目的】有機化合物の構造、性質、反応などを学ぶ上で必要な基礎知識を習得する。

【授業概要】有機化学の基礎

【キーワード】有機化学, 基礎化学

【先行科目】『現代化学の世界』(1.0, ⇒285 頁), 『物質科学の基礎 III』(1.0, ⇒285 頁), 『物質科学の基礎 I』(1.0)

【関連科目】『有機物質系の化学 II』(0.5, ⇒312 頁), 『無機物質系の化学 I』(0.5, ⇒310 頁), 『物質分析法 I』(0.5, ⇒310 頁)

【履修上の注意】基礎化学の知識を修得していることが望ましい。この授業は、平成 20 年度入学者までの科目です。それ以降の入学者は受講できません。また、平成 20 年度入学者までの入学者は、平成 22 年度開講の「有機化学 I」を受講して下さい。

【到達目標】化学構造式に慣れ、有機化学の基礎概念を理解する。

【授業計画】1. はじめに 2. 電子構造と共有結合 (1) 3. 電子構造と共有結合 (2) 4. 酸と塩基 (1) 5. 酸と塩基 (2) 6. 有機化合物の基礎 (1) 7. 有機化合物の基礎 (2) 8. アルケン (1) 9. アルケン (2) 10. アルケンおよびアルキンの反応 (1) 11. アルケンおよびアルキンの反応 (2) 12. 異性体と立体化学 (1) 13. 異性体と立体化学 (2) 14. 異性体と立体化学 (3) 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】学期末テスト, 授業内での小テスト, 受講態度

【再試験】基本的には実施しない

【教科書】ブルース 有機化学概説 第 2 版 (大船康史・香月昂・西郷和彦・富岡清 監訳, 化学同人)

【参考書】ブルース 有機化学 第 5 版 (上)(大船康史・香月昂・西郷和彦・富岡清 監訳, 化学同人)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219302>

【連絡先】

⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】上記の授業計画は、予定であり変更することもある。

物質分析法 I

2 単位 3 年 (前期)
今井 昭二・教授 / 社会創生学科

【授業概要】分析化学 I によって読み替える。

【キーワード】分析化学

【先行科目】『分子物理化学 I』(1.0, ⇒310 頁), 『無機物質系の化学 I』(1.0, ⇒310 頁)

【関連科目】『分子物理化学 I』(0.5, ⇒310 頁), 『無機物質系の化学 I』(0.5, ⇒310 頁)

【履修上の注意】分析化学 I と同じ内容である。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219335>

【連絡先】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 木曜日 12:00-13:00)

分子物理化学 I

2 単位 2 年 (前期)
山本 孝・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】化学反応熱、化学平衡、物理平衡、起電力等を熱力学をもとにして系統だてて理解すること。また反応速度を左右する因子について理解し、実際の物質変化が自由エネルギー変化と反応速度とに關係していることを理解してもらう。

【授業概要】熱力学と化学反応速度

【キーワード】化学反応熱、化学平衡、相平衡、溶液の物理化学的法則、化学反応速度

【先行科目】『現代化学の世界』(1.0, ⇒285 頁)

【到達目標】

- 1) 標準生成エンタルピーから定圧と定積の化学反応熱を算出できるようにすること。
- 2) 標準生成自由エネルギーから平衡定数を算出できるようにすること。
- 3) 溶液についての諸法則、電極電位、膜電位を熱力学的に理解すること。
- 4) 化学反応速度を左右する諸因子について理解すること。

【授業計画】1. 1.SI 単位系, 理想気体の諸法則について講義する。 2. 2. 分子の運動, 熱エネルギーおよび温度の關係について講義する。 3. 3. 化学物質がもつエネルギーについて講義する。 4. 4. 物理化学的変化による内部エネルギーとエンタルピー変化について説明する。 5. 5. 標準生成エンタルピーと化学反応熱および結合エネルギーについて講義する。 6. 6. 物理化学的変化とエントロピーおよびギブスの自由エネルギー変化との關係を説明する。 7. 7. 気体の圧力と自由エ

ルギーの関係、気体反応の平衡定数との関係について講義する。 8. 標準生成自由エネルギーとそれを使っての平衡定数の求め方について述べる。 9. 9. 中間試験をする。 10. 10. 物理平衡について述べ、溶液の自由エネルギーと濃度の関係について講義する。 11. 11.1 成分, 2 成分, 3 成分系の相律について講義する。 12. 12. 気体, 溶液, 固体の活動度と自由エネルギーとの関係を導く。 13. 13. 一般の化学平衡, 膜平衡について講義する。 14. 14. 化学反応反応速度と温度, 濃度, 触媒との関係をのべる。 15. 15. 複合反応, 連鎖反応, 酵素反応, 遷移状態理論についてふれる。 16. 16. 期末試験をする。

【成績評価】 試験の結果, 出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験】 実施する。

【教科書】 教科書 :アトキンス 物理化学 (上) 生協で販売します。

【参考書】 物理学とは何だろうか

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219125>

【連絡先】

⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 相談の上, 知らせます。)

化学環境制御論

2 単位 2 年 (前期)
山本 裕史・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 環境中における化学物質の安全性に着目し, 公害問題や地球環境問題について学ぶ。また, 環境リスクの考え方の重要性を理解するとともに, 化学物質の安全性評価・管理手法の基礎, 実際の地域・地球環境問題に対する方策について受講者自らの価値観で考え, 行動できるようにする。

【授業概要】 公害と地球環境問題, 水・大気・土壌・生体中の化学物質汚染について, 最新のデータを客観的に提示する。これらを理解した上で, 生態系の保全や環境リスク評価・管理, 循環型社会やライフサイクルアセスメント, 資源・エネルギー問題について考える。

【キーワード】 地球環境問題, 環境汚染物質, 環境化学, 環境科学, 循環型社会

【先行科目】 『現代化学の世界 I』(1.0), 『物質科学の基礎 III』(1.0), 『物質科学基礎実験 III』(1.0)

【関連科目】 『化学環境システム論』(0.5, ⇒319 頁)

【履修上の注意】 宿題・レポートの提出, 出席が評価のかなり部分を占めます。遅れないよう出席してください。

【到達目標】

1. 環境の構成要素とその量的関係や動的挙動を正しく理解する
2. 最新のデータの提示により, 受講者自らが科学的裏づけを持って考え, 行動できるようにする

【授業計画】 1. シラバスの説明, 化学環境学と現代の環境問題 (公害問題と現在の環境問題) 2. 自然環境の現状 (9 つの地球環境問題と環境史) 3. 資源・エネルギーの現状 (エネルギーと資源問題) 4. エネルギー資源確保のための化学技術 5. 資源・エネルギーの現状 (食糧と人口の問題) 6. 環境問題と化学 (地球温暖化と大気保全) 7. 環境問題と化学 (森林現象と砂漠化, 海洋汚染, 化学物質の管理等) 8. 中間試験 9. ライフサイクルアセスメント (LCA) 10. 廃棄物処理とリサイクルの化学技術 11. 化学物質のリスク評価と管理 12. 環境化学技術 13. グリーンケミストリー 14. 持続可能で豊かな社会へ向けて 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 宿題・レポート 30%, 出席 20%, 中間試験 25%, 期末試験 25%

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 「化学環境学」 御園生誠 (2007) 裳華房
- ◇ 「新版環境工学 ~ 持続可能な社会とその創造のために」 佐友恒ほか (2007) 理工図書

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218475>

【連絡先】

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後ほど案内する)

物質構造解析学

2 単位 3 年 (前期, 集中)
森 寛志・非常勤講師 / 愛媛大学大学院理工学研究科

【授業目的】 地球を構成する物質 (造岩鉱物) の分類, 化学組成, 結晶構造, 物性などを理解するための基礎的な事項を学ぶ。

【授業概要】 造岩鉱物の化学組成と結晶構造, 鉱物結晶の外形と構造の対称性, EPMA を用いた鉱物の化学分析法, X 線回折法を用いた結晶鉱物の解析法などについて学ぶ。

【キーワード】 造岩鉱物, 結晶, 対称性, 結晶構造, X 線回折, 化学組成

【履修上の注意】 集中講義として実施されます。受講のために特別な知識やスキルは必要ありません。授業内容のパワーポイントファイルを印刷した資料を事前に配布するのでよく目を通していただくこと。

【到達目標】

1. 造岩鉱物の分類について説明することができる。
2. 鉱物の外形や結晶構造の対称性について考えることができる。
3. 鉱物の化学組成とその決定法について説明することができる。
4. X 線回折法による結晶構造の決定について説明することができる。

【授業計画】 1. 授業のガイダンス 2. 鉱物の組成と構造 3. 造岩鉱物の分類 4. ケイ酸塩鉱物 5. 結晶の外形と面指数, 点群 6. 結晶構造の対称性 7. 結晶格子と空間群 8. X 線の発生と検出 9. 結晶による X 線の回折 10. 粉末 X 線回折法 11. EPMA による鉱物の化学分析 12. 結晶結合 (イオン結合と共有結合) 13. 結晶の弾性的性質 14. 結晶の塑性変形 15. 授業のまとめ

【成績評価】 授業中に数回的小テストを行い, 成績を評価する。

【再試験】 原則として行わない。

【教科書】 教科書は用いない。参考資料として授業で使用するパワーポイントファイルを印刷した資料を配布する。

【参考書】

- ◇ 都城秋徳・久城育夫著, 「岩石学 I 偏光顕微鏡と造岩鉱物」, 共出版 (1972)
- ◇ Charles Kittel 著, 宇野良清他訳, 「固体物理学入門 (上)」, 丸善 (2005)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219338>

【連絡先】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

放射線科学

Radiation Science 2 単位 3 年 (前期)
伏見 賢一・准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 物質科学に関する幅広い知識を養う。放射線の測定は, 原子核・素粒子物理学のみならず, 環境科学, 地球科学の研究にとっても非常に重要である。本講義では, 放射線の種類, エネルギー及び放射線と物質の相互作用について解説する。物質科学及び環境科学における放射線計測に必要な放射線に関する基礎知識を解説する。

【授業概要】 放射線を利用した各種研究に必要な基礎知識の修得。

【キーワード】 放射線

【関連科目】 『量子力学 I』(0.5, ⇒310 頁)

【履修上の注意】 講義ノートを用意すること。講義中に随時演習を行うので関数電卓を準備しておくことが望ましい。

【到達目標】 いくつかの放射性物質について崩壊図式を描いて崩壊の説明をすることができる。放射性同位体の半減期と量から放射線の強さを計算することができる。放射線と物質の相互作用について理解し, 放射線の防護に及び測定を正しく実施できる。生物に対する放射線の影響を正しく理解する。

【授業計画】 1. 放射線の種類, 放射線の意味 2. アルファ線, アルファ線と代表的なアルファ線放出核種 3. ベータ線, ベータ崩壊と代表的なベータ線放出核種 4. γ 線放射と原子核の励起状態, X 線の放射, 内部転換 5. 中性子線, 核分裂と中性子, 原子炉の原理 6. 放射線の崩壊, 半減期, 平均寿命, 崩壊系列と放射平衡 7. 放射線と物質の相互作用 (断面積, 平均自由行程, 減衰長) 8. 荷電粒子の物質内におけるエネルギー損失 I (重粒子) 9. 荷電粒子の物質内におけるエネルギー損失 II (電子) 10. 光子 (γ 線, X 線) と物質の相互作用 11. 中性子と物質の相互作用 12. 生物への影響 I (被ばく線量の計算) 13. 生物への影響 (確定的影響と確率的影響) 14. 放射線の遮蔽及び管理 15. 法律 (放射線障害防止法の考え方, 各種規制) 16. 総合演習

【成績評価】 単元ごとのテスト 100 点満点 (40%), 期末テスト 200 点満点 (40%), レポート (レポートの素点 100 点満点および内容の発表による得点, 自発的な発表は最終成績に対して 6 点加算, 指名による発表は 3 点加算。) (10%), 出席点 (無断欠席-3 点, 遅刻 3 回で欠席 1 回) (10%) の和を最終成績とする。時々出題する 100 点問題を解けば最終成績を 100 点とする。

【再試験】 なし。

【教科書】 教科書 飯田博美編 「初級放射線 (平成 17 年度改正法令対応改訂版)」 通商産業研究社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219248>

【連絡先】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日を除く 11 時 50 分 ~ 12 時 50 分, 金曜日 3:4 講時)

物理数学

2 単位 2 年 (後期, 集中)
小山 晋之・教授 / 総合理数学科

【授業目的】 「力学」「電磁気学」「熱力学」などの基礎科目で学んでいる物理学や数学がどのように専門科目で活かされるかを, 数学的な観点から統一的に捉え, 数学の実用性に着目し, 一定レベルの数学の理工学への応用力を身につける。他の物理学や専門の授業の数学的な面からの助けになることを目指しています。

【授業概要】物理学で使う数学入門と理工学への簡単な応用

【キーワード】物理学のための数学, 物理数学の基礎

【先行科目】『力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『電磁気学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁)

【関連科目】『量子力学 I』(0.5, ⇒310 頁), 『熱・統計力学 II』(0.5, ⇒316 頁)

【履修上の注意】高校の数学程度を予備知識として持っていれば十分です。今までの物理や他の授業の中で、疑問に残っている数学的な事柄を具体的にレポート形式で提出してもらい、この授業の中でできるだけいねいに解説していく予定です。

【到達目標】基礎的な専門科目(学科共通科目やコース共通科目など)で学んでいる物理学がどのように専門科目で活かされるかを、数学的な観点から統一的に捉え、数学の実用性に着目し、一定レベルの数学の理工学への応用力を身につける。

【授業計画】1. ベクトルと座標系 (1):ベクトルの定義/ベクトルの和, 内積, 外積/ベクトルの座標表示 2. ベクトルと座標系 (2):ベクトルの座標表示/理工学における応用 3. 微分 (1):差分と微分/基礎的な微分の公式/運動方程式 4. 微分 (2):運動方程式/テイラー展開/数値微分/理工学における応用 5. 微分 (3):運動方程式/偏微分と全微分/理工学における応用 6. 積分 (1):基礎的な不定積分の公式/微小要素からの寄与/微小要素の座標変換 7. 積分 (2):微小要素の座標変換/剛体回転する物体の運動エネルギー/理工学における応用 8. 積分 (3):ポテンシャル・エネルギー/数値積分/理工学における応用 9. 微分方程式 (1):力学で現れる簡単な微分方程式 10. 微分方程式 (2):力学で現れる簡単な微分方程式/理工学における応用 11. 微分方程式 (3):電気回路の問題/非線形微分方程式/理工学における応用 12. 微分方程式 (4):微分方程式とエネルギー保存則/理工学における応用 13. 行列と行列式 (1):行列の演算/行列式の定義/行列式と体積/理工学における応用 14. 行列と行列式 (2):1次独立と1次従属/行列の固有値と固有ベクトル/理工学における応用 15. ベクトル解析:スカラー場とベクトル場/勾配/発散/ガウスの定理/回転/ストークスの定理/理工学における応用 16. 試験

【成績評価】講義の理解を深めてもらうために、授業中に演習・クイズ問題を提出してもらいます。レポート(2回程度を予定)も提出してもらいます。毎回行うクイズの評価, レポートの評価と期末試験結果による評価を総合して行います。

【再試験】行う。但し、全てのレポートの提出を必要とする。

【教科書】

- ◇教科書 香取眞理・中野徹「物理数学の基礎」(サイエンス社)
- ◇参考書 遠藤敏郎著「経験と感覚の数式化-科学の基本-」(学術図書出版社)
- ◇参考書 岸野正剛著「今日から使える物理数学」「今日から使える微積分」(講談社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219331>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.toku-shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日・木曜日の昼休み)

物質科学基礎実験 II

2 単位 2 年 (後期)

小山 晋之・教授/総合理数学科, 齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科
伏見 賢一・准教授/総合理数学科, 真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】物質科学基礎実験 I を履修し、ある程度物理実験の進め方がわかってきた学生を対象とする。測定に際して、先入観を排し常に謙虚な気持ちで自然に対する態度が必要であること、測定はやり直しではいけなくて結果についての十分な考察が欠かせないことなどを学んだはずである。物質科学基礎実験 II では、現代物理学により近いテーマも入ってくる。I と同じレベルのテーマであっても、他の科目等でこれまでに学んだことを基礎にして、さらに質的に高い実験を行う。また、どのような実験をして、どういう考察をしたのかということや他人に報告することは大切である。より良いレポートを書くにはどうしたらよいかということやこの実験を通して学んでいく。最後の実験はレポートにまとめるとともに、全員の前で発表する機会を設ける。

【授業概要】最初の教回、測定データをコンピュータにより取り扱う方法を学ぶ。測定データをグラフに表し、最小自乗法を行うという実験に欠かせない作業を効率的に行い、より深く物理現象を考えていけるようにする。以後、原則として 2 人一組で力学、熱、波、電磁気、原子物理、物性の中からある程度専門性の高いテーマについて 6 回程度実験を行う。

【キーワード】ぶつり

【先行科目】『物質科学基礎実験 I』(1.0, ⇒286 頁)

【関連科目】『物質科学実験 I』(0.5, ⇒315 頁), 『物質科学実験 II』(0.5, ⇒315 頁)

【履修上の注意】物質科学基礎実験 I が既修であることを原則とする。全回出席し、全てのレポートを提出しなければならない。止むを得ず欠席したときは、空いている時間に実験を行うこと。

【到達目標】実験を正しく行い、解析を正しく行うことができる。行った実験をレポートにまとめることができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. グラフソフトの使い方 3. グラフソフトの使い方 4. 実験の解説 5. 実験 1 6. 面接試験 1 7. 実験 2 8. 実験 3 9. 実験 4 10. 実験 5 11. 面接試験 2 12. 実験 6 13. 面接試験 3 14. 発表会準備 15. 発表会 16. 総括授業

【成績評価】提出されたレポートの評価および、個別面接時の実験ノートのチェック、実験テーマの理解度、実験の正確さの評価を併せて評価する。

【再試験】原則として行わない。

【教科書】「基礎物理学実験テキスト」総合科学部物理学教室編(徳島大学生協)

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/butsuri/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218972>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.toku-shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)

⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushim-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~12:50)

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.toku-shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.toku-shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)

有機物質系の化学 II

2 単位 2 年 (後期)

増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】有機物質系の化学 I に引き続き、有機化学の反応を官能基別に分類して、それらの化合物の命名法、性質、製法、構造と反応や立体化学について講義する。特にアルケン、アルキン、芳香族化合物の命名法、性質、構造と反応、立体化学、ラジカル反応を理解することを目的とする。

【授業概要】アルケン、アルキン、芳香族化合物の化学

【キーワード】アルケン、アルキン、芳香族化合物

【先行科目】『有機物質系の化学 I』(1.0, ⇒310 頁)

【履修上の注意】初回の授業にて話すので、遅刻および欠席をしないように。有機物質系の化学 I を既習していること、予習、復習が不可欠。

【到達目標】アルケン・アルキン・芳香族化合物の命名法・性質・反応の基本について習熟する。また、ラジカル反応の基本についても理解を深める。

【授業計画】1. 1. アルケンおよびアルキン I 性質と合成 (2 回) 2. 2. アルケンおよびアルキン II 付加反応 (3 回) 3. 3. アルコールおよびエーテル (3 回) 4. 4. 共役不飽和系 (2 回) 5. 5. 芳香族化合物 (2 回) 6. 6. 芳香族求電子反応 (2 回) 7. 7. ラジカル反応 (1 回) 8. 期末テスト (15 週目を予定) 9. 総括授業 (16 週)

【成績評価】本授業は講義形式で行う。評価は原則として期末テストの結果に基づくが、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点での評価を加える事もある。

【再試験】行う

【教科書】教科書 ソロモンの新有機化学第 9 版 上 (花房昭静池田正澄仲嶋正一訳, 広川)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219303>

【連絡先】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)水曜日 12時~13時)

【備考】この講義は有機化学 II となっており、そのシラバスは変更されています。有機化学 II のシラバスをご覧ください。

物質科学基礎実験 IV

2 単位 2 年 (後期)

今井 昭二・教授/社会創生学科, 増田 俊哉・教授/社会創生学科

三好 徳和・教授/総合理数学科, 山本 裕史・准教授/社会創生学科

山本 孝・准教授/社会創生学科, 中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】物質科学基礎実験 III で学んだ化学実験の操作を確実なものとし、実験の技能の応用能力を高めることを目指します。自分で実験計画を立案、工夫し、能動的に実験を行う態度を養います。化学の授業で学んだ内容の理解を深めます

【授業概要】計測、測定、分析、環境、抽出・分離、合成と分解を実験内容に含んだ化学実験から構成されている。

【キーワード】化学実験

【先行科目】『物質科学基礎実験 II』(1.0, ⇒312 頁)

【履修上の注意】総合理数学科の化学実験 I として読み替える。

【到達目標】化学実験を行うことで、実験を通して実験技術の基本操作の習熟と物質の取り扱いについて学習するとともに実験記録と報告書の作成方法についても学習する。

【授業計画】総合理数学科の化学実験 I の内容で行う

【成績評価】各課題ごとに提出されるレポートおよび出席状況、実験態度を総合的に評価して集計します。試験を行う場合もあります。

【再試験】レポートの再提出を再試験の代わりに行う場合があります。

【教科書】

- ◇ 実験教材のプリントを配布
- ◇ 「実験を安全に行うために」化学同人 (必ず購入)
- ◇ 「統 実験を安全に行うために」化学同人 (必ず購入)
- ◇ 長島弘三, 富田功「分析化学」裳華房
- ◇ 千原秀昭編「物理化学実験法」東京化学同人
- ◇ フィーザー・ウィリアムソン「有機化学実験」丸善
- ◇ 「水の分析」(化学同人)、「環境の化学分析」(三共出版)
- ◇ 担当教官に問い合わせ下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218974>

【連絡先】

- ⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各実験の担当者に問い合わせして下さい。)
- ⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各実験の担当者に問い合わせして下さい。)
- ⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各実験の担当者に問い合わせして下さい。)
- ⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各実験の担当者に問い合わせして下さい。)
- ⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境分析技術法

2 単位 3 年 (前期, 集中)

山本 裕史・准教授/社会創生学科 伏見 賢一・准教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】伏見担当:データの分析方法, 誤差の取り扱い方を事例に基づいて指導する。山本担当:大気・水環境サンプリングの基本技術とそれぞれに含まれる環境指標の測定方法について指導する。西山担当:地表環境を特徴づける地形の判読技術を身につけ, 地表環境のなりたちと変遷を理解する。

【授業概要】環境分析の基礎

【キーワード】環境分析, データ解析, 地表環境, 環境サンプリング

【先行科目】『物質分析法 I』(1.0, ⇒310 頁), 『物質科学基礎実験 III』(1.0, ⇒287 頁)

【関連科目】『物質分析法 II』(0.5, ⇒318 頁), 『化学環境制御論』(0.5, ⇒311 頁)

【履修上の注意】グループでの検討も行う。西山:12 色程度の色鉛筆を持参してください。

【到達目標】

1. 伏見担当:実験・計測に伴う誤差の取り扱い, 装置の精度と測定すべき精度の比較を行い, 適正な実験計画を立てることができるようになること。実験データから環境影響の有無について統計的手法による検定を行って適切な判断をすることが出来るようになること。
2. 山本担当:適切にサンプリングした環境試料中の様々な環境指標の概要について理解する。
3. 西山担当:地形図の読図作業を学び, その結果に基づいて地表環境のなりたちと変遷を理解できるようになる。

【授業計画】1. 伏見担当(4 回) 2. 1 誤差の分布, 有効数字, データの相関, 相関係数, 回帰分析 3. 2 統計分布 4. 3 統計的推定 5. 4 母集団の比率の推定 6. 山本担当(4 回) 7. 1 環境サンプリング方法, 物理化学的分析方法 1(重量分析など) 8. 2 物理化学的分析方法 2(電気化学的分析, 光学的分析など) 9. 3 物理化学的分析方法 3(抽出, クロマトグラフィー) 10. 4 生物化学的分析(バイオアッセイ) 11. 西山担当(4 回) 12. 1 地形判読による地表環境の分析 1(読図の基礎) 13. 2 地形判読による地表環境の分析 2(平野) 14. 3 地形判読による地表環境の分析 3(海岸) 15. 4 地形判読による地表環境の分析 4(山地)

【成績評価】演習と試験結果による

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ 伏見: 「統計学-データから現実を探る-」内田老鶴圃, 1992 年
- ◇ 山本: 適宜指示する
- ◇ 西山: 指定しない。必要に応じてプリントを配布する。参考書: 「地表環境の地学」(東海大学出版会)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219355>

【連絡先】

- ⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12~13時)
- ⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月~ 金曜の11時50分~12時50分。)
- ⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時)

高分子物質系の化学 I

2 単位 3 年 (前期)

田中 均・教授/工学部

【授業目的】我々の身のまわりには, 様々な天然および合成物質があり, また現在も次から次へと新しい機能を持った物質が作られようとしている。この中でも取り分け高分子物質は, 有史以来, 常に我々の生活を支える最も重要なものの一つであり, この物質を化学的に理解することは豊かな性質を営む上で不可欠とさえ思える。本講義では, 高分子の生成と反応についてわかりやすく解説し, 種々の汎用および機能性高分子物質の本質を化学的観点から理解する能力を養う。講義は“高分子とは何か”に始まり, 基礎的内容を中心に行う。

【授業概要】連鎖重合および逐次重合など高分子生成の基礎について講述する。

【履修上の注意】「化学」「分子反応」に関する他の講義も受講していることが望ましい。特に, 化学現象の単なる暗記ではなく, 自らその本質を掘り下げて考える心がけが必要。

【到達目標】

1. 連鎖重合の基本を理解する
2. 逐次重合の基礎を学び展開する能力を養う

【授業計画】1. 高分子とは 2. 高分子-歴史と展望- 3. 高分子合成の原理 4. 重合(1) 5. 重合(2) 6. ラジカル重合(1) 7. ラジカル重合(2) 8. ラジカル重合(3) 9. ラジカル重合(4) 10. イオン重合(1) 11. イオン重合(2) 12. 遷移金属触媒重合 13. 重付加 14. 付加重合 15. 高分子反応

【成績評価】出席と期末試験を総合して判定する。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ 「新高分子化学序論」(化学同人)
- ◇ 「高分子合成の化学」(大津隆行著, 化学同人)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219485>

【連絡先】

- ⇒ 田中 (光棟 211, 088-656-9420, tanaka@opt.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時。ただし, 講義直後あるいは17時以降が望ましい。)

地球表層環境論 I

2 単位 2 年 (後期)

石田 啓祐・教授/総合理数学科

【授業目的】地層とその重なりを理解するために必要な基本的事項を中心に学ぶ。地球の歴史時代に, 地層に記録された, 固体地球表層から水圏での自然環境に関わるできごとや, 生物界の変遷を解析する方法について, 層序学的, 堆積学的な視点から講義する。

【授業概要】地層と層序の解析, 堆積

【キーワード】地層, 層序, 堆積

【関連科目】『地球表層環境論 II』(0.5, ⇒320 頁)

【履修上の注意】後期水 5-6 講時開講。専門的事項の理解のための小試験・レポート提出を随時行い, 期末試験とともに評価対象にしている。英文テキストは Lithostratigraphy と Biostratigraphy の章を中心に講読し, 英語と日本語による用語法の理解を深めます。

【到達目標】層序区分の原理を理解し, 岩相層序と生層序の基本が説明できる。

【授業計画】1. 【層序区分の原理】 2. 絶対年代(放射年代)と相対年代 3. 地質時代区分 4. 年代層序単元(地質系統)と模式地 5. 岩相層序単元と地層命名規約 6. 古地磁気層序と磁気編年 7. 【岩相層序:Lithostratigraphy】 8. 整合と不整合, その種類 9. 同時異相, 鍵層による対比(岩相境界と時間面) 10. 【生層序:Biostratigraphy】 11. 化石:分類カテゴリーと二名法 12. 地質時代とタクサの変遷 13. タクサの生存期間(レンジ)と生層序単元・分帯 14. 生層序学的対比 15. 【碎屑粒子の移動と堆積の基礎】 16. 碎屑物の静水水中での沈降と流水中での移動 17. 河川系の堆積物と礫のファブリック 18. 波浪限界, 海水準変動と地層 19. 堆積物重力流による地層の特徴 20. 堆積構造と上下判定

【成績評価】講義への取り組み姿勢と, 課題のレポート, 期末試験を総合的に判断して評価します。

【再試験】積極的な取り組み姿勢の見られた学生に対しては行う場合があります。

【教科書】

- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「層序と年代」共立出版, 2006 年。
- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版, 2004 年。

【参考書】

- ◇ Sam BOGGS Jr., Principles of Sedimentology and Stratigraphy (3rd ed.), Prentice Hall, 2001.
- ◇ 日本地質学会訳編「国際層序ガイド 層序区分・用語法・手順へのガイド」, 共立出版, 2001 年。
- ◇ 地学団体研究会編, 新版 地学事典, 平凡社, 1996 年。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218859>

【連絡先】

- ⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時~13 時)

地球表層構造形成論 I

2 単位 2 年 (後期)
村田 明広・教授 / 総合理数学科

【授業目的】地球科学分野のうち、構造地質学に関する授業を行う。衝上断層、正断層、横ずれ断層はれ形成場が異なり、それぞれ特徴的な地質構造を作る。このような地質構造を把握し、それが形成された地質環境について知る方法を学ぶ。

【授業概要】地質構造の形成

【キーワード】地質構造、断層、活断層、地震、デュプレックス、メランジュ、衝上断層、横ずれ断層

【先行科目】『地球科学の基礎』(1.0, ⇒286 頁)

【関連科目】『地球表層構造形成論 II』(1.0, ⇒321 頁)

【履修上の注意】液晶プロジェクターを使って授業を行う。遅刻しないこと。積極的な受講態度で臨んでください。

【到達目標】衝上断層、正断層、横ずれ断層それぞれを特徴とする地質構造を、理解し説明することができるようになる。

【授業計画】1. バランス断面図とデュプレックス 2. 内ノ八重、鳴門のデュプレックス 3. メランジュ 4. 四万十帯のメランジュとナップ 5. 伸張テクトニクスとインバージョンテクトニクス 6. 横ずれテクトニクスと横ずれ堆積盆 7. 左横ずれ上韭生川断層の変位量変化 8. 石油と地質構造 9. リモートセンシングの基礎 (LANDSAT, SPOT などの衛星画像) 10. シルクロードの現地調査 11. 南海地震の再来 12. 徳島県下の中央構造線活断層系 13. 中越沖地震と活断層 14. 歪解析の手法 (左右対称軸を用いた歪解析法, フライ法) 15. 地質図の読み方 16. 定期試験

【成績評価】数回実施する小テストと、期末試験で評価を行う。

【再試験】行う

【教科書】狩野謙一・村田明広, 「構造地質学」, 朝倉書店, 1998 年

【参考書】

- ◇ 狩野謙一・村田明広, 「構造地質学 CD-ROM カラー写真集」, 朝倉書店, 2000 年
- ◇ R. G. Park, "Foundations of Structural Geology", 3rd Ed., Chapman & Hall, 1997

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219195>

【連絡先】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

自然システム学科 物質・環境コース 物理系サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

物質科学実験 I ... 齊藤・中山・日置・小山・伏見・真岸・折戸/3年(前期)	315
物質科学実験 II ... 齊藤・中山・日置・小山・伏見・真岸・折戸/3年(後期)	315
物質システムセミナー I ... 物理系サブコース各卒業研究指導教員/4年(前期)	316
物質システムセミナー II ... 物理系サブコース各卒業研究指導教員/4年(後期)	316
電磁気学 II ... 折戸/2年(後期)	316
力学・電磁気学演習 ... 中山/2年(後期)	316
熱・統計力学 II ... 真岸/3年(前期)	316
量子力学 II ... 日置/3年(後期)	317
物性科学 I ... 小山/3年(後期)	317
物性科学 II ... 小山/3年(後期, 集中)	317
熱統計力学・量子力学演習 ... 日置・真岸/3年(後期)	318
量子物質科学 ... 中山・小山/3年(後期)	318
物質分析法 II ... 今井/3年(後期)	318
無機物質系の化学 II ... 未定/2年(後期)	318
分子反応システム論 I ... 三好/3年(前期)	318
分子反応システム論 II ... 三好/3年(後期)	319
分子物理化学 II ... 山本/2年(後期)	319
天然物質化学 ... 中村/3年(後期)	319
化学環境システム論 ... 山本・浜野/2年(後期)	319
生体物質化学 ... 増田/3年(前期)	320
地球表層物質論 ... 村田・石田・西山/3年(後期)	320
地球表層システム論 ... 西山/3年(前期)	320
地球表層環境論 II ... 石田/3年(前期)	320
地球表層構造形成論 II ... 村田/3年(前期)	321
細胞生理学 I ... 中川/2年(前期)	321
細胞生理学 II ... 大橋・真壁・松尾・佐藤・渡部/3年(前期)	321
植物生理学 ... 佐藤/2年(前期)	322
環境生理学 ... 佐藤/3年(後期)	322
環境物質影響学 ... 金丸/3年(後期)	322
環境適応学 II ... 佐藤/2年(前期, 集中)	322

物質科学実験 I

2単位 3年(前期)

齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科, 中山 信太郎・教授/総合理数学科
日置 善郎・教授/総合理数学科, 小山 晋之・教授/総合理数学科
伏見 賢一・准教授/総合理数学科, 真岸 孝一・准教授/総合理数学科
折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】物質科学基礎実験 I, II の既修を前提として、より専門的な物理科学的実験を行う。実験系に進みたい者はもちろんのこと、物質を対象とした実験であるので、将来、理論系に進む場合でもこの程度の実験は経験しておく必要がある。また、行った実験をまとめて他人の前で発表することは大切である。ここで行った実験はレポートにまとめるとともに、最後にそれを発表する。

【授業概要】少人数のグループに分かれて、専門的な物理科学的実験として次の6つのテーマ(括弧内は分担者)について実験を行う。1テーマに2週かける。[1] 計算機実験(日置) [2] 粒子計測 I(中山, 伏見) [3] 粒子計測 II(中山, 伏見) [4] 物性 I(小山, 齊藤, 菅原, 真岸) [5] 物性 II(小山, 齊藤, 菅原, 真岸) [6] X線結晶構造解析実験(沼子)6つのテーマの実験が終わった後に、作成した6連のレポートの一つを使って行った実験についての発表会を行う。人前で話すには何を用意したら良いか、どのように話したら内容が正確に伝わるかということを学んだ上で、卒業研究に取り組んでいただきたい。

【キーワード】物理学

【先行科目】『物質科学基礎実験 I』(1.0, ⇒286頁), 『物質科学基礎実験 II』(1.0, ⇒312頁)

【関連科目】『物質科学実験 II』(1.0, ⇒315頁)

【履修上の注意】「物質科学基礎実験 I-II」の既習を前提としている。全回出席し、各実験テーマについてのレポートを全て提出することを原則とする。やむを得ず欠席したときは、空いている時間に実験を行うこと。

【到達目標】より専門的な物理科学的実験を正確に行い、レポートを書き、プレゼンテーションができる。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 実験 1 3. 実験 1 4. 実験 2 5. 実験 2 6. 実験 3 7. 実験 3 8. 実験 4 9. 実験 4 10. 実験 5 11. 実験 5 12. 実験 6 13. 実験 6 14. 発表会準備 15. 発表会 16. 総括授業

【成績評価】提出されたレポートおよび、発表会を併せて評価する。

【再試験】原則として行わない。

【教科書】教科書なし。適宜プリント等を配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219342>

【連絡先】

- ⇒ 齊藤 (総合科学部 3号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 日置 (総合科学部 3号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 小山 (総合科学部 3号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 伏見 (総合科学部 3号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 真岸 (総合科学部 3号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

物質科学実験 II

2単位 3年(後期)

齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科, 中山 信太郎・教授/総合理数学科
日置 善郎・教授/総合理数学科, 小山 晋之・教授/総合理数学科
伏見 賢一・准教授/総合理数学科, 真岸 孝一・准教授/総合理数学科
折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】物質科学基礎実験 I では様々な現代物理学におけるいくつかの実験を駆け足で行った。この実験ではその中から1つを選び、更に深く実験を行うことにより、物理学を探究する方法を習得するとともに、実験手段に習熟することを目的とする。

【授業概要】専門的な物理科学的実験

【キーワード】物理学

【先行科目】『物質科学基礎実験 I』(1.0, ⇒286頁), 『物質科学基礎実験 II』(1.0), 『物質科学実験 I』(1.0, ⇒315頁)

【履修上の注意】「物質科学基礎実験 I-II」の既習および「物質科学実験 I」の既習を前提としている。全回出席し、各テーマについてのレポートを全て提出することを原則とする。止むを得ず欠席したときは、空いている時間に実験を行うこと。この実験で行う内容は、卒業研究を行う上での基礎的な実験である。従って、4年で行う卒業研究を念頭にテーマを選択すること。

【到達目標】より専門的な物理科学的実験を正確に行い、レポートを書き、プレゼンテーションができる。

【授業計画】量子科学, 粒子計測, 物性科学のテーマの中から1つを選び、そのテーマに関する文献講読及び実験を行う。

【成績評価】提出されたレポートの評価および、発表会における実験テーマの理解度、実験の正確さ、プレゼンテーション能力の評価を併せて評価する。

【再試験】原則として行わない。

【教科書】教科書は実験テーマにより指示する。適宜プリント等を配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219343>

【連絡先】

- ⇒ 齊藤 (総合科学部 3号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 日置 (総合科学部 3号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 小山 (総合科学部 3号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 伏見 (総合科学部 3号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 真岸 (総合科学部 3号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 第1回目の授業で知らせる。)
- ⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

物質システムセミナー I

2 単位 4 年 (前期)
物理系サブコース各卒業研究指導教員

【授業目的】 通常の授業では修得が難しい問題探求能力や討論・発表能力をセミナーにより高める。

【授業概要】 卒業研究のためのセミナー

【履修上の注意】 予習・復習のみならず、日常的に関連テーマについての問題意識を持つこと。

【到達目標】 卒業研究のための基礎知識を得、自らそれを更に掘り下げて詳しく調べる実力をつけること。また、関連する重要問題につき討論・発表ができるようになること。

【授業計画】 卒業研究に関連した文献・資料をセミナー形式で読み、それにつき討論する。

【成績評価】 セミナーへの取組状況を様々な角度から評価し判定する。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219332>

【連絡先】

⇒ 物理系サブコース各卒業研究指導教員

物質システムセミナー II

2 単位 4 年 (後期)
物理系サブコース各卒業研究指導教員

【授業目的】 通常の授業では修得が難しい問題探求能力や討論・発表能力をセミナーにより高める。

【授業概要】 卒業研究のためのセミナー

【履修上の注意】 予習・復習のみならず、日常的に関連テーマについての問題意識を持つこと。

【到達目標】 卒業研究のための基礎知識を得、自らそれを更に掘り下げて詳しく調べる実力をつけること。また、関連する重要問題につき討論・発表ができるようになること。

【授業計画】 卒業研究に関連した文献・資料をセミナー形式で読み、それにつき討論する。

【成績評価】 セミナーへの取組状況を様々な角度から評価し判定する。

【再試験】 無

【教科書】 授業中に指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219333>

【連絡先】

⇒ 物理系サブコース各卒業研究指導教員

電磁気学 II

2 単位 2 年 (後期)
折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】 我々の身の回りは電気的な現象、磁気的な現象であふれている。電磁気学 I では、どのような実験事実があって、それをどうやって法則化していくかということを通り学んだ。本講義では、電磁気学における基本法則であるマクスウェルの方程式を正確に記述し、電気と磁気の複雑な電磁気現象が、これらの実にシンプルな方程式から理解できる事を学ぶ。電磁気現象をよりよく理解し、理工学専門研究における基礎とする事を目的とする。

【授業概要】 電磁気学における基本法則であるマクスウェルの方程式を正確に記述する。電磁場の性質が、これらの方程式から理解できることを学ぶ。

【キーワード】 電磁場、マクスウェル方程式、電流

【先行科目】 『力学』(1.0, ⇒309 頁), 『電磁気学 I』(1.0, ⇒309 頁)

【関連科目】 『力学・電磁気学演習』(1.0, ⇒316 頁)

【履修上の注意】 課題プリントで毎回問題を指示する。授業の理解・復習のため、積極的に取り組んでほしい。この授業とセットで「力学・電磁気学演習」が開講されており、併せて受講し、電磁気学の演習問題を解いて応用能力を身につけることが望ましい。

【到達目標】 電磁気学の諸法則をマクスウェルの方程式で正しく記述できるようにする。

【授業計画】 1. 導入と数学準備 2. 数学準備 3. 電荷と電場 4. 磁場、磁束密度、電流密度 5. マクスウェル方程式 6. 静電場 7. コンデンサーと誘電体 8. 電流と抵抗 9. 静磁場 10. 電流と静磁場 11. 電磁誘導 12. 過渡現象 13. 交流回路 14. 電磁波 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末テストのほか演習および授業出席状況などを総合して評価する。

【再試験】 原則として行わない。

【教科書】 基礎の電磁気学, 渡邊靖志著, 培風館

【参考書】 未定

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218893>

【連絡先】

⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

力学・電磁気学演習

2 単位 2 年 (後期)
中山信太郎・教授/総合理数学科

【授業目的】 2 年次に履修する「力学」および「電磁気学 I-II」について問題演習を行い、授業内容の理解をはかる。同時に物理学を学んでいく上で必要な数学に親しむことも目的とする。力学、電磁気学は物理系専門のすべての分野の基礎となるばかりではなく、その考え方は自然科学の各分野で広く用いられているので、基本的な演習問題を自ら解くことによって、応用する力も身につける必要がある。物理においては、現実を簡略化した「モデル」を立てて、そのモデルの性質を調べるということを良く行う。この演習では力学・電磁気学の問題を通して、自分なりにモデルを組み立てて、それを解いていく力を身につけることによって、物事を理解する力をつけてほしい。

【授業概要】 教科書のなかの演習問題および易くかつ標準的な演習問題を予め指示しておく。その問題の解答を演習日の前日までに用意しておく。問題によっては、テキストに解答が与えられている場合もあるが、どうしてそのような式を立てて、どのような計算をしたのかという点を講義の復習をしながら理解してほしい。演習時間には指名された者が前に出て、問題の解法を発表する。最後に解答をレポートとして提出する。

【キーワード】 力学, 電磁気学, 演習

【先行科目】 『力学』(1.0, ⇒309 頁), 『電磁気学 I』(1.0, ⇒309 頁)

【関連科目】 『電磁気学 II』(1.0, ⇒316 頁)

【履修上の注意】 力学および電磁気学の内容の理解を深めるためにはこの演習を「力学」「電磁気学 I」「電磁気学 II」とセットで受講することが望ましい。発表しない者は、漫然と発表者の話を聞いているのではなく、疑問点を見つけ、積極的に質問・議論してほしい。

【到達目標】 力学・電磁気学に関する基本的な演習問題を解けるようにする。

【授業計画】 1. 導入 (力学) 2. 運動方程式 3. いろいろな力による運動 4. 仕事とエネルギー 5. 質点系と剛体の力学 1 6. 質点系と剛体の力学 2 7. 総括授業 (力学) 8. 導入 (電磁気学) 9. 静電場 10. コンデンサーと誘電体 11. 定常電流と静磁場 12. 電流に働く磁場の力 13. 時間的に変動する電場と磁場 14. ワークショップ 15. ワークショップ

【成績評価】 前に出て発表した内容と、提出したレポートの両方で評価を行う。

【再試験】 原則として行わない

【教科書】 講義で用いた教科書を使用する

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/rd-semi/>【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219136>

【連絡先】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12~13時)

熱・統計力学 II

2 単位 3 年 (前期)
真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 量子力学の完成によって確立された原子・分子の世界を支配するミクロな基礎法則と熱力学を支配するようなマクロな法則とはまったく異なる世界の法則のように見える。この異なる両者がどのように結びつくのかということに焦点を当てて、ミクロとマクロの両者を橋渡しする唯一の理論である「統計力学」の考え方を理解することを目的とする。熱力学では物質の内部構造までは立ち入らず、そのマクロな性質や振舞いだけを対象としてそれらの間に成り立つ法則や関係式を求めるという立場をとった。それに対して、統計力学では物質を原子核・電子・原子・分子等のミクロな粒子の集合体として考え、確率・統計的な概念を用いてそのマクロな性質が基礎づけられることを理解する。

【授業概要】 統計力学

【キーワード】 等確率の原理, エントロピー, 分配関数, 自由エネルギー, 化学ポテンシャル

【先行科目】 『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『力学』(1.0, ⇒309 頁), 『物理数学』(1.0, ⇒311 頁)

【関連科目】 『物性科学 I』(0.5, ⇒317 頁), 『物性科学 II』(0.5, ⇒317 頁), 『量子力学 I』(0.5, ⇒299 頁)

【履修上の注意】 「熱・統計力学 I」および 1, 2 年時の物理系科目の既修を前提とする。「量子力学 I」および「物性科学 I」の受講が望ましい。ノートとレポート用紙を用意すること。

【到達目標】 構成粒子の集合体という微視的立場から巨視的な物質の性質を理解する。

【授業計画】 1. 導入:統計力学の考え方 2. エネルギーの移動と熱平衡 3. 等確率の原理とエントロピー 4. ミクロカノニカル分布 (1) 5. ミクロカノニカル分布 (2) 6. カノニカル分布 (1) 7. カノニカル分

布 (2) 8. 中間試験 9. 古典統計力学の近似 10. 低温と量子効果
11. 開いた系と化学ポテンシャル 12. グランドカノニカル分布 13.
量子統計 (1) フェルミ統計 14. 量子統計 (2) ボーズ統計 15. 学期
末試験 16. 総括授業

【成績評価】出席状況、レポート、中間および期末試験の結果について総合的に評価する。

【再試験】希望があれば行う。

【教科書】

- ◇ 長岡洋介著「統計力学」(岩波書店)
- ◇ 久保亮五編「大学演習 熱学・統計力学」(裳華房)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219329>

【連絡先】

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.toku
shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時 ~ 13時(こ
れ以外に随時, 教員室に居ればできるだけ対応します。))

量子力学 II

2 単位 3 年 (後期)
日置 善郎・教授/総合理数学科

【授業目的】量子力学の構成の理解と簡単な応用

【授業概要】量子力学は、素粒子物理・原子核物理や物性物理といった現代物理学の中核であるばかりでなく、電子工学のような最先端科学技術の重要な基礎ともなっている。従って、物理系分野を専門とする学生だけでなく、自然科学一般を専攻する学生も、その基本的な考え方を理解することが望まれる。ところが、そこにおいては、物体の運動の情報は、古典力学における位置ベクトルや速度ベクトルのような理解しやすい量ではなく、初学者にとっては何とも掴み所のない波動関数という量にすべて含まれており、その波動関数の振る舞いを規定するのは、これまたニュートンの運動方程式ではなく、シュレディンガー方程式という名の波動方程式である。この結果、一旦学習を始めても多くの学生は、その入り口で頭を混乱させ立ち往生することになってしまう。この講義は、この量子力学への軟着陸を目指した入門的解説であり、量子力学 I に続いて、基本的な事項(下記)に焦点を絞り、必要に応じて演習も取り入れながら話を進めていく。

【キーワード】シュレディンガー方程式、重ね合せの原理、角運動量、摂動論

【先行科目】『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁)

【関連科目】『熱統計力学・量子力学演習』(0.5, ⇒318 頁)

【履修上の注意】「量子力学 I」の受講を前提とする。その他の注意は量子力学 I と同じ。

【到達目標】量子力学の基本的な構成の理解、および原子・分子の構造を定量的に理解する上で必要不可欠な概念である角運動量・スピンと摂動計算の基本的なテクニックを修得すること。

【授業計画】1. 量子力学の基本構成 (1) 重ね合せの原理 2. 量子力学の基本構成 (2) 古典力学と量子力学 3. 中心ポテンシャルと角運動量 (1) 中心ポテンシャル 4. 中心ポテンシャルと角運動量 (2) 角運動量 5. 中心ポテンシャルと角運動量 (3) 動径波動関数 6. 中心ポテンシャルと角運動量 (4) 角運動量の昇降演算子 7. 中心ポテンシャルと角運動量 (4) 角運動量の昇降演算子 2 8. 中心ポテンシャルと角運動量 (5) 角運動量の合成 1 9. 中心ポテンシャルと角運動量 (5) 角運動量の合成 2 10. 摂動論 (1) 逐次近似法 11. 摂動論 (2) 時間を含まない摂動論 12. 摂動論 (3) 時間を含む摂動論 13. スピン角運動量と多粒子系 (1) スピン角運動量 1 14. スピン角運動量と多粒子系 (1) スピン角運動量 2 15. スピン角運動量と多粒子系 (2) 粒子の同位性と多粒子系 16. 期末試験

【成績評価】「量子力学 I」と同様、学期末試験(持ち込み不可)だけでなく、数回行う小テスト(持ち込み不可)の結果も総合して判定する。

【再試験】有 (但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【教科書】

- ◇ 教科書: 日置善郎『量子力学』吉岡書店
- ◇ 参考書: 原康夫『量子力学』岩波書店など。この他に必要に応じてプリント等を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219475>

【連絡先】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.toku
shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)火曜日11時50分~ 13時
(これ以外の時間でも訪問可))

物性科学 I

Materials Science I

2 単位 3 年 (後期)
小山晋之・教授/総合理数学科

【授業目的】固体のいろいろな性質(物性)が微視的立場からどのように理解できるかを、できる限り初歩的に解説する。初等的な水準の基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせれば、固体物理学に現れる広範囲のまた多くの現象を、少なくとも定性的にかつ統一的に説明できることを講義する。

【授業概要】固体物理学の入門

【キーワード】結晶構造、逆格子、フォノン

【先行科目】『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁), 『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒316 頁)

【関連科目】『物性科学 II』(0.5, ⇒317 頁), 『物質科学実験 I』(0.5, ⇒315 頁), 『物質科学実験 II』(0.5, ⇒315 頁)

【履修上の注意】基礎となる「量子力学 I」および「熱・統計力学 I-II」の履修が望ましい。

【到達目標】固体の結晶構造と逆格子、結晶結合の種類とその原因、格子振動・結晶の振動とその熱的性質を理解する。

【授業計画】1. ガイダンス-身の回りの先端科学の中の物性科学 2. 結晶構造:原子の周期的配列/空間格子の基本型 3. 結晶構造:結晶面の指数/簡単な結晶構造 4. 逆格子:結晶による波の回折/散乱波の振幅 5. 逆格子:ブリルアン・ゾーン 6. 逆格子:単位構造のフーリエ解析 7. 結晶結合:希ガス結晶/イオン結晶 8. 結晶結合:共有結合結晶/金属結晶/水素結合をもつ結晶 9. 結晶結合:原子半径、イオン半径 10. フォノン I :結晶の振動:単原子結晶の振動 11. フォノン I :結晶の振動:基本格子が 2 個の原子を含む格子 12. フォノン I :結晶の振動:弾性波の量子化/フォノンの運動量/フォノンによる非弾性散乱 13. フォノン II :熱的性質:フォノン比熱 ~ アインシュタイン・モデル 14. フォノン II :熱的性質:フォノン比熱 ~ デバイ・モデル 15. フォノン II :熱的性質:結晶による非調和相互作用/熱伝導率 16. 期末試験

【成績評価】学期末試験、レポート、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】行う。但し、全てのレポートの提出を必要とする。

【教科書】

- ◇ 教科書 キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)
- ◇ 参考書 坂田亮著『物性科学』(培風館)
- ◇ 参考書 大貫惇睦編『物性物理学』(朝倉書店)
- ◇ 参考書 岡崎誠著「固体物理学-工学のために-」(裳華房)
- ◇ 参考書 キッテル著「固体物理学入門 下」(丸善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218978>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.toku
shima-u.ac.jp)

物性科学 II

Materials Science II

2 単位 3 年 (後期, 集中)
小山晋之・教授/総合理数学科

【授業目的】「物性科学 I」に引き続き、固体のいろいろな性質(物性)が微視的立場からどのように理解できるかを、できる限り初歩的に解説する。初等的な水準の基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせれば、固体物理学に現れる広範囲のまた多くの現象を、少なくとも定性的にかつ統一的に説明できることを講義する。

【授業概要】固体物理学の入門

【キーワード】自由電子モデル、フェルミ面、電子比熱

【先行科目】『物性科学 I』(1.0, ⇒317 頁), 『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒316 頁)

【関連科目】『物性科学 I』(0.5, ⇒317 頁), 『物質科学実験 I』(0.5, ⇒315 頁), 『物質科学実験 II』(0.5, ⇒315 頁)

【履修上の注意】基礎となる「量子力学 I-II」, 「熱・統計力学 I-II」および「物性科学 I」の履修が望ましい。

【到達目標】金属、バンド構造、半導体の基礎的な物性とその原因を理解する。

【授業計画】1. ガイダンス-自由電子フェルミ気体 2. 自由電子フェルミ気体:1 次元のエネルギー準位/フェルミ-ディラックの分布関数に対する温度の効果 3. 自由電子フェルミ気体:3 次元の自由電子気体/電子気体の比熱/電気伝導率とオームの法則(磁場内の運動)/金属の熱伝導率 4. エネルギーバンド:自由電子に近い電子モデル 5. エネルギーバンド:プロット関数/クローニヒ-ペニーのモデル 6. エネルギーバンド:周期的ポテンシャル内の電子の波動方程式 7. エネルギーバンド:バンドの中の状態数 8. 半導体:バンドギャップ 9. 半導体:運動方程式 10. 半導体:固有領域のキャリア濃度/不純物伝導 11. 半導体:熱効果/半金属 12. フェルミ面と金属:還元ゾーン形式と周期的ゾーン形式 13. フェルミ面と金属:フェルミ面の構成/電子軌道、ホール軌道、開いた軌道 14. フェルミ面と金属:エネルギーバンドの計算 15. フェルミ面と金属:フェルミ面を研究する実験的方法 16. 期末試験

【成績評価】学期末試験、レポート、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】行う。但し、全てのレポートの提出を必要とする。

【教科書】

- ◇ 教科書 キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)
- ◇ 参考書 坂田亮著『物性科学』(培風館)
- ◇ 参考書 大貫惇睦編『物性物理学』(朝倉書店)
- ◇ 参考書 岡崎誠著「固体物理学-工学のために-」(裳華房)
- ◇ 参考書 キッテル著「固体物理学入門 下」(丸善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218979>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.toku-shima-u.ac.jp)

熱統計力学・量子力学演習

2 単位 3 年 (後期)
日置 善郎・教授/総合理数学科, 真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 統計力学と量子力学の基本的理解

【授業概要】 統計力学と量子力学についての演習を交互におこなう。理解度を高めるのが演習の目的であって、決して試験の準備勉強ではない。(1) 統計力学: 統計力学では、マクロな数の粒子から成る系を対象として、内部エネルギー、エントロピー、自由エネルギーなどの熱力学的量を求め、さらにその系の比熱や磁化率などの物性の特徴について調べる。計算が比較的容易なモデル的な系について、どのように統計力学が使えるかを自ら実際に体験することにより理解を高める。(2) 量子力学: 量子力学が難しいと一般に言われる理由は、高校までの物理学とはかなり異なる考え方が要求される点にある。これを克服するためには、焦らず基本的事項をじっくりと理解していくと同時に、基本的な練習問題を自ら考えて解くことによりシュレディンガー方程式の取り扱いの方法を身につけていくことが必要である。

【キーワード】 シュレディンガー方程式、波動関数、ハミルトニアン、フェルミ統計、ボーズ統計

【先行科目】 『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒316 頁), 『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁)

【関連科目】 『量子力学 II』(0.5, ⇒317 頁), 『物性科学 I』(0.5, ⇒317 頁), 『物性科学 II』(0.5, ⇒317 頁)

【履修上の注意】 熱・統計力学 I-II および量子力学 I の受講を前提とする (量子力学 II の受講も望ましい)。あとは積極的な受講態度あるのみ!

【到達目標】 熱統計力学および量子力学の基本事項を、具体的な練習問題を解いていくことにより身につけ、更に進んだレベルの学習へ進むための基礎とすること。

【授業計画】 1. 統計力学 1:全体概説 2. 量子力学 1:全体概説 3. 統計力学 2:ミクロカノニカル分布 4. 量子力学 2:井戸型ポテンシャルの問題 5. 統計力学 3:カノニカル分布 6. 量子力学 3:固有値・固有関数の取り扱い 7. 統計力学 4:古典統計力学近似 8. 量子力学 4:角運動量と中心力場 9. 統計力学 5:グランドカノニカル分布 10. 量子力学 5:摂動論 11. 統計力学 6:フェルミ統計 12. 量子力学 6:散乱問題 (I) 13. 統計力学 7:ボーズ統計 14. 量子力学 7:散乱問題 (II) 15. 統計力学 8:総括 16. 量子力学 8:総括

【成績評価】 演習なので、通常の出席状況と受講態度が最も大きな評価項目となる。これに、必要に応じて実施する試験の結果も加えて総合的に判定する。

【再試験】 希望があれば行う。

【教科書】 プリントおよび熱・統計力学 I-II および量子力学 I-II の教科書・参考書。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219330>

【連絡先】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 量子力学 I-II に同じ。)

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 熱・統計力学 I-II に同じ。)

量子物質科学

2 単位 3 年 (後期)
中山 信太郎・教授/総合理数学科, 小山 晋之・教授/総合理数学科

【授業目的】 これまでの授業で学習してきた「物理学」「化学」の基礎的項目の上に物質構造の説明がなされるわけで、基礎的項目を応用できるようにする。特に、これまでに学習した科学の基礎的知識は必須である。前半では物質の二重性を基礎におく量子論をとおして原子構造を解説する。後半では金属・絶縁体・半導体の基礎的な物性とそのメカニズムについて解説する。

【授業概要】 前半では電子と原子構造について、その空間的大きさ、形、スピン、パリティについて理解する。後半では原子の集合体である金属・絶縁体・半導体の基礎的な物性とそのメカニズムを初等的な基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせて理解する。

【キーワード】 自然の広がり、気体分子運動論、原子スペクトル、自由電子モデル、フェルミ面、金属、半導体

【先行科目】 『力学・電磁気学演習』(1.0, ⇒316 頁), 『電磁気学 II』(1.0, ⇒316 頁), 『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒316 頁), 『物性科学 I』(1.0, ⇒317 頁)

【関連科目】 『量子力学 II』(0.5, ⇒317 頁), 『物質システムセミナー I』(0.5, ⇒316 頁), 『物質システムセミナー II』(0.5, ⇒316 頁)

【履修上の注意】 これまで履修した基礎科学の知識をベースにする。

【到達目標】

1. 原子構造と原子スペクトルを理解する
2. スピン、パリティと軌道角運動量を理解する
3. 金属と自由電子モデルについて理解する
4. 半導体とバンド構造について理解する

【授業計画】 1. 自然の広がり 2. 気体分子運動論 3. 相対性理論と光子 4. 光の放射と原子構造 5. 水素原子模型 6. 原子スペクトル 7. 自由電子のフェルミガス模型 8. 中間テスト 9. 金属と半導体について 10. 自由電子フェルミ気体のエネルギー準位/フェルミディラックの分布関数 11. 自由電子フェルミ気体の比熱/電気伝導率とオームの法則 12. エネルギーバンド:自由電子に近い電子モデル 13. エネルギーバンド:周期的ポテンシャル内の電子 14. バンドギャップ/金属と半導体 ~ 絶縁体 15. 半導体:固有領域のキャリア濃度/不純物伝導 16. 期末テスト

【成績評価】 レポートと中間テストと期末テスト

【再試験】 レポートが一定水準に達している場合あり

【教科書】

- ◇ 自製テキスト
- ◇ キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)

【参考書】

- ◇ 参考書「量子力学」原康夫著, 岩波書店
- ◇ 参考書:「原子物理概論」久武和夫著, 朝倉書店
- ◇ 参考書:「現代物理学の基礎」バイザー著, 好学社
- ◇ 参考書:「固体電子物性」若原昭浩著, オーム社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219476>

【連絡先】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室時はいつでも質問を受け付ける)

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日・木曜日の昼休み)

物質分析法 II

2 単位 3 年 (後期)
今井 昭二・教授/社会創生学科

【授業目的】 環境分野では、カドミウム、鉛、ヒ素などの有害元素、地球化学分野ではマンガン、銅、ニッケル、生命分野では亜鉛、亜硝酸イオン、リン酸イオンなどの分析技術が環境科学研究、環境制御などの諸分野を支えています。この分析方法について最新の基礎と応用について講義する。

【授業概要】 環境制御、水道水管理からはじまり臨床検査、国際貿易、食品検査にいたる専門領域において益々需要が広がりつつある機器分析の中で、分光分析法、イオンクロマトグラフィー、微量金属元素分析について講義する。

【キーワード】 水質分析, 機器分析化学, 水環境測定

【先行科目】 『無機物質系の化学 II』(1.0, ⇒318 頁)

【履修上の注意】 環境機器分析化学と同じ内容である。

【到達目標】 環境分析に必要な機器分析の基礎的知識の理解と応用を達成目標にします。

【授業計画】 総括

【成績評価】 定期試験、出席状況、レポートで総合的に評価する。但し、試験が 20 点未満の学生は、再試験を認めない。

【再試験】 試験で 20 点以上の学生に対して実施する。

【教科書】

- ◇ 長島弘三, 富田 功「基礎化学選書 分析化学」裳華房
- ◇ クリスチャン「分析化学 II 機器分析」丸善

【参考書】 水の分析 (化学同人), 環境の化学分析 (三共出版)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219336>

【連絡先】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00-13:00)

無機物質系の化学 II

2 単位 2 年 (後期)
未定

【履修上の注意】 新課程の無機化学 II へと移行しました。無機化学 II のシラバスを参照してください。

【参考書】

- ◇ シュライバー著「無機化学上・下」東京化学同人
- ◇ コットン・ウィルキンソン著「無機化学上・下」培風館

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219327>

【連絡先】

⇒ 未定

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

分子反応システム論 I

2 単位 3 年 (前期)
三好 徳和・教授/総合理数学科

【授業目的】有機物質系の化学 I-II に引き続き、有機化学の反応を官能基別に分類して、それらの化合物の命名法、性質、構造と製法及び反応を立体化学を含めて講義する。

【授業概要】有機反応 (カルボニル化合物を中心として)

【キーワード】有機化学, 反応論

【先行科目】『物質科学の基礎 III』(1.0, ⇒285 頁), 『有機物質系の化学 I』(1.0, ⇒310 頁), 『有機物質系の化学 II』(1.0, ⇒312 頁)

【関連科目】『分子反応システム論 II』(0.5, ⇒319 頁), 『天然物質化学』(0.5, ⇒319 頁), 『生体物質化学』(0.5, ⇒320 頁)

【履修上の注意】有機物質系の化学 I-II の内容を理解していることが原則です。注意事項は初回の授業に話すので、遅刻および欠席はしないように、本年度より、「分子化学反応論」で読み替えます。

【到達目標】芳香族化合物、およびカルボニル化合物を中心とする有機化学反応の基礎を理解する。

【授業計画】1. 1. 芳香族性・ベンゼンの反応 (2 回) 2. 2. 置換ベンゼンの反応 (2 回) 3. 3. カルボニル化合物 I-求核アシル化反応-(2 回) 4. 4. カルボニル化合物 II-アルデヒドとケトン-(3 回) 5. 5. カルボニル化合物 III- α 炭素上での反応-(2 回) 6. 6. 酸化反応について 7. 7. 還元反応について 8. 8. アミン 9. 9. 試験 10. 10. 総括授業

【成績評価】授業に取り組む姿勢と、期末に行う試験により評価する。

【再試験】場合によっては行う。

【教科書】ブルース「有機化学第 5 版 下」大船・香月・西郷・富岡監訳 化学同人

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219123>

【連絡先】
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午前11時55分から午後12時50分(昼休み))

分子反応システム論 II

2 単位 3 年 (後期)
三好 徳和・教授/総合理数学科

【授業目的】先ず、有機物質系の化学 I, II および分子反応システム論 I では講義できなかった反応や、その応用について講義する。引き続き、反応は何故起こるのか、反応の選択性はどのようにして生じるのか、その理由を電子論および分子軌道論を活用して理論的に考察し、反応のメカニズムを理解することを目的とする。

【授業概要】有機化学反応のメカニズム

【キーワード】有機化学, 反応メカニズム

【先行科目】『有機物質系の化学 I』(1.0, ⇒310 頁), 『有機物質系の化学 II』(1.0, ⇒312 頁), 『分子反応システム論 I』(1.0, ⇒318 頁)

【関連科目】『天然物質化学』(0.5, ⇒319 頁), 『生体物質化学』(0.5, ⇒320 頁)

【履修上の注意】平成 23 年度より「グリーンケミストリー」にて読み替えを行う。

【到達目標】有機化学が暗記ではなく、理屈に則った科学であることを理解し、有機反応論にしたがって矢印を用いて、また分子軌道論を使って、有機化学反応を説明できるようになることを到達目標とする。

【授業計画】1. 1. 酸化・還元反応-アルコール, アルデヒド, カルボン酸, オレフィンの酸化・還元反応-(3 回) 2. 2. ラジカル反応および光反応 (3 回) 3. 3. Diels-Alder 反応と電子環状反応 (3 回) 4. 4. HSAB 則と有機化学反応 (2 回) 5. 5. 反応の選択性 (化学選択性, 位置選択性, 立体選択性)(3 回) 6. 6. 試験 7. 7. 総括授業 (1 回)

【成績評価】本授業は講義形式で行うが、授業中に学生に数多く質問をしながら授業を進める。したがって、出席状況や質疑応答といった授業への取り組み姿勢点と、期末試験(ノート等の持込み禁止)結果を併用して評価する。

【再試験】基本的には実施しない

【教科書】
◇ 教科書:ソロモンの新有機化学 第 4 版 (上・下)(花房昭静・池田正澄・仲嶋正一訳, 廣川 書店)
◇ 参考書:反応論による有機化学 (船本直樹著, 実教出版)
◇ 基礎有機化学 (向山光昭編, 丸善株式会社)
◇ パワーノート有機化学 (山本尚編, 廣川書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219124>

【連絡先】
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

分子物理化学 II

2 単位 2 年 (後期)
山本孝・准教授/社会創生学科

【授業目的】分子物理化学 I では熱力学をもとにして、分子を構成単位とする物質の化学反応および物質の状態の変化などについて説明するのに対して、分子物理化学 II では量子力学をもとにした原子の電子配

置、化学結合、分子の構造、電磁波と物質の相互作用について説明する。また、液体、固体の構造について説明する。

【授業概要】先ず、物質を構成するミクロな粒子である原子や分子の性質を学習する。ついで、それらが凝集した液体と固体の状態について学習する。

【キーワード】原子の構造, 分子軌道法, 分子分光学, 溶液の構造, 固体の構造

【先行科目】『現代化学の世界』(1.0, ⇒285 頁)

【履修上の注意】予習をしていることを前提に授業を行う。

【到達目標】

1. 原子軌道について理解している。
2. 分子軌道法について理解している。
3. 分光学の原理について理解している。
4. 液体, 溶液に関する基礎的な内容について理解している。
5. 結晶, 固体に関する基礎的な内容について理解している。

【授業計画】1. 量子力学の起源について講義する。 2. シュレディンガー方程式と波動関数 について講義する。 3. 量子論 (1):並進運動と振動運動 について講義する。 4. 量子論 (2): 回転運動と近似の手法 について講義する。 5. 水素型原子の構造とスペクトルについて講義する。 6. 多電子原子の構造と近似法について講義する。 7. 一重項状態と三重項状態, スピン-軌道相互作用について説明する。 8. 中間試験 9. ボルン-オッペンハイマー近似と原子価結合法について講義する。 10. 分子軌道法について講義する 11. ヒュッケル分子軌道法 について講義する 12. 対称操作と対称要素, 分子の対称による分類について講義する 13. 指標表と対象の記号付けについて講義する 14. 回転スペクトルと振動スペクトルについて講義する 15. 電子遷移について講義する 16. 定期試験

【成績評価】試験を実施する。

【再試験】一定の基準を満たしている場合に再試験を行う。

【教科書】アトキンス 物理化学 (上)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219126>

【連絡先】

⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業中に紹介する。)

天然物質化学

Natural Products Chemistry

2 単位 3 年 (後期)
中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】天然物資源から合成される化合物について、その生合成経路と合成された化合物の機能について理解する。

【授業概要】天然有機化合物の生合成, および機能

【キーワード】天然物化学, 生合成, 生物活性

【先行科目】『生体物質化学』(1.0, ⇒320 頁)

【履修上の注意】有機化学の基礎知識を修得していることが望ましい

【到達目標】化学構造とその分類, 生物活性, 生合成などについての基礎知識を修得する

【授業計画】1. はじめに 2. 生合成経路の研究法 3. 酢酸-マロン酸経路 (1) 4. 酢酸-マロン酸経路 (2) 5. 酢酸-マロン酸経路 (3) 6. シキミ酸経路 (1) 7. シキミ酸経路 (2) 8. メバロン酸経路 (1) 9. メバロン酸経路 (2) 10. メバロン酸経路 (3) 11. その他の経路 (1) 12. その他の経路 (2) 13. その他の経路 (3) 14. その他の経路 (4) 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】学期末テスト, レポート, 受講態度

【再試験】行わない

【教科書】授業に必要な資料を随時配布する。

【参考書】授業の中で適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219201>

【連絡先】

⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】上記の授業計画は、予定であり変更することもある。

化学環境システム論

2 単位 2 年 (後期)
山本 裕史・准教授/社会創生学科, 浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】化学物質等による環境リスクを低減するための様々な方策について学ぶ。

【授業概要】環境への危険性やどうしても避けたい環境影響である「環境リスク」を緩和しようとする、別の問題が生じるという「リスクトレードオフ」が起きる。総合的に環境への影響緩和を実現するためには、個々の問題を定量的に評価した上で、それぞれの最適なバランスを考えてリスクマネジメントおよびリスクコミュニケーションをはかる必要がある。本講義ではそのような環境リスクの問題解決を行うためのキーとなる、化学物質のリスク評価やリスク低減手法について講述し、リスクコミュニケーションの在り方についても学ぶ。

【キーワード】 環境リスク、リスク管理、法規制、リスクコミュニケーション、リスクアセスメント

【先行科目】 『現代化学の世界』(1.0, ⇒285頁), 『化学環境制御論』(1.0, ⇒311頁)

【関連科目】 『環境政治学 I』(0.5, ⇒243頁)

【到達目標】 環境リスクの回避・低減策の現状について、工学的、科学的など様々な視点から学ぶ

【授業計画】 1. シラバスの説明, 環境リスクについて(山本) 2. 水質汚染と規制・基準(山本) 3. 浄水・下水・廃水処理の現状と課題(山本) 4. 室内外空気汚染と規制・基準(山本) 5. 排ガス対策と廃棄物処理・処分(山本) 6. 化審法と農薬取締法, PRTR, MSDS(山本) 7. 化学物質のリスク評価とリスク管理の現状と課題(山本) 8. 中間試験(山本) 9. 農業生態系における環境リスク低減技術(浜野) 10. 土壌生態系における環境リスク低減技術(浜野) 11. 沿岸生態系における環境リスク低減技術(浜野) 12. 河川生態系における環境リスク低減技術(浜野) 13. 環境リスクを計算する(浜野) 14. リスクコミュニケーション(浜野) 15. 期末試験(浜野) 16. 総括授業(浜野)

【成績評価】 浜野担当分 50%, 山本担当分 50%(宿題レポート 20%, 出席 10%, 中間試験 20%)

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 新版環境工学-持続可能な社会とその創造のために(2007), 住友恒ら, 理工図書
- ◇ 化学環境学(2007), 御園生誠, 裳華房

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218474>

【連絡先】

- ⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

生体物質化学

2 単位 3 年(前期)
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】 重要な生体分子に関する有機化学の基礎を修得する。

【授業概要】 基礎生物有機化学

【履修上の注意】 有機物質系の化学 I, II を履修済みであることが望ましい。

【到達目標】 重要な生体系有機化合物の構造式, 基本的な物理的性質, 化学的性質が理解できること。

【授業計画】 1. 生体物質理解のための立体化学 2. 糖質の化学概論 3. 単糖の化学 I 4. 単糖の化学 II 5. オリゴ糖・多糖の化学 6. タンパク質の化学概論 7. アミノ酸の化学 I 8. アミノ酸の化学 II 9. ペプチドの化学 10. タンパク質の立体化学 11. 脂質の化学 I 12. 脂質の化学 II 13. 核酸の化学 I 14. 核酸の化学 II 15. 重要な事項の復習 16. 期末テスト

【成績評価】 期末テストによる。なお、項目別の中間テストを行い、その合計で評価することもある。詳細は、最初の講義時間に説明し、決定する。

【再試験】 相談の上、行うこともある。

【教科書】 有機物質系の化学 I&II と同じ教科書 [ソロモンの新有機化学(下巻)]を用いるが、内容を相当補充する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219364>

【連絡先】

- ⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)水木曜日 12時-13時)

【備考】 この講義は生物有機化学に変更されています。新しいシラバスは生物有機化学のものをご覧ください。

地球表層物質論

2 単位 3 年(後期)
村田 明広・教授/総合理数学科, 石田 啓祐・教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 地球表層の地殻には様々な地層, 火成岩, 変成岩が存在し, 浸食, 運搬, 堆積, 変成作用, 火成岩の貫入など, 日々, 変化している。地殻を構成するこれらの物質の形成とその相互作用, 物質循環に関して, 地球科学的な側面から講義する。

【授業概要】 地層・火成岩・変成岩などの地球表層物質の相互作用と物質循環

【キーワード】 地層, 火成岩, 物質循環, 地球表層物質, 化石, 岩石の風化

【先行科目】 『地球表層構造形成論 I』(1.0), 『地球表層環境論 I』(1.0)

【履修上の注意】 野外調査に出かける場合があります。

【到達目標】

1. 四国の付加地質体の地質構造と変成作用
2. 四国の付加地質体・被覆層と古海域環境

【授業計画】 1. 四国の三波川帯の地質構造(村田) 2. 四国の三波川帯の緑色片岩の変成作用(村田) 3. 四国の秩父帯の地質構造(村田) 4. 四国の秩父帯の緑色岩類の変成作用(村田) 5. 九州-四国の四万十帯の地質構造と緑色岩類の変成作用(村田) 6. 四国の古生代付加体の構成(石田) 7. 四国の古生代付加体の被覆相(石田) 8. 四国のジュラ紀付加体の構成と被覆層(石田) 9. 四国の白亜紀付加体と関連堆積層の古環境(石田) 10. 四国に付加した海洋プレートの古海域環境(石田) 11. 岩石の物理的・化学的風化(西山) 12. 岩石の塩類風化(西山) 13. 泥岩のスレーキング特性(西山) 14. 石材の風化速度(西山) 15. 粘土鉱物と土壌(西山)

【成績評価】 出席, 演習への取り組み姿勢やレポート, 試験の結果から総合的に判断して評価する。

【再試験】 原則として行わない。

【教科書】 教材あるいは参考書については, 講義の中で紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219198>

【連絡先】

- ⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時 00分 ~ 13時 00分)
- ⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時 ~ 13時)
- ⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時 ~ 13時)

地球表層システム論

2 単位 3 年(前期)
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 地球表層を構成する地形と, 地形を構成する物質である岩石・土の物性ならびにその中を流れる水の特徴について, 地表環境の開発・保全・防災の観点から学ぶ。

【授業概要】 環境・建設・防災といった社会のニーズに地球科学の立場から応えるためには, 岩石・岩盤・土の物性(物理的・力学的性質)を把握することが必要である。また, 地球表層における水の循環は, 岩石と水との相互作用に影響する。その結果生じる岩石の風化帯は, 斜面における物質移動(すなわち土砂災害)の予備物質となる。以上をふまえて, この講義では, 地球表層環境の開発・保全・防災に関する事柄の理解を目指す講義を行う。

【キーワード】 環境地学, 災害地質学, 応用地質学, 岩石の風化, 岩石の物理的性質

【先行科目】 『地球科学の基礎』(1.0, ⇒286頁)

【関連科目】 『環境分析技術法』(0.5, ⇒313頁)

【履修上の注意】 毎回パワーポイントを使用します。講義の途中または最後に, 当日の理解度を確認するための小問題を出します。講義に関する質問を歓迎します。

【到達目標】 地球表層環境を構成する岩石・水・土の基本的な物性とその変化について理解する

【授業計画】 1. 地球表層の開発・保全・防災 2. 地形の形成と地表の変化 3. 平野・海岸の地形変化 4. 山地の地形変化 5. さまざまな地質調査の方法と評価 6. 土の物理的・力学的性質 7. 地下水の特徴 8. 地質環境の汚染と対策 9. 岩石・鉱物の風化 10. 風化による岩石物性の変化 11. 岩石の風化速度 12. 斜面における物質移動の種類と特徴 13. 斜面災害の解析 14. 大規模災害の特徴と予測 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】 毎回実施する小テストと, 期末試験または期末レポートを総合的に判断して評価する。

【再試験】 再試験あり

【教科書】 指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】 参考書: 「災害地質学入門」(近未来社), 「山崩れ・地すべりの力学」(筑波大学出版会), 「地形変化の科学」(朝倉書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219194>

【連絡先】

- ⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日12~13時)

地球表層環境論 II

2 単位 3 年(前期)
石田 啓祐・教授/総合理数学科

【授業目的】 堆積物や古生物の研究が地史的な地球表層環境の解析に果たす役割は大きい。プレート収束域に位置するわが国には, 浅海から深海域で形成された中・古生代の各種堆積岩類が広く分布しており, 堆積岩類の年代決定や堆積環境の解析には, 大型化石とともに, 微化石が有効である。本論では, 古生物を用いた研究例を中心に, 西南日本の中・古生界層序, ならびに堆積相・古海域環境の解析を中心に講義する。

【授業概要】 生層序地史, 付加体・関連堆積相と古海域環境, 西南日本の中・古生界層序と古生物

【キーワード】 堆積岩, 付加体, 海洋プレート層序, 微化石

【先行科目】『地球表層環境論 I』(1.0, ⇒313 頁)
 【関連科目】『地球表層環境論 I』(0.5, ⇒313 頁)
 【履修上の注意】前期水 5-6 講時開講。講義への取り組みや内容の理解のためのレポート提出を行い、期末試験とともに評価対象にしている。地球表層環境論 I を履修していることを前提とします。
 【到達目標】海洋プレート層序やメランジュの構成と形成過程、微化石による年代や堆積環境の解析手法を理解し、付加体関連堆積相の概要が説明できる。
 【授業計画】1. 【付加体関連の堆積岩類の特徴】 2. 碎屑性堆積物:砂岩の組成による分類と熟成 3. 非碎屑性堆積物:石灰岩の分類、遠洋性堆積物とチャート 4. 【中・古生界の層序と堆積相】 5. 年代・環境指標としての微化石:紡錘虫 6. 年代・環境指標としての微化石:コノドント 7. 年代・環境指標としての微化石:放射虫 8. プレート運動と付加体の海洋プレート層序 9. メランジュとオリストストローム 10. 西南日本の堆積相の層序と構成(6回) 11. (a) 概説、和泉層群 12. (b,c) 秩父帯などのジュラ紀付加体と前弧海盆堆積相 13. (d,e) 黒瀬川帯などのペルム紀付加体と斜面海盆堆積相 14. (f) 四万十帯帯の白亜紀・第三紀付加体 15. 白亜紀を例に:模式地アルプスの白亜系層序, 白亜紀という時代 16. 陸域, 前弧海盆から海溝へ:アジア東縁, 白亜系の堆積相と生物相
 【成績評価】講義への取り組み姿勢と、課題のレポート、期末試験を総合的に判断して評価します。
 【再試験】積極的な取り組み姿勢の見られた学生に対しては行う場合があります。
 【教科書】
 ◇教科書 平 朝彦著, 日本列島の誕生, 岩波新書 148, 1990 年.
 ◇日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版, 2004 年. [公開]
 ◇日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「層序と年代」共立出版, 2006 年.
 【参考書】
 ◇日本の地質編集委員会編, 日本の地質「増補版」, 共立出版, 2005 年.
 ◇Sam BOGGS Jr. Principles of Sedimentology and Stratigraphy (3rd ed.) Prentice Hall 2001.
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218860>
 【連絡先】
 ⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidad@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地球表層構造形成論 II

2 単位 3 年 (前期)
 村田 明広・教授/総合理数学科

【授業目的】地球科学分野のうち、構造地質学分野の授業を行う。断層、褶曲、面構造・線構造、プーダンなどの、基礎的な構造を理解し、それらがどのように形成されるのかを学ぶ。
 【授業概要】地質構造にはどのようなものがあり、どのように形成されるか。
 【キーワード】プレートテクトニクス、断層、褶曲、活断層
 【先行科目】『地球表層構造形成論 I』(1.0, ⇒314 頁)
 【関連科目】『地球環境システム実験 II』(1.0, ⇒331 頁), 『地学系セミナー I』(1.0, ⇒330 頁)
 【履修上の注意】代表的な地質構造をプロジェクターで見せるので、休まないで受講すること。一部の授業は集中で行ったり、野外実習で説明する可能性があります。
 【到達目標】断層、褶曲、面構造・線構造などの地質構造を理解し、それらを形成した応力場について説明できる。
 【授業計画】1. 整合・不整合・断層・貫入 2. 断層の種類 3. 断層と応力・モーメント 4. 断層ガウジ・断層角礫、断層と地形 5. 節理と裂か 6. 褶曲の種類 7. 褶曲のメカニズム 8. Google Earth で見る断層、褶曲、火山、隕石孔 9. 面構造と線構造 10. プーダン、火成岩脈・碎屑岩脈 11. 兵庫県南部地震と野島断層 12. 四国の三波川帯・御荷鉾緑色岩類の地質構造 13. 四国の秩父帯の地質構造 14. 空中写真による活断層地形の判読 15. イギリスの地質学 16. 試験。
 【成績評価】受講の積極性および小テストによる平常点と、レポートの結果を総合して評価を行う。
 【再試験】行わない
 【教科書】狩野謙一・村田明広, 「構造地質学」, 朝倉書店, 1998 年
 【参考書】
 ◇狩野謙一・村田明広, 「構造地質学 CD-ROM カラー写真集」, 朝倉書店, 2000 年
 ◇植村 武, 「構造地質学要論」, 愛智出版, 2000 年
 ◇R. G. Park, "Foundations of Structural Geology", 3rd Ed., Chapman & Hall, 1997
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219196>
 【連絡先】
 ⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

細胞生理学 I Cellular Physiology I

2 単位 2 年 (前期)
 中川 秀幸・教授/社会創生学科

【授業目的】生体は約 60 兆個の細胞から構成されている。多細胞生物の細胞は、その容器に入っている膨大な情報をもとに生命活動を営んでいる。細胞の容器にあたる細胞膜は、細胞の内部環境と外部環境とのゆるやかなバリアーであり、特徴的な働きを担っている。この授業では、細胞膜の構造や化学成分を学び、細胞膜の主要な機能である分子の輸送や細胞内外への情報の伝達について解説する。
 【授業概要】細胞の生命活動を支える細胞膜の役割と多様な生体分子の働き
 【キーワード】細胞、生体膜、内部環境、蛋白質、脂質、受容体、糖類、アミノ酸、シグナル変換、物質輸送
 【先行科目】『生体有機化学 I』(1.0, ⇒338 頁)
 【関連科目】『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁), 『細胞生理学 II』(0.5, ⇒321 頁), 『生体有機化学 II』(0.5, ⇒338 頁)
 【履修上の注意】復習は必要ですので、ファイルノートを用意してください。板書はします。
 【到達目標】細胞の多様な働きを理解する。形や大きさが多種多様な細胞をつくる物質は、化学的に共通していること、またこの物質が素材となり細胞自身の生活や他の細胞と連絡して生命活動を担っていることを理解する。
 【授業計画】1. 細胞の基本構造と種類 (1) 2. 細胞の基本構造と種類 (2) 3. 細胞の中の分子 (1) 4. 細胞の中の分子 (2) 5. 細胞膜の構成と構造 (1) 6. 細胞膜の構成と構造 (2) 7. 細胞膜の脂質 (1) 8. 細胞膜の脂質 (2) 9. 細胞膜のタンパク質 (1) 10. 細胞膜のタンパク質 (2) 11. 細胞膜での輸送 (1) 12. 細胞膜での輸送 (2) 13. 細胞膜と多様な生体分子の作用 (1) 14. 細胞膜と多様な生体分子の作用 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業
 【成績評価】授業が進んだ前半に行う試験ならびに、出席状況および後半の試験の総合評価を行う。
 【再試験】行わない
 【教科書】教科書として、わかる生物学:知っておきたいヒトのからだの基礎知識 (小野廣紀著・内藤通孝共著, 化学同人, 1800+税)。必要に応じてプリントを配付する。
 【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2/index.htm>
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218668>
 【連絡先】
 ⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室中の午後。E-mail: sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp)

細胞生理学 II

2 単位 3 年 (前期)
 大橋 真・教授/社会創生学科, 真壁 和裕・教授/社会創生学科
 松尾 義則・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科
 渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】生物は、生息する環境条件に対応して、細胞の数を増加させることで生命の維持をはかっている。この講義では、細胞増殖のメカニズムである細胞の分裂機構とその調節形について、テキストを読みながら解説する。
 【授業概要】細胞分裂と細胞周期の調節
 【キーワード】細胞周期、アポトーシス、細胞分裂
 【先行科目】『細胞生理学 I』(1.0, ⇒321 頁)
 【関連科目】『発生学』(0.5, ⇒340 頁), 『生体有機化学 II』(0.5, ⇒338 頁), 『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁)
 【履修上の注意】授業の前に必ずテキストを読んでくること (読んでくる範囲は、授業毎に指示する)。遅刻は認めない (担当教員が入室後には、学生の入室を許可しない)。講義室内での飲食、携帯電話の使用及び私語は許さない。
 【到達目標】細胞周期に関する基本的な学術用語 (英語表記を含む) を理解する。細胞増殖が、生命現象の中で演じる役割の基本的な事柄についての理解を深める。
 【授業計画】1. ガイダンス及び細胞の進化 2. 第 18 章 細胞周期と細胞死 1. 細胞周期の概要 3. 2. 細胞周期制御系 (1) 4. 2. 細胞周期制御系 (2) 5. 3. プログラム細胞死 (アポトーシス) 6. 4. 細胞外から細胞数と細胞の大きさを制御する 7. 第 18 章の試験 8. 第 19 章 細胞分裂 1. M 期の概観 9. 2. 有糸分裂 (1) 10. 2. 有糸分裂 (2) 11. 2. 有糸分裂 (3) 12. 3. 細胞質分裂 (1) 13. 3. 細胞質分裂 (2) 14. 第 19 章の試験 15. 第 18-19 章の試験 16. 総括授業
 【成績評価】1 章終わる毎に、学術用語 (英語表記を含む) とその概要をテストする。期末試験では、講義の範囲内から、総合的に考える問題を出す予定。いずれの試験も、ノート等の持ち込みは不可である。3 回のテストと日常の取り組みに基づいて評価する。
 【再試験】行わない

【教科書】 テキストとして、「Essential 細胞生物学 原書第2版」中村桂子・松原謙一監訳、南光堂を使用する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219413>

【連絡先】

- ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
- ⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

【成績評価】 数回の小テストにより評価する(ノート, 資料の持ち込み禁止)。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義の際に随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219494>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK,)

環境物質影響学

2 単位 3 年 (後期)
金丸 芳 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 我々は種々のストレスが多い環境下での生命維持を余儀なくされています。そのため、疾病予防や健康維持の方法を自ら選ぶ時代となっています。また、動植物に含まれる物質には、生体の恒常性維持や生体防御や生理機能調節に関与する生体調節機能を有しています。すなわち、健康寿命の延長 (疾病予防や健康維持や老化防止) を期待して、生体物質を摂取することが可能です。そのために、種々の生体物質とその生体調節機能を正しく理解し、正しく利用することが必須となります。そこで、種々の生体物質について、その機能と生体に及ぼす影響を概説します。

【授業概要】 疾病予防や健康維持のための生体調節機能を有する生体物質についての生命科学的知識

【キーワード】 健康維持, 生体の恒常性, 生体物質, 生体調節機能

【関連科目】 『細胞機能学』(0.0, ⇒346 頁), 『機能物質作用学』(0.0, ⇒347 頁), 『細胞情報学 II』(0.0, ⇒348 頁)

【到達目標】 生体調節機能を有する環境物質とその作用機序を理解、健康維持について考える。

【授業計画】 1. 健康の阻害と維持 2. 生命と栄養素 3. 生体の恒常性 4. 食習慣と健康 5. 糖質の機能 6. 脂質の機能 7. タンパク質の機能 8. ビタミンの機能 9. ミネラルの機能 10. 生体調節機能 11. 非栄養成分の機能 12. 非栄養成分の機能 13. 酸素の機能 14. 疾病予防と生体物質 15. テスト

【成績評価】 期末のテストを中心に、小テストと出席状況を加味して評価します。

【再試験】 行ないません。

【教科書】 教科書は使用しません。プリントを適宜配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219358>

【連絡先】

- ⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。研究室は総合科学部3号館3階北棟生命科学系です。)

環境適応学 II

2 単位 2 年 (前期, 集中)
佐藤 征弥 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 徳島の自然環境と野生生物について理解を深める。

【授業概要】 野外調査を通じて、徳島でみられる野生生物の生態について理解する

【履修上の注意】 この授業は、昨年度まで「佐那河内いきものふれあいの里」の自然観察員の方3名を講師に迎えて実施してきましたが、新カリ移行にあたり、今年度からは同様の形での実施はできなくなりました。やむを得ない事情がない限りは、開講しない予定です。

【到達目標】 徳島の野生生物と自然環境について理解を深める。

【授業計画】 吉野川での野鳥や干潟生物の観察、眉山の自然環境の調査などのフィールドワークを行なう。

【成績評価】 レポート課題により評価する

【再試験】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219493>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義に関する質問は佐藤(征)が受け付けます。研究室にいる時にはいつでもOK。)

植物生理学

2 単位 2 年 (前期)
佐藤 征弥 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 自然保護の意味や実情を理解し、どのような取り組みを行えば良いか、またどのようなことに留意すれば良いかについて考える。

【授業概要】 自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう。しかし、野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等、生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない。また、絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については、その正確性が絶えず議論になる。この授業では、自然保護の意味と実際について具体的な事例を多くとりあげ、どのように考えていくべきか解説する。

【履修上の注意】 なし。

【到達目標】 自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】 1. 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい 2. 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて 3. 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 4. 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 5. 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え 6. 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 7. 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い 8. 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル 9. 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 10. 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 11. 自然公園の管理 12. 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園, 世界遺産 13. 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 14. 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 15. 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軌跡 16. 期末試験

【成績評価】 授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート, 資料持ち込み可) により評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講義の際に随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219489>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK,)

【備考】 「自然保護論」と読み替え

環境生理学

2 単位 3 年 (後期)
佐藤 征弥 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 我々は、とすると他の生物を人間的視点 (あるいは高等動物的視点) から見てしまいがちである。しかし当然ではあるが、地球上のほとんどの生物同士の相互作用や生物と環境の相互作用は、人間とは無関係に進化してきたものであり、我々の想像を超えるような独自の精巧なシステムが構築されている。それらのメカニズムを理解した上で、人間が他の生物をどのように利用しているのか、それがどのような影響を与えるのか等、人間が他の生物といかに関わるべきかについて解説する。

【授業概要】 生物, 環境, 社会

【キーワード】 光合成, 物理環境, 公害, 解毒, 環境適応, 生物浄化法

【履修上の注意】 なし。

【到達目標】 前半の講義では、植物や動物の生理がどのように環境と関わっているかを理解し、後半の講義では種特有の機能を環境浄化に活かす方法を理解する。

【授業計画】 1. 地球全体における光合成の意味 2. 光合成のメカニズム 3. 外部環境に対する認識メカニズム 1: 感覚, 知覚とは? 4. 外部環境に対する認識メカニズム 2: 眼の構造と機能 5. 外部環境に対する認識メカニズム 3: 視覚の進化 6. 外部環境に対する認識メカニズム 4: 視覚以外の感覚について 7. 熱と温度 1: 熱とは何か. 熱の伝わりかた 8. 熱と温度 2: 低温に対する適応について 9. 熱と温度 3: 生物の体温調節メカニズムについて 10. 重金属と生物 1: 重金属の性質と解毒メカニズム 11. 重金属と生物 2: 水俣病について 12. 重金属と生物 3: イタイイタイ病について 13. 重金属と生物 4: その他の重金属の毒性について 14. バイオレメディエーション (生物による環境浄化) とは 15. バイオレメディエーションによる水質浄化. 16. 総括授業

自然システム学科 物質・環境コース 化学系サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

物質科学実験 III ... 今井・増田・三好・山本・山本・中村/3年(前期)	323
分子科学セミナー I ... 化学系サブコース各卒業研究指導教員/4年(前期)	323
分子科学セミナー II ... 化学系サブコース各卒業研究指導教員/4年(後期)	323
物質分析法 II ... 今井/3年(後期)	323
無機物質系の化学 II ... 未定/2年(後期)	324
分子反応システム論 I ... 三好/3年(前期)	324
分子反応システム論 II ... 三好/3年(後期)	324
分子物理化学 II ... 山本/2年(後期)	324
天然物質化学 ... 中村/3年(後期)	325
化学環境システム論 ... 山本・浜野/2年(後期)	325
生体物質化学 ... 増田/3年(前期)	325
電磁気学 II ... 折戸/2年(後期)	325
熱・統計力学 II ... 真岸/3年(前期)	325
量子力学 II ... 日置/3年(後期)	326
物性科学 I ... 小山/3年(後期)	326
物性科学 II ... 小山/3年(後期, 集中)	326
地球表層物質論 ... 村田・石田・西山/3年(後期)	327
地球表層システム論 ... 西山/3年(前期)	327
地球表層環境論 II ... 石田/3年(前期)	327
地球表層構造形成論 II ... 村田/3年(前期)	327
細胞生理学 I ... 中川/2年(前期)	328
細胞生理学 II ... 大橋・真壁・松尾・佐藤・渡部/3年(前期)	328
植物生理学 ... 佐藤/2年(前期)	328
環境生理学 ... 佐藤/3年(後期)	329
環境物質影響学 ... 金丸/3年(後期)	329
環境適応学 II ... 佐藤/2年(前期, 集中)	329

物質科学実験 III	2単位 3年(前期)
今井 昭二・教授/社会創生学科, 増田 俊哉・教授/社会創生学科	
三好 徳和・教授/総合理数学科, 山本 裕史・准教授/社会創生学科	
山本 孝・准教授/社会創生学科, 中村 光裕・講師/総合理数学科	

【授業目的】 物質科学基礎実験 III, IV で修得した知識, 技能をもとに, 化学分野で卒業研究を行うのに必要な実験技術や実験結果の解析能力を養う。

【授業概要】 物質科学における化学分野の実験(3期目)

【履修上の注意】 物質科学基礎実験 III, IV を履修済みであることを原則とします。なお, 実験という性格上時間内に終わらないこともあります。また, フィールドワークを含む宿泊野外実習が行われます。一課題の実験で2週間以上をかけて行うこともあります。極力休まないようにしてください。(どうしても休まなければならないときは担当者に連絡すること)

【到達目標】 各実験項目についてその原理が理解でき, 適切な実験操作により結果を得ることができること。さらに, 得られたデータを解析, 考察することができること。

【授業計画】 1. 生物有機化学実験 I (ペプチドの加水分解) 2. 生物有機化学実験 II (ペプチドの構造決定)・天然物化学実験 I 3. 天然物化学実験 II 4. 有機合成化学実験 I (ベンゾイン縮合) 5. 有機合成化学実験 II (ベンジルへの酸化) 6. 有機合成化学実験 III (1,2-ジフェニル-1,2-エタンジールの合成, NMR と IR) 7. 無機・分析化学実験 I (コバルト錯体の合成:UV-VIS) 8. 無機・分析化学実験 II (水道水中の鉛の定量:GFAAS, ICP-MS) 9. 物理化学実験 I(X線分光分析) 10. 物理化学実験 II(X線分光分析) 11. 環境化学実験 I (水質汚濁評価:GC-MS, HPLC, 指標生物など) 12. 環境化学実験 II(水質汚濁評価:GC-MS, HPLC, 指標生物など) 13. 地域環境・資源化学実験 (野外実験実習:宿泊) 14. 地域環境・資源化学実験 (野外実験実習:宿

泊) 15. 地域環境・資源化学実験 (野外実験実習:宿泊) 16. 総括 (授業実施上の事情によって試験日に実験を実施することもあります)

【成績評価】 各課題ごとに提出するレポートおよび出席状況, 実験態度を総合して評価します。なお, レポートの締め切り日は厳守です。特別な理由のない提出遅れまたは未提出については単位認定ができません。

【再試験】 レポートの再提出を再試験の代わりに行います。

【教科書】 各課題ごとにプリントを配布します。

【参考書】 授業中に適宜, 紹介します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218976>

【連絡先】
 ⇒ 今井 (総合科学部 3号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各実験の担当者に問い合わせるてください。)
 ⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各実験の担当者に問い合わせるてください。)
 ⇒ 三好 (総合科学部 3号館北棟 2階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各実験の担当者に問い合わせるてください。)
 ⇒ 山本 (総合科学部 3号館 2N07, 7618, hiroschi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各実験の担当者に問い合わせるてください。)
 ⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 本実験は今年度より化学実験 II となっています。シラバスはそちらをご覧ください。

分子科学セミナー I 2単位 4年(前期) 化学系サブコース各卒業研究指導教員

【授業目的】 大学での学習は研究室での4年次での1年間が大変重要です。研究室では毎週, セミナー形式で文献や実験の報告を行い, 実践的なトレーニングを重要視します。

【授業概要】 卒業研究を行うための演習およびディスカッション

【履修上の注意】 セミナーには必ず出席し, 報告を行うこと。

【到達目標】 卒業研究において研究するための知識を得, ディスカッションおよび研究発表を行えるようになる。

【授業計画】 卒業研究および関連分野に関するセミナーを行う。各人の卒業研究に関連した文献や研究の進行状況について報告およびディスカッションを行う。互いにその報告を聞き, 質疑応答の積極的な参加が必要である。(後期は, 卒業研究成果の作成を主に指導する。)

【成績評価】 出席と普段の研究学習状況により総合的に判断する。

【再試験】 なし

【教科書】 適宜配布, 指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219128>

【連絡先】
 ⇒ 化学系サブコース各卒業研究指導教員

分子科学セミナー II 2単位 4年(後期) 化学系サブコース各卒業研究指導教員

【授業目的】 大学での学習は研究室での4年次での1年間が大変重要です。研究室では毎週, セミナー形式で文献や実験の報告を行い, 実践的なトレーニングを重要視します。

【授業概要】 卒業研究を行うための演習およびディスカッション

【履修上の注意】 セミナーには必ず出席し, 報告を行うこと。

【到達目標】 卒業研究において研究するための知識を得, ディスカッションおよび研究発表を行えるようになる。

【授業計画】 卒業研究および関連分野に関するセミナーを行う。各人の卒業研究に関連した文献や研究の進行状況について報告およびディスカッションを行う。互いにその報告を聞き, 質疑応答の積極的な参加が必要である。(後期は, 卒業研究成果の作成を主に指導する。)

【成績評価】 出席と普段の研究学習状況により総合的に判断する。

【再試験】 なし

【教科書】 適宜配布, 指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219129>

【連絡先】
 ⇒ 化学系サブコース各卒業研究指導教員

物質分析法 II 2単位 3年(後期) 今井 昭二・教授/社会創生学科

【**授業目的**】環境分野では、カドミウム、鉛、ヒ素などの有害元素、地球化学分野ではマンガン、銅、ニッケル、生命分野では亜鉛、亜硝酸イオン、リン酸イオンなどの分析技術が環境科学研究、環境制御などの諸分野を支えています。この分析方法について最新の基礎と応用について講義する。

【**授業概要**】環境制御、水道水管理からはじまり臨床検査、国際貿易、食品検査にいたる専門領域において益々需要が広がりつつある機器分析の中で、分光分析法、イオンクロマトグラフィー、微量金属元素分析について講義する。

【**キーワード**】水質分析、機器分析化学、水環境測定

【**先行科目**】『無機物質系の化学 II』(1.0、⇒324 頁)

【**履修上の注意**】環境機器分析化学と同じ内容である。

【**到達目標**】環境分析に必要な機器分析の基礎的知識の理解と応用を達成目標にします。

【**授業計画**】総括

【**成績評価**】定期試験、出席状況、レポートで総合的に評価する。但し、試験が 20 点未満の学生は、再試験を認めない。

【**再試験**】試験で 20 点以上の学生に対して実施する。

【**教科書**】

◇ 長島弘三、富田 功「基礎化学選書 分析化学」裳華房

◇ クリスチャン「分析化学 II 機器分析」丸善

【**参考書**】水の分析 (化学同人)、環境の化学分析 (三共出版)

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219336>

【**連絡先**】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08、088-656-7273、imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00-13:00)

無機物質系の化学 II

2 単位 2 年 (後期)
未定

【**履修上の注意**】新課程の無機化学 II へと移行しました。無機化学 II のシラバスを参照してください。

【**参考書**】

◇ シュライバー著「無機化学上・下」東京化学同人

◇ コットン・ウィルキンソン著「無機化学上・下」培風館

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219327>

【**連絡先**】

⇒ 未定

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08、088-656-7273、imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40、木曜日 13:30-14:20)

分子反応システム論 I

2 単位 3 年 (前期)
三好 徳和・教授/総合理数学科

【**授業目的**】有機物質系の化学 I-II に引き続き、有機化学の反応を官能基別に分類して、それらの化合物の命名法、性質、構造と製法及び反応を立体化学を含めて講義する。

【**授業概要**】有機反応 (カルボニル化合物を中心として)

【**キーワード**】有機化学、反応論

【**先行科目**】『物質科学の基礎 III』(1.0、⇒285 頁)、『有機物質系の化学 I』(1.0、⇒310 頁)、『有機物質系の化学 II』(1.0、⇒312 頁)

【**関連科目**】『分子反応システム論 II』(0.5、⇒324 頁)、『天然物質化学』(0.5、⇒325 頁)、『生体物質化学』(0.5、⇒325 頁)

【**履修上の注意**】有機物質系の化学 I-II の内容を理解していることが原則です。注意事項は初回の授業にて話すので、遅刻および欠席はしないように、本年度より、「分子化学反応論」で読み替えます。

【**到達目標**】芳香族化合物、およびカルボニル化合物を中心とする有機化学反応の基礎を理解する。

【**授業計画**】1. 1. 芳香族性・ベンゼンの反応 (2 回) 2. 2. 置換ベンゼンの反応 (2 回) 3. 3. カルボニル化合物 I-求核アシル化反応-(2 回) 4. 4. カルボニル化合物 II-アルデヒドとケトン-(3 回) 5. 5. カルボニル化合物 III- α 炭素上での反応-(2 回) 6. 6. 酸化反応について 7. 7. 還元反応について 8. 8. アミン 9. 9. 試験 10. 10. 総括授業

【**成績評価**】授業に取り組む姿勢と、期末に行う試験により評価する。

【**再試験**】場合によっては行う。

【**教科書**】ブルース「有機化学第 5 版 下」大船・香月・西郷・富岡監訳 化学同人

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219123>

【**連絡先**】

⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03、088-656-7250、miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午前 11 時 55 分から午後 12 時 50 分(昼休み))

分子反応システム論 II

2 単位 3 年 (後期)
三好 徳和・教授/総合理数学科

【**授業目的**】まず、有機物質系の化学 I、II および分子反応システム論 I では講義できなかった反応や、その応用について講義する。引き続き、反応は何故起こるのか、反応の選択性はどのようにして生じるのか、その理由を電子論および分子軌道論を活用して理論的に考察し、反応のメカニズムを理解することを目的とする。

【**授業概要**】有機化学反応のメカニズム

【**キーワード**】有機化学、反応メカニズム

【**先行科目**】『有機物質系の化学 I』(1.0、⇒310 頁)、『有機物質系の化学 II』(1.0、⇒312 頁)、『分子反応システム論 I』(1.0、⇒324 頁)

【**関連科目**】『天然物質化学』(0.5、⇒325 頁)、『生体物質化学』(0.5、⇒325 頁)

【**履修上の注意**】平成 23 年度より「グリーンケミストリー」にて読み替えを行う。

【**到達目標**】有機化学が暗記ではなく、理屈に則った科学であることを理解し、有機反応論にしたがって矢印を用いて、また分子軌道論を使って、有機化学反応を説明できるようになることを到達目標とする。

【**授業計画**】1. 1. 酸化・還元反応-アルコール、アルデヒド、カルボン酸、オレフィンの酸化・還元反応-(3 回) 2. 2. ラジカル反応および光反応 (3 回) 3. 3. Diels-Alder 反応と電子環状反応 (3 回) 4. 4. HSAB 則と有機化学反応 (2 回) 5. 5. 反応の選択性 (化学選択性、位置選択性、立体選択性)(3 回) 6. 6. 試験 7. 7. 総括授業 (1 回)

【**成績評価**】本授業は講義形式で行うが、授業中に学生に数多く質問をしながら授業を進める。したがって、出席状況や質疑応答といった授業への取り組み姿勢点と、期末試験(ノート等の持込み禁止)結果を併用して評価する。

【**再試験**】基本的には実施しない

【**教科書**】

◇ 教科書:ソロモンの新有機化学 第 4 版(上・下)(花房昭静・池田正澄・仲嶋正一訳、廣川 書店)

◇ 参考書:反応論による有機化学 (稲本直樹著、実教出版)

◇ 基礎有機化学 (向山光昭編、丸善株式会社)

◇ パワーノート有機化学 (山本尚編、廣川書店)

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219124>

【**連絡先**】

⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03、088-656-7250、miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

分子物理化学 II

2 単位 2 年 (後期)
山本 孝・准教授/社会創生学科

【**授業目的**】分子物理化学 I では熱力学をもとにして、分子を構成単位とする物質の化学反応および物質の状態の変化などについて説明するのに対して、分子物理化学 II では量子力学をもとにした原子の電子配置、化学結合、分子の構造、電磁波と物質の相互作用について説明する。また、液体、固体の構造について説明する。

【**授業概要**】まず、物質を構成するミクロな粒子である原子や分子の性質を学習する。ついで、それらが凝集した液体と固体の状態について学習する。

【**キーワード**】原子の構造、分子軌道法、分子分光法、溶液の構造、固体の構造

【**先行科目**】『現代化学の世界』(1.0、⇒285 頁)

【**履修上の注意**】予習をしていることを前提に授業を行う。

【**到達目標**】

1. 原子軌道について理解している。
2. 分子軌道法について理解している。
3. 分光法の原理について理解している。
4. 液体、溶液に関する基礎的な内容について理解している。
5. 結晶、固体に関する基礎的な内容について理解している。

【**授業計画**】1. 量子力学の起源について講義する。 2. シュレディンガー方程式と波動関数 について講義する。 3. 量子論 (1): 並進運動と振動運動 について講義する。 4. 量子論 (2): 回転運動と近似の手法 について講義する。 5. 水素型原子の構造とスペクトルについて講義する。 6. 多電子原子の構造と近似法について講義する。 7. 一重項状態と三重項状態、スピン-軌道相互作用について説明する。 8. 中間試験 9. ボルン-オッペンハイマー近似と原子価結合法について講義する。 10. 分子軌道法について講義する 11. ユッケル分子軌道法 について講義する 12. 対称操作と対称要素、分子の対称による分類について講義する 13. 指標表と対象の記号付けについて講義する 14. 回転スペクトルと振動スペクトルについて講義する 15. 電子遷移について講義する 16. 定期試験

【**成績評価**】試験を実施する。

【**再試験**】一定の基準を満たしている場合に再試験を行う。

【**教科書**】アトキンス 物理化学 (上)

【**授業コンテンツ**】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219126>

【**連絡先**】

⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業中に紹介する。)

天然物質化学 2 単位 3 年 (後期)
Natural Products Chemistry 中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】 天然物資源から合成される化合物について、その生合成経路と合成された化合物の機能について理解する。
【授業概要】 天然有機化合物の生合成、および機能
【キーワード】 天然物化学, 生合成, 生物活性
【先行科目】 『生体物質化学』(1.0, ⇒325 頁)
【履修上の注意】 有機化学の基礎知識を修得していることが望ましい
【到達目標】 化学構造とその分類, 生物活性, 生合成などについての基礎知識を修得する
【授業計画】 1. はじめに 2. 生合成経路の研究法 3. 酢酸-マロン酸経路 (1) 4. 酢酸-マロン酸経路 (2) 5. 酢酸-マロン酸経路 (3) 6. シキミ酸経路 (1) 7. シキミ酸経路 (2) 8. メバロン酸経路 (1) 9. メバロン酸経路 (2) 10. メバロン酸経路 (3) 11. その他の経路 (1) 12. その他の経路 (2) 13. その他の経路 (3) 14. その他の経路 (4) 15. 期末試験 16. 総括授業
【成績評価】 学期末テスト, レポート, 受講態度
【再試験】 行わない
【教科書】 授業に必要な資料を随時配布する。
【参考書】 授業の中で適宜紹介する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219201>
【連絡先】
 ⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】 上記の授業計画は、予定であり変更することもある。

化学環境システム論 2 単位 2 年 (後期)
 山本 裕史・准教授/社会創生学科, 浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】 化学物質等による環境リスクを低減するための様々な方策について学ぶ。
【授業概要】 環境への危険性やどうしても避けたい環境影響である「環境リスク」を緩和しようとする、別の問題が生じるという「リスクトレードオフ」が起きる。総合的に環境への影響緩和を実現するためには、個々の問題を定量的に評価した上で、それぞれの最適なバランスを考えてリスクマネージメントおよびリスクコミュニケーションをはかる必要がある。本講義ではそのような環境リスクの問題解決を行うためのキーとなる、化学物質のリスク評価やリスク低減手法について講述し、リスクコミュニケーションの在り方についても学ぶ。
【キーワード】 環境リスク, リスク管理, 法規制, リスクコミュニケーション, リスクアセスメント
【先行科目】 『現代化学の世界』(1.0, ⇒285 頁), 『化学環境制御論』(1.0, ⇒311 頁)
【関連科目】 『環境政治学 I』(0.5, ⇒243 頁)
【到達目標】 環境リスクの回避・低減策の現状について、工学的, 科学的など様々な視点から学ぶ
【授業計画】 1. シラバスの説明, 環境リスクについて (山本) 2. 水質汚染と規制・基準 (山本) 3. 浄水・下水・廃水処理の現状と課題 (山本) 4. 室内外空気汚染と規制・基準 (山本) 5. 排ガス対策と廃棄物処理・処分の現状と課題 (山本) 6. 化審法と農薬取締法, PRTR, MSDS (山本) 7. 化学物質のリスク評価とリスク管理の現状と課題 (山本) 8. 中間試験 (山本) 9. 農業生態系における環境リスク低減技術 (浜野) 10. 土壌生態系における環境リスク低減技術 (浜野) 11. 沿岸生態系における環境リスク低減技術 (浜野) 12. 河川生態系における環境リスク低減技術 (浜野) 13. 環境リスクを計算する (浜野) 14. リスクコミュニケーション (浜野) 15. 期末試験 (浜野) 16. 総括授業 (浜野)
【成績評価】 浜野担当分 50%, 山本担当分 50%(宿題レポート 20%, 出席 10%, 中間試験 20%)
【再試験】 なし
【教科書】
 ◇ 新版環境工学-持続可能な社会とその創造のために (2007), 住友恒ら, 理工図書
 ◇ 化学環境学 (2007), 御園生誠, 裳華房
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218474>
【連絡先】
 ⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
 ⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

生体物質化学 2 単位 3 年 (前期)
 増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】 重要な生体分子に関する有機化学の基礎を修得する。
【授業概要】 基礎生物有機化学
【履修上の注意】 有機物質系の化学 I, II を履修済みであることが望ましい。
【到達目標】 重要な生体系有機化合物の構造式, 基本的な物理的性質, 化学的性質が理解できること。
【授業計画】 1. 生体物質理解のための立体化学 2. 糖質の化学概論 3. 単糖の化学 I 4. 単糖の化学 II 5. オリゴ糖・多糖の化学 6. タンパク質の化学概論 7. アミノ酸の化学 I 8. アミノ酸の化学 II 9. ペプチドの化学 10. タンパク質の立体化学 11. 脂質の化学 I 12. 脂質の化学 II 13. 核酸の化学 I 14. 核酸の化学 II 15. 重要な事項の復習 16. 期末テスト
【成績評価】 期末テストによる。なお、項目別の中間テストを行い、その合計で評価することもある。詳細は、最初の講義時間に説明し、決定する。
【再試験】 相談の上、行うこともある。
【教科書】 有機物質系の化学 I&II と同じ教科書 [ソロモンの新有機化学 (下巻)] を用いるが、内容を相当補充する。
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219364>
【連絡先】
 ⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)水曜日 12時-13時)
【備考】 この講義は生物有機化学に変更されています。新しいシラバスは生物有機化学のものをご覧ください。

電磁気学 II 2 単位 2 年 (後期)
 折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】 我々の身の回りは電気的な現象, 磁気的な現象であふれている。電磁気学 I では、どのような実験事実があつて、それをどうやって法則化していくかということを通り学んだ。本講義では、電磁気学における基本法則であるマクスウェルの方程式を正確に記述し、電気と磁気の複雑な電磁気現象が、これらの実にシンプルな方程式から理解できる事を学ぶ。電磁気現象をよりよく理解し、理工学専門研究における基礎とする事を目的とする。
【授業概要】 電磁気学における基本法則であるマクスウェルの方程式を正確に記述する。電磁場の性質が、これらの方程式から理解できることを学ぶ。
【キーワード】 電磁場, マクスウェル方程式, 電流
【先行科目】 『力学』(1.0, ⇒309 頁), 『電磁気学 I』(1.0, ⇒309 頁)
【関連科目】 『力学・電磁気学演習』(1.0, ⇒316 頁)
【履修上の注意】 課題プリントで毎回問題を指示する。授業の理解・復習のため、積極的に取り組んでほしい。この授業とセットで「力学・電磁気学演習」が開講されており、併せて受講し、電磁気学の演習問題を解いて応用能力を身につけることが望ましい。
【到達目標】 電磁気学の諸法則をマクスウェルの方程式で正しく記述できるようにする。
【授業計画】 1. 導入と数学準備 1 2. 数学準備 2 3. 電荷と電場 4. 磁場, 磁束密度, 電流密度 5. マクスウェル方程式 6. 静電場 7. コンデンサーと誘電体 8. 電流と抵抗 9. 静磁場 10. 電流と静磁場 11. 電磁誘導 12. 過渡現象 13. 交流回路 14. 電磁波 15. 期末試験 16. 総括授業
【成績評価】 期末テストのほか演習および授業出席状況などを総合して評価する。
【再試験】 原則として行わない。
【教科書】 基礎の電磁気学, 渡邊靖志著, 培風館
【参考書】 未定
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218893>
【連絡先】
 ⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

熱・統計力学 II 2 単位 3 年 (前期)
 真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 量子力学の完成によって確立された原子・分子の世界を支配するミクロな基礎法則と熱力学を支配するようなマクロな法則とはまったく異なる世界の法則のように見える。この異なる両者がどのように結びつくのかということに焦点を当てて、ミクロとマクロの両者を橋渡しする唯一の理論である「統計力学」の考え方を理解することを目的とする。熱力学では物質の内部構造までは立ち入らず、そのマクロな性質や振舞いだけを対象としてそれらの間に成り立つ法則や関係式を求めるという立場をとった。それに対して、統計力学では物質を原子核・電子・原子・分子等のミクロな粒子の集合体として考え、確率・統計的な概念を用いてそのマクロな性質が基礎づけられることを理解する。
【授業概要】 統計力学

【キーワード】等確率の原理, エントロピー, 分配関数, 自由エネルギー, 化学ポテンシャル

【先行科目】『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『力学』(1.0, ⇒309 頁), 『物理数学』(1.0, ⇒311 頁)

【関連科目】『物性科学 I』(0.5, ⇒326 頁), 『物性科学 II』(0.5, ⇒326 頁), 『量子力学 I』(0.5, ⇒299 頁)

【履修上の注意】「熱・統計力学 I」および 1, 2 年時の物理系科目の既修を前提とする。「量子力学 I」および「物性科学 I」の受講が望ましい。ノートとレポート用紙を用意すること。

【到達目標】構成粒子の集合体という微視的立場から巨視的な物質の性質を理解する。

【授業計画】1. 導入:統計力学の考え方 2. エネルギーの移動と熱平衡 3. 等確率の原理とエントロピー 4. ミクロカノニカル分布 (1) 5. ミクロカノニカル分布 (2) 6. カノニカル分布 (1) 7. カノニカル分布 (2) 8. 中間試験 9. 古典統計力学の近似 (10. 低温と量子効果 11. 開いた系と化学ポテンシャル 12. グランドカノニカル分布 13. 量子統計 (1) フェルミ統計 14. 量子統計 (2) ボーズ統計 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】出席状況, レポート, 中間および期末試験の結果について総合的に評価する。

【再試験】希望があれば行う。

【教科書】

- ◇ 長岡洋介著「統計力学」(岩波書店)
- ◇ 久保亮五編「大学演習 熱学・統計力学」(裳華房)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219329>

【連絡先】

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時 ~ 13時(これ以外に随時, 教員室に居ればできるだけ対応します。))

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)火曜日11時50分~13時(これ以外の時間でも訪問可))

物性科学 I

Materials Science I

2 単位 3 年 (後期)

小山 晋之・教授/総合理数学科

【授業目的】固体のいろいろな性質(物性)が微視的立場からどのように理解できるかを, できる限り初歩的に解説する。初等的な水準の基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせれば, 固体物理学に現れる広範囲のまた多くの現象を, 少なくとも定性的にかつ統一的に説明できることを講義する。

【授業概要】固体物理学の入門

【キーワード】結晶構造, 逆格子, フォノン

【先行科目】『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁), 『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒325 頁)

【関連科目】『物性科学 II』(0.5, ⇒326 頁), 『物質科学実験 I』(0.5, ⇒315 頁), 『物質科学実験 II』(0.5, ⇒315 頁)

【履修上の注意】基礎となる「量子力学 I」および「熱・統計力学 I-II」の履修が望ましい。

【到達目標】固体の結晶構造と逆格子, 結晶結合の種類とその原因, 格子振動・結晶の振動とその熱的性質を理解する。

【授業計画】1. ガイダンス-身の回りの先端科学の中の物性科学 2. 結晶構造:原子の周期的配列/空間格子の基本型 3. 結晶構造:結晶面の指数/簡単な結晶構造 4. 逆格子:結晶による波の回折/散乱波の振幅 5. 逆格子:ブリュアン・ゾーン 6. 逆格子:単位構造のフーリエ解析 7. 結晶結合:希ガス結晶/イオン結晶 8. 結晶結合:共有結合結晶/金属結晶/水素結合をもつ結晶 9. 結晶結合:原子半径, イオン半径 10. フォノン I :結晶の振動:単原子結晶の振動 11. フォノン I :結晶の振動:基本格子が 2 個の原子を含む格子 12. フォノン I :結晶の振動:弾性波の量子化/フォノンの運動量/フォノンによる非弾性散乱 13. フォノン II :熱的性質:フォノン比熱 ~ アインシュタイン・モデル 14. フォノン II :熱的性質:フォノン比熱 ~ デバイ・モデル 15. フォノン II :熱的性質:結晶による非調和相互作用/熱伝導率 16. 期末試験

【成績評価】学期末試験, レポート, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】行う。但し, 全てのレポートの提出を必要とする。

【教科書】

- ◇ 教科書 キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)
- ◇ 参考書 坂田亮著『物性科学』(培風館)
- ◇ 参考書 大貫啓陸編『物性物理学』(朝倉書店)
- ◇ 参考書 岡崎誠著「固体物理学-工学のために-」(裳華房)
- ◇ 参考書 キッテル著「固体物理学入門 下」(丸善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218978>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp)

物性科学 II

Materials Science II

2 単位 3 年 (後期, 集中)

小山 晋之・教授/総合理数学科

【授業目的】「物性科学 I」に引き続き, 固体のいろいろな性質(物性)が微視的立場からどのように理解できるかを, できる限り初歩的に解説する。初等的な水準の基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせれば, 固体物理学に現れる広範囲のまた多くの現象を, 少なくとも定性的にかつ統一的に説明できることを講義する。

【授業概要】固体物理学の入門

【キーワード】自由電子モデル, フェルミ面, 電子比熱

【先行科目】『物性科学 I』(1.0, ⇒326 頁), 『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒325 頁)

【関連科目】『物性科学 I』(0.5, ⇒326 頁), 『物質科学実験 I』(0.5, ⇒315 頁), 『物質科学実験 II』(0.5, ⇒315 頁)

【履修上の注意】基礎となる「量子力学 I-II」, 「熱・統計力学 I-II」および「物性科学 I」の履修が望ましい。

【到達目標】金属, バンド構造, 半導体の基礎的な物性とその原因を理解する。

【授業計画】1. ガイダンス-自由電子フェルミ気体 2. 自由電子フェルミ気体:1 次元のエネルギー準位/フェルミ-ディラックの分布関数に対する温度の効果 3. 自由電子フェルミ気体:3 次元の自由電子気体/電子気体の比熱/電気伝導率とオームの法則/(磁場内の運動)/金属の熱伝導率 4. エネルギーバンド:自由電子に近い電子モデル 5. エネルギーバンド:プロボロ関数/クロネック-ペニーのモデル 6. エネルギーバンド:周期的ポテンシャル内の電子の波動方程式 7. エネルギーバンド:バンドの中の状態数 8. 半導体:バンドギャップ 9. 半導体:運動方程式 10. 半導体:固有領域のキャリア濃度/不純物伝導 11. 半導体:熱電効果/半金属 12. フェルミ面と金属:還元ゾーン形式と周期

量子力学 II

2 単位 3 年 (後期)

日置 善郎・教授/総合理数学科

【授業目的】量子力学の構成の理解と簡単な応用

【授業概要】量子力学は, 素粒子物理・原子核物理や物性物理といった現代物理学の中核であるばかりでなく, 電子工学のような最先端科学技術の重要な基礎ともなっている。従って, 物理系分野を専門とする学生だけでなく, 自然科学一般を専攻する学生も, その基本的な考え方を理解することが望まれる。ところが, そこにおいては, 物体の運動の情報は, 古典力学における位置ベクトルや速度ベクトルのような理解しやすい量ではなく, 初学者にとっては何とも掴み所のない波動関数という量にすべて含まれており, その波動関数の振る舞いを規定するのは, これまたニュートンの運動方程式ではなく, シュレディンガー方程式という名の波動方程式である。この結果, 一旦学習を始めても多くの学生は, その入り口で頭を混乱させ立ち往生することになってしまう。この講義は, この量子力学への軟着陸を目指した入門的解説であり, 量子力学 I に続いて, 基本的な重要事項(下記)に焦点を絞り, 必要に応じて演習も取り入れながら話を進めていく。

【キーワード】シュレディンガー方程式, 重ね合わせの原理, 角運動量, 摂動論

【先行科目】『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁)

【関連科目】『熱統計力学・量子力学演習』(0.5, ⇒318 頁)

【履修上の注意】「量子力学 I」の受講を前提とする。その他の注意は量子力学 I と同じ。

【到達目標】量子力学の基本的な構成の理解, および原子・分子の構造を定量的に理解する上で必要不可欠な概念である角運動量・スピンの摂動計算の基本的なテクニックを修得すること。

【授業計画】1. 量子力学の基本構成 (1) 重ね合わせの原理 2. 量子力学の基本構成 (2) 古典力学と量子力学 3. 中心ポテンシャルと角運動量 (1) 中心ポテンシャル 4. 中心ポテンシャルと角運動量 (2) 角運動量 5. 中心ポテンシャルと角運動量 (3) 動径波動関数 6. 中心ポテンシャルと角運動量 (4) 角運動量の昇降演算子 1 7. 中心ポテンシャルと角運動量 (4) 角運動量の昇降演算子 2 8. 中心ポテンシャルと角運動量 (5) 角運動量の合成 1 9. 中心ポテンシャルと角運動量 (5) 角運動量の合成 2 10. 摂動論 (1) 逐次近似法 11. 摂動論 (2) 時間を含まない摂動論 12. 摂動論 (3) 時間を含む摂動論 13. スピン角運動量と多粒子系 (1) スピン角運動量 1 14. スピン角運動量と多粒子系 (1) スピン角運動量 2 15. スピン角運動量と多粒子系 (2) 粒子の同等性と多粒子系 16. 期末試験

【成績評価】「量子力学 I」と同様, 学期末試験(持ち込み不可)だけでなく, 数回行う小テスト(持ち込み不可)の結果も総合して判定する。

【再試験】有 (但し, 不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【教科書】

- ◇ 教科書: 日置善郎『量子力学』吉岡書店
- ◇ 参考書: 原康夫『量子力学』岩波書店など。この他に必要に応じてプリント等を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219475>

【連絡先】

のゾーン形式 13. フェルミ面と金属:フェルミ面の構成/電子軌道, ホール軌道, 開いた軌道 14. フェルミ面と金属:エネルギーバンドの計算 15. フェルミ面と金属:フェルミ面を研究する実験的方法 16. 期末試験

【成績評価】学期末試験, レポート, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】行う, 但し, 全てのレポートの提出を必要とする。

【教科書】

- ◇教科書 キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)
- ◇参考書 坂田亮著「物性物理学」(培風館)
- ◇参考書 大貫惇陸編「物性物理学」(朝倉書店)
- ◇参考書 岡崎誠著「固体物理学-工学のために-」(裳華房)
- ◇参考書 キッテル著「固体物理学入門 下」(丸善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218979>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp)

地球表層物質論

2 単位 3 年 (後期)

村田 明広・教授/総合理数学科, 石田 啓祐・教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】地球表層の地殻には様々な地層, 火成岩, 変成岩が存在し, 浸食, 運搬, 堆積, 変成作用, 火成岩の貫入など, 日々, 変化している。地殻を構成するこれらの物質の形成とその相互作用, 物質循環に関して, 地球科学的な側面から講義する。

【授業概要】地層・火成岩・変成岩などの地球表層物質の相互作用と物質循環。

【キーワード】地層, 火成岩, 物質循環, 地球表層物質, 化石, 岩石の風化

【先行科目】『地球表層構造形成論Ⅰ』(1.0), 『地球表層環境論Ⅰ』(1.0)

【履修上の注意】野外調査に出かける場合があります。

【到達目標】

1. 四国の付加地質体の地質構造と変成作用
2. 四国の付加地質体・被覆層と古海域環境

【授業計画】1. 四国の三波川帯の地質構造 (村田) 2. 四国の三波川帯の緑色片岩の変成作用 (村田) 3. 四国の秩父帯の地質構造 (村田) 4. 四国の秩父帯の緑色岩類の変成作用 (村田) 5. 九州-四国の四万十帯の地質構造と緑色岩類の変成作用 (村田) 6. 四国の古生代付加体の構成 (石田) 7. 四国の古生代付加体の被覆相 (石田) 8. 四国のジュラ紀付加体の構成と被覆層 (石田) 9. 四国の白亜紀付加体と関連堆積層の古環境 (石田) 10. 四国に付加した海洋プレートの古海域環境 (石田) 11. 岩石の物理的・化学的風化 (西山) 12. 岩石の塩類風化 (西山) 13. 泥岩のスレーキング特性 (西山) 14. 石材の風化速度 (西山) 15. 粘土鉱物と土壌 (西山)

【成績評価】出席, 演習への取り組み姿勢やレポート, 試験の結果から総合的に判断して評価する。

【再試験】原則として行わない。

【教科書】教材あるいは参考書については, 講義の中で紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219198>

【連絡先】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)
⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地球表層システム論

2 単位 3 年 (前期)

西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】地球表層を構成する地形と, 地形を構成する物質である岩石・土の物性ならびにその中を流れる水の特徴について, 地殻環境の開発・保全・防災の観点から学ぶ。

【授業概要】環境・建設・防災といった社会のニーズに地球科学の立場から応えるためには, 岩石・岩盤・土の物性 (物理的・力学的性質) を把握することが必要である。また, 地球表層における水の循環は, 岩石と水との相互作用に影響する。その結果生じる岩石の風化帯は, 斜面における物質移動 (すなわち土砂災害) の予備物質となる。以上をふまえて, この講義では, 地球表層環境の開発・保全・防災に関する事柄の理解を目指した講義を行う。

【キーワード】環境地質学, 災害地質学, 応用地質学, 岩石の風化, 岩石の物理的性質

【先行科目】『地球科学の基礎』(1.0, ⇒286 頁)

【関連科目】『環境分析技術法』(0.5, ⇒313 頁)

【履修上の注意】毎回パワーポイントを使用します。講義の途中または最後に, 当日の理解度を確認するための小問題を出します。講義に関する質問を歓迎します。

【到達目標】地球表層環境を構成する岩石・水・土の基本的な物性とその変化について理解する

【授業計画】1. 地球表層の開発・保全・防災 2. 地形の形成と地表の変化 3. 平野・海岸の地形変化 4. 山地の地形変化 5. さまざまな地質調査の方法と評価 6. 土の物理的・力学的性質 7. 地下水の特徴 8. 地質環境の汚染と対策 9. 岩石・鉱物の風化 10. 風化による岩石物性の変化 11. 岩石の風化速度 12. 斜面における物質移動の種類と特徴 13. 斜面災害の解析 14. 大規模災害の特徴と予測 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】毎回実施する小テストと, 期末試験または期末レポートを総合的に判断して評価する。

【再試験】再試験あり

【教科書】指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】参考書:「災害地質学入門」(近未来社), 「山崩れ・地すべりの力学」(筑波大学出版会), 「地形変化の科学」(朝倉書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219194>

【連絡先】

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 ~ 13 時)

地球表層環境論 II

2 単位 3 年 (前期)

石田 啓祐・教授/総合理数学科

【授業目的】堆積物や古生物の研究が地史的な地球表層環境の解析に果たす役割は大きい。プレート収束域に位置するわが国には, 浅海から深海域で形成された中・古生代の各種堆積岩類が広く分布しており, 堆積岩類の年代決定や堆積環境の解析には, 大型化石とともに, 微化石が有効である。本論では, 古生物を用いた研究例を中心に, 西南日本の中・古生界層序, ならびに堆積相・古海域環境の解析を中心に講義する。

【授業概要】生層序地史, 付加体・関連堆積相と古海域環境, 西南日本の中・古生界層序と古生物

【キーワード】堆積岩, 付加体, 海洋プレート層序, 微化石

【先行科目】『地球表層環境論Ⅰ』(1.0, ⇒313 頁)

【関連科目】『地球表層環境論Ⅰ』(0.5, ⇒313 頁)

【履修上の注意】前期水 5-6 講時開講。講義への取り組みや内容の理解のためのレポート提出を行い, 期末試験とともに評価対象にしている。地球表層環境論Ⅰを履修していることを前提とします。

【到達目標】海洋プレート層序やメランジュの構成と形成過程, 微化石による年代や堆積環境の解析手法を理解し, 付加体関連堆積相の概要が説明できる。

【授業計画】1. 【付加体関連の堆積岩類の特徴】 2. 碎屑性堆積物:砂岩の組成による分類と熟成 3. 非碎屑性堆積物:石灰岩の分類, 遠洋性堆積物とチャート 4. 【中・古生界の層序と堆積相】 5. 年代・環境指標としての微化石:紡錘虫 6. 年代・環境指標としての微化石:コノドント 7. 年代・環境指標としての微化石:放射虫 8. プレート運動と付加体の海洋プレート層序 9. メランジュとオリストストローム 10. 西南日本の堆積相の層序と構成 (6 回) 11. (a) 概説, 和泉層群 12. (b,c) 秩父帯などの ジュラ紀付加体と前弧海盆堆積相 13. (d,e) 黒瀬川帯などのペルム紀付加体と斜面海盆堆積相 14. (f) 四万十帯の白亜紀・第三紀付加体 15. 白亜紀を例に:模式地アルプスの白亜系層序, 白亜紀という時代 16. 陸域, 前弧海盆から海溝へ:アジア東縁, 白亜系の堆積相と生物相

【成績評価】講義への取り組み姿勢と, 課題のレポート, 期末試験を総合的に判断して評価します。

【再試験】積極的な取り組み姿勢の見られた学生に対しては行う場合があります。

【教科書】

- ◇教科書 平 朝彦著, 日本列島の誕生, 岩波新書 148, 1990 年。
- ◇日本地質学会フィールドジオロジ-刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版, 2004 年。[公開]
- ◇日本地質学会フィールドジオロジ-刊行委員会編「層序と年代」共立出版, 2006 年。

【参考書】

- ◇日本の地質編集委員会編, 日本の地質「増補版」, 共立出版, 2005 年。
- ◇Sam BOGGS Jr. Principles of Sedimentology and Stratigraphy (3rd ed.) Prentice Hall 2001.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218860>

【連絡先】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地球表層構造形成論 II

2 単位 3 年 (前期)

村田 明広・教授/総合理数学科

【授業目的】地球科学分野のうち、構造地質学の分野の授業を行う。断層、褶曲、面構造・線構造、プーダンなどの、基礎的な構造を理解し、それらがどのように形成されるのかを学ぶ。

【授業概要】地質構造にはどのようなものがあり、どのように形成されるか。

【キーワード】プレートテクトニクス、断層、褶曲、活断層

【先行科目】『地球表層構造形成論 I』(1.0, ⇒314 頁)

【関連科目】『地球環境システム実験 II』(1.0, ⇒331 頁), 『地学系セミナー I』(1.0, ⇒330 頁)

【履修上の注意】代表的な地質構造をプロジェクターで見せるので、休まないで受講すること。一部の授業は集中で行ったり、野外実習で説明する可能性があります。

【到達目標】断層、褶曲、面構造・線構造などの地質構造を理解し、それらを形成した応力場について説明できる。

【授業計画】1. 整合・不整合・断層・貫入 2. 断層の種類 3. 断層と応力・モーメント 4. 断層ガウジ・断層角礫、断層と地形 5. 節理と裂か 6. 褶曲の種類 7. 褶曲のメカニズム 8. Google Earth で見る断層、褶曲、火山、隕石孔 9. 面構造と線構造 10. プーダン、火成岩脈・砕屑岩脈 11. 兵庫東部地震と野島断層 12. 四国の三波川帯・御荷鉾緑色岩類の地質構造 13. 四国の秩父帯の地質構造 14. 空中写真による活断層地形の判読 15. イギリスの地質学 16. 試験。

【成績評価】受講の積極性および小テストによる平常点と、レポートの結果を総合して評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】狩野謙一・村田明広, 「構造地質学」, 朝倉書店, 1998 年

【参考書】

- ◇ 狩野謙一・村田明広, 「構造地質学 CD-ROM カラー写真集」, 朝倉書店, 2000 年
- ◇ 植村 武, 「構造地質学要論」, 愛智出版, 2000 年
- ◇ R. G. Park, "Foundations of Structural Geology", 3rd Ed., Chapman & Hall, 1997

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219196>

【連絡先】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

細胞生理学 I Cellular Physiology I

2 単位 2 年 (前期)
中川 秀幸・教授 / 社会創生学科

【授業目的】生体は約 60 兆個の細胞から構成されている。多細胞生物の細胞は、その容器に入っている膨大な情報をもとに生命活動を営んでいる。細胞の容器にあたる細胞膜は、細胞の内部環境と外部環境とのゆるやかなバリアーであり、特徴的な働きを担っている。この授業では、細胞膜の構造や化学成分を学び、細胞膜の主要な機能である分子の輸送や細胞内外への情報の伝達について解説する。

【授業概要】細胞の生命活動を支える細胞膜の役割と多様な生体分子の働き

【キーワード】細胞、生体膜、内部環境、蛋白質、脂質、受容体、糖類、アミノ酸、シグナル変換、物質輸送

【先行科目】『生体有機化学 I』(1.0, ⇒338 頁)

【関連科目】『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁), 『細胞生理学 II』(0.5, ⇒328 頁), 『生体有機化学 II』(0.5, ⇒338 頁)

【履修上の注意】復習は必要ですので、ファイルノートを用意してください。板書はします。

【到達目標】細胞の多様な働きを理解する。形や大きさが多種多様な細胞をつくる物質は、化学的に共通していること、またこの物質が素材となり細胞自身の生活や他の細胞と連絡して生命活動を担っていることを理解する。

【授業計画】1. 細胞の基本構造と種類 (1) 2. 細胞の基本構造と種類 (2) 3. 細胞の中の分子 (1) 4. 細胞の中の分子 (2) 5. 細胞膜の構成と構造 (1) 6. 細胞膜の構成と構造 (2) 7. 細胞膜の脂質 (1) 8. 細胞膜の脂質 (2) 9. 細胞膜のタンパク質 (1) 10. 細胞膜のタンパク質 (2) 11. 細胞膜での輸送 (1) 12. 細胞膜での輸送 (2) 13. 細胞膜と多様な生体分子の作用 (1) 14. 細胞膜と多様な生体分子の作用 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】授業が進んだ前半に行う試験ならびに、出席状況および後半の試験の総合評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書として、わかる生物学: 知っておきたいヒトのからだの基礎知識 (小野廣紀著・内藤通孝共著, 化学同人, 1800+税)。必要に応じてプリントを配布する。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2/index.htm>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218668>

【連絡先】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室中の午後。E-mail: sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp)

細胞生理学 II

2 単位 3 年 (前期)

大橋 真・教授 / 社会創生学科, 真壁 和裕・教授 / 社会創生学科
松尾 義則・教授 / 社会創生学科, 佐藤 高則・准教授 / 社会創生学科
渡部 郁・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】生物は、生息する環境条件に対応して、細胞の数を増加させることで生命の維持をはかっている。この講義では、細胞増殖のメカニズムである細胞の分裂機構とその調節形について、テキストを読みながら解説する。

【授業概要】細胞分裂と細胞周期の調節

【キーワード】細胞周期、アポトーシス、細胞分裂

【先行科目】『細胞生理学 I』(1.0, ⇒328 頁)

【関連科目】『発生学』(0.5, ⇒340 頁), 『生体有機化学 II』(0.5, ⇒338 頁), 『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁)

【履修上の注意】授業の前に必ずテキストを読んでおくこと (読んでくる範囲は、授業毎に指示する)。遅刻は認めない (担当教員が入室後には、学生の入室を許可しない)。講義室内での飲食、携帯電話の使用及び私語は許さない。

【到達目標】細胞周期に関する基本的な学術用語 (英語表記を含む) を理解する。細胞増殖が、生命現象の中で演じる役割の基本的な事柄についての理解を深める。

【授業計画】1. ガイダンス及び細胞の進化 2. 第 18 章 細胞周期と細胞死 1. 細胞周期の概要 3. 2. 細胞周期制御系 (1) 4. 2. 細胞周期制御系 (2) 5. 3. プログラム細胞死 (アポトーシス) 6. 4. 細胞外から細胞数と細胞の大きさを制御する 7. 第 18 章の試験 8. 第 19 章 細胞分裂 1. M 期の概観 9. 2. 有糸分裂 (1) 10. 2. 有糸分裂 (2) 11. 2. 有糸分裂 (3) 12. 3. 細胞質分裂 (1) 13. 3. 細胞質分裂 (2) 14. 第 19 章の試験 15. 第 18-19 章の試験 16. 総括授業

【成績評価】1 章終わる毎に、学術用語 (英語表記を含む) とその概要をテストする。期末試験では、講義の範囲内から、総合的に考える問題を出す予定。いずれの試験も、ノート等の持ち込みは不可である。3 回のテストと日常の取り組みに基づいて評価する。

【再試験】行わない

【教科書】テキストとして、「Essential 細胞生物学 原書第 2 版」中村桂子・松原謙一監訳、南光堂を使用する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219413>

【連絡先】

- ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
- ⇒ 松尾 (適応進化化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

植物生理学

2 単位 2 年 (前期)

佐藤 征弼・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し、どのような取り組みを行えば良いか、またどのようなことに留意すれば良いかについて考える。

【授業概要】自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう。しかし、野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等、生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない。また、絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については、その正確性が絶えず議論になる。この授業では、自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ、どのように考えていくべきか解説する。

【履修上の注意】なし。

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】1. 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい 2. 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて 3. 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 4. 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 5. 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え 6. 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 7. 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い 8. 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル 9. 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 10. 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 11. 自然公園の管理 12. 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園, 世界遺産 13. 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 14. 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 15. 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軌跡 16. 期末試験

【成績評価】授業への取り組み状況 (毎回課すミニツツペーパー) と期末試験 (ノート, 資料持ち込み可) により評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】講義の際に随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219489>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK.)

【備考】「自然保護論」と読み替え

環境生理学

2 単位 3 年 (後期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】我々は、ともすると他の生物を人間的視点(あるいは高等動物的視点)から見てしまいがちである。しかし当然ではあるが、地球上のほとんどの生物同士の相互作用や生物と環境の相互作用は、人間とは無関係に進化してきたものであり、我々の想像を超えるような独自の精巧なシステムが構築されている。それらのメカニズムを理解した上で、人間が他の生物をどのように利用しているのか、それがどのような影響を与えるのか等、人間が他の生物といかに関わるべきかについて解説する。

【授業概要】生物, 環境, 社会

【キーワード】光合成, 物理環境, 公害, 解毒, 環境適応, 生物浄化法

【履修上の注意】なし。

【到達目標】前半の講義では、植物や動物の生理がどのように環境と関わっているかを理解し、後半の講義では種特有の機能を環境浄化に活かす方法を理解する。

【授業計画】1. 地球全体における光合成の意味 2. 光合成のメカニズム 3. 外部環境に対する認識メカニズム 1:感覚, 知覚とは? 4. 外部環境に対する認識メカニズム 2:眼の構造と機能 5. 外部環境に対する認識メカニズム 3:視覚の進化 6. 外部環境に対する認識メカニズム 4:視覚以外の感覚について 7. 熱と温度 1:熱とは何か, 熱の伝わりかた 8. 熱と温度 2:低温に対する適応について 9. 熱と温度 3:生物の体温調節メカニズムについて 10. 重金属と生物 1:重金属の性質と解毒メカニズム 11. 重金属と生物 2:水俣病について 12. 重金属と生物 3:イタイイタイ病について 13. 重金属と生物 4:その他の重金属の毒性について 14. バイオレメディエーション(生物による環境浄化)とは 15. バイオレメディエーションによる水質浄化。 16. 総括授業

【成績評価】数回の小テストにより評価する(ノート, 資料の持ち込み禁止)。

【再試験】行わない。

【教科書】講義の際に随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219494>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK.)

環境物質影響学

2 単位 3 年 (後期)
金丸 芳・准教授/社会創生学科

【授業目的】我々は種々のストレスが多い環境下での生命維持を余儀なくされています。そのため、疾病予防や健康維持の方法を自ら選ぶ時代となっています。また、動植物に含まれる物質には、生体の恒常性維持や生体防御や生理機能調節に関与する生体調節機能を有しています。すなわち、健康寿命の延長(疾病予防や健康維持や老化防止)を期待して、生体物質を摂取することが可能です。そのために、種々の生体物質とその生体調節機能を正しく理解し、正しく利用することが必須となります。そこで、種々の生体物質について、その機能と生体に及ぼす影響を概説します。

【授業概要】疾病予防や健康維持のための生体調節機能を有する生体物質についての生命科学的知識

【キーワード】健康維持, 生体の恒常性, 生体物質, 生体調節機能

【関連科目】『細胞機能学』(0.0, ⇒346 頁), 『機能物質作用学』(0.0, ⇒347 頁), 『細胞情報学 II』(0.0, ⇒348 頁)

【到達目標】生体調節機能を有する環境物質とその作用機序を理解, 健康維持について考える。

【授業計画】1. 健康の阻害と維持 2. 生命と栄養素 3. 生体の恒常性 4. 食習慣と健康 5. 糖質の機能 6. 脂質の機能 7. タンパク質の機能 8. ビタミンの機能 9. ミネラルの機能 10. 生体調節機能 11. 非栄養成分の機能 12. 非栄養成分の機能 13. 酸素の機能 14. 疾病予防と生体物質 15. テスト

【成績評価】期末のテストを中心に、小テストと出席状況を加味して評価します。

【再試験】行ないません。

【教科書】教科書は使用しません。プリントを適宜配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219358>

【連絡先】

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。研究室は総合科学部3号館3階北棟生命科学系です。)

環境適応学 II

2 単位 2 年 (前期, 集中)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】徳島の自然環境と野生生物について理解を深める。

【授業概要】野外調査を通じて、徳島でみられる野生生物の生態について理解する

【履修上の注意】この授業は、昨年度まで「佐那河内いきものふれあいの里」の自然観察員の方3名を講師に迎えて実施してきましたが、新カリに移行にあたり、今年度からは同様の形での実施はできなくなりました。やむを得ない事情がない限りは、開講しない予定です。

【到達目標】徳島の野生生物と自然環境について理解を深める。

【授業計画】吉野川での野鳥や干潟生物の観察, 眉山の自然環境の調査などのフィールドワークを行なう。

【成績評価】レポート課題により評価する

【再試験】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219493>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義に関する質問は佐藤(征)が受け付けます。研究室にいる時にはいつでもOK.)

自然システム学科 物質・環境コース 地学系サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

地学系セミナー I ... 石田・村田・西山/4年(前期).....	330
地学系セミナー II ... 石田・村田・西山/4年(後期).....	330
地球表層物質論 ... 村田・石田・西山/3年(後期).....	330
地球表層システム論 ... 西山/3年(前期).....	331
地球表層環境論 II ... 石田/3年(前期).....	331
地球表層構造形成論 II ... 村田/3年(前期).....	331
地球環境システム実験 II ... 石田・村田・西山/3年(後期, 集中).....	331
適応進化学 ... 松尾/3年(後期).....	332
電磁気学 II ... 折戸/2年(後期).....	332
熱・統計力学 II ... 真岸/3年(前期).....	332
物性科学 I ... 小山/3年(後期).....	332
物性科学 II ... 小山/3年(後期, 集中).....	333
熱統計力学・量子力学演習 ... 日置・真岸/3年(後期).....	333
量子物質科学 ... 中山・小山/3年(後期).....	333
物質分析法 II ... 今井/3年(後期).....	334
無機物質系の化学 II ... 未定/2年(後期).....	334
分子反応システム論 I ... 三好/3年(前期).....	334
分子反応システム論 II ... 三好/3年(後期).....	334
分子物理化学 II ... 山本/2年(後期).....	334
天然物質化学 ... 中村/3年(後期).....	335
生物物質化学 ... 増田/3年(前期).....	335
天然物質化学 ... 中村/3年(後期).....	335
生物物質化学 ... 増田/3年(前期).....	335
化学環境システム論 ... 山本・浜野/2年(後期).....	335
細胞生理学 I ... 中川/2年(前期).....	336
細胞生理学 II ... 大橋・真壁・松尾・佐藤・渡部/3年(前期).....	336
植物生理学 ... 佐藤/2年(前期).....	336
環境生理学 ... 佐藤/3年(後期).....	336
環境物質影響学 ... 金丸/3年(後期).....	337
環境適応学 II ... 佐藤/2年(前期, 集中).....	337

- ⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
- ⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)
- ⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

地学系セミナー II

2 単位 4 年 (後期)

石田 啓祐・教授/総合理数学科, 村田 明広・教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 大学での学習は研究室での 4 年次の 1 年間が大変重要です。研究室で毎週、セミナー形式で英語の文献を読んだり、卒業研究の途中経過を発表してディスカッションを行うことにより研究方法を習得する。

【授業概要】 卒業研究に関する文献講読、研究発表、ディスカッション
【履修上の注意】 セミナーには毎回必ず出席し、報告を行うこと。

【到達目標】 卒業研究に必要な文献を読むことができる。卒業研究の発表・ディスカッションができるようになる。

【授業計画】 卒業研究および関連分野に関するセミナーを行う。各人の卒業研究に関連した文献や研究の進行状況について、報告およびディスカッションを行う。互いにその報告を聞き、質疑応答に積極的に参加することが重要である。後半は、主に卒業研究の作成方法について指導する。授業は、配属先の教員によって個別に行われる。

【成績評価】 セミナーへの出席状況とその取り組み姿勢を総合的に判断して評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講読論文や参考書については、各々の教員が指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219191>

【連絡先】

- ⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
- ⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)
- ⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

地球表層物質論

2 単位 3 年 (後期)

村田 明広・教授/総合理数学科, 石田 啓祐・教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 地球表層の地殻には様々な地層、火成岩、変成岩が存在し、浸食、運搬、堆積、変成作用、火成岩の貫入など、日々、変化している。地殻を構成するこれらの物質の形成とその相互作用、物質循環に関して、地球科学的な側面から講義する。

【授業概要】 地層・火成岩・変成岩などの地球表層物質の相互作用と物質循環。

【キーワード】 地層、火成岩、物質循環、地球表層物質、化石、岩石の風化

【先行科目】 『地球表層構造形成論 I』(1.0), 『地球表層環境論 I』(1.0)

【履修上の注意】 野外調査に出かける場合があります。

【到達目標】

1. 四国の付加地質体の地質構造と変成作用
2. 四国の付加地質体・被覆層と古海域環境

【授業計画】 1. 四国の三波川帯の地質構造 (村田) 2. 四国の三波川帯の緑色片岩の変成作用 (村田) 3. 四国の秩父帯の地質構造 (村田) 4. 四国の秩父帯の緑色岩類の変成作用 (村田) 5. 九州-四国の四万十帯の地質構造と緑色岩類の変成作用 (村田) 6. 四国の古生代付加体の構成 (石田) 7. 四国の古生代付加体の被覆相 (石田) 8. 四国のジュラ紀付加体の構成と被覆層 (石田) 9. 四国の白亜紀付加体と関連堆積層の古環境 (石田) 10. 四国に付加した海洋プレートの古海域環境 (石田) 11. 岩石の物理的・化学的風化 (西山) 12. 岩石の塩類風化 (西山) 13. 泥岩のスレーキング特性 (西山) 14. 石材の風化速度 (西山) 15. 粘土鉱物と土壌 (西山)

【成績評価】 出席、演習への取り組み姿勢やレポート、試験の結果から総合的に判断して評価する。

【再試験】 原則として行わない。

【教科書】 教材あるいは参考書については、講義の中で紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219198>

【連絡先】

- ⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)
- ⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
- ⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地学系セミナー I

2 単位 4 年 (前期)

石田 啓祐・教授/総合理数学科, 村田 明広・教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 大学での学習は研究室での 4 年次の 1 年間が大変重要です。研究室で毎週、セミナー形式で英語の文献を読んだり、卒業研究の途中経過を発表してディスカッションを行うことにより研究方法を習得する。

【授業概要】 卒業研究に関する文献講読、研究発表、ディスカッション
【履修上の注意】 セミナーには毎回必ず出席し、報告を行うこと。

【到達目標】 卒業研究に必要な文献を読むことができる。卒業研究の発表・ディスカッションができるようになる。

【授業計画】 卒業研究および関連分野に関するセミナーを行う。各人の卒業研究に関連した文献や研究の進行状況について、報告およびディスカッションを行う。互いにその報告を聞き、質疑応答に積極的に参加することが重要である。卒業研究に関連した内容を含むので配属先の教員によって個別に授業が行われる。

【成績評価】 セミナーへの出席状況とその取り組み姿勢を総合的に判断して評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 講読論文や参考書については、各々の教員が指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219190>

【連絡先】

地球表層システム論

2 単位 3 年 (前期)
西山賢一・准教授/総合理数学科

- 【**授業目的**】地球表層を構成する地形と、地形を構成する物質である岩石・土の物性ならびにその中を流れる水の特徴について、地表環境の開発・保全・防災の観点から学ぶ。
- 【**授業概要**】環境・建設・防災といった社会のニーズに地球科学の立場から応えるためには、岩石・岩盤・土の物性(物理的・力学的性質)を把握することが必要である。また、地球表層における水の循環は、岩石と水との相互作用に影響する。その結果生じる岩石の風化帯は、斜面における物質移動(すなわち土砂災害)の予備物質となる。以上をふまえて、この講義では、地球表層環境の開発・保全・防災に関する事柄の理解を目指した講義を行う。
- 【**キーワード**】環境地学、災害地質学、応用地質学、岩石の風化、岩石の物理的性質
- 【**先行科目**】『地球科学の基礎』(1.0, ⇒286 頁)
- 【**関連科目**】『環境分析技術法』(0.5, ⇒313 頁)
- 【**履修上の注意**】毎回パワーポイントを使用します。講義の途中または最後に、当日の理解度を確認するための小問題を出します。講義に関する質問を歓迎します。
- 【**到達目標**】地球表層環境を構成する岩石・水・土の基本的な物性とその変化について理解する
- 【**授業計画**】1. 地球表層の開発・保全・防災 2. 地形の形成と地表の変化 3. 平野・海岸の地形変化 4. 山地の地形変化 5. さまざまな地質調査の方法と評価 6. 土の物理的・力学的性質 7. 地下水の特徴 8. 地質環境の汚染と対策 9. 岩石・鉱物の風化 10. 風化による岩石物性の変化 11. 岩石の風化速度 12. 斜面における物質移動の種類と特徴 13. 斜面災害の解析 14. 大規模災害の特徴と予測 15. 試験 16. 総括授業
- 【**成績評価**】毎回実施する小テストと、期末試験または期末レポートを総合的に判断して評価する。
- 【**再試験**】再試験あり
- 【**教科書**】指定しない、毎回プリントを配布する。
- 【**参考書**】参考書:「災害地質学入門」(近未来社),「山崩れ・地すべりの力学」(筑波大学出版会),「地形変化の科学」(朝倉書店)
- 【**授業コンテンツ**】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219194>
- 【**連絡先**】⇒ 西山(総合 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日12~13時)

地球表層環境論 II

2 単位 3 年 (前期)
石田啓祐・教授/総合理数学科

- 【**授業目的**】堆積物や古生物の研究が地史的な地球表層環境の解析に果たす役割は大きい。プレート取束域に位置するわが国には、浅海から深海域で形成された中・古生代の各種堆積岩類が広く分布しており、堆積岩類の年代決定や堆積環境の解析には、大型化石とともに、微化石が有効である。本論では、古生物を用いた研究例を中心に、西南日本の中・古生界層序、ならびに堆積相・古海域環境の解析を中心に講義する。
- 【**授業概要**】生層序地史、付加体・関連堆積相と古海域環境、西南日本の中・古生界層序と古生物
- 【**キーワード**】堆積岩、付加体、海洋プレート層序、微化石
- 【**先行科目**】『地球表層環境論 I』(1.0, ⇒313 頁)
- 【**関連科目**】『地球表層環境論 I』(0.5, ⇒313 頁)
- 【**履修上の注意**】前期水 5-6 講時開講。講義への取り組みや内容の理解のためのレポート提出を行い、期末試験とともに評価対象にしている。地球表層環境論 I を履修していることを前提とします。
- 【**到達目標**】海洋プレート層序やメランジュの構成と形成過程、微化石による年代や堆積環境の解析手法を理解し、付加体関連堆積相の概要が説明できる。
- 【**授業計画**】1. 【付加体関連の堆積岩類の特徴】 2. 砕屑性堆積物:砂岩の組成による分類と熟成 3. 非砕屑性堆積物:石灰岩の分類、遠洋性堆積物とチャート 4. 【中・古生界の層序と堆積相】 5. 年代・環境指標としての微化石:紡錘虫 6. 年代・環境指標としての微化石:コノドント 7. 年代・環境指標としての微化石:放射虫 8. プレート運動と付加体の海洋プレート層序 9. メランジュとオリストストローム 10. 西南日本の堆積相の層序と構成(6回) 11. (a) 概説、和泉層群 12. (b,c) 秩父帯などのジュラ紀付加体と前弧海盆堆積相 13. (d,e) 黒瀬川帯などのペルム紀付加体と斜面海盆堆積相 14. (f) 四万十帯の白亜紀・第三紀付加体 15. 白亜紀を例に:模式地アルプスの白亜系層序、白亜紀という時代 16. 陸域、前弧海盆から海溝へ:アジア東縁、白亜系の堆積相と生物相
- 【**成績評価**】講義への取り組み姿勢と、課題のレポート、期末試験を総合的に判断して評価します。
- 【**再試験**】積極的な取り組み姿勢の見られた学生に対しては行う場合があります。
- 【**教科書**】

- ◇ 教科書 平 朝彦著, 日本列島の誕生, 岩波新書 148, 1990 年。
- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジ-刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版, 2004 年。[公開]
- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジ-刊行委員会編「層序と年代」共立出版, 2006 年。

【参考書】

- ◇ 日本の地質編集委員会編, 日本の地質「増補版」, 共立出版, 2005 年。
- ◇ Sam BOGGS Jr. Principles of Sedimentology and Stratigraphy (3rd ed.) Prentice Hall 2001.

【**授業コンテンツ**】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218860>

【連絡先】

⇒ 石田(総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地球表層構造形成論 II

2 単位 3 年 (前期)
村田明広・教授/総合理数学科

- 【**授業目的**】地球科学分野のうち、構造地質学の分野の授業を行う。断層、褶曲、面構造・線構造、プーダンなどの、基礎的な構造を理解し、それらがどのように形成されるのかを学ぶ。
- 【**授業概要**】地質構造にはどのようなものがあり、どのように形成されるか。
- 【**キーワード**】プレートテクトニクス、断層、褶曲、活断層
- 【**先行科目**】『地球表層構造形成論 I』(1.0, ⇒314 頁)
- 【**関連科目**】『地球環境システム実験 II』(1.0, ⇒331 頁), 『地学系セミナー I』(1.0, ⇒330 頁)
- 【**履修上の注意**】代表的な地質構造をプロジェクターで見せるので、休まないで受講すること。一部の授業は集中で行ったり、野外実習で説明する可能性があります。
- 【**到達目標**】断層、褶曲、面構造・線構造などの地質構造を理解し、それらを形成した応力場について説明できる。
- 【**授業計画**】1. 整合・不整合・断層・貫入 2. 断層の分類 3. 断層と応力・モーメント 4. 断層ガウジ・断層角礫、断層と地形 5. 節理と裂か 6. 褶曲の分類 7. 褶曲のメカニズム 8. Google Earth で見る断層、褶曲、火山、隕石孔 9. 面構造と線構造 10. プーダン、火成岩脈・砕屑岩脈 11. 兵庫県南部地震と野島断層 12. 四国の三波川帯・御荷鉢緑色岩類の地質構造 13. 四国の秩父帯の地質構造 14. 空中写真による活断層地形の判読 15. イギリスの地質学 16. 試験。
- 【**成績評価**】受講の積極性および小テストによる平常点と、レポートの結果を総合して評価を行う。
- 【**再試験**】行わない
- 【**教科書**】狩野謙一・村田明広, 「構造地質学」, 朝倉書店, 1998 年
- 【**参考書**】
- ◇ 狩野謙一・村田明広, 「構造地質学 CD-ROM カラー写真集」, 朝倉書店, 2000 年
 - ◇ 植村 武, 「構造地質学要論」, 愛智出版, 2000 年
 - ◇ R. G. Park, "Foundations of Structural Geology", 3rd Ed., Chapman & Hall, 1997
- 【**授業コンテンツ**】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219196>
- 【**連絡先**】⇒ 村田(総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

地球環境システム実験 II

2 単位 3 年 (後期, 集中)
石田啓祐・教授/総合理数学科, 村田明広・教授/総合理数学科
西山賢一・准教授/総合理数学科

- 【**授業目的**】地球科学および地球科学的な視点から環境科学を学ぶ学生のための、室内および野外での実験・実習である。
- 【**授業概要**】微化石を用いた地質解析(石田啓), 地質構造の解析(村田), 岩石の風化と斜面崩壊(西山)
- 【**キーワード**】生層序、岩石の風化、断層、地質構造
- 【**履修上の注意**】地学系サブコースでそれぞれの研究室に配属の決まった学生を対象とします。卒業研究着手のための準備的な実習を兼ねますので、配属予定の教員により指導内容が異なります。普段の室内で行う実習と野外実習の両方を受講すること。室内実習のみ、あるいは野外実習のみの受講は認めません。野外実習は土・日、冬休みなどの休日に、予定しています。交通費は自分持ちとなります。
- 【**到達目標**】卒業研究着手に必要な基礎的知識や技能を身に付ける。
- 【**授業計画**】1. 卒業研究に着手するための、基本的な、あるいは予備的な実験・実習を含む。各々の指導教員により、以下のように、個別に授業が計画されている。2. 石田(啓)担当分 3. a. 中・古生代付加体と関連堆積相より産する年代・環境指標としての古生物, b. 秩父帯や黒瀬川帯, 四万十帯の中・古生界層序と堆積相の野外実習, c. 微化石抽出のための堆積岩類の試料採集・化学処理・観察の実際 4. 村田担当分 5. a. 構造地質学分野でのステレオ投影法, b. 衛星画

像から断層・褶曲を判読する。c. 秩父帯・四十十帯の地質構造に関する野外実習 6. a. 主要な鉱物の結晶構造とその物質科学的性質 b. X線を用いた分析(回折法と分光法) c. 粉末X線回折法を用いた天然鉱物による生体鉱物の解析 7. 西山担当分 8. a. 地形図・空中写真判読による斜面崩壊・地すべり地形の判読 b. 岩石の物理的・力学的性質の測定 c. 野外における斜面地質学実習(岩石の風化帯構造の観察, 斜面崩壊・地すべり地での実習)

【成績評価】実習への取り組み姿勢と、レポートを総合的に判断して評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】教材あるいは参考書については、各々の教官がガイダンス時に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219193>

【連絡先】

- ⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
- ⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)
- ⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 ~ 13 時)

適応進化学

2 単位 3 年 (後期)
松尾 義則・教授/社会創生学科

【授業目的】生物の適応進化を理解するために必要な知識を習得することを目的とする。遺伝学と生物の進化の関係を示し、生物進化の素材である遺伝的変異、原動力である自然選択、移住、浮動について解説する。

【授業概要】生物の適応進化と遺伝学

【キーワード】進化遺伝, 集団遺伝, 分子進化

【先行科目】『分子遺伝学』(1.0, ⇒339 頁)

【関連科目】『集団生物学』(0.8, ⇒348 頁), 『系統分類学 II(分子生態学)』(0.8, ⇒346 頁), 『環境適応学 II』(0.6)

【到達目標】生物の進化の仕組みを理解する。

【授業計画】1. 突然変異と組み換えによる多様性の創出 2. 1. 突然変異とその生成機構 3. 2. 突然変異の修正 4. 3. 突然変異率と突然変異のパターン 5. 4. 多様性の創出 6. DNA とタンパク質の変異 7. 1. 遺伝的な変異 8. 2. 変異の種類 9. 機会的遺伝的浮動 10. 1. 機会的な過程 11. 2. 対立遺伝子頻度の機会的な浮動 12. 3. コアレッセンス 13. 4. 中立説 14. 5. 組み換えと遺伝的浮動 15. 期末テスト 16. 総括授業

【成績評価】時々小テストを行い、本試験と合わせて評価する。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ 教科書: 「進化」分子・個体・生態系 メディカルサイエンスインターナショナル
- ◇ 参考書 タマリシ 遺伝学 上巻 培風館
- ◇ 参考書 クロー著「遺伝学概説」(第 8 版) 培風館 2, 266 円
- ◇ 参考書 ワトソン著「遺伝子の分子生物学」東京化学同人
- ◇ 参考書 アルバーツ著「細胞の分子生物学」(第 3 版)Garland

【WEB 頁】<http://www.evolution-textbook.org>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219473>

【連絡先】

- ⇒ 松尾 (適応進化化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に指定しない。いつでもOK。)

電磁気学 II

2 単位 2 年 (後期)
折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】我々の身の回りは電氣的な現象、磁氣的な現象であふれている。電磁気学 I では、どのような実験事実があつて、それをどうやって法則化していくかということを通り学んだ。本講義では、電磁気学における基本法則であるマクスウェルの方程式を正確に記述し、電気と磁気の複雑な電磁気現象が、これらの上にシンプルな方程式から理解できる事を学ぶ。電磁気現象をよりよく理解し、理工学専門研究における基礎とする事を目的とする。

【授業概要】電磁気学における基本法則であるマクスウェルの方程式を正確に記述する。電磁場の性質が、これらの方方程式から理解できることを学ぶ。

【キーワード】電磁場, マクスウェル方程式, 電流

【先行科目】『力学』(1.0, ⇒309 頁), 『電磁気学 I』(1.0, ⇒309 頁)

【関連科目】『力学・電磁気学演習』(1.0, ⇒316 頁)

【履修上の注意】課題プリントで毎回問題を指示する。授業の理解・復習のため、積極的に取り組んでほしい。この授業とセットで「力学・電磁気学演習」が開講されており、併せて受講し、電磁気学の演習問題を解いて応用能力を身につけることが望ましい。

【到達目標】電磁気学の諸法則をマクスウェルの方程式で正しく記述できるようにする。

【授業計画】1. 導入と数学準備 1 2. 数学準備 2 3. 電荷と電場 4. 磁場, 磁束密度, 電流密度 5. マクスウェル方程式 6. 静電場 7. コンデンサーと誘電体 8. 電流と抵抗 9. 静磁場 10. 電流と静磁場 11. 電磁誘導 12. 過渡現象 13. 交流回路 14. 電磁波 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】期末テストのほか演習および授業出席状況などを総合して評価する。

【再試験】原則として行わない。

【教科書】基礎の電磁気学, 渡邊靖志著, 培風館

【参考書】未定

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218893>

【連絡先】

- ⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

熱・統計力学 II

2 単位 3 年 (前期)
真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】量子力学の完成によって確立された原子・分子の世界を支配するミクロな基礎法則と熱力学を支配するようなマクロな法則とはまったく異質な世界の法則のように見える。この異質な両者がどのように結びつくのかということに焦点を当てて、ミクロとマクロの両者を橋渡しする唯一の理論である「統計力学」の考え方を理解することを目的とする。熱力学では物質の内部構造までは立ち入らず、そのマクロな性質や振舞いだけを対象としてそれらに成り立つ法則や関係式を求めるという立場をとった。それに対して、統計力学では物質を原子核・電子・原子・分子等のミクロな粒子の集合体として考え、確率・統計的な概念を用いてそのマクロな性質が基礎づけられることを理解する。

【授業概要】統計力学

【キーワード】等確率の原理, エントロピー, 分配関数, 自由エネルギー, 化学ポテンシャル

【授業概要】統計力学

【先行科目】『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『力学』(1.0, ⇒309 頁), 『物理学』(1.0, ⇒311 頁)

【関連科目】『物性科学 I』(0.5, ⇒332 頁), 『物性科学 II』(0.5, ⇒333 頁), 『量子力学 I』(0.5, ⇒299 頁)

【履修上の注意】「熱・統計力学 I」および 1, 2 年時の物理系科目の既修を前提とする。「量子力学 I」および「物性科学 I」の受講が望ましい。ノートとレポート用紙を用意すること。

【到達目標】構成粒子の集合体という微視的立場から巨視的な物質の性質を理解する。

【授業計画】1. 導入: 統計力学の考え方 2. エネルギーの移動と熱平衡 3. 等確率の原理とエントロピー 4. ミクロカノニカル分布 (1) 5. ミクロカノニカル分布 (2) 6. カノニカル分布 (1) 7. カノニカル分布 (2) 8. 中間試験 9. 古典統計力学の近似 10. 低温と量子効果 11. 開いた系と化学ポテンシャル 12. グランドカノニカル分布 13. 量子統計 (1) フェルミ統計 14. 量子統計 (2) ボーズ統計 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】出席状況, レポート, 中間および期末試験の結果について総合的に評価する。

【再試験】希望があれば行う。

【教科書】

- ◇ 長岡洋介著「統計力学」(岩波書店)
- ◇ 久保亮五編「大学演習 熱学・統計力学」(裳華房)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219329>

【連絡先】

- ⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12 時 ~ 13 時(これ以外に随時, 教員室に居ればできるだけ対応します。))

物性科学 I Materials Science I

2 単位 3 年 (後期)
小山 晋之・教授/総合理数学科

【授業目的】固体のいろいろな性質(物性)が微視的立場からどのように理解できるかを、できる限り初歩的に解説する。初等的な水準の基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせれば、固体物理学に現れる広範囲のまた多くの現象を、少なくとも定性的にかつ統一的に説明できることを講義する。

【授業概要】固体物理学の入門

【キーワード】結晶構造, 逆格子, フォノン

【先行科目】『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁), 『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒332 頁)

【関連科目】『物性科学 II』(0.5, ⇒333 頁), 『物質科学実験 I』(0.5, ⇒315 頁), 『物質科学実験 II』(0.5, ⇒315 頁)

【履修上の注意】基礎となる「量子力学 I」および「熱・統計力学 I-II」の履修が望ましい。

【到達目標】固体の結晶構造と逆格子、結晶結合の種類とその原因、格子振動-結晶の振動とその熱的性質を理解する。

【授業計画】1. ガイダンス-身の回りの先端科学の中の物性科学 2. 結晶構造:原子の周期的配列/空間格子の基本型 3. 結晶構造:結晶面の指数/簡単な結晶構造 4. 逆格子:結晶による波の回折/散乱波の振幅 5. 逆格子:ブリルアン・ゾーン 6. 逆格子:単位構造のフーリエ解析 7. 結晶結合:希ガス結晶/イオン結晶 8. 結晶結合:共有結合結晶/金属結晶/水素結合をもつ結晶 9. 結晶結合:原子半径, イオン半径 10. フォノン I :結晶の振動:単原子結晶の振動 11. フォノン I :結晶の振動:基本格子が2個の原子を含む格子 12. フォノン I :結晶の振動:弾性波の量子化/フォノンの運動量/フォノンによる非弾性散乱 13. フォノン II :熱的性質:フォノン比熱~ アインシュタイン・モデル 14. フォノン II :熱的性質:フォノン比熱~ デバイ・モデル 15. フォノン II :熱的性質:結晶による非調和相互作用/熱伝導率 16. 期末試験

【成績評価】学期末試験, レポート, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】行う。但し, 全てのレポートの提出を必要とする。

【教科書】

- ◇教科書 キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)
- ◇参考書 坂田亮著「物性科学」(培風館)
- ◇参考書 大貫惇陸編「物性物理学」(朝倉書店)
- ◇参考書 岡崎誠著「固体物理学-工学のために-」(裳華房)
- ◇参考書 キッテル著「固体物理学入門 下」(丸善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218978>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.toku-shima-u.ac.jp)

物性科学 II Materials Science II

2 単位 3 年 (後期, 集中)
小山 晋之・教授 / 総合理数学科

【授業目的】「物性科学 I」に引き続き, 固体のいろいろな性質 (物性) が微視的立場からどのように理解できるかを, できる限り初歩的に解説する。初等的な水準の基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせれば, 固体物理学に現れる広範囲のまた多くの現象を, 少なくとも定性的にかつ統一的に説明できることを講義する。

【授業概要】固体物理学の入門

【キーワード】自由電子モデル, フェルミ面, 電子比熱

【先行科目】『物性科学 I』(1.0, ⇒332 頁), 『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒332 頁)

【関連科目】『物性科学 I』(0.5, ⇒332 頁), 『物質科学実験 I』(0.5, ⇒315 頁), 『物質科学実験 II』(0.5, ⇒315 頁)

【履修上の注意】基礎となる「量子力学 I-II」, 「熱・統計力学 I-II」および「物性科学 I」の履修が望ましい。

【到達目標】金属, バンド構造, 半導体の基礎的な物性とその原因を理解する。

【授業計画】1. ガイダンス-自由電子フェルミ気体 2. 自由電子フェルミ気体:1 次元のエネルギー準位/フェルミ-ディラックの分布関数に対する温度の効果 3. 自由電子フェルミ気体:3 次元の自由電子気体/電子気体の比熱/電気伝導率とオームの法則/(磁場内の運動)/金属の熱伝導率 4. エネルギーバンド:自由電子に近い電子モデル 5. エネルギーバンド:プロホフ関数/クロニヒペニーのモデル 6. エネルギーバンド:周期的ポテンシャル内の電子の波動方程式 7. エネルギーバンド:バンドの中の状態数 8. 半導体:バンドギャップ 9. 半導体:運動方程式 10. 半導体:固有領域のキャリア濃度/不純物伝導 11. 半導体:熱電効果/半金属 12. フェルミ面と金属:還元ゾーン形式と周期的ゾーン形式 13. フェルミ面と金属:フェルミ面の構成/電子軌道, ホール軌道, 開いた軌道 14. フェルミ面と金属:エネルギーバンドの計算 15. フェルミ面と金属:フェルミ面を研究する実験的方法 16. 期末試験

【成績評価】学期末試験, レポート, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する

【再試験】行う。但し, 全てのレポートの提出を必要とする。

【教科書】

- ◇教科書 キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)
- ◇参考書 坂田亮著「物性科学」(培風館)
- ◇参考書 大貫惇陸編「物性物理学」(朝倉書店)
- ◇参考書 岡崎誠著「固体物理学-工学のために-」(裳華房)
- ◇参考書 キッテル著「固体物理学入門 下」(丸善)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218979>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.toku-shima-u.ac.jp)

熱統計力学・量子力学演習

2 単位 3 年 (後期)

日置 善郎・教授 / 総合理数学科, 真岸 孝一・准教授 / 総合理数学科

【授業目的】統計力学と量子力学の基本的理解

【授業概要】統計力学と量子力学についての演習を交互におこなう。理解度を高めるのが演習の目的であって, 決して試験の準備勉強ではない。(1) 統計力学: 統計力学では, マクロな数の粒子から成る系を対象として, 内部エネルギー, エントロピー, 自由エネルギーなどの熱力学の量を求め, さらにその系の比熱や磁化率などの物性的特徴について調べる。計算が比較的容易なモデル的な系について, どのように統計力学が使えるかを自ら実際に体験することにより理解を高める。(2) 量子力学: 量子力学が難しいと一般に言われる理由は, 高校までの物理学とはかなり異なる考え方が要求される点にある。これを克服するためには, 焦らず基本的事項をじっくりと理解していくと同時に, 基本的な練習問題を自ら考えて解くことによりシュレディンガー方程式の取り扱いは方法を身につけていく必要がある。

【キーワード】シュレディンガー方程式, 波動関数, ハミルトニアン, フェルミ統計, ボーズ統計

【先行科目】『熱・統計力学 I』(1.0, ⇒309 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒332 頁), 『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁)

【関連科目】『量子力学 II』(0.5, ⇒317 頁), 『物性科学 I』(0.5, ⇒333 頁), 『物性科学 II』(0.5, ⇒333 頁)

【履修上の注意】熱・統計力学 I-II および量子力学 I の受講を前提とする (量子力学 II の受講も望ましい)。あとは積極的な受講態度あるのみ!

【到達目標】熱統計力学および量子力学の基本事項を, 具体的な練習問題を解いていくことにより身につけ, 更に進んだレベルの学習へ進むための基礎とすること。

【授業計画】1. 統計力学 1:全体概説 2. 量子力学 1:全体概説 3. 統計力学 2:ミクロカノニカル分布 4. 量子力学 2:井戸型ポテンシャルの問題 5. 統計力学 3:カノニカル分布 6. 量子力学 3:固有値・固有関数の取り扱い 7. 統計力学 4:古典統計力学近似 8. 量子力学 4:角運動量と中心力場 9. 統計力学 5:グランドカノニカル分布 10. 量子力学 5:摂動論 11. 統計力学 6:フェルミ統計 12. 量子力学 6:散乱問題 (I) 13. 統計力学 7:ボーズ統計 14. 量子力学 7:散乱問題 (II) 15. 統計力学 8:総括 16. 量子力学 8:総括

【成績評価】演習なので, 通常の出席状況と受講態度が最も大きな評価項目となる。これに, 必要に応じて実施する試験の結果も加えて総合的に判定する。

【再試験】希望があれば行う。

【教科書】プリントおよび熱・統計力学 I-II および量子力学 I-II の教科書・参考書。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219330>

【連絡先】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.toku-shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 量子力学 I-II に同じ。)
⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.toku-shima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 熱・統計力学 I-II に同じ。)

量子物質科学

2 単位 3 年 (後期)

中山 信太郎・教授 / 総合理数学科, 小山 晋之・教授 / 総合理数学科

【授業目的】これまでの授業で学習してきた「物理学」「化学」の基礎的項目の上に物質構造の説明がなされるわけで, 基礎的項目を応用できるようにする。特に, これまでに学習した科学の基礎的知識は必須である。前半では物質の二重性を基礎におく量子論をとおして原子構造を解説する。後半では金属・絶縁体・半導体の基礎的な物性とそのメカニズムについて解説する。

【授業概要】前半では電子と原子構造について, その空間的大きさ, 形, スピン, パリティについて理解する。後半では原子の集合体である金属・絶縁体・半導体の基礎的な物性とそのメカニズムを初等的な基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせ理解する。

【キーワード】自然の広がり, 気体分子運動論, 原子スペクトル, 自由電子モデル, フェルミ面, 金属, 半導体

【先行科目】『力学・電磁気学演習』(1.0, ⇒316 頁), 『電磁気学 II』(1.0, ⇒332 頁), 『量子力学 I』(1.0, ⇒299 頁), 『熱・統計力学 II』(1.0, ⇒332 頁), 『物性科学 I』(1.0, ⇒332 頁)

【関連科目】『量子力学 II』(0.5, ⇒317 頁), 『物質システムセミナー I』(0.5, ⇒316 頁), 『物質システムセミナー II』(0.5, ⇒316 頁)

【履修上の注意】これまで履修した基礎科学の知識をベースにする。

【到達目標】

1. 原子構造と原子スペクトルを理解する
2. スピン, パリティと軌道角運動量を理解する
3. 金属と自由電子モデルについて理解する
4. 半導体とバンド構造について理解する

【授業計画】1. 自然の広がり 2. 気体分子運動論 3. 相対性理論と光子 4. 光の放射と原子構造 5. 水素原子模型 6. 原子スペクトル 7. 自由電子のフェルミガス模型 8. 中間テスト 9. 金属と半導体について 10. 自由電子フェルミ気体のエネルギー準位/フェルミ-ディラックの分布関数 11. 自由電子フェルミ気体の比熱/電気伝導率とオームの法則 12. エネルギーバンド:自由電子に近い電子モデル 13. エネルギーバンド:周期的ポテンシャル内の電子 14. バンド

ギャップ/金属と半導体～絶縁体 15. 半導体:固有領域のキャリア濃度/不純物伝導 16. 期末テスト

【成績評価】 レポートと中間テストと期末テスト

【再試験】 レポートが一定水準に達している場合あり

【教科書】

- ◇ 自製テキスト
- ◇ キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)

【参考書】

- ◇ 参考書「量子力学」原康夫著、岩波書店
- ◇ 参考書:「原子物理概論」久武和夫著、朝倉書店
- ◇ 参考書:「現代物理学の基礎」バイザー著、好学社
- ◇ 参考書:「固体電子物性」若原昭浩著、オーム社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219476>

【連絡先】

- ⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室時はいつでも質問を受け付ける)
- ⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日・木曜日の昼休み)

【関連科目】 『分子反応システム論 II』(0.5, ⇒334 頁), 『天然物質化学』(0.5, ⇒335 頁), 『生物物質化学』(0.5, ⇒335 頁)

【履修上の注意】 有機物質系の化学 I-II の内容を理解していることが原則です。注意事項は初回の授業にて話すので、遅刻および欠席はしないように。本年度より、「分子化学反応論」で読み替えます。

【到達目標】 芳香族化合物、およびカルボニル化合物を中心とする有機化学反応の基礎を理解する。

【授業計画】 1. 1. 芳香族性・ベンゼンの反応 (2 回) 2. 2. 置換ベンゼンの反応 (2 回) 3. 3. カルボニル化合物 I-求核アシル化反応-(2 回) 4. 4. カルボニル化合物 II-アルデヒドとケトン-(3 回) 5. 5. カルボニル化合物 III-α 炭素上での反応-(2 回) 6. 6. 酸化反応について 7. 7. 還元反応について 8. 8. アミン 9. 9. 試験 10. 10. 総括授業

【成績評価】 授業に取り組む姿勢と、期末に行う試験により評価する。

【再試験】 場合によっては行う。

【教科書】 ブルース「有機化学第 5 版 下」大船・香月・西郷・富岡監訳 化学同人

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219123>

【連絡先】

- ⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午前11時55分から午後12時50分(昼休み))

物質分析法 II

2 単位 3 年 (後期)
今井 昭二・教授/社会創生学科

【授業目的】 環境分野では、カドミウム、鉛、ヒ素などの有害元素、地球化学分野ではマンガン、銅、ニッケル、生命分野では亜鉛、亜硝酸イオン、リン酸イオンなどの分析技術が環境科学研究、環境制御などの諸分野を支えています。この分析方法について最新の基礎と応用について講義する。

【授業概要】 環境制御、水道水管理からはじまり臨床検査、国際貿易、食品検査にいたる専門領域において益々需要が広がりつつある機器分析の中で、分光分析法、イオンクロマトグラフィー、微量金属元素分析について講義する。

【キーワード】 水質分析, 機器分析化学, 水環境測定

【先行科目】 『無機物質系の化学 II』(1.0, ⇒334 頁)

【履修上の注意】 環境機器分析化学と同じ内容である。

【到達目標】 環境分析に必要な機器分析の基礎的知識の理解と応用を達成目標にします。

【授業計画】 総括

【成績評価】 定期試験、出席状況、レポートで総合的に評価する。但し、試験が 20 点未満の学生は、再試験を認めない。

【再試験】 試験で 20 点以上の学生に対して実施する。

【教科書】

- ◇ 長島弘三, 富田 功「基礎化学選書 分析化学」裳華房
- ◇ クリスチャン「分析化学 II 機器分析」丸善

【参考書】 水の分析 (化学同人), 環境の化学分析 (三共出版)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219336>

【連絡先】

- ⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00-13:00)

無機物質系の化学 II

2 単位 2 年 (後期)
未定

【履修上の注意】 新課程の無機化学 II へと移行しました。無機化学 II のシラバスを参照してください。

【参考書】

- ◇ シュライバー著「無機化学上・下」東京化学同人
- ◇ コットン・ウィルキンソン著「無機化学上・下」培風館

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219327>

【連絡先】

- ⇒ 未定
- ⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

分子反応システム論 I

2 単位 3 年 (前期)
三好 徳和・教授/総合理数学科

【授業目的】 有機物質系の化学 I-II に引き続き、有機化学の反応を官能基別に分類して、それらの化合物の命名法、性質、構造と製法及び反応を立体化学を含めて講義する。

【授業概要】 有機反応 (カルボニル化合物を中心として)

【キーワード】 有機化学, 反応論

【先行科目】 『物質科学の基礎 III』(1.0, ⇒285 頁), 『有機物質系の化学 I』(1.0, ⇒310 頁), 『有機物質系の化学 II』(1.0, ⇒312 頁)

分子反応システム論 II

2 単位 3 年 (後期)
三好 徳和・教授/総合理数学科

【授業目的】 先ず、有機物質系の化学 I, II および分子反応システム論 I では講義できなかった反応や、その応用について講義する。引き続き、反応は何故起こるのか、反応の選択性はどのようにして生じるのか、その理由を電子論および分子軌道論を活用して理論的に考察し、反応のメカニズムを理解することを目的とする。

【授業概要】 有機化学反応のメカニズム

【キーワード】 有機化学, 反応メカニズム

【先行科目】 『有機物質系の化学 I』(1.0, ⇒310 頁), 『有機物質系の化学 II』(1.0, ⇒312 頁), 『分子反応システム論 I』(1.0, ⇒334 頁)

【関連科目】 『天然物質化学』(0.5, ⇒335 頁), 『生物物質化学』(0.5, ⇒335 頁)

【履修上の注意】 平成 23 年度より「グリーンケミストリー」にて読み替えを行う。

【到達目標】 有機化学が暗記ではなく、理屈に則った科学であることを理解し、有機反応論にしたがって矢印を用いて、また分子軌道論を使って、有機化学反応を説明できるようになることを到達目標とする。

【授業計画】 1. 1. 酸化・還元反応—アルコール、アルデヒド、カルボン酸、オレフィンの酸化・還元反応—(3 回) 2. 2. ラジカル反応および光反応 (3 回) 3. 3. Diels-Alder 反応と電子環状反応 (3 回) 4. 4. HSAB 則と有機化学反応 (2 回) 5. 5. 反応の選択性 (化学選択性, 位置選択性, 立体選択性)(3 回) 6. 6. 試験 7. 7. 総括授業 (1 回)

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが、授業中に学生に数多く質問しながら授業を進める。したがって、出席状況や質疑応答といった授業への取り組み姿勢点と、期末試験(ノート等の持込み禁止)結果を併用して評価する。

【再試験】 基本的には実施しない

【教科書】

- ◇ 教科書:ソロモンの新有機化学 第 4 版 (上・下)(花房昭静・池田正澄・仲嶋正一訳、廣川 書店)
- ◇ 参考書:反応論による有機化学 (稲本直樹著、実教出版)
- ◇ 基礎有機化学 (向山光昭編、丸善株式会社)
- ◇ パワーノート有機化学 (山本尚編、廣川書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219124>

【連絡先】

- ⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

分子物理化学 II

2 単位 2 年 (後期)
山本 孝・准教授/社会創生学科

【授業目的】 分子物理化学 I では熱力学をもとにして、分子を構成単位とする物質の化学反応および物質の状態の変化などについて説明するのに対して、分子物理化学 II では量子力学をもとにした原子の電子配置、化学結合、分子の構造、電磁波と物質の相互作用について説明する。また、液体、固体の構造について説明する。

【授業概要】 先ず、物質を構成するミクロな粒子である原子や分子の性質を学習する。ついで、それらが凝集した液体と固体の状態について学習する。

【キーワード】 原子の構造, 分子軌道法, 分子分光法, 溶液の構造, 固体の構造

【先行科目】 『現代化学の世界』(1.0, ⇒285 頁)

【履修上の注意】 予習をしていることを前提に授業を行う。

【到達目標】

1. 原子軌道について理解している。
2. 分子軌道法について理解している。
3. 分光学の原理について理解している。
4. 液体、溶液に関する基礎的な内容について理解している。
5. 結晶、固体に関する基礎的な内容について理解している。

【授業計画】 1. 量子力学の起源について講義する。 2. シュレディンガー方程式と波動関数について講義する。 3. 量子論 (1): 並進運動と振動運動について講義する。 4. 量子論 (2): 回転運動と近似の手法について講義する。 5. 水素型原子の構造とスペクトルについて講義する。 6. 多電子原子の構造と近似法について講義する。 7. 一重項状態と三重項状態、スピン-軌道相互作用について説明する。 8. 中間試験 9. ボルン-オッペンハイマー近似と原子価結合法について講義する。 10. 分子軌道法について講義する。 11. ヒュッケル分子軌道法について講義する。 12. 対称操作と対称要素、分子の対称による分類について講義する。 13. 指標表と対象の記号付けについて講義する。 14. 回転スペクトルと振動スペクトルについて講義する。 15. 電子遷移について講義する。 16. 定期試験

【成績評価】 試験を実施する。

【再試験】 一定の基準を満たしている場合に再試験を行う。

【教科書】 アトキンス 物理化学 (上)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219126>

【連絡先】

⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業中に紹介する。)

天然物質化学

Natural Products Chemistry

2 単位 3 年 (後期)
中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】 天然物資源から合成される化合物について、その生合成経路と合成された化合物の機能について理解する。

【授業概要】 天然有機化合物の生合成、および機能

【キーワード】 天然物化学, 生合成, 生物活性

【先行科目】 『生体物質化学』 (1.0, ⇒335 頁)

【履修上の注意】 有機化学の基礎知識を修得していることが望ましい

【到達目標】 化学構造とその分類, 生物活性, 生合成などについての基礎知識を修得する

【授業計画】 1. はじめに 2. 生合成経路の研究法 3. 酢酸-マロン酸経路 (1) 4. 酢酸-マロン酸経路 (2) 5. 酢酸-マロン酸経路 (3) 6. シキミ酸経路 (1) 7. シキミ酸経路 (2) 8. メバロン酸経路 (1) 9. メバロン酸経路 (2) 10. メバロン酸経路 (3) 11. その他の経路 (1) 12. その他の経路 (2) 13. その他の経路 (3) 14. その他の経路 (4) 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 学期末テスト, レポート, 受講態度

【再試験】 行わない

【教科書】 授業で必要な資料を随時配布する。

【参考書】 授業の中で適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219201>

【連絡先】

⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 上記の授業計画は、予定であり変更することもある。

生体物質化学

Bioorganic Chemistry

2 単位 3 年 (前期)
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】 重要な生体分子に関する有機化学の基礎を修得する。

【授業概要】 基礎生物有機化学

【履修上の注意】 有機物質系の化学 I, II を履修済みであることが望ましい。

【到達目標】 重要な生体系有機化合物の構造式, 基本的な物理的性質, 化学的性質が理解できること。

【授業計画】 1. 生体物質理解のための立体化学 2. 糖質の化学概論 3. 単糖の化学 I 4. 単糖の化学 II 5. オリゴ糖・多糖の化学 6. タンパク質の化学概論 7. アミノ酸の化学 I 8. アミノ酸の化学 II 9. ペプチドの化学 10. タンパク質の立体化学 11. 脂質の化学 I 12. 脂質の化学 II 13. 核酸の化学 I 14. 核酸の化学 II 15. 重要な事項の復習 16. 期末テスト

【成績評価】 期末テストによる。なお、項目別の中間テストを行い、その合計で評価することもある。詳細は、最初の講義時間に説明し、決定する。

【再試験】 相談の上、行うこともある。

【教科書】 有機物質系の化学 I&II と同じ教科書 [ソロモンの新有機化学 (下巻)] を用いるが、内容を相当補充する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219364>

【連絡先】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)水木曜日 12時-13時)

【備考】 この講義は生物有機化学に変更されています。新しいシラバスは生物有機化学のものをご覧ください。

天然物質化学

Natural Products Chemistry

2 単位 3 年 (後期)
中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】 天然物資源から合成される化合物について、その生合成経路と合成された化合物の機能について理解する。

【授業概要】 天然有機化合物の生合成、および機能

【キーワード】 天然物化学, 生合成, 生物活性

【先行科目】 『生体物質化学』 (1.0, ⇒335 頁)

【履修上の注意】 有機化学の基礎知識を修得していることが望ましい

【到達目標】 化学構造とその分類, 生物活性, 生合成などについての基礎知識を修得する

【授業計画】 1. はじめに 2. 生合成経路の研究法 3. 酢酸-マロン酸経路 (1) 4. 酢酸-マロン酸経路 (2) 5. 酢酸-マロン酸経路 (3) 6. シキミ酸経路 (1) 7. シキミ酸経路 (2) 8. メバロン酸経路 (1) 9. メバロン酸経路 (2) 10. メバロン酸経路 (3) 11. その他の経路 (1) 12. その他の経路 (2) 13. その他の経路 (3) 14. その他の経路 (4) 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 学期末テスト, レポート, 受講態度

【再試験】 行わない

【教科書】 授業で必要な資料を随時配布する。

【参考書】 授業の中で適宜紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219201>

【連絡先】

⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 上記の授業計画は、予定であり変更することもある。

生体物質化学

Bioorganic Chemistry

2 単位 3 年 (前期)
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】 重要な生体分子に関する有機化学の基礎を修得する。

【授業概要】 基礎生物有機化学

【履修上の注意】 有機物質系の化学 I, II を履修済みであることが望ましい。

【到達目標】 重要な生体系有機化合物の構造式, 基本的な物理的性質, 化学的性質が理解できること。

【授業計画】 1. 生体物質理解のための立体化学 2. 糖質の化学概論 3. 単糖の化学 I 4. 単糖の化学 II 5. オリゴ糖・多糖の化学 6. タンパク質の化学概論 7. アミノ酸の化学 I 8. アミノ酸の化学 II 9. ペプチドの化学 10. タンパク質の立体化学 11. 脂質の化学 I 12. 脂質の化学 II 13. 核酸の化学 I 14. 核酸の化学 II 15. 重要な事項の復習 16. 期末テスト

【成績評価】 期末テストによる。なお、項目別の中間テストを行い、その合計で評価することもある。詳細は、最初の講義時間に説明し、決定する。

【再試験】 相談の上、行うこともある。

【教科書】 有機物質系の化学 I&II と同じ教科書 [ソロモンの新有機化学 (下巻)] を用いるが、内容を相当補充する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219364>

【連絡先】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)水木曜日 12時-13時)

【備考】 この講義は生物有機化学に変更されています。新しいシラバスは生物有機化学のものをご覧ください。

化学環境システム論

Chemical Environment System

2 単位 2 年 (後期)
山本 裕史・准教授/社会創生学科, 浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】 化学物質等による環境リスクを低減するための様々な方策について学ぶ。

【授業概要】 環境への危険性やどうしても避けたい環境影響である「環境リスク」を緩和しようとする、別の問題が生じるという「リスクトレードオフ」が起きる。総合的に環境への影響緩和を実現するためには、個々の問題を定量的に評価した上で、それぞれの最適なバランスを考えてリスクマネジメントおよびリスクコミュニケーションをはかる必要がある。本講義ではそのような環境リスクの問題解決を行うためのキーとなる、化学物質のリスク評価やリスク低減手法について講述し、リスクコミュニケーションの在り方についても学ぶ。

【キーワード】 環境リスク, リスク管理, 法規制, リスクコミュニケーション, リスクアセスメント

【先行科目】 『現代化学の世界』 (1.0, ⇒285 頁), 『化学環境制御論』 (1.0, ⇒311 頁)

【関連科目】 『環境政治学 I』 (0.5, ⇒243 頁)

【到達目標】環境リスクの回避・低減策の現状について、工学的、科学的など様々な視点から学ぶ

【授業計画】1. シラバスの説明、環境リスクについて (山本) 2. 水質汚染と規制・基準 (山本) 3. 浄水・下水・廃水処理の現状と課題 (山本) 4. 室内外空気汚染と規制・基準 (山本) 5. 排ガス対策と廃棄物処理・処分法の現状と課題 (山本) 6. 化審法と農薬取締法, PRTR, MSDS (山本) 7. 化学物質のリスク評価とリスク管理の現状と課題 (山本) 8. 中間試験 (山本) 9. 農業生態系における環境リスク低減技術 (浜野) 10. 土壌生態系における環境リスク低減技術 (浜野) 11. 沿岸生態系における環境リスク低減技術 (浜野) 12. 河川生態系における環境リスク低減技術 (浜野) 13. 環境リスクを計算する (浜野) 14. リスクコミュニケーション (浜野) 15. 期末試験 (浜野) 16. 総括授業 (浜野)

【成績評価】浜野担当分 50%, 山本担当分 50%(宿題レポート 20%, 出席 10%, 中間試験 20%)

【再試験】なし

【教科書】

- ◇新版環境工学-持続可能な社会とその創造のために (2007), 住友恒ら, 理工図書
- ◇化学環境学 (2007), 御園生誠, 裳華房

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218474>

【連絡先】

- ⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

細胞生理学 I Cellular Physiology I

2 単位 2 年 (前期)
中川 秀幸・教授/社会創生学科

【授業目的】生体は約 60 兆個の細胞から構成されている。多細胞生物の細胞は、その容器に入っている膨大な情報をもとに生命活動を営んでいる。細胞の容器にあたる細胞膜は、細胞の内部環境と外部環境とのゆるやかなバリアーであり、特徴的な働きを担っている。この授業では、細胞膜の構造や化学成分を学び、細胞膜の主要な機能である分子の輸送や細胞内外への情報の伝達について解説する。

【授業概要】細胞の生命活動を支える細胞膜の役割と多様な生体分子の働き

【キーワード】細胞, 生体膜, 内部環境, 蛋白質, 脂質, 受容体, 糖類, アミノ酸, シグナル変換, 物質輸送

【先行科目】『生体有機化学 I』(1.0, ⇒338 頁)

【関連科目】『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁), 『細胞生理学 II』(0.5, ⇒336 頁), 『生体有機化学 II』(0.5, ⇒338 頁)

【履修上の注意】復習は必要ですので、ファイルノートを用意してください。板書はします。

【到達目標】細胞の多様な働きを理解する。形や大きさが多種多様な細胞をつくる物質は、化学的に共通していること、またこの物質が素材となり細胞自身の生活や他の細胞と連絡して生命活動を担っていることを理解する。

【授業計画】1. 細胞の基本構造と種類 (1) 2. 細胞の基本構造と種類 (2) 3. 細胞の中の分子 (1) 4. 細胞の中の分子 (2) 5. 細胞膜の構成と構造 (1) 6. 細胞膜の構成と構造 (2) 7. 細胞膜の脂質 (1) 8. 細胞膜の脂質 (2) 9. 細胞膜のタンパク質 (1) 10. 細胞膜のタンパク質 (2) 11. 細胞膜での輸送 (1) 12. 細胞膜での輸送 (2) 13. 細胞膜と多様な生体分子の作用 (1) 14. 細胞膜と多様な生体分子の作用 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】授業が進んだ前半に行う試験ならびに、出席状況および後半の試験の総合評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書として、わかる生物学:知っておきたいヒトのからだの基礎知識 (小野廣紀著・内藤通孝共著, 化学同人, 1800+税)。必要に応じてプリントを配付する。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2/index.htm>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218668>

【連絡先】

- ⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室中の午後。E-mail: sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp)

細胞生理学 II

2 単位 3 年 (前期)
大橋 眞・教授/社会創生学科, 真壁 和裕・教授/社会創生学科
松尾 義則・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】生物は、生息する環境条件に対応して、細胞の数を増加させることで生命の維持をはかっている。この講義では、細胞増殖のメカニズムである細胞の分裂機構とその調節形について、テキストを読みながら解説する。

【授業概要】細胞分裂と細胞周期の調節

【キーワード】細胞周期, アポトーシス, 細胞分裂

【先行科目】『細胞生理学 I』(1.0, ⇒336 頁)

【関連科目】『発生学』(0.5, ⇒340 頁), 『生体有機化学 II』(0.5, ⇒338 頁), 『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁)

【履修上の注意】授業の前に必ずテキストを読んでおくこと (読んでくる範囲は、授業毎に指示する)。遅刻は認めない (担当教員が入室後には、学生の入室を許可しない)。講義室内での飲食、携帯電話の使用及び私語は許さない。

【到達目標】細胞周期に関する基本的な学術用語 (英語表記を含む) を理解する。細胞増殖が、生命現象の中で演じる役割の基本的な事柄についての理解を深める。

【授業計画】1. ガイダンス及び細胞の進化 2. 第 18 章 細胞周期と細胞死 1. 細胞周期の概要 3. 2. 細胞周期制御系 (1) 4. 2. 細胞周期制御系 (2) 5. 3. プログラム細胞死 (アポトーシス) 6. 4. 細胞外から細胞数と細胞の大きさを制御する 7. 第 18 章の試験 8. 第 19 章 細胞分裂 1. M 期の概観 9. 2. 有糸分裂 (1) 10. 2. 有糸分裂 (2) 11. 2. 有糸分裂 (3) 12. 3. 細胞質分裂 (1) 13. 3. 細胞質分裂 (2) 14. 第 19 章の試験 15. 第 18-19 章の試験 16. 総括授業

【成績評価】1 章終わる毎に、学術用語 (英語表記を含む) とその概要をテストする。期末試験では、講義の範囲内から、総合的に考える問題を出す予定。いずれの試験も、ノート等の持ち込みは不可である。3 回のテストと日常の取り組みに基づいて評価する。

【再試験】行わない

【教科書】テキストとして、「Essential 細胞生物学 原書第 2 版」中村桂子・松原謙一監訳、南光堂を使用する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219413>

【連絡先】

- ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
- ⇒ 松尾 (適応進化化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

植物生理学

2 単位 2 年 (前期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し、どのような取り組みを行えば良いか、またどのようなことに留意すれば良いかについて考える。

【授業概要】自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう。しかし、野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等、生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない。また、絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については、その正確性が絶えず議論になる。この授業では、自然保護の意味と実際について具体的な事例を多くとりあげ、どのように考えていくべきか解説する。

【履修上の注意】なし。

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】1. 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい 2. 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて 3. 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 4. 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 5. 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え 6. 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 7. 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い 8. 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル 9. 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 10. 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 11. 自然公園の管理 12. 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園, 世界遺産 13. 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 14. 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 15. 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軌跡 16. 期末試験

【成績評価】授業への取り組み状況 (毎回課すミニツブーパー) と期末試験 (ノート, 資料持ち込み可) により評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】講義の際に随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219489>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK,)

【備考】「自然保護論」と読み替え

環境生理学

2 単位 3 年 (後期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】我々は、ともすると他の生物を人間の視点(あるいは高等動物的視点)から見てしまいがちである。しかし当然ではあるが、地球上のほとんどの生物同士の相互作用や生物と環境の相互作用は、人間とは無関係に進化してきたものであり、我々の想像を超えるような独自の精巧なシステムが構築されている。それらのメカニズムを理解した上で、人間が他の生物をどのように利用しているのか、それがどのような影響を与えるのか等、人間が他の生物といかに関わるべきかについて解説する。

【授業概要】生物、環境、社会

【キーワード】光合成、物理環境、公害、解毒、環境適応、生物浄化法

【履修上の注意】なし。

【到達目標】前半の講義では、植物や動物の生理がどのように環境と関わっているかを理解し、後半の講義では種特有の機能を環境浄化に活かす方法を理解する。

【授業計画】1. 地球全体における光合成の意味 2. 光合成のメカニズム 3. 外部環境に対する認識メカニズム 1:感覚、知覚とは? 4. 外部環境に対する認識メカニズム 2:眼の構造と機能 5. 外部環境に対する認識メカニズム 3:視覚の進化 6. 外部環境に対する認識メカニズム 4:視覚以外の感覚について 7. 熱と温度 1:熱とは何か、熱の伝わりかた 8. 熱と温度 2:低温に対する適応について 9. 熱と温度 3:生物の体温調節メカニズムについて 10. 重金属と生物 1:重金属の性質と解毒メカニズム 11. 重金属と生物 2:水俣病について 12. 重金属と生物 3:イタイイタイ病について 13. 重金属と生物 4:その他の重金属の毒性について 14. バイオレメディエーション(生物による環境浄化)とは 15. バイオレメディエーションによる水質浄化 16. 総括授業

【成績評価】数回の小テストにより評価する(ノート、資料の持ち込み禁止)。

【再試験】行わない。

【教科書】講義の際に随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219494>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK、)

り移行にあたり、今年度からは同様の形での実施はできなくなりました。やむを得ない事情がない限りは、開講しない予定です。

【到達目標】徳島の野生生物と自然環境について理解を深める。

【授業計画】吉野川での野鳥や干潟生物の観察、眉山の自然環境の調査などのフィールドワークを行なう。

【成績評価】レポート課題により評価する

【再試験】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219493>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義に関する質問は佐藤(征)が受け付けます。研究室にいる時にはいつでもOK。)

環境物質影響学

2 単位 3 年 (後期)
金丸 芳 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】我々は種々のストレスが多い環境下での生命維持を余儀なくされています。そのため、疾病予防や健康維持の方法を自ら選ぶ時代となっています。また、動植物に含まれる物質には、生体の恒常性維持や生体防御や生理機能調節に関与する生体調節機能を有しています。すなわち、健康寿命の延長(疾病予防や健康維持や老化防止)を期待して、生体物質を摂取することが可能です。そのために、種々の生体物質とその生体調節機能を正しく理解し、正しく利用することが必須となります。そこで、種々の生体物質について、その機能と生体に及ぼす影響を概説します。

【授業概要】疾病予防や健康維持のための生体調節機能を有する生体物質についての生命科学的知識

【キーワード】健康維持、生体の恒常性、生体物質、生体調節機能

【関連科目】『細胞機能学』(0.0, ⇒346 頁), 『機能物質作用学』(0.0, ⇒347 頁), 『細胞情報学 II』(0.0, ⇒348 頁)

【到達目標】生体調節機能を有する環境物質とその作用機序を理解、健康維持について考える。

【授業計画】1. 健康の阻害と維持 2. 生命と栄養素 3. 生体の恒常性 4. 食習慣と健康 5. 糖質の機能 6. 脂質の機能 7. タンパク質の機能 8. ビタミンの機能 9. ミネラルの機能 10. 生体調節機能 11. 非栄養成分の機能 12. 非栄養成分の機能 13. 酸素の機能 14. 疾病予防と生体物質 15. テスト

【成績評価】期末のテストを中心に、小テストと出席状況を加味して評価します。

【再試験】行いません。

【教科書】教科書は使用しません。プリントを適宜配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219358>

【連絡先】

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。研究室は総合科学部3号館3階北棟生命科学系です。)

環境適応学 II

2 単位 2 年 (前期, 集中)
佐藤 征弥 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】徳島の自然環境と野生生物について理解を深める。

【授業概要】野外調査を通じて、徳島でみられる野生生物の生態について理解する

【履修上の注意】この授業は、昨年度まで「佐那河内いきものふれあいの里」の自然観察員の方3名を講師に迎えて実施してきましたが、新力

自然システム学科 生命・環境コース 共通科目 授業概要

● コース共通科目

生体有機化学 I ...大橋/2年(前期).....	338
生体有機化学 II ...金丸・増田・横井川/3年(前期).....	338
分子生物学 ...渡部/2年(後期).....	338
分子遺伝学 ...松尾/2年(前期).....	339
環境適応学 I ...小山・佐藤・山城・金丸・横井川・浜野/2年(後期).....	339
細胞生理学 I ...中川/2年(前期).....	339
細胞生理学 II ...大橋・真壁・松尾・佐藤・渡部/3年(前期).....	339
発生学 ...真壁/2年(後期).....	340
細胞情報学 I ...小山/2年(後期).....	340
植物生理学 ...佐藤/2年(前期).....	340
生態学 ...浜野/2年(前期).....	340
生体情報科学 ...大橋/2年(後期).....	341
系統分類学 I ...山城/3年(前期).....	341
無機物質系の化学 I ...今井/2年(前期).....	341
有機物質系の化学 I ...中村/2年(前期).....	341
物質分析法 I ...今井/3年(前期).....	341
化学環境制御論 ...山本/2年(前期).....	342
物質構造解析学 ...森/2年(前期, 集中).....	342
環境分析技術法 ...山本・伏見・西山/3年(前期, 集中).....	342

生体有機化学 I

Bio-organic chemistry

2単位 2年(前期)
大橋 眞・教授/社会創生学科

【授業目的】 科学が進歩した現在でも生命は、生命からしか生まれない神秘的な存在である。しかし、生命を構成する成分は、一般の化学物質にすぎない。生命の構造や、エネルギー代謝などは一般化学、物理の現象で説明することが出来る。ここでは、生命を構成する有機化合物について、様々な面から理解を深めることを目的とする。

【授業概要】 細胞を構成する原子の性質、原子間相互作用、共有結合など有機化学の基本的事項に関する理解をふまえた上で、水の構造と疎水結合、糖質、脂質、タンパク質などの有機化合物の構造と機能を学ぶ。

【履修上の注意】 「Essential 細胞生物学」の第2章「細胞の化学成分」を中心に講義を進めます。頻りに小テストを行って基本的な事項についての理解を確認します。

【到達目標】 細胞の構造と機能に関する有機化合物、化学反応についての基本的理解を得る

【授業計画】 1. 原子と化学結合 2. 共有結合 3. 水の構造と性質 4. 水素イオン濃度と電離 5. 糖質の基本的構造 6. オリゴ糖の構造 7. 多糖体、複合糖質の構造 8. 脂質の基本的構造 9. 複合脂質の構造と役割 10. 細胞膜の基本的構造 11. アミノ酸の構造と機能 12. ヌクレオチドと核酸 13. タンパク質の構造 14. DNAの構造 15. 分子間力と巨大分子形成 16. まとめ

【成績評価】 小テスト(50%)と期末試験(50%)で評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 「細胞の分子生物学」B. Alberts 他著、中村桂子・松原謙一監修、教育社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219362>

【連絡先】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 - 水曜日 12:20 - 12:50)

【備考】 本年度開講せず

生体有機化学 II

2単位 3年(前期)
金丸 芳・准教授/社会創生学科, 増田 俊哉・教授/社会創生学科
横井川 久己男・教授/社会創生学科

【授業目的】 生体が、自らを維持するための化学反応を行うには、原子を食物の形で取り入れるだけではなく、エネルギー源も必要です。原子もエネルギーも、結局は非生物界から得なければなりません。「細胞がエネルギーを必要とするのはなぜか」、また、「細胞は環境から得たエネルギーと原子をどのように用いて、生命の存続に必要な分子レベルでの秩序を作り出しているのか」について考えます。すなわち、細胞は、生物としての秩序を生み出し維持しながら生きていくためには、つねにエネルギーを取り入れる必要があります。このエネルギーは、食物分子の化学結合エネルギーから取り出されます。食物分子は、細胞にとって「燃料」の働きをしています。動物細胞内での糖の分解(異化)のおもな段階をたどり、ATPやNADHなどの分子の作られ方を見ていきます。

【授業概要】 Essential 細胞生物学の第3章(エネルギー・触媒作用・生成成)と第13章(細胞が食物からエネルギーを得るしくみ)を解説

【キーワード】 生命, エネルギー, 代謝, 活性型運搬体, 生合成

【先行科目】 『生体有機化学 I』(1.0, ⇒338頁)

【関連科目】 『細胞生理学 I』(1.0, ⇒339頁), 『細胞情報学 I』(1.0, ⇒340頁), 『細胞生理学 II』(1.0, ⇒339頁)

【到達目標】 生命維持のための細胞の代謝について理解。触媒作用と細胞のエネルギー利用, 活性型運搬体分子と生合成について理解した上で、糖と脂肪の分解によるエネルギー獲得と食物の貯蔵と利用について習得。

【授業計画】 1. エネルギー, 触媒作用, 生合成 2. 生物の秩序と熱エネルギーの放出 3. 触媒作用と細胞のエネルギー利用 4. 太陽光と有機物とエネルギー 5. 酸化と還元 6. 酵素 7. 自由エネルギーとその変化 8. 活性型運搬体と生合成 9. 活性型運搬体の生成と共役反応 10. 細胞が食物からエネルギーを得るしくみ 11. 糖と脂肪の分解 12. 解糖系と発酵 13. クエン酸回路 14. 食物の貯蔵と利用 15. テスト

【成績評価】 期末のテストを中心に、小テストや出席状況を加味して評価します。

【再試験】 行ないません。

【教科書】 教科書として、Essential 細胞生物学(南江堂・中村桂子他訳)を使用しますので、必ず各自準備して下さい。その他、補足する場合はプリントを配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219363>

【連絡先】

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。研究室は総合科学部3号館3階北棟生命科学系です。)

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)

分子生物学

2単位 2年(後期)
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】 この授業では、遺伝子の物質的な側面を、DNAの構造・複製・修復という観点から学ぶ。またDNAに保持されている遺伝情報がどのようにして発現されるのかということ、RNAの転写、タンパク質の翻訳として学ぶ。この授業を通じて、生物の遺伝情報の流れの基本を理解することを目的とする。

【授業概要】 地球上の生物の「遺伝情報」は、細胞分裂を通じて娘細胞へ、また生殖細胞を通じて子孫へと受け継がれる。この遺伝情報の担い手が「遺伝子」である。遺伝子は、情報を運ぶ媒体であるとともに化学物質であるという側面を持つ。これらに関して、基本的には「エッセンシャル細胞生物学」(Alberts 他著、中村桂子他訳、南江堂)の第6章の内容に対応する授業を行なう。また適宜ビデオ教材を用い、授業の理解を深める。

【キーワード】 遺伝子, DNA, RNA, タンパク質, 分子生物学

【先行科目】 『分子遺伝学』(1.0, ⇒339頁), 『比較生理生化学』(1.0, ⇒345頁), 『生命システムの基礎 II』(1.0, ⇒285頁)

【関連科目】 『代謝異常学』(1.0, ⇒346頁), 『発生学』(0.5, ⇒340頁), 『細胞制御学』(0.5, ⇒345頁)

【履修上の注意】 毎回授業中にミニレポートを配布する。このミニレポートの提出をもって授業への出席確認と、レポートの採点とするので、必ず授業には出席しミニレポートを提出すること。予習、復習、試験勉強のためIBS出版「新・分子生物学」(石川統著)を精読することを勧める。

【到達目標】 遺伝子, DNA, RNA, タンパク質という用語を、構造と機能の両面から自分の言葉で説明できるようになる。

【授業計画】 1. (1) 分子生物学の概説 2. (2) 核酸の構造 3. (3) タンパク質の構造 4. (4) 遺伝現象の概説 5. (5) メンデル遺伝 6. (6) 遺伝子の本体 7. (6) DNAの複製・修復 8. (7) DNAの組換え 9. (9) RNAの転写 10. (10) RNAの転写制御 11. (11) 転写産物のプロセッシング

12. (12) タンパク質の翻訳 13. (13) 突然変異と進化 14. (14) 分子生物学で使われる技術 15. (15) 学期末テスト 16. (16) 総括授業

【成績評価】授業への出席 (20%)、レポート内容 (40%)、および期末テスト (40%)

【再試験】再テスト有

【教科書】IBS 出版「新・分子生物学」(石川統著)

【参考書】

- ◇ エッセンシャル細胞生物学」(Alberts 他著、中村桂子他訳、南江堂)
- ◇ 「見てわかる DNA のしくみ」(工藤光子、中村桂子、講談社)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219127>

【連絡先】

⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日12:00-13:00(総合科学部1号館北棟2階3211室))

分子遺伝学

2 単位 2 年 (前期)
松尾 義則・教授/社会創生学科

【授業目的】遺伝学の基礎知識を習得することを目的とする。まず、遺伝学の基本的な事項について解説し、遺伝の法則、遺伝様式、遺伝子、染色体、組み換え DNA 技術、遺伝子発現などについて解説する。

【授業概要】遺伝学の基礎

【キーワード】遺伝、進化、遺伝子、遺伝の法則、染色体

【関連科目】『適応進化学』(0.8, ⇒332 頁), 『分子生物学』(0.8, ⇒338 頁), 『系統分類学 I』(0.8, ⇒341 頁)

【到達目標】遺伝学の基礎事項を理解する。

【授業計画】1. 授業内容の説明 2. メンデルの遺伝の法則 1 3. メンデルの遺伝法則 2 4. 有糸分裂と減数分裂 5. 性決定、伴性遺伝 6. 小テスト 1 中心 7. 小テスト 1 返却、解説 8. 連鎖と染色体地図 9. 細菌およびウィルス遺伝学 10. 組み換え DNA 技術 11. DNA の複製と組み換え 12. タンパク質合成 13. 小テスト 2 中心 14. 小テスト 2 返却、解説 15. 総括授業

【成績評価】時々小テストを行い、本試験と合わせて評価する。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ クロー著「遺伝学概説」(第 8 版) 培風館 2, 266 円
- ◇ タマリソ 遺伝学 上巻 培風館
- ◇ ワトソン著「遺伝子の分子生物学」東京化学同人
- ◇ アルバート著「細胞の分子生物学」(第 3 版)Garland

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219133>

【連絡先】

⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に指定しない。いつでもOK。)

環境適応学 I

2 単位 2 年 (後期)
小山 保夫・教授/社会創生学科, 佐藤 征弥・准教授/社会創生学科
山城 考・准教授/社会創生学科, 金丸 芳・准教授/社会創生学科
横井川 久己男・教授/社会創生学科, 浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生物 (あるいは生体) が環境 (老化を含む) に適応しているか、また、その適応の仕組みがどのような意味をもっているか、これを理解するために幅広く講義になります。

【授業概要】生物 (生体) が環境 (老化を含む) にどのように適応するか、基礎的な知識を学ぶ

【履修上の注意】この講義は自然システム学科生命環境コース「2 年次」開講の科目です。受講を希望する学生は履修登録前に担当教員 (小山保夫) まで連絡してください。

【到達目標】環境 (老化を含む) と生物 (生体、臓器、細胞レベルの生命活動を包含) の関係を理解する

【授業計画】1. 環境適応反応の例・環境適応不全 (ストレスと病気) 2. 細胞の環境適応 (ストレスと細胞) 3. 生体の環境適応 (ストレスと内分泌、免疫、神経など) 4. 生体内環境変化と適応 (老化 1) 5. 生体内環境変化と適応 (老化 2) 6. 生体内環境変化と適応 (老化 3) 7. 生体内環境変化と適応 (老化 4) 8. 生体内環境変化と適応 (老化 5) 9. 生体内環境変化と適応 (老化 6) 10. 侵入種の定着とその影響 11. 食・生活環境因子と環境適応 12. 自然環境適応 (日本の森林) 13. 微生物に影響を与える環境因子と環境適応機構 14. 天然からの知的薬物の探求 15. 植物と草食動物の相互作用 16. レポートの返却と試験

【成績評価】学期に従って評価します。

【再試験】なし。

【教科書】毎回プリントを配ります。参考書はその都度、紹介します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219360>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 開講については小山保夫、個々の講義については担当した教員のオフィスアワーを参照して下さい。)

⇒ 佐藤 (088-656-7222, sato@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

細胞生理学 I

Cellular Physiology I

2 単位 2 年 (前期)
中川 秀幸・教授/社会創生学科

【授業目的】生体は約 60 兆個の細胞から構成されている。多細胞生物の細胞は、その容器に入っている膨大な情報をもとに生命活動を営んでいる。細胞の容器にあたる細胞膜は、細胞の内部環境と外部環境とのゆるやかなバリアーであり、特徴的な働きを担っている。この授業では、細胞膜の構造や化学成分を学び、細胞膜の主要な機能である分子の輸送や細胞内外への情報の伝達について解説する。

【授業概要】細胞の生命活動を支える細胞膜の役割と多様な生体分子の働き

【キーワード】細胞、生体膜、内部環境、蛋白質、脂質、受容体、糖類、アミノ酸、シグナル変換、物質輸送

【先行科目】『生体有機化学 I』(1.0, ⇒338 頁)

【関連科目】『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁), 『細胞生理学 II』(0.5, ⇒339 頁), 『生体有機化学 II』(0.5, ⇒338 頁)

【履修上の注意】復習は必要ですので、ファイルノートを用意してください。板書はします。

【到達目標】細胞の多様な働きを理解する。形や大きさが多種多様な細胞をつくる物質は、化学的に共通していること、またこの物質が素材となり細胞自身の生活や他の細胞と連絡して生命活動を担っていることを理解する。

【授業計画】1. 細胞の基本構造と種類 (1) 2. 細胞の基本構造と種類 (2) 3. 細胞の中の分子 (1) 4. 細胞の中の分子 (2) 5. 細胞膜の構成と構造 (1) 6. 細胞膜の構成と構造 (2) 7. 細胞膜の脂質 (1) 8. 細胞膜の脂質 (2) 9. 細胞膜のタンパク質 (1) 10. 細胞膜のタンパク質 (2) 11. 細胞膜での輸送 (1) 12. 細胞膜での輸送 (2) 13. 細胞膜と多様な生体分子の作用 (1) 14. 細胞膜と多様な生体分子の作用 (2) 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】授業が進んだ前半に行う試験ならびに、出席状況および後半の試験の総合評価を行う。

【再試験】行わない

【教科書】教科書として、わかる生物学:知っておきたいヒトのからだの基礎知識 (小野廣紀著・内藤通孝共著、化学同人、1800+税)。必要に応じてプリントを配布する。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2/index.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218668>

【連絡先】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室中の午後。E-mail: sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp)

細胞生理学 II

2 単位 3 年 (前期)
大橋 眞・教授/社会創生学科, 真壁 和裕・教授/社会創生学科
松尾 義則・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】生物は、生息する環境条件に対応して、細胞の数を増加させることで生命の維持をはかっている。この講義では、細胞増殖のメカニズムである細胞の分裂機構とその調節形について、テキストを読みながら解説する。

【授業概要】細胞分裂と細胞周期の調節

【キーワード】細胞周期、アポトーシス、細胞分裂

【先行科目】『細胞生理学 I』(1.0, ⇒339 頁)

【関連科目】『発生物学』(0.5, ⇒340 頁), 『生体有機化学 II』(0.5, ⇒338 頁), 『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁)

【履修上の注意】授業の前に必ずテキストを読んでくること (読んでくる範囲は、授業毎に指示する)。遅刻は認めない (担当教員が入室後には、学生の入室を許可しない)。講義室内での飲食、携帯電話の使用及び私語は許さない。

【到達目標】細胞周期に関する基本的な学術用語 (英語表記を含む) を理解する。細胞増殖が、生命現象の中で演じる役割の基本的な事柄についての理解を深める。

【授業計画】1. ガイダンス及び細胞の進化 2. 第 18 章 細胞周期と細胞死 1. 細胞周期の概要 3. 2. 細胞周期制御系 (1) 4. 2. 細胞周期制御系 (2) 5. 3. プログラム細胞死 (アポトーシス) 6. 4. 細胞外

から細胞数と細胞の大きさを制御する 7. 第 18 章の試験 8. 第 19 章 細胞分裂 1. M 期の概観 9. 2. 有糸分裂 (1) 10. 2. 有糸分裂 (2) 11. 2. 有糸分裂 (3) 12. 3. 細胞質分裂 (1) 13. 3. 細胞質分裂 (2) 14. 第 19 章の試験 15. 第 18-19 章の試験 16. 総括授業

【成績評価】1 章終わる毎に、学術用語(英語表記を含む)とその概要をテストする。期末試験では、講義の範囲内から、総合的に考える問題を出す予定。いずれの試験も、ノート等の持ち込みは不可である。3 回のテストと日常の取り組みに基づいて評価する。

【再試験】行わない

【教科書】テキストとして、「Essential 細胞生物学 原書第 2 版」中村桂子・松原謙一監訳、南光堂を使用する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219413>

【連絡先】

- ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
- ⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

発生学

2 単位 2 年 (後期)

Developmental Biology

真壁 和裕・教授/社会創生学科

【授業目的】動物の初期発生において体軸が形成され、胚をつくる個々の細胞がお互いに異なったものに分化し、体軸に沿って秩序正しく個体ができていく際に見られる代表的な現象を取り上げて、動物のさまざまな体とその形が作り上げられる過程の基本的な概念とその進化的側面を理解することを主な目的とする。さらに発生生物学が社会に与えるインパクトや貢献などについても考える。

【授業概要】多細胞動物の系統関係を念頭におきながら、後生動物全般でどのような発生メカニズムが使われることによって、たったひとつの細胞である受精卵が個体となっていくのかについて、さまざまな動物の胚に見られるさまざまな現象を例に取りながら、単細胞である卵から秩序だった多細胞の個体ができる基本的なしくみを学んでいく。

【キーワード】発生分化, 細胞分化, 遺伝子発現, 進化

【先行科目】『比較生理生化学』(1.0, ⇒345 頁), 『分子遺伝学』(0.7, ⇒339 頁), 『生命機能実験 1』(0.5, ⇒344 頁)

【関連科目】『分子生物学』(1.0, ⇒338 頁), 『細胞制御学』(1.0, ⇒345 頁), 『代謝異常学』(0.5, ⇒346 頁)

【履修上の注意】講義プリントは当日の出席者にしか配りません(遅刻欠席しないこと)。講義は集中して聴いていないと到底理解できませんし(喋ったり寝たりしないこと)、内容は一度聴いたくらいで完全に理解し覚えることは困難です(自らも学び復習をすること)。

【到達目標】基礎的な発生生物学上の概念を理解し、細胞レベル(ときには分子レベル)で発生現象を他人に説明できるようにすること。

【授業計画】1. ・個体発生と系統発生 2. ・発生学のモデル生物 3. ・実験発生学と基本概念 4. ・細胞が違っていくしくみ その(1)局在 5. ・細胞が違っていくしくみ その(2)細胞間相互作用 6. ・細胞が違っていくしくみ その(3)モルフォゲン勾配 7. ・細胞が違っていくしくみ その(4)等価群 8. ・細胞が違っていくしくみ その(5)誘導 9. ・脊椎動物における体節形成 10. ・Hox クラスター 11. ・肢形成における軸決定 12. ・肢形成のパターニング 13. ・発生と進化 14. ・復習と演習 15. ・期末試験 16. ・総括授業

【成績評価】出席, 小テスト, 学期末の試験(持ち込み不可)の成績など。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ 教科書は指定せずに、毎回プリントを配布する。
- ◇ 参考書「新しい発生生物学」講談社ブルーバックス(940 円)
- ◇ 参考書「ウィルト 発生生物学」東京化学同人(5,200 円)
- ◇ 参考書「発生遺伝学」東京大学出版会(3,400 円)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219390>

【連絡先】

- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,) (オフィスアワー: 特別に設定せず発展的な質問などは随時受け付けます。ただし講義内容のものについての単純な質問は可能な限り講義内の質疑応答の際にしてください。)

【備考】研究室は総合科学部 1 号館北棟 2 階

細胞情報学 I

2 単位 2 年 (後期)

小山 保夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生体は生理機能を統合するために、細胞間で化学的シグナル伝達を行っている。そのシグナルを受容するのは、多くの場合は細胞膜の受容体である。この膜に届いた化学的シグナルがどのように細胞内で処理され、細胞の機能発現につながるか、解説する。また、細胞膜で起こるイオンチャネルを介する電気的シグナル伝達についても詳

細に解説する。これらの情報システムの理解は単に生理機能発現の理解に止まらず、疾病や医薬品作用の細胞レベルでの理解の基礎となるものである。

【授業概要】細胞内の化学的・電気的シグナルと生理機能発現

【履修上の注意】講義計画が前後することはある。2010 年開講の「細胞情報学」シラバスを参照すること。

【到達目標】どのように化学的・電気的シグナル伝達を修飾すると細胞の生理機能を変化させることができるか、自由に考えられるようにする。

【授業計画】1. ベースとしての知識は、エッセンシャル細胞生物学である。一般的にポイントを説明する。2. 化学的シグナル伝達受容機構とその相互作用および G タンパク質 3. 細胞内カルシウムシグナルなどのセカンドメッセンジャーと機能 4. 情報伝達に対するリン脂質代謝 5. タンパク質リン酸化・脱リン酸化反応とそのカスケード 6. 神経細胞におけるシグナル伝達路とそのクロストーク 7. 免疫細胞におけるシグナル伝達路 8. 細胞情報伝達に対する多くの化学物質(環境汚染物質も含む)・医薬品の影響(2) 神経系以外 10. 電気的シグナル伝達の基礎 11. 細胞膜の電気的シグナル伝達を測定する方法(電圧固定法と電流固定法) 12. イオンチャネルの基本的な性質と種類(1) ナトリウムおよびカルシウムチャネル 13. イオンチャネルの基本的な性質と種類(2) カリウムチャネル 14. イオンチャネルの基本的な性質と種類(3) その他のイオンチャネル 15. 知識の確認と試験 16. 化学的・電気的シグナルの総括

【成績評価】本試験の成績により評価するが、試験の点数が低い場合には小テスト成績と出席回数を加味する。

【再試験】なし。

【教科書】エッセンシャル細胞生物学。他の講義でも使うと同時に、生命科学系の大学院を受験する学生には必須の教科書である。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219410>

【連絡先】

- ⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定はしない。質問はいつでも良い。)

植物生理学

2 単位 2 年 (前期)

佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し、どのような取り組みを行えば良いか、またどのようなことに留意すれば良いかについて考える。

【授業概要】自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう。しかし、野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等、生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない。また、絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については、その正確性が絶えず議論になる。この授業では、自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ、どのように考えていくべきか解説する。

【履修上の注意】なし。

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】1. 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい 2. 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて 3. 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 4. 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 5. 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え 6. 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 7. 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い 8. 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル 9. 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 10. 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 11. 自然公園の管理 12. 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園, 世界遺産 13. 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 14. 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 15. 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軋轢 16. 期末試験

【成績評価】授業への取り組み状況(毎回課すミニツペーパー)と期末試験(ノート、資料持ち込み可)により評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】講義の際に随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219489>

【連絡先】

- ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK。)

【備考】「自然保護論」と読み替え

生態学

2 単位 2 年 (前期)

浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生態学の基本や面白さを理解する。

【授業概要】ヒトとして生活をする上で知っておいた方がよい生態学の知見、フィールド調査や研究を行う上で重要となる生態学的基本知識について、事例をあげながら講述する。

【キーワード】生物, 行動, 生態系
 【到達目標】生態学の基本用語を理解する。
 【授業計画】1. 講義内容の説明 2. 繁殖行動の解発因 3. 配偶者選択 4. 行動の進化的安定戦略 5. 生存曲線, 個体群の増殖 6. 個体数推定, 生命表 7. 生態的地位, 生態系, すみ分け 8. 種間関係, 群集の多様性 9. 捕食-被捕食関係, 最適餌サイズ 10. 擬態, r-K 戦略 11. 生物の多様性, メタ個体群 12. 自然保護を考える 13. 生態学的研究の実例 14. 生態学の応用的研究の実例 15. 期末試験 16. 総括授業
 【成績評価】出席 50 点 (原則遅刻は配点しない), レポート 50 点
 【再試験】なし
 【教科書】なし
 【参考書】講義の中で紹介する
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219381>
 【連絡先】
 ⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

生体情報科学 2 単位 2 年 (後期)
Bioinformatics 大橋 眞・教授/社会創生学科

【授業目的】最近の生命科学の進歩は, 生命科学を情報科学の 1 分野と考える必要性を生じさせた。本講義では生命科学の中でも情報の蓄積の著しい細胞の構造と機能, 生命進化と細胞などに関して, その基本的な知識をふまえた上で, 遺伝子変異の機構およびその情報を得る手段である遺伝子解析や遺伝子情報処理の基本的概念を理解し, 生命を遺伝情報の観点から見る目を育成することを目的とする。
 【授業概要】遺伝子と生命
 【キーワード】細胞, 機能, 構造, 遺伝子, 遺伝子工学
 【先行科目】『生体有機化学 I』(1.0, ⇒338 頁), 『分子生物学』(1.0, ⇒338 頁), 『生体有機化学 II』(1.0, ⇒338 頁)
 【関連科目】『細胞情報学 I』(0.5, ⇒340 頁), 『分子遺伝学』(0.5, ⇒339 頁), 『細胞生理学 I』(0.5, ⇒339 頁)
 【履修上の注意】高等学校の生物, 化学を履修しているものとして, 講義を進めていく。遺伝子情報処理の実習も行う予定。生命機能を分子のレベルで理解するための基礎的内容を中心に講義を進める。前半は特に生体を構成する主要な分子に関して, 生化学的な内容を中心に話を進め, 後半は遺伝子情報, 遺伝子工学などをとりあげる。
 【到達目標】生体構成成分として, 特に遺伝子情報に関係の深い分野について基礎的な理解を確実なものにする。アミノ酸については, その機能の違いを蛋白質の立体構造構築への役割と関係づけられるようにする。蛋白質の立体構造に重要な役割を持つ疎水結合の役割を理解させる。また, 遺伝子情報を蛋白質の構造や機能に関連づけられるようにする。インターネットを用いた生命情報の利用について, その基礎的理解を深める。
 【授業計画】1. 生命と細胞 2. 細胞の構造 3. 細胞膜 4. 細胞内小器官 5. 細胞骨格 6. 遺伝子の構造と機能 7. RNA の役割 8. 遺伝子発現の制御 9. 生命進化と遺伝子 10. 細胞の分化 11. 細胞の分化の要因 12. 細胞の分化と遺伝子発現 13. 遺伝子工学の基礎 I 14. 遺伝子工学の基礎 II 15. まとめ 16. まとめ
 【成績評価】小テスト (50%) と期末試験 (50%) で評価する。
 【再試験】なし
 【教科書】教科書 Essential 細胞生物学 中村桂子他訳 南江堂
 【参考書】生物進化を考える 木村資生著 岩波新書
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219361>
 【連絡先】
 ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月-水曜日12時20分-12時50分)

系統分類学 I 2 単位 3 年 (前期)
Phylogeny and taxonomy of plants 山城 考・准教授/社会創生学科

【授業目的】維管束植物はシダ植物, 裸子植物, 種子植物からなり, 様々な環境下に適応し生育しており, 地球上の生態系において生産者としての主要な役割を担っている。本講義では, 維管束植物の起源と多様性について, 各植物群ごとの外部形態・内部形態の特徴とその機能および進化, 栄養器官や繁殖器官の進化, 系統関係について解説する。
 【授業概要】維管束植物の分類および系統進化
 【キーワード】陸上植物, 維管束, 系統進化, 分類, 多様性
 【履修上の注意】最初の講義の時に示します。
 【到達目標】生物学を学ぶ基礎となる分類学の基本的な概念を習得させるとともに, 各植物群の形態的特徴の多様性とその機能的役割を解説し, それらを知識として習得させる。

【授業計画】1. 陸上植物の起源 2. コケ植物の進化 3. シダ植物の進化 4. コケ植物とシダ植物の観察 5. 種子植物の進化 1(裸子植物) 6. 種子植物の進化 2(被子植物) 7. 被子植物の多様性 1(送粉様式) 8. 被子植物の多様性 2(種子分散) 9. 被子植物の多様性 3(植食性動物との相互関係) 10. 単子葉植物の起源と多様性 11. 被子植物の観察 12. 野生植物の保全 13. 植物の分類必要性 14. 分岐分析 15. レポートの課題提示と作成上の注意 16. 総括授業
 【成績評価】試験またはレポートにより成績評価を行います。
 【再試験】なし
 【教科書】プリントを配布します。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219407>
 【連絡先】
 ⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

無機物質系の化学 I 2 単位 2 年 (前期)
 今井 昭二・教授/社会創生学科

【授業概要】無機化学 I で読み替える。
 【キーワード】Electronic Structure
 【先行科目】『物質科学の基礎 III』(1.0, ⇒285 頁), 『現代化学の世界』(1.0)
 【関連科目】『分子物理化学 I』(0.5, ⇒310 頁), 『物質分析法 I』(0.5, ⇒341 頁), 『化学環境制御論』(0.5, ⇒342 頁), 『量子力学 I』(0.5, ⇒299 頁)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219326>
 【連絡先】
 ⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

有機物質系の化学 I 2 単位 2 年 (前期)
 中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】有機化合物の構造, 性質, 反応などを学ぶ上で必要な基礎知識を習得する。
 【授業概要】有機化学の基礎
 【キーワード】有機化学, 基礎化学
 【先行科目】『現代化学の世界』(1.0, ⇒285 頁), 『物質科学の基礎 III』(1.0, ⇒285 頁), 『物質科学の基礎 I』(1.0)
 【関連科目】『有機物質系の化学 II』(0.5, ⇒312 頁), 『無機物質系の化学 I』(0.5, ⇒341 頁), 『物質分析法 I』(0.5, ⇒341 頁)
 【履修上の注意】基礎化学の知識を修得していることが望ましい。この授業は, 平成 20 年度入学者までの科目です。それ以降の入学者は受講できません。また, 平成 20 年度入学者までの入学者は, 平成 22 年度開講の『有機化学 I』を受講して下さい。
 【到達目標】化学構造式に慣れ, 有機化学の基礎概念を理解する。
 【授業計画】1. はじめに 2. 電子構造と共有結合 (1) 3. 電子構造と共有結合 (2) 4. 酸と塩基 (1) 5. 酸と塩基 (2) 6. 有機化合物の基礎 (1) 7. 有機化合物の基礎 (2) 8. アルケン (1) 9. アルケン (2) 10. アルケンおよびアルキンの反応 (1) 11. アルケンおよびアルキンの反応 (2) 12. 異性体と立体化学 (1) 13. 異性体と立体化学 (2) 14. 異性体と立体化学 (3) 15. 期末試験 16. 総括授業
 【成績評価】学期末テスト, 授業内での小テスト, 受講態度
 【再試験】基本的には実施しない
 【教科書】ブルース 有機化学概説 第 2 版 (大船康史・香月昂・西郷和彦・富岡清 監訳, 化学同人)
 【参考書】ブルース 有機化学 第 5 版 (上)(大船康史・香月昂・西郷和彦・富岡清 監訳, 化学同人)
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219302>
 【連絡先】
 ⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)
 【備考】上記の授業計画は, 予定であり変更することもある。

物質分析法 I 2 単位 3 年 (前期)
 今井 昭二・教授/社会創生学科

【授業概要】分析化学 I によって読み替える。
 【キーワード】分析化学
 【先行科目】『分子物理化学 I』(1.0, ⇒310 頁), 『無機物質系の化学 I』(1.0, ⇒341 頁)
 【関連科目】『分子物理化学 I』(0.5, ⇒310 頁), 『無機物質系の化学 I』(0.5, ⇒341 頁)
 【履修上の注意】分析化学 I と同じ内容である。
 【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219335>
 【連絡先】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期) 木曜日 12:00-13:00)

- ◇ 都城秋徳・久城育夫著, 「岩石学 I 偏光顕微鏡と造岩鉱物」, 共立出版 (1972)
- ◇ Charles Kittel 著, 宇野良清他訳, 「固体物理学入門 (上)」, 丸善 (2005)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219338>

【連絡先】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

化学環境制御論

2 単位 2 年 (前期)
山本 裕史・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 環境中における化学物質の安全性に着目し, 公害問題や地球環境問題について学ぶ。また, 環境リスクの考え方の重要性を理解するとともに, 化学物質の安全性評価・管理手法の基礎, 実際の地域・地球環境問題に対する方策について受講者自らの価値観で考え, 行動できるようにする。

【授業概要】 公害と地球環境問題, 水・大気・土壌・生体中の化学物質汚染について, 最新のデータを客観的に提示する。これらを理解した上で, 生態系の保全や環境リスク評価・管理, 循環型社会やライフサイクルアセスメント, 資源・エネルギー問題について考える。

【キーワード】 地球環境問題, 環境汚染物質, 環境化学, 環境科学, 循環型社会

【先行科目】 『現代化学の世界』(1.0), 『物質科学の基礎 III』(1.0), 『物質科学基礎実験 III』(1.0)

【関連科目】 『化学環境システム論』(0.5, ⇒319 頁)

【履修上の注意】 宿題・レポートの提出, 出席が評価のかなり部分を占めます。遅れないように出席してください。

【到達目標】

1. 環境の構成要素とその量的関係や動的挙動を正しく理解する
2. 最新のデータの提示により, 受講者自らが科学的裏づけを持って考え, 行動できるようにする

【授業計画】 1. シラバスの説明, 化学環境学と現代の環境問題 (公害問題と現在の環境問題) 2. 自然環境の現状 (9 つの地球環境問題と環境史) 3. 資源・エネルギーの現状 (エネルギーと資源問題) 4. エネルギー資源確保のための化学技術 5. 資源・エネルギーの現状 (食糧と人口の問題) 6. 環境問題と化学 (地球温暖化と大気保全) 7. 環境問題と化学 (森林現象と砂漠化, 海洋汚染, 化学物質の管理等) 8. 中間試験 9. ライフサイクルアセスメント (LCA) 10. 廃棄物処理とリサイクルの化学技術 11. 化学物質のリスク評価と管理 12. 環境化学技術 13. グリーンケミストリー 14. 持続可能で豊かな社会へ向けて 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 宿題・レポート 30%, 出席 20%, 中間試験 25%, 期末試験 25%

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 「化学環境学」御園生誠 (2007) 裳華房
- ◇ 「新版環境工学 ~ 持続可能な社会とその創造のために」住友恒ほか (2007) 理工図書

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218475>

【連絡先】

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後ほど案内する)

物質構造解析学

2 単位 2 年 (前期, 集中)
森 寛志・非常勤講師 / 愛媛大学大学院理工学研究科

【授業目的】 地球を構成する物質 (造岩鉱物) の分類, 化学組成, 結晶構造, 物性などを理解するための基礎的な事項を学ぶ。

【授業概要】 造岩鉱物の化学組成と結晶構造, 鉱物結晶の外形と構造の対称性, EPMA を用いた鉱物の化学分析法, X 線回折法を用いた結晶鉱物の解析法などについて学ぶ。

【キーワード】 造岩鉱物, 結晶, 対称性, 結晶構造, X 線回折, 化学組成

【履修上の注意】 集中講義として実施されます。受講のために特別な知識やスキルは必要ありません。授業内容のパワーポイントファイルを印刷した資料を事前に配布するのでよく目を通しておくこと。

【到達目標】

1. 造岩鉱物の分類について説明することができる。
2. 鉱物の外形や結晶構造の対称性について考えることができる。
3. 鉱物の化学組成とその決定法について説明することができる。
4. X 線回折法による結晶構造の決定について説明することができる。

【授業計画】 1. 授業のガイダンス 2. 鉱物の組成と構造 3. 造岩鉱物の分類 4. ケイ酸塩鉱物 5. 結晶の外形と面指数, 点群 6. 結晶構造の対称性 7. 結晶格子と空間群 8. X 線の発生と検出 9. 結晶による X 線の回折 10. 粉末 X 線回折法 11. EPMA による鉱物の化学分析 12. 結晶結合 (イオン結合と共有結合) 13. 結晶の弾性的性質 14. 結晶の塑性変形 15. 授業のまとめ

【成績評価】 授業中に数回の小テストを行い, 成績を評価する。

【再試験】 原則として行わない。

【教科書】 教科書は用いない。参考資料として授業で使用するパワーポイントファイルを印刷した資料を配布する。

【参考書】

環境分析技術法

2 単位 3 年 (前期, 集中)
山本 裕史・准教授 / 社会創生学科, 伏見 賢一・准教授 / 総合理数学科, 西山 賢一・准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 伏見担当: データの分析方法, 誤差の取り扱い方を事例に基づいて指導する。山本担当: 大気・水環境サンプリングの基本技術とそれぞれに含まれる環境指標の測定方法について指導する。西山担当: 地表環境を特徴づける地形の判読技術を身につけ, 地表環境のなりたちと変遷を理解する。

【授業概要】 環境分析の基礎

【キーワード】 環境分析, データ解析, 地表環境, 環境サンプリング

【先行科目】 『物質分析法 I』(1.0, ⇒341 頁), 『物質科学基礎実験 III』(1.0, ⇒287 頁)

【関連科目】 『物質分析法 II』(0.5, ⇒318 頁), 『化学環境制御論』(0.5, ⇒342 頁)

【履修上の注意】 グループでの検討も行う。西山: 12 色程度の色鉛筆を持参してください。

【到達目標】

1. 伏見担当: 実験・計測に伴う誤差の取り扱い, 装置の精度と測定すべき精度の比較を行い, 適正な実験計画を立てることができるようになること。実験データから環境影響の有無について統計的手法による検定を行って適切な判断をすることが出来るようになること。
2. 山本担当: 適切にサンプリングした環境試料中の様々な環境指標の概要について理解する。
3. 西山担当: 地形図の読図作業を学び, その結果に基づいて地表環境のなりたちと変遷を理解できるようにする。

【授業計画】 1. 伏見担当 (4 回) 2. 1 誤差の分布, 有効数字, データの相関, 相関係数, 回帰分析 3. 2 統計分布 4. 3 統計的推定 5. 4 母集団の比率の推定 6. 山本担当 (4 回) 7. 1 環境サンプリング方法, 物理化学的分析方法 1 (重量分析など) 8. 2 物理化学的分析方法 2 (電気化学的分析, 光学的分析など) 9. 3 物理化学的分析方法 3 (抽出, クロマトグラフィー) 10. 4 生物化学的分析 (バイオアッセイ) 11. 西山担当 (4 回) 12. 1 地形判読による地表環境の分析 1 (読図の基礎) 13. 2 地形判読による地表環境の分析 2 (平野) 14. 3 地形判読による地表環境の分析 3 (海岸) 15. 4 地形判読による地表環境の分析 4 (山地)

【成績評価】 演習と試験結果による

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 伏見: 「統計学-データから現実を探る-」内田老鶴圃, 1992 年
- ◇ 山本: 適宜指示する
- ◇ 西山: 指定しない。必要に応じてプリントを配布する。参考書: 「地表環境の地学」(東海大学出版会)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219355>

【連絡先】

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 ~ 13 時)

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月 ~ 金曜の 11 時 50 分 ~ 12 時 50 分)

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

自然システム学科 生命・環境コース 生命機能サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

生命機能セミナー ...松尾/3年(前期,後期).....	343
生命機能セミナー ...渡部/3年(前期,後期).....	343
生命機能セミナー ...真壁/3年(前期,後期).....	343
生命機能セミナー ...佐藤/3年(前期,後期).....	343
生命機能セミナー ...大橋/3年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...松尾/4年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...真壁/4年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...渡部/4年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...佐藤/4年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...大橋/4年(前期).....	344
生命機能特別演習 ...大橋/4年(後期).....	344
生命機能実験Ⅰ ...真壁・松尾・渡部/3年(前期).....	344
生命機能実験Ⅱ ...大橋・佐藤・渡部/3年(後期).....	345
比較生理生化学 ...松尾・佐藤/2年(前期,集中).....	345
細胞制御学 ...真壁/3年(前期).....	345
適応進化学 ...松尾/3年(後期).....	346
代謝異常学 ...渡部/3年(前期).....	346
細胞機能学 ...真壁・渡部/3年(前期,集中).....	346
系統分類学Ⅱ(分子生態学) ...山城/3年(前期).....	346
生物化学 ...佐藤/2年(後期).....	347
環境物質影響学 ...金丸/3年(後期).....	347
活性物質生理学 ...中川/3年(後期).....	347
機能物質作用学 ...横井川/2年(後期).....	347
環境適応学Ⅱ ...佐藤/2年(前期,集中).....	348
環境生理学 ...佐藤/3年(後期).....	348
細胞情報学Ⅱ ...小山/3年(前期).....	348
集団生物学 ...山城/3年(前期).....	348
熱・統計力学Ⅰ ...真岸/2年(後期).....	349
物理数学 ...小山/2年(後期,集中).....	349
分子物理化学Ⅰ ...山本/2年(前期).....	349
無機物質系の化学Ⅱ ...未定/2年(後期).....	349
有機物質系の化学Ⅱ ...増田/2年(後期).....	350
天然物質化学 ...中村/3年(後期).....	350
生体物質化学 ...増田/3年(前期).....	350

生命機能セミナー 2単位 3年(前期,後期) 松尾 義則・教授/社会創生学科

【授業目的】 英文で書かれたテキストを理解しながら読むことで英語の専門用語に慣れることと専門書の読解力をつける。また、内容を理解することで進化に関する幅広い知識を得る。

【授業概要】 英文テキストの輪読

【履修上の注意】 研究室配属の学生向けセミナー

【到達目標】 平易に書かれた進化に関する英文テキストを理解できるようになる。

【授業計画】 1. 「Evolution」のPartIIを理解しながら読む。 2. 1. The origin of life. 3. 2. The last universal common ancestor and the tree of life 4. 3. Diversification of bacteria and archaea. I:Phylogeny and biology. 5. 4. Diversification of bacteria and archaea.II:Genetics and genomics. 6. 5. The origin and diversification of eukaryotes. 7. 6. Multicellularity and development. 8. 7. Diversification of plants and animals. 9. 8. Evolution of developmental programs.

【成績評価】 日本語訳の発表で評価する。

【再試験】 なし

【教科書】

◇ [Evolution]
 ◇ N.H. Barton et. al
 ◇ Cold Spring Harbor Laboratory Press
【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219367>
【連絡先】
 ⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもOK)

生命機能セミナー 2単位 3年(前期,後期) 渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】 英語で書かれた標準的なテキストを輪読し、科学英語に慣れることを第一の目的とする。

【授業概要】 英語で書かれた標準的なテキストの輪読。

【キーワード】 DNA, RNA, protein, gene, biotechnology

【先行科目】 『分子生物学』(1.0, ⇒338頁), 『発生学』(0.5, ⇒340頁), 『分子遺伝学』(0.5, ⇒339頁)

【関連科目】 『代謝異常学』(1.0, ⇒346頁), 『生命機能実験Ⅰ』(1.0, ⇒344頁), 『生命機能実験Ⅱ』(1.0, ⇒345頁)

【履修上の注意】 毎回、必ず予習をしてくること。

【到達目標】 科学英語と学術用語に慣れ、書かれている内容を正しく理解する。またある程度の量の英文を読みこなせるようになる。

【授業計画】 丸善「Molecular Biology of the Cell」Alberts 他著のChapter 8他を輪読する。

【成績評価】 毎回の授業への予習などを含む取組みの姿勢。

【再試験】 無

【教科書】 学期の初めにプリントを配付。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219368>
【連絡先】
 ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命機能セミナー 2単位 3年(前期,後期) 真壁 和裕・教授/社会創生学科

【授業目的】 英語で書かれた発生学の論文を読める程度の英語読解力と知識力を養うことを目的とする。

【授業概要】 卒業研究を行なう際に発生生物学の現状に関する知識を自力で得られるように、原著論文を正しく読みこなすためのトレーニングとして、英語で書かれた標準的な生物学の教科書などに沿って生物学の知識を確かながら科学英文を読む。

【キーワード】 発生生物学, 科学英語, 論文輪読, プレゼンテーション

【先行科目】 『発生学』(1.0), 『分子生物学』(1.0, ⇒338頁), 『分子遺伝学』(0.7, ⇒339頁)

【関連科目】 『生命機能特別演習』(1.0, ⇒344頁)

【履修上の注意】 英語の文献を読みこなす力ほどの世界でも必須です。3年生のメインテーマのひとつとして正面から真摯に取り組むこと。

【到達目標】 発生学の原著論文を読めるようになる。

【授業計画】 1. <前期> 専門用語にあふれた科学英語に慣れるために「Molecular Biology of the Cell (4th ed.)」の発生関係の章または「Developmental Biology (7th ed.)」のいくつかの章を選んで読み、その内容をセミナー時に発表する。 2. <後期> 発生学におけるエッセンスとなる原著論文や次年度の卒業研究に関わりそうな原著論文を読み、論文形式の英語に慣れるとともに参考文献を検索して調べることを含めて、論文全体の内容を理解した上で内容を発表する。

【成績評価】 内容の理解度と発表の出来映えによる。

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 教材 Bruce Alberts 他著「Molecular Biology of the Cell (4th ed.)」Garland Science (8,000円前後)
- ◇ Scott Gilbert 著「Developmental Biology (7th ed.)」Sinauer (7,000円前後)
- ◇ 原著論文
- ◇ 参考書 「上手なプレゼンテーションのコツ」化学同人 (2,200円)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219369>
【連絡先】
 ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,) (オフィスアワー: 随時受け付けます。)

【備考】 研究室は総合科学部 1号館北棟 2階

生命機能セミナー 2単位 3年(前期,後期) 佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 生物化学の研究に必要な文献読解力、実験技術や解析、プレゼン能力を会得する。

【授業概要】 上記の目的を達成するために、下記の内容を行う。ゼミナール、外書購読、雑誌会、研究会、基礎的な実験技術 (initial training)

【先行科目】 『生命システムの基礎 II』 (1.0, ⇒285 頁)

【関連科目】 『生物化学』 (0.5, ⇒347 頁), 『比較生理生化学』 (0.5, ⇒345 頁)

【履修上の注意】 生命機能サブコース指定科目です。

【到達目標】 生物化学の研究に必要な知識や技術、能力を会得する。

【授業計画】 1. 1.ゼミナール (生物化学の基礎講義) 2. 2. 外書購読 (英文のテキストの読解, 要約) 3. 3. 雑誌会 (英文原著論文の読解, 発表, 討論) 4. 4. 研究会 (研究発表と討論) 5. 5. 基礎的な実験技術

【成績評価】 出席と発表内容により評価する。

【再試験】 無し

【教科書】

- ◇ Strayer [Biochemistry]
- ◇ ヴォート「基礎生化学」田宮ほか訳 (東京化学同人)

【参考書】 随時配布

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218759>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

生命機能セミナー

2 単位 3 年 (前期, 後期)
大橋 眞・教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218760>

【連絡先】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命機能特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
松尾 義則・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 卒業研究を進めていくのに必要な専門的知識、科学的な研究の進めかた、最新の情報等を得ることでさらに質の高い研究にレベルアップをはかる。

【授業概要】 卒業研究に必要な専門的知識、技術の習得

【到達目標】 文献などから卒業研究に関する専門的知識や最新の情報を得る。科学的な考え方も学ぶ。

【授業計画】 卒業研究の進行にともなって指導したり、学生にセミナー形式で文献を紹介してもらい、解説を加えたり、議論、討議を通して科学的な物の考え方を学んでもらう。

【成績評価】 文献などの紹介および研究に対する姿勢で評価

【再試験】 なし

【教科書】 最近のショウジョウバエのヒストン遺伝子などに関する学術論文および卒業研究に関する話題。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219372>

【連絡先】

⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもOK)

生命機能特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
真壁 和裕・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 原著論文による専門知識の獲得とプレゼンテーション能力とディスカッション能力の育成を目的とする。

【授業概要】 最新の発生物学の現状に関する知識を英語で書かれた原著論文から自力で得て、その内容を他人に分かりやすく伝えられるようになることとともに、研究発表を通して科学的な議論ができるようになることをめざす。

【キーワード】 発生物学、科学英語論文、プレゼンテーション、ディスカッション、プログレスレポート

【先行科目】 『生命機能セミナー』 (1.0, ⇒343 頁), 『細胞制御学』 (1.0, ⇒345 頁), 『発生物学』 (1.0)

【履修上の注意】 あらかじめ準備をしっかりとした上で臨むこと。

【到達目標】 発生物学の最新知識を原著論文から得て、科学的な議論ができるようになる。

【授業計画】 1. < ジャーナリズム > 卒業研究に関わる発生物学とその周辺領域における知見に関する文献を自らの力で検索読解しその内容を発表した上で、科学的な議論を行う。 2. < プログレスレポート > 卒業研究の進捗状況を報告し、科学的な議論を行う。

【成績評価】 論文内容の理解・発表・質疑応答の出来映えによる

【再試験】 なし

【教科書】

◇ 教材 原著論文

◇ 参考書 「上手なプレゼンテーションのコツ」 化学同人 (2,200 円)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219373>

【連絡先】

⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,) (オフィスアワー: 随時受け付けます。)

【備考】 研究室は総合科学部 1 号館北棟 2 階

生命機能特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
渡部 稔・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 自分の研究内容を正しく理解し、わかりやすく発表し質問に答える。他者から良質の批判を受けることで、その質問を研究内容にフィードバックさせ、質の高い研究を行なう。また関連分野の論文の紹介を行う。

【授業概要】 卒業研究のプログレスレポート、および関連論文の紹介。

【キーワード】 ジャーナリズムクラブ、プログレスレポート、プレゼンテーション

【先行科目】 『分子生物学』 (1.0, ⇒338 頁), 『代謝異常学』 (1.0, ⇒346 頁), 『生命機能セミナー』 (1.0, ⇒343 頁)

【履修上の注意】 毎回必ず出席して、積極的に質疑応答を行い、ミーティングに自らが参加すること。

【到達目標】 科学的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。

【授業計画】 毎回自分の研究内容の進捗報告、あるいは関連論文の紹介を行う。

【成績評価】 演習への取り組みの姿勢。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218761>

【連絡先】

⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命機能特別演習

4 単位 4 年 (前期, 後期)
佐藤 高則・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 生物化学の研究に必要な文献読解力、実験技術や解析、プレゼン能力を会得する。

【授業概要】 上記の目的を達成するために、下記の内容を行う。ゼミナール、外書購読、雑誌会、研究会、基礎的な実験技術 (initial training)

【先行科目】 『生物化学』 (1.0, ⇒347 頁)

【関連科目】 『比較生理生化学』 (0.5, ⇒345 頁)

【履修上の注意】 生命機能サブコース指定科目です。

【到達目標】 生物化学の研究に必要な知識や技術、能力を会得する。

【授業計画】 1. ゼミナール (生物化学の基礎講義) 2. 雑誌会 (英文原著論文の読解, 発表, 討論) 3. 研究会 (研究発表と討論) 4. 種々の実験技術の理解と会得

【成績評価】 出席と発表内容により評価する

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ Strayer [Biochemistry]
- ◇ ヴォート「基礎生化学」田宮ほか訳 (東京化学同人)

【参考書】 随時配布

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218762>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

生命機能特別演習

2 単位 4 年 (前期)
大橋 眞・教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218763>

【連絡先】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命機能特別演習

2 単位 4 年 (後期)
大橋 眞・教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218764>

【連絡先】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命機能実験 I

2 単位 3 年 (前期)
真壁 和裕・教授 / 社会創生学科, 松尾 義則・教授 / 社会創生学科
渡部 稔・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 生命体の持つ生理的機能に関する現象のうち基本的なものを、実験を通して体験的に確認するとともに、その実験方法を会得することを目的とする。生命機能を分子、細胞、器官、個体レベルで理解するために必要な実験手技を含めて実習をおこなう。

【授業概要】 生命科学実験の基礎、遺伝子クローニング、PCR 法、塩基配列決定など、遺伝子レベルでの実験手技を中心に扱う。また遺伝子情報処理をおこなうことにより、生命機能の遺伝子レベルでの基本的理解をめざす。

【キーワード】 分子生物学、遺伝子工学、インフォマティクス

【先行科目】 『比較生理生化学』(0.7, ⇒345 頁), 『分子遺伝学』(0.7, ⇒339 頁), 『分子生物学』(1.0, ⇒338 頁)

【関連科目】 『代謝異常学』(1.0, ⇒346 頁), 『細胞制御学』(0.5, ⇒345 頁), 『生物化学』(0.7, ⇒347 頁)

【履修上の注意】 必ず出席して自分で行うことが大切であり、十分な内容のレポートを作成するために、文献等の調査をすることが重要である。

【到達目標】 生命科学の基礎的知識を整理し、生命科学を扱うための実験技術を修得する。また遺伝子を扱った基本的な実験手技を学び、遺伝子の性状、構造、機能の基礎的理解をめざす。また、遺伝子情報や、実験データの取り扱いの基礎的知識を身につける。

【授業計画】 1. イントロダクション 真壁・組換え DNA 講習会 2. 試薬の調製 松尾 3. ゲノム DNA の抽出 松尾 4. ゲノミック PCR 法 松尾 5. DNA のアガロース電気泳動と TA クローニング 松尾 6. コンピテントセルの作製と形質転換 松尾 7. マスタープレートによる作製とコロニー PCR 真壁 8. プラスミド DNA のアルカリ法による調製 真壁 9. 制限酵素によるプラスミドの切断 真壁 10. プラスミド DNA のシークエンシング 真壁 11. 計算機を使った塩基配列データの解析 真壁 12. RNA の抽出と電気泳動 渡部 13. RT-PCR 法 渡部 14. RT-PCR による遺伝子発現の定量 渡部 15. ルシフェラーゼアッセイによるプロモーター解析 渡部 16. 総括授業

【成績評価】 実験態度と、提出されたレポートによる。

【再試験】 行わない。欠席者の再実験も行わない。

【教科書】

- ◇ テキストを配付する。
- ◇ 参考書 「超実践バイオ実験イラストレイテッド レッスン 1・2」 秀潤社 (各 3,800 円)
- ◇ 参考書 「最適な実験を行うためのバイオ実験の原理」 羊土社 (3,800 円)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219370>

【連絡先】

- ⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,) (オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい。)
- ⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい。)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい。)

【備考】 この科目は、新カリの「環境共生実験」を履修することで読替えます。

生命機能実験 II 2 単位 3 年 (後期)

Practice on functional aspects of organisms

大橋 眞・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】 生命体の持つ生理的機能を解明するための基礎実験を通して、実験手法の体得と、その意味の理解を体験を通じておこなう。また、結果をまとめ、発表する方法について十分に習熟させることも目的とする。生命機能実験 II では、蛋白質、細胞レベルでの生命現象の理解に必要な実験手技やその機構を理解する。

【授業概要】 生命機能に関する比較的高度な実験。

【キーワード】 生命, 機能, タンパク質, 構造, 細胞

【先行科目】 『生命機能実験 I』(1.0, ⇒344 頁), 『生命機能セミナー』(1.0, ⇒343 頁), 『生物化学』(1.0, ⇒347 頁)

【関連科目】 『細胞制御学』(0.5, ⇒345 頁), 『代謝異常学』(0.5, ⇒346 頁), 『生物化学』(0.5, ⇒347 頁)

【履修上の注意】 必ず出席し、自分で行うことが大切であり、十分な内容のレポートを作成、提出するために、文献等の調査をすることが重要である。

【到達目標】 生体材料や細胞の取り扱いや、細胞培養の基礎的技術を身につける。細胞の基本的な機能についての知識を確かなものにする。また、蛋白質の機能や構造を調べる方法について基礎的な理解をする。さらに酵素や細胞の機能についての理解を深める。

【授業計画】 1. 大腸菌でのタンパク質の発現と精製 (渡部) 2. タンパク質の SDS 電気泳動と染色 (渡部) 3. タンパク質のウエスタンブロットング解析 (渡部) 4. 細胞の機能 1 5. 細胞の機能 2 6. タンパク質解析法 1 (佐藤) 7. タンパク質解析法 2 (佐藤) 8. 酵素活性測定法 1 (佐藤) 9. 酵素活性測定法 2 (佐藤) 10. タンパク質の構造と機能 1 (佐藤) 11. タンパク質の構造と機能 2 (佐藤) 12. 節足動物の構

造と機能 (大橋) 13. マウスの体の構造と機能 (大橋) 14. 組織学 1 (臓器の観察) (大橋) 15. 組織学 2 (組織の構造) (大橋)

【成績評価】 実験態度と、提出されたレポートによる。

【再試験】 行わない。欠席者の再実験も行わない。

【教科書】

- ◇ 実習手引き書を配布予定
- ◇ 実験テーマによってはプリントを配布し、使用する。
- ◇ 参考書は随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219371>

【連絡先】

- ⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい。)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい。)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較生理生化学 2 単位 2 年 (前期, 集中)

松尾 義則・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 地球上には、我々人間も含め、多岐多様にわたる生物が存在する。細菌から高等真核生物にいたるまで、生命活動に必要なシステムは共通のものもあれば、その生物に特異的なものもある。この講義では種々の観点に基づき、生物間の個体、細胞レベルから分子レベルまでを比較した時に見られる統一性と多様性について述べる。

【授業概要】 生命システムにおける生物間の統一性と多様性

【キーワード】 遺伝子, 細胞, タンパク質, 進化

【先行科目】 『生命システムの基礎 I』(1.0, ⇒285 頁), 『生命システムの基礎 II』(1.0, ⇒285 頁)

【関連科目】 『生物化学』(1.0, ⇒347 頁), 『適応進化学』(0.5, ⇒346 頁)

【履修上の注意】 生命・環境コース (生命機能サブコース・生命環境サブコース) のサブコース指定科目です。

【到達目標】

1. 生物間の細胞の構造, 分裂, 遺伝などの相違が理解できる。
2. 生物間の分子レベル (核酸, タンパク質, 脂質, 糖質など) の相違が理解できる。

【授業計画】 1. 生命の起源 (松尾) 2. 1. いつ生命は生じたのか? (松尾) 3. 2. 生命はどのように地球上に生じたか? (松尾) 4. 全生物の共通の祖先と全生物の系統樹 (松尾) 5. 1. 初期進化の歴史をたどる (松尾) 6. 2. 普遍的相同性, 全生物の系統樹 (松尾)

【成績評価】 各担当教員の小テストもしくは課題, 試験により評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 『進化』分子・個体・生態系 (メディカルサイエンスインターナショナル)

【WEB 頁】 <http://www.evolution-textbook.org>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219309>

【連絡先】

- ⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

【備考】 隔年開講:23 年度は開講。

細胞制御学 2 単位 3 年 (前期)

Genetic Engineering 真壁 和裕・教授/社会創生学科

【授業目的】 主に哺乳類を中心いくつかのモデル生物で見られる代表的な発生・再生などの現象を分子の言葉で理解し、さらにその医学的産業的応用的側面について考えることを主な目的とする。

【授業概要】 コース共通科目の「発生学」の知識を前提に、発生過程で大きな役割を果たす遺伝子カスケードやシグナル伝達系の働き方を学び、個体を形成する際の細胞の振る舞いとその分子メカニズムの基礎を理解して、現在発生生物学の研究手法とそれによって明らかにされた発生現象の分子メカニズムおよびその応用を学ぶ。

【キーワード】 哺乳類, 転写カスケード, シグナル伝達, 遺伝子導入, 医学的展望

【先行科目】 『細胞情報学 II』(0.7, ⇒348 頁), 『発生学』(1.0), 『分子生物学』(1.0, ⇒338 頁)

【関連科目】 『代謝異常学』(0.7, ⇒346 頁), 『適応進化学』(0.5, ⇒346 頁)

【履修上の注意】 毎回異なるトピックスを取り上げて解説する形式です。講義プリントは当日の出席者にしか配りません (遅刻欠席しないこと)。内容を暗記する必要はありませんが、講義は集中して聴いていないと理解できません (喋ったり寝たりしないこと)。

【到達目標】 動物の体ができる際の複雑で巧妙かつ巧妙なくみがどのような分子機構によって支えられているかを理解し、発生現象の分子メカニズムを他人に説明できるようになること。

【授業計画】1. 発生過程を支配する分子群 その(1)転写因子 2. 発生過程を支配する分子群 その(2)核内レセプター 3. 発生過程を支配する分子群 その(3)EGFシグナル伝達経路 4. 発生過程を支配する分子群 その(4)Notchシグナル伝達経路 5. 現代生物学の研究手法 その(1)細胞レベル 6. 現代生物学の研究手法 その(2)遺伝子レベル 7. 配偶子形成と受精 8. 哺乳類の発生 9. 性決定と性分化 10. 脊椎動物の中樞神経系の発生 11. 神経提細胞 12. 変態と成虫原基 13. 再生と幹細胞 14. 環境と発生 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】学期末の試験の成績のみ(配布プリントと自筆ノートの持ち込み可).

【再試験】なし

【教科書】

- ◇教科書は指定せずに、毎回プリントを配布する。
- ◇参考書「ウィルト 発生生物学」東京化学同人(5,200円)
- ◇参考書「発生遺伝学」東京大学出版会(3,400円)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219409>

【連絡先】

⇒真壁(N3220, 088-656-7269,) (オフィスアワー: 特別に設定せず発展的な質問などは随時受け付けます。ただし講義内容そのものについての単純な質問は可能な限り講義内の質疑応答の際にしてください。)

【備考】本年度開講せず

適応進化学

2単位 3年(後期)
松尾 義則・教授/社会創生学科

【授業目的】生物の適応進化を理解するために必要な知識を習得することを目的とする。遺伝学と生物の進化の関係を示し、生物進化の素材である遺伝的変異、原動力である自然選択、移住、浮動について解説する。

【授業概要】生物の適応進化と遺伝学

【キーワード】進化遺伝、集団遺伝、分子進化

【先行科目】『分子遺伝学』(1.0, ⇒339頁)

【関連科目】『集団生物学』(0.8, ⇒348頁), 『系統分類学II(分子生態学)』(0.8, ⇒346頁), 『環境適応学II』(0.6)

【到達目標】生物の進化の仕組みを理解する。

【授業計画】1. 突然変異と組み換えによる多様性の創出 2. 1. 突然変異とその生成機構 3. 2. 突然変異の修正 4. 3. 突然変異率と突然変異のパターン 5. 4. 多様性の創出 6. DNAとタンパク質の変異 7. 1. 遺伝的な変異 8. 2. 変異の種類 9. 機会的遺伝的浮動 10. 1. 機会的な過程 11. 2. 対立遺伝子頻度の機会的な浮動 12. 3. コアレッセンス 13. 4. 中立説 14. 5. 組み換えと遺伝的浮動 15. 期末テスト 16. 総括授業

【成績評価】時々小テストを行い、本試験と合わせて評価する。

【再試験】なし

【教科書】

- ◇教科書:「進化」分子・個体・生態系 メディカルサイエンスインターナショナル
- ◇参考書 タマリン 遺伝学 上巻 培風館
- ◇参考書 クロー著「遺伝学概説」(第8版)培風館 2, 266円
- ◇参考書 ワトソン著「遺伝子の分子生物学」東京化学同人
- ◇参考書 アルバート著「細胞の分子生物学」(第3版)Garland

【WEB頁】<http://www.evolution-textbook.org>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219473>

【連絡先】

⇒松尾(適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に指定しない。いつでもOK。)

代謝異常学

2単位 3年(前期)
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】生物の誕生から死の間に起こるさまざまな現象のうち、特に今日的なトピックを取り上げ、それらの現象とその分子メカニズムについて理解する。

【授業概要】細胞内での遺伝情報の流れを概説し、細胞の情報伝達と機能調節について説明する。それらの内容を踏まえ、個体の機能維持と調節の異常(老化、ガンなど)の分子メカニズムについて概説する。

【キーワード】遺伝子, DNA, シグナル伝達, 転写調節, 高次生命現象

【先行科目】『分子生物学』(1.0, ⇒338頁), 『分子遺伝学』(0.5, ⇒339頁), 『発生学』(0.5, ⇒340頁)

【関連科目】『生物化学』(1.0, ⇒347頁), 『適応進化学』(0.5, ⇒346頁), 『細胞制御学』(0.5, ⇒345頁)

【履修上の注意】基本的な生物学の知識を持っていることが必要である。

【到達目標】高次生命現象の分子メカニズムを理解する。

【授業計画】1. (1)DNAと核の基本構造 I(DNA) 2. (2)DNAと核の基本構造 II(核) 3. (3)複製・転写・翻訳のメカニズム I(複製) 4. (4)複製・転写・翻訳のメカニズム II(転写) 5. (5)複製・転写・翻訳のメカニズム III(翻訳) 6. (6)遺伝子発現の調節機構 I(原核生物) 7. (7)遺伝子発現の調節機構 II(真核生物) 8. (8)細胞内シグナル伝達系 I(受容体) 9. (9)細胞内シグナル伝達系 II(リガンド) 10. (10)細胞周期の調節 11. (11)インプリンティング 12. (12)ガン遺伝子とガン化のメカニズム 13. (13)老化のメカニズム 14. (14)幹細胞と再生医療 15. (15)総括授業 16. (16)学期末テスト

【成績評価】小テストと学期末テスト

【再試験】再テスト有

【教科書】「分子生物学講義中継 Part 1-3」(井出利憲著, 羊土社), 授業に必要な部分はプリントで配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218770>

【連絡先】

⇒渡部(088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日12:00-13:00(総合科学部1号館北棟2階3211室))

細胞機能学

2単位 3年(前期, 集中)
真壁 和裕・教授/社会創生学科, 渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】細胞の分裂・増殖のメカニズムについて理解する。また動物の初期発生における細胞分裂や、細胞分裂の研究に対する遺伝学的な方法論を学ぶ。

【授業概要】細胞の分裂・増殖と高次生命現象。

【キーワード】細胞周期, 減数分裂, 体細胞分裂

【先行科目】『発生学』(1.0), 『分子生物学』(1.0)

【関連科目】『細胞制御学』(0.5, ⇒345頁), 『代謝異常学』(0.5, ⇒346頁)

【到達目標】細胞周期の調節機構を理解する。

【授業計画】1. 1. 細胞と細胞周期 (1)細胞の基本的特性 2. (2)細胞周期の基本的特性 3. (3)細胞周期へのアプローチ 4. 2. 初期胚の細胞周期 (1)胚の細胞周期 5. (2)細胞周期エンジン1 6. (2)細胞周期エンジン2 7. 3. 細胞周期の遺伝学的解析 (1)細胞分裂周期変異株 8. (2)スタート1 9. (2)スタート2 10. 4. 分裂期を制御する酵素 (1)分裂酵母における細胞分裂の制御1 11. (1)分裂酵母における細胞分裂の制御2 12. (2)細胞周期エンジンの普遍性 13. (3)サイクリンと細胞周期 14. (4)細胞分裂の翻訳後修飾 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】期末テストの成績で評価する。

【再試験】行わない

【教科書】適宜プリントを配布する。

【参考書】細胞の分子生物学(中村桂子, 松原謙一監訳, ニュートンプレス)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219412>

【連絡先】

⇒真壁(N3220, 088-656-7269,)
⇒渡部(088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】本年度開講せず

系統分類学II(分子生態学)

Molecular Ecology 2単位 3年(前期)
山城 考・准教授/社会創生学科

【授業目的】近年の分子生物学の発展に伴い、野生生物集団の生態学的、進化学的解析に遺伝的マーカーを用いた研究が行われるようになった。本講義では、遺伝的情報を用いて、野生生物の生態学および進化学的研究がどのように行われているかについて解説を行い、野生生物の保全について関心を高めることを目的としている。

【授業概要】遺伝的マーカーの種類、また、遺伝的マーカーを用いて、野生生物集団の生態、進化、地理的構造についてどのような情報が得られるのかについて解説を行う。また、保全遺伝学についても解説をおこなう。

【キーワード】分子生物学, 遺伝子マーカー, 繁殖様式, 生物地理学, 分子系統学

【履修上の注意】最初の講義の時に示します。

【到達目標】遺伝子マーカーを用いた野生生物の生態学的解析にどのような手法があるのかを理解させ、生物の保全に対する関心を高める。

【授業計画】1. 生態学における遺伝学 2. 遺伝様式と遺伝子マーカー 3. 集団の遺伝的多様性 4. 遺伝子流動と遺伝的浮動 5. 集団間の遺伝的分化 6. 生物系統地理1(大陸における種分化) 7. 生物系統地理2(海洋島における適応放散) 8. 系統解析の手法 9. 倍数性のある種の進化 10. 種間交雑 11. 行動・繁殖への遺伝子マーカーの利用 12. 保全遺伝学1 13. 保全遺伝学2 14. 遺伝子組替え生物の生態系への影響 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】期末試験, 出席および受講態度。

【再試験】なし。

【教科書】プリントを配付します。
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219408>
【連絡先】
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

生物化学

2 単位 2 年 (後期)
佐藤 高則・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】生体を構成する生体高分子 (タンパク質・脂質・糖質など) に焦点を当て、その化学構造など基礎的な事項から、それらの生体内における機能や分析法までの総合的な理解を目的とする。

【授業概要】生命現象の理解には、生命を構成する分子レベルでの理解が不可欠である。ここでは、生体を構成する脂質、糖質、タンパク質に焦点を当て、これらの基本的な構造と機能を理解すると共に、生化学的手法による検出・分析法についても講義を行う。

【キーワード】タンパク質, 酵素, 脂質, 糖質, 分析法

【先行科目】『比較生化学』(1.0, ⇒345 頁)

【関連科目】『生体物質化学』(0.5, ⇒350 頁)

【履修上の注意】生命・環境コース (生命機能サブコース・生命環境サブコース)、物質・環境コース (化学系サブコース) のサブコース指定科目です。平成 23 年度以降は後期に「生化学」として開講します。

【到達目標】

1. 糖質・脂質・タンパク質の基本的な構造と機能が理解できる。
2. 糖質・脂質・タンパク質の分析法が理解できる。

【授業計画】1. シラバス・評価方法の説明 2. アミノ酸の構造と機能, 分析法 3. タンパク質の構造 (一次-四次構造) 4. タンパク質の機能と分離法 5. タンパク質の構造解析法 (1) 6. タンパク質の構造解析法 (2) 7. 酵素の分類と性質 (1) 8. 酵素の分類と性質 (2) 9. タンパク質工学・酵素工学 10. 単糖の化学的性質と反応・分析法 11. 単糖と多糖類の構造と機能 12. 脂肪酸と脂質の基本構造 13. 脂肪酸と脂質の反応・分析法 14. 生体膜の構造と機能 15. 定期試験 16. 総括授業

【成績評価】毎週の講義のまとめとして、課題を出席者に渡します。次の講義の時に提出していただき、平均を平常点とします (6 割)。定期試験 (4 割) とあわせて評価します。

【再試験】試験細則に準拠し、受験資格のあるもののみ再試験を行います

【教科書】ヴォート「基礎生化学」(第 3 版) 田宮ほか訳 (東京化学同人)

【参考書】

- ◇ Alberts ほか, 中村桂子訳「Essential 細胞生物学」(南江堂)
- ◇ 石黒伊三雄監修「わかりやすい生化学」(第 3 版)(廣川書店) などから、適宜プリントを配布する
- ◇ 配布したパワーポイント資料、および実施済み課題は、下記 web からダウンロードできます。

【WEB 頁】<http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219384>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に指定しない、いつでもよい。研究室: 三号館三階北棟生物化学研究室, e-mail tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境物質影響学

2 単位 3 年 (後期)
金丸 芳・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】我々は種々のストレスが多い環境下での生命維持を余儀なくされています。そのため、疾病予防や健康維持の方法を自ら選ぶ時代となっています。また、動植物に含まれる物質には、生体の恒常性維持や生体防御や生理機能調節に関与する生体調節機能を有しています。すなわち、健康寿命の延長 (疾病予防や健康維持や老化防止) を期待して、生体物質を摂取することが可能です。そのために、種々の生体物質とその生体調節機能を正しく理解し、正しく利用することが必須となります。そこで、種々の生体物質について、その機能と生体に及ぼす影響を概説します。

【授業概要】疾病予防や健康維持のための生体調節機能を有する生体物質についての生命科学的知識

【キーワード】健康維持, 生体の恒常性, 生体物質, 生体調節機能

【関連科目】『細胞機能学』(0.0, ⇒346 頁), 『機能物質作用学』(0.0, ⇒347 頁), 『細胞情報学 II』(0.0, ⇒348 頁)

【到達目標】生体調節機能を有する環境物質とその作用機序を理解、健康維持について考える。

【授業計画】1. 健康の阻害と維持 2. 生命と栄養素 3. 生体の恒常性 4. 食習慣と健康 5. 糖質の機能 6. 脂質の機能 7. タンパク質の機能 8. ビタミンの機能 9. ミネラルの機能 10. 生体調節機能 11. 非栄養成分の機能 12. 非栄養成分の機能 13. 酸素の機能 14. 疾病予防と生体物質 15. テスト

【成績評価】期末のテストを中心に、小テストと出席状況を加味して評価します。

【再試験】行ないません。

【教科書】教科書は使用しません。プリントを適宜配布します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219358>

【連絡先】

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。研究室は総合科学部3号館3階北棟生命科学系です。)

活性物質生理学

Bioactive Substance Physiology 2 単位 3 年 (後期)

中川 秀幸・教授 / 社会創生学科

【授業目的】生物が代謝・産生する物質の中には特徴的な生理活性を有するものがあり、生命現象の謎に迫るツールとして、また天然資源として有用である。生物の体の基本的な構成単位は細胞であり、細胞間の認識や情報伝達など、細胞間の相互作用の解析は生体の恒常性維持において重要な課題である。多様な生理活性物質の産生経路やそれらの生体における作用様式を理解することは、生命活動の巧妙さやその不可思議を考える機会になるものと思われる。

【授業概要】生体の生命活動を支えている細胞、あるいは細胞が集合した組織などの機能に及ぼす生体物質や生理活性物質の作用と、それらの産生プロセスを解説する。また、生体恒常性の仕組みを解説する。

【キーワード】細胞, 生体恒常性, 生理活性物質, 神経伝達物質, ホルモン, 炎症, 傍分泌, 内分泌, 自律神経系, 毒から薬

【先行科目】『生物化学』(1.0, ⇒347 頁), 『機能物質作用学』(1.0, ⇒347 頁)

【関連科目】『生体物質化学』(0.5, ⇒350 頁), 『細胞情報学 II』(0.5, ⇒348 頁)

【履修上の注意】資料はファイルし、整理することが望ましい。

【到達目標】生体で代謝・産生される物質あるいは天然物由来の物質の生体に対する特徴的な作用様式を理解する。また、生体は環境の変化に対応し、活性物質を産生する一大製薬工場であることを理解させる。

【授業計画】1. 細胞は生命の泉 (1) 2. 細胞は生命の泉 (2) 3. 生理活性物質とは 4. 生理活性物質と生体機能 (1) 5. 生理活性物質と生体機能 (2) 6. 生理活性物質と生体機能 (3) 7. 生物がつくる毒 (1) 8. 生物がつくる毒 (2) 9. 毒と薬の違い (1) 10. 毒と薬の違い (2) 11. 天然毒から薬へ 12. 海洋生物と薬 (1) 13. 海洋生物と薬 (2) 14. いまの薬 15. プレゼンテーションと課題 16. 総括授業

【成績評価】授業が進んだ段階で、各自がプレゼンテーションし、互いに質疑を行う。プレゼンとレポートの提出で総合評価を行う。

【再試験】行う。

【教科書】くすり (吉川弘之他) 東京大学出版会 2472 円。適宜、プリントを配付します。

【参考書】

- ◇ ドラッグは世界をいかに変えたか (デヴェッド・T・コートライト著) 春秋社 2500 円
- ◇ 毒と薬の科学: 毒から見た薬・薬から見た毒 (船山信次著) 朝倉書店 3800 円
- ◇ Molecules and Medicine (Wiley-Interscience)

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/lablist.html>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218484>

【連絡先】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室中はいつでも。連絡先 E-mail: sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp)

機能物質作用学

2 単位 2 年 (後期)
横井川 久己男・教授 / 社会創生学科

【授業目的】多種多様な化学反応の組合せにより発現する生命現象において、酵素は生体触媒としてきわめて重要な役割を果たしている。本講義では、機能性タンパク質としての酵素と、酵素活性の発現に影響をおよぼす種々の生理活性物質の機能を解説する。

【授業概要】酵素の機能を分子レベルで理解する。

【キーワード】酵素反応速度論, 反応機構, 機能性物質

【先行科目】『生命システムの基礎 I』(1.0, ⇒285 頁)

【履修上の注意】授業で学んだことを、必ず復習すること。

【到達目標】種々の酵素の構造と機能を学び、それらの活性制御機構を分子レベルで理解する。

【授業計画】1. 酵素の歴史 2. 酵素の種類と分類 3. 酵素反応の速度論 4. 酵素反応の熱力学 5. 酵素阻害剤 1-拮抗阻害, 非拮抗阻害, 不拮抗阻害 6. 酵素阻害剤 2-特殊な阻害形式 7. 機能性物質の酵素的合成 8. 酵素活性の調節 1-転写レベルと翻訳レベルの調節 9. 酵素活性の調節 2-翻訳後の調節 10. 補酵素の構造と機能 1-酸化還元反応等 11. 補酵素の構造と機能 2-アミノ基転移反応等 12. 酵素反応の機構 1-反応機構からの解明 13. 酵素反応の機構 2-高次構造からの解明 14. 酵素の産業利用 15. 総括授業 16. 試験

【成績評価】 授業への取り組み態度 (50%) と筆記試験 (50%) により評価する
 【再試験】 なし。
 【教科書】 新・入門酵素化学 改訂第 2 版 (南江堂)。
 【参考書】 毎回の講義でプリントを配布する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219305>
 【連絡先】
 ⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
 (オフィスアワー: 月曜日16:20-17:50)

環境適応学 II

2 単位 2 年 (前期, 集中)
 佐藤 征弥・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 徳島の自然環境と野生生物について理解を深める。
 【授業概要】 野外調査を通じて、徳島でみられる野生生物の生態について理解する
 【履修上の注意】 この授業は、昨年度まで「佐那河内いきものふれあいの里」の自然観察員の方 3 名を講師に迎えて実施してきましたが、新カリに移行にあたり、今年度からは同様の形での実施はできなくなりました。やむを得ない事情がない限りは、開講しない予定です。
 【到達目標】 徳島の野生生物と自然環境について理解を深める。
 【授業計画】 吉野川での野鳥や干潟生物の観察、眉山の自然環境の調査などのフィールドワークを行なう。
 【成績評価】 レポート課題により評価する
 【再試験】 なし
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219493>
 【連絡先】
 ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義に関する質問は佐藤(征)が受け付けます。研究室にいる時にはいつでもOK.)

環境生理学

2 単位 3 年 (後期)
 佐藤 征弥・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 我々は、ともすると他の生物を人間的視点 (あるいは高等動物的視点) から見てしまいがちである。しかし当然ではあるが、地球上のほとんどの生物同士の相互作用や生物と環境の相互作用は、人間とは無関係に進化してきたものであり、我々の想像を超えるような独自の精巧なシステムが構築されている。それらのメカニズムを理解した上で、人間が他の生物をどのように利用しているのか、それがどのような影響を与えるのか等、人間が他の生物といかに関わるべきかについて解説する。
 【授業概要】 生物、環境、社会
 【キーワード】 光合成、物理環境、公害、解毒、環境適応、生物浄化法
 【履修上の注意】 なし。
 【到達目標】 前半の講義では、植物や動物の生理がどのように環境と関わっているかを理解し、後半の講義では種特有の機能を環境浄化に活かす方法を理解する。
 【授業計画】 1. 地球全体における光合成の意味 2. 光合成のメカニズム 3. 外部環境に対する認識メカニズム 1: 感覚、知覚とは? 4. 外部環境に対する認識メカニズム 2: 眼の構造と機能 5. 外部環境に対する認識メカニズム 3: 視覚の進化 6. 外部環境に対する認識メカニズム 4: 視覚以外の感覚について 7. 熱と温度 1: 熱とは何か。熱の伝わりかた 8. 熱と温度 2: 低温に対する適応について 9. 熱と温度 3: 生物の体温調節メカニズムについて 10. 重金属と生物 1: 重金属の性質と解毒メカニズム 11. 重金属と生物 2: 水俣病について 12. 重金属と生物 3: イタイイタイ病について 13. 重金属と生物 4: その他の重金属の毒性について 14. バイオレメディエーション (生物による環境浄化) とは 15. バイオレメディエーションによる水質浄化 16. 総括授業
 【成績評価】 数回の小テストにより評価する (ノート、資料の持ち込み禁止)。
 【再試験】 行わない。
 【教科書】 講義の際に随時紹介する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219494>
 【連絡先】
 ⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK.)

細胞情報学 II

2 単位 3 年 (前期)
 小山 保夫・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 (1) 細胞情報学 I で得た知識を活用して、細胞のシグナル伝達に関する最近の知見を読み、さらに知識を深める。ついでに、それらの知識をどのように利用したら、化学物質の作用影響解析に役立つか、講義する。(2) 化学物質の総数は二千万種類を超えてる。私た

ちが商業的に入手できる化学物質の数も十萬種類程度はある。ところが、個々の化学物質の毒性について十分に検討されているわけではない。そこで、この講義では細胞の基本的な機能、生存 (増殖) と死などに焦点を当て、それらに化学物質がどのような影響を与える可能性があるのか、幅広く解説を行う。ただし、研究者は過剰な可能性を主張する場合がありますので、どのような研究が役立つかも講義する。(3) とにかく、エッセンシャル細胞生物学の知識を活用できるように講義する。

【授業概要】 細胞に対する化学物質 (環境汚染物質、医薬品、生物毒など幅広く含む) の影響、それによる細胞生理機能変化を講義し、それらの知識を利用できるようにする。
 【キーワード】 化学物質、影響評価
 【履修上の注意】 細胞情報学 I を受講していることが望ましいが、基礎から講義するので、理解できる。
 【到達目標】

1. 細胞のシグナル伝達に関係する最近の知見に自由にアクセスし、自分で知識を深めていくことができるようにする。
 2. 化学物質が有している毒性を細胞レベルで理解できるようにする。
- 【授業計画】 1. 細胞のシグナル伝達についての知識を深める。各種の受容体と細胞内シグナル伝達についての研究に接してみよう。 2. エッセンシャル細胞生物学の知識を活かして、研究を読み解こう (緒言)。
 3. エッセンシャル細胞生物学の知識を活かして、研究を読み解こう (方法)。 4. エッセンシャル細胞生物学の知識を活かして、研究を読み解こう (結果)。 5. エッセンシャル細胞生物学の知識を活かして、研究を読み解こう (考察)。 6. 「化学物質の細胞レベルでの影響評価」についての知識を深める。 7. 細胞毒性について 8. 細胞死の種類とそのメカニズムについて 9. 細胞増殖への影響について 10. 細胞レベルでの影響から臓器・個体レベルの影響を推定することについて 11. 臓器レベルの影響について 12. 個体レベルの影響について 13. 身近な環境汚染物質としてのカドミウム、鉛、水銀、ヒ素の影響について 14. 日常生活の中の化学物質の影響について 15. 細胞レベルの知識の応用と限界について 16. 進路と必要な知識について

【成績評価】 学生便覧の試験細則に準拠する。しかし、得点が低い場合には「出席」と「小テスト」の結果を加味する。

【再試験】 なし。
 【教科書】 用語の意味などはエッセンシャル細胞生物学で十分に対応できる。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219411>
 【連絡先】
 ⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp)
 (オフィスアワー: 特に設定しないが、学生の研究指導の都合上、午後3時~午後4時30分が望ましい。)

集団生物学

2 単位 3 年 (前期)
 山城 考・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 生物群集の構成種間に存在する様々な関係と、それらに関わる法則を学び、更に種間関係に基づいて生物群集の示す現象を理解する。

【授業概要】 全ての種は他の種に依存しながら生活しているために、多くの種が集まって生物群集を構成している。この講義では、まず生物群集の構成種間の関係とそれらに関わる法則を、相互依存、競争、寄生、捕食に重点を置いて解説し、次いで種間関係を踏まえて生物の生息種類数の決定機構、食物連鎖を通じてのエネルギーの流れ、生物群集の遷移機構について考察する。

【キーワード】 生物群集、種間関係、相互依存、種間競争、捕食

【関連科目】 『環境適応学 II』 (0.2)
 【履修上の注意】 まめにノートをとってれば、試験勉強の時に楽であるし、良い成績も期待できます。

【到達目標】 野外に出た時に、眼にとまった生物の種間関係が想像できる程度の知識と洞察力を養う。

【授業計画】 1. 序論 2. 1. 種間関係の分類 3. 2. 相互依存 4. 3. 競争 5. (1) 植物の競争 6. (2) 動物の競争 7. (3) 動物の競争緩和をもたらした進化 8. 4. 寄生 9. 5. 捕食 10. (1) 植食動物と植物の共存 11. (2) 捕食者と被食者の共存 12. (3) 捕食者の機能 13. 6. 生物の生息種類数 14. 7. 食物連鎖を通じてのエネルギーの流れ 15. 8. 生物群集の遷移 16. (1) 原理 17. (2) 陸上生物群集 18. (3) 湖沼生物群集 19. 総括授業

【成績評価】 期末試験と宿題に基づいて成績を評価するが、出席状況も考慮することがある。

【再試験】 行う。
 【教科書】 資料を配布する。
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219480>
 【連絡先】
 ⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

熱・統計力学 I

2 単位 2 年 (後期)
真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】熱力学は、熱現象と力学現象とが相互に関係する分野をエネルギーという共通の立場から見直し、エネルギーの流れが関係する全ての現象を理解する際の基礎となっている。また、物質の熱的性質が圧力、体積、温度などの少数のマクロな物理量によって表されることを学び、系がどのように外界と熱的エネルギーを交換し、仕事をすることを理解する。熱力学では少数の法則を公理として、これからエネルギー授受に伴う状態変化の際のマクロな物理量の間の多くの関係式が導かれ、マクロな世界の熱が関与する現象が理解できる。しかし、物質のミクロな構造にまで立ち入った場合、原子および分子の運動を古典力学によって記述していたのでは熱現象を完全には説明できず、古典的な現象論の限界を知る。講義では、まずマクロな現象論の熱力学を学び、次にミクロな観点から熱現象をとらえる気体分子運動論、統計力学序論と進み、統計力学への橋渡しをする。

【授業概要】熱力学と統計力学序論

【キーワード】カルノーサイクル、熱力学第 1 法則、熱力学第 2 法則、熱力学的絶対温度、エントロピー増大則

【先行科目】『物質科学の基礎 I』(1.0)、『物質科学の基礎 II』(1.0、⇒285 頁)、『力学』(1.0、⇒309 頁)

【関連科目】『熱・統計力学 II』(0.5、⇒316 頁)、『熱統計力学・量子力学演習』(0.5、⇒318 頁)、『分子物理化学 I』(0.5、⇒349 頁)

【履修上の注意】「力学」などの 1, 2 年時の物理系科目の既修を前提とする。ノートとレポート用紙を用意すること。

【到達目標】熱力学の法則により、マクロな世界の熱現象を理解する。

【授業計画】1. 導入:熱現象と熱力学 2. 温度、熱、仕事、エネルギー 3. 理想気体、状態量と状態方程式 4. 熱の移動、熱伝導、冷却の法則 5. 熱力学第 1 法則、内部エネルギー 6. 理想気体の等温過程と断熱過程 7. カルノーサイクル、熱機関の効率 8. 中間試験 9. 熱力学第 2 法則、不可逆過程 10. 熱力学温度、クラウジウスの不等式 11. エントロピー増大の法則 12. 熱力学関数と自由エネルギー 13. 気体分子運動論、エネルギー等分配則 14. 速度の分布則 15. 学期末試験 16. 総括授業

【成績評価】出席状況、レポート、中間および期末試験の結果について、総合的に評価する。

【再試験】希望があれば行う。

【教科書】国友正和著「基礎熱力学」(共立出版)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219328>

【連絡先】

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時 ~ 13時(これ以外に随時、教員室に居ればできるだけ対応します。))

物理数学

2 単位 2 年 (後期, 集中)
小山 晋之・教授/総合理数学科

【授業目的】「力学」「電磁気学」「熱力学」などの基礎科目で学んでいる物理学や数学がどのように専門科目で活かされるかを、数学的な観点から統一的に捉え、数学の実用性に着目し、一定レベルの数学の理工学への応用力を身につける。他の物理学や専門の授業の数学的な面からの助けになることを目指している。

【授業概要】物理学で使う数学入門と理工学への簡単な応用

【キーワード】物理学のための数学、物理数学の基礎

【先行科目】『力学』(1.0、⇒309 頁)、『電磁気学 I』(1.0、⇒309 頁)、『熱・統計力学 I』(1.0、⇒349 頁)

【関連科目】『量子力学 I』(0.5、⇒299 頁)、『熱・統計力学 II』(0.5、⇒316 頁)

【履修上の注意】高校の数学程度を予備知識として持っていれば十分です。今までの物理や他の授業の中で、疑問に残っている数学的な事柄を具体的にレポート形式で提出してもらい、この授業の中でできるだけ丁寧に解説していく予定です。

【到達目標】基礎的な専門科目(学科共通科目やコース共通科目など)で学んでいる物理学がどのように専門科目で活かされるかを、数学的な観点から統一的に捉え、数学の実用性に着目し、一定レベルの数学の理工学への応用力を身につける。

【授業計画】1. ベクトルと座標系 (1):ベクトルの定義/ベクトルの和、内積、外積/ベクトルの座標表示 2. ベクトルと座標系 (2):ベクトルの座標表示/理工学における応用 3. 微分 (1):差分と微分/基礎的な微分の公式/運動方程式 4. 微分 (2):運動方程式/テイラー展開/数値微分/理工学における応用 5. 微分 (3):運動方程式/偏微分と全微分/理工学における応用 6. 積分 (1):基礎的な不定積分の公式/微小要素からの寄与/微小要素の座標変換 7. 積分 (2):微小要素の座標変換/剛体回転する物体の運動エネルギー/理工学における応用 8. 積分 (3):ポテンシャル・エネルギー/数値積分/理工学における応用 9. 微分方程式 (1):力学で現れる簡単な微分方程式 10. 微分方程式 (2):力学で現れる簡単な微分方程式/理工学における応用 11. 微分方程式 (3):電気

回路の問題/非線形微分方程式/理工学における応用 12. 微分方程式 (4):微分方程式とエネルギー保存則/理工学における応用 13. 行列と行列式 (1):行列の演算/行列式の定義/行列式と体積/理工学における応用 14. 行列と行列式 (2):1 次独立と 1 次従属/行列の固有値と固有ベクトル/理工学における応用 15. ベクトル解析:スカラー場とベクトル場/勾配/発散/ガウスの定理/回転/ストークスの定理/理工学における応用 16. 試験

【成績評価】講義の理解を深めてもらうために、授業中に演習・クイズ問題を提出してもらいます。レポート(2 回程度を予定)も提出してもらいます。毎回行うクイズの評価、レポートの評価と期末試験結果による評価を総合して行います。

【再試験】行う。但し、全てのレポートの提出を必要とする。

【教科書】

- ◇ 教科書 香取真理・中野徹「物理数学の基礎」(サイエンス社)
- ◇ 参考書 遠藤敏郎著「経験と感覚の数式化-科学の基本-」(学術図書出版社)
- ◇ 参考書 岸野正剛著「今日から使える物理数学」「今日から使える微積分」(講談社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219331>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日・木曜日の昼休み)

分子物理化学 I

2 単位 2 年 (前期)
山本 孝・准教授/社会創生学科

【授業目的】化学反応熱、化学平衡、物理平衡、起電力等を熱力学をもとにして系統だてて理解すること、また反応速度を左右する因子について理解し、実際の物質変化が自由エネルギー変化と反応速度とに関係していることを理解してもらう。

【授業概要】熱力学と化学反応速度

【キーワード】化学反応熱、化学平衡、相平衡、溶液の物理化学的法則、化学反応速度

【先行科目】『現代化学の世界』(1.0、⇒285 頁)

【到達目標】

1. 1) 標準生成エンタルピーから定圧と定積の化学反応熱を算出できるようにすること。
2. 2) 標準生成自由エネルギーから平衡定数を算出できるようにすること。
3. 3) 溶液についての諸法則、電極電位、膜電位を熱力学的に理解すること。
4. 4) 化学反応速度を左右する諸因子について理解すること。

【授業計画】1. 1.SI 単位系、理想気体の諸法則について講義する。 2. 2. 分子の運動、熱エネルギーおよび温度の関係について講義する。 3. 3. 化学物質がもつエネルギーについて講義する。 4. 4. 物理化学的变化による内部エネルギーとエンタルピー変化について説明する。 5. 5. 標準生成エンタルピーと化学反応熱および結合エネルギーについて講義する。 6. 6. 物理化学的变化とエントロピーおよびギブスの自由エネルギー変化との関係を説明する。 7. 7. 気体の圧力と自由エネルギーの関係、気体反応の平衡定数との関係について講義する。 8. 8. 標準生成自由エネルギーとそれを使っての平衡定数の求め方について述べる。 9. 9. 中間試験をする。 10. 10. 物理平衡について述べ、溶液の自由エネルギーと濃度の関係について講義する。 11. 11.1 成分、2 成分、3 成分系の相律について講義する。 12. 12. 気体、溶液、固体の活動度と自由エネルギーとの関係を導く。 13. 13. 一般の化学平衡、膜平衡について講義する。 14. 14. 化学反応反応速度と温度、濃度、触媒との関係をのべる。 15. 15. 複合反応、連鎖反応、酵素反応、遷移状態理論についてふれる。 16. 16. 期末試験をする。

【成績評価】試験の結果、出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験】実施する。

【教科書】教科書 :アトキンス 物理化学 (上) 生協で販売します。

【参考書】物理学とは何だろうか

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219125>

【連絡先】

⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 相談の上、知らせます。)

無機物質系の化学 II

2 単位 2 年 (後期)
未定

【履修上の注意】新課程の無機化学 II へと移行しました。無機化学 II のシラバスを参照してください。

【参考書】

- ◇ シュライバー著「無機化学上・下」東京化学同人
- ◇ コットン・ウィルキンソン著「無機化学上・下」培風館

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219327>

【連絡先】

⇒ 未定
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

有機物質系の化学 II

2 単位 2 年 (後期)
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】有機物質系の化学 I に引き続き、有機化学の反応を官能基別に分類して、それらの化合物の命名法、性質、製法、構造と反応や立体化学について講義する。特にアルケン、アルキン、芳香族化合物の命名法、性質、構造と反応、立体化学、ラジカル反応を理解することを目的とする。

【授業概要】アルケン、アルキン、芳香族化合物の化学

【キーワード】アルケン、アルキン、芳香族化合物

【先行科目】『有機物質系の化学 I』(1.0, ⇒310 頁)

【履修上の注意】初回の授業にて話すので、遅刻および欠席をしないように。有機物質系の化学 I を既習していること。予習、復習が不可欠。

【到達目標】アルケン・アルキン・芳香族化合物の命名法・性質・反応の基本について習熟する。また、ラジカル反応の基本についても理解を深める。

【授業計画】1. 1. アルケンおよびアルキン I 性質と合成 (2 回) 2. 2. アルケンおよびアルキン II 付加反応 (3 回) 3. 3. アルコールおよびエーテル (3 回) 4. 4. 共役不飽和系 (2 回) 5. 5. 芳香族化合物 (2 回) 6. 6. 芳香族求電子反応 (2 回) 7. 7. ラジカル反応 (1 回) 8. 8. 期末テスト (15 週目を予定) 9. 9. 総括授業 (16 週)

【成績評価】本授業は講義形式で行う。評価は原則として期末テストの結果に基づくが、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点での評価を加える事もある。

【再試験】行う

【教科書】教科書 ソロモンの新有機化学第 9 版 上 (花房昭静池田正澄仲嶋正一訳, 広川)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219303>

【連絡先】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)水曜日 12時~13時)

【備考】この講義は有機化学 II となっており、そのシラバスは変更されています。有機化学 II のシラバスをご覧ください。

【授業計画】1. 生体物質理解のための立体化学 2. 糖質の化学概論 3. 単糖の化学 I 4. 単糖の化学 II 5. オリゴ糖・多糖の化学 6. タンパク質の化学概論 7. アミノ酸の化学 I 8. アミノ酸の化学 II 9. ペプチドの化学 10. タンパク質の立体化学 11. 脂質の化学 I 12. 脂質の化学 II 13. 核酸の化学 I 14. 核酸の化学 II 15. 重要な事項の復習 16. 期末テスト

【成績評価】期末テストによる。なお、項目別の中間テストを行い、その合計で評価することもある。詳細は、最初の講義時間に説明し、決定する。

【再試験】相談の上、行うこともある。

【教科書】有機物質系の化学 I&II と同じ教科書 [ソロモンの新有機化学 (下巻)] を用いるが、内容を相当補充する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219364>

【連絡先】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)水木曜日 12時-13時)

【備考】この講義は生物有機化学に変更されています。新しいシラバスは生物有機化学のものをご覧ください。

天然物質化学

Natural Products Chemistry

2 単位 3 年 (後期)
中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】天然物資源から合成される化合物について、その生合成経路と合成された化合物の機能について理解する。

【授業概要】天然有機化合物の生合成、および機能

【キーワード】天然物化学、生合成、生物活性

【先行科目】『生体物質化学』(1.0, ⇒350 頁)

【履修上の注意】有機化学の基礎知識を修得していることが望ましい

【到達目標】化学構造とその分類、生物活性、生合成などについての基礎知識を修得する

【授業計画】1. はじめに 2. 生合成経路の研究法 3. 酢酸-マロン酸経路 (1) 4. 酢酸-マロン酸経路 (2) 5. 酢酸-マロン酸経路 (3) 6. シキミ酸経路 (1) 7. シキミ酸経路 (2) 8. メバロン酸経路 (1) 9. メバロン酸経路 (2) 10. メバロン酸経路 (3) 11. その他の経路 (1) 12. その他の経路 (2) 13. その他の経路 (3) 14. その他の経路 (4) 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】学期末テスト、レポート、受講態度

【再試験】行わない

【教科書】授業に必要な資料を随時配布する。

【参考書】授業の中で適宜紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219201>

【連絡先】

⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】上記の授業計画は、予定であり変更することもある。

生体物質化学

2 単位 3 年 (前期)
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】重要な生体分子に関する有機化学の基礎を修得する。

【授業概要】基礎生物有機化学

【履修上の注意】有機物質系の化学 I, II を履修済みであることが望ましい。

【到達目標】重要な生体有機化合物の構造式、基本的な物理的性質、化学的性質が理解できること。

自然システム学科 生命・環境コース 生命環境サブコース 授業概要

● サブコース指定科目

生命環境セミナー ... 中川/3年(前期, 後期)	351
生命環境セミナー ... 佐藤/3年(前期, 後期)	351
生命環境セミナー ... 横井川/3年(前期, 後期)	351
生命環境セミナー ... 金丸/3年(前期, 後期)	351
生命環境セミナー ... 小山/3年(前期, 後期)	352
生命環境セミナー ... 山城/3年(前期, 後期)	352
生命環境セミナー ... 浜野/3年(前期, 後期)	352
生命環境特別演習 ... 佐藤/4年(前期, 後期)	352
生命環境特別演習 ... 浜野/4年(前期, 後期)	353
生命環境特別演習 ... 小山/4年(前期, 後期)	353
生命環境特別演習 ... 金丸/4年(前期, 後期)	353
生命環境特別演習 ... 山城/4年(前期, 後期)	353
生命環境特別演習 ... 横井川/4年(前期, 後期)	353
生命環境特別演習 ... 中川/4年(前期, 後期)	353
生命環境実験 I ... 中川・小山・佐藤・金丸・横井川・山城・浜野/3年(前期)	354
生命環境実験 II ... 中川・小山・佐藤・金丸・横井川・山城・浜野/3年(後期)	354
環境物質影響学 ... 金丸/3年(後期)	354
活性物質生理学 ... 中川/3年(後期)	354
機能物質作用学 ... 横井川/2年(後期)	355
環境適応学 II ... 佐藤/2年(前期, 集中)	355
環境生理学 ... 佐藤/3年(後期)	355
細胞情報学 II ... 小山/3年(前期)	355
系統分類学 II(分子生態学) ... 山城/3年(前期)	356
集団生物学 ... 山城/3年(前期)	356
比較生理生化学 ... 松尾・佐藤/2年(前期, 集中)	356
細胞制御学 ... 真壁/3年(前期)	356
適応進化学 ... 松尾/3年(後期)	357
代謝異常学 ... 渡部/3年(前期)	357
細胞機能学 ... 真壁・渡部/3年(前期, 集中)	357
生物化学 ... 佐藤/2年(後期)	357
地球表層環境論 I ... 石田/2年(後期)	358
地球表層環境論 II ... 石田/3年(前期)	358
地球表層システム論 ... 西山/3年(前期)	358
天然物質化学 ... 中村/3年(後期)	358
生物物質化学 ... 増田/3年(前期)	359
財政学 I ... 石田/3年(前期)	359
財政学 II ... 石田/3年(後期)	359

生命環境セミナー Seminar of Living Systems	2単位 3年(前期, 後期) 中川 秀幸・教授/社会創生学科
---	-----------------------------------

【授業目的】 基礎的な科学英語の読解力を高めるために物語的なテキストを主に用いて授業を行う。授業の中では、各人が英語を声に出して読み、内容の説明を行う。そこでお互いの意見を述べ、コミュニケーションをはかる。また後半では、専門分野の原著論文の読み合わせを行い、要約を作り、レポートを作成する。

【授業概要】 英語で読む時事問題や生命科学のエピソードの解説と質疑応答および原著論文の講読と解説。

【キーワード】 生体, 健康, 薬, 中毒, 生理活性物質

【先行科目】 『生物化学』(1.0, ⇒357頁)

【関連科目】 『天然物質化学』(0.5, ⇒358頁)

【履修上の注意】 理解度を増すために、予習と簡単なまとめを求めたい。

【到達目標】 英語の読解力とプレゼンテーションの向上を目指す。

【授業計画】 時事英語および科学英語のテキストおよび比較的わかりやすい原著論文を毎回、担当者を決めて読み進め、後半には要約を作りプレゼンテーションを行う。

【成績評価】 講読した資料や文献の内容の整理を行い、レポートを作成する、また各自のプレゼンテーションからの総合評価を行う。

【再試験】 行わない。

【教科書】

- ◇ 『Serendipity - 科学史に残る偶然の大発見』(松柏社)
- ◇ 『レクチン代版; 歴史, 構造・機能から応用まで』(シュブリンガー・フェアラーク東京) 及び原著論文などを講読する。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/lablist.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218755>

【連絡先】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在籍中の午後。E-mail: sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命環境セミナー

4単位 3年(前期, 後期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】 前期は自然保護、環境の保全に関する文献を、後期は卒業研究に関わる文献を輪読する。知識を深めるとともに、プレゼンテーション能力を高めることを目的とする。

【授業概要】 徳島県の自然保護に関わる行政文書、科学雑誌における自然保護に関わる解説、専門の科学雑誌における英語の文献などを輪読する。

【履修上の注意】 佐藤(征)の研究室で卒業研究を行う学生を対象とする。

【到達目標】 文献の読解力と、それを他人に分かりやすく説明する能力を高める

【授業計画】 1. オリエンテーション(前後期1回ずつ) 2. 徳島県の環境行政に関する書類を輪読し、政策を理解し、提言する。(計10回) 3. 科学雑誌『遺伝』から自然保護や卒業研究に関わる文献を輪読する。(計10回) 4. 科学雑誌『Trends in Plant Science』を読み、植物学の現状を理解する。(計10回)

【成績評価】 出席状況、内容の理解度、発表態度などを総合して評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 上記のテキストを使用。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219490>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業の前夜。)

生命環境セミナー

2単位 3年(前期, 後期)
横井川 久己男・教授/社会創生学科

【授業目的】 微生物に関連する研究分野の、最新の情報を理解する。

【授業概要】 微生物学に関する最新の文献を講読し、現状と意義を理解して展望を考察する。英文文献については輪読するため予習復習が必須である。

【到達目標】 学術論文を読む力を養うと共に、学問的思考力を身につける。

【授業計画】 1. 微生物の構造と機能に関する学術論文の講読 2. 微生物酵素に関する学術論文の講読 3. 微生物の代謝に関する学術論文の講読 4. 発酵生産に関する学術論文の講読 5. 有害微生物に関する学術論文の講読

【成績評価】 受講態度(50%)と課題達成度(50%)により評価する。

【再試験】 なし

【参考書】 プリントを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219374>

【連絡先】

⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:20-17:50)

生命環境セミナー

4単位 3年(前期, 後期)
金丸 芳・准教授/社会創生学科

【授業目的】 卒論研究では、それに関連する論文・文献を数多く読み、研究の内容を構成していくので、外国語の論文を読む必要があります。そのため、英語の論文を読み、理解していく能力を身につける必要があります。そこで、英語の原著論文を検索入手し、読解する方法をトレーニングします。

【授業概要】 外書購読

【キーワード】 外書購読, 文献, 英語

【履修上の注意】 出席し、与えられた課題を行う

【到達目標】 自分の卒業研究に即した論文を的確に入手し、内容把握できる読解力を身につける。

【授業計画】 1. 生命科学に関連する短文を読み、英語の基礎力を養う。2. 生命科学関連の英語論文を基に、専門語句の説明、論文の構成の解説、内容の理解方法の解説などを行う。3. 論文を実際に購読し、論文の読解力をつける。4. 自分の卒業研究に即した論文を検索して入手する方法を体験する。5. 入手した論文を全訳した上で、要約し、論文の内容を把握する。6. 卒業論文への応用を考える。

【成績評価】 与えられた課題を中心に、出席、態度などを加味して評価します。

【再試験】 行ないません。

【教科書】

- ◇ 教科書はありません
- ◇ 英語の辞書を各自用意して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219375>

【連絡先】

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。)

生命環境セミナー

4 単位 3 年 (前期, 後期)
小山 保夫・教授/社会創生学科

【授業目的】 どのような卒業研究を進めるか、それを知るためには、どのような研究が行われているか、知ることが必須である。もし、すでに研究が行われていることを研究しても、それが論文として認められることは少ない。よって、卒業研究に取りかかる最初のステップとして、最近の論文を読んでみましょう。また、英語の力を付けて、レベルの高い大学院の入学試験に確実に合格できるようにします。

【授業概要】 化学物質の作用評価の論文を読んでみましょう。

【履修上の注意】 英語は苦勞しないと上手にならないから、気持ちが悪くなるくらい読むことです。とにかく、「修行」と思って頑張ることで、三時間くらいは連続して、英語を読み続ける忍耐力が必要です。

【到達目標】 少なくとも何をしたら研究らしいものになるのか、論文が纏められるか、自分で考えることができる。

【授業計画】 1. (前期)1-論文を探そう。どうしたら、必要な論文を見つけることができるか。(前期)2-そして、論文の構成はどのようなになっているのか。また、(前期)3-どのように英語の論文を読んでいくのか。2. (前期)4-題目(タイトル)、著者名(オーサー)、研究が実施された場所(アドレス)の持っている意味を教えます。(前期)5-次に、抄録(アブストラクト)の内容の最低条件について解説します。3. (前期)6-緒言(イントロダクション)から、この論文にどのような流れがあるのか、読み方を話します。緒言が立派でも研究内容はお粗末な論文もあります。4. (前期)7-さあ、実験方法(メソッド)です。ここは結果(リザルト)を読んでいく中で繰り返し見る可能性があります。どのような条件で実験が行われたのか、重要です。5. (前期)8-結果(リザルト)を読む時のポイントを解説します。なぜ、そのような実験を行った、何を明らかにしているのか、ここが重要です。6. (前期)9-結果(リザルト)から導き出されていることが、緒言で書かれていること沿っているか。全く関係がないことをしている可能性もあります。実験の構成をチェックしてみましょう。7. (前期)10-結果(リザルト)に沿った考察(ディスカッション)が行われているか、考えてみましょう。(前期)11-そして、示唆、推論あるいは結論はまともなのか、引用文献(リファレンス)の内容まで含めて、話し合います。(前期)12-何が不足しているか、批評しましょう。(前期)13-さあ、自分なら、どうするか?ここを考えてみましょう。(前期)14-論文を審査することをレビューと言います。論文のレビューをしてみましょう。(前期)15-ここまでの講義を振り返り、論文をどのように評価するのか、確認しましょう。8. (前期)16-これで論文の読み方は理解できると思います。読み方の試験をします。9. (後期)1-および2-論文はのんびりと読んでも駄目です。必要な情報が必要なだけ取る。1-緒言から、2-方法から、何を読み取るか、訓練します。10. (後期)3-分子レベルの作用影響評価の論文に目を通します。(後期)4-細胞レベルの作用影響評価の論文に目を通します。(後期)5-臓器レベルの作用影響評価の論文に目を通します。11. (後期)7-英語に慣れてきたか、ここでチェックします。12. (後期)8-および9-自分の実験の論文を書いてみよう。8-題目、著者名、研究を実施した場所、9-緒言。実験は夏休みに行います。13. (後期)10-および11-自分の実験の論文を書いてみよう。10-緒言の続き、11-方法。14. (後期)12-および13-自分の実験の論文を書いてみよう。12-結果、13-ここも結果。15. (後期)14-自分の実験の論文を書いてみよう。さあ、考察に入ります。16. (後期)15-およ

び16-自分の実験の論文を書いてみよう。15-考察の続き、16-引用文献、多分、間に合わないので冬休みを十分に使います。

【成績評価】 読んだ論文一つにつき十点。通年の科目ですから十篇は読んでもらいます(つまり百点を目標して勉強してもらいます)。

【再試験】 ありません。

【教科書】 化学物質の環境影響評価に関する論文を国際的なジャーナルから選んでもらいます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219376>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 論文の英語が理解できないときは、早め早めに質問しなさい。午前8時から午後5時まででならば、特に時間は設定しません。)

生命環境セミナー

2 単位 3 年 (前期, 後期)
山城 考・准教授/社会創生学科

【授業目的】 植物の分類学、進化系統学、繁殖生態学に関する最近の研究について理解する

【授業概要】 植物の生態や進化に関する英文教科書の輪読

【授業計画】 植物の生態や進化に関する英文教科書の輪読

【成績評価】 毎回の予習結果による

【教科書】 Levin, D. A. 2000. The origin, expansion, and demise of plant species. Oxford University Press.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218753>

【連絡先】

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命環境セミナー

4 単位 3 年 (前期, 後期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】 研究は発想と体力と要領だけでは乗り切れない。生物を採集したり、実験装置を作ったり、その分野の現状を把握し情報を整理する等、地味で辛い作業もつきまとう。卒論の前に、地域の情報を集め、採集技術や工作技術を身につけ、外国語の論文を探して読む習慣を身につける。

【授業概要】 地域の自然の中で、採集用具や調査機器の取り扱いに慣れ、工作技術を身につけ、専門書を読み、英語論文を理解する。

【キーワード】 英書購読, 文献, 英語

【到達目標】 地域の情報を自分で集め、研究に必要な論文を自分で入手する等、自分で学習し問題解決をする習慣を身につける。

【授業計画】 1. 英語読解能力を養う 2. 専門語句を理解する 3. 論文の探し方を学ぶ 4. 論文の構成を学ぶ 5. 地域の自然を学ぶ 6. 地域の特産物を学ぶ 7. 生物の採集方法を学ぶ 8. 工作技術を学ぶ

【成績評価】 出席状況と発表で。

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【参考書】 必要なときには配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218754>

【連絡先】

⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで予約。)

⇒ 23fias@gmail.com

生命環境特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】 卒業研究の背景や専門用語を理解し、さらに研究成果のまとめ方や発表の仕方について学習する。

【授業概要】 専門英語の学習及びプレゼン能力の育成

【履修上の注意】 予習が非常に大事である。内容を理解できていない発表は他人にとって迷惑なだけである。

【到達目標】 聞き手に、発表が上手くなったと言わせる。

【授業計画】 毎回1人ずつ卒業研究に係わる分野の文献や資料を読み、その内容を紹介をする。

【成績評価】 内容の理解度、発表態度、質疑応答への参加などを判断する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219492>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: この授業の前夜。)

生命環境特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

- 【授業目的】** 動物の生態の研究を行う上で必要な知識や技術の習得を目的とする。
- 【授業概要】** 昆虫個体群の野外調査や室内実験を行って得られたデータを統計解析し、更に文献を読みながら解析結果を考察する。
- 【キーワード】** 昆虫, 個体群, 群集, 統計解析, 生態学
- 【先行科目】** 『集団生物学』(1.0, ⇒356 頁)
- 【関連科目】** 『集団生物学』(1.0, ⇒356 頁)
- 【履修上の注意】** この授業では卒業研究に関連する事項を取り上げる。
- 【到達目標】** 調査計画を立てて実行し、更に得られたデータの解析を行うという一連の作業が自力でできるようになる。
- 【授業計画】** 野外調査, 室内実験, 検索表を用いた種の同定, データの統計解析, 文献の講読等を行う。
- 【成績評価】** 出席状況, 質疑応答, レポート等に基づいて評価する。
- 【再試験】** 行わない。
- 【教科書】** 資料を配布する。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219377>
- 【連絡先】**
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

生命環境特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
小山 保夫・教授/社会創生学科

- 【授業目的】** 一般的には研究は論文として発表した場合にのみ評価される。しかし、自然科学系では学会発表やピアレビューを受けていない(審査制度のない)論文は評価されない。よって、得られた実験結果から「研究論文」を纏め、それを審査制度のある学術誌(国外, 英文)に投稿してみよう。
- 【授業概要】** 生命科学系学術誌に研究論文を投稿する(可能ならば、受理されるまで)。
- 【履修上の注意】** 健康であること、とにかく、論文が受理されるまでは学生自身も教員もそれなりに大変です。
- 【到達目標】** 卒業までに卒業研究が論文として受理されること。
- 【授業計画】** 1. 研究論文を纏めて、それを学術誌に投稿し、レフリー(査読者)のコメントに答えて論文が受理され、学術誌に論文が掲載されるまで、そのプロセスで必要な実務を体験させます。 2. (前期)1-, 2-および 3-実験結果の精査および不足分の確定と追加(実験は3年次に行った分) 3. (前期)4-, 5-および 6-投稿先の決定, 論文フォーマットの確認および論文構成の確認 4. (前期)7-論文書き, まずは簡単な「方法」から。 5. (前期)8-, 9-および 10-論文書き, 次に簡単な「結果」を。 6. (前期)11-, 12-および 13-論文書き, 「考察」を。引用文献を読みながらで、これは苦しい。 7. (前期)14-, 15-, 16-論文書き, 「緒言」を。「緒言」は、なぜ、実験をしたのか、その意義付けである。普通は最初に書くが、ここでは最後に書く。その理由を解説しながら、論文指導を行う。仕上げ、夏休み前に投稿。 8. (後期)1-, 2-および 3-投稿した論文をどうするか, 前期に投稿した論文は2か月以内に審査は終わり、戻ってくる。その審査結果により、ここからの講義内容は変わる。最も多いケースを想定して、以下の予定で講義を進める。 9. (後期)4-および 5-投稿した論文をどうするか, 改訂を求められた場合はそれに従い、追加実験および論文内容の改訂を検討する。 10. (後期)6-, 7-および 8-追加実験を行う。 11. (後期)9-, 10-および 11-査読者のコメントに対する回答(論文の改訂も含む)を書く。 12. (後期)12-冬休み前に再投稿を行う。 13. (後期)13-再投稿した論文の審査は早いので、2週間程度で戻ってくる。その審査結果により、ここからの講義内容は変わる。最も多いケースを想定して、以下の予定で講義を進める。 14. (後期)14-査読者のコメントの精査を行う。 15. (後期)15-コメントに沿って論文改訂を行う。 16. (後期)16-論文の最終稿を再々投稿し、審査結果を待つ。
- 【成績評価】** 論文が受理されたら、満点、論文の受理が時間的に間に合わない場合は、そこまでのプロセスで評価します。
- 【再試験】** 講義の内容上、再試験は行えません。
- 【教科書】** 研究室の先輩たちが残した論文(過去二年分)を参考にします。それらは <http://pub2.aii230.tokushima-u.ac.jp/survey/person/60453/> を見て、電子ジャーナルでダウンロードして下さい。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219378>
- 【連絡先】**
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも可, 研究室にいない時はメール下さい。)

生命環境特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
金丸 芳・准教授/社会創生学科

- 【授業目的】** 各自の卒業研究のテーマに即した原著論文を検索・購読し、卒業研究の内容や意義を構築します。また、卒業研究の実験方法などを文献などから検討します。卒業論文の書き方を指導します。
- 【授業概要】** 卒業研究を完結させるために必要な術を修得すること
- 【キーワード】** 卒業研究, 論文, 文献
- 【履修上の注意】** 時間内では終わらないので、自主的に遂行して下さい。
- 【到達目標】** 卒業研究を完結させます。
- 【授業計画】** 1. 自分で原著論文を検索・入手する 2. 論文を読む 3. 卒業研究のテーマやその意義を考える 4. 卒業研究を組み立てる 5. 実験方法を検討する 6. 卒業研究の論文の書き方 7. 卒業研究の完結
- 【成績評価】** 本人の努力と成果で評価します。
- 【再試験】** 行ないません。
- 【教科書】** ありません。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219379>
- 【連絡先】**
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。)

生命環境特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
山城 考・准教授/社会創生学科

- 【授業目的】** 植物の分類学, 進化系統学, 繁殖生態学に関する最近の研究内容と卒業研究の意義について理解する
- 【授業概要】** 植物の分類学, 系統進化学, 繁殖生態学のうち特に卒業研究に関連する論文の輪読
- 【到達目標】** 植物の生態や進化に関する最近の研究内容および卒業研究の研究意義を理解する
- 【授業計画】** 学術雑誌に掲載された論文の内容をまとめて紹介する。卒業研究の計画, 経過などについて紹介する
- 【成績評価】** 毎回の予習結果による
- 【再試験】** なし
- 【教科書】** そのつど指示する
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218756>
- 【連絡先】**
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命環境特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
横井川 久己男・教授/社会創生学科

- 【授業目的】** 生命科学分野の最新の情報を理解する。
- 【授業概要】** 生命科学に関する最新の文献を講読し、現状と意義を理解して展望を考察する。英文文献については輪読するため、予習復習が必須である。
- 【到達目標】** 学術論文を読む力を養うとともに、学問的思考力を身につける。
- 【授業計画】** 1. 細胞の構造と機能に関する学術論文の講読 2. 酵素に関する学術論文の講読 3. 代謝に関する学術論文の講読 4. 遺伝に関する学術論文の講読 5. ビタミンに関する学術論文の講読
- 【成績評価】** 出席 (50%) と受講姿勢 (50%) により評価する。
- 【再試験】** なし
- 【参考書】** プリントを配布する。
- 【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218757>
- 【連絡先】**
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:20-17:50)

生命環境特別演習

2 単位 4 年 (前期, 後期)
中川 秀幸・教授/社会創生学科

- 【授業目的】** 生体機能に影響を与える可能性のある海洋性生理活性物質の分離・精製の手技・分析方法などを身につける。
- 【授業概要】** ウニ類および刺毒魚からの生理活性物質の探索を行い、その有用性を基礎生化学実験法を学びながら分析・整理を行い評価する。
- 【キーワード】** 海洋生物, 生理活性物質, ウニ, 刺毒魚, 精製, 天然毒
- 【先行科目】** 『活性物質生理学』(1.0, ⇒354 頁)
- 【到達目標】** 実験を通して、生化学的な分析技術を身につけ、分離・精製した生理活性物質の構造的, 機能的な特徴を理解する。
- 【授業計画】** 1. 実験計画をたてるためのディスカッション 1 2. 実験計画をたてるためのディスカッション 2 3. 海洋性の生理活性物質のリサーチ 1 4. 海洋性の生理活性物質のリサーチ 2 5. 基礎生化学実験 1(蛋白質の抽出) 6. 基礎生化学実験 2(蛋白質の抽出) 7. 基礎生化学実験 3(蛋白質の分析) 8. 基礎生化学実験 4(蛋白質の分析) 9. 生理活性の測定 1 10. 生理活性の測定 2 11. 回収した生理活性

物質の応用性 1 12. 回収した生理活性物質の応用性 2 13. 関連した生理活性物質の文献検索 14. 実験結果のまとめ 15. 実験結果の発表 16. 実験計画と実験結果の総括と展望

【成績評価】 詳しいレポートの提出とプレゼンテーション。

【教科書】 原著論文など

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218758>

【連絡先】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室の時はいつでも。)

生命環境実験 I 2 単位 3 年 (前期) Training in Bio-science and Bio-environment Studies I

中川 秀幸・教授/社会創生学科, 小山 保夫・教授/社会創生学科
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科, 金丸 芳・准教授/社会創生学科
横井川 久己男・教授/社会創生学科, 山城 考・准教授/社会創生学科
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】 生命体が多種多様な環境要因に対して示す生命現象の中で、実験を通して体験的に確認させるとともに、その実験手法を学ぶことを目的とする。

【授業概要】 生物科学の応用的な分野や生命現象と環境に関する基礎的な実験

【キーワード】 コントロール, ビタミン C, 細胞の生存率, 花粉, 酸素消費, 毒液

【履修上の注意】 必ず出席し、説明を受けた後は自分で実験を行うことが大切である。十分な内容のレポートを作成、提出するために参考書や文献などを調べるのが重要である。

【到達目標】 生物科学とその応用分野の基礎的な実験手法を学び、身につけることを目指す。

【授業計画】 1. コントロールの概念と実験の基本構成について 2. 各種の化学物質を溶解させる方法について 3. 試薬の準備・調整の仕方 4. 細胞の観察 5. 細胞の生死判定 6. 酵素の取扱法と細菌細胞からの酵素液の調整 7. 酵素の反応速度定数の測定 8. 地衣類の観察 9. 飲料中のビタミン C の定量 10. 未定・追加 11. 未定・追加 12. オドリコソウなどの身近な植物の送粉様式の観察 13. オドリコソウを用いた結実率の比較と生育環境 14. 生物毒によるウサギ赤血球の凝集反応 15. 水辺のフィールドワーク (植物) 16. 水辺のフィールドワーク (動物)

【成績評価】 実験態度と、提出されたレポートによる。

【再試験】 行わない。欠席者の再実験も行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。適宜、プリントを配付する。参考書は特に指定をしないが、『基礎生化学実験法』(日本生化学会編)、『生化学実験法』(八木達彦ほか著)など、随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218750>

【連絡先】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)

生命環境実験 II 2 単位 3 年 (後期) Training in Bio-science and Bio-environment Studies II

中川 秀幸・教授/社会創生学科, 小山 保夫・教授/社会創生学科
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科, 金丸 芳・准教授/社会創生学科
横井川 久己男・教授/社会創生学科, 山城 考・准教授/社会創生学科
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】 生命体の生体物質や生体類似物質、各種環境要因による生命活動の変化の検出および解析することを学ぶ。また、植物と生育環境との関係の分析、生態系の調査などの実験を学ぶ。

【授業概要】 生命体の生命活動の場である内部環境と、その外側にある外部環境との相互作用に関する実験

【履修上の注意】 必ず出席し、説明を受けた後は自分で実験を行うが、判断できない場合は担当教官に質問する。十分な内容のレポートを作成、提出するために参考書や文献などを調べるのが重要である。

【到達目標】 生物科学とその応用分野の基礎的な実験手法を会得するとともに、実験結果のまとめや発表することを十分に習熟させることを目指す。

【授業計画】 1. 動物に麻酔をする方法と麻酔深度の維持について 2. ランゲルドルフ法による摘出心臓の灌流と心筋細胞の単離 3. システインの定量 4. グルタチオンの定量 5. 未定・追加 6. 未定・追加 7. 植物の生育環境による形態変異の観察 8. 植物の生育環境による形態変異の生育環境 9. 蛋白質の分離精製 1(電気泳動) 10. 蛋白質の分離精製 2 (カラムクロマトグラフィ) 11. パン生地中でのパン酵母の発酵力測定 12. 酵素誘導と異化抑制 13. 生体成分の分離 14. 生体成分の機能活性 15. 水辺のフィールドワーク (植物) 16. 水辺のフィールドワーク (動物)

【成績評価】 実験態度と、提出されたレポートによる。

【再試験】 行わない。欠席者の再実験も行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。適宜、プリントを配付する。参考書は特に指定をしないが、『基礎生化学実験法』(日本生化学会編)、『生化学実験法』(八木達彦ほか著)など、随時紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218751>

【連絡先】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 各生命環境教官の項を参照。)
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境物質影響学

2 単位 3 年 (後期)
金丸 芳・准教授/社会創生学科

【授業目的】 我々は種々のストレスが多い環境下での生命維持を余儀なくされています。そのため、疾病予防や健康維持の方法を自ら選ぶ時代となっています。また、動植物に含まれる物質には、生体の恒常性維持や生体防御や生理機能調節に関与する生体調節機能を有しています。すなわち、健康寿命の延長 (疾病予防や健康維持や老化防止) を期待して、生体物質を摂取することが可能です。そのために、種々の生体物質とその生体調節機能を正しく理解し、正しく利用することが必須となります。そこで、種々の生体物質について、その機能と生体に及ぼす影響を概説します。

【授業概要】 疾病予防や健康維持のための生体調節機能を有する生体物質についての生命科学的知識

【キーワード】 健康維持, 生体の恒常性, 生体物質, 生体調節機能

【関連科目】 『細胞機能学』(0.0, ⇒357 頁), 『機能物質作用学』(0.0, ⇒355 頁), 『細胞情報学 II』(0.0, ⇒355 頁)

【到達目標】 生体調節機能を有する環境物質とその作用機序を理解、健康維持について考える。

【授業計画】 1. 健康の阻害と維持 2. 生命と栄養素 3. 生体の恒常性 4. 食習慣と健康 5. 糖質の機能 6. 脂質の機能 7. タンパク質の機能 8. ビタミンの機能 9. ミネラルの機能 10. 生体調節機能 11. 非栄養成分の機能 12. 非栄養成分の機能 13. 酸素の機能 14. 疾病予防と生体物質 15. テスト

【成績評価】 期末のテストを中心に、小テストと出席状況を加味して評価します。

【再試験】 行ないません。

【教科書】 教科書は使用しません。プリントを適宜配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219358>

【連絡先】

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しません。研究室は総合科学部3号館3階北棟生命科学系です。)

活性物質生理学

2 単位 3 年 (後期)
中川 秀幸・教授/社会創生学科

【授業目的】 生物が代謝・産生する物質の中には特徴的な生理活性を有するものがあり、生命現象の謎に迫るツールとして、また天然資源として有用である。生物の体の基本的な構成単位は細胞であり、細胞間の認識や情報伝達など、細胞間の相互作用の解析は生体の恒常性維持において重要な課題である。多様な生理活性物質の産生経路やそれらの生体における作用様式を理解することは、生命活動の巧妙さやその不可思議を考える機会になるものと思われる。

【授業概要】 生体の生命活動を支えている細胞、あるいは細胞が集合した組織などの機能に及ぼす生体物質や生理活性物質の作用と、それらの産生プロセスを解説する。また、生体恒常性の仕組みを解説する。

【キーワード】細胞, 生体恒常性, 生理活性物質, 神経伝達物質, ホルモン, 炎症, 傍分泌, 内分泌, 自律神経系, 毒から薬

【先行科目】『生物化学』(1.0, ⇒357 頁), 『機能物質作用学』(1.0, ⇒355 頁)

【関連科目】『生体物質化学』(0.5, ⇒359 頁), 『細胞情報学 II』(0.5, ⇒355 頁)

【履修上の注意】資料はファイルし, 整理することが望ましい。

【到達目標】生体で代謝・産生される物質あるいは天然由来の物質の生体に対する特徴的な作用様式を理解する。また, 生体は環境の変化に対応し, 活性物質を産生する一大製薬工場であることを理解させる。

【授業計画】1. 細胞は生命の泉 (1) 2. 細胞は生命の泉 (2) 3. 生理活性物質とは 4. 生理活性物質と生体機能 (1) 5. 生理活性物質と生体機能 (2) 6. 生理活性物質と生体機能 (3) 7. 生物がつくる毒 (1) 8. 生物がつくる毒 (2) 9. 毒と薬の違い (1) 10. 毒と薬の違い (2) 11. 天然毒から薬へ 12. 海洋生物と薬 (1) 13. 海洋生物と薬 (2) 14. いまの薬 15. プレゼンテーションと課題 16. 総括授業

【成績評価】授業が進んだ段階で, 各自がプレゼンテーションし, 互いに質疑を行う。プレゼンとレポートの提出で総合評価を行う。

【再試験】行う。

【教科書】くすり (吉川弘之他) 東京大学出版会 2472 円。適宜, プリントを配布します。

【参考書】

- ◇ ドラッグは世界をいかに変えたか (デヴェッド・T・コートライト著) 春秋社 2500 円
- ◇ 毒と薬の科学:毒から見た薬・薬から見た毒 (船山信次著) 朝倉書店 3800 円
- ◇ Molecules and Medicine (Wiley-Interscience)

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/lablist.html>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218484>

【連絡先】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室中はいつでも。連絡先 E-mail: sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp)

機能物質作用学

2 単位 2 年 (後期)
横井川 久己男・教授/社会創生学科

【授業目的】多種多様な化学反応の組合せにより発現する生命現象において, 酵素は生体触媒としてきわめて重要な役割を果たしている。本講義では, 機能性タンパク質としての酵素と, 酵素活性の発現に影響をおよぼす種々の生理活性物質の機能を解説する。

【授業概要】酵素の機能を分子レベルで理解する。

【キーワード】酵素反応速度論, 反応機構, 機能性物質

【先行科目】『生命システムの基礎 I』(1.0, ⇒285 頁)

【履修上の注意】授業で学んだことを, 必ず復習すること。

【到達目標】種々の酵素の構造と機能を学び, それらの活性制御機構を分子レベルで理解する。

【授業計画】1. 酵素の歴史 2. 酵素の種類と分類 3. 酵素反応の速度論 4. 酵素反応の熱力学 5. 酵素阻害剤 1-拮抗阻害, 非拮抗阻害, 不拮抗阻害 6. 酵素阻害剤 2-特殊な阻害形式 7. 機能性物質の酵素的合成 8. 酵素活性の調節 1-転写レベルと翻訳レベルの調節 9. 酵素活性の調節 2-翻訳後の調節 10. 補酵素の構造と機能 1-酸化還元反応等 11. 補酵素の構造と機能 2-アミノ基転移反応等 12. 酵素反応の機構 1-反応機構からの解明 13. 酵素反応の機構 2-高次構造からの解明 14. 酵素の産業利用 15. 総括授業 16. 試験

【成績評価】授業への取り組み態度 (50%) と筆記試験 (50%) により評価する

【再試験】なし。

【教科書】新・入門酵素化学 改訂第 2 版 (南江堂)。

【参考書】毎回の講義でプリントを配布する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219305>

【連絡先】

⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 16:20-17:50)

環境適応学 II

2 単位 2 年 (前期, 集中)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】徳島の自然環境と野生生物について理解を深める。

【授業概要】野外調査を通じて, 徳島でみられる野生生物の生態について理解する

【履修上の注意】この授業は, 昨年度まで「佐那河内いきものふれあいの里」の自然観察員の方 3 名を講師に迎えて実施してきましたが, 新カリ移行にあたり, 今年度からは同様の形での実施はできなくなりました。やむを得ない事情がない限りは, 開講しない予定です。

【到達目標】徳島の野生生物と自然環境について理解を深める。

【授業計画】吉野川での野鳥や干潟生物の観察, 眉山の自然環境の調査などのフィールドワークを行なう。

【成績評価】レポート課題により評価する

【再試験】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219493>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義に関する質問は佐藤(征)が受け付けます。研究室にいる時にはいつでもOK。)

環境生理学

2 単位 3 年 (後期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】我々は, とすると他の生物を人間の視点 (あるいは高等動物的視点) から見てしまいがちである。しかし当然ではあるが, 地球上のほとんどの生物同士の相互作用や生物と環境の相互作用は, 人間とは無関係に進化してきたものであり, 我々の想像を超えるような独自の精巧なシステムが構築されている。それらのメカニズムを理解した上で, 人間が他の生物をどのように利用しているのか, それがどのような影響を与えるのか等, 人間が他の生物といかに関わるべきかについて解説する。

【授業概要】生物, 環境, 社会

【キーワード】光合成, 物理環境, 公害, 解毒, 環境適応, 生物浄化法

【履修上の注意】なし。

【到達目標】前半の講義では, 植物や動物の生理がどのように環境と関わっているかを理解し, 後半の講義では種特有の機能を環境浄化に活かす方法を理解する。

【授業計画】1. 地球全体における光合成の意味 2. 光合成のメカニズム 3. 外部環境に対する認識メカニズム 1:感覚, 知覚とは? 4. 外部環境に対する認識メカニズム 2:眼の構造と機能 5. 外部環境に対する認識メカニズム 3:視覚の進化 6. 外部環境に対する認識メカニズム 4:視覚以外の感覚について 7. 熱と温度 1:熱とは何か. 熱の伝わりかた 8. 熱と温度 2:低温に対する適応について 9. 熱と温度 3:生物の体温調節メカニズムについて 10. 重金属と生物 1:重金属の性質と解毒メカニズム 11. 重金属と生物 2:水俣病について 12. 重金属と生物 3:イタイイタイ病について 13. 重金属と生物 4:その他の重金属の毒性について 14. バイオレメディエーション (生物による環境浄化) とは 15. バイオレメディエーションによる水質浄化 16. 総括授業

【成績評価】数回の小テストにより評価する (ノート, 資料の持ち込み禁止)。

【再試験】行わない。

【教科書】講義の際に随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219494>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK。)

細胞情報学 II

2 単位 3 年 (前期)
小山 保夫・教授/社会創生学科

【授業目的】(1) 細胞情報学 I で得た知識を活用して, 細胞のシグナル伝達に関する最近の知見を読み, さらに知識を深める。ついでに, それらの知識をどのように利用したら, 化学物質の作用影響解析に役立つか, 講義する。(2) 化学物質の総数は二千万種類を超えて, 私たちが商業的に入手できる化学物質の数も十万種類程度はある。ところが, 個々の化学物質の毒性について十分に検討されているわけではない。そこで, この講義では細胞の基本的な機能, 生存 (増殖) と死などに焦点を当て, それらに化学物質がどのような影響を与える可能性があるのか, 幅広く解説を行う。ただし, 研究者は過剰な可能性を主張する場合があるので, どのような研究が役立つかも講義する。(3) とにかく, エッセンシャル細胞生物学の知識を活用できるように講義する。

【授業概要】細胞に対する化学物質 (環境汚染物質, 医薬品, 生物毒など幅広く含む) の影響, それによる細胞生理機能変化を講義し, それらの知識を利用できるようにする。

【キーワード】化学物質, 影響評価

【履修上の注意】細胞情報学 I を受講していることが望ましいが, 基礎から講義するので, 理解できる。

【到達目標】

1. 細胞のシグナル伝達に関係する最近の知見に自由にアクセスし, 自分で知識を深めていくことができるようにする。
2. 化学物質が有している毒性を細胞レベルで理解できるようにする。

【授業計画】1. 細胞のシグナル伝達についての知識を深める。各種の受容体と細胞内シグナル伝達についての研究に接してみよう。 2. エッセンシャル細胞生物学の知識を活かして, 研究を読み解こう (緒言)。 3. エッセンシャル細胞生物学の知識を活かして, 研究を読み解こう

(方法). 4. エッセンシャル細胞生物学の知識を活かして、研究を読み解こう(結果). 5. エッセンシャル細胞生物学の知識を活かして、研究を読み解こう(考察). 6. 「化学物質の細胞レベルでの影響評価」についての知識を深める. 7. 細胞毒性について 8. 細胞死の種類とそのメカニズムについて 9. 細胞増殖への影響について 10. 細胞レベルでの影響から臓器・個体レベルの影響を推定することについて 11. 臓器レベルの影響について 12. 個体レベルの影響について 13. 身近な環境汚染物質としてのカドミウム、鉛、水銀、ヒ素の影響について 14. 日常生活の中の化学物質の影響について 15. 細胞レベルの知識の応用と限界について 16. 進路と必要な知識について

【成績評価】 学生便覧の試験細則に準拠する。しかし、得点が低い場合には「出席」と「小テスト」の結果を加味する。

【再試験】 なし。

【教科書】 用語の意味などはエッセンシャル細胞生物学で十分に対応できる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219411>

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に設定しないが、学生の研究指導の都合上、午後3時～午後4時30分が望ましい。)

系統分類学 II(分子生態学) Molecular Ecology

2 単位 3 年 (前期)
山城 考・准教授/社会創生学科

【授業目的】 近年の分子生物学の発展に伴い、野生生物集団の生態学的、進化的解析に遺伝的マーカーを用いた研究が行われるようになった。本講義では、遺伝的情報を用いて、野生生物の生態学および進化的研究がどのように行われているかについて解説を行い、野生生物の保全について関心を高めることを目的としている。

【授業概要】 遺伝的マーカーの種類、また、遺伝的マーカーを用いて、野生生物集団の生態、進化、地理的構造についてどのような情報が得られるのかについて解説を行う。また、保全遺伝学についても解説をおこなう。

【キーワード】 分子生物学、遺伝子マーカー、繁殖様式、生物地理学、分子系統学

【履修上の注意】 最初の講義の時に示します。

【到達目標】 遺伝子マーカーを用いた野生生物の生態学的解析にどのような手法があるのかを理解させ、生物の保全に対する関心を高める。

【授業計画】 1. 生態学における遺伝学 2. 遺伝様式と遺伝子マーカー 3. 集団の遺伝的多様性 4. 遺伝子流動と遺伝的浮動 5. 集団間の遺伝的分化 6. 生物系統地理 1(大陸における種分化) 7. 生物系統地理 2(海洋島における適応放散) 8. 系統解析の手法 9. 倍數性のある種の進化 10. 種間交雑 11. 行動・繁殖への遺伝子マーカーの利用 12. 保全遺伝学 1 13. 保全遺伝学 2 14. 遺伝子組替え生物の生態系への影響 15. 期末試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末試験、出席および受講態度。

【再試験】 なし。

【教科書】 プリントを配付します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219408>

【連絡先】

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

集団生物学

2 単位 3 年 (前期)
山城 考・准教授/社会創生学科

【授業目的】 生物群集の構成種間に存在する様々な関係と、それらに関わる法則を学び、更に種間関係に基づいて生物群集の示す現象を理解する。

【授業概要】 全ての種は他の種に依存しながら生活しているために、多くの種が集まって生物群集を構成している。この講義では、まず生物群集の構成種間の関係とそれらに関わる法則を、相互依存、競争、寄生、捕食に重点を置いて解説し、次いで種間関係を踏まえて生物の生息種類数の決定機構、食物連鎖を通じてのエネルギーの流れ、生物群集の遷移機構について考察する。

【キーワード】 生物群集、種間関係、相互依存、種間競争、捕食

【関連科目】 『環境適応学 II』(0.2)

【履修上の注意】 まめにノートをとってれば、試験勉強の時に楽であるし、良い成績も期待できます。

【到達目標】 野外に出た時に、眼にとまった生物の種間関係が想像できる程度の知識と洞察力を養う。

【授業計画】 1. 序論 2. 1, 種間関係の分類 3. 2, 相互依存 4. 3, 競争 5. (1) 植物の競争 6. (2) 動物の競争 7. (3) 動物の競争緩和をもたらした進化 8. 4, 寄生 9. 5, 捕食 10. (1) 植食動物と植物の共存 11. (2) 捕食者と被食者の共存 12. (3) 捕食者の機能 13. 6, 生物の生息種類数 14. 7, 食物連鎖を通じてのエネルギーの流れ

15. 8, 生物群集の遷移 16. (1) 原理 17. (2) 陸上生物群集 18. (3) 湖沼生物群集 19. 総括授業

【成績評価】 期末試験と宿題に基づいて成績を評価するが、出席状況も考慮することがある。

【再試験】 行う。

【教科書】 資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219480>

【連絡先】

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較生理生化学

2 単位 2 年 (前期, 集中)

松尾 義則・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 地球上には、我々人間も含め、多岐多様にわたる生物が存在する。細菌から高等真核生物にいたるまで、生命活動に必要なシステムは共通のものもあれば、その生物に特異的なものもある。この講義では種々の観点に基づき、生物間の個体、細胞レベルから分子レベルまでを比較した時に見られる統一性と多様性について述べる。

【授業概要】 生命システムにおける生物間の統一性と多様性

【キーワード】 遺伝子、細胞、タンパク質、進化

【先行科目】 『生命システムの基礎 I』(1.0, ⇒285 頁), 『生命システムの基礎 II』(1.0, ⇒285 頁)

【関連科目】 『生物化学』(1.0, ⇒357 頁), 『適応進化学』(0.5, ⇒357 頁)

【履修上の注意】 生命・環境コース(生命機能サブコース・生命環境サブコース)のサブコース指定科目です。

【到達目標】

1. 生物間の細胞の構造、分裂、遺伝などの相違が理解できる。
2. 生物間の分子レベル(核酸、タンパク質、脂質、糖質など)の相違が理解できる。

【授業計画】 1. 生命の起源(松尾) 2. 1. いつ生命は生じたのか?(松尾) 3. 2. 生命はどのように地球上に生じたか?(松尾) 4. 全生物の共通の祖先と全生物の系統樹(松尾) 5. 1. 初期進化の歴史をたどる(松尾) 6. 2. 普遍的の同源性、全生物の系統樹(松尾)

【成績評価】 各担当教員の小テストもしくは課題、試験により評価する。

【再試験】 なし。

【教科書】 『進化』分子・個体・生態系(メディカルサイエンスインターナショナル)

【WEB 頁】 <http://www.evolution-textbook.org>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219309>

【連絡先】

⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

【備考】 隔年開講:23 年度は開講。

細胞制御学

2 単位 3 年 (前期)

Genetic Engineering

真壁 和裕・教授/社会創生学科

【授業目的】 主に哺乳類を中心いくつかのモデル生物で見られる代表的な発生・再生などの現象を分子の言葉で理解し、さらにその医学的産業的応用的側面について考えることを主な目的とする。

【授業概要】 コース共通科目の『発生学』の知識を前提に、発生過程で大きな役割を果たす遺伝子カスケードやシグナル伝達系の働きを学び、個体を形成する際の細胞の振る舞いとその分子メカニズムの基盤を理解して、現在発生生物学の研究手法とそれによって明らかにされた発生現象の分子メカニズムおよびその応用を学ぶ。

【キーワード】 哺乳類、転写カスケード、シグナル伝達、遺伝子導入、医学的展望

【先行科目】 『細胞情報学 II』(0.7, ⇒355 頁), 『発生学』(1.0), 『分子生物学』(1.0, ⇒338 頁)

【関連科目】 『代謝異常学』(0.7, ⇒357 頁), 『適応進化学』(0.5, ⇒357 頁)

【履修上の注意】 毎回異なるトピックスを取り上げて解説する形式です。講義プリントは当日の出席者にしか配りません(遅刻欠席しないこと)。内容を暗記する必要はありませんが、講義は集中して聴いていないと理解できません(喋ったり寝たりしないこと)。

【到達目標】 動物の体ができる際の複雑で精妙かつ巧妙なくみかどのような分子機構によって支えられているかを理解し、発生現象の分子メカニズムを他人に説明できるようになること。

【授業計画】 1. 発生過程を支配する分子群 その(1)転写因子 2. 発生過程を支配する分子群 その(2)核内レセプター 3. 発生過程を支配する分子群 その(3)EGFシグナル伝達経路 4. 発生過程を支配する分子群 その(4)Notchシグナル伝達経路 5. 現代生物学の研究手法 その(1)細胞レベル 6. 現代生物学の研究手法 その(1)遺伝子レベル 7. 配偶子形成と受精 8. 哺乳類の発生 9. 性決

定と性分化 10. ・脊椎動物の中枢神経系の発生 11. ・神経細胞 12. ・変態と成虫原基 13. ・再生と幹細胞 14. ・環境と発生 15. ・期末試験 16. ・総括授業

【成績評価】 学期末の試験の成績のみ (配布プリントと自筆ノートの持ち込み可).

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 教科書は指定せずに、毎回プリントを配布する.
- ◇ 参考書 「ウィルト 発生生物学」 東京化学同人 (5,200 円)
- ◇ 参考書 「発生遺伝学」 東京大学出版会 (3,400 円)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219409>

【連絡先】

⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,) (オフィスアワー: 特別に設定せず発展的な質問などは随時受け付けます. ただし講義内容そのものについての単純な質問は可能な限り講義内の質疑応答の際にしてください.)

【備考】 本年度開講せず

適応進化学

2 単位 3 年 (後期)
松尾 義則・教授/社会創生学科

【授業目的】 生物の適応進化を理解するために必要な知識を習得することを目的とする. 遺伝学と生物の進化の関係を示し, 生物進化の素材である遺伝的変異, 原動力である自然選択, 移住, 浮動について解説する.

【授業概要】 生物の適応進化と遺伝学

【キーワード】 進化遺伝, 集団遺伝, 分子進化

【先行科目】 『分子遺伝学』(1.0, ⇒339 頁)

【関連科目】 『集団生物学』(0.8, ⇒356 頁), 『系統分類学 II(分子生態学)』(0.8, ⇒356 頁), 『環境適応学 II』(0.6)

【到達目標】 生物の進化の仕組みを理解する.

【授業計画】 1. 突然変異と組み換えによる多様性の創出 2. 1. 突然変異とその生成機構 3. 2. 突然変異の修正 4. 3. 突然変異率と突然変異のパターン 5. 4. 多様性の創出 6. DNA とタンパク質の変異 7. 1. 遺伝的な変異 8. 2. 変異の種類 9. 機会的遺伝的浮動 10. 1. 機会的な過程 11. 2. 対立遺伝子頻度の機会的な浮動 12. 3. コアレッセンス 13. 4. 中立説 14. 5. 組み換えと遺伝的浮動 15. 期末テスト 16. 総括授業

【成績評価】 時々小テストを行い, 本試験と合わせて評価する.

【再試験】 なし

【教科書】

- ◇ 教科書: 「進化」分子・個体・生態系 メディカルサイエンスインターナショナル
- ◇ 参考書 タマリシ 遺伝学 上巻 培風館
- ◇ 参考書 クロー著 「遺伝学概説」(第 8 版) 培風館 2, 266 円
- ◇ 参考書 ワトソン著 「遺伝子の分子生物学」 東京化学同人
- ◇ 参考書 アルバーツ著 「細胞の分子生物学」(第 3 版)Garland

【WEB 頁】 <http://www.evolution-textbook.org>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219473>

【連絡先】

⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に指定しない, いつでもOK.)

代謝異常学

2 単位 3 年 (前期)
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】 生物の誕生から死の間に起こるさまざまな現象のうち, 特に今日的なトピックを取り上げ, それらの現象とその分子メカニズムについて理解する.

【授業概要】 細胞内での遺伝情報の流れを概説し, 細胞の情報伝達と機能調節について説明する. それらの内容を踏まえ, 個体の機能維持と調節の異常 (老化, ガンなど) の分子メカニズムについて概説する.

【キーワード】 遺伝子, DNA, シグナル伝達, 転写調節, 高次生命現象

【先行科目】 『分子生物学』(1.0, ⇒338 頁), 『分子遺伝学』(0.5, ⇒339 頁), 『発生学』(0.5, ⇒340 頁)

【関連科目】 『生物化学』(1.0, ⇒357 頁), 『適応進化学』(0.5, ⇒357 頁), 『細胞制御学』(0.5, ⇒356 頁)

【履修上の注意】 基本的な生物学の知識を持っていることが必要である.

【到達目標】 高次生命現象の分子メカニズムを理解する.

【授業計画】 1. (1)DNA と核の基本構造 I(DNA) 2. (2)DNA と核の基本構造 II(核) 3. (3)複製・転写・翻訳のメカニズム I(複製) 4. (4)複製・転写・翻訳のメカニズム II(転写) 5. (5)複製・転写・翻訳のメカニズム III(翻訳) 6. (6)遺伝子発現の調節機構 I(原核生物) 7. (7)遺伝子発現の調節機構 II(真核生物) 8. (8)細胞内シグナル伝達系 I(受容体) 9. (9)細胞内シグナル伝達系 II(リガンド) 10. (10)細胞周期

の調節 11. (11)インプリンティング 12. (12)ガン遺伝子とガン化のメカニズム 13. (13)老化のメカニズム 14. (14)幹細胞と再生医療 15. (15)総括授業 16. (16)学期末テスト

【成績評価】 小テストと学期末テスト

【再試験】 再テスト有

【教科書】 「分子生物学講義中継 Part 1-3」(井出利憲著, 羊土社). 授業に必要な部分はプリントで配付する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218770>

【連絡先】

⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日 12:00-13:00(総合科学部 1 号館北棟 2 階 3211 室))

細胞機能学

2 単位 3 年 (前期, 集中)
真壁 和裕・教授/社会創生学科, 渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】 細胞の分裂・増殖のメカニズムについて理解する. また動物の初期発生における細胞分裂や, 細胞分裂の研究に対する遺伝学的方法論を学ぶ.

【授業概要】 細胞の分裂・増殖と高次生命現象.

【キーワード】 発生周期, 減数分裂, 体細胞分裂

【先行科目】 『発生学』(1.0), 『分子生物学』(1.0)

【関連科目】 『細胞制御学』(0.5, ⇒356 頁), 『代謝異常学』(0.5, ⇒357 頁)

【到達目標】 細胞周期の調節機構を理解する.

【授業計画】 1. 1. 細胞と細胞周期 (1) 細胞の基本的特性 2. (2) 細胞周期の基本的特性 3. (3) 細胞周期へのアプローチ 4. 2. 初期胚の細胞周期 (1) 胚の細胞周期 5. (2) 細胞周期エンジン 1 6. (2) 細胞周期エンジン 2 7. 3. 細胞周期の遺伝学的解析 (1) 細胞分裂周期変異株 8. (2) スタート 1 9. (2) スタート 2 10. 4. 分裂期を制御する酵素 (1) 分裂酵母における細胞分裂の制御 1 11. (1) 分裂酵母における細胞分裂の制御 2 12. (2) 細胞周期エンジンの普遍性 13. (3) サイクリンと細胞周期 14. (4) 細胞分裂の翻訳後修飾 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】 期末テストの成績で評価する.

【再試験】 行わない

【教科書】 適宜プリントを配布する.

【参考書】 細胞の分子生物学 (中村桂子, 松原謙一監訳, ニュートンプレス)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219412>

【連絡先】

⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 本年度開講せず

生物化学

2 単位 2 年 (後期)
佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 生体を構成する生体高分子 (タンパク質・脂質・糖質など) に焦点を当て, その化学構造など基礎的な事項から, それらの生体内における機能や分析法までの総合的な理解を目的とする.

【授業概要】 生命現象の理解には, 生命を構成する分子レベルでの理解が不可欠である. ここでは, 生体を構成する脂質, 糖質, タンパク質に焦点を当て, これらの基本的な構造と機能を理解すると共に, 生化学的手法による検出・分析法についても講義を行う.

【キーワード】 タンパク質, 酵素, 脂質, 糖質, 分析法

【先行科目】 『比較生理生化学』(1.0, ⇒356 頁)

【関連科目】 『生体物質化学』(0.5, ⇒359 頁)

【履修上の注意】 生命・環境コース (生命機能サブコース・生命環境サブコース), 物質・環境コース (化学系サブコース) のサブコース指定科目です. 平成 23 年度以降は後期に「生化学」として開講します.

【到達目標】

1. 糖質・脂質・タンパク質の基本的な構造と機能が理解できる.
2. 糖質・脂質・タンパク質の分析法が理解できる.

【授業計画】 1. シラバス・評価方法の説明 2. アミノ酸の構造と機能, 分析法 3. タンパク質の構造 (一次-四次構造) 4. タンパク質の機能と分離法 5. タンパク質の構造解析法 (1) 6. タンパク質の構造解析法 (2) 7. 酵素の分類と性質 (1) 8. 酵素の分類と性質 (2) 9. タンパク質工学・酵素工学 10. 単糖の化学的性質と反応・分析法 11. 単糖と多糖類の構造と機能 12. 脂肪酸と脂質の基本構造 13. 脂肪酸と脂質の反応・分析法 14. 生体膜の構造と機能 15. 定期試験 16. 統括授業

【成績評価】 毎週の講義のまとめとして, 課題を出席者に渡します. 次の講義の時に提出していただき, 平均を平常点とします (6 割). 定期試験 (4 割) とあわせて評価します.

【再試験】 試験細則に準拠し, 受験資格のあるもののみ再試験を行います

【教科書】 ヴォート 「基礎生化学」(第 3 版) 田宮ほか訳 (東京化学同人)

【参考書】

- ◇ Alberts ほか, 中村桂子訳「Essential 細胞生物学」(南江堂)
- ◇ 石黒伊三雄監修「わかりやすい生化学 (第3版)」(廣川書店) などから, 適宜プリントを配布する
- ◇ 配布したパワーポイント資料, および実施済み課題は, 下記 web からダウンロードできます。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>
 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219384>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 特に指定しない。いつでもよい。研究室; 3号館3階北棟生物化学研究室, e-mail tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

地球表層環境論 I

2 単位 2 年 (後期)
石田 啓祐・教授/総合理数学科

【授業目的】 地層とその重なりを理解するために必要な基本事項を中心に学ぶ。地球の歴史時代に、地層に記録された、固体地球表層から水圏での自然環境に関わるできごとや、生物界の変遷を解析する方法について、層序学的、堆積学的な視点から講義する。

【授業概要】 地層と層序の解析, 堆積

【キーワード】 地層, 層序, 堆積

【関連科目】 『地球表層環境論 II』(0.5, ⇒358 頁)

【履修上の注意】 後期水 5-6 講時開講。専門的事項の理解のための小試験・レポート提出を随時行い、期末試験とともに評価対象にしている。英文テキストは Lithostratigraphy と Biostratigraphy の章を中心に講読し、英語と日本語による用語法の理解を深めます。

【到達目標】 層序区分の原理を理解し、岩相層序と生層序の基本が説明できる。

【授業計画】 1. 【層序区分の原理】 2. 絶対年代 (放射年代) と相対年代 3. 地質時代区分 4. 年代層序単元 (地質系統) と模式地 5. 岩相層序単元と地層命名規約 6. 古地磁気層序と磁気編年 7. 【岩相層序:Lithostratigraphy】 8. 整合と不整合, その種類 9. 同時異相, 鍵層による対比 (岩相境界と時間間) 10. 【生層序:Biostratigraphy】 11. 化石:分類カテゴリーと二名法 12. 地質時代とタクサの変遷 13. タクサの生存期間 (レンジ) と生層序単元・分帯 14. 生層序学的対比 15. 【碎屑粒子の移動と堆積の基礎】 16. 碎屑物の静水中での沈降と流水中での移動 17. 河川系の堆積物と礫のファブリック 18. 波浪限界, 海水準変動と地層 19. 堆積物重力流による地層の特徴 20. 堆積構造と上下判定

【成績評価】 講義への取り組み姿勢と、課題のレポート、期末試験を総合的に判断して評価します。

【再試験】 積極的な取り組み姿勢の見られた学生に対しては行う場合があります。

【教科書】

- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「層序と年代」共立出版, 2006 年。
- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版, 2004 年。

【参考書】

- ◇ Sam BOGGS Jr., Principles of Sedimentology and Stratigraphy (3rd ed.), Prentice Hall, 2001.
- ◇ 日本地質学会訳編「国際層序ガイド 層序区分・用語法・手順へのガイド」, 共立出版, 2001 年。
- ◇ 地学団体研究会編, 新版 地学事典, 平凡社, 1996 年。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218859>

【連絡先】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地球表層環境論 II

2 単位 3 年 (前期)
石田 啓祐・教授/総合理数学科

【授業目的】 堆積物や古生物の研究が地史的な地球表層環境の解析に果たす役割は大きい。プレート収束域に位置するわが国には、浅海から深海域で形成された中・古生代の各種堆積岩類が広く分布しており、堆積岩類の年代決定や堆積環境の解析には、大型化石とともに、微化石が有効である。本論では、古生物を用いた研究例を中心に、西南日本の中・古生界層序、ならびに堆積相・古海域環境の解析を中心に講義する。

【授業概要】 生層序地史, 付加体・関連堆積相と古海域環境, 西南日本の中・古生界層序と古生物

【キーワード】 堆積岩, 付加体, 海洋プレート層序, 微化石

【先行科目】 『地球表層環境論 I』(1.0, ⇒358 頁)

【関連科目】 『地球表層環境論 I』(0.5, ⇒358 頁)

【履修上の注意】 前期水 5-6 講時開講。講義への取り組みや内容の理解のためのレポート提出を行い、期末試験とともに評価対象にしている。地球表層環境論 I を履修していることを前提とします。

【到達目標】 海洋プレート層序やメランジュの構成と形成過程, 微化石による年代や堆積環境の解析手法を理解し, 付加体関連堆積相の概要が説明できる。

【授業計画】 1. 【付加体関連の堆積岩類の特徴】 2. 碎屑性堆積物:砂岩の組成による分類と熟成 3. 非碎屑性堆積物:石灰岩の分類, 遠洋性堆積物とチャート 4. 【中・古生界の層序と堆積相】 5. 年代・環境指標としての微化石:紡錘虫 6. 年代・環境指標としての微化石:コノドント 7. 年代・環境指標としての微化石:放射虫 8. プレート運動と付加体の海洋プレート層序 9. メランジュとオリストストローム 10. 西南日本の堆積相の層序と構成 (6 回) 11. (a) 概説, 和泉層群 12. (b,c) 秩父帯などの ジュラ紀付加体と前弧海盆堆積相 13. (d,e) 黒瀬川帯などのペルム紀付加体と斜面海盆堆積相 14. (f) 四万十帯の白亜紀・第三紀付加体 15. 白亜紀を例に:模式地アルプスの白亜系層序, 白亜紀という時代 16. 陸域, 前弧海盆から海溝へ:アジア東縁, 白亜系の堆積相と生物相

【成績評価】 講義への取り組み姿勢と、課題のレポート、期末試験を総合的に判断して評価します。

【再試験】 積極的な取り組み姿勢の見られた学生に対しては行う場合があります。

【教科書】

- ◇ 教科書 平 朝彦著, 日本列島の誕生, 岩波新書 148, 1990 年。
- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版, 2004 年。[公開]
- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「層序と年代」共立出版, 2006 年。

【参考書】

- ◇ 日本の地質編集委員会編, 日本の地質「増補版」, 共立出版, 2005 年。
- ◇ Sam BOGGS Jr. Principles of Sedimentology and Stratigraphy (3rd ed.) Prentice Hall 2001.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218860>

【連絡先】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地球表層システム論

2 単位 3 年 (前期)
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 地球表層を構成する地形と、地形を構成する物質である岩石・土の物性ならびにその中を流れる水の特徴について、地表環境の開発・保全・防災の観点から学ぶ。

【授業概要】 環境・建設・防災といった社会のニーズに地球科学の立場から応えるためには、岩石・岩盤・土の物性 (物理的・力学的性質) を把握することが必要である。また、地球表層における水の循環は、岩石と水との相互作用に影響する。その結果生じる岩石の風化帯は、斜面における物質移動 (すなわち土砂災害) の予備物質となる。以上をふまえて、この講義では、地球表層環境の開発・保全・防災に関する事柄の理解を目指した講義を行う。

【キーワード】 環境地学, 災害地質学, 応用地質学, 岩石の風化, 岩石の物理的性質

【先行科目】 『地球科学の基礎』(1.0, ⇒286 頁)

【関連科目】 『環境分析技術法』(0.5, ⇒313 頁)

【履修上の注意】 毎回パワーポイントを使用します。講義の途中または最後に、当日の理解度を確認するための小問題を出します。講義に関する質問を歓迎します。

【到達目標】 地球表層環境を構成する岩石・水・土の基本的な物性とその変化について理解する

【授業計画】 1. 地球表層の開発・保全・防災 2. 地形の形成と地表の変化 3. 平野・海岸の地形変化 4. 山地の地形変化 5. さまざまな地質調査の方法と評価 6. 土の物理的・力学的性質 7. 地下水の特徴 8. 地質環境の汚染と対策 9. 岩石・鉱物の風化 10. 風化による岩石物性の変化 11. 岩石の風化速度 12. 斜面における物質移動の種類と特徴 13. 斜面災害の解析 14. 大規模災害の特徴と予測 15. 試験 16. 総括授業

【成績評価】 毎回実施する小テストと、期末試験または期末レポートを総合的に判断して評価する。

【再試験】 再試験あり

【教科書】 指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】 参考書:「災害地質学入門」(近未来社), 「山崩れ・地すべりの力学」(筑波大学出版会), 「地形変化の科学」(朝倉書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219194>

【連絡先】

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 ~ 13 時)

天然物質化学

Natural Products Chemistry

2 単位 3 年 (後期)
中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】天然物資源から合成される化合物について、その生合成経路と合成された化合物の機能について理解する。
【授業概要】天然有機化合物の生合成、および機能
【キーワード】天然物化学、生合成、生物活性
【先行科目】『生体物質化学』(1.0、⇒359頁)
【履修上の注意】有機化学の基礎知識を修得していることが望ましい
【到達目標】化学構造とその分類、生物活性、生合成などについての基礎知識を修得する
【授業計画】1. はじめに 2. 生合成経路の研究法 3. 酢酸-マロン酸経路(1) 4. 酢酸-マロン酸経路(2) 5. 酢酸-マロン酸経路(3) 6. シキミ酸経路(1) 7. シキミ酸経路(2) 8. メバロン酸経路(1) 9. メバロン酸経路(2) 10. メバロン酸経路(3) 11. その他の経路(1) 12. その他の経路(2) 13. その他の経路(3) 14. その他の経路(4) 15. 期末試験 16. 総括授業
【成績評価】学期末テスト、レポート、受講態度
【再試験】行わない
【教科書】授業で必要な資料を随時配布する。
【参考書】授業の中で適宜紹介する。
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219201>
【連絡先】
⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】上記の授業計画は、予定であり変更することもある。

生体物質化学

2 単位 3 年 (前期)
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】重要な生体分子に関する有機化学の基礎を修得する。
【授業概要】基礎生物有機化学
【履修上の注意】有機物質系の化学 I, II を履修済みであることが望ましい。
【到達目標】重要な生体系有機化合物の構造式、基本的な物理的性質、化学的性質が理解できること。
【授業計画】1. 生体物質理解のための立体化学 2. 糖質の化学概論 3. 単糖の化学 I 4. 単糖の化学 II 5. オリゴ糖・多糖の化学 6. タンパク質の化学概論 7. アミノ酸の化学 I 8. アミノ酸の化学 II 9. ペプチドの化学 10. タンパク質の立体化学 11. 脂質の化学 I 12. 脂質の化学 II 13. 核酸の化学 I 14. 核酸の化学 II 15. 重要な事項の復習 16. 期末テスト
【成績評価】期末テストによる。なお、項目別の中間テストを行い、その合計で評価することもある。詳細は、最初の講義時間に説明し、決定する。
【再試験】相談の上、行うこともある。
【教科書】有機物質系の化学 I&II と同じ教科書 [ソロモンの新有機化学 (下巻)] を用いるが、内容を相当補充する。
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219364>
【連絡先】
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)水曜日 12時-13時)
【備考】この講義は生物有機化学に変更されています。新しいシラバスは生物有機化学のものをご覧ください。

財政学 I public finance I

2 単位 3 年 (前期)
石田 和之・助教授/社会創生学科

【授業目的】財政の制度や現状を理解し、財政学の基礎的な理解を得る。
【授業概要】財政学 I と財政学 II を合わせて、財政学全般にわたる講義を行う。部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが、極力数式による説明を避け、グラフと言葉を多用して解説する。
【キーワード】政府、予算、税、財政
【関連科目】『財政学 II』(1.0、⇒359頁)、『経済原論 I』(0.5、⇒176頁)、『経済原論 II』(0.5、⇒244頁)
【履修上の注意】通年での履修を推奨する。
【到達目標】
1. 財政の現状を理解する
2. 財政学の基礎的理解を得る
【授業計画】1. 財政と財政学 2. 日本の財政制度 (1) 予算・決算・会計 3. 日本の財政制度 (2) 国家財政・地方財政 4. 日本の財政制度 (3) 政府間財政 5. 財政の 3 機能 (1) 資源配分機能 6. 財政の 3 機能 (2) 所得再分配機能 7. 財政の 3 機能 (3) 経済安定化機能 8. 財政と金融 9. 政府の捉え方 10. 租税の基礎 11. 日本の税制: 国税・地方税 12. 税制の経済効果 13. 消費課税 14. 所得課税 15. 資産課税 16. 定期試験 (または、期末レポート)
【成績評価】授業への取組み (20%)、中間試験 (または中間レポート) (30%)、定期試験 (または期末レポート) (50%) による
【再試験】無

【教科書】無
【参考書】講義中に配布する。
【WEB 頁】<http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/zaiseigaku1.html/>
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219463>
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日5-6講時)

財政学 II PublicFinance2

2 単位 3 年 (後期)
石田 和之・助教授/社会創生学科

【授業目的】財政の制度や現状を理解し、財政学の基礎的な理解を得る。
【授業概要】財政学 I と財政学 II を合わせて、財政学全般にわたる講義を行う。部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが、極力数式による説明を避け、グラフと言葉を多用して解説する。
【キーワード】政府、社会保障、受益と負担、パブリック・マネジメント、公共支出
【関連科目】『財政学 I』(1.0、⇒359頁)、『経済原論 I』(0.5、⇒176頁)、『経済原論 II』(0.5、⇒244頁)
【履修上の注意】通年での履修を推奨する。
【到達目標】
1. 財政の現状を理解する
2. 財政学の基礎的理解を得る
【授業計画】1. 受益と負担 2. 公債 (1) 資金調達 3. 公債 (2) 債務残高 4. 社会保障 (1) 年金財政 5. 社会保障 (2) 医療財政 6. 教育財政 7. 公共事業 8. パブリック・マネジメント 9. 環境と財政 10. 文化と財政 11. トピック (1) 地域間格差 12. トピック (2) 国と地方の役割分担 13. トピック (3) 政府の規模 14. トピック (4) 国会 (議会) と予算 15. トピック (5) 公平と効率 16. 定期試験 (または、期末レポート)
【成績評価】授業への取組み (20%)、中間試験 (または中間レポート) (30%)、定期試験 (または期末レポート) (50%)
【再試験】無
【教科書】無
【参考書】講義中に配布する。
【WEB 頁】<http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/zaiseigaku1.html/>
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219464>
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日5-6講時)

教職に関する科目 授業概要

● 教職に関する科目 (旧)

教師論 ...大宮/3年(前期).....	360
教育学 ...弘田/2年(後期,集中).....	360
教育心理学 ...原/2年(後期).....	360
学校制度論 ...岩永/2年(後期).....	360
教育課程論 ...村川・前田/2年(後期,集中).....	361
国語科教育法Ⅰ ...仙波/2年(前期).....	361
国語科教育法Ⅱ ...仙波/2年(前期).....	361
社会科教育法 ...梅津/2年(後期).....	362
地理歴史科教育法 ...立石/2年(後期).....	362
公民科教育法 ...井上/2年(前期).....	362
英語科教育法Ⅰ ...中島/2年(後期).....	362
英語科教育法Ⅱ ...中島/2年(後期).....	362
美術科教育法Ⅰ ...平木/2年(前期).....	363
美術科教育法Ⅱ ...平木/2年(前期).....	363
保健体育科教育法Ⅰ ...佐藤・中村/2年(前期,集中).....	363
保健体育科教育法Ⅱ ...佐藤/2年(前期).....	363
数学科教育法Ⅰ ...服部・小野/2年(前期).....	364
数学科教育法Ⅱ ...服部・小野/2年(前期).....	364
情報科教育法Ⅰ ...中山/3年(前期).....	364
情報科教育法Ⅱ ...中山/3年(後期).....	364
理科教育法Ⅰ ...續木・齊藤・渡部・今井・増田・三好/2年(前期).....	365
理科教育法Ⅱ ...續木・齊藤・渡部・今井・増田・三好/2年(前期).....	365
道德教育 ...大宮/3年(前期).....	365
特別活動研究 ...木下/3年(前期).....	365
教育方法学 ...村川/3年(前期).....	366
生徒指導論 ...大宮/3年(後期).....	366
教育相談 ...福森/3年(後期).....	366
総合演習 ...大宮/3年(前期).....	366
教育実習事前事後指導 ...大宮/4年(通年).....	367

教師論

2 単位 3 年 (前期)
大宮 俊恵・准教授/人間文化学科

【授業目的】「子どもに慕われ、親に尊敬され、同僚に愛され、校長に信じられる」教師を育成し、新たな時代にふさわしい教師として学校教育が担えるよう、確固たる教師観と実践に繋がる資質・能力を養成する。

【授業概要】現代の子どもたちは社会的・家庭的要因からくる様々な問題を抱えていること、また、そこから派生する学校現場での問題点や課題も多々あること、それでも尚かつ、教職に勝る職業はなしと考える多数の教師の声から学校現場の実情を把握した上で、教職の意義及び教員の役割・職務内容を学生自ら主体的に学べるようにする。また、先人の崇高なる教師論を学ぶ中で、教師としての使命感と真の教育愛等について反芻しながら、社会の養成である豊かな人間性と確かな指導力のある教師とは、と学生自身が「理想とする教師像」を描けるようにする。さらに、本講座「教師論」を学んだことにより、自らの適性等を考えるなど、学生自身が将来に対する方向性・展望がもてるよう進路選択の機会を提供する教職科目のひとつとする。

【キーワード】教育現場の実情、教職の意義、教員の職務内容、教員の服務

【履修上の注意】各人の意見を述べ合う場を授業中に設けます。課題意識をもって授業に参加してください。

【到達目標】1. 学校現場の実情を理解する。2. 教職の意義、教員の職務内容等主体的に学ぶ。3. 理想とする教師像を描くことができる。

【授業計画】1. 教育現場の実情把握 2. 学校現場の問題点/課題 3. 教職の意義・教員の使命 4. 教員の役割 5. 教員の職務内容 6. 教員の服務 7. 学校現場参観 8. 教員の身分保障 9. 教育内容(学習指導要領) 10. 理想の教師像(中学校長に学ぶ) 11. 理想の教師像

(高等学校長に学ぶ) 12. 理想の教師像(教育長に学ぶ) 13. フィンランドの教育事情 14. 教職への展望(自分の理想とする教師像) 15. まとめ

【成績評価】各授業の課題・参加態度、最終レポート、出席状況等により総合的に評価します。

【再試験】なし

【教科書】必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する。

【参考書】適宜、参考図書資料を紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219253>

【連絡先】

⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育学

2 単位 2 年 (後期,集中)

弘田 陽介・助教/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】教育の理念の成り立ちを近代思想史の文脈において把握することをテーマとする。そのような歴史的知見を単なる知識にとどめず、現在の教育言説や制度改革にまで連なる一つの思想の流れの中で解釈できるところまで、思想的な訓練を深めたい。また小発表を通して、文献や資料に沿って、自らの解釈を提示するというスキルを磨いていくことも到達目標としたい。

【授業概要】教育の理念および思想史を、現在の私たちの教育問題と接続して考えていく。そのために、近代的な学問・科学の成立といった事象を、今日的な教育制度の成立と連関させて把握する。授業は、主に講義・テキスト読解・映像分析をメインとするが、受講者の小発表を織り交ぜることで、活発に自由な議論が展開できるように工夫する。

【授業計画】1. 導入 授業の概略と進め方について 2. 現在の教育言説 3. 子供の成長 誕生から幼児期まで 4. 子供の成長 少年期から思春期まで 5. 子供の成長 青年期から 6. 生涯教育の思想 7. 母と子の教育学 8. 教育を形作った思想 ルソーとベスタロッチ 9. 教育を形作った思想 カント 10. 学問としての近代教育 ヘルバルト 11. 教育を形作った思想 フーコー 12. 教育の理念における経験の思想 森有正 13. 教育の理念における身体思想 古典・芸道の理念 14. レポートの構成・書き方 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価】授業への積極的な参加 (20%)、小発表 (30%)、学期末のレポート (50%)

【再試験】なし

【教科書】プリントを適宜用意する

【参考書】弘田陽介『近代の擬態/擬態の近代』(東京大学出版会・2007)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219254>

【連絡先】

⇒ byu00616@nifty.com

教育心理学

2 単位 2 年 (後期)

原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】学校教育で有用な学習や発達に関する事柄を伝える。また、特別支援教育が始まり障害をもつ子どもたちへの対応の重要性についても理解する。

【授業概要】学習、社会性、動機付けなどについてそれらの理解と発達を考えた子どもの理解をする。

【キーワード】学習心理、発達心理、指導

【関連科目】『学習心理学』(0.5、⇒257頁)

【到達目標】心理学の理論や事実を通じて教室場面において日常の中で日々何が起きているのかを想像しながら地道な働きかけを知る。

【授業計画】1. 1. 発達と学習 2. 2. 学校教育と個人差 3. 3. 研究法 4. 4. 発達の諸理論 5. 5. 身体と運動機能の発達 6. 6. 知覚と記憶の発達 7. 7. 読み書きの発達 8. 8. 思考と知能の発達 9. 9. パーソナリティと情動の発達 10. 10. 社会性の発達 11. 11. 道徳性の発達 12. 12. 学習の諸理論 13. 13. 動機づけと学習 14. 14. 授業過程と学習 15. 15. まとめ

【成績評価】2/3 以上の出席を必要条件として、受講態度および試験による評価

【教科書】「発達・学習の心理学」(学文社)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219257>

【連絡先】

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】自分自身が経験することになることを想像して聴いてください。

学校制度論

2 単位 2 年 (後期)

岩永 定・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】教育現象を、教授-学習関係というミクロな視点からだけでなく、社会的(政策、行政、法・制度等)な文脈に位置づけて把握するというマクロな視点の獲得を目指します。

【授業概要】国民の「教育を受ける権利」の保障を使命とする教職員には、教育関係法令の理解と遵守が求められています。この講義では、①公教育が基盤としている法と行政に関する基本的知識、②法理念の実現のためにとられている教育制度の概要と学校経営の構造、③現代の教育改革の動向と具体的内容について触れる。

【履修上の注意】教育(小)六法を持参することが望ましい。

【到達目標】

1. 教育法と行政の基本について理解し、説明できる。主要な法令については、その条文内容を理解している。
2. 教育制度の基本的構造について、その法的根拠とともに説明できる。
3. 今日教育改革の動向について、その背景と意義、問題点について説明できる。また、改革の方針・内容についてもその概要を理解している。

【授業計画】1. 法の存在形式(法源) 2. 憲法・教育基本法の理念 3. 条約等に見る現代公教育の理念 4. 学校制度と就学義務 5. 学校運営の具体的な仕組み 6. 学校・学級経営の役割 7. 学校における生徒指導(懲戒、体罰、校則) 8. 学校における保健・衛生・安全 9. 教育課程と教科書 10. 教職員に関する制度 11. 学校を支える教育行政①:中央教育行政 12. 学校を支える教育行政②:地方教育行政 13. 地方分権と学校の自律性 14. 学校と家庭・地域の連携 15. 学校評価とアカウントビリティ

【成績評価】期末試験の総合点で評価します。

【再試験】3分の2以上の出席を条件に実施します。

【教科書】

- ◇ 教育六法(平成20年版、三省堂)
- ◇ ※平成19年度に学校教育法の大規模改定があったため、それ以前の六法は使用不可。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218483>

【連絡先】

- ⇒ Tel:687-6255,ただし留守の場合が多いので、メールによる質問を勧めます。
- ⇒ iwanaga@naruto-u.ac.jp,自宅でも可能なので時間帯は問いません。

教育課程論

2単位 2年(後期,集中)

村川 雅弘・非常勤講師/鳴門教育大学, 前田 洋一・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】学習指導要領においては創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めることが求められており、教師には個々の授業を越えて教育課程を構想、実践する力がますます必要とされている。本授業科目では、教育課程に関する基本的な概念理解を深めるとともに、学習指導要領の変遷と時代背景、今次学習指導要領改訂の特徴、学力問題をはじめとした教育課程をめぐる昨今の動向、将来の実践づくりに向けての展望と具体的な手だてを習得することを旨とする。授業の中では、映像や資料を活用して、わが国における具体的な事例をできるかぎり取り上げる。

【授業概要】教育課程や学習指導要領に関する資料や映像資料の分析及びそれに基づく協議を通して、授業実践の基盤となる教育課程の理解を具体的・実践的に学ぶ。

【キーワード】教育課程、学習指導要領、個別化・個性化、カリキュラムマネジメント、学習環境

【履修上の注意】具体的な資料や事例についての各自の意見・感想の記述や発表及びそれに基づく協議を重視する。新学習指導要領が求めている「思考・判断・表現」及び「言語活動」の活用、協同的な学習を自ら体験してほしい。

【到達目標】

1. 教育課程の基本概念を理解する。
2. 学習指導要領の変遷と新学習指導要領の特徴を理解する。
3. 総合的な学習の時間の意義と今次改訂のポイントを理解する。

【授業計画】1. 教育課程・カリキュラムの基礎概念 2. 教育課程・カリキュラムの基礎概念 3. PISA型学力と教育課程 4. PISA型学力と教育課程 5. 見えないカリキュラムと見えるカリキュラム 6. 見えないカリキュラムと見えるカリキュラム 7. 学校カリキュラムの構築と評価 8. 学校カリキュラムの構築と評価 9. 学習指導要領の変遷と時代背景 10. 学習指導要領の変遷と時代背景 11. 中央教育審議会答申及び新学習指導要領の特徴 12. 中央教育審議会答申及び新学習指導要領の特徴 13. 総合的な学習の時間の充実と知の総合化 14. 総合的な学習の時間の充実と知の総合化 15. 総合的な学習の時間の充実と知の総合化 16. 本授業のまとめとテスト

【成績評価】授業への出席とワークシートの記述(60%)及び中間レポートと最終テスト(40%)により総合的に評価する。

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』

【参考書】

- ◇ 村川雅弘・酒井達哉編『総合的な学習 充実化戦略のすべて』日本文芸出版
- ◇ 村川雅弘編『「確かな学力」としての学びのスキル』日本文芸出版
- ◇ 村川雅弘編『「生きる力」を育むポートフォリオ評価』ぎょうせい
- ◇ その他、適宜資料を配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219259>

【連絡先】

- ⇒ 授業等の問い合わせは、授業の前後に直接またはメールで(murakawa@naruto-u.ac.jp)。

国語科教育法 I

2単位 2年(前期)

仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】学校教育の中での国語科の目標及び位置づけを理解した上で、中学校及び高等学校国語科の教材を通してどのような授業が展開できるかを学ぶ。主として説明文、論説文などの教材を扱う。

【授業概要】主として、評論・論説・随想などの教材を対象として、国語科の教材分析の方法と、授業として展開するために必要な知識と技能を身につける。

【キーワード】説明的文章教材、論説文、文章の構造、段落、事実と意見

【履修上の注意】今年度は開講せず。23年度に開講する。

【到達目標】

1. 国語科教育の目的・目標が理解できる。
2. 教材分析が適切にできる。
3. 授業計画がきちんと立案できる。

【授業計画】1. 1) 国語科の領域、指導目標、国語科指導要領について(併せ、国語科教育の歴史概観) 2. 国語科指導要領について その2 3. 国語科指導要領について その3 4. 説明文の基本的な構造、併せて事実と意見との区別。 5. 段落の構造と段落の意義 6. クジラたちの声(その1) 7. クジラたちの声(その2) 8. 胸の底の人と言葉たち(その1) 9. 胸の底の人と言葉たち(その2) 10. モアイは語る(その1) 11. モアイは語る(その2) 12. 言葉の力 13. メディア社会を生きる(その1) 14. メディア社会を生きる(その2) 15. レポート作成 16. 補足など

【成績評価】出席50%、レポート(指導案作成)50%の割合で評価する。

【再試験】あり。

【教科書】

- ◇ 教科書 未定。プリントを配布、または適切な教科書を選定する予定。
- ◇ 参考書 『中学校学習指導要領解説——国語編——』と『高等学校学習指導要領解説 国語編』(ともに最新版)を留意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218610>

【連絡先】

- ⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時10分~13時20分)

【備考】隔年開講(来年度は開講しない。23年度度開講。)

国語科教育法 II

2単位 2年(前期)

仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】学校教育の中での国語科の目標及び位置づけを理解した上で、中学校及び高等学校国語科の教材を通してどのような授業が展開できるかを学ぶ。文学的文章教材、古典教材、その他を中心とする。

【授業概要】文学的文章教材、古典教材などの国語科教材としての分析法と扱い方、授業の組み立て方などを扱う。

【履修上の注意】中学校国語科免許を取ろうとする人は、2科目4単位分を受講して下さい。

【到達目標】

1. 国語科教育の目的・目標が理解できる。
2. 教材分析が適切にできる。
3. 授業計画がきちんと立案できる。

【授業計画】1. 国語科の領域、指導目標、国語科指導要領について(併せ、国語科教育の歴史概観) 2. 文学的文章の分析法(説明的文章と何が異なるのか) 3. 文学教材の分析法と指導上の留意点(「少年の日の思い出」その1) 4. 文学教材の分析法と指導上の留意点(「少年の日の思い出」その2) 5. 文学教材の分析法と指導上の留意点(「少年の日の思い出」その3) 6. 文学教材の分析法と指導上の留意点(「ゼブラ」その1) 7. 文学教材の分析法と指導上の留意点(「ゼブラ」その2) 8. 文学教材の分析法と指導上の留意点(「ゼブラ」その3) 9. 文学教材の分析法と指導上の留意点(「握手」その1) 10. 文学教材の分析法と指導上の留意点(「握手」その2) 11. 文学教材の分析法と指導上の留意点(まとめ) 12. 古典教材の分析法と指導上の留意点(入門段階の古典の指導 竹取物語など) 13. 古典教材の分析法と指導上の留意点(古典に親しませるには) 14. 古典教材(漢文を含む)を扱う場合の指導上の留意点。 15. まとめ、指導案の作成 16. 補足(内容未定)

【成績評価】演習の内容等50%、レポート(指導案作成)50%の割合で評価する。

【再試験】あり

【教科書】プリントを配布。

【参考書】『中学校学習指導要領解説——国語編——』と『高等学校学習指導要領解説 国語編』(ともに最新版)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219142>

【連絡先】

総合科学部 (2011) 教職に関する科目

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時10分~13時20分)

【備考】隔年開講 (23年度は開講せず、平成24年度開講)

社会科教育法

2単位 2年 (後期)

梅津 正美・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】中学校社会科を主たるフィールドに、社会科教育の目標・内容・方法・評価に関する理論と方法について講義・演習を行い、社会科教育実践力の基礎を培う。

【授業概要】社会科授業構成の理論と方法について学ぶ。

【履修上の注意】講義形式を主とするが、演習課題に対する口頭発表・討議やビデオ視聴などの学習形態を適宜取り入れる。

【到達目標】

1. 社会科授業構成論を典型的に把握できる。
2. 目標・授業・評価の一体化を観点に社会科授業を構成できる。
3. 学習指導案を書くことができる。

【授業計画】1. 中学校社会科教育をめぐる諸課題とその解決にむけての視座 2. 社会科の理念と目的 3. 社会科教育の歴史と主要な論争 4. 社会科教育の目標 5. 社会科教育の内容編成 6. 社会科授業構成論 (1)-社会科における「基礎的・基本的な内容」概念の解釈- 7. 社会科授業構成論 (2)-社会科授業における「知識」「問い」「思考」の連関- 8. 社会科授業構成論 (3)-社会科授業論の諸類型- 9. 社会科授業構成論 (4)-教材解釈- 10. 社会科教育実践の分析 (1)-教科書分析- 11. 社会科教育実践の分析 (2)-授業分析- 12. 社会科教育実践の分析 (3)-テスト問題分析- 13. 社会科評価論の新しい動向 14. 中学校社会科教育実践の課題 15. まとめと評価

【成績評価】成績評価は、出席状況、演習課題への取り組み状況、学期末試験の到達状況を総合的に勘案して行う。

【再試験】行わない。

【教科書】教科書は特に指定しない。授業の進行過程で適宜教材プリントを配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219400>

【連絡先】

⇒ 梅津 (オフィスアワー: umezu@naruto-u.ac.jp)

【備考】平成24年度開講

地理歴史科教育法

2単位 2年 (後期)

立石 恵嗣・非常勤講師/徳島県立文書館

【授業目的】我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。1 地理的歴史のものの見方や考え方を養う。2 グローバルな視点で現代社会を考え、行動できる能力と資質を養う。3 生きている地域を知り、地域の発展に貢献できる知識・能力・資質を養う。4 地理歴史学習を、生徒自ら学ぶことができる技術や指導力を養う。

【授業概要】総論においては、地理歴史科の目標を理解し、学校現場の現状を踏まえながら、地理歴史教育の理論と要点を考える。授業研究や特論においては、地域学習や人権学習を取り上げ具体的な事例研究を行う。授業実践研究においては学習指導案の作成と模擬授業を行う。その他、社会教育施設の見学や、教員採用試験対策も行う。

【キーワード】「時間」、「空間」、「地理的歴史的思考」、「世界の中の日本」、「生きる力」

【到達目標】我が国や世界の社会を地理的歴史的に考え、理解し、行動できる力を養う

【授業計画】1. オリエンテーション 地理歴史科教育の目指すもの 2. 総論① 学習指導要領とカリキュラム 3. 総論② 地理歴史教育の理論と実際 4. 総論③ 地理歴史教育の理論と実際-「学習指導案」 5. 授業研究「地域学習」と「人権学習」-地域社会の歴史と文化- 6. 授業特論①「吉野川の歴史と文化」 7. 授業特論②「阿波藍の歴史と文化」 8. 授業特論③「北海道の開拓と徳島」 9. 社会教育施設見学-徳島城博物館- 10. 授業実践研究① 受講者 (指導案作成と模擬授業) 11. 授業実践研究② 受講者 (指導案作成と模擬授業) 12. 授業実践研究③ 受講者 (指導案作成と模擬授業) 13. 授業実践研究④ 受講者 (指導案作成と模擬授業) 14. 授業実践研究⑤ 受講者 (指導案作成と模擬授業) 15. 総括 教員への道-教員採用試験の現状と対策

【成績評価】①学習活動(ワークシート・レポート)②学習指導案③模擬授業実践④出席状況などを総合して評価する

【教科書】

- ◇ ①社会認識教育学会編『改訂新版 地理歴史科教育』学術図書出版社
- ◇ ②原田智仁編『社会科教育へのアプローチ』現代教育社

【参考書】授業時に適宜指示し、関係資料を配付する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219199>

【連絡先】

⇒ 徳島大学総合科学部学務係

【備考】隔年開講

公民科教育法

2単位 2年 (前期)

井上 菜穂・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】高等学校公民科の特質と課題及び、その教育目標に適した効果的な指導法についての理解を通して、当核教科書を担当し、指導できる基礎的な知識と能力を養う。

【授業概要】高等学校の公民科教育の方法論を探究するために、①当核教科書の特質と課題及び②効果的な指導法及び教材について理解する。さらに、①②の理解を授業実践へとつなげる課題として、当核教科書の各科目から単元を選択し、学習指導計画の構想及び模擬授業を課す。

【キーワード】市民的資質、社会認識形成、指導法、教材

【履修上の注意】本授業では、講義形式と演習形式を適宜行う。講義内容の確実な理解と演習課題への積極的な取り組みを期待する。

【到達目標】

1. 高等学校公民科の成立過程の検討を通して、その特質と課題を理解する。
2. 高等学校公民科の教育目標に適した効果的な指導法及び教材について理解する。
3. 高等学校公民科の各科目から単元を選択し、学習指導計画を構想できる。

【授業計画】1. オリエンテーション、アンケート、社会科の成立 2. 公民科教育の歴史 3. 公民科の目標と科目構成 4. 公民科の指導法及び教材を捉える枠組み 5. 公民科の指導法及び教材の分析-公民科「現代社会」の場合- 6. 公民科の指導法及び教材の分析-公民科「政治経済」の場合- 7. 公民科の指導法及び教材の分析-公民科「倫理」の場合- 8. 公民科の指導法及び教材の特質 9. 公民科の指導法及び教材の課題 10. 学習指導計画と板書計画の特質 11. 学習指導計画と板書計画の作成 12. 模擬授業の実施とその評価 (1) 13. 模擬授業の実施とその評価 (2) 14. 模擬授業の検討 15. 公民科の課題と学習評価 16. 授業のまとめ

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219122>

英語科教育法 I

2単位 2年 (後期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】優れた教師であると同時に優れた英語学習者の養成。学習指導要領 (中学英語) を理解するとともに、英語教科書の評価法について学ぶ。

【授業概要】英語指導の基本を学び、中学を中心に英語評価法について理論と実践の両面から考える。

【キーワード】学習指導要領、評価法

【履修上の注意】Excelの基礎的な操作ができることを前提とする。

【到達目標】

1. 学習指導要領 (中学英語) を理解する。
2. 英語の授業を通じて、生徒・学生が何をどの程度理解したか、また、何がどの程度理解できていないかを出来るだけ客観的に測定・評価する方法について学ぶ。

【授業計画】1. ガイダンス 2. 学習指導要領 (中学英語) について (1) 3. 学習指導要領 (中学英語) について (2) 4. 英語テスト問題の妥当性 5. 英語テスト問題の信頼性 6. 基礎統計量 7. 評価法について 8. 発展的指導 9. 評価について 10. 英語力の評価と指導について

【成績評価】授業への参加度および定期試験による。

【再試験】なし

【教科書】「英語教師のための教育データ分析入門」(三省堂五監修、大修館書店)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219448>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

【備考】隔年度開講 (平成23年度は開講せず)

英語科教育法 II

2単位 2年 (後期)

中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】・学習指導要領 (中学英語) を理解する ・英語教育データの統計分析・処理と英語教科書の評価法を学ぶ

【授業概要】学習指導要領 (中学英語) を理解する。妥当性と信頼性の高い測定をするためのテストとはどのようなものか考えていく。また、テスト結果を客観的に評価するためのデータ分析方法や統計手法についても演習形式で学ぶ。

【キーワード】学習指導要領、基礎統計学、Excel 統計

【履修上の注意】Excelの基礎的な操作ができることを前提とする

【到達目標】

総合科学部 (2011) 教職に関する科目

1. 学習指導要領 (中学英語) を理解する。
2. 英語の授業を通じて、生徒・学生が何をどの程度理解したか、また、何がどの程度理解できていないかを出来るだけ客観的に測定・評価する方法について考える。そのために必要なテスト問題を作成するには何に留意する必要があるのか、客観的に評価するためにどのような手法が必要なのか、分析結果を効果的な指導に結びつけるにはどうしたらいいか考察する。
- 【授業計画】 1. ガイダンス 2. 学習指導要領 (中学英語) について (1) 3. 学習指導要領 (中学英語) について (2) 4. 英語テスト問題の妥当性について 5. 英語テスト問題の信頼性について 6. 英語テストの尺度としての性質について 7. 英語テスト結果の基本的性質を読み取る 8. 英語のテスト結果を比べる 9. 男女・クラス間の差を分析する 10. 3つ以上のクラスのテスト結果を比較分析する 11. 少人数クラスのテスト結果を分析する 12. テスト得点間の関係の検討 13. テストの信頼性の検討 14. 統計手法の選択について 15. 英語力の評価と指導について 16. 総括
- 【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。
- 【再試験】 なし
- 【教科書】 「英語教師のための教育データ分析入門」(三浦省五監修、大修館書店)
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219449>
- 【連絡先】
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
- 【備考】 隔年度開講 (平成 23 年度は開講)

美術科教育法 I

2 単位 2 年 (前期)
平木 美鶴・教授/社会創生学科

- 【授業目的】 高等学校の学習指導要領美術・工芸を理解して学習指導案を作れる
- 【授業概要】 この授業は、美術教員の免許取得のための科目である。学習指導要領の高等学校美術科教育について知識を深めるために、高等学校学習指導要領美術・工芸に沿った学習目標を立て、学習指導案を作り、それに従い模擬授業を行い、知識と実践を伴った学習を進めて行く。
- 【キーワード】 美術、教育
- 【関連科目】 『美術科教育法 II』(0.5, ⇒363 頁)
- 【履修上の注意】 予習や宿題を確実にすること。
- 【到達目標】 高等学校学習指導要領美術・工芸を理解し授業案を作ることができる。
- 【授業計画】 1. 指導案の書き方について 2. 授業実習 1, 指導案の添削「目的について」 3. 指導案の添削「題材設定について」 4. 指導案に沿って授業を行う。1 5. 指導案に沿って授業を行う。2 6. 指導案に沿って授業を行う。3 7. 授業実習 2, 指導案の添削「目的について」 8. 指導案の添削「題材設定について」 9. 指導案の添削「授業の展開について」 10. 指導案の添削「授業の展開について」 11. 指導案に沿って授業を行う。1 12. 指導案に沿って授業を行う。2 13. 指導案に沿って授業を行う。3 14. 指導案に沿って授業を行う。4 15. 指導案に沿って授業を行う。5 16. まとめ
- 【成績評価】 学習指導案作りの理解を評価として、出席や授業への取り組み姿勢等を併用して行う。
- 【再試験】 行わない
- 【教科書】 教科書は、新学習指導要領中学校美術、新学習指導要領高等学校芸術を使用する。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218960>
- 【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時)

美術科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)
平木 美鶴・教授/社会創生学科

- 【授業目的】 中学・高等学校の学習指導要領美術・工芸を理解して学習指導案を作れる。
- 【授業概要】 この授業は、美術教員の免許取得のための科目である。学習指導要領の中・高美術科教育について知識を深めるために、中学校学習指導要領美術に沿った学習目標を立て、学習指導案を作り、それに従い模擬授業を行い、知識と実践を伴った学習を進めて行く。
- 【キーワード】 美術、芸術、教育
- 【先行科目】 『美術科教育法 I』(1.0, ⇒363 頁)
- 【関連科目】 『美術科教育法 I』(0.5, ⇒363 頁)
- 【履修上の注意】 予習や宿題を確実にすること。
- 【到達目標】
1. 中学校学習指導要領美術を理解する。
2. 学習指導案を作り授業をする事ができる。

- 【授業計画】 1. 指導案の書き方について 2. 授業実習 1, 指導案の添削「目的について」 3. 指導案の添削「題材設定について」 4. 指導案に沿って授業を行う。5. 指導案に沿って授業を行う。6. 指導案に沿って授業を行う。7. 授業実習 2, 指導案の添削「目的について」 8. 指導案の添削「題材設定について」 9. 指導案の添削「授業の展開について」 10. 指導案の添削「授業の展開について」 11. 指導案に沿って授業を行う。12. 指導案に沿って授業を行う。13. 指導案に沿って授業を行う。14. 指導案に沿って授業を行う。15. 指導案に沿って授業を行う。16. まとめ「授業の反省」
- 【成績評価】 評価は、模擬授業の評価を基本として、出席や授業への取り組み姿勢等を併用して行う。
- 【再試験】 行わない
- 【教科書】 教科書は、新学習指導要領中学校美術、新学習指導要領高等学校芸術を使用する。
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219441>
- 【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時)
- 【備考】 平成 24 年度開講

保健体育科教育法 I

2 単位 2 年 (前期, 集中)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 中村 久子・教授/人間文化学科

- 【授業目的】 中学校の保健体育科における教育方法を理解し実践できる能力を養う。
- 【授業概要】 中学校の生徒の健康の保持増進と実践力を育成するために必要な体育の効果と重要性、ウェルネスなライフスタイルの創出、ストレスをはじめ現代的健康問題の解決等を視野に入れつつ、保健体育科教育の目標論、教材論、教材の精選・構造化、評価法についての理論を学習する。
- 【履修上の注意】 隔年開講 (奇数年度開講)
- 【到達目標】 中学校の保健体育科教育法の内容を理解し授業運営のしかたを学ぶ。
- 【授業計画】 1. ガイダンス 2. 身体教育の変遷 I 明治時代 3. 身体教育の変遷 II 大正時代 4. 身体教育の変遷 III 昭和 (戦前) 5. 身体教育の変遷 IV 昭和 (戦後) 6. 保健体育科教育の目標 7. 保健体育科教育の内容 8. 各領域の特性 9. 教材について I 10. 教材について II 11. 指導法について 12. 評価について 13. 授業実践 I 14. 授業実践 II 15. まとめ 16. 試験
- 【成績評価】 出席状況、レポート、授業指導実践の内容などを総合的に評価
- 【再試験】 なし
- 【教科書】 中学校学習指導要領解説 (保健体育編), 体育科教育法講義・大修館書店
- 【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219113>
- 【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)
- 【備考】 隔年開講

保健体育科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科

- 【授業目的】 高等学校の健康の保持増進と実践力を養成するために必要な体育の効果と重要性、ウェルネスなライフスタイルの創出、ストレスをはじめ現代健康問題の解決などを視野に入れつつ、保健体育科教育の目標論、教材の精選・構造化、指導法、評価法について理論を学習する。
- 【授業概要】 高等学校の保健体育科における教育法の知識とスキルを身につける
- 【履修上の注意】 隔年開講 (偶数年度開講)
- 【到達目標】 高等学校の保健体育科教育法の内容を理解し授業運営のしかたを学ぶ。
- 【授業計画】 1. 保健体育科とはからだの教育 2. 運動特性論 3. 単元計画と年間計画 4. 学習と指導、評価の考え方 5. 体育におけるスポーツの考え方 6. スポーツ教材研究 1 (運動・体操・ダンス・武道) 7. スポーツ教材研究 2 (陸上運動・水泳・器械運動) 8. スポーツ教材研究 3 (ボール系集団種目・ラケット種目) 9. スポーツ教材研究 4 (スポーツ行事) 10. スポーツ学習論 1 (技術・知識) 11. スポーツ学習論 2 (態度・自己効力感) 12. 授業設計法 1 (発育発達と健康安全管理) 13. 授業設計法 2 (シズとニーズとプランニング) 14. 授業設計法 3 (評価と改善) 15. 授業設計法 4 (授業案提出) 16. 総括
- 【成績評価】 出席状況、レポート、授業への姿勢などを総合的に評価する。
- 【再試験】 ない
- 【教科書】
◇ 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省
◇ 体育科教育法講義・大修館書店

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219114>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業後に行う)

【備考】平成 24 年度開講

数学科教育法 I

2 単位 2 年 (前期)

服部 勝憲・非常勤講師/鳴門教育大学, 小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】中等数学教育の望ましい展開に必要な実践的指導力の育成を目指す。そのために算数・数学教育の歴史と目的、内容と教材及び指導と評価等についての理解を深め、基礎的資質能力の向上を図る。

【授業概要】中等数学教育の理論と実践についての研究、報告、提案、討議を通して、その基礎的事項の理解を深めるとともに、確かな数学教育の実践を求めることができる基礎的資質能力の向上を目指す。

【キーワード】中等数学教育の理論と実践、基礎的資質能力、実践的指導力

【履修上の注意】中等数学科の教員免許取得と授業実践につながる科目であり、積極的な構えで授業に臨みたい。

【到達目標】上記目的のために、算数・数学教育、特に中等数学教育に重点を置いて、我が国における算数・数学教育の歴史、目的と目標、内容と教材、指導と評価、諸外国の数学教育、数学科のカリキュラム及び授業研究等についての学習と研究を進める。

【授業計画】1. 本授業のねらいと展開 2. 数学教育の歴史 (1) 3. 数学教育の歴史 (2) 4. 数学教育の目的と目標 5. 数と式に関する内容と教材 (1) 6. 数と式に関する内容と教材 (2) 7. 図形・幾何に関する内容と教材 (1) 8. 図形・幾何に関する内容と教材 (2) 9. 数量関係に関する内容と教材 (1) 10. 数量関係に関する内容と教材 (2) 11. 数学教育における指導方法 12. 数学教育におけるテクノロジー 13. 数学教育における評価 14. 数学教育におけるカリキュラム 15. 数学教育における実践と授業研究 16. テスト

【成績評価】出席状況、レポート、授業における報告・提案及びテスト等によって評価し、それらを総合して成績評価とする。

【再試験】状況に応じて、その実施を検討する。

【教科書】

- ◇ 次の図書を使用する。購入等については最初の授業時に説明する。
- ◇ 戦後 55 年の算数・数学教育
- ◇ 日本数学教育学会誌第 82 巻・第 7・8 号
- ◇ 日本数学教育学会発行

【参考書】

- ◇ 次の図書は各自、購入すること。
- ◇ 小学校学習指導要領解説算数編、文部科学省著作、東洋館出版発行、平成 20 年 8 月
- ◇ 中学校学習指導要領解説数学編、文部科学省著作、教育出版発行、平成 20 年 9 月
- ◇ 高等学校学習指導要領解説数学編、文部科学省著作、実教出版発行、平成 21 年 12 月

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219263>

【連絡先】

⇒ 服部 (hatorik@naruto-u.ac.jp)
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】隔年開講

数学科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)

服部 勝憲・非常勤講師/鳴門教育大学, 小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】中等数学教育の歴史、目的・目標、教材・カリキュラム、指導と評価等に関する基礎的な理論と内容について高等学校数学に重点を置いて概観する。

【授業概要】上記中等数学教育の理論と内容について報告、提案、討議を通して、その基礎的事項の理解を深めるとともに、中等数学の確かな実践を求めることができる基礎的力量形成を図る。

【履修上の注意】中学校数学科及び高等学校数学科の教員免許取得のための必修科目である。積極的な構えで授業に臨みたい。教材は事前に周知するので、各自予め研究しておくこと。

【到達目標】中等数学教育を実践するために必要な基礎的資質・能力の向上を図る。そのために、高等学校数学に重点を置いて、我が国における数学教育の歴史、目的と課題、内容と教材、指導と評価、諸外国の数学教育、数学科のカリキュラムと授業研究、実践的指導力等を取り上げ考察する。

【授業計画】1. 本授業のねらいと展開 2. 数学教育の目的と課題 3. 中等数学と高等学校数学の教材 4. 数学 I に関する目標と教材 5. 数学 II に関する目標と教材 6. 数学 III に関する目標と教材 7. 数学 A に関する目標と教材 8. 数学 B に関する目標と教材 9. 数学活用に関する目標と教材 10. 高等学校数学における指導と評価 (1) 11. 高等学校数学における指導と評価 (2) 12. 高等学校数学における指

導と評価 (3) 13. 諸外国の数学教育 14. 中等数学教育としての教材研究と実践 15. 数学教育研究と授業改善 16. テスト

【成績評価】出席状況、レポート、授業における報告・提案及びテスト等によって評価し、それらを総合して成績評価とする。

【再試験】状況に応じて、その実施を検討する。

【教科書】

- ◇ 中学校学習指導要領解説数学編、文部科学省著作、教育出版発行、平成 20 年 9 月
- ◇ 高等学校学習指導要領解説数学編、文部科学省 HP、平成 21 年 7 月
- ◇ 上記解説は事前に入手しておくこと。
- ◇ 現行中学校数学科教科書、高等学校数学科教科書は適宜閲覧できるようにする。

【参考書】教科書以外の参考書、資料は適宜提示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219264>

【連絡先】

⇒ 服部 (hatorik@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00 ~ 12:30)
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

情報科教育法 I

2 単位 3 年 (前期)

中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】本講義は、教員免許「情報」を取得しようとする者への授業である。情報に関する専門知識や技能等だけでなく、多くの情報技術者、研究者が学んでいる。しかし、「情報」を担当する教師は、情報に関する専門知識と同等に指導法を身につけなければならない。よって、本講義では情報教育における、目標、授業法などに関する理解を深め、授業での実践力を養う。

【授業概要】情報教育法について学ぶ

【キーワード】情報、教育法

【先行科目】『プログラミング演習』(1.0, ⇒303 頁)

【履修上の注意】なし

【到達目標】情報教育における目標や授業法などに関する理解を深め、また、模擬授業を通し指導法を習得することを目標とする。

【授業計画】1. 1. 情報教育の目標 2. 2. 普通教科「情報」 3. (1) 趣旨 4. (2) 目的 5. (3) 科目 6. 3. 普通教科「情報」の科目編成、および、各科目位置付け 7. 4. 情報 A の目標と内容 8. 5. 情報 B の目標と内容 9. 6. 情報 C の目標と内容 10. 7. 専門教育「情報」 11. (1) 趣旨 12. (2) 目的 13. (3) 科目 14. 8. 専門教育「情報」の科目編成、および、科目内容 15. 9. ハードウェアに関する教育法 16. 10. ソフトウェアに関する教育法 17. 11. データ通信に関する教育法 18. 12. コミュニケーション、プレゼンテーションに関する教育法 19. 13. 教育課程の編成 20. 14. 学習指導案作成 21. 15. まとめ

【成績評価】演習、レポート、成果発表で総合的に判断する

【再試験】行わない

【教科書】プリント

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219244>

【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

情報科教育法 II

2 単位 3 年 (後期)

中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】情報教育とはコンピュータの操作などを教える事と思われる節があるが、それだけでは十分でなく情報に関する多面的な知識を持ち、かつ、それらについて効率的に教育する方法を身につける必要がある。本講義では、情報科教育法 I での講義を踏まえ、学習指導要領に基づいた教育法について考察する。また、学習指導案の作成と模擬授業を行い、教育実習にもつなげる。

【授業概要】情報教育法について学ぶ

【履修上の注意】なし

【到達目標】情報教育における目標や授業法などに関する理解を深め、また、模擬授業を通し指導法を習得することを目標とする。

【授業計画】1. 1. 普通教科「情報」と専門教科「情報」との目標の違い 2. 2. 普通教科「情報」の指導計画の作成と実習の位置付け 3. 3. 専門教科「情報」の指導計画の作成と実習の位置付け 4. 4. 普通教科「情報」における課題選択の観点 5. 5. 専門教科「情報」における課題選択の観点 6. 6. 学習評価と授業改善 7. 7. 問題解決技法 8. 8. 情報化と社会 -情報社会- 9. 9. 情報化と社会 -著作権- 10. 10. 情報化と社会 -情報モラル指導の観点- 11. 11. 教材研究 -各種ツールの活用方法- 12. 12. 模擬授業 講義編 I 13. 13. 模擬授業 講義編 II 14. 14. 模擬授業 実習編 I 15. 15. 模擬授業 実習編 II

総合科学部 (2011) 教職に関する科目

【成績評価】演習，レポート，成果発表で総合的に判断する
【再試験】行わない
【教科書】プリント
【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219245>
【連絡先】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp)

理科教育法 I

2 単位 2 年 (前期)
續木 章三・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科，渡部 稔・准教授/社会創生学科
今井 昭二・教授/社会創生学科，増田 俊哉・教授/社会創生学科
三好 徳和・教授/総合理数学科

【授業目的】中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である。この理科教育法 I では、理科教育の現状と課題・理科教育の歴史等について学び、物理分野と化学分野の内容についての実践的な教育を行う。

【授業概要】中・高等学校「理科」の現状・課題・歴史および物理・化学分野の実践教育。

【関連科目】『理科教育法 II』(0.5, ⇒365 頁)，『理科教育法 III』(0.5)，『理科教育法 IV』(0.5)

【履修上の注意】出席も評価の対象となるので、授業には必ず出席すること。

【到達目標】学校教育における理科教育の課題を認識し、特に物理・化学分野についての学習指導について理解を深める。

【授業計画】1. 理科教育の現状と課題 2. 理科教育の目標 3. 理科教育の歴史 (1) 4. 理科教育の歴史 (2) 5. 科学技術と社会 6. 理科の学習指導 7. 理科の科目と内容 8. 物理教育の目的 9. 物理の授業における教材研究 10. 物理授業の指導計画と授業実践 11. 物理の授業と課題研究 12. 化学教育の目的と本質 13. 理科授業と安全・環境教育 14. 化学実験の立案と計画 15. 演習実験と学生実験の実践 16. 総括授業

【成績評価】授業への出席と、提出されたレポートによる。

【再試験】行わない。

【教科書】随時プリントを配布する。

【参考書】文科省「中学校学習指導要領解説 理科編 (平成 20 年 9 月)」, 大日本図書 (110 円), 文部省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」(平成 11 年 12 月), 大日本図書 (290 円)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219350>

【連絡先】

⇒ 續木 (創成学習開発センター, 088-656-8236, tsuzuki@ip.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~12:50)
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】22 年度開講せず

理科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)
續木 章三・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科，渡部 稔・准教授/社会創生学科
今井 昭二・教授/社会創生学科，増田 俊哉・教授/社会創生学科
三好 徳和・教授/総合理数学科

【授業目的】中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法 II である。この理科教育法 II では、理科教育の諸問題・理科教育課程の変遷等について学び、物理分野と化学分野の内容について実習を中心とした教育を行う。

【授業概要】中・高等学校「理科」の諸問題、理科教育課程の変遷および物理・化学分野の実習教育。

【関連科目】『理科教育法 I』(0.5, ⇒365 頁)，『理科教育法 III』(0.5)，『理科教育法 IV』(0.5)

【履修上の注意】出席も評価の対象となるので、授業には必ず出席すること。

【到達目標】学校教育における理科教育の課題を認識し、特に物理・化学分野についての学習指導 (実習) を身につける。

【授業計画】1. 理科教育における諸問題 2. 理科の目標と基本概念 3. 理科教育課程の変遷 (1) 4. 理科教育課程の変遷 (2) 5. 科学と技術 6. 理科の指導方法 7. 学習指導要領と理科 8. 物理教育と環境教育 9. 物理の生徒実験・演習実験における教材研究 10. 物理実験の指導計画と授業実践 11. 物理の授業と視聴覚教材 12. 化学教育の目的と本質 13. 理科授業と教材研究 14. 化学実験・観察・計画と安全教育 15. 化学実験の実践 (生徒実験と演習実験) 16. 総括授業

【成績評価】授業への出席と、提出されたレポートによる。

【再試験】行わない。

【教科書】随時プリントを配布する。

【参考書】文科省「中学校学習指導要領解説 理科編 (平成 20 年 9 月)」, 大日本図書 (110 円), 文部省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」(平成 11 年 12 月), 大日本図書 (290 円)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219351>

【連絡先】

⇒ 續木 (創成学習開発センター, 088-656-8236, tsuzuki@ip.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~12:50)
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

道徳教育

2 単位 3 年 (前期)
大宮 俊恵・准教授/人間文化学科

【授業目的】道徳教育の目標と内容、道徳の授業理論などを理解した上で、学校における道徳の時間の指導法を身に付ける。

【授業概要】1. 学習指導要領における道徳教育の目標・内容を理解する。2. 道徳教育の全体計画・年間指導計画・学級における指導計画の意義を理解し、各学校の取り組みの特色を把握する。3. 授業実践例を検討しながら、道徳の指導法を理解し、指導方法を習得する。

【キーワード】道徳教育の目標、道徳教育の指導計画、道徳の時間の目標、道徳の時間の指導法

【履修上の注意】演習形式を取り入れた授業を行います。主体的に授業に参加してください。

【到達目標】1. 道徳教育の目標を理解する。2. 道徳教育の諸計画の意義を理解する。3. 道徳の時間の指導法を身に付ける。

【授業計画】1. 道徳教育の目標 2. 道徳教育の内容 3. 道徳教育の歴史/戦後道徳教育の変遷 4. 道徳性の発達と子どもの実態 5. 学校における道徳教育 6. 道徳教育と道徳の時間 7. 道徳教育の諸計画 8. 道徳授業の実践例 (DVD 視聴) 9. 道徳の時間の指導法/共感的手法/批判的手法など 10. 道徳の時間の指導方法/役割演技/説話/道徳ノート・情報機器の活用など 11. 資料分析 12. 学習指導案作成 13. 教材作成 14. 模擬授業 15. まとめ

【成績評価】各授業中の課題・授業参加態度、最終レポート、出席状況で評価する。

【再試験】なし

【教科書】「小学校・中学校学習指導要領解説道徳編」(文部科学省)

【参考書】「道徳教育、画餅からの脱却」(横山利弘著, 暁教育図書)

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219472>

【連絡先】

⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

特別活動研究

2 単位 3 年 (前期)
木下 光二・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】特別活動における生徒の活動と心を分析し、今日教育改革の動向とあわせて、その意義を明らかにする。また、各内容ごとに理論と展開事例を考察し、小中学校及び高等学校における特別活動の基本的性格についての理解を図るとともに、現場における実践上の課題を検討する。

【授業概要】特別活動の研究

【キーワード】集団作り、学級経営、生徒理解

【履修上の注意】自分の中学校・高等学校時代を想起し、そのときの自分の思いを分析的にとらえ直してやること。また、適宜、討議や指導案作成模擬授業などを取り入れる。

【到達目標】

1. 特別活動が児童生徒の成長に果たす役割を理解する。
2. 特別活動のいずれかの領域についての活動計画の概要を立案できる。
3. 模擬授業を通して、特別活動の基本的指導技術を獲得するための視点を体感し、理解する。

【授業計画】1. 心に残る学校生活と特別活動 2. 学校づくりと特別活動-総論 3. 学級づくりと特別活動-各論 4. 集団づくりのなかでの個の生かし方 5. 児童会・生徒会活動の理論と実践 6. クラブ活動の理論と実践 7. 学校行事の理論と実践 8. 教育改革の動向と特別活動の意義 9. 特別活動の目的及び内容 10. 特別活動の理論と実践 11. 実践事例にみられる特別活動の展開 (1)-小学校- 12. 実践事例に

総合科学部 (2011) 教職に関する科目

みられる特別活動の展開 (2)-中学校- 13. 実践事例にみられる特別活動の展開 (3)-高等学校- 14. 年間指導計画と指導案作成の方法 15. まとめ

【成績評価】 講義への出席状況, 討議への参加, レポートの提出, 試験などを総合的に判断して評価を行う。

【再試験】 特別の理由のない限り実施しません。

【教科書】 小学校・中学校高等学校学習指導要領解説書 (特別活動編)

【参考書】 適宜, 参考文献の紹介, 関係資料の配付を行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219344>

【連絡先】

⇒ 鳴門教育大学HPに掲載

教育方法学

2 単位 3 年 (前期)

村川 雅弘・非常勤講師/鳴門教育大学

【授業目的】 学習指導要領の今次改訂により, 基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え, 習得した知識・技能の活用 (思考・判断・表現等), 学習意欲の喚起が重要視され, 各教科及び総合的な学習における授業改善が求められている。本授業では, 授業構成要素である目標, 内容, 指導方法・学習方法, 指導組織・形態, 学習組織・形態, 学習環境・メディア, 学習評価等々について具体的な事例に基づいて理解を深めると共に, その工夫・改善のあり方について検討する。また, 具体的な授業の分析や協議を通して, 授業の計画・実施・評価のあり方についても体験的に理解する。「授業実践力」の育成を目指す。

【授業概要】 具体的な授業記録や関連資料の分析及びそれに基づく協議を通して, 授業構成要素及び授業の計画・実施・評価の方法について体験的に学ぶ。

【キーワード】 授業の設計・実施・評価, 教育目標と学習評価, 学習環境とメディア, 授業の設計と分析, ワークショップ

【履修上の注意】 具体的な授業事例や関連資料についての各自の意見・感想及びそれに基づく協議を重視する。また, 授業分析等ではワークショップ型の活動を多く取り入れる。受講生の活発な発言や協議を期待する。

【到達目標】

1. ①授業を構成している要素について具体的に理解する。
2. ②授業の設計・実施・評価の過程について理解する。
3. ③授業についての分析方法や協議の仕方について理解する。

【授業計画】 1. 過去に経験した授業についての想起, 授業を構成している要素の分類整理 2. 過去に経験した授業についての想起, 授業を構成している要素の分類整理 3. 中央教育審議会答申及び新学習指導要領の分析と今次改訂により求められている授業改善の方向性 4. 中央教育審議会答申及び新学習指導要領の分析と今次改訂により求められている授業改善の方向性 5. 現代の子どもの実態や今後の世界の動向と教育目標の設定及び評価の工夫 6. 現代の子どもの実態や今後の世界の動向と教育目標の設定及び評価の工夫 7. 多様な指導組織・形態及び学習組織・形態と学習方法の工夫 8. 多様な指導組織・形態及び学習組織・形態と学習方法の工夫 9. 学習環境の整備とメディアの活用, 家庭や地域との連携 10. 学習環境の整備とメディアの活用, 家庭や地域との連携 11. 地域素材研究と教材開発のワークショップ 12. 地域素材研究と教材開発のワークショップ 13. 授業設計及び授業分析のワークショップ 14. 授業設計及び授業分析のワークショップ 15. 授業設計及び授業分析のワークショップ 16. 本授業のまとめとテスト

【成績評価】 授業への出席 (20%), 学習態度 (20%), 授業中の簡易レポートとテスト (60%) により総合的に評価する。

【教科書】

- ◇ テキスト: 村川雅弘ほか編『学びを起す授業改革』ぎょうせい
- ◇ 文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』

【参考書】

- ◇ 村川雅弘・酒井達哉編『総合的な学習 充実化戦略のすべて』日本文芸出版, 村川雅弘編『「確かな学力」としての学びのスキル』日本文芸出版, 村川雅弘編『「生きる力」を育むポートフォリオ評価』ぎょうせい
- ◇ その他, 適宜資料を配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219258>

【連絡先】

⇒ 授業等の問い合わせは, 授業の前後に直接またはメールで(murakawa@naruto-u.ac.jp)。

生徒指導論

2 単位 3 年 (後期)

大宮 俊恵・准教授/人間文化学科

【授業目的】 現代社会において青少年を取り巻く環境は極めて深刻である。学校現場においても様々な様態の生徒が現実存在する。それらの生徒や親への指導は困難を極め, 教員の勤務時間の多くを費やすことにより, 教員の心は疲弊し, 教育に対する熱意も失われている一面がある。そのような現状や課題を踏まえ, 具体的解決策として学校

の指導体制や先進的指導方法について学び, 生徒指導の実践的指導力の基礎を培うことは, 教員を目指す学生にとって意義深いことである。

【授業概要】 (1) 生徒指導の基本的な理論や内容は講義を中心に行う。(2) 鳴門教育大学附属中学校の参観を取り入れ, 学校現場について理解が進むようにする。(3) 具体的な課題を取り入れ, 生徒指導の知識に加え指導法が習得できるよう個人やグループでの演習的な活動を組み込み, 実践的に授業を進める。

【キーワード】 生徒の実態, 生徒理解の方法, 事例研究, ロールプレイ

【履修上の注意】 学校現場を観察する機会を設けています。教育実習と同じ態度で参加してください。

【到達目標】 1. 学校現場の実情を理解する。2. 生徒指導の意義と役割を理解し, 実践的な指導方法を知る。3. 生徒指導の指導方法を身につける。

【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 学校現場での生徒の実態 3. 学校現場での意義と役割 4. 生徒指導の計画と組織 5. 学校現場での観察 6. 生徒指導体制と生徒指導主事 7. 生徒指導と教科指導等 8. 生徒指導と法規 9. 生徒指導の方法 (集団指導の方法) 10. 生徒指導の方法 (個別指導の方法) 11. 生徒指導と特別支援教育 12. 事例研究・ロールプレイング (不登校) 13. 事例研究・ロールプレイング (いじめ) 14. 事例研究・ロールプレイング (親への対応) 15. 全体のまとめ

【成績評価】 授業中の課題・態度, 最終レポート, 出席率を加味して評価を行う。

【再試験】 なし

【教科書】 必要に応じて資料などを配付する。

【参考書】 文部科学省「生徒指導提要」, 松田文子・高橋超編著「生きる力が育つ生徒指導と進路指導」

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219380>

【連絡先】

⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育相談

2 単位 3 年 (後期)

福森 崇貴・准教授/人間文化学科

【授業目的】 学校現場では日々, 様々な問題が起こっている。このような背景のもと, 生徒たちの「その子らしさ」と一体どのように付き合っていけばよいのだろうか。そのような問いについて教育相談という立場から考えると共に, 現場の実際や問題への対応について理解することを目的とする。

【授業概要】 教育相談に関する基礎理論及び学校現場の実際について

【到達目標】 教育相談の意義と必要性について考え, その上で, 一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につけることを目標とする。

【授業計画】 1. ガイダンス ―教育相談とは何か― 2. カウンセリングの基本的理論 3. 傾聴の実際 その1 4. 傾聴の実際 その2 5. 話の促し その1 6. 話の促し その2 7. 沈黙への対応 8. カウンセリング場面での実際 9. 生徒理解に向けて 10. 問題行動とその対応 その1:不登校 11. 問題行動とその対応 その2:いじめ 12. 問題行動とその対応 その3:その他の問題 13. 保護者との関わり 14. まとめ 15. 期末試験 16. 総括

【成績評価】 期末試験, 授業への取り組みなどを元に総合的に評価する。

【再試験】 無

【教科書】 特に指定せず, 必要に応じて資料を配布する。

【参考書】 なし。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218539>

【連絡先】

⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 授業中は, 受講者に対し頻繁に意見を求めていく予定である。是非主体的に授業に参加して欲しい。

総合演習

2 単位 3 年 (前期)

大宮 俊恵・准教授/人間文化学科

【授業目的】 この演習では教科を超えた課題について, 自ら課題を見出し, 主体的に問題解決や調査研究に取り組み, 発表することによって「総合的な学習の時間」において教師に求められている創意あふれる教育活動を展開できる力を育成する。

【授業概要】 (1) 興味・関心をもとに探究・調査活動を行い, その成果を発表し, 問題点についてディスカッションをすることを通じて, 常に広い視野に立って生徒の変化や社会的進展に柔軟に対応できるように力を修得できるように進める。(2) 演習を通じ, 「総合的な学習の時間」の指導者として必要の資質・能力を身につけるための機会とする。

【履修上の注意】 小グループで演習形式の授業を行います。協力して創造的に課題解決に当たってください。

【到達目標】 1. 主体的に調査活動に取り組む。2. 創意ある活動を展開する。3. ディスカッション力を身につける。

総合科学部 (2011) 教職に関する科目

【授業計画】1. 総合演習ガイダンス(目的, 概要, グループ分け) 2. 学校における総合的学習の時間 3. 研究学習課題の検討 4. 研究方法に対する話し合い 5. 課題解決のための資料収集 6. 発表資料の作成 7. 各班による発表とディスカッション 8. 各班による発表とディスカッション 9. 各班による発表とディスカッション 10. 各班による発表とディスカッション 11. 各班による発表とディスカッション 12. 各班による発表とディスカッション 13. 各班による発表とディスカッション 14. 各班による発表とディスカッション 15. 演習のまとめ

【成績評価】提出物, 討議への参加態度, レポート, 出席状況等で総合的に評価する。

【再試験】なし

【教科書】適宜参考図書資料を紹介する。

【参考書】中学校・高等学校学習指導要領

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219437>

【連絡先】

⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育実習事前事後指導

1 単位 4 年 (通年)
大宮 俊恵・准教授/人間文化学科

【授業目的】(事前指導) 教育実習に当たって, 実習生として必要な資質について理解し, 教育実習や授業実践について自分なりの目標をもつことができる。(事後指導) 自分の教育実践について省察し, 自らの優れた点と課題を把握し, 今後の展望をもつことができる。

【授業概要】 教育実習は, 大学での教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する知見を, 実際の教育現場で実証する意義ある機会である。授業実践のみならず生徒への影響の重大さを認識し, 教育実習に対する基本的な心構えや技能を身に付け, 実習後の反省と総括から, 今後に向けての展望がもてるようにする。

【履修上の注意】 教師になる心構えを明確にもって授業に参加してください。

【到達目標】

1. 実習生に必要な資質を理解する。
2. 自分なりの教育実習についての目標をもつ。
3. 今後の展望をもつ。

【授業計画】1. (事前指導) 教育実習の心構え 2. 教育実習の内容・方法 3. 望ましい授業の姿(発問・板書・指導案) 4. 学習指導案作成 5. (事後指導) 教育実習の成果と課題の省察 6. 授業実践について意見交換 7. 生徒指導・学級経営についての意見交換 8. まとめ

【成績評価】 学習指導案, 模擬授業, 授業中のレポートなどで評価する。

【再試験】なし

【教科書】特になし

【参考書】学習指導要領, 配布資料

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219256>

【連絡先】

⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

学芸員に関する科目 授業概要

● 学芸員に関する科目 (旧)

生涯学習概論 ... 鈴木/3年(前期, 集中).....	368
博物館概論 ... 一山・東/2年(前期).....	368
博物館資料論 ... 千田・東/2年(前期, 集中).....	368
博物館特論 ... 未定・東/2年(後期, 集中).....	368

生涯学習概論 1単位 3年(前期, 集中)
Introduction to Lifelong Learning

鈴木 尚子・准教授/大学開放実践センター

【授業目的】生涯学習をめぐる国内外の概況について、歴史的展開や法整備の流れを踏まえた上で理解するとともに、実際の学習活動についても考察していく中で、幅広い視野から専門的かつ総合的に考えられる力を養う。

【授業概要】本授業では、学芸員としての職務に必要と思われる事項を中心として、国内外における生涯学習の基本的な考え方やこれまでの発展のあり方について概観していきます。また、実際の博物館訪問を通して、生涯学習の一端をめぐる現状と課題についても考えていきます。専門の見地から正しい知識を身につけ、それを実際の場面で効果的に活かしていくために必要となる力を養うことを目指しています。

【キーワード】生涯学習 社会教育 学習支援 博物館

【関連科目】『博物館概論』(1.0, ⇒368頁), 『博物館特論』(1.0, ⇒368頁)

【履修上の注意】本授業は、学外での博物館見学を含みます。見学のための入場料は個人負担になります。見学する博物館は徳島市内のものになる予定ですが、日程によっては変更になる場合があります。2日目は現地集合になる場合もありますので、授業中の連絡事項には注意してください。

【到達目標】

1. 生涯学習について、生成から今日に至るまでの概況を多角的にとらえる。
2. 博物館訪問を通して、生涯学習の一端を把握し、課題をまとめる。

【授業計画】1. 生涯学習とは何か 2. 生涯学習の起源と発展 3. 我が国における生涯学習の特徴と課題—社会教育との関わりから— 4. 学習活動の現状とその支援 5. 社会教育施設としての博物館見学 6. 社会教育施設としての博物館見学 7. 博物館訪問によりみえてきた現状と課題(レポート作成含む) 8. まとめと討論(レポート発表含む)

【成績評価】毎回の授業への出席を含む受講姿勢、レポート課題への取り組み及びその発表等により、総合的に判断する。

【再試験】なし。

【教科書】特に指定しないが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】授業の内容に応じて、適宜紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218705>

【連絡先】

⇒ 鈴木尚子(大学開放実践センター)

【備考】◇集中講義として土・日に開講を予定しています。◇授業全体を通して、積極的に発言してもらう機会が多くあります。

博物館概論

2単位 2年(前期)

一山 典・非常勤講師, 東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】博物館の役割と学芸員の活動について概観する。博物館の学芸業務の収集保存、調査研究、展示公開、普及教育などについて学ぶ。博物館資料の取り扱いやその方法について理解する。また博物館をめぐる諸問題について個々に取り上げ、その解決の方向性を探る。

【授業概要】博物館の活動とその課題

【履修上の注意】授業は主に講義形式でおこなうが、博物館を見学してのレポートを課す。

【到達目標】博物館とは何か、学芸員の役割について理解する。

【授業計画】1. 1. 博物館の成り立ちとその種類 2. 2. 博物館法と関連法案 3. 3. 博物館における学芸業務 4. 4. 展示公開 5. 5. 収集保存 6. 6. 調査研究 7. 7. 教育普及 8. 8. 展示公開 9. 9. 資料の取り扱いとその方法(展示更新) 10. 10. 資料の取り扱いとその方法(展示評価) 11. 11. 地域博物館とその役割 12. 12. 博物館と学校教育 13. 13. 開かれた博物館 14. 14. 博物館学芸員の課題 15. 15. テスト

【成績評価】出席および博物館を見学してのレポートと期末のテストで評価をおこなう。

【再試験】おこなわない。

【教科書】とくに使わない。

【参考書】徳島博物館研究会編『地域に生きる博物館』、歴史学と博物館のあり方を考える会編『現場から』等を参考としてほしい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219137>

【連絡先】

⇒ 一山 (オフィスアワー: 授業終了後におこなう。)

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

博物館資料論

2単位 2年(前期, 集中)

千田 稔・非常勤講師, 東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】博物館は、無思想的に展示するのではなく、展示する側のコンセプトを示すには、どのような方法があるのか。

【授業概要】事例として、日本古代の自然観と展示について考える。

【キーワード】『古事記』、『日本書紀』、『万葉集』、『風土記』、『自然観』、『宗教』

【履修上の注意】単に学芸員の資格を取るだけを目指すのではなく、自らが博物館を通して、何を発信できるかということ問い続ける態度で講義に臨むこと。

【到達目標】オリジナルでユニークな博物館づくりについて自らの考えをもつこと。

【授業計画】1. 日本古代の「自然」とは? 2. 神話の中から自然観を探る—海— 3. 神話の中から自然観を探る—山— 4. 神話の中から自然観を探る—植物— 5. 神話の中の自然観を展示するには? 6. 記紀の歴史叙述において語られる自然観(1) 7. 記紀の歴史叙述において語られる自然観(2) 8. 『万葉集』によまれた自然観(1) 9. 『万葉集』によまれた自然観(2) 10. 『播磨国風土記』にみる自然の叙述 11. 『出雲国風土記』にみる自然の叙述 12. 『常陸国風土記』にみる自然の叙述 13. 『豊後国風土記』にみる自然の叙述 14. 『肥前国風土記』にみる自然の叙述 15. 日本古代における自然観の成立 16. 自然観を展示する方法

【成績評価】レポート

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義中に資料を配布

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219139>

【連絡先】

⇒ 千田

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

博物館特論

2単位 2年(後期, 集中)

未定, 東 潮・教授/人間文化学科

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219138>

【連絡先】

⇒ 未定

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】23年度に博物館特論は開講しない。博物館資料論は開講。

学部 共通科目

● 学部共通科目 (旧)

基礎ゼミナール ...伊藤/1年(前期, 後期).....1
 科学と人間 ...小山・三好・桑原・山口・今井・内海・渡部/1年(前期).....1
 大学と社会 ...葭森・中嶋・石川・大淵・中川・田中・平井/1年(前期).....1
 健康と福祉 ...中村・小原・荒木・境・福森・原/1年(後期).....2
 インターンシップ ...石田/2年(前期).....2
 インターンシップ実習 ...石田/2年(前期, 集中).....2

人間社会学科 共通科目

● 学科共通科目

現代社会の諸問題(アート創生プロジェクト) ...石井・平木・河原崎/1年(後期).....3
 現代社会の諸問題(社会学の基礎Ⅰ) ...矢部/1年(後期).....3
 現代社会の諸問題(社会学の基礎Ⅱ) ...樋口/1年(後期).....3
 人間と文化(日本語表現の基礎) ...仙波/1年(前期).....3
 人間と文化(文化研究の基礎) ...石川・田島/1年(後期).....4
 社会学 ...樫田/2年(後期, 集中).....4

人間社会学科 アジア研究コース 共通科目

● コース共通科目

アジア地域交流史 ...東・葭森・衣川・佐久間/2年(前期).....5
 アジア地域交流史 ...荒武・今井・長井・桑原/2年(後期).....5
 アジアの近代 ...有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2年(前期)5
 アジア文化研究入門 ...原水・仙波・岸江・堤・田中/2年(通年)6

人間社会学科 アジア研究コース アジア研究サブコース

● サブコース指定科目

アジア史研究Ⅰ ...葭森/2年(後期).....7
 アジア史研究Ⅱ ...葭森/2年(後期).....8
 アジア史研究Ⅲ ...葭森/2年(後期).....8
 アジア思想研究Ⅰ ...有馬/2年(前期).....8
 日本考古学研究 ...中村・遠部/2年(前期).....8
 アジア思想研究Ⅱ ...有馬・郡・田中/2年(前期).....9
 アジア社会研究Ⅰ ...荒武/2年(後期).....9
 アジア社会研究Ⅱ ...荒武/2年(後期).....9
 アジア考古学研究 ...東/2年(前期).....9
 博物館概論 ...一山・東/2年(前期).....9
 博物館資料論 ...千田・東/2年(前期, 集中).....10
 博物館特論 ...未定・東/2年(後期, 集中).....10
 アジア文学基礎研究 ...田中/2年(後期), 3年(後期).....10
 アジア文学演習Ⅰ(前期) ...田中/3年(前期), 4年(前期).....10
 アジア文学演習Ⅰ(後期) ...田中/3年(後期), 4年(後期).....10
 アジア文学演習Ⅱ(前期) ...郡/3年(前期), 4年(前期).....11
 アジア文学演習Ⅱ(後期) ...郡/3年(後期), 4年(後期).....11
 アジア思想基礎研究(前期) ...有馬/2年(前期), 3年(前期).....11
 アジア思想基礎研究(後期) ...有馬/2年(後期), 3年(後期).....11

アジア思想演習(前期) ...有馬/3年(前期), 4年(前期).....11
 アジア思想演習(後期) ...有馬/3年(後期), 4年(後期).....12
 アジア史基礎研究(前期) ...葭森/2年(前期), 3年(前期).....12
 アジア史基礎研究(後期) ...葭森/2年(後期), 3年(後期).....12
 アジア史演習 ...葭森/3年(前期), 4年(前期).....12
 アジア史演習 ...葭森/3年(後期), 4年(後期).....13
 アジア社会基礎研究(前期) ...荒武/2年(前期), 3年(前期).....13
 アジア社会基礎研究(後期) ...荒武/2年(後期), 3年(後期).....13
 アジア社会演習(前期) ...荒武/3年(前期), 4年(前期).....14
 アジア社会演習(後期) ...荒武/3年(後期), 4年(後期).....14
 考古学演習 ...東/3年(通年), 4年(通年).....14
 考古学基礎研究 ...中村・東/2年(通年), 3年(通年).....14
 朝鮮語 ...野間・東/2年(前期, 集中).....14
 朝鮮語 ...野間・東/2年(後期, 集中).....15
 中国語Ⅱ ...郡/2年(前期).....15
 中国語Ⅰ ...葭森/2年(後期).....15
 中国語Ⅰ ...葭森/2年(前期).....15
 中国語Ⅱ ...郡/2年(後期).....16
 中国語中級Ⅰ ...李・郡/3年(前期, 後期).....16
 中国語中級Ⅱ ...李・郡/3年(前期, 後期).....16
 日本語基礎研究Ⅰ(前期) ...岸江/2年(前期).....16
 日本語基礎研究Ⅰ(後期) ...岸江/2年(後期).....17
 日本語基礎研究Ⅱ(前期) ...仙波/2年(前期).....17
 日本語基礎研究Ⅱ(後期) ...仙波/2年(後期).....17
 日本文学基礎研究Ⅰ ...原水/2年(通年), 3年(通年).....17
 日本文学基礎研究Ⅱ ...堤/2年(通年), 3年(通年).....18
 日本文学基礎研究Ⅲ(前期) ...鳥羽・衣川/2年(前期, 集中), 3年(前期, 集中).....18
 日本文学基礎研究Ⅲ(後期) ...鳥羽・衣川/2年(後期, 集中), 3年(後期, 集中).....18
 日本史研究Ⅰ ...桑原/2年(後期), 3年(後期).....19
 日本史研究Ⅱ ...衣川/2年(前期), 3年(前期).....19
 地誌学 ...平井/2年(前期).....19
 日本語演習Ⅰ ...岸江/3年(前期), 4年(前期).....19
 日本語演習Ⅰ ...岸江/3年(後期), 4年(後期).....20
 日本文学演習Ⅰ ...原水/3年(通年), 4年(通年).....20
 日本文学演習Ⅱ ...堤/3年(通年), 4年(通年).....20
 日本文学演習Ⅲ ...野口・衣川/3年(通年), 4年(通年).....21
 日本史基礎研究Ⅰ ...桑原/2年(前期), 3年(前期).....21
 日本史基礎研究Ⅰ ...桑原/2年(後期), 3年(後期).....21
 日本史基礎研究Ⅱ ...衣川/2年(前期), 3年(前期).....22
 日本史基礎研究Ⅱ ...桑原/2年(後期), 3年(後期).....22
 日本史演習Ⅰ ...桑原/3年(前期), 4年(前期).....22
 日本史演習Ⅰ ...桑原/3年(後期), 4年(後期).....22
 日本史演習Ⅱ ...衣川/3年(前期), 4年(前期).....23
 日本史演習Ⅱ ...衣川/3年(後期), 4年(後期).....23
 文化人類学研究Ⅰ ...高橋/2年(前期).....23
 民俗学研究Ⅰ ...高橋/2年(後期).....23
 世界の諸民族の音楽 ...片岡/2年(前期).....24
 国際関係論Ⅰ ...饗場/3年(前期).....24
 国際関係論Ⅱ ...饗場/3年(後期).....24
 世界経済論Ⅰ ...水島/3年(前期).....25
 世界経済論Ⅱ ...水島/3年(後期).....25

人間社会学科 アジア研究コース 日本文化研究サブコース

● サブコース指定科目

日本語基礎研究 I (前期) ... 岸江/2 年 (前期).....	26
日本語基礎研究 I (後期) ... 岸江/2 年 (後期).....	27
日本語基礎研究 II (前期) ... 仙波/2 年 (前期).....	27
日本語基礎研究 II (後期) ... 仙波/2 年 (後期).....	27
日本文学基礎研究 I ... 原水/2 年 (通年), 3 年 (通年).....	27
日本文学基礎研究 II ... 堤/2 年 (通年), 3 年 (通年).....	28
日本文学基礎研究 III (前期) ... 鳥羽・衣川/2 年 (前期, 集中), 3 年 (前期, 集中).....	28
日本文学基礎研究 III (後期) ... 鳥羽・衣川/2 年 (後期, 集中), 3 年 (後期, 集中).....	28
日本史研究 I ... 桑原/2 年 (後期), 3 年 (後期).....	29
日本史研究 II ... 衣川/2 年 (前期), 3 年 (前期).....	29
日本考古学研究 ... 中村・遠部/2 年 (前期).....	29
アジア考古学研究 ... 東/2 年 (前期).....	29
地誌学 ... 平井/2 年 (前期).....	30
博物館概論 ... 一山・東/2 年 (前期).....	30
博物館資料論 ... 千田・東/2 年 (前期, 集中).....	30
博物館特論 ... 未定・東/2 年 (後期, 集中).....	30
日本語演習 I ... 岸江/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	30
日本語演習 I ... 岸江/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	31
日本語演習 II (前期) ... 仙波/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	31
日本語演習 II (後期) ... 仙波/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	31
日本文学演習 I ... 原水/3 年 (通年), 4 年 (通年).....	31
日本文学演習 II ... 堤/3 年 (通年), 4 年 (通年).....	32
日本文学演習 III ... 野口・衣川/3 年 (通年), 4 年 (通年).....	32
日本史基礎研究 I ... 桑原/2 年 (前期), 3 年 (前期).....	32
日本史基礎研究 I ... 桑原/2 年 (後期), 3 年 (後期).....	33
日本史基礎研究 II ... 衣川/2 年 (前期), 3 年 (前期).....	33
日本史基礎研究 II ... 桑原/2 年 (後期), 3 年 (後期).....	33
日本史演習 I ... 桑原/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	33
日本史演習 I ... 桑原/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	34
日本史演習 II ... 衣川/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	34
日本史演習 II ... 衣川/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	34
考古学基礎研究 ... 中村・東/2 年 (通年), 3 年 (通年).....	35
考古学演習 ... 東/3 年 (通年), 4 年 (通年).....	35
朝鮮語 ... 野間・東/2 年 (前期, 集中).....	35
朝鮮語 ... 野間・東/2 年 (後期, 集中).....	35
中国語 I ... 葭森/2 年 (前期).....	35
中国語 I ... 葭森/2 年 (後期).....	36
中国語 II ... 邵/2 年 (前期).....	36
中国語 II ... 邵/2 年 (後期).....	36
中国語中級 I ... 李・邵/3 年 (前期, 後期).....	36
中国語中級 II ... 李・邵/3 年 (前期, 後期).....	37
アジア史研究 I ... 葭森/2 年 (後期).....	37
アジア史研究 II ... 葭森/2 年 (後期).....	37
アジア史研究 III ... 葭森/2 年 (後期).....	37
アジア思想研究 I ... 有馬/2 年 (前期).....	38
アジア思想研究 II ... 有馬・邵・田中/2 年 (前期).....	38
アジア社会研究 II ... 荒武/2 年 (後期).....	38
アジア文学基礎研究 ... 田中/2 年 (後期), 3 年 (後期).....	38

アジア文学演習 I (前期) ... 田中/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	39
アジア文学演習 I (後期) ... 田中/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	39
アジア文学演習 II (前期) ... 邵/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	39
アジア文学演習 II (後期) ... 邵/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	39
アジア思想基礎研究 (前期) ... 有馬/2 年 (前期), 3 年 (前期).....	39
アジア思想基礎研究 (後期) ... 有馬/2 年 (後期), 3 年 (後期).....	40
アジア思想演習 (前期) ... 有馬/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	40
アジア思想演習 (後期) ... 有馬/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	40
アジア史基礎研究 (前期) ... 葭森/2 年 (前期), 3 年 (前期).....	40
アジア史基礎研究 (後期) ... 葭森/2 年 (後期), 3 年 (後期).....	41
アジア史演習 ... 葭森/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	41
アジア史演習 ... 葭森/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	41
アジア社会基礎研究 (前期) ... 荒武/2 年 (前期), 3 年 (前期).....	42
アジア社会基礎研究 (後期) ... 荒武/2 年 (後期), 3 年 (後期).....	42
アジア社会演習 (前期) ... 荒武/3 年 (前期), 4 年 (前期).....	42
アジア社会演習 (後期) ... 荒武/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	42
文化人類学研究 I ... 高橋/2 年 (前期).....	42
民俗学研究 I ... 高橋/2 年 (後期).....	43
日本語教育方法論 I ... 大石/2 年 (前期).....	43
日本語教育方法論 II ... 橋本/2 年 (後期).....	43
日本語教授法 I ... 大石/2 年 (前期).....	44
日本語教授法 II ... 橋本/2 年 (後期).....	44
日本語教育演習 (その 1) ... 大石/3 年 (後期).....	44
日本語教育演習 (その 2) ... 大石/4 年 (後期).....	44
比較文化研究 (その 1) ... 依岡/2 年 (前期).....	44
比較文化研究 (その 2) ... 依岡/2 年 (後期).....	45
ヨーロッパ歴史・社会論 I ... 佐久間/2 年 (前期).....	45
ヨーロッパ歴史・社会論 II ... 長井/2 年 (前期).....	45
ヨーロッパ歴史・社会論 III ... 今井/2 年 (前期).....	46
アメリカ歴史・社会論 ... 吉岡・今井/2 年 (前期).....	46

人間社会学科 欧米言語コース 共通科目

● コース共通科目

実用英語演習・総論 ... 欧米言語コース教員・国際文化コース教員 ・吉田/2 年 (前期, 後期), 3 年 (前期, 後期).....	47
実用英語演習 I(その 1) ... 森岡/2 年 (前期).....	48
実用英語演習 I その 1 ... 吉田/2 年 (前期).....	48
実用英語演習 I(その 1) ... 山田/2 年 (前期).....	48
実用英語演習 I(その 2) ... スティーヴンズ・ポンド・早内・プリン グル/2 年 (後期).....	48
実用英語演習 II(その 1) ... 宮崎/3 年 (前期).....	49
実用英語演習 II(その 1) ... 吉田/3 年 (前期).....	49
実用英語演習 II(その 2) ... 桂/3 年 (後期).....	49
実用英語演習 II(その 2) ... 山内/3 年 (後期).....	49
実用英語演習 III (その 1) ... 福田/3 年 (前期).....	50
実用英語演習 III(その 1) ... ポンド・佐久間/3 年 (前期).....	50
実用英語演習 III(その 1) ... 福田/3 年 (前期).....	50
実用英語演習 III(その 1) ... スティーヴンズ/3 年 (前期).....	51
実用英語演習 III(その 1) ... スタージ/3 年 (前期).....	51
実用英語演習 III (その 2) ... 福田/3 年 (後期).....	51
実用英語演習 III(その 2) ... ポンド・佐久間/3 年 (後期).....	51
実用英語演習 III(その 2) ... 福田/3 年 (後期).....	51

実用英語演習 III(その2) ... スティーヴンズ/3年(後期).....52
 実用英語演習 III(その2) ... スタージ/3年(後期).....52
 実用ドイツ語演習 I(その1) ... 井戸/2年(前期).....52
 実用ドイツ語演習 I(その2) ... 依岡/2年(後期).....52
 実用ドイツ語演習 II(その1) ... 石川/3年(前期).....52
 実用ドイツ語演習 II(その2) ... 石田/3年(後期).....53
 実用ドイツ語演習 III(その1) ... 今井/3年(前期).....53
 実用ドイツ語演習 III(その2) ... ヘルベルト/3年(後期).....53
 実用フランス語演習 I(その1) ... 長井/2年(前期).....53
 実用フランス語演習 I(その2) ... 田島/2年(後期).....53
 実用フランス語演習 II(その1) ... 山口/3年(前期).....54
 実用フランス語演習 II(その2) ... 山口/3年(後期).....54
 実用フランス語演習 III(その1) ... 長井/3年(前期).....54
 実用フランス語演習 III(その2) ... 長井/3年(前期).....54
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 井戸/3年(前期), 4年(前期)55
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 山田/3年(前期), 4年(前期)55
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 石川/3年(前期), 4年(前期)55
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 宮崎/3年(前期), 4年(前期)55
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 中島/3年(前期), 4年(前期)56
 欧米言語ゼミナール(その1) ... スタージ/3年(前期), 4年(前期).....56
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 森岡/3年(前期), 4年(前期)56
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 山内/3年(前期), 4年(前期)56
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 樋口/3年(前期), 4年(前期)56
 欧米言語ゼミナール(その1) ... スティーヴンズ/3年(前期), 4年(前期).....57
 欧米言語ゼミナール(その1) ... 石田/3年(前期), 4年(前期)57
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 井戸/3年(後期), 4年(後期)57
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 山田/3年(後期), 4年(後期)57
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 石川/3年(後期), 4年(後期)57
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 宮崎/3年(後期), 4年(後期)58
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 中島/3年(後期), 4年(後期)58
 欧米言語ゼミナール(その2) ... スタージ/3年(後期), 4年(後期).....58
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 森岡/3年(後期), 4年(後期)58
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 山内/3年(後期), 4年(後期)58
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 樋口/3年(後期), 4年(後期)59
 欧米言語ゼミナール(その2) ... スティーヴンズ/3年(後期), 4年(後期).....59
 欧米言語ゼミナール(その2) ... 石田/3年(後期), 4年(後期)59
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 井戸/3年(前期), 4年(前期)59
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 山田/3年(前期), 4年(前期)59
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 石川/3年(前期), 4年(前期)59
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 宮崎/3年(前期), 4年(前期)60
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 中島/3年(前期), 4年(前期)60
 欧米言語ゼミナール(その3) ... スタージ/3年(前期), 4年(前期).....60
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 森岡/3年(前期), 4年(前期)60
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 山内/3年(前期), 4年(前期)61
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 樋口/3年(前期), 4年(前期)61
 欧米言語ゼミナール(その3) ... スティーヴンズ/3年(前期), 4年(前期).....61
 欧米言語ゼミナール(その3) ... 石田/3年(前期), 4年(前期)61
 欧米言語ゼミナール(その4) ... 井戸/3年(後期), 4年(後期)61

欧米言語ゼミナール(その4) ... 山田/3年(後期), 4年(後期)62
 欧米言語ゼミナール(その4) ... 石川/3年(後期), 4年(後期)62
 欧米言語ゼミナール(その4) ... 宮崎/3年(後期), 4年(後期)62
 欧米言語ゼミナール(その4) ... 中島/3年(後期), 4年(後期)62
 欧米言語ゼミナール(その4) ... スタージ/3年(後期), 4年(後期).....62
 欧米言語ゼミナール(その4) ... 森岡/3年(後期), 4年(後期)63
 欧米言語ゼミナール(その4) ... 山内/3年(後期), 4年(後期)63
 欧米言語ゼミナール(その4) ... 樋口/3年(後期), 4年(後期)63
 欧米言語ゼミナール(その4) ... スティーヴンズ/3年(後期), 4年(後期).....63
 欧米言語ゼミナール(その4) ... 石田/3年(後期), 4年(後期)63
 欧米言語ゼミナール(総論) ... 欧米言語コース全教員/3年(前期, 後期), 4年(前期, 後期).....64
 英米の言語と文化 ... スティーヴンズ/3年(前期).....64
 ドイツの文学 ... 石川・井戸/2年(前期).....64

人間社会学科 欧米言語コース 言語表現サブコース

● サブコース指定科目

英米文化研究 I(その1) ... 宮崎/2年(前期).....65
 英米文化研究 I(その2) ... 宮崎/2年(後期).....65
 英米文化研究 II(その1) ... 山内/2年(前期).....65
 英米文化研究 II(その2) ... 山内/2年(後期).....66
 英米文化研究 III(その1) ... 樋口/3年(前期).....66
 英米文化研究 III(その2) ... 樋口/3年(後期).....66
 英米文化研究 IV(その1) ... 前田・山田/2年(前期), 3年(前期)66
 英米文化研究 IV(その2) ... 前田・山田/2年(後期), 3年(後期)67
 英米文化研究 IV(その3) ... 前田・山田/2年(前期), 3年(前期)67
 英米文化研究 IV(その4) ... 前田・山田/2年(後期), 3年(後期)67
 英米文化研究 VI(その1) ... スタージ/4年(前期).....68
 英米文化研究 VI(その2) ... スタージ/4年(後期).....68
 英米の社会と文化 I(その1) ... 吉田/2年(前期).....68
 英米の社会と文化 I(その2) ... 吉田/2年(後期).....69
 英米の社会と文化 II(その1) ... 宮崎/3年(前期).....69
 英米の社会と文化 II(その2) ... 宮崎/3年(後期).....69
 ドイツ言語文化研究 I(その2) ... 石川/2年(後期).....69
 ドイツ言語文化研究 I(その1) ... 石川/2年(前期).....70
 ドイツ言語文化研究 I(その3) ... 石川/3年(前期).....70
 ドイツ言語文化研究 I(その4) ... 石川/3年(後期).....70
 ドイツ言語文化研究 II(その1) ... 井戸/3年(前期), 4年(前期)70
 ドイツ言語文化研究 II(その2) ... 井戸/3年(後期), 4年(後期)71
 ドイツ言語文化研究 III(その1) ... 井戸/2年(前期).....71
 ドイツ言語文化研究 III(その2) ... 井戸/2年(後期).....71
 英米言語研究 I(その1) ... 井上・山田/2年(前期, 集中).....72
 英米言語研究 I(その2) ... 井上・山田/2年(後期, 集中).....72
 英米言語研究 II(その1) ... 元木・山田/3年(前期).....72

英米言語研究 II (その2) ...元木・山田/3年(後期).....	72
英米言語研究 III (その1) ...山田/2年(前期).....	73
英米言語研究 III (その2) ...山田/2年(後期).....	73
異文化間コミュニケーション(その1) ...坂田/2年(前期, 集中)	73
異文化間コミュニケーション(その2) ...坂田/2年(後期, 集中)	73
現代英語演習 I (その1) ...森岡/2年(前期).....	74
現代英語演習 I (その2) ...森岡/2年(後期).....	74
現代英語演習 II (その1) ...スタージ/2年(前期).....	74
現代英語演習 II (その2) ...スタージ/2年(後期).....	74
言語理論研究 I (その1) ...中島/2年(前期).....	75
言語理論研究 I (その2) ...中島/2年(後期).....	75
言語理論研究 II (その1) ...森岡/3年(前期).....	75
言語理論研究 II (その2) ...森岡/3年(後期).....	75
言語情報処理研究 (その1) ...中島/3年(前期), 4年(前期).....	75
言語情報処理研究 (その2) ...中島/3年(後期), 4年(後期).....	76
言語情報処理研究 (その3) ...中島/3年(前期), 4年(前期).....	76
言語情報処理研究 (その4) ...中島/3年(後期), 4年(後期).....	76
ドイツの社会と文化 (その1) ...ヘルベルト/2年(前期).....	76
ドイツの社会と文化 (その2) ...ヘルベルト/2年(後期).....	76
ドイツ語圏文化論 (その1) ...桂/3年(前期).....	77
ドイツ語圏文化論 (その2) ...桂/3年(後期).....	77
比較文化研究 (その1) ...依岡/2年(前期).....	77
比較文化研究 (その2) ...依岡/2年(後期).....	78
文化情報研究 (その1) ...石田/3年(前期).....	78
文化情報研究 (その2) ...石田/3年(後期).....	78
比較文化演習 (その1) ...スタージ/3年(前期).....	78
比較文化演習 (その2) ...スタージ/3年(後期).....	78

人間社会学科 欧米言語コース 言語コミュニケーションサブコース

● サブコース指定科目

英米言語研究 I (その1) ...井上・山田/2年(前期, 集中).....	80
英米言語研究 I (その2) ...井上・山田/2年(後期, 集中).....	80
英米言語研究 II (その1) ...元木・山田/3年(前期).....	81
英米言語研究 II (その2) ...元木・山田/3年(後期).....	81
英米言語研究 III (その1) ...山田/2年(前期).....	81
英米言語研究 III (その2) ...山田/2年(後期).....	81
異文化間コミュニケーション(その1) ...坂田/2年(前期, 集中)	81
異文化間コミュニケーション(その2) ...坂田/2年(後期, 集中)	82
現代英語演習 I (その1) ...森岡/2年(前期).....	82
現代英語演習 I (その2) ...森岡/2年(後期).....	82
現代英語演習 II (その1) ...スタージ/2年(前期).....	83
現代英語演習 II (その2) ...スタージ/2年(後期).....	83
言語理論研究 I (その1) ...中島/2年(前期).....	83
言語理論研究 I (その2) ...中島/2年(後期).....	83
言語理論研究 II (その1) ...森岡/3年(前期).....	83
言語理論研究 II (その2) ...森岡/3年(後期).....	83
言語情報処理研究 (その1) ...中島/3年(前期), 4年(前期).....	84

言語情報処理研究 (その2) ...中島/3年(後期), 4年(後期).....	84
言語情報処理研究 (その3) ...中島/3年(前期), 4年(前期).....	84
言語情報処理研究 (その4) ...中島/3年(後期), 4年(後期).....	84
言語情報プログラミング演習 (その1) ...石田/2年(前期).....	84
言語情報プログラミング演習 (その2) ...石田/2年(後期).....	85
言語情報プログラミング演習 (その3) ...石田/3年(前期).....	85
言語情報プログラミング演習 (その4) ...石田/3年(後期).....	85
英米文化研究 I (その1) ...宮崎/2年(前期).....	85
英米文化研究 I (その2) ...宮崎/2年(後期).....	85
英米文化研究 II (その1) ...山内/2年(前期).....	86
英米文化研究 II (その2) ...山内/2年(後期).....	86
英米文化研究 III (その1) ...樋口/3年(前期).....	86
英米文化研究 III (その2) ...樋口/3年(後期).....	86
英米文化研究 IV (その1) ...前田・山田/2年(前期), 3年(前期)	87
英米文化研究 IV (その2) ...前田・山田/2年(後期), 3年(後期)	87
英米文化研究 IV (その3) ...前田・山田/2年(後期), 3年(後期)	87
英米文化研究 IV (その4) ...前田・山田/2年(後期), 3年(後期)	88
英米文化研究 VI (その1) ...スタージ/4年(前期).....	88
英米文化研究 VI (その2) ...スタージ/4年(後期).....	88
英米の社会と文化 I (その1) ...吉田/2年(前期).....	88
英米の社会と文化 I (その2) ...吉田/2年(後期).....	89
英米の社会と文化 II (その1) ...宮崎/3年(前期).....	89
英米の社会と文化 II (その2) ...宮崎/3年(後期).....	89
ドイツ言語文化研究 I (その2) ...石川/2年(後期).....	90
ドイツ言語文化研究 I (その1) ...石川/2年(前期).....	90
ドイツ言語文化研究 I(その3) ...石川/3年(前期).....	90
ドイツ言語文化研究 I(その4) ...石川/3年(後期).....	90
ドイツ言語文化研究 II (その1) ...井戸/3年(前期), 4年(前期)	91
ドイツ言語文化研究 II (その2) ...井戸/3年(後期), 4年(後期)	91
ドイツ言語文化研究 III (その1) ...井戸/2年(前期).....	91
ドイツ言語文化研究 III (その2) ...井戸/2年(後期).....	92
比較文化演習 (その1) ...スタージ/3年(前期).....	92
比較文化演習 (その2) ...スタージ/3年(後期).....	92

人間社会学科 国際文化コース 共通科目

● コース共通科目

実用英語演習・総論 ...欧米言語コース教員・国際文化コース教員 ・吉田/2年(前期, 後期), 3年(前期, 後期).....	93
実用英語演習 I(その1) ...森岡/2年(前期).....	94
実用英語演習 I(その1) ...吉田/2年(前期).....	94
実用英語演習 I(その1) ...山田/2年(前期).....	94
実用英語演習 I(その2) ...スティーヴンズ・ポンド・早内・プリン グル/2年(後期).....	95
実用英語演習 II(その1) ...宮崎/3年(前期).....	95
実用英語演習 II(その1) ...吉田/3年(前期).....	95
実用英語演習 II(その2) ...桂/3年(後期).....	95

実用英語演習 II(その2) ...山内/3年(後期).....96
 実用英語演習 III(その1) ...福田/3年(前期).....96
 実用英語演習 III(その1) ...ポンド・佐久間/3年(前期).....96
 実用英語演習 III(その1) ...福田/3年(前期).....96
 実用英語演習 III(その1) ...スティーヴンズ/3年(前期).....97
 実用英語演習 III(その1) ...スタージ/3年(前期).....97
 実用英語演習 III(その2) ...福田/3年(後期).....97
 実用英語演習 III(その2) ...ポンド・佐久間/3年(後期).....97
 実用英語演習 III(その2) ...福田/3年(後期).....97
 実用英語演習 III(その2) ...スティーヴンズ/3年(後期).....98
 実用英語演習 III(その2) ...スタージ/3年(後期).....98
 実用ドイツ語演習 I(その1) ...井戸/2年(前期).....98
 実用ドイツ語演習 I(その2) ...依岡/2年(後期).....98
 実用ドイツ語演習 II(その1) ...石川/3年(前期).....98
 実用ドイツ語演習 II(その2) ...石田/3年(後期).....99
 実用ドイツ語演習 III(その1) ...今井/3年(前期).....99
 実用ドイツ語演習 III(その2) ...ヘルベルト/3年(後期).....99
 実用フランス語演習 I(その1) ...長井/2年(前期).....99
 実用フランス語演習 I(その2) ...田島/2年(後期).....100
 実用フランス語演習 II(その1) ...山口/3年(前期).....100
 実用フランス語演習 II(その2) ...山口/3年(後期).....100
 実用フランス語演習 III(その1) ...長井/3年(前期).....100
 実用フランス語演習 III(その2) ...長井/3年(前期).....101
 国際文化基礎演習(その1) ...今井/2年(前期).....101
 国際文化基礎演習(その2) .../2年(後期).....101
 国際文化基礎演習(その3) ...今井/3年(前期).....101
 情報処理演習 ...豊田・矢部・真岸・小野・佐藤・村上・西山・佐藤
 ・行實/2年(後期).....101
 国際文化ゼミナール(総論) ...国際文化コース全教員/3年(前期,
 後期), 4年(前期, 後期).....102
 国際文化ゼミナール(その1) ...吉田/3年(前期).....102
 国際文化ゼミナール(その1) ...佐久間/3年(前期).....102
 国際文化ゼミナール(その1) ...依岡/3年(前期).....102
 国際文化ゼミナール(その1) ...田島/3年(前期).....103
 国際文化ゼミナール(その1) ...今井/3年(前期).....103
 国際文化ゼミナール(その1) ...上野/3年(前期).....103
 国際文化ゼミナール(その1) ...石田/3年(前期).....103
 国際文化ゼミナール(その1) ...石田/3年(前期).....104
 国際文化ゼミナール(その1) ...桂/3年(前期).....104
 国際文化ゼミナール(その1) ...長井/3年(前期).....104
 国際文化ゼミナール(その1) ...吉田/3年(前期).....104
 国際文化ゼミナール(その1) ...山口/3年(前期).....105
 国際文化ゼミナール(その1) ...スティーヴンズ/3年(前期).....105
 国際文化ゼミナール(その1) ...スタージ/3年(前期).....105
 国際文化ゼミナール(その2) ...吉田/3年(後期).....105
 国際文化ゼミナール(その2) ...佐久間/3年(後期).....105
 国際文化ゼミナール(その2) ...依岡/3年(後期).....105
 国際文化ゼミナール(その2) ...田島/3年(後期).....106
 国際文化ゼミナール(その2) ...長井/3年(後期).....106
 国際文化ゼミナール(その2) ...吉田/3年(後期).....106
 国際文化ゼミナール(その2) ...山口/3年(後期).....106
 国際文化ゼミナール(その2) ...今井/3年(後期).....106
 国際文化ゼミナール(その2) ...上野/3年(後期).....107
 国際文化ゼミナール(その2) ...石田/3年(後期).....107

国際文化ゼミナール(その2) ...石田/3年(後期).....107
 国際文化ゼミナール(その2) ...桂/3年(後期).....107
 国際文化ゼミナール(その2) ...スティーヴンズ/3年(後期).....107
 国際文化ゼミナール(その2) ...スタージ/3年(後期).....108
 国際文化ゼミナール(その3) ...吉田/4年(前期).....108
 国際文化ゼミナール(その3) ...佐久間/4年(前期).....108
 国際文化ゼミナール(その3) ...依岡/4年(前期).....108
 国際文化ゼミナール(その3) ...田島/4年(前期).....108
 国際文化ゼミナール(その3) ...長井/4年(前期).....109
 国際文化ゼミナール(その3) ...吉田/4年(前期).....109
 国際文化ゼミナール(その3) ...山口/4年(前期).....109
 国際文化ゼミナール(その3) ...今井/4年(前期).....109
 国際文化ゼミナール(その3) ...上野/4年(前期).....109
 国際文化ゼミナール(その3) ...石田/4年(前期).....110
 国際文化ゼミナール(その3) ...石田/4年(前期).....110
 国際文化ゼミナール(その3) ...桂/4年(前期).....110
 国際文化ゼミナール(その3) ...スティーヴンズ/4年(前期).....110
 国際文化ゼミナール(その3) ...スタージ/4年(前期).....111
 国際文化ゼミナール(その4) ...吉田/4年(後期).....111
 国際文化ゼミナール(その4) ...佐久間/4年(後期).....111
 国際文化ゼミナール(その4) ...依岡/4年(後期).....111
 国際文化ゼミナール(その4) ...田島/4年(後期).....111
 国際文化ゼミナール(その4) ...長井/4年(後期).....112
 国際文化ゼミナール(その4) ...吉田/4年(後期).....112
 国際文化ゼミナール(その4) ...山口/4年(後期).....112
 国際文化ゼミナール(その4) ...今井/4年(後期).....112
 国際文化ゼミナール(その4) ...上野/4年(後期).....112
 国際文化ゼミナール(その4) ...石田/4年(後期).....112
 国際文化ゼミナール(その4) ...石田/4年(後期).....113
 国際文化ゼミナール(その4) ...桂/4年(後期).....113
 国際文化ゼミナール(その4) ...スティーヴンズ/4年(後期).....113
 国際文化ゼミナール(その4) ...スタージ/4年(後期).....113

人間社会学科 国際文化コース 文化情報サブコース

● サブコース指定科目

比較文化研究(その1) ...依岡/2年(前期).....114
 比較文化研究(その2) ...依岡/2年(後期).....115
 文化情報研究(その1) ...石田/3年(前期).....115
 文化情報研究(その2) ...石田/3年(後期).....115
 言語情報プログラミング演習(その1) ...石田/2年(前期).....115
 言語情報プログラミング演習(その2) ...石田/2年(後期).....116
 言語情報プログラミング演習(その3) ...石田/3年(前期).....116
 言語情報プログラミング演習(その4) ...石田/3年(後期).....116
 アメリカ文化論(その1) ...上野/2年(前期).....116
 アメリカ文化論(その2) ...上野/2年(後期).....116
 ドイツ語圏文化論(その1) ...桂/3年(前期).....117
 ドイツ語圏文化論(その2) ...桂/3年(後期).....117
 フランス語圏文化論(その1) ...田島/3年(前期).....117
 フランス語圏文化論(その2) ...田島/3年(後期).....118
 文化批評論(その1) ...吉田/2年(前期).....118
 文化批評論(その2) ...吉田/2年(後期).....118
 日本語教育方法論 I ...大石/2年(前期).....119

日本語教育方法論 II ... 橋本/2年(後期).....	119
日本語教授法 I ... 大石/2年(前期).....	119
日本語教授法 II ... 橋本/2年(後期).....	119
日本語教育演習(その1) ... 大石/3年(後期).....	119
日本語教育演習(その2) ... 大石/4年(後期).....	120
英米の社会と文化 I(その1) ... 吉田/2年(前期).....	120
英米の社会と文化 I(その2) ... 吉田/2年(後期).....	120
異文化間コミュニケーション(その1) ... 坂田/2年(前期, 集中)	121
異文化間コミュニケーション(その2) ... 坂田/2年(後期, 集中)	121
言語情報処理研究(その1) ... 中島/3年(前期), 4年(前期)	121
言語情報処理研究(その2) ... 中島/3年(後期), 4年(後期)	121
言語情報処理研究(その3) ... 中島/3年(前期), 4年(前期)	121
言語情報処理研究(その4) ... 中島/3年(後期), 4年(後期)	122
比較文化演習(その1) ... スタージ/3年(前期).....	122
比較文化演習(その2) ... スタージ/3年(後期).....	122
ドイツの社会と文化(その1) ... ヘルベルト/2年(前期).....	122
ドイツの社会と文化(その2) ... ヘルベルト/2年(後期).....	122
社会思想研究 ... 石田・山口/2年(後期).....	123
比較思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(前期).....	123
ヨーロッパ思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(後期).....	123
社会的行為の理論 ... 堀田・榎田/2年(前期, 集中).....	124
哲学思想基本研究 I(その1) ... 山口/2年(前期).....	124
哲学思想基本研究 I(その2) ... 山口/2年(後期).....	124
哲学思想基本研究 I(その3) ... 山口/3年(前期).....	125
哲学思想基本研究 I(その4) ... 山口/3年(後期).....	125
哲学思想基本研究 II(その1) ... 石田/2年(前期).....	125
哲学思想基本研究 II(その2) ... 石田/2年(後期).....	125
哲学思想基本研究 II(その3) ... 石田/3年(前期).....	125
哲学思想基本研究 II(その4) ... 石田/3年(後期).....	126
哲学思想基本研究 III(その1) ... 吉田/2年(前期).....	126
哲学思想基本研究 III(その2) ... 吉田/2年(後期).....	126
哲学思想基本研究 III(その3) ... 吉田/3年(前期).....	126
哲学思想基本研究 III(その4) ... 吉田/3年(後期).....	127
哲学思想基本研究 IV(その1) ... 石田/2年(前期).....	127
哲学思想基本研究 IV(その2) ... 石田/2年(後期).....	127
哲学思想基本研究 IV(その3) ... 石田/3年(前期).....	127
哲学思想基本研究 IV(その4) ... 石田/3年(後期).....	127
ヨーロッパ歴史・社会論 I ... 佐久間/2年(前期).....	128
ヨーロッパ歴史・社会論 II ... 長井/2年(前期).....	128
ヨーロッパ歴史・社会論 III ... 今井/2年(前期).....	128
アメリカ歴史・社会論 ... 吉岡・今井/2年(前期).....	128
ヨーロッパ社会研究 I ... 佐久間/2年(後期).....	129
ヨーロッパ社会研究 II ... 長井/2年(前期).....	129
ヨーロッパ社会研究 III ... 今井/2年(後期).....	129
アメリカ社会研究 ... 西出・今井/2年(後期).....	129
ヨーロッパ史特論 I ... 佐久間/3年(後期).....	130
ヨーロッパ史特論 II ... 長井/3年(後期).....	130
ヨーロッパ地域研究特論 ... 今井/3年(後期).....	130
アメリカ史特論 ... 西出・今井/3年(後期).....	130
英米文化研究 I(その1) ... 宮崎/2年(前期).....	131
英米文化研究 I(その2) ... 宮崎/2年(後期).....	131
英米言語研究 I(その1) ... 井上・山田/2年(前期, 集中).....	131

英米言語研究 I(その2) ... 井上・山田/2年(後期, 集中).....	131
現代英語演習 I(その1) ... 森岡/2年(前期).....	132
現代英語演習 I(その2) ... 森岡/2年(後期).....	132
民俗学研究 I ... 高橋/2年(後期).....	132
文化人類学研究 I ... 高橋/2年(前期).....	132
ジェンダー研究 ... 北村・平木/2年(後期), 3年(後期), 4年(後期).....	133
社会心理学 ... 佐藤/2年(後期).....	133
日本文学基礎研究 III(前期) ... 鳥羽・衣川/2年(前期, 集中), 3年(前期, 集中).....	133
日本文学基礎研究 III(後期) ... 鳥羽・衣川/2年(後期, 集中), 3年(後期, 集中).....	134
日本語基礎研究 I(前期) ... 岸江/2年(前期).....	134
日本語基礎研究 I(後期) ... 岸江/2年(後期).....	134
日本語基礎研究 II(前期) ... 仙波/2年(前期).....	134
日本語基礎研究 II(後期) ... 仙波/2年(後期).....	135
日本語演習 I ... 岸江/3年(前期), 4年(前期).....	135
日本語演習 I ... 岸江/3年(後期), 4年(後期).....	135
日本語演習 II(前期) ... 仙波/3年(前期), 4年(前期).....	135
日本語演習 II(後期) ... 仙波/3年(後期), 4年(後期).....	136
ドイツ言語文化研究 I(その1) ... 石川/2年(前期).....	136
ドイツ言語文化研究 I(その2) ... 石川/2年(後期).....	136
ドイツ言語文化研究 I(その3) ... 石川/3年(前期).....	136
ドイツ言語文化研究 I(その4) ... 石川/3年(後期).....	137

人間社会学科 国際文化コース 哲学・思想サブコース

● サブコース指定科目

社会思想研究 ... 石田・山口/2年(後期).....	138
比較思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(前期).....	139
ヨーロッパ思想研究 ... 石田・吉田・山口/2年(後期).....	139
社会的行為の理論 ... 堀田・榎田/2年(前期, 集中).....	139
哲学思想基本研究 I(その1) ... 山口/2年(前期).....	140
哲学思想基本研究 I(その2) ... 山口/2年(後期).....	140
哲学思想基本研究 I(その3) ... 山口/3年(前期).....	140
哲学思想基本研究 I(その4) ... 山口/3年(後期).....	140
哲学思想基本研究 II(その1) ... 石田/2年(前期).....	141
哲学思想基本研究 II(その2) ... 石田/2年(後期).....	141
哲学思想基本研究 II(その3) ... 石田/3年(前期).....	141
哲学思想基本研究 II(その4) ... 石田/3年(後期).....	141
哲学思想基本研究 III(その1) ... 吉田/2年(前期).....	141
哲学思想基本研究 III(その2) ... 吉田/2年(後期).....	142
哲学思想基本研究 III(その3) ... 吉田/3年(前期).....	142
哲学思想基本研究 III(その4) ... 吉田/3年(後期).....	142
哲学思想基本研究 IV(その1) ... 石田/2年(前期).....	142
哲学思想基本研究 IV(その2) ... 石田/2年(後期).....	143
哲学思想基本研究 IV(その3) ... 石田/3年(前期).....	143
哲学思想基本研究 IV(その4) ... 石田/3年(後期).....	143
比較文化研究(その1) ... 依岡/2年(前期).....	143
比較文化研究(その2) ... 依岡/2年(後期).....	144
文化情報研究(その1) ... 石田/3年(前期).....	144
文化情報研究(その2) ... 石田/3年(後期).....	144
言語情報プログラミング演習(その1) ... 石田/2年(前期).....	144

言語情報プログラミング演習 (その 2) ... 石田/2 年 (後期) 144
 言語情報プログラミング演習 (その 3) ... 石田/3 年 (前期) 145
 言語情報プログラミング演習 (その 4) ... 石田/3 年 (後期) 145
 アメリカ文化論 (その 1) ... 上野/2 年 (前期) 145
 アメリカ文化論 (その 2) ... 上野/2 年 (後期) 145
 ドイツ語圏文化論 (その 1) ... 桂/3 年 (前期) 146
 ドイツ語圏文化論 (その 2) ... 桂/3 年 (後期) 146
 フランス語圏文化論 (その 1) ... 田島/3 年 (前期) 146
 フランス語圏文化論 (その 2) ... 田島/3 年 (後期) 146
 文化批評論 (その 1) ... 吉田/2 年 (前期) 147
 文化批評論 (その 2) ... 吉田/2 年 (後期) 147
 日本語教育方法論 I ... 大石/2 年 (前期) 147
 日本語教育方法論 II ... 橋本/2 年 (後期) 148
 日本語教授法 I ... 大石/2 年 (前期) 148
 日本語教授法 II ... 橋本/2 年 (後期) 148
 日本語教育演習 (その 1) ... 大石/3 年 (後期) 148
 日本語教育演習 (その 2) ... 大石/4 年 (後期) 148
 英米の社会と文化 I (その 1) ... 吉田/2 年 (前期) 149
 英米の社会と文化 I (その 2) ... 吉田/2 年 (後期) 149
 異文化間コミュニケーション (その 1) ... 坂田/2 年 (前期, 集中)
 149
 異文化間コミュニケーション (その 2) ... 坂田/2 年 (後期, 集中)
 150
 言語情報処理研究 (その 1) ... 中島/3 年 (前期), 4 年 (前期) 150
 言語情報処理研究 (その 2) ... 中島/3 年 (後期), 4 年 (後期) 150
 言語情報処理研究 (その 3) ... 中島/3 年 (前期), 4 年 (前期) 150
 言語情報処理研究 (その 4) ... 中島/3 年 (後期), 4 年 (後期) 150
 比較文化演習 (その 1) ... スタージ/3 年 (前期) 151
 比較文化演習 (その 2) ... スタージ/3 年 (後期) 151
 ドイツの社会と文化 (その 1) ... ヘルベルト/2 年 (前期) 151
 ドイツの社会と文化 (その 2) ... ヘルベルト/2 年 (後期) 151
 ヨーロッパ歴史・社会論 I ... 佐久間/2 年 (前期) 152
 ヨーロッパ歴史・社会論 II ... 長井/2 年 (前期) 152
 ヨーロッパ歴史・社会論 III ... 今井/2 年 (前期) 152
 アメリカ歴史・社会論 ... 吉岡・今井/2 年 (前期) 152
 ヨーロッパ社会研究 I ... 佐久間/2 年 (後期) 153
 ヨーロッパ社会研究 II ... 長井/2 年 (前期) 153
 ヨーロッパ社会研究 III ... 今井/2 年 (後期) 153
 アメリカ社会研究 ... 西出・今井/2 年 (後期) 153
 ヨーロッパ史特論 I ... 佐久間/3 年 (後期) 154
 ヨーロッパ史特論 II ... 長井/3 年 (後期) 154
 ヨーロッパ地域研究特論 ... 今井/3 年 (後期) 154
 アメリカ史特論 ... 西出・今井/3 年 (後期) 154
 アジア思想研究 I ... 有馬/2 年 (前期) 154
 アジア思想研究 II ... 有馬・郡・田中/2 年 (前期) 155
 理論経済学 I ... 立花/2 年 (前期) 155
 理論経済学 II ... 立花/2 年 (後期) 155
 社会変動研究 ... 樋口/2 年 (前期) 155

ヨーロッパ歴史・社会論 I ... 佐久間/2 年 (前期) 157
 ヨーロッパ歴史・社会論 II ... 長井/2 年 (前期) 158
 ヨーロッパ歴史・社会論 III ... 今井/2 年 (前期) 158
 アメリカ歴史・社会論 ... 吉岡・今井/2 年 (前期) 158
 ヨーロッパ社会研究 I ... 佐久間/2 年 (後期) 158
 ヨーロッパ社会研究 II ... 長井/2 年 (前期) 159
 ヨーロッパ社会研究 III ... 今井/2 年 (後期) 159
 アメリカ社会研究 ... 西出・今井/2 年 (後期) 159
 ヨーロッパ史特論 I ... 佐久間/3 年 (後期) 159
 ヨーロッパ史特論 II ... 長井/3 年 (後期) 160
 ヨーロッパ地域研究特論 ... 今井/3 年 (後期) 160
 アメリカ史特論 ... 西出・今井/3 年 (後期) 160
 比較文化研究 (その 1) ... 依岡/2 年 (前期) 160
 比較文化研究 (その 2) ... 依岡/2 年 (後期) 161
 文化情報研究 (その 1) ... 石田/3 年 (前期) 161
 文化情報研究 (その 2) ... 石田/3 年 (後期) 161
 言語情報プログラミング演習 (その 1) ... 石田/2 年 (前期) 161
 言語情報プログラミング演習 (その 2) ... 石田/2 年 (後期) 161
 言語情報プログラミング演習 (その 3) ... 石田/3 年 (前期) 162
 言語情報プログラミング演習 (その 4) ... 石田/3 年 (後期) 162
 アメリカ文化論 (その 1) ... 上野/2 年 (前期) 162
 アメリカ文化論 (その 2) ... 上野/2 年 (後期) 162
 ドイツ語圏文化論 (その 1) ... 桂/3 年 (前期) 163
 ドイツ語圏文化論 (その 2) ... 桂/3 年 (後期) 163
 フランス語圏文化論 (その 1) ... 田島/3 年 (前期) 163
 フランス語圏文化論 (その 2) ... 田島/3 年 (後期) 163
 文化批評論 (その 1) ... 吉田/2 年 (前期) 164
 文化批評論 (その 2) ... 吉田/2 年 (後期) 164
 日本語教育方法論 I ... 大石/2 年 (前期) 164
 日本語教育方法論 II ... 橋本/2 年 (後期) 165
 日本語教授法 I ... 大石/2 年 (前期) 165
 日本語教授法 II ... 橋本/2 年 (後期) 165
 日本語教育演習 (その 1) ... 大石/3 年 (前期) 165
 日本語教育演習 (その 2) ... 大石/4 年 (後期) 165
 英米の社会と文化 I (その 1) ... 吉田/2 年 (前期) 166
 英米の社会と文化 I (その 2) ... 吉田/2 年 (後期) 166
 異文化間コミュニケーション (その 1) ... 坂田/2 年 (前期, 集中)
 166
 異文化間コミュニケーション (その 2) ... 坂田/2 年 (後期, 集中)
 167
 言語情報処理研究 (その 1) ... 中島/3 年 (前期), 4 年 (前期) 167
 言語情報処理研究 (その 2) ... 中島/3 年 (後期), 4 年 (後期) 167
 言語情報処理研究 (その 3) ... 中島/3 年 (前期), 4 年 (前期) 167
 言語情報処理研究 (その 4) ... 中島/3 年 (後期), 4 年 (後期) 167
 比較文化演習 (その 1) ... スタージ/3 年 (前期) 168
 比較文化演習 (その 2) ... スタージ/3 年 (後期) 168
 ドイツの社会と文化 (その 1) ... ヘルベルト/2 年 (前期) 168
 ドイツの社会と文化 (その 2) ... ヘルベルト/2 年 (後期) 168
 社会思想研究 ... 石田・山口/2 年 (後期) 169
 比較思想研究 ... 石田・吉田・山口/2 年 (前期) 169
 ヨーロッパ思想研究 ... 石田・吉田・山口/2 年 (後期) 169
 社会的行為の理論 ... 堀田・榎田/2 年 (前期, 集中) 170
 哲学思想基本研究 I (その 1) ... 山口/2 年 (前期) 170
 哲学思想基本研究 I (その 2) ... 山口/2 年 (後期) 170

人間社会学科 国際文化コース 歴史・社会サブコース

- サブコース指定科目

哲学思想基本研究 I (その 3) ... 山口/3 年 (前期).....	170
哲学思想基本研究 I (その 4) ... 山口/3 年 (後期).....	171
哲学思想基本研究 II (その 1) ... 石田/2 年 (前期).....	171
哲学思想基本研究 II (その 2) ... 石田/2 年 (後期).....	171
哲学思想基本研究 II (その 3) ... 石田/3 年 (前期).....	171
哲学思想基本研究 II (その 4) ... 石田/3 年 (後期).....	172
哲学思想基本研究 III (その 1) ... 吉田/2 年 (前期).....	172
哲学思想基本研究 III (その 2) ... 吉田/2 年 (後期).....	172
哲学思想基本研究 III (その 3) ... 吉田/3 年 (前期).....	172
哲学思想基本研究 III (その 4) ... 吉田/3 年 (後期).....	172
哲学思想基本研究 IV (その 1) ... 石田/2 年 (前期).....	173
哲学思想基本研究 IV (その 2) ... 石田/2 年 (後期).....	173
哲学思想基本研究 IV (その 3) ... 石田/3 年 (前期).....	173
哲学思想基本研究 IV (その 4) ... 石田/3 年 (後期).....	173
アジア社会研究 I ... 荒武/2 年 (後期).....	174
アジア社会研究 II ... 荒武/2 年 (後期).....	174
アジア史研究 III ... 葭森/2 年 (後期).....	174
日本史研究 I ... 桑原/2 年 (前期), 3 年 (前期).....	174
文化人類学研究 I ... 高橋/2 年 (前期).....	174
民俗学研究 I ... 高橋/2 年 (後期).....	175
家族社会学研究 ... 樫田/2 年 (後期).....	175
社会変動研究 ... 樋口/2 年 (前期).....	175
地誌学 ... 平井/2 年 (前期).....	176
ジェンダー研究 ... 北村・平木/2 年 (後期), 3 年 (後期), 4 年 (後期).....	176
経済原論 I ... 眞弓/2 年 (前期, 集中).....	176
金融論 I ... 趙/3 年 (前期).....	176
国際関係論 I ... 饗場/3 年 (前期).....	176
国際関係論 II ... 饗場/3 年 (後期).....	177
世界経済論 I ... 水島/3 年 (前期).....	177
世界経済論 II ... 水島/3 年 (後期).....	177
社会心理学 ... 佐藤/2 年 (後期).....	178

人間社会学科 マルチメディアコース 共通科目

● コース共通科目

マルチメディア基礎演習 ... 河原崎/2 年 (前期).....	179
芸術基礎理論演習 ... 平木/2 年 (後期).....	179
インタラクティブコミュニケーション論 ... 掛井/2 年 (後期).....	179
メディアアート ... 河原崎/3 年 (後期).....	179
仮想空間論 ... 掛井/2 年 (前期).....	180
計算機概論 ... 中山/2 年 (前期).....	180
映像メディア表現研究 ... 掛井/2 年 (前期).....	180
アート・アンド・テクノロジー論 ... 石井/2 年 (前期).....	181
ミュージックデザイン ... 宮澤/2 年 (後期).....	181
映像デザイン表現研究 ... 石井/2 年 (前期).....	181
プログラミング基礎演習 II ... 鍋島/2 年 (後期).....	181
音楽学 ... 片岡/2 年 (後期).....	182
世界の諸民族の音楽 ... 片岡/2 年 (前期).....	182
現代音楽芸術論 ... 宮澤/2 年 (前期).....	182
音楽理論研究 ... 宮澤/2 年 (前期).....	182
現代絵画論 ... 平木/2 年 (前期).....	183
美術概論 ... 江川・平木/2 年 (後期).....	183

運動文化比較研究 ... 中村/2 年 (後期).....	183
身体表現論 ... 中村/3 年 (前期, 集中).....	183
認知心理学 ... 濱田/3 年 (前期).....	184
知覚心理学 ... 濱田/2 年 (後期).....	184
文化人類学研究 I ... 高橋/2 年 (前期).....	184
民俗学研究 I ... 高橋/2 年 (後期).....	184
造形表現基礎 ... 平木/2 年 (後期).....	185
デッサンと表現技法 ... 平木/2 年 (後期).....	185
絵画表現研究 ... 平木/2 年 (後期).....	185
彫刻研究 ... 上月・平木/2 年 (前期).....	186

人間社会学科 マルチメディアコース マルチ情報サブコース

● サブコース指定科目

仮想環境構築法 I ... 掛井/3 年 (前期).....	187
仮想環境構築法 II ... 河原崎/3 年 (後期).....	187
空間デザイン論 ... 掛井/3 年 (後期).....	187
デスク・トップ・ミュージック ... 宮澤/2 年 (後期).....	187
MIDI 概論 ... 宮澤/2 年 (後期).....	188
マーケティング情報表現研究 (その 1) ... 石井/2 年 (後期).....	188
マーケティング情報表現研究 (その 2) ... 石井/3 年 (後期).....	188
ミュージアムスタディー ... 石井/3 年 (後期).....	188
空間デザインゼミナール ... 掛井/4 年 (後期).....	189
環境デザインゼミナール ... 石井/3 年 (後期).....	189
メディアアート概論 ... 河原崎/2 年 (前期).....	189
モデリング理論 ... 宇野/2 年 (後期).....	189
ネットワーク論 ... 中山/1 年 (前期).....	190
コンピュータグラフィックス基礎論 ... 中山/1 年 (後期).....	190
デスク・トップ・ミュージックゼミナール ... 宮澤/4 年 (前期).....	190
音楽学研究 ... 片岡/3 年 (前期).....	190
作曲法研究 ... 宮澤/2 年 (後期).....	191
指揮法研究 ... 宮澤/2 年 (後期, 集中).....	191
音楽学ゼミナール I ... 片岡/3 年 (後期).....	191
音楽学ゼミナール II ... 片岡/3 年 (後期).....	191
書法表現研究 I ... 蓑毛・堤/2 年 (後期, 集中).....	192
平面表現研究 ... 平木/3 年 (前期).....	192
工芸表現研究 ... 平木/2 年 (後期).....	192
平面表現ゼミナール ... 平木/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	192
メディアアート ... 河原崎/3 年 (後期).....	193

人間社会学科 マルチメディアコース アート情報サブコース

● サブコース指定科目

音楽学研究 ... 片岡/3 年 (前期).....	194
作曲法研究 ... 宮澤/2 年 (後期).....	194
指揮法研究 ... 宮澤/2 年 (後期, 集中).....	194
音楽学ゼミナール I ... 片岡/3 年 (後期).....	195
音楽学ゼミナール II ... 片岡/3 年 (後期).....	195
書法表現研究 I ... 蓑毛・堤/2 年 (後期, 集中).....	195
平面表現研究 ... 平木/3 年 (前期).....	195
工芸表現研究 ... 平木/2 年 (後期).....	196
平面表現ゼミナール ... 平木/3 年 (後期), 4 年 (後期).....	196

仮想環境構築法 I ... 掛井/3年(前期).....196
 仮想環境構築法 II ... 河原崎/3年(後期).....196
 空間デザイン論 ... 掛井/3年(後期).....197
 MIDI 概論 ... 宮澤/2年(後期).....197
 マーケティング情報表現研究 (その1) ... 石井/2年(後期) 197
 マーケティング情報表現研究 (その2) ... 石井/3年(後期) 197
 ミュージアムスタディー ... 石井/3年(後期).....198
 空間デザインゼミナール ... 掛井/4年(後期).....198
 環境デザインゼミナール ... 石井/3年(後期).....198
 デスク・トップ・ミュージックゼミナール ... 宮澤/4年(前期)
 198
 モデリング理論 ... 宇野/3年(後期).....199
 ネットワーク論 ... 中山/3年(前期).....199
 コンピュータグラフィックス基礎論 ... 中山/3年(後期).....199
 平面製作法 ... 平木/3年(前期).....199

人間社会学科 地域システムコース 共通科目

● コース共通科目

地域調査法 AI ... 田中/2年(前期).....200
 地域調査法 BI ... 北村/2年(前期).....200
 地域調査法 CI ... 矢部/2年(前期).....200
 地域調査法 DI ... 豊田/2年(前期).....201
 地域調査法 EI ... 平井/2年(前期).....201
 地域調査法 FI ... 榎田/2年(前期).....201
 地域調査法 AII ... 田中/2年(後期).....202
 地域調査法 BII ... 北村/2年(後期).....202
 地域調査法 CII ... 矢部/2年(後期).....202
 地域調査法 DII ... 豊田/2年(後期).....202
 地域調査法 EII ... 平井/2年(後期).....203
 地域調査法 FII ... 榎田/2年(後期).....203
 地域調査実習 AI ... 田中/2年(前期).....203
 地域調査実習 BI ... 北村/2年(前期).....204
 地域調査実習 CI ... 矢部/2年(前期).....204
 地域調査実習 DI ... 豊田/2年(前期).....204
 地域調査実習 EI ... 平井/2年(前期).....205
 地域調査実習 FI ... 榎田/2年(前期).....205
 地域調査実習 AII ... 田中/2年(後期).....205
 地域調査実習 BII ... 北村/2年(後期).....205
 地域調査実習 CII ... 矢部/2年(後期).....206
 地域調査実習 DII ... 豊田/2年(後期).....206
 地域調査実習 EII ... 平井/2年(後期).....206
 地域調査実習 FII ... 榎田/2年(後期).....207
 社会統計基礎論 ... 豊田・石田/2年(前期).....207
 文化人類学研究 I ... 高橋/2年(前期).....207
 人文地理学研究 I ... 豊田/2年(後期).....208
 地域社会研究 ... 矢部/2年(前期).....208
 学校制度論 ... 岩永/2年(後期).....208
 家族社会学研究 ... 榎田/2年(後期).....208
 環境社会学研究 ... 樋口/2年(前期).....208
 日本経済史 I ... 中嶋/3年(前期).....209
 日本経済史 II ... 中嶋/3年(後期).....209
 経営組織論 ... 高橋・石田/2年(前期, 集中).....209
 空間情報科学 I ... 田中/2年(後期).....210
 空間情報科学 II ... 田中/3年(前期).....210
 ボランティア組織論 ... 萩原・榎田/2年(前期).....210
 地域政策論 I ... 北村/2年(後期).....210
 地域政策論 II ... 北村/2年(後期).....211

人間社会学科 地域システムコース 地域情報サブコース

● サブコース指定科目

地域情報ゼミナール AI (その1) ... 北村/3年(前期).....212
 地域情報ゼミナール AI (その2) ... 北村/4年(前期).....212
 地域情報ゼミナール BI (その1) ... 平井/3年(前期).....212
 地域情報ゼミナール BI (その2) ... 平井/4年(前期).....213
 地域情報ゼミナール CI (その1) ... 豊田/3年(前期).....213
 地域情報ゼミナール CI (その2) ... 豊田/4年(前期).....213
 地域情報ゼミナール DI (その1) ... 田中/3年(前期).....214
 地域情報ゼミナール DI (その2) ... 田中/4年(前期).....214
 地域情報ゼミナール AII (その1) ... 北村/3年(後期).....214
 地域情報ゼミナール AII (その2) ... 北村/4年(後期).....214
 地域情報ゼミナール BII (その1) ... 平井/3年(後期).....215
 地域情報ゼミナール BII (その2) ... 平井/4年(後期).....215
 地域情報ゼミナール CII (その1) ... 豊田/3年(後期).....215
 地域情報ゼミナール CII (その2) ... 豊田/4年(後期).....216
 地域情報ゼミナール DII (その1) ... 田中/3年(後期).....216
 地域情報ゼミナール DII (その2) ... 田中/4年(後期).....216
 民俗学研究 I ... 高橋/2年(後期).....220
 地域構造論研究 I ... 豊田/2年(後期).....217
 地域構造論研究 II ... 田中/2年(後期).....217
 地域変容論研究 I ... 平井/2年(後期).....217
 地域変容論研究 II ... 高橋/2年(後期).....217
 地域経済論 ... 中嶋/2年(前期).....218
 社会福祉研究 ... 榎田/3年(後期).....218
 社会情報分析法 ... 矢部/2年(後期).....218
 社会変動研究 ... 樋口/2年(前期).....219
 経営戦略論 ... 高橋・石田/3年(後期, 集中).....219
 ジェンダー研究 ... 北村・平木/2年(後期).....219
 民俗学研究 I ... 高橋/2年(後期).....220
 自然地理学研究 -吉野川流域の地形環境と自然災害- ... 古田・
 平井/2年(前期).....220
 地誌学 ... 平井/2年(前期).....220
 国際関係論 I ... 饗場/3年(前期).....220
 異文化間コミュニケーション(その1) ... 坂田/2年(前期, 集中)
 221
 異文化間コミュニケーション(その2) ... 坂田/2年(後期, 集中)
 221
 ドイツの社会と文化(その1) ... ヘルベルト/2年(前期).....221
 ドイツの社会と文化(その2) ... ヘルベルト/2年(後期).....222
 比較文化研究(その1) ... 依岡/2年(前期).....222
 比較文化研究(その2) ... 依岡/2年(後期).....222
 社会心理学 ... 佐藤/2年(後期).....222
 空間デザイン論 ... 掛井/3年(後期).....223

人間社会学科 地域システムコース 地域社会サブコース

● サブコース指定科目

地域社会ゼミナール AI(その1) ...高橋/3年(前期)..... 224
 地域社会ゼミナール AI(その2) ...高橋/4年(前期)..... 224
 地域社会ゼミナール BI(その1) ...榎田/3年(前期)..... 225
 地域社会ゼミナール BI(その2) ...榎田/4年(前期)..... 225
 地域社会ゼミナール CI(その1) ...矢部/3年(前期)..... 225
 地域社会ゼミナール CI(その2) ...矢部/4年(前期)..... 226
 地域社会ゼミナール DI(その1) ...樋口/3年(前期)..... 226
 地域社会ゼミナール DI(その2) ...樋口/4年(前期)..... 226
 地域社会ゼミナール AII(その1) ...高橋/3年(後期)..... 227
 地域社会ゼミナール AII(その2) ...高橋/4年(後期)..... 227
 地域社会ゼミナール BII(その1) ...榎田/3年(後期)..... 227
 地域社会ゼミナール BII(その2) ...榎田/4年(後期)..... 228
 地域社会ゼミナール CII(その1) ...矢部/3年(後期)..... 228
 地域社会ゼミナール CII(その2) ...矢部/4年(後期)..... 228
 地域社会ゼミナール DII(その1) ...樋口/3年(後期)..... 229
 地域社会ゼミナール DII(その2) ...樋口/4年(後期)..... 229
 社会福祉研究 ...榎田/3年(後期)..... 229
 社会情報分析法 ...矢部/2年(後期)..... 230
 社会変動研究 ...樋口/2年(前期)..... 230
 経営戦略論 ...高橋・石田/3年(後期, 集中)..... 230
 民俗学研究 I ...高橋/2年(後期)..... 230
 空間デザイン論 ...掛井/3年(後期)..... 231
 地域構造論研究 I ...豊田/2年(後期)..... 231
 地域構造論研究 II ...田中/2年(後期)..... 231
 地域変容論研究 I ...平井/2年(後期)..... 231
 地域変容論研究 II ...高橋/2年(後期)..... 232
 地域経済論 ...中嶋/2年(前期)..... 232
 ジェンダー研究 ...北村・平木/2年(後期)..... 232
 自然地理学研究 -吉野川流域の地形環境と自然災害- ...古田・平井/2年(前期)..... 233
 地誌学 ...平井/2年(前期)..... 233
 地域スポーツ社会学 ...佐藤/2年(前期)..... 233
 レジャーマーケティング論 ...行實/2年(後期)..... 233
 障害者スポーツ論 ...小原・佐藤/2年(前期)..... 234
 国際関係論 I ...饗場/3年(前期)..... 234
 異文化間コミュニケーション(その1) ...坂田/2年(前期, 集中) 234
 異文化間コミュニケーション(その2) ...坂田/2年(後期, 集中) 235
 ドイツの社会と文化(その1) ...ヘルベルト/2年(前期)..... 235
 ドイツの社会と文化(その2) ...ヘルベルト/2年(後期)..... 235
 比較文化研究(その1) ...依岡/2年(前期)..... 235
 比較文化研究(その2) ...依岡/2年(後期)..... 236
 社会心理学 ...佐藤/2年(後期)..... 236

人間社会学科 法律経済コース

● コース共通科目

憲法 I ...林・上原/2年(前期)..... 237
 民法 I ...直井・上原/2年(前期)..... 237
 経済原論 I ...眞弓/2年(前期, 集中)..... 238
 現代社会と経済 ...立花/2年(前期)..... 238
 経営組織論 ...高橋・石田/2年(前期, 集中)..... 238
 法律学演習 I ...上原/3年(通年)..... 238
 政治学演習 I[国際政治学] ...饗場/3年(通年)..... 238
 政治学演習 II[政治学] ...栗栖/3年(通年)..... 239
 経済学演習 I ...眞弓/3年(通年)..... 239
 経済学演習 II[財政学] ...石田/3年(通年)..... 239
 経済学演習 III[金融論] ...趙/3年(通年)..... 239
 経済学演習 IV[国際経済論] ...水島/3年(通年)..... 239
 経済学演習 V ...内藤/3年(通年)..... 240
 経済学演習 VI[日本経済史] ...中嶋/3年(通年)..... 240
 経済学演習 VII[理論経済学] ...立花/3年(通年)..... 240
 経営学演習 VIII[マーケティング論] ...多田/3年(通年)..... 240
 憲法 II ...林・上原/2年(後期)..... 240
 民法 II ...未定/2年(後期)..... 241
 民法 III ...直井・上原/3年(前期)..... 241
 経済法 I ...泉・上原/2年(前期, 集中)..... 241
 経済法 II ...泉・上原/2年(後期, 集中)..... 241
 商法 I ...清水/2年(前期)..... 241
 商法 II ...清水/2年(後期)..... 242
 企業取引法 ...清水/3年(前期)..... 242
 行政法 I ...上原/2年(前期)..... 242
 行政法 II ...上原/2年(後期)..... 243
 環境政治学 I ...栗栖/2年(前期)..... 243
 環境政治学 II ...栗栖/3年(後期)..... 243
 国際関係論 I ...饗場/3年(前期)..... 243
 国際関係論 II ...饗場/3年(後期)..... 244
 刑法 I ...山本・上原/3年(前期, 集中)..... 244
 刑法 II ...山本・上原/3年(後期, 集中)..... 244
 経済原論 II ...眞弓/2年(後期)..... 244
 理論経済学 I ...立花/2年(前期)..... 244
 理論経済学 II ...立花/2年(後期)..... 245
 金融論 I ...趙/2年(前期)..... 245
 金融論 II ...趙/2年(後期)..... 245
 日本経済史 I ...中嶋/3年(前期)..... 245
 日本経済史 II ...中嶋/3年(後期)..... 245
 地域経済論 ...中嶋/2年(前期)..... 246
 財政学 I ...石田/3年(前期)..... 246
 財政学 II ...石田/3年(後期)..... 246
 産業経済論 I ...内藤/3年(前期)..... 246
 産業経済論 II ...内藤/3年(後期)..... 247
 世界経済論 I ...水島/3年(前期)..... 247
 世界経済論 II ...水島/3年(後期)..... 247
 会計学 I ...三木・西村/2年(前期)..... 247
 会計学 II ...三木・西村/2年(後期)..... 248
 経営戦略論 ...高橋・石田/3年(後期, 集中)..... 248
 マーケティング論 ...多田/3年(後期)..... 248
 流通論 ...多田/2年(後期)..... 248
 社会科学特論 ...饗場/2年(前期)..... 248
 比較思想研究 ...石田・吉田・山口/2年(前期)..... 249
 学校制度論 ...岩永/2年(後期)..... 249

社会科学特論 II(ニュービジネス概論) ...他/3年(前期)... 249
 法律学演習 II ...上原/4年(通年)... 249
 法律学演習 II ...清水/4年(通年)... 250
 政治学演習 II[国際政治学] ...饗場/4年(通年)... 250
 政治学演習 II[政治学] ...栗栖/4年(通年)... 250
 経済学演習 II[金融論] ...趙/4年(通年)... 250
 経済学演習 II[国際経済論] ...水島/4年(通年)... 250
 経済学演習 II[財政学] ...石田/4年(通年)... 251
 経済学演習 II ...内藤/4年(通年)... 251
 経済学演習 II[日本経済史] ...中嶋/4年(通年)... 251
 経済学演習 II[理論経済学] ...立花/4年(通年)... 251
 経済学演習 II ...眞弓/4年(通年)... 251
 経営学演習 II[マーケティング論] ...多田/4年(通年)... 251

教育相談 ...福森/3年(後期)... 260
 生理学概論 ...荒木・小原・的場・佐竹・三浦/2年(前期)... 260
 解剖学概論 ...佐竹/2年(前期)... 260
 人体構造機能学 ...的場/2年(前期)... 260
 運動生理学 ...三浦・荒木・小原・的場・佐竹/2年(前期)... 261
 神経生理学 ...荒木/3年(後期)... 261
 バイオメカニクス ...佐竹/3年(後期)... 261
 スポーツ生理学 ...三浦/3年(前期)... 261
 コンディショニング論 ...的場・三浦/2年(後期)... 262
 運動療法学 ...三浦/2年(後期)... 262
 運動生理学実験実習 ...佐竹・荒木・小原・的場・三浦・野村/3年(前期)... 262
 健康教育論 ...野村・佐竹/2年(後期)... 263
 発育発達学 ...的場/2年(後期, 集中)... 263
 健康行動論 ...荒木・小原・的場・佐竹・三浦/2年(前期)... 263
 運動処方論 ...小原・佐藤・野村/3年(前期)... 263
 衛生・公衆衛生学 ...前田・井崎/2年(後期)... 263
 健康運動指導論 ...佐竹・中村/3年(前期)... 264
 健康運動実習 I ...中村/2年(後期)... 264
 健康運動実習 I ...荒木/2年(後期)... 264
 健康運動実習 III-a ...佐竹/2年(前期)... 264
 健康運動実習 III-a ...三浦/2年(後期)... 265
 健康運動実習 III-a ...佐藤/2年(前期)... 265
 健康運動実習 III-b ...小原/2年(後期)... 265
 健康運動実習 III-b ...的場/2年(前期)... 265
 健康運動実習 III-b ...行實/2年(前期)... 265
 運動文化比較研究 ...中村/2年(前期)... 266
 身体表現論 ...中村/3年(前期, 集中)... 266
 障害者スポーツ論 ...小原・佐藤/2年(前期)... 266
 地域スポーツ社会学 ...佐藤/2年(前期)... 266
 レジャーマーケティング論 ...行實/2年(後期)... 267
 スポーツマネジメント論 ...行實/3年(前期)... 267
 ウェルネスリサーチ演習 ...佐藤・行實/3年(後期)... 267
 ウェルネスリサーチ演習 ...佐藤・行實/3年(前期)... 267
 学校救急処置 ...野村・佐竹/3年(後期)... 268

人間社会学科 人間行動コース 共通科目

● コース共通科目

生涯発達心理学 ...山本/2年(前期)... 252
 ウェルネス概論 ...田中/2年(前期)... 252
 人間行動ゼミナール ...佐藤/2年(後期)... 252
 人間行動ゼミナール ...佐竹/2年(後期)... 252
 人間行動研究法 ...川野/3年(前期)... 253
 行動統計学 I ...川野・原/2年(後期, 集中)... 253
 人間行動実験実習 I ...濱田・佐藤・境/2年(前期)... 253
 人間行動実験実習 II ...荒木・的場・佐竹・三浦/2年(後期)... 254
 人間行動実験実習 III ...佐藤・中村/2年(前期)... 254
 人間行動実験実習 IV ...山本・原・内海・福森/2年(後期)... 254

人間社会学科 人間行動コース 心理学サブコース

● サブコース指定科目

心理学演習 I ...濱田・山本・佐藤・山下・境・原・内海・福森/3年(前期)... 255
 心理学演習 II ...濱田・山本・佐藤・山下・境・原・内海・福森/3年(後期)... 255
 心理学実験実習 I ...山本・原・内海・福森/3年(前期)... 255
 心理学実験実習 II ...佐藤・濱田・境/3年(後期)... 256
 生理心理学 ...佐野・原/2年(前期)... 256
 知覚心理学 ...濱田/2年(後期)... 256
 認知心理学 ...濱田/3年(前期)... 256
 学習心理学 ...境/3年(前期)... 257
 社会心理学 ...佐藤/2年(後期)... 257
 コミュニティ心理学 ...境/2年(後期)... 257
 人格心理学 ...原/3年(後期)... 257
 青年期発達論 ...山本/3年(後期)... 258
 人間形成論 ...木内/3年(後期)... 258
 臨床心理学 ...内海/2年(後期)... 258
 行動障害論 ...内海/3年(前期)... 258
 福祉心理学 .../2年(後期, 集中)... 259
 ストレス心理学 ...佐藤/3年(前期)... 259
 行動統計学 II ...川野・原/2年(後期, 集中)... 259
 精神医学 ...大森・住谷・伊賀・中瀧・沼田・中土井・富永・亀岡/2年(前期)... 259

人間社会学科 人間行動コース ウェルネス行動科学サブコース

● サブコース指定科目

ウェルネス行動科学演習 I ...荒木・中村・小原・的場・三浦・佐竹・佐藤・行實/3年(前期)... 269
 ウェルネス行動科学演習 II ...荒木・中村・小原・的場・三浦・佐竹・佐藤・行實/3年(後期)... 269
 ウェルネス行動科学実習 ...荒木・小原・佐藤・中村・的場・佐竹・三浦/3年(後期)... 270
 生理学概論 ...荒木・小原・的場・佐竹・三浦/2年(前期)... 270
 解剖学概論 ...佐竹/2年(前期)... 270
 人体構造機能学 ...的場/2年(前期)... 270
 運動生理学 ...三浦・荒木・小原・的場・佐竹/2年(前期)... 271
 神経生理学 ...荒木/3年(後期)... 271
 バイオメカニクス ...佐竹/3年(後期)... 271
 スポーツ生理学 ...三浦/3年(前期)... 271
 コンディショニング論 ...的場・三浦/2年(後期)... 272

運動療法学 ...三浦/2年(後期).....	272
運動生理学実験実習 ...佐竹・荒木・小原・的場・三浦・野村/3年(前期).....	272
健康教育論 ...野村・佐竹/2年(後期).....	273
発育発達学 ...的場/2年(後期, 集中).....	273
健康行動論 ...荒木・小原・的場・佐竹・三浦/2年(前期).....	273
運動処方論 ...小原・佐藤・野村/3年(前期).....	273
健康運動指導論 ...佐竹・中村/3年(前期).....	274
衛生・公衆衛生学 ...前田・井崎/2年(後期).....	274
健康運動実習 I ...中村/2年(後期).....	274
健康運動実習 I ...荒木/2年(後期).....	274
健康運動実習 III-a ...佐竹/2年(前期).....	274
健康運動実習 III-a ...三浦/2年(後期).....	275
健康運動実習 III-a ...佐藤/2年(前期).....	275
健康運動実習 III-b ...小原/2年(後期).....	275
健康運動実習 III-b ...的場/2年(前期).....	275
健康運動実習 III-b ...行實/2年(前期, 集中).....	275
行動制御論 ...三浦・荒木・的場・佐竹/2年(後期).....	276
運動文化比較研究 ...中村/2年(前期).....	276
身体表現論 ...中村/2年(前期, 集中).....	276
障害者スポーツ論 ...小原・佐藤/2年(前期).....	276
地域スポーツ社会学 ...佐藤/2年(前期).....	277
レジャーマーケティング論 ...行實/2年(後期).....	277
スポーツマネジメント論 ...行實/3年(前期).....	277
ウェルネスリサーチ演習 ...佐藤・行實/3年(後期).....	278
ウェルネスリサーチ演習 ...佐藤・行實/3年(前期).....	278
学校救急処置 ...野村・佐竹/3年(後期).....	278
生理心理学 ...佐野・原/2年(前期).....	278
知覚心理学 ...濱田/2年(後期).....	278
認知心理学 ...濱田/3年(前期).....	279
学習心理学 ...境/3年(前期).....	279
社会心理学 ...佐藤/2年(後期).....	279
コミュニティ心理学 ...境/2年(後期).....	279
人格心理学 ...原/3年(後期).....	280
青年期発達論 ...山本/3年(後期).....	280
人間形成論 ...木内/3年(後期).....	280
臨床心理学 ...内海/2年(後期).....	280
行動障害論 ...内海/3年(前期).....	281
福祉心理学 .../2年(後期, 集中).....	281
ストレス心理学 ...佐藤/3年(前期).....	281
行動統計学 II ...川野・原/2年(後期, 集中).....	281
精神医学 ...大森・住谷・伊賀・中瀧・沼田・中土井・富永・亀岡/2年(前期).....	282
教育相談 ...福森/3年(後期).....	282
社会福祉研究 ...樫田/3年(後期).....	282
ボランティア組織論 ...萩原・樫田/2年(前期).....	282
マーケティング論 ...多田/3年(後期).....	283
経営戦略論 ...高橋・石田/3年(後期, 集中).....	283

自然システム学科 共通科目

● 学科共通科目

数理科学の基礎 I ...大淵/1年(前期).....	284
数理科学の基礎 II ...大沼/1年(後期).....	284
物質科学の基礎 I ...日置/1年(前期).....	284
物質科学の基礎 II ...小山・伏見/1年(後期).....	285
物質科学の基礎 III ...三好/1年(後期).....	285
現代化学の世界 ...今井/1年(後期).....	285
生命システムの基礎 I ...横井川・佐藤/1年(前期).....	285
生命システムの基礎 II ...佐藤/1年(後期).....	285
地球科学の基礎 ...石田・村田・西山/1年(後期).....	286
プログラミング基礎演習 I ...前田・蓮沼/1年(前期).....	286
物質科学基礎実験 I ...小山・中山・齊藤・伏見・真岸/2年(前期).....	286
物質科学基礎実験 III ...今井・増田・三好・山本・山本・中村/2年(前期).....	287
物質科学基礎実験 V ...石田・村田・西山/2年(前期).....	287
生命科学基礎実験 ...中川・小山・大橋・佐藤・真壁・松尾・佐藤・山城・渡部・金丸・横井川・浜野/1年(前期).....	287
社会学 ...樫田/2年(後期, 集中).....	288

自然システム学科 数理・情報コース 共通科目

● コース共通科目

線形代数学 I ...桑原/2年(後期).....	289
線形代数学 II ...伊藤/2年(後期).....	289
数学基礎 I ...守安/2年(前期).....	289
数学基礎 II ...小野/2年(前期).....	289
数学基礎演習 I ...鍋島/2年(後期).....	290
解析学基礎 ...大沼/2年(前期).....	290
プログラミング基礎演習 II ...鍋島/2年(後期).....	290
計算機概論 ...中山/2年(前期).....	290
マルチメディア演習 ...石田・掛井・齊藤・中島/2年(後期).....	291
代数学基礎 I ...片山/2年(前期).....	291
代数学基礎 II ...大淵/2年(後期).....	291
応用解析 I ...村上/2年(前期).....	291
応用解析 II ...小野/2年(後期).....	291
微分方程式 I ...村上/3年(後期).....	292
微分方程式 II ...小野/3年(前期).....	292
情報社会と情報倫理 ...吉田/2年(前期).....	292
モデリング理論 ...宇野/2年(後期).....	292

自然システム学科 数理・情報コース 数理科学サブコース

● サブコース指定科目

数理科学演習 ...中山/4年(通年).....	294
数理科学演習 ...守安/4年(通年).....	294
数理科学演習 ...大淵/4年(通年).....	294
数理科学演習 ...小野/4年(通年).....	294
数理科学演習 ...蓮沼/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...村上/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...鍋島/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...大沼/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...大橋/4年(通年).....	295
数理科学演習 ...宇野/4年(通年).....	295

数理科学演習 ... 桑原/4年(通年).....	295
代数学 I ... 大淵/3年(前期).....	296
解析学 I ... 伊藤/3年(前期).....	296
幾何学 I ... 守安/3年(前期).....	296
確率・統計 I ... 大橋/3年(前期).....	296
代数学 II ... 片山/3年(後期).....	297
解析学 II ... 大沼/3年(後期).....	297
幾何学 II ... 桑原/3年(後期).....	297
確率・統計 II ... 守安/3年(後期).....	297
応用解析特論 ... 小野/3年(後期).....	297
数値計算法 ... 鍋島/3年(前期).....	298
情報数学 ... 蓮沼/2年(前期), 3年(前期).....	298
数理科学特論 I ... 伊藤/3年(後期).....	298
数理科学特論 II ... 蓮沼/3年(後期).....	298
情報システム特論 I ... 庄野・新見/2年(後期, 集中).....	298
情報システム特論 II ... 森本・永易/2年(後期, 集中).....	299
ネットワーク最適化論 ... 大橋/3年(後期).....	299
ネットワーク論 ... 中山/3年(前期).....	299
データベース基礎論 ... 蓮沼/3年(後期).....	299
量子力学 I ... 日置/3年(前期).....	299

映像デザイン表現研究 ... 石井/2年(前期).....	306
解析学 I ... 伊藤/3年(前期).....	307
幾何学 I ... 守安/3年(前期).....	307
確率・統計 I ... 大橋/3年(前期).....	307
確率・統計 II ... 守安/3年(後期).....	307
経営戦略論 ... 高橋・石田/3年(後期, 集中).....	308
経営組織論 ... 高橋・石田/2年(前期, 集中).....	308
経済法 II ... 泉・上原/2年(後期).....	308

自然システム学科 物質・環境コース 共通科目

● コース共通科目

力学 ... 中山/2年(前期).....	309
電磁気学 I ... 折戸/2年(前期).....	309
熱・統計力学 I ... 真岸/2年(後期).....	309
量子力学 I ... 日置/3年(前期).....	310
無機物質系の化学 I ... 今井/2年(前期).....	310
有機物質系の化学 I ... 中村/2年(前期).....	310
物質分析法 I ... 今井/3年(前期).....	310
分子物理化学 I ... 山本/2年(前期).....	310
化学環境制御論 ... 山本/2年(前期).....	311
物質構造解析学 ... 森/3年(前期, 集中).....	311
放射線科学 ... 伏見/3年(前期).....	311
物理数学 ... 小山/2年(後期, 集中).....	311
物質科学基礎実験 II ... 小山・齊藤・伏見・真岸/2年(後期).....	312
有機物質系の化学 II ... 増田/2年(後期).....	312
物質科学基礎実験 IV ... 今井・増田・三好・山本・山本・中村/2年(後期).....	312
環境分析技術法 ... 山本・伏見・西山/3年(前期, 集中).....	313
高分子物質系の化学 I ... 田中/3年(前期).....	313
地球表層環境論 I ... 石田/2年(後期).....	313
地球表層構造形成論 I ... 村田/2年(後期).....	314

自然システム学科 数理・情報コース 情報科学サブコース

● サブコース指定科目

情報科学演習 ... 中山/4年(通年).....	301
情報科学演習 ... 守安/4年(通年).....	301
情報科学演習 ... 村上/4年(通年).....	301
情報科学演習 ... 蓮沼/4年(通年).....	301
情報科学演習 ... 宇野/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 大淵/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 小野/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 大沼/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 大橋/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 桑原/4年(通年).....	302
情報科学演習 ... 宇野/4年(通年).....	303
情報科学演習 ... 鍋島/4年(通年).....	303
情報科学演習 ... 鍋島/4年(通年).....	303
情報と職業 ... 吉田/3年(後期).....	303
プログラミング演習 ... 宇野/3年(前期).....	303
ネットワーク論 ... 中山/3年(前期).....	303
システム管理の基礎 ... 石田/3年(後期).....	304
ネットワーク最適化論 ... 大橋/3年(後期).....	304
計測・制御概論 ... 村上/3年(前期).....	304
コンピュータグラフィックス基礎論 ... 中山/3年(後期).....	304
データベース基礎論 ... 蓮沼/3年(後期).....	305
情報システム特論 I ... 庄野・新見/2年(後期, 集中).....	305
情報システム特論 II ... 森本・永易/2年(後期, 集中).....	305
数理科学特論 I ... 伊藤/3年(後期).....	305
数理科学特論 II ... 蓮沼/3年(後期).....	305
数値計算法 ... 鍋島/3年(前期).....	306
情報数学 ... 蓮沼/2年(前期), 3年(前期).....	306
マルチメディア基礎演習 ... 河原崎/2年(前期).....	306
インタラクティブコミュニケーション論 ... 掛井/2年(後期).....	306

自然システム学科 物質・環境コース 物理系サブコース

● サブコース指定科目

物質科学実験 I ... 齊藤・中山・日置・小山・伏見・真岸・折戸/3年(前期).....	315
物質科学実験 II ... 齊藤・中山・日置・小山・伏見・真岸・折戸/3年(後期).....	315
物質システムセミナー I ... 物理系サブコース各卒業研究指導教員/4年(前期).....	316
物質システムセミナー II ... 物理系サブコース各卒業研究指導教員/4年(後期).....	316
電磁気学 II ... 折戸/2年(後期).....	316
力学・電磁気学演習 ... 中山/2年(後期).....	316
熱・統計力学 II ... 真岸/3年(前期).....	316
量子力学 II ... 日置/3年(後期).....	317
物性科学 I ... 小山/3年(後期).....	317
物性科学 II ... 小山/3年(後期, 集中).....	317
熱統計力学・量子力学演習 ... 日置・真岸/3年(後期).....	318
量子物質科学 ... 中山・小山/3年(後期).....	318
物質分析法 II ... 今井/3年(後期).....	318

無機物質系の化学 II ... 未定/2 年 (後期).....	318
分子反応システム論 I ... 三好/3 年 (前期).....	318
分子反応システム論 II ... 三好/3 年 (後期).....	319
分子物理化学 II ... 山本/2 年 (後期).....	319
天然物質化学 ... 中村/3 年 (後期).....	319
化学環境システム論 ... 山本・浜野/2 年 (後期).....	319
生体物質化学 ... 増田/3 年 (前期).....	320
地球表層物質論 ... 村田・石田・西山/3 年 (後期).....	320
地球表層システム論 ... 西山/3 年 (前期).....	320
地球表層環境論 II ... 石田/3 年 (前期).....	320
地球表層構造形成論 II ... 村田/3 年 (前期).....	321
細胞生理学 I ... 中川/2 年 (前期).....	321
細胞生理学 II ... 大橋・真壁・松尾・佐藤・渡部/3 年 (前期).....	321
植物生理学 ... 佐藤/2 年 (前期).....	322
環境生理学 ... 佐藤/3 年 (後期).....	322
環境物質影響学 ... 金丸/3 年 (後期).....	322
環境適応学 II ... 佐藤/2 年 (前期, 集中).....	322

自然システム学科 物質・環境コース 化学系サブコース

● サブコース指定科目

物質科学実験 III ... 今井・増田・三好・山本・山本・中村/3 年 (前期).....	323
分子科学セミナー I ... 化学系サブコース各卒業研究指導教員/4 年 (前期).....	323
分子科学セミナー II ... 化学系サブコース各卒業研究指導教員/4 年 (後期).....	323
物質分析法 II ... 今井/3 年 (後期).....	323
無機物質系の化学 II ... 未定/2 年 (後期).....	324
分子反応システム論 I ... 三好/3 年 (前期).....	324
分子反応システム論 II ... 三好/3 年 (後期).....	324
分子物理化学 II ... 山本/2 年 (後期).....	324
天然物質化学 ... 中村/3 年 (後期).....	325
化学環境システム論 ... 山本・浜野/2 年 (後期).....	325
生体物質化学 ... 増田/3 年 (前期).....	325
電磁気学 II ... 折戸/2 年 (後期).....	325
熱・統計力学 II ... 真岸/3 年 (前期).....	325
量子力学 II ... 日置/3 年 (後期).....	326
物性科学 I ... 小山/3 年 (後期).....	326
物性科学 II ... 小山/3 年 (後期, 集中).....	326
地球表層物質論 ... 村田・石田・西山/3 年 (後期).....	327
地球表層システム論 ... 西山/3 年 (前期).....	327
地球表層環境論 II ... 石田/3 年 (前期).....	327
地球表層構造形成論 II ... 村田/3 年 (前期).....	327
細胞生理学 I ... 中川/2 年 (前期).....	328
細胞生理学 II ... 大橋・真壁・松尾・佐藤・渡部/3 年 (前期).....	328
植物生理学 ... 佐藤/2 年 (前期).....	328
環境生理学 ... 佐藤/3 年 (後期).....	329
環境物質影響学 ... 金丸/3 年 (後期).....	329
環境適応学 II ... 佐藤/2 年 (前期, 集中).....	329

自然システム学科 物質・環境コース 地学系サブコース

● サブコース指定科目

地学系セミナー I ... 石田・村田・西山/4 年 (前期).....	330
地学系セミナー II ... 石田・村田・西山/4 年 (後期).....	330
地球表層物質論 ... 村田・石田・西山/3 年 (後期).....	330
地球表層システム論 ... 西山/3 年 (前期).....	331
地球表層環境論 II ... 石田/3 年 (前期).....	331
地球表層構造形成論 II ... 村田/3 年 (前期).....	331
地球環境システム実験 II ... 石田・村田・西山/3 年 (後期, 集中).....	331
適応進化学 ... 松尾/3 年 (後期).....	332
電磁気学 II ... 折戸/2 年 (後期).....	332
熱・統計力学 II ... 真岸/3 年 (前期).....	332
物性科学 I ... 小山/3 年 (後期).....	332
物性科学 II ... 小山/3 年 (後期, 集中).....	333
熱統計力学・量子力学演習 ... 日置・真岸/3 年 (後期).....	333
量子物質科学 ... 中山・小山/3 年 (後期).....	333
物質分析法 II ... 今井/3 年 (後期).....	334
無機物質系の化学 II ... 未定/2 年 (後期).....	334
分子反応システム論 I ... 三好/3 年 (前期).....	334
分子反応システム論 II ... 三好/3 年 (後期).....	334
分子物理化学 II ... 山本/2 年 (後期).....	334
天然物質化学 ... 中村/3 年 (後期).....	335
生体物質化学 ... 増田/3 年 (前期).....	335
天然物質化学 ... 中村/3 年 (後期).....	335
生体物質化学 ... 増田/3 年 (前期).....	335
化学環境システム論 ... 山本・浜野/2 年 (後期).....	335
細胞生理学 I ... 中川/2 年 (前期).....	336
細胞生理学 II ... 大橋・真壁・松尾・佐藤・渡部/3 年 (前期).....	336
植物生理学 ... 佐藤/2 年 (前期).....	336
環境生理学 ... 佐藤/3 年 (後期).....	336
環境物質影響学 ... 金丸/3 年 (後期).....	337
環境適応学 II ... 佐藤/2 年 (前期, 集中).....	337

自然システム学科 生命・環境コース 共通科目

● コース共通科目

生体有機化学 I ... 大橋/2 年 (前期).....	338
生体有機化学 II ... 金丸・増田・横井川/3 年 (前期).....	338
分子生物学 ... 渡部/2 年 (後期).....	338
分子遺伝学 ... 松尾/2 年 (前期).....	339
環境適応学 I ... 小山・佐藤・山城・金丸・横井川・浜野/2 年 (後期).....	339
細胞生理学 I ... 中川/2 年 (前期).....	339
細胞生理学 II ... 大橋・真壁・松尾・佐藤・渡部/3 年 (前期).....	339
発生学 ... 真壁/2 年 (後期).....	340
細胞情報学 I ... 小山/2 年 (後期).....	340
植物生理学 ... 佐藤/2 年 (前期).....	340
生態学 ... 浜野/2 年 (前期).....	340
生体情報科学 ... 大橋/2 年 (後期).....	341
系統分類学 I ... 山城/3 年 (前期).....	341
無機物質系の化学 I ... 今井/2 年 (前期).....	341
有機物質系の化学 I ... 中村/2 年 (前期).....	341
物質分析法 I ... 今井/3 年 (前期).....	341
化学環境制御論 ... 山本/2 年 (前期).....	342
物質構造解析学 ... 森/2 年 (前期, 集中).....	342
環境分析技術法 ... 山本・伏見・西山/3 年 (前期, 集中).....	342

自然システム学科 生命・環境コース 生命機能サブコース

● サブコース指定科目

生命機能セミナー ...松尾/3年(前期,後期).....	343
生命機能セミナー ...渡部/3年(前期,後期).....	343
生命機能セミナー ...真壁/3年(前期,後期).....	343
生命機能セミナー ...佐藤/3年(前期,後期).....	343
生命機能セミナー ...大橋/3年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...松尾/4年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...真壁/4年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...渡部/4年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...佐藤/4年(前期,後期).....	344
生命機能特別演習 ...大橋/4年(前期).....	344
生命機能特別演習 ...大橋/4年(後期).....	344
生命機能実験Ⅰ ...真壁・松尾・渡部/3年(前期).....	344
生命機能実験Ⅱ ...大橋・佐藤・渡部/3年(後期).....	345
比較生理生化学 ...松尾・佐藤/2年(前期,集中).....	345
細胞制御学 ...真壁/3年(前期).....	345
適応進化学 ...松尾/3年(後期).....	346
代謝異常学 ...渡部/3年(前期).....	346
細胞機能学 ...真壁・渡部/3年(前期,集中).....	346
系統分類学Ⅱ(分子生態学) ...山城/3年(前期).....	346
生物化学 ...佐藤/2年(後期).....	347
環境物質影響学 ...金丸/3年(後期).....	347
活性物質生理学 ...中川/3年(後期).....	347
機能物質作用学 ...横井川/2年(後期).....	347
環境適応学Ⅱ ...佐藤/2年(前期,集中).....	348
環境生理学 ...佐藤/3年(後期).....	348
細胞情報学Ⅱ ...小山/3年(前期).....	348
集団生物学 ...山城/3年(前期).....	348
熱・統計力学Ⅰ ...真岸/2年(後期).....	349
物理数学 ...小山/2年(後期,集中).....	349
分子物理化学Ⅰ ...山本/2年(前期).....	349
無機物質系の化学Ⅱ ...未定/2年(後期).....	349
有機物質系の化学Ⅱ ...増田/2年(後期).....	350
天然物質化学 ...中村/3年(後期).....	350
生体物質化学 ...増田/3年(前期).....	350

自然システム学科 生命・環境コース 生命環境サブコース

● サブコース指定科目

生命環境セミナー ...中川/3年(前期,後期).....	351
生命環境セミナー ...佐藤/3年(前期,後期).....	351
生命環境セミナー ...横井川/3年(前期,後期).....	351
生命環境セミナー ...金丸/3年(前期,後期).....	351
生命環境セミナー ...小山/3年(前期,後期).....	352
生命環境セミナー ...山城/3年(前期,後期).....	352
生命環境セミナー ...浜野/3年(前期,後期).....	352
生命環境特別演習 ...佐藤/4年(前期,後期).....	352
生命環境特別演習 ...浜野/4年(前期,後期).....	353
生命環境特別演習 ...小山/4年(前期,後期).....	353
生命環境特別演習 ...金丸/4年(前期,後期).....	353
生命環境特別演習 ...山城/4年(前期,後期).....	353

生命環境特別演習 ...横井川/4年(前期,後期).....	353
生命環境特別演習 ...中川/4年(前期,後期).....	353
生命環境実験Ⅰ ...中川・小山・佐藤・金丸・横井川・山城・浜野/3年(前期).....	354
生命環境実験Ⅱ ...中川・小山・佐藤・金丸・横井川・山城・浜野/3年(後期).....	354
環境物質影響学 ...金丸/3年(後期).....	354
活性物質生理学 ...中川/3年(後期).....	354
機能物質作用学 ...横井川/2年(後期).....	355
環境適応学Ⅱ ...佐藤/2年(前期,集中).....	355
環境生理学 ...佐藤/3年(後期).....	355
細胞情報学Ⅱ ...小山/3年(前期).....	355
系統分類学Ⅱ(分子生態学) ...山城/3年(前期).....	356
集団生物学 ...山城/3年(前期).....	356
比較生理生化学 ...松尾・佐藤/2年(前期,集中).....	356
細胞制御学 ...真壁/3年(前期).....	356
適応進化学 ...松尾/3年(後期).....	357
代謝異常学 ...渡部/3年(前期).....	357
細胞機能学 ...真壁・渡部/3年(前期,集中).....	357
生物化学 ...佐藤/2年(後期).....	357
地球表層環境論Ⅰ ...石田/2年(後期).....	358
地球表層環境論Ⅱ ...石田/3年(前期).....	358
地球表層システム論 ...西山/3年(前期).....	358
天然物質化学 ...中村/3年(後期).....	358
生体物質化学 ...増田/3年(前期).....	359
財政学Ⅰ ...石田/3年(前期).....	359
財政学Ⅱ ...石田/3年(後期).....	359

教職に関する科目 (旧)

● 教職に関する科目 (旧)

教師論 ...大宮/3年(前期).....	360
教育学 ...弘田/2年(後期,集中).....	360
教育心理学 ...原/2年(後期).....	360
学校制度論 ...岩永/2年(後期).....	360
教育課程論 ...村川・前田/2年(後期,集中).....	361
国語科教育法Ⅰ ...仙波/2年(前期).....	361
国語科教育法Ⅱ ...仙波/2年(前期).....	361
社会科教育法 ...梅津/2年(後期).....	362
地理歴史科教育法 ...立石/2年(後期).....	362
公民科教育法 ...井上/2年(前期).....	362
英語科教育法Ⅰ ...中島/2年(後期).....	362
英語科教育法Ⅱ ...中島/2年(後期).....	362
美術科教育法Ⅰ ...平木/2年(前期).....	363
美術科教育法Ⅱ ...平木/2年(前期).....	363
保健体育科教育法Ⅰ ...佐藤・中村/2年(前期,集中).....	363
保健体育科教育法Ⅱ ...佐藤/2年(前期).....	363
数学科教育法Ⅰ ...服部・小野/2年(前期).....	364
数学科教育法Ⅱ ...服部・小野/2年(前期).....	364
情報科教育法Ⅰ ...中山/3年(前期).....	364
情報科教育法Ⅱ ...中山/3年(後期).....	364
理科教育法Ⅰ ...續木・齊藤・渡部・今井・増田・三好/2年(前期)	365

総合科学部 (2011) > 学芸員に関する科目 (旧)

理科教育法 II ... 續木・齊藤・渡部・今井・増田・三好/2年(前期)	
365	
道徳教育 ... 大宮/3年(前期).....	365
特別活動研究 ... 木下/3年(前期).....	365
教育方法学 ... 村川/3年(前期).....	366
生徒指導論 ... 大宮/3年(後期).....	366
教育相談 ... 福森/3年(後期).....	366
総合演習 ... 大宮/3年(前期).....	366
教育実習事前事後指導 ... 大宮/4年(通年).....	367

学芸員に関する科目 (旧)

● 学芸員に関する科目 (旧)

生涯学習概論 ... 鈴木/3年(前期, 集中).....	368
博物館概論 ... 一山・東/2年(前期).....	368
博物館資料論 ... 千田・東/2年(前期, 集中).....	368
博物館特論 ... 未定・東/2年(後期, 集中).....	368